

土木工事標準積算基準書

(土木工事編)

〔Ⅰ〕

平成 29 年 7 月 1 日

神奈川県県土整備局

総 目 次

第Ⅰ編 総 則

第1章 総 則

- ① 適用範囲等…………… I -1-①- 1
- ② 請負工事の工事費構成…………… I -1-②- 1

第2章 工事費の積算

- ① 直接工事費…………… I -2-①- 1
- ② 間接工事費…………… I -2-②- 1
 - 1 総則…………… I -2-②- 1
 - 2 共通仮設費…………… I -2-②- 1
 - 2-1 共通仮設費の率分…………… I -2-②- 7
 - 2-2 運搬費…………… I -2-②-11
 - 2-3 準備費…………… I -2-②-27
 - 2-4 事業損失防止施設費…………… I -2-②-28
 - 2-5 安全費…………… I -2-②-29
 - 2-6 役務費…………… I -2-②-30
 - 2-7 技術管理費…………… I -2-②-32
 - 2-8 営繕費…………… I -2-②-33
 - 3 現場管理費…………… I -2-②-37
- ③ 現場発生品及び支給品運搬…………… I -2-③- 1

第3章 一般管理費等及び消費税等相当額

- ① 一般管理費等…………… I -3-①- 1
- ② 消費税等相当額…………… I -3-②- 1

第4章 随意契約方式により工事を発注する場合 の間接工事費等の調整及びスライド条項 の減額となる場合の運用について

- ① 随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について…………… I -4-①- 1
- ② 旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について…………… I -4-②- 1
- ③ 工事請負契約書第 25 条(スライド条項)の減額となる場合の運用について…………… I -4-③- 1
- ④ 工事請負契約書第 25 条第 5 項(単品スライド条項)の運用について…………… I -4-④- 1
- ⑤ 工事請負契約書第 25 条第 5 項(単品スライド条項)の運用の拡充について…………… I -4-④- 1
- ⑥ 請負代金額の減額変更を請求する場合における工事請負契約書第 25 条第 5 項(単品スライド条項)の運用について…………… I -4-④- 1

第5章 数値基準等

- ① 数値基準…………… I -5-①- 1
- ② 数量総括表への条件明示…………… I -5-②- 1

第6章 建設機械運転労務等

- ① 建設機械運転労務…………… I -6-①- 1
- ② 原動機燃料消費量…………… I -6-②- 1
- ③ 機械運転単価表…………… I -6-③- 1
- ④ 一般事項…………… I -6-④- 1

第7章 土木請負工事の特許使用料の積算

- ① 土木請負工事の特許使用料の積算について…………… I -7-①- 1

第8章 時間的制約を受ける公共土木工事の積算

- ① 時間的制約を受ける公共土木工事の積算について…………… I -8-①- 1

第9章 土木請負工事における現場環境改善費の積算

- ① 土木請負工事における現場環境改善費の積算…………… I -9-①- 1

第10章 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

- ① 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について…………… I -10-①- 1

第11章 施工箇所が点在する工事の積算

- ① 施工箇所が点在する工事の積算…………… I -11-①- 1

第12章 1日未満で完了する作業の積算

- ① 1日未満で完了する作業の積算…………… I -12-①- 1

第13章 設計変更

- ① 一般事項…………… I -13-①- 1
- ② 設計変更における材料単価の取り扱いについて…………… I -13-①- 1
- ③ 設計変更の計算例…………… I -13-①- 1

第14章 その他

- ① 材料単価入力基準表…………… I -14-①- 1
- ② 賃料入力基準表…………… I -14-②- 1
- ③ 業務委託料等入力基準表…………… I -14-③- 1
- ④ 作業日当り標準作業量…………… I -14-④- 1
- ⑤ 市場単価の1日当り標準施工量…………… I -14-⑤- 1

第Ⅱ編 共通工

第1章 土工

- ① 土量変化率等……………Ⅱ-1-①- 1
- ② 土工……………Ⅱ-1-②- 1
 - ②-1 土工……………Ⅱ-1-②- 1
- ③ 作業土工……………Ⅱ-1-③- 1
 - ③-1 床掘工……………Ⅱ-1-③- 1
 - ③-2 埋戻工……………Ⅱ-1-③- 9
- ④ 人力運搬工……………Ⅱ-1-④- 1
- ⑤ 人力土工(ベルトコンベヤ併用)
 - ……………Ⅱ-1-⑤- 1
- ⑥ 安定処理工……………Ⅱ-1-⑥- 1
 - ⑥-1 安定処理工……………Ⅱ-1-⑥- 1
 - ⑥-2 安定処理工(自走式土質改良工)
 - ……………Ⅱ-1-⑥- 5
- ⑦ 土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)
 - ……………Ⅱ-1-⑦- 1

第2章 共通工

- ① 法面工……………Ⅱ-2-①- 1
 - ①-1 法面整形工……………Ⅱ-2-①- 1
 - ①-2 芝付工……………Ⅱ-2-①- 7
 - ①-3 コンクリート法枠工……………Ⅱ-2-①- 9
 - ①-4 法面施肥工……………Ⅱ-2-①-24
 - ①-5 現場吹付法枠工……………Ⅱ-2-①-26
 - ①-6 吹付法面とりこわし工……………Ⅱ-2-①-29
 - ①-7 プレキャストコンクリート板設置工
 - ……………Ⅱ-2-①-33
 - ①-8 人工張芝工……………Ⅱ-2-①-38
- ② 基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工
 - ……………Ⅱ-2-②- 1
- ③ コンクリートブロック積(張)工…Ⅱ-2-③- 1
 - ③-1 コンクリートブロック積(張)工
 - ……………Ⅱ-2-③- 1
 - ③-2 裏込栗石投入工(コンクリート
ブロック張)……………Ⅱ-2-③-33
- ④ 石積(張)工……………Ⅱ-2-④- 1
 - ④-1 石積(張)工……………Ⅱ-2-④- 1
 - ④-2 平石張工……………Ⅱ-2-④-14
- ⑤ 場所打擁壁工……………Ⅱ-2-⑤- 1
 - ⑤-1 場所打擁壁工(1)……………Ⅱ-2-⑤- 1
 - ⑤-2 場所打擁壁工(2)……………Ⅱ-2-⑤-25
- ⑥ プレキャスト擁壁工……………Ⅱ-2-⑥- 1
- ⑦ 補強土壁工(帯鋼補強土壁,
アンカー補強土壁)……………Ⅱ-2-⑦- 1

- ⑧ ジオテキスタイル工……………Ⅱ-2-⑧- 1
- ⑨ 連続地中壁工(柱列式)……………Ⅱ-2-⑨- 1
- ⑩ 排水構造物工……………Ⅱ-2-⑩- 1
 - ⑩-1 排水構造物工……………Ⅱ-2-⑩- 1
 - ⑩-2 排水構造物工(管(函)渠型側溝・
溶接金網及び埋設鋼板型枠)・Ⅱ-2-⑩-34
 - ⑩-3 排水構造物工(現場打ち水路(本体))
 - ……………Ⅱ-2-⑩-39
 - ⑩-4 排水構造物工(現場打ち集水桝・
街渠桝(本体))……………Ⅱ-2-⑩-45
- ⑪ 軟弱地盤処理工……………Ⅱ-2-⑪- 1
 - ⑪-1 サンドマット工……………Ⅱ-2-⑪- 1
 - ⑪-2 粉体噴射攪拌工(DJM工法)・Ⅱ-2-⑪- 4
 - ⑪-3 スラリー攪拌工……………Ⅱ-2-⑪-11
 - ⑪-4 高圧噴射攪拌工……………Ⅱ-2-⑪-22
 - ⑪-5 ペーパードレーン工……………Ⅱ-2-⑪-38
 - ⑪-6 中層混合処理工……………Ⅱ-2-⑪-42
- ⑫ 薬液注入工……………Ⅱ-2-⑫- 1
- ⑬ アンカー工(ロータリーパーカッション式)
 - ……………Ⅱ-2-⑬- 1
- ⑭ 構造物とりこわし工……………Ⅱ-2-⑭- 1
- ⑮ コンクリート削孔工……………Ⅱ-2-⑮- 1
- ⑯ ガス切断工……………Ⅱ-2-⑯- 1
 - ⑯-1 ガス切断工……………Ⅱ-2-⑯- 1
 - ⑯-2 鋼材現場ガス切断工……………Ⅱ-2-⑯- 4
- ⑰ 吸出し防止材設置工……………Ⅱ-2-⑰- 1
- ⑱ 目地・止水板設置工……………Ⅱ-2-⑱- 1
- ⑲ 旧橋撤去工……………Ⅱ-2-⑲- 1
- ⑳ かご工……………Ⅱ-2-⑳- 1
- ㉑ 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
 - ……………Ⅱ-2-㉑- 1
- ㉒ 現場取卸費……………Ⅱ-2-㉒- 1
- ㉓ 骨材再生工(自走式)……………Ⅱ-2-㉓- 1
- ㉔ 函渠工……………Ⅱ-2-㉔- 1
 - ㉔-1 函渠工(1)……………Ⅱ-2-㉔- 1
 - ㉔-2 函渠工(2)……………Ⅱ-2-㉔- 8
- ㉕ 殻運搬……………Ⅱ-2-㉕- 1

第3章 基礎工

- ① 鋼管・既製コンクリート杭打工…Ⅱ-3-①- 1
 - ①-1 パイルハンマ工……………Ⅱ-3-①- 1
 - ①-2 中掘工……………Ⅱ-3-①-10
 - ①-3 鋼管ソイルセメント杭工……………Ⅱ-3-①-18
 - ①-4 回転杭工……………Ⅱ-3-①-29
 - ①-5 杭頭処理工……………Ⅱ-3-①-36

② 場所打杭工	Ⅱ-3-②- 1
②-1 オールケーシング工・全回転式 オールケーシング工	Ⅱ-3-②- 1
②-2 リバースサーキュレーション工	Ⅱ-3-②-11
②-3 アースオーガ工・硬質地盤用 アースオーガ工	Ⅱ-3-②-20
②-4 大口径ボーリングマシン工	Ⅱ-3-②-28
②-5 ダウンザホールハンマ工	Ⅱ-3-②-38
③ 深礎工	Ⅱ-3-③- 1
④ ニューマチックケーソン工	Ⅱ-3-④- 1
⑤ 基礎工(鋼管矢板基礎工)	Ⅱ-3-⑤- 1
⑤-1 打撃工法	Ⅱ-3-⑤- 1
⑤-2 中掘工法	Ⅱ-3-⑤-23
⑥ ドロップハンマ杭打工	Ⅱ-3-⑥- 1
⑦ 木杭及び矢板打工 (人力、ドロップハンマ工)	Ⅱ-3-⑦- 1
⑧ 泥水運搬工	Ⅱ-3-⑧- 1
第4章 コンクリート工	
① コンクリート工	Ⅱ-4-①- 1
② 型枠工	Ⅱ-4-②- 1
②-1 型枠工	Ⅱ-4-②- 1
②-2 型枠工(省力化構造)	Ⅱ-4-②- 6
③ 溶接金網設置工	Ⅱ-4-③- 1
第5章 仮設工	
① 仮設工	Ⅱ-5-①- 1
② 鋼矢板(H形鋼)工	Ⅱ-5-②- 1
②-1 バイプロハンマ工	Ⅱ-5-②- 1
②-2 バイプロハンマ工 (軽量鋼矢板打込引抜工)	Ⅱ-5-②-32
②-3 油圧圧入引抜工	Ⅱ-5-②-38
②-4 ディーゼルハンマ・ プレボーリング工	Ⅱ-5-②-60
③ 矢板工(アースオーガ併用圧入工)	Ⅱ-5-③- 1
④ 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)	Ⅱ-5-④- 1
⑤ 鋼矢板施工法選定(参考)	Ⅱ-5-⑤- 1
⑤-1 鋼矢板打込施工法選定表(参考)	Ⅱ-5-⑤- 1
⑤-2 鋼矢板引抜施工法選定フロー(参考)	Ⅱ-5-⑤- 3
⑥ 仮設材設置撤去工	Ⅱ-5-⑥- 1
⑦ 足場支保工	Ⅱ-5-⑦- 1
⑦-1 足場工	Ⅱ-5-⑦- 1
⑦-2 支保工	Ⅱ-5-⑦- 5

⑧ 締切排水工	Ⅱ-5-⑧- 1
⑨ ウエルポイント工	Ⅱ-5-⑨- 1
⑩ 土のう工	Ⅱ-5-⑩- 1
⑩-1 土のう工	Ⅱ-5-⑩- 1
⑩-2 大型土のう工	Ⅱ-5-⑩- 3
⑪ 仮橋・仮栈橋工	Ⅱ-5-⑪- 1
⑫ 汚濁防止フェンス工	Ⅱ-5-⑫- 1
⑬ 仮囲い設置・撤去工	Ⅱ-5-⑬- 1
⑬-1 仮囲い設置・撤去工	Ⅱ-5-⑬- 1
⑬-2 雪寒仮囲い工	Ⅱ-5-⑬- 3
⑭ 仮設防護柵工	Ⅱ-5-⑭- 1
⑭-1 切土及び発破防護柵工	Ⅱ-5-⑭- 1
⑭-2 掘削(発破)防護柵工	Ⅱ-5-⑭- 7
⑮ 濁水処理工(一般土木工事)	Ⅱ-5-⑮- 1
⑯ 敷鉄板設置・撤去工	Ⅱ-5-⑯- 1
⑰ 防塵処理工	Ⅱ-5-⑰- 1
⑱ 仮設電力設備工	Ⅱ-5-⑱- 1
⑲ グラフによる標準的な仮設電力設備の積算	Ⅱ-5-⑲- 1
⑳ 法面工(仮設用モルタル吹付工)	Ⅱ-5-⑳- 1
㉑ 交通誘導警備員	Ⅱ-5-㉑- 1

第Ⅲ編 河 川

第1章 河川海岸

① 消波根固めブロック工	Ⅲ-1-①- 1
①-1 消波根固めブロック工	Ⅲ-1-①- 1
①-2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工) (0.25t以上35.5t以下)	Ⅲ-1-①-23
② 捨石工	Ⅲ-1-②- 1
③ 消波工	Ⅲ-1-③- 1
④ 浚渫工	Ⅲ-1-④- 1
④-1 ポンプ式浚渫船	Ⅲ-1-④- 1
④-2 バックホウ浚渫船	Ⅲ-1-④-23
⑤ 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	Ⅲ-1-⑤- 1

第2章 河川維持工

① 堤防除草工	Ⅲ-2-①- 1
② 堤防天端補修工	Ⅲ-2-②- 1
③ 堤防芝養生工	Ⅲ-2-③- 1
④ 伐木除根工	Ⅲ-2-④- 1
⑤ 塵芥処理工	Ⅲ-2-⑤- 1
⑥ ボーリンググラウト工	Ⅲ-2-⑥- 1
⑦ 粗朶沈床工	Ⅲ-2-⑦- 1

⑧ 機械土工(河床等掘削)……………	Ⅲ-2-⑧- 1
⑨ 多自然護岸工……………	Ⅲ-2-⑨- 1
⑨-1 巨石積(張)工……………	Ⅲ-2-⑨- 1
⑨-2 木杭打工……………	Ⅲ-2-⑨-12
⑨-3 巨石据付工……………	Ⅲ-2-⑨-14
⑩ 護岸基礎ブロック工……………	Ⅲ-2-⑩- 1
⑪ かごマット工……………	Ⅲ-2-⑪- 1
⑪-1 かごマット工(スロープ型)…	Ⅲ-2-⑪- 1
⑪-2 かごマット工(多段積型)…	Ⅲ-2-⑪- 4
⑫ ブロックマット工……………	Ⅲ-2-⑫- 1
⑬ 野芝種子吹付工……………	Ⅲ-2-⑬- 1
⑭ 袋詰玉石工……………	Ⅲ-2-⑭- 1
⑮ 笠コンクリートブロック据付工…	Ⅲ-2-⑮- 1
⑯ グラウトホール工……………	Ⅲ-2-⑯- 1
⑰ 連節ブロックの水中吊落し工…	Ⅲ-2-⑰- 1
⑱ 光ケーブル配管工……………	Ⅲ-2-⑱- 1

第3章 砂防工

① 土工……………	Ⅲ-3-①- 1
①-1 土工……………	Ⅲ-3-①- 1
①-2 土工(バックホウ床掘 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³))…	Ⅲ-3-①-12
② コンクリート工……………	Ⅲ-3-②- 1
②-1 コンクリート工……………	Ⅲ-3-②- 1
②-2 コンクリート工(ケーブルクレーンで 施工する場合)……………	Ⅲ-3-②-10
②-3 コンクリート工(横取りを行う場合) ……………	Ⅲ-3-②-18
②-4 砂防コンクリート生産(ミキサによる 混合)工……………	Ⅲ-3-②-20
②-5 砂防コンクリート生産, 運搬(投入)工 ……………	Ⅲ-3-②-23
②-6 残存型枠工……………	Ⅲ-3-②-25
③ 仮設備工……………	Ⅲ-3-③- 1
③-1 仮設備工……………	Ⅲ-3-③- 1
③-2 仮設備工(砂防コンクリート生産設備) ……………	Ⅲ-3-③-10
③-3 仮設備工(軌条及び機械設備) ……………	Ⅲ-3-③-12
③-4 仮設備工(ケーブルクレーン付属設備) ……………	Ⅲ-3-③-14
④ 養生工(練炭)……………	Ⅲ-3-④- 1
⑤ 石材等採取工(割石, 雑割石, 野面採取) ……………	Ⅲ-3-⑤- 1
⑥ ケブルクレーンによる資材等の運搬 ……………	Ⅲ-3-⑥- 1
⑦ 水替とい工……………	Ⅲ-3-⑦- 1

⑧ 銘板工……………	Ⅲ-3-⑧- 1
⑨ 堤冠部保護工(隅石張)……………	Ⅲ-3-⑨- 1
⑪ 仮締切工……………	Ⅲ-3-⑩- 1
⑩-1 砂防土砂仮締切・砂防土砂 土のう仮締切……………	Ⅲ-3-⑩- 1
⑩-2 砂防コンクリート締切……………	Ⅲ-3-⑩-11
⑪ 鋼製砂防工……………	Ⅲ-3-⑪- 1
⑫ 砂防ソイルセメント工……………	Ⅲ-3-⑫- 1

第4章 地すべり防止工

① 地すべり防止工……………	Ⅲ-4-①- 1
①-1 集水井工(ライナープレート土留工法) ……………	Ⅲ-4-①- 1
①-2 集水井工(プレキャスト土留工法) ……………	Ⅲ-4-①-10
①-3 地すべり防止工 (集排水ボーリング工)……………	Ⅲ-4-①-16
①-4 地すべり防止工(山腹水路工)……………	Ⅲ-4-①-24
①-5 地すべり防止工(ふとんかご)……………	Ⅲ-4-①-41
①-6 地すべり防止工(じゃかご)……………	Ⅲ-4-①-44
①-7 集排水ボーリング孔洗浄工…	Ⅲ-4-①-48

第Ⅳ編 道 路

第1章 舗装工

① 路盤工……………	Ⅳ-1-①- 1
①-1 路盤工……………	Ⅳ-1-①- 1
② アスファルト舗装工……………	Ⅳ-1-②- 1
②-1 アスファルト舗装工……………	Ⅳ-1-②- 1
②-2 半たわみ性(コンポジット)舗装工 ……………	Ⅳ-1-②-14
③ 排水性舗装工……………	Ⅳ-1-③- 1
③-1 排水性アスファルト舗装工…	Ⅳ-1-③- 1
③-2 透水性樹脂コンクリート工…	Ⅳ-1-③- 5
③-3 透水性アスファルト舗装工…	Ⅳ-1-③- 9
④ グースアスファルト舗装工……………	Ⅳ-1-④- 1
⑤ コンクリート舗装工……………	Ⅳ-1-⑤- 1
⑤-1 コンクリート舗装工……………	Ⅳ-1-⑤- 1
⑤-2 R C C P工……………	Ⅳ-1-⑤-10
⑤-3 連続鉄筋コンクリート舗装工 ……………	Ⅳ-1-⑤-13
⑥ 踏掛版……………	Ⅳ-1-⑥- 1

第2章 付属施設

- ① 防護柵設置工……………Ⅳ-2-①- 1
 - ①-1 ガードケーブル設置工……………Ⅳ-2-①- 1
 - ①-2 落石防止網(繊維網)設置工…Ⅳ-2-①- 9
 - ①-3 立入り防止柵工……………Ⅳ-2-①-10
 - ①-4 車止めポスト設置工……………Ⅳ-2-①-14
 - ①-5 防雪柵設置及び撤去工……………Ⅳ-2-①-16
 - ①-6 防雪柵現地張出し・収納工…Ⅳ-2-①-21
 - ①-7 雪崩予防柵設置工……………Ⅳ-2-①-25
 - ①-8 雪崩発生予防柵設置工(円形空洞型枠工,
立入防止柵工, 柵板設置工)…Ⅳ-2-①-32
 - ①-9 ボックスビーム設置工……………Ⅳ-2-①-35
 - ①-10 遮光フェンス設置工……………Ⅳ-2-①-38
 - ①-11 落下物等防止柵設置工……………Ⅳ-2-①-43
- ② シャ音壁設置工……………Ⅳ-2-②- 1
 - ②-1 シャ音壁設置工……………Ⅳ-2-②- 1
 - ②-2 基礎杭打工(シャ音壁)……………Ⅳ-2-②-18
- ③ 路側工……………Ⅳ-2-③- 1
 - ③-1 路側工(据付け)……………Ⅳ-2-③- 1
 - ③-2 路側工(取外し)……………Ⅳ-2-③- 7
- ④ 特殊ブロック設置工……………Ⅳ-2-④- 1
- ⑤ 組立歩道工……………Ⅳ-2-⑤- 1
- ⑥ 橋梁付属施設設置工……………Ⅳ-2-⑥- 1
- ⑦ トンネル内装板設置工……………Ⅳ-2-⑦- 1
- ⑧ 道路付属物設置工……………Ⅳ-2-⑧- 1
- ⑨ スノーポール設置・撤去工……………Ⅳ-2-⑨- 1
- ⑩ 道路植栽工(客土工)(上層 30 cm)・Ⅳ-2-⑩- 1

第3章 道路維持修繕工

- ① 路面切削工……………Ⅳ-3-①- 1
 - ①-1 路面切削工……………Ⅳ-3-①- 1
 - ①-2 切削オーバーレイ工……………Ⅳ-3-①- 7
- ② 舗装版破碎工……………Ⅳ-3-②- 1
- ③ 舗装版切断工……………Ⅳ-3-③- 1
- ④ 道路打換え工……………Ⅳ-3-④- 1
- ⑤ 路上路盤再生工……………Ⅳ-3-⑤- 1
- ⑥ アスファルト注入工……………Ⅳ-3-⑥- 1
- ⑦ 舗装版クラック補修工……………Ⅳ-3-⑦- 1
- ⑧ 道路付属構造物塗替工……………Ⅳ-3-⑧- 1
- ⑨ 張紙防止工……………Ⅳ-3-⑨- 1
 - ⑨-1 張紙防止塗装工……………Ⅳ-3-⑨- 1
 - ⑨-2 貼紙防止シート工……………Ⅳ-3-⑨- 4
- ⑩ 床版補強工……………Ⅳ-3-⑩- 1

- ⑪ 橋梁補強工……………Ⅳ-3-⑪- 1
 - ⑪-1 橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)・Ⅳ-3-⑪- 1
 - ⑪-2 橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)・Ⅳ-3-⑪-15
 - ⑪-3 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)
……………Ⅳ-3-⑪-19
 - ⑪-4 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)
……………Ⅳ-3-⑪-28
- ⑫ 橋梁補修工……………Ⅳ-3-⑫- 1
 - ⑫-1 橋梁地覆補修工……………Ⅳ-3-⑫- 1
 - ⑫-2 橋梁補修工(支承受替工)……………Ⅳ-3-⑫- 9
 - ⑫-3 橋梁補修工(現場溶接鋼桁補強工)
……………Ⅳ-3-⑫-15
 - ⑫-4 橋梁補修工(ひび割れ補修工(充てん工法))
……………Ⅳ-3-⑫-17
 - ⑫-5 橋梁補修工(ひび割れ補修工
(低圧注入工法))……………Ⅳ-3-⑫-19
 - ⑫-6 橋梁補修工(断面修復工(左官工法))
……………Ⅳ-3-⑫-21
 - ⑫-7 橋梁補修工(表面被覆工(塗装工法))
……………Ⅳ-3-⑫-24
- ⑬ 落橋防止装置工……………Ⅳ-3-⑬- 1
- ⑭ 道路除草工……………Ⅳ-3-⑭- 1
- ⑮ 道路清掃工……………Ⅳ-3-⑮- 1
 - ⑮-1 路面清掃工(機械清掃)……………Ⅳ-3-⑮- 1
 - ⑮-2 路面清掃工(都市型ブラシ式)Ⅳ-3-⑮- 9
 - ⑮-3 路面清掃工(人力清掃工)……………Ⅳ-3-⑮-14
 - ⑮-4 ガードレール清掃工……………Ⅳ-3-⑮-18
 - ⑮-5 ガードレール清掃工(自動追従形)
……………Ⅳ-3-⑮-22
 - ⑮-6 視線誘導標清掃工……………Ⅳ-3-⑮-26
 - ⑮-7 ガードパイプ清掃工……………Ⅳ-3-⑮-28
 - ⑮-8 橋梁付属物清掃工……………Ⅳ-3-⑮-29
- ⑯ 排水構造物清掃工……………Ⅳ-3-⑯- 1
 - ⑯-1 管渠清掃工, 側溝清掃工及び集水桝清掃工
(組合せ作業)……………Ⅳ-3-⑯- 1
 - ⑯-2 側溝清掃(単独作業)……………Ⅳ-3-⑯-13
 - ⑯-3 側溝清掃工(人力清掃工)……………Ⅳ-3-⑯-17
 - ⑯-4 集水桝清掃工(単独作業)……………Ⅳ-3-⑯-19
 - ⑯-5 集水桝清掃工(人力清掃工)……………Ⅳ-3-⑯-23
- ⑰ トンネル清掃工……………Ⅳ-3-⑰- 1
- ⑱ トンネル照明器具清掃工……………Ⅳ-3-⑱- 1
- ⑲ トンネル漏水対策工……………Ⅳ-3-⑲- 1
- ⑳ 沓座拡幅工……………Ⅳ-3-⑳- 1
- ㉑ 桁連結工……………Ⅳ-3-㉑- 1
- ㉒ 欠損部補修工……………Ⅳ-3-㉒- 1
- ㉓ 路肩整正(人力による土はね)……………Ⅳ-3-㉓- 1

②④	コンクリート接着工	IV-3-②④- 1
②⑤	防護柵復旧工	IV-3-②⑤- 1
②⑥	アスファルト舗装版削孔工	IV-3-②⑥- 1
②⑦	仮覆工板設置・撤去工	IV-3-②⑦- 1
②⑧	道路付属物のコンクリート面塗装工	IV-3-②⑧- 1
②⑨	横断歩道橋補修工	IV-3-②⑨- 1
③⑩	調整ポスト取付工	IV-3-③⑩- 1
第4章 共同溝工		
①	共同溝工	IV-4-①- 1
①-1	共同溝工(1)	IV-4-①- 1
①-2	共同溝工(2)	IV-4-①- 9
①-3	防水工・防水層保護工	IV-4-①-39
②	電線共同溝工(C・C・BOX)	IV-4-②- 1
③	情報ボックス工	IV-4-③- 1
④	観測井戸設置工	IV-4-④- 1
第5章 トンネル工		
①	トンネル工(NATM)	IV-5-①- 1
①-1	トンネル工(NATM)〔発破工法〕	IV-5-①- 1
①-2	トンネル(NATM)〔機械掘削工法〕	IV-5-①-56
①-3	トンネル濁水処理工	IV-5-①-93
①-4	トンネル工(NATM)坑口工 (DⅢパターン)	IV-5-①-98
①-5	トンネル工(NATM)非常駐車帯工	IV-5-①-138
①-6	トンネル工(NATM)仮設備工 (防音扉工)	IV-5-①-189
②	小断面トンネル工(NATM)	IV-5-②- 1
③	トンネル裏込め注入工	IV-5-③- 1

第6章 道路除雪工

①	道路除雪工	IV-6-①- 1

第7章 橋梁工

①	鋼橋製作工	IV-7-①- 1
②	橋梁塗装工 (工場塗装及び塗装前処理)	IV-7-②- 1
③	鋼橋架設工	IV-7-③- 1
④	プレビーム桁製作及び架設工	IV-7-④- 1
④-1	プレビーム桁製作工(現場)	IV-7-④- 1
④-2	プレビーム桁架設工	IV-7-④-13
⑤	鋼橋床版工	IV-7-⑤- 1
⑥	グレーチング床版架設工及び足場工	IV-7-⑥- 1
⑦	ポストテンション桁製作工	IV-7-⑦- 1

⑧	プレキャストセグメント主桁組立工	IV-7-⑧- 1
⑨	P C 橋架設工	IV-7-⑨- 1
⑩	P C 橋片持架設工	IV-7-⑩- 1
⑪	ポストテンション場所打 ホロースラブ橋工	IV-7-⑪- 1
⑫	ポストテンション場所打箱桁橋工	IV-7-⑫- 1
⑬	R C 場所打ホロースラブ橋工	IV-7-⑬- 1
⑭	架設支保工	IV-7-⑭- 1
⑮	伸縮装置工(鋼製)	IV-7-⑮- 1
⑯	橋梁排水管設置工	IV-7-⑯- 1
⑰	歩道橋(側道橋)架設工	IV-7-⑰- 1
⑱	鋼製橋脚設置工	IV-7-⑱- 1
⑲	橋台・橋脚工	IV-7-⑲- 1
⑲-1	橋台・橋脚工(1)	IV-7-⑲- 1
⑲-2	橋台・橋脚工(2)	IV-7-⑲-22

第Ⅴ編 公 園

第1章 公園植栽工

①	公園植栽工	V-1-①- 1
②	公園除草工	V-1-②- 1
③	公園工	V-1-③- 1

第Ⅵ編 複合及び市場単価

第1章 複合単価

①	排水構造物工	VI-1-①- 1

第2章 市場単価

①	鉄筋工	VI-2-①- 1
①-1	鉄筋工(太径鉄筋含む)	VI-2-①- 1
①-2	鉄筋工(ガス圧接工)	VI-2-①-10
②	区画線工	VI-2-②- 1
③	高視認性区画線工	VI-2-③- 1
④	インターロッキングブロック工	VI-2-④- 1
⑤	防護柵設置工	VI-2-⑤- 1
⑤-1	防護柵設置工(ガードレール)	VI-2-⑤- 1
⑤-2	防護柵設置工(ガードパイプ)	VI-2-⑤-16
⑤-3	防護柵設置工(横断・転落 防止柵)	VI-2-⑤-24
⑤-4	防護柵設置工(落石防護柵)	VI-2-⑤-32
⑤-5	防護柵設置工(落石防止網)	VI-2-⑤-41

⑥	法面工	VI-2-⑥- 1
⑥-1	法面工	VI-2-⑥- 1
⑥-2	吹付砕工	VI-2-⑥-13
⑦	道路植栽工	VI-2-⑦- 1
⑧	橋梁塗装工	VI-2-⑧- 1
⑨	橋梁付属物工	VI-2-⑨- 1
⑨-1	橋梁用伸縮継手装置設置工	VI-2-⑨- 1
⑨-2	橋梁用埋設型伸縮継手 装置設置工	VI-2-⑨-11
⑩	構造物とりこわし工	VI-2-⑩- 1
⑪	薄層カラー舗装工	VI-2-⑪- 1
⑫	道路標識設置工	VI-2-⑫- 1
⑬	道路付属物設置工	VI-2-⑬- 1
⑭	公園植栽工	VI-2-⑭- 1
⑮	軟弱地盤処理工	VI-2-⑮- 1
⑯	コンクリートブロック積工	VI-2-⑯- 1
⑰	排水構造物工	VI-2-⑰- 1
⑱	橋面防水工	VI-2-⑱- 1
⑲	グルーピング工	VI-2-⑲- 1
⑳	鉄筋挿入工(ロックボルト工)	VI-2-㉔- 1
㉔	コンクリート表面処理工 (ウォータージェット工)	VI-2-㉔- 1

第 I 編 総 則

第 1 章	総 則	I - 1 - ① - 1
第 2 章	工事費の積算	I - 2 - ① - 1
第 3 章	一般管理費等及び消費税等相当額	I - 3 - ① - 1
第 4 章	随意契約方式により工事を発注する場合の 間接工事費等の調整及びスライド条項の 減額となる場合の運用について	I - 4 - ① - 1
第 5 章	数値基準等	I - 5 - ① - 1
第 6 章	建設機械運転労務等	I - 6 - ① - 1
第 7 章	土木請負工事の特許使用料の積算	I - 7 - ① - 1
第 8 章	時間的制約を受ける公共土木工事の積算	I - 8 - ① - 1
第 9 章	土木請負工事における現場環境改善費の積算	I - 9 - ① - 1
第 10 章	工事の一時中止に伴う増加費用等の積算	I - 10 - ① - 1
第 11 章	施工箇所が点在する工事の積算	I - 11 - ① - 1
第 12 章	1 日未満で完了する作業の積算	I - 12 - ① - 1
第 13 章	設計変更	I - 13 - ① - 1
第 14 章	その他	I - 14 - ① - 1

第1章 総 則

① 適用範囲等……………	I -1-①- 1	② 請負工事の工事費構成……………	I -1-②- 1
1 適用範囲……………	I -1-①- 1	1 工事費の基本構成……………	I -1-②- 1
2 基準の適用……………	I -1-①- 1		
3 設計書の作成……………	I -1-①- 1		

第1章 総 則

① 適用範囲等

1 適 用 範 囲

本土木工事標準積算基準書は、神奈川県県土整備局の土木工事を請負施工に付する場合における、工事費の積算に適用する。

ただし、この基準書によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。

2 基 準 の 適 用

工事費の積算における基準は、原則として、設計書決裁時における最新の基準を適用する。

3 設 計 書 の 作 成

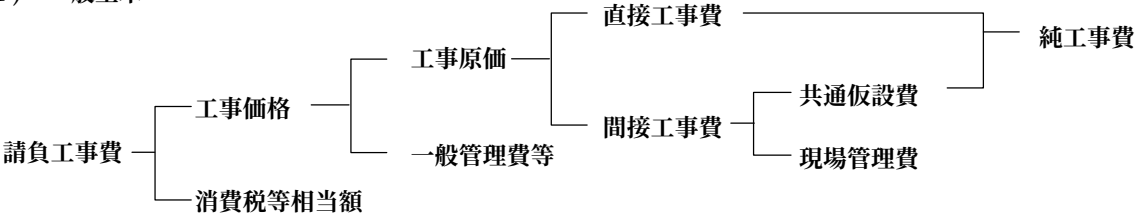
設計書の作成にあたっては、目的とする工事を最も合理的に施工及び監督できるよう施工条件、施工管理、安全施工等に十分留意し、工法歩掛及び単価などについて調査研究をおこない、明確に作成しなければならない。

② 請負工事の工事費構成

1 工事費の基本構成

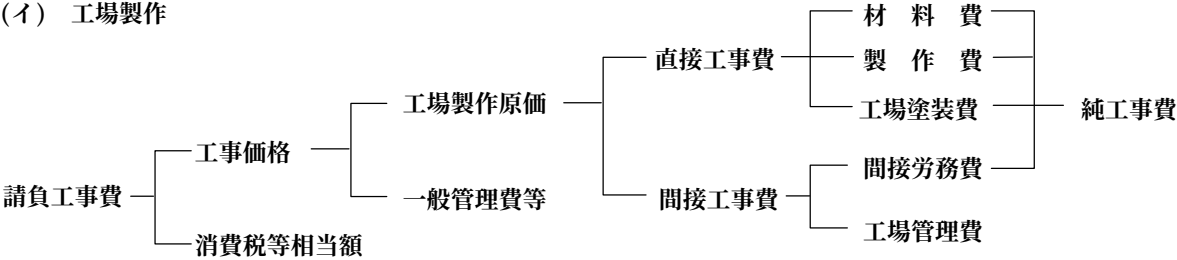
1-1 請負工事費の構成は、次のとおりとする。

(1) 一般土木

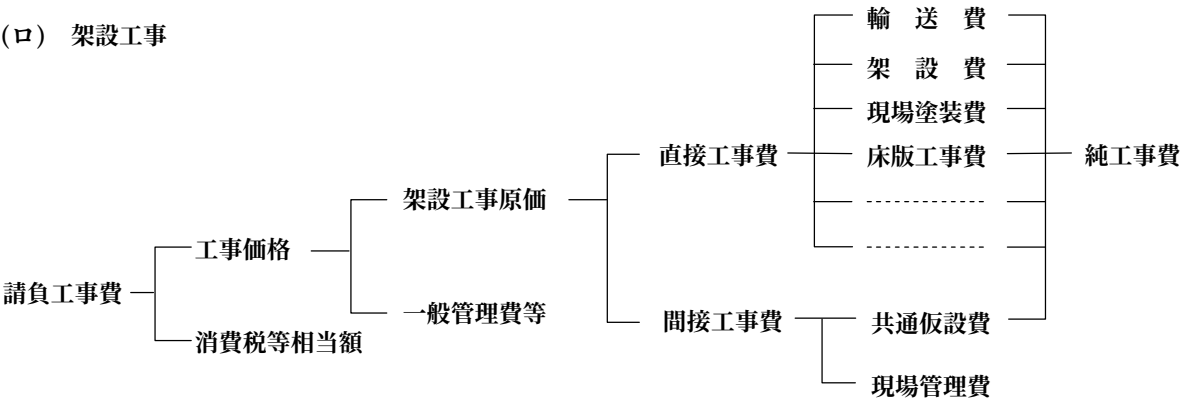


(2) 鋼橋製作

(イ) 工場製作

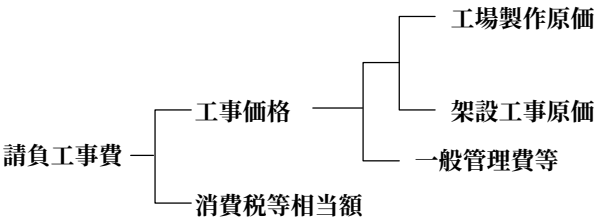


(ロ) 架設工事



(ハ) 一括請負の場合

工場製作から現場架設まで、一括請負とする場合には次のとおりとする。



1-2 請負工事費の費目は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 直接工事費

直接工事費は、箇所又は工事種類により各工事部門を工種、種別、細別及び名称に区分し、それぞれの区分ごとに材料費、労務費及び直接経費の3要素について積算するものとし、「第2章 工事費の積算」の「① 直接工事費」による。

(2) 間接工事費

1) 間接工事費は、各工事部門共通の前号以外の工事費及び経費とし、共通仮設費及び現場管理費に分類し、それぞれの構成する費目について積算するものとする。

2) 共通仮設費は、工事施工にあたって、工事目的物の施工に間接的に係る費用とし、「第2章 工事費の積算」の「② 共通仮設費」による。

(イ) 運搬費

(ロ) 準備費

(ハ) 事業損失防止施設費

(ニ) 安全費

(ホ) 役務費

(ヘ) 技術管理費

(ト) 営繕費

3) 現場管理費は、工事施工にあたって、工事を管理するために必要な共通仮設費以外の経費とし、「第2章 工事費の積算」の「③ 現場管理費」による。

$$\text{現場管理費率} = \frac{\text{現場管理費}}{\text{純工事費}}$$

ただし、純工事費＝直接工事費＋共通仮設費

(3) 一般管理費等

一般管理費等は、工事施工にあたる企業の継続運営に必要な費用をいい、一般管理費及び付加利益からなり、次の一般管理費等率を用いて積算するものとし、「第3章 一般管理費等及び消費税等相当額」の「一般管理費等」による。

$$\text{一般管理費等率} = \frac{\text{一般管理費等}}{\text{工事原価}}$$

(4) 消費税等相当額

消費税等相当額は、消費税及び地方消費税相当分を積算するものとし、「第3章 一般管理費等及び消費税等相当額」の「② 消費税等相当額」による。

第2章 工事費の積算

① 直接工事費	I -2-①- 1	③ 現場発生品及び支給品運搬	I -2-③- 1
1 材料費	I -2-①- 1	1 適用範囲	I -2-③- 1
2 歩掛	I -2-①- 2	2 施工パッケージ	I -2-③- 1
3 労務費	I -2-①- 2	3 施工単価入力基準表	I -2-③- 3
4 直接経費	I -2-①- 4		
5 諸雑費及び端数処理	I -2-①- 4		
6 注意事項	I -2-①- 4		
② 間接工事費	I -2-②- 1		
1 総 則	I -2-②- 1		
2 共通仮設費	I -2-②- 1		
2-1 共通仮設費の率分	I -2-②- 7		
2-2 運搬費	I -2-②-11		
2-3 準備費	I -2-②-27		
2-4 事業損失防止施設費	I -2-②-28		
2-5 安全費	I -2-②-29		
2-6 役務費	I -2-②-30		
2-7 技術管理費	I -2-②-32		
2-8 営繕費	I -2-②-33		
3 現場管理費	I -2-②-37		

第2章 工事費の積算

① 直接工事費

1 材 料 費

材料費は、工事を施工するために必要な材料の費用とし、その算定は次の(1)及び(2)によるものとする。

(1) 数 量

数量は、標準使用量に運搬、貯蔵及び施工中の損失量を実状に即して加算するものとする。

(2) 価 格

価格は、原則として、設計書決裁時における市場価格とし、消費税相当分は含まないものとする。設計書に計上する材料の単位あたりの価格を設計単価といい、設計単価は、物価資料等を参考とし、買入価格、買入れに要する費用及び購入場所から現場までの運賃の合計額とするものとする。

当初の支給品の価格決定については、官側において購入した資材を支給する場合、現場発生資材を官側において保管し再使用品として支給する場合とも、設計書決裁時における市場価格または類似品価格とする。

なお、設計単価は、土木工事資材等単価表（県土整備局設定）（以下「局設定単価」という。）、局特別調査単価（臨時調査）、物価資料（「建設物価」、「積算資料」等をいう。）掲載価格または見積りをもとに、原則として下記により決定するものとし、実勢の価格を反映するものとする。

また、工事の規模、工種、施工箇所及び施工条件等から下記によりがたい場合は、事前に事業主管課と協議のうえ別途決定する。

1) 局設定単価による場合

(イ) 局設定単価は、技術管理課において決定し、工事設計積算システムに登録する単価である。

局設定単価がある場合は、これを積算に用いる単価とする。

2) 物価資料による場合

(イ) 1)の方法によりがたい場合は、単価の決定は、物価資料（「建設物価」、「積算資料」）に掲載されている実勢価格の平均値を採用する。また、一方の資料にしか掲載のないものについては、その価格とする。

なお、適用時期は毎月とする。

(ロ) 公表価格として掲載されている資材価格は、メーカー等が一般に公表している販売希望価格であり、実勢価格と異なるため、積算に用いる単価としない。

ただし、公表価格で、割引率（額）の表示がある資材は、その割引率（額）を乗じた（減じた）価格を積算に用いる単価とする。

3) 1)及び2)の方法によりがたい場合

(イ) 1)及び2)の方法によりがたい場合は、局特別調査（臨時調査）として技術管理課にて調査を行い、材料単価を決定するものとする。

なお、局特別調査（臨時調査）は、各事務所において資材価格調査が必要な資材（1事務所のみに必要となるときも含む）について行うものとする。

(ロ) なお、1工事において調達価格（材料単価×使用数量）が100万円未満の場合は、見積りによって決定することも可能とする。

また、見積りを採用する場合の手順は、次によるものとする。

① 調達価格（材料価格×使用数量）が、100万円未満であるか100万円以上であるかの判断をするために発注担当課から参考見積りを依頼し、見積り（100万円未満）又は特別調査（100万円以上）によるかの判断を行うものとする。

なお、同一工事の1資材に複数の規格がある場合については、その合計額で上記判断を行うものとする。

また、他工事の実績や「建設物価」及び「積算資料」等の類似品目の材料単価から類推可能であれば、参考見積りは不要とする。

② 見積りを徴収する場合は、形状寸法、品質、規格、数量及び納入場所、見積り有効期限等の条件を必ず提示し、事務所長から見積依頼を行う。

なお、見積価格は実勢取引価格であることを確認する。

③ 正式見積りは、原則として3社以上から徴収する。

④ 積算に用いる材料単価の決定方法は、異常値を除いた価格の最安値とする。

5) 価格変動が著しい場合

主要資材単価の変動が著しい場合は、「物価資料等の速報」価格を採用する。

2 歩 掛

歩掛は、工事を施工するために必要な機械・労務・材料に係る数量とし、その算定は土木工事標準歩掛及び物価資料によるものとする。

土木工事標準歩掛にない歩掛や物価資料にない単価については、見積りの取得により歩掛の構成を決定する。

見積りの場合は、原則として3社以上から徴収し、歩掛の決定方法は、最安値の歩掛を採用する。

ただし、変更積算時は施工者より見積りを徴収し、妥当性を確認した上で採用する。

なお、単価等については「1 材料費」、「3 労務費」及び「4 直接経費」によるものとする。

3 労 務 費

労務費は、工事を施工するのに必要な労務の費用とし、その算定は次の(1)及び(2)によるものとする。

(1) 所要人員

所要人員は、原則として、現場条件及び工事規模を考慮して工事ごとに査定するが、一般に過去の実績及び検討により得られた標準的な歩掛を使用するものとする。

(2) 労務賃金

労務賃金は、労働者に支払われる賃金であって、直接作業に従事した時間の労務費の基本給をいい、基本給は、「公共工事設計労務単価」等を使用するものとする。

基準作業時間外の作業及び特殊条件により作業に従事して支払われる賃金を割増賃金といい、割増賃金は、従事した時間及び条件によって加算するものとする。

(3) 夜間工事の労務単価

次に掲げる場合は、以下の通り労務単価の割増しを行うものとする。

1) 通常勤務すべき時間帯（8 h～17 h）を超えて、作業を計画する場合は以下とする。

(イ) 深夜時間（22 h～5 h）については、深夜時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.50）とする。

(ロ) 上記(イ)以外の通常勤務すべき時間帯（8 h～17 h）を超えた時間帯は、時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.25）とする。

なお、休憩は超過勤務4時間を超えるごとに30分の休憩を与えるものとする。

2) 2交替、3交替を計画する場合、所定労働時間（実働時間8 h＋休息时间1 h）内は、基準額とする。その内、深夜部分（22 h～5 h）にかかる時間帯は、深夜割増し（基準額×割増対象賃金比×0.25）を加算するものとする。

ただし、2交替の場合にあって、所定労働時間を超える場合は、時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.25）、及び深夜時間外割増し（基準額×割増対象賃金比×1.50）を加算する。〔例－1〕、〔例－2〕

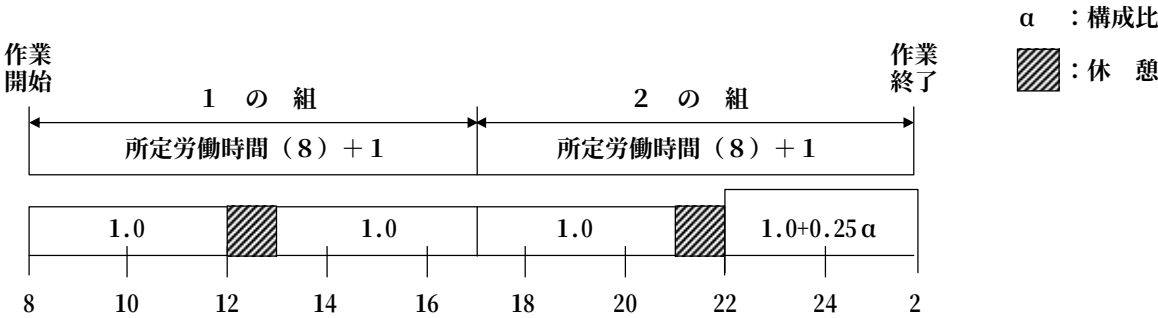
3) 現場条件により、やむを得ず、通常勤務すべき時間帯（8 h～17 h）をはずして作業を計画する場合は、次による。〔例－3〕

(イ) 所定労働時間内で17 h～20 h及び、6 h～8 hにかかる時間帯は、基準額とする。

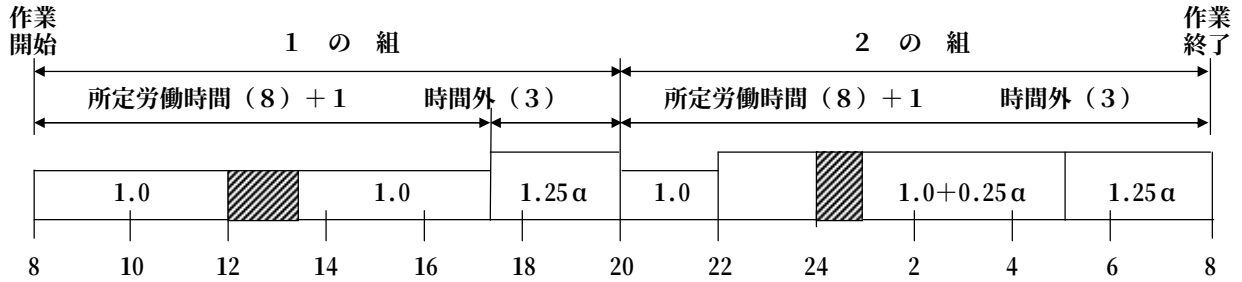
(ロ) 所定労働時間内で20 h～6 hにかかる時間帯は基準額に1.5を乗ずる。

ただし、作業開始から所定労働時間内までとし、所定労働時間を超えた時間帯については、前の1)項による。

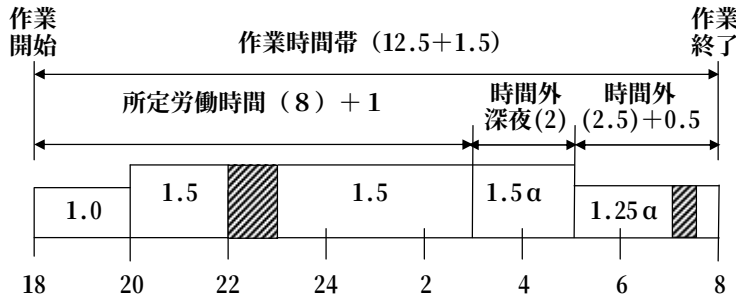
〔例－1〕



〔例－2〕



〔例－3〕



4 直接経費

直接経費は、工事を施工するのに直接必要とする経費とし、その算定は次の(1)から(3)までによるものとする。

(1) 特許使用料

特許使用料は、契約に基づき使用する特許の使用料及び派出する技術者等に要する費用の合計額とするものとする。

(2) 水道光熱電力料

水道光熱電力料は、工事を施工するのに必要な電力、電灯使用料、用水使用料及び投棄料等とするものとする。

(3) 機械経費

機械経費は、工事を施工するのに必要な機械の使用に要する経費(材料費、労務費を除く。)で、その算定は請負工事機械経費積算要領に基づいて積算するものとする。

5 諸雑費及び端数処理

(1) 諸雑費

1) 諸雑費の定義

当該作業で必要な労務、機械損料及び材料等でその金額が全体の費用に比べて著しく小さい場合に、積算の合理化及び端数処理を兼ねて一括計上する。

2) 単価表

(イ) 単価表(歩掛表に諸雑費率があるもの)

単位数量当りの単価表の合計金額が、有効数字4桁になるように原則として所定の諸雑費率以内で端数を計上する。

(ロ) 単価表(歩掛表に諸雑費率がなく、端数処理のみの場合)

単位数量当りの単価表の合計金額が、有効数字4桁になるように原則として端数を計上する。

(ハ) 金額は「諸雑費」の名称で計上する。

3) 内訳書

諸雑費は計上しない。

(2) 端数処理

1) 単価表及び内訳書の各構成要素の数量×単価＝金額は1円までとし、1円未満は切り捨てる。

2) 共通仮設費の率計上の金額は1,000円単位とし、1,000円未満は切り捨てる。

3) 現場管理費の金額は、1,000円単位とし、1,000円未満は切り捨てる。

- 4) 工事価格は、10,000円単位とし、10,000円未満は切り捨てる。ただし、工事価格が500,000円未満となる場合は1,000円単位とし、1,000円未満は切り捨てる。

6 注 意 事 項

(1) 歩掛の中で率計上となっている諸雑費について

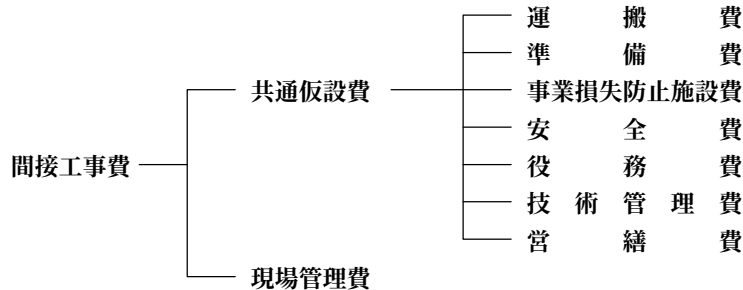
諸雑費は、雑材料、小器材の費用等について、積算の繁雑さを避けるため率計上するとともに、単価表作成にあたっての端数処理を兼ねたものである。

計上にあたっては、所定の諸雑費率の上限とし、当該金額を超えない範囲で端数処理を行うものである。

② 間接工事費

1. 総 則

この算定基準は、間接工事費の算定に係る必要な事項を定めたものである。間接工事費の構成は、下記のとおりとする。



2. 共通仮設費

(1) 工種区分

共通仮設費は、表－1に掲げる区分ごとに算定するものとする。

- 1) 工種区分は、工事名にとられることなく、工種内容によって適切に選定するものとする。
- 2) 2種以上の工種内容からなる工事については、その主たる工種区分を適用するものとする。なお、主たる工種とは、(2)の1)に定める対象額の大きい方の工種をいう。ただし、対象額で判断しがたい場合は直接工事費で判断してよい。
- 3) 変更設計時に数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。

(2) 算定方法

共通仮設費の算定は、別表第1の工種区分にしたがって所定の率計算による額と積上げ計算による額とを加算しておこなうものとする。

1) 率計算による部分

下記に定める対象額ごとに求めた率に、当該対象額を乗じて得た額の範囲内とする。

対象額 (P)

= 直接工事費 + (支給品費 + 無償貸付機械等評価額) + 事業損失防止施設費 + 準備費に含まれる処分費

(イ) 下記に掲げる費用は対象額に含めない。

- a. 簡易組立式橋梁、プレキャストPC桁、プレキャストPC床版、グレーチング床版、合成床版製品費、ポンプ、大型遊具(設計製作品)、光ケーブルの購入費
- b. 上記aを支給する場合の支給品費
- c. 鋼桁、門扉等の工場製作に係る費用のうちの工場原価(工場製作品を含む。)
- d. 大型標識柱〔オーバーハング式(F型、T型、逆L型、WF型)、オーバーヘッド式〕、しゃ音壁支柱、鋼製砂防堰堤、鋼製スリット堰堤、鋼橋製作工の支承や排水装置等の材料費(製作費を含む。)

(ロ) 支給品費及び無償貸付機械等評価額は「直接工事費 + 事業損失防止施設費」に含まれるものに限るものとする。

ただし、コンクリートダム工事・フィルダム工事については、支給電力料を対象額に含めないものとする。

また、別途製作工事等で製作し、架設及び据付工事等を分離して発注する場合は、当該製作費は対象額に含めない。

(ハ) 無償貸付機械等評価額の算定は次式によりおこなうものとする。

$$\begin{array}{ccc}
 \left(\begin{array}{c} \text{無償貸付機械等} \\ \text{評価額} \end{array} \right) & = & \left(\begin{array}{c} \text{無償貸付機械と同機種、同} \\ \text{型式の建設機械等損料額} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{c} \text{当該建設機械等の設計書に} \\ \text{計上された経費} \end{array} \right) \\
 \text{(貸付にかかる損料額)} & & \text{(業者持込の損料額)} \qquad \qquad \text{(無償貸付機械等損料額)}
 \end{array}$$

(二) 鋼橋桁等の輸送に係る間接費(対象額に対する率計算の場合)の積算は、発注形態別に次表によるものとする。

形態 \ 工種	共通仮設費	現場管理費	一般管理費等
製作＋輸送＋架設等	○	○	○
製作＋輸送	×	○	○
輸送＋架設等	○	○	○
輸送	×	○	○
架設等	○	○	○

○対象とする ×対象としない

(注) 購入桁については、製作を購入と読み替える。

2) 積上げ計算による部分

現場条件等を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

3) 条件明示

安全対策上、重要な仮設物等については設計図書に条件明示し、極力指定仮設とするものとする。

4) 適用除外

この算定基準によることが困難又は不適当であると認められるものについては、適用除外とすることが出来る。

5) 間接工事費等の項目別対象表

間接工事費等		共通仮設費	現場管理費	一般管理費等
対象額		対象額	直接工事費＋共通仮設費＝純工事費	純工事費＋現場管理費＝工事原価
項目				
桁等購入費		×	○	○
処分費等		処分費等(投棄料・上下水道料金・有料道路利用料の取扱いは、(注)(ト)参照)		
支給品費等	桁等購入費	×	○	×
	一般材料費	○	○	×
	別途製作の製作費	×	×	×
	電力	○	○	×
無償貸付機械評価額		○	○	×
鋼橋門扉等工場原価		×	×	○
現場発生品		×	×	×
ダム工事	支給電力料(基本料金含む)	×	×	×
	無償貸付機械評価額	○	×	×

○対象とする ×対象としない

- (注) (イ) 共通仮設費対象額とは、直接工事費＋支給品費＋無償貸付機械等評価額＋事業損失防止施設費＋準備費に含まれる処分費である。
- (ロ) 桁等購入費とは、簡易組立式橋梁、プレキャストPC桁、プレキャストPC床版、グレーチング床版、合成床版製品費、ポンプ、大型遊具（設計製作品）、光ケーブルの購入費をいう。
- (ハ) 無償貸付機械等評価額とは、無償貸付機械と同機種同型式の建設機械等損料額から当該建設機械等の設計書に計上された額を控除した額をいう。
- (ニ) 別途製作する標識柱〔オーバーハング式（F型、T型、逆L型、WF型）、オーバーヘッド式〕、しゃ音壁支柱、鋼製砂防堰堤、鋼製スリット堰堤、鋼橋製作工の支承や排水装置等、工場製作品単価の場合の扱いは、鋼橋・門扉等工場原価の取扱いに準ずるものとする（t当り製作単価として取扱う場合）。
- (ホ) 現場発生品とは、同一現場で発生した資材を物品管理法で規定する処理を行わず再使用する場合をいう。
- (ヘ) 別途製作したものを一度現場に設置した後に発生品となり再度支給する場合の扱いは、別途製作の製作費（材料費含む）と同じ扱いとする。
- (ト) 「処分費等」の取扱い

「処分費等」とは、下記のものとし、「処分費等」を含む工事の積算は、当該処分費等を直接工事費に計上し、間接工事費等の積算は、表のとおりとする。

- 1) 処分費（再資源化施設の受入費を含む）
- 2) 上下水道料金
- 3) 有料道路利用料

区 分	処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の3%以下でかつ処分費等が3千万円以下の場合	処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の3%を超える場合又は処分費等が3千万円を超える場合
共 通 仮 設 費	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。
現 場 管 理 費	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。
一 般 管理費等	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。

(注) 1. 上表の処分費等は、準備費に含まれる処分費を含む。

なお、準備費に含まれる処分費は伐開、除根等に伴うものである。

2. 処分費を計上する場合は、「第I編第2章②間接工事費 2. 共通仮設費 2-3 準備費」及び「第I編第12章①材料単価入力基準表」により単価登録すること。

3. 上表により難しい場合は別途考慮するものとする。

6) 管理費区分入力基準表

管理費区分は、間接工事費算定にあたり、対象額・非対象額の区分を行うものである。

新土木積算システムに入力する区分は、下表のとおりとする。

コード設定があるものは、該当コードを使用するものとし、やむを得ず単価を登録する場合は、下表より採用する管理費区分を設定するものとする。

管理費区分	概 要
0	すべての間接費の対象とする場合
1	現場管理費・一般管理費のみ対象とする場合
2	工場管理費・一般管理費のみ対象とし、間接労務費の対象にしない場合（鋼桁、門扉等の工場製作に関わる製作工数単価以外の費用）
5	一般管理費のみ対象にする場合
7	間接労務費，工場管理費，一般管理費のみ対象にする場合（製作工数に関わるもの）
9	全ての間接費の対象にしない場合
T	処分費等の対象にする場合

表-1 工 種 区 分

工種区分	工 種 内 容
河川工事	河川工事にあつて、次に掲げる工事 築堤工、掘削工、浚渫工、護岸工、特殊堤工、根固工、水制工、水路工、河床高水敷整正工、堤防地盤処理工、河川構造物グラウト工、光ケーブル配管工等の補修及びこれらに類する工事 ただし、河川高潮対策区間の河川工事については「海岸工事」とする
河川・道路構造物工事	河川における構造物工事及び道路における構造物工事にあつて、次に掲げる工事 1.樋門(管)工、水(閘)門工、サイフォン工、床止(固)工、堰、揚排水機場、ロックシェッド(RC構造)、スノーシェッド(RC構造)、防音(吸音・遮音)壁工、コンクリート橋、簡易組立橋梁、仮橋・仮栈橋、PC橋(プレキャストセグメントを除く工場製作桁の場合)等の工事及びこれらの下部・基礎のみの工事 ただし、河川高潮対策区間における樋門(管)工、水(閘)門工については「海岸工事」とする 2.橋梁下部工(RC構造)、床版工(RC構造及びプレキャストPC構造) 3.ゴム伸縮継手、落橋防止工(RC構造)、コンクリート橋の支承、高欄設置工(コンクリート、石材等)、旧橋撤去工(コンクリート橋上下部)、トンネル内装工(新設トンネル) 4.1・2及び3に類する工事 ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。また、門扉等の工場製作及び揚排水機場の上屋は除く
海岸工事	海岸工事にあつて、次に掲げる工事 堤防工、突堤工、離岸堤工、消波根固工、海岸擁壁工、護岸工、樋門(管)工、河口浚渫、水(閘)門工、養浜工、堤防地盤処理工及びこれらに類する工事 河川高潮対策区間の河川工事にあつて、次に掲げる工事 築堤工、掘削工、浚渫工、護岸工、特殊堤工、根固工、水制工、水路工、河床高水敷整正工、堤防地盤処理工、河川構造物グラウト工、樋門(管)工、水(閘)門工、光ケーブル配管工、護岸工等の補修及びこれらに類する工事
道路改良工事	道路改良工事にあつて、次に掲げる工事 土工、擁壁工、函(管)渠工、側溝工、山止工、法面工、落石防止柵工、雪崩防止柵工、道路地盤処理工、標識工、防護柵工及びこれらに類する工事
鋼橋架設工事	鋼橋等の運搬架設に関する工事にあつて、次に掲げる工事 1.鋼橋架設工、鋼橋塗装工、鋼橋塗替工、橋梁検査路設置工、高欄設置工(鋼製・アルミ等)、スノーシェッド(鋼構造)、ロックシェッド(鋼構造)、道路付属物を除く鋼構造物塗替工(水門、樋門、樋管、排水機場等)、床版工(RC構造及びプレキャストPC構造を除く)、橋梁下部工(鋼製) 2.簡易組立橋の塗装工事及びこれらに類する工事 3.鋼橋撤去工(鋼橋に伴う床版撤去含む) ただし、工種区分の橋梁保全工事に該当するものは除く。
PC橋工事	PC橋に関する工事にあつて、次に掲げる工事 1.工事現場におけるPC桁の製作(工場製作桁は除く)、架設及び製作架設に関する工事 2.プレキャストセグメント構造のPC橋工事
橋梁保全工事	橋梁(上部工、下部工)に関するすべての保全、補修、補強工事及び既設橋梁の橋梁付属物工の修繕工事(塗装、舗装打ち替え等は除く)

工種区分		工 種 内 容
舗装工事		舗装の新設、修繕工事にあつて、次に掲げる工事 セメントコンクリート舗装工、アスファルト舗装工、セメント安定処理路盤工、アスファルト安定処理路盤工、砕石路盤工、凍上抑制層工、コンクリートブロック舗装工、路上再生処理工、切削オーバーレイ工及びこれらに類する工事 ただし、小規模(パッチング等)な工事で施工箇所が点在する工事は除く
共同溝等工事	(1)	共同溝及び地下立体交差工事(地下駐車場、地下横断歩道等)にあつて、次に掲げる工事 施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事
	(2)	共同溝及び地下立体交差工事(地下駐車場、地下横断歩道等)にあつて、次に掲げる工事 施工方法が開削工法による工事
トンネル工事		トンネルに関する工事にあつて、次に掲げる工事 1.トンネル工事 2.施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による工事 ただし、本体工を完成後別件で照明設備、舗装、側溝等を発注する場合、又は併用開始後の照明設備、吹付け、舗装、修繕工事等は除く
砂防・地すべり等工事		砂防、地すべり工事及び急傾斜地崩壊防止施設工事にあつて、次に掲げる工事 堰堤工、流路工、山腹工、抑制工、抑止工、床固工、落石なだれ防止工、集水井工、集排水井ボーリング工、排水トンネル工及びこれらに類する工事
道路維持工事		道路にあつて、次に掲げる工事 1.管理を目的とした維持的工事 2.道路附属物塗替工、防雪柵設置撤去工 ^{※1} 、トンネル漏水防止工、トンネル内装工(供用トンネル)、路面切削工、路面工、法面工等の維持・補修 ^{※2} に関する工事 3.道路標識 ^{※1} 、道路情報施設、電気通信設備、防護柵 ^{※1} 、樹木等及び区画線等の設置 4.除草、除雪、清掃及び植栽等の緑地管理に関する作業 5.1、2、3及び4に類する工事 ※1：局部的新設、復旧・更新を主とする場合に適用 ※2：法面工の補修については局部的な場合に適用
河川維持工事		河川維持工事(河川高潮対策区間の工事を含む)にあつて、次に掲げる工事 1.管理を目的とした維持的工事 2.堤防天端・法面等の補修工事 3.標識、境界杭、防護柵及び駒止め等の設置 4.道路における電気通信設備以外の当該設備工事 5.河川の伐開、除草、清掃、芝養生、水面清掃等の作業 6.1、2、3、4及び5に類する工事
下水道工事	(1)	下水道に関する工事にあつて、次に掲げる工事 施工方法がシールド工法又は作業員が内部で作業する推進工法による管渠工事
	(2)	下水道に関する工事にあつて、次に掲げる工事 施工方法が開削工法又は小口径の推進工法による管渠工事
	(3)	下水道に関する工事にあつて、次に掲げる工事 ポンプ場工事、処理工事及びこれらに類する工事
公園工事		公園及び緑地の造成整備に関する工事にあつて、次に掲げる工事 敷地造成工、園路広場工、植樹工、除草工、芝付工、花壇工、日陰柵工、ベンチ工、池工、遊戯施設工、運動施設工、標識工及びこれらに類する工事
コンクリートダム工事		コンクリートダム本体を主体とする工事
フィルダム工事		フィルタイプでダム本体を主体とする工事
電線共同溝工事		電線共同溝に関する工事
情報ボックス工事		情報ボックスに関する工事(耐火防護も含む)

2-1 共通仮設費の率分

(1) 共通仮設費の率分の積算

- 1) 共通仮設費の率分の算定は、別表第1(第1表～第4表)の工種区分に従って対象額ごとに求めた共通仮設費率を、当該対象額に乗じて得た額の範囲内とする。
- 2) 対象額の算定にあたっては、「2. 共通仮設費(2)算定方法 1)率計算による部分」及び「2. 共通仮設費(2)算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

(2) 共通仮設費率の補正

1) 施工地域を考慮した共通仮設費率の補正及び計算

- イ) 表-2の適用条件に該当する場合、別表第1(第1表～第4表)の共通仮設費率に補正係数を乗じるものとする。

表-2 地域補正の適用

適用条件			補正係数	適用優先
施工地域区分	工種区分	対象		
大都市(1)	舗装工事	東京特別区、横浜市、大阪市の市街地部が施工箇所に含まれる場合。	2.0	1
	電線共同溝工事			
	道路維持工事			
大都市(2)	鋼橋架設工事	札幌市、仙台市、さいたま市、川口市、草加市、千葉市、市川市、船橋市、習志野市、浦安市、東京特別区、八王子市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、広島市、北九州市、福岡市の市街地部が施工箇所に含まれる場合。 ※東京特別区、横浜市、大阪市の市街地部については、鋼橋架設工事のみ対象とする。	1.5	2
	舗装工事			
	電線共同溝工事			
	道路維持工事			
市街地(DID補正)(1)	鋼橋架設工事	大都市(1)、(2)の対象以外の市街地部が施工箇所に含まれる場合。	1.3	3
	電線共同溝工事			
	道路維持工事			
	舗装工事			
	橋梁保全工事			
一般交通影響有り(1)	全ての工種(※)	2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量が5,000台/日以上以上の車道において規制を行う場合。ただし、常時全面通行止めの場合は対象外とする。	1.3	4
一般交通影響有り(2)	全ての工種(※)	一般交通影響有り(1)以外の車道において、規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。)	1.2	5
市街地(DID補正)(2)	市街地(DID補正)(1)以外(※)	市街地(DID補正)(1)で適用となる工種区分以外で、市街地部が施工箇所に含まれる場合。	1.2	6
山間僻地及び離島	全ての工種(※)	人事院規則における特勤手当を支給するために指定した地区、及びこれに準ずる地区の場合。	1.3	7

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

(注) 1. 市街地とは、施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。

なお、DID地区とは、総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4,000人/km²以上でその全体が5,000人以上となっている地域をいう。

2. 適用条件の複数に該当する場合は、適用優先順に従い決定するものとする。

ハ) 共通仮設費(率分)の計算

共通仮設費(率分)＝対象額(P)×共通仮設費率(K r)×施工地域を考慮した補正係数

ただし、共通仮設費率は別表第1(第1表～第4表)による。

なお、補正係数を乗じる場合は、K rの端数処理後に係数を乗じて、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

2) その他

設計変更時における共通仮設費率の補正については、工事区間の延長等により当初計上した補正值に増減が生じた場合、あるいは当初計上していなかったが、上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

別表第1

共通仮設費率

第1表

工種区分	対象額	600万円 以 下	600万円を超え10億円 以 下		10億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。ただし、変数値は下記によ る		下記の 率 とする
			A	b	
河 川 工 事		12.53	238.6	－0.1888	4.77
河川・道路構造物工事		20.77	1,228.3	－0.2614	5.45
海 岸 工 事		13.08	407.9	－0.2204	4.24
道 路 改 良 工 事		12.78	57.0	－0.0958	7.83
鋼 橋 架 設 工 事		38.36	10,668.4	－0.3606	6.06
P C 橋 工 事		27.04	1,636.8	－0.2629	7.05
舗 装 工 事		17.09	435.1	－0.2074	5.92
砂防・地すべり等工事		15.19	624.5	－0.2381	4.49
公 園 工 事		10.80	48.0	－0.0956	6.62
電 線 共 同 溝 工 事		9.96	40.0	－0.0891	6.31
情 報 ボ ッ ク ス 工 事		18.93	494.9	－0.2091	6.50

第2表

工種区分	対象額	600万円 以 下	600万円を超え3億円 以 下		3億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。ただし、変数値は下記によ る		下記の 率 とする
			A	b	
橋 梁 保 全 工 事		27.32	7,050.2	－0.3558	6.79

第3表

工種区分	対象額	200万円 以 下	200万円を超え1億円 以 下		1億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。ただし、変数値は下記によ る		下記の 率 とする
			A	b	
道 路 維 持 工 事		23.94	4,118.1	－0.3548	5.97
河 川 維 持 工 事		9.05	26.8	－0.0748	6.76

第4表

対象額 適用区分 工種区分		1,000万円 以 下	1,000万円を超え20億円 以 下		20億円を 超えるもの
		下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。ただし、変数値は下記によ る		下記の 率 とする
			A	b	
共同溝等工事	(1)	8.86	68.3	-0.1267	4.53
	(2)	13.79	92.5	-0.1181	7.37
トンネル工事		28.71	4,164.9	-0.3088	5.59
下水道工事	(1)	12.85	422.4	-0.2167	4.08
	(2)	13.32	485.4	-0.2231	4.08
	(3)	7.64	13.5	-0.0353	6.34

第5表

対象額 適用区分 工種区分		3億円 以 下	3億円を超え50億円 以 下		50億円を 超えるもの
		下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。ただし、変数値は下記によ る		下記の 率 とする
			A	b	
コンクリートダム		12.29	105.2	-0.1100	9.02
フィルダム		7.57	43.7	-0.0898	5.88

(3) 算定式

$$K_r = A \cdot P^b$$

ただし K_r : 共通仮設費率(%)

P : 対象額(円)

A・b : 変数値

注) 1. K_r の値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

2. 対象額の算定にあたっては、「2. 共通仮設費(2)算定方法 1)率計算による部分」及び「2. 共通仮設費(2)算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

2-2 運搬費

(1) 運搬費の積算

運搬費として積算する内容は次のとおりとする。

1) 建設機械器具の運搬等に要する費用

- (イ) 質量20 t以上の建設機械の貨物自動車等による運搬
- (ロ) 仮設材等(鋼矢板, H形鋼, 覆工板, 敷鉄板等)の運搬
- (ハ) 重建設機械の分解・組立及び輸送に要する費用
- (ニ) 質量20 t未満の建設機械の搬入, 搬出及び現場内小運搬
- (ホ) 器材等の搬入, 搬出及び現場内小運搬
ただし, 支給品及び現場発生品については, 積上げ積算し, 直接工事費に計上するものとする。
- (ヘ) 建設機械の自走による運搬
- (ト) 建設機械等の日々回送(分解・組立, 輸送)に要する費用
- (チ) 質量20 t以上の建設機械の現場内小運搬

2) 鋼桁, 門扉等工場製作品の運搬(直接工事費に計上)

3) 1)~2)に掲げるもののほか, 工事施工上必要な建設機械器具の運搬等に要する費用

4) 建設機械等の運搬基地

運搬基地は, 建設機械等の所在場所等を勘案のうえ決定するものとする。

(2) 積算方法

1) 共通仮設費に計上される運搬費

(イ) 共通仮設費率に含まれる運搬費

- a. 質量20 t未満の建設機械の搬入, 搬出及び現場内小運搬(分解・組立を含む)
- b. 器材等(型枠材, 支保材, 足場材, 仮囲い, 敷鉄板(敷鉄板設置撤去工で積上げた分は除く), 作業車(PC橋片持ち架設工), 橋梁ベント, 橋梁架設用タワー, 橋梁用架設桁設備, 排砂管, トレミー管, トンネル用スライドセントル等)の搬入, 搬出及び現場内小運搬
- c. 建設機械の自走による運搬(トラッククレーン油圧伸縮ジブ型80 t以上は, 積上げるものとする。)
- d. 建設機械等(重建設機械を含む)の日々回送(分解・組立, 輸送)に要する費用
- e. 質量20 t以上の建設機械の現場内小運搬
ただし, 特殊な現場条件等により分解・組立を必要とする場合は別途加算出来るものとする。
- f. 上記(1), (イ), (ハ)の中で, トラッククレーン(油圧伸縮ジブ型20~50 t吊)・ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型20~70 t吊)の分解・組立及び輸送に要する費用

(ロ) 積上げ項目による運搬費

- a. 質量20 t以上の建設機械の貨物自動車等による運搬
なお, 運搬される建設機械の運搬中の賃料又は損料についても積上げるものとする。
建設機械の日々回送の場合は, 共通仮設費率に含む。
- b. 仮設材等(鋼矢板, H形鋼, 覆工板, 敷鉄板等)の運搬
ただし, 敷鉄板については敷鉄板設置・撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。
- c. 重建設機械の分解・組立及び輸送に要する費用
(運搬中の本体賃料・損料および分解・組立時の本体賃料を含む。)
- d. 上記(イ)及び(ロ)a~cにおける自動車航送船使用料に要する費用
(運搬中の本体賃料・損料を含む。)

2) 直接工事費に計上される運搬費

- a. 鋼桁, 門扉, 工場製作品の運搬
- b. 支給品及び現場発生品の運搬

(3) 質量20 t以上の建設機械の貨物自動車等による運搬

質量20 t以上の建設機械器具の搬入、又は搬出の積算は運搬車両1台ごとに次式により行うものとする。

$$U_k = [A_1 \cdot (1 + C_1 + C_4) + A_2 \cdot C_2 + A_3 \cdot C_3 + B] \cdot D + M + K \text{ (又は } K') \text{}$$

ただし U_k ：貨物自動車による運搬費

A_1 ：基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお、車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし、運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。発地・着地で運輸局が異なる場合は、発注機関の存在する運輸局を適用する。

また、基本運賃料金の10%の範囲での増減運用は一般の場合は適用しない。

A_2 ：悪路割増区間基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお、車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし、運搬距離は運搬基地より現場までの距離のうち、悪路区間の距離とする。

A_3 ：冬期割増区間基本運賃料金

各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。

なお、車扱運賃料金の適用は原則として「距離制運賃料金」によるものとし、運搬距離は運搬基地より現場までの距離のうち、冬期割増区間の距離とする。

B：諸料金

a. 地区割増料……適用する。

貨物の発地又は着地が、東京都（特別区に限る）又は、住民基本台帳に基づく人口が50万人以上の都市の場合には、各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」の地区割増料を加算する。

ただし、貨物の発地及び着地が同一都市内又は隣接都市間の場合は、発地又は着地のいずれか一方についてのみ加算する。

b. 車両割増料……適用しない。

$C_1 \sim C_4$ ：運賃割増率（表3.1）

C_1 ：特大品割増

C_2 ：悪路割増

C_3 ：冬期割増

C_4 ：深夜早朝割増

その他の割増率は適用しない。

D：運搬車両の台数

1を代入する。

M：その他の諸料金

1) 組立、解体に要する費用

重建設機械の組立、解体に要する費用は別途加算する。

2) その他下記事項の料金を必要により計上する。

a 荷役機械使用料

b 自動車航送船使用料

c 有料道路利用料

d その他

K：運搬される建設機械の運搬中の賃料（円）

K'：運搬される建設機械の運搬中の損料（円）

運搬される建設機械(被運搬建設機械)の運搬中の賃料又は損料を計上する。

積算方法は、「1) 運搬される建設機械の運搬中の賃料および損料」による。

*建設機械運搬方法等は表3.2による。

*端数処理

輸送費（基本運賃料金×運賃割増率）及び諸料金（B）は、各々端数処理計算し、その金額が10,000円未満の場合は100円未満を100円に、10,000円以上の場合は500円未満を500円に、500円を超え、1,000円未満の端数は、1,000円にそれぞれ切り上げる。

表3.1 運賃割増率

割増項目	適用範囲			割増率
特大品割増 (C ₁)	建設機械類	使用車両積載トン数15 t 未満		6 割増
		" 15 t 以上		7 "
	鋼橋, 水閘門等	単体の長さ(m)	単体の質量(t)	—
		12 ≤ L < 15	1 ≤ G < 15	8 "
		15 ≤ L < 20	—	10 "
		(注)3 20 ≤ L	15 ≤ G	12 "
悪路割増 (C ₂)	悪路割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率 道路法による道路及びその他の一般交通の用に供する場所並びに自動車道以外の場所に限る。			3 "

冬期割増 (C ₃)	冬期割増区間の運送距離に対応する基本運賃×割増率		割増率
	地 域	期 間	
	北海道	自11月16日 至4月15日	2 割増
	青森県, 秋田県, 山形県, 新潟県, 長野県, 富山県, 石川県, 福井県, 鳥取県, 島根県の全域 岩手県のうち, 北上市, 久慈市, 遠野市, 二戸市, 九戸郡, 二戸郡, 上閉伊郡, 下閉伊郡, 岩手郡, 和賀郡, 福島県のうち, 会津若松市, 喜多方市, 南会津郡, 北会津郡, 耶麻郡, 大沼郡, 河沼郡, 岐阜県のうち, 高山市, 大野郡, 吉城郡, 益田郡, 郡上郡	自12月1日 至3月31日	

深夜早朝割増 (C ₄)	運搬時間を「22～5時」に指定する場合。	3 割増

(注) 1. 鋼橋の輸送については「第IV編第7章①鋼橋製作工」, 水閘門については「土木工事標準積算基準書(機械編)」により別途計上するものとし, その他については上記運搬費で計上するものとする。

2. 誘導車, 誘導員の費用は特大品割増に含む。

3. 特大品割増(C₁)で単体の長さ質量ともに該当する場合は, いずれか大きい方の率とする。

4. 橋梁ベント, 橋梁架設用タワーは率に含まれるため適用しない。

1) 運搬される建設機械の運搬中の賃料(K)及び損料(K')

運搬される建設機械の片道分の運搬中の賃料及び損料は次式により計上する。

運搬中の賃料＝運搬される機械の供用1日当り賃料(円)×運搬に要する日数(日)

$K = \text{運搬される建設機械の運搬中の供用1日当り賃料(円)} \times L / (\text{輸送速度} \times 8)$

運搬中の損料＝運搬される機械の供用1日当り損料(円)×運搬に要する日数(日)

$K' = \text{運搬される建設機械の運搬中の供用1日当り損料(円)} \times L / (\text{輸送速度} \times 8)$

L: 運搬距離(km) 基地から現場までの片道距離とする。

輸送速度: (30 km/h)

(注) 1. 運搬に要する日数の端数処理は小数第2位を四捨五入し, 小数第1位止めとする。

2. 運搬に要する日数は運搬状況を勘案して決定する。なお, トラックによる輸送は, 時速 30 km/h を標準とする。

3. 分解・組立を要する重建設機械の積算にあたっては, 重建設機械分解組立(WB010350 及び WB010360)により積算すること。

なお, 重建設機械分解組立輸送(WB010350)については, 運搬中の賃料(K)が考慮されている。

表3.2 建設機械運搬方法

機 械 名	規 格	自 走		車 載		備 考
		速 度 (km/h)	労務	車種	機械 質量 (t)	
路 面 切 削 機 (ホイール式・廃材積込装置付)	2.0m			R	29.00	
除雪ドーザ(クローラ型) (普 通)	21 t			R	21.90	
ス タ ビ ラ イ ザ (路 床 改 良 用)	深1.2m 幅2.0m			R	23.50	
自 走 式 破 碎 機	クラッシャー寸法 開 450mm 幅 925mm			R	30.00	
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (硬 質 地 盤 専 用)	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用			R	29.70	
油 圧 式 杭 圧 入 引 抜 機 (硬 質 地 盤 専 用)	鋼矢板Ⅴ _L ・Ⅵ _L ・Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・ Ⅳ _w 型用			R	37.90	
コンクリート吹付機 (湿式吹付・吹付ロボット一体・ エアコンプレッサ搭載)	吹付範囲半径 7m 級・吐出量 8～22m ³ 級			R	22.00	

- (注) 1. 貨物自動車による運搬は、WB010010 で計上する。
2. 車載のRはトレーラである。
3. 本表に掲載のある建設機械については、分解・組立の必要はない。

1) 施工単価入力基準表

(イ) 貨物自動車による運搬(1車1回)

施工歩掛コード		WB010010	施工単位	台		
施工区分	入 力 条 件					
	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
各 種	運搬区分	基本運賃料金	特大品割増	悪路割増区間	深夜早朝割増	冬期割増区間
	(表3.3)	(円) (実数入力)	(表3.1) (実数入力)	基本運賃料金 (円) 実数入力	の有無 ①有 ②無	基本運賃料金 (円) (実数入力)

J 7	J 8	J 9
地区割増料	その他の 諸料金	有料道路 利用料
(円) (実数入力)	(円) (実数入力)	(円) (実数入力)

- (注) 1. 重建設機械分解組立(WB010360)を使用するものについては適用しない。
2. 鋼橋の輸送については「第IV編第7章①鋼橋製作工」、水閘門の輸送については「土木工事標準積算基準書(機械編)」により別途計上するものとし、その他については本コードで計上する。
3. 上記施工歩掛コードは、輸送トラック1車1台(片道)当りである。
搬入、搬出の経路が同経路の場合は、施工単位を「2(台)」とし、経路が異なる場合は施工単位を「1」としてWB010010を2回計上する。
4. J 1条件で①～⑦を選択した場合は、J 3条件の入力の必要はない。
5. J 3条件は実数入力であり、割増率が6割の場合は「0.6」と入力し、割増の無い場合は「0」を入力する。
6. J 4条件は実数入力であり、悪路割増区間の運搬距離に対応する基本運賃料金を入力し、割増がない場合は「0」を入力する。
7. J 6条件は実数入力であり、冬期割増対象地域の輸送距離に対応する基本運賃料金を入力し、割増がない場合は「0」を入力する。
8. J 8, J 9条件: その他の諸料金, 有料道路利用料には消費税を含まない料金を入力する。入力にあたっては、消費税相当額を控除し、端数については、小数点以下切り捨てし整数止めとする。

表3.3 運 搬 区 分

機 械 名	規 格	輸送トラック規格	入力番号
路面切削機 (ホイール式・廃材積込装置付)	2.0m	30 t 車	①
除雪ドーザ(クローラ型) (普 通)	21 t	22 t 車	②
スタビライザ (路床改良用)	深1.2m 幅2.0m	24 t 車	③
自走式破砕機	クラッシャー寸法 開 450mm 幅 925mm	30 t 車	④
油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用	30 t 車	⑤
油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	鋼矢板Ⅴ _L ・Ⅵ _L ・Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型用	38 t 車	⑥
コンクリート吹付機 (湿式吹付・吹付ロボット一体・ エアコンプレッサ搭載)	吹付範囲半径 7m 級・吐出量 8～22m ³ 級	22 t 車	⑦
各 種			⑧

(4) 仮設材等の運搬

1) 仮設材等(鋼矢板, H形鋼, 覆工板, 敷鉄板等)の運搬費用

仮設材等の運搬は次式により行うものとする。

$$U = [E \times (1 + F_1 + F_2)] \times G + H$$

ただし U: 仮設材等の運搬費

E: 基本運賃 (円/t)

下表によるものとする。

なお, 運搬距離は運搬基地より現場までの距離とする。

また, 運賃は下表に掲げてある基本運賃に, 必要に応じ冬期割増及び深夜早朝割増を行うものとし, 車両留置料, 長大品割増, 休日割増, 特別割引は適用しない。

基 本 運 賃 表

(単位: 円/t)

製品長 距 離	12m以内	12m超～ 15m以内	15m超
10kmまで	2,400 (2,070)	2,540 (2,540)	2,970 (2,950)
20 "	2,500 (2,200)	2,750 (2,700)	3,250 (3,220)
30 "	2,700 (2,450)	2,750 (2,700)	3,500 (3,460)
40 "	2,850 (2,690)	3,000 (2,940)	3,670 (3,670)
50 "	3,100 (2,940)	3,300 (3,220)	3,950 (3,920)
60 "	3,270 (3,150)	3,750 (3,550)	4,150 (4,150)
70 "	3,590 (3,380)	3,970 (3,820)	4,380 (4,380)
80 "	3,780 (3,610)	4,210 (4,150)	4,610 (4,610)
90 "	3,920 (3,830)	4,390 (4,390)	4,840 (4,840)
100 "	4,090 (4,060)	4,640 (4,540)	5,050 (5,050)
110 "	4,290 (4,250)	4,760 (4,670)	5,260 (5,260)
120 "	4,490 (4,270)	4,940 (4,820)	5,470 (5,460)
130 "	4,680 (4,550)	5,110 (4,960)	5,660 (5,630)
140 "	4,870 (4,550)	5,290 (5,120)	5,820 (5,820)
150 "	5,070 (4,830)	5,550 (5,330)	6,030 (6,030)
160 "	5,350 (4,830)	5,800 (5,500)	6,210 (6,210)
170 "	5,470 (5,110)	5,970 (5,650)	6,390 (6,390)
180 "	5,590 (5,200)	6,020 (5,860)	6,560 (6,560)
190 "	5,760 (5,400)	6,040 (6,050)	6,760 (6,740)
200 "	5,980 (5,600)	6,230 (6,270)	6,940 (6,910)
200kmを超え500kmまで 20kmまでを増すごとに	275 (280)	300 (350)	350 (400)
500kmを超え 50kmまでを増すごとに	573 (600)	600 (700)	800 (826)

(注) 1. 北海道・東北・北陸・中国・四国・九州の6地方整備局は()内の運賃を適用する。

発地・着地で地方整備局が異なる場合は, 発注機関の存在する整備局を適用する。

2. 敷鉄板については敷鉄板設置撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

F 1～F 2：運賃割増率

F 1：冬期割増

地 域	期 間	割増率
北海道	自11月16日 至4月15日	2割増
青森県，秋田県，山形県，新潟県，長野県，富山県，石川 県，福井県，鳥取県，島根県の全域	自12月1日 至3月31日	
岩手県のうち北上市，久慈市，遠野市，二戸市，九戸郡， 二戸郡，上閉伊郡，下閉伊郡，岩手郡，和賀郡，福島県の うち会津若松市，喜多方市，南会津郡，北会津郡，耶麻郡， 大沼郡，河沼郡，岐阜県のうち高山市，大野郡，吉城郡， 益田郡，郡上郡		

F 2：深夜早朝割増

運搬時間を「22～5時」に指定する場合。	3割増

G：運搬質量（t）

H：その他の諸料金（円）

その他，下記事項の料金を必要により計上する。

- a. 有料道路利用料
- b. 自動車航送船利用料
- c. その他

＊ 端数の処理

運賃及びその他の諸料金は当該輸送トン数ごとに計算し，円未満の金額については切り捨てる。

2）仮設材等（鋼矢板，H形鋼，覆工板，敷鉄板等）の積込み，取卸しに要する費用

仮設材等（鋼矢板，H形鋼，覆工板，敷鉄板等）の積込み・取卸し費

場 所		作 業	費 用 (円／t)		
基 地		積 込 み	750	1,500	3,000
現 場		取 卸 し	750		
		積 込 み	750	1,500	
基 地		取 卸 し	750		

(注) 1. 橋梁ベント，橋梁架設用タワーは率に含まれるため適用しない。

2. 敷鉄板については敷鉄板設置撤去工で積上げた敷鉄板を対象とする。

3) 施工単価入力基準表

(イ) 仮設材等(鋼矢板, H形鋼, 覆工板, 敷鉄板等)の運搬

施工歩掛コード		WB010020	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	基本運賃	運搬割増率	その他の諸料金の有無	その他の諸料金
	(円／t) (実数入力)	(表4.1)	①有 ②無	(円／t) (実数入力)

- (注) 1. 敷鉄板については敷鉄板設置撤去工(WB253610)で積上げた敷鉄板を対象とする。
 2. 積込み, 取卸し費は別途 WB010030 で計上する。
 3. 上記施工歩掛コードは, 輸送トラック1車1回(片道)当りである。
 4. J 2条件で④を選択した場合, 実数入力であり割増率が6割の場合は「0.6」を入力し, 割増の無い場合は「0」を入力する。
 5. J 3条件で②を選択した場合は, J 4条件を入力する必要はない。
 6. J 4条件: その他の諸料金には消費税を含まない料金を入力する。入力にあたっては, 消費税相当額を控除し, 端数については, 小数点以下切り捨てし整数止めとする。

表4.1 割増率

冬 期 割 増	深夜早朝割増	割 増 率	入力番号
○		0.2	①
	○	0.3	②
○	○	0.5	③
各種(実数入力)			④

○: 計上する。

(ロ) 仮設材等(鋼矢板, H形鋼, 覆工板, 敷鉄板等)の積込み, 取卸し費

施工歩掛コード	WB010030	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分		
	①積込みのみ ②取卸しのみ ③積込み, 取卸し(片道分) ④積込み, 取卸し(往復分)		

- (注) 1. 敷鉄板については敷鉄板設置撤去工(WB253610)で積上げた敷鉄板を対象とする。
 2. 積込み, 取卸し(片道分)は, 基地での積込み+現場での取卸し分(又は, 現場での積込み+基地での取卸し分)が計上され, 積込み取卸し(往復分)は, 基地での積込み~基地での取卸し分が計上される。
 3. 本歩掛は, 施工機種や作業半径等の条件にかかわらず適用できる。ただし, 深夜早朝作業の場合については別途考慮する。

(5) 重建設機械分解・組立

1) 適用範囲

本資料は、工事現場に搬入搬出する標準的な重建設機械の分解・組立及び輸送に適用し、適用する建設機械は次表を標準とする。

表5.1 適用建設機械

機 械 区 分	適用建設機械
ブ ル ド ー ザ	ブルドーザ (リッパ装置付を含む) 普通 21t級以上～63t級以下 湿地 20t級以上～28t級以下
バ ッ ク ホ ウ 系	バックホウ 山積1.0m ³ 以上～2.1m ³ 以下 (平積0.7m ³ 以上～1.5m ³ 以下) 油圧クラムシェル・テレスコピック 平積0.4m ³ 以上～0.6m ³ 以下
クローラクレーン系	クローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・ 機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型〕 吊能力 16t以上～300t以下 クラムシェル〔油圧ロープ式・機械ロープ式〕 平積0.6m ³ 以上～3.0m ³ 以下 バイプロハンマ 〔クローラクレーン・油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・50～55t吊〕
トラッククレーン系	トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 オールテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 吊能力 80t以上～550t以下
クローラ式杭打機	ディーゼルハンマ 油 圧 ハ ン マ アースオーガ (二軸同軸式を含む) ディーゼルハンマ・アースオーガ併用 モンケン・アースオーガ併用 アースオーガ併用圧入杭打機 アースオーガ中掘式 機械質量 20t以上～150t以下
オールケーシング掘削機	オールケーシング掘削機〔クローラ式〕 掘削径 2,000mm以下 オールケーシング掘削機〔据置式〕 掘削径 2,000mm以下
地 盤 改 良 機 械	中層混合処理機 機械質量20t以上～120t以下
	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 (付属機器除く) 深層混合処理機 ベーパードレーン打機 機械質量 20t以上～180t以下
トンネル用機械	自由断面トンネル掘削機 ドリルジャンボ コンクリート吹付機 機械質量 20t以上～60t以下
連続地中壁用機械	地下連続壁施工機 (回転水平多軸・クローラ式) 壁厚 650～1,500mm 壁厚 1,200～2,400mm クローラ式アースオーガ (三軸式・直結三点支持式) オーガ出力90kW

2) 施工歩掛

(イ) 使用機械の規格選定

分解・組立に使用するクレーンは、次表を標準とする。

表5.2 クレーンの規格選定

機 械 区 分		規 格	分解組立用クレーン	
			機 械 名	規 格
バックホウ系掘削機 オールケーシング掘削機 〔クロール式掘削機〕		表5.1 参照	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	25t吊
ブルドーザ		21t級以下	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	25t吊
		44t級以下		50t吊
		63t級以下		50t吊
地盤改良機械	中層混合処理機	質量60t以下	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	25t吊
		質量120t以下		50t吊
	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 ペーパードレーン打機	質量60t以下		
		質量120t以下		
		質量180t以下		
クローラクレーン系		35t吊以下 (クラムシエル平積0.6m ³ 含む)	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	25t吊
		80t吊以下 (クラムシエル平積2.0m ³ 以下含む)		50t吊
		150t吊以下 (クラムシエル平積3.0m ³ 以下含む)		
		300t吊以下		
トラッククレーン系		表5.1 参照	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	50t吊
クローラ式杭打機		質量60t以下	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 〕	50t吊
		質量100t以下		
		質量150t以下		
オールケーシング掘削機 〔据置式〕		表5.1 参照	クローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 排出ガス対策型 (第1次基準値) 〕	60～65t吊
連続地中壁用機械 (地下連続壁施工機)		表 5.1 参照	ラフテレーンクレーン 〔油圧伸縮ジブ型〕	45t 吊
連続地中壁用機械 (クローラ式アースオーガ)		表 5.1 参照	クローラクレーン 〔油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型〕	50t 吊

(注) 1. ラフテレーンクレーン、クローラクレーンは、賃料とする。

ただし、オールケーシング掘削機〔据置式〕の分解組立用クローラクレーンは、損料とする。

2. 連続地中壁用機械(クローラ式アースオーガ)の分解組立用クレーンの機械運転単価は、「第Ⅱ編第2章⑨連続地中壁工(柱列式)」による。

3. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

(ロ) 歩掛

分解・組立1台1回当り歩掛は、次表を標準とする。

表5.3 分解・組立1台1回当り歩掛

機 械 区 分	規 格	機械質量 区分	労務歩掛 特殊作業員 (人) 〔分解＋組立〕	クレーン 運転歩掛 (日) 〔分解＋組立〕	運搬費 等 率 (%)	諸 雑 費 率 (%)
ブ ル ド ー ザ	21t級以下	—	2.8	2.1	134	21
	44t級以下	—	4.6	3.4	132	21
	63t級以下	—	8.4	6.2	90	14
バ ッ ク ホ ウ 系	山積1.4m ³ 以下 油圧クラムシェル ・テレスコピック 0.4m ³ 以上 0.6m ³ 以下含む	—	2.7	1.4	216	24
	山積2.1m ³ 以下	—	4.5	2.3	221	25
クローラクレーン系	35t吊以下 〔クラムシェル〕 〔平積0.6m ³ 含む〕	—	3.0	0.8	384	22
	80t吊以下 〔クラムシェル〕 〔平積2.0m ³ 以下含む〕	—	5.5	1.5	375	21
	150t吊以下 〔クラムシェル〕 〔平積3.0m ³ 以下含む〕	—	11.3	3.1	287	16
	300t吊以下	—	20.5	5.7	286	16
トラッククレーン系	120t吊以下	—	4.3	1.5	439	97
	160t吊以下	—	5.7	1.9	454	100
	360t吊以下	—	11.7	4.0	443	97
	550t吊以下	—	20.9	7.1	446	98
クローラ式杭打機	—	60t以下	8.6	2.1	148	2
	—	100t以下	15.5	3.7	149	2
	—	150t以下	23.5	5.6	148	2
オールケーシング掘削機 〔クローラ式〕	—	—	3.9	3.4	515	5
オールケーシング掘削機 〔据置式〕	—	—	4.9	11.9 (h)	483	4

表5.3 分解・組立1台1回当り歩掛

機 械 区 分		規 格	機械質量 区分	労務歩掛 特殊作業員 (人) 〔分解＋組立〕	クレーン 運転歩掛 (日) 〔分解＋組立〕	運搬費率 (%)	諸 雑 費 (%)
地盤改良機械	中層混合処理機		60t以下	16.0	2.4	229	4
			120t以下	41.2	6.3	190	3
	サンドパイル打機 粉体噴射攪拌機 深層混合処理機 ベーパードレーン打機		60t以下	16.0	2.4	191	3
			120t以下	41.2	6.3	190	3
			180t以下	64.6	9.9	189	3
トンネル用機械		—	—	5.4	2.0	503	8
連続地中壁用機械 (地下連続壁施工機)		—	—	54.4	9.5	144	4
連続地中壁用機械 (クローラ式アースオーガ)		—	—	27.7	6.0	153	2

- (注) 1. 分解・組立の合計であり、内訳は分解50%, 組立50%である。
2. 標準的作業に必要な装備品・専用部品が含まれている。
3. 運搬費等には下記①～⑤の費用が含まれており、労務費・クレーン運転費の合計額に上表の率を乗じて計上する。
①トラック及びブトレーラによる運搬費〔往復〕(誘導車, 交通誘導警備員含む)
②自走による本体賃料・損料
③運搬中の本体賃料・損料
④分解・組立時の本体賃料
⑤ウエス, 洗浄油, グリス, 油圧作動油等の費用
4. 諸雑費は分解・組立のみを計上する際に適用し, 下記①～②の費用が含まれており, 労務費・クレーン運転費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
①分解・組立時の本体賃料
②ウエス, 洗浄油, グリス, 油圧作動油等の費用

- 3) その他
(1) 深層混合処理機(二軸式90kW×2)は, 地盤改良機械(機械質量180t以下)を適用する。
(2) 粉体噴射攪拌機(単軸式19.6kN・m×1)は, 地盤改良機械(機械質量60t以下)を適用する。
(3) 粉体噴射攪拌機(二軸式55kW×2)は, 地盤改良機械(機械質量120t以下)を適用する。
(4) 粉体噴射攪拌機(二軸式90kW×2)は, 地盤改良機械(機械質量120t以下)を適用する。

4) 単 価 表

(1) 重建設機械分解組立輸送1回当り単価表

施工歩掛コード	WB010350

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表5.3
分解組立用クレーン		日(h)		表5.2, 5.3
運 搬 費 等		式	1	表5.3
諸 雑 費		〃	1	
計				

(2) 重建設機械分解組立1回当り単価表

施工歩掛コード	WB010360

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表5.3
分解組立用クレーン		日 (h)		表5.2, 5.3
諸 雑 費		式	1	表5.3
計				

5) 施工単価入力基準表

(イ) 重建設機械分解組立輸送

施工歩掛コード	WB010350	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作 業 区 分 ①分解組立＋輸送（往復） ②(分解又は組立)＋輸送(片道)	機械質量区分 (表5.4)	分解組立用クレーン 賃料補正係数 ①標準（1.0） ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、分解組立される建設機械が賃料適用及び損料適用にかかわらず適用出来る。
2. 本コードは、運搬割増（特大品、悪路、冬期、深夜早朝、地区等）及び他諸料金（有料道路利用料等）の有無にかかわらず適用出来る。ただし、陸上輸送以外が必要な場合は、これに要する費用を別途計上すること。
3. 本コードは、分解組立用クレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務調整係数も入力すること。
4. J 2 条件で⑥，⑦，⑧，⑨を選択した場合，中間ブームの有無にかかわらず適用出来る。
5. J 2 条件で⑩を選択した場合，オールケーシング掘削機（据置式）の分解組立用クレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型60～65t吊）と本体工事で使用するクローラクレーン（油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型60～65 t 吊）は兼用するものとし，分解組立輸送費を1回計上すること。
6. J 2 条件で⑩を選択した場合，J 3 条件は入力する必要はない。
7. 輸送を伴わないものについては，WB010360にて積算すること。
8. コンクリート吹付機（湿式吹付・吹付ロボット一体・エアコンプレッサ搭載）〔吹付範囲半径7m級・吐出量8～22m³級〕については分解組立を要しないことから、輸送費はWB010010にて積算すること。

表5.4 機械質量区分

機 械 質 量 区 分		入 力 番 号	
ブ ル ド ー ザ	20 t 級以上 21 t 級以下	①	
	21 t 級を超え44 t 級以下	②	
	44 t 級を超え63 t 級以下	③	
バ ッ ク ホ ウ 系	山積1.0 m ³ 以上山積1.4m ³ 以下 (油圧クラムシェル・テレスコピック0.4m ³ 以上0.6 m ³ 以下)	④	
	山積1.4 m ³ を超え山積2.1 m ³ 以下	⑤	
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 系	16 t 吊以上35 t 吊以下 (クラムシェル平積0.6 m ³ 含む)	⑥	
	35 t 吊を超え80 t 吊以下 (クラムシェル平積0.6 m ³ を超え平積2.0 m ³ 以下)	⑦	
	80 t 吊を超え150 t 吊以下 (クラムシェル平積2.0 m ³ を超え平積3.0 m ³ 以下)	⑧	
	150 t 吊を超え300 t 吊以下	⑨	
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 系	80 t 吊以上 120 t 吊以下	⑩	
	120 t 吊を超え160 t 吊以下	⑪	
	160 t 吊を超え360 t 吊以下	⑫	
	360 t 吊を超え550 t 吊以下	⑬	
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機	機械質量20 t 以上 60 t 以下	⑭	
	機械質量60 t を超え100 t 以下	⑮	
	機械質量100 t を超え150 t 以下	⑯	
オールケーシング掘削機	クローラ式	⑰	
	据置式	⑱	
地 盤 改 良 機 械	中層混合処理機	機械質量 20 t 以上 60 t 以下	⑲
		機械質量 60 t を超え120 t 以下	⑳
	サンドパイル打機	機械質量 20 t 以上 60 t 以下	㉑
		機械質量 60 t を超え120 t 以下	㉒
		機械質量 120 t を超え180 t 以下	㉓
	粉体噴射攪拌機	機械質量 20 t 以上 60 t 以下	㉔
		機械質量 60 t を超え120 t 以下	㉕
		機械質量 120 t を超え180 t 以下	㉖
	深層混合処理機	機械質量 20 t 以上 60 t 以下	㉗
		機械質量 60 t を超え120 t 以下	㉘
		機械質量 120 t を超え180 t 以下	㉙
	ペーパードレーン打機	機械質量 20 t 以上 60 t 以下	㉚
		機械質量 60 t を超え120 t 以下	㉛
機械質量 120 t を超え180 t 以下		㉜	
ト ン ネ ル 用 機 械		㉝	
連 続 地 中 壁 用 機 械	地下連続壁施工機	㉞	
	クローラ式アースオーガ	㉟	

(ロ) 重建設機械分解組立

施工歩掛コード	WB010360	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作 業 区 分 ①分解組立 ②(分解又は組立)	機械質量区分 (表5.4)	分解組立用クレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、分解組立される建設機械が賃料適用及び損料適用にかかわらず適用出来る。
2. 本コードは、分解組立用クレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務調整係数も入力すること。
3. J 2 条件で⑥, ⑦, ⑧, ⑨を選択した場合、中間ブームの有無にかかわらず適用出来る。
4. J 2 条件で⑱を選択した場合、オールケーシング掘削機(据置式)の分解組立用クレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型60～65t吊)と本体工事で使用するクローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型60～65t吊)は兼用するものとし、分解組立費を1回計上すること。
5. J 2 条件で⑱を選択した場合、J 3 条件は入力する必要はない。

2-3 準備費

(1) 準備費の積算

準備費として積算する内容は次のとおりとする。

1) 準備及び後片付けに要する費用

- イ 着手時の準備費用
- ロ 施工期間中における準備、後片付け費用
- ハ 完成時の後片付け費用

2) 調査・測量、丁張等に要する費用

- イ 工事着手前の基準測量等の費用
- ロ 縦、横断面図の照査等の費用
- ハ 用地幅杭等の仮移設等の費用
- ニ 丁張の設置等の費用

3) 準備として行うブルドーザ、レーキドーザ、バックホウ等による雑木や小さな樹木、竹などを除去する伐開、除根、除草、整地、段切り、すりつけ等に要する費用（伐開、除根及び除草は、現場内の集積・積込み作業を含む。樹木をチェーンソー等により切り倒す伐採作業は含まない。）

4) 1)から3)に掲げるもののほか、伐開、除根、除草等に伴い発生する建設副産物等を工事現場外に搬出する費用、及び当該建設副産物等の処理費用等、工事の施工上必要な準備に要する費用。

5) 準備に伴い発生する交通誘導警備員の費用については、直接工事費に積上げ計上する。

(2) 積算方法

準備費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は、前記(1)の 1), 2), 3)とし、積上げ計上する項目は前記(1)の 4)に要する費用とし、現場条件を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

(3) 施工単価入力基準表

① 準備費（運搬費用積上げ分）

施工歩掛コード	WB010160	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
区 分	J 1		
準 備 費	運搬費用（千円）		

（注） 運搬費用は、工事現場から処分場までの往復の費用を計上する。

② 準備費（処分費用積上げ分）

施工歩掛コード	WB010170	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
区 分	J 1		
準 備 費	処分費用（千円）		

（注） 1. 処分費用は、管理費区分「T」を設定している。

2. 処分費用は、処分場での費用を計上する。

2-4 事業損失防止施設費

(1) 事業損失防止施設費の積算

事業損失防止施設費として積算する内容は次のとおりとする。

- 1) 工事施工に伴って発生する騒音，振動，地盤沈下，地下水の断絶等に起因する事業損失を未然に防止するための仮施設の設置費，撤去費，及び当該仮施設の維持管理等に要する費用
- 2) 事業損失を未然に防止するために必要な調査等に要する費用

(2) 積算方法

事業損失防止施設費の積算は，現場条件を適確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

(3) 施工単価入力基準表

① 事業損失防止施設費

施工歩掛コード	WB010180	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
区 分	J 1		
事業損失防止施設費	調査費用（千円）		

② 家屋調査費

施工歩掛コード	WB010190	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
区 分	J 1		
家屋調査費	調査費用（千円）		

③ 地下水観測

施工歩掛コード	WB010200	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
区 分	J 1		
地下水観測	調査費用（千円）		

2-5 安全費

(1) 安全費の積算

安全費として積算する内容は次のとおりとする。

- 1) 安全施設等に要する費用
- 2) 安全管理等に要する費用
- 3) 1)～2)に掲げるもののほか、工事施工上必要な安全対策等に要する費用

(2) 積算方法

安全費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は、下記の項目とする。

- ① 工事地域内全般の安全管理上の監視、あるいは連絡等に要する費用
- ② 不稼働日の保安要員等の費用
- ③ 標識板、標識、保安燈、防護柵、バリケード、架空線等事故防止対策簡易ゲート、照明等の安全施設類の設置、撤去、補修に要する費用及び使用期間中の損料
- ④ 夜間工事その他、照明が必要な作業を行う場合における照明に要する費用（大規模な照明設備を必要とする広範な工事（ダム・トンネル本体工事）は除く）
- ⑤ 河川、海岸工事における救命艇に要する費用
- ⑥ 長大トンネルにおける防火安全対策に要する費用（工事用連絡設備含む）
- ⑦ 酸素欠乏症の予防に要する費用
- ⑧ 粉塵作業の予防に要する費用（ただし、「ずい道等建設工事における粉塵対策に関するガイドライン」によるトンネル工事の粉塵発生源に係る措置の各設備は、仮設工に計上する。）
- ⑨ 安全用品等の費用
- ⑩ 安全委員会等に要する費用

上記以外で積上げ計上する項目は、次の各項に要する費用とする。

- ① 鉄道、空港関係施設等に近接した工事現場における出入口等に配置する安全管理員等に要する費用
- ② バリケード、転落防止柵、工事標識、照明等の現場環境改善に要する費用（積算方法は、第9章「土木請負工事における現場環境改善費の積算」による）
- ③ 高圧作業の予防に要する費用
- ④ 河川及び海岸の工事区域に隣接して、航路がある場合の安全標識・警戒船運転に要する費用
- ⑤ ダム工事における岩石掘削時に必要な発破・監視のための費用
- ⑥ トンネル工事における呼吸用保護具（電動ファン付粉塵用呼吸用保護具等）に要する費用
- ⑦ その他、現場条件等により積み上げを要する費用

1) 呼吸用保護具の積算

トンネル建設工事における掘削及び支保工に使用する呼吸用保護具（電動ファン付粉塵用保護具等）の費用として、1工事当り次式「呼吸用保護具等費用」を別途計上するものとする。

$$\text{呼吸用保護具等費用} = 1,370,000 + \text{総労務費} \times 0.7\% \text{ (円)}$$

なお、総労務費とは、1工事当りのトンネル世話役、トンネル特殊工、トンネル作業員の労務費合計額とする。

(3) 施工単価入力基準表

呼吸用保護具等費用

施工歩掛コード	WB010310	施工単位	式

2-6 役務費

(1) 役務費の積算

役務費として積算する内容は次のとおりとする。

- 1) 土地の借上げ等に要する費用
- 2) 電力、用水等の基本料
- 3) 電力設備用工事負担金

(2) 役務費の積算

役務費の積算は、現場条件を的確に把握し、必要額を適正に積み上げるものとする。

1) 借地料

土地の借上げを必要とする場合に計上するものとし、借地単価は次式により算定する。

(イ) 宅地・宅地見込地及び農地 $A = B \times 0.06 \div 12$

(ロ) 林地及びその他の土地 $A = B \times 0.05 \div 12$

A：借地単価（円／㎡／月） B：土地価格（円／㎡）

※上記算定式は、国土交通省の公共用地の取得に伴う損失補償基準第25条、同運用に係わる場合に適用する。

2) 電力基本料金

料金は、負荷設備、使用条件に応じて異なるため、個々に電力会社の「電気供給規程」により積算する。

3) 電力設備用工事負担金

電力設備用工事負担金とは、臨時電力（1年未満の契約の契約期間の場合に適用）の臨時工事費及び高圧電力甲等（1年以上の契約期間で1年間までは負荷を増減しない場合に適用）の、工事費負担金を総称するものである。

工事費負担金は、使用する設備容量、電気供給契約種別、電力会社が施設する配電線路の延長等によって異なるので設備容量、使用期間、使用場所等を定めて負担金を計上する。

(3) 施工単価入力基準表

① 借地料（一式入力）

施工歩掛コード	WB010220	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
工 種 区 分	J 1		
借 地 料	借地料（千円単位）		

② 借地料（㎡入力）

施工歩掛コード	WB010230	施 工 単 位	㎡
施 工 区 分	入 力 条 件		
工 種 区 分	J 1		
借 地 料	借地料単価（円／㎡）		

③ 電力基本料金

施工歩掛コード	WB010240	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
工 種 区 分	J 1		
電力基本料金	電力基本料金（千円単位）		

④ 用水基本料金

施工歩掛コード	WB010250	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
工 種 区 分	J 1		
用水基本料金	用水基本料金（千円単位）		

⑤ 電力設備用工事負担金

施工歩掛コード	WB010260	施 工 単 位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
工 種 区 分	J 1		
電力設備用工事負担金	電力設備用工事負担金（千円単位）		

2-7 技術管理費

(1) 技術管理費の積算

技術管理費として積算する内容は次のとおりとする。

- 1) 品質管理のための試験等に要する費用
- 2) 出来形管理のための測量等に要する費用
- 3) 工程管理のための資料の作成等に要する費用
- 4) 1)～3)に掲げるもののほか、技術管理上必要な資料の作成に要する費用

(2) 積算方法

技術管理費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は、前記(1)の 1), 2), 3)のうち下記項目とする。

- ① 品質管理基準に記載されている試験項目(必須・その他)に要する費用
- ② 出来形管理のための測量、図面作成、写真管理に要する費用
- ③ 工程管理のための資料の作成等に要する費用
- ④ 完成図、マイクロフィルムの作成及び電子納品等(道路工事完成図等作成要領に基づく電子納品を除く)に要する費用
- ⑤ 建設材料の品質記録保存に要する費用
- ⑥ コンクリート中の塩化物総量規制に伴う試験に要する費用
- ⑦ コンクリートの単位水量測定、ひび割れ調査、テストハンマーによる強度推定調査に要する費用
- ⑧ 非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定に要する費用
- ⑨ 微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定に要する費用
- ⑩ PC上部工、アンカー工等の緊張管理、グラウト配合試験等に要する費用
- ⑪ トンネル工(NATM)の計測Aに要する費用
- ⑫ 塗装膜厚施工管理に要する費用
- ⑬ 溶接工の品質管理のための試験等に要する費用(現場溶接部の検査費用を含む)
- ⑭ 施工管理で使用するOA機器の費用(情報共有システムに係る費用(登録料及び利用料)を含む)
- ⑮ 品質証明に係る費用(品質証明費)
- ⑯ 建設発生土情報交換システム及び建設副産物情報交換システムの操作に要する費用

上記以外で積上げる項目は、次の各項に要する費用とする。

(イ) 特殊な品質管理に要する費用

- ・土質等試験：品質管理基準に記載されている項目以外の試験
- ・地質調査：平板載荷試験、ボーリング、サウンディング、その他原位置試験

(ロ) 現場条件等により積上げを要する費用

- ・軟弱地盤等における計器の設置・撤去及び測定・とりまとめに要する費用
- ・試験盛土等の工事に要する費用、トンネル(NATM)の計測Bに要する費用
- ・下水道工事において目視による出来形の確認が困難な場合に用いる特別な機器に要する費用
- ・施工前に既設構造物の配筋状況の確認を目的とした特別な機器(鉄筋探査等)を用いた調査に要する費用

(ハ) 施工合理化調査、施工形態動向調査及び諸経費動向調査に要する費用

- ・調査に要する費用とし、その費用については、間接工事費、一般管理費等の対象とする。

(ニ) ICT建設機械に要する以下の費用

- ・保守点検
- ・システム初期費
- ・3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

(ホ) その他、前記イ、ロ、ハ、ニに含まれない項目で、特に技術的判断に必要な資料の作成に要する費用

2-8 営繕費

(1) 営繕費として積算する内容は次のとおりとする。

- 1) 現場事務所、試験室等の営繕（設置・撤去、維持・修繕）に要する費用
- 2) 労働者宿舍の営繕（設置・撤去、維持・修繕）に要する費用
- 3) 倉庫及び材料保管場の営繕（設置・撤去、維持・修繕）に要する費用
- 4) 労働者の輸送に要する費用
- 5) 上記1), 2), 3)に係る土地・建物の借上げに要する費用
- 6) 監督員詰所及び火薬庫の営繕（設置・撤去、維持・補修）に要する費用
- 7) 1)～6)に掲げるもののほか工事施工上必要な営繕等に要する費用

(2) 積算方法

営繕費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分は、前記(1)の1), 2), 3), 4), 5)及び6)の内以下の項目とする。

・コンクリートダム、フィルダム工事では、監督員詰所及び火薬庫等の設置・撤去、維持・補修に要する費用を含む。

上記以外で積上げする項目は、次の各項に要する費用とする。

1) 監督員詰所及び火薬庫等の営繕に要する費用

監督員詰所及び火薬庫等の設置は工事期間、工事場所、施工時期、工事規模、監督体制等を考慮して必要な費用を積上げるものとする。

イ. 監督員詰所

- ・設置撤去する場合 $E_k = A(500 \cdot M + 14,150) + t \cdot M$
- ・設置のみの場合 $E_k = A(500 \cdot M + 10,600) + t \cdot M$
- ・撤去のみの場合 $E_k = A(500 \cdot M + 3,550) + t \cdot M$
- ・損料のみの場合 $E_k = A(500 \cdot M) + t \cdot M$

ただし、 E_k ：監督員詰所に係る営繕費

(E_k には、建物の設置・撤去・損料に要する費用、電気・水道・ガス設備の設置・撤去に要する費用、下記 t の費用が含まれる。)

A ：建物面積 (m^2)

(建物面積は人員2名までは25 m^2 を標準とする。ただし、現場条件及び夜間作業を伴い宿泊施設を要する場合等により、詰所の規模は別途考慮することが出来る。)

M ：月数(必要日数を30日で除し、小数第2位を四捨五入し、小数1位止めとする。)

t ：次の項目に要する費用

a. 備品(机、いす、黒板、温度計、書箱、時計、エアコン、消火器、湯沸器、ロッカー、応接セット)に要する費用

備品は損料として13,800円/月を計上する。

b. その他、現場条件等により積上げを要する費用。

(注) 1. 備品及び車庫を計上する場合は、特約事項又は特記仕様書に明示するものとする。

2. 上記の E_k については、電気、水道、ガスに係る基本料及び使用料は含まれていない。

3. 電気、水道、ガスに係る既設の供給管(線)と監督員詰所が離れている場合は、別途考慮することが出来る。

4. 監督員詰所の設置にあたり土地等の借上げが必要な場合は、別途考慮することが出来る。

ロ. 火薬庫類

(イ) 火薬庫類の計上区分

(a) 大規模工事（1工事の火薬使用量が、20 t 以上の工事）

表2.1 火薬庫類等の計上区分及び規格

火 薬 庫 類 等	規 格
火 薬 庫	2級火薬庫 鋼製移動式 2 t 庫 5.0 m ²
火 工 品 庫	鋼製移動式 1 t 3.2 m ²
取 扱 所	鋼製移動式 3.2 m ²
火 工 所	組立テント式 1.9 m ²

(注) 各都道府県等の条例、現場条件等により現場に火薬庫を設置することが不適当と判断される場合は小規模工事に準ずる。

(b)小規模工事（大規模以外の工事）

表2.2 火薬庫類等の計上区分及び規格

火 薬 庫 類 等	規 格	適 用
取 扱 所	鋼製移動式 3.2 m ²	1日の使用量が 25kg 以下の場合は計上しない。
火 工 所	組立テント式 1.9 m ²	

(注) 交通不便な箇所において火薬庫を設置して火薬類を保管する必要があると判断される場合、又は各都道府県等で条例、その他別途定められている場合においては必要に応じて火薬庫を計上するものとする。

(ロ) 火薬庫類の営繕損料

表2.3 1現場当り火薬庫類損料

火 薬 庫 類 等	規 格	損料（2年以下一律）(円)
火 薬 庫	2級火薬庫 鋼製移動式 2 t 庫 5.0 m ²	620,000
火 工 品 庫	鋼製移動式 1 t 3.2 m ²	523,000
取 扱 所	鋼製移動式 3.2 m ²	459,000
火 工 所	組立テント式 1.9 m ²	54,000

- (注) 1. 1現場当りの使用期間が2年を超える場合は下記のとおりとする。
- a. 2～4年の場合は、上表損料の40%増とする。
 - b. 4年を超える場合は、火薬庫類の耐用年数を考慮して別途積算する。
2. 火薬庫類損料には、火薬庫類の設置・撤去、立入防止柵、警報装置等の費用を含む。

(ハ) 保安全管理費

火薬庫、火工品庫を設置する工事にあたっては、火薬類盗難防止の万全を期するため、必要に応じて夜間巡回等の見張人を安全費に計上するものとする。ただし、上記の場合は特記仕様書にその旨を記載するものとし、次式により算定する。

保安全管理費＝火薬庫類設置期間（月）×30日／月×普通作業員単価（昼間単価）

(注) 火薬庫類設置期間は火薬を使用する工種の設計工程から求めるものとし、0.5 ヶ月単位（2捨3入）とする。

(ニ) 火薬庫類の設置にあたり土地の借上げが必要な場合は別途計上することが出来る。

- 2) 現場事務所、監督員詰所等の美装化、シャワーの設置、トイレの水洗化等に要する費用とし、積算方法は第9章「土木請負工事における現場環境改善費の積算」による。
- 3) その他、現場条件等により積上げを要する費用。

(3) 除雪工事で営繕費の補正を行う場合の共通仮設費率の補正

1) 除雪工事で現場事務所、労働者宿舎、倉庫を貸与する場合の共通仮設費率の補正について

積算基準において、共通仮設費率に含まれる営繕費の項目は、「2-8 営繕費(2) 積算方法」のとおりであるが、除雪工事においては、現場事務所、労働者宿舎、倉庫を貸与する場合がある。そのため、共通仮設費率に対して現場事務所、労働者宿舎、倉庫の設置・撤去・維持・補修の割引補正を行う必要がある。

2) 除雪工事において現場事務所、労働者宿舎、倉庫を貸与する場合の共通仮設費の算定方法

イ) 施工地域を考慮した補正係数を適用する場合

共通仮設費 (率分)

$$= \text{対象額 (P)} \times (\text{除雪工事補正共通仮設費率} + \text{施工地域補正後の共通仮設費率} - \text{共通仮設費率})$$

- ・ 対象額 (P) : 直接工事費 + (支給品費 + 無償貸付機械等評価額) + 事業損失防止施設費 + 準備費に含まれる処分費
- ・ 除雪工事補正共通仮設費率 : 共通仮設費率 (K r) × 除雪工事補正係数 (S r) (%)
- ・ 除雪工事補正係数 (S r) : 現場事務所等を貸与する場合の割引補正係数
- ・ 施工地域補正後の共通仮設費率 : 共通仮設費率 (K r) × 施工地域補正係数 (%)
- ・ 施工地域補正係数 : (2-1 共通仮設費の率分(2) 共通仮設費の補正) の施工地域を考慮した補正係数による

市街地補正係数の適用については、「2-1 共通仮設費の率分(2) 共通仮設費の補正 1) 施工地域を考慮した共通仮設費率の及び計算」を参照のこと。

なお、除雪工事補正共通仮設費率及び施工地域補正共通仮設費率の値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

表3.1 除雪工事補正係数 (S r)

区 分	補 正 係 数
宿 舎 の み 使 用 の 場 合	0.95
事 務 所 の み	〃
倉 庫 の み	〃
宿 舎 と 事 務 所 を	0.90
宿 舎 と 倉 庫 を	〃
事 務 所 と 倉 庫 を	〃
宿 舎 , 事 務 所 , 倉 庫 を	0.85

(4) 施工単価入力基準表

① 監督員詰所

施工歩掛コード	WB010270	施 工 単 位	式	
施 工 区 分		人 力 条 件		
設 置 形 態	規 格 番 号	J 1	J 2	J 3
設置撤去する場合	01	詰所設置月数 (月)	建 物 面 積 (m ²)	備品の有無 有…〔0〕 無…〔1〕
設置のみの場合	02			
撤去のみの場合	03			
損料のみの場合	04			

(注) 設置月数は、小数第2位四捨五入し、小数1位止めとする。

② 火薬庫類損料

施工歩掛コード	WB010280	施 工 単 位	式	
施 工 区 分				
工 事 規 模	期 間	1 日 当 り 火 薬 使 用 量	規 格 番 号	
大 規 模 工 事	2 年 まで	—	01	
	2 ～ 4 年		02	
小 規 模 工 事	2 年 まで	25kg／日を超える場合	03	
	2 ～ 4 年		04	
	2 年 まで	25kg／日以下	05	
	2 ～ 4 年		06	

(注) 各都道府県等の条例、現場条件等により現場に火薬庫を設置することが不相当と判断される場合は小規模工事に準ずる。

③ 保安管理費

施工歩掛コード	WB010290	施 工 単 位	式	
施 工 区 分	入力条件			
工 種 区 分	J 1			
保 安 管 理 費	火薬庫類設置 期 間 (月)			

(注) 設置期間 (月) は 0.5 ヶ月単位 (2 捨 3 入) とする

3. 現場管理費

(1) 現場管理費の項目及び内容

1) 労務管理費

現場労働者に係る次の費用とする。

イ. 募集及び解散に要する費用（赴任旅費及び解散手当を含む。）

ロ. 慰安、娯楽及び厚生に要する費用

ハ. 直接工事費及び共通仮設費に含まれない作業用具及び作業用被服の費用

ニ. 賃金以外の食事、通勤等に要する費用

ホ. 労災保険法等による給付以外に災害時には事業主が負担する費用

2) 安全訓練等に要する費用

現場労働者の安全・衛生に要する費用及び研修訓練等に要する費用

3) 租税公課

固定資産税、自動車税、軽自動車税等の租税公課。ただし、機械経費の機械器具等損料に計上された租税公課は除く。

4) 保険料

自動車保険（機械器具等損料に計上された保険料は除く。）工事保険、組立保険、法定外の労災保険、火災保険、その他の損害保険の保険料

5) 従業員給料手当

現場従業員の給料、諸手当（危険手当、通勤手当、火薬手当等）及び賞与

ただし、本店及び支店で経理される派遣会社役員等の報酬及び運転者、世話役等で純工事費に含まれる現場従業員の給料等は除く。

6) 退職金

現場従業員に係る退職金及び退職給与引当金繰入額

7) 法定福利費

現場従業員及び現場労働者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料及び厚生年金保険料の法定の事業主負担額並びに建設業退職金共済制度に基づく事業主負担額

8) 福利厚生費

現場従業員に係る慰安娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等福利厚生、文化活動等に要する費用

9) 事務用品費

事務用消耗品、新聞、参考図書等の購入費

10) 通信交通費

通信費、交通費及び旅費

11) 交際費

現場への来客等の応対に要する費用

12) 補償費

工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修費及び騒音、振動、濁水、交通騒音等による事業損失に係る補償費

ただし、臨時にして巨額なものは除く。

13) 外注経費

工事施工を専門工事業者等に外注する場合に必要な経費

14) 工事登録等に要する費用

工事実績等の登録に要する費用

15) 動力・用水光熱費

現場事務所、試験室、労働者宿舍、倉庫及び材料保管庫で使用する電力、用水、ガス等の費用（基本料金を含む。）

16) 雑費

1) から 15) までに属さない諸費用

(2) 現場管理費の算定

- 1) 現場管理費は別表第2(第1表～第5表)の工種区分に従って純工事費ごとに求めた現場管理費率を、当該純工事費に乗じて得た額の範囲内とする。

なお、現場管理費の算定上、対象とする純工事費については、「2. 共通仮設費(2)算定方法 1)率計算による部分の(二)」及び「2. 共通仮設費(2)算定方法 5)間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

- 2) 2種以上の工種からなる工事については、その主たる工種の現場管理費率を適用するものとし、また、工事条件によっては、工事名にとらわれることなく工種を選定するものとする。

- 3) 設計変更で数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。

(3) 現場管理費率の補正

- 1) 施工時期、工事期間等を考慮した現場管理費率の補正

施工時期、工事期間等を考慮して、別表第2の工種別現場管理費率を2%の範囲内で適切に加算することが出来る。ただし、重複する場合は、最高2%とする。

- イ) 積雪寒冷地域で施工時期が冬期となる場合

- a. 積雪寒冷地域の範囲……国家公務員の寒冷地手当に関する法律に規定される寒冷地手当を支給する地域とする。

ただし、コンクリートダム、フィルダムの現場管理費率を適用する工事には適用しない。

- b. 積雪寒冷地の施工期間を次のとおりとする。

施工時期	適用地域	備 考
11月1日～3月31日	北海道、青森県、秋田県	積雪地特性を11月中の降雪が5日以上あることとした。
12月1日～3月31日	上記以外の地域	

- c. 工場製作工事及び冬期条件下で施工することが前提となっている除排雪工事等は適用しない。

- d. 現場管理費率の補正率は次によるものとする。

補正值(%) = 冬期率 × 補正係数

冬期率 = 12月1日～3月31日(11月1日～3月31日)までの工事期間 / 工期

ただし、工期については実際に工事を施工するために要する期間で、準備期間と後片付け期間を含めた期間とする。また、冬期工事期間に準備又は後片付けが掛かる場合は、準備期間と後片付け期間を含めた期間とする。

補正係数

積雪寒冷地域の区分	補正係数
1 級 地	1.80
2 "	1.60
3 "	1.40
4 "	1.20

(注) 1. 冬期率は小数点以下3位を四捨五入して2位止めとする。

2. 補正值は小数点以下3位を四捨五入して2位止めとする。

3. 施工地域が2つ以上となる場合には、補正係数の大きい方を適用する。

ロ) 緊急工事の場合

緊急工事は 2.0%の補正値を加算するものとする。緊急工事とは、昼夜間連続作業が前提となる工事で直轄河川災害復旧事業等事務取扱要綱第9条に示す緊急復旧事業及び直轄道路災害復旧事業事務取扱要綱第10条に示す緊急復旧事業並びにこれと同等の緊急を要する事業とする。

2) 施工地域を考慮した現場管理費率の補正及び計算

イ) 表-3の適用条件に該当する場合、別表第2(第1表～第4表)の現場管理費率に下表の補正係数を乗じるものとする。

表-3 地域補正の適用

適用条件			補正係数	適用優先
施工地域区分	工種区分	対象		
大都市(1),(2)	鋼橋架設工事	札幌市, 仙台市, さいたま市, 川口市, 草加市, 千葉市, 市川市, 船橋市, 習志野市, 浦安市, 東京特別区, 八王子市, 横浜市, 川崎市, 相模原市, 新潟市, 静岡市, 名古屋市, 京都市, 大阪市, 堺市, 神戸市, 尼崎市, 西宮市, 芦屋市, 広島市, 北九州市, 福岡市の市街地部が施工箇所に含まれる場合。	1.2	1
	舗装工事			
	電線共同溝工事			
	道路維持工事			
市街地(DID補正)(1)	鋼橋架設工事	大都市(1),(2)の対象以外の市街地部が施工箇所に含まれる場合。	1.1	2
	電線共同溝工事			
	道路維持工事			
	舗装工事			
	橋梁保全工事			
一般交通影響有り(1)	全ての工種(※)	2車線以上(片側1車線以上)かつ交通量が5,000台/日以上以上の車道において規制を行う場合。ただし、常時全面通行止めの場合は対象外とする。	1.1	3
一般交通影響有り(2)	全ての工種(※)	一般交通影響有り(1)以外の車道において、規制を伴う場合。(常時全面通行止めの場合を含む。)	1.1	4
市街地(DID補正)(2)	市街地(DID補正)(1)以外(※)	市街地(DID補正)(1)で適用となる工種区分以外で、市街地部が施工箇所に含まれる場合。	1.1	5
山間僻地及び離島	全ての工種(※)	人事院規則における特地勤務手当を支給するために指定した地区、及びこれに準ずる地区の場合。	1.0	6

※コンクリートダム及びフィルダム工事は適用しない。

(注) 1. 市街地とは、施工地域が人口集中地区(DID地区)及びこれに準ずる地区をいう。

なお、DID地区とは、総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4,000人/km²以上でその全体が5,000人以上となっている地域をいう。

2. 適用条件の複数に該当する場合は、適用優先によるが、共通仮設費で決定した施工地域区分と同じものを適用すること。

3) その他

設計変更時における現場管理費率の補正については、工事区間の延長、工期の延長短縮等により当初計上した補正値に増減が生じた場合、あるいは当初計上していなかったが、上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

(4) 支給品の取扱い

- 1) 資材等を支給するときは、当該支給品費を純工事費に加算した額を現場管理費算定の対象となる純工事費とする。

(5) 現場管理費の積算において支給品、貸付機械がある場合は、次により積算する。

- 1) 別途製作工事で製作し、架設(据付)のみを分離して発注する場合は、当該製作費は積算の対象とする純工事費には含めない。
- 2) 当初の支給品の価格決定については、官側において購入した資材を支給する場合、現場発生資材を官側において保管し再使用品として支給する場合とも、入札時における市場価格又は類似品価格とする。
- 3) コンクリートダム工事、フィルダム工事については、無償貸付機械等評価額及び支給電力料(基本料金含む)は、積算の対象となる純工事費には含めない。

(6) 「処分費等」の取扱い

「処分費等」とは、下記のものとし、「処分費等」を含む工事の積算は、当該処分費等を直接工事費に計上し、間接工事費等の積算は、表のとおりとする。

- 1) 処分費(再資源化施設の受入費を含む)
- 2) 上下水道料金
- 3) 有料道路利用料

区 分	処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の3%以下でかつ処分費等が3千万円以下の場合	処分費等が「共通仮設費対象額(P)」の3%を超える場合又は処分費等が3千万円を超える場合
共 通 仮 設 費	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。
現 場 管 理 費	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。
一 般 管 理 費 等	処分費等は全額を率計算の対象とする。	処分費等は「共通仮設費対象額(P)」の3%の金額を率計算の対象とし、3%を超える金額は率計算の対象としない。 ただし、対象とする金額は3千万円を上限とする。

(注) 1. 上表の処分費等は、準備費に含まれる処分費を含む。

なお、準備費に含まれる処分費は伐開、除根等に伴うものである。

2. 処分費を計上する場合は、「第Ⅰ編第2章②間接工事費 2. 共通仮設費 2-3 準備費」及び「第Ⅰ編第12章①材料単価入力基準表」により単価登録すること。

3. 上表により難しい場合は別途考慮するものとする。

(7) 現場管理費の計算

- 1) 施工時期、工事期間、施工地域を考慮した計算

現場管理費＝対象純工事費×{(現場管理費率×補正係数)+補正值}

対象純工事費：純工事費+支給品費+無償貸付機械等評価額

ただし、現場管理費率は、別表第2(第1表～第4表)による。

補正係数は、(3)2) 施工地域を考慮した現場管理費率の補正による。

補正值は、(3)1) 施工時期、工事期間等を考慮した現場管理費率の補正による。

なお、補正係数を乗じる場合は、現場管理費率J oの端数処理後に係数を乗じて、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

別表第2

現場管理費率

第1表

工種区分	対象額	700万円 以 下	700万円を超え10億円 以 下		10億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。 ただし、変数値は下記による。		下記の 率 とする
			A	b	
河 川 工 事		42.02	1,169.0	－0.2110	14.75
河川・道路構造物工事		41.29	420.8	－0.1473	19.88
海 岸 工 事		26.90	104.0	－0.0858	17.57
道 路 改 良 工 事		32.73	80.0	－0.0567	24.71
鋼 橋 架 設 工 事		46.66	276.1	－0.1128	26.66
P C 橋 工 事		30.09	113.1	－0.0840	19.84
舗 装 工 事		39.39	622.2	－0.1751	16.52
砂防・地すべり等工事		44.58	1,281.7	－0.2131	15.48
公 園 工 事		41.68	366.3	－0.1379	21.03
電 線 共 同 溝 工 事		58.82	2,235.6	－0.2308	18.72
情 報 ボ ッ ク ス 工 事		52.66	1,570.0	－0.2154	18.08

(注) 基礎地盤から堤頂までの高さが20m以上の砂防堰堤は、砂防・地すべり等工事に2%加算する。

第2表

工種区分	対象額	700万円 以 下	700万円を超え3億円 以 下		3億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。 ただし、変数値は下記による。		下記の 率 とする
			A	b	
橋 梁 保 全 工 事		63.10	1,508.7	－0.2014	29.60

第3表

工種区分	対象額	200万円 以 下	200万円を超え1億円 以 下		1億円を 超えるもの
	適用区分	下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。 ただし、変数値は下記による。		下記の 率 とする
			A	b	
道 路 維 持 工 事		58.61	605.1	－0.1609	31.23
河 川 維 持 工 事		41.28	166.7	－0.0962	28.34

第4表

対象額 適用区分 工種区分		1,000万円 以 下	1,000万円を超え20億円 以 下		20億円を 超えるもの
		下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。 ただし、変数値は下記による。		下記の 率 とする
			A	b	
共 同 溝 等 工 事	(1)	48.95	367.7	－0.1251	25.23
	(2)	37.50	110.6	－0.0671	26.28
ト ン ネ ル 工 事		43.96	203.6	－0.0951	26.56
下 水 道 工 事	(1)	33.46	50.8	－0.0259	29.17
	(2)	36.91	213.5	－0.1089	20.73
	(3)	31.58	48.4	－0.0265	27.44

第5表

対象額 適用区分 工種区分		3 億円 以 下	3 億円を超え50億円 以 下		50億円を 超えるもの
		下記の 率 とする	(2)の算定式により算出された率と する。 ただし、変数値は下記による。		下記の 率 とする
			A	b	
コ ン ク リ ー ト ダ ム		22.60	301.3	－0.1327	15.56
フ ィ ル ダ ム		33.08	166.5	－0.0828	26.20

(2) 算定式

$$J_o = A \cdot Np^b \quad \text{ただし、} J_o : \text{現場管理費率} (\%)$$

Np : 純工事費 (円)

A, b : 変数値

(注) 1. J_o の値は、小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする

2. 対象とする純工事費については、「2. 共通仮設費 (2) 算定方法 1) 率計算による部分 の (ニ)」
及び「2. 共通仮設費 (2) 算定方法 5) 間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

③ 現場発生品及び支給品運搬

1. 適用範囲

本資料は、現場発生品・支給品運搬に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) 防護柵、コンクリート二次製品等の現場発生品又は支給品の積込み、荷卸し及び指定箇所までの運搬

1-2 適用出来ない範囲は、以下のいずれかの条件に該当する場合

- (1) 4t 積車を超える車種を使用する場合
- (2) 現場発生品又は支給品以外の積込み、運搬
- (3) 自動車専用道路を利用する場合

2. 施工パッケージ

2-1 現場発生品・支給品運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 現場発生品・支給品運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：回)

トラック機種	片道運搬距離	1回当たり平均積載質量
クレーン装置付 ベーストラック 2t 級, 吊能力 2t (参考) 荷台長 L=3.0m 荷台幅 W=1.6m	(表 2.2)	0.1t 以下
		0.1t 超 0.2t 以下
		0.2t 超 0.3t 以下
		0.3t 超 0.5t 以下
		0.5t 超 0.8t 以下
		0.8t 超 1.1t 以下
		1.1t 超 1.5t 以下
		1.5t 超 2.0t 以下
クレーン装置付 ベーストラック 4t 級, 吊能力 2.9t (参考) 荷台長 L=3.4m 荷台幅 W=2.0m	(表 2.2)	0.1t 以下
		0.1t 超 0.2t 以下
		0.2t 超 0.3t 以下
		0.3t 超 0.5t 以下
		0.5t 超 0.8t 以下
		0.8t 超 1.1t 以下
		1.1t 超 1.5t 以下
		1.5t 超 2.0t 以下
		2.0t 超 2.6t 以下
		2.6t 超 2.95t 以下

(注) 1. 上表は、構造物等撤去に伴う現場発生材や防護柵、コンクリート二次製品等の現場発生品又は支給品の積込み、指定箇所までの運搬、取卸し等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 運搬費は発生（又は支給）する工種毎に直接工事費として計上する。

表2.2 片道運搬距離

積算条件	区 分
片道運搬距離	2.0km 以下
	5.0km 以下
	9.0km 以下
	14.0km 以下
	20.0km 以下
	27.0km 以下
	35.0km 以下
	46.0km 以下
	60.0km 以下

(注) 運搬距離が 60km を超える場合は別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 現場発生品・支給品運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	トラック [クレーン装置付] ベーストラック 2t 級 吊能力 2.0t	
		トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4t 級 吊能力 2.9t	
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	運転手 (特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	-	
	R 4	-	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	-	
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3. 施工単価入力基準表

(1) 現場発生品・支給品運搬

パッケージコード	CB010410	施 工 単 位	回
施 工 区 分	人 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	トラック機種 ①クレーン装置付バーストラック 2t 級、 吊能力 2t (参考)荷台長 L=3.0m 荷台幅 W=1.6m ②クレーン装置付バーストラック 4t 級、 吊能力 2.9t (参考)荷台長 L=3.4m 荷台幅 W=2.0m	片道運搬距離 (km) (表 3. 1)	1 回当たり平均積載質量 (t) (表 3. 2)

(注) J 1 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で⑨～⑩を選択することが出来ない。

表3. 1 片道運搬距離

片道運搬距離	入力番号
2.0km 以下	①
5.0km 以下	②
9.0km 以下	③
14.0km 以下	④
20.0km 以下	⑤
27.0km 以下	⑥
35.0km 以下	⑦
46.0km 以下	⑧
60.0km 以下	⑨

表3. 2 1 回当たり平均積載質量

1回当たり平均積載質量	入力番号
0.1t 以下	①
0.1t 超 0.2t 以下	②
0.2t 超 0.3t 以下	③
0.3t 超 0.5t 以下	④
0.5t 超 0.8t 以下	⑤
0.8t 超 1.1t 以下	⑥
1.1t 超 1.5t 以下	⑦
1.5t 超 2.0t 以下	⑧
2.0t 超 2.6t 以下	⑨
2.6t 超 2.95t 以下	⑩

第3章 一般管理費等及び 消費税等相当額

① 一般管理費等……………	I-3-①- 1	② 消費税等相当額……………	I-3-②- 1
1 一般管理費の項目及び内容……………	I-3-①- 1		
2 付加利益……………	I-3-①- 2		
3 一般管理費等の算定……………	I-3-①- 2		
4 一般管理費等率の補正……………	I-3-①- 2		

第3章 一般管理費等及び消費税等相当額

① 一般管理費等

1 一般管理費の項目及び内容

- (1) 役員報酬
取締役及び監査役に対する報酬及び役員賞与(損金算入分)
- (2) 従業員給料手当
本店及び支店の従業員に対する給料, 諸手当及び賞与
- (3) 退職金
退職給与引当金繰入額並びに退職給与引当金の対象とならない役員及び従業員に対する退職金
- (4) 法定福利費
本店及び支店の従業員に関する労災保険料, 雇用保険料, 健康保険料及び厚生年金保険料の法定の事業主負担額
- (5) 福利厚生費
本店及び支店の従業員に係る慰安娯楽, 貸与被服, 医療, 慶弔見舞等, 福利厚生等, 文化活動等に要する費用
- (6) 修繕維持費
建物, 機械, 装置等の修繕維持費, 倉庫物品の管理費等
- (7) 事務用品費
事務用消耗品費, 固定資産に計上しない事務用備品費, 新聞, 参考図書等の購入費
- (8) 通信交通費
通信費, 交通費及び旅費
- (9) 動力, 用水光熱費
電力, 水道, ガス, 薪炭等の費用
- (10) 調査研究費
技術研究, 開発等の費用
- (11) 広告宣伝費
広告, 公告, 宣伝に要する費用
- (12) 交際費
本店及び支店などへの来客等の対応に要する費用
- (13) 寄付金
- (14) 地代家賃
事務所, 寮, 社宅等の借地借家料
- (15) 減価償却費
建物, 車両, 機械装置, 事務用備品等の減価償却額
- (16) 試験研究費償却
新製品又は新技術の研究のため特別に支出した費用の償却額
- (17) 開発費償却
新技術又は新経営組織の採用, 資源の開発, 市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額
- (18) 租税公課
不動産取得税, 固定資産税等の租税及び道路占用料, その他の公課
- (19) 保険料
火災保険及びその他の損害保険料
- (20) 契約保証費
契約の保証に必要な費用
- (21) 雑費
電算等経費, 社内打ち合せ等の費用, 学会及び協会活動等諸団体会費等の費用

2 付 加 利 益

- (1) 法人税，都道府県民税，市町村民税等
- (2) 株主配当金
- (3) 役員賞与（損金算入分を除く）
- (4) 内部留保金
- (5) 支払利息及び割引料，支払保証料その他の営業外費用

3 一般管理費等の算定

一般管理費等は，1及び2の額の合計額とし，別表第1の工事原価ごとに求めた一般管理費等率を当該工事原価に乗じて得た額の範囲内とする。

なお，一般管理費等の算定上，対象とする工事原価については，「第2章 ②間接工事費 2. 共通仮設費（2）算定方法 1）率計算による部分の（二）」及び「第2章 ②間接工事費 2. 共通仮設費（2）算定方法 5）間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

4 一般管理費等率の補正

- (1) 前払金の保証がある工事において，以下の事項に該当する場合に補正を行う。
 - 1) 前払金支出割合の相違による取扱い
前払金支出割合が35%以下の場合の一般管理費等率は，別表第2の前払金支出割合区分ごとに定める補正係数を3で算定した一般管理費等率に乗じて得た率とする。
 - 2) 契約の保証に必要な費用の取扱い
前払金支出割合の相違による補正までを行った値に，別表第3の補正值を加算したものを一般管理費等とする。
- (2) 支給品等の取扱い
資材等を支給するときは，当該支給品費は一般管理費等算定の基礎となる工事原価に含めないものとする。
- (3) 自社製品の取扱い（プレテン桁，組立式橋梁，規格ゲート，標識等を製作専門メーカーに発注する場合）について
自社製品であっても，他社製品と同様に一般管理費等の対象とする。

別表第1 一 般 管 理 費 等 率

(1) 前払金支出割合が35%を超え40%以下の場合

工 事 原 価	500万円以下	500万円を超え30億円以下	30億円を超えるもの
一般管理費等率	20.29%	一般管理費等率算定式により算出された率	7.41%

(2) 算定式

[一般管理費等率算定式]

$$G_p = -4.63586 \times \text{LOG}(C_p) + 51.34242 \quad (\%)$$

ただし， G_p ：一般管理費等率（％）

C_p ：工事原価（単位円）

(注) 1. G_p の値は，小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

2. 対象とする工事原価については，「第2章 ②間接工事費 2. 共通仮設費（2）算定方法 1）率計算による部分の（二）」及び「第2章 ②間接工事費 2. 共通仮設費（2）算定方法 5）間接工事費等の項目別対象表」を参照のこと。

別表第2 一 般 管 理 費 等 率 の 補 正

前払金支出割合区分	0%から5%以下	5%を超え15%以下	15%を超え25%以下	25%を超え35%以下
補 正 係 数	1.05	1.04	1.03	1.01

(注) 別表第1で求めた一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は，小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

別表第3 契 約 保 証 に 係 る 一 般 管 理 費 等 率 の 補 正

保 証 の 方 法	補正值(%)
ケース1：発注者が金銭的保証を必要とする場合（工事請負契約書第4条を採用する場合）。	0.04
ケース2：発注者が役務的保証を必要とする場合。	0.09
ケース3：ケース1及び2以外の場合。	補正しない

(注) 1. ケース3の具体例は以下のとおり。

予算決算及び会計令第100条の2第1項第1号の規定により工事請負契約書の作成を省略できる工事請負契約である場合

2. 契約保証費を計上する場合は，原則として当初契約の積算に見込むものとする。

② 消費税等相当額

消費税等相当額の積算は次のとおりとする。

消費税等相当額は、工事価格に消費税及び地方消費税の税率を乗じて得た額とする。

第4章 随意契約方式により 工事を発注する場合 の間接工事費等の調 整及びスライド条項 の減額となる場合の 運用について

① 随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について…………… I -4-①- 1	ド条項）の減額となる場合の運用について…………… I -4-③- 1
1 随意契約方式により工事を発注する場合の調整について…………… I -4-①- 1	1 適用対象工事…………… I -4-③- 1
2 共通仮設費の調整計算の方法…………… I -4-①- 2	2 スライド額の算定…………… I -4-③- 1
3 現場管理費の調整計算の方法…………… I -4-①- 4	3 残工事量の算定…………… I -4-③- 1
4 一般管理費等の調整計算の方法…………… I -4-①- 5	4 物価指数等…………… I -4-③- 2
② 旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について…………… I -4-②- 1	5 変更契約の時期…………… I -4-③- 2
1 現場管理費の調整計算の一般式…………… I -4-②- 1	6 スライド額の説明…………… I -4-③- 2
2 一般管理費等の調整計算の一般式…………… I -4-②- 1	④ 工事請負契約書第 25 条第 5 項（単品スライド条項）の運用について…………… I -4-④- 1
3 設計変更について…………… I -4-②- 1	⑤ 工事請負契約書第 25 条第 5 項（単品スライド条項）の運用の拡充について…………… I -4-④- 1
4 共通仮設費…………… I -4-②- 1	⑥ 請負代金額の減額変更を請求する場合における工事請負契約書第 25 条第 5 項（単品スライド条項）の運用について…………… I -4-④- 1
③ 工事請負契約書第 25 条（スライ	

第4章 随意契約方式により工事を発注する場合の間接工事費等の調整及びスライド条項の減額となる場合の運用について

① 随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の調整について

1 随意契約方式により工事を発注する場合の調整について

随意契約方式により工事を発注する場合の調整については次のとおりとする。

(1) 調整対象となる工事

- 1) 現工事の施工業者と随意契約方式にて発注する工事とする。
- 2) 繰越、国債工事の取扱い

現工事が繰越又は国債で調整対象となる場合は全体工事を対象として調整する。

- (2) 調整の対象となる現工事の設計金額は当該追加工事が発注される時点のものとし、その後現工事の設計金額に設計変更が生じた場合でも調整対象現工事の設計金額の変更は行わない額で調整するものとする。

- (3) 前記(1)に該当する工事のうち次に示す異種の工事の取扱いは下記のとおりとする。

- 1) 異種の工事とは下表のA～Iに区分される工事種別の異なる工事をいう。

工事種別	工事請負有資格業者名簿による種別
A	一般土木工事、法面処理工事、グラウト工事、河川しゅんせつ工事、杭打工事、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事
B	鋼橋上部工事、機械設備工事
C	プレストレスト・コンクリート工事
D	電気設備工事、通信設備工事、受変電設備工事
E	建築工事、木造建築工事、プレハブ工事
F	維持修繕工事、塗装工事
G	造園工事
H	さく井工事
I	暖冷房衛生設備工事

- 2) 積算体系が同一（一般管理費等率が同じもの）の異種の工事は次により調整する。

- (イ) 現場管理費については調整しない。
- (ロ) 一般管理費等については調整する。

- 3) 積算体系が異なる異種の工事は調整しない。

2 共通仮設費の調整計算の方法

(1) 積上げ計算部分

- 1) 運 搬 費
実態に合わせ調整する。
- 2) 事業損失防止施設費
実態に合わせ調整する。
- 3) 安 全 費
実態に合わせ調整する。
- 4) 技術管理費
実態に合わせ調整する。
- 5) 営 繕 費
実態に合わせ調整する。
- 6) その他の共通仮設費
実態に合わせ調整する。

(2) 率計算部分

1) 工種の適用

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は現工事と追加工事の共通仮設費対象額の合計額に対するその主たる工種の共通仮設費率を適用する。

(3) 調整計算の方法（総価契約単価合意方式以外の場合に適用）

現工事と当該追加工事の共通仮設費対象額を合算したもので率を算出し、各々の共通仮設費を求め、現工事の共通仮設費を控除したものの範囲内とする。

調整の一般式は次のとおりとする。

1) 調整の一般式は次のとおりとする。

$$A \leq (D \times \gamma 1) - B \times \gamma 2$$

A：当該追加工事の共通仮設費

B：現工事の共通仮設費対象額

D：合算工事の共通仮設費対象額

$\gamma 1$ ：Dに相当する主たる工種の共通仮設費率

$\gamma 2$ ：Bに相当する現工事の工種の共通仮設費率

ただし、前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし、追加工事に関する共通仮設費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

2) 施工地域を考慮した補正係数が適用されている場合の一般式は次のとおりとする。

なお、除雪工事で現場事務所、労働者宿舍、倉庫を貸与する場合の共通仮設費の調整計算も同様である。

$$A \leq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の共通仮設費

B：現工事の対象額

C：当該追加工事の対象額

D：合算工事の対象額

$\beta 1 = \beta ① \cdot S r ①$ ：Dに相当する主たる工種の補正後の共通仮設費率（％）

なお、補正後の共通仮設費率の値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta ①$ ：Dに相当する主たる工種の補正前の共通仮設費率

ただし、現工事と追加工事の補正係数が異なる場合はBとCの加重平均による補正係数とする。

$$S r ① = \frac{B \times S r ② + C \times S r ③}{B + C}$$

$S r ①$ ：(B+C)に相当する主たる工種の補正係数

$S r ②$ ：Bに相当する現工事の工種の補正係数

$S r ③$ ：Cに相当する当該追加工事の工種の補正係数

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta 2 = \beta ② \cdot S r ②$: Bに相当する現工事の工種の補正後の共通仮設費率 (%)

なお、補正後の共通仮設費率の値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta ②$: Bに相当する現工事の工種の補正前の共通仮設費率

ただし、前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし、追加工事に関する共通仮設費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

(4) 現場環境改善等費 (仮設関係, 安全関係, 営繕関係) (総価契約単価合意方式以外の場合に適用)

1) 積上げ計算部分

実態に合わせ調整する。

2) 調整計算の方法 (率計算部分)

(イ) 現工事及び追加工事とも現場環境改善等費の場合

$$A \leq D \times \gamma 1 - B \times \gamma 2$$

A : 当該追加工事の現場環境改善等費

B : 現工事の対象額

D : 合算工事の対象額

$\gamma 1$: Dに相当する現場環境改善等費率

$\gamma 2$: Bに相当する現工事の現場環境改善等費率

ただし、前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし、追加工事に関する現場環境改善等費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

(ロ) 追加工事のみが現場環境改善等費の対象工事の場合

追加工事の単独計算

3 現場管理費の調整計算の方法

(1) 工種の適用

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は、現工事と当該追加工事の純工事費の合計額に対するその主たる工種（それぞれ純工事費の大きい方の工種）の現場管理費率を適用する。

(2) 調整計算の方法（総価契約単価合意方式以外の場合に適用）

現工事と当該追加工事の純工事費を合算したもので率を算出し、各々の現場管理費を求め、現工事の現場管理費を控除したものの範囲内とする。

1) 調整の一般式は次のとおりとする。

$$A \leq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の純工事費

D：合算工事の対象額

$\beta 1$ ：Dに相当する「主たる工種」の現場管理費率

$\beta 2$ ：Bに相当する現工事の工種の現場管理費率

ただし、前記計算の場合にあって、Aが負数になる場合は零額とみなし、当該追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

2) 補正率が適用されている場合の一般式は次のとおりとする。

(イ) 現工事に補正があり、追加工事に補正がない場合

$$A \leq (D \times \beta 1 + B \times \gamma 1) - B \times (\beta 2 + \gamma 1)$$

$\gamma 1$ ：現工事の現場管理費補正率

(ロ) 現工事に補正がなく、追加工事に補正がある場合

$$A \leq (D \times \beta 1 + C \times \gamma 2) - B \times \beta 2$$

C：当該追加工事の調整後の純工事費

$\gamma 2$ ：当該追加工事の現場管理費補正率

(ハ) 現工事及び当該追加工事に補正がある場合

$$A \leq \{D \times (\beta 1 + \gamma 3)\} - B \times (\beta 2 + \gamma 1)$$

$\gamma 3$ ：Dに相当する現場管理費補正率

B, Cに対する $\gamma 1, \gamma 2$ が各々異なる場合は純工事費による加重平均補正率を $\gamma 3$ とする。

ただし、前記計算の場合にあって、Aが負数になる場合は零額とみなし、当該追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

3) 施工地域を考慮した補正係数が適用されている場合の一般式は次のとおりとする。

$$A \leq (D \times \beta 1 + C \times \delta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の純工事費

C：当該追加工事の調整後の純工事費

D：合算工事の対象額

$\beta 1 = \beta ① \cdot S r ①$ ：Dに相当する主たる工種の補正後の現場管理費率（%）

なお、補正後の現場管理費率の値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta ①$ ：Dに相当する主たる工種の補正前の現場管理費率

ただし、現工事と追加工事の補正係数が異なる場合はBとCの加重平均による補正係数とする。

$$S r ① = \frac{B \times S r ② + C \times S r ③}{B + C}$$

$S r ①$ ：(B+C)に相当する主たる工種の補正係数

$S r ②$ ：Bに相当する現工事の工種の補正係数

$S r ③$ ：Cに相当する当該追加工事の工種の補正係数

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta 2 = \beta ② \cdot S r ②$: Bに相当する現工事の工種の補正後の現場管理費率 (%)

なお, 補正後の現場管理費率の値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$\beta ②$: Bに相当する現工事の工種の補正前の現場管理費率

$\delta 1$: 当該追加工事の現場管理費補正率 (補正率が無い場合は0%とする。)

ただし, 前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし, 追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また, Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

4 一般管理費等の調整計算の方法

(1) 調整計算の方法 (総価契約単価合意方式以外の場合に適用)

現工事と当該追加工事の工事原価を合算したもので率を算出し, 各々の一般管理費を求め, 現工事の一般管理費等を控除したものの範囲内とする。

$$A \leq (D \times \alpha 1 \times \delta 1) - B \times \alpha 2 \times \delta 2 + C \times \beta$$

A : 当該追加工事の一般管理費等

B : 現工事の工事原価 (中止期間中の現場維持等の費用を含む)

C : 当該追加工事の調整後の工事原価

D : 合算工事の工事原価

$\alpha 1$: Dに相当する一般管理費等率

$\alpha 2$: Bに相当する現工事の一般管理費等率

β : 当該追加工事の契約保証に係る一般管理費等の補正值

$\delta 1$: 前払金支出割合による補正係数

現工事と当該追加工事の前払金支出割合が異なる場合は, BとCの加重平均による前払金支出割合から求めた補正係数

$\delta 2$: 現工事の前払金支出割合による補正係数

一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は, 小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

② 旧基準で積算した工事に改正基準で積算した工事を追加する場合等の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について

1 現場管理費の調整計算の一般式

$$A \leq (D \times \beta 1) - B \times \beta 2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の純工事費

D：合算工事の純工事費

$\beta 1$ ：Dに相当する「主たる工種」の改正基準による現場管理費率

$\beta 2$ ：Bに相当する現工事の工種の改正基準による現場管理費率

なお，現場管理費率の補正率もしくは補正係数が適用されている工事においては，「①随意契約方式により工事を発注する場合の共通仮設費，現場管理費及び一般管理費等の調整について 3 現場管理費の調整計算の方法」に準拠して計算するものとする。

2 一般管理費等の調整計算の一般式

$$A \leq (D \times \alpha 1 \times \delta 1) - B \times \alpha 2 \times \delta 2 + C \times \beta$$

A：当該追加工事の一般管理費等

B：現工事の工事原価（中止期間中の現場維持等の費用を含む）

C：当該追加工事の調整後の工事原価

D：合算工事の工事原価

$\alpha 1$ ：Dに相当する改正基準による一般管理費等率

$\alpha 2$ ：Bに相当する改正基準による一般管理費等率

β ：追加工事の契約保証に係る一般管理費等の補正值

$\delta 1$ ：当該追加工事の前払金支出割合による補正係数

$\delta 2$ ：現工事の前払金支出割合による補正係数

一般管理費等率に当該補正係数を乗じて得た率は，小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

3 設計変更について

旧基準により積算した工事の設計変更は，旧基準により積算するものとする。

4 共通仮設費

共通仮設費の積算にあたっては上記現場管理費の取扱いと同様とする。

③ 工事請負契約書第 25 条 (スライド条項) の減額となる場合の運用について

1 適用対象工事

- (1) 物価変動後の発注者の積算を基に計算した請負代金額が、1,000 分の 30 以上変化していると予想されること。
 なお、物価変動後の発注者の積算を基に計算した請負代金額とは、スライド確認時期における適切な工事価格を算出するため、スライド確認時期における諸経費率（共通仮設費率、現場管理費率、一般管理費等率）を用いるものとする。
 また、諸経費率の改正のみによる変動は、スライド変更の根拠とはならない。（諸経費率の改正のみによる変動とは、例えば、直接工事費が増額しているにも関わらず物価変動後の発注者の積算を基に計算した請負代金額が 1,000 分の 30 以上減額となる場合等であり、この場合は減額スライドの対象としない。）
- (2) 物価変動後の積算額が請負代金額以下となっていること。
- (3) 適用対象工事の確認時期は、12 月経過時点、その時点で対象外の場合は、次の 4 月及び 10 月等、労務単価もしくは機械損料改訂時を確認時期とする。
- (4) 残工事の工期がスライド基準日から 2 月以上あること。

2 スライド額の算定

- (1) 請負者と協議するためのスライド額は、次の式により算定する。

$$S = [P_2 - P_1 + (P_1 \times 15 / 1,000)] \quad (\text{ただし, } P_1 > P_2)$$
 S：スライド額
 P₁：請負代金から出来形部分に相応する請負代金を控除した額
 P₂：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した P₁ に相当する額
 $(P = \alpha \times Z, \alpha : \text{落札率}, Z : \text{積算額})$
 なお、P₂ の算定にあたっては、基準日における適切な工事価格を算出するため、基準日における諸経費率を用いるものとする。
- (2) 賃金又は物価の変動による請負代金額を変更する場合のスライド算定額は、労務単価、材料単価、機械器具損料並びにこれらに伴う共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の変更について行われるものであり、歩掛の変更については考慮するものではない。
 また、諸経費率の改正のみによる変動は、スライド変更の根拠とはならない。（諸経費率の改正のみによる変動とは、例えば、直接工事費が増額しているにも関わらずスライド額が 1,000 分の 15 以上減額となる場合等であり、この場合は減額スライドの対象としない。）
- (3) 適用対象工事に該当し、交渉の結果 1,000 分の 15 以上のスライド額となる場合は、1,000 分の 15 を超える額をスライド額とする。

3 残工事量の算定

- (1) 基準日における残工事量を算定するために行う出来形数量の確認は、数量総括表に対応して出来高確認を行うものとする。
- (2) 基準日までに変更契約を行っていないが先行指示されている設計量についても、基準日以降の残工事量についてはスライドの対象とする。
- (3) 現場搬入材料については、認定したものは出来形数量として取り扱う。また、下記の材料等についても出来形数量として取り扱うことができるものとする。
 - 1) 工場製作品については、工場での確認又はミルシート等で在庫確保が証明できる材料は出来形数量として取り扱う。
 - 2) 基準日以前に配置済の現地据付型の建設機械及び仮設材料等（架設用クレーン、仮設鋼材など）も出来形の対象とできる。
 - 3) 契約書にて工事材料契約の完了が確認でき、近隣のストックヤード等で在庫確認が可能な材料は出来形数量として取り扱う。
- (4) 数量総括表で一式明示した仮設工についても出来形数量の対象とできる。
- (5) 出来形数量の計上方法については、甲側に換算数量がない場合は、乙側の当該工種に対する構成比率により出来形数量を算出してもよい。

4 物 価 指 数 等

甲としては、積算に使用する単価を用いた変動率を物価指数とすることを基本とする。なお、乙の協議資料等に基づき双方で合意した場合は別途の物価指数を用いることができる。

5 変更契約の時期

スライドの契約変更は、原則として、その必要が生じた都度遅滞なく行うものとするが、精算変更時点でも行うことができる。

6 スライド額の説明

スライド額の協議時においては、甲は積算に用いた各種単価の変動資料や工事費構成書などを活用して、変更内容の説明を行うものとする。

④ 工事請負契約書第 25 条第5項 (単品スライド条項) の運用について

「工事請負契約書第 25 条第 5 項（単品スライド条項）運用マニュアル」平成 20 年 7 月 神奈川県制定によるものとする。

⑤ 工事請負契約書第 25 条第5項 (単品スライド条項) の運用の拡充について

「工事請負契約における単品スライド条項の運用の拡充について」平成 20 年 9 月 25 日 神奈川県制定によるものとする。

⑥ 請負代金額の減額変更を請求する場合における工事請負契約書第 25 条第5項 (単品スライド条項) の運用について

「工事請負契約書第 25 条第 5 項（単品スライド条項）運用マニュアル」平成 20 年 7 月 神奈川県制定によるものとする。

第5章 数値基準等

- ① 数値基準・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-5-①- 1
- ② 数量総括表への条件明示・・・・・・・・・・・・・Ⅰ-5-②- 1

第5章 数値基準等

① 数 値 基 準

設計書の表示単位及び数値は原則として次のとおりとする。

- (1) 設計表示単位及び数値は、別表に示すとおりとする。
- (2) 設計数量が設計表示数値に満たない場合及び、工事規模、工事内容等により、設計表示数値が不適当と判断される場合は（小規模工事等）有効数値第1位の数量を設計表示数値とする。
- (3) 数値基準以外の項目について、設計表示単位及び数値を定める必要が生じたときは工事規模、工事内容及び数値基準等を勘案して適正に定めるものとする。
- (4) 設計計上数量は、国土交通省制定「土木工事数量算出要領（案）」により算出された数量を、設計表示数値に切り捨てて求めるものとする。
- (5) 設計表示単位及び数値の適用は各細別毎を原則とし、工種・種別は1式を原則とする。
- (6) 契約数量は設計計上数量とする。ただし工事目的物以外で、指定仮設等数量明示が必要な種目以外は1式計上する。
- (7) 設計表示単位及び数値は設計図書に添付するものとする。（土質調査、測量業務関係等は除く）
- (8) 設計表示数値に満たない設計変更は、契約変更の対象としないものとする。
- (9) 単価契約には設計表示単位及び数値は適用しない。

② 数量総括表への条件明示

数量総括表に記載する条件明示内容は原則として次のとおりとする。

- (1) 数量総括表に記載する条件明示は、別表に示すとおりとする。
- (2) 別表記載内容に加え、必要に応じて特記仕様書、図面等に補足内容を記載し、契約条件として必要な条件明示を行う。
- (3) 別表は標準工法を想定しているため、該当する項目を適宜判断したうえで記載するものとする。
- (4) 別表以外の項目について、条件明示の必要が生じたときは下表を参考に工事内容等を勘案して適正に定めるものとし、任意施工に関するものについては適宜修正削除を行うこと。

記載すべき内容	記載すべきでない内容
工事目的物に属する材質、規格等 工事目的物の寸法等 作業条件に関わる物（時間制約 等）	受注者の任意施工に関わる部分 （施工方法、仮設方法） 検収不可能な物

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
土工	掘削工	掘削	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	1	
土工		掘削（砂防）	土質 押土の有無 障害の有無 火薬使用	m ³	1	
土工		河床等掘削		m ³	1	
土工		掘削（光ケーブル配管）	土質 施工方法 押土の有無 障害の有無 施工数量	m ³	1	
土工		整地	作業区分	m ²	1	
土工		押土（ルーズ）	土質	m ³	1	
土工		押土（ルーズ）砂防	土質	m ³	1	
土工		積込（ルーズ）	土質 作業内容	m ³	1	
土工		積込（ルーズ）砂防	土質 作業内容	m ³	1	
土工		土砂等運搬	土質	m ³	1	
土工		土砂等運搬（砂防）	土質	m ³	1	
土工	（路体・路床）盛土工	路体（築堤）盛土	施工幅員	m ³	1	
土工		路床盛土	施工幅員	m ³	1	
土工		整地	作業区分	m ²	1	
土工		押土（ルーズ）	土質	m ³	1	
土工		押土（ルーズ）砂防	土質	m ³	1	
土工		積込（ルーズ）	土質 作業内容	m ³	1	
土工		積込（ルーズ）砂防	土質 作業内容	m ³	1	
土工		土砂等運搬	土質	m ³	1	
土工		土砂等運搬（砂防）	土質	m ³	1	
土工		土材料		m ³	1	
土工	法面整形工	法面整形	現場制約の有無 （盛土部：）法面締固めの 有無 （切土部：）土質	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
土工	盛土補強工	安定シート・ネット	シート種類	m ²	1	
土工		ジオテキスタイル補強土 壁	壁面材の種類	m ²	1	
土工	残土処理工	整地	作業区分	m ³	1	
土工		土砂等運搬	土質	m ³	1	
土工		残土等処分		m ³	1	
土工	作業土工	床堀	土質	m ³	1	
土工		埋戻し	土質区分 土質	m ³	1	
土工	堤防天端工	天端敷砂利	碎石規格 敷厚	m ²	1	
共通の工種	矢板工	鋼矢板	鋼矢板型式 鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1	
共通の工種		可とう鋼矢板	可とう種別 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1	
共通の工種		軽量鋼矢板	軽量鋼矢板型式 軽量鋼矢板平均長さ 矢板根入長	枚	1	
共通の工種		広幅鋼矢板	広幅鋼矢板 型式 広幅鋼矢板平均長さ 鋼矢板打込長 [鋼矢板平均引抜長]	枚	1	
共通の工種		タイロッド	タイロッド材質 タイロッド径	組	1	
共通の工種		腹起し	溝形鋼規格	t	0.1	
共通の工種		控え版	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
共通の工種		中詰砂	砂規格	m ³	1	
共通の工種	法枠工	法枠(現場打,プレキャスト,吹付)	法枠規格 中詰材種類	m ²	1	
共通の工種	吹付工	吹付(モルタル,コンクリート)	セメント種類 吹付厚	m ²	1	
共通の工種	法面施肥工	法面施肥	施工区分	m ²	1	
共通の工種	植生工	種子散布	種子規格 肥料の有無 施工規模	m ²	1	
共通の工種		芝(各種)	芝種類 施工規模	m ²	1	
共通の工種		客土吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m ²	1	
共通の工種		植生基材吹付	吹付厚 工種区分 施工規模	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
共通の工種		植生マット	工種区分 施工規模	m ²	1	
共通の工種		植生シート	工種区分 施工規模	m ²	1	
共通の工種		植生筋	工種区分 施工規模	m ²	1	
共通の工種		植生穴	削孔数	m ²	1	
共通の工種		養生（散水養生）		m ²	1	
共通の工種	かご工	じゃかご・ふとんかご・ かご枠	幅 高さ (じゃかご：) 径 (ふとんかご：) 種別 (ふとんかご：) 規格 詰石種類 詰石規格	m	1	
共通の工種		止杭	止杭規格	本	1	
共通の工種		かごマット(スロープ型)	かご厚さ かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m ²	1	
共通の工種		かごマット（多段積型）	かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m ²	1	
共通の工種	補強土壁工	補強土壁基礎	コンクリート規格	m	1	
共通の工種		帯鋼補強土壁・アンカー 補強土壁	土質	m ²	1	
共通の工種		ジオテキスタイル補強土 壁	壁面材の種類	m ²	1	
共通の工種	軽量盛土工	軽量盛土		m ³	1	
共通の工種		コンクリート床版	コンクリート規格 厚さ	m ²	1	
共通の工種		基礎コンクリート	コンクリート規格	m	1	
共通の工種		壁体工	支柱仕様・規格 壁面材仕様・規格	m ²	1	
共通の工種		裏込碎石	碎石規格	m ³	1	
共通の工種	吸出し防止工	吸出し防止材	材質 種類 厚さ	m ²	1	
共通の工種	泥水処理工	泥水処理		m ³	1	
共通の工種	仮水路工	フィルター材敷設	管種別 管径 フィルター材の種類	m ²	1	
共通の工種	場所打擁壁工	処分費		m ³	1	
共通の工種	仮橋・仮栈橋工	積込（コンクリート殻）		m ³	1	
共通の工種	骨材再生工	骨材再生	投入殻寸法	m ³	1	
共通の工種	土留・仮締切工	ボーリングマシン移設 (アンカー)		回	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
共通の工種	土留・仮締切工	アンカー工材料費	アンカー工材数量	式	1	
共通の工種	土留・仮締切工	削孔（アンカー）	削孔長 方式 呼び径 土質区分	m	1	
共通の工種	土留・仮締切工	グラウト注入（アンカー）	注入材規格 圧縮強度	m ³	1	
共通の工種	アンカー工（プレキャストコンクリート板）	PCコンクリート板据付	フレームタイプ	枚	1	
共通の工種	アンカー工（プレキャストコンクリート板）	ジョイント処理		箇所	1	
基礎工	既製杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	ただし1本当りの場合は1m
基礎工		鋼管杭	鋼管径（杭径） 鋼管長さ（杭長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ（杭長） H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		掘削土処理	土質	m ³	1	
基礎工	場所打杭工	場所打杭	杭径 杭長（設計長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	m ³	1	
基礎工	合成杭工	合成杭	杭種別 杭径 杭長	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	m ³	1	
基礎工	ニューマチックケーソン基礎工	ニューマチックケーソン設備		式	1	
基礎工		刃口金物据付		基	1	
基礎工		沈下掘削		m ³	1	
基礎工		沈下促進	水荷重形式 載荷材料形式（コンクリートブロック）	t	0.1	
基礎工		底スラブコンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
基礎工		中埋コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
基礎工		ブローパイプバルブ調整		基	1	
基礎工		中詰充填	中詰材規格	m ³	1	
基礎工		砂セントル	材料規格	m ³	1	
基礎工		天端コンクリート用型枠・支保		m ²	1	
基礎工		止水壁取壊し	施工方法	m ³	1	
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	敷厚 構造物種別 コンクリート規格	m ²	1	
基礎工		掘削土留	杭径 杭長	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
基礎工		グラウト注入	注入材規格 圧縮強度	m ³	1	
基礎工	鋼管井筒基礎工	鋼管矢板	鋼管材質 鋼管径 鋼管長さ 打込工法	本	1	
基礎工		井筒内掘削		m ³	1	
基礎工		継手処理		本	1	
基礎工		鋼管内掘削		m ³	1	
基礎工		中詰コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
基礎工		敷砂	敷砂規格	m ³	1	
基礎工		底版コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
基礎工		杭切断	鋼管杭径	本	1	
基礎工		鋼管矢板支保	支保型式	t	0.1	
基礎工		間詰コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
基礎工		間詰コンクリート撤去	構造物区分 工法 区分施工規模	m ³	1	
基礎工		頂版結合(プレートブラケット)		t	0.1	
基礎工		頂版結合(鉄筋スタッド)		段	1	
基礎工		詰杭		m	1	
石・ブロック積 (張)	石・ブロック積(張) 工	石積(張)・コンクリート ブロック基礎	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
石・ブロック積 (張)		各種石・ブロック積(張)	ブロック規格 ブロック質量	m ²	1	
石・ブロック積 (張)		間知ブロック張	ブロック規格 裏込材規格 胴込・裏込コンクリート規格 遮水シートの有無	m ²	1	
石・ブロック積 (張)		目地板	目地板の種類	m ²	1	
石・ブロック積 (張)		ブロック植栽	樹木名	本	1	
石・ブロック積 (張)		天端コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
石・ブロック積 (張)		基礎碎石(基礎材)	基礎材規格(碎石の場合等) 敷厚	m ²	1	
石・ブロック積 (張)		小口止コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
石・ブロック積 (張)		養生費	養生工の種類	m ³	1	
舗装工	舗装準備工	不陸整正	補足材有無 補足材種類・規格 補足材整正厚	m ²	1	
舗装工		調整コンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
舗装工	橋面防水工	橋面防水	防水工種類	m ²	1	
舗装工	舗装工	下層路盤(車道・路肩部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		下層路盤(歩道部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		上層路盤(車道・路肩部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		上層路盤(歩道部)	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		路盤	路盤材種類 路盤材規格 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		フィルター層	材料種類 仕上り厚	m ²	1	
舗装工		基層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		基層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		中間層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		中間層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		表層(車道・路肩部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		表層(歩道部)	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		排水性舗装・表層(車道・路肩部)		m ²	1	
舗装工		セメントミルク浸透	施工厚	m ²	1	
舗装工		アスファルト中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
舗装工		コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	1	
舗装工		転圧コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	1	
舗装工		連続鉄筋コンクリート舗装	コンクリート規格 舗装厚	m ²	1	
舗装工		縦目地	目地材種類・厚さ	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数 位	備 考
舗装工		横目地	目地形式	m	1	
舗装工		薄層カラー舗装	舗装色 規格・使用	m ²	1	
舗装工		インターロッキングブロック舗装	ブロック規格 敷材種類 敷材厚 施工規模	m ²	1	
舗装工		特殊ブロック舗装	作業区分 ブロック規格	m ²	1	
舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m ³	1	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 厚さ 排水性舗装用の有無	m	1	
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1	
地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m ² あたり使用量 固化剤の種類	m ²	1	
地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m ³ あたり使用量 固化剤の種類	m ³	1	
地盤改良工	表層安定処理	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	1	
地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	m ²	1	
地盤改良工		表層混合処理		m ³	1	
地盤改良工		置換	置換材量 施工数量	m ³	1	
地盤改良工	置換工	置換	置換材量 施工数量	m ³	1	
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材量費の有無	m ³	1	
地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	m ²	1	
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
地盤改良工		安定シート	シート種類	m ²	1	
地盤改良工	パーティカルドレーン工	サンドドレーン	径 S D打設長 S D杭径 S C P径 S C P打設長 S C P杭径	本	1	
地盤改良工		ペーパードレーン	材料規格 長さ（打設長）	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションパ イル	径 S D打設長 S D杭径 S C P径 S C P打設長 S C P杭径	本	1	
地盤改良工	固結工	粉体噴射攪拌	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1	
地盤改良工		粉体噴射攪拌(先掘・移 設・軸間変更)	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	式	1	
地盤改良工		高圧噴射攪拌	工法 注入材種類 長さ(注入長) 長さ(土被長)	本	1	
地盤改良工		スラリー攪拌	改良材種類 杭径 長さ(打設長) 長さ(杭長)	本	1	
地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	m ³	1	
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊 し	構造物区分 工法区分 施工規模	m ³	1	
構造物撤去工		舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	1	
構造物撤去工		舗装版破砕	舗装版種別	m ²	1	
構造物撤去工		石積取壊し	形状	m ²	1	
構造物撤去工		コンクリートはつり	平均はつり厚	m ²	1	ただし10m ² 未満の場合 は0.1m ²
構造物撤去工		吹付法面取壊し	集積積込の有無 工法区分	m ²	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格(種類他)	箇所	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格(種類他)	m	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		H鋼杭引抜	H鋼形式 引抜長	本	1	
構造物撤去工		広幅鋼矢板引抜き	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤 去		m ²	1	
構造物撤去工		覆工板設置・撤去		m ²	1	
構造物撤去工		根固めブロック撤去	ブロック規格	個	1	
構造物撤去工		殻運搬	殻種別	m ³	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
構造物撤去工		殻処分	殻種別	m ³	1	
構造物撤去工		現場発生品運搬	発生材種類	回	1	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	作業区分	m	1	
構造物撤去工		集水桝・マンホール撤去	製品質量 (kg/基)	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去		枚	1	
構造物撤去工		防護・防止柵撤去		m	1	
構造物撤去工		視線誘導標撤去	視線誘導標規格 施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界杭撤去	施工規模	本	1	
構造物撤去工		道路鋸撤去	施工区分 施工規模	個	1	
構造物撤去工		車線分離標撤去	施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界鋸撤去	施工規模	枚	1	
構造物撤去工		距離標撤去	施工区分	本	1	
構造物撤去工		横断歩道橋側板(裾隠・目隠)撤去	取外し部材規格	m ²	1	
構造物撤去工		車止めポスト撤去	車止めポスト規格 作業区分	本	1	
構造物撤去工		遮光フェンス撤去		m	1	
構造物撤去工		標識撤去		基	1	
構造物撤去工		境界ブロック撤去	再利用区分	m	1	
構造物撤去工		ケーブル配管撤去	管径 規格	m	1	
構造物撤去工		照明柱撤去		基	1	
構造物撤去工	かご撤去工	じやかご撤去	じやかご径	m	1	
構造物撤去工		ふとんかご撤去	ふとんかご種別 ふとんかご規格	m	1	
構造物撤去工	落石雪害防止撤去工	落石防護柵撤去		m	1	
構造物撤去工		落石防止網(繊維網)撤去		m ²	1	
構造物撤去工		コンクリート平板ブロック撤去	ブロック規格	m ²	1	
構造物撤去工		ノンスリップ撤去		m	1	
構造物撤去工	冬季安全施設撤去工	吹溜式防雪柵撤去	柵高	m	1	
構造物撤去工		吹払式防雪柵撤去	柵高	m	1	
構造物撤去工		スノーボール撤去	スノーボール規格	本	1	
構造物撤去工	旧橋撤去工	鋼製高欄撤去		m	1	
構造物撤去工		舗装版・床版破砕及び撤去	施工内容	m ²	1	
構造物撤去工		桁材撤去	施工内容	t	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート表面処理	施工規模 上向作業の有無	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
仮設工	仮設工	覆工板・敷鉄板	鋼材規格 作業区分	m ²	1	
仮設工	仮設工	覆工板受桁	鋼材規格 作業区分	t	1	
仮設工		鋼矢板	鋼矢板型式 平均鋼矢板長さ 鋼矢板打込長 [平均鋼矢板引抜長]	枚	1	
仮設工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ(杭長) H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	本	1	
仮設工		アンカー	アンカーボルト規格	本	1	
仮設工		タイロッド・腹起し	タイロッド材質 タイロッド径	t	0.1	
仮設工		切梁・腹起し		t	0.1	
仮設工		横矢板	横矢板材質 横矢板厚さ	m ²	1	
仮設工	水替工	ポンプ排水	排水量 排水方法	日	1	
仮設工	水替工	水替とい		m	1	
仮設工	地下水低下工	ウエルポイント	ポンプ組数	日	1	
仮設工		ディーブウェル	径 深さ	日	1	
仮設工	連続地中壁工	連続壁(柱列式)	壁厚	m ²	1	
仮設工	連続地中壁工	プラント設置撤去		式	1	
仮設工	汚濁防止工	汚濁防止フェンス	作業区分	m	1	
仮設工	汚濁防止工	濁水処理設備		箇所	1	
仮設工	防護施設工	発破防護柵	作業区分	m ²	1	
仮設工		基礎ブロック(立入防止柵)	寸法 作業区分	個	1	
仮設工		金網(フェンス)・支柱 (立入防止柵)	柵高 作業区分	m	1	
仮設工	防護施設工	仮囲い	作業区分 基礎形式 高さ	m	1	
仮設工	土のう工	大型土のう		袋	1	
仮設工	足場工	手摺先行型枠組足場	安全ネットの有無	掛m ²	1	
仮設工	土留・仮締切工	盛替梁	梁規格	箇所	1	
仮設工	土留・仮締切工	アンカー工材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理	アンカー鋼材数量	本	1	
仮設工	土留・仮締切工	軽量鋼矢板(電線共同溝)	矢板型式	式	1	
仮設工	土留・仮締切工	溝掘り		m ³	1	
仮設工	土留・仮締切工	泥土処理	土質	m ³	1	
仮設工	砂防仮締切工	土砂締切		m ²	1	
仮設工	砂防仮締切工	土砂土のう締切		m ³	1	
仮設工	砂防仮締切工	コンクリート締切		m ³	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
仮設工	仮橋・仮栈橋工	橋脚		t	1	
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮設高欄	形式区分 作業区分	m	1	
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮橋上部	作業区分	t	0.1	
仮設工	仮橋・仮栈橋工	仮橋コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 長さ 高さ	箇所	1	
仮設工	仮橋・仮栈橋工	防舷材	材料規格	基	1	
仮設工	掘削工	転石破砕	火薬使用の有無	m ³	1	
仮設工	作業土工	掘削補助機械搬入搬出		回	1	
仮設工	作業土工	人力運搬	換算距離	m ³	1	
仮設工	作業ヤード整備工	ヤード造成		m ²	1	
仮設工	工事用道路工	工事用道路補修		式	1	
仮設工	工事用道路工	仮設舗装		m ²	1	
仮設工	工事用道路工	仮設アスカープ		m	1	
仮設工	工事用道路工	土のう積		m ²	1	
仮設工	法面吹付工	仮設用モルタル吹付	セメント種類 ラス張施工規模 法面清掃工の有無	m ²	1	
仮設工	仮水路工	暗渠排水管	作業区分 管種別 管径	m	1	
仮設工	防塵対策工	散水		式	1	
仮設工	防塵対策工	タイヤ洗浄装置	装置規格	式	1	
仮設工	防塵対策工	路面清掃		式	1	
仮設工	電力設備工	配電設備		m	1	
仮設工	電力設備工	受電設備		箇所	1	
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル用水設備		箇所	1	
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル仮設備保守		月	0.1	
仮設工	トンネル仮設備工	トンネル充電設備		日	1	
仮設工	トンネル仮設備工	吹付プラント組立解体		基	1	
仮設工	トンネル仮設備工	スライドセントル組立解体		基	1	
仮設工	トンネル仮設備工	防水作業台社組立解体		基	1	
仮設工	コンクリート製造設備工	コンクリートプラント設備		基	1	
仮設工	コンクリート製造設備工	ケーブルクレーン設備		基	1	
仮設工	除雪工	現場内除雪（機械）	貸与区分	時間	1	
仮設工	除雪工	現場内除雪（人力）		人日	1	
仮設工	除雪工	仮囲い屋根部		m ²	1	
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	m ²	1	
仮設工	雪寒施設工	ウェザーシールドター		基	1	
コンクリート構造物		基礎材	基礎材規格（碎石の場合等） 敷厚	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
コンクリート構造物		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	1	
コンクリート構造物		コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m ³	1	
コンクリート構造物		二次コンクリート	規格	m ³	1	
コンクリート構造物		鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.01	
コンクリート構造物		目地材	目地材種類・厚さ	m ²	1	
コンクリート構造物		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
コンクリート構造物		型枠	型枠の種類	m ²	1	
コンクリート構造物		足場	安全ネットの有無	掛m ²	1	
コンクリート構造物		支保	支保耐力〇〇以上	空m ³	1	
コンクリート構造物		植石張り	構造区分 石材径 胴込・裏込コンクリート規格 裏込材規格	m ²	1	
コンクリート構造物		水抜パイプ	管径・管種類 フィルターの有無	m	1	
コンクリート構造物		スリップバー	鉄筋材料規格・径	箇所	1	
コンクリート構造物		スリップバー	鉄筋材料規格・径	組	1	
コンクリート構造物		防水モルタル	セメント種類 混合比	m ²	1	
コンクリート構造物		アンカーボルト	アンカーボルト規格	本	1	
コンクリート構造物		有孔管	作業区分 工法区分 施工規模	m	1	
コンクリート構造物		可撓継手	内幅 内高	箇所	1	
コンクリート構造物	橋台躯体工(構造物単位)	逆T式橋台	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m ²	1	
コンクリート構造物	橋脚躯体工(構造物単位)	T型橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m ³	1	
コンクリート構造物	橋脚躯体工(構造物単位)	壁式橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	m ³	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	逆T型擁壁		m ³	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	L型擁壁		m ³	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	重力式擁壁		m ³	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	小型擁壁	高さ 本体コンクリート規格 施工歩掛項目	m ³	1	
コンクリート構造物	羽口工	連節ブロック張(コンクリート)		m ³	1	
コンクリート構造物	暗渠工	プレキャストボックス	内幅 内高	m	1	
構造物	帯状構造物(小規模)工		幅 高さ コンクリート規格	m	1	各種ブロック(既製品共)H=2.0m未満の擁壁類
構造物	帯状構造物(大規模)工		コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	H=2.0m以上の擁壁類
構造物	排水構造物工		管規格	m	1	ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m
構造物	排水構造物工	現場打水路	内幅(複単不使用の場合) 内高(複単不使用の場合) コンクリート規格	m	1	
構造物	排水構造物工	縦排水・小段排水	U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅(各種の場合) 内高(各種の場合) 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類(各種の場合)	m	1	
構造物	場所打雨渠工(構造物単位)	雨渠	内幅 内高 コンクリート規格	m ³	1	
構造物	排水性舗装用路肩排水工	透水性樹脂コンクリート		m ³	1	
構造物	橋脚架設工	橋脚架設		t	0.1	
工場製作工	製作工	製作加工	鋼材規格	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
工場製作工		ボルト・ナット	ボルト・ナット種類	組	1	
工場製作工		スタッドジベル	径・長さ	本	1	
工場製作工		バックアップ	材質	m ³	0.1	
工場製作工		充填シール	材質	m ³	0.1	
工場製作工		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	組	1	
工場製作工	鋳造費	金属支承	支承規格	個	1	
工場製作工		大型ゴム支承	支承規格	個	1	
工場製作工		排水柵	柵規格	個	1	
工場製作工		橋名板	材質	枚	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
工場製作工		橋歴板		枚	1	
工場製作工	工場塗装工	前処理	材料種類	m ²	1	
工場製作工		塗装(下・中・上塗)	塗装種別 塗装箇所 塗装回数	m ²	1	
工場製作工		メッキ		t	0.1	
工場製品輸送工	輸送工	輸送		t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
工場製品輸送工	輸送工	現場取卸(PC桁)		本	1	
工場製品輸送工		工場取卸(鋼桁・鋼管杭)		t	0.1	
工場製品輸送工		小運搬		t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
付属施設	緑石工	歩車道境界ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設		地先境界ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設		植樹ブロック	ブロック規格	m	1	
付属施設	緑化ブロック工	養生費	養生工の種類	m ²	1	
付属施設		アスカープ	材料種類 断面積	m	1	
付属施設	集水柵・街渠柵・マンホール工	集水柵	集水柵種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	(プレキャスト含む)
付属施設		街渠柵	集水柵・街渠柵種類 基礎コンクリート規格 法面作業補正	箇所	1	(プレキャスト含む)
付属施設		マンホール	マンホール規格 コンクリート規格 蓋種類	箇所	1	
付属施設		蓋	蓋種類	枚	1	
付属施設	路側防護柵工	ガードレール	ガードレール規格 施工規模 曲線部補正の有無	m	1	
付属施設		ガードパイプ	ガードパイプ規格 施工規模 曲線部補正の有無	m	1	
付属施設		ガードケーブル	ガードケーブル規格 建込条件	m	1	
付属施設		ボックスビーム	ボックスビーム規格	m	1	
付属施設		基礎ブロック(立入防止柵)	寸法 作業区分	個	1	
付属施設		金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	柵高 作業区分	m	1	
付属施設		転落(横断)防止柵	柵高 作業区分	m	1	
付属施設		車止めポスト	車止めポスト径 車止めポスト長さ	本	1	
付属施設	階段工	現場打階段	コンクリート規格 砕石規格	m ²	1	
付属施設		プレキャスト階段	ブロック規格	m ²	1	
付属施設	境界工	境界杭	境界杭規格 施工規模	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
付属施設		境界鎮	境界鎮規格 施工規模	枚	1	
付属施設		境界(法留)壁	本体コンクリート規格	m	1	
付属施設	落石防護柵工	ロープ・金網	柵高 規格・仕様厚 メッキの有無	m	1	
付属施設		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1	
付属施設		ステーロープ		本	1	
付属施設	防雪柵工	防雪柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	
付属施設	雪崩予防柵工	雪崩予防柵基礎	幅 高さ 長さ コンクリート規格	基	1	
付属施設		雪崩予防柵	柵高 柵長 柵種類	基	1	
付属施設		雪崩予防柵アンカー	アンカー規格	本	1	
付属施設	落石防止網工	ロックネット	網規格(種別) 網規格(寸法) アンカー規格・仕様 支柱規格・仕様	m ²	10	
付属施設		繊維網	繊維網規格	m ²	10	
付属施設	遮音壁基礎工	支柱アンカーボルト	アンカー形式 アンカー支柱間隔 アンカー材料規格	本	1	
付属施設	遮音壁本体工	遮音壁	支柱タイプ・支柱間隔 しゃ音板形式・高さ	m	1	
付属施設		外装板	板規格	m ²	1	
付属施設	ケーブル配管工	ケーブル配管	管規格 土質区分 管径	m	1	
付属施設		ハンドホール	寸法	箇所	1	
付属施設	道路付属物工	視線誘導標	視線誘導標規格 施工区分 施工規模	本	1	
付属施設		車線分離標	車線分離標規格 施工区分 施工規模	本	1	
付属施設		距離標	作業区分 施工区分	本	1	
付属施設		道路鎮	道路鎮規格 施工区分 施工規模	個	1	
付属施設		アンカーボルト	材質・径・長さ アンカー材規格	本	1	
付属施設	照明工	照明柱基礎	基礎型式	基	1	
付属施設		照明柱	柱規格	基	1	
付属施設	銘板工	銘板	材質 寸法	枚	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
付属施設		表示板	表示板規格	枚	1	
付属施設	小型標識工	標識柱	柱規格 柱長さ 施工規模	基	1	
付属施設		標識板	標識板規格	枚	1	
付属施設	大型標識工	標識基礎	形式 基礎規格	基	1	
付属施設		片持標識柱	柱型式	基	1	
付属施設		門型標識柱	スパン長 型式	基	1	
付属施設		標識板	標識板規格	枚	1	
付属施設		着雪防止板	板規格	枚	1	
付属施設	道路植栽工	植樹帯盛土	土質	m ³	1	
付属施設		植樹	樹木規格	本	1	
付属施設		地被類植付	種類	m ²	1	
付属施設		樹名板	樹名板規格	枚	1	
付属施設	アンカー工	アンカー	アンカーボルト規格	本	1	
付属施設		アンカー(プレキャスト コンクリート板)	材質・径・長さ アンカー材規格	本	1	
付属施設		アンカー足場		空m ³	1	
付属施設		鉄筋挿入	鉄筋規格 削孔長 現場条件 施工規模	m	1	
付属施設	点検施設工	梯子	寸法	本	1	
付属施設		ステップ	ステップ規格	本	1	
付属施設		蓋	蓋種類	枚	1	
付属施設	グラウトホール工	グラウトホール	径 長さ	組	1	
付属施設	観測施設工	量水標	量水標規格	箇所	1	
付属施設		水位計	水位計規格	箇所	1	
付属施設		流量計	流量計規格	箇所	1	
付属施設	燃料貯油槽工	充填砂	砂種類	m ³	1	
付属施設	情報案内施設工	スクリーン	材質 形状	個	1	
付属施設	情報案内施設工	案内板	材質 形状	箇所	1	
防護柵工	防止柵工	遮光フェンス	種別 支柱間隔 作業条件	m	1	
河川構造物	土台基礎工	土台		m	1	
河川構造物	笠コンクリート工	笠コンクリート	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
河川構造物		笠コンクリートブロック	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物	護岸付属物工	横帯コンクリート	幅 高さ コンクリート規格	m	0.1	
河川構造物		小口止	コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	
河川構造物		小口止矢板	鋼矢板材質 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1	
河川構造物		縦帯コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
河川構造物		巻止コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	1	
河川構造物		平張コンクリート	コンクリート規格 底幅 天端幅 高さ	m ²	1	
河川構造物	多自然型護岸工	木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
河川構造物		巨石張(積)	石材径 (練：) 遮水シートの有無 (練：) 止水シートの有無 (空：) 吸出し防止材の有無	m ²	1	
河川構造物		巨石据付	石材径	m ²	1	
河川構造物		巨石採取		個	1	
河川構造物	多自然型護岸工	巨石運搬		式	1	
河川構造物		雑割石張	空石規格	m ²	1	
河川構造物		かごマット	かご厚さ かご本体材質 詰石種類 詰石規格	m ²	1	
河川構造物		ブロックマット	法勾配	m ²	1	
河川構造物		杭柵		m	1	
河川構造物		連柴柵		m	1	
河川構造物		粗朶法覆		m ²	1	
河川構造物		玉石柳枝		m ²	1	
河川構造物		栗朶粗朶		m ²	1	
河川構造物	覆土工	覆土		m ³	1	
河川構造物	間詰工	間詰コンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
河川構造物		間詰石	石材規格	m ³	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
河川構造物	沈床工	沈床	○層建	m ²	1	
河川構造物		粗朶単床		m ²	1	
河川構造物		粗朶柵		m	1	
河川構造物	捨石工	捨石	石材規格	m ³	1	
河川構造物		表面均し		m ²	1	
河川構造物	元付工	元付	コンクリート規格	箇所	1	
河川構造物	牛・杵工	牛		組	1	
河川構造物		杵		組	1	
河川構造物	杭出し水制工	杭出し水制		基	1	
河川構造物	基礎工	現場打基礎	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物		プレキャスト基礎	底幅 高さ プレキャスト材規格(型)	m	1	
河川構造物	基礎工	コンクリート生産・運搬・クレーン打設	コンクリート規格	m ³	1	
河川構造物	根固めブロック工	根固めブロック製作	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	
河川構造物		根固めブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
河川構造物		消波根固めブロック仮置	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	
河川構造物		消波根固めブロック運搬	消波根固めブロック運搬 作業区分 積載個数 距離	個	1	
河川構造物		袋詰め玉石	袋材規格 中詰材規格	袋	1	
河川構造物	ブロック床版工	場所打ブロック	ブロック型式 コンクリート規格 鉄筋規格	m ²	1	
河川構造物	函渠工	PC函渠	内幅 内高 函渠質量	m	0.1	
河川構造物		可撓継手	内幅 内高	箇所	1	
河川構造物		取替式止水板	止水板種類・寸法	箇所	1	
河川構造物		函渠接続	アンカー種類	箇所	1	
河川構造物	側壁工	裏込石	基礎材規格(碎石の場合) 基礎材規格(栗石の場合) 基礎材規格(発生材流用の場合)	m ³	1	
河川構造物	コンクリートブロック工(コンクリートブロック積)	遮水シート	材質 種類 寸法	m ²	1	
河川構造物	羽口工	連節ブロック水中吊落し		m ²	1	
河川構造物	植生工	被覆シート張	シート規格	m ²	1	
河川構造物	鋼製堰堤本体工	鋼製枠(格子・スリット)	鋼製砂防形式 塗装種別(中塗) 塗装種別(上塗)	t	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
砂防	コンクリート・鋼製堰 堤本体・副堤工	堤冠コンクリート	セメント種類 コンクリート規格	m ³	1	
砂防		水抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防		鋼製枠	型式	t	0.1	
砂防		枠内中詰	土質	m ³	1	
砂防		足場	安全ネットの有無	m	1	
砂防		隔壁コンクリート基礎	コンクリート規格 幅 高さ	m ³	1	
砂防		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	1	
砂防		残存型枠	型枠の種類	m ²	1	
砂防	鋼製砂防工	本締め		本	1	
砂防		アンカー	アンカーボルト規格	本	1	
砂防		現場塗装	塗装種別	m ²	1	
砂防	コンクリート側壁工	均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	m ²	1	
砂防		水抜暗渠	管径 管種類 管長さ	m	0.1	
砂防	集排水ボーリング工	ボーリング	施工場所 土質区分 呼び径	m	0.1	
砂防		ボーリング洗浄		m	0.1	
砂防		保孔管	保孔管材質・種類 施工場所 ストレーナ加工の有無	m	1	
砂防		ボーリング仮設機材		回	1	
砂防	集水井工	集水井掘削	杭径 土留材料	m	1	
砂防		井戸中詰	土質	m ³	1	
砂防		プレキャスト井筒	ブロック規格	m	1	
砂防		固定基礎コンクリート	タイプ コンクリート規格	m	1	
砂防		底張コンクリート	構造物種別 コンクリート規格	m ³	1	
砂防		井戸蓋	蓋形式	枚	1	
砂防	山腹水路工	山腹暗渠	管材質 管径 管長さ	m	1	
砂防		現場打水路	内幅 内高 コンクリート規格	m	1	
砂防	仮締切工	中詰・締切盛土撤去		m ³	1	
砂防	砂防ソイルセメント 工	砂防ソイルセメント	粒径処理率 セメント100m ³ 当り使用量	m ³	1	
海岸	海岸コンクリート(根 固・消波)ブロック工	海岸コンクリート(根 固・消波)ブロック製作	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量)	個	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
海岸		海岸コンクリート(根 固・消波)ブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
海岸	護岸工	裏込(砕)石	砕石規格	m ³	1	
海岸		石材	石材規格	m ³	1	
海岸	コンクリート被覆工	コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有 無	m ³	1	
海岸	捨石工	中詰石	石材規格	m ³	1	
海岸		捨石	石材規格	m ³	1	
海岸		捨石均し	均し区分	m ²	1	
海岸		表面均し		m ²	1	
海岸	被覆石工	被覆石据付	石材規格	m ³	1	
海岸		被覆石均し	均し区分	m ²	1	
海岸	被覆ブロック工	被覆ブロック据付	ブロック種類(型式) ブロック種類(実質量) ブロック購入の有無	個	1	
海岸	矢板工	鋼矢板防食	防食規格	m ²	1	
海岸	詰杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長(掘削長)	本	1	
海岸		コンクリートパネル	パネル規格 ブロック規格	枚	1	
海岸		中詰石	石材規格	m ³	1	
海岸		表面均し		m ²	1	
海岸	石枠工	コンクリート枠製作	コンクリート規格	個	1	
海岸		コンクリート枠据付	ブロック規格	個	1	
海岸		中詰石	石材規格	m ³	1	
海岸		捨石均し	均し区分	m ²	1	
海岸	ケーソン・セルラー工	ケーソン等運搬・据付		個	1	
海岸		中詰砂・石	石材規格	m ³	1	
海岸		表面均し		m ²	1	
浚渫工	浚渫船運転工(ポンプ 浚渫船)	浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m ³	1	
浚渫工		排砂管(設備)	排砂管径 設置高さ	本	1	
浚渫工		浚渫船機械管理費(官 船)	貸与船舶種・船級 フロータ長 フロータ径 排砂管径 排砂管本数 フロータ数 ゴムジョイント数	日	1	
浚渫工		排砂管保守		日	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
浚渫工	作業船及び機械運転工(ポンプ浚渫船)	中継ポンプ運転		台	1	
浚渫工		揚錨船運転		日	1	
浚渫工		交通船運転		日	1	
浚渫工		警戒船運転		日	1	
浚渫工	浚渫船運転工(グラブ浚渫船)	浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m ³	1	
浚渫工		浚渫船等機械管理費	浚渫船規格 汚濁防止枠の有無	日	1	
浚渫工	作業船及び機械運転工(グラブ浚渫船)	揚錨船運転		日	1	
浚渫工		交通船運転		日	1	
浚渫工		土運搬船運転		日	1	
浚渫工		曳船運転		日	1	
浚渫工		警戒船運転		日	1	
浚渫工	バックホウ浚渫船	バックホウ浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	m ³	1	
浚渫工		繫船運転		日	1	
浚渫工		土運船運転		日	1	
浚渫工		浚渫土揚土		日	1	
浚渫工	配土工	配土		日	1	
浚渫工	浚渫土処理工	浚渫土処理		m ³	1	
鋼橋上部工	地組工	地組		t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
鋼橋上部工	床版工	床版架設		m ²	1	
鋼橋上部工	架設工	各種設備		式	1	
鋼橋上部工		桁架設	規格 桁種類	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
鋼橋上部工	現場継手工	本締めボルト		本	1	
鋼橋上部工		鋼床板現場溶接		m	1	
鋼橋上部工		鋼床板Uリブ現場溶接		個	1	
鋼橋上部工	支承工	金属支承設置	支承規格	個	1	
鋼橋上部工		大型ゴム支承設置	支承規格	個	1	
鋼橋上部工	伸縮装置工	鋼・ゴム製伸縮装置	伸縮装置規格	m	0.1	
鋼橋上部工		鋼製伸縮装置	伸縮装置規格 工種	t	0.1	
鋼橋上部工		埋設ジョイント	ジョイント規格 工種	m	1	
鋼橋上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格(寸法等)	箇所	1	
鋼橋上部工	排水装置工	排水枿	枿規格	箇所	1	
鋼橋上部工		排水管	管規格	m	1	
鋼橋上部工	地覆工	場所打地覆	形状寸法	m	1	
鋼橋上部工		プレキャスト地覆	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
鋼橋上部工	橋梁用防護柵工	橋梁用防護柵		m	1	
鋼橋上部工	橋梁用高欄工	橋梁用高欄	材質 作業区分 高欄形式	m	1	
鋼橋上部工	検査路工	検査路		t	0.1	
鋼橋上部工	銘板工	橋名板	材質	枚	1	
鋼橋上部工		橋歴板		枚	1	
鋼橋上部工	架設工	シェッド架設		t	0.1	
鋼橋上部工	屋根コンクリート工	溶接金網	線径 網目	m ²	1	
歩道橋本体工	橋脚フーチング工	アンカーフレーム架設		基	1	
歩道橋本体工		アンカーフレーム注入モ ルタル		基	1	
歩道橋本体工	歩道橋架設工	歩道橋架設		t	0.1	
歩道橋本体工	歩道橋架設工	側道橋架設		t	0.1	
歩道橋本体工		橋面舗装	コンクリート規格	m ²	1	
歩道橋本体工		手摺	高さ	m	1	
歩道橋本体工		高欄		m	1	
歩道橋本体工		足場	安全ネットの有無	箇所	1	
歩道橋本体工		防護		m ²	1	
鋼橋足場等設置 工	橋梁足場工	架設足場	橋梁の種類	m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		床版足場	橋梁の種類	m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		塗装足場	橋梁の種類	m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		側面塗装足場		m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		支承設置用足場		m	1	
鋼橋足場等設置 工	橋梁防護工	板張防護		m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		シート張防護		m ²	1	
鋼橋足場等設置 工		ワイヤーブリッジ防護		m ²	1	
鋼橋足場等設置 工	昇降用設備工	登り栈橋		箇所	1	
鋼橋足場等設置 工		工事用エレベーター		基	1	
コンクリート橋 上部工	桁製作工・床版・横組 工	プレテンション桁製作		本	1	
コンクリート橋 上部工		ポストテンション桁製作	鉄筋規格 コンクリート規格 P Cケーブルの種類	本	1	
コンクリート橋 上部工		プレキャストセグメント 製作	桁規格	本	1	
コンクリート橋 上部工		プレキャストセグメント 主桁組立	P Cケーブル規格	本	1	
コンクリート橋 上部工		プレビーム桁製作	桁規格	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
コンクリート橋 上部工		機械器具損料		式	1	
コンクリート橋 上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	m	1	
コンクリート橋 上部工		PCケーブル	PCケーブル種類	t	0.1	ただし1t未満の場合 は0.01t
コンクリート橋 上部工		PCケーブル・緊張	緊張区分 PC規格 PC鋼棒規格	ケーブル	1	
コンクリート橋 上部工		緊張	PCケーブル種類 定着装置	ケーブル	1	
コンクリート橋 上部工		PC鋼棒	鋼棒径・種別 継手種別	m	1	
コンクリート橋 上部工		PC緊張	緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋 上部工		PC固定	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋 上部工		PC継手	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋 上部工		横締めケーブル	電源区分 緊張区分 PCケーブル種類	m	1	
コンクリート橋 上部工		鉛直締めケーブル	電源区分 PCケーブル種類	m	1	
コンクリート橋 上部工		横締め緊張		箇所	1	
コンクリート橋 上部工		鉛直締め緊張	電源区分 PCケーブル種類	箇所	1	
コンクリート橋 上部工		取付桁結合解放		回	1	
コンクリート橋 上部工	架設工(押出し架設)	仮支柱		基	1	
コンクリート橋 上部工		プレフレクション		回	1	
コンクリート橋 上部工		リリース		回	1	
コンクリート橋 上部工		主桁解体		主桁本	1	
コンクリート橋 上部工		桁組立		主桁本	1	
コンクリート橋 上部工		横桁取付		箇所	1	
コンクリート橋 上部工		部分プレストレス		径間	1	
コンクリート橋 上部工		移動型枠		m	1	
コンクリート橋 上部工		円筒型枠		m	1	
コンクリート橋 上部工		主桁製作設備		式	1	
コンクリート橋 上部工	架設工	桁小運搬		本	1	
コンクリート橋 上部工		桁架設	規格 桁種類	本	1	
コンクリート橋 上部工		柱頭部仮支承		m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
コンクリート橋 上部工		桁架設(片持架設)	規格 桁種類	基	1	
コンクリート橋 上部工		ベント・鉄塔基礎		式	1	
コンクリート橋 上部工		押出装置		基	1	
コンクリート橋 上部工		滑り装置		基	1	
コンクリート橋 上部工		手延べ桁		基	1	
コンクリート橋 上部工		桁架設(押出架設)	規格 桁種類	回	1	
コンクリート橋 上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格(寸法等)	組	1	
コンクリート橋 上部工	架設支保工	支保工基礎		m ³	1	
コンクリート橋 上部工		支保	支保耐力〇〇以上	空m ³	1	
コンクリート橋 上部工	支承工	ゴム支承	橋種 反力 寸法	個	1	
コンクリート橋 上部工		金属支承設置	支承規格	個	1	
コンクリート橋 上部工		変位制限装置		組	1	
コンクリート橋 上部工		ジョイントプロテクター		組	1	
コンクリート橋 上部工	橋梁付属物工	鋼・ゴム製伸縮装置	伸縮装置規格	m	0.1	
コンクリート橋 上部工		鋼製伸縮装置	伸縮装置規格	t	0.1	
コンクリート橋 上部工		埋設ジョイント	ジョイント規格	m	1	
コンクリート橋 上部工		排水柵	柵規格	箇所	1	
コンクリート橋 上部工		排水管	管規格	m	1	
コンクリート橋 上部工		場所打地覆	形状寸法	m	1	
コンクリート橋 上部工		プレキャスト地覆	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
コンクリート橋 上部工		橋梁用防護柵		m	1	
コンクリート橋 上部工		橋梁用高欄	材質 作業区分 高欄形式	m	1	
コンクリート橋 上部工		検査路		t	0.1	
コンクリート橋 上部工		銘板	材質 寸法	枚	1	
コンクリート橋 上部工	橋梁防護工	PC防護		m ³	1	
コンクリート橋 上部工	輸送工	現場取卸(鋼桁)		t	0.1	
コンクリート橋 上部工	ｼｬｯﾄ 購入工	ｼｬｯﾄ部材材料費	材質規格(寸法等)	本	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
コンクリート橋 上部工	躯体工	排水マット	材質規格	m	1	
トンネル(N A T M)	トンネル掘削工・支保 工	掘削・支保	掘削区分(岩)	m	0.1	
トンネル(N A T M)	支保工	吹付	材料規格 吹付厚	m	0.1	
トンネル(N A T M)		鋼製支保	掘削区分(岩)	m	0.1	
トンネル(N A T M)		金網		m	0.1	
トンネル(N A T M)	覆工・防水工	覆工コンクリート・防水	掘削区分(岩)	m	0.1	
トンネル(N A T M)		覆工コンクリート(妻部)	掘削区分 巻厚 コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(N A T M)		側壁コンクリート	掘削区分 巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(N A T M)		床版コンクリート	巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(N A T M)	インバート工	インバート掘削		m	0.1	
トンネル(N A T M)		インバート	掘削区分(岩) 巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(N A T M)	坑内付帯工	箱拔	掘削区分(岩) コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(N A T M)		裏面排水	材料規格	m	1	
トンネル(N A T M)		湧水処理	材料規格 削孔の有無 削孔長	箇所	1	
トンネル(N A T M)		中央排水	管種 管径	m	1	
トンネル(N A T M)		横断排水	管種 管径	箇所	1	
トンネル(N A T M)		集水柵	集水柵種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	
トンネル(N A T M)	坑門工	斜面ボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		坑口処理		箇所	1	
トンネル(N A T M)		型枠(セントル)		m ²	1	
トンネル(N A T M)	掘削補助工A	フォアバイリング	掘削区分 材料規格 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		先受け矢板	材料規格 長さ	枚	1	
トンネル(N A T M)		岩盤固結	材料規格	m ³	1	
トンネル(N A T M)		増し吹付	材料規格 吹付厚 補強材有無・規格	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
トンネル(N A T M)		増しロックボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		鏡吹付	材料規格 吹付厚	m ²	1	
トンネル(N A T M)		鏡ロックボルト	材料規格 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		仮インバート	材料規格 巻厚 補強材有無・規格	m ²	1	
トンネル(N A T M)		ミニパイプルーフ	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)	掘削補助工B	水抜きボーリング	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		垂直縫地	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		パイプルーフ	材料規格 径 長さ	本	1	
トンネル(N A T M)		押え盛土	材料規格 改良材添加量	m ³	1	
トンネル(N A T M)		薬液注入	注入材料	m ³	1	
トンネル(N A T M)		ディーブウェル	径 深さ	日	1	
トンネル(N A T M)		ウエルポイント	ポンプ組数	日	1	
トンネル(N A T M)		トンネル仮巻きコンクリート	コンクリート規格 巻厚	m	1	
トンネル(N A T M)		各種設備		式	1	
トンネル(矢板)	掘削工	掘削	掘削区分(岩)	m	0.1	
トンネル(矢板)	支保工	鋼製支保	掘削区分(岩)	基	1	
トンネル(矢板)	覆工・防水工	覆工コンクリート・防水	掘削区分(岩)	m	0.1	
トンネル(矢板)		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
トンネル(矢板)		床版コンクリート	巻厚 コンクリート規格	m	1	
トンネル(矢板)		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m ³	1	
トンネル(矢板)	インバート工	インバート掘削		m	0.1	
トンネル(矢板)		インバート	掘削区分(岩) 巻厚 コンクリート規格	m	0.1	
トンネル(矢板)	坑内付帯坑	箱抜	掘削区分(岩) コンクリート規格	箇所	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
トンネル(矢板)		裏面排水	材料規格	m	1	
トンネル(矢板)		湧水処理	材料規格 削孔の有無 削孔長	箇所	1	
トンネル(矢板)		中央排水	管種 管径	m	1	
トンネル(矢板)		横断排水	管種 管径	箇所	1	
トンネル(矢板)		集水枿	集水枿種類 現場打材種類 コンクリート規格 基礎コンクリート規格	箇所	1	
共同溝	掘削工	掘削	土留方式	m ³	1	
共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m ³	1	
共同溝	現場打構築工	防水	施工種別 材質	m ²	1	
共同溝		防水保護	施工種別 モルタル規格	m ²	1	
共同溝		防水壁	コンクリート規格	箇所	1	
共同溝		目地材	目地材種類・厚さ	m ²	1	
共同溝		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
共同溝	プレキャスト構築工	プレキャスト躯体	種類 形状・寸法	個	1	
共同溝		P C鋼材	材質 種類	m	1	
共同溝		縦・横締め緊張	電源区分 緊張区分 P Cケーブル種類	箇所	1	
共同溝		可とう継手	内幅 内高	箇所	1	
共同溝		コーキング	材質 種類	m	1	
共同溝		シール		m	1	
共同溝	付帯設備工	グレーチング	蓋種類	組	1	
共同溝		蓋	蓋種類	組	1	
共同溝		排水管	管規格	m	1	
共同溝		ルーフドレーン	材質 管径	個	1	
共同溝		換気防護柵	高さ	箇所	1	
共同溝		梯子	寸法	本	1	
共同溝		ステップ	ステップ規格	本	1	
共同溝		タラップ	寸法	本	1	
共同溝		手摺	高さ	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
共同溝		銘板	材質 寸法	枚	1	
共同溝	現場打躯体工(構造物 単位)	共同溝	コンクリート規格 規格 土被り 内幅 内高	m ²	1	
共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	
電線共同溝	掘削工	開削掘削	土質	m ³	1	
電線共同溝	埋戻し工	埋戻し	土質区分 土質	m ³	1	
電線共同溝	電線共同溝工	管路	材質 径	m	1	
電線共同溝		プレキャストボックス	作業区分 内幅 内高 基礎材種別	個	1	
電線共同溝		蓋	蓋種類	組	1	
電線共同溝	付帯設備工	ハンドホール	寸法	箇所	1	
電線共同溝	管路工(管路部)	埋設表示シート	シート規格	m	1	
電線共同溝	管路工(管路部)	スリーブ		個	1	
電線共同溝	管路工(管路部)	伸縮継手		個	1	
植栽維持工	樹木・芝生管理工	樹木せん定	樹種 樹高	本	1	
植栽維持工		寄植せん定	樹種 樹高	m ²	1	
植栽維持工		補植	樹木規格 土壌改良材の有無 植樹割増しの有無	本	1	
植栽維持工		移植	施工内容(移植) 施工規模(移植) 施工内容(植樹)	本	1	
植栽維持工		支柱	支柱形式 施工区分 規格・仕様	本	1	
植栽維持工		抜根除草	施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	1	
植栽維持工		樹木施肥	肥料種類	本	1	
植栽維持工		寄植・芝施肥	肥料種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	1	
植栽維持工		灌水	灌水時期	m ²	1	
植栽維持工		防除	薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正	本	1	
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
植栽維持工		芝刈	芝種類	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持	河川巡視工	緊急巡視		回	1	
河川維持	堤防除草工	除草		m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持	芝養生工	施肥	肥料種類 肥料使用量	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持		抜根	抜根工作区分 タイヤ損耗費	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持	伐木除根工	伐木除根	樹木・竹の区分 樹木密集 度	m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集		m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
河川維持		堆積塵芥収集		m ³	1	
河川維持	水面清掃工	水面清掃		日	1	
河川維持	応急処理作業	応急作業	作業形態	日	1	
河川維持	クラック補修工	はつり	平均はつり厚	m ²	1	
河川維持	クラック補修工	鉄筋防錆処理	塗布材料規格	m	1	
河川維持	クラック補修工	ひび割れ注入	注入材料規格 注入方式	m	1	
河川維持	クラック補修工	ひび割れ充填	充填材料規格 カット方式	m ³	1	
河川維持	クラック補修工	断面修復	使用材料規格 材料種類	m ²	1	
河川維持	ポーリンググラウト工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	m ³	1	
河川維持	ポーリンググラウト工	注入設備据付解体		回	1	
河川維持	欠損部補修工	欠損部取壊し		m ³	1	
河川維持	欠損部補修工	欠損部補修	補修工法	m ³	1	
河川維持	不陸整正工	不陸整正・締固め	補足材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ	m ²	1	
河川維持	付属物復旧工	調整ポスト	支柱間隔	個	1	
河川維持	付属物設置工	標識		基	1	
河川維持	塵芥処理工	処分費		t	1	
河川維持	樹木・芝生管理工	捕植	樹種 樹高	本	1	
道路修繕	路面切削工	路面切削	施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有 無	m ²	1	
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	1	
道路修繕		舗装版破碎	舗装版種別	m ²	1	
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	全面切削深さ 舗設層数 段差すりつけ区分	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
			アスファルト材料種類			
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	中間層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	m ²	1	
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	m ²	1	
道路修繕	床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法)	鋼板接着		m ²	1	
道路修繕		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路修繕		足場	安全ネットの有無	m ²	1	
道路修繕		防護		m ²	1	
道路修繕		増桁架設	障害の有無	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし		m ²	1	
道路修繕	床版取替工	鋼製高欄取替	作業区分 高欄形式	m	1	
道路修繕		床版運搬処理	処理費の有無 作業内容積込 工法区分	m ³	1	
道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強		m	1	
道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	伸縮装置補修	m	0.1	
道路修繕		埋設ジョイント補修	ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式	m	0.1	
道路修繕	鋼橋・P C 支承工	支承取替	支承形式 現場条件	基	1	
道路修繕	検査路工	検査路		t	0.1	
道路修繕	沓座拡幅工	チップング		m ²	1	ただし10m ² 未満の場合は0.1m ²
道路修繕		削孔	削孔工法 削孔土質	孔	1	
道路修繕		アンカーボルト挿入	アンカーボルト種類 注入材材質	本	1	
道路修繕		鋼製沓座設置	鋼製沓座種類 設置箇所数	箇所	1	
道路修繕	排水施設工	排水樹	樹規格	箇所	1	
道路修繕		排水管	管規格	m	1	
道路修繕	横断歩道橋工	高欄・手摺		t	0.1	
道路修繕		側板	作業区分 側板規格	t	0.1	
道路修繕		ノンスリップ	ノンスリップの規格	m	1	
道路修繕	R C 橋脚鋼板巻立て工	鋼板取付	注入材材質	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数 位	備 考
道路修繕		現場溶接	平均板厚	m	1	
道路修繕		定着用アンカー	径 削孔長	箇所	1	
道路修繕		円形基部補強版		段	1	
道路修繕		根巻きコンクリート	コンクリート規格	m ³	1	
道路修繕	橋脚コンクリート巻立て	コンクリート削孔	径 削孔長 アンカー材の有無 アンカー材長さ	箇所	1	
道路修繕		コンクリート巻立て	支柱区分 施工内容 コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	m ³	1	
道路修繕		下地処理		m ²	1	
道路修繕	現場塗装工	素地調整	調整工種別	m ²	1	
道路修繕		塗装(下・中・上塗)	塗装種別 塗装箇所 塗装回数	m ²	1	
道路修繕		張紙防止塗装	塗料種別	m ²	1	
道路修繕		コンクリート面・岩盤清掃		m ²	1	
道路修繕	トンネル工	内装板	内装板材質	m ²	1	
道路修繕		裏込注入	注入材種類 配合 トンネル種別 トンネル平均距離 足場の有無	m ³	1	
道路修繕		面導水	導水材種類	m ²	1	
道路修繕		線導水	導水材種類	m	1	
道路修繕		銅板巻立て	支柱区分 注入材材質	m ²	1	
道路修繕		グルーピング	溝寸法・溝間隔 施工規模 舗装面種類	m ²	1	
道路修繕		グルーピング(路面排水用)	溝寸法 舗装面種類	m	1	
道路修繕		銅・ゴム製伸縮装置補修	工種 伸縮装置本体形式 仕様 本体材料の計上の有無	m	1	
道路修繕	橋梁補修工	橋梁地覆補修	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	m	1	
道路修繕		充てん工法	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		低圧注入工法	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		左官工法	1 橋当りの延べ施工量 材料種類 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	橋	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
道路修繕		下地処理	1 橋当りの延べ施工量	橋	1	
道路修繕		プライマー塗布	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		下塗り(パテ塗布)	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		中塗り材塗布	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路修繕		上塗り材塗布	1 橋当りの延べ施工量 材料種類	橋	1	
道路維持	巡視・巡回工	通常巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持		緊急巡回	巡回車種類 巡回時間帯	回	1	
道路維持	コンクリート舗装補修工	アスファルト注入	材料種類 削孔数	t	0.1	ただし1t未満の場合は0.01t
道路維持		舗装版目地補修	材料種類	m	1	
道路維持		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路維持	アスファルト舗装維持工	わだち掘れ補修	材料種類	m ²	1	
道路維持		パッチング	材料種類	t	0.1	
道路維持	付属物復旧工	ガードレール復旧	作業区分 使用材料	m	1	
道路維持		ガードケーブル復旧	ガードケーブル規格 材料費の有無 作業条件	m	1	
道路維持		ガードパイプ復旧	作業区分 使用材料	m	1	
道路維持		転落(横断)防止柵復旧	防護柵種類 柵高 支柱間隔 根巻コンクリートの有無 施工区分 施工規模	m	1	
道路維持		路側標識復旧	柱規格 柱長さ 塗装仕様 曲げ支柱有無 施工規模	基	1	
道路維持		標識板復旧	標識板規格 添架形式 [標識設置箇所] 施工規模	枚	1	
道路維持		視線誘導標復旧	視線誘導標 規格施工区分 施工規模	本	1	
道路維持		距離標復旧	距離標規格 作業区分	本	1	
道路維持		張紙防止シート復旧	シート種類	m ²	1	
道路維持	路面清掃工	路面清掃(機械)	作業形態	km	0.1	
道路維持		路面清掃(路肩部・人力)	作業形態 塵芥量	km	0.1	
道路維持		路面清掃(歩道・人力)	作業形態 塵芥量	m ²	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
道路維持		路面清掃(歩道橋・地下 道・人力)	作業形態 塵芥量	m ³	1	
道路維持		路面清掃(中央分離帯・ 人力)	作業形態 塵芥量	m ³	1	
道路維持	路肩整正	路肩整正(機械)	作業形態	km	0.1	
道路維持		路肩整正(人力)	作業形態 運搬距離	m ²	1	
道路維持	排水施設清掃工	側溝清掃(人力)	作業形態 側溝蓋規格	m	1	
道路維持		側溝清掃(機械)	作業形態	km	0.01	
道路維持		管渠清掃	作業形態 作業量区分 排水管清掃車使用区分 側溝清掃車使用区分 散水車の使用区分 散水車機種	m	1	
道路維持		柵清掃	作業形態 機械使用区分 土砂厚	箇所	1	
道路維持	橋梁清掃工	伸縮継手清掃	作業形態	m	1	
道路維持		排水管清掃	作業形態 高所作業車の機械使用条件	m	1	
道路維持	道路付属物清掃工	ガードレール清掃	作業形態 支柱清掃の有無 ガードレール清掃車の使用 区分 散水車の使用区分 散水車機種 ガードレール清掃車機種	km	0.1	
道路維持		ガードパイプ清掃	作業形態	m	1	
道路維持		トンネル照明器具清掃 (機械)	作業形態	km	0.1	
道路維持		トンネル照明器具清掃 (人力)	作業形態 高所作業車の機械使用条件	灯	1	
道路維持		視線誘導標清掃	作業形態	本	1	
道路維持		トンネル壁面清掃	作業形態 散水車使用区分 ブラシ使用区分 (貸与の場合：) 散水車機 種	m ²	1	
道路維持	道路除草工	除草		m ²	10	ただし1,000m ² 未満の 場合は1m ²
道路維持	応急処理工	応急作業	作業形態	日	1	
道路維持	冬季安全施設工	スノーボール設置・撤去	スノーボール種類 作業区分 スノーボール材料の計上	本	1	
道路維持		防雪柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	
道路維持		落雪(せり出し)防護柵	防雪防護柵種類 柵高	m	1	

	種 別	細 別	規 格	設計表示 単位	数値	備 考
道路維持		防雪柵現地張出・収納	防雪柵種類 作業区分	m	1	
雪寒	一般・運搬・歩道除雪	各種	機種 作業種別 種別時間帯（昼間or夜間） 機械持込or貸与	時間	1	
雪寒	凍結防止工	各種	機種 時間帯（昼間or夜間） 機械持込or貸与 消耗品持込or貸与	時間	1	
雪寒		凍結防止剤	薬剤種類 作業種別 支給品（表示有無を選択）	t	1	
雪寒		凍結防止剤	薬剤種類 作業種別 支給品（表示有無を選択）	ℓ	1	
雪寒		除雪補助		時間	1	
雪寒		積雪投棄	作業種別 時間帯（昼間or夜間）	時間	1	
雪寒		ハンドガイド式除雪機	小型除雪車機種 作業種別 時間帯（昼間or夜間）	時間	1	
雪寒		小型除雪車	小型除雪車機種	時間	1	
雪寒	安全処理工	雪瑕疵処理	作業形態 作業種別	時間	1	
雪寒		つらら処理	作業形態	時間	1	
雪寒		人工雪崩	作業形態	式	1	
雪寒	雪道巡回工	巡回	巡回車種類 作業種別 時間帯（昼間or夜間） 機械持込or貸与 消耗品持込or貸与	回	1	
雪寒	待機補償費	要員・連絡員	機種種類 待機体制	時間	1	
雪寒		待機補償費	待機体制	式	1	
雪寒	保険費	除雪保険	保険種類	式	1	
雪寒	除雪機械修理工	除雪機械修理	修理内容	式	1	
電気通信		ケーブル		m	1	
電気通信		電線		m	1	
電気通信		電線管		m	1	
機械		鋼材類		t	0.01	ただし1 t 未満の場合は0.001 t

第6章 建設機械運転労務等

① 建設機械運転労務……………Ⅰ-6-①- 1	④ 一般事項……………Ⅰ-6-④- 1
1 適用職種……………Ⅰ-6-①- 1	1 建設機械運転労務……………Ⅰ-6-④- 1
2 労務歩掛……………Ⅰ-6-①- 1	2 指定事項における運転労務数量について ……………Ⅰ-6-④- 1
② 原動機燃料消費量……………Ⅰ-6-②- 1	3 運転日当り運転時間(T) ……Ⅰ-6-④- 1
1 適用範囲……………Ⅰ-6-②- 1	4 運転手を計上する機械……………Ⅰ-6-④- 1
2 燃料消費量……………Ⅰ-6-②- 1	5 ダム工事及び大型造成工事について ……………Ⅰ-6-④- 2
③ 機械運転単価表……………Ⅰ-6-③- 1	6 労務単価について……………Ⅰ-6-④- 2
	7 歩掛について……………Ⅰ-6-④- 2
	8 運転手職種別の対象機械……………Ⅰ-6-④- 2

第 6 章 建設機械運転労務等

① 建設機械運転労務

1. 適 用 職 種

建設機械の運転・操作にかかわる職種区分は、次表を標準とする。

表1.1 適用職種

職 種	適用建設機械
運 転 手 （ 特 殊 ）	特殊免許、資格等を必要とする建設機械
運 転 手 （ 一 般 ）	上記以外で、公道を走行する建設機械
特 殊 作 業 員	上記以外で、公道を走行できない建設機械

2. 労 務 歩 掛

2-1 運転手の労務歩掛

機械運転1時間当り労務歩掛は、次式による。

$$\text{歩掛} = \frac{1}{T} \text{ (人／h) } \cdots \cdots \text{式 2. 1}$$

(注) 1. Tは運転日当り運転時間で請負工事機械経費積算要領第4第4項及び同第6の定めによる。

なお、Tは4～7時間について適用するものとし、Tが4時間未満の場合は4を、7時間を超える場合は7を使用する。

2. 運転日当り運転時間(T)は、小数第2位を四捨五入して小数第1位止めとし、機械運転1時間当り労務歩掛は、小数第3位を四捨五入して小数第2位止めとする。

② 原動機燃料消費量

1. 適用範囲

本資料は、建設工事に使用する建設機械等の燃料消費量の算出に適用する。

2. 燃料消費量

2-1 燃料消費量の算定

燃料消費量の算定は、請負工事機械経費積算要領による建設機械等損料算定表の種類、規格の機関出力と次に示す時間当り燃料消費率を乗じて求める。

時間当り燃料消費量＝機関出力×時間当り燃料消費率

- (注) 1. 時間当り燃料消費量の数値は、有効数字の第3位を四捨五入し、有効数字2桁とする。
2. 走行用エンジン及び作業用エンジンの双方を有する機械は、双方のエンジン出力を合計した機関出力とする。
3. ディーゼルパイルハンマの燃料消費率は、単位が(ℓ/h-t)(t:ラム質量)なので、機関出力に替えてラム質量を乗ずる。

2-2 時間当り燃料消費率

時間当り燃料消費率(日常保守点検等に必要な油脂類及び消耗品等を含む)は、次表を標準とする。

表2.1 運転1時間当り燃料消費率

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
1	ブ ル ド ー ザ		0.153	
2	リッパ装置付ブルドーザ			
3	小 型 バ ッ ク ホ ウ			
4	バ ッ ク ホ ウ			
5	ク ラ ム シ ェ ル			
6	ク ロ ー ラ ロ ー ダ (トラクタショベル)			
7	ホ イ ー ル ロ ー ダ (トラクタショベル)			
8	バ ッ プ ク リ ッ ト ホ ウ (ハ イ プ リ ッ ト 型)	クローラ型・デ ィーゼル／電 気ハイブリット 型	0.128	
9	ダ ン プ ト ラ ッ ク	オフロード・ (建設専用)	0.085	15t以上
10		オンロード	0.043	
11	ト ラ ッ ク			クレーン装置付を含 む
12	ト レ ー ラ		0.075	
13	不 整 地 運 搬 車	クローラ型	0.134	
14	ク ロ ー ラ ク レ ー ン		0.076	
15	ト ラ ッ ク ク レ ー ン	ラチスジブ型・油 圧伸縮ジブ型	0.044	オールテレーンクレー ンを含む
16	ラフテレーンクレーン		0.088	

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
17	ディーゼルパイルハンマ		7.648 ℓ/h-t	tはラム質量
18	バ イ ブ ロ ハ ン マ	電動式	E 0.305 kWh/kW	
		油圧式・可変式	0.308	
19	杭打機（ベースマシン）		0.085	
20	杭 打 タ ジ ャ ッ ト		0.192 E 0.533 kWh/kW	
21	油 圧 ハ ン マ		0.181	
22	油圧式鋼管圧入引抜機 (ジャッキ)		E 0.305 kWh/kW	
23	油圧式杭圧入引抜機		0.145	
24	アースオーガ		E 0.436 kWh/kW	
25	アースオーガ中掘式		0.085	ベースマシン
26	クローラ式アースオーガ		E 0.436 kWh/kW	装置
27	粉体噴射攪拌機・二軸式			
28	粉 体 噴 射 攪 拌 機	改良材供給機	E 0.533 kWh/kW	
29	オールケーシング掘削機	1エンジン (クローラ式)	0.181	
		2エンジン (クローラ式)	0.093	
		据置式	0.104	
30	マッドスクリーン		E 0.305 kWh/kW	
31	泥排水処理装置	フィルタ プレス式	E 0.560 kWh/kW	
32	グラウトポンプ		0.207 E 0.613 kWh/kW	
33	グラウトミキサ			
34	ボーリングマシン		0.151 E 0.429 kWh/kW	
35	ドリルジャンボ	レール式	E 0.171 E 0.415 kWh/kW	
		クローラ式		
		ホイール式		
36	自由断面トンネル掘削機		E 0.429 kWh/kW	
37	N A T M 機器集じん器		E 0.700 kWh/kW	

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW・h)	摘 要
38	コンクリート吹付機	トンネル 工事用	E 0.466 kWh/kW	
39	急結剤供給装置			
40	吹付ロボット			
41	モータグレーダ		0.108	ヒータプレーナ装着 型を含む
42	スタビライザ		0.111 E 0.331 kWh/kW	
43	ロードローラ		0.118	
44	タイヤローラ		0.085	
45	振 動 ロ ー ラ (舗 装 用)	ハンドガイド	0.231	
		搭乗式	0.160	
46	タンパ及びランマ		G 0.346	
47	振動コンパクタ			
48	コンクリートプラント		E 0.495 kWh/kW	
49	モルタルプラント			
50	ベントナイトミキサ			
51	トラックミキサ		0.059	
52	コンクリートポンプ車		0.078	
53	アスファルト フィニッシャー		0.147	加熱用燃料は含まない
54	ディストリビュータ		0.090	
55	コンクリートスプレッダ		0.122	
56	アグリゲートスプレッダ			
57	コンクリート フィニッシャー			
58	コンクリートレベラ			
59	フィクッシング マシン			
60	コンクリートカッタ		G 0.227	
61	アスファルト スプレッダ			
62	アスファルトカーバ			
63	路面切削機		0.144	
64	廃材積込機		0.218	

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW・h)	摘 要
65	路 上 表 層 再 生 機		0.142	
66	路面安全溝切削機 (グルーピング機械)			
67	路面ヒータ(路上表層 再生機用)		0.160	
68	路 面 清 掃 車		0.063	
69	ガードレール清掃車			
70	ト ン ネ ル 清 掃 車			
71	側 溝 清 掃 車		0.052	
72	排 水 管 清 掃 車		0.044	
73	散 水 車			
74	高 所 作 業 車			
75	ガードレール支柱打込機		0.051	
76	草 刈 車	路肩カッタ付	0.071	
77	空 気 圧 縮 機	定置式 可搬式	0.187	トンネル工事は別途
			E 0.595 kWh/kW	
78	ブ ロ ャ 送 風 機 (フ ィ ャ ン)		0.156 E 0.681 kWh/kW	軸流ファン[反転軸流 式・可変風量型]は除 く
79	軸 流 フ ィ ャ ン	反転軸流式・ 可変風量型	E 0.571 kWh/kW	
80	ポ ン プ		0.323	
81	小 型 渦 巻 ポ ン プ		G 0.495 E 0.900 kWh/kW	
82	工事用水中モータポンプ (潜 水 ポ ン プ)		E 0.584 kWh/kW	
83	サ ン ド ポ ン プ			
84	発 動 発 電 機		0.145 G 0.436	
85	ウ イ ン チ		0.108 E 0.305 kWh/kW	
86	電 気 溶 接 機		0.261 G 0.403	電気使用量はそれぞ れの資料による
87	ベ ル ト コ ン ベ ヤ		0.293 G 0.512 E 0.560 kWh/kW	
88	モ ル タ ル 吹 付 機		0.191	
89	作 業 車		0.038	

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
90	ラ イ ト バ ン	二輪駆動	0.047 G 0.047	
91		四輪駆動		
92	中 小 型 ト ラ ッ ク			
93	マ イ ク ロ バ ス		0.064 G 0.071	
94	草 刈 機	肩掛式	G 0.588	
		遠隔操縦式	0.209	
		ハンドガイド式	0.178 G 0.354	
95	集 草 機			
96	動 力 噴 霧 機		0.261 G 0.266	
97	コ ン ク リ ー ト パ イ ク レ ニ タ		G 0.347 E 0.540 kWh/kW	
98	照 明 機	可搬式	0.638	
99	ト ラ ク タ	ホイール式	0.120	
100	ポ ン プ 式 浚 渫 船		重油 0.381	
101	引 船		重油 0.252	
102	除 雪 ド ー ザ	ホイール	0.153	
103	除 雪 グ レ ー ダ			
104	除 雪 ト ラ ッ ク		0.078	
105	小 型 除 雪 機	ハンドガイド	0.193 G 0.356	
106	ロ ー タ リ 除 雪 車	クローラ29kW級	0.162	
		クローラ59kW級	G 0.139	
		30～180 kW級	0.137	
		220～360 kW級	0.114	
107	一 車 線 積 込 除 雪 車	ロータリ式	0.089	
108	凍 結 防 止 剤 散 布 装 置		0.090	
109	凍 結 防 止 剤 散 布 車		0.058	
110	レ ー キ ド ー ザ		0.175	
111	ト ラ ク タ	クローラ式		
112	ス ク レ ー プ ド ー ザ			
113	タ イ ヤ ド ー ザ			

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
114	モータースクレーパ		0.163	
115	泥 上 掘 削 機		0.175	
116	ト レ ン チ ャ		0.152	
117	ダンプトラック	ガソリン	G 0.071	
118	不 整 地 運 搬 車	ホイール型	0.160	
119	シャトルカー		E 0.560 kWh/kW	
120	タワークレーン		0.101 E 0.305 kWh/kW	
121	ジブクレーン		E 0.305 kWh/kW	
122	二本構リフト	モータウインチ		
123	一本構リフト	モータウインチ		
124	工事用エレベータ			
125	門型クレーン			
126	簡易ケーブルクレーン		0.108	
127	フォークリフト		0.037	
128	ク ン ロ パ イ ル 打 式 サ ン ド パ イ ル 打 機		0.085	ベースマシン
			E 0.305 kWh/kW	装置
129	粉体噴射攪拌機	単 軸 式	E 0.305 kWh/kW	
130	トラッスォーク式 アースドリング		0.053	
131	ラフテレーンクレーン 装着式アースォーガ		0.103	
132	アースドリル掘削機		0.093	
133	リバースサーキュレル シ ョ ン ド ユ リ ル		E 0.426 kWh/kW	フロント装置吊上げクレーン は杭打機(ベースマシン) を適用
134	杭 打 や ぐ ら		E 0.305 kWh/kW	
135	サイクロン		E 0.900 kWh/kW	
136	サクションポンプ			
137	圧 送 ポ ン プ			
138	安 定 液 ミ キ サ		E 0.533 kWh/kW	
139	泥排水処理装置	ベルトプレス式	E 0.871 kWh/kW	
140	汚 泥 吸 排 車		0.053	
141	ニューマチックケーソン 施 工 機 器 (潜 函 用 シ ョ ベ ル)		E 0.600 kWh/kW	

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
142	ク ー リ ン グ タ ワ ー		E 0.700 kWh/kW	
143	シ ー ル ド 工 事 用 機 器	パ ワ ー ユ ニ ッ ト	E 0.533 kWh/kW	
144	一 次 分 離 機		E 0.900 kWh/kW	
145	汚 水 槽			
146	粘 土 溶 解 槽			
147	高 分 子 凝 集 剤 溶 解 槽			
148	ス ラ リ ー ポ ン プ			
149	イ ン ナ ー バ イ ブ レ ー タ	自 走 式	0.122	
150	コ ン ク リ ー ト ミ キ サ		E 0.495 kWh/kW	
151	コ ン ク リ ー ト ポ ン プ		E 0.410 kWh/kW	
152	法 面 締 固 め 機		0.167	
153	チ ッ プ ス プ レ ッ ダ		0.127	
154	ア ス フ ァ ル ト ク ッ カ		0.164	
155	コ ン ク リ ー ト 横 取 機		0.293	
156	ジ ョ イ ン ト ク リ ー ナ		G 0.174	
157	振 動 目 地 切 機		G 0.233	
158	区 画 線 消 去 機	ハ ン ド ガ イ ド 式		
159	ラ イ ン マ ー カ	ペ イ ン ト ・ ハ ン ド ガ イ ド 式		
		溶 融 ・ 自 走 式 ペ イ ン ト ・ 車 載 式	0.068	
160	溶 解 槽			
161	排 水 性 舗 装 機 能 回 復 車		0.063	
162	透 光 性 し ゃ 音 壁 清 掃 車		0.040	
163	歩 道 清 掃 車			
164	排 水 管 清 掃 車	CNG	C 0.043 m³/kW-h	
165	小 型 多 段 遠 心 ポ ン プ		E 0.900 kWh/kW	
166	真 空 ポ ン プ			

(つづく)

(つづき)

No.	機 械 名	規 格	燃 料 消 費 率 (ℓ/kW-h)	摘 要
167	電 動 ホ イ ス ト		E 0.305 kWh/kW	
168	チェーンブロック (電動式)			
169	土 砂 排 出 機			
170	簡 易 や ぐ ら			
171	両 端 固 定 式 ケーブルクレーン		E 0.305 kWh/kW 0.108	
172	ム カ デ コ ン ベ ヤ		E 0.560 kWh/kW	
173	油 圧 ジ ャ ッ キ		E 0.533 kWh/kW	
174	コンクリート吹付機		E 0.410 kWh/kW	
175	急 結 剤 供 給 装 置 (吹付機用)			
176	種 子 吹 付 機		0.191	
177	エ ン ジ ン 付 ミ キ サ		G 0.162	
178	工 事 用 高 圧 洗 浄 機		E 0.900 kWh/kW G 0.255	
179	薬 剤 散 布 機		G 0.103	
180	エ レ ク タ		E 0.255 kWh/kW	
181	切 断 機		E 0.305 kWh/kW	
182	草 結 束 機		G 0.515	
183	木 材 破 碎 機		0.185	
184	自 走 式 破 碎 機			
185	チ ェ ン ソ ー		G 0.450 ℓ/h	左記は時間当り燃料消費量である
186	ポ ン プ 浚 渫 船		E 1.217 kWh/kW	
187	除 雪 ド ー ザ	ク ロ ー ラ	0.166	
188	ロ ー タ リ 除 雪 装 置		0.141	ロータリ式88kW型 ベースマシン(除雪ドーザ)

(注) G：ガソリン E：電力 C：圧縮天然ガス 印のないものは軽油である。

運転日当り電力消費量

表2.2 運転日当り電力消費量

工 種 名	機 械 名	消 費 量
トンネル工 (NATM) 及び 小断面トンネル工 (NATM)	セメントサイロ 30t	E 8.0 kWh
小断面トンネル工 (NATM)	ズリ積機 クローラ式・バックホウ型 コンベヤ能力 150m³/h	E 27.0 kWh

③ 機械運転単価表

本資料は、各工種に使用する機械のうち、標準的な機種について単価表を示したものであり、各工種の単価表欄の指定に基づき作成する。

1. 各工種の中で特に指定していない場合は、次による。

- (1) 労務歩掛は「第Ⅰ編第6章①建設機械運転労務」による。
- (2) 主燃料の種類及び数量、油脂類は「第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量」による。

2. 各機種、規格ごとに次の事項を記入する。

- (1) 表題には、機械名を記入する。
- (2) 燃料費の規格欄には、燃料の種類を記入する。
- (3) 機械損料の規格欄には、機械の規格を記入する。

機－1		運転1時間当り単価表		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		第Ⅰ編第6章①建設機械運転労務による
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－2		運転1時間当り単価表		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		第Ⅰ編第6章①建設機械運転労務による
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
損 耗 費		//	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－3		運転1時間当り単価表		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		第Ⅰ編第6章①建設機械運転労務による
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料 1 ()		h	1	
機 械 損 料 2 ()		//	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 機械損料の()内には、機械名を記入する。

機－4 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		第 I 編第 6 章①建設機械運転労務による
(電 力)		kWh		
燃 料 費		ℓ		第 I 編第 6 章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

機－5 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		第 I 編第 6 章①建設機械運転労務による
(電 力)		kWh		
燃 料 費		ℓ		第 I 編第 6 章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料 1 ()		h	1	
機 械 損 料 2 ()		//	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. 機械損料の()内には、機械名を記入する。
2. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

機－6 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (一般)		人		第 I 編第 6 章①建設機械運転労務による
燃 料 費		ℓ		第 I 編第 6 章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－7 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (一般)		人		第 I 編第 6 章①建設機械運転労務による
燃 料 費		ℓ		第 I 編第 6 章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
損 耗 費		//	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－8 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－9 運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1 / T	
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T：運転日当り運転時間

機－10 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		
普 通 船 員		〃		
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

機－11 運転1時間又は1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
() 船 員		人		
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料				
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) () 内は、船員の種別を記入する。

機－12 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機-13

運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		第 I 編第 6 章②原動機燃料消費量による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機-14

運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
(電 力)		kWh		
機 械 損 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機-15

運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
(電 力)		kWh		
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。
2. 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機-16

運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		
賃 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機-17

運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		施工歩掛による
機 械 損 料		h	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は、施工歩掛に含まれている。

機－18 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機－19 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (一般)		人		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機－20 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		
(電 力)		kWh		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料 1 ()		供用日		
機 械 損 料 2 ()		//		
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 1. 機械損料の()内には、機械名を記入する。
2. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

機－21 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		
(電 力)		kWh		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。

機－22 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (一般)		人		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
損 耗 費		//		
諸 雑 費		式	1	
計				

機-23 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機-24 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

機-25 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
(電 力)		kWh		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。
2. 運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

機-26 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		
普 通 船 員		〃		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機-27 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		
賃 料		日	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 運転歩掛は、賃料に含まれている。

機－28 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特殊)		人		
燃 料 費		ℓ		
賃 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機－29 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (一般)		人		
燃 料 費		ℓ		
賃 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機－30 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
(電 力)		kWh		
賃 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 1. 発動発電機を電源とする場合は、電力の積算はしない。
2. 運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

機－31 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		
燃 料 費		ℓ		
賃 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	
計				

機－32 運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日	1.4	
損 耗 費		〃	1.4	
諸 雑 費		式	1	
計				

④ 一 般 事 項

1. 建設機械運転労務

運転手の労務歩掛の考え方

- (1) 運転手は通年雇用的な常用とみなす。
- (2) 1人工は実働8時間とする。

2. 指定事項における運転労務数量について

各工種における当該機械毎の機械運転単価表において、指定事項に運転労務数量が指定されている場合は、これによるものとする。

指定事項において運転労務数量が指定されていない場合は、第I編第6章①建設機械運転労務によるものとする。

3. 運転日当り運転時間(T)

- (1) 作業が標準状態である場合、運転日当り運転時間(T)は建設機械等損料算定表に示す年間標準運転時間、年間標準運転日数等より算出した値を使用する。
ただし、各工種における当該機械毎に運転労務数量が指定されている場合は、これによる。
- (2) 工事の施工に特別な条件がない場合、作業は標準状態とみなす。
- (3) 積上げで求めた運転日当り運転時間(T)と標準時間(T_0)の差が T_0 に対し $\pm 20\%$ 未満の場合には、標準状態とみなし、標準時間 T_0 を使用することができる。
- (4) 設計変更その他不可抗力等により、当初の契約条件を変更するため運転日当り運転時間(T)が著しく変更する場合($\pm 20\%$ 以上の場合)は、運転日当り運転時間(T)を変更する。
- (5) 運転日当り運転時間(T)が4時間未満の場合、歩掛は全て $T = 4$ 時間で積算し同一運転手による他の機械の運転等を考慮する。又運転日当り運転時間(T)が7時間を超える場合も歩掛はすべて $T = 7$ 時間で積算し、場合によっては2シフト制を考慮する。
- (6) 運転日当り運転時間(T)は、小数第2位を四捨五入して小数第1位止めとし、機械運転1時間当り労務歩掛は、小数第3位を四捨五入して小数第2位止めとする。

4. 運転手を計上する機械

道路交通法に定める運転免許が必要な建設機械並びにこれと同等の機械(フィニッシャ、アスファルトプラント等)とする。

運転手を計上する条件を運転手(特殊)及び運転手(一般)と分類してその各々の内容を次のとおりとする。

- (1) 運転手(特殊)
重機械(道路交通法第84条に規程する大型特殊免許または労働安全衛生法第61条第1項に規程する免許、資格もしくは技能講習の修了を必要とし、運転及び操作に熟練を要するもの。)の運転及び操作について相当程度の技能を有し、主として重機械を運転または操作及び整備点検、給油脂、清掃等の作業。
- (2) 運転手(一般)
道路交通法第84条に規程する運転免許(大型免許、中型免許、普通免許等)を有し、主として機械を運転または操作及び整備点検、給油脂、清掃等の作業。
- (3) 特殊作業員としての取扱い
軽機械(道路交通法第84条に規程する運転免許または労働安全衛生法第61条第1項に規程する免許、資格もしくは技能講習の修了を必要とせず、運転及び操作に比較的熟練を要しないもの。)を運転または操作して行う作業。

5. ダム工事及び大型造成工事について

ダム工事及び大型造成工事については、機械付世話役及び助手を別途考慮する。

6. 労務単価について

単価は、公共工事設計労務単価による。

- ・世話役の単価について（6.1）
機械付世話役単価は、土木一般世話役の労務単価とする。
- ・助手の単価（58.2）
助手の単価は、普通作業員の単価とする。
- ・機械工の単価（58.2）
機械工の単価は溶接工の単価とする。

7. 歩掛について

（1） 損料との関係

- 1） 機械の供用日数、運転時間の定義等についてはすべて「請負工事機械経費積算要領」によるものとする。
- 2） 時間当り損料 労務歩掛積算要領表（表－1）

8. 運転手職種別の対象機械

運転手職種別の対象機械は、表－2のとおりとする。

表－1 時間当り損料 労務歩掛積算要領表

施 工 条 件	時間当り損料(円／h)	労 務 歩 掛(人／h)	摘 要
(1) 稼働状態が標準の場合	損料＝損料表(13)欄	$4 \leq T \leq 7$ ではT $T < 4$ の場合は $T = 4$ $7 < T$ の場合は $T = 7$ として、標準歩掛の式 2.1 による。	Tは機種により一定 $T = \frac{\text{損料表(3)欄}}{\text{損料表(4)欄}}$
(2) 稼働状態が標準と異なる場合	損料＝損料表(9)欄 ＋損料表(11)欄／t t：供用日当り運転時間 (積上げにて積算) 小数第2位を四捨五入 して小数第1位止め	(1)に同じ	$4 \leq T \leq 7$ では損料T と歩掛Tは一致する。 $T < 4$ ， $7 < T$ では損 料Tと歩掛は一致しな い。
(3) 特に作業条件が標準と異なる場合 (ハードワーク等)	損料＝損料表(9)欄 ×(1±α)損料表 ＋(11)欄／t	(1)に同じ	算定表の割増率を使用
(4) 積雪寒冷地で使用する場合	損料＝損料表(9)欄 ＋損料表(11)欄 ×β／t	(1)に同じ	算定表の割増率を使用

表-2 運転労務適用職種一覧

機 械 名	規 格		機 械 量	運転手 (特殊)	運転手 (一般)	特 殊 作業員	摘 要
ブ ル ド ー ザ	1 t		—			○	
	3 t 以上		—	○			
	リッパ装置付		—	○			
レ ー キ ド ー ザ タ イ ヤ ド ー ザ	3 t 級未満		—			○	
	3 t 級以上		—	○			
ト ラ ク タ	クローラ	3 t 級未満	—			○	
		3 t 級以上	—	○			
	ホイール	—	3t未満		○		
		—	3t以上	○			
スクレープドーザ ス ク レ ー パ モ ー タ ス ク レ ー パ	各 種		—	○			
バックホウ, クラムシェル ド ラ グ ラ イン	機 械 式		3t以上	○			
	クローラ	山積0.08m ³ 級以下 (平積0.06m ³)	—			○	
		山積0.11m ³ 級以上 (平積0.08m ³)	—	○			
	ホイール	山積0.28m ³ 級以上 (平積0.2m ³)	—	○			
ク ロ ー ラ ロ ー ダ (トラクタショベル)	山積0.25m ³ 級以下		—			○	
	山積0.4m ³ 級以上		—	○			
ホ イ ー ル ロ ー ダ (トラクタショベル)	山積0.4m ³ 級以下		—		○		
	山積0.5m ³ 級以上		—	○			
ク ロ ー ラ ク レ ーン	1 t 吊未満		—			○	
	1 t 吊以上		—	○			
ト ラ ッ ク ク レ ーン ラ フ テ レ ーン ク レ ーン	1 t 吊未満		—		○		
	1 t 吊以上		—	○			
モ ー タ グ レ ー ダ	各 種		—	○			
サ ン ド パ イ ル 打 機	パイプロ式		—	○			
ク ロ ー ラ 杭 打 機	ブ ー ム 式		—	○			
	直 結 式		—	○			
路 面 清 掃 車	ブラシ式 フロントリフトダンプ		—	○			
	上 記 以 外		—		○		
トラック式アースオーガ	各 種		—	○			
大 型 ブ レ ー カ	〃		—	○			バックホウ架装
散 水 車	〃		—		○		
側 溝 清 掃 車	〃		—		○		

(つづく)

(つづき)

機 械 名	規 格	機 械 質 量	運転手 (特殊)	運転手 (一般)	特 殊 作業員	摘 要
排 水 管 清 掃 車	各 種	—		○		
ガードレール清掃車	ブラシ式	—		○		
トンネル清掃車	〃	—		○		
ト ラ ッ ク	普 通 クレーン装置付1 t吊未満	—		○		
	クレーン装置付1 t吊以上	—	○			
ダ ンプ ト ラ ッ ク	オンロード	—		○		
	オフロード(建設専用)	—		○		
不 整 地 運 搬 車	積載質量1 t未満	—			○	
	積載質量1 t以上	—	○			
水陸両用運搬車(泥上車)	各 種	—	○			
作 業 車	各 種 (クレーン装置付1 t吊以上を除く)	—		○		クレーン装置付1 t吊以上の機種であって、クレーンを使用しない場合は運転手(一般)のみ計上
	〃 (クレーン装置付1 t吊以上)	—	○			
高 所 作 業 車	作業床高10m未満	—		○		
	作業床高10m以上	—	○			
コンクリートポンプ車	配 管 式	—	○			
	ブ ーム 式	—	○			
ラ イ ン マ ー カ	自 走 式	—		○		
	車 載 式	—		○		
ロ ー ド ロ ー ラ	マカダム	—	○			
	タンデム	—	○			
タ イ ヤ ロ ー ラ	各 種	—	○			
振 動 ロ ー ラ	自走式2.5～2.8t 以下	—			○	
	〃 3.0～5.0t 以上	—	○			
コンクリートフィニッシャ	3.0～4.5m以上	—	○			
コンクリートスブレッダ	ブレード式・ボックス式	—	○			
コンクリートレベラー	3.0～7.5m	—	○			
アスファルトフィニッシャ	各 種	—	○			
アスファルトプラント	〃	—	○			
ア ス フ ァ ル ト ディストリビュータ	〃	—		○		
アスファルトスブレッダ	自走式・各種	—		○		
ス タ ビ ラ イ ザ	路上混合自走式各種	—	○			
ト レ ン チ ャ	自 走 式	3t 未満			○	
	〃	3t 以上	○			

(つづく)

(つづき)

機 械 名	規 格	機 械 質 量	運転手 (特殊)	運転手 (一般)	特 殊 作業員	摘 要
アジテータトラック (トラックミキサ)	各 種	—		○		
ヒ ー タ プ レ ー ナ		—	○			
路 面 切 削 機	クローラ式・ホイール式	—	○			
マ イ ク ロ バ ス		—		○		
ラ イ ト バ ン		—		○		
ウ イ ン チ	5 t 吊未満	—			○	
	5 t 吊以上	—	○			
草 刈 車	大型自走式(履帯式)	—			○	
草 刈 機	肩掛式・ハンドガイド式	—			○	

第7章 土木請負工事の 特許使用料の積算

① 土木請負工事の特許使用料の積算について.....	Ⅰ-7-①- 1

第7章 土木請負工事の特許使用料の積算

① 土木請負工事の特許使用料の積算について

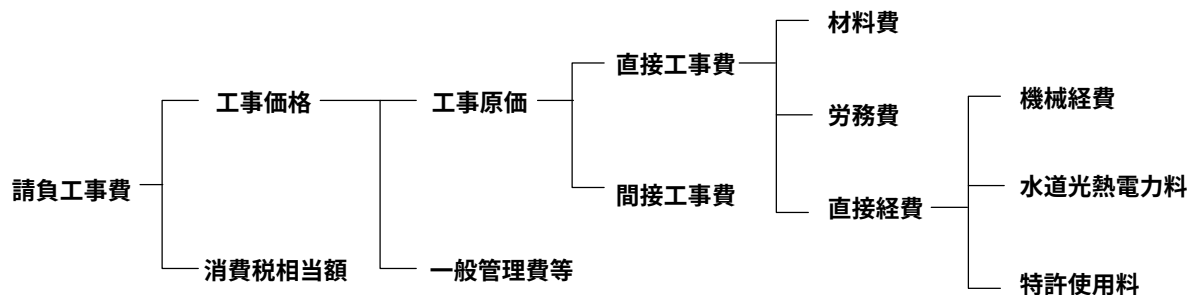
1. 土木請負工事費の積算において必要な、特許使用料の算定については次のとおりとする。ただし、これにより難しい場合は別途考慮するものとする。

(1) 特許使用料の適用

特許使用料の適用は、特許権等に係る施工法・試験法・製造法並びに特許権、実新案権及び意匠権等を用いて施工・製作させた装置等、工業所有権等に係るもの全てを対象とした特許工法等とし、特許法に基づく手続のうち、設定登録が完了している場合及び出願を完了し、且つ、設定登録が完了していない手続き期間において、当該工法等を使用する積算に適用する。また、特許使用料を計上するのは、共有特許及び民間特許工法等を使用する場合とする。

(2) 特許使用料の積算

特許使用料は、工事を施工するのに直接必要とする経費とし、その算定は契約に基づき使用する特許の使用料および派出する技術者等に要する費用の合計額とする。



1) 特許使用料の算出

共有特許工法等を使用する場合は、実施契約に基づく、民間企業等が有する特許権の持分に対応した特許使用料を計上し、民間特許工法等を使用する場合は、当該特許工法に係る全ての特許使用料を計上する。

なお、特許権、実用新案権及び意匠権等を用いて施工・製作させた装置等については、特許使用料が含まれている場合があるので留意されたい。

第8章 時間的制約を受ける 公共土木工事の積算

① 時間的制約を受ける公共土木工事の積算について……………	I-8-①- 1

第8章 時間的制約を受ける公共土木工事の積算

① 時間的制約を受ける公共土木工事の積算について

1. 公共土木工事において、下記に示す項目により継続的に時間的制約を受け、通常の作業時間を確保することができない場合における当該作業の積算に係る労務費の算定は次のとおりとする。

(1) 時間的制約条件

- 1) 現道の交通量の多い時間帯
- 2) 通勤・通学の時間帯
- 3) 公的な輸送機関（バス・鉄道等）のピークとなる時間帯
- 4) 工事場所周辺地域の生活、各種営業活動等の時間帯等

以上の時間帯を避けた施工を必要とする場合とする。

ただし、ある特定の日のみの制約（例：毎週○曜日のみ）を受ける場合は適用しない。

(2) 制約を受ける作業時間の適用範囲

制約を受ける作業時間については、4時間/日以上～7.5時間/日以下とする。

なお、制約を受ける作業時間が4時間/日未満の場合は、別途施工条件等を考慮し適正に積算するものとする。

(3) 労務費の算定方法

時間的に制約を受ける工事の設計労務単価の補正割増しは、以下の方法により行うものとする。

1) 作業時間の算出

拘束時間＝作業終了時間－作業開始時間（なお、標準拘束時間は9時間とする）

作業時間＝拘束時間－1時間（休憩時間帯）（なお、標準作業時間は8時間とする）

2) 補正割増し係数

時間的制約状況の程度	補正割増し係数
時間的制約を受ける場合	1.06
時間的制約を著しく受ける場合	1.14

注) 「時間的制約を受ける場合」とは、作業時間が7時間/日を超え7.5時間/日以下をいう。

「時間的制約を著しく受ける場合」とは、作業時間が4時間/日以上～7時間/日以下をいう。

3) 設計労務単価の補正割増し

設計労務単価は、次式により補正割増しを行うものとする。

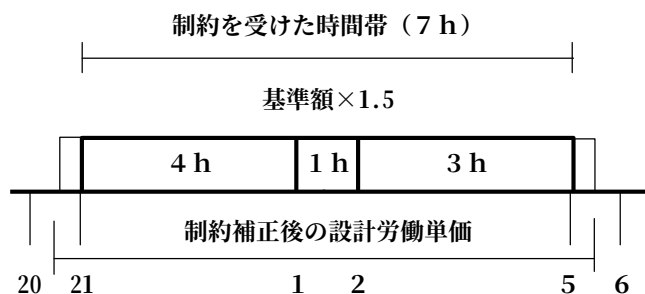
イ) 通常勤務すべき時間帯（8時～17時）内において作業時間に制約を受ける場合の設計労務単価

設計労務単価＝公共工事設計労務単価×補正割増し係数

ロ) 施工条件により、やむを得ず通常勤務すべき時間帯（8時～17時）を外して作業を行う場合の設計労務単価（例－1、例－2）

設計労務単価＝〔公共工事設計労務単価＋割増し賃金〕×補正割増し係数

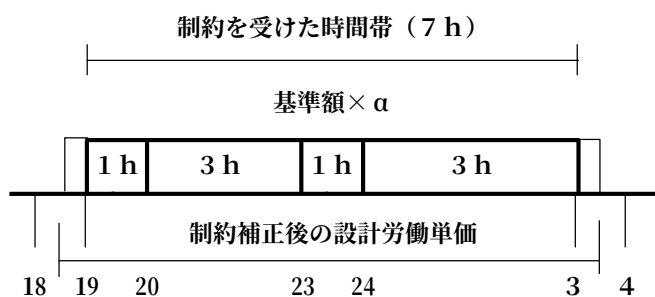
(例－1) 20時～6時の時間帯の中で21時～5時までの時間的制約を受けた場合



$$\begin{aligned} \text{設計労務単価} &= [\text{基準額} + \text{割増し賃金}] \times \text{補正割増し係数} \\ &= \text{基準額} \times 1.5 \times 1.14 \\ &= \text{基準額} \times 1.71 \end{aligned}$$

ただし、割増し賃金＝基準額×0.5

(例－2) 18時～4時の時間帯の中で19時～3時までの時間的制約を受けた場合



$$\begin{aligned} \text{設計労務単価} &= [\text{基準額} + \text{割増し賃金}] \times \text{補正割増し係数} \\ &= \text{基準額} \times 1.428 \times 1.14 \\ &= \text{基準額} \times 1.628 \end{aligned}$$

ただし、α＝割増し率

$$\begin{aligned} &= (1\text{h} \times 1.0 + 6\text{h} \times 1.5) / 7\text{h} \\ &= 1.428 \end{aligned}$$

割増し賃金＝基準額×0.428

ハ) 設計労務単価に他の特殊割増し（積雪寒冷地域での冬期割増し等）を合わせて考慮する場合は、割増し部分が重複しないように注意するものとする。

ニ) 機械付労務の労務費についても補正割増しの対象とする。

(4) 機械損料の補正

時間的制約を受ける工事の積算にあたって、機械損料を補正する場合には「建設機械損料の算定について」（建設省機発第65号）〔昭和55年2月22日付〕により、行うものとする。

(5) 工期の設定

時間的制約を受ける工事の工期設定にあたっては、制約された作業時間により適正な工期の設定を行うものとする。

第9章 土木請負工事における 現場環境改善費の積算

① 土木請負工事における現場環境改善費の積算	I-9-①- 1

第9章 土木請負工事における現場環境改善費の積算

① 土木請負工事における現場環境改善費の積算

1. 対象となる内容は次のとおりとする。

工事に伴い実施する現場環境改善（仮設備関係、営繕関係、安全関係）及び地域連携に関するものを対象とする。

2. 適用の範囲

周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施するもので、原則、すべての屋外工事を対象とする。ただし、維持工事等で実施が困難なもの及び効果が期待出来ないものについては、対象外とすることが出来る。

3. 積算方法

(1) 現場環境改善費の積算は、以下の方法により行うものとする。ただし、標準的な現場環境改善を行う場合は率計上とし、特別な内容を実施する場合は積上げ計上とする。

イ. 積算方法は以下のとおりとし、現場環境改善費に計上するものとする。

$$K = i \cdot P_i + \alpha$$

ただし K：現場環境改善費（単位：円、1,000 円未満切り捨て）

i：現場環境改善費率（単位：%，小数第3位四捨五入2位止め）

P_i：対象額（直接工事費（処分費等を除く共通仮設費対象分）＋支給品費（共通仮設費対象分）＋無償貸付機械等評価額）

なお、対象額が5億円を超える場合は5億円とする。

α：積上げ計上分（単位 円、1,000 円未満切り捨て）

対象額：P _i		現場環境改善費率：i（%）	
		大都市（1）、（2） 市街地	左記以外
直接工事費（処分費等を除く） ＋ 支給品費 ＋ 無償貸付機械等評価額	5億円以下の場合	$i = 56.6 \cdot P_i^{-0.174}$	$i = 39.9 \cdot P_i^{-0.201}$
	5億円を超える場合	1.73	0.71

ロ. 率に計上されるものは、別表－1の内容のうち原則として各計上費目（現場環境改善のうち仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携）ごとに1内容ずつ（いずれか1費目のみ2内容）の合計5つの内容を基本とした費用である。

また、選択にあたっては地域の状況・工事内容により組み合わせ、実施費目数及び実施内容を変更しても良い。

ハ. 積上げ計上分（α）に計上するものは、費用が巨額となるため現場環境改善費率分で行うことが適当でない判断されるものとする。

ニ. なお、経費率は現場環境改善費の各費目を1本化した全体での率である。

ホ. 現場環境改善に関する費用の対象額は5億円を限度とする。

(2) 設計変更について

率に計上されるものについては、設計変更を行わないものとする。ただし、対象金額（Pi）の変動に伴う現場環境改善費率 i は変更される。また、積上げ計上分（α）については、内容に変更が生じた場合は設計変更の対象とする。

[別表－1]

計上費目	実施する内容（率計上分）
現場環境改善 （仮設備関係）	1.用水・電力等の供給設備，2.緑化・花壇 3.ライトアップ施設，4.見学路及び椅子の設置 5.昇降設備の充実，6.環境負荷の低減
現場環境改善 （営繕関係）	1.現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 2.労働宿舍の快適化 3.デザインボックス（交通誘導警備員待機室） 4.現場休憩所の快適化 5.健康関連設備及び厚生施設の充実等
現場環境改善 （安全関係）	1.工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 2.盗難防止対策（警報器等） 3.避暑（熱中症予防）・防寒対策
地域連携	1.完成予想図、2.工法説明図、3.工事工程表 4.デザイン工事看板（各工事 PR 看板含む） 5.見学会等の開催（イベント等の実施含む） 6.見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 7.パンフレット・工法説明ビデオ 8.地域対策費（地域行事等の経費を含む） 9.社会貢献

第 10 章 工事の一時中止に伴う 増加費用等の積算

① 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について……………	I -10-①- 1

第10章 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算

① 工事の一時中止に伴う増加費用等の積算について

土木請負工事を一時中止した場合の増加費用等の負担については、下記により積算するものとする。

1. 増加費用等の考え方

1-1 増加費用等の適用

増加費用等の適用は、発注者が工事の一時中止(部分中止により工期延期となった場合を含む)を指示し、それに伴う増加費用等について受注者から請求があった場合に適用する。

1-2 増加費用等の範囲

増加費用として積算する範囲は、工事現場の維持に要する費用、工事体制の縮小に要する費用、工事の再開準備に要する費用、中止により工期延期となる場合の費用、工期短縮を行った場合の費用とする。

(1) 工事現場の維持に要する費用

工事現場の維持に要する費用とは、中止期間中において工事現場を維持し又は工事の続行に備えて機械器具、労務者又は技術職員(専門職種を含む。以下同じ。)を保持するために必要とされる費用等とする。

(2) 工事体制の縮小に要する費用

工事体制の縮小に要する費用とは、中止時点における工事体制から中止した工事現場の維持体制にまで体制を縮小するため、不要となった機械器具、労務者又は技術職員の配置転換に要する費用等とする。

(3) 工事の再開準備に要する費用

工事の再開準備に要する費用とは、工事の再開予告後、工事を再開できる体制にするため、工事現場に再投入される機械器具、労務者、技術職員の転入に要する費用等とする。

(4) 中止により工期延期となる場合の費用

中止により工期延期となる場合の費用とは、工期延期となることにより追加で生じる社員等給与、現場事務所費用、材料の保管費用、仮設諸機材の損料等に要する費用等とする。

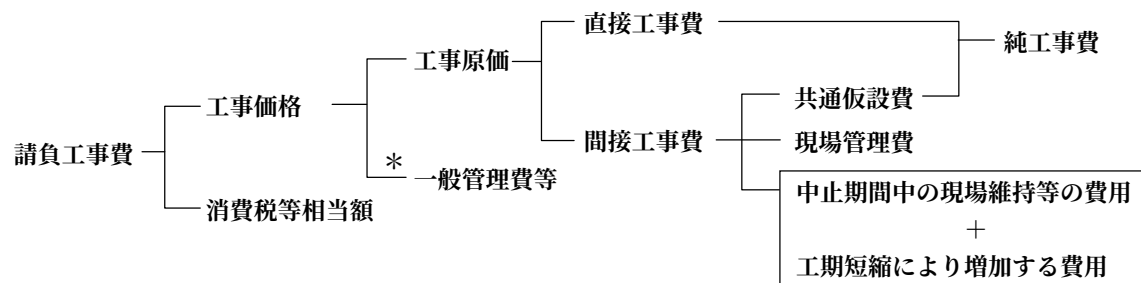
(5) 工期短縮を行った場合の費用

工期短縮を行った場合の費用とは、工期短縮の要因が発注者に起因する場合、自然条件(災害等含む)に起因する場合の工期短縮に要する費用等とする。なお、工期短縮の要因が受注者に起因する場合は増加費用を見込まないものとする。

2. 増加費用等の算定

2-1 増加費用等の構成

中止期間中の現場維持等に要する費用は、工事原価内の間接工事費の中で計上し、一般管理費等の対象とする。



*中止に伴う本支店における増加費用を含む

(注) 中止に伴い発注者が新たに受取り対象とした材料、直接労務及び直接経費に係る費用は、該当する工種に追加計上し、設計変更により処理するものとする。

増加費用は、原則、工事目的物又は仮設に係る工事の施工着手後を対象に算定することとし、中止期間3ヶ月以内の算定方法は以下のとおりとする。ただし、中止期間が3ヶ月を超える場合等は、別途考慮すること。

2-2 中止期間中の現場維持等に要する費用

(1) 標準積算により算定する場合、中止期間中の現場維持等に要する費用として積算する内容は以下の積上げ項目及び率項目とする。

1) 積上げ項目

積上げ計上する項目は、直接工事費、仮設費及び事業損失防止施設費における材料費、労務費、水道光熱電力等料金、機械経費で現場維持等に要する費用であり、下記の内容とする。

イ. 直接工事費に計上された材料(期間要素を考慮した材料)及び仮設費に計上された仮設材等の中止期間中に係る損料額及び補修費用

ロ. 直接工事費、仮設費及び事業損失防止施設費における項目で現場維持等に要する費用

2) 率で計上する項目

中止に伴い増加する費用の内、現場経費で算定する内容は下記のとおりとする。

イ. 運搬費の増加費用

現場搬入済みの建設機械(質量20t以上の建設機械含む)の工事現場外への搬出又は工事現場への再搬入に要する費用及び大型機械類等の現場内小運搬。

ロ. 安全費の増加費用

工事現場の維持に要する費用

(保安施設、保安要員の費用及び火薬庫、火工品庫の保安管理に要する費用)

ハ. 役務費の増加費用

仮設費に係る土地の借り上げ等に要する費用、電力及び用水等の基本料金

ニ. 営繕費の増加費用

現場事務所、労働者宿舎、監督員詰所及び火薬庫等の営繕損料に要する費用

ホ. 現場管理費の増加費用

- ・現場維持のために現場へ常駐する社員等従業員給料手当及び労務管理費等に要する費用
- ・工事体制縮小のための労務者又は技術職員の配置転換に要する費用
- ・工事再開のための労務者又は技術職員の転入に要する費用
- ・工期延期となることにより追加で生じる社員等従業員給料手当

(2) 算定方法

中止に伴う現場維持等に要する費用の算定は、下記の式により算出する。

$$G = dg \times J + \alpha$$

ただし、

G：中止期間中の現場維持等の費用(単位 円 1,000円未満切り捨て)

dg：中止に係る現場経費率(% 小数第4位四捨五入3位止め)

(前記2-2(1)2)に示す率項目)

J：対象額(一時中止時点の契約上の現場管理費対象純工事費)(単位 円 1,000円未満切り捨て)

α ：積上げ費用(単位 円 1,000円未満切り捨て)

(前記2-2(1)1)に示す積上げ項目)

1) 中止に伴い増加する現場経費率

$$dg = \left[A \left\{ \left(\frac{J}{a \times J^b + N} \right)^B - \left(\frac{J}{a \times J^b} \right)^B \right\} \right] + \frac{(N \times R \times 100)}{J}$$

ただし、

dg：一時中止に伴い増加する現場経費率(% 小数第4位四捨五入3位止め)

(前記2-2(1)2)に示す率項目)

J：対象額(一時中止時点の契約上の現場管理費対象純工事費)(単位 円 1,000円未満切り捨て)

N：中止日数(日)

ただし、部分中止の場合は、部分中止に伴う工期延期日数。

R：公共工事設計労務単価(土木一般世話役)

A, B, a, b：各工種毎に決まる係数(別表-1)

別表-1

工 種 区 分		係 数 A			係 数 B	係 数 a	係 数 b
		地方部（一般交通等の影響なし）	地方部（一般交通等影響有） 山間僻地離島	市街地 （D I D地区・準ずる地区）			
河川工事		739.2	781.0	807.6	-0.2636	0.3687	0.3311
河川・道路構造物工事		180.4	190.6	197.2	-0.1562	0.8251	0.3075
海岸工事		105.5	111.4	115.2	-0.1120	1.6285	0.2498
道路改良工事		339.5	358.7	370.9	-0.1935	0.4461	0.3348
鋼橋架設工事		550.3	581.5	601.3	-0.2612	0.0717	0.4607
P C 橋工事		476.3	503.2	520.4	-0.2330	0.8742	0.3058
橋梁保全工事		180.4	190.6	197.2	-0.1562	0.8251	0.3075
舗装工事		453.4	479.0	495.4	-0.2108	0.0761	0.4226
共同溝等工事	(1)	209.6	221.5	229.1	-0.1448	0.1529	0.4058
	(2)	154.8	163.6	169.1	-0.1153	0.3726	0.3559
トンネル工事		293.8	310.3	321.0	-0.1718	0.0973	0.4252
砂防・地すべり等工事		151.0	159.5	164.9	-0.1379	0.4267	0.3357
道路維持工事		96.0	101.4	104.9	-0.0926	0.1699	0.3933
河川維持工事		439.2	464.0	479.9	-0.2138	0.0144	0.5544
下水道工事	(1)	437.5	462.4	478.1	-0.2054	0.0812	0.4356
	(2)	135.2	142.9	147.8	-0.1089	0.2598	0.3771
	(3)	106.4	112.6	116.3	-0.1078	0.5988	0.3258
公園工事		244.3	258.1	267.0	-0.1733	0.2026	0.3740
コンクリートダム工事		351.8	371.8	384.5	-0.1793	11.6225	0.1998
フィルダム工事		508.1	536.9	555.1	-0.2055	0.0617	0.4440
電線共同溝工事		256.9	271.4	280.8	-0.1615	8.1264	0.1740

第 11 章 施工箇所が点在する 工事の積算

① 施工箇所が点在する工事の積算について.....	I -11-①- 1

第 11 章 施工箇所が点在する工事の積算

① 施工箇所が点在する工事の積算について

施工箇所が点在する工事については、建設機械を複数箇所に運搬する費用や複数箇所の交通規制等がそれぞれの箇所で発生するなど、積算額と実際かかる費用に乖離があるため、共通仮設費、現場管理費を箇所ごとに算出する積算とする。

1. 対 象 工 事

施工箇所が複数あり、施工箇所が1 kmを超えて点在する工事を対象とする。

なお、維持工事等、当初契約において工事場所を範囲で指定する工事は除く。

ただし、これによりがたい場合は個別に考慮できる。

2. 工事箇所の設定方法及び積算方法

- (1) 施工規模の大きい箇所を「親設計書」とし、その他の施工箇所を「子設計書」と分類する。
- (2) 主たる工種区分は、工事全体で判断する。(施工箇所毎に主たる工種区分を設定しない。)
- (3) 直接工事費の施工規模等の入力条件は、対象地区毎の数量から選択する。
- (4) 労務費、材料費等単価の地区設定は、施工箇所毎に設定する。
- (5) 共通仮設費及び現場管理費については、施工箇所毎に算出した合計額とする。
- (6) 共通仮設費率及び現場環境改善費率、現場管理費率の補正については、施工箇所毎に設定する。積上げ項目のうち、施工箇所毎に分割できない場合は、直接工事費の最も大きい施工箇所に計上する。
- (7) 一般管理費等については、施工箇所毎に分けない積算（以下、「通常の積算」と同様とする。
なお、一般管理費算出時の、共通仮設費率及び現場管理費率にかかる、施工地域を考慮した補正は、親設計書で設定した係数によるものとする。
- (8) 業務委託料は、親設計書に計上する。

	＜通常の積算＞	＜施工箇所ごとの積算＞			＜施工箇所所在用積算＞		
		親	子1	子2	親	子1	子2
直接工事費	①A (②A+③A+④A)	②A	③A	④A	②A	③A	④A
共通仮設費	⑤B	⑥B	⑦B	⑧B	⑥B	⑦B	⑧B
現場管理費	⑨C	⑩C	⑪C	⑫C	⑩C	⑪C	⑫C
一般管理費等	⑬D	⑭D	⑮D	⑯D	⑬D		
共通仮設費の算定	⑤B：①Aを対象額で算出	⑥B：②Aを対象額で算出 ⑦B：③Aを対象額で算出 ⑧B：④Aを対象額で算出	⑥B+⑦B+⑧Bとする				
現場管理費の算定	⑨C：(①A+⑤B)を対象額で算出	⑩C：(②A+⑥B)を対象額で算出 ⑪C：(③A+⑦B)を対象額で算出 ⑫C：(④A+⑧B)を対象額で算出	⑩C+⑪C+⑫Cとする				
一般管理費等の算定	⑬D：(①A+⑤B+⑨C)を対象額で算出	⑭D：(②A+⑥B+⑩C)を対象額で算出 ⑮D：(③A+⑦B+⑪C)を対象額で算出 ⑯D：(④A+⑧B+⑫C)を対象額で算出	⑬D：(①A+⑤B+⑨C)を対象額で算出				

図2. 1 施工箇所が点在する場合の積算イメージ

※積算のイメージ
従 来： (A市直接工事費+B市直接工事費+C町直接工事費)×間接費率
本運用： (A地区(施工箇所a)直接工事費×間接費率)
+ (B地区(施工箇所b)直接工事費×間接費率)
+ (C地区(施工箇所c)直接工事費×間接費率)
※一般管理費等は通常どおり

3. 設計変更について

- (1) 親設計書および子設計書それぞれに対して、変更作業を行う。
- (2) 新規工種の追加は、施工箇所毎に判断する。
- (3) 一般管理費等については、通常の積算と同様とする。

＜通常の変更積算＞		＜施工箇所所在用変更積算＞				
新規箇所(A)が追加となった場合		新規箇所(A：子3)が追加になった場合				
		親	子1	子2	子3	
直接工事費	①A' (②A'+③A'+④A') +A	②A'	③A'	④A'	A	
	+		+			
共通仮設費	⑤B'	⑥B'	⑦B'	⑧B'	B	
	+		+			
現場管理費	⑨C'	⑩C'	⑪C'	⑫C'	C	
	+		+			
一般管理費等	⑬D'	⑬D'				
共通仮設費の算定	⑤B'：①A'を対象額で算出	⑥B'：②A'を対象額で算出 ⑦B'：③A'を対象額で算出 ⑧B'：④A'を対象額で算出 B：Aを対象額で算出 ⑥B'+⑦B'+⑧B'+Bとする				
現場管理費の算定	⑨C'：(①A'+⑤B')を対象額で算出	⑩C'：(②A'+⑥B')を対象額で算出 ⑪C'：(③A'+⑦B')を対象額で算出 ⑫C'：(④A'+⑧B')を対象額で算出 C：(A+B)を対象額で算出 ⑩C'+⑪C'+⑫C'+Cとする				
一般管理費等の算定	⑬D'：(①A'+⑤B'+⑨C')を対象額で算出	⑬D'：(①A'+⑤B'+⑨C')を対象額で算出				

図3. 1 施工箇所が点在する場合の変更積算イメージ

第 12 章 1 日未満で完了する 作業の積算

① 1 日未満で完了する作業の積算……Ⅰ-12-①- 1

第12章 1日未満で完了する作業の積算

① 1日未満で完了する作業の積算

1. 適用条件

本基準は、変更積算にのみ適用する。

施工実施にあたり、1日未満で完了する作業量の作業が見込まれ、施工パッケージ型積算基準と乖離が認められる場合に本基準を用いて積算するものとする。

本基準の採用にあたっては、契約期間内に受注者から当該積算の適用についての請求があった場合に、受発注者間の協議において、作業内容が当該積算基準に該当すると認められる場合に適用する。

同一作業員の作業が他工種・細別の作業と組合せて1日作業となる場合には、当該積算は適用しない。

2. 適用範囲

1日未満で完了する作業の積算は、表に記載の施工パッケージを使用して積算する工事に限って適用するものとする。

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第Ⅱ編 共通工 第1章 土工	床掘工	床掘り	m3	32	・床掘りは、条件区分で、施工方法が「上記以外（小規模）」の場合に限って適用する。
		舗装版破碎積込 （小規模土工）	m2	23	
	埋戻工	埋戻し	m3	40	・埋戻しは、条件区分で、施工方法が「上記以外（小規模）」の場合に限って適用する。 ・埋戻し、タンパ締固めに係る作業を一連の作業として判定する。
		タンパ締固め	m3	36	
第2章 共通工	法面整形工	法面整形	m2	I-14-④による	・基礎碎石，裏込碎石，基礎栗石，裏込栗石，採取小割に係る作業を一連の作業として判定する。
		基礎碎石	m2	155	
		裏込碎石	m3	38	
		基礎栗石	m2	敷均し：161 敷並べ：100	
		裏込栗石	m3	かき込み：31 築立て：10	
		採取小割	m3	I-14-④による	
	排水構造物 工	ヒューム管（B形管）	m	I-14-④による	・ヒューム管（B型管），ボックスカルバート，暗渠排水管，フィルター材，管（函）渠型側溝（製品長 2m/個），プレキャスト集水枡，鉄筋コンクリート台付管，プレキャストL型側溝（製品長 0.6m/個），プレキャストマンホール，PC管，コルゲートパイプ，コルゲートフリュームに係る作業を一連の作業として判定する。
		ボックスカルバート	m	I-14-④による	
		暗渠排水管	m	I-14-④による	
		フィルター材	m3	36	
		管（函）渠型側溝 （製品長 2m/個）	m	I-14-④による	
		プレキャスト集水枡	基	I-14-④による	
		プレキャスト集水枡 （材料費）	基	-	
		鉄筋コンクリート台 付管	m	I-14-④による	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第2章 共通工	排水構造物 工	プレキャストL型側溝 (製品長0.6m/個)	m	L型側溝単体：33 L型側溝＋ 基礎砕石：29	
		プレキャストマンホール	基	2,000kg/基以下：4 2,000kg/基を超え 4,000kg/基以下：3	
		PC管	m	I-14-④による	
		コルゲートパイプ	m	I-14-④による	
		コルゲートフリューム	m	I-14-④による	
	構造物とりこ わし工	石積取壊し(人力)	m2	I-14-④による	・石積取壊し(人力)，コンクリートはつり，積込(コンクリート殻)に係る作業を一連の作業として判定する。
		コンクリートはつり	m2	3cm以下：21 3cmを超え 6cm以下：13	
		積込(コンクリート殻)	m3	260	
	殻運搬	殻運搬	m3	I-14-④による	
第4章 コンクリート 工	コンクリート 工	コンクリート	m3	I-14-④による	・コンクリート，モルタル練に係る作業を一連の作業として判定する。
		モルタル練	m3	I-14-④による	
	型枠工	型枠	m2	I-14-④による	・型枠，化粧型枠に係る作業を一連の作業として判定する。
		化粧型枠	m2	-	
		化粧型枠(材料費)	m2	-	
		撤去しない埋設型枠(材料費)	m2	-	
第Ⅲ編 河川 第2章 河川維持工	堤防除草工	除草	m2	I-14-④による	・除草，集草，梱包，積込・荷卸，運搬(堤防除草)，除草，集草(人力)，梱包，積込・荷卸(総合)，除草，集草(機械)，梱包，積込・荷卸(総合)に係る作業を一連の作業として判定する。
		集草	m2	I-14-④による	
		梱包	m2	7,570	
		積込・荷卸	m2	I-14-④による	
		運搬(堤防除草)	m2	I-14-④による	
		除草，集草(人力)，梱包，積込・荷卸(総合)	m2	I-14-④による	
		除草，集草(機械)，梱包，積込・荷卸(総合)	m2	I-14-④による	
	堤防天端 補修工	不陸整正・締固め	m2	不陸整正・補修材 敷均し・締固め：690 不陸整正・締固め ：1,340	
	堤防芝養生工	抜根	m2	I-14-④による	・抜根，施肥に係る作業を一連の作業として判定する。
		施肥	m2	13,600	
	伐木除根工	伐木・伐竹(伐木除根)	m2	I-14-④による	・伐木・伐竹(伐木除根)，除根(伐木除根)，整地(伐木除根)，集積(人力施工)(伐木除根)，積込(人力施工)(伐木除根)，運搬(伐木除根)，伐木・伐竹(複合)に係る作業を一連の作業として判定する。
		除根(伐木除根)	m2	1,160	
		整地(伐木除根)	m2	880	
		集積積込み(機械施工)(伐木除根)	m2	除根有：720 除根無：940	
		集積(人力施工)(伐木除根)	m2	1,180	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第2章 河川維持工	伐木除根工	積込（人力施工） （伐木除根）	m2	21,300	
		運搬（伐木除根）	m2	I-14-④による	
		伐木・伐竹（複合）	m2	I-14-④による	
	塵芥処理工	散在塵芥収集	m2	I-14-④による	・散在塵芥収集，堆積塵芥収集（機械処理），堆積塵芥収集（人力処理）に係る作業を一連の作業として判定する。
		堆積塵芥収集（機械処理）	m3	I-14-④による	
		堆積塵芥収集（人力処理）	m3	I-14-④による	
	機械土工 （河床等掘削）	河床等掘削	m3	147	
		軟弱土等運搬	m3	I-14-④による	
	巨石積（張） 工	巨石張（練）	m2	25	・巨石張（練），巨石張（空），巨石積（練）に係る作業を一連の作業として判定する。
		巨石張（空）	m2	27	
		巨石積（練）	m2	30	
		巨石（材料費）	m2	-	
		巨石採取	個	38	
	木杭打工	木杭打	本	58	
		護岸基礎			
		プレキャスト基礎	m	I-14-④による	
		プレキャスト基礎 （材料費）	m	-	
	ブロック工	中詰コンクリート （材料費）	m	-	・プレキャスト基礎，中詰コンクリート打設に係る作業を一連の作業として判定する。
		中詰コンクリート打設	m3	17	
	かごマット工 （スロープ型）	かごマット設置 （スロープ型）	m2	I-14-④による	
	野芝種子 吹付工	野芝種子吹付	m2	1,429	・野芝種子吹付，被覆シート張，養生（散水養生）に係る作業を一連の作業として判定する。
		被覆シート張	m2	1,429	
		養生（散水養生）	m2	1,667	
	袋詰玉石工	袋詰玉石	袋	I-14-④による	
	笠コンクリート ブロック据 付工	笠コンクリートブロック	m	I-14-④による	
		笠コンクリートブロック （材料費）	m	-	
	グラウトホール 工	グラウトホール	組	5	
		グラウト管（材料費）	組	-	
	光ケーブル配 管工	掘削（光ケーブル配管）	m3	28	・配管設置（埋設部），配管設置（露出部），ハンドホールに係る作業を一連の作業として判定する。
		埋戻し・締固め	m3	13	
		敷砂，保護砂（材料費）	m3	-	
		配管設置（埋設部）	m	96	
		配管設置（露出部）	m	121	
		配管支持金具（材料費）	個	-	
		プルボックス（材料費）	個	-	
		可とう電線管（材料費）	m	-	
		伸縮継手（材料費）	個	-	
		ノーマルバンド （材料費）	個	-	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第2章 河川維持工	光ケーブル配管工	多孔保護管（材料費）	m	-	
		ハンドホール	個	1	
第IV編 道路 第1章 舗装工	路盤工	不陸整正	m2	1,580	・不陸整正，下層路盤（車道・路肩部），上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「粒度調整碎石」に限る。）に係る作業を一連の作業として判定する。 ※上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「瀝青安定処理」に限る。）については，アスファルト舗装工の適用による。
		下層路盤（車道・路肩部）	m2	1,110	
		上層路盤（車道・路肩部）	m2	瀝青安定処理 ：2,300 粒度調整碎石 ：1,110	
		下層路盤（歩道部）	m2	268	
		上層路盤（歩道部）	m2	268	
	アスファルト舗装工	基層（車道・路肩部）	m2	I-14-④による	・上層路盤（車道・路肩部）（条件区分で，材料が「瀝青安定処理」に限る。），基層（車道・路肩部），中間層（車道・路肩部），表層（車道・路肩部）に係る作業を一連の作業として判定する。
		中間層（車道・路肩部）	m2	I-14-④による	
		表層（車道・路肩部）	m2	I-14-④による	
		基層（歩道部）	m2	I-14-④による	
		中間層（歩道部）	m2	I-14-④による	
		表層（歩道部）	m2	I-14-④による	
		アスカーブ	m	260	
第2章 附属施設	立入り防止柵工	基礎ブロック（立入り防止柵）	個	22	・基礎ブロック（立入り防止柵），金網（フェンス）・支柱（立入り防止柵），支柱に係る作業を一連の作業として判定する。
		金網（フェンス）・支柱（立入り防止柵）	m	30	
		支柱	本	74	
		支柱（材料費）	本	-	
	車止めポスト設置工	車止めポスト	本	5	
	道路付属物設置工	距離標	本	I-14-④による	
第3章 道路 維持 修繕工	路面切削工	路面切削	m2	I-14-④による	
		殻運搬（路面切削）	m3	I-14-④による	
	舗装版破碎工	舗装版破碎	m2	I-14-④による	
	舗装版切断工	舗装版切断	m	I-14-④による	
	舗装版クラック補修工	クラック補修	m	620	・クラック補修，クラック防止シート張に係る作業を一連の作業として判定する。
		注入材（材料費）	m	-	
		クラック防止シート張	m	930	
		クラック防止シート（材料費）	m	-	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第3章 道路 維持 修繕工	道路付属 構造物塗替工	素地調整	m2	I-14-④による	・素地調整, 付属構造 物塗替に係る作業を一 連の作業として判定す る。
		付属構造物塗替	m2	ポール類 : 89 防護柵類・ 落石防止柵類 : 121	
	張紙防止塗装工	張紙防止塗装	m2	ケレン作業 : 14 張紙防止塗装 (1層当り) : 32	
		張紙防止塗装 (材料費)	m2	-	
	橋梁地覆補修工	とりこわし	m3	1.4	
		鉄筋	t	0.36	
		コンクリート	m3	0.76	
	橋梁補修工 (現場溶接鋼桁補強工)	現場溶接鋼桁補強	m	14	
	落橋防止装置工	コンクリート削孔 (コアボーリングマシン)	孔	I-14-④による	・コンクリート削孔(コ アボーリングマシン) 又は(ハンマドリル) もしくは(さく岩機[ハ ンドドリル]), アンカ ー, 充填補修に係る作 業を一連の作業として 判定する。
		コンクリート削孔 (ハンマドリル)	孔	84	
		コンクリート削孔 (さく岩機[ハンドドリ ル])	孔	200 超え 500 以下 : 48 500 超え 800 以下 : 38	
		アンカー	本	I-14-④による	
		アンカー材(材料費)	本	-	
		注入材(材料費)	本	-	
		充填補修	孔	59	
		補修材(材料費)	孔	-	
	道路除草工	除草	m2	I-14-④による	・除草, 集草, 積込運 搬, 機械除草(肩掛 式)・集草・積込運搬, 機械除草(肩掛式)・集 草, 機械除草(ハンド ガイド式)・集草・積込 運搬, 機械除草(ハン ドガイド式)・集草に係 る作業を一連の作業と して判定する。
		集草	m2	2,760	
		積込運搬	m2	I-14-④による	
		機械除草(肩掛式)・ 集草・積込運搬	m2	I-14-④による	
		機械除草(肩掛式)・集草	m2	1,240	
		機械除草(ハンドガイ ド式)・集草・積込運搬	m2	I-14-④による	
		機械除草(ハンドガイ ド式)・集草	m2	1,902	
	路面清掃工 (人力清掃工)	路面清掃(路肩部・人力)	km	I-14-④による	・路面清掃(路肩部・ 人力), 路面清掃(歩道 部・人力)に係る作業 を一連の作業として判 定する。
		路面清掃(歩道部・人力)	m2	I-14-④による	
	視線誘導標清掃工	視線誘導標清掃	本	支柱付 : 189 ガードレール用 及び頭部のみ : 286	

編・章	工種	施工パッケージ	単位	作業日当り 標準作業量	摘要
第3章 道路 維持 修繕工	側溝清掃工 (人力清掃工)	側溝清掃(人力清掃工)	m	I-14-④による	
	集水桝清掃工 (人力清掃工)	桝清掃(人力清掃工)	箇所	I-14-④による	
	トンネル 漏水対策工	面導水	m ²	34	・面導水, 線導水に係る作業を一連の作業として判定する。
		面導水(材料費)	m ²	-	
		線導水	m	10	
		線導水(材料費)	m	-	
	沓座拡幅工	チップング (厚1~2cm)	m ²	13	・チップング(厚1~2cm), アンカーボルト挿入, 及び落橋防止装置工のうちコンクリート削孔(コアボーリングマシン), コンクリート削孔(ハンマドリル), コンクリート削孔(さく岩機[ハンドドリル])に係る作業を一連の作業として判定する。
		アンカーボルト挿入	本	333	
		アンカーボルト(材料費)	本	-	
		注入材(材料費)	本	-	
	桁連結工	桁連結装置(材料費)	t	-	・芯出し素地調整, 現場孔明, 連結板取付, 現場溶接, ボルト締めに係る作業を一連の作業として判定する。
		芯出し素地調整	m ²	10	
		現場孔明	本	10本以上/箇所: 80 作業性の悪い箇所等: 40	
		連結板取付	箇所	10	
		現場溶接	m	5.6	
		ボルト締め	本	10本以上/箇所: 200 作業性の悪い箇所等: 100	
	路肩整正(人力による土はね)	路肩整正(人力による土はね)	m ²	37	
	防護柵復旧工	ガードレール復旧	m	コンクリート, 土中 建込用支柱及びレール: 3.6 レールのみ: 5.0	・ガードレール復旧, ガードパイプ復旧に係る作業を一連の作業として判定する。
		ガードパイプ復旧	m	コンクリート, 土中 建込用支柱及びパイプ: 4.9 パイプのみ: 6.8	

3. 判定方法

1日未満で完了する作業の判定は、次の方法によるものとする。

(1) 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の判定方法

$x/D < 1$ の場合に1日未満で完了する作業とする。

x ：作業量

D ：作業日当り標準作業量

(2) 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の判定方法

$\Sigma (x_i/D_i) < 1$ の場合に1日未満で完了する作業とする。

x_i ：各施工パッケージにおける各条件区分の作業量

D_i ：各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量

(3) 判定に使用する作業量の考え方

- ・判定に使用する作業量は、施工パッケージ毎の作業量とする。ただし、表の摘要欄に、関連する施工パッケージを一連の作業として判定する旨の記載があるものについては、摘要欄の記載によるものとする。
- ・一つの施工パッケージで異なる条件区分の作業量がある場合には、一連の作業として判定する。
- ・判定に使用する作業量は、1箇所当りの作業量とする。
- ・施工箇所の点在範囲が1kmを超えるなど、同一施工箇所として取り扱えないと判断する場合には、別箇所として扱うものとする。
- ・上記以外は、1工事の全作業量を1箇所当りの作業量とする。
- ・日々の作業量が受注者の責によらず制約される場合、その他の現場条件等により、上記により難しい場合は、別途考慮出来るものとする。

4. 積算方法

1日未満で完了する作業の積算は、以下の方法によるものとする。

(1) 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合の積算方法

1) $x/D < 1/2$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量の1/2の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

2) $1/2 \leq x/D < 1$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、作業日当り標準作業量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、作業量分の金額を計上する。

(2) 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合の積算方法

$\alpha \times \Sigma (x_i/D_i) = 1$ となる α を計算し、 $\alpha \times x_i$ をそれぞれの施工パッケージや条件区分の修正作業日当り標準作業量 $D' i$ とする。

1) $\Sigma (x_i/D_i) < 1/2$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、それぞれの施工パッケージや条件区分において、修正作業日当り標準作業量 $D' i$ の1/2の量を実施した場合の金額を計上する。材料費は、それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

2) $1/2 \leq \Sigma (x_i/D_i) < 1$ の場合

機械費及び労務費は、作業量にかかわらず、それぞれの施工パッケージや条件区分において、修正作業日当り標準作業量 $D' i$ を実施した場合の金額を計上する。材料費は、それぞれの施工パッケージや条件区分の作業量分の金額を計上する。

(3) 端数処理

1) 作業日当り標準作業量 D の1/2の量は、整数とし、小数第1位を四捨五入する。ただし、作業日当り標準作業量 D が小数である場合は、四捨五入により、同じ桁数となるようにする。

- 2) α は、小数第2位までとし、小数第3位を四捨五入する。
- 3) 修正作業日当り標準作業量 $D' i$ は、整数とし、小数第1位を四捨五入する。ただし、各施工パッケージにおける各条件区分の作業日当り標準作業量 D_i が小数である場合は、四捨五入により、同じ桁数となるようにする。
- 4) $D' i$ の $1/2$ の量は、 $D' i$ を計算した上で、1)と同様とする。

5. 施工単価入力基準表

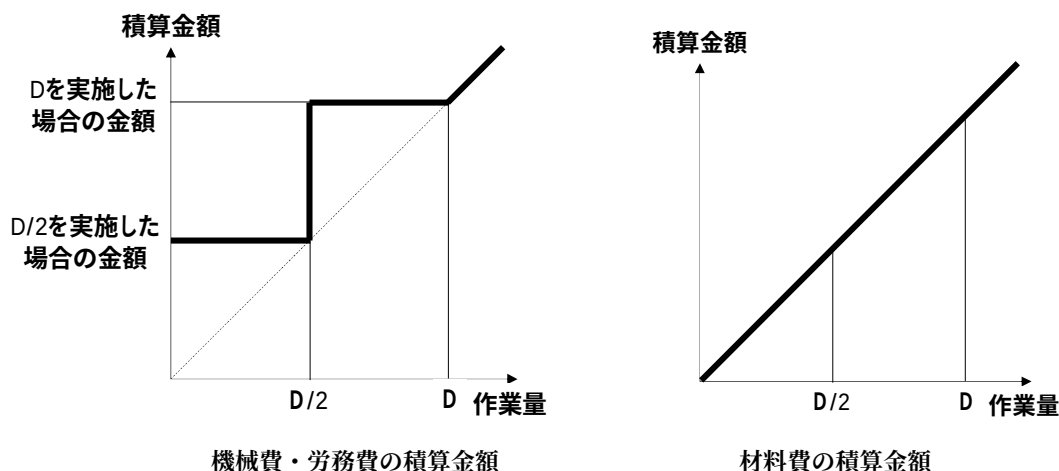
1日未満で完了する作業の積算が適用される施工パッケージ（代表機労材に材料が無い施工パッケージ及び材料費に限定した施工パッケージを除く。）

パッケージコード	—	施 工 単 位	—
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1～J X	J (X + 1)	
各 種	各 C Bコードの J 条件	費用の内訳 ①全ての費用 ②機械費、労務費のみ ③材料費のみ	

- (注) 1. 1日未満で完了する作業の積算においては、J (X + 1) 条件で②機械費、労務費のみ、及び③材料費のみをそれぞれ計上する。
2. 1日未満で完了する作業の積算を除いては、J (X + 1) 条件で①を選択すること。

6. 参 考 資 料

6-1 機械費・労務費及び材料費の積算金額のイメージ



6-2 計算例

(1) 施工パッケージが1つ、かつ条件区分が1つの場合

	単位	設計数量	作業日当り標準作業量
施工パッケージ1	m	$x_1=200$	$D_1=800$

1) 判定

$$x_1/D_1 = 200/800 = 0.25 < 1$$

従って、この場合は、 $x/D < 1$ なので、作業量が1日未満で完了する数量の作業に該当する。

2) 積算

$$x_1/D_1 < 1/2 \text{ より}$$

施工パッケージ1：機械費及び労務費は、 $D_1/2 = 400$ m分の金額を計上する。

材料費は、 $x_1 = 200$ m分の金額を計上する。

(2) 複数の施工パッケージもしくは条件区分を一連の作業として判定する場合

	単位	設計数量	作業日当り標準作業量
施工パッケージ1	m	x1=200	D1=800
施工パッケージ2	m2	x2=100	D2=300
施工パッケージ3	m3	x3= 5	D3= 50

1) 判定

$$\Sigma (x_i/D_i) = x_1/D_1 + x_2/D_2 + x_3/D_3 = 200/800 + 100/300 + 5/50 = 0.68 < 1$$

従って、この場合は、 $\Sigma (x_i/D_i) < 1$ なので、作業量が1日未満で完了する数量の作業に該当する。

2) 積算

$$\alpha \times \Sigma (x_i/D_i) = \alpha \times (200/800 + 100/300 + 5/50) = 1 \text{ となる } \alpha \text{ を計算する。}$$

$$\alpha = 1.463 \cdots = 1.46$$

修正作業日当り標準作業量

$$\text{施工パッケージ1 } D'1 = \alpha \times x_1 = 1.46 \times 200 = 292$$

$$\text{施工パッケージ2 } D'2 = \alpha \times x_2 = 1.46 \times 100 = 146$$

$$\text{施工パッケージ3 } D'3 = \alpha \times x_3 = 1.46 \times 5 = 7.3 = 7$$

$$1/2 \leq \Sigma (x_i/D_i) = 0.68 < 1 \text{ より}$$

施工パッケージ1：機械費及び労務費は、 $D'1 = 292$ m分の金額を計上する。

材料費は、 $x_1 = 200$ m 分の金額を計上する。

施工パッケージ2：機械費及び労務費は、 $D'2 = 146$ m2 分の金額を計上する。

材料費は、 $x_2 = 100$ m2 分の金額を計上する。

施工パッケージ3：機械費及び労務費は、 $D'3 = 7$ m3 分の金額を計上する。

材料費は、 $x_3 = 5$ m3 分の金額を計上する。

第 13 章 設計変更

- ① 一般事項・・・・・・・・・・ I -13-①- 1
- ② 設計変更における材料単価の
取り扱いについて・・・・・・・・ I -13-①- 1
- ③ 設計変更の計算例・・・・・・・・ I -13-①- 1

第13章 設計変更

① 一般事項

- (1) 設計変更で数量の増減等により主たる工種が変わっても当初設計の工種とする。
- (2) 設計変更時における現場管理費の補正については、工事区間の延長、工期の延長短縮等により当初計上した補正值に増減が生じた場合、あるいは当初計上していなかったが、上記条件の変更により補正出来ることとなった場合は設計変更の対象として処理するものとする。

② 設計変更における材料単価の取り扱いについて

- (1) 工事増量の場合は、新単価（変更指示時点単価）により積算するものとする。
ただし、現地の取合い等の都合により増量する場合は、旧単価（当初設計時点単価）により積算するものとする。
- (2) 工事減量の場合は、新単価（変更指示時点単価）により積算するものとする。
- (3) 当初契約工種において、当初契約材料の規格・寸法のみが変更となった場合は旧単価（当初設計時点単価）で積算する。
- (4) 新単価（変更指示時点単価）とした場合は、材料単価、労務単価、機械損料及び歩掛の全てを新単価（変更設計時点単価）により積算するものとする。

③ 設計変更の計算例

請負工事の設計変更は、官積算により、次の方法で行うものとする。

・設計額

設計変更の際、元設計および変更設計の種別、細別等の金額は全て官積算額とする。

・設計変更の要領

設計変更の積算は、原則として次の方法により行う。

第1回変更請負額

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{\text{当初の請負額}}{\text{当初の官積算額}} \times \text{第1回変更官積算工事価格}$$

$$\text{第1回変更請負額} = \begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} \times (1 + \text{消費税率})$$

第2回変更請負額

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{\text{当初の請負額}}{\text{当初の官積算額}} \times \text{第2回変更官積算工事価格}$$

$$\text{第2回変更請負額} = \begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} \times (1 + \text{消費税率})$$

第3回変更請負額

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{\text{当初の請負額}}{\text{当初の官積算額}} \times \text{第3回変更官積算工事価格}$$

$$\text{第3回変更請負額} = \begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} \times (1 + \text{消費税率})$$

(例) 当初官積算額 105,000 千円, 当初請負額 102,900 千円 の場合における変更請負額の算出

第1回変更請負額(第1回変更官積算工事価格 115,000 千円)

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{102,900}{105,000} \times 115,000 = 112,700 \text{ 千円}$$

$$\text{第1回変更請負額} = 112,700 \times (1 + 0.08) = 121,716 \text{ 千円}$$

第2回変更請負額(第2回変更官積算工事価格 105,000 千円)

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{102,900}{105,000} \times 105,000 = 102,900 \text{ 千円}$$

$$\text{第2回変更請負額} = 102,900 \times (1 + 0.08) = 111,132 \text{ 千円}$$

第3回変更請負額(第3回変更官積算工事価格 110,000 千円)

$$\begin{array}{l} \text{工 事 価 格} \\ \text{(落札率を乗じた額)} \end{array} = \frac{102,900}{105,000} \times 110,000 = 107,800 \text{ 千円}$$

$$\text{第3回変更請負額} = 107,800 \times (1 + 0.08) = 116,424 \text{ 千円}$$

(注) 1) 変更官積算とは、官単位、官経費をもとに当初官積算と同一の方法により積算する。

2) 請負額、官積算額は消費税相当額を含む価格。

3) 消費税率＝消費税率＋地方消費税率

4) 変更各回における工事価格は、千円止め(千円未満切捨て)とする。

第14章 その他

- ① 材料単価入力基準表……………Ⅰ-14-①- 1
- ② 賃料入力基準表……………Ⅰ-14-②- 1
- ③ 業務委託料等入力基準表……………Ⅰ-14-③- 1
- ④ 作業日当り標準作業量……………Ⅰ-14-④- 1
- ⑤ 市場単価の1日当り標準施工量……………Ⅰ-14-⑤- 1

第14章 その他

① 材料単価入力基準表

(1) 材料費(各種)

一 般 材 料				
施 工 区 分		入 力 条 件		
施工量	施工歩掛コード			
m	WB020011	1 m 当り材料単価	(円/m)	(Y-0800001)
m ²	WB020012	1 m ² "	(円/m ²)	(Y-0800002)
m ³	WB020013	1 m ³ "	(円/m ³)	(Y-0800003)
本	WB020014	1 本 "	(円/本)	(Y-0800004)
個	WB020015	1 個 "	(円/個)	(Y-0800005)
枚	WB020016	1 枚 "	(円/枚)	(Y-0800006)
kg	WB020017	1 kg "	(円/kg)	(Y-0800007)
t	WB020018	1 t "	(円/t)	(Y-0800008)
組	WB020019	1 組 "	(円/組)	(Y-0800009)
ℓ	WB020020	1 ℓ "	(円/ℓ)	(Y-0800010)
	WB020021	1 "	(円)	(Y-0800015)
式	WB020022	1 式 "	(円/式)	(Y-0800000)

(注) 本コードは単位当り材料単価を単価登録すること。

(2) 工場製作材料費(各種)

製 作 材 料				
施 工 区 分		入 力 条 件		
施工量	施工歩掛コード			
m	WB020031	1 m 当り製作材料単価	(円/m)	(Y-0800001)
m ²	WB020032	1 m ² "	(円/m ²)	(Y-0800002)
m ³	WB020033	1 m ³ "	(円/m ³)	(Y-0800003)
本	WB020034	1 本 "	(円/本)	(Y-0800004)
個	WB020035	1 個 "	(円/個)	(Y-0800005)
枚	WB020036	1 枚 "	(円/枚)	(Y-0800006)
kg	WB020037	1 kg "	(円/kg)	(Y-0800007)
t	WB020038	1 t "	(円/t)	(Y-0800008)
組	WB020039	1 組 "	(円/組)	(Y-0800009)
ℓ	WB020040	1 ℓ "	(円/ℓ)	(Y-0800010)
	WB020041	1 "	(円)	(Y-0800015)
式	WB020042	1 式 "	(円/式)	(Y-0800000)

(注) 1. 本コードは一般管理費のみを対象とし、管理費区分は「5」を設定している。

2. 本コードは単位当り材料単価を単価登録すること。

(3) 処分費

施 工 区 分		入 力 条 件		
施工量	施工歩掛コード	J 1		
m ³	WB020051	1 m ³ 当り単価	(円/m ³)	(Y-7600000)
t	WB020052	1 t "	(円/t)	(Y-7600001)

(注) 1. 管理費区分は「T」を設定している。

2. 本コードは単位当り単価を単価登録すること。

② 賃料入力基準表

(1) 発動発電機(各種)

施工歩掛コード	WB020060		施工単位	日
施 工 区 分		入 力 条 件		
機械名称	規格	J 1	J 2	J 3
発動発電機 〔ディーゼルエンジン駆動〕	00	発動発電機 機種番号 (表1.1)	賃 料 数 量 (実数入力)	運転日当り 燃料消費量 (実数入力)
発動発電機 〔ガソリンエンジン駆動〕	01	発動発電機 機種番号 (表1.2)	賃 料 数 量 (実数入力)	運転日当り 燃料消費量 (実数入力)

- (注) 1. 燃料消費量については小数1位を四捨五入し、整数止めを基本とし、有効数字2桁以上とすること。
2. 上記歩掛コードは、発動発電機の低騒音補正の有無に関係なく使用できる。

表1.1 発動発電機 機種番号

名称・規格	入力番号
ディーゼルエンジン駆動 5kVA	2
〃 8kVA	3
〃 10kVA	4
〃 15kVA	5
〃 20kVA	6
〃 25kVA	7
〃 35kVA	8
〃 45kVA	9
〃 60kVA	10
〃 75kVA	11
〃 100kVA	12
〃 125kVA	13
〃 150kVA	14
〃 200kVA	15
〃 250kVA	16
〃 300kVA	17
〃 350kVA	18

表1.2 発動発電機 機種番号(ガソリン)

名称・規格	入力番号
ガソリンエンジン駆動 2kVA	1
〃 3kVA	2

(2) 空気圧縮機(各種)

施工歩掛コード	WB020070		施工単位	日
施 工 区 分		入 力 条 件		
機 械 名 称	規格	J 1	J 2	J 3
空 気 圧 縮 機 (可搬式・エンジン各種)	00	空気圧縮機 機 種 番 号 (表2.1)	賃 料 数 量 (実数入力)	運転日当り 燃料消費量 (実数入力)
空 気 圧 縮 機 (可搬式・モータ各種)	01	空気圧縮機 機 種 番 号 (表2.2)	賃 料 数 量 (実数入力)	運転日当り 燃料消費量 (実数入力)

- (注) 1. 規格番号 01 を入力する場合は、電力料(Y-7500000)を登録すること。
 2. 燃料消費量については小数 1 位を四捨五入し、整数止めを基本とし、有効数字 2 桁以上とすること。
 3. 上記歩掛コードは、空気圧縮機の低騒音補正の有無に関係なく使用できる。

表 2. 1 空気圧縮機 機種番号(可搬式・エンジン)

名 称・規 格	入力番号
可搬式・エンジン (2.0 m ³ /min)	1
" (2.5 m ³ /min)	2
" (3.5～3.7 m ³ /min)	3
" (5.0 m ³ /min)	4
" (7.5～7.6 m ³ /min)	5
" (10.5～11.0 m ³ /min)	6
" (14.3 m ³ /min)	7
" (17.0 m ³ /min)	8
" (18.0～19.0 m ³ /min)	9

表 2. 2 空気圧縮機 機種番号(可搬式・モータ)

名 称・規 格	入力番号
可搬式・モータ (2.2 m ³ /min)	1
" (3.7 m ³ /min)	2
" (5.2 m ³ /min)	3
" (6.0 m ³ /min)	4
" (9.0 m ³ /min)	5

(3) 運転 1 日当り単価表

施工歩掛コード				WB020060, WB020070
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
主 燃 料		ℓ		
賃 料		日		
諸 雑 費		式	1	
計				

③ 業務委託料等入力基準表

(1) 業務委託料等

	施工単位	式
J 1 条件	業務委託料等に要する費用 金額入力 (万円単位)	
数 量	1	

④ 作業日当り標準作業量

1. 適用

本章に掲載した作業日当り標準作業量は、施工パッケージ型積算基準及び標準歩掛に沿った条件、工法での設定であり、工程、作業日数等の検討のための参考として、とりまとめたものである。

設定した作業量は、あくまでも標準施工の場合であるので、当該工事の施工条件、施工方法、制約条件等十分考慮し、適用の可否を検討の上、使用されたい。

2. 作業日当り標準作業量

1 【共通編】

1- 1	現場発生品及び支給品運搬 ……	I -14-④- 5	1-31	排水構造物工 ……	I -14-④-27
1- 2	土工 ……	I -14-④- 6	1-32	排水構造物工（管（函）渠型側溝・溶接金網及び埋設鋼板型枠） ……	I -14-④-31
1- 3	土工（ICT） ……	I -14-④-15	1-33	排水構造物工（現場打ち水路（本体）） ……	I -14-④-32
1- 4	床堀工 ……	I -14-④-16	1-34	排水構造物工（現場打ち集水桝・街渠桝（本体）） ……	I -14-④-32
1- 5	埋戻工 ……	I -14-④-17	1-35	サンドマット工 ……	I -14-④-33
1- 6	人力運搬工 ……	I -14-④-17	1-36	粉体噴射攪拌工（DJM工法） ……	I -14-④-33
1- 7	人力土工（ベルトコンベヤ併用） ……	I -14-④-19	1-37	スラリー攪拌工 ……	I -14-④-33
1- 8	安定処理工 ……	I -14-④-20	1-38	高圧噴射攪拌工 ……	I -14-④-34
1- 9	安定処理工（自走式土質改良工） ……	I -14-④-20	1-39	ペーパードレーン工 ……	I -14-④-34
1-10	土砂運搬工（不整地運搬車による運搬） ……	I -14-④-20	1-40	中層混合処理工 ……	I -14-④-34
1-11	法面整形工 ……	I -14-④-20	1-41	薬液注入工 ……	I -14-④-35
1-12	法面整形工（ICT） ……	I -14-④-20	1-42	アンカー工（ロータリーパーカッション式） ……	I -14-④-36
1-13	芝付工 ……	I -14-④-21	1-43	構造物とりこわし工 ……	I -14-④-39
1-14	コンクリート法枠工 ……	I -14-④-21	1-44	コンクリート削孔工 ……	I -14-④-39
1-15	法面施肥工 ……	I -14-④-21	1-45	ガス切断工 ……	I -14-④-40
1-16	現場吹付法枠工 ……	I -14-④-21	1-46	鋼材現場ガス切断工 ……	I -14-④-40
1-17	吹付法面とりこわし工 ……	I -14-④-21	1-47	吸出し防止材設置工 ……	I -14-④-40
1-18	プレキャストコンクリート板設置工 ……	I -14-④-22	1-48	目地・止水板設置工 ……	I -14-④-40
1-19	人工張芝工 ……	I -14-④-22	1-49	旧橋撤去工 ……	I -14-④-40
1-20	基礎・裏込砕石工，基礎・裏込栗石工 ……	I -14-④-22	1-50	かご工 ……	I -14-④-42
1-21	コンクリートブロック積（張）工 ……	I -14-④-23	1-51	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 ……	I -14-④-43
1-22	裏込栗石投入工（コンクリートブロック張） ……	I -14-④-23	1-52	現場取卸費 ……	I -14-④-43
1-23	石積（張）工 ……	I -14-④-24	1-53	骨材再生工（自走式） ……	I -14-④-43
1-24	平石張工 ……	I -14-④-24	1-54	函渠工（1） ……	I -14-④-44
1-25	場所打擁壁工（1） ……	I -14-④-25	1-55	函渠工（2） ……	I -14-④-44
1-26	場所打擁壁工（2） ……	I -14-④-25	1-56	殻運搬 ……	I -14-④-45
1-27	プレキャスト擁壁工 ……	I -14-④-25	1-57	鋼管・既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工） ……	I -14-④-51
1-28	補強土壁工（帯鋼補強土壁，アンカー補強土壁） ……	I -14-④-26	1-58	鋼管・既製コンクリート杭打工（中堀工） ……	I -14-④-51
1-29	ジオテキスタイル工 ……	I -14-④-26	1-59	鋼管・既製コンクリート杭打工（回転杭工） ……	I -14-④-51
1-30	連続地中壁工（柱列式） ……	I -14-④-27	1-60	鋼管ソイルセメント杭工 ……	I -14-④-51

1-61	場所打杭工(オールケーシング工・ 全回転式オールケーシング工)	I-14-④-51	1-99	法面工(仮設用モルタル吹付工)	I-14-④-58
1-62	場所打杭工(リバースサーキュレーション工)	I-14-④-51	2	【河川編】	
1-63	場所打杭工(アースオーガ工, 硬質地盤用アースオーガ工)	I-14-④-51	2- 1	消波根固めブロック工.....	I-14-④-59
1-64	場所打杭工(大口径ボーリングマシン工)	I-14-④-51	2- 2	消波根固めブロック工(ブロック撤去工) (0.25 t 以上 35.5 t 以下) ..	I-14-④-68
1-65	場所打杭工(ダウンザホールハンマ工)	I-14-④-51	2- 3	捨石工	I-14-④-68
1-66	深礎工	I-14-④-52	2- 4	消波工	I-14-④-69
1-67	ニューマチックケーソン工 ...	I-14-④-52	2- 5	浚渫工(ポンプ式浚渫船) ...	I-14-④-69
1-68	基礎工(鋼管矢板基礎工) ...	I-14-④-52	2- 6	浚渫工(バックホウ浚渫船)・	I-14-④-69
1-69	ドロップハンマ杭打工	I-14-④-53	2- 7	軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	I-14-④-69
1-70	木杭及び矢板打工(人力, ドロップハンマ工)	I-14-④-53	2- 8	堤防除草工	I-14-④-70
1-71	既製コンクリート杭カットオフ工	I-14-④-53	2- 9	堤防天端補修工	I-14-④-74
1-72	泥水運搬工	I-14-④-54	2-10	堤防芝養生工	I-14-④-75
1-73	コンクリート工	I-14-④-54	2-11	伐木除根工	I-14-④-75
1-74	型枠工	I-14-④-54	2-12	塵芥処理工	I-14-④-79
1-75	型枠工(省力化構造)	I-14-④-54	2-13	ボーリンググラウト工.....	I-14-④-83
1-76	溶接金網設置工	I-14-④-55	2-14	粗朶沈床工	I-14-④-84
1-77	バイプロハンマ工	I-14-④-55	2-15	機械土工(河床等掘削)	I-14-④-84
1-78	バイプロハンマ工(軽量鋼矢板打込引抜工)	I-14-④-55	2-16	巨石積(張)工	I-14-④-85
1-79	油圧圧入引抜工	I-14-④-55	2-17	木杭打工	I-14-④-85
1-80	矢板工(アースオーガ併用圧入工)	I-14-④-55	2-18	巨石据付工	I-14-④-85
1-81	矢板工(クレーン引抜工) ...	I-14-④-55	2-19	護岸基礎ブロック工.....	I-14-④-86
1-82	矢板工(H形鋼)	I-14-④-55	2-20	かごマット工(スロープ型)・	I-14-④-87
1-83	仮設材設置撤去工	I-14-④-55	2-21	かごマット工(多段積型) ...	I-14-④-87
1-84	足場工	I-14-④-55	2-22	ブロックマット工	I-14-④-87
1-85	支保工	I-14-④-56	2-23	野芝種子吹付工	I-14-④-87
1-86	締切排水工	I-14-④-56	2-24	袋詰玉石工	I-14-④-87
1-87	ウエルポイント工	I-14-④-56	2-25	笠コンクリートブロック据付工	I-14-④-88
1-88	土のう工	I-14-④-56	2-26	グラウトホール工	I-14-④-88
1-89	大型土のう工	I-14-④-56	2-27	連節ブロックの水中吊落し工	I-14-④-88
1-90	仮橋・仮栈橋工	I-14-④-57	2-28	光ケーブル配管工	I-14-④-89
1-91	汚濁防止フェンス工	I-14-④-57	2-29	土工(砂防工)	I-14-④-89
1-92	仮囲い設置撤去工	I-14-④-57	2-30	土工(バックホウ床掘山積0.45m ³ (平積0.35m ³))	I-14-④-91
1-93	雪寒仮囲い工	I-14-④-57	2-31	コンクリート工(砂防工) ...	I-14-④-92
1-94	切土及び発破防護柵工	I-14-④-57	2-32	コンクリート工(ケーブルクレーン打設)	I-14-④-92
1-95	掘削(発破)防護柵工	I-14-④-57	2-33	コンクリート工(横取りを行う場合)	I-14-④-92
1-96	濁水処理工(一般土木工事)・	I-14-④-58	2-34	砂防コンクリート生産 (ミキサによる混合)工.....	I-14-④-92
1-97	敷鉄板設置・撤去工	I-14-④-58	2-35	砂防コンクリート運搬(投入)工	I-14-④-92
1-98	防塵処理工	I-14-④-58	2-36	残存型枠工	I-14-④-92
			2-37	仮設備工	I-14-④-93

2-38	仮設備工（砂防コンクリート生産設備）	I -14-④-93	3-16	車止めポスト設置工.....	I -14-④-101
2-39	仮設備工（軌条及び機械設備）	I -14-④-94	3-17	防雪柵設置及び撤去工.....	I -14-④-102
2-40	仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）	I -14-④-94	3-18	防雪柵現地張出し・収納工..	I -14-④-102
2-41	養生工（練炭）	I -14-④-94	3-19	雪崩予防柵設置工	I -14-④-103
2-42	石材等採取工（割石，雑割石，野面石採取）	I -14-④-94	3-20	雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工， 立入防止柵工，柵板設置工）	I -14-④-103
2-43	ケーブルクレーンによる資材等の運搬	I -14-④-94	3-21	ボックスビーム設置工.....	I -14-④-103
2-44	水替とい工	I -14-④-95	3-22	遮光フェンス設置工.....	I -14-④-103
2-45	銘板工	I -14-④-95	3-23	落下物等防止柵設置工.....	I -14-④-104
2-46	堤冠部保護工（隅石張）	I -14-④-95	3-24	しゃ音壁設置工	I -14-④-104
2-47	砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切	I -14-④-95	3-25	基礎杭打工（しゃ音壁）	I -14-④-104
2-48	砂防コンクリート締切	I -14-④-95	3-26	路側工（据付け）	I -14-④-105
2-49	鋼製砂防工	I -14-④-95	3-27	路側工（取外し）	I -14-④-105
2-50	砂防ソイルセメント工	I -14-④-95	3-28	特殊ブロック設置工.....	I -14-④-105
2-51	集水井工（ライナープレート土留工法）	I -14-④-96	3-29	組立歩道工	I -14-④-106
2-52	集水井工（プレキャスト土留工法）	I -14-④-96	3-30	橋梁付属施設設置工.....	I -14-④-106
2-53	地すべり防止工（集排水ボーリング工）	I -14-④-96	3-31	トンネル内装板設置工.....	I -14-④-106
2-54	地すべり防止工（山腹水路工）	I -14-④-97	3-32	道路付属物設置工	I -14-④-106
2-55	地すべり防止工（かご工） ...	I -14-④-97	3-33	スノーポール設置・撤去工..	I -14-④-106
2-56	集排水ボーリング孔洗浄工 ...	I -14-④-97	3-34	道路植栽工（客土工）（上層 30 cm）	I -14-④-107
3	【道路編】		3-35	路面切削工	I -14-④-107
3- 1	路盤工	I -14-④- 98	3-36	切削オーバーレイ工.....	I -14-④-109
3- 2	路盤工（ICT）	I -14-④- 98	3-37	舗装版破碎工	I -14-④-110
3- 3	アスファルト舗装工	I -14-④- 99	3-38	舗装版切断工	I -14-④-111
3- 4	半たわみ性（コンポジット）舗装工	I -14-④- 99	3-39	道路打換え工	I -14-④-111
3- 5	排水性アスファルト舗装工 ..	I -14-④- 99	3-40	路上路盤再生工	I -14-④-112
3- 6	透水性樹脂コンクリート工 ..	I -14-④- 99	3-41	アスファルト注工.....	I -14-④-112
3- 7	透水性アスファルト舗装工 ..	I -14-④- 99	3-42	舗装版クラック補修工.....	I -14-④-113
3- 8	グースアスファルト舗装工 ..	I -14-④-100	3-43	道路付属構造物塗替工.....	I -14-④-113
3- 9	コンクリート舗装工	I -14-④-100	3-44	張紙防止塗装工	I -14-④-113
3-10	ローラ転圧コンクリート舗装工 （RCCP工）	I -14-④-100	3-45	貼紙防止シート工	I -14-④-113
3-11	連続鉄筋コンクリート舗装工	I -14-④-100	3-46	床版補強工	I -14-④-114
3-12	踏掛版	I -14-④-100	3-47	橋梁補強工（鋼板巻立て）（1）（2）	I -14-④-115
3-13	ガードケーブル設置工	I -14-④-101	3-48	橋梁補強工（コンクリート巻立て）（1）（2）	I -14-④-115
3-14	落石防止網（繊維網）設置工	I -14-④-101	3-49	橋梁地覆補修工	I -14-④-116
3-15	立入り防止柵工	I -14-④-101	3-50	橋梁補修工（支承取替工）..	I -14-④-116
			3-51	橋梁補修工（現場溶接鋼桁補強工）	I -14-④-116
			3-52	橋梁補修工（ひび割れ補修工（充てん工法））	I -14-④-116
			3-53	橋梁補修工（ひび割れ補修工（低圧注入工法））	I -14-④-116
			3-54	橋梁補修工（断面修復工（左官工法））	I -14-④-116
			3-55	橋梁補修工（表面被覆工（塗装工法））	I -14-④-116

3-56	落橋防止装置工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-117	3-96	トンネル工 (N A T M) 非常駐車帯工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-134
3-57	道路除草工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-118	3-97	トンネル工 (N A T M) 仮設備工 (防音扉工)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-134
3-58	路面清掃工 (機械清掃)	・ ・ ・	I -14-④-120	3-98	小断面トンネル工 (N A T M)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-135
3-59	路面清掃工 (都市型ブラシ式)		I -14-④-120	3-99	トンネル裏込め注入工	・ ・ ・ ・	I -14-④-135
3-60	路面清掃工 (人力清掃工)	・ ・	I -14-④-121	3-100	道路除雪工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-135
3-61	ガードレール清掃工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-121	3-101	鋼橋製作工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-135
3-62	ガードレール清掃工 (自動追従型)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-121	3-102	橋梁塗装工 (工場塗装及び塗装前処理)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-135
3-63	視線誘導標清掃工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-121	3-103	鋼橋架設工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-136
3-64	ガードパイプ清掃工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-121	3-104	プレビーム桁製作工 (現場)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-137
3-65	橋梁付属物清掃工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-121	3-105	プレビーム桁架設工	・ ・ ・ ・	I -14-④-138
3-66	管渠清掃工, 側溝清掃及び集水桝清掃工 (組合せ作業)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-122	3-106	鋼橋床版工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-138
3-67	側溝清掃 (単独作業)	・ ・ ・ ・	I -14-④-123	3-107	グレーチング床版架設工及び足場工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-138
3-68	側溝清掃工 (人力清掃工)	・ ・	I -14-④-123	3-108	ポストテンション桁製作工	・ ・	I -14-④-138
3-69	集水桝清掃工 (単独作業)	・ ・	I -14-④-123	3-109	プレキャストセグメント主桁組立工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-138
3-70	集水桝清掃工 (人力清掃工)		I -14-④-123	3-110	P C 橋架設工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-138
3-71	トンネル清掃工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-123	3-111	P C 橋片持架設工	・ ・ ・ ・	I -14-④-139
3-72	トンネル照明器具清掃工	・ ・ ・	I -14-④-123	3-112	ポストテンション場所打ホロースラブ橋工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-73	トンネル漏水対策工	・ ・ ・ ・	I -14-④-123	3-113	ポストテンション場所打箱桁橋工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-74	沓座拡幅工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-124	3-114	R C 場所打ホロースラブ橋工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-75	桁連結工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-124	3-115	架設支保工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-76	欠損部補修工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-124	3-116	伸縮装置工 (鋼製)	・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-77	路肩整正 (人力による土はね)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-124	3-117	橋梁排水管設置工	・ ・ ・ ・	I -14-④-140
3-78	コンクリート接着工	・ ・ ・ ・	I -14-④-124	3-118	歩道橋 (側道橋) 架設工	・ ・ ・	I -14-④-141
3-79	防護柵復旧工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-125	3-119	側板工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-141
3-80	アスファルト舗装版削孔工	・ ・	I -14-④-125	3-120	鋼製橋脚設置工	・ ・ ・ ・	I -14-④-141
3-81	仮覆工板設置・撤去工	・ ・ ・ ・	I -14-④-125	3-121	橋台・橋脚工 (1) (構造物単位)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-142
3-82	道路付属物のコンクリート面塗装工	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-125	3-122	橋台・橋脚工 (2)	・ ・ ・ ・	I -14-④-142
3-83	横断歩道橋補修工	・ ・ ・ ・	I -14-④-125	3-123	公園植栽工	・ ・ ・ ・	I -14-④-143
3-84	調整ポスト取付工	・ ・ ・ ・	I -14-④-125	3-124	公園除草工	・ ・ ・ ・	I -14-④-144
3-85	共同溝工 (1) (構造物単位)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-126	3-125	公園工	・ ・ ・ ・	I -14-④-145
3-86	共同溝工 (2)	・ ・ ・ ・	I -14-④-127	3-126	排水構造物工 (複合単価)	・ ・	I -14-④-147
3-87	防水工・防水層保護工	・ ・ ・ ・	I -14-④-129				
3-88	電線共同溝工 (C・C・BOX)	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-129				
3-89	情報ボックス工	・ ・ ・ ・	I -14-④-131				
3-90	観測井戸設置工	・ ・ ・ ・	I -14-④-132				
3-91	トンネル工 (インパート工)		I -14-④-133				
3-92	トンネル工 (N A T M) [発破工法]	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-133				
3-93	トンネル工 (N A T M) [機械掘削工法]	・ ・ ・ ・ ・	I -14-④-133				
3-94	トンネル濁水処理工	・ ・ ・ ・	I -14-④-133				
3-95	トンネル工 (N A T M) 坑口工 (DⅢパターン)	・ ・ ・ ・	I -14-④-134				

工 種 名	設 定 内 容					
現場発生品 及び支給品 運搬	① 現場発生品・支給品運搬					
	片道運搬 距離	1回当り 平均積載質量	作業日当り 標準作業量	片道運搬 距離	1回当り 平均積載質量	作業日当り 標準作業量
	2.0km 以下	0.1t 以下	73 回/日	14.0km 以下	2.0t 超 2.6t 以下	4.3 回/日
		0.1t 超 0.2t 以下	56 回/日		2.6t 超 2.95t 以下	4.0 回/日
		0.2t 超 0.3t 以下	45 回/日	20.0km 以下	0.1t 以下	5.1 回/日
		0.3t 超 0.5t 以下	35 回/日		0.1t 超 0.2t 以下	5.0 回/日
		0.5t 超 0.8t 以下	25 回/日		0.2t 超 0.3t 以下	4.8 回/日
		0.8t 超 1.1t 以下	19 回/日		0.3t 超 0.5t 以下	4.7 回/日
		1.1t 超 1.5t 以下	15 回/日		0.5t 超 0.8t 以下	4.5 回/日
		1.5t 超 2.0t 以下	12 回/日		0.8t 超 1.1t 以下	4.2 回/日
		2.0t 超 2.6t 以下	9.0 回/日		1.1t 超 1.5t 以下	4.0 回/日
		2.6t 超 2.95t 以下	7.6 回/日		1.5t 超 2.0t 以下	3.7 回/日
	5.0km 以下	0.1t 以下	24 回/日	27.0km 以下	2.0t 超 2.6t 以下	3.4 回/日
		0.1t 超 0.2t 以下	21 回/日		2.6t 超 2.95t 以下	3.2 回/日
		0.2t 超 0.3t 以下	20 回/日		0.1t 以下	3.7 回/日
		0.3t 超 0.5t 以下	17 回/日		0.1t 超 0.3t 以下	3.6 回/日
		0.5t 超 0.8t 以下	15 回/日		0.3t 超 0.5t 以下	3.5 回/日
		0.8t 超 1.1t 以下	12 回/日		0.5t 超 0.8t 以下	3.4 回/日
		1.1t 超 1.5t 以下	10 回/日		0.8t 超 1.1t 以下	3.2 回/日
		1.5t 超 2.0t 以下	8.6 回/日		1.1t 超 1.5t 以下	3.1 回/日
		2.0t 超 2.6t 以下	7.2 回/日		1.5t 超 2.0t 以下	2.9 回/日
		2.6t 超 2.95t 以下	6.3 回/日		2.0t 超 2.6t 以下	2.7 回/日
	9.0km 以下	0.2t 以下	12 回/日	35.0km 以下	2.6t 超 2.95t 以下	2.6 回/日
		0.2t 超 0.3t 以下	11 回/日		0.2t 以下	2.8 回/日
		0.3t 超 0.5t 以下	10 回/日		0.2t 超 0.5t 以下	2.7 回/日
		0.5t 超 0.8t 以下	9.2 回/日		0.5t 超 0.8t 以下	2.6 回/日
		0.8t 超 1.1t 以下	8.2 回/日		0.8t 超 1.1t 以下	2.5 回/日
		1.1t 超 1.5t 以下	7.3 回/日		1.1t 超 1.5t 以下	2.4 回/日
		1.5t 超 2.0t 以下	6.4 回/日		1.5t 超 2.0t 以下	2.3 回/日
		2.0t 超 2.6t 以下	5.6 回/日		2.0t 超 2.6t 以下	2.2 回/日
	14.0km 以下	2.6t 超 2.95t 以下	5.0 回/日		2.6t 超 2.95t 以下	2.1 回/日
		0.1t 以下	7.4 回/日	46.0km 以下	0.5t 以下	2.1 回/日
		0.1t 超 0.2t 以下	7.2 回/日		0.5t 超 1.1t 以下	2.0 回/日
		0.2t 超 0.3t 以下	7.0 回/日		1.1t 超 1.5t 以下	1.9 回/日
		0.3t 超 0.5t 以下	6.7 回/日		1.5t 超 2.6t 以下	1.8 回/日
		0.5t 超 0.8t 以下	6.2 回/日		2.6t 超 2.95t 以下	1.7 回/日
		0.8t 超 1.1t 以下	5.8 回/日	60.0km 以下	0.8t 以下	1.6 回/日
		1.1t 超 1.5t 以下	5.3 回/日		0.8t 超 2.0t 以下	1.5 回/日
		1.5t 超 2.0t 以下	4.8 回/日		2.0t 超 2.95t 以下	1.4 回/日

工 種 名	設 定 内 容									
土工	① 掘削									
	土質	施工方法	岩質	押土 の有無	障害 の有無	施工数量	火薬 使用	破碎 片除 去の有無	集積 押土 の有無	作業日当り 標準作業量
	土砂	オープン カット	—	有り	—	普通土 30,000m ³ 未 満又は湿地軟弱土	—	—	—	320 m ³ /日
						30,000m ³ 以上	—	—	—	710 m ³ /日
				無し	無し	50,000m ³ 未満	—	—	—	300 m ³ /日
						50,000m ³ 以上	—	—	—	500 m ³ /日
					有り	50,000m ³ 未満	—	—	—	190 m ³ /日
						50,000m ³ 以上	—	—	—	320 m ³ /日
		片切掘削	—	—	—	—	—	—	—	220 m ³ /日
		水中掘削	—	—	—	—	—	—	—	260 m ³ /日
		現場制約 あり	—	—	—	—	—	—	—	4 m ³ /日
		上記以外 (小規模)	—	—	—	1箇所100m ³ 以下 (標準)	—	—	—	37 m ³ /日
						1箇所100m ³ 以下 (標準以外)	—	—	—	15 m ³ /日
	岩塊・ 玉石	オープン カット	—	有り	—	普通土 30,000m ³ 未 満又は湿地軟弱土	—	—	—	200 m ³ /日
						30,000m ³ 以上	—	—	—	440 m ³ /日
				無し	無し	50,000m ³ 未満	—	—	—	230 m ³ /日
						50,000m ³ 以上	—	—	—	410 m ³ /日
					有り	50,000m ³ 未満	—	—	—	140 m ³ /日
						50,000m ³ 以上	—	—	—	260 m ³ /日
		水中掘削	—	—	—	—	—	—	—	180 m ³ /日
		現場制約 あり	—	—	—	—	—	—	—	3 m ³ /日

工 種 名	設 定 内 容											
土工	土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	作業日当り標準作業量		
	軟岩	オープンカット	—	—	無し	500m3未満	—	無し	無し	63 m3/日		
								有り	有り	63 m3/日		
								有り(5万m3未満)	無し	63 m3/日		
								有り(5万m3以上)	無し	63 m3/日		
					500m3以上	—	—	—	340 m3/日			
							有り	500m3未満	—	無し	無し	32 m3/日
										有り	有り	32 m3/日
										有り(5万m3未満)	無し	32 m3/日
		有り(5万m3以上)	無し	32 m3/日								
		片切掘削	—	—	—	—	—	無し	無し	49 m3/日		
								有り	有り	49 m3/日		
								有り(5万m3未満)	無し	49 m3/日		
								有り(5万m3以上)	無し	49 m3/日		
		現場制約あり	軟岩（Ⅰ）	—	—	—	—	—	—	—	25 m3/日	
			軟岩（Ⅱ）	—	—	—	—	—	—	—	17 m3/日	
		硬岩	オープンカット	—	—	無し	—	不可	無し	無し	41 m3/日	
									有り	有り	41 m3/日	
									有り(5万m3未満)	無し	41 m3/日	
	有り(5万m3以上)								無し	41 m3/日		
	可					—	—	190 m3/日				
						有り	—	不可	無し	無し	21 m3/日	
									有り	有り	21 m3/日	
									有り(5万m3未満)	無し	21 m3/日	
	有り(5万m3以上)		無し	21 m3/日								
	片切掘削		—	—	—	—	不可	無し	無し	29 m3/日		
								有り	有り	29 m3/日		
								有り(5万m3未満)	無し	29 m3/日		
								有り(5万m3以上)	無し	29 m3/日		
								可	無し	無し	55 m3/日	
									有り	有り	55 m3/日	
	有り(5万m3未満)		無し	55 m3/日								
			有り(5万m3以上)	無し	55 m3/日							
	現場制約あり	中硬岩	—	—	—	—	—	—	—	13 m3/日		
		硬岩（Ⅰ）	—	—	—	—	—	—	—	8 m3/日		

工 種 名	設 定 内 容					
土工	② 土砂等運搬					
	土砂等 発生現場	積込機種 ・規格	土質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	標準	バックホウ 山積0.8m3 (平積0.6m3)	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3km 以下	154 m3/日
					0.5km 以下	133 m3/日
					1.0km 以下	118 m3/日
					1.5km 以下	105 m3/日
					2.0km 以下	91 m3/日
					3.0km 以下	77 m3/日
					4.0km 以下	67 m3/日
					5.5km 以下	56 m3/日
					6.5km 以下	48 m3/日
					7.5km 以下	42 m3/日
					9.5km 以下	37 m3/日
					11.5km 以下	32 m3/日
					15.5km 以下	26 m3/日
					22.5km 以下	21 m3/日
					49.5km 以下	16 m3/日
					60.0km 以下	11 m3/日
				有り	0.3km 以下	154 m3/日
					0.5km 以下	133 m3/日
					1.0km 以下	118 m3/日
					1.5km 以下	105 m3/日
					2.0km 以下	91 m3/日
					3.0km 以下	77 m3/日
					3.5km 以下	67 m3/日
					5.0km 以下	56 m3/日
					6.0km 以下	48 m3/日
					7.0km 以下	42 m3/日
					8.5km 以下	37 m3/日
					11.0km 以下	32 m3/日
					14.0km 以下	26 m3/日
					19.5km 以下	21 m3/日
					31.5km 以下	16 m3/日
					60.0km 以下	11 m3/日
			軟岩	—	—	土砂÷1.22
			硬岩	—	—	土砂÷1.37

工 種 名	設 定 内 容					
土工	土砂等 発生現場	積込機種 ・規格	土質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
						0.3km 以下 200 m3/日
						0.5km 以下 167 m3/日
						1.0km 以下 143 m3/日
						1.5km 以下 125 m3/日
						2.0km 以下 111 m3/日
						2.5km 以下 100 m3/日
						3.0km 以下 83 m3/日
						3.5km 以下 77 m3/日
						4.5km 以下 67 m3/日
						6.0km 以下 56 m3/日
						7.0km 以下 48 m3/日
						8.5km 以下 42 m3/日
						10.0km 以下 37 m3/日
						12.5km 以下 32 m3/日
						16.5km 以下 26 m3/日
						23.5km 以下 21 m3/日
						51.5km 以下 16 m3/日
						60.0km 以下 11 m3/日
				有り	0.3km 以下	200 m3/日
					0.5km 以下	167 m3/日
					1.0km 以下	143 m3/日
					1.5km 以下	125 m3/日
					2.0km 以下	111 m3/日
					2.5km 以下	100 m3/日
					3.0km 以下	83 m3/日
					3.5km 以下	77 m3/日
					4.5km 以下	67 m3/日
					5.5km 以下	56 m3/日
					6.5km 以下	48 m3/日
					8.0km 以下	42 m3/日
					9.5km 以下	37 m3/日
					11.5km 以下	32 m3/日
					15.0km 以下	26 m3/日
					20.5km 以下	21 m3/日
					33.0km 以下	16 m3/日
					60.0km 以下	11 m3/日
			軟岩	—	—	土砂÷1.22
			硬岩	—	—	土砂÷1.37

工 種 名	設 定 内 容							
土工	土砂等 発生現場	積込機種 ・ 規格	土 質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量		
	標準	バックホウ 山積0.45m3 (平積0.35m3)	土砂(岩塊玉石 混り土含む)	無し	0.5km 以下	91 m3/日		
					1.0km 以下	83 m3/日		
					2.0km 以下	71 m3/日		
					2.5km 以下	63 m3/日		
					3.5km 以下	56 m3/日		
					4.5km 以下	48 m3/日		
					6.0km 以下	42 m3/日		
					7.5km 以下	37 m3/日		
					10.0km 以下	32 m3/日		
					13.5km 以下	26 m3/日		
					19.5km 以下	21 m3/日		
					39.0km 以下	16 m3/日		
					60.0km 以下	11 m3/日		
					有り	0.5km 以下	91 m3/日	
				1.0km 以下		83 m3/日		
				1.5km 以下		71 m3/日		
				2.0km 以下		63 m3/日		
				3.0km 以下		56 m3/日		
				4.0km 以下		48 m3/日		
				5.5km 以下		42 m3/日		
				7.0km 以下		37 m3/日		
				9.0km 以下		32 m3/日		
				12.0km 以下		26 m3/日		
				17.5km 以下		21 m3/日		
				28.5km 以下		16 m3/日		
				60.0km 以下		11 m3/日		
						軟岩	—	—
					硬岩	—	—	土砂÷1.37
		クラムシェル	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.5km 以下	67 m3/日		
					2.0km 以下	56 m3/日		
					2.5km 以下	48 m3/日		
					4.0km 以下	42 m3/日		
	5.5km 以下				37 m3/日			
	7.5km 以下				32 m3/日			
	10.5km 以下				26 m3/日			
	16.0km 以下				21 m3/日			
	30.0km 以下				16 m3/日			
	60.0km 以下				11 m3/日			

工 種 名	設 定 内 容					
土工	標準	積込機種 ・規格 クラムシェル	土質 土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	DID区間 の有無 有り	運搬距離	作業日当り 標準作業量
					0.5km 以下	67 m3/日
					2.0km 以下	56 m3/日
					2.5km 以下	48 m3/日
					3.5km 以下	42 m3/日
					5.0km 以下	37 m3/日
					7.0km 以下	32 m3/日
					10.0km 以下	26 m3/日
					14.5km 以下	21 m3/日
					24.5km 以下	16 m3/日
					60.0km 以下	11 m3/日
			軟岩	—	—	土砂÷1.22
			硬岩	—	—	土砂÷1.37
	小規模	バックハウ 山積0.28m3 (平積0.2m3)	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.2km 以下	50 m3/日
					1.0km 以下	40 m3/日
					1.5km 以下	33 m3/日
					2.5km 以下	29 m3/日
					3.5km 以下	25 m3/日
					4.0km 以下	22 m3/日
					5.0km 以下	20 m3/日
					6.0km 以下	18 m3/日
					7.5km 以下	17 m3/日
					10.0km 以下	13 m3/日
					13.0km 以下	11 m3/日
					19.0km 以下	9 m3/日
					35.0km 以下	7 m3/日
					60.0km 以下	4 m3/日
				有り	0.2km 以下	50 m3/日
					1.0km 以下	40 m3/日
					1.5km 以下	33 m3/日
					2.0km 以下	29 m3/日
					3.0km 以下	25 m3/日
					3.5km 以下	22 m3/日
					4.5km 以下	20 m3/日
					5.5km 以下	18 m3/日
					7.0km 以下	17 m3/日
					9.0km 以下	13 m3/日
					12.0km 以下	11 m3/日
					17.0km 以下	9 m3/日
					27.0km 以下	7 m3/日
					60.0km 以下	4 m3/日

工 種 名	設 定 内 容					
土工						
	土砂等 発生現場	積込機種 ・規格	土質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	小規模	バックホウ 山積0.13m3 (平積0.1m3)	土砂(岩塊・玉 石混土含む)	無し	0.3km 以下	22 m3/日
					1.0km 以下	20 m3/日
					1.5km 以下	17 m3/日
					2.5km 以下	14 m3/日
					3.0km 以下	13 m3/日
					3.5km 以下	11 m3/日
					4.5km 以下	10 m3/日
					5.5km 以下	9 m3/日
					7.0km 以下	8 m3/日
					9.0km 以下	7 m3/日
					12.0km 以下	6 m3/日
					17.0km 以下	4 m3/日
					28.0km 以下	3 m3/日
					60.0km 以下	2 m3/日
				有り	0.3km 以下	22 m3/日
					1.0km 以下	20 m3/日
					1.5km 以下	17 m3/日
					2.5km 以下	14 m3/日
					3.0km 以下	13 m3/日
					3.5km 以下	11 m3/日
					4.5km 以下	10 m3/日
					5.0km 以下	9 m3/日
					6.5km 以下	8 m3/日
					8.0km 以下	7 m3/日
					11.0km 以下	6 m3/日
					15.0km 以下	4 m3/日
					24.0km 以下	3 m3/日
					60.0km 以下	2 m3/日
	現場制約 あり	人力	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	無し	0.3km 以下	20 m3/日
					0.5km 以下	18 m3/日
					1.5km 以下	17 m3/日
					2.0km 以下	14 m3/日
					2.5km 以下	13 m3/日
					3.0km 以下	11 m3/日
					4.0km 以下	10 m3/日
					5.0km 以下	9 m3/日
					6.5km 以下	8 m3/日
					8.5km 以下	7 m3/日
					11.0km 以下	6 m3/日
					16.0km 以下	4 m3/日
					27.5km 以下	3 m3/日
					60.0km 以下	2 m3/日

工 種 名	設 定 内 容					
土工	土砂等 発生現場	積込機種 ・ 規格	土質	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	現場制約 あり	人力	土砂(岩塊・玉 石混り土含む)	有り	0.3km 以下	20 m3/日
					0.5km 以下	18 m3/日
					1.0km 以下	17 m3/日
					1.5km 以下	14 m3/日
					2.0km 以下	13 m3/日
					2.5km 以下	11 m3/日
					3.5km 以下	10 m3/日
					4.5km 以下	9 m3/日
					6.0km 以下	8 m3/日
					8.0km 以下	7 m3/日
					10.5km 以下	6 m3/日
					14.5km 以下	4 m3/日
					23.0km 以下	3 m3/日
					60.0km 以下	2 m3/日
		軟岩	—	—	土砂÷1.22	
		硬岩	—	—	土砂÷1.37	
	③ 整地					
	作業区分		敷均し作業内容		作業日当り 標準作業量	
	残土受入れ地での処理		—		1,030 m3/日	
敷均し (ルーズ)		標準		760 m3/日		
		標準以外		1,090 m3/日		
		狭小幅員 (幅2.5m以上4m未満)		140 m3/日		
		トラフィカビリティが確保出来ない場合		620 m3/日		
④ 路体 (築堤) 盛土						
施工幅員	作業形態	土質	施工数量	障害の有無	作業日当り 標準作業量	
2.5m未満	—	—	—	—	50 m3/日	
2.5m以上4.0m未満	—	—	—	—	86 m3/日	
4.0m以上	敷均し＋ 締固め	—	10,000m3 未満	無し	690 m3/日	
				有り	350 m3/日	
			10,000m3 以上	無し	940 m3/日	
				有り	360 m3/日	
	敷均し 締固め	高含水比 粘性土 以外	10,000m3 未満	無し	350 m3/日	
				有り	160 m3/日	
			10,000m3 以上	無し	490 m3/日	
				有り	210 m3/日	
			高含水比 粘性土	—	無し	290 m3/日
					有り	130 m3/日
(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。						
2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。						

工 種 名	設 定 内 容																							
土工	⑤ 路床盛土																							
	<table><tr><th>平均幅員</th><th>施工数量</th><th>障害の有無</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>2.5m未満</td><td>—</td><td>—</td><td>43 m3/日</td></tr><tr><td>2.5m以上4.0m未満</td><td>—</td><td>—</td><td>78 m3/日</td></tr><tr><td rowspan="4">4.0m以上</td><td rowspan="2">10,000m3未満</td><td>無し</td><td>440 m3/日</td></tr><tr><td>有り</td><td>120 m3/日</td></tr><tr><td rowspan="2">10,000m3以上</td><td>無し</td><td>440 m3/日</td></tr><tr><td>有り</td><td>120 m3/日</td></tr></table>	平均幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	2.5m未満	—	—	43 m3/日	2.5m以上4.0m未満	—	—	78 m3/日	4.0m以上	10,000m3未満	無し	440 m3/日	有り	120 m3/日	10,000m3以上	無し	440 m3/日	有り	120 m3/日
	平均幅員	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量																				
	2.5m未満	—	—	43 m3/日																				
	2.5m以上4.0m未満	—	—	78 m3/日																				
	4.0m以上	10,000m3未満	無し	440 m3/日																				
			有り	120 m3/日																				
		10,000m3以上	無し	440 m3/日																				
			有り	120 m3/日																				
	(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。 2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。																							
	⑥ 押土（ルーズ）																							
	<table><tr><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>土砂</td><td>540 m3/日</td></tr><tr><td>岩塊・玉石</td><td>350 m3/日</td></tr><tr><td>破碎岩</td><td>350 m3/日</td></tr></table>	土質	作業日当り標準作業量	土砂	540 m3/日	岩塊・玉石	350 m3/日	破碎岩	350 m3/日															
	土質	作業日当り標準作業量																						
土砂	540 m3/日																							
岩塊・玉石	350 m3/日																							
破碎岩	350 m3/日																							
⑦ 積込（ルーズ）																								
<table><tr><th>土質</th><th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="5">土砂</td><td>土量50,000m3未満</td><td>310 m3/日</td></tr><tr><td>土量50,000m3以上</td><td>520 m3/日</td></tr><tr><td>平均施工幅1m以上2m未満</td><td>160 m3/日</td></tr><tr><td>1箇所100m3以下（標準）</td><td>42 m3/日</td></tr><tr><td>1箇所100m3以下（標準以外）</td><td>22 m3/日</td></tr><tr><td rowspan="3">岩塊・玉石、 破碎岩</td><td>土量50,000m3未満</td><td>260 m3/日</td></tr><tr><td>土量50,000m3以上</td><td>440 m3/日</td></tr><tr><td>平均施工幅1m以上2m未満</td><td>130 m3/日</td></tr></table>	土質	作業内容	作業日当り標準作業量	土砂	土量50,000m3未満	310 m3/日	土量50,000m3以上	520 m3/日	平均施工幅1m以上2m未満	160 m3/日	1箇所100m3以下（標準）	42 m3/日	1箇所100m3以下（標準以外）	22 m3/日	岩塊・玉石、 破碎岩	土量50,000m3未満	260 m3/日	土量50,000m3以上	440 m3/日	平均施工幅1m以上2m未満	130 m3/日			
土質	作業内容	作業日当り標準作業量																						
土砂	土量50,000m3未満	310 m3/日																						
	土量50,000m3以上	520 m3/日																						
	平均施工幅1m以上2m未満	160 m3/日																						
	1箇所100m3以下（標準）	42 m3/日																						
	1箇所100m3以下（標準以外）	22 m3/日																						
岩塊・玉石、 破碎岩	土量50,000m3未満	260 m3/日																						
	土量50,000m3以上	440 m3/日																						
	平均施工幅1m以上2m未満	130 m3/日																						
⑧ 人力積込																								
<table><tr><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>土砂</td><td>7.1 m3/日</td></tr><tr><td>岩塊・玉石</td><td>5.3 m3/日</td></tr><tr><td>軟岩</td><td>5.6 m3/日</td></tr><tr><td>中硬岩</td><td>5.0 m3/日</td></tr><tr><td>硬岩</td><td>4.5 m3/日</td></tr><tr><td>アスファルト塊</td><td>5.6 m3/日</td></tr><tr><td>コンクリート塊</td><td>5.0 m3/日</td></tr></table>	土質	作業日当り標準作業量	土砂	7.1 m3/日	岩塊・玉石	5.3 m3/日	軟岩	5.6 m3/日	中硬岩	5.0 m3/日	硬岩	4.5 m3/日	アスファルト塊	5.6 m3/日	コンクリート塊	5.0 m3/日								
土質	作業日当り標準作業量																							
土砂	7.1 m3/日																							
岩塊・玉石	5.3 m3/日																							
軟岩	5.6 m3/日																							
中硬岩	5.0 m3/日																							
硬岩	4.5 m3/日																							
アスファルト塊	5.6 m3/日																							
コンクリート塊	5.0 m3/日																							
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																								
⑨ 転石破碎																								
<table><tr><th>火薬使用の有無</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>有り</td><td>33 m3/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>34 m3/日</td></tr></table>	火薬使用の有無	作業日当り標準作業量	有り	33 m3/日	無し	34 m3/日																		
火薬使用の有無	作業日当り標準作業量																							
有り	33 m3/日																							
無し	34 m3/日																							
(注) 上表の火薬使用無しは、大型ブレーカによる転石破碎である。																								

工 種 名

土工
(ICT)

設 定 内 容

① 掘削 (ICT)

土質	施工方法	障害の有無	施工数量	作業日当り標準作業量	ICT標準作業量
土砂	オープンカット	無し	50,000m3未満	307 m3/日	330 m3/日
			50,000m3以上	512 m3/日	550 m3/日
		有り	50,000m3未満	194 m3/日	209 m3/日
			50,000m3以上	327 m3/日	352 m3/日
	片切掘削	—	—	225 m3/日	242 m3/日
	岩塊・玉石	オープンカット	無し	50,000m3未満	235 m3/日
50,000m3以上				420 m3/日	451 m3/日
有り			50,000m3未満	143 m3/日	154 m3/日
			50,000m3以上	266 m3/日	286 m3/日

(注) 保守点検費を算出する場合に限り、上表の「ICT標準作業量」を適用すること。

② 路体 (築堤) 盛土 (ICT)

作業形態	土質	施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	ICT標準作業量
敷均し+締固め	—	10,000m3未満	無し	828 m3/日	828 m3/日
			有り	360 m3/日	420 m3/日
		10,000m3以上	無し	940 m3/日	1,176 m3/日
			有り	360 m3/日	684 m3/日
敷均し締固め	高含水比粘性土以外	10,000m3未満	無し	385 m3/日	385 m3/日
			有り	176 m3/日	176 m3/日
		10,000m3以上	無し	539 m3/日	539 m3/日
			有り	231 m3/日	231 m3/日
	高含水比粘性土	—	無し	319 m3/日	319 m3/日
			有り	143 m3/日	143 m3/日

(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。
2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。
3. 保守点検費を算出する場合に限り、上表の「ICT標準作業量」を適用すること。

③ 路床盛土 (ICT)

施工数量	障害の有無	作業日当り標準作業量	ICT作業量
10,000m3未満	無し	440 m3/日	648 m3/日
	有り	120 m3/日	336 m3/日
10,000m3以上	無し	440 m3/日	924 m3/日
	有り	120 m3/日	540 m3/日

(注) 1. 上表は、締固め後の土量である。
2. 敷均し作業の仕上り厚さは0.2～0.3mとする。
3. 保守点検費を算出する場合に限り、上表の「ICT標準作業量」を適用すること。

工 種 名	設 定 内 容				
床堀工	① 床掘り				
	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	作業日当り 標準作業量
	土砂	標準	無し	有り	180 m3/日
				無し	220 m3/日
			自立式	有り	180 m3/日
				無し	220 m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	180 m3/日
				無し	220 m3/日
			切梁腹起式	有り	180 m3/日
		平均施工幅 1m以上2m未満	無し	有り	100 m3/日
				無し	150 m3/日
			自立式	有り	100 m3/日
				無し	150 m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	100 m3/日
				無し	150 m3/日
			切梁腹起式	有り	100 m3/日
		掘削深さ 5mを超え20m以下	グラウンドアンカー式	有り	130 m3/日
				無し	200 m3/日
			切梁腹起式	有り	130 m3/日
		掘削深さ20mを超え	グラウンドアンカー式	—	120 m3/日
				—	120 m3/日
		上記以外（小規模）	—	—	32 m3/日
		現場制約あり	—	—	2.4 m3/日
	岩塊・ 玉石	標準	無し	有り	130 m3/日
				無し	160 m3/日
			自立式	有り	130 m3/日
				無し	160 m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	130 m3/日
				無し	160 m3/日
			切梁腹起式	有り	130 m3/日
		平均施工幅 1m以上2m未満	無し	有り	70 m3/日
				無し	110 m3/日
			自立式	有り	70 m3/日
				無し	110 m3/日
			グラウンドアンカー式	有り	70 m3/日
				無し	110 m3/日
			切梁腹起式	有り	70 m3/日
		掘削深さ 5mを超え20m以下	グラウンドアンカー式	有り	90 m3/日
				無し	140 m3/日
			切梁腹起式	有り	90 m3/日
		掘削深さ20mを超え	グラウンドアンカー式	—	90 m3/日
				—	90 m3/日
		現場制約あり	—	—	1.7 m3/日
	(注)「現場制約あり」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。				

工 種 名	設 定 内 容						
床堀工	② 掘削補助機械搬入搬出作業						
	作業日当り標準作業量		3.3 回/日				
	③ 基面整正						
	作業日当り標準作業量		50 m2/日				
	(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。						
	④ 舗装版破碎積込（小規模土工）						
	作業日当り標準作業量		23 m2/日				
埋戻工	① 埋戻し						
	施工方法	土質	締固めの有無	作業日当り標準作業量			
	最小埋戻幅4m以上	—	—	270 m3/日			
	最大埋戻幅4m以上	—	—	96 m3/日			
	最大埋戻幅1m以上4m未満	—	—	61 m3/日			
	最大埋戻幅1m未満	—	—	33 m3/日			
	上記以外（小規模）	土砂	—	40 m3/日			
	現場制約あり	土砂	有り	3.7 m3/日			
			無し	4.2 m3/日			
		岩塊・玉石	有り	3.5 m3/日			
			無し	3.8 m3/日			
	(注) 「現場制約あり」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。						
	② タンパ締固め						
	作業日当り標準作業量		36 m3/日				
	人力運搬工	① 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）					
		換算距離	作業日当り標準作業量			セメント等	積ブロック類
			土・石				
土砂			岩塊・玉石	栗石・クラックリ			
20m以下		4.8 m3/日	3.2 m3/日	3.8 m3/日	9.1 t/日	14 m2/日	
40m以下		3.8 m3/日	2.6 m3/日	3.0 m3/日	7.1 t/日	11 m2/日	
60m以下		3.1 m3/日	2.3 m3/日	2.6 m3/日	5.9 t/日	9.1 m2/日	
80m以下		2.7 m3/日	1.9 m3/日	2.2 m3/日	4.8 t/日	7.7 m2/日	
100m以下		2.3 m3/日	1.7 m3/日	2.0 m3/日	4.2 t/日	6.7 m2/日	
120m以下		2.0 m3/日	1.5 m3/日	1.8 m3/日	3.7 t/日	5.6 m2/日	
140m以下		1.9 m3/日	1.4 m3/日	1.6 m3/日	3.2 t/日	5.3 m2/日	
160m以下		1.7 m3/日	1.3 m3/日	1.4 m3/日	2.9 t/日	4.8 m2/日	
180m以下		1.5 m3/日	1.1 m3/日	1.3 m3/日	2.7 t/日	4.3 m2/日	
200m以下		1.4 m3/日	1.1 m3/日	1.2 m3/日	2.4 t/日	4.0 m2/日	
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。							

工 種 名	設 定 内 容																																																																									
人力運搬工	② 人肩運搬（運搬～取卸し）																																																																									
	<table><tr><th rowspan="3">換算距離</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th colspan="2">土砂</th><th colspan="2">岩塊・玉石</th></tr><tr><th>掘削（床掘り） 無し</th><th>掘削（床掘り） 有り</th><th>掘削（床掘り） 無し</th><th>掘削（床掘り） 有り</th></tr><tr><td>20m以下</td><td>13 m3/日</td><td>2.0 m3/日</td><td>8.3 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td></tr><tr><td>40m以下</td><td>7.7 m3/日</td><td>1.8 m3/日</td><td>5.3 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td></tr><tr><td>60m以下</td><td>5.3 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>4.0 m3/日</td><td>1.2 m3/日</td></tr><tr><td>80m以下</td><td>4.2 m3/日</td><td>1.5 m3/日</td><td>3.0 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td></tr><tr><td>100m以下</td><td>3.3 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>2.5 m3/日</td><td>1.0 m3/日</td></tr><tr><td>120m以下</td><td>2.8 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td><td>2.1 m3/日</td><td>0.93 m3/日</td></tr><tr><td>140m以下</td><td>2.4 m3/日</td><td>1.2 m3/日</td><td>1.9 m3/日</td><td>0.88 m3/日</td></tr><tr><td>160m以下</td><td>2.1 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>0.83 m3/日</td></tr><tr><td>180m以下</td><td>1.9 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td><td>1.5 m3/日</td><td>0.78 m3/日</td></tr><tr><td>200m以下</td><td>1.7 m3/日</td><td>1.0 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>0.75 m3/日</td></tr></table>	換算距離	作業日当り標準作業量				土砂		岩塊・玉石		掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	20m以下	13 m3/日	2.0 m3/日	8.3 m3/日	1.4 m3/日	40m以下	7.7 m3/日	1.8 m3/日	5.3 m3/日	1.3 m3/日	60m以下	5.3 m3/日	1.6 m3/日	4.0 m3/日	1.2 m3/日	80m以下	4.2 m3/日	1.5 m3/日	3.0 m3/日	1.1 m3/日	100m以下	3.3 m3/日	1.4 m3/日	2.5 m3/日	1.0 m3/日	120m以下	2.8 m3/日	1.3 m3/日	2.1 m3/日	0.93 m3/日	140m以下	2.4 m3/日	1.2 m3/日	1.9 m3/日	0.88 m3/日	160m以下	2.1 m3/日	1.1 m3/日	1.6 m3/日	0.83 m3/日	180m以下	1.9 m3/日	1.1 m3/日	1.5 m3/日	0.78 m3/日	200m以下	1.7 m3/日	1.0 m3/日	1.4 m3/日	0.75 m3/日										
	換算距離		作業日当り標準作業量																																																																							
			土砂		岩塊・玉石																																																																					
		掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り																																																																					
	20m以下	13 m3/日	2.0 m3/日	8.3 m3/日	1.4 m3/日																																																																					
	40m以下	7.7 m3/日	1.8 m3/日	5.3 m3/日	1.3 m3/日																																																																					
	60m以下	5.3 m3/日	1.6 m3/日	4.0 m3/日	1.2 m3/日																																																																					
	80m以下	4.2 m3/日	1.5 m3/日	3.0 m3/日	1.1 m3/日																																																																					
	100m以下	3.3 m3/日	1.4 m3/日	2.5 m3/日	1.0 m3/日																																																																					
	120m以下	2.8 m3/日	1.3 m3/日	2.1 m3/日	0.93 m3/日																																																																					
	140m以下	2.4 m3/日	1.2 m3/日	1.9 m3/日	0.88 m3/日																																																																					
	160m以下	2.1 m3/日	1.1 m3/日	1.6 m3/日	0.83 m3/日																																																																					
180m以下	1.9 m3/日	1.1 m3/日	1.5 m3/日	0.78 m3/日																																																																						
200m以下	1.7 m3/日	1.0 m3/日	1.4 m3/日	0.75 m3/日																																																																						
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																																																										
③ 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）																																																																										
<table><tr><th rowspan="3">換算距離</th><th colspan="5">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th colspan="3">土・石</th><th rowspan="2">セメント 等</th><th rowspan="2">積ブロック 類</th></tr><tr><th>土砂</th><th>岩塊・玉石</th><th>栗石・クワツツ</th></tr><tr><td>20m以下</td><td>7.1 m3/日</td><td>4.5 m3/日</td><td>5.3 m3/日</td><td>11 t/日</td><td>20 m2/日</td></tr><tr><td>40m以下</td><td>6.3 m3/日</td><td>4.0 m3/日</td><td>4.8 m3/日</td><td>10 t/日</td><td>20 m2/日</td></tr><tr><td>60m以下</td><td>5.0 m3/日</td><td>3.2 m3/日</td><td>4.0 m3/日</td><td>8.3 t/日</td><td>14 m2/日</td></tr><tr><td>80m以下</td><td>4.0 m3/日</td><td>2.8 m3/日</td><td>3.2 m3/日</td><td>6.7 t/日</td><td>11 m2/日</td></tr><tr><td>100m以下</td><td>3.3 m3/日</td><td>2.4 m3/日</td><td>2.8 m3/日</td><td>5.6 t/日</td><td>10 m2/日</td></tr><tr><td>120m以下</td><td>2.9 m3/日</td><td>2.0 m3/日</td><td>2.3 m3/日</td><td>4.8 t/日</td><td>7.7 m2/日</td></tr><tr><td>140m以下</td><td>2.4 m3/日</td><td>1.8 m3/日</td><td>2.1 m3/日</td><td>4.2 t/日</td><td>6.7 m2/日</td></tr><tr><td>160m以下</td><td>2.2 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>1.9 m3/日</td><td>3.8 t/日</td><td>6.3 m2/日</td></tr><tr><td>180m以下</td><td>1.9 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>3.3 t/日</td><td>5.6 m2/日</td></tr><tr><td>200m以下</td><td>1.7 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td><td>1.5 m3/日</td><td>3.0 t/日</td><td>5.3 m2/日</td></tr></table>	換算距離	作業日当り標準作業量					土・石			セメント 等	積ブロック 類	土砂	岩塊・玉石	栗石・クワツツ	20m以下	7.1 m3/日	4.5 m3/日	5.3 m3/日	11 t/日	20 m2/日	40m以下	6.3 m3/日	4.0 m3/日	4.8 m3/日	10 t/日	20 m2/日	60m以下	5.0 m3/日	3.2 m3/日	4.0 m3/日	8.3 t/日	14 m2/日	80m以下	4.0 m3/日	2.8 m3/日	3.2 m3/日	6.7 t/日	11 m2/日	100m以下	3.3 m3/日	2.4 m3/日	2.8 m3/日	5.6 t/日	10 m2/日	120m以下	2.9 m3/日	2.0 m3/日	2.3 m3/日	4.8 t/日	7.7 m2/日	140m以下	2.4 m3/日	1.8 m3/日	2.1 m3/日	4.2 t/日	6.7 m2/日	160m以下	2.2 m3/日	1.6 m3/日	1.9 m3/日	3.8 t/日	6.3 m2/日	180m以下	1.9 m3/日	1.4 m3/日	1.6 m3/日	3.3 t/日	5.6 m2/日	200m以下	1.7 m3/日	1.3 m3/日	1.5 m3/日	3.0 t/日	5.3 m2/日
換算距離		作業日当り標準作業量																																																																								
		土・石			セメント 等	積ブロック 類																																																																				
	土砂	岩塊・玉石	栗石・クワツツ																																																																							
20m以下	7.1 m3/日	4.5 m3/日	5.3 m3/日	11 t/日	20 m2/日																																																																					
40m以下	6.3 m3/日	4.0 m3/日	4.8 m3/日	10 t/日	20 m2/日																																																																					
60m以下	5.0 m3/日	3.2 m3/日	4.0 m3/日	8.3 t/日	14 m2/日																																																																					
80m以下	4.0 m3/日	2.8 m3/日	3.2 m3/日	6.7 t/日	11 m2/日																																																																					
100m以下	3.3 m3/日	2.4 m3/日	2.8 m3/日	5.6 t/日	10 m2/日																																																																					
120m以下	2.9 m3/日	2.0 m3/日	2.3 m3/日	4.8 t/日	7.7 m2/日																																																																					
140m以下	2.4 m3/日	1.8 m3/日	2.1 m3/日	4.2 t/日	6.7 m2/日																																																																					
160m以下	2.2 m3/日	1.6 m3/日	1.9 m3/日	3.8 t/日	6.3 m2/日																																																																					
180m以下	1.9 m3/日	1.4 m3/日	1.6 m3/日	3.3 t/日	5.6 m2/日																																																																					
200m以下	1.7 m3/日	1.3 m3/日	1.5 m3/日	3.0 t/日	5.3 m2/日																																																																					
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																																																										

工 種 名	設 定 内 容																																																															
人力運搬工	④ 小車運搬（運搬～取卸し）																																																															
	<table><tr><th rowspan="3">換算距離</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th colspan="2">土砂</th><th colspan="2">岩塊・玉石</th></tr><tr><th>掘削（床掘り） 無し</th><th>掘削（床掘り） 有り</th><th>掘削（床掘り） 無し</th><th>掘削（床掘り） 有り</th></tr><tr><td>20m以下</td><td>100 m3/日</td><td>2.3 m3/日</td><td>33 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td></tr><tr><td>40m以下</td><td>33 m3/日</td><td>2.2 m3/日</td><td>17 m3/日</td><td>1.5 m3/日</td></tr><tr><td>60m以下</td><td>14 m3/日</td><td>2.0 m3/日</td><td>8.3 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td></tr><tr><td>80m以下</td><td>8.3 m3/日</td><td>1.9 m3/日</td><td>5.9 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td></tr><tr><td>100m以下</td><td>5.9 m3/日</td><td>1.7 m3/日</td><td>4.3 m3/日</td><td>1.2 m3/日</td></tr><tr><td>120m以下</td><td>4.5 m3/日</td><td>1.6 m3/日</td><td>3.3 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td></tr><tr><td>140m以下</td><td>3.6 m3/日</td><td>1.4 m3/日</td><td>2.7 m3/日</td><td>1.0 m3/日</td></tr><tr><td>160m以下</td><td>3.0 m3/日</td><td>1.3 m3/日</td><td>2.3 m3/日</td><td>0.96 m3/日</td></tr><tr><td>180m以下</td><td>2.6 m3/日</td><td>1.2 m3/日</td><td>2.0 m3/日</td><td>0.90 m3/日</td></tr><tr><td>200m以下</td><td>2.2 m3/日</td><td>1.1 m3/日</td><td>1.7 m3/日</td><td>0.84 m3/日</td></tr></table>	換算距離	作業日当り標準作業量				土砂		岩塊・玉石		掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	20m以下	100 m3/日	2.3 m3/日	33 m3/日	1.6 m3/日	40m以下	33 m3/日	2.2 m3/日	17 m3/日	1.5 m3/日	60m以下	14 m3/日	2.0 m3/日	8.3 m3/日	1.4 m3/日	80m以下	8.3 m3/日	1.9 m3/日	5.9 m3/日	1.3 m3/日	100m以下	5.9 m3/日	1.7 m3/日	4.3 m3/日	1.2 m3/日	120m以下	4.5 m3/日	1.6 m3/日	3.3 m3/日	1.1 m3/日	140m以下	3.6 m3/日	1.4 m3/日	2.7 m3/日	1.0 m3/日	160m以下	3.0 m3/日	1.3 m3/日	2.3 m3/日	0.96 m3/日	180m以下	2.6 m3/日	1.2 m3/日	2.0 m3/日	0.90 m3/日	200m以下	2.2 m3/日	1.1 m3/日	1.7 m3/日	0.84 m3/日
	換算距離		作業日当り標準作業量																																																													
			土砂		岩塊・玉石																																																											
		掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り	掘削（床掘り） 無し	掘削（床掘り） 有り																																																											
	20m以下	100 m3/日	2.3 m3/日	33 m3/日	1.6 m3/日																																																											
	40m以下	33 m3/日	2.2 m3/日	17 m3/日	1.5 m3/日																																																											
	60m以下	14 m3/日	2.0 m3/日	8.3 m3/日	1.4 m3/日																																																											
	80m以下	8.3 m3/日	1.9 m3/日	5.9 m3/日	1.3 m3/日																																																											
	100m以下	5.9 m3/日	1.7 m3/日	4.3 m3/日	1.2 m3/日																																																											
	120m以下	4.5 m3/日	1.6 m3/日	3.3 m3/日	1.1 m3/日																																																											
	140m以下	3.6 m3/日	1.4 m3/日	2.7 m3/日	1.0 m3/日																																																											
	160m以下	3.0 m3/日	1.3 m3/日	2.3 m3/日	0.96 m3/日																																																											
	180m以下	2.6 m3/日	1.2 m3/日	2.0 m3/日	0.90 m3/日																																																											
200m以下	2.2 m3/日	1.1 m3/日	1.7 m3/日	0.84 m3/日																																																												
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																																																
人力土工（ベルトコンベヤ併用）	① ベルトコンベヤ併用人力掘削（床掘り）																																																															
	<table><tr><th>土質</th><th>ベルトコンベヤ 据付状態</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">土砂</td><td>水平据付</td><td>12 m3/日</td></tr><tr><td>傾斜据付</td><td>7 m3/日</td></tr><tr><td rowspan="2">岩塊・玉石</td><td>水平据付</td><td>8 m3/日</td></tr><tr><td>傾斜据付</td><td>5 m3/日</td></tr></table>	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	作業日当り標準作業量	土砂	水平据付	12 m3/日	傾斜据付	7 m3/日	岩塊・玉石	水平据付	8 m3/日	傾斜据付	5 m3/日																																																		
	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	作業日当り標準作業量																																																													
	土砂	水平据付	12 m3/日																																																													
		傾斜据付	7 m3/日																																																													
	岩塊・玉石	水平据付	8 m3/日																																																													
		傾斜据付	5 m3/日																																																													
	② ベルトコンベヤ併用人力積込																																																															
	<table><tr><th>土質</th><th>ベルトコンベヤ 据付状態</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">土砂</td><td>水平据付</td><td>36 m3/日</td></tr><tr><td>傾斜据付</td><td>21 m3/日</td></tr><tr><td rowspan="2">岩塊・玉石</td><td>水平据付</td><td>26 m3/日</td></tr><tr><td>傾斜据付</td><td>16 m3/日</td></tr></table>	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	作業日当り標準作業量	土砂	水平据付	36 m3/日	傾斜据付	21 m3/日	岩塊・玉石	水平据付	26 m3/日	傾斜据付	16 m3/日																																																		
	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	作業日当り標準作業量																																																													
	土砂	水平据付	36 m3/日																																																													
		傾斜据付	21 m3/日																																																													
	岩塊・玉石	水平据付	26 m3/日																																																													
		傾斜据付	16 m3/日																																																													

工 種 名	設 定 内 容																													
安定処理工	① 安定処理（スタビライザ） <table><tr><th>混合回数</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>1 回</td><td>790 m2／日</td></tr><tr><td>2 回</td><td>690 m2／日</td></tr></table> （注） 1. 固化材散布，混合，敷均し，締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には，100m程度の仮置場～現場までの小運搬及び現場内小運搬が含まれている。	混合回数	作業日当り標準作業量	1 回	790 m2／日	2 回	690 m2／日																							
	混合回数	作業日当り標準作業量																												
	1 回	790 m2／日																												
	2 回	690 m2／日																												
	② 安定処理（バックホウ） <table><tr><th>施工箇所</th><th>混合深さ</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>路床</td><td>1m 以下</td><td>180 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">構造物基礎</td><td>1m 以下</td><td>127 m2／日</td></tr><tr><td>1m を超え 2m 以下</td><td>74 m2／日</td></tr></table> （注） 1. 固化材散布，混合，敷均し，締固めをすべて含んだ標準施工量である。 2. 上表には，50m程度の現場内小運搬が含まれている。	施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量	路床	1m 以下	180 m2／日	構造物基礎	1m 以下	127 m2／日	1m を超え 2m 以下	74 m2／日																		
	施工箇所	混合深さ	作業日当り標準作業量																											
	路床	1m 以下	180 m2／日																											
	構造物基礎	1m 以下	127 m2／日																											
		1m を超え 2m 以下	74 m2／日																											
	安定処理工（自走式土質改良工）	① 自走式土質改良機設置・撤去工 <table><tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>設置</td><td>2.6 回／日</td></tr><tr><td>撤去</td><td>3.7 回／日</td></tr></table> ② 安定処理工（自走式土質改良工） …… 該当工種の基準内に記載。	作業区分	作業日当り標準作業量	設置	2.6 回／日	撤去	3.7 回／日																						
作業区分	作業日当り標準作業量																													
設置	2.6 回／日																													
撤去	3.7 回／日																													
土砂運搬工（不整地運搬車による運搬）	該当工種の基準内に記載。																													
法面整形工	① 法面整形 <table><tr><th>整形箇所</th><th>法面締固めの有無</th><th>現場制約の有無</th><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">盛土部</td><td rowspan="2">有り</td><td>有り</td><td>砂及び砂質土，粘性土</td><td>120 m2/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>140 m2/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>220 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="4">切土部</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="2">有り</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>61 m2/日</td></tr><tr><td>軟岩Ⅰ，軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩</td><td>30 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>140 m2/日</td></tr><tr><td>軟岩Ⅰ</td><td>120 m2/日</td></tr></table>	整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質	作業日当り標準作業量	盛土部	有り	有り	砂及び砂質土，粘性土	120 m2/日	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	140 m2/日	無し	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	220 m2/日	切土部	—	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	61 m2/日	軟岩Ⅰ，軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩	30 m2/日	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	140 m2/日	軟岩Ⅰ	120 m2/日
	整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質	作業日当り標準作業量																									
	盛土部	有り	有り	砂及び砂質土，粘性土	120 m2/日																									
			無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	140 m2/日																									
		無し	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	220 m2/日																									
	切土部	—	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	61 m2/日																									
				軟岩Ⅰ，軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩	30 m2/日																									
			無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	140 m2/日																									
				軟岩Ⅰ	120 m2/日																									
	法面整形工（ICT）	① 法面整形（ICT） <table><tr><th>整形箇所</th><th>法面締固めの有無</th><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">盛土部</td><td>有り</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>154 m2/日</td></tr><tr><td>無し</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>242 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">切土部</td><td rowspan="2">—</td><td>レキ質土，砂及び砂質土，粘性土</td><td>154 m2/日</td></tr><tr><td>軟岩Ⅰ</td><td>132 m2/日</td></tr></table>	整形箇所	法面締固めの有無	土質	作業日当り標準作業量	盛土部	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	154 m2/日	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	242 m2/日	切土部	—	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	154 m2/日	軟岩Ⅰ	132 m2/日											
整形箇所	法面締固めの有無	土質	作業日当り標準作業量																											
盛土部	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	154 m2/日																											
	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	242 m2/日																											
切土部	—	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	154 m2/日																											
		軟岩Ⅰ	132 m2/日																											

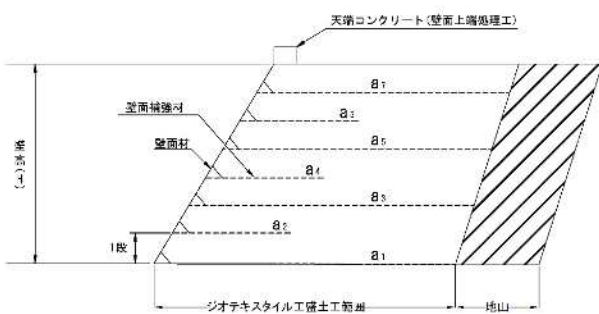
工 種 名	設 定 内 容																				
芝付工	① 市松芝 <table border="1"> <tr> <td>芝の規格</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>高麗芝・野芝</td><td>333 m²/日</td></tr> </table> (注) 散水養生・施肥は含まない。	芝の規格	作業日当り標準作業量	高麗芝・野芝	333 m ² /日																
芝の規格	作業日当り標準作業量																				
高麗芝・野芝	333 m ² /日																				
コンクリート法砕工	① プレキャスト法砕工 (1) プレキャストブロック設置 (中詰除く) … 該当工種の基準内に記載。 (2) 敷砂利 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m³/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。 (3) 中詰工 <table border="1"> <tr> <td>中詰区分</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>中詰ブロック</td><td>83 m²/日</td></tr> <tr> <td>客土</td><td>16 m³/日</td></tr> <tr> <td>植生土のう</td><td>625 袋/日</td></tr> <tr> <td>割石又は栗石</td><td>10 m³/日</td></tr> <tr> <td>碎石</td><td>12 m³/日</td></tr> </table> ② 現場打法砕工 (1) コンクリートポンプ車投入打設 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>7.2 m³/日</td></tr> </table> (注) 養生を含む。 (2) アンカー工 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>33 本/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。 (3) 吸出し防止材敷設工 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>200 m²/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作業日当り標準作業量	10 m ³ /日	中詰区分	作業日当り標準作業量	中詰ブロック	83 m ² /日	客土	16 m ³ /日	植生土のう	625 袋/日	割石又は栗石	10 m ³ /日	碎石	12 m ³ /日	作業日当り標準作業量	7.2 m ³ /日	作業日当り標準作業量	33 本/日	作業日当り標準作業量	200 m ² /日
作業日当り標準作業量	10 m ³ /日																				
中詰区分	作業日当り標準作業量																				
中詰ブロック	83 m ² /日																				
客土	16 m ³ /日																				
植生土のう	625 袋/日																				
割石又は栗石	10 m ³ /日																				
碎石	12 m ³ /日																				
作業日当り標準作業量	7.2 m ³ /日																				
作業日当り標準作業量	33 本/日																				
作業日当り標準作業量	200 m ² /日																				
法面施肥工	該当工種の基準内に記載。																				
現場吹付法砕工	該当工種の基準内に記載。																				
吹付法面とりこわし工	① 吹付法面とりこわし工 <table border="1"> <tr> <td>工法区分</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>人力施工</td><td>59 m²/日</td></tr> <tr> <td>機械施工</td><td>147 m²/日</td></tr> </table>	工法区分	作業日当り標準作業量	人力施工	59 m ² /日	機械施工	147 m ² /日														
工法区分	作業日当り標準作業量																				
人力施工	59 m ² /日																				
機械施工	147 m ² /日																				

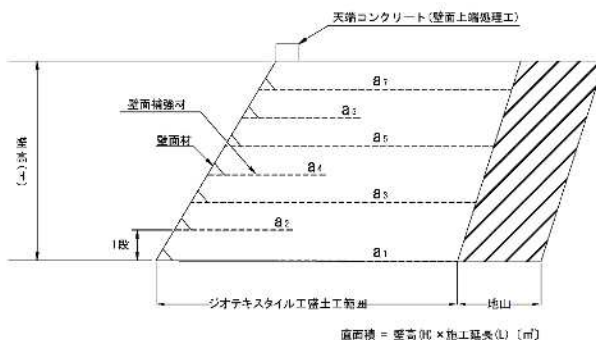
工 種 名	設 定 内 容			
プレキャストコンクリート板設置工	① プレキャストコンクリート板			
	フレームタイプ	1 列当り平均据付枚数	作業日当り標準作業量	
	クロスタイプ	20 枚未満	6.3 枚／日	
		20 枚以上 30 枚未満	7 枚／日	
		30 枚以上	7.7 枚／日	
	セミスクエアタイプ・スクエアタイプ	20 枚未満	4.5 枚／日	
		20 枚以上 30 枚未満	5 枚／日	
		30 枚以上	5.5 枚／日	
	(注) 1. 1 列当り平均据付枚数は、次式により求める。 1 列当り平均据付枚数＝総据付枚数÷施工列数 2. 1 列当り平均据付枚数は、1 工事単位とする。			
	② ジョイント処理			
作業日当り標準作業量		14 箇所／日		
人工張芝工	① 人工張芝			
作業日当り標準作業量		625 m ² ／日		
(注) 法面整形は含まない。				
基礎・裏込碎石工 基礎・裏込栗石工	① 基礎・裏込碎石工，基礎・裏込栗石工			
	工 種 名		作業日当り標準作業量	
	基礎碎石		155 m ² ／日	
	裏込碎石		38 m ³ ／日	
	基礎栗石	敷均し	161 m ² ／日	
		敷並べ	100 m ² ／日	
	裏込栗石	かき込み	31 m ³ ／日	
		築立て	10 m ³ ／日	
	採取小割	軟岩	採取	3.3 m ³ ／日
			小割	10 m ³ ／日
			採取＋小割	2.5 m ³ ／日
		硬岩	採取	3.3 m ³ ／日
			小割	3.3 m ³ ／日
			採取＋小割	1.7 m ³ ／日
	(注) 1. 上表には、20m程度の現場内小運搬を含む。 2. 基礎碎石の敷均し厚は20cmまでを対象とし、それを超える場合は上表に0.7を乗じた数量を計上する。ただし、この場合の敷均し厚は30cmを上限とする。 3. 護岸工の裏込栗石において、護岸平場は、基礎栗石とする。 4. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cmまでを対象とする。 5. 「採取小割」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。			

工 種 名	設 定 内 容			
コンクリートブロック積（張）工	① コンクリートブロック積（張）工			
	工 種 名	ブロック質量 又は種類	基礎碎石の有無	作業日当り 標準作業量
	コンクリートブロック積	150kg／個以上	－	13 m2／日
	大型ブロック積	－	－	42 m2／日
	間知ブロック張 平ブロック張 連節ブロック張	150kg／個未満	－	41 m2／日
		150kg／個以上	－	92 m2／日
	緑化ブロック積	150kg／個未満	－	13 m2／日
		150kg／個以上	－	24 m2／日
	胴込・裏込コンクリート	間知・平・連節・緑化 ブロック	－	9.1 m3／日
		大型ブロック	－	20 m3／日
	胴込・裏込材（碎石）	間知・平・連節・緑化 ブロック	－	20 m3／日
		大型ブロック	－	50 m3／日
	遮水シート張	－	－	500 m2／日
	吸出し防止材（全面）設置	－	－	500 m2／日
	植樹	－	－	340 本／日
	現場打基礎コンクリート	－	有り	3.7 m3／日
		－	無し	4.5 m3／日
	天端コンクリート	－	－	3.4 m3／日
	プレキャスト基礎ブロック	－	－	20 m／日
	(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業を含む。 ・コンクリートブロック積、 大型ブロック積、間知ブ ロック張、平ブロック張、 連節ブロック張 ：ブロック積(張)、裏込・胴込C0、裏込材までの 一連作業 ・緑化ブロック積 ：緑化ブロック積、胴込C0、裏込材、客土までの 一連作業 ・植樹 ：植樹作業のみ 2. ブロック積（張）は、裏込・胴込C0、裏込材を施工しない場合も上表による。 3. 緑化ブロック積は、胴込C0、裏込材、客土を施工しない場合も上表による。 4. 連節ブロック張（撤去）は、再利用を前提とした場合に適用し、作業日当り 標準作業量は、上表×2とする。			
裏込栗石投入工（コンク リートブロック張）	① 裏込栗石工			
	作業日当り標準作業量		3.8 m3／日	
	(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。			

工 種 名	設 定 内 容			
石積（張）工	① 石積（張）工			
	積張の区分	工種の区分	石の種類	作業日当り標準作業量
	積工	練石	玉石，雑割石	19 m2／日
	張工	練石	玉石，雑割石	31 m2／日
		空石	玉石	31 m2／日
	(注) 石積（張）工は，裏込・胴込C0，裏込材を施工しない場合も上表による。			
	② 胴込・裏込コンクリート			
	積張の区分	作業日当り標準作業量		
	積工	8.3 m3／日		
	張工	9.1 m3／日		
平石張工	③ 裏込材（クラッシュラン）			
	積張の区分	作業日当り標準作業量		
	積工	8.3 m3／日		
	張工	11 m3／日		
	① 平石張			
	作業区分	平石の形状区分	作業日当り標準作業量	
	舗装・床張り	乱形	21 m2／日	
		方形	28 m2／日	
	階 段	乱形	10 m2／日	
		方形	18 m2／日	
壁 張 り	乱形	13 m2／日		
	方形	11 m2／日		

工 種 名	設 定 内 容					
場所打擁壁工（１）	① 場所打擁壁	区 分		作業日当り標準作業量（m3／日）		
		小型擁壁（Ａ）	0.5m以上 0.6m未満	0.8		
			0.6m以上 0.8m未満	1.0		
			0.8m以上 1.0m以下	1.1		
		小型擁壁（Ｂ）	0.5m以上 0.6m未満	0.8		
			0.6m以上 0.8m未満	0.9		
			0.8m以上 1.0m以下	1.0		
		重力式擁壁	1mを超え 2 m未満	5.7		
			2 m以上 5 m以下	7.8（7.5）		
		もたれ式擁壁	3 mから 8 mまで	6.3（6.3）		
		逆Ｔ型擁壁	3 mから 10mまで	5.2（5.0）		
		L型擁壁	3 mから 7 mまで	4.2（4.0）		
		(注) １．上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。 ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生 ・コンクリート打設・養生 ・型枠製作・設置、撤去 ・鉄筋加工・組立 ・足場設置・撤去 ・目地材設置 ・水抜きパイプ設置 ・吸出し防止材設置 ２．上表の作業日当り標準作業量は、基礎材、均しコンクリート、足場の施工の有無、足場形式（枠組足場、単管足場、手摺先行型枠組足場）、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材の施工の有無にかかわらず適用出来る。 なお、手摺先行型枠組足場を使用する場合は、（ ）書きの数値を適用する。 ３．小型擁壁の場合、小型擁壁（Ａ）、（Ｂ）を問わず適用出来る。 ４．コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用出来る。 ５．上表の作業日当り標準作業量は、擁壁本体コンクリート換算値である。				
場所打擁壁工（２）	① コンクリート（場所打擁壁）	作 業 種 別		作業日当り標準作業量		
		コンクリートポンプ車打設		80 m3／日		
プレキャスト擁壁工	① プレキャスト擁壁設置	プレキャスト擁壁	0.5 以上	1.0 を超え	2.0 を超え	3.5 を超え
		高さ（m）	1.0 以下	2.0 以下	3.5 以下	5.0 以下
		作業日当り				
		標準作業量	33 m／日	26 m／日	22 m／日	17 m／日
(注) 運搬距離 10m程度までの現場内小運搬を含んでいるが、床掘り、埋戻し、雑工種（基礎碎石、均しコンクリート）、残土処理は含まない。						

工 種 名	設 定 内 容											
補強土壁工 (帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)	① 補強土壁壁面材組立・設置											
	<table><tr><th colspan="2">作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁 (1)</td><td>40.0 m2／日</td></tr><tr><td>帯鋼補強土壁 (2)</td><td>41.7 m2／日</td></tr><tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>33.3 m2／日</td></tr></table>	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	40.0 m2／日	帯鋼補強土壁 (2)	41.7 m2／日	アンカー補強土壁		33.3 m2／日
	作 業 種 別		作業日当り標準作業量									
	帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	40.0 m2／日									
		帯鋼補強土壁 (2)	41.7 m2／日									
	アンカー補強土壁		33.3 m2／日									
	② 補強材取付											
	<table><tr><th colspan="2">作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁 (1)</td><td>227 m／日</td></tr><tr><td>帯鋼補強土壁 (2)</td><td>227 m／日</td></tr><tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>116 m／日</td></tr></table>	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	227 m／日	帯鋼補強土壁 (2)	227 m／日	アンカー補強土壁		116 m／日
	作 業 種 別		作業日当り標準作業量									
	帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	227 m／日									
帯鋼補強土壁 (2)		227 m／日										
アンカー補強土壁		116 m／日										
③ まき出し・敷均し, 締固め												
<table><tr><th colspan="2">作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">帯鋼補強土壁</td><td>帯鋼補強土壁 (1)</td><td>172 m3／日</td></tr><tr><td>帯鋼補強土壁 (2)</td><td>204 m3／日</td></tr><tr><td colspan="2">アンカー補強土壁</td><td>172 m3／日</td></tr></table>	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	172 m3／日	帯鋼補強土壁 (2)	204 m3／日	アンカー補強土壁		172 m3／日	
作 業 種 別		作業日当り標準作業量										
帯鋼補強土壁	帯鋼補強土壁 (1)	172 m3／日										
	帯鋼補強土壁 (2)	204 m3／日										
アンカー補強土壁		172 m3／日										
ジオテキスタイル工	① 壁面材組立・設置											
	<table><tr><th>壁 面 材 種 類</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>算出面積</th></tr><tr><td>鋼製ユニット</td><td>59 m2／日</td><td>直面積</td></tr></table>	壁 面 材 種 類	作業日当り標準作業量	算出面積	鋼製ユニット	59 m2／日	直面積					
	壁 面 材 種 類	作業日当り標準作業量	算出面積									
	鋼製ユニット	59 m2／日	直面積									
	② ジオテキスタイル敷設											
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>120 m2／日</td></tr></table> (注) 1. 敷設面積には, 壁面補強材の面積も含み, 巻込み部の面積は含まないものとする。 2. ジオテキスタイルの敷設面積の算出については, 次式の通りとする。 ジオテキスタイル敷設面積 (m2) =a1 +a2 +a3 … a1,a2,a3…: ジオテキスタイル工 1 段当り敷設面積 (m2) (参考図参照)	作業日当り標準作業量	120 m2／日									
	作業日当り標準作業量	120 m2／日										
	③ まき出し・敷均し, 締固め											
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>32 m3／日</td></tr></table> (注) 1. 上表は, ジオテキスタイル工 1 段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用出来る。 2. 水平排水材, 層厚管理材の有無にかかわらず適用出来る。 [参考図] ジオテキスタイル工標準断面図	作業日当り標準作業量	32 m3／日									
	作業日当り標準作業量	32 m3／日										
												



工 種 名	設 定 内 容																																																
連続地中壁工（柱列式）	① 連続壁 …… 該当工種の計算式（10セット当り施工日数）を参照。																																																
	② ガイド設置・撤去																																																
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>111 m／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	111 m／日																																														
	作業日当り標準作業量	111 m／日																																															
（注）ガイド溝掘削は含まない。																																																	
	③ プラント設置・撤去																																																
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.77 基／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	0.77 基／日																																														
	作業日当り標準作業量	0.77 基／日																																															
排水構造物工	① ヒューム管																																																
	（１）ヒューム管単体																																																
	<table><tr><td>管 径（mm）</td><td>200 250 300 350</td><td>400 450 500 600</td><td>700 800 900 1,000</td><td>1,100 1,200 1,350</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量 （m／日）</td><td>50</td><td>25</td><td>17</td><td>14</td></tr></table>	管 径（mm）	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350	作業日当り標準作業量 （m／日）	50	25	17	14																																						
	管 径（mm）	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350																																												
	作業日当り標準作業量 （m／日）	50	25	17	14																																												
	（注）撤去の作業日当り標準作業量は、上表×２とする。																																																
	（２）ヒューム管＋ヒューム管用巻きコンクリート																																																
	<table><tr><td>管 径（mm）</td><td>200 250 300 350</td><td>400 450 500 600</td><td>700 800 900 1,000</td><td>1,100 1,200 1,350</td></tr><tr><td rowspan="3">作業日当り 標準作業量 （m／日）</td><td>90°巻き</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>180°巻き</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>360°巻き</td><td>5</td><td>3</td><td>2</td><td>—</td></tr></table>					管 径（mm）	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350	作業日当り 標準作業量 （m／日）	90°巻き	8	6	4	3	180°巻き	7	5	3	2	360°巻き	5	3	2	—																							
	管 径（mm）	200 250 300 350	400 450 500 600	700 800 900 1,000	1,100 1,200 1,350																																												
	作業日当り 標準作業量 （m／日）	90°巻き	8	6	4	3																																											
		180°巻き	7	5	3	2																																											
		360°巻き	5	3	2	—																																											
	（注） １．上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。																																																
	・基礎材敷均し・転圧																																																
	・ヒューム管設置																																																
	・コンクリート打設・養生																																																
	・型枠製作・設置、撤去																																																
・鉄筋加工・組立																																																	
２．上表②の作業日当り標準作業量は、基礎碎石の有無にかかわらず適用出来る。																																																	
３．コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用する。																																																	
４．上表②の作業日当り標準作業量は、ヒューム管設置延長換算値である。																																																	
② ボックスカルバート																																																	
（１）ボックスカルバート単体																																																	
<table><tr><td>区 分</td><td colspan="9">PC 鋼材を使用しない場合</td></tr><tr><td>製 品 長（m）</td><td colspan="2">1.0</td><td colspan="4">1.5</td><td colspan="3">2.0</td></tr><tr><td>枠 番 号</td><td>④</td><td>⑤</td><td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>①</td><td>②③</td><td>④</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量 （m／日）</td><td>6</td><td>3</td><td>8</td><td>6</td><td>4</td><td>3</td><td>17</td><td>11</td><td>9</td></tr></table>										区 分	PC 鋼材を使用しない場合									製 品 長（m）	1.0		1.5				2.0			枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	②③	④	作業日当り標準作業量 （m／日）	6	3	8	6	4	3	17	11	9
区 分	PC 鋼材を使用しない場合																																																
製 品 長（m）	1.0		1.5				2.0																																										
枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	②③	④																																								
作業日当り標準作業量 （m／日）	6	3	8	6	4	3	17	11	9																																								
PC 鋼材による縦連結の場合																																																	
1.52.0																																																	
②④⑤⑥①②③④																																																	
44321385																																																	

（注）撤去の作業日当り標準作業量は、上表×２とする。

工 種 名	設 定 内 容																																												
排水構造物工	(2) ボックスカルバート+雑工種 (基礎碎石・均しコンクリート)																																												
	<table><tr><th>区 分</th><th colspan="10">PC 鋼材を使用しない場合</th></tr><tr><th>製 品 長 (m)</th><td colspan="2">1.0</td><td colspan="4">1.5</td><td colspan="4">2.0</td></tr><tr><th>枠 番 号</th><td>④</td><td>⑤</td><td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td></tr><tr><th>作業日当り標準作業量 (m/日)</th><td>4</td><td>2</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td><td>10</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td></tr></table>	区 分	PC 鋼材を使用しない場合										製 品 長 (m)	1.0		1.5				2.0				枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	②	③	④	作業日当り標準作業量 (m/日)	4	2	4	4	2	2	10	5	7	4
	区 分	PC 鋼材を使用しない場合																																											
	製 品 長 (m)	1.0		1.5				2.0																																					
	枠 番 号	④	⑤	②	④	⑤	⑥	①	②	③	④																																		
	作業日当り標準作業量 (m/日)	4	2	4	4	2	2	10	5	7	4																																		
	<table><tr><th>区 分</th><th colspan="8">PC 鋼材による縦連結の場合</th></tr><tr><th>製 品 長 (m)</th><td colspan="4">1.5</td><td colspan="4">2.0</td></tr><tr><th>枠 番 号</th><td>②</td><td>④</td><td>⑤</td><td>⑥</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td></tr><tr><th>作業日当り標準作業量 (m/日)</th><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>9</td><td>4</td><td>5</td><td>3</td></tr></table>	区 分	PC 鋼材による縦連結の場合								製 品 長 (m)	1.5				2.0				枠 番 号	②	④	⑤	⑥	①	②	③	④	作業日当り標準作業量 (m/日)	3	3	2	1	9	4	5	3								
	区 分	PC 鋼材による縦連結の場合																																											
	製 品 長 (m)	1.5				2.0																																							
	枠 番 号	②	④	⑤	⑥	①	②	③	④																																				
	作業日当り標準作業量 (m/日)	3	3	2	1	9	4	5	3																																				
	(注) 1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。 ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・ボックスカルバート設置 2. 上表②の作業日当り標準作業量は、ボックスカルバート設置延長換算値である。 3. 上表の枠番号①～⑥区分は、ボックスカルバート内空幅・内空高区分の図による。																																												
	③ 暗渠排水管																																												
	<table><tr><th>区 分</th><th colspan="2">直 管</th><th colspan="3">波・網状管</th></tr><tr><th>管 径 (mm)</th><td>50～150</td><td>200～400</td><td>50～150</td><td>200～400</td><td>450～600</td></tr><tr><th>作業日当り標準作業量(m/日)</th><td>250</td><td>125</td><td>429</td><td>273</td><td>150</td></tr></table>											区 分	直 管		波・網状管			管 径 (mm)	50～150	200～400	50～150	200～400	450～600	作業日当り標準作業量(m/日)	250	125	429	273	150																
	区 分	直 管		波・網状管																																									
管 径 (mm)	50～150	200～400	50～150	200～400	450～600																																								
作業日当り標準作業量(m/日)	250	125	429	273	150																																								
(注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。																																													
④ フィルター材																																													
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>36 m3/日</td></tr></table>											作業日当り標準作業量	36 m3/日																																	
作業日当り標準作業量	36 m3/日																																												
⑤ 管 (函) 渠型側溝																																													
(1) 管 (函) 渠型側溝単体																																													
<table><tr><th>製 品 長 (m)</th><td colspan="2">2.0</td></tr><tr><th>内 径 又 は 内 空 幅 (mm)</th><td>200 以上 400 以下</td><td>400 を 超 え 600 以下</td></tr><tr><th>作業日当り標準作業量(m/日)</th><td>33</td><td>17</td></tr></table>											製 品 長 (m)	2.0		内 径 又 は 内 空 幅 (mm)	200 以上 400 以下	400 を 超 え 600 以下	作業日当り標準作業量(m/日)	33	17																										
製 品 長 (m)	2.0																																												
内 径 又 は 内 空 幅 (mm)	200 以上 400 以下	400 を 超 え 600 以下																																											
作業日当り標準作業量(m/日)	33	17																																											
(注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。																																													
(2) 管 (函) 渠型側溝+基礎碎石																																													
<table><tr><th>製 品 長 (m)</th><td colspan="2">2.0</td></tr><tr><th>内 径 又 は 内 空 幅 (mm)</th><td>200 以上 400 以下</td><td>400 を 超 え 600 以下</td></tr><tr><th>作業日当り標準作業量(m/日)</th><td>29</td><td>16</td></tr></table>											製 品 長 (m)	2.0		内 径 又 は 内 空 幅 (mm)	200 以上 400 以下	400 を 超 え 600 以下	作業日当り標準作業量(m/日)	29	16																										
製 品 長 (m)	2.0																																												
内 径 又 は 内 空 幅 (mm)	200 以上 400 以下	400 を 超 え 600 以下																																											
作業日当り標準作業量(m/日)	29	16																																											
(注) 1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。 ・基礎材敷均し・転圧 ・管 (函) 渠型側溝設置 2. 上表②の作業日当り標準作業量は、管 (函) 渠型側溝設置延長換算値である。																																													

工 種 名

排水構造物工

設 定 内 容

⑥ プレキャスト集水桝

(1) 集水桝単体

製品質量 (kg/基)	50以上 80以下	80を超え 400以下	400を超え 800以下	800を超え 1,200以下	1,200を超え 1,600以下	1,600を超え 2,200以下
作業日当り標準作業量 (基/日)	100	24	17	14	11	9

(注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。

(2) 集水桝+基礎碎石

製 品 質 量 (kg/基)	50以上 80以下	80を超え 400以下	400を超え 800以下	800を超え 1,200以下	1,200を超え 1,600以下	1,600を超え 2,200以下
作業日当り標準作業量 (基/日)	77	22	16	13	10	8

(注) 1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。

・基礎材敷均し・転圧

・集水桝設置

2. 上表②の作業日当り標準作業量は、集水桝設置数量換算値である。

⑦ 鉄筋コンクリート台付管

(1) 鉄筋コンクリート台付管単体

管 径 (mm)	200 250 300	350 400 450 500	600 700 800	900 1,000 1,100 1200
作業日当り標準作業量 (m/日)	50	33	25	17

(注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。

(2) 鉄筋コンクリート台付管+基礎碎石

管 径 (mm)	200 250 300	350 400 450 500	600 700 800	900 1,000 1,100 1200
作業日当り標準作業量 (m/日)	44	29	23	16

(注) 1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。

・基礎材敷均し・転圧

・鉄筋コンクリート台付管設置

2. 上表②の作業日当り標準作業量は、鉄筋コンクリート台付管設置延長換算値である。

工 種 名	設 定 内 容																																																									
排水構造物工	⑧ プレキャスト L形側溝																																																									
	(1) L形側溝単体																																																									
	<table><tr><td>製 品 長 (m)</td><td>0.6</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量(m/日)</td><td>33</td></tr></table>	製 品 長 (m)	0.6	作業日当り標準作業量(m/日)	33																																																					
	製 品 長 (m)	0.6																																																								
	作業日当り標準作業量(m/日)	33																																																								
	(注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。																																																									
	(2) L形側溝+基礎碎石																																																									
	<table><tr><td>製 品 長 (m)</td><td>0.6</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量(m/日)</td><td>29</td></tr></table>	製 品 長 (m)	0.6	作業日当り標準作業量(m/日)	29																																																					
	製 品 長 (m)	0.6																																																								
	作業日当り標準作業量(m/日)	29																																																								
	(注) 1. 上表②の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。																																																									
	・基礎材敷均し・転圧																																																									
	・L形側溝設置																																																									
	2. 上表②の作業日当り標準作業量は、L形側溝設置延長換算値である。																																																									
	⑨ プレキャストマンホール																																																									
<table><tr><td>製 品 質 量 (kg/基)</td><td>2,000 以下</td><td>2,000 を超え 4,000 以下</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量(基/日)</td><td>4</td><td>3</td></tr></table>	製 品 質 量 (kg/基)	2,000 以下	2,000 を超え 4,000 以下	作業日当り標準作業量(基/日)	4	3																																																				
製 品 質 量 (kg/基)	2,000 以下	2,000 を超え 4,000 以下																																																								
作業日当り標準作業量(基/日)	4	3																																																								
(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。																																																										
・基礎材敷均し・転圧																																																										
・マンホール設置																																																										
2. 作業日当り標準作業量は、基礎材の有無にかかわらず適用出来る。																																																										
3. 上表の作業日当り標準作業量は、マンホール設置数量換算値である。																																																										
4. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。																																																										
⑩ PC管																																																										
<table><tr><th rowspan="3">管 径</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th colspan="3">固定基礎</th></tr><tr><th>90° 巻き</th><th>180° 巻き</th><th>無し</th></tr><tr><td>600mm</td><td>13m/日</td><td>8.0m/日</td><td>50m/日</td></tr><tr><td>700mm</td><td>9m/日</td><td>6.1m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>800mm</td><td>8.3m/日</td><td>5.3m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>900mm</td><td>7.7m/日</td><td>4.7m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>1000mm</td><td>6.8m/日</td><td>4.3m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>1100mm</td><td>5.7m/日</td><td>3.5m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>1200mm</td><td>5.3m/日</td><td>3.2m/日</td><td>33m/日</td></tr><tr><td>1350mm</td><td>4.4m/日</td><td>2.8m/日</td><td>25m/日</td></tr><tr><td>1500mm</td><td>4.0m/日</td><td>2.5m/日</td><td>25m/日</td></tr><tr><td>1650mm</td><td>3.4m/日</td><td>2.0m/日</td><td>25m/日</td></tr><tr><td>1800mm</td><td>3.0m/日</td><td>1.8m/日</td><td>20m/日</td></tr><tr><td>2000mm</td><td>2.7m/日</td><td>1.5m/日</td><td>20m/日</td></tr></table>	管 径	作業日当り標準作業量			固定基礎			90° 巻き	180° 巻き	無し	600mm	13m/日	8.0m/日	50m/日	700mm	9m/日	6.1m/日	33m/日	800mm	8.3m/日	5.3m/日	33m/日	900mm	7.7m/日	4.7m/日	33m/日	1000mm	6.8m/日	4.3m/日	33m/日	1100mm	5.7m/日	3.5m/日	33m/日	1200mm	5.3m/日	3.2m/日	33m/日	1350mm	4.4m/日	2.8m/日	25m/日	1500mm	4.0m/日	2.5m/日	25m/日	1650mm	3.4m/日	2.0m/日	25m/日	1800mm	3.0m/日	1.8m/日	20m/日	2000mm	2.7m/日	1.5m/日	20m/日
管 径		作業日当り標準作業量																																																								
		固定基礎																																																								
	90° 巻き	180° 巻き	無し																																																							
600mm	13m/日	8.0m/日	50m/日																																																							
700mm	9m/日	6.1m/日	33m/日																																																							
800mm	8.3m/日	5.3m/日	33m/日																																																							
900mm	7.7m/日	4.7m/日	33m/日																																																							
1000mm	6.8m/日	4.3m/日	33m/日																																																							
1100mm	5.7m/日	3.5m/日	33m/日																																																							
1200mm	5.3m/日	3.2m/日	33m/日																																																							
1350mm	4.4m/日	2.8m/日	25m/日																																																							
1500mm	4.0m/日	2.5m/日	25m/日																																																							
1650mm	3.4m/日	2.0m/日	25m/日																																																							
1800mm	3.0m/日	1.8m/日	20m/日																																																							
2000mm	2.7m/日	1.5m/日	20m/日																																																							
(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、PC 管の設置、基礎碎石、巻きコンクリート（コンクリート、型枠）の作業を含む。																																																										
2. 各作業間の重複作業は考慮していない。																																																										
3. 撤去（PC管単体）の作業日当り標準作業量は、上表の「無し」×2とする。																																																										

工 種 名	設 定 内 容																																																	
排水構造物工	⑪ コルゲートパイプ <table><tr><th>規格</th><th>パイプ径</th><th>型式</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="6">フランジ型</td><td>250～600mm</td><td rowspan="6">円形</td><td>38 m/日</td></tr><tr><td>750～900mm</td><td>24 m/日</td></tr><tr><td>1000～1200mm</td><td>22 m/日</td></tr><tr><td>1300mm</td><td>18 m/日</td></tr><tr><td>1500～1600mm</td><td>16 m/日</td></tr><tr><td>1800～2200mm</td><td>11 m/日</td></tr><tr><td rowspan="10">ラップ型</td><td rowspan="2">2000mm</td><td>円形</td><td>6.9 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>12 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">2500mm</td><td>円形</td><td>6.3 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>10 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">3000mm</td><td>円形</td><td>4.9 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>8.1 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">3500mm</td><td>円形</td><td>3.9 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>6.5 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">4000mm</td><td>円形</td><td>3.4 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>5.7 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">4500mm</td><td>円形</td><td>2.4 m/日</td></tr><tr><td>アーチ形</td><td>4.0 m/日</td></tr></table> (注) 1. 作業日当り標準作業量は、普通作業員 10 名の場合。 2. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	規格	パイプ径	型式	作業日当り標準作業量	フランジ型	250～600mm	円形	38 m/日	750～900mm	24 m/日	1000～1200mm	22 m/日	1300mm	18 m/日	1500～1600mm	16 m/日	1800～2200mm	11 m/日	ラップ型	2000mm	円形	6.9 m/日	アーチ形	12 m/日	2500mm	円形	6.3 m/日	アーチ形	10 m/日	3000mm	円形	4.9 m/日	アーチ形	8.1 m/日	3500mm	円形	3.9 m/日	アーチ形	6.5 m/日	4000mm	円形	3.4 m/日	アーチ形	5.7 m/日	4500mm	円形	2.4 m/日	アーチ形	4.0 m/日
	規格	パイプ径	型式	作業日当り標準作業量																																														
フランジ型	250～600mm	円形	38 m/日																																															
	750～900mm		24 m/日																																															
	1000～1200mm		22 m/日																																															
	1300mm		18 m/日																																															
	1500～1600mm		16 m/日																																															
	1800～2200mm		11 m/日																																															
ラップ型	2000mm	円形	6.9 m/日																																															
		アーチ形	12 m/日																																															
	2500mm	円形	6.3 m/日																																															
		アーチ形	10 m/日																																															
	3000mm	円形	4.9 m/日																																															
		アーチ形	8.1 m/日																																															
	3500mm	円形	3.9 m/日																																															
		アーチ形	6.5 m/日																																															
	4000mm	円形	3.4 m/日																																															
		アーチ形	5.7 m/日																																															
4500mm	円形	2.4 m/日																																																
	アーチ形	4.0 m/日																																																
	⑫ コルゲートフリューム <table><tr><th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>350×350mm</td><td>100 m/日</td><td>700×700mm</td><td>50 m/日</td></tr><tr><td>400×400mm</td><td>100 m/日</td><td>800×750mm</td><td>50 m/日</td></tr><tr><td>500×500mm</td><td>100 m/日</td><td>900×800mm</td><td>50 m/日</td></tr><tr><td>600×600mm</td><td>100 m/日</td><td>1000×850mm</td><td>50 m/日</td></tr></table> (注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	規格	作業日当り標準作業量	規格	作業日当り標準作業量	350×350mm	100 m/日	700×700mm	50 m/日	400×400mm	100 m/日	800×750mm	50 m/日	500×500mm	100 m/日	900×800mm	50 m/日	600×600mm	100 m/日	1000×850mm	50 m/日																													
規格	作業日当り標準作業量	規格	作業日当り標準作業量																																															
350×350mm	100 m/日	700×700mm	50 m/日																																															
400×400mm	100 m/日	800×750mm	50 m/日																																															
500×500mm	100 m/日	900×800mm	50 m/日																																															
600×600mm	100 m/日	1000×850mm	50 m/日																																															
排水構造物工（管 （函）渠型側溝・溶 接金網及び埋設鋼 板型枠）	① 管（函）渠型側溝据付 <table><tr><th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>長さ1,000mm [質量200kg以上1,000kg以下]</td><td>17 m/日</td></tr><tr><td>長さ2,430mm [質量400kg以上1,200kg以下]</td><td>50 m/日</td></tr></table> (注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、床堀り、基面整正、基礎（敷コンクリート、敷モルタル、砕石基礎）、埋戻しは含まない。 2. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	規格	作業日当り標準作業量	長さ1,000mm [質量200kg以上1,000kg以下]	17 m/日	長さ2,430mm [質量400kg以上1,200kg以下]	50 m/日																																											
	規格	作業日当り標準作業量																																																
	長さ1,000mm [質量200kg以上1,000kg以下]	17 m/日																																																
長さ2,430mm [質量400kg以上1,200kg以下]	50 m/日																																																	
② 溶接金網（現場打側溝蓋補強用）設置 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>500 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	500 m2／日																																																
作業日当り標準作業量	500 m2／日																																																	
③ 埋設鋼板型枠（現場打側溝蓋用） <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>143 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	143 m2／日																																																
作業日当り標準作業量	143 m2／日																																																	

工 種 名	設 定 内 容																	
排水構造物工（現場打ち水路（本体））	① 現場打ち水路（本体）																	
	<table><tr><th>鉄筋の有無</th><th>10m当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">無し</td><td>3.0m3/10m以上3.3m3/10m以下</td><td>4 m/日</td></tr><tr><td>3.3m3/10mを超え6.0m3/10m以下</td><td>3 m/日</td></tr><tr><td>6.0m3/10mを超え9.0m3/10m以下</td><td>2 m/日</td></tr><tr><td rowspan="3">有り</td><td>3.6m3/10m以上4.4m3/10m以下</td><td>3 m/日</td></tr><tr><td>4.4m3/10mを超え7.7m3/10m以下</td><td>2 m/日</td></tr><tr><td>7.7m3/10mを超え8.1m3/10m以下</td><td>1 m/日</td></tr></table>	鉄筋の有無	10m当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量	作業日当り標準作業量	無し	3.0m3/10m以上3.3m3/10m以下	4 m/日	3.3m3/10mを超え6.0m3/10m以下	3 m/日	6.0m3/10mを超え9.0m3/10m以下	2 m/日	有り	3.6m3/10m以上4.4m3/10m以下	3 m/日	4.4m3/10mを超え7.7m3/10m以下	2 m/日	7.7m3/10mを超え8.1m3/10m以下	1 m/日
	鉄筋の有無	10m当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量	作業日当り標準作業量															
	無し	3.0m3/10m以上3.3m3/10m以下	4 m/日															
		3.3m3/10mを超え6.0m3/10m以下	3 m/日															
		6.0m3/10mを超え9.0m3/10m以下	2 m/日															
	有り	3.6m3/10m以上4.4m3/10m以下	3 m/日															
		4.4m3/10mを超え7.7m3/10m以下	2 m/日															
		7.7m3/10mを超え8.1m3/10m以下	1 m/日															
	(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、ｺﾝｸﾘｰﾄ打設、型枠設置・撤去、鉄筋加工・組立、目地材設置、基礎材設置の作業を含む。																	
2. 各作業間の重複作業は考慮していない。																		
3. 養生工は、現場、施工条件等により別途考慮する。																		
(参考) 各作業単独の場合の作業量																		
<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>基礎材設置</td><td>155 m2/日</td></tr><tr><td>目地板設置</td><td>14 m2/日</td></tr><tr><td>鉄筋加工・組立</td><td>3.5 t/日</td></tr><tr><td>型枠設置・撤去</td><td>15 m2/日</td></tr><tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄ打設</td><td>5 m3/日</td></tr></table>		作 業 名	作業日当り標準作業量	基礎材設置	155 m2/日	目地板設置	14 m2/日	鉄筋加工・組立	3.5 t/日	型枠設置・撤去	15 m2/日	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	5 m3/日					
作 業 名	作業日当り標準作業量																	
基礎材設置	155 m2/日																	
目地板設置	14 m2/日																	
鉄筋加工・組立	3.5 t/日																	
型枠設置・撤去	15 m2/日																	
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	5 m3/日																	
排水構造物工（現場打ち集水桝・街渠桝（本体））	① 現場打ち集水桝・街渠桝（本体）																	
	<table><tr><th>1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>0.20m3以上0.36m3以下</td><td>3 箇所/日</td></tr><tr><td>0.36m3を超え0.69m3以下</td><td>2 箇所/日</td></tr><tr><td>0.69m3を超え1.03m3以下</td><td>1 箇所/日</td></tr><tr><td>1.03m3を超え1.29m3以下</td><td>2 箇所/日</td></tr><tr><td>1.29m3を超え3.42m3以下</td><td>1 箇所/日</td></tr></table>	1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量	作業日当り標準作業量	0.20m3以上0.36m3以下	3 箇所/日	0.36m3を超え0.69m3以下	2 箇所/日	0.69m3を超え1.03m3以下	1 箇所/日	1.03m3を超え1.29m3以下	2 箇所/日	1.29m3を超え3.42m3以下	1 箇所/日					
	1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量	作業日当り標準作業量																
	0.20m3以上0.36m3以下	3 箇所/日																
	0.36m3を超え0.69m3以下	2 箇所/日																
	0.69m3を超え1.03m3以下	1 箇所/日																
	1.03m3を超え1.29m3以下	2 箇所/日																
	1.29m3を超え3.42m3以下	1 箇所/日																
	(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、ｺﾝｸﾘｰﾄ打設、型枠設置・撤去、基礎材設置の作業を含む。																	
	2. 各作業間の重複作業は考慮していない。																	
3. 養生工は、現場、施工条件等により別途考慮する。																		
(参考) 各作業単独の場合の作業量																		
<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>基礎材設置</td><td>155 m2/日</td></tr><tr><td>型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)</td><td>15 m2/日</td></tr><tr><td>型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)</td><td>38 m2/日</td></tr><tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)</td><td>5 m3/日</td></tr><tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)</td><td>4 m3/日</td></tr></table>		作 業 名	作業日当り標準作業量	基礎材設置	155 m2/日	型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)	15 m2/日	型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)	38 m2/日	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)	5 m3/日	ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)	4 m3/日					
作 業 名	作業日当り標準作業量																	
基礎材設置	155 m2/日																	
型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)	15 m2/日																	
型枠設置・撤去(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)	38 m2/日																	
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3以下)	5 m3/日																	
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設(1箇所当りｺﾝｸﾘｰﾄ使用量1.03m3超え)	4 m3/日																	

工 種 名	設 定 内 容																												
サンドマット工	① サンドマット																												
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>560 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	560 m3／日																										
	作業日当り標準作業量	560 m3／日																											
	② 安定シート・ネット																												
	<table><tr><td>シート種類</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>シート</td><td>1,000 m2／日</td></tr><tr><td>ネット</td><td>400 m2／日</td></tr></table>	シート種類	作業日当り標準作業量	シート	1,000 m2／日	ネット	400 m2／日																						
シート種類	作業日当り標準作業量																												
シート	1,000 m2／日																												
ネット	400 m2／日																												
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。																													
粉体噴射攪拌工 (DJM工法)	① 粉体噴射攪拌																												
	1日当り杭施工本数																												
	<table><tr><td>打設長ℓ (m)</td><td>現場制約有り (単軸施工)</td><td>打設長ℓ (m)</td><td>現場制約無し (二軸施工)</td></tr><tr><td>3mを超え 6m未満</td><td>14 本／日</td><td>3mを超え 6m未満</td><td>28 本／日</td></tr><tr><td>6m以上 10m未満</td><td>10 本／日</td><td>6m以上 10m未満</td><td>22 本／日</td></tr><tr><td>10m以上 14m未満</td><td>7 本／日</td><td>10m以上 15m未満</td><td>16 本／日</td></tr><tr><td>14m以上 17m未満</td><td>6 本／日</td><td>15m以上 20m未満</td><td>12 本／日</td></tr><tr><td>17m以上 20m以下</td><td>5 本／日</td><td>20m以上 27m未満</td><td>10 本／日</td></tr><tr><td></td><td></td><td>27m以上 33m以下</td><td>8 本／日</td></tr></table>	打設長ℓ (m)	現場制約有り (単軸施工)	打設長ℓ (m)	現場制約無し (二軸施工)	3mを超え 6m未満	14 本／日	3mを超え 6m未満	28 本／日	6m以上 10m未満	10 本／日	6m以上 10m未満	22 本／日	10m以上 14m未満	7 本／日	10m以上 15m未満	16 本／日	14m以上 17m未満	6 本／日	15m以上 20m未満	12 本／日	17m以上 20m以下	5 本／日	20m以上 27m未満	10 本／日			27m以上 33m以下	8 本／日
	打設長ℓ (m)	現場制約有り (単軸施工)	打設長ℓ (m)	現場制約無し (二軸施工)																									
	3mを超え 6m未満	14 本／日	3mを超え 6m未満	28 本／日																									
	6m以上 10m未満	10 本／日	6m以上 10m未満	22 本／日																									
	10m以上 14m未満	7 本／日	10m以上 15m未満	16 本／日																									
	14m以上 17m未満	6 本／日	15m以上 20m未満	12 本／日																									
	17m以上 20m以下	5 本／日	20m以上 27m未満	10 本／日																									
			27m以上 33m以下	8 本／日																									
	(注) 1. 施工本数は杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き(改良材噴射)までの一連の作業のものである。																												
	2. 二軸施工の1日当り杭施工本数は、1軸当り1本とする。																												
	② 粉体噴射攪拌(移設)																												
	<table><tr><td>施工方法</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>単軸施工</td><td>1.7 回／日</td></tr><tr><td>二軸施工</td><td>1.4 回／日</td></tr></table>	施工方法	作業日当り標準作業量	単軸施工	1.7 回／日	二軸施工	1.4 回／日																						
	施工方法	作業日当り標準作業量																											
単軸施工	1.7 回／日																												
二軸施工	1.4 回／日																												
③ 粉体噴射攪拌(軸間変更)																													
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.77 回／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	0.77 回／日																											
作業日当り標準作業量	0.77 回／日																												
スラリー攪拌工	① スラリー攪拌工 … 該当工種の基準内に記載。																												
	② スラリープラント現場内移設																												
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.71 回／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	0.71 回／日																										
作業日当り標準作業量	0.71 回／日																												

工 種 名	設 定 内 容																		
高圧噴射攪拌工	① 単管工法 …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。																		
	施工条件の例																		
	<table><tr><td>杭 径</td><td>800 mm</td><td>1,100 mm</td></tr><tr><td>セット数</td><td>4 セット</td><td>2 セット</td></tr><tr><td>削孔長</td><td>15m</td><td>15m</td></tr><tr><td>注入長</td><td>10m</td><td>10m</td></tr><tr><td>改良対象土質</td><td>粘性土</td><td>粘性土</td></tr><tr><td>改良対象土質の最大N値</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	杭 径	800 mm	1,100 mm	セット数	4 セット	2 セット	削孔長	15m	15m	注入長	10m	10m	改良対象土質	粘性土	粘性土	改良対象土質の最大N値	0	0
	杭 径	800 mm	1,100 mm																
	セット数	4 セット	2 セット																
	削孔長	15m	15m																
	注入長	10m	10m																
	改良対象土質	粘性土	粘性土																
	改良対象土質の最大N値	0	0																
	<table><tr><td>作 業 種 別</td><td>杭 径</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">単管工法</td><td>700 mm以上 800 mm以下</td><td>17 本／日</td></tr><tr><td>800 mmを超え 1,100 mm以下</td><td>9 本／日</td></tr></table>	作 業 種 別	杭 径	作業日当り標準作業量	単管工法	700 mm以上 800 mm以下	17 本／日	800 mmを超え 1,100 mm以下	9 本／日										
作 業 種 別	杭 径	作業日当り標準作業量																	
単管工法	700 mm以上 800 mm以下	17 本／日																	
	800 mmを超え 1,100 mm以下	9 本／日																	
② 二重管工法 …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。																			
施工条件の例 杭 径：1,800 mm セ ッ ト 数：1セット 削 孔 長：15m 注 入 長：5m 改良対象土質：砂質土 改良対象土質の最大N値：15																			
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1 本／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	1 本／日																	
作業日当り標準作業量	1 本／日																		
③ 三重管工法 …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。																			
施工条件の例 杭 径：2,000 mm セ ッ ト 数：1セット 削 孔 長：15m 注 入 長：5m 改良対象土質：砂質土 改良対象土質の最大N値：15																			
<table><tr><td colspan="2">作 業 種 別</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">三重管工法</td><td>削孔</td><td>1 本／日</td></tr><tr><td>注入</td><td>3 本／日</td></tr></table>	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	三重管工法	削孔	1 本／日	注入	3 本／日											
作 業 種 別		作業日当り標準作業量																	
三重管工法	削孔	1 本／日																	
	注入	3 本／日																	
④ 注入設備据付・解体，注入設備移設 …… 該当工種の基準内に記載。（施工日数）																			
ペーパードレーン工	該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。																		
中層混合処理工	該当工種の基準内に記載。																		

工 種 名	設 定 内 容																	
薬液注入工	① 二重管ストレーナ工法（単相） …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。 施工条件の例 セット数：4セット 削 孔 工：9.5m 土 被 り：7.0m 注 入 量：800ℓ 土 質：砂質土 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>12 本／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	12 本／日															
	作業日当り標準作業量	12 本／日																
	② 二重管ストレーナ工法（複相） …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。 施工条件の例 セット数：4セット 削 孔 工：11.0m 土 被 り： 7.0m 注 入 量：一次注入・・・800ℓ 二次注入・1,200ℓ 土 質：砂質土 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>7 本／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	7 本／日															
	作業日当り標準作業量	7 本／日																
	③ 二重管ダブルパッカー工法 …… 該当工種の計算式（1日当り施工本数）を参照。 施工条件の例 セット数：2セット（削孔）4セット（一次・二次注入） 削 孔 工：16.5m 土 被 り： 6.0m 注 入 量：一次注入・・・530ℓ 二次注入・3,300ℓ 土 質：砂質土 <table><tr><td>作 業 名</td><td>削 孔</td><td>一次注入</td><td>二次注入</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 本／日</td><td>20 本／日</td><td>4 本／日</td></tr></table> (注) 上表の作業日当り標準作業量は、機械準備・移動から引抜き・器具洗浄までの作業である。	作 業 名	削 孔	一次注入	二次注入	作業日当り標準作業量	5 本／日	20 本／日	4 本／日									
	作 業 名	削 孔	一次注入	二次注入														
	作業日当り標準作業量	5 本／日	20 本／日	4 本／日														
	④ 注入設備据付・解体	<table><tr><td>注入方式</td><td>セット数</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">二重管ストレーナ工法</td><td>2セット</td><td>0.45 現場／日</td></tr><tr><td>4セット</td><td>0.34 現場／日</td></tr><tr><td rowspan="2">二重管ダブルパッカー工法（削孔）</td><td>1セット</td><td>0.67 現場／日</td></tr><tr><td>2セット</td><td>0.67 現場／日</td></tr><tr><td>二重管ダブルパッカー工法（注入）</td><td>4セット</td><td>0.31 現場／日</td></tr></table>	注入方式	セット数	作業日当り標準作業量	二重管ストレーナ工法	2セット	0.45 現場／日	4セット	0.34 現場／日	二重管ダブルパッカー工法（削孔）	1セット	0.67 現場／日	2セット	0.67 現場／日	二重管ダブルパッカー工法（注入）	4セット	0.31 現場／日
	注入方式	セット数	作業日当り標準作業量															
	二重管ストレーナ工法	2セット	0.45 現場／日															
4セット		0.34 現場／日																
二重管ダブルパッカー工法（削孔）	1セット	0.67 現場／日																
	2セット	0.67 現場／日																
二重管ダブルパッカー工法（注入）	4セット	0.31 現場／日																
⑤ 注入設備移設	<table><tr><td>注入方式</td><td>セット数</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">二重管ストレーナ工法</td><td>2セット</td><td>0.73 回／日</td></tr><tr><td>4セット</td><td>0.50 回／日</td></tr><tr><td rowspan="2">二重管ダブルパッカー工法（削孔）</td><td>1セット</td><td>1.0 回／日</td></tr><tr><td>2セット</td><td>1.0 回／日</td></tr><tr><td>二重管ダブルパッカー工法（注入）</td><td>4セット</td><td>0.48 回／日</td></tr></table>	注入方式	セット数	作業日当り標準作業量	二重管ストレーナ工法	2セット	0.73 回／日	4セット	0.50 回／日	二重管ダブルパッカー工法（削孔）	1セット	1.0 回／日	2セット	1.0 回／日	二重管ダブルパッカー工法（注入）	4セット	0.48 回／日	
注入方式	セット数	作業日当り標準作業量																
二重管ストレーナ工法	2セット	0.73 回／日																
	4セット	0.50 回／日																
二重管ダブルパッカー工法（削孔）	1セット	1.0 回／日																
	2セット	1.0 回／日																
二重管ダブルパッカー工法（注入）	4セット	0.48 回／日																

工 種 名	設 定 内 容							
アンカー工 (ロータリーパーカッション式)	① 削孔 (アンカー)							
	方式	足場の有無	呼び径	作業日当り標準作業量 (m/日)				
				粘性土 砂質土	硬質土	玉石 混り土	軟岩	硬岩
	単管	有り (スリット型)	90mm	48	32	22	—	—
			115mm	33	26	18	—	—
			135mm	26	22	15	—	—
		無し (クローラ型)	90mm	53	36	24	—	—
			115mm	37	29	20	—	—
			135mm	29	24	17	—	—
	二重管	有り (スリット型)	90mm	45	30	21	26	20
			115mm	28	23	16	20	16
			135mm	22	18	14	15	13
			146mm	19	16	12	14	10
		無し (クローラ型)	90mm	50	33	24	29	22
			115mm	31	26	18	22	18
			135mm	24	20	15	17	14
			146mm	21	18	14	15	11
	(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量は、ボーリングマシンの横移動を含む。 2. 硬岩は、コンクリートを含む。 3. 転石等土質条件が上表区分に適用しないと判断される場合は、別途検討する。 4. 泥水処理が必要な場合は、別途計上する。							
	② アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)							
	防食方式	アンカー 鋼材種類	削孔長	設計荷重	作業日当り標準作業量 (本/日)			
					頭部処理 有り	頭部処理 無し		
	二重防食	PC 鋼線 より線	10m 以内	$f<400\text{kN}$	3.1	3.4		
				$400\leq f<1300\text{kN}$	2.5	2.8		
				$1300\leq f<2000\text{kN}$	2.2	2.4		
			10m を超える	$f<400\text{kN}$	2.7	2.9		
				$400\leq f<1300\text{kN}$	2.5	2.8		
$1300\leq f<2000\text{kN}$				2.2	2.4			
PC 鋼線 より線 (工場組立)		—	$f<400\text{kN}$	6.4	8.3			
			$400\leq f<1300\text{kN}$	5.8	7.1			
			$1300\leq f<2000\text{kN}$	4.3	5.1			
複合 PC 鋼線 より線束		10m 以内	$f<400\text{kN}$	5.0	6.0			
			$400\leq f<1300\text{kN}$	4.3	5.0			
			$1300\leq f<2000\text{kN}$	3.3	3.8			
		10m を超える	$f<400\text{kN}$	4.6	5.5			
			$400\leq f<1300\text{kN}$	4.1	4.7			
			$1300\leq f<2000\text{kN}$	3.2	3.6			

工 種 名	設 定 内 容					
アンカー工 (ロータリーパーカッション式)	防食方式	アンカー 鋼材種類	削孔長	設計荷重	作業日当り標準作業量 (本／日)	
					頭部処理 有り	頭部処理 無し
	二重防食	PC 鋼線 より線	10m 以内	$f<400\text{kN}$	3.7	4.3
				$400\leq f<1300\text{kN}$	3.5	3.9
			10m を超える	$f<400\text{kN}$	3.7	4.3
				$400\leq f<1300\text{kN}$	3.5	3.9
	簡易防食	PC 鋼線 より線	10m 以内	$f<400\text{kN}$	4.2	5.0
				$400\leq f<1300\text{kN}$	3.2	3.6
				$1300\leq f<2000\text{kN}$	2.2	2.4
			10m を超える	$f<400\text{kN}$	4.0	4.6
				$400\leq f<1300\text{kN}$	2.9	3.2
				$1300\leq f<2000\text{kN}$	2.2	2.4
		PC 鋼線 より線 (工場組立)	—	$f<400\text{kN}$	6.9	9.0
				$400\leq f<1300\text{kN}$	6.1	7.6
				$1300\leq f<2000\text{kN}$	4.5	5.4
		PC 鋼棒	10m 以内	$f<400\text{kN}$	4.6	5.5
				$400\leq f<1300\text{kN}$	4.1	4.7
			10m を超える	$f<400\text{kN}$	4.4	5.2
			$400\leq f<1300\text{kN}$	3.9	4.5	
	(参考) 各作業単独の場合の作業量					
	(1) アンカー鋼材加工・組立・挿入					
	1) 削孔長：10m 以内					
	防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)			
			設計荷重 (f) kN			
			$f<400$	$400\leq f<1,300$	$1,300\leq f<2,000$	
	二重	PC 鋼線より線	5	4	4	
		複合 PC 鋼線より線束	13	11	10	
PC 鋼棒		7	7	—		
簡易	PC 鋼線より線	9	6	4		
	PC 鋼棒	11	10	—		
2) 削孔長：10m 超え 20m 以内						
防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)				
		設計荷重 (f) kN				
		$f<400$	$400\leq f<1,300$	$1,300\leq f<2,000$		
二重	PC 鋼線より線	4	4	4		
	複合 PC 鋼線より線束	11	10	9		
	PC 鋼棒	7	7	—		
簡易	PC 鋼線より線	8	5	4		
	PC 鋼棒	10	9	—		

工 種 名

アンカー工
(ロータリーパーカッション式)

設 定 内 容

3) 削孔長：20m 超え

防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)		
		設計荷重 (f) kN		
		f <400	400≦ f <1,300	1,300≦ f <2,000
二重	PC 鋼線より線	4	4	4
	複合 PC 鋼線より線束	10	9	8
	PC 鋼棒	6	6	—
簡易	PC 鋼線より線	7	5	4
	PC 鋼棒	9	8	—

(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量は、現場内小運搬を含む。

2. 二重防食とは、腐食防護が二重になされたものをいい、簡易防食とは、腐食防護が二重になされていない簡易なものをいう。

3. PC 鋼線より線及びPC 鋼棒の現場加工・組立は、シース、防錆材、止水部の取付である。

4. 複合PC 鋼線より線束の現地での加工・組立は、スペーサの取付けである。

(2) アンカー鋼材挿入 (工場加工・組立)

1) 削孔長：10m 以内

防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)		
		設計荷重 (f) kN		
		f <400	400≦ f <1,300	1,300≦ f <2,000
二重	PC 鋼線より線	33	33	33
簡易	PC 鋼線より線	50	50	50

2) 削孔長：10m 超え 20m 以内

防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)		
		設計荷重 (f) kN		
		f <400	400≦ f <1,300	1,300≦ f <2,000
二重	PC 鋼線より線	23	23	23
簡易	PC 鋼線より線	30	30	30

3) 削孔長：20m 超え

防食	種別	作業日当り標準作業量 (本／日)		
		設計荷重 (f) kN		
		f <400	400≦ f <1,300	1,300≦ f <2,000
二重	PC 鋼線より線	19	19	19
簡易	PC 鋼線より線	23	23	23

(注) 1. 上表は、現場内小運搬を含む。

2. 二重防食とは、腐食防護が二重になされたものをいい、簡易防食とは、腐食防護が二重になされていない簡易なものをいう。

3. 組立・加工については別途考慮する。

工 種 名	設 定 内 容																				
アンカー工 (ロータリーパーカッション式)	(3) 緊張・定着・頭部処理																				
	<table><tr><th rowspan="3">定着方法</th><th rowspan="3">オイルキャップによる頭部処理</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量 (本／日)</th></tr><tr><th colspan="3">設計荷重 (f) kN</th></tr><tr><th>f < 400</th><th>400 ≤ f < 1,300</th><th>1,300 ≤ f < 2,000</th></tr><tr><td rowspan="2">クサビ及 びナット</td><td>有り</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td></tr><tr><td>無し</td><td>11</td><td>9</td><td>6</td></tr></table>	定着方法	オイルキャップによる頭部処理	作業日当り標準作業量 (本／日)			設計荷重 (f) kN			f < 400	400 ≤ f < 1,300	1,300 ≤ f < 2,000	クサビ及 びナット	有り	8	7	5	無し	11	9	6
	定着方法			オイルキャップによる頭部処理	作業日当り標準作業量 (本／日)																
					設計荷重 (f) kN																
		f < 400	400 ≤ f < 1,300		1,300 ≤ f < 2,000																
	クサビ及 びナット	有り	8	7	5																
		無し	11	9	6																
	③ グラウト注入 (アンカー)																				
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.9 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	3.9 m3／日																		
	作業日当り標準作業量	3.9 m3／日																			
④ ボーリングマシン移設 (アンカー)																					
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>2.9 回／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	2.9 回／日																			
作業日当り標準作業量	2.9 回／日																				
⑤ 足場 (アンカー)																					
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>足場量 44 空 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	足場量 44 空 m3／日																			
作業日当り標準作業量	足場量 44 空 m3／日																				
構造物とりこわし工	① 石積取壊し (人力)																				
	<table><tr><th>形状</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>練積 控え 35cm 以上 45cm 未満</td><td>1.7 m2／日</td></tr><tr><td>空積 控え 45cm 未満</td><td>5.0 m2／日</td></tr><tr><td>空積 控え 45cm 以上 60cm 未満</td><td>4.3 m2／日</td></tr><tr><td>空積 控え 60cm 以上 90cm 未満</td><td>3.3 m2／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、特殊作業員 1 名の場合。	形状	作業日当り標準作業量	練積 控え 35cm 以上 45cm 未満	1.7 m2／日	空積 控え 45cm 未満	5.0 m2／日	空積 控え 45cm 以上 60cm 未満	4.3 m2／日	空積 控え 60cm 以上 90cm 未満	3.3 m2／日										
形状	作業日当り標準作業量																				
練積 控え 35cm 以上 45cm 未満	1.7 m2／日																				
空積 控え 45cm 未満	5.0 m2／日																				
空積 控え 45cm 以上 60cm 未満	4.3 m2／日																				
空積 控え 60cm 以上 90cm 未満	3.3 m2／日																				
	② コンクリートはつり																				
	<table><tr><th>平均はつり厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>3cm 以下</td><td>21 m2／日</td></tr><tr><td>3cm を超え 6cm 以下</td><td>13 m2／日</td></tr></table>	平均はつり厚	作業日当り標準作業量	3cm 以下	21 m2／日	3cm を超え 6cm 以下	13 m2／日														
平均はつり厚	作業日当り標準作業量																				
3cm 以下	21 m2／日																				
3cm を超え 6cm 以下	13 m2／日																				
	③ 積込 (コンクリート殻)																				
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>とりこわしコンクリート殻積込</td><td>260 m3／日</td><td></td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要	とりこわしコンクリート殻積込	260 m3／日															
作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要																			
とりこわしコンクリート殻積込	260 m3／日																				
コンクリート削孔工	① コンクリート削孔 (電動ハンマドリル 38 mm)																				
	<table><tr><th>適用削孔径 (mm)</th><th>適用削孔深 (mm)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>10 以上 30 未満</td><td>100 以上 200 以下</td><td>125 孔／日</td></tr></table>	適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量	10 以上 30 未満	100 以上 200 以下	125 孔／日														
適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量																			
10 以上 30 未満	100 以上 200 以下	125 孔／日																			
	② コンクリート削孔 (ハンドハンマ)																				
	<table><tr><th>適用削孔径 (mm)</th><th>適用削孔深 (mm)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">30 以上 60 以下</td><td>100 以上 200 未満</td><td>158 孔／日</td></tr><tr><td>200 以上 400 未満</td><td>77 孔／日</td></tr><tr><td>400 以上 600 以下</td><td>46 孔／日</td></tr></table>	適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量	30 以上 60 以下	100 以上 200 未満	158 孔／日	200 以上 400 未満	77 孔／日	400 以上 600 以下	46 孔／日										
適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量																			
30 以上 60 以下	100 以上 200 未満	158 孔／日																			
	200 以上 400 未満	77 孔／日																			
	400 以上 600 以下	46 孔／日																			
	③ コンクリート削孔 (コンクリート穿孔機)																				
	<table><tr><th>適用削孔径 (mm)</th><th>適用削孔深 (mm)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>60 を超え 200 以下</td><td>200 以上 400 以下</td><td>16 孔／日</td></tr></table>	適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量	60 を超え 200 以下	200 以上 400 以下	16 孔／日														
適用削孔径 (mm)	適用削孔深 (mm)	作業日当り標準作業量																			
60 を超え 200 以下	200 以上 400 以下	16 孔／日																			

工 種 名	設 定 内 容																
ガス切断工	① ガス切断工 <table> <tr> <th>名称</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>鋼管杭</td><td>7.1 箇所／日</td></tr> <tr> <td>H 鋼杭</td><td>7.1 箇所／日</td></tr> <tr> <td>鋼矢板</td><td>10 箇所／日</td></tr> </table>	名称	作業日当り標準作業量	鋼管杭	7.1 箇所／日	H 鋼杭	7.1 箇所／日	鋼矢板	10 箇所／日								
名称	作業日当り標準作業量																
鋼管杭	7.1 箇所／日																
H 鋼杭	7.1 箇所／日																
鋼矢板	10 箇所／日																
鋼材現場ガス切断工	① 鋼板現場ガス切断 <table> <tr> <th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>鋼板の厚さ 9mm</td><td>160 m／日</td></tr> <tr> <td>鋼板の厚さ 12,16,19mm</td><td>120 m／日</td></tr> <tr> <td>鋼板の厚さ 25mm</td><td>96 m／日</td></tr> </table> ② 丸鋼現場ガス切断 <table> <tr> <th>規格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>丸鋼の径 9mm</td><td>2,381 箇所／日</td></tr> <tr> <td>丸鋼の径 12,16,19mm</td><td>1,587 箇所／日</td></tr> <tr> <td>丸鋼の径 25mm</td><td>1,205 箇所／日</td></tr> </table>	規格	作業日当り標準作業量	鋼板の厚さ 9mm	160 m／日	鋼板の厚さ 12,16,19mm	120 m／日	鋼板の厚さ 25mm	96 m／日	規格	作業日当り標準作業量	丸鋼の径 9mm	2,381 箇所／日	丸鋼の径 12,16,19mm	1,587 箇所／日	丸鋼の径 25mm	1,205 箇所／日
規格	作業日当り標準作業量																
鋼板の厚さ 9mm	160 m／日																
鋼板の厚さ 12,16,19mm	120 m／日																
鋼板の厚さ 25mm	96 m／日																
規格	作業日当り標準作業量																
丸鋼の径 9mm	2,381 箇所／日																
丸鋼の径 12,16,19mm	1,587 箇所／日																
丸鋼の径 25mm	1,205 箇所／日																
吸出し防止材設置工	① 吸出し防止材設置 <table> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>167 m²／日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作業日当り標準作業量	167 m ² ／日														
作業日当り標準作業量	167 m ² ／日																
目地・止水板設置工	① 目地・止水板設置工 <table> <tr> <th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>目地板</td><td>14 m²／日</td></tr> <tr> <td>止水板</td><td>14 m／日</td></tr> </table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	目地板	14 m ² ／日	止水板	14 m／日										
作 業 名	作業日当り標準作業量																
目地板	14 m ² ／日																
止水板	14 m／日																
旧橋撤去工	① 高欄撤去 <table> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>131 m／日</td></tr> </table> (注) 1. 作業日当り標準作業量とは高欄の実撤去延長である。 2. 作業日当り標準作業量は、高欄の切断から運搬車両への積込みまでであり、運搬については別途計上する。 ② アスファルト舗装版破碎・積込み <table> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>32 m³／日</td></tr> </table> (注) 上表の適用範囲の対象数量は、アスファルト舗装版のみの体積である。 ③ 床版1次破碎・撤去 <table> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>18 m³／日</td></tr> </table> (注) 上表の適用範囲の対象数量は、床版の体積である。なお、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄(壁高欄含む)の場合についても対象数量に含む。	作業日当り標準作業量	131 m／日	作業日当り標準作業量	32 m ³ ／日	作業日当り標準作業量	18 m ³ ／日										
作業日当り標準作業量	131 m／日																
作業日当り標準作業量	32 m ³ ／日																
作業日当り標準作業量	18 m ³ ／日																

工 種 名	設 定 内 容																																			
旧橋撤去工	④ 床版 1 次及び 2 次破碎・撤去																																			
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>1 次 破 碎</td><td>18 m3／日</td></tr><tr><td>2 次 破 碎</td><td>127 m3／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	1 次 破 碎	18 m3／日	2 次 破 碎	127 m3／日																													
	作 業 名	作業日当り標準作業量																																		
	1 次 破 碎	18 m3／日																																		
	2 次 破 碎	127 m3／日																																		
	(注) 1. 1 次破碎の作業内容は、床版を分割し作業半径内の 1 次仮置場に仮置する、もしくは直接積込む作業である。																																			
	2. 2 次破碎の作業内容は、1 次破碎後の床版を、おおよそ 30 cm× 30 cm程度までの破碎及び積込みである。																																			
	⑤ 桁 1 次切断・撤去																																			
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>26 t／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	26 t／日																																	
	作業日当り標準作業量	26 t／日																																		
	(注) 桁 1 次切断・撤去の作業は、桁材の撤去及び積込みである。																																			
	⑥ 桁 1 次及び 2 次切断・撤去																																			
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>桁 1 次 切 断 ・ 撤 去</td><td>26 t／日</td></tr><tr><td>2 次 切 断</td><td>37 t／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	桁 1 次 切 断 ・ 撤 去	26 t／日	2 次 切 断	37 t／日																													
	作 業 名	作業日当り標準作業量																																		
	桁 1 次 切 断 ・ 撤 去	26 t／日																																		
	2 次 切 断	37 t／日																																		
(注) 1. 桁 1 次切断・撤去の作業は、桁材の撤去及び積込みである。																																				
2. 2 次切断の作業は、切断、積込みである。																																				
⑦ アスファルト塊運搬																																				
<table><tr><th>DID区間の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="15">無し</td><td>0.3km 以下</td><td>125 m3／日</td></tr><tr><td>0.5km 以下</td><td>111 m3／日</td></tr><tr><td>1.0km 以下</td><td>100 m3／日</td></tr><tr><td>1.5km 以下</td><td>83 m3／日</td></tr><tr><td>2.0km 以下</td><td>77 m3／日</td></tr><tr><td>3.0km 以下</td><td>63 m3／日</td></tr><tr><td>4.0km 以下</td><td>56 m3／日</td></tr><tr><td>5.5km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr><tr><td>6.5km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr><tr><td>7.5km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td>9.5km 以下</td><td>29 m3／日</td></tr><tr><td>11.5km 以下</td><td>26 m3／日</td></tr><tr><td>15.5km 以下</td><td>21 m3／日</td></tr><tr><td>22.5km 以下</td><td>17 m3／日</td></tr><tr><td>49.5km 以下</td><td>13 m3／日</td></tr><tr><td>60.0km 以下</td><td>8 m3／日</td></tr></table>	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	無し	0.3km 以下	125 m3／日	0.5km 以下	111 m3／日	1.0km 以下	100 m3／日	1.5km 以下	83 m3／日	2.0km 以下	77 m3／日	3.0km 以下	63 m3／日	4.0km 以下	56 m3／日	5.5km 以下	45 m3／日	6.5km 以下	38 m3／日	7.5km 以下	33 m3／日	9.5km 以下	29 m3／日	11.5km 以下	26 m3／日	15.5km 以下	21 m3／日	22.5km 以下	17 m3／日	49.5km 以下	13 m3／日	60.0km 以下	8 m3／日
DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量																																		
無し	0.3km 以下	125 m3／日																																		
	0.5km 以下	111 m3／日																																		
	1.0km 以下	100 m3／日																																		
	1.5km 以下	83 m3／日																																		
	2.0km 以下	77 m3／日																																		
	3.0km 以下	63 m3／日																																		
	4.0km 以下	56 m3／日																																		
	5.5km 以下	45 m3／日																																		
	6.5km 以下	38 m3／日																																		
	7.5km 以下	33 m3／日																																		
	9.5km 以下	29 m3／日																																		
	11.5km 以下	26 m3／日																																		
	15.5km 以下	21 m3／日																																		
	22.5km 以下	17 m3／日																																		
	49.5km 以下	13 m3／日																																		
60.0km 以下	8 m3／日																																			

工 種 名	設 定 内 容																																				
旧橋撤去工	<table><tr><th>DID区間の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="16">有り</td><td>0.3km 以下</td><td>125 m3／日</td></tr><tr><td>0.5km 以下</td><td>111 m3／日</td></tr><tr><td>1.0km 以下</td><td>100 m3／日</td></tr><tr><td>1.5km 以下</td><td>83 m3／日</td></tr><tr><td>2.0km 以下</td><td>77 m3／日</td></tr><tr><td>3.0km 以下</td><td>63 m3／日</td></tr><tr><td>3.5km 以下</td><td>56 m3／日</td></tr><tr><td>5.0km 以下</td><td>45 m3／日</td></tr><tr><td>6.0km 以下</td><td>38 m3／日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td>8.5km 以下</td><td>29 m3／日</td></tr><tr><td>11.0km 以下</td><td>26 m3／日</td></tr><tr><td>14.0km 以下</td><td>21 m3／日</td></tr><tr><td>19.5km 以下</td><td>17 m3／日</td></tr><tr><td>31.5km 以下</td><td>13 m3／日</td></tr><tr><td>60.0km 以下</td><td>8 m3／日</td></tr></table>	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	有り	0.3km 以下	125 m3／日	0.5km 以下	111 m3／日	1.0km 以下	100 m3／日	1.5km 以下	83 m3／日	2.0km 以下	77 m3／日	3.0km 以下	63 m3／日	3.5km 以下	56 m3／日	5.0km 以下	45 m3／日	6.0km 以下	38 m3／日	7.0km 以下	33 m3／日	8.5km 以下	29 m3／日	11.0km 以下	26 m3／日	14.0km 以下	21 m3／日	19.5km 以下	17 m3／日	31.5km 以下	13 m3／日	60.0km 以下	8 m3／日
	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量																																		
	有り	0.3km 以下	125 m3／日																																		
		0.5km 以下	111 m3／日																																		
		1.0km 以下	100 m3／日																																		
		1.5km 以下	83 m3／日																																		
		2.0km 以下	77 m3／日																																		
		3.0km 以下	63 m3／日																																		
		3.5km 以下	56 m3／日																																		
		5.0km 以下	45 m3／日																																		
		6.0km 以下	38 m3／日																																		
		7.0km 以下	33 m3／日																																		
		8.5km 以下	29 m3／日																																		
		11.0km 以下	26 m3／日																																		
		14.0km 以下	21 m3／日																																		
		19.5km 以下	17 m3／日																																		
		31.5km 以下	13 m3／日																																		
		60.0km 以下	8 m3／日																																		
	⑧ 床版運搬	<table><tr><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>0.7km 以下</td><td>50 m3／日</td></tr><tr><td>2.2km 以下</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td>5.0km 以下</td><td>20 m3／日</td></tr><tr><td>7.9km 以下</td><td>14 m3／日</td></tr><tr><td>12.1km 以下</td><td>10 m3／日</td></tr><tr><td>17.8km 以下</td><td>7 m3／日</td></tr><tr><td>25.0km 以下</td><td>5 m3／日</td></tr><tr><td>34.9km 以下</td><td>4 m3／日</td></tr><tr><td>47.8km 以下</td><td>3 m3／日</td></tr><tr><td>60.0km 以下</td><td>2 m3／日</td></tr></table>	運搬距離	作業日当り標準作業量	0.7km 以下	50 m3／日	2.2km 以下	33 m3／日	5.0km 以下	20 m3／日	7.9km 以下	14 m3／日	12.1km 以下	10 m3／日	17.8km 以下	7 m3／日	25.0km 以下	5 m3／日	34.9km 以下	4 m3／日	47.8km 以下	3 m3／日	60.0km 以下	2 m3／日													
	運搬距離	作業日当り標準作業量																																			
0.7km 以下	50 m3／日																																				
2.2km 以下	33 m3／日																																				
5.0km 以下	20 m3／日																																				
7.9km 以下	14 m3／日																																				
12.1km 以下	10 m3／日																																				
17.8km 以下	7 m3／日																																				
25.0km 以下	5 m3／日																																				
34.9km 以下	4 m3／日																																				
47.8km 以下	3 m3／日																																				
60.0km 以下	2 m3／日																																				
かご工	① かご工	<table><tr><th>かご種類</th><th>かご寸法(cm)</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td rowspan="2">じ ゃ か ご</td><td>φ45</td><td>56m／日</td><td></td></tr><tr><td>φ60</td><td>31m／日</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">ふ と ん か ご</td><td>高さ 40×幅 120</td><td>27m／日</td><td></td></tr><tr><td>高さ 50×幅 120</td><td>21m／日</td><td></td></tr><tr><td>高さ 60×幅 120</td><td>18m／日</td><td></td></tr></table> (注) 撤去の作業日当り標準作業量は、上表×2とする。	かご種類	かご寸法(cm)	作業日当り標準作業量	摘 要	じ ゃ か ご	φ45	56m／日		φ60	31m／日		ふ と ん か ご	高さ 40×幅 120	27m／日		高さ 50×幅 120	21m／日		高さ 60×幅 120	18m／日															
	かご種類	かご寸法(cm)	作業日当り標準作業量	摘 要																																	
	じ ゃ か ご	φ45	56m／日																																		
		φ60	31m／日																																		
	ふ と ん か ご	高さ 40×幅 120	27m／日																																		
		高さ 50×幅 120	21m／日																																		
		高さ 60×幅 120	18m／日																																		
	② 止杭打込	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>17 本／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。	作業日当り標準作業量	17 本／日																																	
	作業日当り標準作業量	17 本／日																																			

工 種 名	設 定 内 容																							
発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	① 発泡スチロール設置及び壁面材設置																							
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>発泡スチロール設置</td><td>54 m3／日</td></tr><tr><td>壁 面 材 設 置</td><td>65 m2／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	発泡スチロール設置	54 m3／日	壁 面 材 設 置	65 m2／日																	
	作 業 名	作業日当り標準作業量																						
	発泡スチロール設置	54 m3／日																						
	壁 面 材 設 置	65 m2／日																						
	(注) 1. 発泡スチロール設置には発泡スチロールブロックの緊結金具設置作業及び現場での発泡スチロールの加工作業を含む																							
	2. 壁面材設置には壁面材の金具による固定作業及び壁面材頂部に取付ける天端目隠しプレートの取付け作業を含む。																							
	② コンクリート床版																							
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>コンクリートポンプ車打設</td><td>29 m3／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	コンクリートポンプ車打設	29 m3／日																			
	作 業 名	作業日当り標準作業量																						
コンクリートポンプ車打設	29 m3／日																							
③ 支柱設置																								
<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><th>18 本／日</th></tr></table>	作業日当り標準作業量	18 本／日																						
作業日当り標準作業量	18 本／日																							
④ 裏込碎石（軽量盛土）																								
<table><tr><th>付帯工の割合</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>付帯工無し</td><td>38 m3／日</td></tr><tr><td>0.1 以下</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td>0.1 を超え 0.2 以下</td><td>27 m3／日</td></tr><tr><td>0.2 を超え 0.3 以下</td><td>22 m3／日</td></tr><tr><td>0.3 を超え 0.4 以下</td><td>19 m3／日</td></tr><tr><td>0.4 を超え 0.5 以下</td><td>17 m3／日</td></tr><tr><td>0.5 を超え 0.6 以下</td><td>15 m3／日</td></tr><tr><td>0.6 を超え 0.7 以下</td><td>13 m3／日</td></tr><tr><td>0.7 を超え 0.8 以下</td><td>12 m3／日</td></tr><tr><td>0.8 を超え 0.9 以下</td><td>11 m3／日</td></tr><tr><td>0.9 を超え 1.0 以下</td><td>10 m3／日</td></tr></table>	付帯工の割合	作業日当り標準作業量	付帯工無し	38 m3／日	0.1 以下	33 m3／日	0.1 を超え 0.2 以下	27 m3／日	0.2 を超え 0.3 以下	22 m3／日	0.3 を超え 0.4 以下	19 m3／日	0.4 を超え 0.5 以下	17 m3／日	0.5 を超え 0.6 以下	15 m3／日	0.6 を超え 0.7 以下	13 m3／日	0.7 を超え 0.8 以下	12 m3／日	0.8 を超え 0.9 以下	11 m3／日	0.9 を超え 1.0 以下	10 m3／日
付帯工の割合	作業日当り標準作業量																							
付帯工無し	38 m3／日																							
0.1 以下	33 m3／日																							
0.1 を超え 0.2 以下	27 m3／日																							
0.2 を超え 0.3 以下	22 m3／日																							
0.3 を超え 0.4 以下	19 m3／日																							
0.4 を超え 0.5 以下	17 m3／日																							
0.5 を超え 0.6 以下	15 m3／日																							
0.6 を超え 0.7 以下	13 m3／日																							
0.7 を超え 0.8 以下	12 m3／日																							
0.8 を超え 0.9 以下	11 m3／日																							
0.9 を超え 1.0 以下	10 m3／日																							
現場取卸費	① 現場取卸費																							
	<table><tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>現場取卸（鋼桁）</td><td>141 t／日</td></tr><tr><td>現場取卸（PC 桁）</td><td>11 本／日</td></tr><tr><td>現場取卸（鋼管杭）</td><td>244 t／日</td></tr></table>	作業名	作業日当り標準作業量	現場取卸（鋼桁）	141 t／日	現場取卸（PC 桁）	11 本／日	現場取卸（鋼管杭）	244 t／日															
作業名	作業日当り標準作業量																							
現場取卸（鋼桁）	141 t／日																							
現場取卸（PC 桁）	11 本／日																							
現場取卸（鋼管杭）	244 t／日																							
骨材再生工（自走式）	① 自走式破碎機設置・撤去工																							
	<table><tr><th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>設置又は撤去</td><td>3.4 回／日</td></tr><tr><td>設置・撤去</td><td>1.7 回／日</td></tr></table>	作業区分	作業日当り標準作業量	設置又は撤去	3.4 回／日	設置・撤去	1.7 回／日																	
作業区分	作業日当り標準作業量																							
設置又は撤去	3.4 回／日																							
設置・撤去	1.7 回／日																							
	② 骨材再生工 … 該当工種の基準内に記載。																							

工 種 名	設 定 内 容																										
函渠工（１）	① 函渠 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内空寸法「(幅×高さ) m」</th><th>作業日当り標準作業量 (m3／日)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満</td><td>2.0</td></tr> <tr> <td>幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満</td><td>3.4</td></tr> <tr> <td>幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下</td><td>3.5</td></tr> <tr> <td>幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下</td><td>3.9</td></tr> <tr> <td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満</td><td>5.0</td></tr> <tr> <td>幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満</td><td>5.9</td></tr> <tr> <td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満</td><td>6.5</td></tr> <tr> <td>幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満</td><td>7.5</td></tr> <tr> <td>幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下</td><td>8.5</td></tr> <tr> <td>幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下</td><td>10.0</td></tr> <tr> <td>幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下</td><td>7.2</td></tr> <tr> <td>幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下</td><td>8.4</td></tr> </tbody> </table> (注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。 ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作・設置、撤去・均しコンクリート打設・養生 ・コンクリート打設・養生 ・型枠製作・設置、撤去 ・鉄筋加工・組立 ・足場設置、撤去・支保設置、撤去 ・目地材設置・止水板設置 2. 上表の作業日当り標準作業量は、作業の重複を考慮した1ブロックでの値であり、工程の算出に当たっては、施工場所、ブロック数を考慮して決定するものとする。 3. 上表の作業日当り標準作業量は、基礎材敷均し・転圧、均しコンクリート、足場の施工の有無、足場形式（枠組足場又は手摺先行型枠組足場）にかかわらず適用出来る。 4. コンクリート養生は、散水、保温を問わず適用する。 5. 上表の作業日当り標準作業量は、本体コンクリート（函渠、ウイング、段落ち防止枕）換算値である。	内空寸法「(幅×高さ) m」	作業日当り標準作業量 (m3／日)	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	2.0	幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	3.4	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	3.5	幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	3.9	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	5.0	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	5.9	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	6.5	幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	7.5	幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	8.5	幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	10.0	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	7.2	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	8.4
内空寸法「(幅×高さ) m」	作業日当り標準作業量 (m3／日)																										
幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	2.0																										
幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	3.4																										
幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	3.5																										
幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	3.9																										
幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	5.0																										
幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	5.9																										
幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	6.5																										
幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	7.5																										
幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	8.5																										
幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	10.0																										
幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	7.2																										
幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	8.4																										
函渠工（２）	① コンクリート（現場打函渠） <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>102 m3／日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	102 m3／日																								
作業日当り標準作業量	102 m3／日																										

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	① 殻運搬				
	殻発生作業	積込工法 区分	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物 とりこわし	機械積込	無し	0.3km 以下	118 m3/日
				0.5km 以下	103 m3/日
				1.0km 以下	90 m3/日
				1.5km 以下	81 m3/日
				2.0km 以下	70 m3/日
				3.0km 以下	59 m3/日
				4.0km 以下	51 m3/日
				5.5km 以下	43 m3/日
				6.5km 以下	37 m3/日
				7.5km 以下	32 m3/日
				9.5km 以下	28 m3/日
				11.5km 以下	25 m3/日
				15.5km 以下	20 m3/日
				22.5km 以下	16 m3/日
				49.5km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日
			有り	0.3km 以下	118 m3/日
				0.5km 以下	103 m3/日
				1.0km 以下	90 m3/日
				1.5km 以下	81 m3/日
				2.0km 以下	70 m3/日
				3.0km 以下	59 m3/日
				3.5km 以下	51 m3/日
				5.0km 以下	43 m3/日
				6.0km 以下	37 m3/日
				7.0km 以下	32 m3/日
				8.5km 以下	28 m3/日
				11.0km 以下	25 m3/日
				14.0km 以下	20 m3/日
				19.5km 以下	16 m3/日
				31.5km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬					
	殻発生作業	積込工法 区分	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物 とりこわし	人力積込	無し	0.3km 以下	15 m3/日
				0.5km 以下	14 m3/日
				1.5km 以下	13 m3/日
				2.0km 以下	11 m3/日
				2.5km 以下	10 m3/日
				3.0km 以下	9 m3/日
				4.0km 以下	8 m3/日
				5.0km 以下	7 m3/日
				6.5km 以下	6 m3/日
				8.5km 以下	5 m3/日
				11.0km 以下	4 m3/日
				16.0km 以下	3 m3/日
				27.5km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日
			有り	0.3km 以下	15 m3/日
				0.5km 以下	14 m3/日
				1.0km 以下	13 m3/日
				1.5km 以下	11 m3/日
				2.0km 以下	10 m3/日
				2.5km 以下	9 m3/日
				3.5km 以下	8 m3/日
				4.5km 以下	7 m3/日
				6.0km 以下	6 m3/日
8.0km 以下				5 m3/日	
10.5km 以下	4 m3/日				
14.5km 以下	3 m3/日				
23.0km 以下	3 m3/日				
60.0km 以下	2 m3/日				

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
				0.5km 以下	70 m3/日
				1.0km 以下	64 m3/日
				2.0km 以下	55 m3/日
				2.5km 以下	48 m3/日
				3.5km 以下	43 m3/日
				4.5km 以下	37 m3/日
				6.0km 以下	32 m3/日
				7.5km 以下	28 m3/日
				10.0km 以下	25 m3/日
				13.5km 以下	20 m3/日
				19.5km 以下	16 m3/日
				39.0km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日
			有り	0.5km 以下	70 m3/日
				1.0km 以下	64 m3/日
				1.5km 以下	55 m3/日
				2.0km 以下	48 m3/日
				3.0km 以下	43 m3/日
				4.0km 以下	37 m3/日
				5.5km 以下	32 m3/日
				7.0km 以下	28 m3/日
				9.0km 以下	25 m3/日
				12.0km 以下	20 m3/日
				17.5km 以下	16 m3/日
				28.5km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日
	舗装版破碎	機械積込 (騒音対策不要, 舗装版厚 15cm 超え) または (騒音対策必要)	無し	0.5km 以下	70 m3/日
				1.0km 以下	64 m3/日
				2.0km 以下	55 m3/日
				2.5km 以下	48 m3/日
				3.5km 以下	43 m3/日
				4.5km 以下	37 m3/日
				6.0km 以下	32 m3/日
				7.5km 以下	28 m3/日
				10.0km 以下	25 m3/日
				13.5km 以下	20 m3/日
				19.5km 以下	16 m3/日
				39.0km 以下	12 m3/日

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法 区分	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
				0.3km 以下	15 m3/日
				0.5km 以下	14 m3/日
				1.5km 以下	13 m3/日
				2.0km 以下	11 m3/日
				2.5km 以下	10 m3/日
				3.0km 以下	9 m3/日
				4.0km 以下	8 m3/日
				5.0km 以下	7 m3/日
				6.5km 以下	6 m3/日
				8.5km 以下	5 m3/日
				11.0km 以下	4 m3/日
				16.0km 以下	3 m3/日
				27.5km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日
			無し	0.3km 以下	15 m3/日
				0.5km 以下	14 m3/日
				1.0km 以下	13 m3/日
				1.5km 以下	11 m3/日
				2.0km 以下	10 m3/日
				2.5km 以下	9 m3/日
				3.5km 以下	8 m3/日
				4.5km 以下	7 m3/日
				6.0km 以下	6 m3/日
				8.0km 以下	5 m3/日
				10.5km 以下	4 m3/日
				14.5km 以下	3 m3/日
				23.0km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日
	舗装版破碎	人力積込	有り	0.3km 以下	15 m3/日
				0.5km 以下	14 m3/日
				1.0km 以下	13 m3/日
				1.5km 以下	11 m3/日
				2.0km 以下	10 m3/日
				2.5km 以下	9 m3/日
				3.5km 以下	8 m3/日
				4.5km 以下	7 m3/日
				6.0km 以下	6 m3/日
				8.0km 以下	5 m3/日
				10.5km 以下	4 m3/日
				14.5km 以下	3 m3/日
				23.0km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	殻発生作業	積込工法区分 機械積込 (騒音対策不要, 舗装版厚 15cm 以下)	DID 区間 の有無 無し	運搬距離	作業日当り 標準作業量
				0.3km 以下	32 m3/日
				1.5km 以下	28 m3/日
				3.5km 以下	25 m3/日
				6.5km 以下	20 m3/日
				11.5km 以下	16 m3/日
				22.0km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日
			有り	0.3km 以下	32 m3/日
				1.5km 以下	28 m3/日
				3.5km 以下	25 m3/日
				6.0km 以下	20 m3/日
				10.5km 以下	16 m3/日
				19.5km 以下	12 m3/日
				60.0km 以下	8 m3/日
		舗装版破碎	無し	0.3km 以下	17 m3/日
				1.0km 以下	15 m3/日
				1.5km 以下	13 m3/日
				2.5km 以下	11 m3/日
				3.0km 以下	10 m3/日
				3.5km 以下	9 m3/日
				4.5km 以下	8 m3/日
				5.5km 以下	7 m3/日
				7.0km 以下	6 m3/日
				9.0km 以下	5 m3/日
				12.0km 以下	4 m3/日
				17.0km 以下	3 m3/日
				28.5km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日
			有り	0.3km 以下	17 m3/日
				1.0km 以下	15 m3/日
				1.5km 以下	13 m3/日
				2.5km 以下	11 m3/日
				3.0km 以下	10 m3/日
				3.5km 以下	9 m3/日
				4.5km 以下	8 m3/日
				5.0km 以下	7 m3/日
				6.5km 以下	6 m3/日
				8.0km 以下	5 m3/日
				11.0km 以下	4 m3/日
				15.0km 以下	3 m3/日
				24.0km 以下	3 m3/日
				60.0km 以下	2 m3/日

工 種 名	設 定 内 容				
殻運搬	殻発生作業 吹付法面 取壊し (モルタル)	積込工法区分 機械積込	DID 区間の 有無 無し	運搬距離	作業日当り 標準作業量
				0.5km 以下	100 m3/日
				1.0km 以下	83 m3/日
				1.5km 以下	71 m3/日
				2.5km 以下	63 m3/日
				3.5km 以下	56 m3/日
				5.5km 以下	45 m3/日
				7.5km 以下	36 m3/日
				9.5km 以下	31 m3/日
				12.0km 以下	27 m3/日
				16.5km 以下	22 m3/日
				25.5km 以下	18 m3/日
				60.0km 以下	13 m3/日
			有り	0.5km 以下	100 m3/日
				1.0km 以下	83 m3/日
				1.5km 以下	71 m3/日
				2.5km 以下	63 m3/日
				3.5km 以下	56 m3/日
				5.5km 以下	45 m3/日
				7.0km 以下	36 m3/日
				8.5km 以下	31 m3/日
				11.0km 以下	27 m3/日
				15.0km 以下	22 m3/日
				22.0km 以下	18 m3/日
				42.0km 以下	13 m3/日
				60.0km 以下	9 m3/日

工 種 名	設 定 内 容								
鋼管・既製コンクリート杭打工 (パイルハンマ工)	① 鋼管・既製コンクリート杭打工 … 該当工種の計算式(10本当り施工日数)を参照。 ② 鋼管杭杭頭処理溶接工 <table> <tr> <th>鋼管杭板厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>8~10mm</td><td>26 m/日</td></tr> <tr> <td>12mm</td><td>15 m/日</td></tr> <tr> <td>14mm・16mm</td><td>8.9 m/日</td></tr> </table>	鋼管杭板厚	作業日当り標準作業量	8~10mm	26 m/日	12mm	15 m/日	14mm・16mm	8.9 m/日
鋼管杭板厚	作業日当り標準作業量								
8~10mm	26 m/日								
12mm	15 m/日								
14mm・16mm	8.9 m/日								
鋼管・既製コンクリート杭打工 (中掘工)	該当工種の計算式(10本当り施工日数)を参照。								
鋼管・既製コンクリート杭打工 (回転杭工)	該当工種の計算式(10本当り施工日数)を参照。								
鋼管ソイルセメント杭工	該当工種の計算式(1本当り施工時間)を参照。								
場所打杭工(オールケーシング 工・全回転式オールケーシング 工)	① 基礎杭工 … 該当工種の計算式(1本当り施工日数)を参照。 ② 杭頭処理 <table> <tr> <th>作業日当り標準作業量</th><th>5 本/日</th></tr> </table>	作業日当り標準作業量	5 本/日						
作業日当り標準作業量	5 本/日								
場所打杭工(リバースサーキュ レーション工)	該当工種の計算式(1本当り施工日数)を参照。								
場所打杭工(アースオーガ工, 硬質地盤用アースオーガ工)	該当工種の計算式(10本当り施工日数)を参照。								
場所打杭工(大口径ボーリング マシン工)	① 場所打杭工(大口径ボーリングマシン工) … 該当工種の計算式(1本当り施工日数)を参照。 ② やぐら設置・撤去 <table> <tr> <th>施工方法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>ラフテレーンクレーン使用</td><td>1.0 回/日</td></tr> <tr> <td>索道使用</td><td>0.67 回/日</td></tr> </table>	施工方法	作業日当り標準作業量	ラフテレーンクレーン使用	1.0 回/日	索道使用	0.67 回/日		
施工方法	作業日当り標準作業量								
ラフテレーンクレーン使用	1.0 回/日								
索道使用	0.67 回/日								
場所打杭工(ダウンザホールハ ンマ工)	① 場所打杭工(ダウンザホールハンマ工) … 該当工種の計算式(1本当り施工日数)を参照。 ② やぐら設置・撤去 <table> <tr> <th>施工方法</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>ラフテレーンクレーン使用</td><td>1.0 回/日</td></tr> <tr> <td>索道使用</td><td>0.67 回/日</td></tr> </table>	施工方法	作業日当り標準作業量	ラフテレーンクレーン使用	1.0 回/日	索道使用	0.67 回/日		
施工方法	作業日当り標準作業量								
ラフテレーンクレーン使用	1.0 回/日								
索道使用	0.67 回/日								

工 種 名	設 定 内 容												
深礎工	① 掘削土留 … 該当工種の計算式（1本当り施工日数）を参照。 ② グラウト注工<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>20 m3／日</td></tr></table> ③ 掘削作業設備組立・解体（C工法のみ）<table><tr><td>杭径（m）</td><td>作業日当り標準作業量</td><td>備考</td></tr><tr><td>1.5 以上 2.5 未満</td><td>1.7 本／日</td><td rowspan="3">本：深礎杭 1 本当り</td></tr><tr><td>2.5 以上 3.0 未満</td><td>1.1 本／日</td></tr><tr><td>3.0 以上 4.5 未満</td><td>0.83 本／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	20 m3／日	杭径（m）	作業日当り標準作業量	備考	1.5 以上 2.5 未満	1.7 本／日	本：深礎杭 1 本当り	2.5 以上 3.0 未満	1.1 本／日	3.0 以上 4.5 未満	0.83 本／日
作業日当り標準作業量	20 m3／日												
杭径（m）	作業日当り標準作業量	備考											
1.5 以上 2.5 未満	1.7 本／日	本：深礎杭 1 本当り											
2.5 以上 3.0 未満	1.1 本／日												
3.0 以上 4.5 未満	0.83 本／日												
ニューマチックケーソン工	① 刃口金物据付 … 現場条件により設定 ② 機械掘削 … 該当工種の計算式（1本当り掘削量）を参照。 ③ 水荷重（ポンプによる注排水）作業<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 t／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。 ④ ブローパイプバルブ調整<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.16 基／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、潜かん工1名の場合。 ⑤ 仮設備の組立・解体 … 該当工種の基準内に記載。 ⑥ 送気用配管設備組立・解体<table><tr><td>管径</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>100mm</td><td>67 m／日</td></tr><tr><td>150mm</td><td>63 m／日</td></tr></table> ⑦ 艀装設備組立・解体（1艀装・1㍑ト(ロツト)）<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1.0 日／1艀装・1㍑ト(ロツト)</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	50 t／日	作業日当り標準作業量	0.16 基／日	管径	作業日当り標準作業量	100mm	67 m／日	150mm	63 m／日	作業日当り標準作業量	1.0 日／1艀装・1㍑ト(ロツト)
作業日当り標準作業量	50 t／日												
作業日当り標準作業量	0.16 基／日												
管径	作業日当り標準作業量												
100mm	67 m／日												
150mm	63 m／日												
作業日当り標準作業量	1.0 日／1艀装・1㍑ト(ロツト)												
基礎工（鋼管矢板基礎工）	① 鋼管矢板打込工（打撃工法）… 該当工種の計算式（10本当り施工日数）を参照。 ② 鋼管矢板打込工（中堀工法）… 該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。 ③ 鋼管内掘削工，鋼管内コンクリート打設工，継手管内排土工， 継手管内モルタル注工，継手管内止水材注工，井筒内掘削工，底面均し（敷砂）工 底盤コンクリート打設工，井筒内支保設置・撤去工，井筒内支保間詰コンクリート工 コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式・プレートブラケット方式）， 鋼管矢板切断・撤去工 … 該当工種の基準内に記載。												

工 種 名	設 定 内 容					
ドロップハンマ杭打工	① ドロップハンマ杭打工					
		杭 径 (mm)	杭 長 (m)	作業日当り標準作業量		
		200	2	38 本／日		
			3	33 本／日		
			4	29 本／日		
		250	3	24 本／日		
			4	21 本／日		
			5	18 本／日		
			6	16 本／日		
		300	3	15 本／日		
			4	12 本／日		
			5	10 本／日		
			6	8.8 本／日		
木杭及び矢板打工（人 力、ドロップハンマ工）	① 人力木杭打工	杭 長 (m)	末 口	作業日当り標準作業量	備 考	
		1.2	6cm 以下	25 本／日	普通地盤における 混入率 80%以上 100%の場合	
			6cm を超え 9cm 以下	17 本／日		
			9cm を超え 12cm 以下	13 本／日		
		1.5	6cm を超え 9cm 以下	11 本／日		
			9cm を超え 12cm 以下	7.7 本／日		
			12cm を超え 15cm 以下	5.3 本／日		
		1.8	6cm を超え 9cm 以下	8.3 本／日		
			9cm を超え 12cm 以下	4.5 本／日		
			12cm を超え 15cm 以下	4.3 本／日		
		2.1	9cm を超え 12cm 以下	2.8 本／日		
			12cm を超え 15cm 以下	1.8 本／日		
		2.4	9cm を超え 12cm 以下	2.1 本／日		
			12cm を超え 15cm 以下	1.4 本／日		
		2.7	12cm を超え 15cm 以下	1.3 本／日		
		3.0	12cm を超え 15cm 以下	0.92 本／日		
		混入率 70%以上 80%未満		上表÷0.8		
		混入率 70%未満		上表÷0.7		
		(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。				
			② 人力木杭抜取工			
				作業日当り標準作業量（本／日）	上表÷0.7	
				(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。		
		既製コンクリート杭 カットオフ工	① 既製コンクリート杭カットオフ工			
杭 径	作業日当り標準作業量					
φ300～450mm	5.9 本／日					
φ500～600mm	3.4 本／日					
φ700～800mm	2.4 本／日					

工 種 名	設 定 内 容					
泥水運搬工	① 汚泥吸排車運転					
	DID区間の有無		運搬距離	作業日当り標準作業量		
	無し	2.0km 以下		45 m3／日		
		6.3km 以下		38 m3／日		
		14.8km 以下		31 m3／日		
		25.7km 以下		23 m3／日		
		60.0km 以下		15 m3／日		
	有り	1.9km 以下		45 m3／日		
		5.9km 以下		38 m3／日		
		13.1km 以下		31 m3／日		
22.6km 以下		23 m3／日				
60.0km 以下		15 m3／日				
コンクリート工	① コンクリート					
	構 造 物 区 分	打 設 方 法	設計日打設量区分	作業日当り標準作業量	摘 要	
	無筋・鉄筋構造物	コンクリート	10m3 以上300m3 未満	81 m3／日		
		ポンプ車打設	300m3 以上600m3 未満	400 m3／日		
		人 力 打 設	10m3 未満	4 m3／日		
	小 型 構 造 物	クレーン車打設	－	6 m3／日		
		人 力 打 設	－	5 m3／日		
	(注) 養生工は、現場、施工条件等により別途考慮する。					
	② モルタル練					
	混合比		作業日当り標準作業量			
1：1		0.67 m3／日				
1：2		0.77 m3／日				
1：3		0.91 m3／日				
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。						
型枠工	① 型枠					
	作 業 名	対 象 構 造 物	作業日当り標準作業量	摘 要		
	型枠の製作・設置・撤去	鉄筋・無筋構造物	38 m2／日			
		小 型 構 造 物	15 m2／日			
	② 撤去しない埋設型枠					
	施工区分		作業日当り標準作業量			
	床版部		100 m2／日			
	支承部・連結部		50 m2／日			
	型枠工（省力化構造）	① 型枠（鉄筋構造）〔省力化構造〕				
		作業日当り標準作業量		31 m2／日		

工 種 名	設 定 内 容																																
溶接金網設置工	① 溶接金網設置工 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>50 m2／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。			作業日当り標準作業量	50 m2／日																												
作業日当り標準作業量	50 m2／日																																
パイプロハンマ工	① 継施工なし …… 該当工種の基準内に記載。 ② 継施工あり …… 該当工種の計算式（1日当り継施工枚数及び本数）を参照。																																
パイプロハンマ工（軽 量鋼矢板打込引抜工）	該当工種の計算式（1枚当り施工時間）を参照。																																
油圧圧入引抜工	① 油圧圧入引抜工 ・継施工なし …… 該当工種の基準内に記載。 ・継施工あり …… 該当工種の計算式（1日当り継施工枚数）を参照。 ② 油圧式杭圧入引抜機据付・解体 <table><tr><td>作業区分</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>圧入（Nmax≤25）</td><td>3.3 回／日</td></tr><tr><td>圧入（Nmax≤50）</td><td>2.0 回／日</td></tr><tr><td>圧入（50＜Nmax≤600）</td><td>0.91 回／日</td></tr><tr><td>引抜き</td><td>5.3 回／日</td></tr></table>			作業区分	作業日当り標準作業量	圧入（Nmax≤25）	3.3 回／日	圧入（Nmax≤50）	2.0 回／日	圧入（50＜Nmax≤600）	0.91 回／日	引抜き	5.3 回／日																				
作業区分	作業日当り標準作業量																																
圧入（Nmax≤25）	3.3 回／日																																
圧入（Nmax≤50）	2.0 回／日																																
圧入（50＜Nmax≤600）	0.91 回／日																																
引抜き	5.3 回／日																																
矢板工（アースオーガ 併用圧入工）	該当工種の基準内に記載。																																
矢板工（クレーン引抜 工）	該当工種の基準内に記載。																																
矢板工（H形鋼）	該当工種の計算式（1本当り施工時間）を参照。																																
仮設材設置撤去工	① 仮設材設置撤去工 <table><tr><th rowspan="2">工 種 名</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘 要</th></tr><tr><th>設 置</th><th>撤 去</th></tr><tr><td>切梁・腹起し</td><td>6.1 t／日 (10.1 t／日)</td><td>10.2 t／日 (18.3 t／日)</td><td></td></tr><tr><td>タイロッド・腹起し</td><td>2.0 t／日</td><td>4.6 t／日</td><td></td></tr><tr><td>横矢板</td><td>24.8 m2／日</td><td>49.3 m2／日</td><td></td></tr><tr><td>覆工板・覆工板受桁</td><td>34 m2／日</td><td>56 m2／日</td><td>設置面積 700m2 以下</td></tr><tr><td>覆工板</td><td>119.3 m2／日</td><td>209.2 m2／日</td><td>設置面積 700m2 を超える</td></tr><tr><td>覆工板受桁</td><td>6.2 t／日</td><td>10.1 t／日</td><td>〃</td></tr></table> (注) 1. 覆工板受桁用桁受の設置・撤去は、覆工板受桁に準ずる。 2. 切梁・腹起しで、火打ブロックを使用する場合は、（ ）内の値とする。			工 種 名	作業日当り標準作業量		摘 要	設 置	撤 去	切梁・腹起し	6.1 t／日 (10.1 t／日)	10.2 t／日 (18.3 t／日)		タイロッド・腹起し	2.0 t／日	4.6 t／日		横矢板	24.8 m2／日	49.3 m2／日		覆工板・覆工板受桁	34 m2／日	56 m2／日	設置面積 700m2 以下	覆工板	119.3 m2／日	209.2 m2／日	設置面積 700m2 を超える	覆工板受桁	6.2 t／日	10.1 t／日	〃
工 種 名	作業日当り標準作業量		摘 要																														
	設 置	撤 去																															
切梁・腹起し	6.1 t／日 (10.1 t／日)	10.2 t／日 (18.3 t／日)																															
タイロッド・腹起し	2.0 t／日	4.6 t／日																															
横矢板	24.8 m2／日	49.3 m2／日																															
覆工板・覆工板受桁	34 m2／日	56 m2／日	設置面積 700m2 以下																														
覆工板	119.3 m2／日	209.2 m2／日	設置面積 700m2 を超える																														
覆工板受桁	6.2 t／日	10.1 t／日	〃																														
足場工	① 足場工 <table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>手摺先行型枠組足場設置・撤去</td><td>61 掛 m2／日</td></tr><tr><td>単 管 足 場 設 置 ・ 撤 去</td><td>79 掛 m2／日</td></tr><tr><td>単 管 傾 斜 足 場 設 置 ・ 撤 去</td><td>57 掛 m2／日</td></tr></table>			作 業 種 別	作業日当り標準作業量	手摺先行型枠組足場設置・撤去	61 掛 m2／日	単 管 足 場 設 置 ・ 撤 去	79 掛 m2／日	単 管 傾 斜 足 場 設 置 ・ 撤 去	57 掛 m2／日																						
作 業 種 別	作業日当り標準作業量																																
手摺先行型枠組足場設置・撤去	61 掛 m2／日																																
単 管 足 場 設 置 ・ 撤 去	79 掛 m2／日																																
単 管 傾 斜 足 場 設 置 ・ 撤 去	57 掛 m2／日																																

工 種 名	設 定 内 容		
支保工	① 支保工		
	作 業 種 別	支保耐力 (f) kN／m2	作業日当り標準作業量
	パイプサポート支保設置撤去	f ≦40	27 空 m3／日
		f ≦40 (小規模)	34 空 m3／日
		40< f ≦60	15 空 m3／日
	くさび結合支保設置・撤去	f ≦40	67 空 m3／日
40< f ≦80		37 空 m3／日	
締切排水工	① ポンプ据付・撤去		
	作業日当り標準作業量	1.7 箇所／日	
	(注) 上表の作業日当り標準作業量には、ポンプ運転は含まれていない。		
ウエルポイント工	① ウエルポイント工		
	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要
	ウエルポイント設置(サンドフィルター有り)	40 本／日	
	ウエルポイント設置(サンドフィルター無し)	40 本／日	
	ウエルポイント撤去	77 本／日	
	ウエルポイントポンプ設置	3 組／日	
	ウエルポイントポンプ撤去	10 組／日	
土のう工	① 土のう工		
	作 業 内 容	作業日当り標準作業量	
	仕拵, 積立, 撤去	95 袋／日	
	仕拵, 積立	133 袋／日	
	撤去	333 袋／日	
	(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 4 名の場合。		
	② 土のう積工		
	作業内容	作業内容	作業日当り標準作業量
	小口並べ	仕拵, 積立, 撤去	5.6 m2／日
		仕拵, 積立	7.8 m2／日
		撤去	20 m2／日
	側面並べ	仕拵, 積立, 撤去	6.8 m2／日
		仕拵, 積立	9.5 m2／日
		撤去	24 m2／日
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 4 名の場合。			
大型土のう工	該当工種の基準内に記載。		

工 種 名	設 定 内 容																																		
仮橋・仮栈橋工	① 仮橋・仮栈橋工 設置・撤去																																		
	<table><tr><th rowspan="2">工 程</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘 要</th></tr><tr><th>設 置</th><th>撤 去</th></tr><tr><td>上 部</td><td>11 t／日</td><td>12 t／日</td><td>主桁、横桁の質量</td></tr><tr><td>覆 工 板</td><td>73 m2／日</td><td>163 m2／日</td><td>覆工板の面積</td></tr><tr><td>高欄(ガードレール型)</td><td>36 m／日</td><td>52 m／日</td><td>高欄の延長</td></tr><tr><td>高欄(単管パイプ型)</td><td>41 m／日</td><td>78 m／日</td><td>〃</td></tr><tr><td>橋 脚</td><td>8 t／日</td><td>10 t／日</td><td>注) 2</td></tr><tr><td>杭 橋 脚</td><td>4 t／日</td><td>5 t／日</td><td>注) 3</td></tr><tr><td>導 枠</td><td colspan="2">15 本／日 (設置・撤去)</td><td>本：杭橋脚打込 1 本当り</td></tr></table>	工 程	作業日当り標準作業量		摘 要	設 置	撤 去	上 部	11 t／日	12 t／日	主桁、横桁の質量	覆 工 板	73 m2／日	163 m2／日	覆工板の面積	高欄(ガードレール型)	36 m／日	52 m／日	高欄の延長	高欄(単管パイプ型)	41 m／日	78 m／日	〃	橋 脚	8 t／日	10 t／日	注) 2	杭 橋 脚	4 t／日	5 t／日	注) 3	導 枠	15 本／日 (設置・撤去)		本：杭橋脚打込 1 本当り
	工 程		作業日当り標準作業量			摘 要																													
		設 置	撤 去																																
	上 部	11 t／日	12 t／日	主桁、横桁の質量																															
	覆 工 板	73 m2／日	163 m2／日	覆工板の面積																															
	高欄(ガードレール型)	36 m／日	52 m／日	高欄の延長																															
	高欄(単管パイプ型)	41 m／日	78 m／日	〃																															
	橋 脚	8 t／日	10 t／日	注) 2																															
	杭 橋 脚	4 t／日	5 t／日	注) 3																															
導 枠	15 本／日 (設置・撤去)		本：杭橋脚打込 1 本当り																																
(注) 1. 覆工板は、路面のすり付作業を含まない。 2. 橋脚、 枕、 ブラケット、 つなぎ材等の質量 3. 枕、 ブラケット、 つなぎ材等の質量																																			
② 杭橋脚打込み・引抜き …… 該当工種の基準内に記載。																																			
汚濁防止フェンス工	① 汚濁防止フェンス工																																		
	<table><tr><th>作 業 区 分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>汚濁防止フェンス設置</td><td>77m／日</td></tr><tr><td>汚濁防止フェンス撤去</td><td>111m／日</td></tr></table>	作 業 区 分	作業日当り標準作業量	汚濁防止フェンス設置	77m／日	汚濁防止フェンス撤去	111m／日																												
	作 業 区 分	作業日当り標準作業量																																	
	汚濁防止フェンス設置	77m／日																																	
汚濁防止フェンス撤去	111m／日																																		
仮囲い設置撤去工	該当工種の基準内に記載。																																		
雪寒仮囲い工	① 雪寒仮囲い工																																		
	<table><tr><th colspan="2" rowspan="2">タイプ</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>設置・撤去</th></tr><tr><td>Pタイプ</td><td>-</td><td>77 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">W・PWタイプ</td><td>枠組足場部</td><td>67 m2／日</td></tr><tr><td>枠組足場以外</td><td>71 m2／日</td></tr></table>	タイプ		作業日当り標準作業量	設置・撤去	Pタイプ	-	77 m2／日	W・PWタイプ	枠組足場部	67 m2／日	枠組足場以外	71 m2／日																						
	タイプ			作業日当り標準作業量																															
			設置・撤去																																
	Pタイプ	-	77 m2／日																																
	W・PWタイプ	枠組足場部	67 m2／日																																
枠組足場以外		71 m2／日																																	
② 除雪工																																			
<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><th>25 m3／日</th></tr></table>	作業日当り標準作業量	25 m3／日																																	
作業日当り標準作業量	25 m3／日																																		
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																			
切土及び発破防護柵工	該当工種の基準内に記載。																																		
掘削(発破)防護柵工	① 掘削(発破)防護柵工																																		
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>法留柵工(特殊防護柵)</td><td>8.9 m／日</td></tr><tr><td>土工用仮設防護柵工(特殊防護柵)</td><td>27 m／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	法留柵工(特殊防護柵)	8.9 m／日	土工用仮設防護柵工(特殊防護柵)	27 m／日																												
	作 業 名	作業日当り標準作業量																																	
	法留柵工(特殊防護柵)	8.9 m／日																																	
土工用仮設防護柵工(特殊防護柵)	27 m／日																																		
(注) 法留柵工(特殊防護柵)の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																			

工 種 名	設 定 内 容			
濁水処理工 (一般土木工事)	① 濁水処理設備設置撤去			
		濁水処理設備能力	作業日当り標準作業量	
			設置	撤去
		30～60m3/h	0.33 箇所／日	0.50 箇所／日
		100m3/h	0.25 箇所／日	0.33 箇所／日
敷鉄板設置・撤去工	① 敷鉄板設置・撤去工			
		作 業 名	作業日当り標準作業量	
		設置	1,000 m2／日	
		撤去	1,000 m2／日	
防塵処理工	該当工種の計算式（１回当り作業時間）を参照。			
法面工（仮設用モルタル吹付工）	① 仮設用モルタル吹付工			
		作業日当り標準作業量	167 m2／日	
		(注) 1. 目地の設置作業を含む。 2. 法面清掃, ラス張工は含まない。		

工 種 名	設 定 内 容			
消波根固めブロック工	① 消波根固めブロック製作			
	消波根固め ブロック規格	1個当りコンクリート 体積	1個当り型枠 面積	作業日当り 標準作業量
	2.5 t 以下	0.17m ³ 以上 0.23m ³ 以下	2.00m ² 以上 2.20m ² 以下	19 個/日
			2.20m ² を超え 2.40m ² 以下	18 個/日
			2.40m ² を超え 2.60m ² 以下	16 個/日
			2.60m ² を超え 2.80m ² 以下	15 個/日
			2.80m ² を超え 3.00m ² 以下	14 個/日
		0.23m ³ を超え 0.28m ³ 以下	2.20m ² 以上 2.43m ² 以下	17 個/日
			2.43m ² を超え 2.66m ² 以下	16 個/日
			2.66m ² を超え 2.89m ² 以下	14 個/日
			2.89m ² を超え 3.12m ² 以下	13 個/日
			3.12m ² を超え 3.35m ² 以下	13 個/日
		0.28m ³ を超え 0.33m ³ 以下	2.37m ² 以上 2.64m ² 以下	16 個/日
			2.64m ² を超え 2.91m ² 以下	14 個/日
			2.91m ² を超え 3.18m ² 以下	13 個/日
			3.18m ² を超え 3.45m ² 以下	12 個/日
			3.45m ² を超え 3.72m ² 以下	11 個/日
		0.33m ³ を超え 0.39m ³ 以下	2.59m ² 以上 2.90m ² 以下	14 個/日
			2.90m ² を超え 3.21m ² 以下	13 個/日
			3.21m ² を超え 3.52m ² 以下	12 個/日
			3.52m ² を超え 3.83m ² 以下	11 個/日
			3.83m ² を超え 4.14m ² 以下	10 個/日
		0.39m ³ を超え 0.45m ³ 以下	2.81m ² 以上 3.16m ² 以下	13 個/日
			3.16m ² を超え 3.51m ² 以下	12 個/日
			3.51m ² を超え 3.86m ² 以下	11 個/日
			3.86m ² を超え 4.21m ² 以下	9.9 個/日
			4.21m ² を超え 4.56m ² 以下	9.2 個/日
		0.45m ³ を超え 0.51m ³ 以下	3.04m ² 以上 3.43m ² 以下	12 個/日
			3.43m ² を超え 3.82m ² 以下	11 個/日
			3.82m ² を超え 4.21m ² 以下	9.9 個/日
			4.21m ² を超え 4.60m ² 以下	9.0 個/日
			4.60m ² を超え 4.99m ² 以下	8.4 個/日

工 種 名	設 定 内 容			
消波根固めブロック工	消波根固め ブロック規格	1個当りコンクリート 体積	1個当り型枠 面積	作業日当り 標準作業量
			3.25m ² 以上 3.69m ² 以下	11 個/日
			3.69m ² を超え 4.12m ² 以下	10 個/日
			4.12m ² を超え 4.55m ² 以下	9.1 個/日
			4.55m ² を超え 4.98m ² 以下	8.3 個/日
			4.98m ² を超え 5.41m ² 以下	7.7 個/日
		0.51m ³ を超え 0.57m ³ 以下	3.50m ² 以上 3.96m ² 以下	10 個/日
			3.96m ² を超え 4.42m ² 以下	9.3 個/日
			4.42m ² を超え 4.88m ² 以下	8.5 個/日
			4.88m ² を超え 5.34m ² 以下	7.7 個/日
		0.57m ³ を超え 0.64m ³ 以下	5.34m ² を超え 5.80m ² 以下	7.2 個/日
			3.75m ² 以上 4.27m ² 以下	9.6 個/日
			4.27m ² を超え 4.78m ² 以下	8.6 個/日
			4.78m ² を超え 5.29m ² 以下	7.8 個/日
		0.64m ³ を超え 0.71m ³ 以下	5.29m ² を超え 5.8m ² 以下	7.1 個/日
			5.8m ² を超え 6.31m ² 以下	6.6 個/日
			4.06m ² 以上 4.62m ² 以下	8.8 個/日
			4.62m ² を超え 5.18m ² 以下	7.9 個/日
		0.71m ³ を超え 0.79m ³ 以下	5.18m ² を超え 5.74m ² 以下	7.2 個/日
			5.74m ² を超え 6.30m ² 以下	6.6 個/日
			6.30m ² を超え 6.86m ² 以下	6.0 個/日
		0.79m ³ を超え 0.86m ³ 以下	4.28m ² 以上 4.90m ² 以下	8.3 個/日
			4.90m ² を超え 5.52m ² 以下	7.4 個/日
			5.52m ² を超え 6.14m ² 以下	6.7 個/日
			6.14m ² を超え 6.76m ² 以下	6.1 個/日
		0.86m ³ を超え 0.94m ³ 以下	6.76m ² を超え 7.38m ² 以下	5.6 個/日
			4.58m ² 以上 5.26m ² 以下	7.7 個/日
			5.26m ² を超え 5.93m ² 以下	6.9 個/日
			5.93m ² を超え 6.60m ² 以下	6.2 個/日
		0.94m ³ を超え 1.04m ³ 以下	6.60m ² を超え 7.27m ² 以下	5.7 個/日
			7.27m ² を超え 7.94m ² 以下	5.2 個/日
			4.92m ² 以上 5.66m ² 以下	7.2 個/日
			5.66m ² を超え 6.39m ² 以下	6.4 個/日
		1.04m ³ を超え 1.13m ³ 以下	6.39m ² を超え 7.12m ² 以下	5.8 個/日
			7.12m ² を超え 7.85m ² 以下	5.2 個/日
			7.85m ² を超え 8.58m ² 以下	4.8 個/日
			5.25m ² 以上 6.05m ² 以下	6.7 個/日
		1.13m ³ を超え 1.22m ³ 以下	6.05m ² を超え 6.84m ² 以下	5.9 個/日
			6.84m ² を超え 7.63m ² 以下	5.4 個/日
			7.63m ² を超え 8.42m ² 以下	4.9 個/日
			8.42m ² を超え 9.21m ² 以下	4.5 個/日

工 種 名	設 定 内 容			
消波根固めブロック工	消波根固め ブロック規格	1個当りコンクリート 体積	1個当り型枠 面積	作業日当り 標準作業量
			5.14m ² 以上 5.94m ² 以下	9.0 個/日
			5.94m ² を超え 6.73m ² 以下	8.0 個/日
			6.73m ² を超え 7.52m ² 以下	7.2 個/日
			7.52m ² を超え 8.31m ² 以下	6.5 個/日
			8.31m ² を超え 9.10m ² 以下	6.0 個/日
		1.05m ³ 以上 1.15m ³ 以下	5.35m ² 以上 6.21m ² 以下	8.6 個/日
			6.21m ² を超え 7.06m ² 以下	7.6 個/日
			7.06m ² を超え 7.91m ² 以下	6.8 個/日
			7.91m ² を超え 8.76m ² 以下	6.2 個/日
		1.15m ³ を超え 1.25m ³ 以下	8.76m ² を超え 9.61m ² 以下	5.6 個/日
			5.58m ² 以上 6.50m ² 以下	8.2 個/日
			6.50m ² を超え 7.41m ² 以下	7.2 個/日
			7.41m ² を超え 8.32m ² 以下	6.4 個/日
		1.25m ³ を超え 1.37m ³ 以下	8.32m ² を超え 9.23m ² 以下	5.8 個/日
			9.23m ² を超え 10.14m ² 以下	5.3 個/日
			5.87m ² 以上 6.83m ² 以下	7.7 個/日
			6.83m ² を超え 7.80m ² 以下	6.8 個/日
		1.37m ³ を超え 1.48m ³ 以下	7.80m ² を超え 8.77m ² 以下	6.1 個/日
			8.77m ² を超え 9.74m ² 以下	5.5 個/日
			9.74m ² を超え 10.71m ² 以下	5.0 個/日
		1.48m ³ を超え 1.61m ³ 以下	6.04m ² 以上 7.08m ² 以下	7.4 個/日
			7.08m ² を超え 8.12m ² 以下	6.5 個/日
			8.12m ² を超え 9.16m ² 以下	5.8 個/日
			9.16m ² を超え 10.2m ² 以下	5.3 個/日
		1.61m ³ を超え 1.73m ³ 以下	10.2m ² を超え 11.24m ² 以下	4.8 個/日
			6.34m ² 以上 7.46m ² 以下	7.0 個/日
			7.46m ² を超え 8.58m ² 以下	6.2 個/日
			8.58m ² を超え 9.70m ² 以下	5.5 個/日
		1.73m ³ を超え 1.87m ³ 以下	9.70m ² を超え 10.82m ² 以下	4.9 個/日
			10.82m ² を超え 11.94m ² 以下	4.5 個/日
			6.61m ² 以上 7.81m ² 以下	6.7 個/日
			7.81m ² を超え 9.00m ² 以下	5.9 個/日
		1.87m ³ を超え 2.01m ³ 以下	9.00m ² を超え 10.19m ² 以下	5.2 個/日
			10.19m ² を超え 11.38m ² 以下	4.7 個/日
			11.38m ² を超え 12.57m ² 以下	4.3 個/日
			6.91m ² 以上 8.19m ² 以下	6.4 個/日
			8.19m ² を超え 9.46m ² 以下	5.6 個/日
			9.46m ² を超え 10.73m ² 以下	4.9 個/日
			10.73m ² を超え 12.00m ² 以下	4.4 個/日
			12.00m ² を超え 13.27m ² 以下	4.0 個/日

工 種 名	設 定 内 容			
消波根固めブロック工	消波根固め ブロック規格	1個当りコンクリート 体積	1個当り型枠 面積	作業日当り 標準作業量
	2.5tを超え5.5t 以下	2.01m ³ を超え 2.17m ³ 以下	7.24m ² 以上 8.60m ² 以下	6.1 個/日
			8.60m ² を超え 9.95m ² 以下	5.3 個/日
			9.95m ² を超え 11.3m ² 以下	4.7 個/日
			11.3m ² を超え 12.65m ² 以下	4.2 個/日
			12.65m ² を超え 14.00m ² 以下	3.8 個/日
		2.17m ³ を超え 2.33m ³ 以下	7.53m ² 以上 8.99m ² 以下	5.8 個/日
			8.99m ² を超え 10.45m ² 以下	5.0 個/日
			10.45m ² を超え 11.91m ² 以下	4.4 個/日
			11.91m ² を超え 13.37m ² 以下	4.0 個/日
			13.37m ² を超え 14.83m ² 以下	3.6 個/日
		2.33m ³ を超え 2.51m ³ 以下	7.95m ² 以上 9.49m ² 以下	5.5 個/日
			9.49m ² を超え 11.02m ² 以下	4.8 個/日
			11.02m ² を超え 12.55m ² 以下	4.2 個/日
			12.55m ² を超え 14.08m ² 以下	3.8 個/日
			14.08m ² を超え 15.61m ² 以下	3.4 個/日
	5.5tを超え11.0t 以下	2.20m ³ 以上 2.40m ³ 以下	10.01m ² 以上 11.59m ² 以下	4.8 個/日
			11.59m ² を超え 13.15m ² 以下	4.2 個/日
			13.15m ² を超え 14.73m ² 以下	3.8 個/日
		2.40m ³ を超え 2.60m ³ 以下	10.38m ² 以上 12.08m ² 以下	4.6 個/日
			12.08m ² を超え 13.76m ² 以下	4.0 個/日
			13.76m ² を超え 15.46m ² 以下	3.6 個/日
		2.60m ³ を超え 2.80m ³ 以下	10.74m ² 以上 12.56m ² 以下	4.4 個/日
			12.56m ² を超え 14.36m ² 以下	3.9 個/日
			14.36m ² を超え 16.18m ² 以下	3.5 個/日
		2.80m ³ を超え 3.00m ³ 以下	11.12m ² 以上 13.04m ² 以下	4.2 個/日
			13.04m ² を超え 14.96m ² 以下	3.7 個/日
			14.96m ² を超え 16.88m ² 以下	3.3 個/日
		3.00m ³ を超え 3.22m ³ 以下	11.51m ² 以上 13.53m ² 以下	4.0 個/日
			13.53m ² を超え 15.55m ² 以下	3.6 個/日
			15.55m ² を超え 17.57m ² 以下	3.2 個/日
		3.22m ³ を超え 3.45m ³ 以下	11.94m ² 以上 14.10m ² 以下	3.9 個/日
			14.10m ² を超え 16.24m ² 以下	3.4 個/日
			16.24m ² を超え 18.40m ² 以下	3.0 個/日
		3.45m ³ を超え 3.70m ³ 以下	12.23m ² 以上 14.51m ² 以下	3.7 個/日
			14.51m ² を超え 16.79m ² 以下	3.3 個/日
			16.79m ² を超え 19.07m ² 以下	2.9 個/日
		3.70m ³ を超え 3.96m ³ 以下	12.86m ² 以上 15.28m ² 以下	3.6 個/日
			15.28m ² を超え 17.70m ² 以下	3.1 個/日
			17.70m ² を超え 20.12m ² 以下	2.7 個/日

工 種 名	設 定 内 容			
消波根固めブロック工	消波根固め ブロック規格	1個当りコンクリート 体積	1個当り型枠 面積	作業日当り 標準作業量
	5.5tを超え11.0t 以下	3.96m3 を超え 4.23m3 以下	13.33m2 以上 15.93m2 以下	3.4 個/日
			15.93m2 を超え 18.51m2 以下	3.0 個/日
			18.51m2 を超え 21.11m2 以下	2.6 個/日
		4.23m3 を超え 4.53m3 以下	13.87m2 以上 16.61m2 以下	3.2 個/日
			16.61m2 を超え 19.35m2 以下	2.8 個/日
			19.35m2 を超え 22.09m2 以下	2.5 個/日
		4.53m3 を超え 4.84m3 以下	14.45m2 以上 17.37m2 以下	3.1 個/日
			17.37m2 を超え 20.27m2 以下	2.7 個/日
			20.27m2 を超え 23.19m2 以下	2.4 個/日
	(参考) 各作業単独の場合の作業量			
	(1) ブロック製作 (型枠工)			
	区 分	作業日当り標準作業量		摘 要
		組 立	脱 型	
	2.5 t 以下	105 m2／日	139 m2／日	
2.5 t を超え 11.0 t 以下	164 m2／日	193 m2／日		
(2) ブロック製作 (コンクリート工)				
区 分	作業日当り標準作業量		摘 要	
2.5 t 以下	43 m3／日			
2.5 t を超え 5.5 t 以下	56 m3／日		クレーン打設	
5.5 t を超え 11.0 t 以下	59 m3／日			
② 消波根固めブロック横取り・積込み・荷卸・据付け				
	作業日当り標準作業量			
作業区分	2.5 t 以下	2.5 t を超え 5.5 t 以下	5.5 t を超え 11.0 t 以下	
横取り	78 個／日	74 個／日	52 個／日	
積込み	69 個／日	62 個／日	55 個／日	
荷卸	72 個／日	72 個／日	60 個／日	
据付け (乱積)	66 個／日	65 個／日	48 個／日	
据付け (層積)	50 個／日	43 個／日	36 個／日	

工 種 名	設 定 内 容					
消波根固めブロック工	③ 消波根固めブロック運搬					
	作業日当り標準作業量 (個/日)					
	ブロック規格	2.5 t 以下				
	積載個数	1 個/台			2 個/台	
	トラック 1 台当り運搬距離	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)	積込・荷卸	積込・据付(乱積)
	0.5km 以下	22	22	19	24	24
	1.0km 以下	21	20	18	23	23
	1.5km 以下	18	18	16	22	21
	2.0km 以下	17	17	15	21	20
	2.5km 以下	15	15	13	19	19
	3.0km 以下	14	13	12	18	18
	3.5km 以下	13	13	12	18	17
	4.0km 以下	12	12	11	16	16
	4.5km 以下	11	11	10	16	16
	5.0km 以下	11	10	9.8	15	15
	5.5km 以下	9.9	9.7	9.1	14	14
	6.0km 以下	9.5	9.4	8.8	14	14
	6.5km 以下	8.9	8.8	8.3	13	13
	7.0km 以下	8.4	8.3	7.9	13	13
	7.5km 以下	8.1	8.1	7.6	12	12
	8.5km 以下	7.9	7.8	7.4	12	12
	9.5km 以下	7.3	7.2	6.9	11	11
	10.5km 以下	6.8	6.7	6.4	11	11
	11.5km 以下	6.2	6.1	5.9	10	9.9
	12.5km 以下	5.8	5.8	5.5	9.5	9.4
	14.0km 以下	5.5	5.4	5.2	9.1	9.0
	15.0km 以下	5.0	4.9	4.8	8.4	8.3
	積載個数	3 個/台			4 個/台	
	0.5km 以下	25	24	21	25	25
	1.0km 以下	24	24	20	25	24
	1.5km 以下	23	22	19	24	23
	2.0km 以下	22	22	19	23	23
	2.5km 以下	21	21	18	22	22
	3.0km 以下	20	20	17	22	21
	3.5km 以下	20	19	17	21	21
	4.0km 以下	19	18	16	20	20
	4.5km 以下	18	18	16	20	19
	5.0km 以下	18	17	15	19	19
	5.5km 以下	17	17	15	19	18
	6.0km 以下	17	16	15	18	18
	6.5km 以下	16	16	14	18	17
	7.0km 以下	15	15	14	17	17
	7.5km 以下	15	15	13	17	17
	8.5km 以下	15	15	13	17	16
	9.5km 以下	14	14	13	16	16
	10.5km 以下	13	13	12	15	15
	11.5km 以下	13	12	11	15	14
	12.5km 以下	12	12	11	14	14
	14.0km 以下	12	11	11	14	13
	15.0km 以下	11	11	10	13	13

工 種 名	設 定 内 容					
消波根固めブロック工	作業日当り標準作業量 (個/日)					
	ブロック規格	2.5 t 以下				
	積載個数	5 個/台			6 個/台	
	トラック1台当り運搬距離	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)	積込・荷卸	積込・据付(乱積)
	0.5km 以下	26	25	21	26	25
	1.0km 以下	25	24	21	25	25
	1.5km 以下	24	24	20	25	24
	2.0km 以下	24	23	20	24	24
	2.5km 以下	23	22	19	24	23
	3.0km 以下	22	22	19	23	22
	3.5km 以下	22	21	19	23	22
	4.0km 以下	21	21	18	22	21
	4.5km 以下	21	20	18	22	21
	5.0km 以下	20	20	18	21	21
	5.5km 以下	20	19	17	21	20
	6.0km 以下	20	19	17	20	20
	6.5km 以下	19	19	16	20	19
	7.0km 以下	19	18	16	20	19
	7.5km 以下	18	18	16	19	19
	8.5km 以下	18	18	16	19	19
	9.5km 以下	17	17	15	18	18
	10.5km 以下	17	16	15	18	17
	11.5km 以下	16	16	14	17	17
	12.5km 以下	15	15	14	17	16
	14.0km 以下	15	15	13	16	16
	15.0km 以下	14	14	13	15	15
	積載個数	7 個/台			8 個/台	
	0.5km 以下	26	25	21	26	25
	1.0km 以下	26	25	21	26	25
	1.5km 以下	25	24	21	25	24
	2.0km 以下	25	24	20	25	24
	2.5km 以下	24	23	20	24	24
	3.0km 以下	23	23	20	24	23
	3.5km 以下	23	22	19	24	23
	4.0km 以下	23	22	19	23	22
	4.5km 以下	22	22	19	23	22
	5.0km 以下	22	21	19	22	22
	5.5km 以下	21	21	18	22	21
	6.0km 以下	21	21	18	22	21
	6.5km 以下	21	20	18	21	21
	7.0km 以下	20	20	17	21	20
	7.5km 以下	20	20	17	21	20
	8.5km 以下	20	19	17	21	20
	9.5km 以下	19	19	17	20	19
	10.5km 以下	19	18	16	19	19
	11.5km 以下	18	18	16	19	18
	12.5km 以下	18	17	15	18	18
	14.0km 以下	17	17	15	18	17
	15.0km 以下	16	16	14	17	17

工 種 名	設 定 内 容					
消波根固めブロック工	作業日当り標準作業量 (個/日)					
	ブロック規格	2.5 t 以下				
	積載個数	9 個/台			10 個/台	
	トラック1台当り運搬距離	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)	積込・荷卸	積込・据付(乱積)
	0.5km 以下	26	25	21	26	25
	1.0km 以下	26	25	21	26	25
	1.5km 以下	25	24	21	25	25
	2.0km 以下	25	24	21	25	24
	2.5km 以下	25	24	20	25	24
	3.0km 以下	24	23	20	24	24
	3.5km 以下	24	23	20	24	23
	4.0km 以下	23	23	20	24	23
	4.5km 以下	23	22	20	24	23
	5.0km 以下	23	22	19	23	22
	5.5km 以下	22	22	19	23	22
	6.0km 以下	22	22	19	23	22
	6.5km 以下	22	21	19	22	22
	7.0km 以下	21	21	18	22	21
	7.5km 以下	21	21	18	22	21
	8.5km 以下	21	20	18	22	21
	9.5km 以下	21	20	18	21	20
	10.5km 以下	20	20	17	21	20
	11.5km 以下	19	19	17	20	19
	12.5km 以下	19	19	16	20	19
	14.0km 以下	19	18	16	19	19
	15.0km 以下	18	18	16	19	18
	積載個数	11 個以上 15 個以下/台			15 個を超え 23 個以下/台	
	0.5km 以下	26	25	22	26	25
	1.0km 以下	26	25	21	26	25
	1.5km 以下	26	25	21	26	25
	2.0km 以下	25	25	21	26	25
	2.5km 以下	25	24	21	26	25
	3.0km 以下	25	24	21	25	24
	3.5km 以下	25	24	21	25	24
	4.0km 以下	24	24	20	25	24
	4.5km 以下	24	23	20	25	24
	5.0km 以下	24	23	20	25	24
	5.5km 以下	24	23	20	24	24
	6.0km 以下	23	23	20	24	24
	6.5km 以下	23	22	19	24	23
	7.0km 以下	23	22	19	24	23
	7.5km 以下	23	22	19	24	23
	8.5km 以下	23	22	19	24	23
	9.5km 以下	22	21	19	23	23
	10.5km 以下	22	21	18	23	22
	11.5km 以下	21	21	18	23	22
	12.5km 以下	21	20	18	22	22
	14.0km 以下	21	20	18	22	21
	15.0km 以下	20	19	17	22	21

工 種 名	設 定 内 容					
消波根固めブロック工	作業日当り標準作業量 (個/日)					
	ブロック規格	2.5t を超え 5.5t 以下				
	積載個数	1 個/台			2 個/台	
	トラック 1 台当り運搬距離	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)	積込・荷卸	積込・据付(乱積)
	0.5km 以下	21	21	17	23	22
	1.0km 以下	20	19	16	22	21
	1.5km 以下	17	17	14	21	20
	2.0km 以下	16	16	14	20	19
	2.5km 以下	15	14	12	19	18
	3.0km 以下	13	13	11	17	17
	3.5km 以下	13	12	11	17	16
	4.0km 以下	12	11	10	16	15
	4.5km 以下	11	11	9.9	15	15
	5.0km 以下	10	10	9.2	15	14
	5.5km 以下	9.7	9.5	8.7	14	14
	6.0km 以下	9.3	9.2	8.4	14	13
	6.5km 以下	8.8	8.6	7.9	13	13
	7.0km 以下	8.2	8.1	7.5	12	12
	7.5km 以下	8.0	7.9	7.3	12	12
	8.5km 以下	7.8	7.7	7.1	12	12
	9.5km 以下	7.2	7.1	6.6	11	11
	10.5km 以下	6.7	6.6	6.2	11	10
	11.5km 以下	6.1	6.0	5.7	9.8	9.7
	12.5km 以下	5.7	5.7	5.4	9.3	9.2
	14.0km 以下	5.4	5.4	5.1	8.9	8.8
	15.0km 以下	4.9	4.9	4.7	8.2	8.1
	積載個数	3 個/台			4 個/台	
	0.5km 以下	24	23	18	24	23
	1.0km 以下	23	22	18	24	23
	1.5km 以下	22	21	17	23	22
	2.0km 以下	21	21	17	22	21
	2.5km 以下	20	20	16	21	21
	3.0km 以下	19	19	16	21	20
	3.5km 以下	19	18	15	20	20
	4.0km 以下	18	18	15	20	19
	4.5km 以下	18	17	15	19	19
	5.0km 以下	17	17	14	19	18
	5.5km 以下	16	16	14	18	17
	6.0km 以下	16	16	13	18	17
	6.5km 以下	15	15	13	17	17
	7.0km 以下	15	15	13	17	16
	7.5km 以下	15	14	12	16	16
	8.5km 以下	14	14	12	16	16
	9.5km 以下	14	13	12	15	15
	10.5km 以下	13	13	11	15	14
	11.5km 以下	12	12	11	14	14
	12.5km 以下	12	12	10	14	13
	14.0km 以下	11	11	10	13	13
	15.0km 以下	11	10	9.4	12	12

工 種 名	設 定 内 容						
消波根固めブロック工	作業日当り標準作業量 (個／日)						
	ブロック規格	5.5t を超え 11.0t 以下					
	積載個数	1 個／台			2 個／台		
	トラック 1 台当り運搬距離	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)	積込・荷卸	積込・据付(乱積)	積込・据付(層積)
	0.5km 以下	19	17	15	20	18	15
	1.0km 以下	18	16	14	19	18	15
	1.5km 以下	16	14	13	18	16	14
	2.0km 以下	15	14	12	18	16	14
	2.5km 以下	13	12	11	17	15	13
	3.0km 以下	12	11	10	16	14	13
	3.5km 以下	12	11	10	15	14	12
	4.0km 以下	11	10	9.3	14	13	12
	4.5km 以下	10	9.9	9.0	14	13	12
	5.0km 以下	9.7	9.2	8.5	13	12	11
	5.5km 以下	9.1	8.7	8.0	13	12	11
	6.0km 以下	8.8	8.4	7.8	13	12	11
	6.5km 以下	8.3	7.9	7.4	12	11	10
	7.0km 以下	7.8	7.5	7.0	12	11	9.8
	7.5km 以下	7.6	7.3	6.8	11	11	9.7
	8.5km 以下	7.4	7.1	6.7	11	10	9.5
	9.5km 以下	6.9	6.6	6.2	10	9.9	9.0
	10.5km 以下	6.4	6.2	5.9	9.9	9.4	8.6
	11.5km 以下	5.9	5.7	5.4	9.2	8.8	8.1
	12.5km 以下	5.5	5.4	5.1	8.8	8.4	7.8
	14.0km 以下	5.2	5.1	4.8	8.4	8.0	7.5
	15.0km 以下	4.8	4.7	4.5	7.8	7.5	7.0
消波根固めブロック工 (ブロック撤去工) (0.25 t 以上 35.5 t 以下)	① 根固めブロック撤去						
	作業区分		作業日当り標準作業量			摘 要	
			0.25 t 以上 6.5 t 以下	6.5 t 超え 12.5 t 以下	12.5 t 超え 35.5 t 以下		
	撤去・仮置き		84(67)個/日	55(44)個/日	37(30)個/日	堆砂がある場合は()の作業量とする。	
	撤去・据付け	乱積	75(60)個/日	57(46)個/日	43(34)個/日		
		層積	53(42)個/日	45(36)個/日	35(28)個/日		
撤去・積込み		73(58)個/日	51(41)個/日	36(29)個/日			
捨石工	① 捨石工						
	作 業 名		作業日当り標準作業量		摘 要		
	捨石投入		76 m3／日		最大作業半径 9 m 以下		
			67 m3／日		最大作業半径 9 m を超え 24m 以下		
	表面均し		55 m2／日				

工 種 名	設 定 内 容																					
消波工	① 捨石工（捨石均し） … 該当工種の基準内に記載。 ② ブロック製作（型枠工） <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th><th rowspan="2">摘 要</th></tr><tr><th>組 立</th><th>脱 型</th></tr><tr><td>11.0 t を超え 25.0 t 以下</td><td>164 m2／日</td><td>193 m2／日</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>25.0 t を超え 50.0 t 以下</td><td>230 m2／日</td><td>270 m2／日</td></tr></table> ③ ブロック製作（コンクリート工） <table><tr><th>区 分</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>11.0 t を超え 25.0 t 以下</td><td>83 m3／日</td><td rowspan="2">クレーン打設</td></tr><tr><td>25.0 t を超え 50.0 t 以下</td><td>125 m3／日</td></tr></table> ④ ブロック横取り … 該当工種の基準内に記載。 ⑤ ブロック積み込み・運搬・据付け工 ・運搬距離 15km 以下 … 該当工種の基準内に記載。 ・運搬距離 15km を超え … 該当工種の計算式（1日当り施工個数）を参照。	区 分	作業日当り標準作業量		摘 要	組 立	脱 型	11.0 t を超え 25.0 t 以下	164 m2／日	193 m2／日		25.0 t を超え 50.0 t 以下	230 m2／日	270 m2／日	区 分	作業日当り標準作業量	摘 要	11.0 t を超え 25.0 t 以下	83 m3／日	クレーン打設	25.0 t を超え 50.0 t 以下	125 m3／日
区 分	作業日当り標準作業量		摘 要																			
	組 立	脱 型																				
11.0 t を超え 25.0 t 以下	164 m2／日	193 m2／日																				
25.0 t を超え 50.0 t 以下	230 m2／日	270 m2／日																				
区 分	作業日当り標準作業量	摘 要																				
11.0 t を超え 25.0 t 以下	83 m3／日	クレーン打設																				
25.0 t を超え 50.0 t 以下	125 m3／日																					
浚渫工（ポンプ浚渫船）	① 浚渫・排土日数 … 現場条件により設定 ② 排砂管及び受枠設置・撤去， 排砂管及びフロータ設置・撤去 … 該当工種の基準内に記載。																					
浚渫工（バックホウ浚渫船）	現場条件により設定																					
軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	① 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工 <table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ブロック組立工</td><td>3.3 ブロック／日</td></tr><tr><td>PCケーブル組立工</td><td>10 ケーブル／日</td></tr><tr><td>グラウト工</td><td>333 m／日</td></tr></table>	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	ブロック組立工	3.3 ブロック／日	PCケーブル組立工	10 ケーブル／日	グラウト工	333 m／日													
作 業 種 別	作業日当り標準作業量																					
ブロック組立工	3.3 ブロック／日																					
PCケーブル組立工	10 ケーブル／日																					
グラウト工	333 m／日																					

工 種 名	設 定 内 容		
堤防除草工	① 除草		
	作 業 種 別		作業日当り 標準作業量
	大型自走式	ロングリーチ式	6,670 m2／日
		ゴム履帯式 アルミ履帯式	7,690 m2／日
	遠隔操縦式	刈幅 185 cm	7,690 m2／日
		刈幅 120 cm	4,760 m2／日
	ハンドガイド式（刈幅 150cm）		6,250 m2／日
	肩掛式（カッタ径 255mm）		770 m2／日
	人 力		290 m2／日
	② 集草		
	作 業 種 別		作業日当り 標準作業量
	大型自走式（アルミ履帯式）		7,690 m2／日
	遠隔操縦式	集草幅 180 cm	8,640 m2／日
		集草幅 160 cm	7,690 m2／日
	ハンドガイド式（集草幅 200 cm）		7,690 m2／日
	人 力		1,350 m2／日
	③ 梱包		
	作業日当り標準作業量		7,570 m2／日

工 種 名	設 定 内 容																																																													
堤防除草工	④ 積込・荷卸																																																													
	<table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr><tr><td>ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包無し）</td><td>1,960 m2／日</td></tr><tr><td>ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包有り）</td><td>6,500 m2／日</td></tr><tr><td>パッカー車（回転式・積載容量 8m3）</td><td>5,560 m2／日</td></tr></table>	作 業 種 別	作業日当り 標準作業量	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包無し）	1,960 m2／日	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包有り）	6,500 m2／日	パッカー車（回転式・積載容量 8m3）	5,560 m2／日																																																					
	作 業 種 別	作業日当り 標準作業量																																																												
	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包無し）	1,960 m2／日																																																												
	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級） （梱包有り）	6,500 m2／日																																																												
	パッカー車（回転式・積載容量 8m3）	5,560 m2／日																																																												
	⑤ 運搬（堤防除草）																																																													
	<table><tr><th>運搬機種</th><th>梱包の有無</th><th>DID区間 の有無</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="26">ダンプトラッ ク（オンロー ド・ディーゼ ル・2t積級）</td><td rowspan="26">梱包無し</td><td rowspan="13">無し</td><td>1.0km 以下</td><td>9,833 m2／日</td></tr><tr><td>2.5km 以下</td><td>8,429 m2／日</td></tr><tr><td>4.0km 以下</td><td>7,375 m2／日</td></tr><tr><td>6.0km 以下</td><td>6,556 m2／日</td></tr><tr><td>7.5km 以下</td><td>5,900 m2／日</td></tr><tr><td>9.5km 以下</td><td>5,364 m2／日</td></tr><tr><td>11.0km 以下</td><td>4,917 m2／日</td></tr><tr><td>13.0km 以下</td><td>4,538 m2／日</td></tr><tr><td>17.0km 以下</td><td>3,933 m2／日</td></tr><tr><td>22.0km 以下</td><td>3,471 m2／日</td></tr><tr><td>25.0km 以下</td><td>3,278 m2／日</td></tr><tr><td>32.5km 以下</td><td>2,950 m2／日</td></tr><tr><td>40.0km 以下</td><td>2,682 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="13">有り</td><td>1.0km 以下</td><td>9,833 m2／日</td></tr><tr><td>2.5km 以下</td><td>8,429 m2／日</td></tr><tr><td>4.0km 以下</td><td>7,375 m2／日</td></tr><tr><td>5.5km 以下</td><td>6,556 m2／日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>5,900 m2／日</td></tr><tr><td>8.5km 以下</td><td>5,364 m2／日</td></tr><tr><td>10.0km 以下</td><td>4,917 m2／日</td></tr><tr><td>12.0km 以下</td><td>4,538 m2／日</td></tr><tr><td>15.5km 以下</td><td>3,933 m2／日</td></tr><tr><td>19.0km 以下</td><td>3,471 m2／日</td></tr><tr><td>21.5km 以下</td><td>3,278 m2／日</td></tr><tr><td>26.0km 以下</td><td>2,950 m2／日</td></tr><tr><td>40.0km 以下</td><td>2,682 m2／日</td></tr></table>	運搬機種	梱包の有無	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量	ダンプトラッ ク（オンロー ド・ディーゼ ル・2t積級）	梱包無し	無し	1.0km 以下	9,833 m2／日	2.5km 以下	8,429 m2／日	4.0km 以下	7,375 m2／日	6.0km 以下	6,556 m2／日	7.5km 以下	5,900 m2／日	9.5km 以下	5,364 m2／日	11.0km 以下	4,917 m2／日	13.0km 以下	4,538 m2／日	17.0km 以下	3,933 m2／日	22.0km 以下	3,471 m2／日	25.0km 以下	3,278 m2／日	32.5km 以下	2,950 m2／日	40.0km 以下	2,682 m2／日	有り	1.0km 以下	9,833 m2／日	2.5km 以下	8,429 m2／日	4.0km 以下	7,375 m2／日	5.5km 以下	6,556 m2／日	7.0km 以下	5,900 m2／日	8.5km 以下	5,364 m2／日	10.0km 以下	4,917 m2／日	12.0km 以下	4,538 m2／日	15.5km 以下	3,933 m2／日	19.0km 以下	3,471 m2／日	21.5km 以下	3,278 m2／日	26.0km 以下	2,950 m2／日	40.0km 以下	2,682 m2／日
	運搬機種	梱包の有無	DID区間 の有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量																																																									
	ダンプトラッ ク（オンロー ド・ディーゼ ル・2t積級）	梱包無し	無し	1.0km 以下	9,833 m2／日																																																									
				2.5km 以下	8,429 m2／日																																																									
				4.0km 以下	7,375 m2／日																																																									
				6.0km 以下	6,556 m2／日																																																									
				7.5km 以下	5,900 m2／日																																																									
				9.5km 以下	5,364 m2／日																																																									
				11.0km 以下	4,917 m2／日																																																									
				13.0km 以下	4,538 m2／日																																																									
				17.0km 以下	3,933 m2／日																																																									
				22.0km 以下	3,471 m2／日																																																									
				25.0km 以下	3,278 m2／日																																																									
				32.5km 以下	2,950 m2／日																																																									
				40.0km 以下	2,682 m2／日																																																									
			有り	1.0km 以下	9,833 m2／日																																																									
				2.5km 以下	8,429 m2／日																																																									
				4.0km 以下	7,375 m2／日																																																									
				5.5km 以下	6,556 m2／日																																																									
				7.0km 以下	5,900 m2／日																																																									
8.5km 以下				5,364 m2／日																																																										
10.0km 以下				4,917 m2／日																																																										
12.0km 以下				4,538 m2／日																																																										
15.5km 以下				3,933 m2／日																																																										
19.0km 以下				3,471 m2／日																																																										
21.5km 以下				3,278 m2／日																																																										
26.0km 以下				2,950 m2／日																																																										
40.0km 以下				2,682 m2／日																																																										
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。																																																														

工 種 名	設 定 内 容				
堤防除草工					
	運搬機種	梱包の有無	DID区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t積級）	梱包有り	無し	1.0km 以下	25,652 m2／日
				2.5km 以下	22,692 m2／日
				4.0km 以下	20,345 m2／日
				6.0km 以下	17,879 m2／日
				7.5km 以下	15,946 m2／日
				9.5km 以下	14,390 m2／日
				11.0km 以下	13,409 m2／日
				13.0km 以下	12,292 m2／日
				17.0km 以下	11,132 m2／日
				22.0km 以下	9,833 m2／日
				25.0km 以下	9,077 m2／日
				32.5km 以下	8,310 m2／日
				40.0km 以下	7,763 m2／日
				有り	1.0km 以下
			2.5km 以下		22,692 m2／日
			4.0km 以下		20,345 m2／日
			5.5km 以下		17,879 m2／日
			7.0km 以下		15,946 m2／日
			8.5km 以下		14,390 m2／日
			10.0km 以下		13,409 m2／日
			12.0km 以下		12,292 m2／日
	19.0km 以下	9,833 m2／日			
	21.5km 以下	9,077 m2／日			
	26.0km 以下	8,310 m2／日			
				40.0km 以下	7,108 m2／日
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。					

工 種 名	設 定 内 容			
堤防除草工	パッカー車（回転式・積載容量8m ³ ）	無し	運搬機種	作業日当り標準作業量
			運搬距離	
			5.0km 以下	15,500 m ² /日
			6.5km 以下	10,333 m ² /日
			8.0km 以下	8,857 m ² /日
			10.0km 以下	7,750 m ² /日
			12.0km 以下	6,889 m ² /日
			14.0km 以下	6,200 m ² /日
			16.0km 以下	5,636 m ² /日
			18.0km 以下	5,167 m ² /日
			20.5km 以下	4,769 m ² /日
			26.5km 以下	4,133 m ² /日
			35.0km 以下	3,647 m ² /日
			40.0km 以下	3,263 m ² /日
		有り	5.0km 以下	15,500 m ² /日
			6.0km 以下	10,333 m ² /日
			7.5km 以下	8,857 m ² /日
			9.0km 以下	7,750 m ² /日
			11.0km 以下	6,889 m ² /日
			12.5km 以下	6,200 m ² /日
			14.5km 以下	5,636 m ² /日
			16.0km 以下	5,167 m ² /日
			18.0km 以下	4,769 m ² /日
			22.0km 以下	4,133 m ² /日
			27.0km 以下	3,647 m ² /日
			40.0km 以下	3,263 m ² /日

(注) パッカー車の運転日当り運転時間は、6.2hとする。

工 種 名	設 定 内 容																																																																																	
堤防除草工	⑥ 除草，集草（人力），梱包，積込・荷卸（総合）																																																																																	
	<table><tr><th>除草機種</th><th>梱包の有無</th><th>運搬機械</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">大型自走式 （ロングリーチ式）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>850 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>714 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">大型自走式 （履帯式）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>934 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>865 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">遠隔操縦式 （刈幅185cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>724 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>952 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">遠隔操縦式 （刈幅120cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>865 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>724 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">ハトガト式 （刈幅150cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>952 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>809 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">肩掛式 （カット径255mm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>684 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>884 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">人力</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>843 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>709 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>925 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>430 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>392 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>451 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>223 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>213 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>229 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>229 m2／日</td></tr></table>	除草機種	梱包の有無	運搬機械	作業日当り標準作業量	大型自走式 （ロングリーチ式）	有り	ダンプトラック	850 m2／日	無し	バックカー車	714 m2／日	大型自走式 （履帯式）	有り	ダンプトラック	934 m2／日	無し	バックカー車	865 m2／日	遠隔操縦式 （刈幅185cm）	有り	ダンプトラック	724 m2／日	無し	バックカー車	952 m2／日	遠隔操縦式 （刈幅120cm）	有り	ダンプトラック	865 m2／日	無し	バックカー車	724 m2／日	ハトガト式 （刈幅150cm）	有り	ダンプトラック	952 m2／日	無し	バックカー車	809 m2／日	肩掛式 （カット径255mm）	有り	ダンプトラック	684 m2／日	無し	バックカー車	884 m2／日	人力	有り	ダンプトラック	843 m2／日	無し	バックカー車	709 m2／日		有り	ダンプトラック	925 m2／日	無し	バックカー車	430 m2／日		有り	ダンプトラック	392 m2／日	無し	バックカー車	451 m2／日		有り	ダンプトラック	223 m2／日	無し	バックカー車	213 m2／日		有り	ダンプトラック	229 m2／日	無し	バックカー車	229 m2／日
	除草機種	梱包の有無	運搬機械	作業日当り標準作業量																																																																														
	大型自走式 （ロングリーチ式）	有り	ダンプトラック	850 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	714 m2／日																																																																														
	大型自走式 （履帯式）	有り	ダンプトラック	934 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	865 m2／日																																																																														
	遠隔操縦式 （刈幅185cm）	有り	ダンプトラック	724 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	952 m2／日																																																																														
	遠隔操縦式 （刈幅120cm）	有り	ダンプトラック	865 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	724 m2／日																																																																														
	ハトガト式 （刈幅150cm）	有り	ダンプトラック	952 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	809 m2／日																																																																														
	肩掛式 （カット径255mm）	有り	ダンプトラック	684 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	884 m2／日																																																																														
	人力	有り	ダンプトラック	843 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	709 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	925 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	430 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	392 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	451 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	223 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	213 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	229 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	229 m2／日																																																																														
		⑦ 除草，集草（機械），梱包，積込・荷卸（総合）																																																																																
		<table><tr><th>除草機種</th><th>梱包の有無</th><th>運搬機械</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">大型自走式 （履帯式）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>1,831 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>1,298 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">遠隔操縦式 （刈幅185cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>2,273 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>1,881 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">遠隔操縦式 （刈幅120cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>1,323 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>2,349 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">ハトガト式 （刈幅150cm）</td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>1,597 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>1,176 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>1,923 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>1,736 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>ダンプトラック</td><td>1,250 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>バックカー車</td><td>2,128 m2／日</td></tr></table>	除草機種	梱包の有無	運搬機械	作業日当り標準作業量	大型自走式 （履帯式）	有り	ダンプトラック	1,831 m2／日	無し	バックカー車	1,298 m2／日	遠隔操縦式 （刈幅185cm）	有り	ダンプトラック	2,273 m2／日	無し	バックカー車	1,881 m2／日	遠隔操縦式 （刈幅120cm）	有り	ダンプトラック	1,323 m2／日	無し	バックカー車	2,349 m2／日	ハトガト式 （刈幅150cm）	有り	ダンプトラック	1,597 m2／日	無し	バックカー車	1,176 m2／日		有り	ダンプトラック	1,923 m2／日	無し	バックカー車	1,736 m2／日		有り	ダンプトラック	1,250 m2／日	無し	バックカー車	2,128 m2／日																																		
除草機種		梱包の有無	運搬機械	作業日当り標準作業量																																																																														
大型自走式 （履帯式）		有り	ダンプトラック	1,831 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	1,298 m2／日																																																																														
遠隔操縦式 （刈幅185cm）		有り	ダンプトラック	2,273 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	1,881 m2／日																																																																														
遠隔操縦式 （刈幅120cm）		有り	ダンプトラック	1,323 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	2,349 m2／日																																																																														
ハトガト式 （刈幅150cm）		有り	ダンプトラック	1,597 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	1,176 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	1,923 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	1,736 m2／日																																																																														
		有り	ダンプトラック	1,250 m2／日																																																																														
		無し	バックカー車	2,128 m2／日																																																																														
堤防天端補修工	① 堤防天端補修工																																																																																	
	<table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>不陸整正・補修材敷均し・締固め</td><td>690 m3／日</td></tr><tr><td>不陸整正・締固め</td><td>1,340 m3／日</td></tr></table>	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	不陸整正・補修材敷均し・締固め	690 m3／日	不陸整正・締固め	1,340 m3／日																																																																											
	作 業 種 別	作業日当り標準作業量																																																																																
	不陸整正・補修材敷均し・締固め	690 m3／日																																																																																
不陸整正・締固め	1,340 m3／日																																																																																	

工 種 名	設	定	内	容
堤防芝養生工	①	堤防芝養生工		
		作業種別		作業日当り標準作業量
		抜根＋集草＋積込運搬		934 m2／日
		抜根＋集草		1,290 m2／日
		抜 根		1,880 m2／日
		集 草		4,110 m2／日
		積込運搬		3,380 m2／日
		施 肥		13,600 m2／日
	(注) 集草、積込運搬は、必要な工種のみ計上する。			
伐木除根工	①	伐木除根工		
		作 業 名		作業日当り標準作業量
		伐 木 作 業	粗	2,105 m2／日
			中	768 m2／日
			密	433 m2／日
		伐 竹 作 業		439 m2／日
		除 根 作 業		1,160 m2／日
		整 地 作 業		880 m2／日
		集積作業 (人力施工)		1,180 m2／日
		集積作業 (機械施工)	除根有	720 m2／日
			除根無	940 m2／日
		積 込 み(人力施工)		21,300 m2／日

工 種 名	設 定 内 容				
伐木除根工	② 運搬（伐木除根）人力施工				
	積込条件	除根作業の有無	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	人力施工	-	無し	1.0km 以下	4,917 m2/日
				2.5km 以下	4,538 m2/日
				4.0km 以下	4,214 m2/日
				5.5km 以下	3,933 m2/日
				7.5km 以下	3,471 m2/日
				9.5km 以下	3,278 m2/日
				12.0km 以下	2,950 m2/日
				15.0km 以下	2,682 m2/日
				19.0km 以下	2,458 m2/日
				24.0km 以下	2,269 m2/日
				31.0km 以下	2,034 m2/日
				49.0km 以下	1,844 m2/日
				60.0km 以下	1,686 m2/日
			有り	1.0km 以下	4,917 m2/日
				2.5km 以下	4,538 m2/日
				4.0km 以下	4,214 m2/日
				5.5km 以下	3,933 m2/日
				7.5km 以下	3,471 m2/日
				9.5km 以下	3,278 m2/日
				11.5km 以下	2,950 m2/日
				14.5km 以下	2,682 m2/日
				18.0km 以下	2,458 m2/日
				22.0km 以下	2,269 m2/日
				27.5km 以下	2,034 m2/日
				34.5km 以下	1,844 m2/日
				60.0km 以下	1,686 m2/日
	(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。				

工 種 名	設 定 内 容				
伐木除根工	③ 運搬（伐木除根）機械施工				
	積込条件	除根作業の有無	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	機械施工	有り	無し	0.5km 以下	5,364 m2/日
				1.0km 以下	4,538 m2/日
				1.5km 以下	4,214 m2/日
				2.0km 以下	3,933 m2/日
				2.5km 以下	3,471 m2/日
				3.0km 以下	3,278 m2/日
				3.5km 以下	3,105 m2/日
				4.0km 以下	2,950 m2/日
				4.5km 以下	2,810 m2/日
				5.5km 以下	2,565 m2/日
				6.5km 以下	2,360 m2/日
				7.5km 以下	2,185 m2/日
				8.5km 以下	1,967 m2/日
				10.0km 以下	1,844 m2/日
				11.5km 以下	1,686 m2/日
				13.5km 以下	1,553 m2/日
				15.5km 以下	1,405 m2/日
				18.0km 以下	1,311 m2/日
				21.0km 以下	1,204 m2/日
				25.0km 以下	1,093 m2/日
				30.5km 以下	1,000 m2/日
				41.5km 以下	908 m2/日
				60.0km 以下	831 m2/日
			有り	0.5km 以下	5,364 m2/日
				1.0km 以下	4,538 m2/日
				1.5km 以下	4,214 m2/日
				2.0km 以下	3,688 m2/日
				2.5km 以下	3,471 m2/日
				3.0km 以下	3,278 m2/日
				3.5km 以下	3,105 m2/日
				4.0km 以下	2,810 m2/日
				4.5km 以下	2,682 m2/日
				5.0km 以下	2,565 m2/日
				6.0km 以下	2,360 m2/日
				7.0km 以下	2,185 m2/日
				8.0km 以下	2,034 m2/日
				9.5km 以下	1,844 m2/日
				11.0km 以下	1,686 m2/日
				12.5km 以下	1,513 m2/日
				14.0km 以下	1,405 m2/日
				16.0km 以下	1,311 m2/日
				18.5km 以下	1,204 m2/日
				21.0km 以下	1,093 m2/日
				25.0km 以下	1,017 m2/日
				29.0km 以下	908 m2/日
				60.0km 以下	831 m2/日
	(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。				

工 種 名	設 定 内 容				
伐木除根工					
	積込条件	除根作業の有無	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	機械施工	無し	無し	0.5km 以下	11,800 m2/日
				1.5km 以下	9,833 m2/日
				2.0km 以下	8,429 m2/日
				2.5km 以下	7,375 m2/日
				3.0km 以下	6,556 m2/日
				4.0km 以下	5,900 m2/日
				4.5km 以下	5,364 m2/日
				5.0km 以下	4,917 m2/日
				6.5km 以下	4,538 m2/日
				7.5km 以下	3,933 m2/日
				8.5km 以下	3,688 m2/日
				9.5km 以下	3,278 m2/日
				11.0km 以下	3,105 m2/日
				12.5km 以下	2,810 m2/日
				14.5km 以下	2,565 m2/日
				16.5km 以下	2,360 m2/日
				19.0km 以下	2,185 m2/日
				22.0km 以下	1,967 m2/日
				26.0km 以下	1,788 m2/日
				32.0km 以下	1,639 m2/日
			47.0km 以下	1,475 m2/日	
			60.0km 以下	1,341 m2/日	
			有り	0.5km 以下	11,800 m2/日
				1.5km 以下	9,833 m2/日
				2.0km 以下	8,429 m2/日
				2.5km 以下	7,375 m2/日
				3.0km 以下	6,556 m2/日
				4.0km 以下	5,900 m2/日
				4.5km 以下	5,364 m2/日
				5.0km 以下	4,917 m2/日
				6.0km 以下	4,538 m2/日
				7.0km 以下	3,933 m2/日
				8.0km 以下	3,688 m2/日
				9.0km 以下	3,278 m2/日
				10.0km 以下	3,105 m2/日
				11.5km 以下	2,810 m2/日
	13.0km 以下	2,565 m2/日			
	15.0km 以下	2,360 m2/日			
	17.0km 以下	2,185 m2/日			
	19.5km 以下	1,967 m2/日			
	22.0km 以下	1,788 m2/日			
	25.5km 以下	1,639 m2/日			
	30.0km 以下	1,475 m2/日			
60.0km 以下	1,341 m2/日				
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。					

工 種 名	設 定 内 容																																												
伐木除根工	④ 伐木・伐竹(複合)																																												
	<table><tr><th>樹木・竹の区分 樹木密集度</th><th>除根作業 の有無</th><th>集積積込み 作業の区分</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">伐木（粗）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>259 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>650 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>人力施工</td><td>730 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">伐木（中）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>213 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>423 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>人力施工</td><td>455 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">伐木（密）</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>176 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>296 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>人力施工</td><td>312 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">伐竹</td><td>有り</td><td rowspan="2">機械施工</td><td>177 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>299 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>有り</td><td>人力施工</td><td>315 m2／日</td></tr></table>	樹木・竹の区分 樹木密集度	除根作業 の有無	集積積込み 作業の区分	作業日当り 標準作業量	伐木（粗）	有り	機械施工	259 m2／日	無し	650 m2／日		有り	人力施工	730 m2／日	伐木（中）	有り	機械施工	213 m2／日	無し	423 m2／日		有り	人力施工	455 m2／日	伐木（密）	有り	機械施工	176 m2／日	無し	296 m2／日		有り	人力施工	312 m2／日	伐竹	有り	機械施工	177 m2／日	無し	299 m2／日		有り	人力施工	315 m2／日
	樹木・竹の区分 樹木密集度	除根作業 の有無	集積積込み 作業の区分	作業日当り 標準作業量																																									
	伐木（粗）	有り	機械施工	259 m2／日																																									
		無し		650 m2／日																																									
		有り	人力施工	730 m2／日																																									
		伐木（中）	有り	機械施工	213 m2／日																																								
	無し		423 m2／日																																										
		有り	人力施工	455 m2／日																																									
		伐木（密）	有り	機械施工	176 m2／日																																								
	無し		296 m2／日																																										
		有り	人力施工	312 m2／日																																									
		伐竹	有り	機械施工	177 m2／日																																								
	無し		299 m2／日																																										
	有り	人力施工	315 m2／日																																										
	塵芥処理工	① 塵芥処理工																																											
<table><tr><th>工 種 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>散在塵芥収集</td><td>20,000 m2／日</td></tr><tr><td>堆積塵芥収集（機械処理）</td><td>26 m3／日</td></tr><tr><td>堆積塵芥収集（人力処理）</td><td>9 m3／日</td></tr></table>		工 種 名	作業日当り標準作業量	散在塵芥収集	20,000 m2／日	堆積塵芥収集（機械処理）	26 m3／日	堆積塵芥収集（人力処理）	9 m3／日																																				
工 種 名		作業日当り標準作業量																																											
散在塵芥収集		20,000 m2／日																																											
堆積塵芥収集（機械処理）		26 m3／日																																											
堆積塵芥収集（人力処理）	9 m3／日																																												
(注) 上表は、収集・集積作業のみである。																																													

工 種 名	設 定 内 容			
塵芥処理工	② 散在塵芥処理（収集・集積・運搬）			
	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	
			運搬のみ	収集・集積・運搬
	無し	1.0km 以下	84,286 m ² /日	16,164 m ² /日
		2.0km 以下	73,750 m ² /日	15,733 m ² /日
		3.0km 以下	65,556 m ² /日	15,325 m ² /日
		4.5km 以下	59,000 m ² /日	14,937 m ² /日
		6.0km 以下	53,636 m ² /日	14,568 m ² /日
		7.5km 以下	49,167 m ² /日	14,217 m ² /日
		9.5km 以下	42,143 m ² /日	13,563 m ² /日
		12.0km 以下	39,333 m ² /日	13,258 m ² /日
		14.5km 以下	34,706 m ² /日	12,688 m ² /日
		17.5km 以下	31,053 m ² /日	12,165 m ² /日
		21.5km 以下	28,095 m ² /日	11,683 m ² /日
		26.5km 以下	25,652 m ² /日	11,238 m ² /日
		34.5km 以下	22,692 m ² /日	10,631 m ² /日
		46.0km 以下	21,071 m ² /日	10,261 m ² /日
		60.0km 以下	19,667 m ² /日	9,916 m ² /日
	有り	1.0km 以下	84,286 m ² /日	16,164 m ² /日
		2.0km 以下	73,750 m ² /日	15,733 m ² /日
		3.0km 以下	65,556 m ² /日	15,325 m ² /日
		4.0km 以下	59,000 m ² /日	14,937 m ² /日
		5.0km 以下	53,636 m ² /日	14,568 m ² /日
		7.0km 以下	49,167 m ² /日	14,217 m ² /日
		8.5km 以下	42,143 m ² /日	13,563 m ² /日
		10.5km 以下	39,333 m ² /日	13,258 m ² /日
		13.0km 以下	34,706 m ² /日	12,688 m ² /日
		15.5km 以下	31,053 m ² /日	12,165 m ² /日
		18.0km 以下	28,095 m ² /日	11,683 m ² /日
		22.5km 以下	25,652 m ² /日	11,238 m ² /日
		25.5km 以下	22,692 m ² /日	10,631 m ² /日
		29.5km 以下	21,071 m ² /日	10,261 m ² /日
		60.0km 以下	19,667 m ² /日	9,916 m ² /日
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。				

工 種 名	設 定 内 容					
塵芥処理工	③ 堆積塵芥処理（収集・集積・運搬）					
	塵芥の 種類	DID 区間 の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量		
				運搬のみ	収集・集積・運搬	
					機械処理	人力処理
	木片・空 缶・枯草 等 の か さ高物	無し	0.5km 以下	74 m3/日	19 m3/日	8.0 m3/日
			1.0km 以下	66 m3/日	19 m3/日	7.9 m3/日
			2.0km 以下	59 m3/日	18 m3/日	7.8 m3/日
			3.0km 以下	49 m3/日	17 m3/日	7.6 m3/日
			4.0km 以下	42 m3/日	16 m3/日	7.4 m3/日
			5.0km 以下	37 m3/日	15 m3/日	7.2 m3/日
			6.5km 以下	33 m3/日	15 m3/日	7.1 m3/日
			8.0km 以下	30 m3/日	14 m3/日	6.9 m3/日
			9.5km 以下	26 m3/日	13 m3/日	6.7 m3/日
			11.5km 以下	24 m3/日	12 m3/日	6.5 m3/日
			13.5km 以下	21 m3/日	12 m3/日	6.3 m3/日
			16.0km 以下	19 m3/日	11 m3/日	6.1 m3/日
			19.0km 以下	17 m3/日	10 m3/日	5.9 m3/日
			22.5km 以下	16 m3/日	9.9 m3/日	5.8 m3/日
			27.5km 以下	14 m3/日	9.1 m3/日	5.5 m3/日
			35.0km 以下	13 m3/日	8.7 m3/日	5.3 m3/日
			46.0km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日
			60.0km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日
		有り	0.5km 以下	74 m3/日	19 m3/日	8.0 m3/日
			1.0km 以下	66 m3/日	19 m3/日	7.9 m3/日
			2.0km 以下	59 m3/日	18 m3/日	7.8 m3/日
			3.0km 以下	49 m3/日	17 m3/日	7.6 m3/日
			4.0km 以下	42 m3/日	16 m3/日	7.4 m3/日
			5.0km 以下	37 m3/日	15 m3/日	7.2 m3/日
			6.0km 以下	33 m3/日	15 m3/日	7.1 m3/日
			7.5km 以下	30 m3/日	14 m3/日	6.9 m3/日
			8.5km 以下	26 m3/日	13 m3/日	6.7 m3/日
10.5km 以下			24 m3/日	12 m3/日	6.5 m3/日	
12.0km 以下			21 m3/日	12 m3/日	6.3 m3/日	
14.5km 以下			19 m3/日	11 m3/日	6.1 m3/日	
16.5km 以下	17 m3/日	10 m3/日	5.9 m3/日			
19.0km 以下	16 m3/日	9.9 m3/日	5.8 m3/日			
23.0km 以下	14 m3/日	9.1 m3/日	5.5 m3/日			
27.0km 以下	13 m3/日	8.7 m3/日	5.3 m3/日			
29.5km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日			
60.0km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日			
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。						

工 種 名	設 定 内 容					
塵芥処理工	塵芥の 種類	DID 区間 の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量		
				運搬のみ	収集・集積・運搬	
					機械処理	人力処理
	コン ク リ ー ト 塊 等 の 重 量 物	無し	0.5km 以下	20 m3/日	11 m3/日	6.2 m3/日
			1.0km 以下	18 m3/日	11 m3/日	6.0 m3/日
			2.0km 以下	16 m3/日	9.9 m3/日	5.8 m3/日
			3.0km 以下	14 m3/日	9.1 m3/日	5.5 m3/日
			4.0km 以下	12 m3/日	8.2 m3/日	5.1 m3/日
			5.0km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日
			6.0km 以下	9.4 m3/日	6.9 m3/日	4.6 m3/日
			7.5km 以下	8.6 m3/日	6.5 m3/日	4.4 m3/日
			9.0km 以下	7.6 m3/日	5.9 m3/日	4.1 m3/日
			11.0km 以下	6.8 m3/日	5.4 m3/日	3.9 m3/日
			13.0km 以下	6.0 m3/日	4.9 m3/日	3.6 m3/日
			15.5km 以下	5.4 m3/日	4.5 m3/日	3.4 m3/日
			18.5km 以下	4.8 m3/日	4.1 m3/日	3.1 m3/日
			22.0km 以下	4.3 m3/日	3.7 m3/日	2.9 m3/日
			26.5km 以下	3.9 m3/日	3.4 m3/日	2.7 m3/日
			33.0km 以下	3.6 m3/日	3.2 m3/日	2.6 m3/日
			46.0km 以下	3.2 m3/日	2.8 m3/日	2.4 m3/日
			60.0km 以下	3.0 m3/日	2.7 m3/日	2.3 m3/日
		有り	0.5km 以下	20 m3/日	11 m3/日	6.2 m3/日
			1.0km 以下	18 m3/日	11 m3/日	6.0 m3/日
			2.0km 以下	16 m3/日	9.9 m3/日	5.8 m3/日
			3.0km 以下	14 m3/日	9.1 m3/日	5.5 m3/日
			4.0km 以下	12 m3/日	8.2 m3/日	5.1 m3/日
			5.0km 以下	11 m3/日	7.7 m3/日	5.0 m3/日
			6.0km 以下	9.4 m3/日	6.9 m3/日	4.6 m3/日
			7.0km 以下	8.6 m3/日	6.5 m3/日	4.4 m3/日
			8.5km 以下	7.6 m3/日	5.9 m3/日	4.1 m3/日
			10.5km 以下	6.8 m3/日	5.4 m3/日	3.9 m3/日
			12.0km 以下	6.0 m3/日	4.9 m3/日	3.6 m3/日
			14.0km 以下	5.4 m3/日	4.5 m3/日	3.4 m3/日
			17.0km 以下	4.8 m3/日	4.1 m3/日	3.1 m3/日
			19.5km 以下	4.3 m3/日	3.7 m3/日	2.9 m3/日
			22.5km 以下	3.9 m3/日	3.4 m3/日	2.7 m3/日
			26.5km 以下	3.6 m3/日	3.2 m3/日	2.6 m3/日
			29.5km 以下	3.2 m3/日	2.8 m3/日	2.4 m3/日
			60.0km 以下	3.0 m3/日	2.7 m3/日	2.3 m3/日
(注) ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。						

工 種 名	設 定 内 容																																																
ボーリンググラウト工	日当り施工本数（参考）																																																
	ロッド工法及びパッカー工法の2セット1日当り施工本数は以下により算出する。																																																
	2セット1日当り施工本数（本／日）																																																
	$N = \frac{1}{\frac{Tr \text{又は} Tp}{10} + S \times Q}$																																																
	Tr：ロッド工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（1-1）																																																
	Tp：パッカー工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（1-2）																																																
	S：注入工 1 m ³ 当り注入日数（2-1）																																																
	Q：1 孔当り平均注入量（m ³ ）																																																
	1-1 ロッド工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（Tr）は次式のとおりとする。																																																
	Tr = α × Ta + 0.9（日）（2セット当り）																																																
	Ta：削孔長別 10 孔当り削孔日数（準備含まず）（下表参照）																																																
	0.9：準備等の日数																																																
	α：土質係数は、掘削する土質毎の係数をを下記のとおり加重平均して算出する。α は小数第2位を四捨五入し小数第1位とし、下表より選択する。																																																
	$\alpha = \frac{\alpha 1 \times L1 + \alpha 2 \times L2}{L1 + L2}$																																																
	ここで、α1：砂質土及び粘性土の土質係数(=1.0)																																																
α2：レキ質土の土質係数 (=2.5)																																																	
L1：砂質土及び粘性土の総削孔長（m）																																																	
L2：レキ質土の総削孔長（m）																																																	
	<table><tr><td rowspan="9">土質係数（α）</td><td>1.0</td></tr><tr><td>1.1</td></tr><tr><td>1.2</td></tr><tr><td>1.3</td></tr><tr><td>1.4</td></tr><tr><td>1.5</td></tr><tr><td>1.6</td></tr><tr><td>1.7</td></tr><tr><td>1.8</td></tr></table>	土質係数（α）	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8																																						
土質係数（α）	1.0																																																
	1.1																																																
	1.2																																																
	1.3																																																
	1.4																																																
	1.5																																																
	1.6																																																
	1.7																																																
	1.8																																																
	ロッド工法 削孔長別 10 孔当り削孔日数（Ta）（2セット当り）																																																
	<table><tr><th>削孔長（m）</th><th>単位</th><th>数量</th></tr><tr><td>1.0m 以上 2.0m 未満</td><td>日</td><td>0.2</td></tr><tr><td>2.0m 以上 3.0m 未満</td><td>日</td><td>0.4</td></tr><tr><td>3.0m 以上 4.0m 未満</td><td>日</td><td>0.6</td></tr><tr><td>4.0m 以上 5.0m 未満</td><td>日</td><td>0.7</td></tr><tr><td>5.0m 以上 6.0m 未満</td><td>日</td><td>0.9</td></tr><tr><td>6.0m 以上 7.0m 未満</td><td>日</td><td>1.0</td></tr><tr><td>7.0m 以上 8.0m 未満</td><td>日</td><td>1.2</td></tr><tr><td>8.0m 以上 9.0m 未満</td><td>日</td><td>1.4</td></tr><tr><td>9.0m 以上 10.0m 未満</td><td>日</td><td>1.5</td></tr><tr><td>10.0m 以上 11.0m 未満</td><td>日</td><td>1.7</td></tr><tr><td>11.0m 以上 12.0m 未満</td><td>日</td><td>1.8</td></tr><tr><td>12.0m 以上 13.0m 未満</td><td>日</td><td>2.0</td></tr><tr><td>13.0m 以上 14.0m 未満</td><td>日</td><td>2.2</td></tr><tr><td>14.0m 以上 15.0m 未満</td><td>日</td><td>2.3</td></tr><tr><td>15.0m 以上 16.0m 未満</td><td>日</td><td>2.5</td></tr></table>	削孔長（m）	単位	数量	1.0m 以上 2.0m 未満	日	0.2	2.0m 以上 3.0m 未満	日	0.4	3.0m 以上 4.0m 未満	日	0.6	4.0m 以上 5.0m 未満	日	0.7	5.0m 以上 6.0m 未満	日	0.9	6.0m 以上 7.0m 未満	日	1.0	7.0m 以上 8.0m 未満	日	1.2	8.0m 以上 9.0m 未満	日	1.4	9.0m 以上 10.0m 未満	日	1.5	10.0m 以上 11.0m 未満	日	1.7	11.0m 以上 12.0m 未満	日	1.8	12.0m 以上 13.0m 未満	日	2.0	13.0m 以上 14.0m 未満	日	2.2	14.0m 以上 15.0m 未満	日	2.3	15.0m 以上 16.0m 未満	日	2.5
削孔長（m）	単位	数量																																															
1.0m 以上 2.0m 未満	日	0.2																																															
2.0m 以上 3.0m 未満	日	0.4																																															
3.0m 以上 4.0m 未満	日	0.6																																															
4.0m 以上 5.0m 未満	日	0.7																																															
5.0m 以上 6.0m 未満	日	0.9																																															
6.0m 以上 7.0m 未満	日	1.0																																															
7.0m 以上 8.0m 未満	日	1.2																																															
8.0m 以上 9.0m 未満	日	1.4																																															
9.0m 以上 10.0m 未満	日	1.5																																															
10.0m 以上 11.0m 未満	日	1.7																																															
11.0m 以上 12.0m 未満	日	1.8																																															
12.0m 以上 13.0m 未満	日	2.0																																															
13.0m 以上 14.0m 未満	日	2.2																																															
14.0m 以上 15.0m 未満	日	2.3																																															
15.0m 以上 16.0m 未満	日	2.5																																															

工 種 名	設 定 内 容																																	
ボーリンググラウト工	1－2 パッカー工法 10 孔当り削孔日数（準備含む）（T p）は次表のとおりとする。 パッカー工法 削孔長別 10 孔当り削孔日数（T p）（2セット当り）																																	
	<table><tr><th>削孔長（m）</th><th>単位</th><th>数 量</th></tr><tr><td>0.2m 未満</td><td>日</td><td>0.8</td></tr><tr><td>0.2m 以上 0.4m 未満</td><td>日</td><td>1.0</td></tr><tr><td>0.4m 以上 0.6m 未満</td><td>日</td><td>1.1</td></tr><tr><td>0.6m 以上 0.8m 未満</td><td>日</td><td>1.3</td></tr><tr><td>0.8m 以上 1.0m 未満</td><td>日</td><td>1.5</td></tr><tr><td>1.0m 以上 1.2m 未満</td><td>日</td><td>1.7</td></tr><tr><td>1.2m 以上 1.4m 未満</td><td>日</td><td>1.8</td></tr><tr><td>1.4m 以上 1.6m 未満</td><td>日</td><td>2.0</td></tr><tr><td>1.6m 以上 1.8m 未満</td><td>日</td><td>2.2</td></tr><tr><td>1.8m 以上 2.0m 未満</td><td>日</td><td>2.3</td></tr></table>	削孔長（m）	単位	数 量	0.2m 未満	日	0.8	0.2m 以上 0.4m 未満	日	1.0	0.4m 以上 0.6m 未満	日	1.1	0.6m 以上 0.8m 未満	日	1.3	0.8m 以上 1.0m 未満	日	1.5	1.0m 以上 1.2m 未満	日	1.7	1.2m 以上 1.4m 未満	日	1.8	1.4m 以上 1.6m 未満	日	2.0	1.6m 以上 1.8m 未満	日	2.2	1.8m 以上 2.0m 未満	日	2.3
	削孔長（m）	単位	数 量																															
	0.2m 未満	日	0.8																															
	0.2m 以上 0.4m 未満	日	1.0																															
	0.4m 以上 0.6m 未満	日	1.1																															
	0.6m 以上 0.8m 未満	日	1.3																															
	0.8m 以上 1.0m 未満	日	1.5																															
	1.0m 以上 1.2m 未満	日	1.7																															
	1.2m 以上 1.4m 未満	日	1.8																															
1.4m 以上 1.6m 未満	日	2.0																																
1.6m 以上 1.8m 未満	日	2.2																																
1.8m 以上 2.0m 未満	日	2.3																																
2－1 注入工 1 m3 当り注入日数（S）は次表のとおりとする。 注入工 1 m3 当り注入日数（S）（2セット当り）																																		
<table><tr><th>注 入 日 数 （S）</th></tr><tr><td>0.12</td></tr></table>	注 入 日 数 （S）	0.12																																
注 入 日 数 （S）																																		
0.12																																		
(注) 1. 上表の注入日数は 1 分間当り注入量を 0.01m3／min とした場合である。 1 分間当り注入量を，試験注入等を行って決める場合は，次の式より注入日数を求めるものとする。 $S = 1 / (408 \times q \times 2)$ q：1 分間当り注入量（m3／min）																																		
2. 上記算出式により算出する S は小数第 3 位を四捨五入し小数第 2 位とする。																																		
3－1 注入設備の据付・解体の施工日数は 2 日とする。（2セット分）																																		
粗朶沈床工	① 粗朶沈床工																																	
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>連柴製作・沈床組立</td><td>32 m2／日</td></tr><tr><td>沈床沈設・沈石投入</td><td>169 m2／日</td></tr><tr><td>間詰石投入</td><td>94 m2／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	連柴製作・沈床組立	32 m2／日	沈床沈設・沈石投入	169 m2／日	間詰石投入	94 m2／日																									
作 業 名	作業日当り標準作業量																																	
連柴製作・沈床組立	32 m2／日																																	
沈床沈設・沈石投入	169 m2／日																																	
間詰石投入	94 m2／日																																	
機械土工（河床等掘削）	① 河床等掘削																																	
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>河床等掘削</td><td>147 m3／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	河床等掘削	147 m3／日																													
作 業 名	作業日当り標準作業量																																	
河床等掘削	147 m3／日																																	

工 種 名	設 定 内 容			
機械土工（河床等掘削）	② 軟弱土等運搬	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
		無し	0.3km 以下	63 m3/日
			0.8km 以下	59 m3/日
			1.5km 以下	53 m3/日
			2.5km 以下	48 m3/日
			3.5km 以下	42 m3/日
			6.5km 以下	37 m3/日
			9.0km 以下	31 m3/日
			13.0km 以下	26 m3/日
			19.5km 以下	21 m3/日
			40.0km 以下	16 m3/日
			60.0km 以下	11 m3/日
			有り	0.3km 以下
		0.8km 以下		59 m3/日
		1.5km 以下		53 m3/日
		2.5km 以下		48 m3/日
		3.5km 以下		42 m3/日
		4.5km 以下		37 m3/日
		8.5km 以下		31 m3/日
		12.0km 以下		26 m3/日
		17.5km 以下		21 m3/日
		30.0km 以下		16 m3/日
		50.0km 以下		11 m3/日
60.0km 以下	5 m3/日			
巨石積（張）工	① 巨石積（張）工	作 業 名	作業日当り標準作業量	
		巨石張（練）	25 m2/日	
		巨石張（空）	27 m2/日	
		巨石積（練）	30 m2/日	
		巨石採取	38 個/日	
		（注）巨石積（張）工は、裏込材工を施工しない場合も上表による。		
木杭打工	① 木杭打	作業日当り標準作業量	58 本／日	
巨石据付工	① 巨石据付工	作業日当り標準作業量	42 m2／日	

工 種 名	設 定 内 容																																			
護岸基礎ブロック工	① プレキャスト基礎(中詰材の種類：コンクリート)																																			
	<table><tr><th>ブロック製品長</th><th>ブロック下幅</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="5">2,000mm</td><td>500mm以上600mm未満</td><td>26 m/日</td></tr><tr><td>600 mm以上 700 mm未満</td><td>22 m/日</td></tr><tr><td>700 mm以上 900 mm未満</td><td>18 m/日</td></tr><tr><td>900 mm以上 1,100 mm未満</td><td>14 m/日</td></tr><tr><td>1,100 mm</td><td>12 m/日</td></tr><tr><td rowspan="5">3,300mm</td><td>500mm以上600mm未満</td><td>33 m/日</td></tr><tr><td>600 mm以上 700 mm未満</td><td>26 m/日</td></tr><tr><td>700 mm以上 900 mm未満</td><td>21 m/日</td></tr><tr><td>900 mm以上 1,100 mm未満</td><td>16 m/日</td></tr><tr><td>1,100 mm</td><td>13 m/日</td></tr><tr><td rowspan="5">5,000mm</td><td>500mm以上600mm未満</td><td>40 m/日</td></tr><tr><td>600 mm以上 700 mm未満</td><td>31 m/日</td></tr><tr><td>700 mm以上 900 mm未満</td><td>23 m/日</td></tr><tr><td>900 mm以上 1,100 mm未満</td><td>17 m/日</td></tr><tr><td>1,100 mm</td><td>15 m/日</td></tr></table> (注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、ブロックの据付け、連結、目地材設置、中詰コンクリート打設、養生を含む。 2. 基礎材の設置は含まない。 3. 中詰コンクリート工はクレーン車打設とする。 4. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度のものである。	ブロック製品長	ブロック下幅	作業日当り標準作業量	2,000mm	500mm以上600mm未満	26 m/日	600 mm以上 700 mm未満	22 m/日	700 mm以上 900 mm未満	18 m/日	900 mm以上 1,100 mm未満	14 m/日	1,100 mm	12 m/日	3,300mm	500mm以上600mm未満	33 m/日	600 mm以上 700 mm未満	26 m/日	700 mm以上 900 mm未満	21 m/日	900 mm以上 1,100 mm未満	16 m/日	1,100 mm	13 m/日	5,000mm	500mm以上600mm未満	40 m/日	600 mm以上 700 mm未満	31 m/日	700 mm以上 900 mm未満	23 m/日	900 mm以上 1,100 mm未満	17 m/日	1,100 mm
ブロック製品長	ブロック下幅	作業日当り標準作業量																																		
2,000mm	500mm以上600mm未満	26 m/日																																		
	600 mm以上 700 mm未満	22 m/日																																		
	700 mm以上 900 mm未満	18 m/日																																		
	900 mm以上 1,100 mm未満	14 m/日																																		
	1,100 mm	12 m/日																																		
3,300mm	500mm以上600mm未満	33 m/日																																		
	600 mm以上 700 mm未満	26 m/日																																		
	700 mm以上 900 mm未満	21 m/日																																		
	900 mm以上 1,100 mm未満	16 m/日																																		
	1,100 mm	13 m/日																																		
5,000mm	500mm以上600mm未満	40 m/日																																		
	600 mm以上 700 mm未満	31 m/日																																		
	700 mm以上 900 mm未満	23 m/日																																		
	900 mm以上 1,100 mm未満	17 m/日																																		
	1,100 mm	15 m/日																																		
	② プレキャスト基礎(中詰材の種類：その他または無し)																																			
	<table><tr><th>ブロック製品長</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>2,000mm</td><td>30(32) m/日</td></tr><tr><td>3,300 mm</td><td>38m /日</td></tr><tr><td>4,000mm</td><td>42m /日</td></tr><tr><td>5,000mm</td><td>48m /日</td></tr></table> (注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、ブロックの据付け、連結、目地材設置を含む。 2. ブロック製品長 2,000mm で、中詰材投入の必要がない場合は()内の値とする。 3. 基礎材の設置は含まない。 4. 中詰材の投入は含まない。	ブロック製品長	作業日当り標準作業量	2,000mm	30(32) m/日	3,300 mm	38m /日	4,000mm	42m /日	5,000mm	48m /日																									
ブロック製品長	作業日当り標準作業量																																			
2,000mm	30(32) m/日																																			
3,300 mm	38m /日																																			
4,000mm	42m /日																																			
5,000mm	48m /日																																			
	③ 中詰コンクリート打設																																			
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>17 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	17 m3／日																																	
作業日当り標準作業量	17 m3／日																																			

工 種 名	設 定 内 容																																													
かごマット工（スロー プ型）	① かごマット工（スロープ型） <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td rowspan="2">かごマット</td><td>厚さ 30cm</td><td>42 m2/日</td><td></td></tr><tr><td>厚さ 50 cm</td><td>35 m2/日</td><td></td></tr></table> （注） 1. 上表の作業日当り標準作業量には、法面整形（床拵え含む）、吸出し防止材設置、かご組立・据付け、補強材設置撤去、詰石、蓋設置の作業を含む。 2. 各作業間の重複は考慮していない。 （参考）各作業単独の場合の作業量 <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td colspan="2">法面整形</td><td>478 m2/日</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">吸出し防止材設置</td><td>418 m2/日</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">かご組立・据付け</td><td>厚さ 30cm</td><td>328 m2/日</td><td></td></tr><tr><td>厚さ 50 cm</td><td>190 m2/日</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">補強材設置撤去</td><td>165 m2/日</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">詰石</td><td>厚さ 30cm</td><td>150 m2/日</td><td></td></tr><tr><td>厚さ 50 cm</td><td>108 m2/日</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">蓋設置</td><td>289 m2/日</td><td></td></tr></table>	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要	かごマット	厚さ 30cm	42 m2/日		厚さ 50 cm	35 m2/日		作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要	法面整形		478 m2/日		吸出し防止材設置		418 m2/日		かご組立・据付け	厚さ 30cm	328 m2/日		厚さ 50 cm	190 m2/日		補強材設置撤去		165 m2/日		詰石	厚さ 30cm	150 m2/日		厚さ 50 cm	108 m2/日		蓋設置		289 m2/日	
	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要																																										
	かごマット	厚さ 30cm	42 m2/日																																											
		厚さ 50 cm	35 m2/日																																											
	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要																																										
	法面整形		478 m2/日																																											
	吸出し防止材設置		418 m2/日																																											
	かご組立・据付け	厚さ 30cm	328 m2/日																																											
		厚さ 50 cm	190 m2/日																																											
	補強材設置撤去		165 m2/日																																											
詰石	厚さ 30cm	150 m2/日																																												
	厚さ 50 cm	108 m2/日																																												
蓋設置		289 m2/日																																												
かごマット工（多段積 型）	① かごマット工（多段積型） <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>かごマット</td><td>多段積型</td><td>18 m2/日</td><td></td></tr></table> （注） 1. 上表の作業日当り標準作業量には、かご組立・据付、詰石、吸出し防止材設置、補強材設置・撤去、法面整形。床拵えの他、蓋設置を含む。 2. 各作業間の重複は考慮していない。	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要	かごマット	多段積型	18 m2/日																																						
	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要																																										
かごマット	多段積型	18 m2/日																																												
ブロックマット工	該当工種の基準内に記載。																																													
野芝種子吹付工	① 野芝種子吹付工 <table><tr><th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>野芝種子吹付</td><td>1,429 m2／日</td></tr><tr><td>被覆シート張</td><td>1,429 m2／日</td></tr><tr><td>養生(散水養生)</td><td>1,667 m2／日</td></tr></table>	作業名	作業日当り標準作業量	野芝種子吹付	1,429 m2／日	被覆シート張	1,429 m2／日	養生(散水養生)	1,667 m2／日																																					
	作業名	作業日当り標準作業量																																												
	野芝種子吹付	1,429 m2／日																																												
	被覆シート張	1,429 m2／日																																												
	養生(散水養生)	1,667 m2／日																																												
袋詰玉石工	① 袋詰玉石 <table><tr><th>袋材規格</th><th>施工条件</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">2 t 用</td><td>据付深さ 4m以下及び 作業半径5m以内</td><td>37 袋／日</td></tr><tr><td>据付深さ 4mを超え 9m以下又は 作業半径5mを超え18m以下</td><td>40 袋／日</td></tr><tr><td>3 t 用</td><td>—</td><td>38 袋／日</td></tr></table>	袋材規格	施工条件	作業日当り標準作業量	2 t 用	据付深さ 4m以下及び 作業半径5m以内	37 袋／日	据付深さ 4mを超え 9m以下又は 作業半径5mを超え18m以下	40 袋／日	3 t 用	—	38 袋／日																																		
	袋材規格	施工条件	作業日当り標準作業量																																											
	2 t 用	据付深さ 4m以下及び 作業半径5m以内	37 袋／日																																											
		据付深さ 4mを超え 9m以下又は 作業半径5mを超え18m以下	40 袋／日																																											
	3 t 用	—	38 袋／日																																											

工 種 名	設 定 内 容															
笠コンクリート ブロック据付工	① 笠コンクリートブロック															
	中詰コンクリート型枠の 有無	中詰コンクリート100m 当り 設計量	作業日当り 標準作業量													
	無し	11m3 以上 16m3 未満	25 m/日													
		16m3 以上 23m3 未満	24 m/日													
		23m3 以上 31m3 未満	23 m/日													
		31m3 以上 39m3 未満	21 m/日													
		39m3 以上 47m3 未満	20 m/日													
		47m3 以上 56m3 未満	19 m/日													
		56m3 以上 65m3 未満	18 m/日													
		65m3 以上 75m3 未満	17 m/日													
		75m3 以上 85m3 未満	16 m/日													
		85m3 以上 96m3 未満	15 m/日													
	有り	11m3 以上 16m3 未満	16 m/日													
		16m3 以上 23m3 未満	15 m/日													
		23m3 以上 31m3 未満	15 m/日													
		31m3 以上 39m3 未満	14 m/日													
		39m3 以上 47m3 未満	14 m/日													
		47m3 以上 56m3 未満	13 m/日													
		56m3 以上 65m3 未満	13 m/日													
		65m3 以上 75m3 未満	12 m/日													
75m3 以上 85m3 未満		12 m/日														
85m3 以上 96m3 未満	11 m/日															
(参考) 各作業単独の場合の作業量																
<table><tr><td>作 業 名</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>高さ調整金具取付</td><td>107 m／日</td></tr><tr><td>笠コンクリートブロック据付</td><td>56 m／日</td></tr><tr><td>ブロック連結</td><td>122 m／日</td></tr><tr><td>中詰コンクリート工</td><td>30 m3／日</td></tr><tr><td>型枠設置</td><td>67 m／日</td></tr><tr><td>型枠撤去</td><td>111 m／日</td></tr></table>			作 業 名	作業日当り標準作業量	高さ調整金具取付	107 m／日	笠コンクリートブロック据付	56 m／日	ブロック連結	122 m／日	中詰コンクリート工	30 m3／日	型枠設置	67 m／日	型枠撤去	111 m／日
作 業 名	作業日当り標準作業量															
高さ調整金具取付	107 m／日															
笠コンクリートブロック据付	56 m／日															
ブロック連結	122 m／日															
中詰コンクリート工	30 m3／日															
型枠設置	67 m／日															
型枠撤去	111 m／日															
グラウトホール工	① グラウトホール															
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 組／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、特殊作業員1名の場合。			作業日当り標準作業量	5 組／日											
作業日当り標準作業量	5 組／日															
連節ブロックの水中吊 落し工	① 連節ブロックの水中吊落し工															
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>187 m2／日</td></tr></table>			作業日当り標準作業量	187 m2／日											
作業日当り標準作業量	187 m2／日															

工 種 名	設 定 内 容					
光ケーブル配管工	① 光ケーブル配管工					
	作 業 名		作業日当り標準作業量			
	掘 削		28 m2／日			
	埋戻し・締固め		13 m2／日			
	配管設置（埋設部）		96 m／日			
	配管設置（露出）		121 m／日			
	ハンドホール設置		1 個／日			
土工（砂防工）	① 掘削（砂防）					
	土質	押土の有無	障害の有無	掘削範囲	火薬使用	作業日当り標準作業量
	土砂	有り	—	—	—	230 m3/日
		無し	無し	—	—	220 m3/日
			有り	—	—	160 m3/日
	岩塊・玉石	有り	—	—	—	190 m3/日
		無し	無し	—	—	180 m3/日
			有り	—	—	120 m3/日
	軟岩	—	—	機械走行面より5m以内	—	51 m3/日
		—	—	機械走行面より5m超え	可	37 m3/日
		—	—		不可	9 m3/日
	硬岩	—	—	機械走行面より5m以内	—	29 m3/日
		—	—	機械走行面より5m超え	可	21 m3/日
		—	—		不可	7 m3/日
	転石	—	—	機械走行面より5m以内	—	31 m3/日
		—	—	機械走行面より5m超え	可	9 m3/日
		—	—		不可	12 m3/日

工 種 名	設 定 内 容																														
土工（砂防工）	② 土砂等運搬（砂防）																														
	<table><tr><th>土質</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="10">土砂 (岩塊・玉石混り土含む)</td><td>0.5km 以下</td><td>125 m3/日</td></tr><tr><td>1.0km 以下</td><td>111 m3/日</td></tr><tr><td>1.5km 以下</td><td>100 m3/日</td></tr><tr><td>2.0km 以下</td><td>91 m3/日</td></tr><tr><td>2.5km 以下</td><td>77 m3/日</td></tr><tr><td>3.0km 以下</td><td>71 m3/日</td></tr><tr><td>4.0km 以下</td><td>63 m3/日</td></tr><tr><td>5.0km 以下</td><td>56 m3/日</td></tr><tr><td>6.0km 以下</td><td>48 m3/日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>43 m3/日</td></tr><tr><td>軟岩</td><td>—</td><td>土砂÷1.22</td></tr><tr><td>硬岩</td><td>—</td><td>土砂÷1.37</td></tr></table>	土質	運搬距離	作業日当り標準作業量	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	0.5km 以下	125 m3/日	1.0km 以下	111 m3/日	1.5km 以下	100 m3/日	2.0km 以下	91 m3/日	2.5km 以下	77 m3/日	3.0km 以下	71 m3/日	4.0km 以下	63 m3/日	5.0km 以下	56 m3/日	6.0km 以下	48 m3/日	7.0km 以下	43 m3/日	軟岩	—	土砂÷1.22	硬岩	—	土砂÷1.37
	土質	運搬距離	作業日当り標準作業量																												
	土砂 (岩塊・玉石混り土含む)	0.5km 以下	125 m3/日																												
		1.0km 以下	111 m3/日																												
		1.5km 以下	100 m3/日																												
		2.0km 以下	91 m3/日																												
		2.5km 以下	77 m3/日																												
		3.0km 以下	71 m3/日																												
		4.0km 以下	63 m3/日																												
		5.0km 以下	56 m3/日																												
		6.0km 以下	48 m3/日																												
		7.0km 以下	43 m3/日																												
	軟岩	—	土砂÷1.22																												
	硬岩	—	土砂÷1.37																												
	③ 押土（ルーズ）（砂防）																														
	<table><tr><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>土砂</td><td>240 m3/日</td></tr><tr><td>岩塊・玉石</td><td>210 m3/日</td></tr><tr><td>破碎岩</td><td>110 m3/日</td></tr></table>	土質	作業日当り標準作業量	土砂	240 m3/日	岩塊・玉石	210 m3/日	破碎岩	110 m3/日																						
	土質	作業日当り標準作業量																													
	土砂	240 m3/日																													
	岩塊・玉石	210 m3/日																													
破碎岩	110 m3/日																														
④ 積込（ルーズ）（砂防）																															
<table><tr><th>土質</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>土砂</td><td>240 m3/日</td></tr><tr><td>岩塊・玉石</td><td>200 m3/日</td></tr><tr><td>破碎岩</td><td>160 m3/日</td></tr></table>	土質	作業日当り標準作業量	土砂	240 m3/日	岩塊・玉石	200 m3/日	破碎岩	160 m3/日																							
土質	作業日当り標準作業量																														
土砂	240 m3/日																														
岩塊・玉石	200 m3/日																														
破碎岩	160 m3/日																														

工 種 名	設 定 内 容			
土工（バックホウ床掘 山積 0.45m3 (平積 0.35m3))	① バックホウ床掘 山積 0.45m3(平積 0.35m3)			
	現場条件	土・岩質区分	旋回角度	作業日当り 標準作業量
	床堀・良好	砂・砂質土	90°以下	206 m3/日
			90°超	176 m3/日
		レキ質土・粘性土	90°以下	180 m3/日
			90°超	154 m3/日
		岩塊・玉石	90°以下	154 m3/日
			90°超	132 m3/日
	床堀・普通	砂・砂質土	90°以下	167 m3/日
			90°超	143 m3/日
		レキ質土・粘性土	90°以下	141 m3/日
			90°超	121 m3/日
		岩塊・玉石	90°以下	116 m3/日
			90°超	99 m3/日
	床堀・不良	砂・砂質土	90°以下	129 m3/日
			90°超	110 m3/日
		レキ質土・粘性土	90°以下	103 m3/日
			90°超	88 m3/日
		岩塊・玉石	90°以下	77 m3/日
			90°超	66 m3/日
	ルーズ・良好	砂・砂質土	90°以下	218 m3/日
			90°超	187 m3/日
		レキ質土・粘性土	90°以下	193 m3/日
			90°超	165 m3/日
		岩塊・玉石	90°以下	167 m3/日
			90°超	143 m3/日
	ルーズ・普通	砂・砂質土	90°以下	180 m3/日
			90°超	154 m3/日
		レキ質土・粘性土	90°以下	154 m3/日
			90°超	132 m3/日
		岩塊・玉石	90°以下	129 m3/日
			90°超	110 m3/日
ルーズ・普通	砂・砂質土	90°以下	141 m3/日	
		90°超	121 m3/日	
	レキ質土・粘性土	90°以下	116 m3/日	
		90°超	99 m3/日	
	岩塊・玉石	90°以下	90 m3/日	
		90°超	77 m3/日	
破碎岩	90°以下	64 m3/日		
	90°超	55 m3/日		
(注) バックホウの運転日当り運転時間は、6.3hとする。				

工 種 名	設 定 内 容																									
コンクリート工（砂防工）	① コンクリート工（砂防工） <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作 業 日 当 り 標 準 作 業 量</th></tr><tr><td rowspan="2">コンクリート打設 （一般部）</td><td>日 打 設 量 50m3 未 満</td><td>43 m3／日</td></tr><tr><td>日 打 設 量 50m3 以 上 150m3 未 満</td><td>73 m3／日</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリート打設 （堤冠）</td><td>鉄材 3(m3/ブロック)未満</td><td>3 m3／日</td></tr><tr><td>ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満</td><td>17 m3／日</td></tr><tr><td>富配合 30(m3/ブロック)未満</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td colspan="2">型 枠 設 置 ・ 撤 去 ・ ケ レ ン は く 離 剤 塗 布</td><td>47 m2／日</td></tr><tr><td colspan="2">足 場 工</td><td>100 m／日</td></tr><tr><td colspan="2">止 水 板 設 置</td><td>33 m／日</td></tr></table>	作 業 名		作 業 日 当 り 標 準 作 業 量	コンクリート打設 （一般部）	日 打 設 量 50m3 未 満	43 m3／日	日 打 設 量 50m3 以 上 150m3 未 満	73 m3／日	コンクリート打設 （堤冠）	鉄材 3(m3/ブロック)未満	3 m3／日	ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満	17 m3／日	富配合 30(m3/ブロック)未満	33 m3／日	型 枠 設 置 ・ 撤 去 ・ ケ レ ン は く 離 剤 塗 布		47 m2／日	足 場 工		100 m／日	止 水 板 設 置		33 m／日	
作 業 名		作 業 日 当 り 標 準 作 業 量																								
コンクリート打設 （一般部）	日 打 設 量 50m3 未 満	43 m3／日																								
	日 打 設 量 50m3 以 上 150m3 未 満	73 m3／日																								
コンクリート打設 （堤冠）	鉄材 3(m3/ブロック)未満	3 m3／日																								
	ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満	17 m3／日																								
	富配合 30(m3/ブロック)未満	33 m3／日																								
型 枠 設 置 ・ 撤 去 ・ ケ レ ン は く 離 剤 塗 布		47 m2／日																								
足 場 工		100 m／日																								
止 水 板 設 置		33 m／日																								
コンクリート工（ケーブルクレーン打設）	① コンクリート投入 …… 該当工種の計算式（1時間当り投入量）を参照。 ② コンクリート工（ケーブルクレーン打設） <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作 業 日 当 り 標 準 作 業 量</th></tr><tr><td colspan="2">型 枠 工</td><td>50 m2／日</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート養生</td><td>77 m3／日</td></tr><tr><td rowspan="3">堤冠コンクリート締固め</td><td>鉄材 3(m3/ブロック)未満</td><td>3 m3／日</td></tr><tr><td>ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満</td><td>17 m3／日</td></tr><tr><td>富配合 30(m3/ブロック)未満</td><td>33 m3／日</td></tr><tr><td colspan="2">堤冠コンクリート養生</td><td>11 m3／日</td></tr><tr><td colspan="2">岩盤清掃</td><td>100 m2／日</td></tr><tr><td colspan="2">チップング</td><td>100 m2／日</td></tr></table> （注）「コンクリート養生」「堤冠コンクリート養生」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作 業 名		作 業 日 当 り 標 準 作 業 量	型 枠 工		50 m2／日	コンクリート養生		77 m3／日	堤冠コンクリート締固め	鉄材 3(m3/ブロック)未満	3 m3／日	ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満	17 m3／日	富配合 30(m3/ブロック)未満	33 m3／日	堤冠コンクリート養生		11 m3／日	岩盤清掃		100 m2／日	チップング		100 m2／日
作 業 名		作 業 日 当 り 標 準 作 業 量																								
型 枠 工		50 m2／日																								
コンクリート養生		77 m3／日																								
堤冠コンクリート締固め	鉄材 3(m3/ブロック)未満	3 m3／日																								
	ゲラリシック 20(m3/ブロック)未満	17 m3／日																								
	富配合 30(m3/ブロック)未満	33 m3／日																								
堤冠コンクリート養生		11 m3／日																								
岩盤清掃		100 m2／日																								
チップング		100 m2／日																								
コンクリート工（横取りを行う場合）	該当工種の計算式（不整地運搬車運転日数）を参照。																									
砂防コンクリート生産（ミキサによる混合）工	① 砂防コンクリート生産（ミキサによる混合）工 <table><tr><th rowspan="3">構造物区分</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th colspan="3">ミキサ容量</th></tr><tr><th>0.08m3</th><th>0.20m3</th><th>0.30m3</th></tr><tr><td>鉄筋・無筋コンクリート</td><td>9.1 m3／日</td><td>19 m3／日</td><td>28 m3／日</td></tr><tr><td>小型構造物（Ⅰ）</td><td>8.3 m3／日</td><td>16 m3／日</td><td>25 m3／日</td></tr><tr><td>小型構造物（Ⅱ）</td><td>7.1 m3／日</td><td>14 m3／日</td><td>23 m3／日</td></tr></table>	構造物区分	作業日当り標準作業量			ミキサ容量			0.08m3	0.20m3	0.30m3	鉄筋・無筋コンクリート	9.1 m3／日	19 m3／日	28 m3／日	小型構造物（Ⅰ）	8.3 m3／日	16 m3／日	25 m3／日	小型構造物（Ⅱ）	7.1 m3／日	14 m3／日	23 m3／日			
構造物区分	作業日当り標準作業量																									
	ミキサ容量																									
	0.08m3	0.20m3	0.30m3																							
鉄筋・無筋コンクリート	9.1 m3／日	19 m3／日	28 m3／日																							
小型構造物（Ⅰ）	8.3 m3／日	16 m3／日	25 m3／日																							
小型構造物（Ⅱ）	7.1 m3／日	14 m3／日	23 m3／日																							
砂防コンクリート運搬（投入）工	現場条件により設定																									
残存型枠工	① 残存型枠工 <table><tr><th>作 業 名</th><th>対象構造物</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">残存型枠の加工・設置</td><td>残存型枠</td><td>65 m2／日</td></tr><tr><td>残存化粧型枠</td><td>59 m2／日</td></tr></table>	作 業 名	対象構造物	作業日当り標準作業量	残存型枠の加工・設置	残存型枠	65 m2／日	残存化粧型枠	59 m2／日																	
作 業 名	対象構造物	作業日当り標準作業量																								
残存型枠の加工・設置	残存型枠	65 m2／日																								
	残存化粧型枠	59 m2／日																								

工 種 名	設 定 内 容					
仮設備工	① ケーブルクレーン（両端固定式）基礎・据付・解体	規格 （t）	スパン （m）	基礎 （ウインチベース・ アンカーベース）	据付け （機械据付・ ワイヤ張上）	解体 （機械解体・ ワイヤ撤去）
		2 t 未満	75以下	3 日/基	3 日/基	2 日/基
			76～125	4 日/基	4 日/基	3 日/基
			126～175	4 日/基	5 日/基	3 日/基
			176～225	5 日/基	5 日/基	4 日/基
			226～275	6 日/基	6 日/基	4 日/基
			276～325	6 日/基	7 日/基	5 日/基
			326～375	7 日/基	7 日/基	5 日/基
			376～425	7 日/基	8 日/基	6 日/基
			426～500	8 日/基	9 日/基	6 日/基
		3 t 未満	75以下	3 日/基	5 日/基	3 日/基
			76～125	4 日/基	5 日/基	4 日/基
			126～175	5 日/基	6 日/基	4 日/基
			176～225	5 日/基	7 日/基	4 日/基
			226～275	6 日/基	7 日/基	5 日/基
			276～325	7 日/基	8 日/基	5 日/基
			326～375	7 日/基	9 日/基	6 日/基
			376～425	8 日/基	9 日/基	6 日/基
			426～500	9 日/基	10 日/基	7 日/基
	4 t 未満	75以下	4 日/基	5 日/基	3 日/基	
76～125		4 日/基	6 日/基	4 日/基		
126～175		5 日/基	7 日/基	4 日/基		
176～225		6 日/基	7 日/基	5 日/基		
226～275		6 日/基	8 日/基	5 日/基		
276～325		7 日/基	9 日/基	6 日/基		
326～375		8 日/基	10 日/基	6 日/基		
376～425		8 日/基	10 日/基	6 日/基		
426～500		9 日/基	11 日/基	7 日/基		
5 t 未満	75以下	4 日/基	6 日/基	3 日/基		
	76～125	4 日/基	7 日/基	4 日/基		
	126～175	5 日/基	7 日/基	4 日/基		
	176～225	6 日/基	8 日/基	5 日/基		
	226～275	6 日/基	9 日/基	5 日/基		
	276～325	7 日/基	9 日/基	6 日/基		
	326～375	8 日/基	10 日/基	6 日/基		
	376～425	8 日/基	11 日/基	7 日/基		
	426～500	9 日/基	12 日/基	7 日/基		
② 土工機械分解・組立 …… 現場条件により設定						
仮設備工（砂防コンクリート生産設備）	① 給水設備（水槽）設置・撤去	作 業 名		作業日当り標準作業量		
		設置		0.83 基／日		
		撤去		1.3 基／日		

工 種 名	設 定 内 容																																							
仮設備工（軌条及び機械設備）	① 軌条設備設置・撤去 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>設置</td><td>100 m／日</td></tr><tr><td>撤去</td><td>200 m／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	設置	100 m／日	撤去	200 m／日																																	
	作 業 名	作業日当り標準作業量																																						
設置	100 m／日																																							
撤去	200 m／日																																							
	② 機械設備設置・撤去 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>設置</td><td>1 t／日</td></tr><tr><td>撤去</td><td>2 t／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	設置	1 t／日	撤去	2 t／日																																	
作 業 名	作業日当り標準作業量																																							
設置	1 t／日																																							
撤去	2 t／日																																							
仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）	① 支柱設備設置・撤去 <table><tr><th rowspan="2">支柱高さ</th><th colspan="2">作業日数</th></tr><tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr><tr><td>4m 以下</td><td>1 日／基</td><td>1 日／基</td></tr><tr><td>4m を超え 8m 以下</td><td>2 日／基</td><td>1 日／基</td></tr><tr><td>8m を超え 12m 以下</td><td>3 日／基</td><td>1 日／基</td></tr><tr><td>12m を超え 16m 以下</td><td>4 日／基</td><td>2 日／基</td></tr><tr><td>16m を超え 20m 以下</td><td>6 日／基</td><td>2 日／基</td></tr><tr><td>20m を超え 24m 以下</td><td>7 日／基</td><td>3 日／基</td></tr><tr><td>24m を超え 28m 以下</td><td>8 日／基</td><td>3 日／基</td></tr></table>	支柱高さ	作業日数		設置	撤去	4m 以下	1 日／基	1 日／基	4m を超え 8m 以下	2 日／基	1 日／基	8m を超え 12m 以下	3 日／基	1 日／基	12m を超え 16m 以下	4 日／基	2 日／基	16m を超え 20m 以下	6 日／基	2 日／基	20m を超え 24m 以下	7 日／基	3 日／基	24m を超え 28m 以下	8 日／基	3 日／基													
	支柱高さ		作業日数																																					
設置		撤去																																						
4m 以下	1 日／基	1 日／基																																						
4m を超え 8m 以下	2 日／基	1 日／基																																						
8m を超え 12m 以下	3 日／基	1 日／基																																						
12m を超え 16m 以下	4 日／基	2 日／基																																						
16m を超え 20m 以下	6 日／基	2 日／基																																						
20m を超え 24m 以下	7 日／基	3 日／基																																						
24m を超え 28m 以下	8 日／基	3 日／基																																						
	② ウインチ小屋設置・撤去 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>設置</td><td>1 基／日</td></tr><tr><td>撤去</td><td>2 基／日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	設置	1 基／日	撤去	2 基／日																																	
作 業 名	作業日当り標準作業量																																							
設置	1 基／日																																							
撤去	2 基／日																																							
養生工（練炭）	① 養生工（練炭） <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>25 m3／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作業日当り標準作業量	25 m3／日																																					
作業日当り標準作業量	25 m3／日																																							
石材等採取工（割石、雑割石、野面石採取）	① 石材等採取工（割石、雑割石、野面石採取） <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>割石</th><th>雑割石</th><th>野面石又は雑石</th><th>玉石</th></tr><tr><td>控長 25cm</td><td>-</td><td>-</td><td>4.5 m2／日</td><td>-</td></tr><tr><td>控長 30cm</td><td>4.5 m2／日</td><td>6.3 m2／日</td><td>3.6 m2／日</td><td>-</td></tr><tr><td>控長 35cm</td><td>4.2 m2／日</td><td>5.8 m2／日</td><td>2.9 m2／日</td><td>-</td></tr><tr><td>控長 45cm</td><td>3.6 m2／日</td><td>4.9 m2／日</td><td>2.2 m2／日</td><td>-</td></tr><tr><td>控長 55cm</td><td>-</td><td>-</td><td>1.7 m2／日</td><td>-</td></tr><tr><td>長径 15cm 以上</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1.7 m3／日</td></tr></table> （注）「野面石又は雑石」「玉石」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	種別	作業日当り標準作業量				割石	雑割石	野面石又は雑石	玉石	控長 25cm	-	-	4.5 m2／日	-	控長 30cm	4.5 m2／日	6.3 m2／日	3.6 m2／日	-	控長 35cm	4.2 m2／日	5.8 m2／日	2.9 m2／日	-	控長 45cm	3.6 m2／日	4.9 m2／日	2.2 m2／日	-	控長 55cm	-	-	1.7 m2／日	-	長径 15cm 以上	-	-	-	1.7 m3／日
	種別		作業日当り標準作業量																																					
割石		雑割石	野面石又は雑石	玉石																																				
控長 25cm	-	-	4.5 m2／日	-																																				
控長 30cm	4.5 m2／日	6.3 m2／日	3.6 m2／日	-																																				
控長 35cm	4.2 m2／日	5.8 m2／日	2.9 m2／日	-																																				
控長 45cm	3.6 m2／日	4.9 m2／日	2.2 m2／日	-																																				
控長 55cm	-	-	1.7 m2／日	-																																				
長径 15cm 以上	-	-	-	1.7 m3／日																																				
ケーブルクレーンによる資材等の運搬	該当工種の計算式（1時間当り運搬量）を参照。																																							

工 種 名	設 定 内 容																
水替とい工	① 水替とい工 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>9 m/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	9 m/日														
作業日当り標準作業量	9 m/日																
銘板工	現場条件により設定																
堤冠部保護工（隅石張）	① 堤冠部保護工(隅石張) <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>9 m/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	9 m/日														
作業日当り標準作業量	9 m/日																
砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切	土のう工，大型土のう工，土工（砂防工）の作業日当り標準作業量を参照。																
砂防コンクリート締切	殻運搬，コンクリート工，型枠工，構造物とりこわし工（市場単価）の作業日当り標準作業量を参照。																
鋼製砂防工	① 組立・据付工 … 該当工種の計算式（1日当り組立・据付質量）を参照。 ② 本締め工，アンカー工 … 該当工種の計算式（1日当り施工量）を参照。 ③ 現場塗装工（はけ塗り） <table border="1"> <tr> <th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>格子型鋼製砂防堰堤</td><td>34 m²/日</td></tr> <tr> <td>鋼製スリット堰堤B型</td><td>31 m²/日</td></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は，塗装工1名の場合。	作 業 名	作業日当り標準作業量	格子型鋼製砂防堰堤	34 m ² /日	鋼製スリット堰堤B型	31 m ² /日										
作 業 名	作業日当り標準作業量																
格子型鋼製砂防堰堤	34 m ² /日																
鋼製スリット堰堤B型	31 m ² /日																
砂防ソイルセメント工	① 粒径処理 <table border="1"> <tr> <th>粒径処理率(%)</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>40 を超え 45 以下</td><td>30 m³/日</td></tr> <tr> <td>45 を超え 50 以下</td><td>37 m³/日</td></tr> <tr> <td>50 を超え 60 以下</td><td>47 m³/日</td></tr> <tr> <td>60 を超え 80 以下</td><td>68 m³/日</td></tr> <tr> <td>80 を超え 100 以下</td><td>96 m³/日</td></tr> </table> （注）1. 対象土質は，砂質土及びレキ質土であり，土質条件が異なる場合は別途考慮する。 2. 作業日当り標準作業量は，粒径処理後土量を示す。 3. 粒径処理率は次式による。 $\text{粒径処理率}(\%) = (\text{粒径処理後土量}) / (\text{粒径処理前土量})$ ② 攪拌混合 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>171 m³/日</td></tr> </table> （注）1. 作業日当り標準作業量は，粒径処理土投入，セメント投入，攪拌混合，混合材料積込までを含む。 2. 作業日当り標準作業量は，製造する混合材料量とする。 ③ 混合材料敷均し・締固め <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>128 m³/日</td></tr> </table> （注）1. 作業日当り標準作業量は，敷均し，締固め，養生，打継面処理までを含む。 2. 養生は，施工箇所をシートで覆うことを標準とする。	粒径処理率(%)	作業日当り標準作業量	40 を超え 45 以下	30 m ³ /日	45 を超え 50 以下	37 m ³ /日	50 を超え 60 以下	47 m ³ /日	60 を超え 80 以下	68 m ³ /日	80 を超え 100 以下	96 m ³ /日	作業日当り標準作業量	171 m ³ /日	作業日当り標準作業量	128 m ³ /日
粒径処理率(%)	作業日当り標準作業量																
40 を超え 45 以下	30 m ³ /日																
45 を超え 50 以下	37 m ³ /日																
50 を超え 60 以下	47 m ³ /日																
60 を超え 80 以下	68 m ³ /日																
80 を超え 100 以下	96 m ³ /日																
作業日当り標準作業量	171 m ³ /日																
作業日当り標準作業量	128 m ³ /日																

工 種 名	設 定 内 容																																																																														
集水井工（ライナープレート土留工法）	① 掘削土留工 …… 該当工種の計算式（1 基当り施工日数）を参照。 ② 井戸蓋工，昇降用設備設置工，掘削作業設備据付・解体 …… 該当工種の基準内に記載。																																																																														
集水井工（プレキャスト土留工法）	① 土留掘削工 …… 該当工種の計算式（1 基当り施工日数）を参照。 ② 昇降用設備設置工，井戸蓋工 …… 該当工種の基準内に記載。																																																																														
地すべり防止工 （集排水ボーリング工）	① ボーリング <table><tr><th rowspan="2">施工場所</th><th rowspan="2">呼び径</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>粘性土 砂質土</th><th>レキ質土</th><th>岩塊玉石</th><th>軟岩</th></tr><tr><td rowspan="3">地表</td><td>90mm</td><td>32 m/日</td><td>22 m/日</td><td>16 m/日</td><td>20 m/日</td></tr><tr><td>110mm</td><td>24 m/日</td><td>18 m/日</td><td>14 m/日</td><td>17 m/日</td></tr><tr><td>135mm</td><td>20 m/日</td><td>15 m/日</td><td>13 m/日</td><td>15 m/日</td></tr><tr><td rowspan="3">集水井</td><td>90mm</td><td>27 m/日</td><td>19 m/日</td><td>13 m/日</td><td>17 m/日</td></tr><tr><td>110mm</td><td>20 m/日</td><td>15 m/日</td><td>12 m/日</td><td>14 m/日</td></tr><tr><td>135mm</td><td>17 m/日</td><td>13 m/日</td><td>11 m/日</td><td>13 m/日</td></tr></table> （注） 1．呼び径とは，ドリルパイプ外径（mm）をいう。 2．同一足場上での移動を含む。 3．削孔長が 50mを超える場合は全長について 20%の削減補正を行う。 ② 保孔管，ボーリング仮設機材，足場（地表） <table><tr><th colspan="3">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td rowspan="4">保 孔 管</td><td rowspan="2">地表部</td><td>VP管</td><td>150 m/日 500 m/日</td><td>ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無</td></tr><tr><td>SGP管</td><td>52 m/日 98 m/日</td><td>ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無</td></tr><tr><td rowspan="2">集水井内</td><td>VP管</td><td>110 m/日 440 m/日</td><td>ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無</td></tr><tr><td>SGP管</td><td>37 m/日 56 m/日</td><td>ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無</td></tr><tr><td rowspan="2">ボーリング 仮設機材</td><td>地表部</td><td></td><td>0.89 回/日</td><td></td></tr><tr><td>集水井内</td><td></td><td>0.30 回/日</td><td>足場設置撤去含む</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="2">足場（地表）</td><td>平地</td><td>42 空 m3/日</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>傾斜地</td><td>32 空 m3/日</td></tr></table> （注） 上表の作業日当り標準作業量には，ロータリパーカッション式ボーリングマシンの据付けから保孔管挿入，足場撤去までの一連作業を含む（ボーリングは除く）。	施工場所	呼び径	作業日当り標準作業量				粘性土 砂質土	レキ質土	岩塊玉石	軟岩	地表	90mm	32 m/日	22 m/日	16 m/日	20 m/日	110mm	24 m/日	18 m/日	14 m/日	17 m/日	135mm	20 m/日	15 m/日	13 m/日	15 m/日	集水井	90mm	27 m/日	19 m/日	13 m/日	17 m/日	110mm	20 m/日	15 m/日	12 m/日	14 m/日	135mm	17 m/日	13 m/日	11 m/日	13 m/日	作 業 名			作業日当り標準作業量	摘 要	保 孔 管	地表部	VP管	150 m/日 500 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無	SGP管	52 m/日 98 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無	集水井内	VP管	110 m/日 440 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無	SGP管	37 m/日 56 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無	ボーリング 仮設機材	地表部		0.89 回/日		集水井内		0.30 回/日	足場設置撤去含む	足場（地表）		平地	42 空 m3/日		傾斜地	32 空 m3/日
施工場所	呼び径			作業日当り標準作業量																																																																											
		粘性土 砂質土	レキ質土	岩塊玉石	軟岩																																																																										
地表	90mm	32 m/日	22 m/日	16 m/日	20 m/日																																																																										
	110mm	24 m/日	18 m/日	14 m/日	17 m/日																																																																										
	135mm	20 m/日	15 m/日	13 m/日	15 m/日																																																																										
集水井	90mm	27 m/日	19 m/日	13 m/日	17 m/日																																																																										
	110mm	20 m/日	15 m/日	12 m/日	14 m/日																																																																										
	135mm	17 m/日	13 m/日	11 m/日	13 m/日																																																																										
作 業 名			作業日当り標準作業量	摘 要																																																																											
保 孔 管	地表部	VP管	150 m/日 500 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無																																																																											
		SGP管	52 m/日 98 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無																																																																											
	集水井内	VP管	110 m/日 440 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無																																																																											
		SGP管	37 m/日 56 m/日	ストレーナ現地加工有 ストレーナ現地加工無																																																																											
ボーリング 仮設機材	地表部		0.89 回/日																																																																												
	集水井内		0.30 回/日	足場設置撤去含む																																																																											
足場（地表）		平地	42 空 m3/日																																																																												
		傾斜地	32 空 m3/日																																																																												

工 種 名	設 定 内 容																							
地すべり防止工 (山腹水路工)	① 山腹U形側溝, 山腹コルゲートフリューム据付, 山腹U形側溝明暗渠, 山腹ルゲートフリューム明暗渠, 山腹暗渠工 … 該当工種の基準内に記載。 ② 集水桝, プレキャスト集水桝 <table><tr><th>作業名</th><th>材料種別</th><th>内空積もしくは製品質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="7">集水桝工</td><td rowspan="3">集水桝</td><td>0.4m3 以下</td><td>1.7 基／日</td></tr><tr><td>0.4 を超え 0.8m3 以下</td><td>1.4 基／日</td></tr><tr><td>0.8 を超え 1.0m3 以下</td><td>1.1 基／日</td></tr><tr><td rowspan="4">プレキャスト 集水桝</td><td>150 を超え 500 kg以下</td><td>2.8 基／日</td></tr><tr><td>500 を超え 1,000 kg以下</td><td>2.3 基／日</td></tr><tr><td>1,000 を超え 1,500 kg以下</td><td>1.9 基／日</td></tr><tr><td>1,500 を超え 1,700 kg以下</td><td>1.8 基／日</td></tr></table> (注) 集水桝の作業日当り標準作業量には床掘り（仕上げ含む）、基礎、型枠、コンクリート打設、埋戻しまでの一連作業を含む。ただし、養生に要する日数は含まない。	作業名	材料種別	内空積もしくは製品質量	作業日当り標準作業量	集水桝工	集水桝	0.4m3 以下	1.7 基／日	0.4 を超え 0.8m3 以下	1.4 基／日	0.8 を超え 1.0m3 以下	1.1 基／日	プレキャスト 集水桝	150 を超え 500 kg以下	2.8 基／日	500 を超え 1,000 kg以下	2.3 基／日	1,000 を超え 1,500 kg以下	1.9 基／日	1,500 を超え 1,700 kg以下	1.8 基／日		
作業名	材料種別	内空積もしくは製品質量	作業日当り標準作業量																					
集水桝工	集水桝	0.4m3 以下	1.7 基／日																					
		0.4 を超え 0.8m3 以下	1.4 基／日																					
		0.8 を超え 1.0m3 以下	1.1 基／日																					
	プレキャスト 集水桝	150 を超え 500 kg以下	2.8 基／日																					
		500 を超え 1,000 kg以下	2.3 基／日																					
		1,000 を超え 1,500 kg以下	1.9 基／日																					
		1,500 を超え 1,700 kg以下	1.8 基／日																					
地すべり防止工 (かご工)	① かご工 <table><tr><th>かご種類</th><th>かご寸法（cm）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">じゃかご</td><td>φ45</td><td>25 m／日</td></tr><tr><td>φ60</td><td>14 m／日</td></tr><tr><td rowspan="6">ふとんかご</td><td>高さ 40×幅 120</td><td>9 m／日</td></tr><tr><td>高さ 50×幅 120</td><td>7 m／日</td></tr><tr><td>高さ 60×幅 120</td><td>6 m／日</td></tr><tr><td>高さ 100×幅 120</td><td>4 m／日</td></tr><tr><td>高さ 50×幅 200</td><td>4 m／日</td></tr><tr><td>高さ 100×幅 200</td><td>2 m／日</td></tr></table> ② 止杭工 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>17 本／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	かご種類	かご寸法（cm）	作業日当り標準作業量	じゃかご	φ45	25 m／日	φ60	14 m／日	ふとんかご	高さ 40×幅 120	9 m／日	高さ 50×幅 120	7 m／日	高さ 60×幅 120	6 m／日	高さ 100×幅 120	4 m／日	高さ 50×幅 200	4 m／日	高さ 100×幅 200	2 m／日	作業日当り標準作業量	17 本／日
かご種類	かご寸法（cm）	作業日当り標準作業量																						
じゃかご	φ45	25 m／日																						
	φ60	14 m／日																						
ふとんかご	高さ 40×幅 120	9 m／日																						
	高さ 50×幅 120	7 m／日																						
	高さ 60×幅 120	6 m／日																						
	高さ 100×幅 120	4 m／日																						
	高さ 50×幅 200	4 m／日																						
	高さ 100×幅 200	2 m／日																						
作業日当り標準作業量	17 本／日																							
集排水ボーリング孔洗 浄工	① 洗浄工 … 該当工種の基準内に記載。 ② 集水井内足場設置・撤去 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>2.5 回／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	2.5 回／日																					
作業日当り標準作業量	2.5 回／日																							

工 種 名	設 定 内 容																		
路盤工	① 不陸整正，下層路盤，上層路盤																		
	(1日・1層当り)																		
	<table><tr><th>施工区分</th><th>工 種</th><th>単位</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="4">車道・路肩部 施工</td><td>不陸整正</td><td rowspan="4">m2</td><td>1,580 m2/日・層</td></tr><tr><td>下層路盤</td><td>1,110 m2/日・層</td></tr><tr><td>上層路盤（瀝青安定処理）</td><td>2,300 m2/日・層</td></tr><tr><td>上層路盤（粒度調整碎石）</td><td>1,110 m2/日・層</td></tr><tr><td>歩道施工</td><td>下層路盤及び上層路盤</td><td></td><td>268 m2/日・層</td></tr></table>	施工区分	工 種	単位	作業日当り標準作業量	車道・路肩部 施工	不陸整正	m2	1,580 m2/日・層	下層路盤	1,110 m2/日・層	上層路盤（瀝青安定処理）	2,300 m2/日・層	上層路盤（粒度調整碎石）	1,110 m2/日・層	歩道施工	下層路盤及び上層路盤		268 m2/日・層
	施工区分	工 種	単位	作業日当り標準作業量															
	車道・路肩部 施工	不陸整正	m2	1,580 m2/日・層															
		下層路盤		1,110 m2/日・層															
		上層路盤（瀝青安定処理）		2,300 m2/日・層															
		上層路盤（粒度調整碎石）		1,110 m2/日・層															
	歩道施工	下層路盤及び上層路盤		268 m2/日・層															
	(注) 1. 下層路盤の一層当りの仕上り厚さは 20cm までとする。																		
2. 上層路盤の一層当りの仕上り厚さは 15cm まで（瀝青安定処理路盤の場合は 10cm）とする。																			
路盤工（I C T）	① 不陸整正（I C T）下層路盤（I C T），上層路盤（I C T）																		
	(1日・1層当り)																		
	<table><tr><th>工 種</th><th>単位</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>不陸整正（I C T）</td><td rowspan="3">m2</td><td>1,920 m2/日・層</td></tr><tr><td>下層路盤（車道・路肩部）（I C T）</td><td>1,350 m2/日・層</td></tr><tr><td>上層路盤（車道・路肩部）（I C T）</td><td>1,350 m2/日・層</td></tr></table>	工 種	単位	作業日当り標準作業量	不陸整正（I C T）	m2	1,920 m2/日・層	下層路盤（車道・路肩部）（I C T）	1,350 m2/日・層	上層路盤（車道・路肩部）（I C T）	1,350 m2/日・層								
	工 種	単位	作業日当り標準作業量																
	不陸整正（I C T）	m2	1,920 m2/日・層																
	下層路盤（車道・路肩部）（I C T）		1,350 m2/日・層																
上層路盤（車道・路肩部）（I C T）	1,350 m2/日・層																		
(注) 1. 下層路盤の一層当りの仕上り厚さは 20cm までとする。																			
2. 上層路盤の一層当りの仕上り厚さは 15cm までとする。																			

工 種 名	設 定 内 容																											
アスファルト舗装工	① 舗設工 (1日・1層当り) <table><tr><th>施工区分</th><th>平均幅員</th><th>1層当り仕上り 平均厚さ</th><th>単位</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)</td><td>1.4m未満</td><td>50mm以下</td><td rowspan="3">m2</td><td>250 m2/日・層</td></tr><tr><td></td><td>50mmを超え 70mm以下</td><td>230 m2/日・層</td></tr><tr><td>1.4m以上</td><td>70mm以下</td><td>2,300 m2/日・層</td></tr><tr><td rowspan="3">基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)</td><td>1.4m未満</td><td>50mm以下</td><td rowspan="3">m2</td><td>250 m2/日・層</td></tr><tr><td></td><td>50mmを超え 70mm以下</td><td>230 m2/日・層</td></tr><tr><td>1.4m以上</td><td>70mm以下</td><td>940 m2/日・層</td></tr></table>	施工区分	平均幅員	1層当り仕上り 平均厚さ	単位	作業日当り 標準作業量	基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)	1.4m未満	50mm以下	m2	250 m2/日・層		50mmを超え 70mm以下	230 m2/日・層	1.4m以上	70mm以下	2,300 m2/日・層	基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)	1.4m未満	50mm以下	m2	250 m2/日・層		50mmを超え 70mm以下	230 m2/日・層	1.4m以上	70mm以下	940 m2/日・層
	施工区分	平均幅員	1層当り仕上り 平均厚さ	単位	作業日当り 標準作業量																							
	基層(車道・路肩部) 中間層(車道・路肩部) 表層(車道・路肩部)	1.4m未満	50mm以下	m2	250 m2/日・層																							
			50mmを超え 70mm以下		230 m2/日・層																							
		1.4m以上	70mm以下		2,300 m2/日・層																							
	基層(歩道部) 中間層(歩道部) 表層(歩道部)	1.4m未満	50mm以下	m2	250 m2/日・層																							
			50mmを超え 70mm以下		230 m2/日・層																							
		1.4m以上	70mm以下		940 m2/日・層																							
	② アスカーブ <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>260 m/日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	260 m/日																									
	作業日当り標準作業量	260 m/日																										
半たわみ性(コンポジット)舗装工	① セメントミルク浸透 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1,050 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	1,050 m2／日																									
作業日当り標準作業量	1,050 m2／日																											
排水性アスファルト舗装工	① 排水性舗装・表層(車道・路肩部) (1日・1層当り) <table><tr><th>平均施工幅員</th><th>導水パイプの設置</th><th>作業日当り 標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">1.4m未満</td><td>有り</td><td>170 m2／日・層</td></tr><tr><td>無し</td><td>190 m2／日・層</td></tr><tr><td rowspan="2">2.4m 以上</td><td>有り</td><td>1,500 m2／日・層</td></tr><tr><td>無し</td><td>1,700 m2／日・層</td></tr></table>	平均施工幅員	導水パイプの設置	作業日当り 標準作業量	1.4m未満	有り	170 m2／日・層	無し	190 m2／日・層	2.4m 以上	有り	1,500 m2／日・層	無し	1,700 m2／日・層														
平均施工幅員	導水パイプの設置	作業日当り 標準作業量																										
1.4m未満	有り	170 m2／日・層																										
	無し	190 m2／日・層																										
2.4m 以上	有り	1,500 m2／日・層																										
	無し	1,700 m2／日・層																										
透水性樹脂コンクリート工	① 透水性樹脂コンクリート工 …… 該当工種の基準内に記載。 ② 導水パイプ設置 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>200 m/日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	200 m/日																									
作業日当り標準作業量	200 m/日																											
透水性アスファルト舗装工	① フィルター層 (1日・1層当り) <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>フィルター材の敷均し及び締固め</td><td>290 m2/日・層</td></tr></table> ② 透水性アスファルト舗装 (1日・1層当り) <table><tr><th>平均施工幅員</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>1.4m以上</td><td>600 m2／日・層</td></tr><tr><td>1.4m未満</td><td>200 m2／日・層</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	フィルター材の敷均し及び締固め	290 m2/日・層	平均施工幅員	作業日当り標準作業量	1.4m以上	600 m2／日・層	1.4m未満	200 m2／日・層																	
作 業 名	作業日当り標準作業量																											
フィルター材の敷均し及び締固め	290 m2/日・層																											
平均施工幅員	作業日当り標準作業量																											
1.4m以上	600 m2／日・層																											
1.4m未満	200 m2／日・層																											

工 種 名	設 定 内 容																										
グースアスファルト舗装工	該当工種の基準内に記載。																										
コンクリート舗装工	① コンクリート舗装工 <table><tr><th colspan="2">作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">機械舗設</td><td>1 車</td><td>111 m2／日</td></tr><tr><td>2 車</td><td>152 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">人力舗設</td><td>舗設厚 20 cm以上</td><td>47 m2／日</td></tr><tr><td>舗設厚 20 cm未満</td><td>69 m2／日</td></tr></table>			作 業 種 別		作業日当り標準作業量	機械舗設	1 車	111 m2／日	2 車	152 m2／日	人力舗設	舗設厚 20 cm以上	47 m2／日	舗設厚 20 cm未満	69 m2／日											
作 業 種 別		作業日当り標準作業量																									
機械舗設	1 車	111 m2／日																									
	2 車	152 m2／日																									
人力舗設	舗設厚 20 cm以上	47 m2／日																									
	舗設厚 20 cm未満	69 m2／日																									
ローラ転圧コンクリート舗装工(RCCP工)	該当工種の基準内に記載。																										
連続鉄筋コンクリート舗装工	① 連続鉄筋コンクリート舗装工 <table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>146 m2／日</td></tr></table>			作業日当り標準作業量	146 m2／日																						
作業日当り標準作業量	146 m2／日																										
踏掛版	① 踏掛版 <table><tr><th>鉄筋量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>0.08t/m3以上0.12t/m3未満</td><td>11 m3/日</td></tr><tr><td>0.12t/m3以上0.14t/m3未満</td><td>10 m3/日</td></tr><tr><td>0.14t/m3以上0.18t/m3未満</td><td>9 m3/日</td></tr><tr><td>0.18t/m3以上0.24t/m3未満</td><td>8 m3/日</td></tr><tr><td>0.24t/m3以上0.32t/m3未満</td><td>7 m3/日</td></tr><tr><td>0.32t/m3以上0.34t/m3未満</td><td>6 m3/日</td></tr></table> (注) 1. 上表の作業日当り標準作業量には、コンクリート、型枠、鉄筋、目地材の作業を含む。 2. 各作業間の重複作業は考慮していない。 (参考) 各作業単独の場合の作業量 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>目地板設置</td><td>14 m2/日</td></tr><tr><td>鉄筋加工・組立</td><td>3.5 t/日</td></tr><tr><td>型枠設置</td><td>38 m2/日</td></tr><tr><td>コンクリート打設</td><td>81 m3/日</td></tr></table>			鉄筋量	作業日当り標準作業量	0.08t/m3以上0.12t/m3未満	11 m3/日	0.12t/m3以上0.14t/m3未満	10 m3/日	0.14t/m3以上0.18t/m3未満	9 m3/日	0.18t/m3以上0.24t/m3未満	8 m3/日	0.24t/m3以上0.32t/m3未満	7 m3/日	0.32t/m3以上0.34t/m3未満	6 m3/日	作 業 名	作業日当り標準作業量	目地板設置	14 m2/日	鉄筋加工・組立	3.5 t/日	型枠設置	38 m2/日	コンクリート打設	81 m3/日
鉄筋量	作業日当り標準作業量																										
0.08t/m3以上0.12t/m3未満	11 m3/日																										
0.12t/m3以上0.14t/m3未満	10 m3/日																										
0.14t/m3以上0.18t/m3未満	9 m3/日																										
0.18t/m3以上0.24t/m3未満	8 m3/日																										
0.24t/m3以上0.32t/m3未満	7 m3/日																										
0.32t/m3以上0.34t/m3未満	6 m3/日																										
作 業 名	作業日当り標準作業量																										
目地板設置	14 m2/日																										
鉄筋加工・組立	3.5 t/日																										
型枠設置	38 m2/日																										
コンクリート打設	81 m3/日																										

工 種 名	設 定 内 容																																	
ガードケーブル設置工	① ガードケーブル設置工 <table><tr><th colspan="3">作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">端末支柱</td><td rowspan="2">建込み</td><td>標準型</td><td>5 本/日</td></tr><tr><td>耐雪型</td><td>5 本/日</td></tr><tr><td rowspan="3">中間支柱</td><td rowspan="2">機械打込</td><td>標準型</td><td>44 本/日</td></tr><tr><td>耐雪型</td><td>37 本/日</td></tr><tr><td colspan="2">コンクリート建込</td><td>25 本/日</td></tr><tr><td colspan="2" rowspan="6">ケーブル張</td><td>A種</td><td>164 m/日</td></tr><tr><td>B種</td><td>205 m/日</td></tr><tr><td>C種</td><td>273 m/日</td></tr><tr><td>S種</td><td>137 m/日</td></tr><tr><td>A m種</td><td>102 m/日</td></tr><tr><td>B m種</td><td>137 m/日</td></tr></table>	作 業 種 別			作業日当り標準作業量	端末支柱	建込み	標準型	5 本/日	耐雪型	5 本/日	中間支柱	機械打込	標準型	44 本/日	耐雪型	37 本/日	コンクリート建込		25 本/日	ケーブル張		A種	164 m/日	B種	205 m/日	C種	273 m/日	S種	137 m/日	A m種	102 m/日	B m種	137 m/日
作 業 種 別			作業日当り標準作業量																															
端末支柱	建込み	標準型	5 本/日																															
		耐雪型	5 本/日																															
中間支柱	機械打込	標準型	44 本/日																															
		耐雪型	37 本/日																															
	コンクリート建込		25 本/日																															
ケーブル張		A種	164 m/日																															
		B種	205 m/日																															
		C種	273 m/日																															
		S種	137 m/日																															
		A m種	102 m/日																															
		B m種	137 m/日																															
落石防止網（繊維網）設置工	① 落石防止網（繊維網）設置 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>19 m2/日</td></tr></table> （注） 1. 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。 2. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	作業日当り標準作業量	19 m2/日																															
作業日当り標準作業量	19 m2/日																																	
立入り防止柵工	① 立入り防止柵工 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>基礎ブロック(立入防止柵)</td><td>22 個/日</td></tr><tr><td>金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)</td><td>30 m/日</td></tr><tr><td>支柱</td><td>74 本/日</td></tr></table> （注） 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	作 業 名	作業日当り標準作業量	基礎ブロック(立入防止柵)	22 個/日	金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	30 m/日	支柱	74 本/日																									
作 業 名	作業日当り標準作業量																																	
基礎ブロック(立入防止柵)	22 個/日																																	
金網(フェンス)・支柱(立入防止柵)	30 m/日																																	
支柱	74 本/日																																	
車止めポスト設置工	① 車止めポスト <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>5 本/日</td></tr></table> （注） 1. 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。 2. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。	作業日当り標準作業量	5 本/日																															
作業日当り標準作業量	5 本/日																																	

工 種 名	設 定 内 容			
防雪柵設置及び撤去工	① 設置の場合			
	形式	取付方式	柵高	作業日当り標準作業量
	吹溜式	仮設式(支柱＋張立材)	3.5m 以下	87 m/日
			3.5 超え 6.0m 以下	56 m/日
		仮設式(張立材のみ)	3.5m 以下	201 m/日
			3.5 超え 6.0m 以下	128 m/日
		固定式(支柱＋張立材)	5.0m 以下	29 m/日
		固定式(張立材のみ)	5.0m 以下	68 m/日
	吹払式	仮設式(支柱＋張立材)	4.0m 以下	67 m/日
		仮設式(張立材のみ)	4.0m 以下	155 m/日
		固定式(支柱＋張立材)	4.0m 以下	39 m/日
		固定式(張立材のみ)	4.0m 以下	90 m/日
	② 撤去の場合			
	形式	取付方式	柵高	作業日当り標準作業量
	吹溜式	仮設式(支柱＋張立材)	3.5m 以下	114 m/日
			3.5 超え 6.0m 以下	73 m/日
		仮設式(張立材のみ)	3.5m 以下	264 m/日
			3.5 超え 6.0m 以下	170 m/日
		固定式(支柱＋張立材)	5.0m 以下	38 m/日
		固定式(張立材のみ)	5.0m 以下	88 m/日
	吹払式	仮設式(支柱＋張立材)	4.0m 以下	88 m/日
		仮設式(張立材のみ)	4.0m 以下	203 m/日
		固定式(支柱＋張立材)	4.0m 以下	51 m/日
固定式(張立材のみ)		4.0m 以下	118 m/日	
(注) 上表の作業日当り標準作業量には、現場内小運搬を含む。				
防雪柵現地張出し・収納工	① 防雪柵現地張出し・収納			
	作 業 名		作業日当り標準作業量	
	張 出 し		186 m/日	
	収 納		214 m/日	

工 種 名	設 定 内 容																									
雪崩予防柵設置工	① 雪崩予防柵																									
	<table><tr><th>柵の区分</th><th>作 業 種 別</th><th>適 用 規 格</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>固定柵</td><td>柵の組立・設置</td><td>柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下</td><td>2 基／日</td></tr><tr><td rowspan="3">吊 柵</td><td>パイプアンカー設置</td><td>アンカー径φ114.3 mm アンカー長 2.0～3.0m</td><td>9 本／日</td></tr><tr><td>樹脂アンカー設置</td><td>アンカー径φ32, 36 mm アンカー長 1.7m</td><td>11 本／日</td></tr><tr><td>柵の組立・設置</td><td>柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下</td><td>4 基／日</td></tr></table>	柵の区分	作 業 種 別	適 用 規 格	作業日当り標準作業量	固定柵	柵の組立・設置	柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下	2 基／日	吊 柵	パイプアンカー設置	アンカー径φ114.3 mm アンカー長 2.0～3.0m	9 本／日	樹脂アンカー設置	アンカー径φ32, 36 mm アンカー長 1.7m	11 本／日	柵の組立・設置	柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下	4 基／日							
	柵の区分	作 業 種 別	適 用 規 格	作業日当り標準作業量																						
	固定柵	柵の組立・設置	柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下	2 基／日																						
	吊 柵	パイプアンカー設置	アンカー径φ114.3 mm アンカー長 2.0～3.0m	9 本／日																						
		樹脂アンカー設置	アンカー径φ32, 36 mm アンカー長 1.7m	11 本／日																						
		柵の組立・設置	柵長 6.0m以下 柵高 3.0m以下	4 基／日																						
	(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量は、鋼製の雪崩発生予防柵にのみ適用出来る。 2. 吊柵の組立・設置には、ワイヤの加工・設置が含まれている。																									
	② 簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去																									
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.5 基/日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	0.5 基/日																							
作業日当り標準作業量	0.5 基/日																									
雪崩発生予防柵設置工（円形空洞型枠工，立入防止柵工，柵板設置工）																										
① 雪崩発生予防柵設置工																										
<table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>円形空洞型枠</td><td>-</td><td>50 m/日</td></tr><tr><td>立入防止柵</td><td>-</td><td>22 m/日</td></tr><tr><td rowspan="3">柵板設置工</td><td>長さ 1000mm/枚</td><td>33 枚/日</td></tr><tr><td>長さ 1500mm/枚</td><td rowspan="2">25 枚/日</td></tr><tr><td>長さ 2000mm/枚</td></tr></table>	作 業 名		作業日当り標準作業量	円形空洞型枠	-	50 m/日	立入防止柵	-	22 m/日	柵板設置工	長さ 1000mm/枚	33 枚/日	長さ 1500mm/枚	25 枚/日	長さ 2000mm/枚											
作 業 名		作業日当り標準作業量																								
円形空洞型枠	-	50 m/日																								
立入防止柵	-	22 m/日																								
柵板設置工	長さ 1000mm/枚	33 枚/日																								
	長さ 1500mm/枚	25 枚/日																								
	長さ 2000mm/枚																									
(注) 1. 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。 2. 柵板設置工の撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。																										
ボックスビーム設置工																										
① ボックスビーム設置工																										
<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>支柱及びレール</td><td>7.7 m/日</td></tr><tr><td>支柱のみ</td><td>11 m/日</td></tr><tr><td>レールのみ</td><td>25 m/日</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	支柱及びレール	7.7 m/日	支柱のみ	11 m/日	レールのみ	25 m/日																		
作 業 名	作業日当り標準作業量																									
支柱及びレール	7.7 m/日																									
支柱のみ	11 m/日																									
レールのみ	25 m/日																									
(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。																										
遮光フェンス設置工																										
① 遮光フェンス設置工																										
<table><tr><th colspan="3">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="4">遮光フェンス設置(人力建込)</td><td rowspan="2">プレキャストコンクリートブロック 建込用</td><td>支柱間隔 3m</td><td>12 m/日</td></tr><tr><td>支柱間隔 4m</td><td>14 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">コンクリート建込用</td><td>支柱間隔 3m</td><td>20 m/日</td></tr><tr><td>支柱間隔 4m</td><td>23 m/日</td></tr><tr><td>遮光フェンスパネルのみ取付</td><td colspan="2">-</td><td>33 m/日</td></tr><tr><td rowspan="2">遮光フェンスガードレール併用型 設置</td><td colspan="2">片側ガードレール併用型</td><td>13 m/日</td></tr><tr><td colspan="2">両面ガードレール併用型</td><td>17 m/日</td></tr></table>	作 業 名			作業日当り標準作業量	遮光フェンス設置(人力建込)	プレキャストコンクリートブロック 建込用	支柱間隔 3m	12 m/日	支柱間隔 4m	14 m/日	コンクリート建込用	支柱間隔 3m	20 m/日	支柱間隔 4m	23 m/日	遮光フェンスパネルのみ取付	-		33 m/日	遮光フェンスガードレール併用型 設置	片側ガードレール併用型		13 m/日	両面ガードレール併用型		17 m/日
作 業 名			作業日当り標準作業量																							
遮光フェンス設置(人力建込)	プレキャストコンクリートブロック 建込用	支柱間隔 3m	12 m/日																							
		支柱間隔 4m	14 m/日																							
	コンクリート建込用	支柱間隔 3m	20 m/日																							
		支柱間隔 4m	23 m/日																							
遮光フェンスパネルのみ取付	-		33 m/日																							
遮光フェンスガードレール併用型 設置	片側ガードレール併用型		13 m/日																							
	両面ガードレール併用型		17 m/日																							
(注) 1. 作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。 2. 撤去の作業日当り標準作業量は、上表× 2 とする。																										

工 種 名	設 定 内 容															
落下物等防止柵設置工	① 落下物等防止柵設置工															
		作業日当り標準作業量	33 m/日													
しゃ音壁設置工	① 支柱アンカー															
		形 式	支柱間隔	設置高さ	作業日当り標準作業量											
		A型 (埋設アンカー方式)	2 m	4 m以下	475 m／日											
				4 m超え 8 m以下	150 m／日											
			4 m	4 m以下	981 m／日											
				4 m超え 8 m以下	297 m／日											
		B型 (穿孔アンカー方式)	2 m	4 m以下	22 m／日											
			4 m	4 m以下	50 m／日											
		② 支柱立込														
				形 式	支柱間隔	設置高さ	作業日当り標準作業量									
				A型 (埋設アンカー方式)	2 m	4 m以下	72 m／日									
						4 m超え 8 m以下	28 m／日									
					4 m	4 m以下	148 m／日									
						4 m超え 8 m以下	55 m／日									
				B型 (穿孔アンカー方式)	2 m	4 m以下	39 m／日									
					4 m	4 m以下	78 m／日									
				③ 土留板取付												
						設置高さ	作業日当り標準作業量									
						4 m以下	78 m2／日									
						4 m超え 8 m以下	53 m2／日									
						④ しゃ音板・透光板取付										
								作 業 名	設置高さ	作業日当り標準作業量						
								しゃ音板取付	4 m以下	175 m2／日						
									4 m超え 8 m以下	144 m2／日						
								透光板取付	4 m以下	199 m2／日						
									4 m超え 8 m以下	173 m2／日						
								⑤ 笠木取付								
作業日当り標準作業量	2,000 m／日															
⑥ 外装板取付																
										作業日当り標準作業量	152 m2／日					
										⑦ 水切版取付						
												作業日当り標準作業量	254 m／日			
												基礎杭打工（しゃ音壁）	該当工種の基準内に記載。			

工 種 名	設 定 内 容																													
路側工（据付け）	① 歩車道境界ブロック据付，地先境界ブロック据付																													
	<table><tr><th rowspan="2">ブロック規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>ブロック 単体</th><th>ブロック＋ 基礎碎石</th><th>ブロック＋ 均しコンクリート</th><th>ブロック＋ 基礎碎石＋ 均しコンクリート</th></tr><tr><td>A種</td><td>70 m/日</td><td>60 m/日</td><td>33 m/日</td><td>31 m/日</td></tr><tr><td>B・C種</td><td>60 m/日</td><td>52 m/日</td><td>30 m/日</td><td>28 m/日</td></tr><tr><td>各種(600mm以下，50kg未満)</td><td>70 m/日</td><td>60 m/日</td><td>33 m/日</td><td>31 m/日</td></tr><tr><td>各種(2000mm以下， 50kg以上550kg未満)</td><td>60 m/日</td><td>52 m/日</td><td>30 m/日</td><td>28 m/日</td></tr></table>	ブロック規格	作業日当り標準作業量				ブロック 単体	ブロック＋ 基礎碎石	ブロック＋ 均しコンクリート	ブロック＋ 基礎碎石＋ 均しコンクリート	A種	70 m/日	60 m/日	33 m/日	31 m/日	B・C種	60 m/日	52 m/日	30 m/日	28 m/日	各種(600mm以下，50kg未満)	70 m/日	60 m/日	33 m/日	31 m/日	各種(2000mm以下， 50kg以上550kg未満)	60 m/日	52 m/日	30 m/日	28 m/日
	ブロック規格		作業日当り標準作業量																											
		ブロック 単体	ブロック＋ 基礎碎石	ブロック＋ 均しコンクリート	ブロック＋ 基礎碎石＋ 均しコンクリート																									
	A種	70 m/日	60 m/日	33 m/日	31 m/日																									
	B・C種	60 m/日	52 m/日	30 m/日	28 m/日																									
	各種(600mm以下，50kg未満)	70 m/日	60 m/日	33 m/日	31 m/日																									
	各種(2000mm以下， 50kg以上550kg未満)	60 m/日	52 m/日	30 m/日	28 m/日																									
	(注) 1. 上表は，直線部，曲線部及び片面用，両面用，乗入れ，すりつけ用ブロックを含む。																													
	2. 上表には，敷モルタル，目地モルタルの施工を含む。																													
3. 上表には，ブロックの現場内小運搬を含む。																														
4. 床掘り，埋戻しは別途計上する。																														
路側工（取外し）	① 歩車道境界ブロック撤去，地先境界ブロック撤去																													
	<table><tr><th>再利用区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>処分</td><td>200 m／日</td></tr><tr><td>再利用</td><td>115 m／日</td></tr></table>	再利用区分	作業日当り標準作業量	処分	200 m／日	再利用	115 m／日																							
	再利用区分	作業日当り標準作業量																												
	処分	200 m／日																												
	再利用	115 m／日																												
(注) 1. 上表は，直線部，曲線部及び片面用，両面用，乗入れ，すりつけ用ブロックを含む。																														
2. 上表には，敷モルタル，目地モルタルの取外しを含む。																														
3. 上表には，ブロックの現場内小運搬を含む。																														
4. 基礎コンクリートのとりこわしは，含まない。																														
特殊ブロック設置工	① 特殊ブロック設置工																													
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>77 m2/日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	77 m2/日																											
作業日当り標準作業量	77 m2/日																													
	(注) 撤去の作業日当り標準作業量は，上表×2とする。																													

工 種 名	設 定 内 容							
組立歩道工	① 組立歩道工							
	形式 区分	床版形式	支柱 (受桁) 間隔	幅員	作業日当り標準作業量			
					支柱受桁 床版据付 高欄据付	支柱受桁 床版据付	高欄据付	
	支柱式	プレキャスト コンクリート製	3.0m	1.0m	17 m/日	25 m/日	50 m/日	
				1.5m	14 m/日	20 m/日		
				2.0m	13 m/日	17 m/日		
				2.5m	11 m/日	14 m/日		
		現場打	3.0m	2.0m	13 m/日	17 m/日		
				1.5m	13 m/日	17 m/日		
	片持式	プレキャスト コンクリート製	3.0m	2.0m	11 m/日	14 m/日		
				1.0m	17 m/日	25 m/日		
				1.5m	14 m/日	20 m/日		
				2.0m	13 m/日	17 m/日		
		無し		1.5m	20 m/日	33 m/日		
				2.0m	17 m/日	25 m/日		
橋梁付属施設設置工	① 橋梁付属施設設置工							
	作 業 名				作業日当り標準作業量			
	排水柵		-		10 箇所/日			
	橋名板取付		-		7.1 箇所/日			
	橋梁用高欄		組立式・一体式		33 m/日			
			一体式		33 m/日			
	飾り高欄		-		10 m/日			
	(注)「橋名板取付」「飾り高欄」の作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。							
	トンネル内装板設置工	① トンネル内装板設置						
		作業日当り標準作業量			63.4 m ² /日			
道路付属物設置工	① 距離標							
	作 業 名		作業日当り標準作業量					
			設置		撤去			
	距離標（土中埋込用）		20 本/日		50 本/日			
	距離標（構造物取付用）		33 本/日		100 本/日			
	(注) 作業日当り標準作業量は、普通作業員4名の場合。							
	スノーポール設置・撤去工	① スノーポール設置・撤去工						
スノーポール規格		作業日当り標準作業量						
		設置		撤去				
かぶせ型		83 本/日		95 本/日				
土中単柱型		40 本/日		40 本/日				
挿入単柱型		100 本/日		100 本/日				
(注)「かぶせ型」「挿入単柱型」の作業日当り標準作業量は、普通作業員2名の場合。 「土中単柱型」の作業日当り標準作業量は、普通作業員4名の場合。								

工 種 名	設 定 内 容														
道路植栽工（客土工） （上層 30 cm）	①道路植栽工（客土工）（上層 30 cm） <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>4.5 m3／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。	作業日当り標準作業量	4.5 m3／日												
作業日当り標準作業量	4.5 m3／日														
路面切削工	① 路面切削 <table><tr><th rowspan="2">施工区分</th><th colspan="2">全面切削</th><th rowspan="2">帯状切削</th></tr><tr><th>4,000m2以下</th><th>4,000m2を超え</th></tr><tr><td>平均切削深さ(H)</td><td colspan="2">6cm以下</td><td>6cmを超え 12cm以下</td></tr><tr><td>作業日当り標準作業量 (m2／日)</td><td>1,400</td><td>1,800</td><td>1,340</td></tr></table> （注） 1. 作業日当り標準作業量には、路面切削機等の施工箇所間及び機械待避場所と施工箇所間の自走による移動を含むが、運搬車両による移動は別途考慮する。 2. 全面切削の施工区分は、1 工事の切削面積のうち全面切削に係る施工面積を対象とする。 3. 上表には、清掃作業を含む。 4. 平均切削深さは、次式による。 $H = \frac{A_v}{W} \times 100$ H ： 1 現場の平均切削深さ（cm） A _v ： 1 現場の平均切削断面積（m2） W ： 平均切削幅員（m） なお、帯状切削の場合は、W＝2 mとする。 5. 帯状切削とは、不陸部の切削幅が路面切削機の切削幅より狭い場合をいう。 6. 帯状切削の施工面積は、次式による。 延べ施工面積＝切削機の作業幅（2 m）×延べ施工延長	施工区分	全面切削		帯状切削	4,000m2以下	4,000m2を超え	平均切削深さ(H)	6cm以下		6cmを超え 12cm以下	作業日当り標準作業量 (m2／日)	1,400	1,800	1,340
施工区分	全面切削		帯状切削												
	4,000m2以下	4,000m2を超え													
平均切削深さ(H)	6cm以下		6cmを超え 12cm以下												
作業日当り標準作業量 (m2／日)	1,400	1,800	1,340												

工 種 名	設 定 内 容		
路面切削工	② 殻運搬（路面切削）		
	DID 区間の 有無	運搬距離	作業日当り 標準作業量
	無し	0.2km 以下	167 m3/日
		0.5km 以下	143 m3/日
		1.0km 以下	125 m3/日
		1.5km 以下	111 m3/日
		2.0km 以下	91 m3/日
		2.5km 以下	83 m3/日
		3.0km 以下	71 m3/日
		3.5km 以下	67 m3/日
		4.0km 以下	59 m3/日
		4.5km 以下	56 m3/日
		5.0km 以下	50 m3/日
		5.5km 以下	48 m3/日
		6.5km 以下	43 m3/日
		7.5km 以下	38 m3/日
		9.0km 以下	34 m3/日
		10.5km 以下	30 m3/日
		12.0km 以下	28 m3/日
		13.5km 以下	25 m3/日
		16.0km 以下	23 m3/日
		18.5km 以下	20 m3/日
		21.5km 以下	19 m3/日
		26.0km 以下	17 m3/日
		32.0km 以下	15 m3/日
		39.5km 以下	14 m3/日
		47.0km 以下	12 m3/日
		55.5km 以下	11 m3/日
		60.0km 以下	10 m3/日

工 種 名	設 定 内 容		
路面切削工			

工 種 名	設 定 内 容																																
舗装版破碎工	① 舗装版破碎（障害無し） (1) アスファルト舗装版																																
	<table><tr><th rowspan="2">障害等の有無</th><th rowspan="2">騒音振動対策</th><th rowspan="2">舗装版厚</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>直接掘削・積込作業</th><th>舗装版破碎作業</th><th>掘削・積込作業</th></tr><tr><td rowspan="5">無し</td><td rowspan="3">不要</td><td>10cm以下</td><td>810 m²/日</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>10cmを超え15cm以下</td><td>560 m²/日</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>15cmを超え40cm以下</td><td>—</td><td>310 m²/日</td><td>370 m²/日</td></tr><tr><td rowspan="2">必要</td><td>15cm以下</td><td>—</td><td>260 m²/日</td><td>490 m²/日</td></tr><tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>—</td><td>180 m²/日</td><td>370 m²/日</td></tr></table>	障害等の有無	騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量			直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業	無し	不要	10cm以下	810 m ² /日	—	—	10cmを超え15cm以下	560 m ² /日	—	—	15cmを超え40cm以下	—	310 m ² /日	370 m ² /日	必要	15cm以下	—	260 m ² /日	490 m ² /日	15cmを超え35cm以下	—	180 m ² /日	370 m ² /日
	障害等の有無				騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量																										
		直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業																													
	無し	不要	10cm以下	810 m ² /日	—	—																											
			10cmを超え15cm以下	560 m ² /日	—	—																											
			15cmを超え40cm以下	—	310 m ² /日	370 m ² /日																											
		必要	15cm以下	—	260 m ² /日	490 m ² /日																											
			15cmを超え35cm以下	—	180 m ² /日	370 m ² /日																											
	(2) コンクリート舗装版																																
<table><tr><th rowspan="2">騒音振動対策</th><th rowspan="2">舗装版厚</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>直接掘削・積込作業</th><th>舗装版破碎作業</th><th>掘削・積込作業</th></tr><tr><td rowspan="3">不要</td><td>10cm以下</td><td>810 m²/日</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>10cmを超え15cm以下</td><td>560 m²/日</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>—</td><td>230 m²/日</td><td>260 m²/日</td></tr><tr><td rowspan="2">必要</td><td>15cm以下</td><td>—</td><td>190 m²/日</td><td>320 m²/日</td></tr><tr><td>15cmを超え35cm以下</td><td>—</td><td>150 m²/日</td><td>260 m²/日</td></tr></table>	騒音振動対策	舗装版厚	作業日当り標準作業量			直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業	掘削・積込作業	不要	10cm以下	810 m ² /日	—	—	10cmを超え15cm以下	560 m ² /日	—	—	15cmを超え35cm以下	—	230 m ² /日	260 m ² /日	必要	15cm以下	—	190 m ² /日	320 m ² /日	15cmを超え35cm以下	—	150 m ² /日	260 m ² /日			
騒音振動対策			舗装版厚	作業日当り標準作業量																													
	直接掘削・積込作業	舗装版破碎作業		掘削・積込作業																													
不要	10cm以下	810 m ² /日	—	—																													
	10cmを超え15cm以下	560 m ² /日	—	—																													
	15cmを超え35cm以下	—	230 m ² /日	260 m ² /日																													
必要	15cm以下	—	190 m ² /日	320 m ² /日																													
	15cmを超え35cm以下	—	150 m ² /日	260 m ² /日																													
(3) コンクリート+アスファルト（カバー）舗装版																																	
<table><tr><th rowspan="2">Co+As(カバー)舗装によるアスファルト舗装版厚</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>舗装版破碎作</th><th>掘削・積込作業</th></tr><tr><td>15cm以下</td><td>230 m²/日</td><td>170 m²/日</td></tr><tr><td>15cmを超え22.5cm以下</td><td>230 m²/日</td><td>150 m²/日</td></tr></table>	Co+As(カバー)舗装によるアスファルト舗装版厚	作業日当り標準作業量		舗装版破碎作	掘削・積込作業	15cm以下	230 m ² /日	170 m ² /日	15cmを超え22.5cm以下	230 m ² /日	150 m ² /日																						
Co+As(カバー)舗装によるアスファルト舗装版厚		作業日当り標準作業量																															
	舗装版破碎作	掘削・積込作業																															
15cm以下	230 m ² /日	170 m ² /日																															
15cmを超え22.5cm以下	230 m ² /日	150 m ² /日																															
② 舗装版破碎（障害有り） (1) アスファルト舗装版																																	
<table><tr><th>舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>舗装版厚 4cm 以下</td><td>35 m²/日</td></tr><tr><td>舗装版厚 4cm を超え 10cm 以下</td><td>21 m²/日</td></tr><tr><td>舗装版厚 10cm を超え 15cm 以下</td><td>16 m²/日</td></tr><tr><td>舗装版厚 15cm を超え 30cm 以下</td><td>8.8 m²/日</td></tr></table>	舗装版厚	作業日当り標準作業量	舗装版厚 4cm 以下	35 m ² /日	舗装版厚 4cm を超え 10cm 以下	21 m ² /日	舗装版厚 10cm を超え 15cm 以下	16 m ² /日	舗装版厚 15cm を超え 30cm 以下	8.8 m ² /日																							
舗装版厚	作業日当り標準作業量																																
舗装版厚 4cm 以下	35 m ² /日																																
舗装版厚 4cm を超え 10cm 以下	21 m ² /日																																
舗装版厚 10cm を超え 15cm 以下	16 m ² /日																																
舗装版厚 15cm を超え 30cm 以下	8.8 m ² /日																																
	(注) 上表は、積込の有無にかかわらず適用出来る。																																

工 種 名	設 定 内 容																								
舗装版切断工	① 舗装版切断																								
	(1) アスファルト舗装版																								
	<table><tr><th>アスファルト舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>15cm以下</td><td>240 m／日</td></tr><tr><td>15cmを超え30cm以下</td><td>170 m／日</td></tr><tr><td>30cmを超え40cm以下</td><td>120 m／日</td></tr></table>	アスファルト舗装版厚	作業日当り標準作業量	15cm以下	240 m／日	15cmを超え30cm以下	170 m／日	30cmを超え40cm以下	120 m／日																
	アスファルト舗装版厚	作業日当り標準作業量																							
	15cm以下	240 m／日																							
	15cmを超え30cm以下	170 m／日																							
	30cmを超え40cm以下	120 m／日																							
	(2) コンクリート舗装版, コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版																								
	<table><tr><th>コンクリート舗装版厚</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>15cm以下</td><td>150 m／日</td></tr><tr><td>15cmを超え30cm以下</td><td>70 m／日</td></tr></table>	コンクリート舗装版厚	作業日当り標準作業量	15cm以下	150 m／日	15cmを超え30cm以下	70 m／日																		
	コンクリート舗装版厚	作業日当り標準作業量																							
15cm以下	150 m／日																								
15cmを超え30cm以下	70 m／日																								
(注) コンクリート+アスファルト (カバー) 舗装版の場合, 舗装版厚はコンクリート舗装版のみの厚さである。																									
道路打換え工	① 道路打換え工																								
	作業日当り標準作業量 (総施工量 1,000 m2 未満) (m2/日)																								
	<table><tr><td colspan="2">全体掘削厚</td><td>40 cm以下</td><td>40 cmを超え 80 cm以下</td><td>80 cmを超え 120 cm以下</td></tr><tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>2 層</td><td>3 層以上 5 層以下</td><td>4 層以上 6 層以下</td></tr><tr><td rowspan="3">歩掛区分</td><td>コンクリート圧碎機 15 cm 以下</td><td rowspan="3">250</td><td>220</td><td rowspan="3">160</td></tr><tr><td>コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下</td><td rowspan="2">190</td></tr><tr><td>コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下</td></tr></table>	全体掘削厚		40 cm以下	40 cmを超え 80 cm以下	80 cmを超え 120 cm以下	復旧層数		2 層	3 層以上 5 層以下	4 層以上 6 層以下	歩掛区分	コンクリート圧碎機 15 cm 以下	250	220	160	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下	190	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下						
全体掘削厚		40 cm以下	40 cmを超え 80 cm以下	80 cmを超え 120 cm以下																					
復旧層数		2 層	3 層以上 5 層以下	4 層以上 6 層以下																					
歩掛区分	コンクリート圧碎機 15 cm 以下	250	220	160																					
	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下		190																						
	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下																								
	(m2/日)																								
	<table><tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>2 層</td><td>3 層以上 4 層以下</td><td>5 層</td></tr><tr><td>歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cm以下</td><td>360</td><td>270</td><td>220</td></tr><tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>2 層</td><td>3 層以上 4 層以下</td><td>5 層以上 6 層以下</td></tr><tr><td rowspan="2">歩掛区分</td><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cmを超え 80 cm以下</td><td>260</td><td>210</td><td>170</td></tr><tr><td>バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 80 cmを超え 120 cm以下</td><td>200</td><td>170</td><td>140</td></tr></table>	復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層	歩掛区分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cm以下	360	270	220	復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層以上 6 層以下	歩掛区分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cmを超え 80 cm以下	260	210	170	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 80 cmを超え 120 cm以下	200	170	140
復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層																					
歩掛区分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cm以下	360	270	220																					
復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層以上 6 層以下																					
歩掛区分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cmを超え 80 cm以下	260	210	170																					
	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 80 cmを超え 120 cm以下	200	170	140																					
	作業日当り標準作業量 (総施工量 1,000 m2 以上) (m2/日)																								
	<table><tr><td colspan="2">全体掘削厚</td><td>40 cm以下</td><td>40 cmを超え 80 cm以下</td><td>80 cmを超え 120 cm以下</td></tr><tr><td colspan="2">復旧層数</td><td>2 層</td><td>3 層以上 5 層以下</td><td>4 層以上 6 層以下</td></tr><tr><td rowspan="3">歩掛区分</td><td>コンクリート圧碎機 15 cm 以下</td><td rowspan="3">260</td><td>220</td><td>180</td></tr><tr><td>コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下</td><td>210</td><td rowspan="2">170</td></tr><tr><td>コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下</td><td>200</td></tr></table>	全体掘削厚		40 cm以下	40 cmを超え 80 cm以下	80 cmを超え 120 cm以下	復旧層数		2 層	3 層以上 5 層以下	4 層以上 6 層以下	歩掛区分	コンクリート圧碎機 15 cm 以下	260	220	180	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下	210	170	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下	200				
全体掘削厚		40 cm以下	40 cmを超え 80 cm以下	80 cmを超え 120 cm以下																					
復旧層数		2 層	3 層以上 5 層以下	4 層以上 6 層以下																					
歩掛区分	コンクリート圧碎機 15 cm 以下	260	220	180																					
	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 15 cm を超え 30 cm以下		210	170																					
	コンクリート圧碎機・大型 ブレーカ 30 cm を超え 40 cm以下		200																						
	(注) 1. 復旧層数は, 即日復旧を行う (路床～表層まで) の全層数とする。 2. 作業量は, とりこわし～復旧までの作業量とする。																								

工 種 名	設 定 内 容				
道路打換え工	作業日当り標準作業量（総施工量 1,000 m2 以上）（m2/日）				
	復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層
	歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cm以下	380	300	240
	復旧層数		2 層	3 層以上 4 層以下	5 層以上 6 層以下
	歩 掛 区 分	バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 40 cmを超え 80 cm以下	270	230	180
		バックホウによる直接掘削積込・掘削 全体厚 80 cmを超え 120 cm以下	210	170	
	(注) 1. 復旧層数は、即日復旧を行う（路床～表層まで）の全層数とする。 2. 作業量は、とりこわし～復旧までの作業量とする。				
	(参考) 各作業単独の場合の作業量				
	作 業 名	舗装版厚さ	掘削深さ 又は総施工量	作業日当り 標準作業量	
	直接掘削積込	—	40cm 以下	606 m2／日	
40cm を越え 80cm 以下			368 m2／日		
80cm を越え 120cm 以下			258 m2／日		
とりこわし掘削積込	15cm 以下	40cm 以下	379 m2／日		
		40cm を越え 80cm 以下	311 m2／日		
		80cm を越え 120cm 以下	263 m2／日		
	15cm を越え 30cm 以下	40cm 以下	356 m2／日		
		40cm を越え 80cm 以下	296 m2／日		
		80cm を越え 120cm 以下	253 m2／日		
	30cm を越え 40cm 以下	40cm 以下	318 m2／日		
		40cm を越え 80cm 以下	270 m2／日		
		80cm を越え 120cm 以下	233 m2／日		
不陸整正 (路床又は路盤の補足材敷均し転圧)		1000m2 未満	1,724 m2／日		
		1000m2 以上	2,000 m2／日		
路盤の敷均し転圧		1000m2 未満	1,724 m2/日・層		
		1000m2 以上	2,000 m2/日・層		
舗装の敷均し転圧		1000m2 未満	1,351 m2/日・層		
		1000m2 以上	2,000 m2/日・層		
路上路盤再生工	該当工種の基準内に記載。				
アスファルト注入工	該当工種の基準内に記載。				

工 種 名	設 定 内 容															
舗装版クラック補修工	① 舗装版クラック補修															
	<table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>クラック補修</td><td>620 m／日</td><td></td></tr><tr><td>クラック防止シート張</td><td>930 m／日</td><td></td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要	クラック補修	620 m／日		クラック防止シート張	930 m／日							
	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要													
	クラック補修	620 m／日														
クラック防止シート張	930 m／日															
道路付属構造物塗替工	① 道路付属構造物塗替工															
	<table><tr><th>作 業 種 別</th><th>構造物区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">素地調整</td><td>ポール類</td><td>78 m2／日</td></tr><tr><td>防護柵類</td><td>100 m2／日</td></tr><tr><td>落石防止柵類</td><td>73 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">付属構造物塗替</td><td>ポール類</td><td>89 m2／日・回</td></tr><tr><td>防護柵類・落石防止柵類</td><td>121 m2／日・回</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、塗装工4名の場合。	作 業 種 別	構造物区分	作業日当り標準作業量	素地調整	ポール類	78 m2／日	防護柵類	100 m2／日	落石防止柵類	73 m2／日	付属構造物塗替	ポール類	89 m2／日・回	防護柵類・落石防止柵類	121 m2／日・回
作 業 種 別	構造物区分	作業日当り標準作業量														
素地調整	ポール類	78 m2／日														
	防護柵類	100 m2／日														
	落石防止柵類	73 m2／日														
付属構造物塗替	ポール類	89 m2／日・回														
	防護柵類・落石防止柵類	121 m2／日・回														
張紙防止塗装工	① 張紙防止塗装															
	<table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ケレン作業</td><td>14 m2／日</td></tr><tr><td>張紙防止塗装（1層当り）</td><td>32 m2／日</td></tr></table>	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	ケレン作業	14 m2／日	張紙防止塗装（1層当り）	32 m2／日									
作 業 種 別	作業日当り標準作業量															
ケレン作業	14 m2／日															
張紙防止塗装（1層当り）	32 m2／日															
貼紙防止シート工	① 貼紙防止シート工															
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>31 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	31 m2／日													
作業日当り標準作業量	31 m2／日															

工 種 名		設 定 内 容	
床版補強工			
① 鋼板接着工法			
工 種 名		作業日当り 標準作業量	摘 要
下 地 処 理 工		66 m2／日	施工量は、鋼板取付面積とする。
ア ン カ ー 設 置 工		419 本／日	本歩掛には、野書作業を含む。
鋼 板 取 付 工 (スプライス板取付工含む)		39 m2／日	本歩掛には、鋼板の現場内小運搬を含む。
シ ー ル 工		301 m／日	施工量は、シール延長とする。 本歩掛には、注入エア抜きパイプの設置を含む。
注 入 工		59 m2／日	施工量は、鋼板取付面積とスプライス板取付面積とする。
仕 上 工		144 m2／日	施工量は、鋼板取付面積とする。 本歩掛には、注入エア抜きパイプの除去を含む。
② 増桁架設工法			
工 種 名		作業日当り 標準作業量	摘 要
既 設 部 材 撤 去 工		0.4 t／日	
現 場 削 孔 工		120 箇所／日	
下 地 処 理 工		17 m2／日	施工量は、増桁取付面積とする。 本歩掛には、野書作業を含む。
増桁取付工	障 害 無 し	3.5 t／日	施工量は、主桁、副部材の質量とする。 本歩掛には、高力ボルトの仮締めを含む。 障害とは、ガス管、水道管、通信ケーブル等の 施工上支障をきたす占用物件をいう。
	障 害 有 り	2.7 t／日	
ボ ル ト 締 工		310 本／日	
シ ー ル 工		79 m／日	施工量は、シール延長とする。 本歩掛には、注入エア抜きパイプ設置を含む。
注 入 工		12 m2／日	施工量は、増桁取付面積とする。
仕 上 工		140 m／日	施工量は、シール延長とする。 本歩掛には、注入エア抜きパイプの除去を含む。
③ 炭素繊維接着工法			
工 種 名		作業日当り 標準作業量	摘 要
下 地 処 理 工		52.1 m2／日	施工量は、補強対象面積とする。
プ ラ イ マ ー 工	全 面 貼 り	96.3 m2／日	施工量は、炭素繊維投影面積とする。本 歩掛には、養生を含む。
	格 子 貼 り	94.7 m2／日	
不 陸 修 正 工	全 面 貼 り	49.7 m2／日	施工量は、炭素繊維投影面積とする。本 歩掛には、養生を含む。
	格 子 貼 り	42.4 m2／日	
炭 素 繊 維 シ ー ト 接 着 工	全 面 貼 り	36.3 m2／日	施工量は、炭素繊維接着面積とする。本 歩掛には、墨出し及び養生を含む。
	格 子 貼 り	34.0 m2／日	
仕 上 げ 塗 装 工		88.7 m2／日	施工量は、炭素繊維投影面積とする。

工 種 名	設 定 内 容
床版補強工	④ クラック処理工
	作業日当り標準作業量 22 m/日
	⑤ 足場工
	工 種 名 作業日当り標準作業量
	足場 (板張防護含む) 桁高 1.5m 以上 - 33 m ² /日
	桁高 1.5m 未満 - 38 m ² /日
	朝顔 - 両側設置 227 m ² /日
	片側設置 455 m ² /日
	防護工 板張防護 両側設置 278 m ² /日
	片側設置 556 m ² /日
橋梁補強工（鋼板巻立て）（１）（２）	① 橋梁補強工（鋼板巻立て）
	作 業 種 別 作業日当り標準作業量
	足場設置・撤去(枠組足場(手摺先行型)) 72 掛 m ² /日
	鋼板取付 10 m ² /日
	現場溶接 すみ肉脚長 6mm 15 m/日
	板厚 6～10mm 7 m/日
	板厚 12～13mm 3 m/日
	板厚 14～15mm 3 m/日
	板厚 16～19mm 2 m/日
	板厚 21～22mm 1 m/日
橋梁補強工（コンクリート巻立て）（１）（２）	① 橋梁補強工（コンクリート巻立て）
	作 業 種 別 作業日当り標準作業量
	足場設置・撤去(枠組足場(手摺先行型)) 72 掛 m ² /日
	下地処理 36 m ² /日
	一般型枠製作・設置・撤去 26 m ² /日
	合板円形型枠製作・設置・撤去 13 m ² /日
	コンクリート打設 43 m ³ /日
	(箇所/日)
	削孔機械名 電動ハンマドリル ハンドドリル（空圧式）
	削 孔 径(mm) 20 以上 30 未満 30 以上 50 以下
	削 孔 深(m) 0.2 以上 0.4 以下 0.3 以上 0.6 未満 0.6 以上 0.9 以下
	作業日当り標準作業量 127 77 56

工 種 名	設 定 内 容																														
橋梁地覆補修工	① とりこわし	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1.4 m3／日</td></tr></table> (注) 旧高欄の撤去，鉄筋の切断，破砕片除去・集積及び運搬車の積込みを含む。		作業日当り標準作業量	1.4 m3／日																										
	作業日当り標準作業量	1.4 m3／日																													
	② 鉄筋	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.36 t／日</td></tr></table> (注) 現場加工及び組立を含む。		作業日当り標準作業量	0.36 t／日																										
	作業日当り標準作業量	0.36 t／日																													
	③ コンクリート	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>0.76 m3／日</td></tr></table> (注) 人力による打設，型枠（側板部及び底板部）の製作，設置・撤去，はく離剤塗布及び養生作業を含む。		作業日当り標準作業量	0.76 m3／日																										
作業日当り標準作業量	0.76 m3／日																														
④ 足場・防護	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>31 m2／日</td></tr></table>		作業日当り標準作業量	31 m2／日																											
作業日当り標準作業量	31 m2／日																														
橋梁補修工 (支承受替工)	① 支承受替（鋼橋及びPC橋） <table><tr><th>工 種 名</th><th colspan="3">1 基 当 り 標 準 作 業 日 数</th></tr><tr><td rowspan="9">支 承 取 替</td><td>鋼橋－鋼製支承 (150 t 以下)</td><td>－</td><td>5 日／基</td></tr><tr><td>鋼橋－ゴム支承 (150 t 以下)</td><td>－</td><td>4 日／基</td></tr><tr><td>PC橋－ゴム支承 (200 t 以下)</td><td>－</td><td>4 日／基</td></tr><tr><td rowspan="3">鋼橋－鋼製支承 (150 t を超え250 t 以下)</td><td>鈑 桁</td><td>7 日／基</td></tr><tr><td>1 箱 桁 2 沓</td><td>8 日／基</td></tr><tr><td>1 箱 桁 1 沓</td><td>11 日／基</td></tr><tr><td rowspan="3">鋼橋－鋼製支承 (250 t を超え320 t 以下)</td><td>鈑 桁</td><td>8 日／基</td></tr><tr><td>1 箱 桁 2 沓</td><td>11 日／基</td></tr><tr><td>1 箱 桁 1 沓</td><td>13 日／基</td></tr></table>			工 種 名	1 基 当 り 標 準 作 業 日 数			支 承 取 替	鋼橋－鋼製支承 (150 t 以下)	－	5 日／基	鋼橋－ゴム支承 (150 t 以下)	－	4 日／基	PC橋－ゴム支承 (200 t 以下)	－	4 日／基	鋼橋－鋼製支承 (150 t を超え250 t 以下)	鈑 桁	7 日／基	1 箱 桁 2 沓	8 日／基	1 箱 桁 1 沓	11 日／基	鋼橋－鋼製支承 (250 t を超え320 t 以下)	鈑 桁	8 日／基	1 箱 桁 2 沓	11 日／基	1 箱 桁 1 沓	13 日／基
工 種 名	1 基 当 り 標 準 作 業 日 数																														
支 承 取 替	鋼橋－鋼製支承 (150 t 以下)	－	5 日／基																												
	鋼橋－ゴム支承 (150 t 以下)	－	4 日／基																												
	PC橋－ゴム支承 (200 t 以下)	－	4 日／基																												
	鋼橋－鋼製支承 (150 t を超え250 t 以下)	鈑 桁	7 日／基																												
		1 箱 桁 2 沓	8 日／基																												
		1 箱 桁 1 沓	11 日／基																												
	鋼橋－鋼製支承 (250 t を超え320 t 以下)	鈑 桁	8 日／基																												
		1 箱 桁 2 沓	11 日／基																												
		1 箱 桁 1 沓	13 日／基																												
② 足場	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>19 m2／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工 5 名の場合。		作業日当り標準作業量	19 m2／日																											
作業日当り標準作業量	19 m2／日																														
橋梁補修工 (現場溶接鋼桁補強工)	① 現場溶接鋼桁補強 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>14 m／日</td></tr></table> (注) 上表の作業日当り標準作業量は，計測から現場溶接までの一連作業である。			作業日当り標準作業量	14 m／日																										
作業日当り標準作業量	14 m／日																														
橋梁補修工(ひび割れ補修工(充てん工法))	該当工種の計算式（1 橋当り施工日数）を参照。																														
橋梁補修工(ひび割れ補修工(低圧注入工法))	該当工種の計算式（1 橋当り施工日数）を参照。																														
橋梁補修工(断面修復工(左官工法))	該当工種の計算式（1 橋当り施工日数）を参照。																														
橋梁補修工(表面被覆工(塗装工法))	該当工種の計算式（1 橋当り施工日数）を参照。																														

工 種 名	設 定 内 容			
落橋防止装置工	① コンクリート削孔			
	削孔機械名	削孔径(mm)	削孔深(mm)	作業日当り標準作業量
	コアボーリング マシン	50 以下	500 以下	20 孔／日
			500 超え 1000 以下	12 孔／日
		50 超え 110 以下	500 以下	11 孔／日
			500 超え 1000 以下	9 孔／日
			1000 超え 1300 以下	6 孔／日
		ハンマドリル	20 以上 30 以下	200 以下
	さく岩機 (ハンドハンマ)	20 以上 50 以下	200 超え 500 以下	48 孔／日
			500 超え 800 以下	38 孔／日
	② アンカー			
	適用アンカー材径(mm)		打込み方向	作業日当り標準作業量
	アンカー材径 25 以下		下方向	68 本／日
			横方向	53 本／日
	アンカー材径 25 超え 40 以下		下方向	51 本／日
			横方向	36 本／日
	アンカー材径 40 超え 55 以下		下方向	37 本／日
			横方向	24 本／日
	アンカー材径 55 超え 70 以下		下方向	26 本／日
			横方向	15 本／日
	アンカー材径 70 超え 85 以下		下方向	18 本／日
			横方向	9 本／日
	③ 充填補修			
	作業日当り標準作業量		59 孔／日	

工 種 名	設 定 内 容																																																					
道路除草工	① 除草																																																					
	<table><tr><th>作業形態</th><th>飛び石防護の有無</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">肩掛け式</td><td>有り</td><td>2,250 m2／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>2,250 m2／日</td></tr><tr><td>ハンドガイド式</td><td>－</td><td>6,120 m2／日</td></tr><tr><td>人力除草</td><td>－</td><td>1,000 m2／日</td></tr></table>	作業形態	飛び石防護の有無	作業日当り標準作業量	肩掛け式	有り	2,250 m2／日	無し	2,250 m2／日	ハンドガイド式	－	6,120 m2／日	人力除草	－	1,000 m2／日																																							
	作業形態	飛び石防護の有無	作業日当り標準作業量																																																			
	肩掛け式	有り	2,250 m2／日																																																			
		無し	2,250 m2／日																																																			
	ハンドガイド式	－	6,120 m2／日																																																			
	人力除草	－	1,000 m2／日																																																			
	② 集草																																																					
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>2,760 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	2,760 m2／日																																																			
	作業日当り標準作業量	2,760 m2／日																																																				
	③ 積込運搬																																																					
	(1) 積込																																																					
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>2,050 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	2,050 m2／日																																																			
	作業日当り標準作業量	2,050 m2／日																																																				
	(2) 運搬																																																					
	<table><tr><th>運搬機種・規格</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="13">ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級</td><td>6.5km 以下</td><td>4,917 m2／日</td></tr><tr><td>11.5km 以下</td><td>4,214 m2／日</td></tr><tr><td>14.5km 以下</td><td>3,688 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>3,278 m2／日</td></tr><tr><td>19.5km 以下</td><td>2,950 m2／日</td></tr><tr><td>21.5km 以下</td><td>2,682 m2／日</td></tr><tr><td>23.5km 以下</td><td>2,458 m2／日</td></tr><tr><td>26.0km 以下</td><td>2,185 m2／日</td></tr><tr><td>28.0km 以下</td><td>1,967 m2／日</td></tr><tr><td>30.0km 以下</td><td>1,788 m2／日</td></tr><tr><td>32.0km 以下</td><td>1,639 m2／日</td></tr><tr><td>34.5km 以下</td><td>1,475 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>1,341 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="10">パッカー車〔回転式〕積載容量4m3</td><td>4.0km 以下</td><td>3,100 m2／日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>2,818 m2／日</td></tr><tr><td>10.0km 以下</td><td>2,583 m2／日</td></tr><tr><td>14.0km 以下</td><td>2,296 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>2,067 m2／日</td></tr><tr><td>21.0km 以下</td><td>1,879 m2／日</td></tr><tr><td>25.0km 以下</td><td>1,676 m2／日</td></tr><tr><td>29.0km 以下</td><td>1,512 m2／日</td></tr><tr><td>33.0km 以下</td><td>1,348 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>1,216 m2／日</td></tr></table>	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	4,917 m2／日	11.5km 以下	4,214 m2／日	14.5km 以下	3,688 m2／日	17.5km 以下	3,278 m2／日	19.5km 以下	2,950 m2／日	21.5km 以下	2,682 m2／日	23.5km 以下	2,458 m2／日	26.0km 以下	2,185 m2／日	28.0km 以下	1,967 m2／日	30.0km 以下	1,788 m2／日	32.0km 以下	1,639 m2／日	34.5km 以下	1,475 m2／日	35.0km 以下	1,341 m2／日	パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	3,100 m2／日	7.0km 以下	2,818 m2／日	10.0km 以下	2,583 m2／日	14.0km 以下	2,296 m2／日	17.5km 以下	2,067 m2／日	21.0km 以下	1,879 m2／日	25.0km 以下	1,676 m2／日	29.0km 以下	1,512 m2／日	33.0km 以下	1,348 m2／日	35.0km 以下	1,216 m2／日		
	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量																																																			
	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	4,917 m2／日																																																			
		11.5km 以下	4,214 m2／日																																																			
		14.5km 以下	3,688 m2／日																																																			
		17.5km 以下	3,278 m2／日																																																			
		19.5km 以下	2,950 m2／日																																																			
		21.5km 以下	2,682 m2／日																																																			
23.5km 以下		2,458 m2／日																																																				
26.0km 以下		2,185 m2／日																																																				
28.0km 以下		1,967 m2／日																																																				
30.0km 以下		1,788 m2／日																																																				
32.0km 以下		1,639 m2／日																																																				
34.5km 以下		1,475 m2／日																																																				
35.0km 以下		1,341 m2／日																																																				
パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	3,100 m2／日																																																				
	7.0km 以下	2,818 m2／日																																																				
	10.0km 以下	2,583 m2／日																																																				
	14.0km 以下	2,296 m2／日																																																				
	17.5km 以下	2,067 m2／日																																																				
	21.0km 以下	1,879 m2／日																																																				
	25.0km 以下	1,676 m2／日																																																				
	29.0km 以下	1,512 m2／日																																																				
	33.0km 以下	1,348 m2／日																																																				
	35.0km 以下	1,216 m2／日																																																				
(注) 1. ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。																																																						
2. パッカー車の運転日当り運転時間は、6.2hとする。																																																						

工 種 名	設 定 内 容																																																			
道路除草工	④ 機械除草（肩掛式）・集草・積込運搬																																																			
	<table><tr><th>運搬機種・規格</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="13">ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級</td><td>6.5km 以下</td><td>990 m2／日</td></tr><tr><td>11.5km 以下</td><td>958 m2／日</td></tr><tr><td>14.5km 以下</td><td>928 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>899 m2／日</td></tr><tr><td>19.5km 以下</td><td>873 m2／日</td></tr><tr><td>21.5km 以下</td><td>848 m2／日</td></tr><tr><td>23.5km 以下</td><td>824 m2／日</td></tr><tr><td>26.0km 以下</td><td>791 m2／日</td></tr><tr><td>28.0km 以下</td><td>760 m2／日</td></tr><tr><td>30.0km 以下</td><td>732 m2／日</td></tr><tr><td>32.0km 以下</td><td>706 m2／日</td></tr><tr><td>34.5km 以下</td><td>674 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>644 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="9">パッカー車〔回転式〕積載容量4m3</td><td>4.0km 以下</td><td>885 m2／日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>861 m2／日</td></tr><tr><td>10.0km 以下</td><td>838 m2／日</td></tr><tr><td>14.0km 以下</td><td>805 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>775 m2／日</td></tr><tr><td>21.0km 以下</td><td>747 m2／日</td></tr><tr><td>25.0km 以下</td><td>712 m2／日</td></tr><tr><td>29.0km 以下</td><td>681 m2／日</td></tr><tr><td>33.0km 以下</td><td>646 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>614 m2／日</td></tr></table>	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	990 m2／日	11.5km 以下	958 m2／日	14.5km 以下	928 m2／日	17.5km 以下	899 m2／日	19.5km 以下	873 m2／日	21.5km 以下	848 m2／日	23.5km 以下	824 m2／日	26.0km 以下	791 m2／日	28.0km 以下	760 m2／日	30.0km 以下	732 m2／日	32.0km 以下	706 m2／日	34.5km 以下	674 m2／日	35.0km 以下	644 m2／日	パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	885 m2／日	7.0km 以下	861 m2／日	10.0km 以下	838 m2／日	14.0km 以下	805 m2／日	17.5km 以下	775 m2／日	21.0km 以下	747 m2／日	25.0km 以下	712 m2／日	29.0km 以下	681 m2／日	33.0km 以下	646 m2／日	35.0km 以下	614 m2／日
	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量																																																	
	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	990 m2／日																																																	
		11.5km 以下	958 m2／日																																																	
		14.5km 以下	928 m2／日																																																	
		17.5km 以下	899 m2／日																																																	
		19.5km 以下	873 m2／日																																																	
		21.5km 以下	848 m2／日																																																	
		23.5km 以下	824 m2／日																																																	
		26.0km 以下	791 m2／日																																																	
		28.0km 以下	760 m2／日																																																	
		30.0km 以下	732 m2／日																																																	
		32.0km 以下	706 m2／日																																																	
		34.5km 以下	674 m2／日																																																	
		35.0km 以下	644 m2／日																																																	
	パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	885 m2／日																																																	
		7.0km 以下	861 m2／日																																																	
		10.0km 以下	838 m2／日																																																	
		14.0km 以下	805 m2／日																																																	
		17.5km 以下	775 m2／日																																																	
		21.0km 以下	747 m2／日																																																	
		25.0km 以下	712 m2／日																																																	
		29.0km 以下	681 m2／日																																																	
		33.0km 以下	646 m2／日																																																	
	35.0km 以下	614 m2／日																																																		
	(注) 1. ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。 2. パッカー車の運転日当り運転時間は、6.2hとする。																																																			
⑤ 機械除草（肩掛式）・集草																																																				
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1,240 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	1,240 m2／日																																																		
作業日当り標準作業量	1,240 m2／日																																																			

工 種 名	設 定 内 容																																																			
道路除草工	⑥ 機械除草（ハンドガイド式）・集草・積込運搬																																																			
	<table><tr><th>運搬機種・規格</th><th>運搬距離</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="14">ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級</td><td>6.5km 以下</td><td>1,372 m2／日</td></tr><tr><td>11.5km 以下</td><td>1,311 m2／日</td></tr><tr><td>14.5km 以下</td><td>1,255 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>1,204 m2／日</td></tr><tr><td>19.5km 以下</td><td>1,156 m2／日</td></tr><tr><td>21.5km 以下</td><td>1,113 m2／日</td></tr><tr><td>23.5km 以下</td><td>1,072 m2／日</td></tr><tr><td>26.0km 以下</td><td>1,017 m2／日</td></tr><tr><td>28.0km 以下</td><td>967 m2／日</td></tr><tr><td>30.0km 以下</td><td>922 m2／日</td></tr><tr><td>32.0km 以下</td><td>880 m2／日</td></tr><tr><td>34.5km 以下</td><td>831 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>786 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="9">パッカー車〔回転式〕積載容量4m3</td><td>4.0km 以下</td><td>1,179 m2／日</td></tr><tr><td>7.0km 以下</td><td>1,136 m2／日</td></tr><tr><td>10.0km 以下</td><td>1,096 m2／日</td></tr><tr><td>14.0km 以下</td><td>1,040 m2／日</td></tr><tr><td>17.5km 以下</td><td>991 m2／日</td></tr><tr><td>21.0km 以下</td><td>945 m2／日</td></tr><tr><td>25.0km 以下</td><td>891 m2／日</td></tr><tr><td>29.0km 以下</td><td>842 m2／日</td></tr><tr><td>33.0km 以下</td><td>789 m2／日</td></tr><tr><td>35.0km 以下</td><td>742 m2／日</td></tr></table> （注） 1．ダンプトラックの運転日当り運転時間は、5.9hとする。 2．パッカー車の運転日当り運転時間は、6.2hとする。	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	1,372 m2／日	11.5km 以下	1,311 m2／日	14.5km 以下	1,255 m2／日	17.5km 以下	1,204 m2／日	19.5km 以下	1,156 m2／日	21.5km 以下	1,113 m2／日	23.5km 以下	1,072 m2／日	26.0km 以下	1,017 m2／日	28.0km 以下	967 m2／日	30.0km 以下	922 m2／日	32.0km 以下	880 m2／日	34.5km 以下	831 m2／日	35.0km 以下	786 m2／日	パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	1,179 m2／日	7.0km 以下	1,136 m2／日	10.0km 以下	1,096 m2／日	14.0km 以下	1,040 m2／日	17.5km 以下	991 m2／日	21.0km 以下	945 m2／日	25.0km 以下	891 m2／日	29.0km 以下	842 m2／日	33.0km 以下	789 m2／日	35.0km 以下	742 m2／日
	運搬機種・規格	運搬距離	作業日当り標準作業量																																																	
	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t積級	6.5km 以下	1,372 m2／日																																																	
		11.5km 以下	1,311 m2／日																																																	
		14.5km 以下	1,255 m2／日																																																	
		17.5km 以下	1,204 m2／日																																																	
		19.5km 以下	1,156 m2／日																																																	
		21.5km 以下	1,113 m2／日																																																	
		23.5km 以下	1,072 m2／日																																																	
		26.0km 以下	1,017 m2／日																																																	
		28.0km 以下	967 m2／日																																																	
		30.0km 以下	922 m2／日																																																	
		32.0km 以下	880 m2／日																																																	
		34.5km 以下	831 m2／日																																																	
		35.0km 以下	786 m2／日																																																	
		パッカー車〔回転式〕積載容量4m3	4.0km 以下	1,179 m2／日																																																
	7.0km 以下		1,136 m2／日																																																	
	10.0km 以下		1,096 m2／日																																																	
	14.0km 以下		1,040 m2／日																																																	
	17.5km 以下		991 m2／日																																																	
	21.0km 以下		945 m2／日																																																	
	25.0km 以下		891 m2／日																																																	
	29.0km 以下		842 m2／日																																																	
	33.0km 以下		789 m2／日																																																	
	35.0km 以下	742 m2／日																																																		
	⑦ 機械除草（ハンドガイド式）・集草																																																			
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1,902 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	1,902 m2／日																																																		
作業日当り標準作業量	1,902 m2／日																																																			
路面清掃工（機械清掃）	① 路面清掃工 …… 該当工種の計算式を参照。																																																			
	② 歩道掃き出し																																																			
	<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.2 km／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	3.2 km／日																																																	
	作業日当り標準作業量	3.2 km／日																																																		
（注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。																																																				
路面清掃工（都市型ブラシ式）	該当工種の計算式を参照。																																																			

工 種 名	設 定 内 容																				
路面清掃工（人力清掃工）	① 人力清掃工 <table> <tr> <th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td rowspan="3">路肩部</td><td>少ない 1.3 km／日</td></tr> <tr> <td>普通 0.25 km／日</td></tr> <tr> <td>多い 0.16 km／日</td></tr> <tr> <td rowspan="3">歩道</td><td>少ない 2,000 m²／日</td></tr> <tr> <td>普通 164 m²／日</td></tr> <tr> <td>多い 109 m²／日</td></tr> <tr> <td rowspan="3">横断歩道橋・地下道</td><td>少ない 1,000 m²／日</td></tr> <tr> <td>普通 455 m²／日</td></tr> <tr> <td>多い 286 m²／日</td></tr> <tr> <td rowspan="2">中央分離帯</td><td>普通 3,333 m²／日</td></tr> <tr> <td>多い 909 m²／日</td></tr> <tr> <td rowspan="2">歩道（草の処理）</td><td>普通 63 m²／日</td></tr> <tr> <td>多い 53 m²／日</td></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作 業 名	作業日当り標準作業量	路肩部	少ない 1.3 km／日	普通 0.25 km／日	多い 0.16 km／日	歩道	少ない 2,000 m ² ／日	普通 164 m ² ／日	多い 109 m ² ／日	横断歩道橋・地下道	少ない 1,000 m ² ／日	普通 455 m ² ／日	多い 286 m ² ／日	中央分離帯	普通 3,333 m ² ／日	多い 909 m ² ／日	歩道（草の処理）	普通 63 m ² ／日	多い 53 m ² ／日
作 業 名	作業日当り標準作業量																				
路肩部	少ない 1.3 km／日																				
	普通 0.25 km／日																				
	多い 0.16 km／日																				
歩道	少ない 2,000 m ² ／日																				
	普通 164 m ² ／日																				
	多い 109 m ² ／日																				
横断歩道橋・地下道	少ない 1,000 m ² ／日																				
	普通 455 m ² ／日																				
	多い 286 m ² ／日																				
中央分離帯	普通 3,333 m ² ／日																				
	多い 909 m ² ／日																				
歩道（草の処理）	普通 63 m ² ／日																				
	多い 53 m ² ／日																				
ガードレール清掃工	① ガードレール清掃作業 <table> <tr> <th>支柱清掃の有無</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>無し</td><td>8.5 km／日</td></tr> <tr> <td>有り</td><td>6.7 km／日</td></tr> </table> （注）ガードレール清掃車の運転日当り運転時間は、6.1hとする。 ② ガードレール清掃作業（移動） <table> <tr> <th>作業日当り標準作業量</th><th>183 km／日</th></tr> </table> （注）ガードレール清掃車の運転日当り運転時間は、6.1hとする。	支柱清掃の有無	作業日当り標準作業量	無し	8.5 km／日	有り	6.7 km／日	作業日当り標準作業量	183 km／日												
支柱清掃の有無	作業日当り標準作業量																				
無し	8.5 km／日																				
有り	6.7 km／日																				
作業日当り標準作業量	183 km／日																				
ガードレール清掃工（自動追従型）	該当工種の計算式を参照。																				
視線誘導標清掃工	① 視線誘導標清掃工 <table> <tr> <th>清掃対象</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>視線誘導標(支柱付)</td><td>189 本／日</td></tr> <tr> <td>視線誘導標(ガードレール用及び頭部のみ)</td><td>286 本／日</td></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	清掃対象	作業日当り標準作業量	視線誘導標(支柱付)	189 本／日	視線誘導標(ガードレール用及び頭部のみ)	286 本／日														
清掃対象	作業日当り標準作業量																				
視線誘導標(支柱付)	189 本／日																				
視線誘導標(ガードレール用及び頭部のみ)	286 本／日																				
ガードパイプ清掃工	① ガードパイプ清掃 <table> <tr> <th>作業日当り標準作業量</th><th>333 m／日</th></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	作業日当り標準作業量	333 m／日																		
作業日当り標準作業量	333 m／日																				
橋梁付属物清掃工	該当工種の計算式を参照。																				

工 種 名	設 定 内 容																	
管渠清掃工，側溝清掃工及び集水桝清掃工（組合せ作業）	① 管渠清掃工（機械清掃）清掃作業																	
	<table><tr><th>体積率</th><th>管 径</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">50%未満</td><td>φ 200 mm以上 φ 400 mm未満</td><td>245 m／日</td></tr><tr><td>φ 400 mm以上 φ 800 mm未満</td><td>135 m／日</td></tr><tr><td>φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下</td><td>88 m／日</td></tr><tr><td rowspan="3">50%以上</td><td>φ 200 mm以上 φ 400 mm未満</td><td>163 m／日</td></tr><tr><td>φ 400 mm以上 φ 800 mm未満</td><td>103 m／日</td></tr><tr><td>φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下</td><td>63 m／日</td></tr></table>	体積率	管 径	作業日当り標準作業量	50%未満	φ 200 mm以上 φ 400 mm未満	245 m／日	φ 400 mm以上 φ 800 mm未満	135 m／日	φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下	88 m／日	50%以上	φ 200 mm以上 φ 400 mm未満	163 m／日	φ 400 mm以上 φ 800 mm未満	103 m／日	φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下	63 m／日
	体積率	管 径	作業日当り標準作業量															
	50%未満	φ 200 mm以上 φ 400 mm未満	245 m／日															
		φ 400 mm以上 φ 800 mm未満	135 m／日															
		φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下	88 m／日															
	50%以上	φ 200 mm以上 φ 400 mm未満	163 m／日															
		φ 400 mm以上 φ 800 mm未満	103 m／日															
		φ 800 mm以上 φ 1,000 mm以下	63 m／日															
	(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																	
② 管渠清掃工（機械清掃）移動																		
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	201 km／日																
作業日当り標準作業量	201 km／日																	
(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																		
③ 側溝清掃工（機械清掃の組合せ作業）清掃作業																		
<table><tr><th>体積率</th><th>側溝断面積</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">50%未満</td><td>0.125m2 未満</td><td>181 m／日</td></tr><tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>119 m／日</td></tr><tr><td rowspan="2">50%以上</td><td>0.125m2 未満</td><td>132 m／日</td></tr><tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>81 m／日</td></tr></table>	体積率	側溝断面積	作業日当り標準作業量	50%未満	0.125m2 未満	181 m／日	0.125m2 以上 0.5m2 未満	119 m／日	50%以上	0.125m2 未満	132 m／日	0.125m2 以上 0.5m2 未満	81 m／日					
体積率	側溝断面積	作業日当り標準作業量																
50%未満	0.125m2 未満	181 m／日																
	0.125m2 以上 0.5m2 未満	119 m／日																
50%以上	0.125m2 未満	132 m／日																
	0.125m2 以上 0.5m2 未満	81 m／日																
(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																		
④ 側溝清掃工（機械清掃の組合せ作業）移動																		
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	201 km／日																
作業日当り標準作業量	201 km／日																	
(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																		
⑤ 集水桝清掃工（機械清掃の組合せ作業）清掃作業																		
<table><tr><th>側溝断面積</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>0.125m2 未満</td><td>132 個／日</td></tr><tr><td>0.125m2 以上 0.5m2 未満</td><td>56 個／日</td></tr></table>	側溝断面積	作業日当り標準作業量	0.125m2 未満	132 個／日	0.125m2 以上 0.5m2 未満	56 個／日												
側溝断面積	作業日当り標準作業量																	
0.125m2 未満	132 個／日																	
0.125m2 以上 0.5m2 未満	56 個／日																	
(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																		
⑥ 集水桝清掃工(機械清掃の組合せ作業)移動																		
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>201 km／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	201 km／日																
作業日当り標準作業量	201 km／日																	
(注) 排水管清掃車の運転日当り運転時間は，6.7hとする。																		

工 種 名	設 定 内 容													
側溝清掃（単独作業）	① 側溝清掃（単独作業）清掃作業 …… 該当工種の計算式を参照。 ② 側溝清掃（単独作業）移動 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>195 km／日</td></tr></table> （注）排水管清掃車の運転日当り運転時間は、6.5hとする。 ③ 側溝蓋設置・撤去 <table><tr><td>側溝蓋質量</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>40kg 以上 80kg 以下</td><td>333 枚／日</td></tr><tr><td>80kg を超え 120kg 以下</td><td>250 枚／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	195 km／日	側溝蓋質量	作業日当り標準作業量	40kg 以上 80kg 以下	333 枚／日	80kg を超え 120kg 以下	250 枚／日					
作業日当り標準作業量	195 km／日													
側溝蓋質量	作業日当り標準作業量													
40kg 以上 80kg 以下	333 枚／日													
80kg を超え 120kg 以下	250 枚／日													
側溝清掃工（人力清掃工）	① 側溝清掃（人力清掃工） <table><tr><td>側溝蓋規格</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>無蓋</td><td>37 m／日</td></tr><tr><td>有蓋 コンクリート蓋</td><td>22 m／日</td></tr><tr><td>有蓋 鋼蓋</td><td>24 m／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	側溝蓋規格	作業日当り標準作業量	無蓋	37 m／日	有蓋 コンクリート蓋	22 m／日	有蓋 鋼蓋	24 m／日					
側溝蓋規格	作業日当り標準作業量													
無蓋	37 m／日													
有蓋 コンクリート蓋	22 m／日													
有蓋 鋼蓋	24 m／日													
集水桝清掃工（単独作業）	該当工種の計算式を参照。													
集水桝清掃工（人力清掃工）	①集水桝清掃工(人力清掃工) <table><tr><td>蓋の有無及び土砂厚</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td>有蓋 25cm 未満</td><td>13 箇所／日</td></tr><tr><td>有蓋 25cm 以上</td><td>9.9 箇所／日</td></tr><tr><td>無蓋 25cm 未満</td><td>23 箇所／日</td></tr><tr><td>無蓋 25cm 以上</td><td>12 箇所／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員1名の場合。	蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量	有蓋 25cm 未満	13 箇所／日	有蓋 25cm 以上	9.9 箇所／日	無蓋 25cm 未満	23 箇所／日	無蓋 25cm 以上	12 箇所／日			
蓋の有無及び土砂厚	作業日当り標準作業量													
有蓋 25cm 未満	13 箇所／日													
有蓋 25cm 以上	9.9 箇所／日													
無蓋 25cm 未満	23 箇所／日													
無蓋 25cm 以上	12 箇所／日													
トンネル清掃工	該当工種の計算式を参照。													
トンネル照明器具清掃工	① トンネル照明器具清掃工 <table><tr><td colspan="2">作 業 種 別</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr><tr><td rowspan="2">機械施工</td><td>表面清掃</td><td>2,600 m／日</td></tr><tr><td>表面及び内面清掃</td><td>111 灯／日</td></tr><tr><td rowspan="2">人力施工</td><td>表面清掃</td><td>111 灯／日</td></tr><tr><td>表面及び内面清掃</td><td>55 灯／日</td></tr></table> （注）機械施工の施工単位は、トンネル延長とする。	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	機械施工	表面清掃	2,600 m／日	表面及び内面清掃	111 灯／日	人力施工	表面清掃	111 灯／日	表面及び内面清掃	55 灯／日
作 業 種 別		作業日当り標準作業量												
機械施工	表面清掃	2,600 m／日												
	表面及び内面清掃	111 灯／日												
人力施工	表面清掃	111 灯／日												
	表面及び内面清掃	55 灯／日												
トンネル漏水対策工	① 面導水 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>34 m2／日</td></tr></table> ② 線導水 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>10 m／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	34 m2／日	作業日当り標準作業量	10 m／日									
作業日当り標準作業量	34 m2／日													
作業日当り標準作業量	10 m／日													

工 種 名	設 定 内 容		
沓座拡幅工	① 沓座拡幅工		
	作業名	作業日当り標準作業量	
	チップング	13 m2／日	
	アンカーボルト挿入	333 本／日	
桁連結工	① 桁連結工		
	作 業 名	作 業 条 件	作業日当り標準作業量
	芯出し素地調整	－	10 m2／日
	現 場 孔 明	10 本以上／箇所	80 本／日
		作業性の悪い箇所等	40 本／日
	連 結 板 取 付	－	10 箇所／日
	現 場 溶 接	溶接脚長 8～12mm	5.6 m／日
	ボ ル ト 締	10 本以上／箇所	200 本／日
		作業性の悪い箇所等	100 本／日
	欠損部補修工	① 加熱合材補修工	
日施工量		作業日当り標準作業量	
1t 未満		1.0 t／日	
1t 以上 2t 未満		1.6 t／日	
2t 以上 5t 未満		4.2 t／日	
5t 以上 20t 未満		9.1 t／日	
② 常温合材補修工			
日施工量		作業日当り標準作業量	
0.3t 未満		0.3 t／日	
路肩整正（人力による土はね）		① 路肩整正（人力による土はね）	
	作業日当り標準作業量	37 m2／日	
	（注）作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。		
コンクリート接着工	① コンクリート接着工		
	作業日当り標準作業量	10 m2／日	
	（注）作業日当り標準作業量は、普通作業員 1 名の場合。		

工 種 名	設 定 内 容												
防護柵復旧工	① ガードレール復旧 <table> <tr> <th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>コンクリート，土中建込用支柱及びレール</td><td>3.6 m／日</td></tr> <tr> <td>レールのみ</td><td>5.0 m／日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は，普通作業員1名の場合。 ② ガードパイプ復旧 <table> <tr> <th>作業区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>コンクリート，土中建込用支柱及びパイプ</td><td>4.9 m／日</td></tr> <tr> <td>パイプのみ</td><td>6.8 m／日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は，普通作業員1名の場合。	作業区分	作業日当り標準作業量	コンクリート，土中建込用支柱及びレール	3.6 m／日	レールのみ	5.0 m／日	作業区分	作業日当り標準作業量	コンクリート，土中建込用支柱及びパイプ	4.9 m／日	パイプのみ	6.8 m／日
作業区分	作業日当り標準作業量												
コンクリート，土中建込用支柱及びレール	3.6 m／日												
レールのみ	5.0 m／日												
作業区分	作業日当り標準作業量												
コンクリート，土中建込用支柱及びパイプ	4.9 m／日												
パイプのみ	6.8 m／日												
アスファルト舗装版削孔工	① アスファルト舗装版削孔 <table> <tr> <th>作業日当り標準作業量</th><th>19 孔／日</th></tr> </table>	作業日当り標準作業量	19 孔／日										
作業日当り標準作業量	19 孔／日												
仮覆工板設置・撤去工	① 仮覆工板設置・撤去工 <table> <tr> <th>施工場所区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>出入り口切下げ部（100 を超え 170kg 以下/枚）</td><td>17 枚／日</td></tr> <tr> <td>横断歩道部（40 を超え 70kg 以下/枚）</td><td>28 枚／日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は，普通作業員1名の場合。	施工場所区分	作業日当り標準作業量	出入り口切下げ部（100 を超え 170kg 以下/枚）	17 枚／日	横断歩道部（40 を超え 70kg 以下/枚）	28 枚／日						
施工場所区分	作業日当り標準作業量												
出入り口切下げ部（100 を超え 170kg 以下/枚）	17 枚／日												
横断歩道部（40 を超え 70kg 以下/枚）	28 枚／日												
道路付属物のコンクリート面塗装工	① 道路付属物のコンクリート面塗装工 <table> <tr> <th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>コンクリート面清掃</td><td>56 m²／日</td></tr> <tr> <td>下塗り</td><td>53 m²／日・回</td></tr> <tr> <td>上塗り</td><td>50 m²／日・回</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は，塗装工1名の場合。	作業名	作業日当り標準作業量	コンクリート面清掃	56 m ² ／日	下塗り	53 m ² ／日・回	上塗り	50 m ² ／日・回				
作業名	作業日当り標準作業量												
コンクリート面清掃	56 m ² ／日												
下塗り	53 m ² ／日・回												
上塗り	50 m ² ／日・回												
横断歩道橋補修工	① 横断歩道橋補修工 <table> <tr> <th>作業名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>既設橋面舗装はぎ取り</td><td>50 m²／日</td></tr> <tr> <td>ノンスリップ撤去</td><td>667 m／日</td></tr> <tr> <td>ノンスリップ設置（穴あけ共）</td><td>143 m／日</td></tr> </table>	作業名	作業日当り標準作業量	既設橋面舗装はぎ取り	50 m ² ／日	ノンスリップ撤去	667 m／日	ノンスリップ設置（穴あけ共）	143 m／日				
作業名	作業日当り標準作業量												
既設橋面舗装はぎ取り	50 m ² ／日												
ノンスリップ撤去	667 m／日												
ノンスリップ設置（穴あけ共）	143 m／日												
調整ポスト取付工	① 調整ポスト取付工 <table> <tr> <th>支柱間隔</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>4m</td><td>20 m／日</td></tr> <tr> <td>2m</td><td>10 m／日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は，普通作業員1名の場合。	支柱間隔	作業日当り標準作業量	4m	20 m／日	2m	10 m／日						
支柱間隔	作業日当り標準作業量												
4m	20 m／日												
2m	10 m／日												

工 種 名	設 定 内 容										
共同溝工（１） （構造物単位）	① 共同溝工（１層１連 土被り：1.5＜DH≤3.0）適用歩掛										
	<table><tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>①</td><td>3.6 m3／日</td></tr><tr><td>②</td><td>3.8 m3／日</td></tr><tr><td>③</td><td>3.2 m3／日</td></tr><tr><td>④</td><td>3.3 m3／日</td></tr></table>	歩掛区分	作業日当り標準作業量	①	3.6 m3／日	②	3.8 m3／日	③	3.2 m3／日	④	3.3 m3／日
	歩掛区分	作業日当り標準作業量									
	①	3.6 m3／日									
	②	3.8 m3／日									
	③	3.2 m3／日									
	④	3.3 m3／日									
	② 共同溝工（１層２連 土被り：1.5＜DH≤3.0）適用歩掛										
	<table><tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>③</td><td>3.9 m3／日</td></tr><tr><td>④</td><td>4.0 m3／日</td></tr></table>	歩掛区分	作業日当り標準作業量	③	3.9 m3／日	④	4.0 m3／日				
	歩掛区分	作業日当り標準作業量									
③	3.9 m3／日										
④	4.0 m3／日										
③ 共同溝工（１層２連 土被り：3.0＜DH≤5.0）適用歩掛											
<table><tr><th>歩掛区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>⑤</td><td>4.7 m3／日</td></tr><tr><td>⑥</td><td>4.8 m3／日</td></tr><tr><td>⑦</td><td>4.5 m3／日</td></tr><tr><td>⑧</td><td>4.5 m3／日</td></tr></table>	歩掛区分	作業日当り標準作業量	⑤	4.7 m3／日	⑥	4.8 m3／日	⑦	4.5 m3／日	⑧	4.5 m3／日	
歩掛区分	作業日当り標準作業量										
⑤	4.7 m3／日										
⑥	4.8 m3／日										
⑦	4.5 m3／日										
⑧	4.5 m3／日										
(注) １． 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業が含まれている。 なお、鉄筋工及び防水工・防水層保護工については、別途計上する。 ・基礎砕石工 敷均し・転圧 ・型枠工（均しコンクリート） 製作・設置・撤去 ・コンクリート工（均しコンクリート） 打設・養生 ・型枠工（歩床部コンクリート） 製作・設置・撤去 ・コンクリート工（歩床部コンクリート） 打設・養生 ・型枠工（躯体部コンクリート）製作・設置・撤去 ・コンクリート工（躯体部コンクリート） 打設・養生 ・足場・支保工 設置・撤去 ・伸縮継手 目地・止水板設置 ２． 上表の作業日当り標準作業量は、作業の重複を考慮した１スパンでの値 であり、工程の算出にあたっては、施工場所、スパン数を考慮して決定す るものとする。 ３． 作業日当り標準作業量は、基礎砕石工（基礎砕石）、コンクリート工（均 しコンクリート・歩床部コンクリート）、伸縮継手（目地・止水板）、足場 の施工の有無にかかわらず適用出来る。 ４． コンクリート養生は、散水、給熱を問わず適用する。 ５． 上表の作業日当り標準作業量は、本体コンクリート（躯体部）換算値で ある。											

工 種 名	設 定 内 容
共同溝工（２）	① 躯体部コンクリートポンプ車打設
	作業日当り標準作業量 87 m ³ /日
	② 掘削工
	覆 工 方 式 作業日当り標準作業量
	土 留 覆 工 124 m ³
	土 留 開 放 171 m ³
	③ ダンプトラック運搬
	DID 区間の 有無 運搬距離 作業日当り標準作業量
	無し
	有り
	④ 伸縮継手
	作業内容 作業日当り標準作業量
	止水板設置 21 m/日
	目地材設置 24 m ² /日
	(注) 作業日当り標準作業量は、型わく工 1 名の場合。

工 種 名	設 定 内 容																																							
共同溝工（２）	⑤ 防水工・防水層保護工																																							
	<table><tr><th colspan="4">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="6">防水工</td><td rowspan="3">一般部及び換気部</td><td>底頂部</td><td>-</td><td>83 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">側部</td><td>内防水</td><td>34 m2／日</td></tr><tr><td>外防水</td><td>53 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="3">特殊部</td><td>底頂部</td><td>-</td><td>29 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">側部</td><td>内防水</td><td>32 m2／日</td></tr><tr><td>外防水</td><td>43 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="4">防水層保護工</td><td rowspan="2">一般部及び換気部</td><td>底頂部</td><td>-</td><td>200 m2／日</td></tr><tr><td>側部</td><td>-</td><td>63 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">特殊部</td><td>底頂部</td><td>-</td><td>83 m2／日</td></tr><tr><td>側部</td><td>-</td><td>53 m2／日</td></tr></table>	作 業 名				作業日当り標準作業量	防水工	一般部及び換気部	底頂部	-	83 m2／日	側部	内防水	34 m2／日	外防水	53 m2／日	特殊部	底頂部	-	29 m2／日	側部	内防水	32 m2／日	外防水	43 m2／日	防水層保護工	一般部及び換気部	底頂部	-	200 m2／日	側部	-	63 m2／日	特殊部	底頂部	-	83 m2／日	側部	-	53 m2／日
	作 業 名				作業日当り標準作業量																																			
	防水工	一般部及び換気部	底頂部	-	83 m2／日																																			
			側部	内防水	34 m2／日																																			
				外防水	53 m2／日																																			
		特殊部	底頂部	-	29 m2／日																																			
			側部	内防水	32 m2／日																																			
				外防水	43 m2／日																																			
	防水層保護工	一般部及び換気部	底頂部	-	200 m2／日																																			
			側部	-	63 m2／日																																			
		特殊部	底頂部	-	83 m2／日																																			
			側部	-	53 m2／日																																			
	⑥ 埋戻工																																							
	<table><tr><th>施工区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>施工区分①（人力・水締め）</td><td>4.8 m3／日</td></tr><tr><td>施工区分②（ブルドーザ・振動ローラ＋タンパ）</td><td>30 m3／日</td></tr><tr><td>施工区分③（ブルドーザ・タイヤローラ）</td><td>50 m3／日</td></tr></table>	施工区分	作業日当り標準作業量	施工区分①（人力・水締め）	4.8 m3／日	施工区分②（ブルドーザ・振動ローラ＋タンパ）	30 m3／日	施工区分③（ブルドーザ・タイヤローラ）	50 m3／日																															
施工区分	作業日当り標準作業量																																							
施工区分①（人力・水締め）	4.8 m3／日																																							
施工区分②（ブルドーザ・振動ローラ＋タンパ）	30 m3／日																																							
施工区分③（ブルドーザ・タイヤローラ）	50 m3／日																																							
⑦ 基礎砕石工																																								
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>167 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	167 m2／日																																						
作業日当り標準作業量	167 m2／日																																							
⑧ 足場・支保工																																								
<table><tr><th>作 業 種 別</th><th>支保耐力(f)kN／m2</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>足場工</td><td>-</td><td>67 掛 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">パイプサポート支保設置撤去</td><td>f ≤ 40</td><td>38 空 m3／日</td></tr><tr><td>40 < f ≤ 60</td><td>24 空 m3／日</td></tr><tr><td rowspan="2">くさび結合支保設置・撤去</td><td>f ≤ 40</td><td>71 空 m3／日</td></tr><tr><td>40 < f ≤ 80</td><td>48 空 m3／日</td></tr></table>	作 業 種 別	支保耐力(f)kN／m2	作業日当り標準作業量	足場工	-	67 掛 m2／日	パイプサポート支保設置撤去	f ≤ 40	38 空 m3／日	40 < f ≤ 60	24 空 m3／日	くさび結合支保設置・撤去	f ≤ 40	71 空 m3／日	40 < f ≤ 80	48 空 m3／日																								
作 業 種 別	支保耐力(f)kN／m2	作業日当り標準作業量																																						
足場工	-	67 掛 m2／日																																						
パイプサポート支保設置撤去	f ≤ 40	38 空 m3／日																																						
	40 < f ≤ 60	24 空 m3／日																																						
くさび結合支保設置・撤去	f ≤ 40	71 空 m3／日																																						
	40 < f ≤ 80	48 空 m3／日																																						
⑨ 型枠工																																								
<table><tr><th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>一般型枠 製作・設置・撤去</td><td>26 m2／日</td></tr><tr><td>均し基礎コンクリート型枠 製作・設置・撤去</td><td>43 m2／日</td></tr><tr><td>撤去しない埋設型枠 製作・設置・撤去</td><td>42 m2／日</td></tr><tr><td>歩床部型枠 製作・設置・撤去</td><td>63 m2／日</td></tr></table>	作業内容	作業日当り標準作業量	一般型枠 製作・設置・撤去	26 m2／日	均し基礎コンクリート型枠 製作・設置・撤去	43 m2／日	撤去しない埋設型枠 製作・設置・撤去	42 m2／日	歩床部型枠 製作・設置・撤去	63 m2／日																														
作業内容	作業日当り標準作業量																																							
一般型枠 製作・設置・撤去	26 m2／日																																							
均し基礎コンクリート型枠 製作・設置・撤去	43 m2／日																																							
撤去しない埋設型枠 製作・設置・撤去	42 m2／日																																							
歩床部型枠 製作・設置・撤去	63 m2／日																																							
⑩ 人力打設（歩床部）																																								
<table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>7.1 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	7.1 m3／日																																						
作業日当り標準作業量	7.1 m3／日																																							

工 種 名	設 定 内 容										
共同溝工（２）	⑪ 養生工 <table border="1"> <tr> <th>打設条件</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>躯体部</td><td>77 m³/日</td></tr> <tr> <td>均しコンクリート部</td><td>32 m³/日</td></tr> <tr> <td>歩床部</td><td>16 m³/日</td></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は、普通作業員１名の場合。 ⑫ 覆工板開閉作業 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>36 m²/日</td></tr> </table>	打設条件	作業日当り標準作業量	躯体部	77 m ³ /日	均しコンクリート部	32 m ³ /日	歩床部	16 m ³ /日	作業日当り標準作業量	36 m ² /日
打設条件	作業日当り標準作業量										
躯体部	77 m ³ /日										
均しコンクリート部	32 m ³ /日										
歩床部	16 m ³ /日										
作業日当り標準作業量	36 m ² /日										
防水工・防水層保護工	共同溝工（２）⑤ 防水工・防水層保護工による。										
電線共同溝工 （Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ）	① 舗装版破碎積込 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>101 m²/日</td></tr> </table> ② 床掘り <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>41 m²/日</td></tr> </table> ③ 埋戻し・締固め <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>58 m²/日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	101 m ² /日	作業日当り標準作業量	41 m ² /日	作業日当り標準作業量	58 m ² /日				
作業日当り標準作業量	101 m ² /日										
作業日当り標準作業量	41 m ² /日										
作業日当り標準作業量	58 m ² /日										

工 種 名	設 定 内 容			
電線共同溝工 (C・C・BOX)	④ 運搬(電線共同溝)			
	積載区分	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量
	土砂	無し	0.5km 以下	40 m3/日
			2.0km 以下	33 m3/日
			3.5km 以下	29 m3/日
			6.5km 以下	22 m3/日
			11.5km 以下	17 m3/日
			26.5km 以下	11 m3/日
			60.0km 以下	6 m3/日
		有り	0.5km 以下	40 m3/日
			2.0km 以下	33 m3/日
			3.5km 以下	29 m3/日
			6.0km 以下	22 m3/日
			10.5km 以下	17 m3/日
			22.5km 以下	11 m3/日
			60.0km 以下	6 m3/日
	アスファルト塊	無し	0.5km 以下	31 m3/日
			2.0km 以下	26 m3/日
			3.5km 以下	22 m3/日
			6.5km 以下	17 m3/日
			11.5km 以下	13 m3/日
			26.5km 以下	9 m3/日
			60.0km 以下	4 m3/日
		有り	0.5km 以下	31 m3/日
			2.0km 以下	26 m3/日
			3.5km 以下	22 m3/日
			6.0km 以下	17 m3/日
			10.5km 以下	13 m3/日
			22.5km 以下	9 m3/日
			60.0km 以下	4 m3/日
	⑤ 軽量鋼矢板設置・撤去			
	作業日当り標準作業量		121 m／日	
	⑥ 覆工板設置・撤去			
	作業日当り標準作業量		206 m2／日	

工 種 名	設 定 内 容																	
電線共同溝工 (C・C・BOX)	⑦ 管路材設置																	
	<table><tr><th>作業区分</th><th>設置区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>露出部</td><td>単管</td><td>56 m／日</td></tr><tr><td rowspan="5">埋設部</td><td>単管設置</td><td>93 m／日</td></tr><tr><td>F A管設置</td><td>99 m／日</td></tr><tr><td>ボディ管(φ200mm)設置 (さや管含む)</td><td>63 m／日</td></tr><tr><td>ボディ管(φ250mm)設置 (さや管含む)</td><td>36 m／日</td></tr><tr><td>多条管</td><td>136 m／日</td></tr></table>	作業区分	設置区分	作業日当り標準作業量	露出部	単管	56 m／日	埋設部	単管設置	93 m／日	F A管設置	99 m／日	ボディ管(φ200mm)設置 (さや管含む)	63 m／日	ボディ管(φ250mm)設置 (さや管含む)	36 m／日	多条管	136 m／日
	作業区分	設置区分	作業日当り標準作業量															
	露出部	単管	56 m／日															
	埋設部	単管設置	93 m／日															
		F A管設置	99 m／日															
		ボディ管(φ200mm)設置 (さや管含む)	63 m／日															
		ボディ管(φ250mm)設置 (さや管含む)	36 m／日															
		多条管	136 m／日															
	⑧ プレキャストボックスブロック設置																	
<table><tr><th>ボックスブロック1個当り質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>1,000kg 以下</td><td>12 個／日</td></tr><tr><td>1,000kg 超～4,000kg 以下</td><td>6 個／日</td></tr><tr><td>4,000kg 超～11,000kg 以下</td><td>4 個／日</td></tr></table>	ボックスブロック1個当り質量	作業日当り標準作業量	1,000kg 以下	12 個／日	1,000kg 超～4,000kg 以下	6 個／日	4,000kg 超～11,000kg 以下	4 個／日										
ボックスブロック1個当り質量	作業日当り標準作業量																	
1,000kg 以下	12 個／日																	
1,000kg 超～4,000kg 以下	6 個／日																	
4,000kg 超～11,000kg 以下	4 個／日																	
⑨ 蓋設置																		
<table><tr><th>蓋 1組当り質量</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>200kg 以下</td><td>9 組／日</td></tr><tr><td>200kg 超～800kg 以下</td><td>7 組／日</td></tr><tr><td>800kg 超～2,000kg 以下</td><td>5 組／日</td></tr></table>	蓋 1組当り質量	作業日当り標準作業量	200kg 以下	9 組／日	200kg 超～800kg 以下	7 組／日	800kg 超～2,000kg 以下	5 組／日										
蓋 1組当り質量	作業日当り標準作業量																	
200kg 以下	9 組／日																	
200kg 超～800kg 以下	7 組／日																	
800kg 超～2,000kg 以下	5 組／日																	
情報ボックス工	① 舗装版破碎																	
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>248 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	248 m2／日															
作業日当り標準作業量	248 m2／日																	
	② 床掘り																	
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>57 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	57 m3／日															
作業日当り標準作業量	57 m3／日																	
	③ 埋戻し																	
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>35 m3／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	35 m3／日															
作業日当り標準作業量	35 m3／日																	
	④ 基礎材																	
	<table><tr><th>作業日当り標準作業量</th><td>135 m2／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	135 m2／日															
作業日当り標準作業量	135 m2／日																	

工 種 名	設 定 内 容			
情報ボックス工	⑤ 埋設部管路材設置			
	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	作業日当り標準作業量
	コンクリート製	V U ・ F E P 管類	本体管設置	98 m／日
			さや管設置	218 m／日
	合成樹脂製	V U 管類	本体管及びさや管設置	68 m／日
		F E P 管類	本体管設置	146 m／日
			さや管設置	358 m／日
	鋼 製	—	本体管設置	507 m／日
	⑥ 露出部管路材設置			
	作業日当り標準作業量		21 m／日	
	⑦ ハンドホール			
	作業日当り標準作業量		4 個／日	
観測井戸設置工	① 観測井戸設置工			
	作業名		作業日当り標準作業量	
	観測井戸設置		100 m／日	
	ハンドホール設置・撤去		26 箇所／日	

工 種 名	設 定 内 容																						
トンネル工 (インバート工)	① インバート工 <table border="1"> <tr> <th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>インバート工 掘削工～コンクリート工まで</td><td>2.4 m/日</td></tr> </table> (注) 上表は、インバート厚が 50 cm の場合で、鉄筋は無筋の場合の標準作業量である。	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	インバート工 掘削工～コンクリート工まで	2.4 m/日																		
作 業 種 別	作業日当り標準作業量																						
インバート工 掘削工～コンクリート工まで	2.4 m/日																						
トンネル工(NATM)〔発破工法〕	① 掘削工等 … 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量) ② 覆工コンクリート等 … 該当工種の基準内に記載。 ③ インバート敷均し・締固め工(路床) <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>104 m³/日</td></tr> </table> ④ 埋戻し材の積込み <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>131 m³/日</td></tr> </table> ⑤ 吹付プラント設備組立・解体 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>1 基当り標準作業日数</th></tr> <tr> <td>組立</td><td>9.0 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>5.0 日/基</td></tr> </table> ⑥ スライドセントル組立・解体 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>1 基当り標準作業日数</th></tr> <tr> <td>組立</td><td>8.5 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>6.0 日/基</td></tr> </table> ⑦ 防水工作業台車組立・解体 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>1 基当り標準作業日数</th></tr> <tr> <td>組立</td><td>2.5 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>1.5 日/基</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	104 m ³ /日	作業日当り標準作業量	131 m ³ /日	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	9.0 日/基	解体	5.0 日/基	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	8.5 日/基	解体	6.0 日/基	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	2.5 日/基	解体	1.5 日/基
作業日当り標準作業量	104 m ³ /日																						
作業日当り標準作業量	131 m ³ /日																						
作業内容	1 基当り標準作業日数																						
組立	9.0 日/基																						
解体	5.0 日/基																						
作業内容	1 基当り標準作業日数																						
組立	8.5 日/基																						
解体	6.0 日/基																						
作業内容	1 基当り標準作業日数																						
組立	2.5 日/基																						
解体	1.5 日/基																						
トンネル(NATM)〔機械掘削工法〕	① 掘削工等 … 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量) ② 覆工コンクリート等 … 該当工種の基準内に記載。																						
トンネル濁水処理工	① 濁水処理設備設置撤去 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>1 箇所当り標準作業日数</th></tr> <tr> <td>設置</td><td>4 日/箇所</td></tr> <tr> <td>撤去</td><td>3 日/箇所</td></tr> </table>	作業内容	1 箇所当り標準作業日数	設置	4 日/箇所	撤去	3 日/箇所																
作業内容	1 箇所当り標準作業日数																						
設置	4 日/箇所																						
撤去	3 日/箇所																						

工 種 名	設 定 内 容						
トンネル工(NA TM)坑口工(D IIIパターン)	① 掘削工等 … 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量) ② 覆工コンクリート等 … 該当工種の基準内に記載。						
トンネル工(NA TM)非常駐車帯 工	① 掘削工等 … 該当工種の基準内に記載。(時間当り掘削量) ② 覆工コンクリート等 … 該当工種の基準内に記載。 ③ スライドセントル組立・解体 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>1 基当り標準作業日数</th></tr> <tr> <td>組立</td><td>5.5 日／基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>3.9 日／基</td></tr> </table>	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	5.5 日／基	解体	3.9 日／基
作業内容	1 基当り標準作業日数						
組立	5.5 日／基						
解体	3.9 日／基						
トンネル工(NA TM)仮設備工 (防音扉工)	① 防音扉設置撤去 <table border="1"> <tr> <th>作業内容</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>設置</td><td>22 m²／日</td></tr> <tr> <td>撤去</td><td>67 m²／日</td></tr> </table>	作業内容	作業日当り標準作業量	設置	22 m ² ／日	撤去	67 m ² ／日
作業内容	作業日当り標準作業量						
設置	22 m ² ／日						
撤去	67 m ² ／日						

工 種 名	設 定 内 容																														
小断面トンネル工(N A T M)	① 掘削工等 …… 該当工種の基準内に記載。(過当り掘削量) ② 覆工コンクリート等 …… 該当工種の基準内に記載。 ③ 空気圧縮機設備設置撤去 <table border="1"> <tr> <td>作業内容</td><td>2 台当り標準作業日数</td></tr> <tr> <td>設置</td><td>3.0 日/2 台</td></tr> <tr> <td>撤去</td><td>1.0 日/2 台</td></tr> </table> ④ 吹付プラント設備組立・解体 <table border="1"> <tr> <td>作業内容</td><td>1 基当り標準作業日数</td></tr> <tr> <td>組立</td><td>9.0 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>5.0 日/基</td></tr> </table> ⑤ スライドセントル組立・解体 <table border="1"> <tr> <td>作業内容</td><td>1 基当り標準作業日数</td></tr> <tr> <td>組立</td><td>8.5 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>6.0 日/基</td></tr> </table> ⑥ 防水工作業台車組立・解体 <table border="1"> <tr> <td>作業内容</td><td>1 基当り標準作業日数</td></tr> <tr> <td>組立</td><td>2.5 日/基</td></tr> <tr> <td>解体</td><td>1.5 日/基</td></tr> </table> ⑦ 坑外送気管敷設・撤去 <table border="1"> <tr> <td>作業内容</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>敷設</td><td>20 m/日</td></tr> <tr> <td>撤去</td><td>33 m/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、配管工 1 名の場合。	作業内容	2 台当り標準作業日数	設置	3.0 日/2 台	撤去	1.0 日/2 台	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	9.0 日/基	解体	5.0 日/基	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	8.5 日/基	解体	6.0 日/基	作業内容	1 基当り標準作業日数	組立	2.5 日/基	解体	1.5 日/基	作業内容	作業日当り標準作業量	敷設	20 m/日	撤去	33 m/日
作業内容	2 台当り標準作業日数																														
設置	3.0 日/2 台																														
撤去	1.0 日/2 台																														
作業内容	1 基当り標準作業日数																														
組立	9.0 日/基																														
解体	5.0 日/基																														
作業内容	1 基当り標準作業日数																														
組立	8.5 日/基																														
解体	6.0 日/基																														
作業内容	1 基当り標準作業日数																														
組立	2.5 日/基																														
解体	1.5 日/基																														
作業内容	作業日当り標準作業量																														
敷設	20 m/日																														
撤去	33 m/日																														
トンネル裏込め注入工	該当工種の基準内に記載。																														
道路除雪工	現場条件により設定																														
鋼橋製作工	現場条件により設定																														
橋梁塗装工(工場塗装 及び塗装前処理)	① 塗装前処理 <table border="1"> <tr> <td>二次調整の区分</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>動力工具処理</td><td>43 m²/日</td></tr> <tr> <td>製品プラスト</td><td>16 m²/日</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、橋梁塗装工 1 名の場合。 ② 工場塗装 <table border="1"> <tr> <td>箱桁構造内面歩掛補正</td><td>作業日当り標準作業量</td></tr> <tr> <td>箱桁構造内面(密閉部)</td><td>45 m²/日・回</td></tr> <tr> <td>上記以外</td><td>71 m²/日・回</td></tr> </table> (注) 作業日当り標準作業量は、橋梁塗装工 1 名の場合。	二次調整の区分	作業日当り標準作業量	動力工具処理	43 m ² /日	製品プラスト	16 m ² /日	箱桁構造内面歩掛補正	作業日当り標準作業量	箱桁構造内面(密閉部)	45 m ² /日・回	上記以外	71 m ² /日・回																		
二次調整の区分	作業日当り標準作業量																														
動力工具処理	43 m ² /日																														
製品プラスト	16 m ² /日																														
箱桁構造内面歩掛補正	作業日当り標準作業量																														
箱桁構造内面(密閉部)	45 m ² /日・回																														
上記以外	71 m ² /日・回																														

工 種 名	設 定 内 容																																																																																										
鋼橋架設工	① 支承工, 地組工, 本締め工 … 該当工種の計算式(日当り施工量)を参照。																																																																																										
	② 架設工 … 該当工種の計算式(日当り架設質量)を参照。																																																																																										
	③ 落橋防止装置取付工 … 該当工種の基準内に記載。																																																																																										
	④ 架設用機械設備据付・解体 … 該当工種の計算式(所要日数又は日当り施工量)を参照。																																																																																										
	⑤ 検査路架設工																																																																																										
	(1) 架設工 … 該当工種の基準内に記載。																																																																																										
	(2) 足場工(検査路)吊足場																																																																																										
	作業日当り標準作業量		17 m2/日																																																																																								
	(注) 作業日当り標準作業量は, 橋梁特殊工1名の場合。																																																																																										
	(3) アンカーボルト設置 … 該当工種の基準内に記載。																																																																																										
	⑥ 鋼床版現場溶接工 … 該当工種の計算式(日当り施工量)を参照。																																																																																										
	⑦ 鋼床版Uリブ現場溶接工 … 該当工種の基準内に記載。																																																																																										
⑧ 足場工, 防護工及び登り栈橋工																																																																																											
<table><tr><th colspan="2" rowspan="2">作 業 名</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>設置</th><th>撤去</th></tr><tr><td rowspan="4">主体足場 (パイプ吊足場)</td><td>ブレードガーダ・ボックスガーダ</td><td>172 m2/日</td><td>250 m2/日</td></tr><tr><td>ラーメン</td><td>132 m2/日</td><td>208 m2/日</td></tr><tr><td>トラス, アーチ</td><td>89 m2/日</td><td>147 m2/日</td></tr><tr><td>少数I桁</td><td>179 m2/日</td><td>250 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">主体足場(ワイヤーブリッジ転用足場)</td><td>ブレードガーダ・ボックスガーダ</td><td>111 m2/日</td><td>179 m2/日</td></tr><tr><td>トラス, アーチ</td><td>69 m2/日</td><td>119 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="3">中段足場</td><td>ブレードガーダ・ボックスガーダ ラーメン トラス, アーチ</td><td>385 m2/日</td><td>714 m2/日</td></tr><tr><td>少数I桁</td><td>417 m2/日</td><td>556 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="4">安全通路</td><td>ブレードガーダ・ボックスガーダ</td><td colspan="2">385 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>ラーメン</td><td colspan="2">192 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>トラス, アーチ</td><td colspan="2">185 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>少数I桁</td><td colspan="2">385 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td rowspan="4">部分作業床</td><td>ブレードガーダ・ボックスガーダ</td><td colspan="2">714 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>ラーメン</td><td colspan="2">192 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>トラス, アーチ</td><td colspan="2">172 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td>少数I桁</td><td colspan="2">714 m2/日(設置・撤去)</td></tr><tr><td rowspan="8">朝顔</td><td rowspan="2">ブレードガーダ・ボックスガーダ</td><td>両側朝顔</td><td>357 m2/日</td><td>500 m2/日</td></tr><tr><td>片側朝顔</td><td>714 m2/日</td><td>1,000 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">ラーメン</td><td>両側朝顔</td><td>294 m2/日</td><td>385 m2/日</td></tr><tr><td>片側朝顔</td><td>588 m2/日</td><td>769 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">トラス, アーチ</td><td>両側朝顔</td><td>357 m2/日</td><td>500 m2/日</td></tr><tr><td>片側朝顔</td><td>714 m2/日</td><td>1,000 m2/日</td></tr><tr><td rowspan="2">少数I桁</td><td>両側朝顔</td><td>417 m2/日</td><td>625 m2/日</td></tr><tr><td>片側朝顔</td><td>833 m2/日</td><td>1,250 m2/日</td></tr></table>				作 業 名		作業日当り標準作業量		設置	撤去	主体足場 (パイプ吊足場)	ブレードガーダ・ボックスガーダ	172 m2/日	250 m2/日	ラーメン	132 m2/日	208 m2/日	トラス, アーチ	89 m2/日	147 m2/日	少数I桁	179 m2/日	250 m2/日	主体足場(ワイヤーブリッジ転用足場)	ブレードガーダ・ボックスガーダ	111 m2/日	179 m2/日	トラス, アーチ	69 m2/日	119 m2/日	中段足場	ブレードガーダ・ボックスガーダ ラーメン トラス, アーチ	385 m2/日	714 m2/日	少数I桁	417 m2/日	556 m2/日	安全通路	ブレードガーダ・ボックスガーダ	385 m2/日(設置・撤去)		ラーメン	192 m2/日(設置・撤去)		トラス, アーチ	185 m2/日(設置・撤去)		少数I桁	385 m2/日(設置・撤去)		部分作業床	ブレードガーダ・ボックスガーダ	714 m2/日(設置・撤去)		ラーメン	192 m2/日(設置・撤去)		トラス, アーチ	172 m2/日(設置・撤去)		少数I桁	714 m2/日(設置・撤去)		朝顔	ブレードガーダ・ボックスガーダ	両側朝顔	357 m2/日	500 m2/日	片側朝顔	714 m2/日	1,000 m2/日	ラーメン	両側朝顔	294 m2/日	385 m2/日	片側朝顔	588 m2/日	769 m2/日	トラス, アーチ	両側朝顔	357 m2/日	500 m2/日	片側朝顔	714 m2/日	1,000 m2/日	少数I桁	両側朝顔	417 m2/日	625 m2/日	片側朝顔	833 m2/日	1,250 m2/日
作 業 名		作業日当り標準作業量																																																																																									
		設置	撤去																																																																																								
主体足場 (パイプ吊足場)	ブレードガーダ・ボックスガーダ	172 m2/日	250 m2/日																																																																																								
	ラーメン	132 m2/日	208 m2/日																																																																																								
	トラス, アーチ	89 m2/日	147 m2/日																																																																																								
	少数I桁	179 m2/日	250 m2/日																																																																																								
主体足場(ワイヤーブリッジ転用足場)	ブレードガーダ・ボックスガーダ	111 m2/日	179 m2/日																																																																																								
	トラス, アーチ	69 m2/日	119 m2/日																																																																																								
中段足場	ブレードガーダ・ボックスガーダ ラーメン トラス, アーチ	385 m2/日	714 m2/日																																																																																								
	少数I桁	417 m2/日	556 m2/日																																																																																								
	安全通路	ブレードガーダ・ボックスガーダ	385 m2/日(設置・撤去)																																																																																								
ラーメン		192 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
トラス, アーチ		185 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
少数I桁		385 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
部分作業床	ブレードガーダ・ボックスガーダ	714 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
	ラーメン	192 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
	トラス, アーチ	172 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
	少数I桁	714 m2/日(設置・撤去)																																																																																									
朝顔	ブレードガーダ・ボックスガーダ	両側朝顔	357 m2/日	500 m2/日																																																																																							
		片側朝顔	714 m2/日	1,000 m2/日																																																																																							
	ラーメン	両側朝顔	294 m2/日	385 m2/日																																																																																							
		片側朝顔	588 m2/日	769 m2/日																																																																																							
	トラス, アーチ	両側朝顔	357 m2/日	500 m2/日																																																																																							
		片側朝顔	714 m2/日	1,000 m2/日																																																																																							
	少数I桁	両側朝顔	417 m2/日	625 m2/日																																																																																							
		片側朝顔	833 m2/日	1,250 m2/日																																																																																							
(注) 作業日当り標準作業量は, 橋梁特殊工5名の場合。																																																																																											

工 種 名	設 定 内 容			
鋼橋架設工	作 業 名		作業日当り標準作業量	
			設置	撤去
	側面塗装足場		278 m2／日（設置・撤去）	
	板張防護工	両側朝顔	185 m2／日	417 m2／日
		片側朝顔	200 m2／日	455 m2／日
	シート張防護工	両側朝顔	833 m2／日	1,667 m2／日
		片側朝顔	1,000 m2／日	1,667 m2／日
	シート張防護工 （側面）		1,250 m2／日（設置・撤去）	
	ワイヤーブリッジ防護工		111 m2／日	263 m2／日
	ネット防護工		294 m2／日	385 m2／日
	登り栈橋工	手摺先行工法有り	12 m／日	16 m／日
		手摺先行工法無し	14 m／日	19 m／日
	(注) 作業日当り標準作業量は、橋梁特殊工5名の場合。			
	⑨ 合成床版架設工			
			作業日当り標準作業量	66.7 m2／日
プレビーム桁製作工（現場）	① プレビーム桁製作台工			
			作業日当り標準作業量	2 基／日
	② 主桁製作用足場工			
			作業日当り標準作業量	20 m／日
	③ プレビーム桁製作及び架設工			
	工 種 名		作業日当り標準作業量	
	プレビーム桁製作 主桁応力導入工～ コンクリート工	22m未満	6 日／本	
		22m以上～30m未満	8 日／本	
		30m以上～40m未満	9 日／本	
		40m以上	10 日／本	
(注) 上表は、製作ベースが1箇所の場合の標準作業量であるので、桁製作本数が5～10本の場合は1/2、11～30本の場合は1/3 とすること。				
④ 主桁解体工（分割工法）				
区間長		作業日当り標準作業量		
30m未満		10 本／日		
30m以上		5 本／日		

工 種 名	設 定 内 容														
プレビーム桁架設工	① 架設工 …… 該当工種の基準内に記載。 ② 地組工, 本締め工工 …… 該当工種の計算式(日当り施工量)を参照。 ③ 横桁取付工 …… 該当工種の基準内に記載。 ④ 局部プレストレス工 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>1 径間／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	1 径間／日												
作業日当り標準作業量	1 径間／日														
鋼橋床版工	① 鋼橋床版工 <table><tr><th colspan="2">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="3">型枠(鋼橋床版)</td><td>型枠の補正係数 無し</td><td>20 m2／日</td></tr><tr><td>型枠の補正係数 0.05 以下</td><td>19 m2／日</td></tr><tr><td>型枠の補正係数 0.06 以上 0.10 以下</td><td>18 m2／日</td></tr><tr><td>養生(鋼橋床版)</td><td></td><td>63 m2／日</td></tr></table>	作 業 名		作業日当り標準作業量	型枠(鋼橋床版)	型枠の補正係数 無し	20 m2／日	型枠の補正係数 0.05 以下	19 m2／日	型枠の補正係数 0.06 以上 0.10 以下	18 m2／日	養生(鋼橋床版)		63 m2／日	
作 業 名		作業日当り標準作業量													
型枠(鋼橋床版)	型枠の補正係数 無し	20 m2／日													
	型枠の補正係数 0.05 以下	19 m2／日													
	型枠の補正係数 0.06 以上 0.10 以下	18 m2／日													
養生(鋼橋床版)		63 m2／日													
グレーチング床版架設工及び足場工	該当工種の計算式(100m2 当り架設日数)を参照。														
ポストテンション桁製作工	① ポストテンション桁製作工 <table><tr><th>工 種 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>ポストテンション 桁製作工</td><td>1.2 m3／日</td></tr></table> (注) 上表の作業日当り標準作業量には, 軌道設置撤去, 主桁製作台及び足場設置撤去, 鉄筋加工・組立, 横組シース組立, PCケーブル挿入, 型枠設置・撤去, コンクリート打設・養生, 緊張及びグラウト注入を含んでいる。	工 種 名	作業日当り標準作業量	ポストテンション 桁製作工	1.2 m3／日										
工 種 名	作業日当り標準作業量														
ポストテンション 桁製作工	1.2 m3／日														
プレキャストセグメント主桁組立工	① プレキャストセグメント主桁組立工 <table><tr><th>作 業 種 別</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td rowspan="2">セグメント取卸・配列, 接着剤塗布, 圧着</td><td>1.3 本／日</td><td>3 分割</td></tr><tr><td>1.1 本／日</td><td>5 分割</td></tr><tr><td>PCケーブル加工・挿入, グラウト工</td><td>1.1 本／日</td><td>2,200kN(225t) 型ケーブル</td></tr><tr><td>端部コンクリート工</td><td>9.1 本／日</td><td></td></tr></table> (注) 上表の作業日当り標準作業量には, セグメント取卸しからグラウト注入までの一連作業を含んでいる。	作 業 種 別	作業日当り標準作業量	摘 要	セグメント取卸・配列, 接着剤塗布, 圧着	1.3 本／日	3 分割	1.1 本／日	5 分割	PCケーブル加工・挿入, グラウト工	1.1 本／日	2,200kN(225t) 型ケーブル	端部コンクリート工	9.1 本／日	
作 業 種 別	作業日当り標準作業量	摘 要													
セグメント取卸・配列, 接着剤塗布, 圧着	1.3 本／日	3 分割													
	1.1 本／日	5 分割													
PCケーブル加工・挿入, グラウト工	1.1 本／日	2,200kN(225t) 型ケーブル													
端部コンクリート工	9.1 本／日														
PC橋架設工	① トラッククレーンによる架設 …… 該当工種の基準内に記載。 ② 架設桁による架設 (1) 桁架設, 架設設備据付・解体, 架設機械移動, 軌道設置・撤去 …… 該当工種の基準内に記載。 (2) アンカー工 <table><tr><td>作業日当り標準作業量</td><td>3.3 箇所／日</td></tr></table>	作業日当り標準作業量	3.3 箇所／日												
作業日当り標準作業量	3.3 箇所／日														

工 種 名	設 定 内 容				
P C 橋架設工	③ P C 橋架設工（横組工， P Cコンボ橋）				
	作 業 種 別			作業日当り標準作業量	摘 要
	コンクリート工			40 m ³ ／日	横組工
	鉄筋工			1.1 t／日	横組工
	P C 工	プレテンション桁		148 m／日	横組工
		ポストテンション桁		150 m／日	横組工
	緊張工			27 ケーブル／日	横組工
	P C 板支承工			250 m／日	P Cコンボ橋用
	P C 板仮置工			120 枚／日	P Cコンボ橋用
	P C 板敷設工			50 枚／日	P Cコンボ橋用
	継目工			1,000 m／日	P Cコンボ橋用
	型枠工			8 m ² ／日	P Cコンボ橋用
	(注) 上表の作業日当り標準作業量は， P C 橋架設工の一連作業における各作業に適用する。				
	④ P C 橋架設工（足場工及び防護工）				
	作 業 名				作業日当り標準作業量
桁下足場	ポストテンション桁	両側朝顔	桁高 1.1≦H<1.5	42 m ² ／日	5 人
			桁高 1.5≦H	36 m ² ／日	5 人
		片側朝顔	桁高 1.1≦H<1.5	67 m ² ／日	6 人
			桁高 1.5≦H	55 m ² ／日	6 人
	プレテンション桁	両側朝顔	-	60 m ² ／日	6 人
		片側朝顔	-	64 m ² ／日	6 人
側部足場（スラブ桁橋）				17 m／日	4 人
橋台・橋脚回り足場ブラケット工				11 m／日	4 人
板張防護工		両側朝顔	120 m ² ／日	6 人	
		片側朝顔	150 m ² ／日	6 人	
ネット防護工				200 m ² ／日	4 人
⑤ 支承工，落橋防止工 … 該当工種の基準内に記載。					
P C 橋片持架設工	① P C 橋片持架設工				
	作 業 名		作業日当り標準作業量	摘 要	
	柱頭部工		1 箇所／84 日		
	片持部工		0.33 m／日		
	側径間部		0.3 m／日		
	中央閉合部工		1 箇所／31 日		
(注) 作業日＝供用日数とし，工期算出の際，不稼動係数を掛けない。					
② 作業車引戻工					
作業日当り標準作業量			20 m／日		

工 種 名	設 定 内 容																											
PC橋片持架設工	③ 足場及び防護工 <table><tr><th colspan="3">作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="4">柱頭部 足場工</td><td rowspan="2">手摺先行工法有り</td><td>杭頭部桁高 6m 未満</td><td>14 m2／日</td></tr><tr><td>杭頭部桁高 6m 以上</td><td>7.0 m2／日</td></tr><tr><td rowspan="2">手摺先行工法無し</td><td>杭頭部桁高 6m 未満</td><td>15 m2／日</td></tr><tr><td>杭頭部桁高 6m 以上</td><td>7.7 m2／日</td></tr><tr><td colspan="3">橋側足場工</td><td>29 m／日</td></tr><tr><td colspan="3">橋面手摺工</td><td>93 m／日</td></tr><tr><td colspan="3">防護工</td><td>294 m2／日</td></tr></table> (注) 作業日当り標準作業量は、橋梁特殊工 5 名の場合。	作 業 名			作業日当り標準作業量	柱頭部 足場工	手摺先行工法有り	杭頭部桁高 6m 未満	14 m2／日	杭頭部桁高 6m 以上	7.0 m2／日	手摺先行工法無し	杭頭部桁高 6m 未満	15 m2／日	杭頭部桁高 6m 以上	7.7 m2／日	橋側足場工			29 m／日	橋面手摺工			93 m／日	防護工			294 m2／日
作 業 名			作業日当り標準作業量																									
柱頭部 足場工	手摺先行工法有り	杭頭部桁高 6m 未満	14 m2／日																									
		杭頭部桁高 6m 以上	7.0 m2／日																									
	手摺先行工法無し	杭頭部桁高 6m 未満	15 m2／日																									
		杭頭部桁高 6m 以上	7.7 m2／日																									
橋側足場工			29 m／日																									
橋面手摺工			93 m／日																									
防護工			294 m2／日																									
ポストテンション場所 打ホロースラブ橋工	該当工種の基準内に記載。																											
ポストテンション場所 打箱桁橋工	該当工種の基準内に記載。																											
RC場所打ホロースラ ブ橋工	該当工種の基準内に記載。																											
架設支保工	① 架設支保工 設置・撤去 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>くさび結合支保設置・撤去</td><td>337 空 m3／日</td><td>設置 55%，撤去 45%</td></tr><tr><td>基礎用鋼材設置・撤去</td><td>119 m2／日</td><td>設置 63%，撤去 37%</td></tr><tr><td>支柱支保設置・撤去</td><td>286 空 m3／日</td><td>設置 54%，撤去 46%</td></tr><tr><td>支柱受台設置・撤去</td><td>76 m／日</td><td>設置 56%，撤去 44%</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要	くさび結合支保設置・撤去	337 空 m3／日	設置 55%，撤去 45%	基礎用鋼材設置・撤去	119 m2／日	設置 63%，撤去 37%	支柱支保設置・撤去	286 空 m3／日	設置 54%，撤去 46%	支柱受台設置・撤去	76 m／日	設置 56%，撤去 44%												
作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要																										
くさび結合支保設置・撤去	337 空 m3／日	設置 55%，撤去 45%																										
基礎用鋼材設置・撤去	119 m2／日	設置 63%，撤去 37%																										
支柱支保設置・撤去	286 空 m3／日	設置 54%，撤去 46%																										
支柱受台設置・撤去	76 m／日	設置 56%，撤去 44%																										
伸縮装置工（鋼製）	① 伸縮装置工（鋼製）新設 ……該当工種の基準内に記載。 ② 伸縮装置工（鋼製）取替工 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘要</th></tr><tr><td>伸縮装置工(鋼製)取替工 鋼フィンガージョイント等の設置</td><td>2.8 m/日</td><td></td></tr><tr><td>伸縮装置工(鋼製)取替工 既製品ジョイントの設置</td><td>3.6 m/日</td><td></td></tr></table> (注) 上表の作業日当り標準作業量には、次の作業を含む。 ・鋼フィンガージョイント等の設置 舗装面切断，コンクリートのはつり，旧ジョイント撤去，新ジョイント据付， 型枠設置・撤去，C0 打設，はつりから据付に渡って発生する附帯作業 ・既製品ジョイントの設置 舗装面切断，コンクリートのはつり，旧ジョイント撤去，新ジョイント据付， C0 打設	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘要	伸縮装置工(鋼製)取替工 鋼フィンガージョイント等の設置	2.8 m/日		伸縮装置工(鋼製)取替工 既製品ジョイントの設置	3.6 m/日																			
作 業 名	作業日当り標準作業量	摘要																										
伸縮装置工(鋼製)取替工 鋼フィンガージョイント等の設置	2.8 m/日																											
伸縮装置工(鋼製)取替工 既製品ジョイントの設置	3.6 m/日																											
橋梁排水管設置工	① 排水管 <table><tr><th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th><th>摘 要</th></tr><tr><td>コンクリートアンカーボルト設置</td><td>56 本／日</td><td></td></tr><tr><td>排水管設置</td><td>17 m／日</td><td>(VP管)</td></tr><tr><td>排水管設置</td><td>13 m／日</td><td>(鋼管)</td></tr></table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要	コンクリートアンカーボルト設置	56 本／日		排水管設置	17 m／日	(VP管)	排水管設置	13 m／日	(鋼管)															
作 業 名	作業日当り標準作業量	摘 要																										
コンクリートアンカーボルト設置	56 本／日																											
排水管設置	17 m／日	(VP管)																										
排水管設置	13 m／日	(鋼管)																										

工 種 名	設 定 内 容						
歩道橋（側道橋） 架設工	① アンカーフレーム据付工，ベント設備設置・撤去工 架設工（横断歩道橋），手摺設置工，支承据付工， 架設工（側道橋）支柱据付工，高欄組立工 …………… 該当工種の基準内に記載。 ② 足場工（手摺先行枠組足場） <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>0.34 箇所／日</td></tr> </table> （注）作業日当り標準作業量は，橋梁特殊工1名の場合。 ③ 足場工（吊足場） …… 現場条件により設定 ④ ノンスリップタイル設置 <table border="1"> <tr> <td>作業日当り標準作業量</td><td>50 枚／日</td></tr> </table>	作業日当り標準作業量	0.34 箇所／日	作業日当り標準作業量	50 枚／日		
作業日当り標準作業量	0.34 箇所／日						
作業日当り標準作業量	50 枚／日						
側板工	① 側板工 <table border="1"> <tr> <th>作 業 名</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr> <tr> <td>側板取付</td><td>18 m²／日</td></tr> <tr> <td>側板取外し</td><td>60 m²／日</td></tr> </table>	作 業 名	作業日当り標準作業量	側板取付	18 m ² ／日	側板取外し	60 m ² ／日
作 業 名	作業日当り標準作業量						
側板取付	18 m ² ／日						
側板取外し	60 m ² ／日						
鋼製橋脚設置工	① アンカーフレーム架設工 …… 該当工種の計算式（所要日数）を参照。 ② 地組工，現場溶接工 …… 該当工種の計算式（日当り施工量）を参照。 ③ 架設工 …… 該当工種の計算式（日当り架設質量）を参照。 ④ 本締め工 …… 該当工種の計算式（日当り作業量）を参照。						

工 種 名	設 定 内 容			
橋台・橋脚工（１） （構造物単位）	① 橋台・橋脚工（１）（構造物単位）			
	構造物種別	構造物高さ区分	コンクリート打設量区分	作業日当り標準作業量 （m3／日）
	T形橋脚	5≦H<10	100m3以上300m3未満	6.6（6.5）
			300m3以上500m3未満	8.9（8.8）
		10≦H<15	120m3以上220m3未満	5.6（5.5）
			220m3以上440m3未満	7.8（7.7）
			440m3以上650m3未満	8.5（8.4）
		15≦H<25	290m3以上910m3未満	8.6（8.4）
	910m3以上980m3未満		9.9（9.7）	
	壁式橋脚	5≦H<15	100m3以上280m3未満	6.5（6.5）
			280m3以上700m3未満	9.6（9.5）
		15≦H<20	250m3以上520m3未満	7.4（7.3）
	520m3以上700m3未満		8.6（8.5）	
	逆T式橋台	H<5	50m3以上140m3未満	4.3（4.3）
			140m3以上260m3未満	6.9（6.9）
		5≦H<7	50m3以上 90m3未満	3.2（3.2）
			90m3以上160m3未満	4.4（4.3）
			160m3以上310m3未満	6.1（6.1）
		7≦H<9	70m3以上110m3未満	3.9（3.9）
			110m3以上210m3未満	5.7（5.6）
			210m3以上310m3未満	7.4（7.3）
		9≦H<10	130m3以上280m3未満	6.3（6.2）
			280m3以上310m3未満	7.6（7.5）
		10≦H<11	230m3以上370m3未満	7.5（7.4）
			370m3以上650m3未満	9.7（9.6）
		11≦H<12	230m3以上320m3未満	6.8（6.7）
			320m3以上560m3未満	8.9（8.8）
560m3以上650m3未満			10.5（10.3）	
(注) 1. 上表の作業日当り標準作業量は、次の作業が含まれる。 ・基礎材敷均し・転圧 ・均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生 ・コンクリート打設・養生・型枠製作設置・撤去 ・鉄筋加工・組立 ・足場設置・撤去 ・支保設置・撤去 ・水抜パイプ設置(橋台のみ) 2. 上表のコンクリート打設量区分は、1基当りの全体量を表しており、工程の算出にあたっては全数量における標準作業量で各現場条件に応じ算出するものとする。 3. 作業日当り標準施工量は、基礎材、均しコンクリート、足場、水抜きパイプの施工の有無にかかわらず適用出来る。また、手摺先行型枠組足場を使用する場合は、（ ）書きの数値を適用する。 4. コンクリート養生は、散水・保温を問わず適用する。 5. 上表の作業日当り標準作業量は、橋台・橋脚本体コンクリート換算値である。				
橋台・橋脚工（２）	① 橋台・橋脚工（２）			
	打設方法	構造物区分	設計日打設量区分	作業日当り標準作業量
	コンクリートポンプ車打設	橋台・橋脚工	50m3 以上	110 m3／日
(注) 養生工は、現場、施工条件等により別途考慮する。				

工 種 名	設 定 内 容			
公園植栽工	① 公園植栽工（高木植栽）			
	作 業 種 別		作業日当り標準作業量	
	植 栽 （ 高 木 ）	（幹周） 15cm 未満	3.5 本／日	
		15cm 以上 25cm 未満	2.0 本／日	
		25cm 以上 40cm 未満	2.4 本／日	
		40cm 以上 60cm 未満	1.2 本／日	
		60cm 以上 90cm 未満	1.0 本／日	
	② 公園植栽工（支柱設置）			
	支柱区分		作業日当り標準作業量	
	二脚鳥居支柱（添木付）		56 本／日	
	二脚鳥居支柱（添木なし）		77 本／日	
	三脚鳥居支柱		56 本／日	
	十字鳥居支柱		37 本／日	
	二脚鳥居組合せ		28 本／日	
	八ッ掛（三脚）（竹）		77 本／日	
八ッ掛（丸太）L=4m		50 本／日		
八ッ掛（丸太）L=6～7m		32 本／日		
③ 公園植栽堀取（移植）工				
樹木区分		寸法	作業日当り標準作業量	
			根巻き有り	根巻き無し
中低木		樹高 50cm 未満	333 本／日	500 本／日
		樹高 50cm 以上 100cm 未満	250 本／日	333 本／日
		樹高 100cm 以上 200cm 未満	143 本／日	167 本／日
		樹高 200cm 以上 300cm 未満	59 本／日	71 本／日
高木		幹周 15cm 未満	50 本／日	59 本／日
		幹周 15cm 以上 25cm 未満	23 本／日	28 本／日
		幹周 25cm 以上 40cm 未満	14 本／日	17 本／日
		幹周 40cm 以上 60cm 未満	10 本／日	11 本／日
		幹周 60cm 以上 90cm 未満	5.9 本／日	7.1 本／日
④ 幹巻き				
幹周		作業日当り標準作業量		
25cm 以上 40cm 未満		91 本／日		
40cm 以上 60cm 未満		50 本／日		
60cm 以上 90cm 未満		31 本／日		

工 種 名	設 定 内 容		
公園植栽工	⑤ 公園植栽運搬（移植）工（5km 以内）		
	樹木区分	寸法	作業日当り標準作業量
	中低木	樹高 50cm 未満	88 本／日
		樹高 50cm 以上 100cm 未満	62 本／日
		樹高 100cm 以上 200cm 未満	50 本／日
		樹高 200cm 以上 300cm 未満	39 本／日
	高木	幹周 15cm 未満	27 本／日
		幹周 15cm 以上 25cm 未満	20 本／日
		幹周 25cm 以上 40cm 未満	67 本／日
		幹周 40cm 以上 60cm 未満	28 本／日
		幹周 60cm 以上 90cm 未満	12 本／日
	(注) 1. 高木の幹周 25cm 未満と中低木については、積込み・取卸しを含み、 高木の幹周 25cm 以上は積込み・取卸しを含まない。		
2. 5km を超える場合は、該当工種の計算式（5km を超え 5km 増す毎に加 算する運転時間）を参照。			
⑥ 公園植栽張芝工			
作業日当り標準作業量	500 m2／日		
公園除草工	① 公園除草工		
	作 業 種 別	作業日当り 標準作業量	編成人員
	人力除草	129 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：7 人
	人力抜根	68 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：7 人
	機械除草Ⅰ	788 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：1 人 特 殊 作 業 員：5 人
	機械除草Ⅱ	1,859 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：1 人 特 殊 作 業 員：4 人
	集草	1,238 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：3 人
	積込・運搬	2,304 m2／日	土木一般世話役：1 人 普 通 作 業 員：3 人

工 種 名	設 定 内 容																																																																															
公園除草工	② トラック 2t 積による公園外への運搬																																																																															
	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	無し	1.8km 以下	47 台/日	有り	1.7km 以下	47 台/日	3.2km 以下	24 台/日	3.0km 以下	24 台/日	4.6km 以下	16 台/日	4.3km 以下	16 台/日	6.0km 以下	12 台/日	5.6km 以下	12 台/日	7.5km 以下	9.4 台/日	7.0km 以下	9.4 台/日	9.1km 以下	7.8 台/日	8.4km 以下	7.8 台/日	10.7km 以下	6.7 台/日	9.8km 以下	6.7 台/日	12.4km 以下	5.9 台/日	11.2km 以下	5.9 台/日	14.2km 以下	5.2 台/日	12.8km 以下	5.2 台/日	16.1km 以下	4.7 台/日	14.4km 以下	4.7 台/日	18.1km 以下	4.3 台/日	16.0km 以下	4.3 台/日	20.3km 以下	3.9 台/日	17.7km 以下	3.9 台/日	22.7km 以下	3.6 台/日	19.4km 以下	3.6 台/日	25.2km 以下	3.4 台/日	21.4km 以下	3.4 台/日	28.4km 以下	3.1 台/日	23.3km 以下	3.1 台/日	30.0km 以下	2.9 台/日	25.3km 以下	2.9 台/日			27.6km 以下	2.8 台/日			30.0km 以下	2.6 台/日
	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量	DID 区間の有無	運搬距離	作業日当り標準作業量																																																																										
	無し	1.8km 以下	47 台/日	有り	1.7km 以下	47 台/日																																																																										
		3.2km 以下	24 台/日		3.0km 以下	24 台/日																																																																										
		4.6km 以下	16 台/日		4.3km 以下	16 台/日																																																																										
		6.0km 以下	12 台/日		5.6km 以下	12 台/日																																																																										
		7.5km 以下	9.4 台/日		7.0km 以下	9.4 台/日																																																																										
		9.1km 以下	7.8 台/日		8.4km 以下	7.8 台/日																																																																										
		10.7km 以下	6.7 台/日		9.8km 以下	6.7 台/日																																																																										
		12.4km 以下	5.9 台/日		11.2km 以下	5.9 台/日																																																																										
		14.2km 以下	5.2 台/日		12.8km 以下	5.2 台/日																																																																										
		16.1km 以下	4.7 台/日		14.4km 以下	4.7 台/日																																																																										
		18.1km 以下	4.3 台/日		16.0km 以下	4.3 台/日																																																																										
		20.3km 以下	3.9 台/日		17.7km 以下	3.9 台/日																																																																										
		22.7km 以下	3.6 台/日		19.4km 以下	3.6 台/日																																																																										
		25.2km 以下	3.4 台/日		21.4km 以下	3.4 台/日																																																																										
		28.4km 以下	3.1 台/日		23.3km 以下	3.1 台/日																																																																										
		30.0km 以下	2.9 台/日		25.3km 以下	2.9 台/日																																																																										
					27.6km 以下	2.8 台/日																																																																										
					30.0km 以下	2.6 台/日																																																																										
	公園工	① 機械土工（トラクター運転費）																																																																														
		作業区分	土質	作業日当り標準作業量	耕起	砂・砂質土	4,393 m2／日	レキ質土・粘性土	3,852 m2／日	砕土・整地	砂・砂質土	6,184 m2／日	レキ質土・粘性土	5,402 m2／日	肥料散布	-	20,435 m2／日	播種	-	12,368 m2／日																																																												
		作業区分	土質	作業日当り標準作業量																																																																												
		耕起	砂・砂質土	4,393 m2／日																																																																												
			レキ質土・粘性土	3,852 m2／日																																																																												
		砕土・整地	砂・砂質土	6,184 m2／日																																																																												
レキ質土・粘性土			5,402 m2／日																																																																													
肥料散布		-	20,435 m2／日																																																																													
播種		-	12,368 m2／日																																																																													
(注) トラクターの運転日当り運転時間は、4.7hとする。																																																																																
② コンクリートはつり、つつき仕上げ																																																																																
仕上げ区分		作業日当り標準作業量	コンクリートはつり仕上げ	2.6 m2／日	コンクリートつつき仕上げ	4.0 m2／日																																																																										
仕上げ区分		作業日当り標準作業量																																																																														
コンクリートはつり仕上げ	2.6 m2／日																																																																															
コンクリートつつき仕上げ	4.0 m2／日																																																																															
(注) 作業日当り標準作業量は、石工1名の場合。																																																																																
③ レンガ舗装工																																																																																
舗装区分	作業日当り標準作業量	A（平敷き）	24 m2／日	B（小端立て敷き）	14 m2／日																																																																											
舗装区分	作業日当り標準作業量																																																																															
A（平敷き）	24 m2／日																																																																															
B（小端立て敷き）	14 m2／日																																																																															

工 種 名	設 定 内 容																																					
公園工	④レンガ縁石工																																					
	<table><tr><th>施工区分</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>A</td><td>190 m／日</td></tr><tr><td>B・C</td><td>56 m／日</td></tr><tr><td>D・E</td><td>89 m／日</td></tr></table>	施工区分	作業日当り標準作業量	A	190 m／日	B・C	56 m／日	D・E	89 m／日																													
	施工区分	作業日当り標準作業量																																				
	A	190 m／日																																				
	B・C	56 m／日																																				
	D・E	89 m／日																																				
	⑤ 硬質塩化ビニール管工（排水工）																																					
	<table><tr><th>樹木区分</th><th>管径（呼び径）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="5">市街地以外</td><td>100mm</td><td>43 m／日</td></tr><tr><td>125mm</td><td>38 m／日</td></tr><tr><td>150mm</td><td>36 m／日</td></tr><tr><td>200mm</td><td>32 m／日</td></tr><tr><td>250mm</td><td>30 m／日</td></tr><tr><td rowspan="5">市街地</td><td>100mm</td><td>40 m／日</td></tr><tr><td>125mm</td><td>36 m／日</td></tr><tr><td>150mm</td><td>32 m／日</td></tr><tr><td>200mm</td><td>29 m／日</td></tr><tr><td>250mm</td><td>27 m／日</td></tr></table>	樹木区分	管径（呼び径）	作業日当り標準作業量	市街地以外	100mm	43 m／日	125mm	38 m／日	150mm	36 m／日	200mm	32 m／日	250mm	30 m／日	市街地	100mm	40 m／日	125mm	36 m／日	150mm	32 m／日	200mm	29 m／日	250mm	27 m／日												
	樹木区分	管径（呼び径）	作業日当り標準作業量																																			
	市街地以外	100mm	43 m／日																																			
		125mm	38 m／日																																			
		150mm	36 m／日																																			
		200mm	32 m／日																																			
		250mm	30 m／日																																			
	市街地	100mm	40 m／日																																			
125mm		36 m／日																																				
150mm		32 m／日																																				
200mm		29 m／日																																				
250mm		27 m／日																																				
⑥ 水道用鋼管敷設（給水工）																																						
<table><tr><th rowspan="2">内 径</th><th colspan="2">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>屋外配管</th><th>屋内配管</th></tr><tr><td>1／2 インチ （ 15mm）</td><td>60 m／日</td><td>37 m／日</td></tr><tr><td>3／4 （ 20mm）</td><td>53 m／日</td><td>33 m／日</td></tr><tr><td>1 （ 25mm）</td><td>43 m／日</td><td>27 m／日</td></tr><tr><td>1・1／4 （ 32mm）</td><td>35 m／日</td><td>22 m／日</td></tr><tr><td>1・1／2 （ 40mm）</td><td>32 m／日</td><td>20 m／日</td></tr><tr><td>2 （ 50mm）</td><td>25 m／日</td><td>16 m／日</td></tr><tr><td>2・1／2 （ 65mm）</td><td>20 m／日</td><td>12 m／日</td></tr><tr><td>3 （ 80mm）</td><td>17 m／日</td><td>11 m／日</td></tr><tr><td>4 （100mm）</td><td>13 m／日</td><td>8.3 m／日</td></tr><tr><td>5 （125mm）</td><td>11 m／日</td><td>7.0 m／日</td></tr><tr><td>6 （150mm）</td><td>9.2 m／日</td><td>5.8 m／日</td></tr></table>	内 径	作業日当り標準作業量		屋外配管	屋内配管	1／2 インチ （ 15mm）	60 m／日	37 m／日	3／4 （ 20mm）	53 m／日	33 m／日	1 （ 25mm）	43 m／日	27 m／日	1・1／4 （ 32mm）	35 m／日	22 m／日	1・1／2 （ 40mm）	32 m／日	20 m／日	2 （ 50mm）	25 m／日	16 m／日	2・1／2 （ 65mm）	20 m／日	12 m／日	3 （ 80mm）	17 m／日	11 m／日	4 （100mm）	13 m／日	8.3 m／日	5 （125mm）	11 m／日	7.0 m／日	6 （150mm）	9.2 m／日	5.8 m／日
内 径		作業日当り標準作業量																																				
	屋外配管	屋内配管																																				
1／2 インチ （ 15mm）	60 m／日	37 m／日																																				
3／4 （ 20mm）	53 m／日	33 m／日																																				
1 （ 25mm）	43 m／日	27 m／日																																				
1・1／4 （ 32mm）	35 m／日	22 m／日																																				
1・1／2 （ 40mm）	32 m／日	20 m／日																																				
2 （ 50mm）	25 m／日	16 m／日																																				
2・1／2 （ 65mm）	20 m／日	12 m／日																																				
3 （ 80mm）	17 m／日	11 m／日																																				
4 （100mm）	13 m／日	8.3 m／日																																				
5 （125mm）	11 m／日	7.0 m／日																																				
6 （150mm）	9.2 m／日	5.8 m／日																																				
	（注）作業日当り標準作業量は，配管工4名の場合。																																					

工 種 名	設 定 内 容																																																
公園工	⑦ 硬質塩化ビニール管工（給水工） <table><tr><th>管径（呼び径）</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td>15mm</td><td>125 m／日</td></tr><tr><td>20mm</td><td>93 m／日</td></tr><tr><td>25mm</td><td>77 m／日</td></tr><tr><td>30mm</td><td>73 m／日</td></tr><tr><td>40mm</td><td>56 m／日</td></tr><tr><td>50mm</td><td>44 m／日</td></tr><tr><td>65mm</td><td>35 m／日</td></tr><tr><td>70mm</td><td>30 m／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、配管工4名の場合。	管径（呼び径）	作業日当り標準作業量	15mm	125 m／日	20mm	93 m／日	25mm	77 m／日	30mm	73 m／日	40mm	56 m／日	50mm	44 m／日	65mm	35 m／日	70mm	30 m／日																														
	管径（呼び径）	作業日当り標準作業量																																															
	15mm	125 m／日																																															
	20mm	93 m／日																																															
	25mm	77 m／日																																															
	30mm	73 m／日																																															
	40mm	56 m／日																																															
	50mm	44 m／日																																															
	65mm	35 m／日																																															
	70mm	30 m／日																																															
⑧ 水栓類取付工 <table><tr><th>口径</th><th>散水栓（箱共）取付</th><th>作業日当り標準作業量</th></tr><tr><td rowspan="2">15mm</td><td>有り</td><td>9.5 個／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>57 個／日</td></tr><tr><td rowspan="2">20mm</td><td>有り</td><td>9.3 個／日</td></tr><tr><td>無し</td><td>50 個／日</td></tr><tr><td>25mm</td><td>-</td><td>44 個／日</td></tr></table> （注）作業日当り標準作業量は、配管工4名の場合。	口径	散水栓（箱共）取付	作業日当り標準作業量	15mm	有り	9.5 個／日	無し	57 個／日	20mm	有り	9.3 個／日	無し	50 個／日	25mm	-	44 個／日																																	
口径	散水栓（箱共）取付	作業日当り標準作業量																																															
15mm	有り	9.5 個／日																																															
	無し	57 個／日																																															
20mm	有り	9.3 個／日																																															
	無し	50 個／日																																															
25mm	-	44 個／日																																															
⑨ ベンチ据付 <table><tr><th rowspan="2">質量</th><th colspan="3">作業日当り標準作業量</th></tr><tr><th>スツール</th><th>背なしベンチ</th><th>背付きベンチ</th></tr><tr><td>20kg 未満</td><td>100 基／日</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>20kg 以上 30kg 未満</td><td>67 基／日</td><td>42 基／日</td><td>36 基／日</td></tr><tr><td>30kg 以上 40kg 未満</td><td>-</td><td>36 基／日</td><td>29 基／日</td></tr><tr><td>40kg 以上 50kg 未満</td><td>-</td><td>31 基／日</td><td>25 基／日</td></tr><tr><td>50kg 以上</td><td>-</td><td>-</td><td>22 基／日</td></tr></table>	質量	作業日当り標準作業量			スツール	背なしベンチ	背付きベンチ	20kg 未満	100 基／日	-	-	20kg 以上 30kg 未満	67 基／日	42 基／日	36 基／日	30kg 以上 40kg 未満	-	36 基／日	29 基／日	40kg 以上 50kg 未満	-	31 基／日	25 基／日	50kg 以上	-	-	22 基／日																						
質量		作業日当り標準作業量																																															
	スツール	背なしベンチ	背付きベンチ																																														
20kg 未満	100 基／日	-	-																																														
20kg 以上 30kg 未満	67 基／日	42 基／日	36 基／日																																														
30kg 以上 40kg 未満	-	36 基／日	29 基／日																																														
40kg 以上 50kg 未満	-	31 基／日	25 基／日																																														
50kg 以上	-	-	22 基／日																																														
排水構造物工 （複合単価）	① U型側溝（01-US-01(U1)） <table><tr><th rowspan="3">側溝規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量（m／日）</th></tr><tr><th colspan="2">基礎碎石有り</th><th colspan="2">基礎碎石無し</th></tr><tr><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th></tr><tr><td>B600－H600</td><td>3.7</td><td>3.9</td><td>3.8</td><td>4.0</td></tr><tr><td>B600－H700</td><td>3.3</td><td>3.4</td><td>3.4</td><td>3.5</td></tr><tr><td>B600－H800</td><td>3.3</td><td>3.4</td><td>3.3</td><td>3.5</td></tr><tr><td>B700－H700</td><td>2.7</td><td>2.8</td><td>2.7</td><td>2.9</td></tr><tr><td>B800－H800</td><td>2.6</td><td>2.8</td><td>2.7</td><td>2.8</td></tr><tr><td>B900－H900</td><td>2.2</td><td>2.3</td><td>2.2</td><td>2.4</td></tr><tr><td>B1000－H1000</td><td>2.0</td><td>2.1</td><td>2.0</td><td>2.2</td></tr></table>	側溝規格	作業日当り標準作業量（m／日）				基礎碎石有り		基礎碎石無し		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設	B600－H600	3.7	3.9	3.8	4.0	B600－H700	3.3	3.4	3.4	3.5	B600－H800	3.3	3.4	3.3	3.5	B700－H700	2.7	2.8	2.7	2.9	B800－H800	2.6	2.8	2.7	2.8	B900－H900	2.2	2.3	2.2	2.4	B1000－H1000	2.0	2.1	2.0	2.2
	側溝規格		作業日当り標準作業量（m／日）																																														
			基礎碎石有り		基礎碎石無し																																												
		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設																																												
	B600－H600	3.7	3.9	3.8	4.0																																												
	B600－H700	3.3	3.4	3.4	3.5																																												
	B600－H800	3.3	3.4	3.3	3.5																																												
	B700－H700	2.7	2.8	2.7	2.9																																												
	B800－H800	2.6	2.8	2.7	2.8																																												
	B900－H900	2.2	2.3	2.2	2.4																																												
B1000－H1000	2.0	2.1	2.0	2.2																																													

工 種 名	設 定 内 容																																																																																																																					
排水構造物工 (複合単価)	② U型側溝 (01-US-01(U2))																																																																																																																					
	<table><tr><th rowspan="3">側溝規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量 (m／日)</th></tr><tr><th colspan="2">基礎碎石有り</th><th colspan="2">基礎碎石無し</th></tr><tr><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th></tr><tr><td>B600－H600</td><td>3.8</td><td>3.9</td><td>3.8</td><td>4.0</td></tr><tr><td>B600－H700</td><td>3.3</td><td>3.5</td><td>3.4</td><td>3.5</td></tr><tr><td>B700－H700</td><td>3.3</td><td>3.4</td><td>3.4</td><td>3.5</td></tr></table>	側溝規格	作業日当り標準作業量 (m／日)				基礎碎石有り		基礎碎石無し		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設	B600－H600	3.8	3.9	3.8	4.0	B600－H700	3.3	3.5	3.4	3.5	B700－H700	3.3	3.4	3.4	3.5																																																																																									
	側溝規格		作業日当り標準作業量 (m／日)																																																																																																																			
			基礎碎石有り		基礎碎石無し																																																																																																																	
		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設																																																																																																																	
	B600－H600	3.8	3.9	3.8	4.0																																																																																																																	
	B600－H700	3.3	3.5	3.4	3.5																																																																																																																	
	B700－H700	3.3	3.4	3.4	3.5																																																																																																																	
	③ U型側溝 (01-US-02(U3))																																																																																																																					
	<table><tr><th rowspan="3">側溝規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量 (m／日)</th></tr><tr><th colspan="2">基礎碎石有り</th><th colspan="2">基礎碎石無し</th></tr><tr><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th></tr><tr><td>B600－H600</td><td>3.4</td><td>3.6</td><td>3.5</td><td>3.7</td></tr><tr><td>B600－H700</td><td>3.0</td><td>3.1</td><td>3.1</td><td>3.2</td></tr><tr><td>B600－H800</td><td>2.7</td><td>2.8</td><td>2.7</td><td>2.9</td></tr><tr><td>B700－H700</td><td>3.0</td><td>3.1</td><td>3.0</td><td>3.2</td></tr><tr><td>B800－H800</td><td>2.6</td><td>2.8</td><td>2.7</td><td>2.8</td></tr><tr><td>B900－H900</td><td>2.2</td><td>2.3</td><td>2.2</td><td>2.4</td></tr><tr><td>B1000－H1000</td><td>2.0</td><td>2.1</td><td>2.0</td><td>2.2</td></tr></table>	側溝規格	作業日当り標準作業量 (m／日)				基礎碎石有り		基礎碎石無し		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設	B600－H600	3.4	3.6	3.5	3.7	B600－H700	3.0	3.1	3.1	3.2	B600－H800	2.7	2.8	2.7	2.9	B700－H700	3.0	3.1	3.0	3.2	B800－H800	2.6	2.8	2.7	2.8	B900－H900	2.2	2.3	2.2	2.4	B1000－H1000	2.0	2.1	2.0	2.2																																																																					
	側溝規格		作業日当り標準作業量 (m／日)																																																																																																																			
			基礎碎石有り		基礎碎石無し																																																																																																																	
		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設																																																																																																																	
	B600－H600	3.4	3.6	3.5	3.7																																																																																																																	
	B600－H700	3.0	3.1	3.1	3.2																																																																																																																	
	B600－H800	2.7	2.8	2.7	2.9																																																																																																																	
B700－H700	3.0	3.1	3.0	3.2																																																																																																																		
B800－H800	2.6	2.8	2.7	2.8																																																																																																																		
B900－H900	2.2	2.3	2.2	2.4																																																																																																																		
B1000－H1000	2.0	2.1	2.0	2.2																																																																																																																		
④ U型側溝 (01-US-03(U4))																																																																																																																						
<table><tr><th rowspan="3">側溝規格</th><th colspan="4">作業日当り標準作業量 (m／日)</th></tr><tr><th colspan="2">基礎碎石有り</th><th colspan="2">基礎碎石無し</th></tr><tr><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th><th>人力打設</th><th>クレーン車打設</th></tr><tr><td>B1200－H1100</td><td>2.0</td><td>2.1</td><td>2.1</td><td>2.2</td></tr><tr><td>B1200－H1200</td><td>1.9</td><td>2.0</td><td>1.9</td><td>2.0</td></tr><tr><td>B1400－H1100</td><td>2.0</td><td>2.1</td><td>2.0</td><td>2.1</td></tr><tr><td>B1400－H1200</td><td>1.9</td><td>1.9</td><td>1.9</td><td>2.0</td></tr><tr><td>B1400－H1300</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.9</td></tr><tr><td>B1400－H1400</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.8</td></tr><tr><td>B1600－H1100</td><td>1.9</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>2.1</td></tr><tr><td>B1600－H1200</td><td>1.8</td><td>1.9</td><td>1.9</td><td>1.9</td></tr><tr><td>B1600－H1300</td><td>1.7</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.8</td></tr><tr><td>B1600－H1400</td><td>1.6</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.7</td></tr><tr><td>B1600－H1500</td><td>1.5</td><td>1.6</td><td>1.6</td><td>1.6</td></tr><tr><td>B1800－H1100</td><td>1.9</td><td>2.0</td><td>1.9</td><td>2.0</td></tr><tr><td>B1800－H1200</td><td>1.8</td><td>1.9</td><td>1.8</td><td>1.9</td></tr><tr><td>B1800－H1300</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.8</td></tr><tr><td>B1800－H1400</td><td>1.6</td><td>1.7</td><td>1.6</td><td>1.7</td></tr><tr><td>B1800－H1500</td><td>1.5</td><td>1.6</td><td>1.5</td><td>1.6</td></tr><tr><td>B2000－H1100</td><td>1.8</td><td>1.9</td><td>1.9</td><td>2.0</td></tr><tr><td>B2000－H1200</td><td>1.7</td><td>1.8</td><td>1.8</td><td>1.9</td></tr><tr><td>B2000－H1300</td><td>1.6</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>1.8</td></tr><tr><td>B2000－H1400</td><td>1.6</td><td>1.6</td><td>1.6</td><td>1.7</td></tr><tr><td>B2000－H1500</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.6</td></tr></table>	側溝規格	作業日当り標準作業量 (m／日)				基礎碎石有り		基礎碎石無し		人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設	B1200－H1100	2.0	2.1	2.1	2.2	B1200－H1200	1.9	2.0	1.9	2.0	B1400－H1100	2.0	2.1	2.0	2.1	B1400－H1200	1.9	1.9	1.9	2.0	B1400－H1300	1.8	1.8	1.8	1.9	B1400－H1400	1.7	1.7	1.7	1.8	B1600－H1100	1.9	2.0	2.0	2.1	B1600－H1200	1.8	1.9	1.9	1.9	B1600－H1300	1.7	1.8	1.8	1.8	B1600－H1400	1.6	1.7	1.7	1.7	B1600－H1500	1.5	1.6	1.6	1.6	B1800－H1100	1.9	2.0	1.9	2.0	B1800－H1200	1.8	1.9	1.8	1.9	B1800－H1300	1.7	1.7	1.7	1.8	B1800－H1400	1.6	1.7	1.6	1.7	B1800－H1500	1.5	1.6	1.5	1.6	B2000－H1100	1.8	1.9	1.9	2.0	B2000－H1200	1.7	1.8	1.8	1.9	B2000－H1300	1.6	1.7	1.7	1.8	B2000－H1400	1.6	1.6	1.6	1.7	B2000－H1500	1.5	1.5	1.5	1.6
側溝規格		作業日当り標準作業量 (m／日)																																																																																																																				
		基礎碎石有り		基礎碎石無し																																																																																																																		
	人力打設	クレーン車打設	人力打設	クレーン車打設																																																																																																																		
B1200－H1100	2.0	2.1	2.1	2.2																																																																																																																		
B1200－H1200	1.9	2.0	1.9	2.0																																																																																																																		
B1400－H1100	2.0	2.1	2.0	2.1																																																																																																																		
B1400－H1200	1.9	1.9	1.9	2.0																																																																																																																		
B1400－H1300	1.8	1.8	1.8	1.9																																																																																																																		
B1400－H1400	1.7	1.7	1.7	1.8																																																																																																																		
B1600－H1100	1.9	2.0	2.0	2.1																																																																																																																		
B1600－H1200	1.8	1.9	1.9	1.9																																																																																																																		
B1600－H1300	1.7	1.8	1.8	1.8																																																																																																																		
B1600－H1400	1.6	1.7	1.7	1.7																																																																																																																		
B1600－H1500	1.5	1.6	1.6	1.6																																																																																																																		
B1800－H1100	1.9	2.0	1.9	2.0																																																																																																																		
B1800－H1200	1.8	1.9	1.8	1.9																																																																																																																		
B1800－H1300	1.7	1.7	1.7	1.8																																																																																																																		
B1800－H1400	1.6	1.7	1.6	1.7																																																																																																																		
B1800－H1500	1.5	1.6	1.5	1.6																																																																																																																		
B2000－H1100	1.8	1.9	1.9	2.0																																																																																																																		
B2000－H1200	1.7	1.8	1.8	1.9																																																																																																																		
B2000－H1300	1.6	1.7	1.7	1.8																																																																																																																		
B2000－H1400	1.6	1.6	1.6	1.7																																																																																																																		
B2000－H1500	1.5	1.5	1.5	1.6																																																																																																																		

工 種 名	設 定 内 容					
排水構造物工 (複合単価)	⑤ 集水桝 (01-HM-01(G1))					
	集水桝規格	作業日当り標準作業量 (箇所/日)				
		基礎碎石有り			基礎碎石無し	
		人力打設	ｸﾚﾝﾁｬｰ打設	ﾎﾟﾝﾌﾟ車打設	人力打設	ｸﾚﾝﾁｬｰ打設
	B300L600H600	2.9	3.0	-	3.0	3.1
	B300L600H700	2.6	2.7	-	2.7	2.8
	B300L600H800	2.4	2.5	-	2.4	2.5
	B300L600H900	2.2	2.3	-	2.2	2.3
	B300L600H1000	2.0	2.1	-	2.0	2.1
	B300L700H600	2.7	2.8	-	2.7	2.8
	B300L700H700	2.4	2.5	-	2.5	2.5
	B300L700H800	2.2	2.3	-	2.2	2.3
	B300L700H900	2.0	2.1	-	2.0	2.1
	B300L700H1000	1.9	1.9	-	1.9	1.9
	B350L600H600	2.8	2.9	-	2.9	2.9
	B350L600H700	2.5	2.6	-	2.6	2.6
	B350L600H800	2.3	2.4	-	2.3	2.4
	B350L600H900	2.1	2.2	-	2.1	2.2
	B350L600H1000	1.9	2.0	-	1.9	2.0
	B350L700H600	2.6	2.7	-	2.6	2.7
	B350L700H700	2.3	2.4	-	2.4	2.4
	B350L700H800	2.1	2.2	-	2.1	2.2
	B350L700H900	1.9	2.0	-	2.0	2.0
	B350L700H1000	1.8	1.8	-	1.8	1.9
	B400L600H700	2.4	2.5	-	2.5	2.5
	B400L600H800	2.2	2.3	-	2.2	2.3
	B400L600H900	2.0	2.1	-	2.0	2.1
	B400L600H1000	1.9	1.9	-	1.9	1.9
	B400L700H700	2.2	2.3	-	2.3	2.4
	B400L700H800	2.0	2.1	-	2.1	2.1
	B400L700H900	1.9	1.9	-	1.9	1.9
	B400L700H1000	1.7	1.8	-	1.7	1.8
	B400L800H700	2.1	2.2	-	2.1	2.2
	B400L800H800	1.9	2.0	-	1.9	2.0
	B400L800H900	1.7	1.8	-	1.8	1.8
	B400L800H1000	1.6	1.7	-	1.6	1.7
	B500L500H700	2.4	2.5	-	2.5	2.5
	B500L500H800	2.2	2.3	-	2.2	2.3
	B500L500H900	2.0	2.1	-	2.0	2.1
	B500L500H1000	1.9	1.9	-	1.9	1.9
	B500L500H1200	1.4	1.5	-	1.4	1.5
	B500L500H1400	1.2	1.3	-	1.2	1.3
	B500L700H700	2.1	2.2	-	2.1	2.2
	B500L700H800	1.9	2.0	-	1.9	2.0
	B500L700H900	1.7	1.8	-	1.8	1.8
	B500L700H1000	1.6	1.7	-	1.6	1.7
	B500L700H1200	1.2	1.3	-	1.2	1.3
	B500L700H1400	2.0	-	3.3	2.0	-
	B500L800H700	2.0	2.0	-	2.0	2.0
	B500L800H800	1.8	1.8	-	1.8	1.9
	B500L800H900	1.6	1.7	-	1.6	1.7
	B500L800H1000	1.5	1.5	-	1.5	1.6
	B500L800H1200	2.1	-	3.6	2.2	-
	B500L800H1400	1.9	-	3.1	1.9	-

工 種 名	設 定 内 容					
排水構造物工 (複合単価)	⑥ 集水桝 (01-HM-02(G1))					
	集水桝規格	作業日当り標準作業量 (箇所/日)				
		基礎碎石有り			基礎碎石無し	
		人力打設	クレーン車打設	ポンプ車打設	人力打設	クレーン車打設
	B300L600H600	1.9	2.0	-	1.9	2.0
	B300L600H700	1.7	1.8	-	1.8	1.8
	B300L600H800	1.6	1.6	-	1.6	1.7
	B300L600H900	1.2	1.3	-	1.2	1.3
	B300L600H1000	2.0	-	3.3	2.0	-
	B300L700H600	1.7	1.7	-	1.7	1.7
	B300L700H700	1.5	1.6	-	1.5	1.6
	B300L700H800	1.4	1.5	-	1.4	1.5
	B300L700H900	2.0	-	3.4	2.0	-
	B300L700H1000	1.8	-	3.0	1.8	-
	B350L600H600	1.6	1.6	-	1.6	1.6
	B350L600H700	1.4	1.5	-	1.5	1.5
	B350L600H800	1.3	1.4	-	1.3	1.4
	B350L600H900	1.9	-	3.2	1.9	-
	B350L600H1000	1.7	-	2.8	1.7	-
	B350L700H600	1.5	1.6	-	1.5	1.6
	B350L700H700	1.4	1.5	-	1.4	1.5
	B350L700H800	2.0	-	3.4	2.0	-
	B350L700H900	1.8	-	3.0	1.8	-
	B350L700H1000	1.4	1.4	-	1.4	1.4
	B400L600H700	1.3	1.3	-	1.3	1.3
	B400L600H800	1.8	-	3.0	1.8	-
	B400L600H900	1.6	-	2.7	1.6	-
	B400L600H1000	1.3	1.3	-	1.3	1.3
	B400L700H700	1.2	1.2	-	1.2	1.2
	B400L700H800	1.7	-	2.9	1.7	-
	B400L700H900	1.5	-	2.5	1.5	-
	B400L700H1000	1.3	1.3	-	1.3	1.3
	B400L800H700	1.8	-	3.0	1.8	-
	B400L800H800	1.6	-	2.7	1.6	-
	B400L800H900	1.1	1.2	-	1.1	1.2
	B400L800H1000	1.6	-	2.7	1.6	-
	B500L500H700	1.4	-	2.4	1.4	-
	B500L500H800	1.6	-	2.7	1.6	-
	B500L500H900	1.4	-	2.4	1.4	-
	B500L500H1000	1.5	-	2.6	1.6	-
	B500L500H1200	1.4	-	2.3	1.4	-
	B500L500H1400	1.5	-	2.5	1.5	-
	B500L800H1400	1.3	-	2.2	1.3	-

工 種 名	設 定 内 容						
排水構造物工 (複合単価)	⑦ 集水桝 (01－HM－04(G2))						
	集水桝規格	作業日当り標準作業量 (箇所／日)					
		基礎碎石有り			基礎碎石無し		
		人力打設	クレーン車打設	ポンプ車打設	人力打設	クレーン車打設	ポンプ車打設
	B500 L500H700	2.7	2.8	-	2.7	2.8	-
	B500 L500H800	2.4	2.5	-	2.4	2.5	-
	B500 L500H900	2.2	2.3	-	2.2	2.3	-
	B500 L500H1000	2.0	2.1	-	2.0	2.1	-
	B500 L500H1200	1.5	1.6	-	1.5	1.6	-
	B500 L500H1400	1.3	1.4	-	1.3	1.4	-
	B500 L500H1600	2.1	-	3.6	2.2	-	3.7
	B500 L500H1800	1.9	-	3.2	1.9	-	3.3
	B500 L500H2000	1.7	-	3.0	1.8	-	3.0
	B600 L600H800	2.1	2.1	-	2.1	2.2	-
	B600 L600H900	1.9	1.9	-	1.9	2.0	-
	B600 L600H1000	1.7	1.8	-	1.7	1.8	-
	B600 L600H1200	1.3	1.4	-	1.3	1.4	-
	B600 L600H1400	2.1	-	3.5	2.1	-	3.7
	B600 L600H1600	1.9	-	3.2	1.9	-	3.2
	B600 L600H1800	1.7	-	2.8	1.7	-	2.9
	B600 L600H2000	1.5	-	2.6	1.5	-	2.6
	B700 L700H900	1.7	1.7	-	1.7	1.7	-
	B700 L700H1000	1.5	1.6	-	1.5	1.6	-
	B700 L700H1200	2.1	-	3.6	2.2	-	3.7
	B700 L700H1400	1.8	-	3.1	1.9	-	3.2
	B700 L700H1600	1.6	-	2.8	1.7	-	2.9
	B700 L700H1800	1.5	-	2.5	1.5	-	2.6
	B700 L700H2000	1.3	-	2.3	1.4	-	2.3
	B800 L800H1000	1.3	1.4	-	1.4	1.4	-
	B800 L800H1200	1.9	-	3.2	1.9	-	3.3
	B800 L800H1400	1.7	-	2.8	1.7	-	2.9
	B800 L800H1600	1.5	-	2.5	1.5	-	2.6
	B800 L800H1800	1.3	-	2.3	1.3	-	2.3
	B800 L800H2000	1.2	-	2.1	1.2	-	2.1
	B900 L900H1200	1.7	-	2.9	1.7	-	3.0
	B900 L900H1400	1.5	-	2.6	1.5	-	2.7
	B900 L900H1600	1.3	-	2.3	1.4	-	2.3
	B900 L900H1800	1.2	-	2.1	1.2	-	2.1
	B900 L900H2000	1.1	-	1.9	1.1	-	1.9
	B1000 L1000H1200	1.6	-	2.7	1.6	-	2.8
	B1000 L1000H1400	1.4	-	2.3	1.4	-	2.4
	B1000 L1000H1600	1.2	-	2.1	1.2	-	2.2
	B1000 L1000H1800	1.1	-	1.9	1.1	-	1.9
B1000 L1000H2000	1.0	-	1.7	1.0	-	1.8	

工 種 名	設 定 内 容						
排水構造物工 (複合単価)	集水桝規格	作業日当り標準作業量(箇所/日)					
		基礎碎石有り			基礎碎石無し		
		人力打設	クレーン車打設	ポンプ車打設	人力打設	クレーン車打設	ポンプ車打設
	B1100 L1100 H1400	1.3	-	2.2	1.3	-	2.2
	B1100 L1100 H1600	1.1	-	1.9	1.1	-	2.0
	B1100 L1100 H1800	1.0	-	1.7	1.0	-	1.8
	B1100 L1100 H2000	0.92	-	1.6	0.93	-	1.6
	B1200 L1200 H1400	1.2	-	2.0	1.2	-	2.1
	B1200 L1200 H1600	1.0	-	1.8	1.1	-	1.8
	B1200 L1200 H1800	0.93	-	1.6	0.95	-	1.7
	B1200 L1200 H2000	0.85	-	1.5	0.86	-	1.5
	B1300 L1300 H1600	0.96	-	1.7	0.98	-	1.7
	B1300 L1300 H1800	0.87	-	1.5	0.88	-	1.5
	B1300 L1300 H2000	0.79	-	1.4	0.80	-	1.4
	B1400 L1400 H1600	0.89	-	1.6	0.91	-	1.6
	B1400 L1400 H1800	0.81	-	1.4	0.82	-	1.4
	B1400 L1400 H2000	0.74	-	1.3	0.75	-	1.3
	B1500 L1500 H1800	0.76	-	1.3	0.77	-	1.4
	B1500 L1500 H2000	0.69	-	1.2	0.70	-	1.2

⑤ 市場単価の1日当り標準施工量

本項に記載した日当り作業量は、市場単価への移行にともない削除された工種の標準作業量を定めたものである。

設定した作業量は、あくまでも標準施工の場合であるので、当該工種の施工条件、施工法、制約条件等を十分考慮の上適用の可否を検討し、使用するものとする。

1. 鉄 筋 工

表1. 1

規格・仕様		単位	施工数量
1	一般構造物	t	3.5
2	切梁のある構造物	t	3.0
3	地下構造物	t	
4	橋梁用床版	t	4.0
5	場所打杭用かご筋	t	6.5
6	R C 場所打ホロースラブ	t	2.5
7	差筋及び杭頭処理	t	3.5
8	一般構造物 (太径鉄筋混合)	t	5.0
9	切梁のある構造物 (太径鉄筋混合)	t	4.0
10	地下構造物 (太径鉄筋混合)	t	4.0
11	場所打杭用かご筋 (太径鉄筋混合)	t	9.0

2. 鉄筋工 (ガス圧接工)

表2. 1

規格・仕様		単位	施工数量
ガス圧接工 〔 手動 (半自動) 自 動 〕	D19 + D19	箇所	350
	D22 + D22	箇所	
	D25 + D25	箇所	
	D29 + D29	箇所	310
	D32 + D32	箇所	280
	D35 + D35	箇所	240
	D38 + D38	箇所	160
	D41 + D41	箇所	150
	D51 + D51	箇所	130

3. 区 画 線 工

表3. 1

区 分	規 格・仕 様			単位	施工数量
供用区間 溶融式 手 動	実 線	白線 黄線	15cm	m	1,500
			20cm	m	
			30cm	m	1,000
	破 線	白線 黄線	15cm	m	1,200
			20cm	m	
			30cm	m	800
			45cm	m	
	ゼブラ	白線 黄線	15cm	m	1,100
			20cm	m	
			30cm	m	600
			45cm	m	
	矢印 記号 文字	白線	15cm	m	500
		黄線	換算	m	

表3. 2

区 分	規 格・仕 様			単位	施工数量
供用区間 溶剤型・水性型 ペイント式 自 走	実 線	白線 黄線	加熱式 15 cm	m	8,200
			常温式 15 cm	m	
	破 線	白線 黄線	加熱式 15 cm	m	5,600
			加熱式 30 cm	m	3,200
			常温式 15 cm	m	5,600

表3. 3

区 分	規 格・仕 様	単位	施工数量
区画線消去	削り取り式 15 cm換算	m	350
	ウォータージェット式 15 cm換算	m	900

4. 高視認性区画線工

表4. 1

区 分	規格・仕様			単位	施工数量
供 用 区 間 リ ブ 式 溶 融 式	実 線	白 線 黄 線	15 cm	m	1,000
			20 cm	m	
			30 cm	m	800

表4. 2

区 分	規格・仕様			単位	施工数量
供 用 区 間 リ ブ 式 2 液 反 応 式	実 線	白 線 黄 線	15 cm	m	1,000
			20 cm	m	
			30 cm	m	800

表4. 3

区 分	規格・仕様			単位	施工数量
供 用 区 間 非 リ ブ 式 溶 融 式	実 線	白 線 黄 線	15 cm	m	1,000
			20 cm	m	
			30 cm	m	800
	ゼブラ	白 線 黄 線	15 cm	m	750
			20 cm	m	
			30 cm	m	400
			45 cm	m	

表4. 4

区 分	規格・仕様		単位	施工数量
供 用 区 間 貼 付 式	白 色 黄 色	15 cm換算	m	300

表4. 5

区 分	規格・仕様		単位	施工数量
高 視 認 性 区 画 線 消 去	15 cm換算		m	350

5. インターロッキングブロック工

表 5.1

規 格 ・ 仕 様			単位	施工数量
設 置	直線配置	ブロック厚 6 cm	m ²	100
		ブロック厚 8 cm	m ²	
	曲線配置	ブロック厚 6 cm	m ²	80
		ブロック厚 8 cm	m ²	
	直線配置 3 色 以上による色 合わせ	ブロック厚 6 cm	m ²	
		ブロック厚 8 cm	m ²	
	曲線配置 3 色 以上による色 合わせ	ブロック厚 6 cm	m ²	
		ブロック厚 8 cm	m ²	
撤 去	再使用目的の 撤去	ブロック厚 6 cm, 8 cm	m ²	200
	とりこわし	ブロック厚 6 cm, 8 cm	m ²	300

6. ガードレール設置工

表6.1 設置

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込	塗装品 ・ メッキ品	Gr-A-4E	m	130
		Gr-B-4E	m	
		Gr-C-4E	m	
		Gr-Am-4E	m	60
		Gr-Bm-4E	m	
コンクリート 建 込		Gr-A-2B	m	40
		Gr-B-2B	m	
		Gr-C-2B	m	
		Gr-Am-2B	m	40
		Gr-Bm-2B	m	

表6.2 設置 (耐雪型)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込	塗装品 ・ メッキ品	Gr-A2-4E	m	130
		Gr-A3-3E	m	120
		Gr-A4-2E	m	100
		Gr-A5-2E	m	
		Gr-B2-4E	m	130
		Gr-B3-3E	m	120
		Gr-B4-2E	m	100
		Gr-C2-3E	m	120
		Gr-C3-2E	m	100
コンクリート 建 込		Gr-A2-2B	m	40
		Gr-A3-2B	m	
		Gr-A4-2B	m	
		Gr-A5-2B	m	
		Gr-B2-2B	m	
		Gr-B3-2B	m	
		Gr-B4-2B	m	
		Gr-C2-2B	m	
		Gr-C3-2B	m	

表6.3 撤 去

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込用 撤 去	塗装品 ・ メッキ品	(旧 Gr-S-2E)	m	120
		Gr-A-4E	m	250
		Gr-B-4E		
		Gr-C-4E		
		Gr-Am-4E	m	120
		Gr-Bm-4E		
		(旧 Gr-Ap-2E)	m	200
		(旧 Gr-Bp-2E)		
		(旧 Gr-Cp-2E)		
コンクリート 建込用撤去		(旧 Gr-S-1B)	m	160
		Gr-A-2B	m	200
		Gr-B-2B		
		Gr-C-2B		
		Gr-Am-2B	m	120
		Gr-Bm-2B		
		(旧 Gr-Ap-2B)	m	200
		(旧 Gr-Bp-2B)		
		(旧 Gr-Cp-2B)		

(注) 中央分離帯用は(狭)タイプを含む。

表6.4 撤 去 (耐雪型)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込用 撤 去	塗装品 ・ メッキ品	(旧 Gr-S2-2E)	m	60
		(旧 Gr-S3-2E)		
		(旧 Gr-S4-2E)		
		(旧 Gr-S5-2E)		
		Gr-A4-2E	m	100
		Gr-A5-2E		
		Gr-B4-2E		
		Gr-C3-2E		
		Gr-A3-3E	m	120
		Gr-B3-3E		
		Gr-C2-3E		
		Gr-A2-4E	m	130
		Gr-B2-4E		
コンクリート 建込用撤去	(旧 Gr-S2-1B)	m	80	
	(旧 Gr-S3-1B)			
	(旧 Gr-S4-1B)			
	(旧 Gr-S5-1B)			
	Gr-A2-2B	m	100	
	Gr-A3-2B			
	Gr-A4-2B			
	Gr-A5-2B			
	Gr-B2-2B			
	Gr-B3-2B			
	Gr-B4-2B			
	Gr-C2-2B			
Gr-C3-2B				

表6.5 部材設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
レール設置 事故復旧を 除く	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 4m	m	130
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 2m	m	100
	分離帯用 Am・Bm 種 支柱間隔 4m	m	60
	分離帯用 Am・Bm 種 支柱間隔 2m	m	60

表6.6 部材撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
レール撤去 事故復旧を 除く	(旧路側用 S 種 支柱間隔 1m)	m	170
	(旧路側用 S 種 支柱間隔 2m)	m	100
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 4m	m	250
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 2m	m	200
	分離帯用 Am・Bm 種 支柱間隔 4m	m	130
	分離帯用 Am・Bm 種 支柱間隔 2m	m	110
	歩道用 (旧 Ap・Bp・Cp 種) 支柱間隔 2m	m	200

表6.7 部材設置 (耐雪型)

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
レール設置 事故復旧を 除く	路側用 A・B 種 支柱間隔 4m	m	130
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 3m	m	120
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 2m	m	100

表6.8 部材撤去 (耐雪型)

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
レール撤去 事故復旧を 除く	(旧路側用 S 種 支柱間隔 2m)	m	120
	(旧路側用 S 種 支柱間隔 1m)	m	160
	路側用 A・B 種 支柱間隔 4m	m	250
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 3m	m	200
	路側用 A・B・C 種 支柱間隔 2m	m	200

7. ガードパイプ設置工

表7.1 設 置

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込	塗装品 ・ メッキ品	Gp-Ap-2E	m	70
		Gp-Bp-2E	m	
		Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込		Gp-Ap-2B	m	40
		Gp-Bp-2B	m	
		Gp-Cp-2B	m	

表7.2 撤 去

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込用 撤 去	塗装品 ・ メッキ品	Gp-Ap-2E	m	135
		Gp-Bp-2E	m	
		Gp-Cp-2E	m	
コンクリート建込用 撤 去		Gp-Ap-2B	m	80
		Gp-Bp-2B	m	
		Gp-Cp-2B	m	

表7.3 部材設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
パイプ設置	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種 支柱間隔 2m	m	80

表7.4 部材撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
パイプ撤去	歩車道境界用 Ap・Bp・Cp 種 支柱間隔 2m	m	150

8. 横断・転落防止柵設置工

表8.1

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込	ビーム式	支柱間隔 1m	m	55
		支柱間隔 1.5m	m	75
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	100
		支柱間隔 3m	m	140

表8.2

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
プレキャスト コンクリート ブロック建込	ビーム式	支柱間隔 1m	m	25
		支柱間隔 1.5m	m	40
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	55
		支柱間隔 3m	m	75
	門 型	支柱間隔 3m	m	95

表8.3

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
コンクリート建込	ビーム式	支柱間隔 1m	m	55
		支柱間隔 1.5m	m	70
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	100
		支柱間隔 3m	m	140
	門 型	支柱間隔 3m	m	175

表8.4

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
アンカーボルト 固定	ビーム式	支柱間隔 1m	m	30
		支柱間隔 1.5m	m	45
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	60
		支柱間隔 3m	m	80

表8.5

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
部材設置	ビーム設置	支柱間隔 1m	m	50
		支柱間隔 1.5m	m	65
	ビームまたは パネルの 設置	支柱間隔 2m	m	95
		支柱間隔 3m	m	130

表8.6

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
根巻き コンクリート設置		箇所	60

表8.7

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
土中建込撤去	ビーム式	支柱間隔 1m	m	105
		支柱間隔 1.5m	m	145
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	195
		支柱間隔 3m	m	275

表8.8

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
プレキャスト コンクリート ブロック 建込撤去	ビーム式	支柱間隔 1m	m	45
		支柱間隔 1.5m	m	70
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	100
		支柱間隔 3m	m	145
	門 型	支柱間隔 3m	m	180

表8.9

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
コンクリート 建込撤去	ビーム式	支柱間隔 1m	m	100
		支柱間隔 1.5m	m	135
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	190
		支柱間隔 3m	m	270
	門 型	支柱間隔 3m	m	340

表8.10

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
アンカーボルト 固定撤去	ビーム式	支柱間隔 1m	m	55
		支柱間隔 1.5m	m	80
	ビーム式 ・ パネル式	支柱間隔 2m	m	110
		支柱間隔 3m	m	160

表8.11

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
部材撤去	ビーム撤去	支柱間隔 1m	m	95
		支柱間隔 1.5m	m	125
	ビームまたは パネルの撤去	支柱間隔 2m	m	185
		支柱間隔 3m	m	250

9. 防護柵設置工(落石防護柵)

表9.1 落石防護柵 (ロープ・金網設置工 間隔保持材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	20	40
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	15	30
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	10	20
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	9	18
柵高 3.50m	ロープ本数 12本	m	8	16
柵高 4.00m	ロープ本数 13本	m	6	12

表9.2 耐雪型落石防護柵 (ロープ・金網設置工 上弦材付き)

区 分	規格・仕様	単位	施工数量	
			設置	撤去
柵高 1.50m	ロープ本数 5本	m	15	30
柵高 2.00m	ロープ本数 7本	m	12	24
柵高 2.50m	ロープ本数 8本	m	8	16
柵高 3.00m	ロープ本数 10本	m	7	14

表9.3 ステーループ設置工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
ステーループ	岩盤用アンカー込み	本	15

10. 防護柵設置工 (落石防止網)

表 10. 1 金網・ロープ設置

規格・仕様	単位	施工数量
亜鉛メッキ 3, 4 種 (Z-G S 3, 4) 線径 2.6 mm	m ²	130
亜鉛メッキ 3, 4 種 (Z-G S 3, 4) 線径 3.2 mm	m ²	110
亜鉛メッキ 3, 4 種 (Z-G S 3, 4) 線径 4.0 mm	m ²	90
亜鉛メッキ 3, 4 種 (Z-G S 3, 4) 線径 5.0 mm	m ²	75

表 10. 2 アンカー設置

規格・仕様			単位	施工数量
岩 盤 用	D 22 mm × 長 1,000 mm		箇所	15
	D 25 mm × 長 1,000 mm		箇所	
	D 29 mm × 長 1,000 mm		箇所	
	D 32 mm × 長 1,000 mm		箇所	
土 中 用	羽根付アンカー	径 25 mm×長 1,500 mm	箇所	18
	高耐力アンカー (プレート羽付)	アンカー有効長 1,500 mm	箇所	6
		アンカー有効長 2,000 mm	箇所	
	高耐力アンカー (溝形鋼羽付)	アンカー有効長 1,500 mm	箇所	4
		アンカー有効長 2,000 mm	箇所	

表 10. 3 支柱設置

規格・仕様		単位	施工数量
ポケット式支柱 (アンカー固定式)	支柱高 2.0m	箇所	6
	支柱高 2.5m	箇所	
	支柱高 3.0m	箇所	
	支柱高 3.5m	箇所	
	支柱高 4.0m	箇所	

11. 法 面 工

表 11. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
モルタル吹付工	厚 5 cm	m ²	120
	厚 6 cm	m ²	
	厚 7 cm	m ²	
	厚 8 cm	m ²	100
	厚 9 cm	m ²	
	厚 10 cm	m ²	

表 11. 2

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
コンクリート吹付工	厚 10 cm	m ²	100
	厚 15 cm	m ²	60
	厚 20 cm	m ²	50

表 11. 3

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
植生基材吹付工	厚 3 cm	m ²	140
	厚 4 cm	m ²	
	厚 5 cm	m ²	
	厚 6 cm	m ²	110
	厚 7 cm	m ²	
	厚 8 cm	m ²	
	厚 10 cm	m ²	100
客土吹付工	厚 1 cm	m ²	400
	厚 2 cm	m ²	
	厚 3 cm	m ²	
種子散布工	—	m ²	1,100

表 11. 4

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
植生マット工	肥料袋付	m ²	200
植生シート工	肥料袋無	標準品 m ²	250
		特殊品 m ²	
植 生 筋 工	人工筋芝(種子帯)	m ²	100
筋 芝 工	野芝・高麗芝	m ²	90
張 芝 工	野芝・高麗芝 (全面張)	m ²	300

表 11. 5

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
繊維ネット工	肥料袋無	m ²	250
	肥料袋付	m ²	200

12. 吹 付 枠 工

表 12. 1

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
吹付枠工 (モルタル・ コンクリート)	梁断面 150×150	m	98
	梁断面 200×200	m	77
	梁断面 300×300	m	51
	梁断面 400×400	m	30
	梁断面 500×500	m	26
	梁断面 600×600	m	20

表 12. 2

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
ラ ス 張 工	法面清掃及びラス・アンカーピン設置	m ²	140

13. 道路植栽工

表 13. 1 植樹工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
植 樹 工	低木 樹 高 60 cm未満	本	1,000
	中木 樹 高 60 cm以上 100 cm未満	本	440
		本	120
		本	60
	高木 幹 周 20 cm未満	本	30
		本	20
		本	10
		本	6

表 13. 2 支柱設置

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
支 柱 設 置	中木 二脚鳥居 添木付 樹 高 250 cm以上	本	60
		本	110
		m	180
		本	200
		m	130
		本	60
	高木 二脚鳥居 添木無 幹周 30 cm以上 40 cm未満	本	110
		本	100
		本	40
		本	45
		本	35
		本	35

表 13. 3 支柱撤去

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
支柱撤去	中木 二脚鳥居, 添木付, ハッ掛 (竹), 添柱形(1本形・竹)	本	450
		m	450
	高木 各種	本	200

表 13. 4 地被類植付工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
地被類植付工	各種	鉢	3,500

表 13. 5 植樹管理 (せん定)

区 分		規格・仕様		単位	施工数量
植 樹 管 理 せ ん 定	高	夏期 せん定	幹周 60cm未満	本	90
			幹周 60cm以上 120cm未満	本	30
	木	冬期 せん定	幹周 60cm未満	本	80
			幹周 60cm以上 120cm未満	本	30

表 13. 7 植樹管理 (施肥,除草,芝刈,灌水)

区 分		規格・仕様		単位	施工数量
植 樹 管 理 せ ん 定	施 肥	高木		本	200
		中木, 低木		本	600
		寄植		m ²	2,000
		芝		m ²	5,000
	除 草	除根除草	植込み地	m ²	500
			芝 生	m ²	350
	芝 刈	芝刈		m ²	800
	灌 水	トラック使用		m ²	1,000
		散水車使用 (貸与車)		m ²	5,000

表 13. 9 移植工 (掘取工)

区 分		規格・仕様		単位	施工数量
移 植 工 (掘 取 工)	低 木	樹高 60 cm未満		本	400
		樹高 60 cm以上 100 cm未満		本	120
	中 木	樹高 100 cm以上 200 cm未満		本	80
		樹高 200 cm以上 300 cm未満		本	60
		幹周 30 cm未満		本	20
	高 木	幹周 30 cm以上 60 cm未満		本	5
		幹周 60 cm以上 90 cm未満		本	3

表 13. 6 植樹管理 (せん定)

区 分		規格・仕様		単位	施工数量
植 樹 管 理 せ ん 定	低 木 ・ 中 木	球 形	樹高 100cm未満	本	430
			樹高 100cm以上 200 cm未満	本	120
		円 筒 形	樹高 200cm以上 300 cm未満	本	45
			樹高 100 cm未満	本	1,000
		筒 形	樹高 100cm以上 200 cm未満	本	290
			樹高 200cm以上 300 cm未満	本	110
	寄 植	低 木		m ²	1,000
		中 木		m ²	700

(注) せん定枝焼却については施工数量を定めていない。

表 13. 8 植樹管理 (防除)

区 分		規格・仕様		単位	施工数量	
防 除	低 木	樹高	60cm未満	本	5,000	
		中	樹高	60cm以上 100cm未満	本	5,000
			樹高	100cm以上 200cm未満	本	2,000
	木	樹高	200cm以上 300cm未満	本	1,300	
		高	幹周	60cm未満	本	400
	木		幹周	60cm以上 120cm未満	本	300
		寄 植	低木	㎡		2,000
	中木		㎡		1,000	
	芝				㎡	6,000

14. 橋 梁 塗 装 工

表 14. 1 新橋継手部現場塗装

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
鋼橋架設における 新橋継手部 現場塗装	素地調整 動力工具処理	m ²	50
	素地調整 ブラスト処理	m ²	60

表 14. 2 新橋塗装

区分	規格・仕様	単位	施工数量
新橋・新橋継手部 現場現場塗装	準備・補修	m ²	600
	ミストコート はけ・ローラー	m ²	400
	下塗り はけ・ローラー	m ²	400
	中塗り はけ・ローラー	m ²	400
	上塗り はけ・ローラー	m ²	400
現場 塗装 替 装	清掃・水洗い	m ²	1,300
	素地調整 1種ケレン ブラスト法	m ²	70
	素地調整 2種ケレン 動力工具と手工具の併用	m ²	80
	素地調整 3種ケレンA 動力工具と手工具の併用	m ²	110
	素地調整 3種ケレンB 動力工具と手工具の併用	m ²	200
	素地調整 3種ケレンC 動力工具と手工具の併用	m ²	300
	素地調整 4種ケレン 動力工具と手工具の併用	m ²	400
	下塗り はけ・ローラー	m ²	400
	中塗り はけ・ローラー	m ²	400
	上塗り はけ・ローラー	m ²	400
	下塗り スプレー	m ²	500
	中塗り スプレー	m ²	500
	上塗り スプレー	m ²	500

15. 橋梁用伸縮継手装置設置工

表 15. 1

区分	規 格 ・ 仕 様			単位	施工数量
新 設	軽量型	1.8m当り50kg未満		m	7.2
	普通型	1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下		m	7.2
補 修	軽量型	1車線相当	1.8m当り50kg未満	m	3.6
		2車線相当	1.8m当り 50 kg未満	m	7.2
	普通型	1車線相当	1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下	m	3.6
		2車線相当	1.8m当り 50 kg以上 180 kg以下	m	7.2

16. 橋梁用埋設型伸縮継手装置設置工

表 16. 1

区分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
新 設	舗装厚内型	後付工法	m	7.2
		先付工法	m	7.2
	床版箱拔型	後付工法	m	7.2
補 修	舗装厚内型	1車線相当	m	3.6
		2車線相当	m	7.2
	床版箱拔型	1車線相当	m	3.6
		2車線相当	m	7.2

17. 構造物とりこわし工

表 17. 1

区 分	規 格・仕 様	単 位	施工数量
無 筋 構 造 物	機 械 施 工	m ³	20
	人 力 施 工	m ³	6
鉄 筋 構 造 物	機 械 施 工	m ³	10
	人 力 施 工	m ³	4

18. 薄層カラー舗装工

表 18. 1

区 分	規 格・仕 様	単 位	施工数量
樹脂モルタル 舗装工	厚 6mm以下	m ²	60
	厚 6mm超え 8mm以下	m ²	
	厚 8mm超え10mm以下	m ²	
景 観 透 水 性 舗装工	厚10mm以下	m ²	60
	厚10mm超え15mm以下	m ²	
樹 脂 系 すべり止め 舗装工	R P N - 1 0 1	m ²	350
	R P N - 1 0 2	m ²	
	R P N - 1 0 3	m ²	200
	R P N - 1 0 4	m ²	
	R P N - 2 0 1	m ²	350
	R P N - 2 0 2	m ²	
	R P N - 2 0 3	m ²	200
	R P N - 2 0 4	m ²	
	R P N - 3 0 1	m ²	250
	R P N - 3 0 2	m ²	
	R P N - 3 0 3	m ²	150
	R P N - 3 0 4	m ²	
	R P N - 4 0 1	m ²	120
	R P N - 4 0 2	m ²	
	R P N - 5 0 1	m ²	150
	R P N - 5 0 2	m ²	
	R P N - 6 0 1	m ²	160
	R P N - 6 0 2	m ²	120

19. 道路標識設置工

表 19. 1 標識柱設置 (路側式(単柱式))

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
路側式 単柱式 基礎含む 標識板 設置除く	メッキ品	柱径φ60.5	基	20
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	
		φ101.6	基	
	下地亜鉛メッキ+静電粉体塗装	柱径φ60.5	基	
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	
	静電粉体塗装	柱径φ60.5	基	
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	

表 19. 2 標識柱設置 (路側式(複柱式))

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
路側式 複柱式 基礎含む 標識板 設置除く	メッキ品	柱径φ60.5	基	15
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	
		φ101.6	基	
	下地亜鉛メッキ+静電粉体塗装	柱径φ60.5	基	
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	
	静電粉体塗装	柱径φ60.5	基	
		φ76.3	基	
		φ89.1	基	

表 19. 3 標識柱設置 (片持式)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
標識柱設置 片持式 基礎別途	1基当り総質量	400kg未満	基	6
		400kg以上	基	4

表 19. 4 標識柱設置 (門型式)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
標識柱設置 門型式 基礎別途	1スパンの長さ	10m未満	基	1
		10m以上 20m未満	基	
		20m以上	基	

表 19.5 標識板設置 (案内標識 [路線番号除く])

区 分	規 格 ・ 仕 様				単位	施工数量
標識板設置 (案内標識) 路線番号は 除く	路側式 片持式 門型式 添架式 取付金具(クランプ型 ブラケットを除く)を含む	広角プリズム	1 枚	2.0㎡未満	㎡	25
				2.0㎡以上	㎡	
		カプセルプリズム カプセルレンズ	当 り	2.0㎡未満	㎡	
				2.0㎡以上	㎡	
		封入プリズム・封 入レンズ	面 積	2.0㎡未満	㎡	
				2.0㎡以上	㎡	

表 19.6 標識板設置 (警戒・規制・指示・路線番号標識)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
標識板設置	警戒・規制・指示・ 路線番号標識	板の枚数, 補助板の有無を問 わず	基	30

表 19.7 添架式標識板取付金具設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
添架式標識板 取付金具設置	信号アーム部に取付	組	20
	照明柱・既設標識柱に取付	組	20
	歩道橋に取付	組	3

表 19.8 標識基礎設置 (片持式・門型式)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
基礎設置 コンクリート 基礎アンカー ボルトの設置 含む	標識柱1基当りの 基礎コンクリート容量	4.0㎡未満	基	8
		4.0㎡以上 6.0㎡未満	基	
		6.0㎡以上	基	

表 19.9 標識柱・基礎撤去 (路側式 (単柱式・複柱式))

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
路側式	単柱式(基礎含む)	柱径φ60.5, φ76.3, φ89.1, φ101.6	基	40
	複柱式(基礎含む)	柱径φ60.5, φ76.3, φ89.1, φ101.6	基	30

表 19.10 標識柱撤去 (片持式・門型式)

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
片持式	1基当りの総質量 (支柱のみ)	400kg未満	基	12
		400kg以上	基	9
門型式	1スパン当りの長さ (支柱のみ)	10m未満	基	2
		10m以上 20m未満	基	
		20m以上	基	

表 19. 11 標識板撤去 (路側式, 片持式・門型式)

区 分		規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
標識板撤去 (添架式は除く)	案内標識以外	路側式(警戒・規制・指示・路線番号標識)		基	60
	案内標識 (片持式・門型式)	1枚当りの面積	2.0 m ² 未満	m ²	50.0
			2.0 m ² 以上	m ²	

表 19. 12 標識板撤去 (添架式標識板)

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
標識板撤去 添架式標識板 取付金具撤去含む	信号アーム部	組	20
	照明柱・既製標識柱	組	
	歩道橋	組	3

表 19. 13 基礎 (コンクリート基礎) 撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
基礎撤去	コンクリート基礎	基	2

20. 道路附属物工

表 20.1 視線誘導標設置

区 分		規 格 ・ 仕 様			単位	施工数量
視線誘導標設置	土中建込用	両面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	40
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
		片面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
	コンクリート建込用 (穿孔含む)	両面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	25
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
		片面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
	コンクリート建込用 (穿孔含まない)	両面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	200
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
		片面反射	反射体径φ100 以下	支柱径φ34	本	
				支柱径φ60.5	本	
				支柱径φ89	本	
			反射体径φ300	支柱径φ60.5	本	
	防護柵取付用	両面反射	反射体径φ100 以下	バンド式	本	100
				ボルト式	本	
				かぶせ式	本	
			反射体径φ300	バンド式	本	
		片面反射	反射体径φ100 以下	バンド式	本	
				ボルト式	本	
				かぶせ式	本	
			反射体径φ300	バンド式	本	
	構造物取付用	両面反射	反射体径φ100 以下	側壁用	本	40
				ベースプレート式	本	
				ベースプレート式	本	
			反射体径φ300	側壁用	本	
		片面反射	反射体径φ100 以下	側壁用	本	
				ベースプレート式	本	
				ベースプレート式	本	
			反射体径φ300	ベースプレート式	本	

表 20.2 スノーポール併用型視線誘導標設置

区 分		規 格 ・ 仕 様			単位	施工数量
視線誘導標設置 スノーポール併用型	土中建込式 (2 段式) (スライド式)	両面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 1 個	本	40
		片面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 2 個	本	
				反射体数 1 個	本	
	コンクリート建込用 (穿孔含む) (2 段式) (スライド式)	両面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 1 個	本	25
		片面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 2 個	本	
				反射体数 1 個	本	
	コンクリート建込用 (穿孔含まない) (2 段式) (スライド式)	両面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 1 個	本	200
		片面反射	反射体径φ100 以下	反射体数 2 個	本	
				反射体数 1 個	本	

表 20.3 境界杭設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
境 界 杭	コンクリート製 (根巻基礎あり)	本	20
	コンクリート製 (根巻基礎なし)	本	

表 20. 4 道路鋏設置

区 分		規 格 ・ 仕 様				単位	施工数量
道路鋏 設置	大型鋏 高さ 30 mm 超え 50 mm 以下	両面反射	穿孔式	アルミ製	設置幅 30 cm	個	60
					設置幅 20 cm	個	
		片面反射	穿孔式	アルミ製	設置幅 30 cm	個	
					設置幅 20 cm	個	
	小型鋏 高さ 30 mm 以下	両面・片面	穿孔式	アルミ製	設置幅 15 cm	個	120
			貼付式	樹脂製	設置幅 10 cm	個	150

表 20. 5 車線分離標設置(ラバーポール)

区 分		規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
車線分離標設置 (ラバーポール)	可変式(穿孔式・1本脚)		本体(柱)径φ80 ベース径 φ250	本	40
	着脱式(穿孔式・3本脚)		本体(柱)径φ80 ベース径 φ250	本	30
	固定式(貼付式)		本体(柱)径φ80 ベース径 φ250	本	80

表 20. 6 境界鋏設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
境 界 鋏	金 属 製	枚	150

表 20. 7 道路付属物撤去

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
視線誘導標撤去 (スノーポール併用型含む)	土中建込用	本	100
	コンクリート建込用	本	100
	防護柵取付用	本	200
	構造物取付用	本	100
境界杭撤去		本	60
道路鋏撤去	穿孔式	個	120
	貼付式	個	240
車線分離標撤去 (ラバーポール)	可変式(穿孔式・1本脚)	本	60
	着脱式(穿孔式・3本脚)	本	45
	固定式(貼付式)	本	100
境界鋏撤去		枚	300

21. 公園植栽工

表 21. 1 植樹工

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
低 木 (株物, 一本立を含む)	樹高 60cm未満	本	500
中 木	樹高 60cm以上 100cm未満	本	330
	樹高 100cm以上 200cm未満	本	100
	樹高 200cm以上 300cm未満	本	30

表 21. 2 支柱設置

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
中 木	二脚鳥居 添木付 樹高 250cm以上	本	30
	八ツ掛 (竹) 樹高 100cm以上	本	40
	添柱形 (1本形・竹) 樹高 100cm以上	本	200
	布掛 (竹) 樹高 100cm以上	m	60
	生垣形 樹高 100cm以上	m	90

表 21. 3 地被類植付工

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
地被類植付工	各 種	鉢	4,000

22. コンクリートブロック積工

表 22. 1

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
コンクリート ブロック積工	基礎碎石工 裏込碎石工 ブロック積工 込みで、ブロック面積当たりとする。	m ²	11

※日当り施工数量には、コンクリート養生に要する日数及び数量は含まれていない。

23. 軟弱地盤処理工

表 23. 1

区 分	規 格 ・ 仕 様	単位	施工数量
サンドドレーン工	打設長 10m未満	m	440
	打設長 10m以上 20m未満	m	390
	打設長 20m以上 35m未満	m	390
サンドコンパクションパイル工	打設長 10m未満	m	180
	打設長 10m以上 20m未満	m	170
	打設長 20m以上 35m未満	m	170

24. 排水構造物工

表 24. 1

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
U型側溝	L = 600mm	60 kg／個以下	m	25
		60 を超え 300 kg／個以下	m	
	L = 2,000mm	1,000 kg／個以下	m	50
		1,000 を超え 2,000 kg／個以下	m	35
		2,000 を超え 2,900 kg／個以下	m	25

(注) 基礎碎石から敷モルタル、側溝本体据付まで一連の作業を含む。

表 24. 2

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
自由勾配側溝	L = 2,000mm	1,000 kg／個以下	m	30
		1,000 を超え 2,000 kg／個以下	m	20
		2,000 を超え 2,900 kg／個以下	m	

(注) 1. 基礎碎石から基礎コンクリート、側溝本体据付、底部コンクリート打設まで一連の作業を含む。

2. 日当り施工数量には、コンクリートの養生に要する日数及び数量は含まれていない。

表 24. 3

区 分	規 格 ・ 仕 様		単位	施工数量
蓋版	コンクリート・鋼製	40 kg／枚以下	枚	210
		40 を超え 170 kg／枚以下	枚	130

25. 橋 面 防 水 工

表 25. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
シート系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	220
	補 修	m ²	150
塗膜系防水（アスファルト系）	新 設	m ²	250
	補 修	m ²	170

26. グルーピング工

表 26. 1

区 分	規格・仕様		単位	施工数量
グルーピング工	縦方向	幅 9 mm－深さ 6 mm－間隔 60 mm	m ²	300
		幅 9 mm－深さ 4 mm－間隔 60 mm	m ²	300
	横方向	幅 9 mm－深さ 6 mm－間隔 60 mm	m ²	150
		幅 36 mm－深さ 10 mm (路面排水用)	m	150

27. 鉄筋挿入工

表 27. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
現場条件Ⅰ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	14
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	7
現場条件Ⅱ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8
	$2.0\text{m} < L \leq 5.0\text{m}$	本	4
	削孔機械の上下移動	回	2
	仮設足場の設置・撤去	空 m3	40
現場条件Ⅲ	$L \leq 2.0\text{m}$	本	8

28. コンクリート表面処理工

表 28. 1

区 分	規格・仕様	単位	施工数量
コンクリート表面処理		m ²	150

第Ⅱ編 共通工

第1章	土 工	Ⅱ-1-①-1
第2章	共 通 工	Ⅱ-2-①-1
第3章	基 礎 工	Ⅱ-3-①-1
第4章	コンクリート工	Ⅱ-4-①-1
第5章	仮 設 工	Ⅱ-5-①-1

第1章 土 工

① 土量変化率等……………	Ⅱ-1-①- 1	⑤ 人力土工(ベルトコンベヤ併用)……	Ⅱ-1-⑤- 1
1 土量の変化……………	Ⅱ-1-①- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-1-⑤- 1
2 土量変化率……………	Ⅱ-1-①- 1	2 施工概要……………	Ⅱ-1-⑤- 1
3 適用土質及び機械損料補正……………	Ⅱ-1-①- 2	3 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-⑤- 2
4 土質区分の対応……………	Ⅱ-1-①- 2	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-⑤- 5
5 岩質の判定基準……………	Ⅱ-1-①- 4	⑥ 安定処理工……………	Ⅱ-1-⑥- 1
② 土工……………	Ⅱ-1-②- 1	⑥-1 安定処理工……………	Ⅱ-1-⑥- 1
②-1 土工……………	Ⅱ-1-②- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-1-⑥- 1
1 適用範囲……………	Ⅱ-1-②- 1	2 施工概要……………	Ⅱ-1-⑥- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-1-②- 3	3 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-⑥- 2
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-②- 7	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-⑥- 4
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-②-30	⑥-2 安定処理工(自走式土質改良工)Ⅱ-1-⑥- 5	
③ 作業土工……………	Ⅱ-1-③- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-1-⑥- 5
③-1 床掘工……………	Ⅱ-1-③- 1	2 施工概要……………	Ⅱ-1-⑥- 5
1 適用範囲……………	Ⅱ-1-③- 1	3 自走式土質改良機設置・撤去工……	Ⅱ-1-⑥- 5
2 施工概要……………	Ⅱ-1-③- 2	4 土質改良工……………	Ⅱ-1-⑥- 6
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-③- 4	5 単価表……………	Ⅱ-1-⑥- 7
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-③- 8	6 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-⑥- 8
③-2 埋戻工……………	Ⅱ-1-③- 9	⑦土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)Ⅱ-1-⑦- 1	
1 適用範囲……………	Ⅱ-1-③- 9	1 適用範囲……………	Ⅱ-1-⑦- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-1-③- 9	2 施工概要……………	Ⅱ-1-⑦- 1
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-③- 9	3 機種の選定……………	Ⅱ-1-⑦- 1
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-③-12	4 機械の施工歩掛……………	Ⅱ-1-⑦- 1
④ 人力運搬工……………	Ⅱ-1-④- 1	5 単価表……………	Ⅱ-1-⑦- 3
1 適用範囲……………	Ⅱ-1-④- 1	6 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-⑦- 4
2 施工パッケージ……………	Ⅱ-1-④- 2		
3 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-1-④-10		

第1章 土 工

① 土量変化率等

1. 土量の変化

土量の変化は次の3つの状態の土量に区分して考える。

地山の土量……………掘削すべき土量

ほぐした土量……………運搬すべき土量

締固め後の土量……………出来上がりの盛土量

三つの状態の体積比を次式のように表わし、L及びCを土量の変化率という。

$$L = \frac{\text{ほぐした土量 (m}^3\text{)}}{\text{地山の土量 (m}^3\text{)}}$$

$$C = \frac{\text{締固め後の土量 (m}^3\text{)}}{\text{地山の土量 (m}^3\text{)}}$$

土量の配分計画を立てる場合には、この土量変化率を用いて、切土、盛土の土量計算を行う。

2. 土量変化率

統一分類法により分類した土の各土質に応じた変化率は、表2.1を標準とする。なお、細分し難いときは、表2.2を使用してよい。

表2.1 土量の変化率

分 類 名 称			変化率L	変化率C
主 要 区 分		記 号		
レキ質土	レキ	(GW) (GP) (GPs) (G-M) (G-C)	1.20	0.95
	レキ質土	(GM) (GC) (GO)	1.20	0.90
砂及び砂質土	砂	(SW) (SP) (SPu) (S-M) (S-C) (S-V)	1.20	0.95
	砂質土 (普通土)	(SM) (SC) (SV)	1.20	0.90
粘性土	粘性土	(ML) (CL) (OL)	1.30	0.90
	高含水比 粘性土	(MH) (CH)	1.25	0.90
岩塊・玉石			1.20	1.00
軟岩Ⅰ			1.30	1.15
軟岩Ⅱ			1.50	1.20
中硬岩			1.60	1.25
硬岩Ⅰ			1.65	1.40

(注) 本表は体積(土量)より求めたL、Cである。

表2.2 土量の変化率

分類名称 主 要 区 分	変化率L	変化率C	1／C	L／C
レキ質土	1.20	0.90	1.11	1.33
砂及び砂質土	1.20	0.90	1.11	1.33
粘性土	1.25	0.90	1.11	1.39

- (注) 1. 本表は体積(土量)より求めたL、Cである。
2. 1／Cは「締固め後の土量」を「地山の土量」に換算する場合に使用する。
3. L／Cは「締固め後の土量」を「ほぐした土量」に換算する場合に使用する。

3. 適用土質及び機械損料補正

表3.1 適用土質及び機械損料補正

分類名称	掘 削 積 込		ダンプトラック運搬		敷均し・締固め
	適用土質	損料補正	適用土質	損料補正	損料補正
レキ質土	レキ質土	1.00	土 砂	1.00	1.00
砂・砂質土	砂・砂質土	1.00	〃	1.00	1.00
粘性土	粘性土	1.00	〃	1.00	1.00
岩塊・玉石	岩塊・玉石	1.00	〃	1.00	1.00
軟岩(Ⅰ)	レキ質土	1.00	軟 岩	1.00	1.00
軟岩(Ⅱ)	〃	1.00	〃	1.00	1.00
中 硬 岩	破 碎 岩	1.25	硬 岩	1.25	1.25
硬 岩 (Ⅰ)	〃	1.25	〃	1.25	1.25

- (注) 1. 軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩Ⅰの掘削積込は、「ルーズな状態」に適用する。
2. 各土質の分類名称の定義は、土木工事共通仕様書による。
3. 機械損料補正は歩掛のみに適用する。なお、施工パッケージについては、パッケージ単価に岩石作業における機械損料の影響を含んでいる。

4. 土質区分の対応

土木工事共通仕様書における土質分類と積算条件の土質区分の関係は、以下のとおりである。

表4.1 適用土質(1)

施工パッケージ 区分 分類名称	掘削	床掘り・ 埋戻し	掘削 (砂防)	積込(ルーズ)	人力積込	積込(ルーズ) (砂防)	押土(ルーズ)	押土(ルーズ) (砂防)
レキ質土	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂	土砂
砂・砂質土								
粘性土								
岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石	岩塊・玉石
軟岩Ⅰ	軟岩	—	軟岩	土砂	軟岩	土砂	土砂	土砂
軟岩Ⅱ								
中硬岩	硬岩	—	硬岩	破碎岩	中硬岩	破碎岩	破碎岩	破碎岩
硬岩					硬岩			
転石	—	—	転石	—	—	—	—	—

表4.2 適用土質(2)

施工パッケージ 区分 分類名称	法面整形	土砂等運搬	土砂等運搬 (砂防)	人肩運搬 小車運搬 ベルトコンベヤ（ポータブル） 併用人力掘削 ベルトコンベヤ（ポータブル） 併用人力積込
レキ質土	レキ質土，砂・砂質土， 粘性土	土砂	土砂	土砂
砂・砂質土				
粘性土				
岩塊・玉石	—			岩塊・玉石
軟岩Ⅰ	軟岩Ⅰ	軟岩	軟岩	—
軟岩Ⅱ				
中硬岩	軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩	硬岩	硬岩	—
硬岩Ⅰ				
転石	—	—	—	—

5. 岩質の判定基準

表5.1 岩質の判定基準

国土交通省岩分類	岩種グループ別	変成岩及び堆積岩										堆積岩						火成岩												
		主として古生代										中生代				第三紀		深成岩				火山岩								
		片麻岩	砂質片岩	黒色片岩	緑色片岩	千枚岩	珪岩・角岩	石灰岩	砂岩	粘板岩	輝緑凝灰岩	粘板岩	頁岩	砂岩	れき岩	頁岩泥岩	砂岩	凝灰岩	凝灰角礫岩	花こう岩	セン緑岩	ハンレイ岩	カンラン岩	蛇紋岩	流紋岩	ヒン岩	安山岩	玄武岩	集塊岩	
軟岩Ⅰ	A B	●			●			●	●		●			●	●		▲ △			● ▲	●				● ▲	●		●	●	▲ △
		▲	● ▲		● ▲	▲	●	▲ △	▲		▲			▲	▲ △		○ ◎	○ ◎		▲ △	▲	● ▲	● ▲	△ ○	▲	● ▲	▲	▲		○ ◎
中硬岩	A B	△	▲ △		△		▲	○ ◎	△		△	△ ◎		△	○ ◎					△ ○	△ ○	△ ○	△ ○	◎	△	△	△	△		
		○ ◎	△ ○		○ ◎		○		○ ◎				○ ◎							◎	◎	◎	◎		○ ◎	○ ◎	○ ◎	○ ◎		
硬岩Ⅰ	A B	○ ◎	△ ○		○ ◎		○			○				○ ◎						◎	◎	◎	◎		○ ◎	○ ◎	○ ◎	○ ◎		
			◎				○ ◎																							
硬岩Ⅱ	A						○ ◎																							
			◎																											

- 全体に変化が進み変色しているもの。
- △ 割れ目に沿って風化変色が少なく、岩片内部は新鮮なもの。
- ▲ 割れ目に沿って幅広く風化しているが球状、レンズ状に未風化部を残すもの。
- 割れ目が少なく風化変色がほとんどなく新鮮で硬いもの。
- ◎ 岩石が特に硬く全く新鮮なもの。
- * Aグループは、花崗岩・安山岩・砂岩・珪岩のように、造岩物質、固結度共に硬く、風化が進み、亀裂が入って、弾性波速度が遅くても、岩片耐圧強度の高い岩種類。
- * Bグループは、頁岩・粘板岩・黒色片岩のように、造岩物質が軟らかく、風化が進むと泥化し新鮮なもので弾性波速度が早くても、岩片耐圧強度の低い岩種類。

② 土工

②-1 土工

1. 適用範囲

本資料は、施工パッケージによる土工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 掘削

- (1) 土砂、岩塊・玉石、軟岩、硬岩の掘削
- (2) 掘削深さが5m以内のバックホウ掘削の場合
- (3) 陸上掘削でクラムシェルによる水中掘削積込を行う場合
- (4) 破砕片除去を伴う際は、掘削面と機械基面の高低差が5mまでの場合
- (5) 岩石の床掘りの場合

1-1-2 土砂等運搬

- (1) 自工区内の土砂等の運搬
- (2) 土取場（仮置場）から採取する土砂等の運搬
- (3) 構造物築造のために行う作業土工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬
- (4) 掘削工で生じた残土の処分場又は他工区までの運搬

1-1-3 整地

- (1) 構造物築造のために行う作業土工で生じた土砂等又は掘削工で生じた土砂等の受入れ地（仮置場）、土取場での整地

1-1-4 路体(築堤)盛土

- (1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路体（築堤）盛土
- (2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路体（築堤）盛土
- (3) 土取場（仮置場）で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路体（築堤）盛土
- (4) 購入土を使用した路体（築堤）盛土

1-1-5 路床盛土

- (1) 自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等を使用した路床盛土
- (2) 他工区内で発生し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土
- (3) 土取場（仮置場）で採取し運搬されてくる土砂等を使用した路床盛土
- (4) 購入土を使用した路床盛土

1-1-6 押土(ルーズ)

- (1) 運搬距離 60m以下の押土による土砂等の運搬作業の場合
- (2) 運搬距離 30m以下の岩掘削後の集積用押土の場合

1-1-7 積込(ルーズ)

- (1) 土取場（仮置場）から採取する場合の土砂等の積込み
- (2) 仮置きされた土砂等の積込み
- (3) 破砕片除去の場合

1-1-8 人力積込

- (1) 仮置きされた土砂等の人力による積込み

1-1-9 転石破碎

- (1) 道路、河川工事等の岩掘削に伴う転石破碎

1-1-10 土材料

- (1) 道路土工、河川土工等における土材料（現場渡し単価又は土場渡し単価）を購入する場合

1-1-11 残土等処分

- (1) 残土運搬された土砂等の残土の処分場での処分
- (2) 泥水運搬された汚泥、泥水等の受入れ地での処分

1-2 適用出来ない範囲(土木工事標準積算基準書等により別途計上するもの)

1-2-1 掘削

- (1) 海上・水上作業におけるクラムシェル水中掘削積込
- (2) クラムシェルによる床掘り(作業土工)
- (3) 深礎工, 鋼管矢板基礎工, 共同溝工, 地すべり防止工におけるクラムシェル掘削積込
- (4) 河川堤防に布設する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合
- (5) 掘削(砂防)
- (6) 情報ボックス工の設置工事の掘削
- (7) 掘削(トンネル工)
- (8) 電線共同溝工事における掘削
- (9) 砂防, ダム, トンネルの本体工事の岩掘削及び水中掘削
- (10) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂, 岩塊・玉石の掘削積込
- (11) 3D-MG及びMCバックホウによる土砂の片切掘削

1-2-2 土砂等運搬

- (1) 土砂等運搬(砂防)
- (2) 河床等沈殿物, 底沼等軟弱土を除去した後の運搬作業
- (3) 機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬

1-2-3 整地

- (1) 締固めを含む場合

1-2-4 路体(築堤)盛土

- (1) 路床盛土工
- (2) 3D-MG及びMCブルドーザによる土砂等を使用した路体(築堤)盛土

1-2-5 路床盛土

- (1) 凍上抑制層を有する場合
- (2) 路体盛土工
- (3) 3D-MG及びMCブルドーザによる土砂等を使用した路床盛土

1-2-6 押土(ルーズ)

- (1) 地山の掘削を伴う押土の場合
- (2) 押土(ルーズ)(砂防)

1-2-7 積込(ルーズ)

- (1) 地山を掘削した土砂等を直接運搬車両等に投入する場合
- (2) 積込(ルーズ)(砂防)
- (3) 人力による積込み

1-3 適用出来ない範囲(別途考慮するもの)

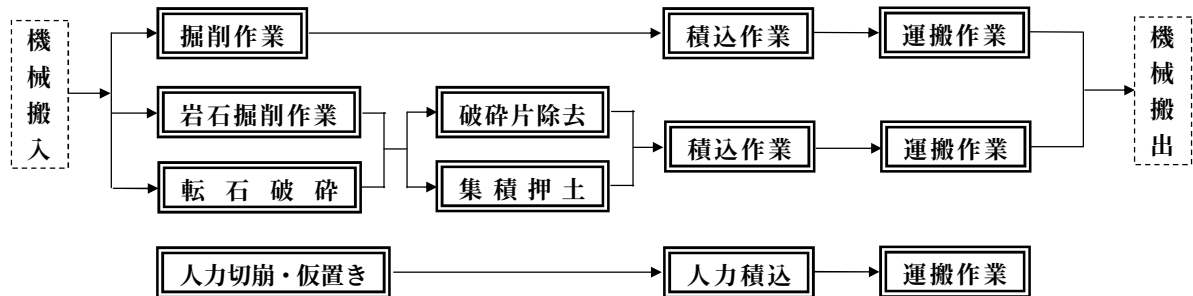
1-3-1 土砂等運搬

- (1) 自動車専用道路を利用する場合
- (2) 運搬距離が60kmを超える場合

2. 施 工 概 要

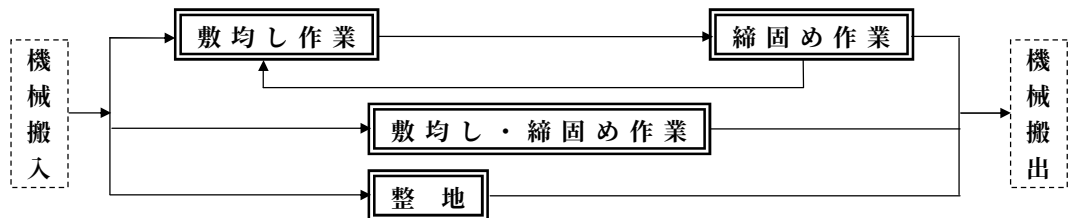
2-1 施工フロー

2-1-1 「掘削」、「転石破碎」、「押土（ルーズ）」「積込（ルーズ）」、「人力積込」、「土砂等運搬」



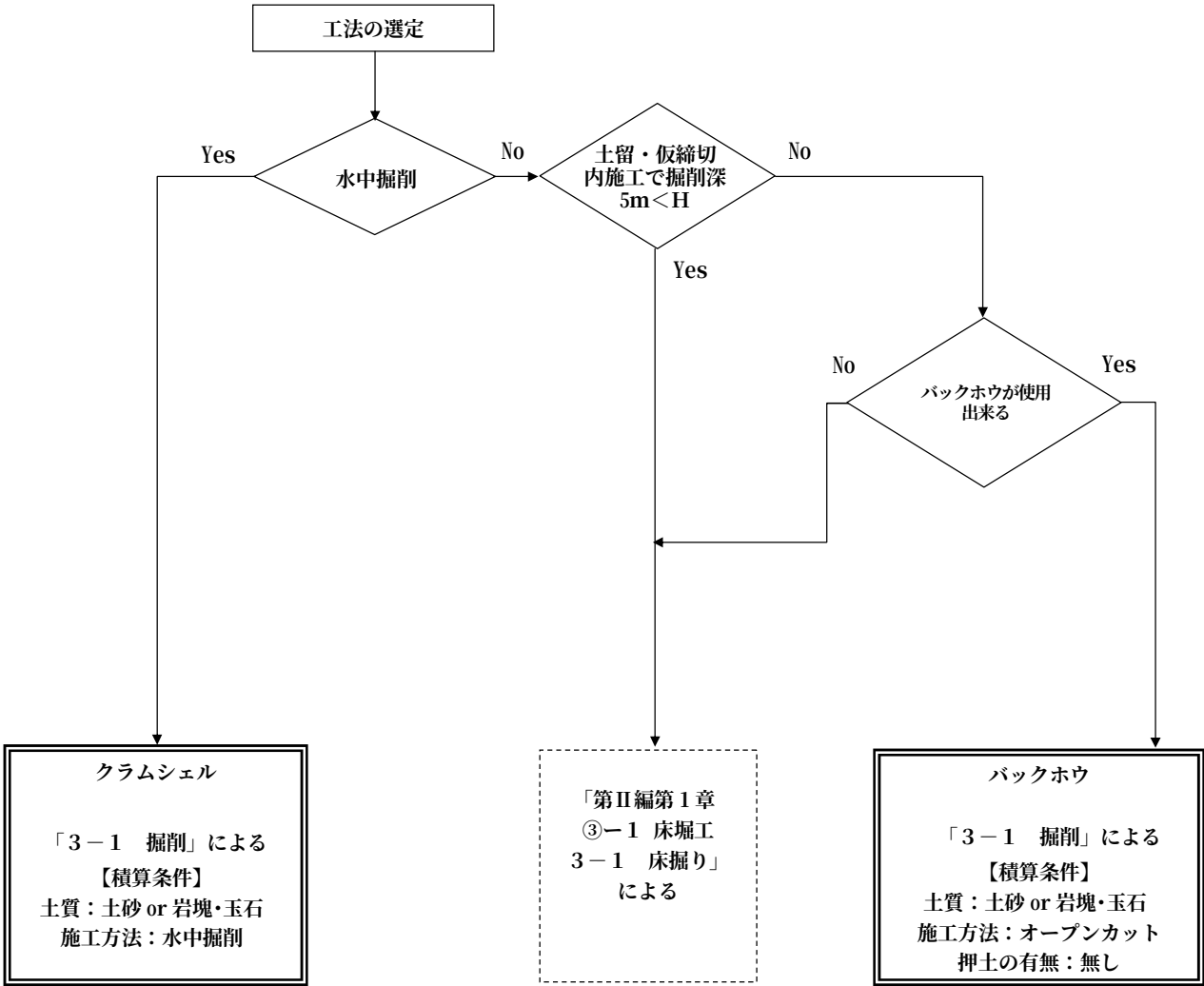
- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 破砕片除去、集積押土は必要な場合計上する（岩石掘削においては条件区分「有」を選択し、転石破碎においては「積込（ルーズ）」又は「押土（ルーズ）」を別途計上する）。
3. 積込み、運搬は必要な場合計上する（積込みについては表「(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に積込（ルーズ）の計上が必要な掘削の積算条件」による）。
4. 人力切崩は現場制約有り（機械施工が出来ない箇所の人力施工）に適用する。
5. 各作業の対象となる施工パッケージは「2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ」による。

2-1-2 「路体(築堤)盛土」、「路床盛土」、「整地」



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 残土受入れ地での整地は、土砂、中硬岩、硬岩Ⅰにかかわらず適用出来る。

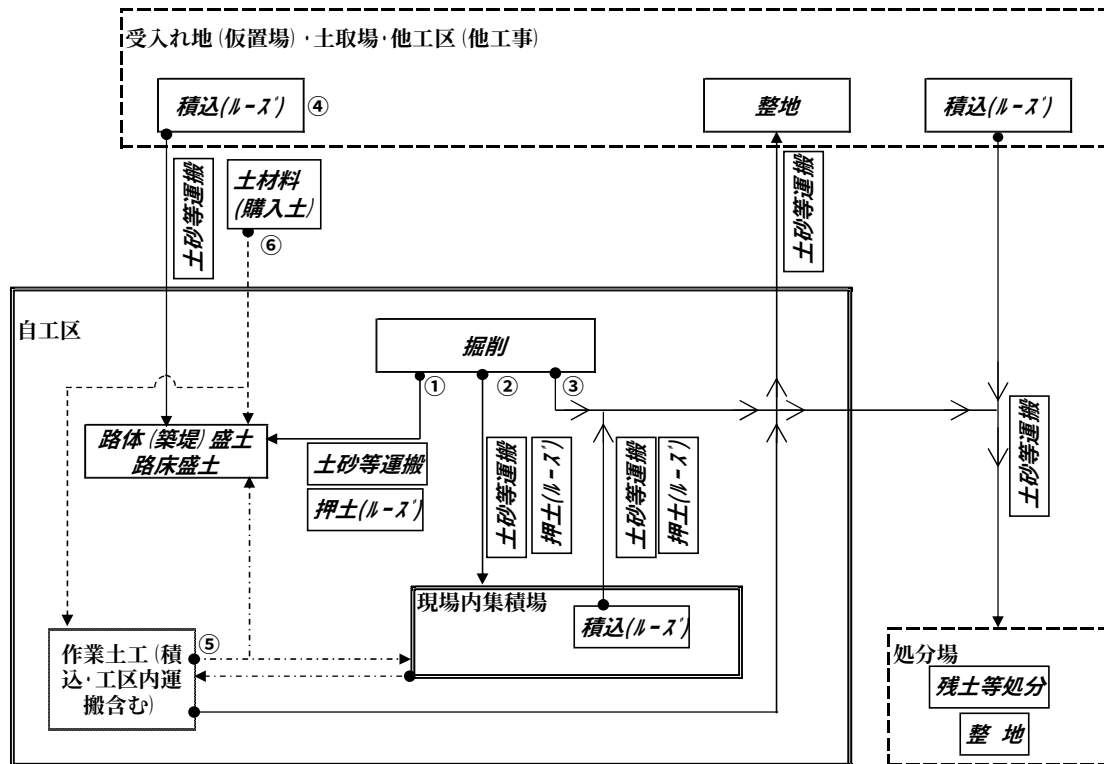
2-1-3 「掘削」におけるクラムシェル工法選定フロー



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ

(1) 道路土工, 河川土工等



- 凡例
- * **掘削**等施工パッケージ名称を斜体で示した。
 - * **土砂等運搬, 押土 (ℓ-ス)**を実線で示した。
 - * **土材料** (購入土) は通常現場着単価であり運搬は**土材料**に含まれるため破線で示した。(図中⑥)
 - ただし, **土材料** (購入土) を土場渡し単価で積算する場合は**土砂等運搬**を計上する。
 - * 作業土工 (床掘り・埋戻し・工区内運搬) における土の流れを一点鎖線で示した。(図中⑤)

- (注) 1. **掘削**に含まれる自工区内の運搬について (図中①, ②)
- (1) 土質が土砂, 岩塊・玉石の場合
 - ・ **掘削**において, 押土「有り」を選択した場合, 60m以内の工区内運搬を含む。
 - (2) 土質が軟岩又は硬岩の場合
 - ・ **掘削**において, 以下の条件を選択した場合, 30m以内の工区内運搬を含む。
 - 「軟岩」で施工数量「500m³以上」又は集積押土「有り」を選択した場合
 - 「硬岩」で火薬使用「可」又は集積押土「有り」を選択した場合
2. 土砂等運搬時の積込作業について (図中①～③)
- ・ **掘削**において, 条件区分により積込作業を含まない場合がある。
 - ・ **積込 (ℓ-ス)**を別途計上する必要がある条件区分は, 「(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に**積込 (ℓ-ス)**の計上が必要な掘削の積算条件」参照のこと。
3. 地山状態の土を掘削する場合は, **掘削**を使用する。(図中④)

(参考) ダンプトラックによる土砂等運搬時に**積込 (ℓ-Ⅰ')**の計上が必要な**掘削**の積算条件

掘削									積込 (ℓ-Ⅰ')
積算条件									
土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無	
土砂	オープンカット	—	有り	—	※1	—	—	—	要
			無し	※1	※1	—	—	—	不要
	片切掘削	—	—	—	—	—	—	要	
	現場制約あり	—	—	—	—	—	—	不要 ※2	
	水中掘削	—	—	—	—	—	—	不要	
	上記以外(小規模)	—	—	—	※1	—	—	—	不要
岩塊・玉石	オープンカット	—	有り	—	※1	—	—	—	要
			無し	※1	※1	—	—	—	不要
	水中掘削	—	—	—	—	—	—	不要	
	現場制約あり	—	—	—	—	—	—	不要 ※2	
軟岩	※1	—	—	—	※1	—	※1	※1	要
硬岩	※1	—	—	—	—	※1	※1	※1	要

(注) 1. 表中「※1」は積算条件の区分の記載を省略している。

2. 表中「※2」は人力積込の計上が必要となる。

3. 施工パッケージ

3-1 掘削

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

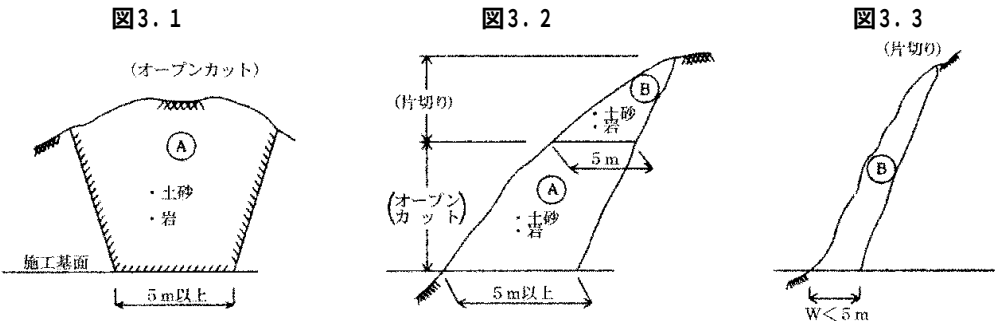
表3.1 掘削 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
土砂	オープンカット	—	有り	—	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	—	—	—
					普通土30,000m3以上	—	—	—
			無し	無し	50,000m3未満	—	—	—
					50,000m3以上	—	—	—
				有り	50,000m3未満	—	—	—
					50,000m3以上	—	—	—
	片切掘削	—	—	—	—	—	—	—
	水中掘削	—	—	—	—	—	—	—
	現場制約あり	—	—	—	—	—	—	—
	上記以外 (小規模)	—	—	—	標準(※1) 標準以外(※2)	—	—	—
岩塊・玉石	オープンカット	—	有り	—	普通土30,000m3未満 又は湿地軟弱土	—	—	—
					普通土30,000m3以上	—	—	—
			無し	無し	50,000m3未満	—	—	—
					50,000m3以上	—	—	—
				有り	50,000m3未満	—	—	—
					50,000m3以上	—	—	—
	水中掘削	—	—	—	—	—	—	—
	現場制約あり	—	—	—	—	—	—	—
軟岩	オープンカット	—	—	無し	500m3未満	—	無し	無し 有り
							有り (50,000m3未満)	無し
							有り (50,000m3以上)	無し
					500m3以上	—	—	—
				有り	500m3未満	—	無し	無し 有り
							有り (50,000m3未満)	無し
							有り (50,000m3以上)	無し
	片切掘削	—	—	—	—	—	無し	無し 有り
							有り (50,000m3未満)	無し
							有り (50,000m3以上)	無し
	現場制約あり	軟岩 (Ⅰ)	—	—	—	—	—	—
		軟岩 (Ⅱ)	—	—	—	—	—	—

土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無	施工数量	火薬使用	破砕片除去の有無	集積押土の有無
硬岩	オープンカット	—	—	無し	—	不可	無し	無し
							有り (50,000m3未満)	有り
							有り (50,000m3以上)	無し
							—	無し
				有り	—	不可	無し	有り
							有り (50,000m3未満)	無し
							有り (50,000m3以上)	無し
	片切掘削	—	—	—	—	不可	無し	無し
							有り (50,000m3未満)	有り
							有り (50,000m3以上)	無し
							—	無し
						可	無し	有り
							有り (50,000m3未満)	無し
							有り (50,000m3以上)	無し
	現場制約あり	中硬岩	—	—	—	—	—	—
		硬岩 (Ⅰ)	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 上表は、土砂、岩塊・玉石の掘削、積込み（掘削と同時に進行する積込み）、運搬（掘削と同時に進行する押土による運搬）、軟岩・硬岩の掘削、積込み、破砕片除去及び集積押土（積込みは含まないため、別途計上）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 土量は、地山土量とする。
3. 施工方法は、掘削箇所の地形により「オープンカット」、「片切り」に区分する。



- ①オープンカット
- 図3.1に示すような切取面が、水平もしくは緩傾斜をなすように施工が出来る場合で、切取幅5m以上、かつ延長20m以上を標準とする。
- ②片切掘削
- 図3.2及び図3.3に示すような切取幅5m未満の領域Bとする。なお、図3.2に示すような箇所であっても、地形及び工事量などの現場条件等を十分考慮のうえ、前述のオープンカットが可能と判断される場合はオープンカットを適用する。

③水中掘削

土留・仮締切工の施工条件において掘削深さが5mを超える場合、又は掘削深さが5m以内でも土留・仮締切工の切梁等のためバックホウが使用出来ない場合で水中の掘削・積込作業。

④現場制約あり

機械施工が困難な場合。

土砂は、直接積込み出来ない箇所の人力による片切部分等の切崩し作業。

岩石は、人力により片切掘削及び床掘りした岩を距離3m程度までの範囲で投棄し、掘削面の法面整形を含む作業。

⑤上記以外（小規模）

※1 標準：1箇所当りの施工土量が100m³以下、又は100m³以上で現場が狭隘な場合

2 標準以外：構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は1箇所当りの施工土量が50m³以下の場合

4. 押土の有無

①有り：土砂、岩塊・玉石の場合は、60mまでの運搬を含む。ただし、軟岩のオープンカットかつ掘削土量500m³以上を選択した場合及び硬岩のオープンカットで火薬使用「可」を選択した場合、30mまでの押土を含む。

5. 障害の有無

土質：土砂、岩塊・玉石の場合

①無し：構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合

②有り：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり（例えば作業障害が多い場合）連続掘削作業が出来ない場合。掘削深さ5m以内で掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削（溝掘り、基礎掘削）を行う場合

土質：軟岩の場合

①無し：掘削量が500m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入り作業出来る場合、もしくは掘削量が500m³以上の場合

②有り：掘削量が500m³未満で掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合

土質：硬岩の場合

①無し：掘削箇所に大型ブレーカが入り作業出来る場合、もしくは火薬を使用する場合

②有り：掘削箇所に大型ブレーカが入れない場合で、掘削箇所の外から作業する場合

6. 施工数量，破砕片除去数量

①施工数量は「小規模」を除き，1工事当りの数量とする。

表3. 1の条件区分「施工数量」，「破砕片除去の有無」に示す数量区分は，1工事当りの取扱い土量で判断する。1工事当りの取扱い土量は，掘削，掘削（ICT），積込（ルーズ）の施工数量を表3. 2の数量区分の規格別に「○」及び「●」の項目を条件区分によらず全て合計した土量とする。なお，これにより難しい場合は別途考慮する。

表3. 2 1工事当りの取扱い数量について

名称	条件区分					施工数量，破砕片除去数量の 数量区分		
						500m3	30,000m3	50,000m3
掘削	土質	施工方法	押土	破砕片除去	集積押土			
	土砂	オープンカット	有	—	—		○	
			無	—	—			○
	片切掘削	—	—	—				
		岩塊・玉石	オープンカット	有	—	—		○
	無			—	—			○
	軟岩	オープンカット	—	有	無	○		●
				無	有	○		
		片切掘削		有	無			●
				無	有			
	硬岩	オープンカット	—	有	無			●
				無	有			
		片切掘削		有	無			●
無				有				
掘削 (ICT)	土砂	オープンカット	—	—	—			○
		片切掘削	—	—	—			
	岩塊・玉石	オープンカット	—	—	—			○
積込 (ルーズ)	—							○

※施工数量：○，破砕片除去数量：●

②施工方法「上記以外（小規模）」の施工数量における「1箇所」とは，目的物（構造物・掘削等）1箇所当りのことであり，目的物が連続している場合は，連続している区間を1箇所とする。

③湿地軟弱土での作業の施工数量は，1工事当りの取扱い土量に含めない。

④土質「軟岩」，「硬岩」における床掘平均掘削幅 2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは，破砕片除去「無」を選択の上，「3－7 積込(ルーズ)」により別途計上する。

⑤掘削（土砂及び岩塊・玉石，オープンカット，集積押土無）には，掘削と同時に行う積込みを含む。

7. 火薬の標準的な使用量は，オープンカットでは1日当り含水爆薬 13.4 kg，AN－F019.5 kg，片切掘削では1日当り含水爆薬 1.8 kgとし，これにより難しい場合は別途計上する。

8. 集積押土の有無

①有り：集積押土の距離は 30mまでとする。

9. 軟岩床掘の場合

施工数量にかかわらず，500m3 未満を適用するものとする。

10. 軟岩又は硬岩の場合で，盛土等に流用するための小割りに破砕が再度必要となった場合は，小割りに要する費用は別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 掘削 代表機労材規格一覧

土質	項目		代表機労材規格	施工方法											水中掘削	現場制約あり			
				オープンカット				片切掘削				小規模							
				施工数量															
				普通土 30,000 m3未満 又は 湿地 軟弱土	普通土 30,000 m3 以上	50,000 m3 未満	50,000 m3 以上	-	-	-	小規模 (標準)	小規模 (標準 以外)	-						
土砂（岩塊・玉石混り土含む）	機械	K1	ブルドーザ「湿地・排出ガス対策型（第1次基準値）」 20t級 ブルドーザ「普通・排出ガス対策型（第1次基準値）」 32t級 バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）」 山積0.8m3（平積0.6m3） バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）」 山積1.4m3（平積1.0m3） バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）」 山積0.28m3（平積0.2m3） 小型バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）」 山積0.13m3（平積0.10m3） クラムシェル「油圧ロープ式・クローラ型」平積0.8m3	○															
		K2																	
		K3																	
		労務	R1	運転手（特殊）		○	○	○	○				○	○					
			R2	普通作業員														○	
	R3																		
	R4																		
	材料	Z1	軽油1.2号 バトロール給油		○	○	○	○			○		○				○		
		Z2																	
		Z3																	
		Z4																	
	市場単価	S	-																
	土質	項目		代表機労材規格	施工方法												現場制約あり		
					オープンカット				片切掘削										
					500m3未満				500m3以上	-									
					破砕片除去の有無														
	軟岩	機械	K1	バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）」 山積0.8m3（平積0.6m3） ブルドーザ「リッパ装置付・排出ガス対策型（第1次基準値）」32t級 空気圧縮機「可搬式・エンジン駆動・スクリュー型」 排出ガス対策型（第1次基準値）吐出量5.0m3/min 吐出圧力0.7MPa 大型ブレイカ（ベースマシン含まず）「油圧式」質量 1,300kg級 さく岩機「コンクリートブレイカ」 20kg級 ブルドーザ「湿地・排出ガス対策型（第1次基準値）」 20t級 バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）」 山積1.4m3（平積1.0m3）	○	○	○	○			○	○	○	○					○
			K2		○	○	○	○			○	○	○	○					○
K3				○						○								○	
労務			R1	特殊作業員							○	○	○	○	○				○
			R2	運転手（特殊）	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○				○
		R3	普通作業員							○	○	○	○	○				○	
		R4																	
材料		Z1	軽油1.2号 バトロール給油		○	○	○	○	○		○	○	○	○				○	
		Z2																	
		Z3																	
		Z4																	
市場単価		S	-																
土質		項目		代表機労材規格	施工方法												現場制約あり		
					オープンカット				片切掘削										
					不可				可	不可			可						
					破砕片除去の有無														
硬岩		機械	K1	バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）」 山積0.8m3（平積0.6m3） 空気圧縮機「可搬式・エンジン駆動・スクリュー型」 排出ガス対策型（第1次基準値）吐出量5.0m3/min 吐出圧力0.7MPa 大型ブレイカ（ベースマシン含まず）「油圧式」質量 1,300kg級 ブルドーザ「リッパ装置付・排出ガス対策型（第1次基準値）」32t級 さく岩機「コンクリートブレイカ」 20kg級 ブルドーザ「湿地・排出ガス対策型（第1次基準値）」 20t級 バックホウ（クローラ型）「標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）」 山積1.4m3（平積1.0m3） クロラドリル「油圧式」（搭乗式）ドリフタ質量150kg級	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
			K2		○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○
	K3			○						○								○	
	労務		R1	特殊作業員							○	○	○	○	○	○	○	○	○
			R2	運転手（特殊）	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	さく岩工							○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		R4	普通作業員															○	
	材料	Z1	軽油1.2号 バトロール給油		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	
		Z2																	
		Z3																	
		Z4																	
	市場単価	S	-																

3-2 土砂等運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 土砂等運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	DID区間の有無	運搬距離
標準	バックホウ山積 0.8m ³ (平積0.6m ³)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.5)
			有り	(表3.6)
		軟岩	無し	(表3.5)
			有り	(表3.6)
		硬岩	無し	(表3.5)
			有り	(表3.6)
	バックホウ山積 1.4m ³ (平積1.0m ³)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.7)
			有り	(表3.8)
		軟岩	無し	(表3.7)
			有り	(表3.8)
		硬岩	無し	(表3.7)
			有り	(表3.8)
	バックホウ山積 0.45m ³ (平積0.35m ³)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.9)
			有り	(表3.10)
		軟岩	無し	(表3.9)
			有り	(表3.10)
		硬岩	無し	(表3.9)
			有り	(表3.10)
	クラムシェル	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.11)
			有り	(表3.12)
		軟岩	無し	(表3.11)
			有り	(表3.12)
		硬岩	無し	(表3.11)
			有り	(表3.12)
小規模	バックホウ山積 0.28m ³ (平積0.2m ³)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.13)
			有り	(表3.14)
	バックホウ山積 0.13m ³ (平積0.1m ³)	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.15)
			有り	(表3.16)
現場制約あり	人力	土砂(岩塊・玉石 混り土含む)	無し	(表3.17)
			有り	(表3.18)
		軟岩	無し	(表3.17)
			有り	(表3.18)
		硬岩	無し	(表3.17)
			有り	(表3.18)

- (注) 1. 上表は、掘削工又は作業土工における土砂・軟岩・硬岩の運搬、路体・路床盛土工又は置換工等における土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の運搬、構造物築造のために行う作業土工で生じた残土の処分場までの運搬又は掘削工で生じた残土の処分場までの運搬の他、運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理に掛かる費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
2. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
4. 運搬土量は地山の土量とする。
5. 小規模は、1箇所当りの施工土量が100m³以下、又は100m³以上で現場が狭隘な場合とする。また、構造物及び建造物の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は1箇所当りの施工土量が、50m³以下の場合とする。
6. 現場制約有りとはい、現場狭小のため機械搬入が不可な場合。
7. 標準とは、「小規模」、「現場制約有り」に該当しない場合。

表3.5 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	6.5km以下
	7.5km以下
	9.5km以下
	11.5km以下
	15.5km以下
	22.5km以下
	49.5km以下
	60.0km以下

表3.6 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	5.0km以下
	6.0km以下
	7.0km以下
	8.5km以下
	11.0km以下
	14.0km以下
	19.5km以下
	31.5km以下
	60.0km以下

表3.7 運搬距離(3)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	7.0km以下
	8.5km以下
	10.0km以下
	12.5km以下
	16.5km以下
	23.5km以下
	51.5km以下
	60.0km以下

表3.8 運搬距離(4)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	6.5km以下
	8.0km以下
	9.5km以下
	11.5km以下
	15.0km以下
	20.5km以下
	33.0km以下
	60.0km以下

表3.9 運搬距離(5)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	7.5km以下
	10.0km以下
	13.5km以下
	19.5km以下
	39.0km以下
	60.0km以下

表3.10 運搬距離(6)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.5km以下
	28.5km以下
	60.0km以下

表3.11 運搬距離(7)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	4.0km以下
	5.5km以下
	7.5km以下
	10.5km以下
	16.0km以下
	30.0km以下
	60.0km以下

表3.12 運搬距離(8)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	5.0km以下
	7.0km以下
	10.0km以下
	14.5km以下
	24.5km以下
	60.0km以下

表3.13 運搬距離(9)

積算条件	区分
運搬距離	0.2km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.0km以下
	5.0km以下
	6.0km以下
	7.5km以下
	10.0km以下
	13.0km以下
	19.0km以下
	35.0km以下
	60.0km以下

表3.14 運搬距離(10)

積算条件	区分
運搬距離	0.2km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.0km以下
	27.0km以下
	60.0km以下

表3.15 運搬距離(11)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.5km以下
	7.0km以下
	9.0km以下
	12.0km以下
	17.0km以下
	28.5km以下
	60.0km以下

表3.16 運搬距離(12)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	5.0km以下
	6.5km以下
	8.0km以下
	11.0km以下
	15.0km以下
	24.0km以下
	60.0km以下

表3.17 運搬距離 (13)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	4.0km以下
	5.0km以下
	6.5km以下
	8.5km以下
	11.0km以下
	16.0km以下
	27.5km以下
	60.0km以下

表3.18 運搬距離 (14)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km以下
	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.5km以下
	4.5km以下
	6.0km以下
	8.0km以下
	10.5km以下
	14.5km以下
	23.0km以下
	60.0km以下

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.19 土砂等運搬 代表機材規格一覧

土砂等 発生現場	項目		代表機材規格	備考
標準	機械	K 1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t 積級	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	運転手(一般)	
		R 2	—	
		R 3	—	
		R 4	—	
	材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	
小規模	機械	K 1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t 積級	・積込機種・規格がバックホウ山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
			ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t 積級	・積込機種・規格がバックホウ山積 0.13m ³ (平積 0.1m ³)の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	運転手(一般)	
		R 2	—	
		R 3	—	
		R 4	—	
	材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	
現場制約 あり	機械	K 1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t 積級	タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	運転手(一般)	
		R 2	—	
		R 3	—	
		R 4	—	
	材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	

3-3 整地

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.20 整地 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

作業区分	敷均し作業内容
残土受入れ地での処理	—
敷均し(ルーズ)	標準
	標準以外
	狭小幅員(幅2.5m以上4m未満)
	トラフィカビリティが確保出来ない場合

- (注) 1. 上表は、構造物築造のために行う作業土工で生じた土砂等又は掘削工で生じた土砂等の受入れ地(仮置場)、土取場での整地、締固めを行わない場合の土の敷均し等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 作業区分で残土受入れ地での処理を選択した場合の土量は地山の土量とする。
3. 作業区分で敷均し(ルーズ)を選択した場合の土量は敷均し後の土量とする。なお、敷均しのため、変化率C=1.0とする。
4. 敷均し作業内容における標準以外とは、1工事当りの全体盛土量が10,000m³以上の場合である。
5. 幅2.5m未満の狭隘箇所での作業は「第1章③-2埋戻工(現場制約あり)」による。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.21 整地 代表機労材規格一覧

作業区分	項目		代表機労材規格	備考
残土受け 入れ地での 処理	機械	K 1	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)〕15t 級	
		K 2	-	
		K 3	-	
	労務	R 1	運転手(特殊)	
		R 2	-	
		R 3	-	
		R 4	-	
	材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
		Z 2	-	
		Z 3	-	
		Z 4	-	
	市場単価	S	-	
敷均し (ルーズ)	機械	K 1	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)〕15t 級	敷均し作業内容が標準の場合
			ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)〕21t 級	敷均し作業内容が標準以外の場合
			ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)〕3t 級	敷均し作業内容が狭小幅員 (幅2.5m以上4m未満)の場合
			ブルドーザ〔湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値)〕16t 級	敷均し作業内容がトラフィカビリティが確保出来ない場合
		K 2	-	
		K 3	-	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	運転手(特殊)	
		R 3	-	
		R 4	-	
	材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
		Z 2	-	
		Z 3	-	
		Z 4	-	
	市場単価	S	-	

3-4 路体(築堤)盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.22 路体(築堤)盛土 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

施工幅員	作業形態	土質	施工数量	障害の有無
2.5m未満	—	—	—	—
2.5m以上4.0m未満	—	—	—	—
4.0m以上	敷均し+締固め	—	10,000m ³ 未満	無し
				有り
			10,000m ³ 以上	無し
				有り
	敷均し締固め	高含水比粘性土以外	10,000m ³ 未満	無し
				有り
			10,000m ³ 以上	無し
				有り
		高含水比粘性土	—	無し
				有り

- (注) 1. 上表は、路体又は築堤の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場(仮置場)で採取し運搬してくる土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工数量は、1工事当りの全体盛土量(施工幅員4.0m以上の合計盛土量)とする。
3. 作業形態
- ①敷均し+締固め：敷均しと締固めの作業をそれぞれ異なる施工機械で行うと想定する場合
 - ②敷均し締固め：盛土材料がタイヤローラの締固めに適さない土質(砂等)の場合
4. 障害の有無
- ①無し：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合(例えば、新設のバイパス工事、築堤工事等)
 - ②有り：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合(例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、拡築(腹付、嵩上)工事等)
5. 高含水比粘性土：バケットやブレード(排土板)等に付着しやすく、特にトラフィカビリティが不足する等問題となりやすいもの。(条件の悪いローム、条件の悪い粘性土、火山灰質粘性土等)
6. 土量は締固め後の土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.23 路体(築堤)盛土 代表機労材規格一覧

施工幅員	作業形態	土質	項目		代表機労材規格	備考
2.5m 未満	—	—	機械	K1	振動ローラ(舗装用)〔ハンドガイド式〕運転質量0.8～1.1t	賃料
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	普通作業員	
				R2	特殊作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
2.5m 以上 4.0m 未満	—	—	機械	K1	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕3t級	賃料
				K2	振動ローラ(舗装用)〔搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型(第1次基準値)〕運転質量3～4t	
				K3	—	
			労務	R1	運転手(特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
4.0m 以上	敷均し +締固め	—	機械	K1	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕15t級 ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕21t級	施工数量10,000m ³ 未満の場合 施工数量10,000m ³ 以上の場合
				K2	タイヤローラ〔普通型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕運転質量8～20t	賃料
				K3	—	
			労務	R1	運転手(特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
	敷均し 締固め	高含水比 粘性土 以外	機械	K1	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕15t級 ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕21t級	施工数量10,000m ³ 未満の場合 施工数量10,000m ³ 以上の場合
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	運転手(特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
		高含水比 粘性土	機械	K1	ブルドーザ〔湿地・排出ガス対策型(第1次基準値)〕16t級	
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	運転手(特殊)	
				R2	普通作業員	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

3-5 路床盛土

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.24 路床盛土 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

平均幅員	施工数量	障害の有無
2.5m未満	—	—
2.5m以上4.0m未満	—	—
4.0m以上	10,000m ³ 未満	無し
		有り
	10,000m ³ 以上	無し
		有り

- (注) 1. 上表は、路床の自工区内で掘削又は作業土工により発生した土砂等の敷均し・締固め、他工事で発生し運搬されてくる土砂等の敷均し・締固め、土取場（仮置場）で採取し運搬してくる土砂等の敷均し・締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 施工数量は、1工事当りの全体盛土量（平均幅員 4.0m 以上の合計盛土量）とする。
3. 平均幅員＝断面図の（上幅＋下幅）×1/2
4. 土量は締固め後の土量とする。
5. 障害の有無
- ①無し：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合（例えば、新設のバイパス工事、あるいは新設の築堤工事等）
 - ②有り：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合（例えば、現道上の工事、一車線程度の現道拡幅工事、あるいは拡築（腹付、嵩上）工事等）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.25 路床盛土 代表機労材規格一覧

平均幅員	施工数量	項目	代表機労材規格		備考
2.5m 未満	—	機械	K 1	振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式]運転質量0.8～1.1t	賃料
			K 2	—	
			K 3	—	
		労務	R 1	普通作業員	
			R 2	特殊作業員	
			R 3	—	
			R 4	—	
		材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z 2	—	
			Z 3	—	
			Z 4	—	
		市場単価	S	—	
2.5m 以上 4.0m 未満	—	機械	K 1	ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 3t 級	賃料
			K 2	振動ローラ（舗装用） [搭乗・コンバインド式 ・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 3～4t	
			K 3	—	
		労務	R 1	運転手(特殊)	
			R 2	普通作業員	
			R 3	—	
			R 4	—	
		材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z 2	—	
			Z 3	—	
			Z 4	—	
		市場単価	S	—	
4.0m 以上	10,000m3 未満	機械	K 1	ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 15t 級	賃料
			K 2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 運転質量 8～20t	
			K 3	—	
		労務	R 1	運転手(特殊)	
			R 2	普通作業員	
			R 3	—	
			R 4	—	
		材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z 2	—	
			Z 3	—	
			Z 4	—	
		市場単価	S	—	
	10,000m3 以上	機械	K 1	ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 21t 級	賃料
			K 2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 運転質量 8～20t	
			K 3	—	
		労務	R 1	運転手(特殊)	
			R 2	普通作業員	
			R 3	—	
			R 4	—	
		材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z 2	—	
			Z 3	—	
			Z 4	—	
		市場単価	S	—	

3-6 押土(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.26 押土(ルーズ) 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

土質
土砂
岩塊・玉石
破碎岩

- (注) 1. 上表は、ルーズな状態の土砂、岩塊・玉石、破碎岩の集積押土や押土による運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.27 押土(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ブルドーザ〔湿地・排出ガス対策型(第1次基準値)〕20t 級	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 積込(ルーズ)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.28 積込(ルーズ) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	作業内容
土砂	土量50,000m ³ 未満
	土量50,000m ³ 以上
	平均施工幅1m以上2m未満
	小規模(標準)
	小規模(標準以外)
岩塊・玉石	土量50,000m ³ 未満
	土量50,000m ³ 以上
	平均施工幅1m以上2m未満
破碎岩	土量50,000m ³ 未満
	土量50,000m ³ 以上
	平均施工幅1m以上2m未満

- (注) 1. 上表は、路体(築堤)盛土、路床盛土、電線共同溝工事等における土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の積込み、掘削工又は作業土工で生じた残土の仮置場での積込み等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は地山土量とする。
3. 土量は1工事当りの数量とする。また、1工事当りの数量の取扱いは、表3.2によるものとする。
4. 「(標準)」とは1箇所当りの施工土量が100m³以下、又は100m³以上で現場が狭隘な場合とする。また、「(標準以外)」とは構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な場合、又は1箇所当りの施工土量が、50m³以下の場合とする。
5. 岩石の床掘平均掘削幅2m未満の場合の積込み(ルーズ)は、平均施工幅1m以上2m未満を適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.29 積込(ルーズ) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	作業内容が土量50,000m ³ 未満の場合
	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	作業内容が土量50,000m ³ 以上の場合
	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	作業内容が平均施工幅1m以上2m未満の場合
	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	作業内容が小規模(標準)の場合
	小型バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス型(第2次基準値)〕 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	作業内容が小規模(標準以外)の場合
	K2 —	
労務	K3 —	
	R1 運転手(特殊)	
	R2 —	
	R3 —	
材料	R4 —	
	Z1 軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2 —	
	Z3 —	
市場単価	Z4 —	
	S —	

3-8 人力積込

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.30 人力積込 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質等区分
土砂
岩塊・玉石
軟 岩
中硬岩
硬 岩
アスファルト塊
コンクリート塊

- (注) 1. 上表は、仮置きされた土砂、岩（アスファルト塊、コンクリート塊を含む）を人力により直接積込むまでの作業に必要な全ての労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.31 人力積込 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-9 転石破碎

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.32 転石破碎 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

火薬使用の有無
無し
有り

- (注) 1. 上表は、道路、河川工事等の岩掘削に伴う転石破碎の他、火薬・雷管、さく岩機損料及びさく岩機用空気圧縮機の運転経費、さく岩機のロッド・ビット及びピゼルの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 転石の掘出し、破碎石の除去は含まない。
3. 転石粒径が 0.5m以上、及び作業範囲が施工幅 4.0m以上の箇所で、機械走行面より上下に 5.0m以内の場合は、火薬使用の有無「無し」を適用する。
4. 転石粒径が 1.0m以上で、作業範囲が施工幅 4.0m未満又は機械走行面より上下に 5.0m超の場合は、火薬使用の有無「有り」を適用する。
5. 火薬の標準的な使用量は、10m³ 当り含水爆薬 1.6kg とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.33 転石破碎 代表機労材規格一覧

火薬使用の有無	項目		代表機労材規格	備考
無し	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	
		K 2	大型ブレーカ（ベースマシン含まず）〔油圧式〕 質量 1,300kg 級	
		K 3	—	
	労務	R 1	運転手(特殊)	
		R 2	—	
		R 3	—	
		R 4	—	
	材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	
有り	機械	K 1	—	
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	さく岩工	
		R 2	特殊作業員	
		R 3	土木一般世話役	
		R 4	普通作業員	
	材料	Z 1	—	
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	

3-10 土材料

土材料の積算条件区分はない。

積算単位は、m³ とする。

(注) 路体盛土工、路床盛土工における盛土材料、作業土工等における埋戻材料又は置換工における置換材料等の購入に要する全ての費用（現場渡し単価又は土場渡し単価）を含む。

3-11 残土等処分

残土等処分の積算条件区分はない。

積算単位は、m³ とする。

(注) 残土等処分は、構造物築造のために行う作業土工又は掘削工で生じた残土、地盤改良等で発生した汚泥、泥水等の処分場での処分に要する全ての費用を含む。

4. 施工単価入力基準表

(1) 掘削

パッケージコード	CB210100	施 工 単 位	m3		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	土質	施工方法	岩質	押土の有無	障害の有無
	①土砂 ②岩塊・玉石 ③軟岩 ④硬岩	①オープンカット ②片切掘削 ③水中掘削 ④現場制約あり ⑤上記以外(小規模)	①軟岩(Ⅰ) ②軟岩(Ⅱ) ③中硬岩 ④硬岩(Ⅰ)	①有り ②無し	①無し ②有り

J 6	J 7	J 8	J 9
施工数量	火薬使用	破碎除去の有無	集積押土の有無
①普通土 30,000m3 未満又は湿地軟弱土 ②普通土 30,000m3 以上 ③50,000m3 未満 ④50,000m3 以上 ⑤小規模(標準) ⑥小規模(標準以外) ⑦500m3 未満 ⑧500m3 以上	①不可 ②可	①無し ②有り(50,000m3 未満) ③有り(50,000m3 以上)	①無し ②有り

(注) 1. 上表の土量は、地山土量である。

2. J 1 条件で①、②、J 2 条件で①を選択した場合に、J 4 条件を選択する。

3. J 1 条件で①～③、J 2 条件で①を選択した場合、または、J 2 条件で⑤を選択した場合に、J 6 条件を選択する。

4. J 1 条件で③、J 2 条件で②を選択した場合、または、J 6 条件で⑦を選択した場合に、J 8 条件、J 9 条件を選択する。

5. J 1 条件で③、④、J 2 条件で①を選択した場合、または、J 4 条件で②を選択した場合に、J 5 条件を選択する。

6. J 1 条件で③、④、J 2 条件で④を選択した場合に、J 3 条件を選択する。

7. J 1 条件で④、J 2 条件で①、②を選択した場合に、J 7 条件を選択する。

8. J 1 条件で④、J 2 条件で②を選択した場合、または、J 1 条件で④、J 7 条件で①を選択した場合に、J 8 条件、J 9 条件を選択する。

9. J 2 条件の②は、J 1 条件が①、③、④の場合に選択出来る。

10. J 2 条件の③は、J 1 条件が①、②の場合に選択出来る。

11. J 2 条件の⑤は、J 1 条件が①の場合に選択出来る。

12. J 3 条件の①、②は、J 1 条件が③の場合に選択出来る。また、J 3 条件の③、④は、J 1 条件が④の場合に選択出来る。

13. J 6 条件の①、②は、J 4 条件が①の場合に選択出来る。また、J 6 条件の③、④は、J 4 条件が②の場合に選択出来る。

14. J 6 条件の⑤、⑥は、J 2 条件で⑤の場合に選択出来る。

15. J 6 条件の⑦は、J 1 条件が③、J 2 条件が①の場合に選択出来る。また、J 6 条件の⑧は、J 1 条件が③、J 2 条件が①、J 5 条件が①の場合に選択出来る。

16. J 7 条件の②は、J 2 条件が①、J 5 条件が①の場合、または、J 2 条件が②の場合に選択出来る。

17. J 9 条件の②は、J 8 条件が①の場合に選択出来る。

18. 床掘作業において、J 1 条件で③を選択した場合は、J 6 条件で⑦を選択するものとする。

19. J 6 条件の⑤、⑥は、表3. 1 掘削 積算条件区分一覧(注) 3. ⑤上記以外(小規模)による。

(2) 土砂等運搬

パッケージコード	CB210110	施 工 単 位	m3		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	土砂等発生現場	積込機種・規格	土質	D I D区間の有無	運搬距離番号
	①標準	①バックホウ山積 0.8m3(平積 0.6m3)	①土砂(岩塊・玉石混り土含む) ②軟岩 ③硬岩	①無し ②有り	(表 4.1) ～ (表 4.7)
	②小規模	②バックホウ山積 1.4m3(平積 1.0m3)			
③現場制約あり	③バックホウ山積 0.45m3(平積 0.35m3)				
		④クラムシェル ⑤バックホウ 山積 0.28m3(平積 0.2m3) ⑥バックホウ 山積 0.13m3(平積 0.1m3) ⑦人力			

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件の⑤、⑥、⑦は選択出来ない。
3. J 1 条件で①、J 2 条件で①を選択した場合は、J 5 条件は表4. 1より選択すること。
4. J 1 条件で①、J 2 条件で②を選択した場合は、J 5 条件は表4. 2より選択すること。
5. J 1 条件で①、J 2 条件で③を選択した場合は、J 5 条件は表4. 3より選択すること。
6. J 1 条件で①、J 2 条件で④を選択した場合は、J 5 条件は表4. 4より選択すること。
7. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件の①～④、⑦は選択出来ない。
8. J 1 条件で②、J 2 条件で⑤を選択した場合は、J 5 条件は表4. 5より選択すること。
9. J 1 条件で②、J 2 条件で⑥を選択した場合は、J 5 条件は表4. 6より選択すること。
10. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件の②、③は選択出来ない。
11. J 1 条件で③を選択した場合は、J 2 条件の①～⑥は選択出来ない。
12. J 1 条件で③を選択した場合は、J 5 条件は表4. 7より選択すること。

表4.1 運搬距離番号

土砂等発生現場	標準							
積込機種・規格	バックホウ山積 0.8m3（平積 0.6m3）							
D I D区間：無し								
運搬距離（km）	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離（km）	6.5 以下	7.5 以下	9.5 以下	11.5 以下	15.5 以下	22.5 以下	49.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
D I D区間：有り								
運搬距離（km）	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	5.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離（km）	6.0 以下	7.0 以下	8.5 以下	11.0 以下	14.0 以下	19.5 以下	31.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.2 運搬距離番号

土砂等発生現場	標準								
積込機種・規格	バックホウ山積 1.4m3（平積 1.0m3）								
D I D区間：無し									
運搬距離（km）	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
運搬距離（km）	6.0 以下	7.0 以下	8.5 以下	10.0 以下	12.5 以下	16.5 以下	23.5 以下	51.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
D I D区間：有り									
運搬距離（km）	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
運搬距離（km）	5.5 以下	6.5 以下	8.0 以下	9.5 以下	11.5 以下	15.0 以下	20.5 以下	33.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.3 運搬距離番号

土砂等発生現場	標準							
積込機種・規格	バックホウ山積 0.45m3（平積 0.35m3）							
D I D区間：無し								
運搬距離（km）	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.5 以下	6.0 以下	7.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離（km）	10.0 以下	13.5 以下	19.5 以下	39.0 以下	60.0 以下			
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬			
D I D区間：有り								
運搬距離（km）	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離（km）	9.0 以下	12.0 以下	17.5 以下	28.5 以下	60.0 以下			
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬			

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.4 運搬距離番号

土砂等発生現場	標準				
積込機種・規格	クラムシェル				
D I D区間：無し					
運搬距離（km）	0.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	5.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離（km）	7.5 以下	10.5 以下	16.0 以下	30.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
D I D区間：有り					
運搬距離（km）	0.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下	5.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離（km）	7.0 以下	10.0 以下	14.5 以下	24.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.5 運搬距離番号

土砂等発生現場	小規模						
積込機種・規格	バックホウ山積 0.28m3（平積 0.2m3）						
D I D区間：無し							
運搬距離（km）	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下	4.0 以下	5.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	6.0 以下	7.5 以下	10.0 以下	13.0 以下	19.0 以下	35.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
D I D区間：有り							
運搬距離（km）	0.2 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	27.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.6 運搬距離番号

土砂等発生現場	小規模						
積込機種・規格	バックホウ山積 0.13m3（平積 0.1m3）						
D I D区間：無し							
運搬距離（km）	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	28.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
D I D区間：有り							
運搬距離（km）	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	11.0 以下	15.0 以下	24.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表4.7 運搬距離番号

土砂等発生現場	人力(現場狭小のため機械搬入が不可)						
D I D区間：無し							
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	4.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離 (km)	5.0 以下	6.5 以下	8.5 以下	11.0 以下	16.0 以下	27.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
D I D区間：有り							
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離 (km)	4.5 以下	6.0 以下	8.0 以下	10.5 以下	14.5 以下	23.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

(3) 整地

パッケージコード	CB210610	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	敷均し作業内容	
	①残土受入れ地での処理 ②敷均し(ルーズ)	①標準 ②標準以外 ③狭小幅員(幅 2.5m 以上 4m 未満) ④トラフィカビリティが確保出来ない場合	

(注) 1. 土量は地山の土量とする。

2. J 1 条件で①を選択した場合は，J 2 条件は入力する必要はない。

(4) 路体(築堤)盛土

パッケージコード	CB210510	施 工 単 位	m3		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工幅員	作業形態	土質	施工数量	障害の有無
	①2.5m 未満				
	②2.5m 以上 4.0m 未満	①敷均し+締固め	①高含水比粘性土 以外	①10,000m3 未満	①無し
	③4.0m 以上	②敷均し締固め	②高含水比粘性土	②10,000m3 以上	②有り

(注) 1. 土量は締固め後の土量とする。

2. 施工数量は，1 工事当りの全体盛土量とする。

3. J 1 条件で①又は②を選択した場合は，J 2～J 5 条件は入力する必要はない。

4. J 1 条件で③を選択し J 2 条件で①を選択した場合は，J 3 条件は入力する必要はない。

5. J 3 条件で②を選択した場合は，J 4 条件は入力する必要はない。

(5) 路床盛土

パッケージコード	CB210520	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	平均幅員	施工数量	障害の有無
	①2.5m 未満 ②2.5m 以上 4.0m 未満 ③4.0m 以上	①10,000m3 未満 ②10,000m3 以上	①無し ②有り

- (注) 1. 土量は締固め後の土量とする。
 2. 平均幅員：断面図の(上幅+下幅)×1/2
 3. 施工数量は、1工事当りの全体盛土量とする。
 4. J 1 条件で①又は②を選択した場合は、J 2, J 3 条件は入力する必要はない。

(6) 押土 (ルーズ)

パッケージコード	CB210010	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土質		
	①土 砂 ②岩塊・玉石 ③破 砕 岩		

- (注) 土量は地山土量とする。

(7) 積込 (ルーズ)

パッケージコード	CB210020	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	土質	作業内容	
	①土 砂 ②岩塊・玉石 ③破 砕 岩	①土量 50,000m3 未満 ②土量 50,000m3 以上 ③平均施工幅 1m 以上 2m 未満 ④小規模(標準) ⑤小規模(標準以外)	

- (注) 1. 土量は地山土量とする。
 2. J 1 条件で②, ③を選択した場合は、J 2 条件の④, ⑤は選択出来ない。
 3. J 2 条件の④, ⑤は表 3. 28 積込 (ルーズ) 積算条件区分一覧 (注) 4. による。

(8) 人力積込

パッケージコード	CB210830	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土質等区分 ①土砂 ②岩塊・玉石 ③軟岩 ④中硬岩 ⑤硬岩 ⑥アスファルト塊 ⑦コンクリート塊		

(注) 土量は地山土量とする。

(9) 転石破碎

パッケージコード	CB210260	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	火薬使用の有無 ①無し ②有り		

(10) 土材料

パッケージコード	CB210550	施工単位	m3

(注) 1. 土量は締固め後の土量とし、換算後の単価を入力する。
 2. 土材料単価 (Y-1613000) [円/m3]を単価登録すること。

(11) 残土等処分

パッケージコード	CB210560	施工単位	m3

(注) 1. 土量は地山土量とする。
 2. 残土等処分費 (Y-7600000) [円/m3]を単価登録すること。
 3. 管理費区分は「T」を設定している。

③ 作業土工

③－1 床掘工

1. 適用範囲

本資料は、構造物の築造又は撤去を目的とした、土砂、岩塊・玉石の掘削等である床掘りに適用する。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 床掘り

(1) 作業土工(床掘り)のうち、土砂、岩塊・玉石におけるバックホウ床掘・クラムシェル床掘・人力床掘の場合

1－1－2 掘削補助機械搬入搬出

(1) 掘削深さ 20m以下のクラムシェル床掘で、土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物があるため、掘削補助機械を使用する場合

(2) 掘削深さ 20m超のクラムシェル床掘で掘削補助機械を使用する場合

1－1－3 基面整正

(1) 機械による床掘り作業における床付面の基面整正の場合

1－1－4 舗装版破碎積込(小規模土工)

(1) 1箇所当りの施工土量が 100m³ 程度まで、又は平均施工幅 1 m未満の床掘り作業に伴う舗装厚 5 cm 以内の舗装版破碎積込の場合

1－2 適用出来ない範囲

1－2－1 床掘り

(1) 深礎工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工のクラムシェル床掘の場合

(2) 地山の掘削作業の場合

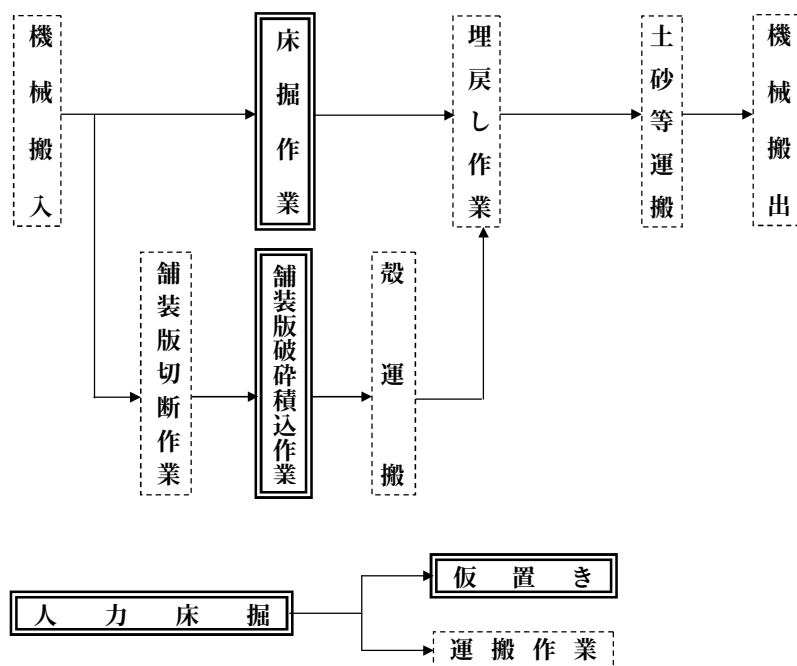
(3) 積込み単独の作業の場合

1－2－2 基面整正

(1) 人力床掘の場合

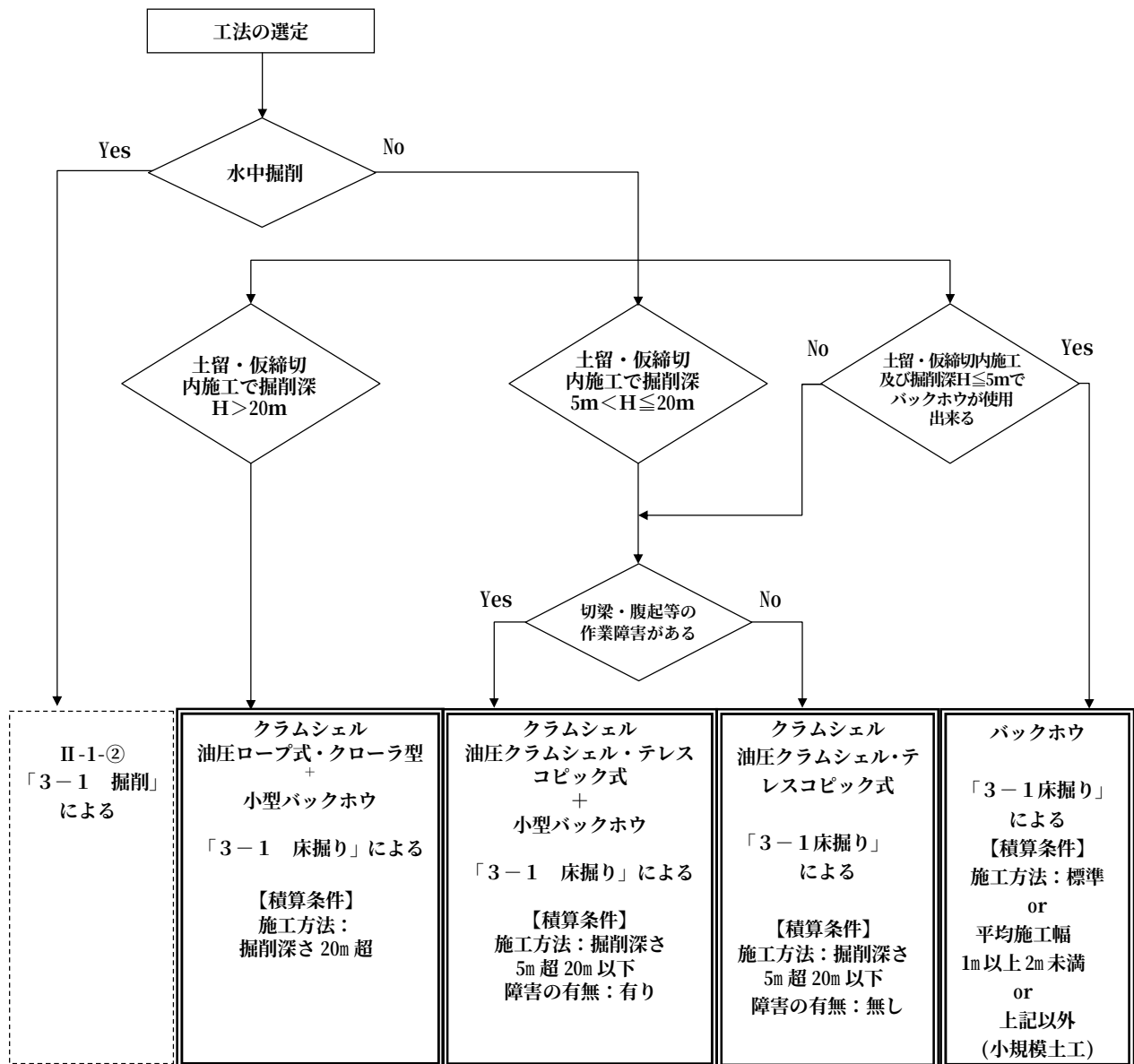
2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 人力床掘は現場制約有り（機械施工が出来ない箇所の人力施工）に適用する。
 3. 埋戻しは「第Ⅱ編第1章③－2埋戻工」による。
 4. 土砂等運搬は「第Ⅱ編第1章②土工」による。
 5. 殻運搬は「第Ⅱ編第2章⑤殻運搬」による。

2-2 クラムシェル工法選定フロー



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 床掘り

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 床掘り 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質区分	施工方法	土留方式の種類	障害の有無
土 砂	標準	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
		グラウンドアンカー式	無し
			有り
		切梁腹起式	有り
			有り
	平均施工幅 1m 以上 2m 未満	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
		グラウンドアンカー式	無し
			有り
		切梁腹起式	有り
			有り
	掘削深さ 5m超 20m以下	グラウンドアンカー式	無し
			有り
	掘削深さ 20m超	グラウンドアンカー式	—
			—
	上記以外(小規模)	—	—
	現場制約あり	—	—
岩塊・玉石	標準	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
		グラウンドアンカー式	無し
			有り
		切梁腹起式	有り
			有り
	平均施工幅 1m 以上 2m 未満	無し	無し
			有り
		自立式	無し
			有り
		グラウンドアンカー式	無し
			有り
		切梁腹起式	有り
			有り
	掘削深さ 5m超 20m以下	グラウンドアンカー式	無し
			有り
	掘削深さ 20m超	グラウンドアンカー式	—
			—
	現場制約あり	—	—

(注) 1. 上表は、構造物の築造又は撤去を目的とした土砂、岩塊・玉石の掘削等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。なお、施工方法「上記以外(小規模)」の場合は床掘作業における補助労務(基面整正、浮き石の除去)を含み、施工方法「現場制約あり(機械施工が出来ない箇所の人力施工)」の場合は基面整正を含む。

2. 施工方法「上記以外（小規模）」又は「現場制約あり」以外で基面整正を行う場合は、「3－3 基面整正」により別途計上する。
3. 障害の有無
 有り：①床掘作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合（たとえば作業障害が多い場合）
 ②土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合
 無し：①構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合
 ②構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合
 ③土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合
4. 施工方法「標準」及び「平均施工幅1m以上2m未満」において掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合は、障害の有無で「有り」を適用する。
5. 施工方法「上記以外（小規模）」とは、1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りで、「1箇所当り」とは、目的物1箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
6. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。
7. 小型バックホウの坑内搬入搬出については、「3－2 掘削補助機械搬入搬出」により計上する。
8. 坑内でバックホウを使用する場合、及び基面整正、床掘補助作業に防護施設、送風機等が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.2 床掘り 代表機材規格一覧

項目	代表機材規格	施工方法					
		標準	平均 施工幅 1m 以上 2m 未満	掘削 深さ 5m 超 20m 以下	掘削 深さ 20m 超	左記 以外 (小規模)	現場 制約 あり
機械	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕山積0.8m ³ （平積0.6m ³ ）	○					
	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）		○				
	バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）					○	
	クラムシェル〔油圧ロープ式・クローラ型〕平積0.8m ³				○		
	クラムシェル〔油圧クラムシェル・テレスコピック式〕平積0.4m ³			○			
	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕山積0.08m ³ （平積0.06m ³ ）			◎	○		
	K3 ー						
労務	R1 運転手（特殊）	○	○	○	○	○	
	R2 普通作業員	△	△	○	○	○	○
	R3 特殊作業員			◎	○		
	R4 ー						
材料	Z1 軽油1.2号 パトロール給油	○	○	○	○	○	
	Z2 ー						
	Z3 ー						
	Z4 ー						
市場単価	S ー						

※◎：障害有りの場合、△：土留方式無し以外の場合

3－2 掘削補助機械搬入搬出

(1) 条件区分

掘削補助機械搬入搬出の積算条件区分はない。

積算単位は、回とする。

- (注) 1. 掘削補助機械搬入搬出は、構造物の築造目的に基面を掘下げる床掘作業において、掘削補助機械を用いる場合の補助機械搬入搬出等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 「搬入＋搬出」を1回とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である

表3.3 掘削補助機械搬入搬出 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 16t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3－3 基面整正

(1) 条件区分

基面整正の積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- (注) 1. 基面整正は、床掘り作業における床付面の整正等、その施工に必要な全ての労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 施工パッケージ「床掘り」において施工方法「現場制約あり」又は「上記以外（小規模）」を選択した場合は、基面整正を計上する必要はない。

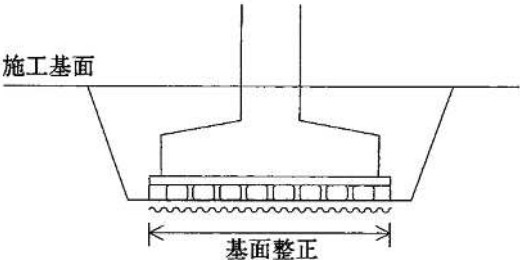


図3－1 基面整正の計上部分

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 基面整正 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 舗装版破碎積込(小規模土工)

(1) 条件区分

舗装版破碎積込(小規模土工)の積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

(注) 舗装版破碎積込(小規模土工)は、1箇所当りの施工土量が100m³程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘作業に伴う舗装版破碎積込(舗装厚5cm以内)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。なお、「1箇所当り」とは目的物(構造物・掘削等)1箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 舗装版破碎積込(小規模土工) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	小型バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.13m ³ (平積0.10m ³)	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 床掘り

パッケージコード	CB210030	施 工 単 位	m3	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	土質区分	施工方法	土留方式の種類	障害の有無
	①土 砂 ②岩塊・玉石	①標準 ②平均施工幅 1m 以上 2m 未満 ③掘削深さ 5m 超 20m 以下 ④掘削深さ 20m 超 ⑤上記以外(小規模) ⑥現場制約あり	①無し ②自立式 ③グラウンドアンカー式 ④切梁腹起式	①無し ②有り

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件の⑤は選択出来ない。
 3. J 2 条件で③、④を選択した場合は、J 3 条件の①、②は選択出来ない。
 4. J 2 条件で④を選択した場合は、J 4 条件は入力する必要はない。
 5. J 2 条件で⑤、⑥を選択した場合は、J 3、J 4 条件は入力する必要はない。
 6. J 3 条件で④を選択した場合は、J 4 条件の①は選択出来ない。

(2) 掘削補助機械搬入搬出

パッケージコード	CB210070	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン賃料補正係数 ①標 準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 上表は、「搬入+搬出」を1回として入力する。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

(3) 基面整正

パッケージコード	CB210080	施工単位	m2

(4) 舗装版破碎積込(小規模土工)

パッケージコード	CB210720	施工単位	m2

③－２ 埋戻工

1. 適用範囲

本資料は、構造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 埋戻し

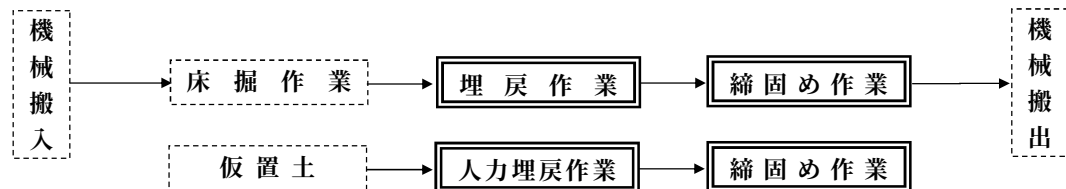
- (1) 埋戻しにおいて材料のはねつけを行う場合
- (2) 埋戻しにおいて敷均しを行う場合
- (3) 埋戻しにおいて締固めを行う場合

1－1－2 タンパ締固め

- (1) タンパによる締固めを行う場合

2. 施工概要

2－1 施工フロー



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 床掘作業は「第Ⅱ編第1章③－1床掘工」による。

3. 施工パッケージ

3－1 埋戻し

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 埋戻し 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

施工方法	土質	締固めの有無
最小埋戻幅 4m 以上	—	—
最大埋戻幅 4m 以上	—	—
最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満	—	—
最大埋戻幅 1m 未満	—	—
上記以外 (小規模)	土砂	—
現場制約あり	土砂	有り
		無し
	岩塊・玉石	有り
		無し

(注) 1. 上表は、構造物の築造及び撤去後の床掘部のはねつけ、埋戻し、敷均し・締固め等、補助労務(敷均し及びタンパ締固め補助)、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 施工方法「上記以外(小規模)」とは、1箇所当たりの施工土量が100m3程度まで、又は平均施工幅1m未満の床掘りに伴う埋戻しで、「1箇所当たり」とは、目的物1箇所当たりであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。

3. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

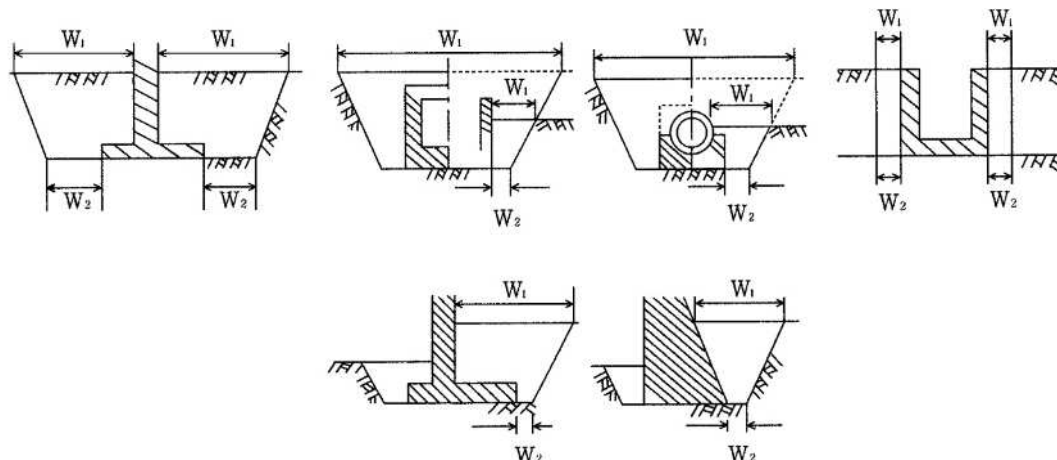
4. 埋戻幅

最大埋戻幅：次図における埋戻幅(W1)

最小埋戻幅：次図における埋戻幅(W2)

なお、擁壁等で前背面の最大埋戻幅が異なる場合は、広い方の領域を基準とし、狭い方も同一条件区分を適用するものとする。

5. 最小埋戻幅が4m以上の場合は、最大埋戻幅に関係なく、最小埋戻幅4m以上を適用する。
6. はねつけ機械の搬入が困難な場合は、施工方法を現場制約あり、締固め有りとする。
7. 機械施工が困難な場合において、小運搬や盛土法面整形が必要な場合は、別途計上する。
8. 締固めを伴わない作業等、本施工パッケージによることが著しく不適当と判断される場合は別途考慮する。



(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 埋戻し 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	施工方法						備考
			最小埋戻幅 4m以上	最大埋戻幅 4m以上	最大埋戻幅 1m以上 4m未満	最大埋戻幅 1m未満	左記以外(小規模)	現場制約有り	
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積 0.8m3(平積 0.6m3)	○	○	○				
		バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積 0.45m3(平積 0.35m3)				○			
		バックホウ(クローラ型)〔後方超小旋回型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積 0.28m3(平積 0.2m3)					○		
	K 2	ブルドーザ〔普通・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 15t級	○						
		振動ローラ(舗装用)〔ハンドガイド式〕 運転質量 0.8~1.1t		○	○				賃料
	K 3	タンパ及びランマ 質量 60~80kg		○	○	○		※	賃料
労務	R 1	運転手(特殊)	○	○	○	○	○		
	R 2	特殊作業員		○	○	○	○	※	
	R 3	普通作業員		○	○	○	○	○	
	R 4	—							
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	○	○	○	○	○		
	Z 2	ガソリン レギュラー スタンド		○	○	○	○	※	
	Z 3	—							
	Z 4	—							
市場単価	S	—							

※締固め有りの場合

3-2 タンパ締固め

(1) 条件区分

タンパ締固めの積算条件区分はない。

積算単位は、 m^3 とする。

- (注) 1. タンパ締固めは、タンパによる締固め作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. 土量は締固め後の土量とする。
3. 埋戻しの現場制約ありで締固め有りを選択した場合は、タンパ締固めを含んでいるので、別途計上する必要はない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である

表3.3 タンパ締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	タンパ及びランマ 質量 60～80kg	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 埋戻し

パッケージコード	CB210410	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	施工方法	土質区分	締固めの有無
	①最小埋戻幅 4m 以上 ②最大埋戻幅 4m 以上 ③最大埋戻幅 1m 以上 4m 未満 ④最大埋戻幅 1m 未満 ⑤上記以外(小規模) ⑥現場制約あり	①土 砂 ②岩塊・玉石	①有り ②無し

- (注) 1. 上表の土量は、締固め後の土量である。
 2. J 1 条件で①～④を選択した場合は、J 2, J 3 条件は入力する必要はない。
 3. J 1 条件で⑤を選択した場合は、J 2 条件の②と J 3 条件は選択出来ない。
 4. 人力施工において、小運搬 (CB211110) や盛土法面整形 (CB220010) が必要な場合は、別途計上する。

(2) タンバ締固め

パッケージコード	CB210450	施工単位	m3

(注) 上表の土量は、締固め後の土量である。

④ 人 力 運 搬 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、機械運搬が使用出来ない箇所での人力運搬に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）土・石

（1）道路幅員が 0.5m程度未満で、仮置きされた土砂等の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-2 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）セメント等

（1）道路幅員が 0.5m程度未満で、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-3 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類

（1）道路幅員が 0.5m程度未満で、仮置きされた積ブロック類（控 35cm）の人力積込～人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-4 人肩運搬（運搬～取卸し）

（1）道路幅員が 0.5m程度未満で、人力掘削（床掘り）から人肩運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-5 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）土・石

（1）道路幅員が 0.5m程度以上で、仮置きされた土砂等の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-6 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）セメント等

（1）道路幅員が 0.5m程度以上で、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-7 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類

（1）道路幅員が 0.5m程度以上で、仮置きされた積ブロック類(控 35cm)の人力積込～小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

1-1-8 小車運搬（運搬～取卸し）

（1）道路幅員が 0.5m程度以上で、人力掘削（床掘り）から小車運搬～人力取卸しの一連作業を行う場合

2. 施工パッケージ

2-1 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	換算距離
土砂	(表2.2)
岩塊・玉石	
栗石・クラッシャラン	

- (注) 1. 上表は、仮置きされた土砂等の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L：換算距離 (m)

H：水平距離 (m)

h：高低差 (m)

表2.2 換算距離

積算条件	区分
換算距離	20m以下
	40m以下
	60m以下
	80m以下
	100m以下
	120m以下
	140m以下
	160m以下
	180m以下
	200m以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1	—
	K 2	—
	K 3	—
労務	R 1	普通作業員
	R 2	—
	R 3	—
	R 4	—
材料	Z 1	—
	Z 2	—
	Z 3	—
	Z 4	—
市場単価	S	—

2-2 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.4 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

換算距離
(表2.2)

(注) 1. 上表は、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L：換算距離(m)

H：水平距離(m)

h：高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.5 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-3 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.6 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類 積算条件区分一覧

（積算単位：m²）

換算距離
（表 2.2）

（注）1. 上表は、仮置きされた積ブロック類（控 35cm）の積込み～人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモック代等、その施工に必要な全ての労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L：換算距離（m）

H：水平距離（m）

h：高低差（m）

（2）代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.7 人肩運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-4 人肩運搬(運搬～取卸し)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.8 人肩運搬(運搬～取卸し) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
土砂	無し	(表2.2)
	有り	
岩塊・玉石	無し	
	有り	

(注) 1. 上表は、人力掘削(床掘り)から人肩運搬～取卸しの一連作業他、人肩用のモッコ代等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 6$$

L：換算距離 (m)

H：水平距離 (m)

h：高低差 (m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.9 人肩運搬(運搬～取卸し) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-5 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.10 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	換算距離
土砂	(表2.2)
岩塊・玉石	
栗石・クラッシャラン	

(注) 1. 上表は、仮置きされた土砂等の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L：換算距離(m)

H：水平距離(m)

h：高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.11 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-6 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.12 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

換算距離
(表2.2)

- (注) 1. 上表は、仮置きされたセメント、鋼材、木材、二次製品等の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L：換算距離(m)

H：水平距離(m)

h：高低差(m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.13 小車運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-7 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.14 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類 積算条件区分一覧

（積算単位：m²）

換算距離
（表2.2）

（注）1. 上表は、仮置きされた積ブロック類（控35cm）の積込み～小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、の施工に必要な全ての労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L：換算距離（m）

H：水平距離（m）

h：高低差（m）

（2）代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.15 小車運搬（積込み～運搬～取卸し）積ブロック類 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-8 小車運搬(運搬～取卸し)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.16 小車運搬(運搬～取卸し) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
土砂	無し	(表2.2)
	有り	
岩塊・玉石	無し	
	有り	

(注) 1. 上表は、人力掘削(床掘り)から小車運搬～取卸しの一連作業他、小車の損料等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 運搬距離とは、積込み中心より荷卸し中心間の平均片道距離をいう。

なお、地形等により高低差がある場合は、下記の式により補正した距離を適用する。

$$L = H + h \times 8$$

L：換算距離 (m)

H：水平距離 (m)

h：高低差 (m)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.17 小車運搬(運搬～取卸し) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1	—
	K 2	—
	K 3	—
労務	R 1	普通作業員
	R 2	—
	R 3	—
	R 4	—
材料	Z 1	—
	Z 2	—
	Z 3	—
	Z 4	—
市場単価	S	—

3. 施工単価入力基準表

(1) 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)土・石

パッケージコード	CB211110	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	土質 ①土砂 ②岩塊・玉石 ③栗石・クラッシャラン	換算距離 (表 3.1)	

表 3. 1 換算距離

換算距離	入力番号
20m以下	①
40m以下	②
60m以下	③
80m以下	④
100m以下	⑤
120m以下	⑥
140m以下	⑦
160m以下	⑧
180m以下	⑨
200m以下	⑩

(2) 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)セメント等

パッケージコード	CB211120	施 工 単 位	t
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	換算距離 (表 3.1)		

(3) 人肩運搬(積込み～運搬～取卸し)積ブロック類

パッケージコード	CB211130	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	換算距離 (表 3.1)		

(4) 人肩運搬(運搬～取卸し)

パッケージコード	CB211140	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
	①土砂 ②岩塊・玉石	①無し ②有り	(表 3.1)

(注) J 2 条件で②を選択した場合は、人力掘削(床掘り)を含む。

(5) 小車運搬(積込み～運搬～取卸し) 土・石

パッケージコード	CB211150	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	土質	換算距離	
	①土砂 ②岩塊・玉石 ③栗石・クラッシャラン	(表 3.1)	

(6) 小車運搬(積込み～運搬～取卸し) セメント等

パッケージコード	CB211160	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	換算距離	(表 3.1)	

(7) 小車運搬(積込み～運搬～取卸し) 積ブロック類

パッケージコード	CB211170	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	換算距離	(表 3.1)	

(8) 小車運搬(運搬～取卸し)

パッケージコード	CB211180	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	土質	掘削(床掘り)の有無	換算距離
	①土砂 ②岩塊・玉石	①無し ②有り	(表 3.1)

(注) J 2 条件で②を選択した場合は、人力掘削(床掘り)を含む。

⑤ 人力土工 (ベルトコンベヤ併用)

1. 適用範囲

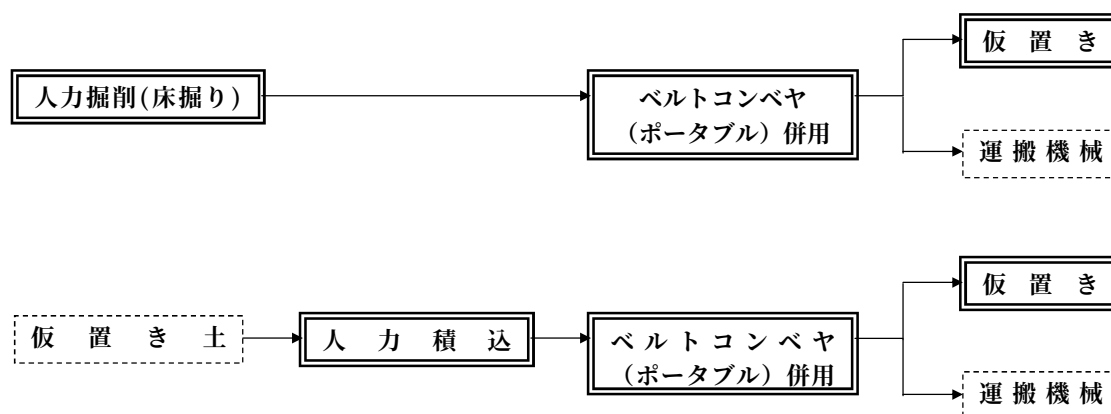
本資料は、人力による掘削(床掘り)箇所の土砂搬出が直接仮置き又はダンプトラック等に積込めない場合に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) ベルトコンベヤを併用して土砂を搬出する掘削作業を行う場合

2. 施工概要

2-1 施工フロー



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力掘削（床掘り）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力掘削（床掘り） 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

土質	ベルトコンベヤ 据付状態	ベルトコンベヤ 使用台数
土砂	水平据付	(表3.2)
	傾斜据付	
岩塊・玉石	水平据付	
	傾斜据付	

- (注) 1. 上表は、ベルトコンベヤを使用した人力による掘削（床掘り）～仮置きその他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. ベルトコンベヤの据付状態及び台数は、掘削作業箇所の高低差及び搬出距離等を勘案のうえ決定する。
3. ベルトコンベヤ据付状態は、仮置き地等と施工基面の高低差の有無により判断するものとし、ベルトコンベヤを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベヤ据付状態で判断する。
4. 水平据付とは掘削部等にベルトコンベヤをほぼ水平に据付ける場合をいう。傾斜据付とは掘削部等にベルトコンベヤを傾斜して据付ける場合をいう。

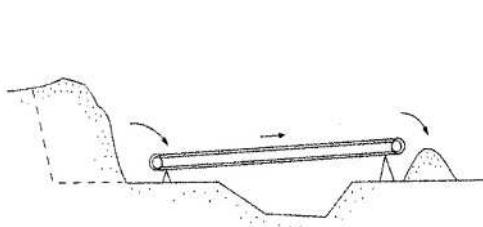


図3.1 水平据付

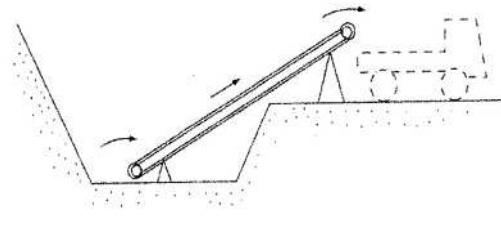


図3.2 傾斜据付

表3.2 ベルトコンベヤ使用台数

積算条件	区分
ベルトコンベヤ使用台数	1～2台
	3～4台
	5～6台
	7～8台
	9～10台

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 ベルトコンベヤ(ポータブル) 併用人力掘削(床掘り) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ベルトコンベヤ(ポータブル) [エンジン駆動] 機長 7m ベルト幅 350mm	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力積込

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力積込 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

土質	ベルトコンベヤ 据付状態	ベルトコンベヤ 使用台数
土砂	水平据付	(表3.2)
	傾斜据付	
岩塊・玉石	水平据付	
	傾斜据付	

- (注) 1. 上表は、仮置きした土砂等のベルトコンベヤによるダンプトラック等への積込みの他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. ベルトコンベヤの据付状態及び台数は、掘削作業箇所の高低差及び搬出距離等を勘案のうえ決定する。
3. ベルトコンベヤ据付状態は、仮置き地等と施工基面の高低差の有無により判断するものとし、ベルトコンベヤを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベヤ据付状態で判断する。
4. 水平据付とは掘削部等にベルトコンベヤをほぼ水平に据付ける場合をいう。傾斜据付とは掘削部等にベルトコンベヤを傾斜して据付ける場合をいう。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力積込 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ベルトコンベヤ（ポータブル）[エンジン駆動] 機長 7m ベルト幅 350mm	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力掘削（床掘り）

パッケージコード	CB211310	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	ベルトコンベヤ 使用台数
	①土砂 ②岩塊・玉石	①水平据付 ②傾斜据付	(表 4.1)

(注) 1. 本コードは、人力掘削（床掘り）費用を含むため、別途計上する必要はない。

2. ベルトコンベヤを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベヤ据付状態で判断する。

表4.1 ベルトコンベヤ使用台数

ベルトコンベヤ 使用台数	入力番号
1～2 台	①
3～4 台	②
5～6 台	③
7～8 台	④
9～10 台	⑤

(2) ベルトコンベヤ（ポータブル）併用人力積込

パッケージコード	CB211320	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	土質	ベルトコンベヤ 据付状態	ベルトコンベヤ 使用台数
	①土砂 ②岩塊・玉石	①水平据付 ②傾斜据付	(表 4.1)

(注) 1. 本コードは、人力積込費用を含むため、別途計上する必要はない。

2. ベルトコンベヤを連続して2台以上配置する場合の据付状態は、掘削部1台目のベルトコンベヤ据付状態で判断する。

⑥ 安定処理工

⑥-1 安定処理工

1. 適用範囲

本資料は、地盤改良工における安定処理に適用する。

(1) スタビライザ混合

現位置での路上混合作業で、混合深さ1m以下、かつ1層までの混合に適用する。

なお、1層の混合深さが1mを超える場合や2層以上混合する場合は、別途考慮する。

(2) バックホウ混合

現場条件によりスタビライザによる施工出来ない路床改良工事、及び構造物基礎の地盤改良工事で、1層の混合深さが路床1m以下・構造物基礎2m以下における現位置での混合作業に適用する。

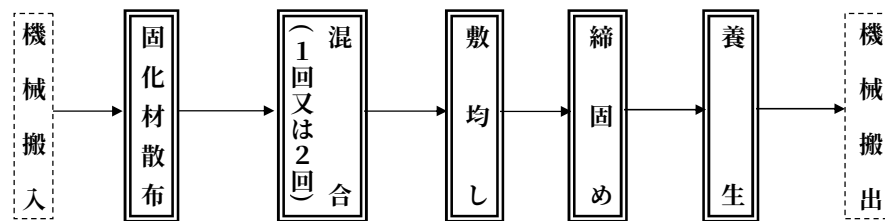
なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。

- ① 施工現場が狭隘な場合
- ② 転石がある場合
- ③ 移設出来ない埋設物がある場合

2. 施工概要

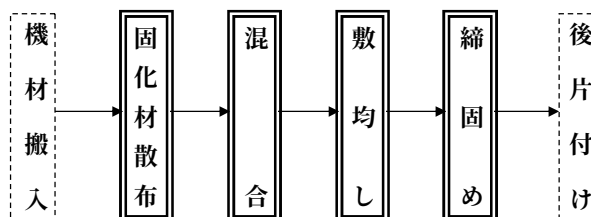
施工フローは、下記を標準とする。

(1) スタビライザ混合



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 養生中の飛散防止等の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

(2) バックホウ混合



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 安定処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 安定処理 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材 100m2 当り 使用量	混合回数
スタビライザ	—	0.6m 以下	(実数入力)	1 回
				2 回
		0.6m を超え 1m 以下		1 回
				2 回
バックホウ	路床	1m 以下		—
	構造物基礎	1m 以下		—
		1m を超え 2m 以下		—

- (注) 1. 上表は、地盤表層部もしくは路床、構造物基礎の改良材散布混合、敷均し・締固め、養生中の飛散防止（シート掛け）、現場内小運搬（スタビライザは 100m 程度の仮置場～現場、バックホウは 50m 程度の現場内小運搬）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. スタビライザ施工の混合回数は、消石灰・セメント系は 1 回、生石灰は 2 回を標準とする。ただし、土質状態により、これにより難しい場合は、別途考慮する。
3. 条件区分の「固化材 100m² 当り使用量」は、実数量（材料ロスを含んだ数量）とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 安定処理 代表機労材規格一覧

使用機種	施工箇所	項目		代表機労材規格	備考
スタビライザ	—	機械	K1	スタビライザ [路床改良用] 処理深さ 0.6m×幅 2.0m	混合深さ 0.6m以下 の場合
				スタビライザ [路床改良用] 処理深さ 1.2m×幅 2.0m	混合深さ 0.6mを超 え 1m以下の場合
			K2	モータグレーダ [土工用] ブレード幅 3.1m	
			K3	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8～20t	
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1t パック	
			Z2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
バックホウ	路床	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.45m3(平積 0.35m3) 吊能力 2.9t	賃料
			K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8～20t	
			K3	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.28m3 (平積 0.2m3)	賃料
		労務	R1	運転手(特殊)	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1t パック	
			Z2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
バックホウ	構造物 基 礎	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積 0.8m3(平積 0.6m3) 吊能力 2.9t	賃料
			K2	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 運転質量 0.8～1.1t	賃料
			K3	—	
		労務	R1	土木一般世話役	
			R2	運転手 (特殊)	
			R3	特殊作業員	
			R4	普通作業員	
		材料	Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・1t パック	
			Z2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 安定処理

パッケージコード		CB211410	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	使用機種	施工箇所	混合深さ	固化材 100m2 当り使用量	混合回数
	①スタビライザ ②バックホウ	①路床 ②構造物基礎	①0.6m 以下 ②0.6m を超え 1m 以下 ③1m 以下 ④1m を超え 2m 以下	(t/100m2) (実数入力)	① 1 回 ② 2 回

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。また、②を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 3 条件の③、④は選択出来ない。
3. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は③で固定する。
4. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件の①、②は選択出来ない。
5. J 4 条件の「固化材 100m2 当り使用量」は実数量（材料ロスを含んだ数量）を入力する。
6. 固化材単価（Y-1601000）[円／t] を単価登録すること。
7. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

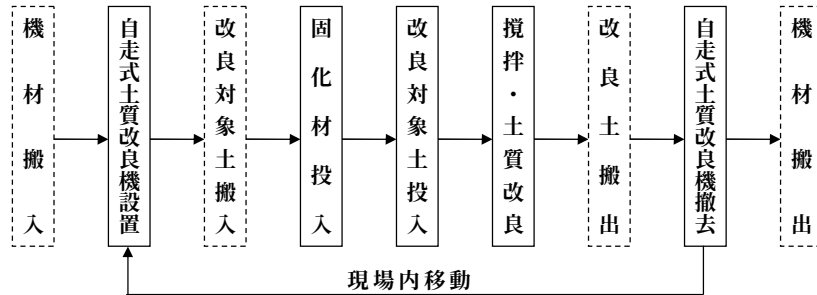
⑥-2 安定処理工(自走式土質改良工)

1. 適用範囲

本資料は、自走式土質改良機にて、改良機内で建設発生土の原料土を固化材と均質に混合し、改良土として再利用するための安定処理工(自走式土質改良工)に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 改良対象土搬入・改良土搬出は別途計上とする。
 3. 公道等を跨いで現場内移動する場合は、自走式土質改良機設置・撤去工を計上する。

3. 自走式土質改良機設置・撤去工

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作業種別	機械名	規 格	単 位	数 量
自走式土質改良機設置・撤去	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式]機械質量20t級	台	1

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

3-2 施工歩掛

自走式土質改良機設置・撤去工における施工歩掛は、次表とする。

表3.2 施工歩掛 (1台1回当たり)

名 称	単 位	設 置	撤 去
土 木 一 般 世 話 役	人	0.39	0.27
特 殊 作 業 員	〃	0.39	0.27
運 転 手 (特 殊)	〃	0.39	0.27
自走式土質改良機運転	日	0.39	0.27

(注) 上表は、固化材ホッパー・ホッパガードの取付・取外し、設備の調整等を含む。

4. 土質改良工

土質改良工は、固化材投入、改良対象土投入、攪拌・土質改良までの作業とする。

4-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量
固化材投入、攪拌・土質改良	自走式土質改良機	[解砕・固化材混合式]機械質量20t級	台	1
改良対象土投入	バックホウ (クローラ型)	超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	1

- (注) 1. バックホウは、賃料とする。
2. 現場状況により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4-2 編成人員

土質改良工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.2 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	特 殊 作 業 員
1	1

4-3 日当り施工量

土質改良工における日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.3 日当り作業量 (m³/日)

土質分類	数量
レキ質土	375
砂及び砂質土	316
粘性土	301

- (注) 1. 土量は、地山土量とする。
2. 上表は、玉石等(200mm以上)の除去作業は含まない数量であり、除去作業が必要な場合は、別途計上する。

4-4 固化材使用量

固化材の使用量は、次式による。

$$\text{固化材使用量} = \text{設計量} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式4.1}$$

固化材使用量：地山土量100m³当り固化材使用量(t)

設計量：地山土量100m³当り固化材設計添加量(t)

K：ロス率

表4.4 ロス率(K)

K	+0.04

4-5 諸雑費

諸雑費は、自走式土質改良機付属器(ハンマ、カッタ、パドル、ベルトコンベア、フィルタ)の損料等の費用であり、労務費及び機械運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.5 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	7

5. 単価表

(1) 自走式土質改良機設置(撤去) 1台1回当り単価表

				施工歩掛コード	WB211710
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.2	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
運 転 手 (特 殊)		〃		〃	
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式]機械 質量20 t 級	日		〃 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 土質改良工 100m³ 当り単価表

				施工歩掛コード	WB211720
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/D	表4.2, 表4.3, 表4.4	
特 殊 作 業 員		〃	1×100/D	〃	
固 化 材		t		表4.5, 式4.1	
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式]機械 質量20 t 級	日	100/D	表4.1, 表4.3, 表4.4 機械損料	
パ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	100/D	〃 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表4.6	
計					

(注) D:日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
自走式土質改良機運転	[解砕・固化材混合式]機械質量 20 t 級	機-24	燃料消費量 →115 機械損料数量→1.82
パ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →105 機械賃料数量→1.80

6. 施工単価入力基準表

(1) 自走式土質改良機設置・撤去工

施工歩掛コード	WB211710	施工単位	台・回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分 ①設置 ②撤去 ③設置・撤去		

(2) 安定処理工(自走式土質改良工)

施工歩掛コード	WB211720	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	改良土質 ①レキ質土 ②砂及び砂質土 ③粘性土	1m3当り固化材 設計添加量 Kg/m3 (実数入力)	

(注) 1. 本コードには,固化材の材料ロスを含むが, J 2 条件では,ロス率を含まない数量を計上すること。

2. 固化材単価(Y-1601000) [円/t] を単価登録すること。

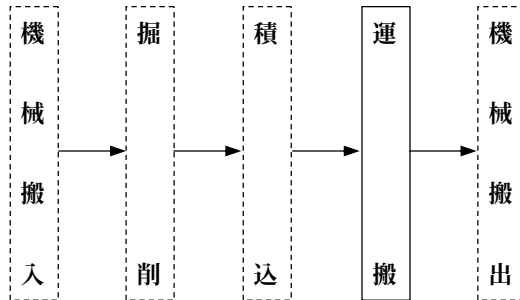
⑦ 土砂運搬工 (不整地運搬車による運搬)

1. 適用範囲

本資料は、土砂（岩塊・玉石混り土含む）の掘削に伴い、バックホウで積込み、不整地運搬車にて土砂を運搬する作業に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 掘削・積込は、「第Ⅱ編第1章土工②土工」による。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

不整地運搬に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	摘 要
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型（第2次基準値）6～7t積	5,000m ³ 未満
	クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型（第2次基準値）10～11t積	5,000m ³ 以上

- (注) 1. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。
2. 上表で示す土量は、1工事当りの不整地運搬車による取扱い土量（地山土量）である。
3. 不整地運搬車は、賃料とする。

4. 機械の施工歩掛

(1) 日当り運搬量

バックホウで積込み、不整地運搬車で運搬する場合、日当り運搬量は表4.1、表4.2、表4.3及び表4.4による。

表4.1 日当り運搬量(土砂)

積込機械・規格	バックホウ（クローラ型）[標準型] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第2次基準値)6～7t 積]									
運搬距離 (m)	40 以下	50 以下	60 以下	80 以下	100 以下	130 以下	170 以下	260 以下	380 以下	800 以下
日当り運搬量 (m ³)	280	267	243	217	188	160	133	104	76	48

表4.2 日当り運搬量(土砂)

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第2次基準値)6～7t 積]									
運搬距離(m)	40 以下	50 以下	60 以下	80 以下	100 以下	130 以下	170 以下	260 以下	380 以下	800 以下
日当り運搬量(m ³)	210	203	189	172	152	134	115	92	68	44

表4.3 日当り運搬量(土砂)

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第2次基準値)10～11t 積]									
運搬距離(m)	40 以下	50 以下	70 以下	80 以下	110 以下	150 以下	200 以下	280 以下	440 以下	800 以下
日当り運搬量(m ³)	392	377	339	306	273	229	190	152	112	73

表4.4 日当り運搬量(土砂)

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第2次基準値)10～11t 積]									
運搬距離(m)	40 以下	50 以下	70 以下	80 以下	110 以下	150 以下	200 以下	280 以下	440 以下	800 以下
日当り運搬量(m ³)	264	258	240	225	207	181	154	128	99	66

- (注) 1. 表4.1～表4.4は、1日に運搬する地山土量である。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。
3. 運搬距離が800mを超える場合は、別途考慮する。
4. 積込機械の規格は、土砂運搬工の前段で行う掘削・積込・作業土工にて選択されたバックホウの機種に基づき選定を行う。
5. 上記の積込機械により難しい場合は、別途考慮する。

5. 単 価 表

(1) 不整地運搬車 100 m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB211810
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型(第2次基準値) ○t 積	日	100/D	表 4.1～表 4.4 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D：日当り運搬量 (m³/日)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 10～11t 積	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 175 機械賃料数量 → 1.54
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ・全旋回式・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 6～7t 積	機-28	運転労務数量 → 1.00 燃料消費量 → 112 機械賃料数量 → 1.54

6. 施工単価入力基準表

(1) 土砂運搬工(不整地運搬車による運搬)

施工歩掛コード	WB211810	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	施工数量	積込機種・規格	運搬距離
	①5,000m ³ 未満 ②5,000m ³ 以上	①バックホウ山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) ②バックホウ山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	(表 6.1) ～ (表 6.4)

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. J 1 条件で①, J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は表 6.1 より選択すること。
 3. J 1 条件で①, J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は表 6.2 より選択すること。
 4. J 1 条件で②, J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は表 6.3 より選択すること。
 5. J 1 条件で②, J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は表 6.4 より選択すること。

表 6. 1 運搬距離

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第 2 次基準値)6～7t 積]									
運搬距離 (m)	40 以下	50 以下	60 以下	80 以下	100 以下	130 以下	170 以下	260 以下	380 以下	800 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表 6. 2 運搬距離

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第 2 次基準値)6～7t 積]									
運搬距離 (m)	40 以下	50 以下	60 以下	80 以下	100 以下	130 以下	170 以下	260 以下	380 以下	800 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表 6. 3 運搬距離

積込機械・規格	バックホウ(クローラ型)[標準型] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第 2 次基準値)10～11t 積]									
運搬距離 (m)	40 以下	50 以下	70 以下	80 以下	110 以下	150 以下	200 以下	280 以下	440 以下	800 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表6.4 運搬距離

積込機械・規格	バックホウ（クローラ型）[標準型] 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）									
運搬機械・規格	不整地運搬車 [クローラ型・ダンプ・全旋回式・排出ガス対策型(第2次基準値)10～11t 積]									
運搬距離(m)	40 以下	50 以下	70 以下	80 以下	110 以下	150 以下	200 以下	280 以下	440 以下	800 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

（注）運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

第2章 共通工

① 法面工	Ⅱ-2-①- 1	①-8 人工張芝工	Ⅱ-2-①-38
①-1 法面整形工	Ⅱ-2-①- 1	1 適用範囲	Ⅱ-2-①-38
1 適用範囲	Ⅱ-2-①- 1	2 施工概要	Ⅱ-2-①-38
2 施工概要	Ⅱ-2-①- 1	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-①-38
3 施工フロー	Ⅱ-2-①- 2	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-38
4 施工パッケージ	Ⅱ-2-①- 4	② 基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工	Ⅱ-2-②- 1
5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①- 6	1 適用範囲	Ⅱ-2-②- 1
①-2 芝付工	Ⅱ-2-①- 7	2 施工概要	Ⅱ-2-②- 2
1 適用範囲	Ⅱ-2-①- 7	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-②- 3
2 施工概要	Ⅱ-2-①- 7	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-②- 8
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-①- 8	③ コンクリートブロック積(張)工	Ⅱ-2-③- 1
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①- 8	③-1 コンクリートブロック積(張)工	Ⅱ-2-③- 1
①-3 コンクリート法枠工	Ⅱ-2-①- 9	1 適用範囲	Ⅱ-2-③- 1
1 プレキャスト法枠工	Ⅱ-2-①- 9	2 施工概要	Ⅱ-2-③- 2
2 現場打法枠工	Ⅱ-2-①-12	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-③- 4
3 単価表	Ⅱ-2-①-15	4 参考図	Ⅱ-2-③-22
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-19	5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-③-25
①-4 法面施肥工	Ⅱ-2-①-24	③-2 裏込栗石投入工(コンクリートブロック張)	
1 適用範囲	Ⅱ-2-①-24		Ⅱ-2-③-33
2 機種の選定	Ⅱ-2-①-24	1 適用範囲	Ⅱ-2-③-33
3 施工歩掛	Ⅱ-2-①-24	2 施工歩掛	Ⅱ-2-③-33
4 単価表	Ⅱ-2-①-25	3 単価表	Ⅱ-2-③-33
5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-25	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-③-34
①-5 現場吹付法枠工	Ⅱ-2-①-26	④ 石積(張)工	Ⅱ-2-④- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-①-26	④-1 石積(張)工	Ⅱ-2-④- 1
2 施工概要	Ⅱ-2-①-26	1 適用範囲	Ⅱ-2-④- 1
3 機種の選定	Ⅱ-2-①-26	2 施工概要	Ⅱ-2-④- 3
4 施工歩掛	Ⅱ-2-①-27	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-④- 4
5 単価表	Ⅱ-2-①-28	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-④-11
6 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-28	④-2 平石張工	Ⅱ-2-④-14
①-6 吹付法面とりこわし工	Ⅱ-2-①-29	1 適用範囲	Ⅱ-2-④-14
1 適用範囲	Ⅱ-2-①-29	2 施工概要	Ⅱ-2-④-14
2 施工概要	Ⅱ-2-①-29	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-④-16
3 工法の選定	Ⅱ-2-①-30	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-④-18
4 施工パッケージ	Ⅱ-2-①-30	⑤ 場所打擁壁工	Ⅱ-2-⑤- 1
5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-32	⑤-1 場所打擁壁工(1)	Ⅱ-2-⑤- 1
①-7 プレキャストコンクリート板設置工		1 適用範囲	Ⅱ-2-⑤- 1
	Ⅱ-2-①-33	2 施工概要	Ⅱ-2-⑤- 2
1 適用範囲	Ⅱ-2-①-33	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑤- 5
2 施工概要	Ⅱ-2-①-33	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑤-18
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-①-34		
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-①-37		

⑤-2 場所打擁壁工(2)……………	Ⅱ-2-⑤-25	⑩-4 排水構造物工(現場打ち集水桝・街渠桝(本体))	Ⅱ-2-⑩-45
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑤-25	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑩-45
2 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑤-25	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑩-45
3 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑤-27	3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑩-46
⑥ プレキャスト擁壁工……………	Ⅱ-2-⑥- 1	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑩-48
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑥- 1	⑪ 軟弱地盤処理工……………	Ⅱ-2-⑪- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑥- 1	⑪-1 サンドマット工……………	Ⅱ-2-⑪- 1
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑥- 2	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪- 1
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑥- 4	2 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑪- 1
⑦ 補強土壁工(帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)	Ⅱ-2-⑦- 1	3 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪- 3
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑦- 1	⑪-2 粉体噴射攪拌工(DJM工法) ……	Ⅱ-2-⑪- 4
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑦- 2	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪- 4
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑦- 3	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑪- 4
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑦- 7	3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑪- 5
⑧ ジオテキスタイル工……………	Ⅱ-2-⑧- 1	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪- 9
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑧- 1	⑪-3 スラリー攪拌工……………	Ⅱ-2-⑪-11
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑧- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪-11
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑧- 2	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑪-11
4 参考資料……………	Ⅱ-2-⑧- 6	3 機種の選定……………	Ⅱ-2-⑪-12
5 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑧- 8	4 編成人員……………	Ⅱ-2-⑪-13
⑨ 連続地中壁工(柱列式) ……	Ⅱ-2-⑨- 1	5 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑪-14
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑨- 1	6 単価表……………	Ⅱ-2-⑪-19
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑨- 1	7 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪-21
3 機種の選定……………	Ⅱ-2-⑨- 2	⑪-4 高圧噴射攪拌工……………	Ⅱ-2-⑪-22
4 編成人員……………	Ⅱ-2-⑨- 2	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪-22
5 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑨- 2	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑪-22
6 ガイド設置・撤去……………	Ⅱ-2-⑨- 4	3 機種の選定……………	Ⅱ-2-⑪-23
7 プラント設置・撤去……………	Ⅱ-2-⑨- 4	4 編成人員……………	Ⅱ-2-⑪-24
8 単価表……………	Ⅱ-2-⑨- 5	5 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑪-24
9 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑨- 7	6 単価表……………	Ⅱ-2-⑪-32
⑩ 排水構造物工……………	Ⅱ-2-⑩- 1	7 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪-35
⑩-1 排水構造物工……………	Ⅱ-2-⑩- 1	⑪-5 ペーパードレーン工……………	Ⅱ-2-⑪-38
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑩- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪-38
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑩- 3	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑪-38
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑩- 5	3 機種の選定……………	Ⅱ-2-⑪-38
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑩-27	4 編成人員……………	Ⅱ-2-⑪-38
⑩-2 排水構造物工(管(函)渠型側溝 溶接金網及び埋設鋼板型枠) ……	Ⅱ-2-⑩-34	5 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑪-39
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑩-34	6 単価表……………	Ⅱ-2-⑪-40
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑩-34	7 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪-41
3 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑩-34	⑪-6 中層混合処理工……………	Ⅱ-2-⑪-42
4 単価表……………	Ⅱ-2-⑩-37	1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑪-42
5 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑩-38	2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑪-42
⑩-3 排水構造物工(現場打ち水路(本体))	Ⅱ-2-⑩-39	3 機種の選定……………	Ⅱ-2-⑪-43
1 適用範囲……………	Ⅱ-2-⑩-39	4 編成人員……………	Ⅱ-2-⑪-43
2 施工概要……………	Ⅱ-2-⑩-39	5 施工歩掛……………	Ⅱ-2-⑪-44
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-2-⑩-40	6 単価表……………	Ⅱ-2-⑪-46
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑩-43	7 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-2-⑪-47

⑫ 薬液注入工	Ⅱ-2-⑫- 1	⑳ かご工	Ⅱ-2-⑳- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑫- 1	1 適用範囲	Ⅱ-2-⑳- 1
2 施工概要	Ⅱ-2-⑫- 1	2 施工概要	Ⅱ-2-⑳- 1
3 機種の選定	Ⅱ-2-⑫- 2	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑳- 2
4 編成人員	Ⅱ-2-⑫- 3	4 かご工(じゃかご, ふとんかご) 参考図	Ⅱ-2-⑳- 5
5 施工歩掛	Ⅱ-2-⑫- 4	5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑳- 6
6 単価表	Ⅱ-2-⑫-11	㉑ 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工	Ⅱ-2-㉑- 1
7 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑫-14	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉑- 1
⑬ アンカー工(ロータリーパーカッション式)	Ⅱ-2-⑬- 1	2 施工概要	Ⅱ-2-㉑- 2
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑬- 1	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-㉑- 4
2 施工概要	Ⅱ-2-⑬- 1	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉑-11
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑬- 2	㉒ 現場取卸費	Ⅱ-2-㉒- 1
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑬- 8	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉒- 1
⑭ 構造物とりこわし工	Ⅱ-2-⑭- 1	2 施工パッケージ	Ⅱ-2-㉒- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑭- 1	3 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉒- 5
2 施工概要	Ⅱ-2-⑭- 1	㉓ 骨材再生工(自走式)	Ⅱ-2-㉓- 1
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑭- 2	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉓- 1
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑭- 4	2 施工概要	Ⅱ-2-㉓- 1
⑮ コンクリート削孔工	Ⅱ-2-⑮- 1	3 自走式破砕機設置・撤去工	Ⅱ-2-㉓- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑮- 1	4 骨材再生工	Ⅱ-2-㉓- 2
2 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑮- 2	5 単価表	Ⅱ-2-㉓- 3
3 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑮- 5	6 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉓- 4
⑯ ガス切断工	Ⅱ-2-⑯- 1	㉔ 函渠工	Ⅱ-2-㉔- 1
⑯-1 ガス切断工	Ⅱ-2-⑯- 1	㉔-1 函渠工(1)	Ⅱ-2-㉔- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑯- 1	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉔- 1
2 ガス切断歩掛	Ⅱ-2-⑯- 1	2 施工概要	Ⅱ-2-㉔- 1
3 単価表	Ⅱ-2-⑯- 1	3 施工パッケージ	Ⅱ-2-㉔- 2
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑯- 2	4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉔- 6
⑯-2 鋼材現場ガス切断工	Ⅱ-2-⑯- 4	㉔-2 函渠工(2)	Ⅱ-2-㉔- 8
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑯- 4	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉔- 8
2 編成人員	Ⅱ-2-⑯- 4	2 施工パッケージ	Ⅱ-2-㉔- 9
3 施工歩掛	Ⅱ-2-⑯- 4	3 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉔-11
4 単価表	Ⅱ-2-⑯- 5	㉕ 穀運搬	Ⅱ-2-㉕- 1
5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑯- 6	1 適用範囲	Ⅱ-2-㉕- 1
⑰ 吸出し防止材設置工	Ⅱ-2-⑰- 1	2 施工パッケージ	Ⅱ-2-㉕- 1
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑰- 1	3 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-㉕- 8
2 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑰- 1		
3 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑰- 1		
⑱ 目地・止水板設置工	Ⅱ-2-⑱- 1		
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑱- 1		
2 施工概要	Ⅱ-2-⑱- 1		
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑱- 2		
4 参考図(塩ビ止水板)	Ⅱ-2-⑱- 4		
5 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑱- 5		
⑲ 旧橋撤去工	Ⅱ-2-⑲- 1		
1 適用範囲	Ⅱ-2-⑲- 1		
2 施工概要	Ⅱ-2-⑲- 3		
3 施工パッケージ	Ⅱ-2-⑲- 5		
4 施工単価入力基準表	Ⅱ-2-⑲-17		

第2章 共 通 工

① 法 面 工

①－1 法面整形工

1. 適 用 範 囲

本資料は、盛土法面整形工及び切土法面整形工に適用する。

1－1 適用出来る範囲

(1) 土質がレキ質土、砂及び砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ・Ⅱ、中硬岩、硬岩の法面整形

1－2 適用出来ない範囲

(1) 3D-MG及びMCバックホウによる法面整形

2. 施 工 概 要

2－1 盛土法面整形工

法面表層部を締固め整形することを盛土法面整形工という。

2－2 切土法面整形工

法面表層部を削取りながら整形することを切土法面整形工という。

3. 施 工 フ ロ ー

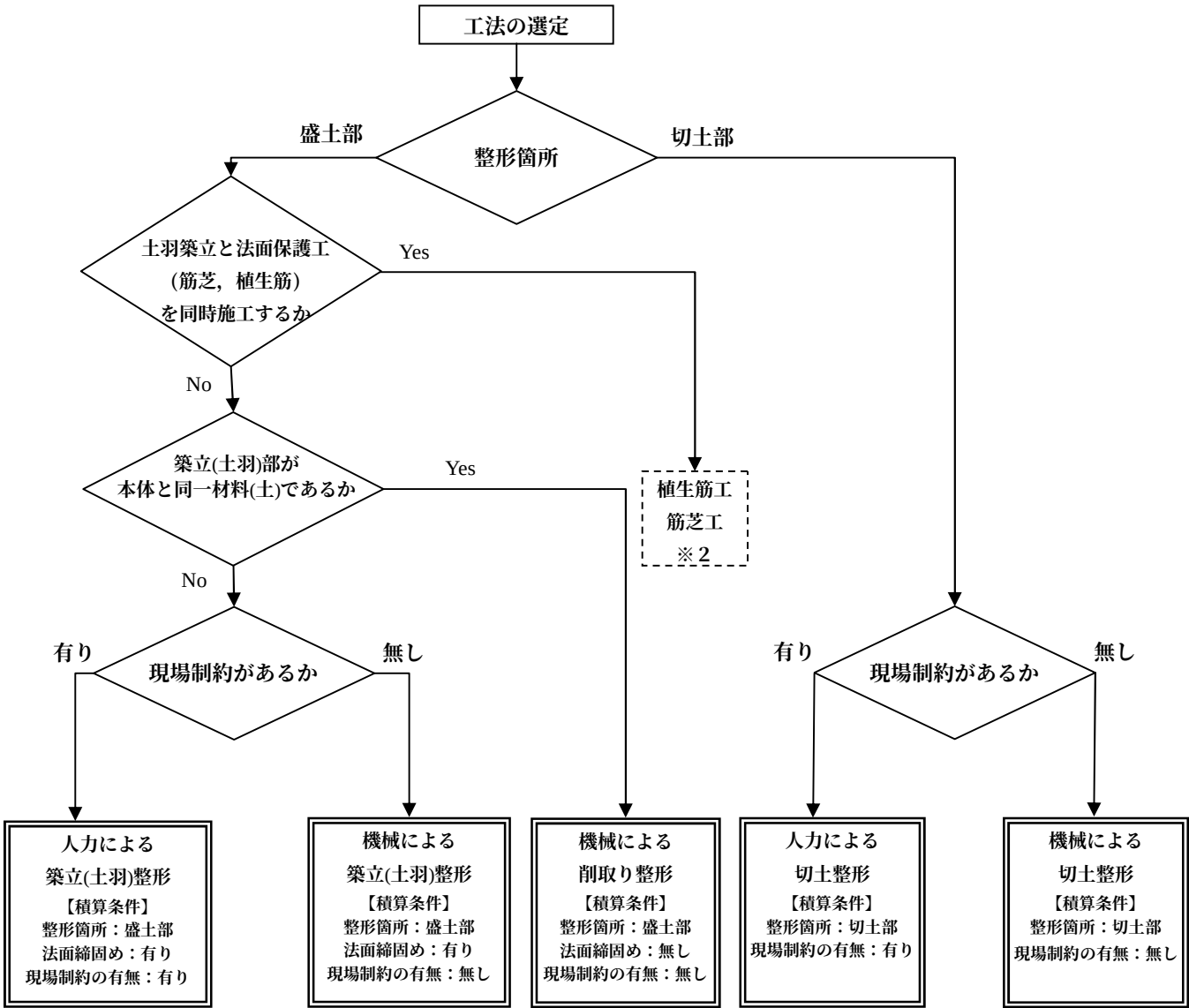


図3-1 法面整形工 工法選定フロー図

- (注) 1. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。
- ・機械施工が困難な場合
 - ・一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合
 - ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業（二次整形）をする場合
2. 植生筋工，筋芝工については「第Ⅵ編第2章市場単価⑥-1法面工」により別途計上すること。

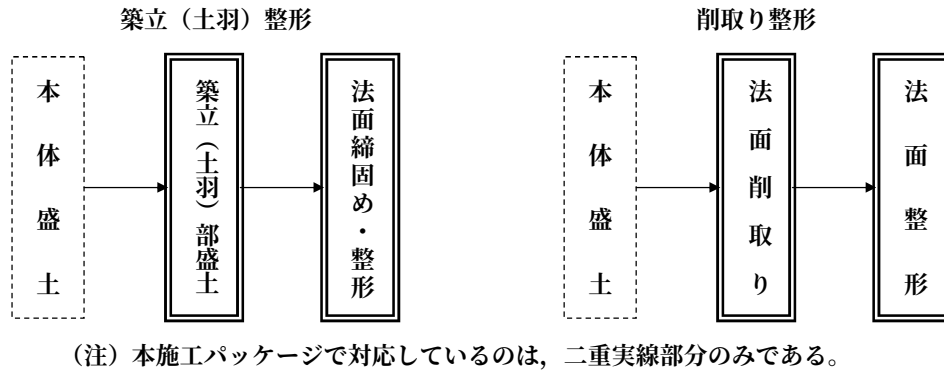


図3-2 盛土部施工フロー図

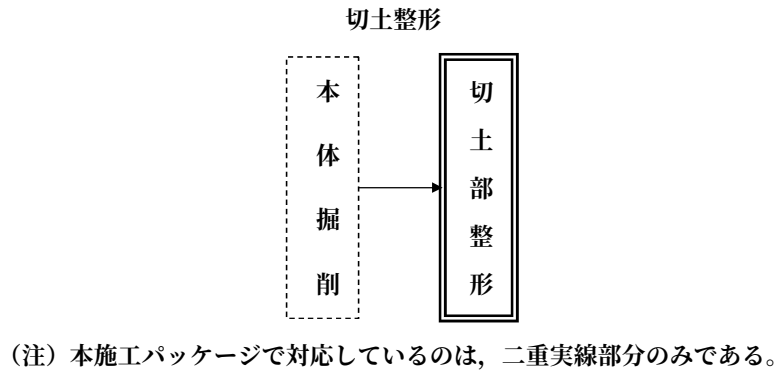


図3-3 切土部施工フロー図

4. 施工パッケージ

4-1 法面整形

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 法面整形 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質
盛土部	有り	有り	砂及び砂質土，粘性土
		無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
	無し	無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
切土部	—	有り	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
			軟岩Ⅰ，軟岩Ⅱ，中硬岩，硬岩
		無し	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土
			軟岩Ⅰ

- (注) 1. 上表は、切土法面の表層部を削取りながらの法面整形又は盛土法面の表層部を削取りながらの法面整形及び築立てながらの法面（土羽）整形，土羽土の現場内小運搬（20m 程度）の他，空気圧縮機，ピックハンマ賃料，チゼル損耗費等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 残土の積込み，工区外の運搬，並びに法面保護工は含まない。
3. 土羽土の搬入等は含まない。
4. 下記の条件のいずれかに該当する場合は現場制約有りとする。
- ・機械施工が困難な場合
 - ・一度法面整形を完成した後，局部的に浸食・崩壊を生じた場合
 - ・法面保護工を施工する前に必要に応じて行う整形作業（二次整形）をする場合
5. 現場制約がある場合は，切土・盛土ともに人力施工になる。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.2 法面整形 代表機労材規格一覧

現場制約の有無	整形箇所	項目		代表機労材規格	備考
無し	盛土部 切土部	機械	K1	バックホウ（クローラ型） 〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	運転手（特殊）	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
有り	盛土部	機械	K1	タンパ及びランマ 質量 60～80kg	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	
			R4	—	
		材料	Z1	ガソリン レギュラー スタンド	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
	切土部	機械	K1	—	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	普通作業員	
			R2	土木一般世話役	
			R3	特殊作業員	軟岩 I, 軟岩 II, 中硬岩, 硬岩の場合
			R4	—	
		材料	Z1	—	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

5. 施工単価入力基準表

(1) 法面整形

パッケージコード	CB220010	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	整形箇所	法面締固めの有無	現場制約の有無	土質
	①盛土部 ②切土部	①有り ②無し	①有り ②無し	(表 5.1)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件は選択する必要はない。
 2. J 1 条件で②を選択し, J 3 条件で①を選択した場合は, J 4 条件で④の選択は出来ない。
 3. J 1 条件で②を選択し, J 3 条件で②を選択した場合は, J 4 条件で③の選択は出来ない。
 4. J 2 条件で②を選択した場合は, J 3 条件を②で固定する。
 5. 人力施工の場合は, J 3 条件で①を選択する。

表5.1 土質区分

土 質	入力番号
レキ質土, 砂及び砂質土, 粘性土	①
砂及び砂質土, 粘性土	②
軟岩Ⅰ, 軟岩Ⅱ, 中硬岩, 硬岩	③
軟岩Ⅰ	④

①-2 芝 付 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、平面部に施工する市松芝工（格子状に張る場合）に適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) 平面部への高麗芝、野芝の芝付

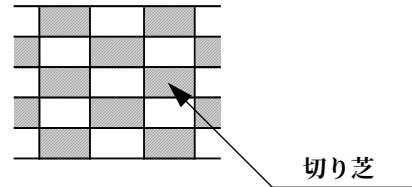
1-2 適用出来ない範囲

(1) 耳芝のみの施工の場合

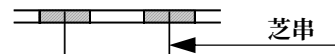
(2) 法面部への高麗芝、野芝の芝付

(3) 公園工事の場合

【平面図】

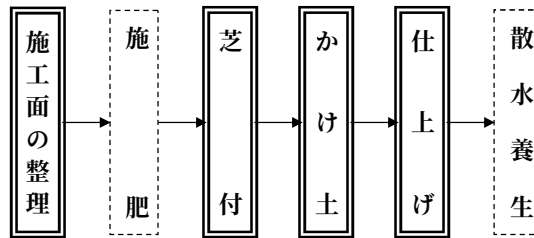


【断面図】



2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 散水養生は必要に応じて別途計上する。
 3. 芝串の有無にかかわらず 適用出来る。
 4. 施肥は必要に応じて別途計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 市松芝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 市松芝 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

芝の規格
高麗芝
野芝

- (注) 1. 上表は、芝の張付け、耳芝、目串、現場内小運搬(20m 程度)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 散水養生は必要に応じて別途計上する。
 3. 施肥は必要に応じて別途計上する。
 4. 芝の標準使用量は、対象面積の50%とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 市松芝 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	野芝	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 市松芝

パッケージコード	CB220210	施工単位	m ²
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	芝の規格		
	①高麗芝 ②野芝		

- (注) 1. 散水養生は必要に応じて別途計上する。
 2. 施肥は必要に応じて別途計上する。

①－3 コンクリート法枠工

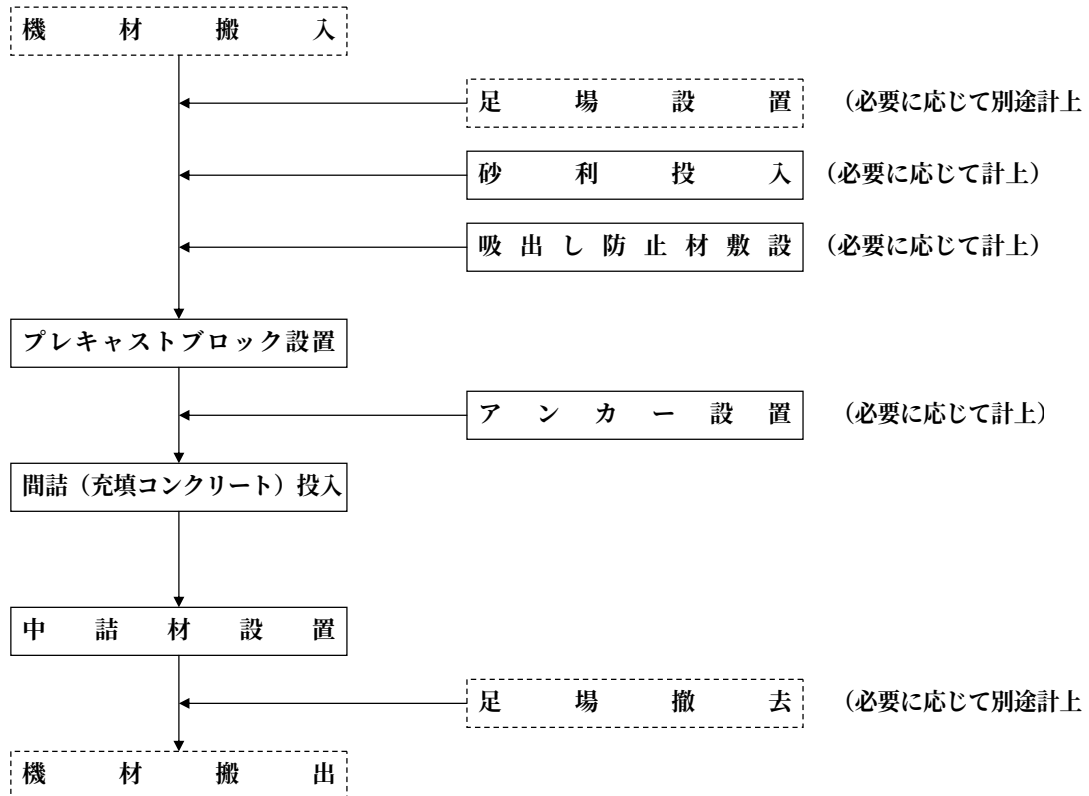
1. プレキャスト法枠工

1-1 適用範囲

本資料は、プレキャストブロック（質量1,400kg未満／個）による法枠工に適用する。

1-2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図1.1 施工フロー

1-3 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表1.1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘要
プレキャストブロック設置 中 詰 材 設 置	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	台	1	
中 詰 材 設 置	バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ニ ラ 型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	〃	1	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

1-4 編 成 人 員

プレキャストブロック設置の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表1.2 日当り編成人員

名 称	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役	人	1
ブ ロ ッ ク 工	〃	1
普 通 作 業 員	〃	3

1-5 日 当 り 施 工 量

プレキャストブロック設置の日当り施工量は、次表を標準とする。

表1.3 日当り施工量 (1日当り)

日当り施工量	単位	数量
プレキャストブロック設置	m ²	36

- (注) 1. 上表は法枠設置(中詰ブロックを除く)、間詰(充填コンクリート)の施工量であり、施工量は中詰面積を含めた数量である。
2. 上表には、25m程度の現場内小運搬を含む。

1-6 諸 雑 費

表1.4 諸雑費率

工 種 名	工種の組合せ			
プレキャストブロック設置工	○	○	○	○
ア ン カ ー 設 置 工	×	○	×	○
吸 出 し 防 止 材 敷 設 工	×	×	○	○
諸 雑 費 率 (%)	3	18	20	35

- (注) 1. ○：当該工種有り。 ×：当該工種無し。
2. プレキャストブロック設置工：間詰(充填コンクリート)材料費
アンカー設置工：設置労務費、アンカー材料費
吸出し防止材敷設工：設置労務費、吸出し防止材材料費
3. プレキャストブロック設置労務費及び機械賃料の合計額に、上表から選択した率を乗じた金額を上限として計上する。

1-7 敷 砂 利

砂利投入が必要な場合は、次表により計上することが出来る。

表1.5 敷砂利施工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
普 通 作 業 員		人	1.0
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h	2.0

(注) 1. バックホウによる施工が困難な場合は、別途考慮する。

2. 砂利の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K)$$

設計数量：m³

K：ロス率

ロス率 (K) の値は、次表を標準とする。

表1.6 ロス率 (K)

ロ ス 率	+0.20

1-8 中 詰 工

中詰工施工の歩掛は、次表を標準とする。

表1.7 中詰工施工歩掛

名 称	規 格	単 位	中 詰 区 分				
			中詰ブロック (100m ²)	客土 (100m ³)	植生のう (1,000袋)	割石又は栗石 (10m ³)	砕石 (10m ³)
土木一般世話役		人	1.2	5.3	1.6	1.0	0.5
ブロック工		〃	4.4	—	—	—	—
法 面 工		〃	—	6.0	2.7	—	—
普 通 作 業 員		〃	8.0	36.4	12.0	6.6	3.1
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日	—	6.2	0.9	0.5	—
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h	—	—	—	—	5.4
諸 雑 費 率		%	10	—	—	—	—

(注) 1. 中詰ブロックの積算対象は、法枠面積を含めた100m²当りとする。

2. 植生のうを製作する場合は、普通作業員1.8 (人/100袋)を加算し、使用土量は2 (m³/100袋)を標準とする。また、植生のうの使用数量は、6 (袋/m²)を標準とする。

3. 諸雑費は、目地材の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4. 中詰コンクリート工は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」の小型構造物に準じ別途計上する。

5. 中詰張芝工が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章市場単価⑥-1法面工」により別途計上する。

6. 中詰ブロックを3段以上施工する場合は、ラフテレーンクレーンの運転日数0.7 (日/100m²)を本表に加算する。

7. 中詰砕石工において、バックホウによる施工が困難な場合は、別途考慮する。

8. 客土、割石又は栗石及び砕石の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K)$$

設計数量：m³

K：ロス率

ロス率 (K) の値は、次表を標準とする。

表1.8 ロス率 (K)

材 料 名	客 土	割石又は栗石、砕石
ロ ス 率	+0.16	+0.20

1-9 足 場 工

足場を必要とする場合は、「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」により別途計上する。

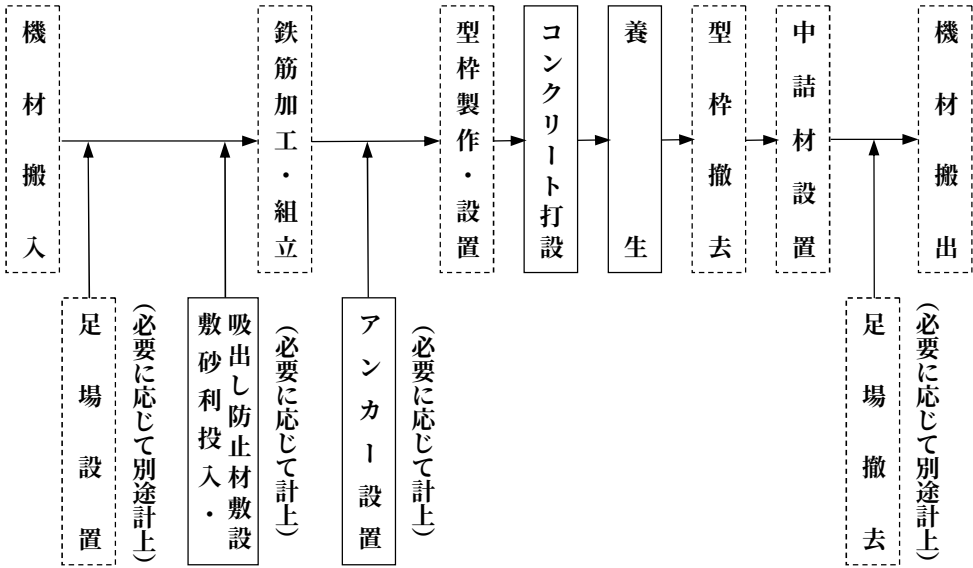
2. 現場打法枠工

2-1 適 用 範 囲

本資料は、施工面積3,000㎡以下、平均法長30m以下、法勾配1：0.3～1：2.0の法面における現場打法枠工に適用する。

2-2 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2.1 施工フロー

2-3 施工方法の選定

施工方法の選定は、次表を標準とする。

表2.1 施工方法の選定

施工方法	施工条件
人力打設	施工法面の天端にコンクリート運搬車が接近出来、直打・シュート打が可能な箇所で、平均法長11m以下、法勾配1：1.5～1：2.0の法面
コンクリートポンプ車打設	上記以外の法面

(注) 現場条件等により上表により難しい場合は、別途考慮する。

2-4 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.2 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
コンクリート投入打設	コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	台	1	ブーム打設及び配管打設に適用
型 枠 工	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	〃	1	

- (注) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。
 2. ラフテレーンクレーンは、法尻からの最大法直高4m以上の現場において、全数量に適用する。
 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2-5 コンクリート投入打設

2-5-1 人力打設

人力によるコンクリート投入打設は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」の小型構造物による。

2-5-2 コンクリートポンプ車打設

コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛は、次表を標準とする。

ただし、コンクリート混合物の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 5. 1}$$

K: ロス率 (+0.15)

表2.3 コンクリートポンプ車によるコンクリート投入打設歩掛 (100m³当り)

名 称	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役	人	3.8
特 殊 作 業 員	〃	8.8
普 通 作 業 員	〃	13.9
コ ン ク リ ー ト ポ ン プ 車 運 転	h	22.7
諸 雑 費 率	%	2

- (注) 1. 法枠本体の投入打設歩掛であり、養生の労務を含む。
 2. コンクリートポンプ車の配管打設の場合の圧送管組立・撤去歩掛は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。
 3. 諸雑費は、コンクリートパイプレータの機械損料、運転経費及び養生材料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2-6 ア ン カ ー 工

アンカーが必要な場合は、次表により計上する。

表2.4 アンカー設置工歩掛 (10本当り)

名 称	単位	数量
普 通 作 業 員	人	0.3

(注) アンカーは打込式とし、アンカーピン長さは1m以内とする。

2-7 敷砂利及び吸出し防止材

2-7-1 敷砂利

敷砂利が必要な場合の歩掛は、「プレキャスト法枠工」による。

2-7-2 吸出し防止材

吸出し防止材が必要な場合は、次表により計上する。

ただし、吸出し防止材の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \cdots\cdots \text{式 7. 1}$$

K：ロス率 (+0.08)

表2.5 吸出し防止材敷設歩掛 (100m²当り)

名 称	単位	数量
普 通 作 業 員	人	0.5

2-8 中 詰 工

中詰工歩掛は、「プレキャスト法枠工」の中詰工による。

2-9 型 枠 工

型枠の製作・設置・撤去は、「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」の小型構造物により計上する。

ただし、ラフテレーンクレーンが必要となる場合は、0.8日(100m²当り)加算する。

なお、ラフテレーンクレーンの規格は、表2.2による。

2-10 鉄 筋 工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1鉄筋工」により別途計上する。

2-11 足 場 工

足場が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」により別途計上する。

3. 単 価 表

(1) プレキャストブロック設置100m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB220310
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/D	表1.2 表1.3
ブ ロ ッ ク 工		〃	1×100/D	〃 〃
普 通 作 業 員		〃	3×100/D	〃 〃
ブ ロ ッ ク		個		
敷 砂 利		m ³		単価表(2) 必要に応じて計上
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日	1×100/D	表1.3 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表1.4
計				

(注) D：日当り施工量

(2) 敷砂利10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB220311
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表1.5
砂 利		m ³		表1.5(注)2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h		表1.5 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 中詰ブロック設置100m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB220330
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.7
ブ ロ ッ ク 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ブ ロ ッ ク		個		
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表1.7(注)6 機械賃料 必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	表1.7
計				

(4) 中詰客土設置 100m³ 当り単価表

		施工歩掛コード		WB220340
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.7
法 面 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
客 土		m ³		表1.7(注)8
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表1.7 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(5) 中詰植生土のう設置1,000袋当り単価表

		施工歩掛コード		WB220350
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.7
法 面 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
植 生 土 の う		袋	1,000	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表1.7 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(6) 中詰割石又は栗石設置10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB220360
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.7
普 通 作 業 員		〃		〃
割 石 又 は 栗 石		m ³		表1.7(注)8
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表1.7 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(7) 中詰碎石設置10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB220370
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.7
普 通 作 業 員		〃		〃
碎 石		m ³		表1.7(注)8
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	h		表1.7 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(8) 植生土のう製作100袋当り単価表

		施工歩掛コード		WB220380
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表1.7(注)2
植 生 土 の う 袋	400×600	袋	100	
植 生 土		m ³	2	表1.7(注)2 必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	
計				

(9) コンクリートポンプ車打設100m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB220390
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表2.3
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
コ ン ク リ ー ト		m ³		式5.1
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	h		表2.3 機械損料
圧送管組立・撤去費		m ³	100	(10)単価表 必要に応じて計上
諸 雑 費		//	1	表2.3
計				

(10) 圧送管組立・撤去費10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB220410
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.46×L/7.2	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。

(11) アンカー設置工10本当り単価表

		施工単価コード		WB220313
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表2.4
ア ン カ ー		本	10	
諸 雑 費		式	1	
計				

(12) 吸出し防止材敷設工 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB220312
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表2.5
吸 出 し 防 止 材		m ²		式7.1
諸 雑 費		式	1	
計				

(13) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	機-1	
コンクリートポンプ車	トラック架装・ ブーム式 圧送能力 90～110 m ³ /h	機-3	機械損料1→コンクリートポンプ車 (トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110 m ³ /h)
			機械損料2→コンクリート圧送管(径125mm) 単 位→m・h 数 量→L×1h

(注) Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲30mを超えた部分の圧送管延長とする。

4. 施工単価入力基準表

(1) プレキャストブロック設置(中詰除く)

施工歩掛コード		WB220310	施工単位	m ²
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	プレキャスト ブロック使用量 (個／m ²) (実数入力)	アンカーの有無 ①有 ②無	吸出し防止材 の有無 ①有 ②無	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1条件に1m²当りプレキャストブロック使用量(個)を実数入力すること。
 2. プレキャストブロック材料単価(Y-0361000) [円/個] を単価登録すること。
 3. J 2, J 3で①を選択した場合, アンカー及び吸出し防止材の設置労務費, 材料費を含む諸雑費率が設定されている。
 4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 5. 本コードは, ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 6. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 敷砂利

施工歩掛コード	WB220311	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	バックホウ供用 日当り運転時間 ①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型(第1次基準値) ②排出ガス対策型(第2次基準値)	

- (注) 1. 敷砂利が必要な場合は, 本コードにより積上げ計上とし, 砂利単価(Y-0247000) [円/m³] を単価登録すること。
 2. 本コードは, 砂利の材料ロスを含む。
 3. 本コードは, バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
 4. 本コードは, バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)にも適用できる。

(3) 中詰工 (中詰ブロック)

施工歩掛コード	WB220330	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	中詰ブロック使用量 (個／100m ²) (実数入力)	中詰ブロック段数 ① 1～2 段 (クレーン不要) ② 2 段を超える	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合、J 3 条件は入力する必要はない。
 2. 中詰ブロックの単価 (Y-0361000) [円／個] を単価登録すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(4) 中詰工 (客土)

施工歩掛コード	WB220340	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは客土の材料ロスを含む。
 2. 客土の単価 (Y-1610000) [円／m³] を単価登録すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(5) 中詰工 (植生土のう)

施工歩掛コード	WB220350	施工単位	袋
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	植生土のう 製作の有無 ① 有 ② 無	植生土の有無 ① 有 ② 無	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 植生土のう使用量は6袋/㎡, 植生土使用量は2㎡/100袋を標準としている。
2. J 1条件で①を選択した場合, 植生土のう袋単価 (Y-1515000) [円/枚] を単価登録すること。
3. J 1条件で②を選択した場合, J 2条件の入力は必要ない。
4. J 1条件で②を選択した場合, 植生土のう単価 (Y-1515001) [円/袋] を単価登録すること。
5. J 2条件で①を選択した場合, 植生土単価 (Y-1613000) [円/㎡] を単価登録すること。
6. 本コードは植生土の材料ロスを含む。
7. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。
8. 本コードは, ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
9. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(6) 中詰工 (割石又は栗石)

施工歩掛コード	WB220360	施工単位	㎡
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	中詰材の種類 (表4.1)	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. 本コードは, 割石又は栗石の材料ロスを含む。
2. J 1条件で①を選択した場合, 割石単価 (Y-0251001) [円/㎡] を単価登録すること。
3. J 1条件で③を選択した場合, 栗石単価 (Y-0249000) [円/㎡] を単価登録すること。
4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。
5. 本コードは, ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
6. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表4.1 栗石の種類

規 格	入力番号
割石 (50～150mm)	①
栗石 (50～150mm)	②
栗石 (各種)	③

(7) 中詰工(砕石)

施工歩掛コード	WB220370		施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	
	砕石の種類 (表4.2)	バックホウ供用 日当り運転時間 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

- (注) 1. 本コードは、砕石の材料ロスを含む。
 2. J 1 条件で④を選択した場合、砕石単価 (Y-0241000) [円/m³] を単価登録すること。
 3. 本コードは、バックホウの低騒音型についても適用出来る。
 4. 本コードは、バックホウの普通型機種 (排出ガス未対策型) にも適用できる。

表4.2 砕石の種類

規 格	入力番号
クラッシャラン 40～0	①
クラッシャラン 30～0	②
再生クラッシャラン 40～0	③
砕 石 (各種)	④

(8) 現場打法枠工(コンクリートポンプ車打設)

施工歩掛コード		WB220390	施工単位	m ³
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	生コンクリートの規格 (表4.3)	圧送管組立の有無 ①無 ②有	圧送管延長 (m) (実数入力)	ポンプ車供用 日当り運転時間 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、材料のロスを含む。
 2. J 1 条件で⑦を選択した場合、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
 3. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。
 4. J 3 条件 (圧送管延長) は、コンクリートポンプ車から30mを超えた部分の圧送管延長を実数入力すること。
 なお、コンクリート1日当り打設量は、7.2m³を標準とする。
 5. コンクリート人力打設については、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。
 6. 特殊養生が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上すること。
 7. 圧送管組立・撤去は日々組立撤去に適用する。

表4.3 生コンクリートの規格

規 格	入力番号
21-8-25 (20) (高炉)	①
〃 (普通)	②
21-8-40 (高炉)	③
〃 (普通)	④
18-8-40 (高炉)	⑤
〃 (普通)	⑥
各 種	⑦

(9) アンカー設置工

施工歩掛コード	WB220313	施工単位	本

(注) アンカー単価 (Y-0374000) [円/本] を単価登録すること。

(10) 吸出し防止材敷設工

施工歩掛コード	WB220312	施工単位	m ²

(注) 1. 吸出し防止材単価 (Y-1006000) [円/m²] を単価登録すること。

2. 本コードは、材料ロスを含む。

(11) 型枠工補助 (ラフテレーンクレーン運転)

施工歩掛コード	WB220400	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

①－４ 法面施肥工

1. 適用範囲

本資料は、道路法面における法面施肥作業で1㎡当りの吹付肥料が90～120gのもので、法勾配1割以上、平均法長50m以下に適用する。

2. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
種 子 吹 付 機	車載式(種子専用) タンク容量2.5 m ³ 搭載トラック3t 車	台	1	
ト ラ ッ ク	普通型 4～4.5t 積	〃	1	吹付機搭載用

3. 施工歩掛

法面施肥工の歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 法面施肥工歩掛 (1,000 m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	
			平均法長 20m 以下	平均法長 20m を超える
土 木 一 般 世 話 役		人	0.14	0.16
普 通 作 業 員		〃	0.28	0.32
種 子 吹 付 機 運 転	車載式(種子専用) タンク容量2.5 m ³ 搭載トラック3t 車	h	1.2	1.5
ト ラ ッ ク 運 転	普通型 4～4.5t 積	〃	1.2	1.5
諸 雑 費 率		%	2	

- (注) 1. 諸雑費は、給水用ポンプの損料等の費用であり労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. 1日当り作業量は、平均法長20m以下の場合、5,600m²/日、平均法長20mを超える場合、4,500m²/日を標準とする。

4. 単 価 表

(1) 法面施肥工 1,000 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB220510
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 3.1
普 通 作 業 員		//		//
肥 料		kg		
種 子 吹 付 機 運 転	車載式(種子専用) タンク容量2.5 m ³ 搭載トラック3t 車	h		表 3.1 機械損料
ト ラ ッ ク 運 転	普通型 4～4.5t 積	//		表 3.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	表 3.1
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
種 子 吹 付 機	車載式(種子専用) タンク容量2.5 m ³ 搭載トラック3t 車	機-13	
ト ラ ッ ク	普通型 4～4.5t 積	機-6	

5. 施工単価入力基準表

(1) 法面施肥工

施工歩掛コード	WB220510	施工単位	m ²
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	施工区分 ①平均法長 20m 以下 ②平均法長 20m を超える	肥料の使用量 (kg/1,000m ²) (実数入力)	

(注) 肥料単価 (Y-1512000) [円/kg] を単価登録すること。

①－5 現場吹付法枠工

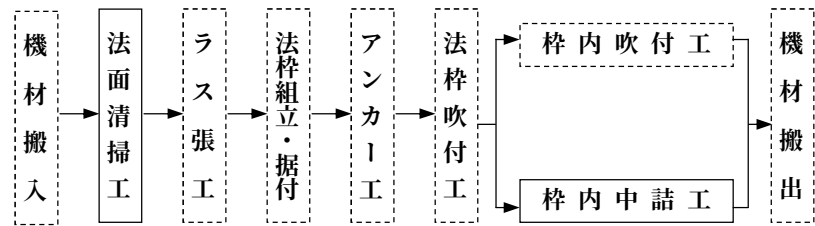
1. 適用範囲

本資料は、命綱を用いて自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を地山等に設置し、そのプレハブ部材内にモルタル又はコンクリート類を吹付けて法枠構造を作る工法における法面清掃工、枠内中詰工のみ適用する。

なお、ラス張工、法枠組立・据付工、アンカー工、法枠吹付工、枠内吹付工を行う場合の現場吹付法枠工については適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2－1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 50t吊	台	1	植生土のう

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
2. ラフテレーンクレーンの規格は、上表を標準とするが、現場条件、調達条件等により、これにより難しい場合は別途考慮する。

4. 施 工 歩 掛

4-1 法面清掃工

法面清掃工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 法面清掃工歩掛 (1日当り)

名 称		単位	数量
日 当 り 施 工 量	法 面 清 掃 面 積 (A)	m ²	219
編 成 人 員	土 木 一 般 世 話 役	人	1
	法 面 工	//	3
	普 通 作 業 員	//	1
諸 雑 費 率		%	15

- (注) 1. 諸雑費は、空気圧縮機、命綱等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. 法面残土処理(積込み、運搬)が生じた場合は、別途考慮する。
 3. 法面清掃は、全施工面積を対象とし、法面整形後の場合でも法面清掃は計上する。

4-2 枠内中詰工

(1) 枠内中詰工(植生土のう)歩掛

枠内中詰工(植生土のう)の歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 枠内中詰工(植生土のう)歩掛 (1日当り)

名 称		単位	数量
日 当 り 施 工 量	設 置 数 (N)	袋	641
編 成 人 員	土 木 一 般 世 話 役	人	1
	法 面 工	//	6
	普 通 作 業 員	//	2
使 用 機 械	ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	台	1
諸 雑 費 率		%	0.1

- (注) 1. 諸雑費は、命綱等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 2. 植生土のう製作及び植生土のう以外については、「第Ⅱ編第2章①-3コンクリート法枠工」により別途計上する。

4-3 法枠組立・据付工、アンカー工、法枠吹付工、枠内吹付工を行う場合の現場吹付法枠工

法枠組立・据付工、アンカー工、法枠吹付工、枠内吹付工を行う場合の現場吹付法枠工は、「第Ⅵ編第2章市場単価⑥-2吹付枠工」により別途計上する。

4-4 ラス張工

ラス張が必要な場合は、法面清掃の有無にかかわらず「第Ⅵ編第2章市場単価⑥-2吹付枠工」により別途計上する。

5. 単 価 表

(1) 法面清掃100m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB220610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/A	表4.1
法 面 工		〃	3×100/A	〃
普 通 作 業 員		〃	1×100/A	〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) A：日当り施工量 (m²/日)

(2) 枠内中詰 (植生土のう) 1,000袋当り単価表

		施工歩掛コード		WB220620
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×1,000/N	表4.2
法 面 工		〃	6×1,000/N	〃
普 通 作 業 員		〃	2×1,000/N	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 50t吊	日	1×1,000/N	表4.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.2
計				

(注) N：日当り施工量 (袋/日)

6. 施工単価入力基準表

(1) 法面清掃工

施工歩掛コード	WB220610	施工単位	m ²

(2) 枠内中詰工 (植生土のう)

施工歩掛コード	WB220620	施工単位	袋
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン賃料補正		
	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 植生土のうの材料及び製作費は別途計上する。

2. ラフテレーンクレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。

3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及びラフテレーンクレーンの排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。

4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

①－6 吹付法面とりこわし工

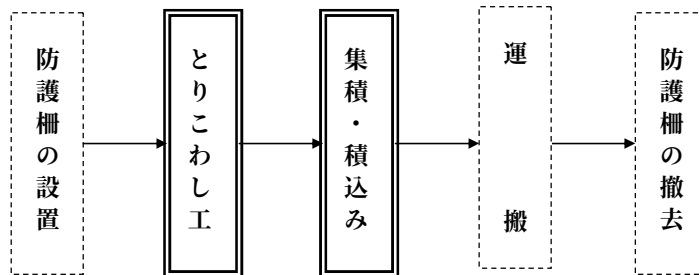
1. 適用範囲

本資料は、モルタルの吹付法面とりこわし工のうち、「仮設ロープを用いたピックハンマによる人力とりこわし作業」と「機械によるとりこわし作業（高さ5mまで）」に適用する。

ただし、モルタル厚は5～15cmとする。

2. 施工概要

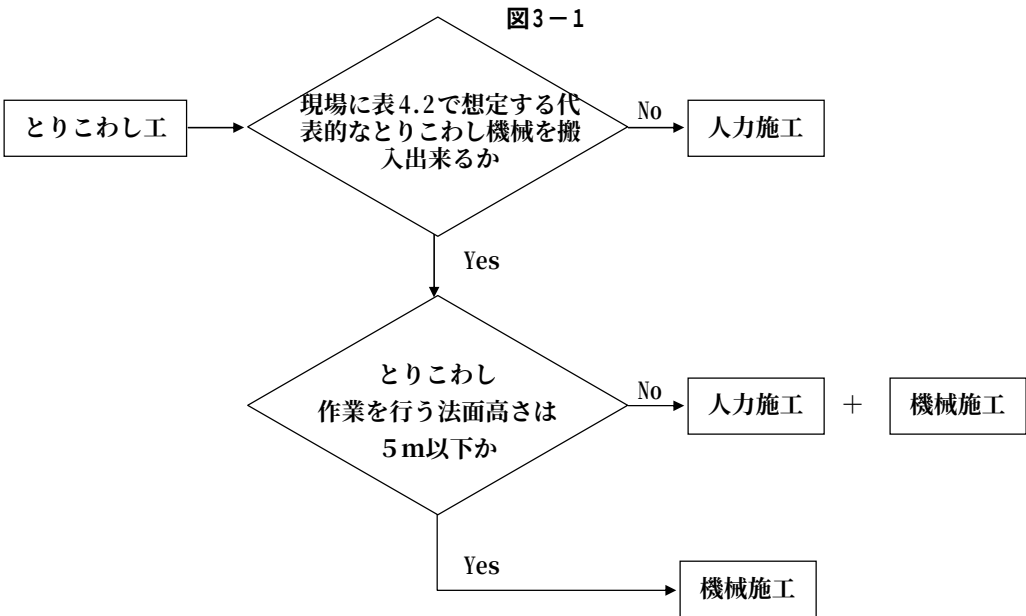
(1) 施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 運搬は「第Ⅱ編第2章㉔搬運」による。
 3. 防護柵の設置・撤去は「第Ⅱ編第5章⑩－1切土（発破）防護柵工」による。

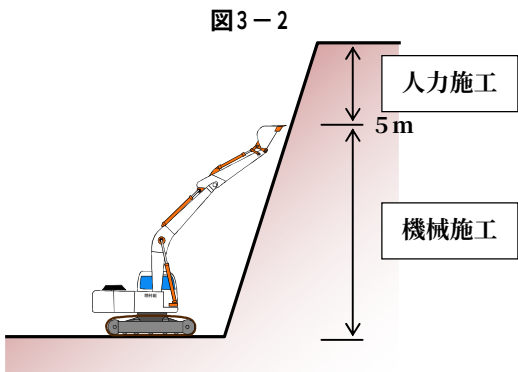
3. 工 法 の 選 定

(1) とりこわし工法選定は、図3-1による。



(2) 施工形態

「人力施工+機械施工」の場合の施工形態は、図3-2による。



4. 施工パッケージ

4-1 吹付法面とりこわし

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 吹付法面取壊し 積算条件区分一覧
(積算単位：m2)

集積・積込みの有無	工法区分
有り	人力施工
	機械施工
無し	人力施工
	機械施工

- (注) 1. 上表は、吹付法面のとりこわし、集積・積込み、ラス等の撤去の他、空気圧縮機賃料、ピックハンマ賃料、チゼルの損耗費、仮設ロープ費、エアホースの費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. モルタル殻を径 30cm 以上 50cm 以下程度に破碎する小割り作業を含む。
3. 殻運搬、殻処分は含まない。
4. 施工数量は、構造物をとりこわす対象面積(m2)とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.2 吹付法面取壊し 代表機労材規格一覧

集積積込の有無	工法区分	項目		代表機労材規格	備考
有り	人力施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.5m ³ （平積 0.4m ³ ）	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	運転手（特殊）	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
	機械施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.5m ³ （平積 0.4m ³ ）	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
無し	人力施工	機械	K1	—	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	法面工	
			R2	普通作業員	
			R3	土木一般世話役	
			R4	—	
		材料	Z1	—	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	
	機械施工	機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.5m ³ （平積 0.4m ³ ）	
			K2	—	
			K3	—	
		労務	R1	運転手（特殊）	
			R2	土木一般世話役	
			R3	—	
			R4	—	
		材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
			Z2	—	
			Z3	—	
			Z4	—	
		市場単価	S	—	

5. 施工単価入力基準表

(1) 吹付法面取壊し

パッケージコード	CB220710	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	集積積込の有無 ①有り ②無し	工法区分 ①人力施工 ②機械施工	

(注) 1. 施工数量は、構造物をとりこわす対象面積(m2)で入力すること。

①ー7 プレキャストコンクリート板設置工

1. 適用範囲

本資料は、グラウンドアンカーとプレキャストコンクリート板を緊結することにより、斜面等の安定化を図る工法に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 プレキャストコンクリート板

(1) プレキャストコンクリート板が、クロスタイプ、セミスクエアタイプ及びスクエアタイプの場合

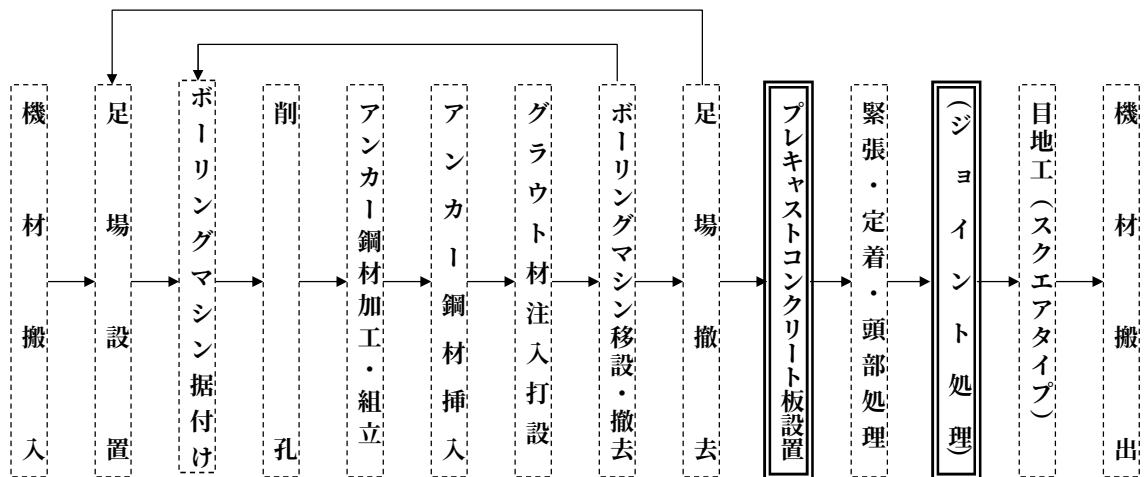
1-1-2 ジョイント処理

(1) プレキャストコンクリート板が、クロスタイプ及びセミスクエアタイプの場合

(2) ジョイント1箇所当りのモルタル使用数量が0.05m³以下の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. ボーリングマシンをロータリーパーカッション式ボーリングマシン・クローラ式とするときは、足場設置・撤去及びボーリングマシン据付け・移設・撤去は対象外となる。
 3. ジョイント処理は必要な場合計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 削孔工

「第Ⅱ編第2章⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式）」の削孔（アンカー）による。

3-2 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）

「第Ⅱ編第2章⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式）」のアンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）による。

3-3 グラウト注入打設工

「第Ⅱ編第2章⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式）」のグラウト注入(アンカー)による。

3-4 プレキャストコンクリート板

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 プレキャストコンクリート板 積算条件区分一覧

(積算単位：枚)

フレームタイプ	1列当り平均据付枚数
クロスタイプ	20枚未満
	20枚以上 30枚未満
	30枚以上
セミスクエアタイプ・ スクエアタイプ	20枚未満
	20枚以上 30枚未満
	30枚以上

(注) 1. 上表は、プレキャストコンクリート板の設置の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、プレキャストコンクリート板(材料費)は含まない。

2. プレキャストコンクリート板の材料費は別途計上する。

3. 1列当り平均据付枚数は、次式により求める。

$$1 \text{ 列当り平均据付枚数} = \text{総据付枚数} \div \text{施工列数}$$

4. 1列当り平均据付枚数は、1工事単位とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 プレキャストコンクリート板 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	ブロック工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 プレキャストコンクリート板 (材料費)

(1) 条件区分

プレキャストコンクリート板 (材料費) における積算条件区分はない。

積算単位は、枚とする。

3-6 裏込工

斜面の不陸による斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して裏込工を施工する場合は、別途計上する。

3-7 ジョイント処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 ジョイント処理 積算条件区分一覧

(積算単位：箇所)

モルタル規格	モルタル使用量 (m ³ /箇所)
1:3 モルタル (普通)	0.016m ³ 以下
	0.016m ³ を超え 0.032m ³ 以下
	0.032m ³ を超え 0.050m ³ 以下
1:3 モルタル (高炉 B)	0.016m ³ 以下
	0.016m ³ を超え 0.032m ³ 以下
	0.032m ³ を超え 0.050m ³ 以下
モルタル不要	—

- (注) 1. 上表は、プレキャストコンクリート板(クロスタイプ及びセミスクエアタイプ)の連結部のモルタル処理を含むジョイント処理の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、ジョイント金物(材料費)は含まない。
2. ジョイント金物の材料費は別途計上する。
3. モルタルの配合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」を参照のこと。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 ジョイント処理 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	セメント 高炉 B 25kg 袋入	モルタル不要を除く
	Z2	砂 細目 (洗い)	モルタル不要を除く
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-8 ジョイント金物（材料費）

（1）条件区分

ジョイント金物（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、組とする。

（注）ジョイント金物はジョイント金物の他、連結ボルト等ジョイント1箇所当りに必要な金具類を含む。

3-9 目地工

スクエアタイプにおけるジョイント処理及び目地工は、別途計上する。

3-10 ボーリングマシン移設工

「第Ⅱ編第2章⑬アンカー工（ロータリーパーカッション式）」のボーリングマシン移設（アンカー）による。

3-11 足場工

足場が必要な場合は、別途計上する。

4. 施工単価入力基準表

(1) プレキャストコンクリート板

パッケージコード	CB220810	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	フレームタイプ	1列当り平均据付枚数	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①クロスタイプ ②セミスクエアタイプ・ スクエアタイプ	①20枚未満 ②20枚以上30枚未満 ③30枚以上	①標準 ③標準以外（実数入力）

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
 2. 裏込工が必要な場合は、別途計上すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）、低騒音型機種についても適用出来る。

(2) プレキャストコンクリート板（材料費）

パッケージコード	CB220811	施工単位	枚

(注) プレキャストコンクリート板単価（Y-0381000）〔円／枚〕を単価登録すること。

(3) ジョイント処理

パッケージコード	CB220820	施工単位	箇所
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	モルタル規格	モルタル使用量 (m3/箇所)	
	(表4.1)	(表4.2)	

- (注) 1. スクエアタイプにおけるジョイント処理工、目地工は別途計上すること。
 2. J 1 条件で③を入力した場合、J 2 条件に入力の必要はない。

表 4.1 モルタル規格

混合比	セメントの種類	入力番号
1:3	普 通	①
1:3	高炉B	②
モルタル不要		③

表 4.2 モルタル使用量 (m3／箇所)

モルタル使用量	入力番号
0.016m3以下	①
0.016m3を超え0.032m3以下	②
0.032m3を超え0.050m3以下	③

(4) ジョイント金物（材料費）

パッケージコード	CB220821	施工単位	組

(注) ジョイント金物等単価（Y-0142000）〔円／組〕には、ジョイント金物、連結ボルト等ジョイント1箇所当りに必要な金具類1組当りの単価を登録すること。

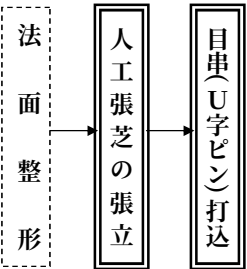
①－８ 人工張芝工

1. 適用範囲

本資料は、人工張芝（ネット又はワラ付張芝）を法面に張る場合に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



（注） 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 目串の有無に関係なく適用出来る。

3. 施工パッケージ

3－1 人工張芝

（1）条件区分

人工張芝における積算条件区分はない。

積算単位は、m2 とする。

（注） 1. 人工張芝の張付け等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 法面整形は含まない。

（2）代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 人工張芝 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	張芝 幅 100cm ワラ付	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

（1）人工張芝

パッケージコード	CB220910	施工単位	m2

（注）芝単価（Y-1503000）〔(円／m2)〕を単価登録すること。

② 基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工

1. 適用範囲

本資料は、無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工及び基礎・裏込栗石工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 基礎砕石

- (1) 厚さが 30cm 以下の基礎砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-2 裏込砕石

- (1) 裏込砕石の敷均し及び締固め作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-3 基礎栗石

- (1) 厚さが 30cm 以下の基礎栗石の敷均し及び敷並べ作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-4 裏込栗石

- (1) 裏込栗石のかき込み及び築立て作業の場合
- (2) 再生資材を用いる場合

1-1-5 採取小割

- (1) 基礎・裏込砕石及び基礎・裏込栗石において現場発生材を使用する場合

1-2 適用出来ない範囲

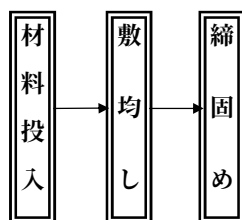
1-2-1 基礎砕石

- (1) 「第Ⅱ編第2章共通工⑤-1 場所打擁壁工(1), ④-1 函渠工(1), 第Ⅳ編第4章共同溝工①共同溝工(1)(2), 第7章橋梁工⑩-1 橋台・橋脚工(1)」の場合

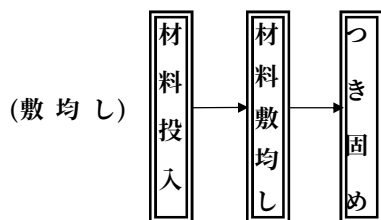
2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。

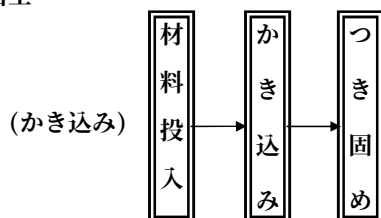
基礎・裏込砕石工



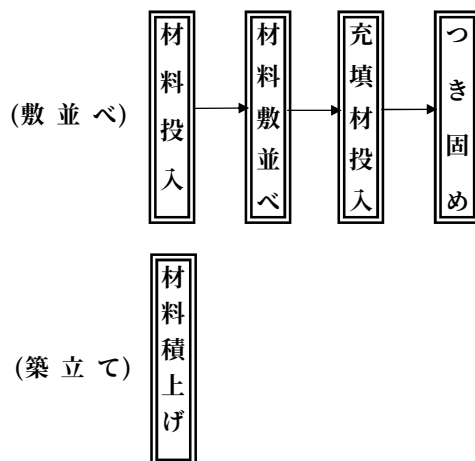
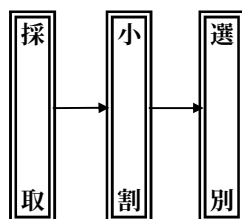
基礎栗石工



裏込栗石工



採取小割



(注) 1. 本施工パッケージは、上記フローの全ての作業に対応している。

2. 「敷均し」とは、掘削整形された床に栗石を機械投入し、所定の厚さに敷均し、つき固め仕上げる工法をいう。

3. 「敷並べ」とは、掘削整形された床に栗石を機械投入し、人力により敷並べ、間隙充填材料を入れ、つき固め仕上げる工法をいう。

4. 「かき込み」とは、構造物と切土又は盛土との間に栗石を機械投入し、つき固め仕上げる工法をいう。

5. 「築立て」とは、構造物の裏側に栗石を積上げ盛土を行う工法又は切土面に裏型枠代りとして栗石を積上げる工法をいう。

3. 施工パッケージ

3-1 基礎碎石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 基礎碎石 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

砕石の厚さ	砕石の種類
7.5cm 以下	(表 3.2)
7.5cm を超え 12.5cm 以下	
12.5cm を超え 17.5cm 以下	
17.5cm を超え 20.0cm 以下	
20.0cm を超え 22.5cm 以下	
22.5cm を超え 27.5cm 以下	
27.5cm を超え 30.0cm 以下	

- (注) 1. 上表は基礎砕石工における材料の投入、敷均し、締固め及び 20m程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 砕石の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.20）
 3. 基礎砕石の敷均し厚は 30cm を上限とする。
 4. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。

表3.2 砕石の種類

積算条件	区分
砕石の種類	クラッシャラン 40～0
	クラッシャラン 30～0
	クラッシャラン 20～0
	高炉スラグ CS-40
	高炉スラグ MS-25
	高炉スラグ HMS-25
	クラッシャラン 80～0
	再生クラッシャラン 40～0
	再生クラッシャラン 80～0
	砕石（各種）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 基礎碎石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	再生クラッシャラン RC-40	
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 裏込碎石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 裏込碎石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

碎石の種類	
クラッシャラン	40～0
クラッシャラン	30～0
クラッシャラン	20～0
高炉スラグ	CS-40
高炉スラグ	MS-25
高炉スラグ	HMS-25
クラッシャラン	80～0
再生クラッシャラン	40～0
再生クラッシャラン	80～0
碎石(各種)	

- (注) 1. 上表は裏込碎石工における材料の投入、敷均し、締固めおよび20m程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 碎石の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.20)
 3. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 裏込碎石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	運転手(特殊)	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	再生クラッシャラン RC-40	
	Z 2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 基礎栗石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

3.6 基礎栗石 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

栗 石 の 厚 さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙充填材料
17.5cm 以下	(表 3.7)	敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
17.5cm を超え 22.5cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
22.5cm を超え 27.5cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)
27.5cm を超え 30.0cm 以下		敷均し	—
		敷並べ	(表 3.8)

- (注) 1. 上表は基礎栗石工における材料の投入、敷均し、敷並べ、充填材の投入、つき固めおよび 20m 程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 栗石の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.14）
3. 基礎栗石の敷均し及び敷並べ厚は、30cm を上限とする。
4. 護岸工の裏込栗石工において、護岸平場は本施工パッケージを適用する。
5. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。
6. 間隙充填材は作業区分が「敷並べ」にのみ適用する。
7. 間隙充填材の標準使用量は、栗石使用量の 20% とする。

表3.7 栗石の種類

積算条件	区分
栗石の種類	栗 石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (150 ～ 200 mm)
	栗 石 (各種)

表3.8 間隙充填材料の種類

積算条件	区分
敷並べ間隙充填材料	クラッシャラン 40～0
	クラッシャラン 30～0
	クラッシャラン 20～0
	再生クラッシャラン 40～0
	碎石（各種）
	栗石（各種）
	不要

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 基礎栗石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	割栗石 50～150mm	
	Z 2	再生クラッシュラン RC-40	敷並べ間隙充填材料がある場合
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 裏込栗石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 裏込栗石 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

作業区分	栗石の種類
かき込み	栗石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (150 ～ 200 mm)
	栗石 (各種)
築立て	栗石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (50 ～ 150 mm)
	割栗石 (150 ～ 200 mm)
	栗石 (各種)

- (注) 1. 上表は裏込栗石工における材料の投入、かき込み、つき固め、積上げおよび 20m 程度の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 栗石の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.14）
 3. 現場発生材を使用する場合は、「3-5 採取小割」を別途計上する。
 4. 護岸工の裏込栗石工において、護岸平場は、「3-3 基礎栗石」を適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 裏込栗石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	・賃料 ・作業区分がかき込みの場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	作業区分がかき込みの場合
	R 3	運転手(特殊)	作業区分がかき込みの場合
	R 4	土木一般世話役	作業区分がかき込みの場合
材料	Z 1	割栗石 50～150mm	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	作業区分がかき込みの場合
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 採取小割

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 採取小割 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

採取小割区分		
軟 岩	採 取	
軟 岩	小 割	
軟 岩	採 取+小 割	
硬 岩	採 取	
硬 岩	小 割	
硬 岩	採 取+小 割	

(注) 上表は、現場発生材を使用する場合の採取、小割等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 採取小割 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 基礎砕石

パッケージコード	CB221110	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	砕石の厚さ	砕石の種類	
	(表 4.3)	(表 4.1)	

- (注) 1. 本コードは、砕石の材料ロスを含む。
 2. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

(2) 裏込砕石

パッケージコード	CB221120	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	砕石の種類		
	(表 4.1)		

- (注) 1. 本コードは、砕石の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 2. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

(3) 基礎栗石

パッケージコード	CB221130	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	栗石の厚さ	栗石の種類	作業区分	敷並べ間隙 充填材料
			①敷均し	
	(表 4.4)	(表 4.2)	②敷並べ	(表 4.6)

- (注) 1. 本コードは、栗石の材料ロスを含む。
 2. J 3条件で①を選択した場合は、J 4条件は入力する必要はない。なお、使用量は栗石使用量の 20%を基準とする。
 3. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

(4) 裏込栗石

パッケージコード	CB221140	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	作業区分	栗石の種類	
	①かき込み ②築立て	(表 4.2)	

- (注) 1. 本コードは、栗石の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 2. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

表 4. 1 碎石の種類

種 類	入力番号
クラッシャラン 40 ～ 0	①
〃 30 ～ 0	②
〃 20 ～ 0	③
高炉スラグ CS— 40	④
〃 MS— 25	⑤
〃 HMS— 25	⑥
クラッシャラン 80 ～ 0	⑦
再生クラッシャラン 40 ～ 0	⑧
〃 80 ～ 0	⑨
Y-0241000 砕 石 (各種)	⑩

(注) Y-0241000 は、m3 当り単価を登録すること。

表 4. 2 栗石の種類

種 類	入力番号
栗 石 (50 ～ 150 mm)	①
割栗石 (50 ～ 150 mm)	②
〃 (150 ～ 200 mm)	③
Y-0249000 栗石 (各種)	④

(注) Y-0249000 は、m3 当り単価を登録すること。

表 4. 3 基礎碎石の厚さ

砕 石 の 厚 さ	入力番号
7.5cm 以下	①
7.5cm を超え 12.5cm 以下	②
12.5cm を超え 17.5cm 以下	③
17.5cm を超え 20.0cm 以下	④
20.0cm を超え 22.5cm 以下	⑤
22.5cm を超え 27.5cm 以下	⑥
27.5cm を超え 30.0cm 以下	⑦

表4.4 基礎栗石の厚さ

栗 石 の 厚 さ	入力番号
17.5cm 以下	①
17.5cm を超え 22.5cm 以下	②
22.5cm を超え 27.5cm 以下	③
27.5cm を超え 30.0cm 以下	④

(5) 採取小割

パッケージコード	CB221150	施工単位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	採取小割区分		
	(表 4.5)		

表4.5 採取小割区分

分	類	採 取	小 割	採取+小割
軟	岩	①	②	③
硬	岩	④	⑤	⑥

表4.6 栗石敷並べ間隙充填材料

種	類	入力番号
クラッシャラン	40 ～ 0	①
〃	30 ～ 0	②
〃	20 ～ 0	③
再生クラッシャラン	40 ～ 0	④
Y-0241000	碎石（各種）	⑤
Y-0249000	栗石（各種）	⑥
不要		⑦

(注) Y-0241000, Y-0249000 は, m3 当り単価を登録すること。

③ コンクリートブロック積(張)工

③-1 コンクリートブロック積(張)工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリートブロック積(張)に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 コンクリートブロック積

(1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 150kg/個以上 450kg/個以下)の場合

1-1-2 大型ブロック積

(1) 大型ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 4,600kg/個以下, 控え長 500mm 以上)の場合

1-1-3 間知ブロック張

(1) 間知ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量 770 kg/個以下)の場合

1-1-4 平ブロック張

(1) 平ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量 770kg/個以下)の場合

1-1-5 連節ブロック張

(1) 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量 770kg/個以下)の場合

(2) 連結方式が鉄筋又は鋼線による場合

1-1-6 緑化ブロック積

(1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 980 kg/個以下)の場合

1-1-7 胴込・裏込コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込コンクリート打設の場合

1-1-8 胴込・裏込材(碎石)

(1) コンクリートブロック積(張)工における胴込・裏込材の投入転圧の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合

1-1-9 遮水シート張

(1) 間知ブロック, 平ブロック, 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量 770 kg/個以下)における遮水シートの設置の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合

1-1-10 吸出し防止材(全面)設置

(1) 間知ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個以上 2,600 kg/個以下), 大型ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 4,600kg/個以下, 控え長 500mm 以上)及び平ブロック, 連節ブロックの張工(勾配1割以上, ブロック質量 770 kg/個以下)における吸出し防止材の設置の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合

1-1-11 植樹

(1) 緑化ブロックの積工(勾配1割未満, ブロック質量 980 kg/個以下)の植栽の場合

1-1-12 現場打基礎コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)及び石積(張)における現場打基礎の場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合

1-1-13 天端コンクリート

(1) コンクリートブロック積(張)工及び石積(張)工における天端コンクリートの場合

(2) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合

1-1-14 プレキャスト基礎ブロック

(1) コンクリートブロック積(張)工及び石積(張)工におけるプレキャスト基礎ブロック(製品長 2,500mm 以下, ブロック質量 1,330kg 以下/個未満)の場合

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 コンクリートブロック積

- (1) 市場単価方式による間知ブロック積工(勾配1割未満, ブロック質量 150 kg/個未満)の場合
- (2) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-2 大型ブロック積

- (1) 作業半径が 12m を超える場合又は吊上げ高さが 30m を超える場合

1-2-3 間知ブロック張

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-4 平ブロック張

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-5 連節ブロック張

- (1) 連結金具を使用する場合
- (2) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-6 緑化ブロック積

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-7 胴込・裏込コンクリート

- (1) 石積(張)における胴込・裏込コンクリート打設の場合
- (2) 大型ブロック以外の胴込・裏込コンクリート打設は, 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合, 大型ブロックの込・裏込コンクリート打設は, 作業半径が 12m を超える場合又は吊上げ高さが 30m を超える場合

1-2-8 胴込・裏込材(碎石)

- (1) 石積(張)における碎石等の胴込・裏込材設置の場合
- (2) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-9 現場打基礎コンクリート

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-10 天端コンクリート

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

1-2-11 プレキャスト基礎ブロック

- (1) 作業半径が 8.5m を超える場合又は吊上げ高さが 5.8m を超える場合

2. 施 工 概 要

施工フローは, 下記を標準とする。

2-1 コンクリートブロック積工(コンクリートブロック積, 大型ブロック積)

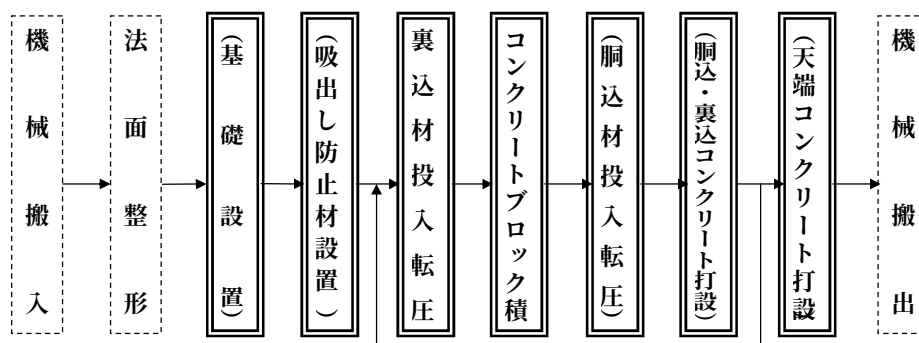


図2-1 施工フロー(コンクリートブロック積工)

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは, 二重実線部分のみである。
- 2. () 書きは必要な場合計上する。
- 3. 間知ブロックの場合, 水抜きパイプ設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。
- 4. 基礎設置は, 現場打ち基礎又はプレキャスト基礎にかかわらず適用出来る。

2-2 コンクリートブロック張工（間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張）

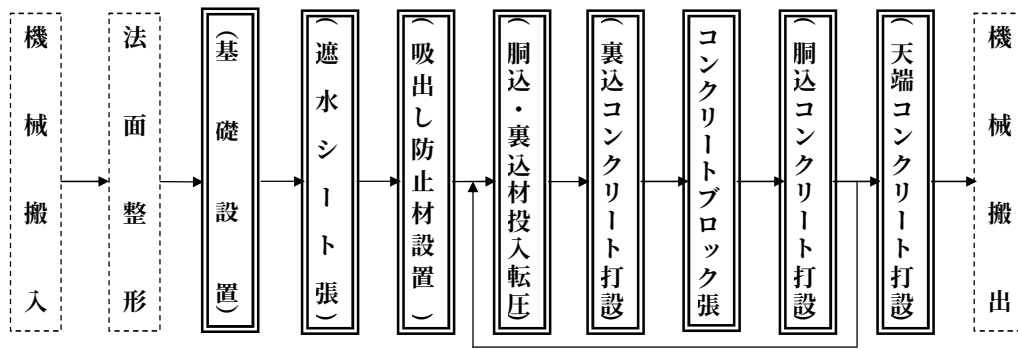


図2-2 施工フロー（コンクリートブロック張工）

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. () 書きは必要な場合計上する。
 3. 間知ブロック張は、吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。
 4. 基礎設置は、現場打ち基礎又はプレキャスト基礎にかかわらず適用出来る。

2-3 緑化ブロック積工

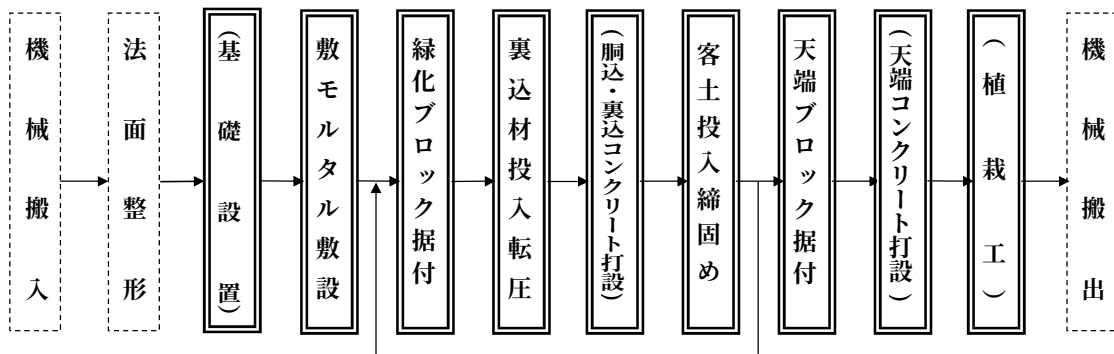


図2-3 施工フロー（緑化ブロック積工）

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. () 書きは必要な場合計上する。
 3. 客土投入締固めの有無にかかわらず適用出来る。
 4. 基礎設置は、現場打ち基礎又はプレキャスト基礎にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 コンクリートブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリートブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

鉄筋規格	鉄筋 10m ² 当り使用量
(表 3.2)	0.1t 以下
	0.1t を超え 0.2t 以下

(注) 1. 上表は、間知ブロック(勾配 1 割未満・ブロック質量 150kg/個以上 450kg/個以下)の設置、鉄筋(加工・組立)、目地材の設置、調整コンクリートの打設、現場内小運搬(50m まで)の他、水抜きパイプ(水抜き孔用吸出し防止材を含む)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 鉄筋の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.03)

3. 現場条件により足場が必要な場合は別途計上する。

4. 目地材料費は必要量を別途計上する。

5. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。

(4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照)

表3.2 鉄筋規格

積算条件	区 分
鉄筋規格	SD295A D13
	SD295A D16
	SD345 D13
	SD345 D16～25
	鉄筋コンクリート用棒鋼 各種
	不要

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 コンクリートブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1 バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K 2 —	
	K 3 —	
労務	R 1 運転手(特殊)	
	R 2 ブロック工	
	R 3 普通作業員	
	R 4 土木一般世話役	
材料	Z 1 間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z 2 鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16	鉄筋規格「不要」の場合を除く
	Z 3 軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 4 —	
市場単価	S —	

3-2 大型ブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 大型ブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

水抜きパイプの有無
有り
無し

(注) 1. 上表は、大型ブロック（勾配1割未満、ブロック質量4,600kg/個以下、控え長500mm以上）の設置、鉄筋（加工・組立）、目地材の設置、調整コンクリートの打設、現場内小運搬（50mまで）の他、水抜きパイプ（水抜き孔用吸出し防止材を含む）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 鉄筋材料費は必要量を別途計上する。

3. 現場条件により足場が必要な場合は別途計上する。

4. 目地材料費は必要量を別途計上する。

5. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。

（4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照）

表3.5 大型ブロック積 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）]25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	ブロック工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	大型ブロック 控え 500mm	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 間知ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 間知ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

間知ブロック規格	裏込材規格	裏込材 10m2 当り使用量	胴込・裏込 コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10m2 当り使用量	遮水シートの有無
150kg/個未満 控え 350(m2) 滑面タイプ	(表 3.7)	—	(表 3.9)	—	有り
					無し
150kg/個未満 各種(m2)		(表 3.8)		(表 3.10)	有り
					無し
150kg/個以上 各種(m2)	有り				
		無し			

- (注) 1. 上表は、間知ブロック（勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下）の設置、裏込材設置、胴込・裏込コンクリート打設、調整コンクリートの打設、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬（50mまで）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 裏込材、胴込・裏込コンクリート、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。標準ロス率は、裏込材、胴込・裏込コンクリート及び吸出し防止材が+0.12、遮水シートが+0.08とする。
3. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、横帯、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照)
4. 目地材は必要に応じて「第Ⅱ編第2章⑧目地・止水板設置工」により別途計上する。
5. 水抜きパイプが必要な場合には、設置手間・材料費を別途計上する。
6. 間知ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。

表3.7 裏込材規格

積算条件	区 分
裏込材規格	再生砕石 RC-40
	再生砕石 RC-80
	砕石 C-40
	砕石 C-80
	砕石各種
	不要

表3.8 裏込材 10 m² 当り使用量

積算条件	区 分
裏込材10m ² 当り使用量	1.0m ³ 以下
	1.0m ³ を超え 3.0m ³ 以下
	3.0m ³ を超え 5.0m ³ 以下
	5.0m ³ を超え 7.0m ³ 以下

表3.9 胴込・裏込コンクリート規格

積算条件	区 分
胴込・裏込 コンクリート規格	18-8-25(普通)
	18-8-40(普通)
	18-8-25(高炉)
	18-8-40(高炉)
	生コンクリート各種
	不要

表3.10 胴込・裏込コンクリート 10 m2 当り使用量

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10㎡当り使用量	0.1m3 以上 0.5m3 以下
	0.5m3 を超え 0.9m3 以下
	0.9m3 を超え 1.3m3 以下
	1.3m3 を超え 1.7m3 以下
	1.7m3 を超え 2.1m3 以下
	2.1m3 を超え 2.3m3 以下(標準(150kg 未満))
	2.3m3 を超え 2.7m3 以下(標準(150kg 以上))
	2.7m3 を超え 3.1m3 以下
	3.1m3 を超え 3.5m3 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 間知ブロック張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	運転手（特殊）	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	ブロック工	
材料	Z 1	間知ブロック 高 250×幅 400×控 350 滑面	
	Z 2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
	Z 3	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z 4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
市場単価	S	—	

3-4 平ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 平ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

ブロックの 質量	平ブロック 規格	裏込材 規格	裏込材 10m2 当り使用量	遮水シート の有無	吸出し防止 材の有無	連結金具 の有無	連結金具 10m2 当り使用量					
150kg/個 未満	平ブロック 控 180(m2)	(表 3.7)	(表 3.13)	有り	有り	有り	(表 3.14)					
						無し						
					無し	有り		有り				
						無し		無し				
				有り	有り	有り		有り				
						無し		無し				
	無し				有り	有り		有り				
						無し		有り				
				平ブロック 控 120(m2)	有り	有り		有り				
						無し		無し				
	無し				有り	有り		有り				
						無し		有り				
					平ブロック 各種(m2)	有り		有り	有り			
無し								有り				
無し	有り			有り		有り						
				無し		有り						
	150kg/個 以上			平ブロック 各種(m2)		(表 3.7)		(表 3.13)	有り	有り	有り	(表 3.14)
											無し	
無し		有り	有り									
		無し	無し									
有り		有り	有り		有り							
			無し		有り							
	無し	有り	有り	有り								
			無し	有り								

- (注) 1. 上表は、平ブロック（勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下）の設置、連結金具組立、裏込材(碎石)投入、調整コンクリートの打設、吸出し防止材、遮水・止水シート張、現場内小運搬(50mまで)の他、タンパ締固めの損料、目地モルタルを使用した場合の材料費・設置手間等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 裏込材、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。標準ロス率は、裏込材及び吸出し防止材が+0.12、遮水シートが+0.08とする。
3. 目地モルタルの有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。
4. 平ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。
5. 現場条件により足場が必要な場合は別途計上する。
6. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
- (4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照)

表3.13 裏込材 10m2 当り使用量

積算条件	区 分
裏込材10m2当り使用量	1.0m3 以下
	1.0m3 を超え 3.0m3 以下
	3.0m3 を超え 5.0m3 以下

表3.14 連結金具 10 m2 当り使用量

積算条件	区 分
連結金具10m2当り使用量	5.0 個以下
	5.0 個を超え 15.0 個以下
	15.0 個を超え 20.0 個以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.15 平ブロック張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・ クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	平ブロック 厚さ 100mm	
	Z 2	再生クラッシャラン RC-40	裏込材規格「不要」 の場合を除く
	Z 3	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有り の場合
	Z 4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート有りの 場合
市場単価	S	—	

3-5 連節ブロック張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.16 連節ブロック張 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋 (鋼線) 規格	遮水シートの有無	吸出し防止材の有無
設置	150kg/個未満	(表 3.17)	有り	有り
				無し
	150kg/個以上		無し	有り
				無し
			有り	有り
				無し
撤去	150kg/個未満	-	-	-
	150kg/個以上			-

(注) 1. 上表は、連節ブロック(勾配1割以上・ブロック質量770kg/個以下)の設置・撤去、連節鉄筋(鋼線)の加工・組立・溶接、調整コンクリートの打設、遮水シート、吸出し防止材、現場内小運搬(50mまで)の他、溶接機、止水シート(基礎、隔壁、小口止の端部継手)及び接着剤等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 作業区分の「撤去」とは、再利用を前提とした撤去を行う場合に適用する。

3. 連節鉄筋(鋼線)、遮水シート、吸出し防止材の材料ロスを含む。標準ロス率は、連節鉄筋(鋼線)が+0.03、遮水シートが+0.08、吸出し防止材が+0.12とする。

4. 連節ブロック張と遮水シート張は、同施工面積とする。

5. 現場条件により足場が必要な場合は別途計上する。

6. 設計面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。

(4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照)

表3.17 連節鉄筋(鋼線) 規格

積算条件	区 分
連節鉄筋(鋼線) 規格	亜鉛アルミメッキ鋼線 径 6mm
	亜鉛アルミメッキ鋼線 径 8mm
	SR235 径 9mm
	SR235 径 13mm
	鉄筋コンクリート用棒鋼各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.18 連節ブロック張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	ブロック工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	連節ブロック 厚さ 220mm	設置の場合
	Z 2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SR235 φ13	設置の場合
	Z 3	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シート有りの場合
	Z 4	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材有りの場合
市場単価	S	—	

3-6 緑化ブロック積

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.19 緑化ブロック積 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材 10m ² 当り 使用量	胴込・裏込 コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り使用量
150kg/個未満	(表 3. 7)	(表 3. 20)	(表 3. 9)	(表 3. 21)
150kg/個以上				(表 3. 22)

- (注) 1. 上表は、緑化ブロック（勾配1割未満・ブロック質量 980kg/個以下）の設置、裏込材（砕石）投入、調整コンクリートの打設、胴込・裏込コンクリート打設、天端ブロック、調整コンクリート、客土投入・締固め、現場内小運搬（50m まで）の他、敷モルタル・目地モルタルの材料費及び設置手間、タンバ締固めの損料及び油脂類の費用、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、緑化ブロック及び天端ブロックの材料費は含まない。
2. 裏込材、胴込・裏込コンクリート、客土材の材料ロスを含む。標準ロス率は、裏込材及び胴込・裏込コンクリートが+0.12、客土材が+0.07 とする。
3. 現場条件により足場が必要な場合は別途計上することが出来る。
4. 設置面積は調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。
(4. 参考図 4-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート参照)
5. 緑化ブロック、天端ブロックの材料費は別途計上する。

表3.20 裏込材 10m² 当り使用量

積算条件	区 分
裏込材 10m ² 当り使用量	2.0m ³ 以下
	2.0m ³ を超え 4.0m ³ 以下
	4.0m ³ を超え 6.0m ³ 以下

表3.21 胴込・裏込コンクリート 10m² 当り使用量(150kg／個未満)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り 使用量(150kg／個未満)	0.7m ³ 以下
	0.7m ³ を超え 1.7m ³ 以下
	1.7m ³ を超え 2.7m ³ 以下(標準)
	2.7m ³ を超え 3.7m ³ 以下
	3.7m ³ を超え 4.7m ³ 以下
	4.7m ³ を超え 6.0m ³ 以下

表3.22 胴込・裏込コンクリート 10m² 当り使用量(150 kg／個以上)

積算条件	区 分
胴込・裏込コンクリート 10m ² 当り 使用量(150kg／個以上)	1.0m ³ 以下
	1.0m ³ を超え 2.0m ³ 以下
	2.0m ³ を超え 3.0m ³ 以下(標準)
	3.0m ³ を超え 4.0m ³ 以下
	4.0m ³ を超え 5.0m ³ 以下
	5.0m ³ を超え 6.0m ³ 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.23 緑化ブロック積 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・ クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	運転手（特殊）	
	R 3	ブロック工	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格 「不要」の場合を除く
	Z 2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	裏込材規格「不要」の場合を除く
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 緑化ブロック（材料費）

(1) 条件区分

緑化ブロック（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

3-8 天端ブロック（材料費）

(1) 条件区分

天端ブロック（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

3-9 胴込・裏込コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.24 胴込・裏込コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位： m^3)

ブロックの種類	生コンクリート規格
間知ブロック・緑化ブロック	(表 3.9)
大型ブロック	

(注) 1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込コンクリート設置、現場内小運搬(50m まで)の他、コンクリートバケット、パイプレータ、電力に関する経費、型枠の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.12)

3. 養生が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.25 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

ブロックの種類	項目		代表機労材規格	備考
間知ブロック 緑化ブロック	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・ クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	賃料
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	特殊作業員	
		R 3	運転手（特殊）	
		R 4	—	
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」 の場合を除く
		Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	
大型ブロック	機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型（第2次基準値）] 25t 吊	賃料
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	特殊作業員	
		R 3	—	
		R 4	—	
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	胴込・裏込コンクリート規格「不要」 の場合を除く
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	

3-10 胴込・裏込材(砕石)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.26 胴込・裏込材(砕石) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

ブロックの種類	胴込・裏込材規格
間知・平・連節・緑化ブロック	(表 3.7)
大型ブロック	

(注) 1. 上表は、コンクリートブロック積(張)の胴込・裏込材設置(投入・転圧)、現場内小運搬(50m まで)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 胴込・裏込材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.12)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.27 胴込・裏込材(砕石) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	運転手(特殊)	
	R 4	—	
材料	Z 1	再生クラッシャラン RC-40	裏込材規格「不要」 の場合を除く
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-11 遮水シート張

(1) 条件区分

遮水シート張の積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- (注) 1. コンクリートブロック張における遮水シートの設置、基礎・隔壁・小口止部の遮水シートの設置の他、遮水シート（基礎・隔壁・小口止継手部）及び接着剤の費用等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 遮水シートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.08)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.28 遮水シート張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-12 吸出し防止材(全面)設置

(1) 条件区分

吸出し防止材(全面)設置の積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. コンクリートブロック積(張)の吸出し防止材(全面)の設置等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 吸出し防止材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、 $+0.12$)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.29 吸出し防止材(全面)設置 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	吸出し防止材 合繊不織布 $t=10\text{mm}$ 9.8kN/m	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-13 植樹

(1) 条件区分

植樹の積算条件区分はない。

積算単位は、本とする。

- (注) 1. 樹木の植穴掘り、植付け、埋戻し、養生、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、土壌改良に要する費用は含まない。
2. 樹高は、50cm 以下とする。
3. 新植樹木の植栽にも適用出来る。ただし、移植及び根廻し工事にかかわるものは除く。
4. 植樹割増しの有無にかかわらず適用出来る。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.30 植樹 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	造園工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	サツキツツジ 樹高 30cm	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-14 現場打基礎コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.31 現場打基礎コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

生コンクリート規格	基礎碎石の有無	養生工の種類
(表 3.32)	有り	一般養生・特殊養生(練炭)
		養生工なし
	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
		養生工なし

- (注) 1. 上表は、コンクリート、基礎材、目地板、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤、電気ドリル、電動ノコギリ、コンクリートパイプレータ、コンクリートバケット損料、コンクリート打設、養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.06)
3. 基礎碎石の幅は控長 35cm 以下、裏込めコンクリート厚さ 150mm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 目地の有無、材料の種類にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。
5. 特殊養生(ジェットヒータ養生)の場合は、養生工の種類を「養生なし」として、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上すること。
6. 均しコンクリートは別途計上する。

表3.32 生コンクリート規格

積算条件	区 分
生コンクリート規格	18-8-25(普通)
	18-8-40(普通)
	18-8-25(高炉)
	18-8-40(高炉)
	生コンクリート各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.33 現場打基礎コンクリート 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3) 吊能力 2.9t	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	賃料
	K 3	—	
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-15 天端コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.34 天端コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

生コンクリート規格	養生工の種類
(表 3.32)	一般養生
	特殊養生(練炭)
	養生工なし

- (注) 1. 上表は、現場打ちによる天端コンクリート設置におけるコンクリート、型枠(製作・設置・撤去)、雑機械器具(電気ドリル、電気ノコギリ、コンクリート打設機器)の損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 生コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.06)
3. 特殊養生(ジェットヒータ養生)の場合は、養生工の種類を「養生なし」として、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上すること。
4. 目地材は必要に応じて「第Ⅱ編第2章⑱目地・止水板設置工」により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.35 天端コンクリート 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-16 プレキャスト基礎ブロック

(1) 条件区分

プレキャスト基礎ブロックの積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

- (注) 1. プレキャスト基礎ブロックにおけるブロックの設置、連結等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、プレキャスト基礎ブロック（材料費）は含まない。
2. 中詰コンクリートを打設する場合は、材料費・打設手間を別途計上する。
3. 基礎材は必要に応じて、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」により別途計上する。
4. 目地材は必要に応じて、「第Ⅱ編第2章⑧目地・止水板設置工」により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.36 プレキャスト基礎ブロック 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	運転手（特殊）	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-17 プレキャスト基礎ブロック（材料費）

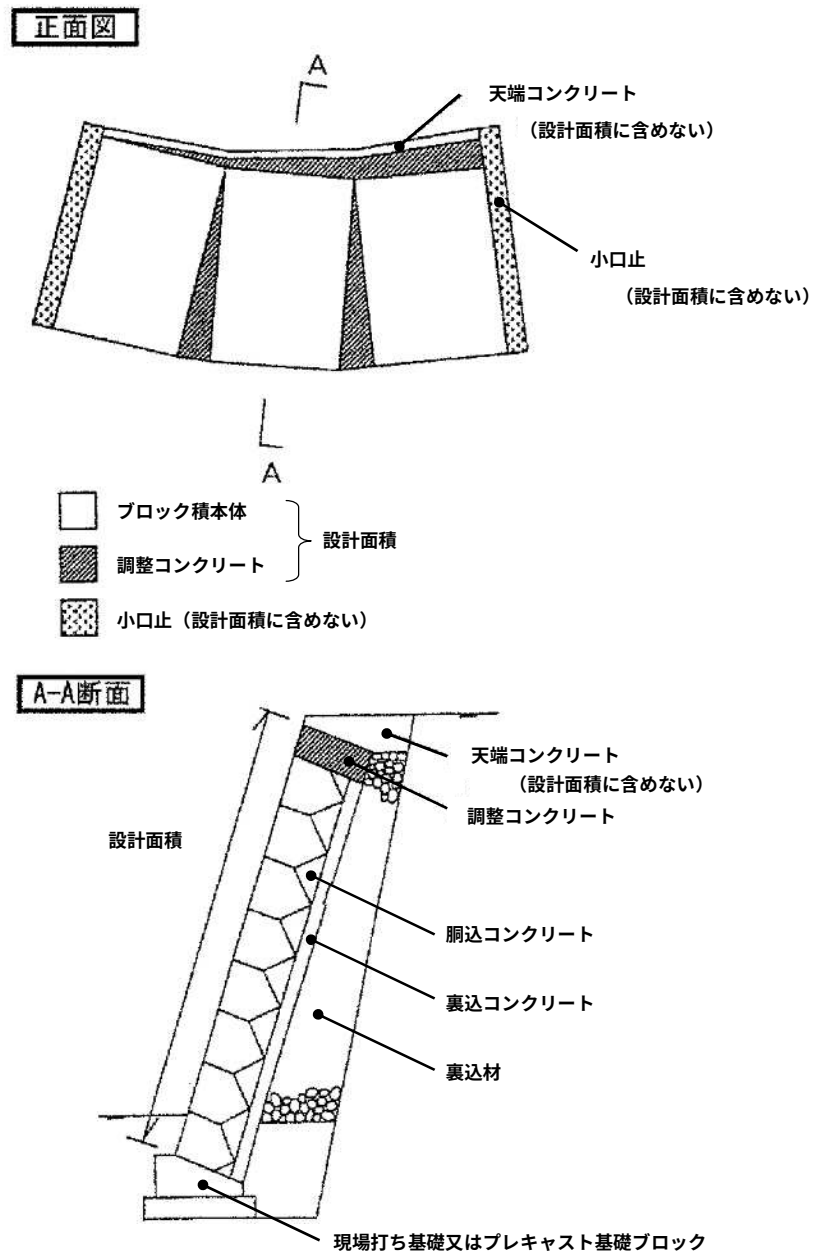
(1) 条件区分

プレキャスト基礎ブロック（材料費）の積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

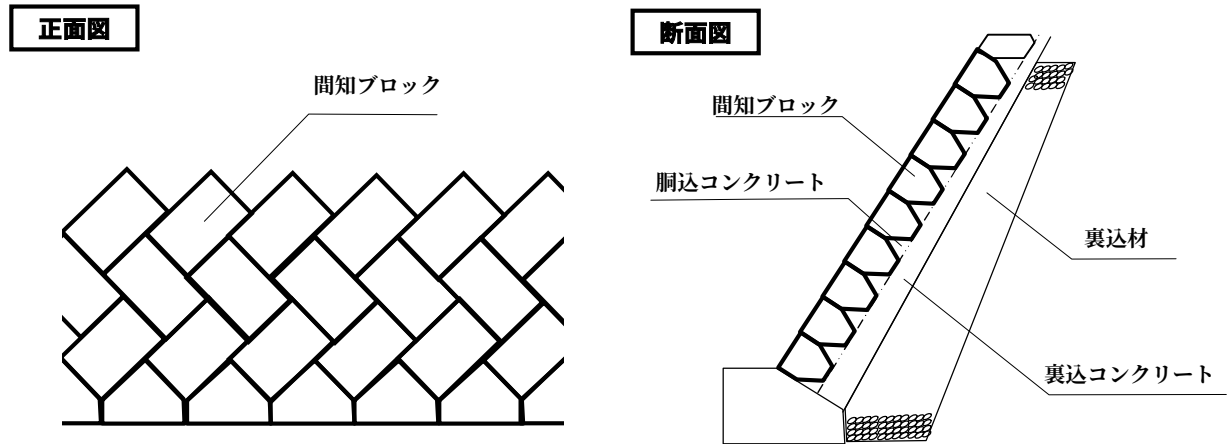
4. 参考図

1-1 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート

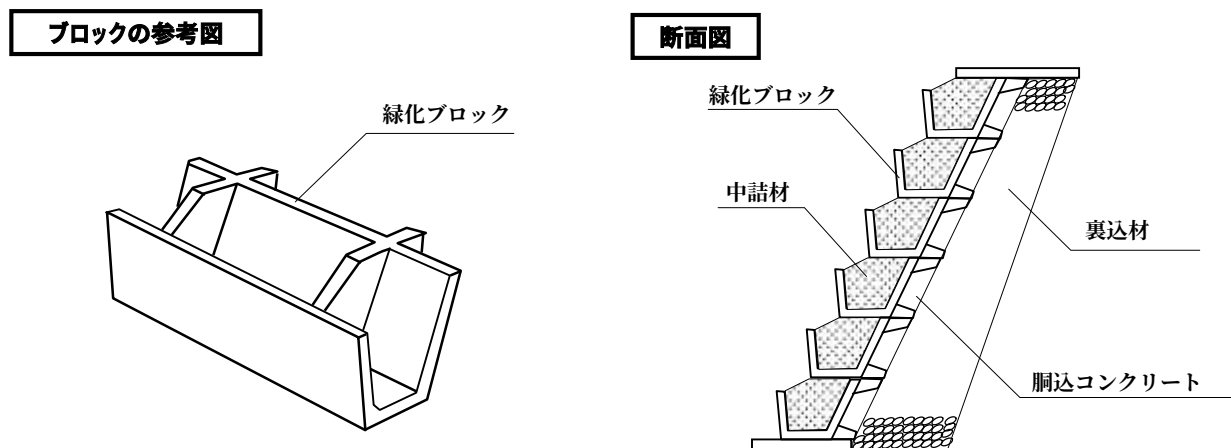


4-2 各種ブロック参考図

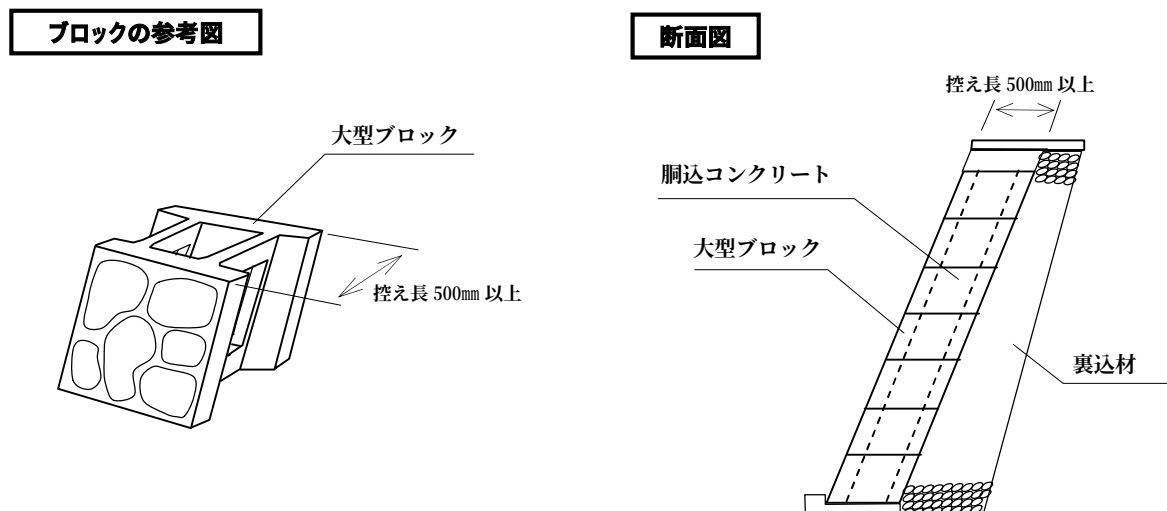
(1) コンクリートブロック積(間知ブロック積)



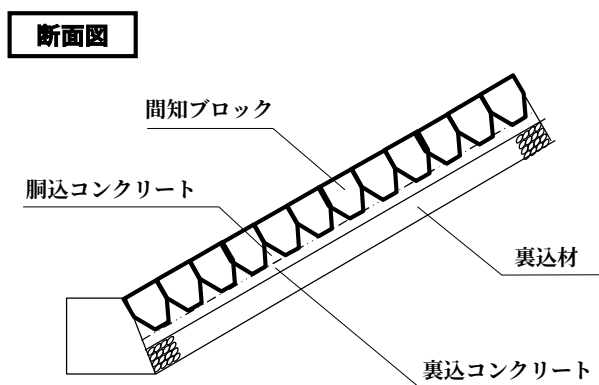
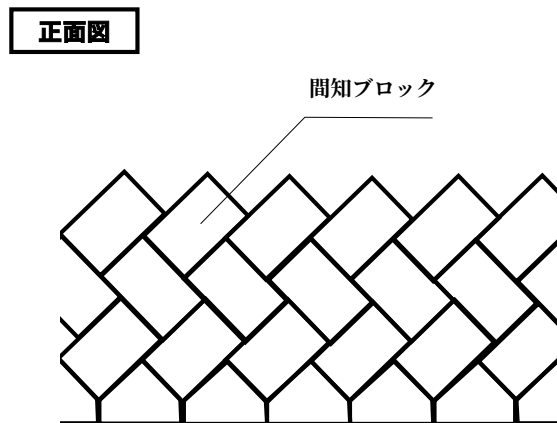
(2) 緑化ブロック積



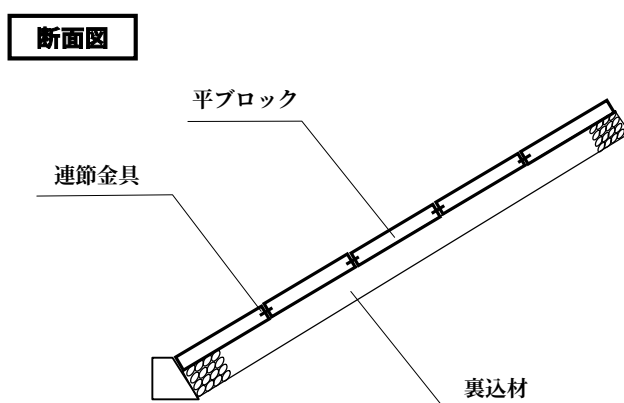
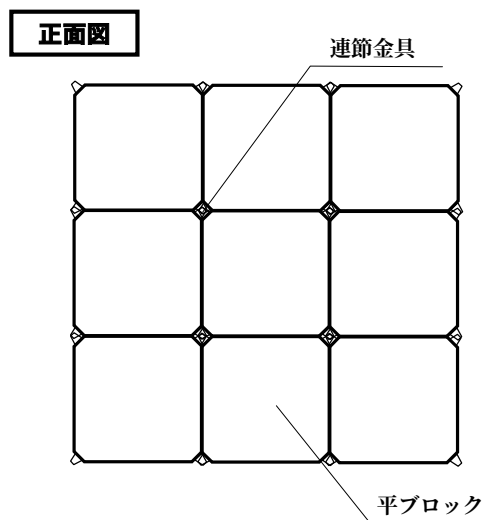
(3) 大型ブロック積



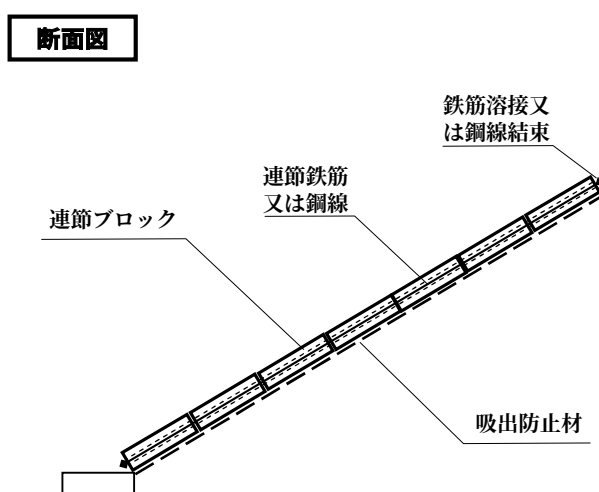
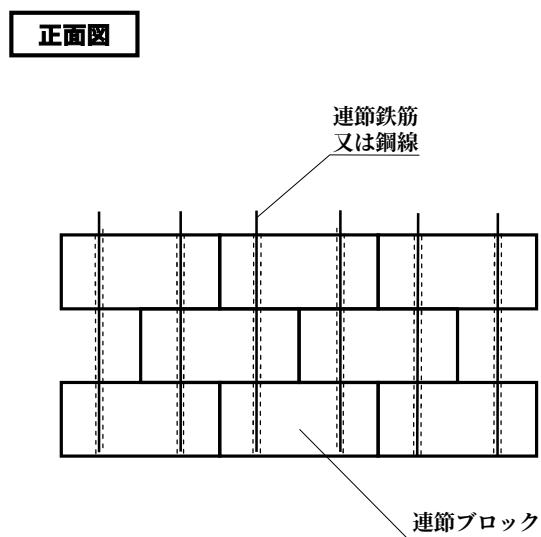
(4) 間知ブロック張



(5) 平ブロック張



(6) 連節ブロック張



5. 施工単価入力基準表

(1) コンクリートブロック積

パッケージコード	CB226060	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	鉄筋規格 (表 5.1)	鉄筋 10m ² 当り使用量 ①0.1t 以下 ②0.1t を超え 0.2t 以下	

- (注) 1. 本コードは、間知ブロックで、ブロック質量 150 kg/個以上 450kg/個以下に適用する。
2. 間知ブロック (Y-0367001) [円/m²] を単価登録すること。
3. 本コードは、鉄筋の材料ロスを含んでいるため、J 2 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
なお、鉄筋は、ブロックのずれ止めのためのものであり、必要な場合に計上すること。
4. J 1 条件で⑤を選択した場合は、鉄筋コンクリート用棒鋼 (Y-0004000) [円/t] を単価登録すること。
5. J 1 条件で⑥を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。
6. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

表 5. 1 鉄筋規格

鉄 筋 規 格	入力番号
SD295A D13	①
SD295A D16	②
SD345 D13	③
SD345 D16 ～ 25	④
鉄筋コンクリート用棒鋼 各種 (Y-0004000)	⑤
不 要	⑥

(2) 大型ブロック積

パッケージコード	CB226230	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	水抜きパイプの有無 ①有り ②無し	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. 大型ブロック (Y-0312001) [円/m²] を単価登録すること。
2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。
3. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。

(3) 間知ブロック張

パッケージコード	CB226020	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	間知ブロック規格 ①150kg／個未満 控え 350(m2) 滑面タイプ ②150kg／個未満 各種(m2) ③150kg／個以上 各種(m2)	裏込材規格 (表 5.2)	裏込材 10m2 当り使用量 ①1.0m3 以下 ②1.0m3 を超え 3.0m3 以下 ③3.0m3 を超え 5.0m3 以下 ④5.0m3 を超え 7.0m3 以下

J 4	J 5	J 6
胴込・裏込 コンクリート規格 (表 5.3)	胴込・裏込コンクリート 10m2 当り使用量 ①0.1m3 以上 0.5m3 以下 ②0.5m3 を超え 0.9m3 以下 ③0.9m3 を超え 1.3m3 以下 ④1.3m3 を超え 1.7m3 以下 ⑤1.7m3 を超え 2.1m3 以下 ⑥2.1m3 を超え 2.3m3 以下 ⑦2.3m3 を超え 2.7m3 以下 ⑧2.7m3 を超え 3.1m3 以下 ⑨3.1m3 を超え 3.5m3 以下	遮水シートの有無 ①有り ②無し

- (注) 1. 本コードは、裏込材、胴込・裏込コンクリート、吸出し防止材及び遮水シートの材料ロスを含んでいるため、J 3、J 5 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 3 条件、J 5 条件は選択する必要はない。
3. J 1 条件で②、③を選択した場合は、間知ブロック (Y-0367001) [円／m2] を単価登録すること。
4. J 2 条件で⑤を選択した場合は、砕石 (Y-0241000) [円／m3] を単価登録すること。
5. J 2 条件で⑥を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。
6. J 4 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円／m3] を単価登録すること。
7. J 4 条件で⑥を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
8. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 4 条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円／m3] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
9. 養生が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
10. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種 (排出ガス未対策型)、排出ガス対策型 (第1次基準値) 及び排出ガス対策型 (第2次基準値) についても適用出来る。

表5.2 胴込・裏込材規格

砕 石 規 格	入力番号
再生砕石 RC-40	①
再生砕石 RC-80	②
砕石 C-40	③
砕石 C-80	④
砕石各種 (Y-0241000)	⑤
不 要	⑥

表5.3 胴込・裏込コンクリート規格

生コンクリート規格	入力番号
18-8-25 (普通)	①
18-8-40 (")	②
18-8-25 (高炉)	③
18-8-40 (")	④
生コンクリート各種 (Y-0210000)	⑤
不 要	⑥

(4) 平ブロック張

パッケージコード		CB226030	施 工 単 位	m2
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	ブロックの質量	平ブロック規格	裏込材規格	裏込材
	①150 kg／個未満 ②150 kg／個以上	(表 5.4)	(表 5.2)	10 m2 当り使用量 (表 5.5)

J 5	J 6	J 7	J 8
遮水シートの有無	吸出し防止材 の有無	連結金具の 有無	連結金具
①有り ②無し	①有り ②無し	①有り ②無し	10 m2 当り使用量 (表 5.6)

- (注) 1. 本コードは、裏込材、吸出し防止材及び遮水シートの材料ロスを含んでいるため、J 4 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件では③を選択すること。
3. J 2 条件で③を選択した場合は、平ブロック各種 (Y-0366000) [円／m2] を単価登録すること。
4. J 3 条件で⑤を選択した場合は、砕石 (Y-0241000) [円／m3] を単価登録すること。
5. J 3 条件で⑥を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
6. 敷モルタルを施工する場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工 モルタル練(CB240060)」により別途計上する。
7. J 6 条件で①を選択した場合は、吸出し防止材はブロック全面積分計上される。また、吸出し防止材 (Y-1006000) [円／m2] を単価登録すること。
8. J 7 条件で②を選択した場合は、J 8 条件は選択する必要はない。
9. J 8 条件は 10m2 当りに換算した連結金具（ブロックの連結筋を連結する金具）使用量を基に選択すること。
10. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

表 5. 4 平ブロック規格

ブロック規格	入力番号
平ブロック 控 180 (m2)	①
平ブロック 控 120 (m2)	②
平ブロック 各種 (Y-0366000) (m2)	③

表 5. 5 裏込材 10m2 当り使用量

使用量	入力番号
1.0m3 以下	①
1.0m3 を超え 3.0 m3 以下	②
3.0m3 を超え 5.0 m3 以下	③

表 5. 6 連結金具 10m2 当り使用量

使用量	入力番号
5.0 個以下	①
5.0 個を超え 15.0 個以下	②
15.0 個を超え 20.0 個以下	③

(5) 連節ブロック張

パッケージコード		CB226040	施 工 単 位	m2	
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	ブロックの質量	連節鉄筋（鋼線） 規格	遮水シート の有無	吸出し防止材 の有無
	①設置	①150kg／個未満	(表 5.7)	①有り	①有り
	②撤去	②150kg／個以上		②無し	②無し

- (注) 1. 本コードは、連結金具を使用する場合は適用出来ない。
2. 本コードは、吸出し防止材、連節鉄筋（鋼線）及び遮水シートの材料ロスを含む。
3. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3～J 5 条件は選択する必要はない。
4. 連節ブロック（Y-0369001）〔円／m2〕を単価登録すること。
5. J 3 条件で⑤を選択した場合は、鉄筋コンクリート用棒鋼（Y-0004000）〔円／t〕を単価登録すること。
6. J 5 条件で①を選択した場合は、吸出し防止材はブロック全面積分計上される。また、吸出し防止材（Y-1006000）〔円／m2〕を単価登録すること。
7. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

表 5. 7 連節鉄筋（鋼線）規格

連節鉄筋（鋼線）規格	入力番号
亜鉛アルミメッキ鋼線 径 6 mm	①
亜鉛アルミメッキ鋼線 径 8 mm	②
SR235 径 9 mm	③
SR235 径 13 mm	④
鉄筋コンクリート用棒鋼 各種（Y-0004000）	⑤

(6) 緑化ブロック積

パッケージコード	CB226050	施 工 単 位	m2		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	緑化ブロックの質量	裏込材 規格	裏込材 10m2 当り使用量	胴込・裏込 コンクリート 規格	胴込・裏込 コンクリート 10m2 当り 使用量
	①150 kg／個未満 ②150 kg／個以上	(表 5.2)	①2.0m3 以下 ②2.0m3 を超え 4.0m3 以下 ③4.0m3 を超え 6.0m3 以下	(表 5.3)	(表 5.8)

- (注) 1. 本コードは、裏込材及び胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含んでいるため、J 3、J 5条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
2. 緑化ブロックの材料費は緑化ブロック（材料費）(CB226051)、天端ブロックを設置する場合は、天端ブロック（材料費）(CB226052)を別途計上する。
3. J 1条件で①を選択した場合は、J 5条件は①～⑥を選択すること。
4. J 1条件で②を選択した場合は、J 5条件は⑦～⑫を選択すること。
5. J 2条件で⑤を選択した場合は、砕石 (Y-0241000) [円／m3] を単価登録すること。
6. J 2条件で⑥を選択した場合は、J 3条件は選択する必要はない。
7. J 4条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円／m3] を単価登録すること。
8. J 4条件で⑥を選択した場合は、J 5条件は選択する必要はない。
9. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 4条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円／m3] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
10. 養生が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
11. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

表5.8 胴込・裏込コンクリート10m2 当り使用量

	使 用 量	入力番号
ブロック質量 150kg／個未満	0.7m3 以下	①
	0.7m3 を超え 1.7 m3 以下	②
	1.7m3 を超え 2.7 m3 以下	③
	2.7m3 を超え 3.7 m3 以下	④
	3.7m3 を超え 4.7 m3 以下	⑤
	4.7m3 を超え 6.0 m3 以下	⑥
ブロック質量 150kg／個以上	1.0 m3 以下	⑦
	1.0m3 を超え 2.0 m3 以下	⑧
	2.0m3 を超え 3.0 m3 以下	⑨
	3.0m3 を超え 4.0 m3 以下	⑩
	4.0m3 を超え 5.0 m3 以下	⑪
	5.0m3 を超え 6.0 m3 以下	⑫

(7) 緑化ブロック（材料費）

パッケージコード	CB226051	施工単位	m2

(注) 緑化ブロック (Y-0370001) [円／m2] を単価登録すること。

(8) 天端ブロック（材料費）

パッケージコード	CB226052	施工単位	m2

(注) 天端ブロック (Y-0371001) [円／m2] を単価登録すること。

(9) 胴込・裏込コンクリート

パッケージコード	CB226110	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	ブロックの種類	生コンクリート規格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①間知ブロック・緑化ブロック ②大型ブロック	(表 5.3)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は選択する必要はない。
3. J 2 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円／m3] を単価登録すること。
4. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 2 条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円／m3] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
5. 養生が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。
7. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。
8. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

(10) 胴込・裏込材（碎石）

パッケージコード	CB226120	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	
	①間知・平・連節・緑化ブロック ②大型ブロック	(表 5.2)	

- (注) 1. 本コードは、胴込・裏込材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 2 条件で⑤を選択した場合は、碎石 (Y-0241000) [円／m3] を単価登録すること。
3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）及び排出ガス対策型（第2次基準値）についても適用出来る。

(11) 遮水シート張

パッケージコード	CB226130	施工単位	m2

- (注) 1. 本コードは、コンクリートブロック張工に適用する。
2. 本コードは、遮水シートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
3. 遮水シート張の材料は、土木工事共通仕様書の「遮水シート A（厚 1.0+10.0 mm）」で固定されている。

(12) 吸出し防止材(全面)設置

パッケージコード	CB226140	施工単位	m2

(注) 1. 本コードは、吸出し防止材をブロック全面に施工する場合に適用する。

2. 本コードは、吸出し防止材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

3. 吸出し防止材 (Y-1006000) [円/m2] を単価登録すること。

(13) 植樹

パッケージコード	CB226160	施工単位	本

(注) 樹木 (Y-1500000) [円/本] を単価登録すること。

(14) 現場打基礎コンクリート

パッケージコード	CB226170		施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	
	生コンクリート 規格	基礎碎石の 有無	養生工の種類	
	(表 5.9)	①有り ②無し	①一般養生・ 特殊養生(練炭) ②養生工なし	

(注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。

3. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/m3] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)及び排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

表5.9 生コンクリート規格

生コンクリート規格	入力番号
18-8-25 (普通)	①
18-8-40 (")	②
18-8-25 (高炉)	③
18-8-40 (")	④
生コンクリート各種 (Y-0210000)	⑤

(15) 天端コンクリート

パッケージコード	CB226180	施 工 単 位	m ³
施工区分	入力条件		
各 種	J 1	J 2	
	生コンクリート規格	養生工の種類	
	(表 5.9)	①一般養生 ②特殊養生(練炭) ③養生工なし	

- (注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
4. 基礎砕石が必要な場合は、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工 基礎砕石(CB221110)」により別途計上する。
5. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)及び排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

(16) プレキャスト基礎ブロック

パッケージコード	CB226220	施 工 単 位	m

- (注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)及び排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

(17) プレキャスト基礎ブロック(材料費)

パッケージコード	CB226221	施 工 単 位	m

- (注) プレキャスト基礎ブロック(連結金具を含む)(Y-0362000) [円/m] を単価登録すること。

③-2 裏込栗石投入工(コンクリートブロック張)

1. 適用範囲

本資料は、間知ブロック及び平ブロックの張工(勾配1:1.0以上、ブロック質量1,800kg/個未満)の裏込工において、栗石を使用する場合に適用する。

2. 施工歩掛

2-1 施工歩掛

裏込栗石投入歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 裏込栗石投入工歩掛 (10 m³当り)

名 称	単 位	数 量
普 通 作 業 員	人	2.6
諸 雑 費 率	%	2

(注) 1. 諸雑費は、つき固め機械等の損料及び運転経費の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 運搬距離 20m程度の人力による現場内小運搬を含む。

3. 裏込栗石投入工歩掛には間隙充填材の労務を含む。

4. 遮水・止水シートを施工する場合は、別途計上する。

2-2 材料使用量

① 裏込材使用量は、次式による。

$$\text{裏込材使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 2.1}$$

K: ロス率

② 間隙充填材使用量は、裏込材使用量の20%とし、次式による。

$$\text{間隙充填材使用量 (m}^3\text{)} = \text{裏込材設計量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \times 20\% \cdots \cdots \text{式 2.2}$$

K: ロス率

表2.2 ロス率(K)

ロス率(K)	+0.14

3. 単 価 表

(1) 裏込栗石投入工 10 m³当り単価表

施工歩掛コード				WB221510
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	2.6	表 2.1
裏 込 材		m ³	11.4	式 2.1, 表 2.2
間 隙 充 填 材		〃	2.3	式 2.2, 表 2.2
諸 雑 費		式	1	表 2.1
計				

4. 施工単価入力基準表

(1) 裏込栗石投入工

施工歩掛コード	WB221510	施工単位	m ³
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	裏込材の規格	充填材の規格	
	(表 4.1)	(表 4.2)	

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合には、栗石各種単価 (Y-0249000) [円/m³]を単価登録すること。
 2. J 2 条件で⑤を選択した場合には、碎石各種単価 (Y-0241000) [円/m³]を単価登録すること。

表 4. 1 裏込材の規格

裏込材の規格	番号
割 栗 石 (50 ～ 150 mm)	①
栗石各種	②

表 4. 2 充填材の規格

充填材の規格	番号
クラッシャーラン 40～0	①
クラッシャーラン 80～0	②
再生クラッシャーラン 40～0	③
再生クラッシャーラン 80～0	④
碎石各種	⑤

④ 石積(張)工

④-1 石積(張)工

1. 適用範囲

本資料は、玉石及び雑割石(控長 25 cm～50 cm)の積工(勾配 1 割未満)及び張工(勾配 1 割以上)の場合に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 石積(練石)(複合)

(1) 表 1. 1 に示す条件に該当する場合

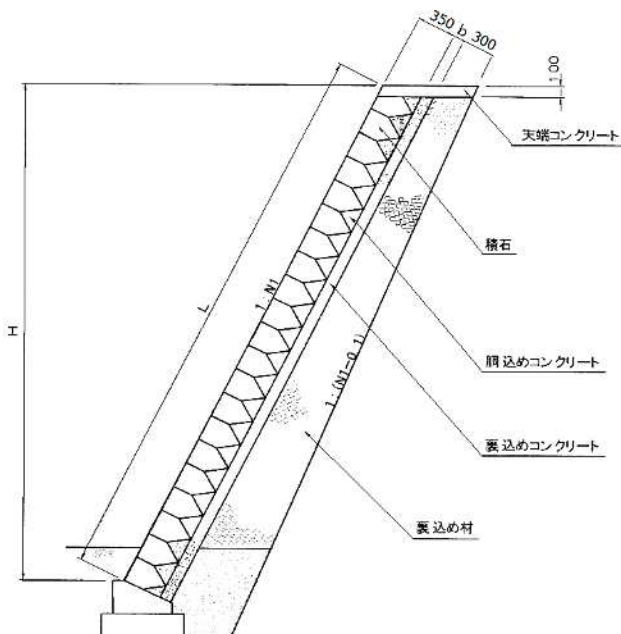
1-1-2 石張(複合)

(1) 表 1. 3 に示す条件に該当する場合

なお、1-1-1 あるいは 1-1-2 が適用出来ない場合は、石積(張)、胴込・裏込コンクリート、裏込材(クラッシュラン)を適用する。

表 1. 1 石積(練石)(複合)の適用範囲

控長 (cm)	直高 (m)	前面勾配	胴込・裏込コンクリート使用数量 (m ³ /10m ²)		裏込材使用数量 (m ³ /10m ²)
			玉石の場合	雑割石の場合	
35cm	1.0m以上1.5m以下	1:0.3～0.5	2.25 以上 2.42 以下	2.83 以上 3.05 以下	2.24以上2.95以下
	1.5mを超え2.0m以下	1:0.4～0.5	2.25 以上 2.35 以下	2.83 以上 2.98 以下	2.81以上3.83以下
	2.0mを超え2.5m以下	1:0.4～0.5	2.23 以上 2.31 以下	2.81 以上 2.94 以下	3.21以上4.33以下
	2.5mを超え3.0m以下	1:0.4～0.5	2.22 以上 2.29 以下	2.80 以上 2.92 以下	3.53以上4.70以下
	3.0mを超え5.0m以下	1:0.5	2.73 以上 2.82 以下	3.31 以上 3.45 以下	3.81以上5.02以下



参考図 石積(練石)(複合)の断面図

表 1. 2 「参考図 石積(練石)(複合)の断面図」の寸法

H(直高) (m)	L (のり長) (mm)			控長 (mm)	裏込め コンク リート厚さ (mm)
	N1 (前面勾配)				
	1:0.3	1:0.4	1:0.5		b
1.00	1044	1077	1118	350	100
1.50	1566	1616	1677	350	100
2.00	—	2154	2236	350	100
2.50	—	2693	2795	350	100
3.00	—	3231	3354	350	100
3.50	—	—	3913	350	150
4.00	—	—	4472	350	150
4.50	—	—	5031	350	150
5.00	—	—	5590	350	150

表1.3 石張(複合)の適用範囲

練石張の場合

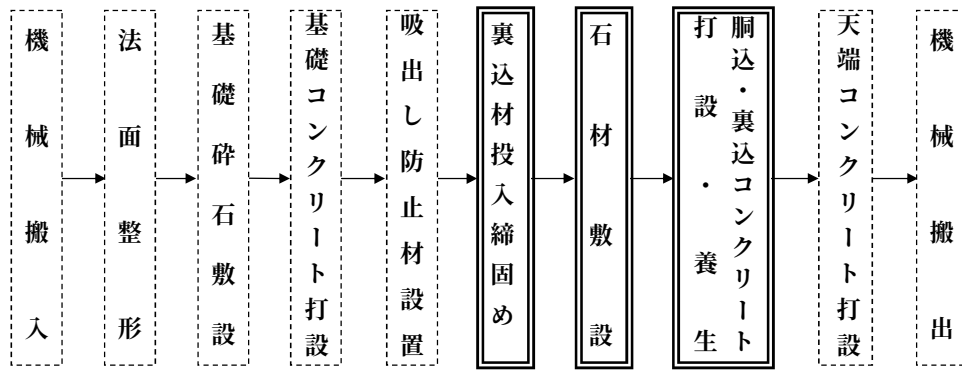
玉石控 (cm)	裏込材の有無	胴込・裏込コンクリート 使用量 (m ³ /10m ²)	裏込材使用量 (m ³ /10m ²)
25cm以上35cm以下	有り	1.60	2.00
	無し	1.60	—
30cm以上40cm以下	有り	1.90	2.00
	無し	1.90	—
35cm以上45cm以下	有り	2.10	2.00
	無し	2.10	—
40cm以上50cm以下	有り	2.40	2.00
	無し	2.40	—
45cm以上50cm以下	有り	2.70	2.00
	無し	2.70	—

空石張の場合

玉石控 (cm)	裏込材の有無	胴込材使用量 (m ³ /10m ²)	裏込材使用量 (m ³ /10m ²)
25cm以上35cm以下	有り	1.00	2.00
	無し	1.00	—
30cm以上40cm以下	有り	1.20	2.00
	無し	1.20	—
35cm以上45cm以下	有り	1.30	2.00
	無し	1.30	—
40cm以上50cm以下	有り	1.50	2.00
	無し	1.50	—
45cm以上50cm以下	有り	1.70	2.00
	無し	1.70	—

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 施工パッケージ

3-1 石積(練石)(複合)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 石積(練石)(複合) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

石の種類	直高	胴込・裏込コンクリート 規格	裏込材規格
玉石	(表 3.2)	(表 3.3)	(表 3.4)
雑割石			

- (注) 1. 上表は、石積工における石材の設置、胴込・裏込コンクリートの打設、裏込材の設置、水抜きパイプ（水抜き孔用吸出し防止材含む）の設置の他、コンクリートバケット損料、パイプレータ損料、電力に関する経費、締固め機械等の損料、油脂類の費用、据付時の石材の微調整、吊上げ・吊下げ作業（石材、胴込材、裏込材等）、現場内小運搬（バケット作業）、振動コンパクタによる締固め作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、石積（張）（材料費）は含まない。
2. 吸出し防止材を全面に設置する場合は、「第Ⅱ編第2章⑦吸出し防止材設置工」により別途計上する。
3. 石材の加工を行う場合は加工手間を別途計上する。
4. 基礎コンクリート及び天端コンクリートは、「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積（張）工」による。
5. 胴込・裏込コンクリート、裏込材の材料ロスを含む。標準ロス率は、胴込・裏込コンクリートが+0.16、裏込材が+0.18 とする。
6. 養生が必要な場合には、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。
7. 水抜きパイプ・吸出し防止材の材料費は、別途計上する。

表3.2 直高

積算条件	区分
直 高	1.0m以上1.5m以下
	1.5mを超え2.0m以下
	2.0mを超え2.5m以下
	2.5mを超え3.0m以下
	3.0mを超え5.0m以下

表3.3 胴込・裏込コンクリート規格

積算条件	区分
胴込・裏込コンクリート 規 格	18-8-25
	18-8-40
	19.5-8-40
	21-8-25
	18-8-25 （高炉）
	18-8-40 （高炉）
	19.5-8-40 （高炉）
	21-8-25 （高炉）
	各 種

表3.4 裏込材規格

積算条件	区分
裏込材規格	再生クラッシャラン RC-40
	再生クラッシャラン RC-80
	クラッシャラン C-40
	クラッシャラン C-80
	各 種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 石積(練石)(複合) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 1.7t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	石工	
	R3	特殊作業員	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z2	再生クラッシャラン RC-40	
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 石張(複合)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 石張(複合) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

構造区分	玉石控	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材の有無	胴込・裏込材規格
練石	(表 3.7)	(表 3.3)	有り	(表 3.8)
空石			無し	

- (注) 1. 上表は、石張工における石材の設置、胴込・裏込コンクリートの打設、胴込・裏込材の設置、水抜きパイプ(水抜き孔用吸出し防止材含む)の設置の他、コンクリートバケット損料、パイププレート損料、電力に関する経費、締固め機械等の損料、油脂類の費用、据付時の石材の微調整、吊上げ・吊下げ作業、(石材、胴込材、裏込材等)、現場内小運搬(バケット作業)、振動コンパクタによる締固め作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、石積(張)(材料費)は含まない。
2. 吸出し防止材を全面に設置する場合は、「第Ⅱ編第2章⑦吸出し防止材設置工」により別途計上する。
3. 石材の加工を行う場合は加工手間を別途計上する。
4. 基礎コンクリート及び天端コンクリートは、「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」による。
5. 胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材の材料ロスを含む。標準ロス率は、胴込・裏込コンクリートが+0.16、胴込・裏込材が+0.18 とする。
6. 養生が必要な場合には、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。
7. 水抜きパイプ・吸出し防止材の材料費は、別途計上する。

表3.7 玉石控

積算条件	区分
玉石控	25cm以上35cm以下
	30cm以上40cm以下
	35cm以上45cm以下
	40cm以上50cm以下
	45cm以上50cm以下

表3.8 胴込・裏込材規格

積算条件	区分
胴込・裏込材規格	再生クラッシュラン RC-40
	再生クラッシュラン RC-80
	クラッシュラン C-40
	クラッシュラン C-80
	各 種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 石張(複合) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	石工	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材が有りの場合
	Z3	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 石積(張)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 石積(張) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

積張の区分	構造区分	石の種類
積工	練石	玉石
		雑割石
張工	練石	玉石
		雑割石
	空石	玉石

- (注) 1. 上表は、石積(張)工における石材の設置、据付時の石材の微調整、水抜きパイプ(水抜き孔用吸出し防止材含む)の設置、吊上げ・吊下げ作業(石材、胴込材、裏込材等)、現場内小運搬(バケット作業)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、石積(張)(材料費)は含まない。
2. 吸出し防止材を全面に設置する場合は、「第Ⅱ編第2章⑦吸出し防止材設置工」により別途計上する。
3. 石材の加工を行う場合は加工手間を別途計上する。
4. 水抜きパイプ・吸出し防止材の材料費は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 石積(張) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	石工	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 石積(張)(材料費)

(1) 条件区分

石積(張)(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

- (注) 1. 石積(練石)(複合)は、控長35cmのみ適用出来る。
2. 石張(複合)は、玉石のみ適用出来る。

3-5 胴込・裏込コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 胴込・裏込コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

積張の区分	胴込・裏込コンクリート規格
積工	(表3.3)
張工	

- (注) 1. 上表は、石積(張)工における胴込・裏込コンクリートの打設の他、コンクリートバケット損料、パイプレンタ損料、電力に関する経費等、その施工に必要な全て機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 基礎コンクリート及び天端コンクリートは、「第Ⅱ編第2章③コンクリートブロック積(張)工」による。
3. 胴込コンクリート量は、玉石の場合は面積に控長の1/3を、雑割石の場合は1/2を乗じたものとする。
4. 養生が必要な場合には、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。
5. 胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.16)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 胴込・裏込コンクリート 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）吊能力 1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）吊能力 2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	—	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25（20）W/C 60%	
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-6 裏込材（クラッシュラン）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.14 裏込材（クラッシュラン） 積算条件区分一覧

（積算単位：m³）

積張の区分	裏込材規格
積工	(表 3.4)
張工	

- (注) 1. 上表は、石積(張)工における裏込材（クラッシュラン）の設置の他、締固め機械等の損料、油脂類の費用、振動コンパクタによる締固め作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 空石張の胴込材の量は、面積に玉石の控長の1/3を乗じたものとする。
3. 裏込材の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.18）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.15 裏込材(クラッシャー) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)吊能力1.7t	・賃料 ・積工の場合
		バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)吊能力2.9t	・賃料 ・張工の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(特殊)	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシャー RC-40	
	Z2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 石積(練石)(複合)

パッケージコード	CB221810	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	石の種類	直 高	胴 込 ・ 裏 込 コンクリート規格	裏込材 規 格
	①玉 石			
	②雑割石	(表 4.1)	(表 4.2)	(表 4.3)

- (注) 1. 部分的に設置する水抜パイプ・吸出し防止材の設置労務は含んでいる。
 2. 水抜パイプ・吸出し防止材の材料は別途計上すること。
 3. 本コードは、胴込・裏込コンクリート、裏込材の材料ロスを含む。
 4. J 3 条件で⑨を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 5. J 4 条件で⑤を選択した場合は、砕石 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。
 6. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

表4.1 直 高

直 高	入力番号
1.0m 以上 1.5m 以下	①
1.5m を超え 2.0m 以下	②
2.0m を超え 2.5m 以下	③
2.5m を超え 3.0m 以下	④
3.0m を超え 5.0m 以下	⑤

表4.2 胴込・裏込コンクリート規格

規 格	入力番号
18-8-25	①
18-8-40	②
19.5-8-40	③
21-8-25	④
18-8-25 (高 炉)	⑤
18-8-40 (高 炉)	⑥
19.5-8-40 (高 炉)	⑦
21-8-25 (高 炉)	⑧
Y-0210000 (各種)	⑨

表4.3 裏込材規格

裏 込 材 規 格	入力番号
再生クラッシャラン RC-40	①
再生クラッシャラン RC-80	②
クラッシャラン C-40	③
クラッシャラン C-80	④
Y-0241000 (各種)	⑤

(2) 石張(複合)

パッケージコード	CB221820	施 工 単 位	m2		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	構造区分	玉石控	胴込・裏込 コンクリート 規格	裏込材の有無	胴込・裏込材 規格
	①練 石	①25cm 以上 35cm 以下	(表 4.2)	①有 り	(表 4.4)
	②空 石	②30cm 以上 40cm 以下		②無 し	
	③35cm 以上 45cm 以下				
		④40cm 以上 50cm 以下			
		⑤45cm 以上 50cm 以下			

- (注) 1. 部分的に設置する水抜パイプ・吸出し防止材の設置労務は含んでいる。
 2. 水抜パイプ・吸出し防止材の材料は別途計上すること。
 3. 本コードは、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材の材料ロスを含む。
 4. J 1 条件で①、J 4 条件で②を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
 5. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。
 6. J 3 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 7. J 5 条件で⑤を選択した場合は、砕石 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。
 8. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

表 4. 4 胴込・裏込材規格

胴 込 ・ 裏 込 材 規 格	入力番号
再生クラッシャラン RC-40	①
再生クラッシャラン RC-80	②
クラッシャラン C-40	③
クラッシャラン C-80	④
Y-0241000 (各種)	⑤

(3) 石積(張)

パッケージコード	CB221830	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	積張の区分	構造区分	石の種類
	①積 工 ②張 工	①練 石 ②空 石	①玉 石 ②雑割石

- (注) 1. 部分的に設置する水抜パイプ・吸出し防止材の設置労務は含んでいる。
 2. 水抜パイプ・吸出し防止材の材料は別途計上すること。
 3. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は①で固定される。
 4. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は①で固定される。
 5. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(4) 石積(張)(材料費)

パッケージコード	CB221831	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	石の種類		
	①玉 石 ②雑割石		

(注) 1. 石積(練石)(複合)は、控長35cmのみ適用出来る。

2. 石張(複合)は、玉石のみ適用出来る。

3. J 1条件で①を選択した場合は、玉石(Y-0254001) [円/m2] を、②を選択した場合は、雑割石(Y-0253000) [円/m2] を単価登録すること。

(5) 胴込・裏込コンクリート

パッケージコード	CB221840	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	積張の区分	胴 込 ・ 裏 込 コンクリート規格	
	①積 工 ②張 工	(表 4.2)	

(注) 1. 本コードは、胴込、裏込コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

2. J 2条件で⑨を選択した場合は、生コンクリート(Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。

3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(6) 裏込材(クラッシュラン)

パッケージコード	CB221850	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	積張の区分	裏込材 (クラッシュラン) 規格	
	①積 工 ②張 工	(表 4.3)	

(注) 1. 本コードは、裏込材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

2. J 2条件で⑤を選択した場合は、砕石(Y-0241000) [円/m3] を単価登録すること。

3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

④－2 平石張工

1. 適用範囲

本資料は、一般土木及び公園工事で施工する遊歩道、歩道、広場等の舗装・床張、階段（踏面幅 1,200mm 以下、蹴上高 400mm 以下）及び壁張における平石張工に適用する。

1－1 適用出来る範囲

- (1) 平石材料が表 1. 1 の規格に該当する場合
- (2) 目地幅が、平均 10mm 程度の場合

表1. 1 平石材料規格

作業区分 形状区分	舗装・床張り	階段	壁張り
乱形石	φ50 ～ 600 mm程度 平均厚さ 10 ～ 60 mm程度 質量 15 kg程度まで	φ80 ～ 400 mm程度 平均厚さ 15 ～ 40 mm程度 質量 6 kg程度まで	φ 60 ～ 300 mm程度 平均厚さ 15 ～ 50 mm程度 質量 7 kg程度まで
方形石	短辺 100 mm以上 長辺 1,500 mm以下 厚さ 25 ～ 120 mm 質量 60kg まで	短辺 100 mm以上 長辺 920 mm以下 厚さ 40 ～ 170 mm 質量 130kg まで	短辺 140 mm以上 長辺 600 mm以下 厚さ 30 ～ 120 mm 質量 60 kgまで

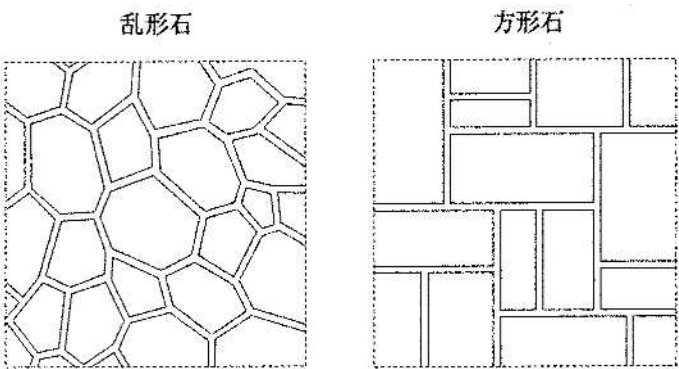
(注) 質量は、石材 1 枚当りである。

1－2 適用出来ない範囲

- (1) 施工箇所が法面の場合

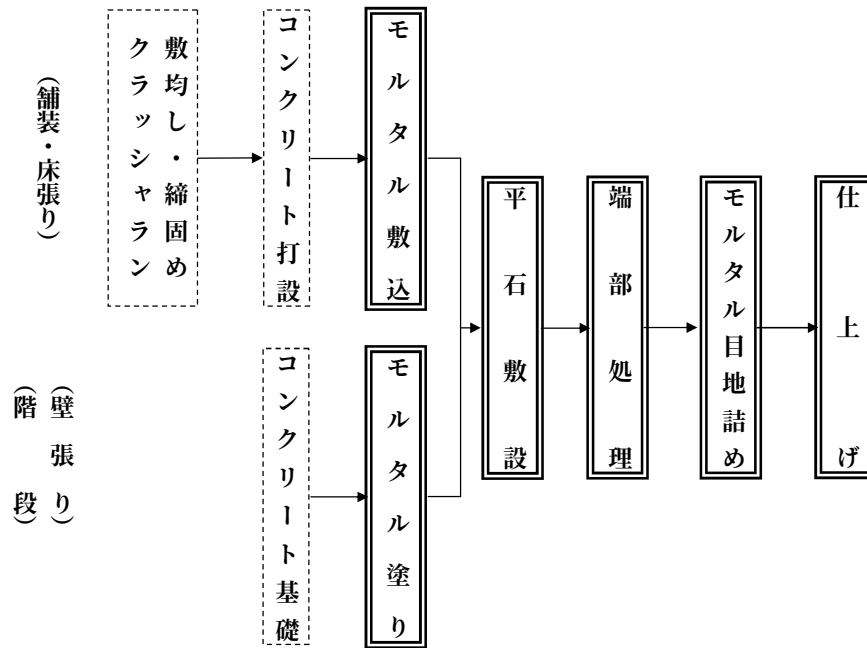
2. 施工概要

平石張とは、平石を敷（張付け）モルタルの上に張っていく工法であり、平石には乱形石と方形石がある。乱形石は不規則な形をした平石であり、方形石は長方形、又は正方形に加工した平石である。平石張に使用される石には鉄平石、青石、丹波石、御影石等がある。



施工フローは,下記を標準とする。

図2.1 施工フロー



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 平石張

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 平石張 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

作業区分	平石の形状区分
舗装・床張り	乱形石
	方形石
階段	乱形石
	方形石
壁張り	乱形石
	方形石

- (注) 1. 上表は、モルタル敷込、モルタル塗り、平石敷設、端部処理、モルタル目地詰め、仕上げ及び資材の現場内小運搬(運搬距離 20m程度)の他、敷モルタル材料、目地モルタル材料、モルタル塗り材料、ディスクグラインダ、電力に関する経費の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、平石(材料費)は含まない。
2. 平石(乱形石、方形石)の材料費は別途計上する。
3. クレーン等が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 平石張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	石工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 平石(材料費)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 平石(材料費) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

平石の形状区分
乱形石
方形石

(注) 1. 平石の使用量は、次式による。

$$\text{使用量(m}^2\text{)} = \text{設計面積(m}^2\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{(式3.1)}$$

K：ロス率

表3.4 ロス率(K)

区 分	舗装・床張り		階 段		壁張り	
	乱形石	方形石	乱形石	方形石	乱形石	方形石
ロス率	+0.07	+0.03	+0.04	+0.03	+0.08	+0.08

4. 施工単価入力基準表

(1) 平石張

パッケージコード	CB221910	施 工 単 位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	平石の形状区分	
	①舗装・床張り ②階 段 ③壁 張 り	①乱 形 石 ②方 形 石	

(2) 平石（材料費）

パッケージコード	CB221911	施 工 単 位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	平石の形状区分		
	①乱形石（舗装・床張り） ②乱形石（階段） ③乱形石（壁張り） ④方形石（舗装・床張り） ⑤方形石（階段） ⑥方形石（壁張り）		

(注) 1. 上表は、平石の材料ロス含む。

2. J 1 条件で①～③を選択した場合は平石（乱形石）Y-1722000 [円／m2]，④～⑥を選択した場合は平石（方形石）Y-1723000 [円／m2] を単価登録すること。

⑤ 場所打擁壁工

⑤-1 場所打擁壁工(1)

1. 適用範囲

本資料は、擁壁工における擁壁に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 小型擁壁(A)

- (1) 擁壁平均高さが0.5m以上1.0m以下の小型擁壁
- (2) コンクリート打設地上高さが2m以下の場合

1-1-2 小型擁壁(B)

- (1) 擁壁平均高さが0.5m以上1.0m以下の小型擁壁
- (2) コンクリート打設地上高さが2mを超え28m以下かつ水平打設距離20m以下の場合

1-1-3 重力式擁壁

- (1) 擁壁平均高さが1.0mを超え5.0m以下の重力式擁壁
- (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm,粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-4 もたれ式擁壁

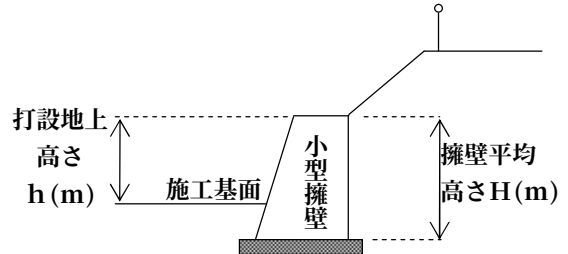
- (1) 擁壁平均高さが3.0m以上8.0m以下のもたれ式擁壁
- (2) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (3) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm,粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-5 逆T型擁壁

- (1) 擁壁平均高さが3.0m以上10.0m以下の逆T型擁壁
- (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合
- (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合
- (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm,粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合

1-1-6 L型擁壁

- (1) 擁壁平均高さが3.0m以上7.0m以下のL型擁壁
- (2) 使用鉄筋量が0.04t/m³以上0.14t/m³未満の場合
- (3) 鉄筋規格がSD345 D13からSD345 D32の場合
- (4) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が280m以下の場合
- (5) 圧送コンクリートのスランプ値が8~12cm,粗骨材の最大寸法が40mm以下の場合



また、本項の適用を外れる現場打擁壁工については、場所打擁壁工(2)を適用する。

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。

2-1 小型擁壁（A）及び（B）



（注）1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 基礎材敷均し・転圧，均し型枠製作設置・撤去，均しコンクリート打設・養生は，必要に応じて計上する。

3. 目地材，水抜きパイプ，吸出防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。

2-2 重力式擁壁, もたれ式擁壁



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは, 二重実線部分のみである。
 2. 基礎材敷均し・転圧, 均し型枠製作設置・撤去, 均しコンクリート打設・養生は, 必要に応じて計上する。
 3. 目地材, 水抜きパイプ, 吸出防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。

2-3 逆T型擁壁，L型擁壁



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは，二重実線部分のみである。
2. 基礎材敷均し・転圧，均し型枠製作設置・撤去，均しコンクリート打設・養生は，必要に応じて計上する。
3. 目地材，水抜きパイプ，吸出し防止材は施工の有無にかかわらず適用出来る。ただし，吸出し防止材は，点在で設置する場合を標準としており，面及び帯状のものを使用する場合は，別途計上する。
4. ガス圧接が必要な場合は「第Ⅵ編第2章①－2鉄筋工（ガス圧接工）」により，別途計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 小型擁壁 (A)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 小型擁壁 (A) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

擁壁平均高さ	コンクリート規格	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類
(表 3.2)	(表 3.3)	無し	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)
				養生工無
			有り	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)
				養生工無
		有り	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)
				養生工無
			有り	一般養生・特殊養生(練炭)
				特殊養生(ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ)
				養生工無

- (注) 1. 上表は、小型擁壁（擁壁平均高さ 0.5m 以上 1.0m 以下）のコンクリート、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業含む）、基礎材、均しコンクリート、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材（点在）、養生（一般養生、特殊養生（練炭）、特殊養生（ｼﾞｬｯﾄﾋｰﾀ））、現場内小運搬（5m 以内）、シュート・ホップの架設移動、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具（コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホップ等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリートの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.06）
3. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
4. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-9ペーラインコンクリート（材料費）」により別途計上すること。
5. 足場が必要な場合は別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。

表3.2 擁壁平均高さ

積算条件	区分
擁壁平均高さ	0.5m以上0.6m未満
	0.6m以上0.8m未満
	0.8m以上1.0m以下

表3.3 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20) (普通)
	24-8-25(20) (普通)
	27-8-25(20) (普通)
	18-8-40(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20) (高炉)
	24-8-25(20) (高炉)
	18-8-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25 (早強)
	24-8-25 (早強)
	18-8-25(高炉)
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 小型擁壁(A) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・特殊養生の場合 ・賃料
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生の場合
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-2 小型擁壁 (B)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 小型擁壁 (B) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

擁壁平均高さ	コンクリート規格	施工条件	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類
(表 3.2)	(表 3.3)	(表 3.6)	無し	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
					特殊養生(ジェットヒータ)
					養生工無
				有り	一般養生・特殊養生(練炭)
					特殊養生(ジェットヒータ)
					養生工無
			有り	無し	一般養生・特殊養生(練炭)
					特殊養生(ジェットヒータ)
					養生工無
				有り	一般養生・特殊養生(練炭)
				有り	特殊養生(ジェットヒータ)
					養生工無

- (注) 1. 上表は、小型擁壁（擁壁平均高さ 0.5m 以上 1.0m 以下）のコンクリート、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業含む）、基礎材、均しコンクリート、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材（点在）、養生（一般養生・特殊養生（練炭）、特殊養生（ジェットヒータ））、運搬バケットへのコンクリート積込作業、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具（コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリートの機械打設に使用するバケット容量は 0.6m³ を標準とする。
3. コンクリートの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.06）
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-9ペーラインコンクリート（材料費）」により別途計上すること。
6. 足場が必要な場合は別途計上すること。
7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。

表3.6 施工条件

積算条件	区分
施工条件	打設高 17m 以下・水平打設距離 17m 以下
	打設高 25m 以下・水平打設距離 18m 以下
	打設高 25m 以下・水平打設距離 20m 以下
	打設高 28m 以下・水平打設距離 20m 以下
	水平打設距離 30m 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 小型擁壁(B) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕16t 吊	・打設高 17m 以下・水平打設距離 17m 以下の場合 ・賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕20t 吊	・打設高 25m 以下・水平打設距離 18m 以下の場合 ・賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕25t 吊	・打設高 25m 以下・水平打設距離 20m 以下の場合 ・賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕35t 吊	・打設高 28m 以下・水平打設距離 20m 以下の場合 ・賃料
		クローラクレーン 〔油圧駆動式ウィンチ・ラチスジブ型〕50t 吊	・水平打設距離 30m 以下の場合 ・賃料
	K2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 ・賃料
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	型わく工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	水平打設距離 30m 以下の場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 重力式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.8 重力式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

擁壁平均高さ	コンクリート規格	基礎砕石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長 距離区分	
1.0m を超え 2.0m 未満	(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.9)	
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				養生工無		
			有り	一般養生		
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				養生工無		
		有り	無し	一般養生		
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				養生工無		
			有り	一般養生		
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				養生工無		
2.0m 以上 5.0m 以下		(表 3.3)	無し	無し		一般養生
						特殊養生(練炭・ジェットヒータ)
						仮囲い内ジェットヒータ養生
						養生工無
				有り		一般養生
						特殊養生(練炭・ジェットヒータ)
	仮囲い内ジェットヒータ養生					
	養生工無					
	有り		無し	一般養生		
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				仮囲い内ジェットヒータ養生		
				養生工無		
			有り	一般養生		
				特殊養生(練炭・ジェットヒータ)		
				仮囲い内ジェットヒータ養生		
				養生工無		

- (注) 1. 上表は、重力式擁壁(擁壁平均高さ1.0mを超え5.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、一般足場(擁壁平均高さが2m未満の場合)、手摺先行型枠組足場(擁壁平均高さが2m以上の場合)、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートバイブレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04)
3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-9ペーラインコンクリート(材料費)」により別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。

7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑮－2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

表3.9 圧送管延長距離区分

積算条件	区分
圧送管延長 距離区分	延長無し
	90m 未満
	90m 以上 180m 未満
	180m 以上 280m 以下

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.10 重力式擁壁 代表機材規格一覧

擁壁平均高さ	項目		代表機材規格	備考
1mを超え 2m 未満	機械	K 1	コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m ³ /h	
		K 2	-	
		K 3	-	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	型わく工	
		R 3	土木一般世話役	
		R 4	特殊作業員	
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
		Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 3	-	
		Z 4	-	
	市場単価	S	-	
2m 以上 5m 以下	機械	K 1	コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m ³ /h	
		K 2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
		K 3	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	型わく工	
		R 3	土木一般世話役	
		R 4	とび工 特殊作業員	一般, 特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
		Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
		Z 4	-	
	市場単価	S	-	

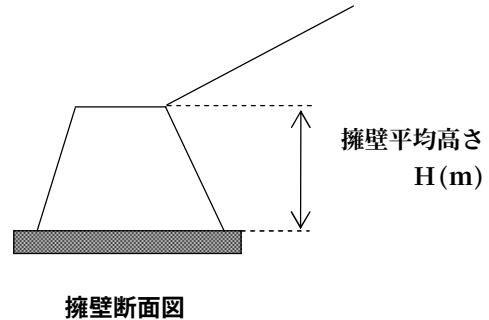
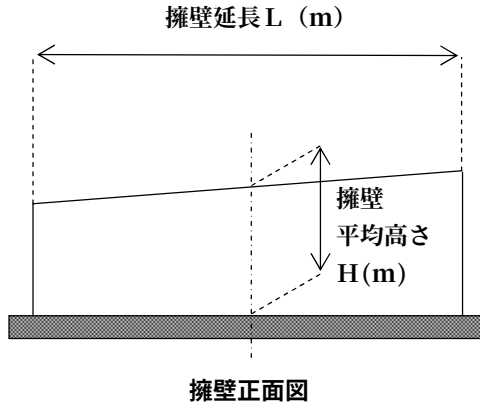
[参考図]

擁壁高さが変化する場合の擁壁平均高さH (m)

$$H = A / L$$

A = 正面図での擁壁面積 (m²)

L = 擁壁延長 (m)



3-4 もたれ式擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.11 もたれ式擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

コンクリート規格	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 3.3)	無し	無し	一般養生	(表 3.9)
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
			仮囲い内ジェットヒータ養生	
			養生工無	
	有り	有り	一般養生	
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
			仮囲い内ジェットヒータ養生	
			養生工無	
	有り	無し	一般養生	
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
			仮囲い内ジェットヒータ養生	
			養生工無	
		有り	一般養生	
			特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	
			仮囲い内ジェットヒータ養生	
			養生工無	

(注) 1. 上表は、もたれ式擁壁(擁壁平均高さ 3.0m 以上 8.0m 以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、基礎材、均しコンクリート、足場工、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生・特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(コンクリートパイプレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。

2. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04)

3. 設計数量は、つま先版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。

4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3－9ペーラインコンクリート（材料費）」により別途計上すること。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
7. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
8. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑤－2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 もたれ式擁壁 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K 2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・ 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・ 賃料
	K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	とび工 特殊作業員	一般，特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-5 逆T型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.13 逆T型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 3.3)	(表 3.14)	無し	無し	一般養生	(表 3.9)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

- (注) 1. 上表は、逆T型擁壁（擁壁平均高さ 3.0m 以上 10.0m 以下）のコンクリート、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業含む）、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材（点在）、養生（一般養生、特殊養生（練炭・ジェットヒータ）、仮囲い内ジェットヒータ養生）、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具（コンクリートバイブレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート・鉄筋の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03 とする。
3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1 型枠工3-2 化粧型枠」により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-9 ペーラインコンクリート（材料費）」により別途計上すること。
6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2 鉄筋工（ガス圧接工）」により別途計上する。
7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑤-2 雪寒假囲い工」により別途計上する。

表3.14 鉄筋量

積算条件	区分
鉄筋量	0.04t/m ³ 以上 0.06t/m ³ 未満
	0.06t/m ³ 以上 0.08t/m ³ 未満
	0.08t/m ³ 以上 0.10t/m ³ 未満
	0.10t/m ³ 以上 0.12t/m ³ 未満
	0.12t/m ³ 以上 0.14t/m ³ 未満

(注) 条件区分の鉄筋量は、ロスを含まない数量とする。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.15 逆T型擁壁 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m3／h	
	K 2	ジェットヒータ 126MJ／h (30,100kcal／h)	・ 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・ 賃料
	K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50／60Hz) 2.7／3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	とび工	一般, 特殊養生の場合
		特殊作業員	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W／C 55%	
	Z 2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋量が 0.04t/m3 以上 0.06t/m3 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19	鉄筋量が 0.06t/m3 以上 0.08t/m3 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	鉄筋量が 0.08t/m3 以上 0.10t/m3 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29	鉄筋量が 0.10t/m3 以上 0.12t/m3 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が 0.12t/m3 以上 0.14t/m3 未満の場合
	Z 3	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 4	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	

3-6 L型擁壁

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.16 L型擁壁 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

コンクリート規格	鉄筋量	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 3.3)	(表 3.14)	無し	無し	一般養生	(表 3.9)
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
		有り	無し	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	
			有り	一般養生	
				特殊養生 (練炭・ジェットヒータ)	
				仮囲い内 ジェットヒータ養生	

- (注) 1. 上表は、L型擁壁（擁壁平均高さ3.0m以上7.0m以下）のコンクリート、型枠（はく離剤塗布及びケレン作業含む）、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜きパイプ、吸出し防止材（点在）、養生（一般養生、特殊養生（練炭・ジェットヒータ）、仮囲い内ジェットヒータ養生）、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具（コンクリートバイブレータ、工事用水中モータポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等）の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、化粧型枠は含まない。
2. コンクリート・鉄筋の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.02、鉄筋が+0.03とする。
3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。
4. 化粧型枠については加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」により別途計上すること。
5. ペーラインコンクリートの材料費については、「3-9ペーラインコンクリート（材料費）」により別途計上すること。
6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工（ガス圧接工）」により別途計上する。
7. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。
9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑤-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.17 L型擁壁 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K 2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合 ・賃料
	K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	とび工 特殊作業員	一般, 特殊養生の場合 仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W/C 55%	
	Z 2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋量が 0.04t/m ³ 以上 0.06t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D19	鉄筋量が 0.06t/m ³ 以上 0.08t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D25	鉄筋量が 0.08t/m ³ 以上 0.10t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D29	鉄筋量が 0.10t/m ³ 以上 0.12t/m ³ 未満の場合
		鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D32	鉄筋量が 0.12t/m ³ 以上 0.14t/m ³ 未満の場合
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 4	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	

3-7 化粧型枠

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-2化粧型枠」による。

3-8 化粧型枠(材料費)

「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工3-3化粧型枠(材料費)」による。

3-9 ペーラインコンクリート(材料費)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.18 ペーラインコンクリート(材料費) 積算条件区分一覧
(積算単位:m³)

擁壁種類	コンクリート規格
小型擁壁	(表3.3)
重力式・もたれ式擁壁	
逆T型・L型擁壁	

- (注) 1. 施工費は、⑤-1 場所打擁壁工(1)の各種擁壁工の積算条件区分に含まれる。
 2. 上表は、場所打擁壁工におけるペーラインコンクリートの材料費(ロス等含む)を含む。
 3. ペーラインコンクリートのロス率は、次表を標準とする。

表3.19 ロス率

材料	擁壁種類	ロス率
ペーラインコンクリート	小型擁壁	+0.06
	重力式・もたれ式擁壁	+0.04
	逆T型・L型擁壁	+0.02

3-10 止水板設置

止水板が必要な場合は、別途計上する。

3-11 裏込碎石

裏込碎石が必要な場合は、「第Ⅱ編第2章②基礎・裏込碎石工, 基礎・裏込栗石工」により別途計上する。

4. 施工単価入力基準表

(1) 小型擁壁 (A)

パッケージコード		CB226311	施 工 単 位		m3
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	擁壁平均高さ	コンクリート 規格	基礎碎石 の有無	均しコンクリ ートの有無	養生工の種類
	①0.5m 以上 0.6m 未満	(表 4.1)	①無	①無	①一般養生・特殊養生 (練炭)
	②0.6m 以上 0.8m 未満		②有	②有	②特殊養生(ジェットヒータ)
	③0.8m 以上 1.0m 以下				③養生工無

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。
2. J 2条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. J 5条件で①, ②を選択した場合は各養生費が計上される。また、③を選択した場合は特殊養生(練炭, ジェットヒータ)以外の養生費を別途計上する。
4. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上する。
5. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート(材料費)(CB226370)により別途計上する。
6. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 2条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。

表4.1 コンクリート規格

コンクリート	入力番号	コンクリート	入力番号	コンクリート	入力番号
21-8-25(20)(普通)	①	24-8-40(普通)	⑥	24-8-40(高炉)	⑪
24-8-25(20)(普通)	②	21-8-25(20)(高炉)	⑦	21-8-25(早強)	⑫
27-8-25(20)(普通)	③	24-8-25(20)(高炉)	⑧	24-8-25(早強)	⑬
18-8-40(普通)	④	18-8-40(高炉)	⑨	18-8-25(高炉)	⑭
21-8-40(普通)	⑤	21-8-40(高炉)	⑩	Y-0210000(各種)	⑮

(2) 小型擁壁 (B)

パッケージコード		CB226310	施 工 単 位	m3	
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	擁壁平均高さ	コンクリート 規格	施工条件	基礎碎石の有無	均しコンクリート の有無
	①0.5m 以上 0.6m 未満 ②0.6m 以上 0.8m 未満 ③0.8m 以上 1.0m 以下	(表 4.1)	(表 4.2)	①無 ②有	①無 ②有

J 6	J 7	J 8
養生工の種類	ラフテレーンクレーン 賃料補正	クローラクレーン 賃料補正
①一般養生・特殊養生 (練炭) ②特殊養生 (ジェットヒータ) ③養生工無	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量（壁高欄等を除く）を入力すること。
2. J 2 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価（Y-0210000）[円/m³] を単価登録すること。
3. J 3 条件で①～④を選択した場合は、J 8 条件は入力する必要はない。また、⑤を選択した場合は、J 7 条件は入力する必要はない。
4. J 6 条件で①、②を選択した場合は各養生費が計上される。また、③を選択した場合は特殊養生（練炭・ジェットヒータ）以外の養生費を別途計上する。
5. J 7・J 8 条件で②を選択した場合は、ラフテレーンクレーン・クローラクレーンの賃料補正を実数入力（夜間補正）し、労務費調整係数も入力すること。
6. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上する。
7. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート（材料費）（CB226370）により別途計上する。
8. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 2 条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価（Y-0210000）[円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
9. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

表 4. 2 小型擁壁 (B) の施工条件区分

施工条件	入力番号
打設高 17m 以下・水平打設距離 17m 以下	①
打設高 25m 以下・水平打設距離 18m 以下	②
打設高 25m 以下・水平打設距離 20m 以下	③
打設高 28m 以下・水平打設距離 20m 以下	④
水平打設距離 30m 以下	⑤

(3) 重力式擁壁

パッケージコード		CB226320	施 工 単 位		m3
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	擁壁平均高さ	コンクリート 規格	基礎碎石 の有無	均しコンクリート の有無	養生工の種類
	①1mを超え 2m未満 ②2m以上 5m以下	(表 4.1)	①無 ②有	①無 ②有	①一般養生 ②特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生 ④養生工無

J 6
圧送管延長距離区分 ①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 5 条件の③は選択出来ない。
3. J 2 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
4. J 5 条件で①～③を選択した場合は、各養生費が計上される。また、④を選択した場合は①～③以外の養生費を別途計上する。
5. 表 3.10 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲 (30m) を超えない場合は、J 6 条件で①を選択する。
6. 作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 6 条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。
7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上する。
8. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート (材料費) (CB226370) により別途計上する。
9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 2 条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
10. J 5 条件③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工⑤－2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

(4) もたれ式擁壁

パッケージコード		CB226330	施 工 単 位		m3
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	
	コンクリート 規格	基礎碎石の有無 (厚さ 20 cm以下)	均しコンクリート の有無	養生工の種類	
	(表 4.1)	①無 ②有	①無 ②有	①一般養生 ②特殊養生（練炭・ジェットヒータ） ③仮囲い内ジェットヒータ養生 ④養生工無	

J 5
圧送管延長距離区分
①延長無し
②90m 未満
③90m 以上 180m 未満
④180m 以上 280m 以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. J 4 条件で①～③を選択した場合は、各養生費が計上される。また、④を選択した場合は①～③以外の養生費を別途計上する。
4. 表 3.12 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲 (30m) を超えない場合は、J 5 条件で①を選択する。
5. 作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 5 条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。
6. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上する。
7. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート (材料費) (CB226370) により別途計上する。
8. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
9. J 4 条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工⑤－2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

(5) 逆T型擁壁

パッケージコード		CB226340	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	コンクリート 規格	鉄筋量 区分	鉄筋工の労務補正 ①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける 場合(1.375)	基礎碎石 の有無 ①無 ②有
	(表 4.1)	(表 4.3)		

J 5	J 6	J 7
均しコンクリート の有無 ①無 ②有	養生工の種類 ①一般養生 ②特殊養生(練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生	圧送管延長距離区分 ①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. J 3 条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①－1 鉄筋工」による補正である。
4. J 3 条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。
5. 表 3.15 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 7 条件で①を選択する。
6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 7 条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。
7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1 型枠工3－2 化粧型枠」により別途計上する。
8. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート(材料費)(CB226370)により別途計上する。
9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
10. J 6 条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工⑤－2 雪寒仮囲い工」により別途計上する。

表 4.3 鉄筋量区分

鉄筋量区分	入力番号
0.04t/m ³ 以上 0.06t/m ³ 未満	①
0.06t/m ³ 以上 0.08t/m ³ 未満	②
0.08t/m ³ 以上 0.10t/m ³ 未満	③
0.10t/m ³ 以上 0.12t/m ³ 未満	④
0.12t/m ³ 以上 0.14t/m ³ 未満	⑤

(6) L型擁壁

パッケージコード	CB226350	施 工 単 位	m3	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	コンクリート 規格	鉄筋量 区分	鉄筋工の労務補正	基礎碎石 の有無
	(表 4.1)	(表 4.3)	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける 場合(1.375)	①無 ②有

J 5	J 6	J 7
均しコンクリート の有無	養生工の種類	圧送管延長距離区分
①無 ②有	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生	①延長無し ②90m未満 ③90m以上180m未満 ④180m以上280m以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量(壁高欄等を除く)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. J 3 条件は「第Ⅵ編第2章市場単価①－1鉄筋工」による補正である。
4. J 3 条件で夜間補正した場合は、労務費調整係数も入力すること。
5. 表 3.15 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 7 条件で①を選択する。
6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離をJ 7 条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。
7. 化粧型枠が必要な場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工3－2化粧型枠」により別途計上する。
8. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、ペーラインコンクリート(材料費)(CB226370)により別途計上する。
9. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で⑤各種を選択し、コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
10. J 6 条件で③を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工⑤－2雪寒仮囲い工」により別途計上する。

(7) ペーラインコンクリート (材料費)

パッケージコード	CB226370	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	擁壁種類	コンクリート規格	
	①小型擁壁 ②重力式・もたれ式擁壁 ③逆T型・L型擁壁	(表 4.1)	

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 2 条件で⑮を選択した場合は、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
3. コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で⑮各種を選択し、コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
4. 本コードによりペーラインコンクリート材料が計上される。なお、施工費は⑤－1 場所打擁壁工 (1) の各擁壁工施工パッケージ、「⑤－2 場所打擁壁工 (2)」のコンクリート (場所打擁壁) (CB226410) に含まれる。

⑤－２ 場所打擁壁工 (2)

1. 適用範囲

本資料は、場所打擁壁工（１）の適用範囲を外れた擁壁工（表１．１）のコンクリート打設に適用する。

表1.1 場所打擁壁工 (1) の適用範囲を外れた擁壁工

- ・重力式擁壁[擁壁平均高さ 5 mを超えるもの]
- ・もたれ式擁壁[擁壁平均高さ 1 mを超え 3 m未満のもの、あるいは 8 mを超えるもの]
- ・逆T型擁壁[擁壁平均高さ 1 mを超え 3 m未満のもの、あるいは 10 mを超えるもの]
- ・L型擁壁[擁壁平均高さ 1 mを超え 3 m未満のもの、あるいは 7 mを超えるもの]
- ・重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁以外の形式の現場打擁壁

1－1 適用出来る範囲

- (1) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 280m 以下の場合
- (2) 圧送コンクリートのスランプ値が 8～12cm、粗骨材の最大寸法が 40mm 以下の場合

2. 施工パッケージ

2－1 コンクリート（場所打擁壁）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 コンクリート(場所打擁壁) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表 2.2)	一般養生	延長無し
		90m未満
		90m以上 180m未満
		180m以上 280m以下
	特殊養生（練炭・ジェットヒータ）	延長無し
		90m未満
		90m以上 180m未満
		180m以上 280m以下
	仮囲い内ジェットヒータ養生	延長無し
		90m未満
		90m以上 180m未満
		180m以上 280m以下

- (注) 1. 上表は、場所打擁壁のコンクリート打設、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務、養生、圧送管組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、コンクリートパイプレータ損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.02）
3. ペーラインコンクリートの材料費については、「第Ⅱ編第2章⑤場所打擁壁工⑤－1 場所打擁壁工（１）」3－9ペーラインコンクリート（材料費）により別途計上する。
4. 作業範囲（30m）を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を 90m未満、90m以上 180m未満、180m以上 280m以下から該当する区分を選択する。
5. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断する。

表2.2 生コンクリート規格

積算条件	区分
生コンクリート規格	21-8-25(20) (普通)
	24-8-25(20) (普通)
	27-8-25(20) (普通)
	18-8-40(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20) (高炉)
	24-8-25(20) (高炉)
	18-8-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25 (早強)
	24-8-25 (早強)
	18-8-25(高炉)
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 コンクリート(場所打擁壁) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・賃料 ・仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	K3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W/C 55%	
	Z2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 型枠工

型枠工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。

2-3 足場工

足場工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑨-1足場工」により別途計上する。

2-4 その他

上記以外に必要なものについては、該当する各工種により別途計上する。

3. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート (場所打擁壁)

パッケージコード	CB226410	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分
	(表 3.1)	①一般養生 ②特殊養生 (練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生	①延長無し ②90m 未満 ③90m 以上 180m 未満 ④180m 以上 280m 以下

(注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない擁壁本体の設計コンクリート数量 (壁高欄等を除く) を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。

2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。

3. 生コンクリートの夜間割増しが必要な場合は、J 1 条件で⑤を選択し、生コンクリートの夜間材料単価 (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。

4. J 2 条件により各養生費が計上される。

5. 表 2.3 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲 (30m) を超えない場合は、J 3 条件で①を選択する。

6. 作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 3 条件の②、③及び④から選択する。

7. ペーラインコンクリートの材料費が必要な場合は、「第Ⅱ編第 2 章⑤場所打擁壁工⑤-1 場所打擁壁工 (1) (CB226370)」により別途計上する。

8. 本コードは特殊養生工 (仮囲い内ジェットヒータ養生) における発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

表3.1 生コンクリート規格

生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号
21-8-25(20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑥	24-8-40 (高炉)	⑪
24-8-25(20) (普通)	②	21-8-25(20) (高炉)	⑦	21-8-25 (早強)	⑫
27-8-25(20) (普通)	③	24-8-25(20) (高炉)	⑧	24-8-25 (早強)	⑬
18-8-40 (普通)	④	18-8-40 (高炉)	⑨	18-8-25 (高炉)	⑭
21-8-40 (普通)	⑤	21-8-40 (高炉)	⑩	Y-0210000 (各種)	⑮

⑥ プレキャスト擁壁工

1. 適用範囲

本資料は、次に示すプレキャスト擁壁の施工に適用する。

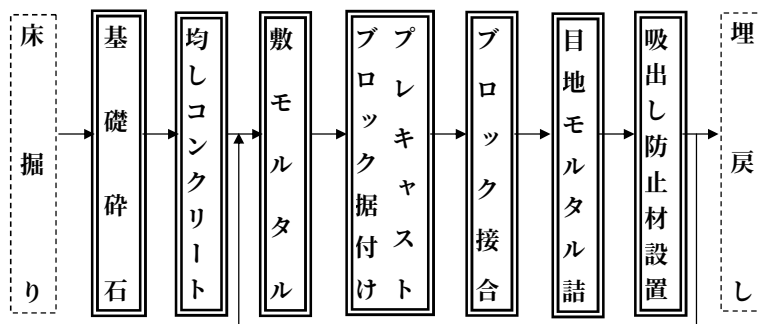
1-1 適用出来る範囲（以下の全ての条件に該当する場合）

- (1) 擁壁の形式：L型、逆T型、側溝付、天端勾配カット、ブロック分割型、嵩上品
※天端勾配カットとは製品天端を斜めにカットしたタイプ
※嵩上品とは嵩上コンクリート打継ぎ用に差筋を配したタイプ
- (2) 擁壁の高さ：0.5m以上5.0m以下
天端勾配カットは中央値、嵩上品はブロック高さ（差筋を含まない）とする。
- (3) ブロック単体の長さ：2.0m／個

2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 本施工パッケージには、撤去は含まれていない。

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト擁壁設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 プレキャスト擁壁設置 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

プレキャスト 擁壁高さ	基礎碎石の有無	均しコンクリートの有無
0.5m以上1.0m以下	有り	有り
		無し
	無し	有り
		無し
1.0mを超え2.0m以下	有り	有り
		無し
	無し	有り
		無し
2.0mを超え3.5m以下	有り	有り
		無し
	無し	有り
		無し
3.5mを超え5.0m以下	有り	有り
		無し
	無し	有り
		無し

- (注) 1. 上表は、プレキャスト擁壁設置，基礎碎石（敷設・転圧労務，材料投入・締固め機械運転経費，碎石等材料費），均しコンクリート（コンクリート・養生材料費，打設・養生労務，電力に関する経費，シュート，ホッパ，コンクリートバイブレータ損料），型枠（型枠材料費，型枠製作・設置・撤去労務，はく離剤塗布及びケレン），養生，ブロック接合，現場内小運搬（10m程度），敷モルタル，目地モルタル，吸出し防止材等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 基礎碎石の敷均し厚は，20 cm以下を標準としており，これにより難しい場合は，別途考慮する。
3. 養生は，養生材の被覆，散水養生，被覆養生程度のものであり，保温養生等の特別な養生を必要とする場合は，養生費を「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
4. パーラインコンクリートが必要な場合は，「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 プレキャスト擁壁設置 代表機労材規格一覧

プレキャスト 擁壁高さ	項目		代表機労材規格	備考
0.5m 以上 2.0m 以下	機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・ クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ） 吊能力 2.9t	賃料
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	土木一般世話役	
		R 3	特殊作業員	
		R 4	運転手（特殊）	
	材料	Z 1	コンクリート擁壁 宅認(q=10kN/m ²) 1000 型(L=2.0m)	プレキャスト擁壁高 さ 0.5m 以上 1.0m 以下 の場合
			コンクリート擁壁 宅認(q=10kN/m ²) 1600 型(L=2.0m)	プレキャスト擁壁高 さ 1.0m を超え 2.0m 以下の場合
		Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	
2.0m を超え 5.0m 以下	機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	土木一般世話役	
		R 3	特殊作業員	
		R 4	—	
	材料	Z 1	コンクリート擁壁 宅認(q=10kN/m ²) 2500 型(L=2.0m)	プレキャスト擁壁高 さ 2.0m を超え 3.5m 以下の場合
			コンクリート擁壁 ハイタッチウォール宅認 (q=10kN/m ²) 4250 型(L=2.0m)	プレキャスト擁壁高 さ 3.5m を超え 5.0m 以下の場合
		Z 2	—	
		Z 3	—	
		Z 4	—	
	市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) プレキャスト擁壁設置

パッケージコード	CB222110	施工単位	m	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	プ レ キ ャ ス ト 擁 壁 高 さ	基礎碎石 の 有 無	均しコンクリート の 有 無	ラフテレーン ク レ ー ン 賃料補正係数
	①0.5m 以上 1.0m 以下			①標準
	②1.0m を超え 2.0m 以下			②標準以外
	③2.0m を超え 3.5m 以下	①有り	①有り	(実数入力)
	④3.5m を超え 5.0m 以下	②無し	②無し	

- (注) 1. コンクリート擁壁単価 (Y-0280000) [円/個] を単価登録すること。ブロックは 2.0m/個とする。
2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。
3. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。
4. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また、バックホウの普通型機種 (排出ガス未対策型)、排出ガス対策型 (第1次基準値) 及び排出ガス対策型 (第2次基準値) についても適用出来る。

⑦ 補強土壁工 (帯鋼補強土壁, アンカー補強土壁)

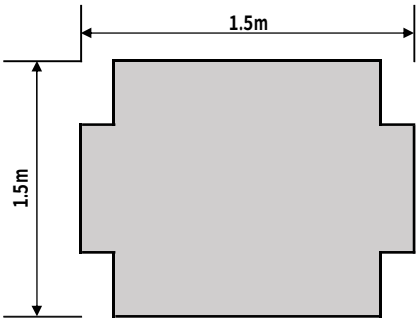
1. 適用範囲

本資料は、補強土壁工（帯鋼補強土壁（１）・帯鋼補強土壁（２）・アンカー補強土壁）において、コンクリート製壁面材（帯鋼補強土壁においては、薄型壁面材含む）によるものに適用する。なお、鋼製壁面材には適用しない。
帯鋼補強土壁（１）・帯鋼補強土壁（２）・アンカー補強土壁の標準仕様を表１．１に示す。

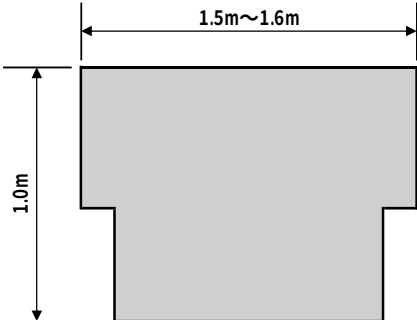
表1.1 帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の仕様

工 種	帯鋼補強土壁		アンカー補強土壁
	帯鋼補強土壁（１）	帯鋼補強土壁（２）	
標準壁面形状	十字型の 1.5m×1.5m （高さ×長さ）	長方形の 1.2m×2.7m （高さ×長さ）	1.0m×1.5～1.6m （高さ×長さ）
補 強 材	ストリップ幅：60～80 mm	ストリップ幅：80 mm	SS400 規格, SS490 規格
壁 面 材 強 度	コンクリート設計基準強度： 21～30N/mm2	コンクリート設計基準強度： 30N/mm2	コンクリート設計基準強度： 30N/mm2, 40N/mm2
盛 土	1 層仕上り高さ：25 cm	1 層仕上り高さ：30 cm	1 層仕上り高さ：25 cm

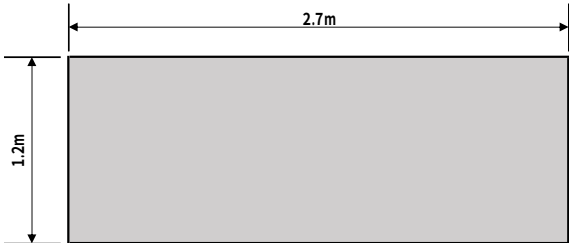
参考図. 各工種の標準壁面形状



帯鋼補強土壁（１）正面図



アンカー補強土壁 正面図

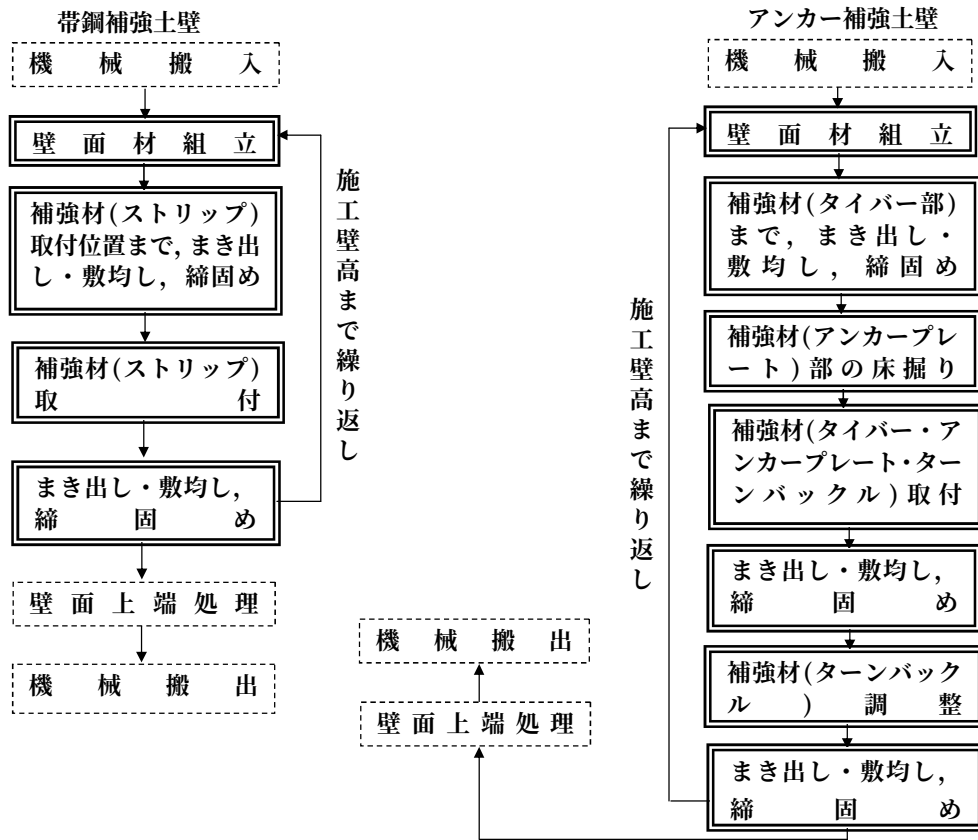


帯鋼補強土壁（２）正面図

(注) 1. 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である。
2. 本施工パッケージは、壁面最上段部（ハーフ）、最下段部（ハーフ）、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用出来る。

2. 施 工 概 要

施工フローは下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 補強土壁壁面材組立・設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 補強土壁壁面材組立・設置 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

工法区分
帯鋼補強土壁 (1)
帯鋼補強土壁 (2)
アンカー補強土壁

- (注) 1. 上表は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)の壁面材の組立・設置、水平目地材、透水防砂材、ボルト・ナットの設置の他、クランプ、定規、ワイヤ、吊金具、カップラー、くさび、スペーサー、角材、支柱等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、補強土壁壁面材(材料費)は含まない。
2. 補強土壁壁面材の材料費は別途計上する。
3. 基礎コンクリートについては、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。
4. 現場条件により表3.2に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。
5. 排水管が必要な場合は別途計上する。
6. 足場が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 補強土壁壁面材組立・設置 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ブルドーザ〔湿地・排出ガス対策型(第2次基準値)〕7t級	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)〕 山積0.5m ³ (平積0.4m ³) 吊能力2.9t	賃料
	K 3	振動ローラ(舗装用)〔搭乗・コンパインド式・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 運転質量3～4t	賃料
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 補強土壁壁面材(材料費)

(1) 条件区分

補強土壁壁面材(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

(注) 材料費には、水平目地材、透水防砂材、ボルト・ナット等を含む。

3-3 補強材取付

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 補強材取付 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

工法区分
帯鋼補強土壁 (1)
帯鋼補強土壁 (2)
アンカー補強土壁

(注) 1. 上表は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)の補強材の取付け、結合作業の他、アンカー補強土壁におけるターンバックルの設置・調整等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、補強材(材料費)は含まない。

2. 補強材の材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 補強材取付 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 補強材(材料費)

(1) 条件区分

補強材(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

(注) 材料費には、アングル、ターンバックル、アンカープレート等を含む。

3-5 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 まき出し・敷均し、締固め 積算条件区分一覧
(積算単位：m3)

工法区分
帯鋼補強土壁 (1)
帯鋼補強土壁 (2)
アンカー補強土壁

- (注) 1. 上表は、補強土壁工(帯鋼補強土壁(1)・帯鋼補強土壁(2)・アンカー補強土壁)のまき出し、敷均し、締固めの他、振動ローラ(舗装用・ハンドガイド式)、タンパの運転経費等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 施工量の範囲は、壁面上端までと補強材後部までの盛土を対象とする(参考図参照)。
3. 現場条件により表3.6に示す代表機械の規格により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 まき出し・敷均し、締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ブルドーザ [湿地・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 7t 級	賃料
	K 2	バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・ 排出ガス対策型 (第3次基準値)] 山積 0.5m3 (平積 0.4m3) 吊能力 2.9t	賃料
	K 3	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・ 排出ガス対策型 (第2次基準値)] 運転質量 3~4t	賃料
労務	R 1	運転手 (特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 排水管敷設工

排水管敷設工を施工する場合は、「第Ⅱ編第2章⑩-1 排水構造物工」暗渠排水管により別途計上する。

3-7 壁面上端処理工

壁面上端処理を施工する場合は、下記による。

(1) コンクリート工

「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

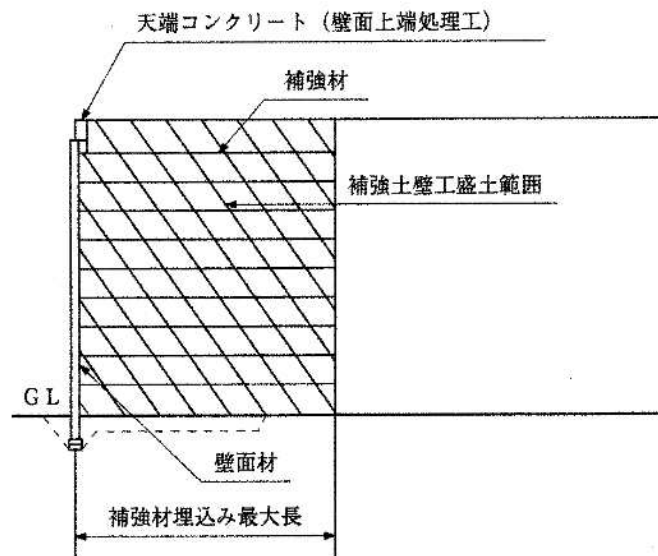
(2) 型枠工

「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。

(3) 鉄筋工

鉄筋工は「第Ⅵ編第2章①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

[参考図]



補強土壁工標準断面図

(注) 天端コンクリート施工等の足場については、別途考慮する。

4. 施工単価入力基準表

(1) 補強土壁壁面材組立・設置

パッケージコード	CB222210	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		J 2
	工法区分		ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①帯鋼補強土壁 (1) ②帯鋼補強土壁 (2) ③アンカー補強土壁		①標 準 ②標準以外

- (注) 1. 基礎コンクリートは、別途計上すること。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. ラフテレーンクレーンは、低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 4. バックホウは、低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)、排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

(2) 補強土壁壁面材(材料費)

パッケージコード	CB222211	施 工 単 位	m2

- (注) 壁面材単価(Y-0383000) [円/m²] を単価登録すること。なお、単価には、水平目地材、透水防砂材、ポルト・ナット等を含んだ単価を入力すること。

(3) 補強材取付

パッケージコード	CB222220	施 工 単 位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	工法区分		
	①帯鋼補強土壁 (1) ②帯鋼補強土壁 (2) ③アンカー補強土壁		

(4) 補強材(材料費)

パッケージコード	CB222221	施 工 単 位	m

- (注) 補強材単価(Y-1693001) [円/m] を単価登録すること。なお、単価には、アングル、ターンバックル、アンカープレート等を含んだ単価を入力すること。

(5) まき出し・敷均し、締固め

パッケージコード	CB222230	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	工法区分		
	①帯鋼補強土壁 (1) ②帯鋼補強土壁 (2) ③アンカー補強土壁		

- (注) 1. バックホウは、普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第 1 次基準値）及び排出ガス対策型（第 2 次基準値）についても適用出来る。
2. ブルドーザは、普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第 1 次基準値）についても適用出来る。
3. 振動ローラは、普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第 1 次基準値）についても適用出来る。
4. 施工量の範囲（別図参照）は、壁面材上端までと補強材後部までの盛土を対象とする。

⑧ ジオテキスタイル工

1. 適用範囲

本資料は、ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) 鋼製ユニットの場合

1-1-2 ジオテキスタイル敷設、まき出し・敷均し、締固め

(1) ジオテキスタイル工1段当りの施工高さが1.5mまでの場合

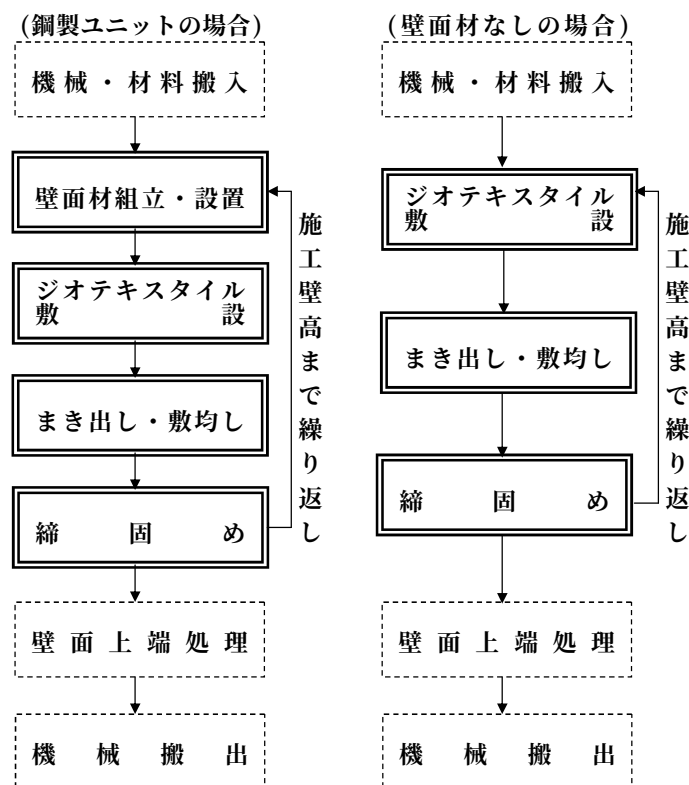
1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) 壁面材が、コンクリートパネル形式、コンクリートブロック形式、土のう（植生土のうを含む）及び植生マットの場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージに対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置

(1) 条件区分

ジオテキスタイル壁面材組立・設置に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工の壁面材の組立・設置、吸出し防止材の設置等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、ジオテキスタイル壁面材（材料費）及び吸出し防止材の材料費は含まない。
2. ジオテキスタイル壁面材及び吸出し防止材の材料費は別途計上する。
3. 適用される壁面材の種類は、表3. 2のとおりとする。
4. 施工量は、直面積（壁高×施工延長）とする（図3-1 参考図参照）。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 1 ジオテキスタイル壁面材組立・設置 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

表3. 2 壁面材の種類

壁面材種類	規 格		備 考
	幅 (mm)	一層当り施工高	
鋼製ユニット	2,000	500mm 以下	タイプ A
	2,000	600mm 以下	タイプ B
	1,000	600mm 以下	タイプ C
	1,200	600mm 以下	タイプ D

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

3-2 ジオテキスタイル壁面材（材料費）

(1) 条件区分

ジオテキスタイル壁面材（材料費）に積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 壁面材の材料使用量は、「4. 参考資料」を参考に m^2 当り数量を算出する。

3-3 ジオテキスタイル敷設

(1) 条件区分

ジオテキスタイル敷設に積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- (注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のジオテキスタイルの敷設（ジオテキスタイル巻込み作業含む）の他、ジオテキスタイル敷設に使用する杭、ハンマ、バール、結束線等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、ジオテキスタイル（材料費）は含まない。
2. ジオテキスタイルの材料費は別途計上する。
3. ジオテキスタイルの敷設面積の算出については、次式の通りとする。

ジオテキスタイル敷設面積（㎡）＝a 1 ＋a 2 ＋a 3……

a 1, a 2, a 3……：ジオテキスタイル工1段当り敷設面積（㎡）（図3-1 参考図参照）

4. ジオテキスタイル工1段当り敷設面積には、壁面補強材の面積も含み、巻込み部の面積は含まないものとする。

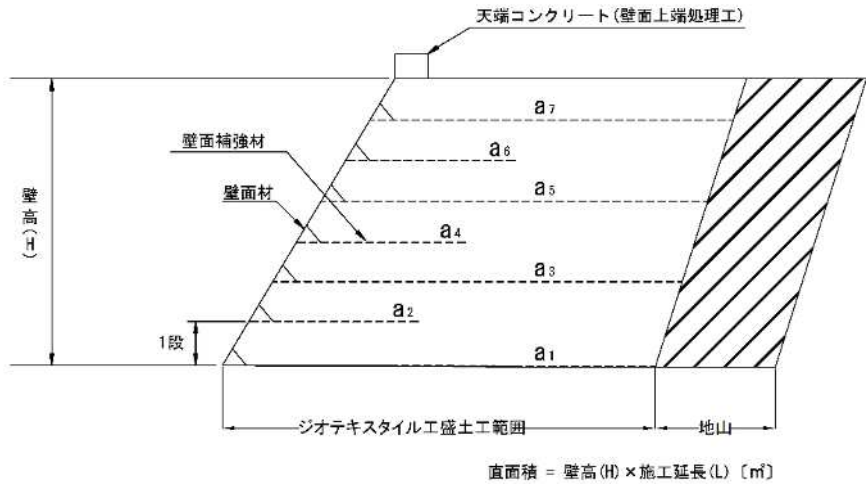


図3-1 ジオテキスタイル工標準断面図 (参考図)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 ジオテキスタイル敷設 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 まき出し・敷均し、締固め

(1) 条件区分

まき出し・敷均し、締固めに積算条件区分はない。

積算単位、m³とする。

- (注) 1. ジオテキスタイルを用いた補強土壁工及び盛土補強工のまき出し、敷均し・締固め、水平排水材、層厚管理材の設置の他、振動ローラ（ハンドガイド式）、タンバ及びランマの運転経費等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、水平排水材、層厚管理材及び盛土材の材料費は含まない。
2. 水平排水材、層厚管理材の材料費は別途計上する。
3. ジオテキスタイル工1段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用する。
4. ジオテキスタイル盛土工範囲（図3-1参考図参照）の盛土材については、必要に応じて別途計上する。
5. 現場発生土の粒径処理等が必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 まき出し・敷均し、締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 山積0.5m ³ （平積0.4m ³ ）	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手（特殊）	
材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 ジオテキスタイル（材料費）

(1) 条件区分

ジオテキスタイル（材料費）に積算条件区分はない。

積算単位は、m²とする。

- (注) 施工量は、巻込み部、重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積を計上する。

3-6 排水管敷設工

排水管敷設工を施工する場合は、「第II編第2章⑩-1排水構造物工」暗渠排水管により別途計上する。

3-7 壁面上端処理工

壁面上端処理工を施工する場合は、下記による。

(1) コンクリート工

「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

(2) 型枠工

「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。

(3) 鉄筋工

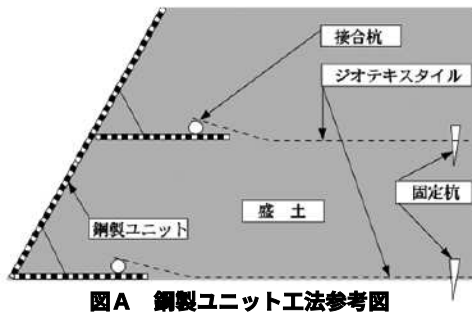
「第Ⅵ編第2章①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

(4) 足場工

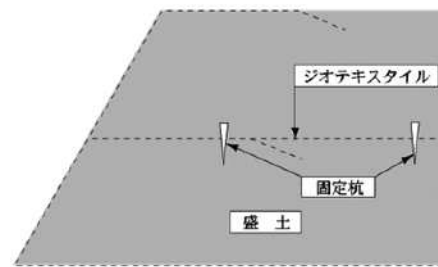
「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」により別途計上する。

4. 参 考 資 料

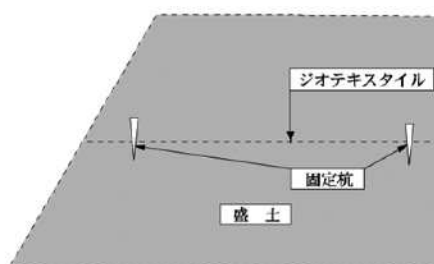
4-1 施工法(工法)参考図



図A 鋼製ユニット工法参考図



図B 巻込み工法(壁面材なし)参考図



図C 普通敷設工法(壁面材なし)参考図

表4.1 施工法別施工パッケージ適用表

施工法(工法)	適 用	
	壁 面 材 設 置 ・ 組 立	ジオテキスタイル敷設 まき出し・敷均し、締固め
鋼製ユニット工法 図A	○	○
巻込み工法 (壁面材なし) 図B	×	○
普通敷設工法 (壁面材なし) 図C	×	○

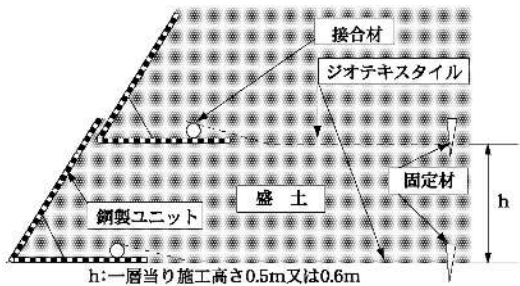
4－2 壁面材使用量

壁面材の実面積（直面積）100m² 当り鋼製ユニット使用量は、次表を参考とする。

表4. 2 鋼製ユニット標準使用量

(直面積) 100m² 当り

壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数 量	標準図
鋼製ユニット	タイプ A	500 mm以下	個	100	図①
	タイプ B	600 mm以下		83	
	タイプ C	600 mm以下		167	
	タイプ D	600 mm以下		139	



図① 鋼製ユニット施工数量標準図

5. 施工単価入力基準表

(1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置

パッケージコード	CB222240	施工単位	m2

(2) ジオテキスタイル壁面材（材料費）

パッケージコード	CB222241	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	m2 当り規格別使用量		
	(個/m2) (実数入力)		

(注) 1. 鋼製ユニットタイプ別単価 (Y-0570000) [円/個] を単価登録すること。

2. J 1 条件の使用量は, 「4. 参考資料」を参考にする。

(3) ジオテキスタイル敷設

パッケージコード	CB222260	施工単位	m2

(注) 施工量は, ジオテキスタイル敷設面積 (「3-3 ジオテキスタイル敷設の注3参照」) を計上する。

(4) まき出し・敷均し, 締固め

パッケージコード	CB222270	施工単位	m3

(注) 1. ジオテキスタイル工盛土工範囲 (「3-3 ジオテキスタイル敷設」の図3-1 参考図参照) の盛土材については, 別途計上する。

2. 本コードは, バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。また, バックホウの普通型機種 (排出ガス未対策型), 排出ガス対策型 (第1次基準値) 及び排出ガス対策型 (第2次基準値) についても適用出来る。

(5) ジオテキスタイル (材料費)

パッケージコード	CB222250	施工単位	m2

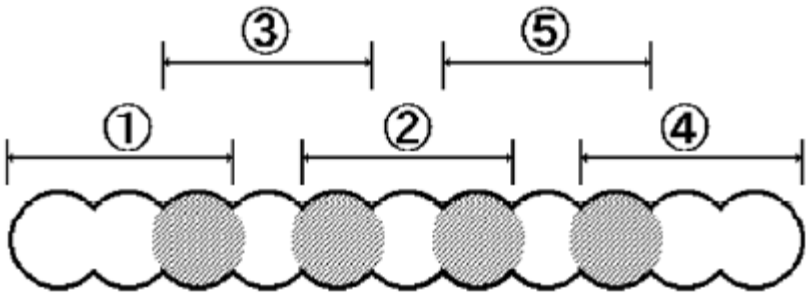
(注) 1. 施工量は, 巻込み部, 重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積を計上する。

2. ジオテキスタイル単価 (Y-0572000) [円/m2] を単価登録すること。

⑨ 連続地中壁工 (柱列式)

1. 適用範囲

本資料は、クローラ式アースオーガ（アースオーガ三軸式）で施工する連続地中壁工（柱列式）のうち、連続方式（先行削孔併用方式は除く）の施工に適用する。（ただし、施工物は立杭・土留め壁・止水壁のみに適用）対象とする掘削径はφ550mmとφ600mm、掘削深度は45mまで、また、土質は、砂質土・レキ質土及び粘性土とし、それ以外の掘削径、掘削深度、土質については適用しない。



(参考) 連続方式 (先行削孔併用方式は除く) の造壁手順

造壁は、連続性の確保及び鉛直精度の維持のため、原則として各セットの端部を、完全にラップさせて施工する。
上図に、連続方式（標準）の造壁手順を示すが、斜線部は、完全にラップさせる柱、数字は、造壁順序を示している。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

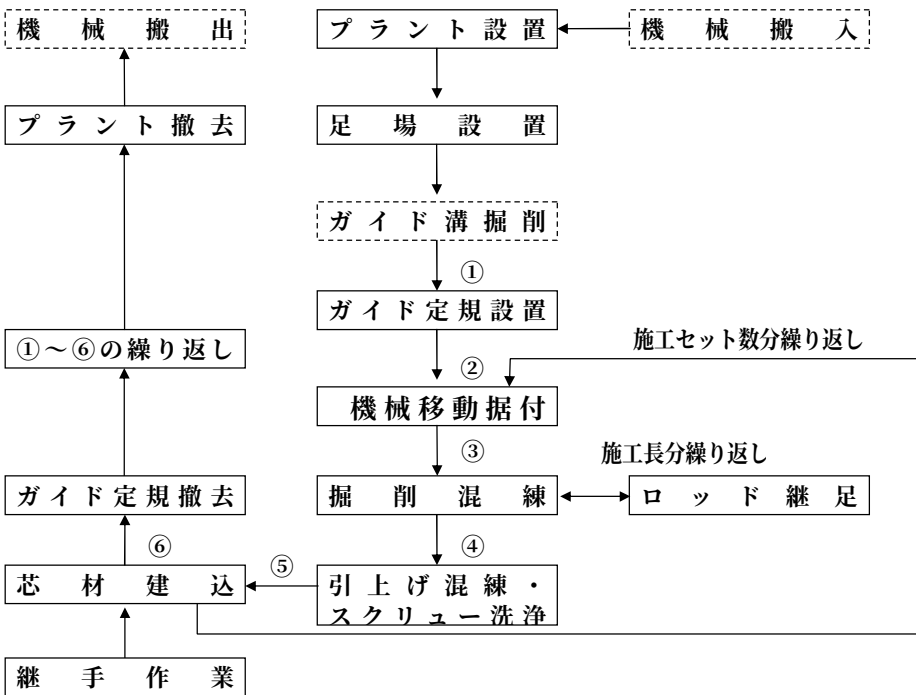


図2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式アースオーガ	三軸式・直結三点支持式 オーガ出力90kW リーダ長21～33m 掘削径400～800mm	台	1	(注) 1
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 50t吊	〃	1	(注) 2
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	〃	1	掘削混練時の 泥土除去作業 (注) 2
全自動モルタルプラント	能力24m ³ /h	基	1	

(注) 1. クローラ式アースオーガ(三軸式・直結三点支持式)は90kWを標準とするが、現場条件等により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

2. クローラクレーン及びバックホウは賃料とする。

4. 編 成 人 員

連続地中壁作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	と	び	工	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員
1		2		1	1

5. 施 工 歩 掛

5-1 連続壁10セット当り施工日数(Td)

連続壁施工の10セット当りの施工日数は、次式による。

$$Td = Ts + Tm + Ti$$

Td : 連続壁10セット当り施工日数(日/10セット)

Ts : 連続壁10セット当り準備日数等(日/10セット)

Tm : 連続壁10セット当り掘削混練日数(日/10セット)

Ti : 連続壁10セット当り芯材建込日数(日/10セット)

5-1-1 連続壁10セット当り準備日数等(Ts)

準備日数等は、準備(整備足場設置、掘削機移動据付、芯出し)、ロッド継足、ターニングの日数で、次表を標準とする。

表5.1 連続壁10セット当り準備日数等(Ts) (日/10セット)

準 備 日 数 等	0.87+0.52n _s

(注) n_s: ロッド(3軸1組)継足回数(1セット当り)

5-1-2 連続壁 10 セット当り掘削混練日数 (Tm)

$$Tm = \Sigma (\gamma \cdot \ell) \text{ (日/10セット)}$$

γ : N値別10m当り掘削混練日数 (日/10m)

(引上げ混練日も含む)

ℓ : 1セット当りのN値別掘削長 (m/セット)

表5.2 N値別10m当り掘削混練日数 (γ) (日/10m)

N値	掘削径 (mm)	土質		粘 性 土	
		砂質土・レキ質土			
		550	600	550	600
	15未満	0.06		0.07	
	15以上30未満	0.07		0.09	
	30以上45未満	0.08		0.10	
	45以上	0.09		0.11	

5-1-3 連続壁10セット当り芯材建込日数 (吊込日数も含む) (Ti)

連続壁10セット当り芯材建込日数 (吊込日数も含む) は、次表を標準とする。

表5.3 連続壁10セット当り芯材建込日数 (日/10セット)

全 数 建 込 む 場 合	$0.98 + 0.98 \cdot n$
1 本 お き に 建 込 む 場 合	$0.49 + 0.49 \cdot n$

n : 1本当りの継手箇所数

(注) 継手はボルト継ぎとする。ただし、上空制限のない場合、芯材の
接続作業の可能なスペースがある場合は $n = 0$ とする。

なお、継手を溶接で行う場合は、別途考慮する。

5-2 1セット当り混練材使用量 (Q)

$$Q = 0.47 \cdot L \text{ (m}^3\text{/セット)}$$

L : 掘削混練長 (m)

混練材 (セメント系懸濁液) の配合例

混練材 (セメント系懸濁液) 1 m³当りの標準的な配合例を以下に示すが、配合の決定は現場条件を考慮して行う。

表5.4 混練材 (セメント系懸濁液) の配合 (例) (1 m³ 当り)

土 質	材 料			適用条件
	水 (ℓ)	セメント (kg)	ベントナイト (kg)	
細砂混りシルト 及び砂質土 (小レキ含む)	868.5	394.8	14.1	○砂質土を主体とする地盤では細粒分割率が20%以上
砂レキ (レキ径35mm以下)	864.9	393.1	23.6	
粘性土 (シルト混り粘土, 粘土混りシルト)	871.4	396.1	6.6	○増粘剤を必要としない地盤

(注) 1. 1 m³ 当りとは、懸濁液のみの数量であり、造壁に必要な土は含まないものである。

2. セメントとは、ポルトランドセメント、高炉セメント、その他のセメント系固化材をいう。

3. 増粘剤とは、地下水の浸透を遮断し、壁を安定させる等の効果を目的として、セメント系懸濁液に加えて使用する添加剤をいう。

5-3 泥土（混練土等）処理

泥土（混練土等）処理に要する費用は、別途計上する。

5-4 運転日数

連続壁10セットの施工に要する各機械の運転日数は、下記とする。

5-4-1 掘削機・モルタルプラントの運転日数（Tk）

$$T_k = T_d - T_i$$

Td：連続壁10セット当り施工日数（日／10セット）

Ti：連続壁10セット当り芯材建込日数（日／10セット）

5-4-2 バックホウ・クローラクレーンの運転日数は、Tdとする。

5-5 諸雑費

諸雑費は、電力に関する経費（掘削機用・モルタルプラント用等の運転経費）、高圧洗浄機（攪拌スクリーワー洗浄用）の損料、セメントサイロ、空気圧縮機（掘削混練の補助用）、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、ガイド定規材及び定規受材の賃料と連結装置及び超硬チップの損耗費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.5 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	20

6. ガイド設置・撤去

ガイドはガイド定規とし、連続壁施工長に対する設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表6.1 設置・撤去歩掛 (10m当り)

名 称	規 格	単位	設置・撤去
特 殊 作 業 員		人	0.11
普 通 作 業 員		〃	0.24
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 50t吊	日	0.09

- (注) 1. ガイド定規は定規材と定規受材とし、定規材はH形鋼のH300×300、定規受材はH形鋼のH200×200であり、設置本数は、それぞれ2本を標準とする。
 2. ガイド溝掘削については、「第Ⅱ編第1章②土工」により別途計上する。
 3. クローラクレーンは、賃料とする。

7. プラント設置・撤去

プラント設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 設置・撤去歩掛 (1基当り)

名 称	規 格	単位	設置・撤去
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0
特 殊 作 業 員		〃	2.5
普 通 作 業 員		〃	4.2
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 50t吊	日	1.3

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

8. 単 価 表

(1) 連続壁10セット当り単価表

施工歩掛コード WB222310				
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	Td×1	表4.1, 5-1
と び 工		//	Td×2	//
特 殊 作 業 員		//	Td×1	//
普 通 作 業 員		//	Td×1	//
芯 (H形鋼材)		本	10 20	全数時
混 練 材		m ³	10×Q	5-2
クローラ式アース オーガ運転	三軸式・直結三点支持式 オーガ出力90kW リーダ長21～33m 掘削径400～800mm	日	Tk	5-4 機械損料
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50t吊	//	Td	5-1 機械賃料
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	//	Td	5-1 機械賃料
全自動モルタル プラント運転	能力24m ³ /h	//	Tk	5-4 機械損料
攪拌スクリュウ	6.75m	//	Tk×3×n1	機械損料 数量は所要数量を 計上し所要数量分 の日当り単価とする 機械損料数量→ 1.5
攪拌ヘッド		//	Tk×3	
攪拌ロッド		//	Tk×3×n2	
諸 雑 費		式	1	表5.5
計				

(注) Td：連続壁10セット当り施工日数
 Q：1セット当り混練材使用量
 Tk：掘削機・モルタルプラントの運転日数
 n1：1軸当りの攪拌スクリュウ本数
 n2：1軸当りの攪拌ロッド本数

(2) 混練材1セット当り単価表(配合が標準の場合)

施工歩掛コード WB222370				
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
セ メ ン ト		kg		表5.4
ベ ン ト ナ イ ト		//		//
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 混練材1セット当り単価表(配合が標準以外の場合)

施工歩掛コード WB222370				
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
混 練 材		kg		
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) ガイド設置・撤去10m当り単価表

		施工歩掛コード			WB222320
名 称	規格	単位	数量	摘 要	
特 殊 作 業 員		人		表6.1	
普 通 作 業 員		〃		〃	
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50t吊	日		表6.1 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(5) プラント設置・撤去1基当り単価表

		施工歩掛コード			WB222330
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表7.1	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50t吊	日		表7.1 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ	三軸式・直結三点支持式 オーガ出力90kW リーダ長21～33m 掘削径400～800mm	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→68 機械損料数量→ 1.50
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50t吊	機－27	燃料消費量→59 機械賃料数量→ 1.00
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機－28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→59 機械賃料数量→ 1.40
全自動モルタルプラント	能力24m ³ /h	機－25	機械損料数量→ 1.50

9. 施工単価入力基準表

(1) 連続壁

施工歩掛コード		WB222310		施工単位		セット	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	
	掘 削 径	1セット当り ロッド継足回数	1セット当り N値別掘削長 (砂質土・ レキ質土) N < 15 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (砂質土・ レキ質土) 15 ≤ N < 30 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (砂質土・ レキ質土) 30 ≤ N < 45 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (砂質土・ レキ質土) 45 ≤ N (m) (実数入力)	
	① 550mm ② 600mm						
		J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
		1セット当り N値別掘削長 (粘性土) N < 15 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (粘性土) 15 ≤ N < 30 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (粘性土) 30 ≤ N < 45 (m) (実数入力)	1セット当り N値別掘削長 (粘性土) 45 ≤ N (m) (実数入力)	1セット当り 芯材建込 ①全数建込 ②1本おきに 建込	1本当り 芯材継手箇所数 (箇所) (実数入力)
		J 13	J 14	J 15	J 16	J 17	J 18
		1本当り 芯材(H形鋼) 質 量 (kg /本) (実数入力)	1軸当り 攪拌スクリュー 必要本数 6.75m／本 (本) (実数入力)	1軸当り 攪拌ロッド 必要本数 6.75m／本 (本) (実数入力)	1軸当り 攪拌ロッド 必要本数 3.0m／本 (本) (実数入力)	1軸当り 攪拌ロッド 必要本数 2.0m／本 (本) (実数入力)	J 19
							クローラ クレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. H形鋼単価 (Y-0008000) [円/t] を単価登録すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは、クローラ式アースオーガ、バックホウ、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

4. 本コードは、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

5. 芯材の建込みに際して上空制限がなく、芯材の接続作業の可能スペースがある場合は、J12条件は0を入力すること。

(2) 混練材

施工歩掛コード		WB222370	施工単位	セット		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	
	混練材配合	掘削混練長	土質区分	セメント種類	1セット当り 混練材使用量	
	①標準 ②標準以外	(m) (実数入力)	(表9.1)	(表9.2)	(kg /セット) (実数入力)	

(注) 1. J1条件で①を選択した場合は、J5条件は選択する必要はない。また、ベントナイト単価 (Y-1630000) [円/t] を単価登録すること。

2. J4条件で③を選択した場合は、セメント単価 (Y-0200000) [円/t] を単価登録すること。

3. J1条件で②を選択した場合は、J2～J4条件は選択する必要はない。また、混練材単価 (Y-0552000) [円/kg] を単価登録すること。

表9.1 土質区分

区 分	入力番号
細砂混りシルト 及び砂質土	①
砂レキ	②
粘性土	③

表9.2 セメント種類

区 分	入力番号
普通ポルトランド セメント	①
高炉セメント	②
Y-0200000 (各種)	③

(3) ガイド設置・撤去

施工歩掛コード	WB222320	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. クローラクレーン賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. ガイド溝掘削については、「第Ⅱ編第1章土工」により別途計上すること。
 3. 本コードは、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(4) プラント設置・撤去

施工歩掛コード	WB222330	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. クローラクレーン賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

⑩ 排水構造物工

⑩－１ 排水構造物工

1. 適用範囲

本資料は、プレキャスト製排水構造物の据付け、撤去、据付け・撤去作業に適用する。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 ヒューム管（B形管）

- （１）ヒューム管，B形管（ソケット管）の据付け，撤去，据付け・撤去の場合
- （２）ヒューム管，B形管（ソケット管）を仮設に使用する場合

1－1－2 ボックスカルバート

- （１）1ブロックを1部材で構成するプレキャスト製ボックスカルバート（内空断面が台形タイプの物を含む）の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－3 暗渠排水管

- （１）硬質塩化ビニル管，ポリエチレン管等の有孔・無孔管の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－4 フィルター材

- （１）暗渠排水管の敷設に伴うフィルター材（クラッシュラン・単粒度碎石等）の敷設の場合

1－1－5 管（函）渠型側溝

- （１）車道部，歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－6 プレキャスト集水桝

- （１）プレキャスト製集水桝の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－7 鉄筋コンクリート台付管

- （１）管断面の内側の形状が円形又は卵形であって，かつ，管断面の外側の下部もしくは上下部の一部がフラットになっている（管断面の外側の形状が方形もしくは六角形になっているものを含む）プレキャスト製鉄筋コンクリート台付管の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－8 プレキャストL形側溝

- （１）プレキャスト製L形側溝の据付け，撤去，据付け・撤去の場合

1－1－9 プレキャストマンホール

- （１）プレキャスト製マンホールの据付け，撤去，据付け・撤去の場合
- （２）プレキャスト製マンホールの内径が1,500mm 以下の場合

1－1－10 PC管

- （１）PC管の据付け，撤去，据付け・撤去の場合
- （２）PC管を仮設に使用する場合

1－1－11 コルゲートパイプ

- （１）コルゲートパイプの据付け，撤去，据付け・撤去の場合
- （２）コルゲートパイプを仮設に使用する場合

1－1－12 コルゲートフリューム

- （１）コルゲートフリュームの据付け，撤去，据付け・撤去の場合
- （２）コルゲートフリュームを仮設に使用する場合

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 ヒューム管 (B形管)

- (1) 巻きコンクリート (固定基礎) を含む撤去, 据付け・撤去の場合

1-2-2 ボックスカルバート

- (1) グラウトを使用しないPCアンボンドケーブル等による施工の場合
(2) 製品長 1.0m/個で縦締めを行う場合
(3) 曲線部における縦締め施工の場合

1-2-3 暗渠排水管

- (1) 持上げ高が 2 m 以上の場合
(2) 埋設を行わない地上露出配管の敷設の場合

1-2-4 フィルター材

- (1) 暗渠排水管の敷設を行わない場合

1-2-5 管 (函) 渠型側溝

- (1) 土中に全体埋設される場合

1-2-6 プレキャスト集水桝

- (1) 質量 80 kg/基以下で, 持上げ高が 2 m 以上の場合

1-2-7 プレキャストマンホール

- (1) 円形断面以外の基礎碎石の場合

1-2-8 PC管

- (1) 巻きコンクリート (固定基礎) を含む撤去, 据付・撤去の場合

1-2-9 コルゲートパイプ

- (1) 持上げ高が 2 m 以上の場合
(2) 規格が「フランジ型」で型式が「アーチ形」の場合

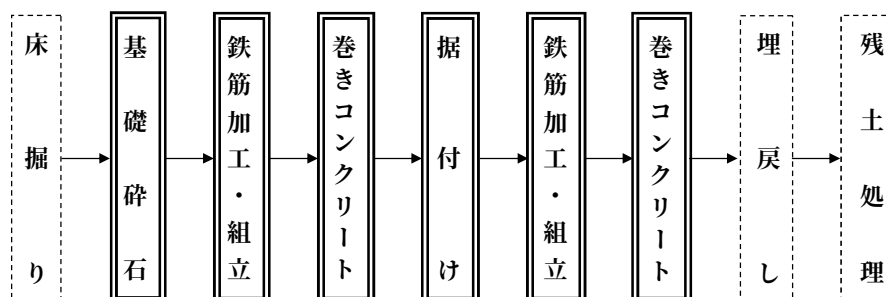
1-2-10 コルゲートフリューム

- (1) 持上げ高が 2 m 以上の場合

2. 施 工 概 要

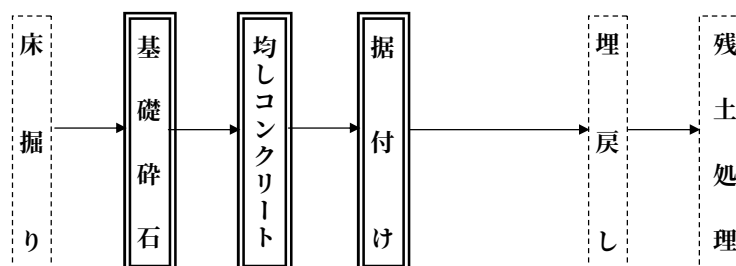
施工フローは、下記を標準とする。

(1) ヒューム管（B形管）



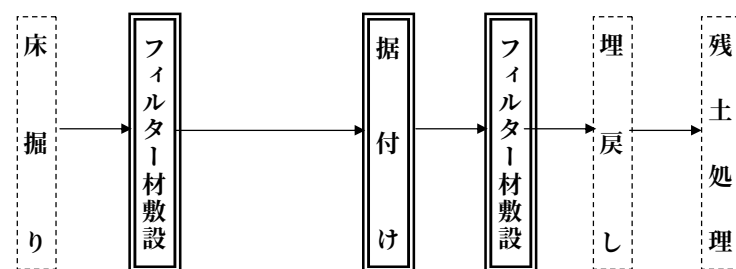
- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 基礎砕石、巻きコンクリートは、必要に応じて計上する。
 3. コンクリートの養生は、特殊な養生にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。
 4. 鉄筋加工・組立は、巻きコンクリートが 360° 巻きの場合のみ計上する。

(2) ボックスカルバート



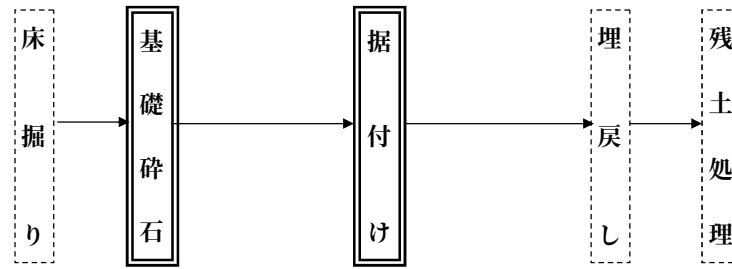
- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 基礎砕石、均しコンクリートは、必要に応じて計上する。

(3) 暗渠排水管、フィルター材



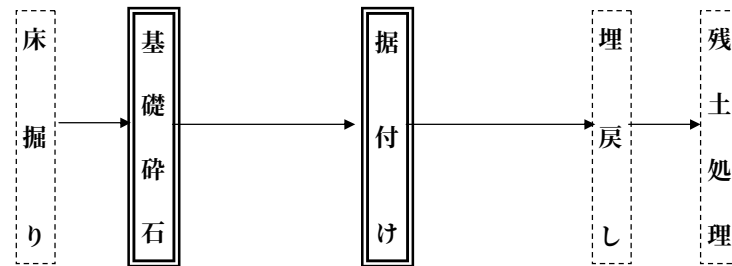
- (注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

(4) 管(函)渠型側溝, プレキャスト集水桝, プレキャストL型側溝, プレキャストマンホール



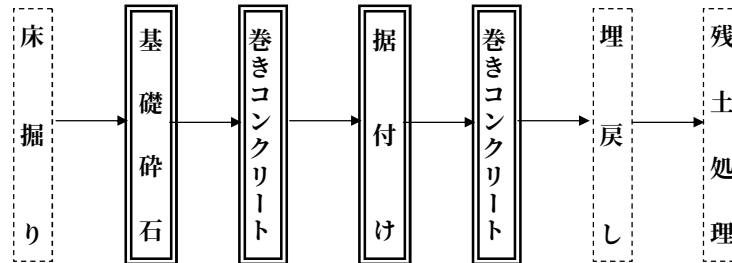
- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 基礎碎石は、必要に応じて計上する。
 3. プレキャスト集水桝は、蓋版の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。

(5) 鉄筋コンクリート台付管



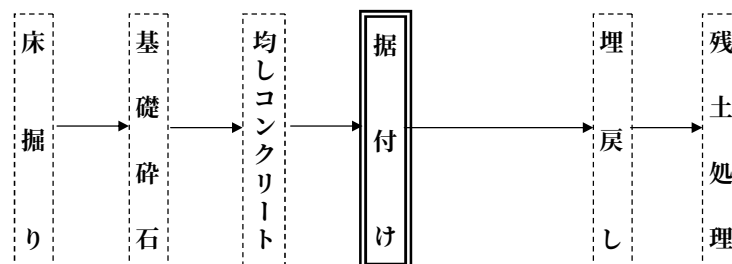
- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 基礎碎石の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。

(6) PC管



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 巻きコンクリートは、必要に応じて計上する。
 3. 基礎碎石の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。

(7) コルゲートパイプ, コルゲートフリューム



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 基礎碎石, 均しコンクリートは、必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 ヒューム管（B形管）

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ヒューム管（B形管） 積算条件区分一覧

（積算単位：m）

作業区分	管径	固定基礎	基礎碎石	規格	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格
据付	(表 3.2)	90 ° 巻き	(表3.4)	外圧管 1 種	(表3.5)
				外圧管 2 種	
				各種	
		180 ° 巻き		外圧管 1 種	
				外圧管 2 種	
				各種	
		360 ° 巻き		外圧管 1 種	
				各種	
				無し	
	外圧管 2 種				
	各種				
	(表 3.3)	90 ° 巻き	(表3.4)	外圧管 1 種	
				外圧管 2 種	
				各種	
		180 ° 巻き		外圧管 1 種	
				外圧管 2 種	
				各種	
		無し		—	
外圧管 2 種					
各種					
撤去	(表 3.2)	—	—	—	—
据付・撤去	(表 3.2)	—	—	外圧管 1 種	—
	(表 3.3)			外圧管 2 種	
	各種				

- （注）1. 上表は、ヒューム管の設置、基礎碎石、鉄筋、ヒューム管の運搬距離30m程度までの現場内小運搬、コンクリートの15m以下の現場内小運搬、基礎コンクリート、コンクリート、型枠（はく離材塗布及びケレン作業を含む）の他、緊結用器具、コンクリートカッタ運転、目地モルタルの費用、ヒューム管損失分の費用、カッタブレードの損耗費、レバブロック損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 碎石、鉄筋、コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は、鉄筋が+0.03、コンクリートが+0.06とする。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
5. 固定基礎無しは、基礎碎石を含まないため必要な場合は別途計上する。
6. 撤去作業、据付・撤去作業は、ヒューム管のみを対象としている。
7. コンクリートの養生は、一般養生及び特殊養生にかかわらず適用出来る。
8. 基面整正は含まない。

表3.2 管径①

積算条件	区分
管径	200mm
	250mm
	300mm
	350mm
	400mm
	450mm
	500mm
	600mm
	700mm
	800mm
	900mm
	1,000mm

表3.3 管径②

積算条件	区分
管径	1,100mm
	1,200mm
	1,350mm

表3.4 基礎碎石

積算条件	区分
基礎碎石	有り
	無し

表3.5 生コンクリート規格

積算条件	区分
生コンクリート規格	18-8-40 (高炉)
	18-8-25(20) (高炉)
	18-8-40 (普通)
	各種

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.6 ヒューム管(B形管) 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)]25t 吊	・賃料 ・管径が1,100～1,350mmの場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³) 吊能力2.9t	管径が200～1,000mmの場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	作業区分が据付で、固定基礎が有りの場合
		運転手(特殊)	上記以外の場合
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	ヒューム管 外圧管 B形1種 径200mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が200mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径250mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が250mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径300mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が300mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径350mm×長さ2,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が350mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径400mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が400mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径450mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が450mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径500mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が500mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径600mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が600mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径700mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が700mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径800mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が800mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径900mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が900mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,000mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が1,000mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,100mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が1,100mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,200mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が1,200mmの場合
		ヒューム管 外圧管 B形1種 径1,350mm×長さ2,430mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 管径が1,350mmの場合
	Z 2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	作業区分が据付で、固定基礎が無し 以外の場合
	Z 3	軽油1.2号 パトロール給油	管径が200～1,000mmの場合
	Z 4	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	作業区分が据付で固定基礎が 360°巻きの場合
市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	作業区分が据付で固定基礎が 360°巻きの場合

3-2 ボックスカルバート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 ボックスカルバート 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	製品長	内空幅・内空高(m)	基礎材種別	PC鋼材による縦締め
据付	1.0m/個	1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m	(表3.8)	—
		2.5m<B≤ 3.75m 1.25m≤H≤ 2.5m		
	1.5m/個	1.25m<B≤ 2.5m 0m<H≤ 1.25m	(表3.8)	(表3.9)
		1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m		
		2.5m<B≤ 3.75m 1.25m≤H≤ 2.5m		
		2.5m≤B≤ 3.75m 2.5m<H≤ 3.75m		
	2.0m/個	0m<B≤ 1.25m 0m<H≤ 1.25m	(表3.8)	(表3.9)
		1.25m<B≤ 2.5m 0m<H≤ 1.25m		
		0m<B≤ 1.25m 1.25m<H≤ 2.5m		
		1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m		
撤去	1.0m/個	1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m	—	—
		2.5m<B≤ 3.75m 1.25m≤H≤ 2.5m		
	1.5m/個	1.25m<B≤ 2.5m 0m<H≤ 1.25m	—	(表3.9)
		1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m		
		2.5m<B≤ 3.75m 1.25m≤H≤ 2.5m		
		2.5m≤B≤ 3.75m 2.5m<H≤ 3.75m		
	2.0m/個	0m<B≤ 1.25m 0m<H≤ 1.25m	—	(表3.9)
		1.25m<B≤ 2.5m 0m<H≤ 1.25m		
		0m<B≤ 1.25m 1.25m<H≤ 2.5m		
		1.25m<B≤ 2.5m 1.25m<H≤ 2.5m		

作業区分	製品長	内空幅・内空高(m)	基礎材種別	PC鋼材による縦締め
据付・撤去	1.0m/個	$1.25\text{m} < B \leq 2.5\text{m}$ $1.25\text{m} < H \leq 2.5\text{m}$	(表3.8)	—
		$2.5\text{m} < B \leq 3.75\text{m}$ $1.25\text{m} \leq H \leq 2.5\text{m}$		
	1.5m/個	$1.25\text{m} < B \leq 2.5\text{m}$ $0\text{m} < H \leq 1.25\text{m}$	(表3.8)	(表3.9)
		$1.25\text{m} < B \leq 2.5\text{m}$ $1.25\text{m} < H \leq 2.5\text{m}$		
		$2.5\text{m} < B \leq 3.75\text{m}$ $1.25\text{m} \leq H \leq 2.5\text{m}$		
		$2.5\text{m} \leq B \leq 3.75\text{m}$ $2.5\text{m} < H \leq 3.75\text{m}$		
	2.0m/個	$0\text{m} < B \leq 1.25\text{m}$ $0\text{m} < H \leq 1.25\text{m}$	(表3.8)	(表3.9)
		$1.25\text{m} < B \leq 2.5\text{m}$ $0\text{m} < H \leq 1.25\text{m}$		
		$0\text{m} < B \leq 1.25\text{m}$ $1.25\text{m} < H \leq 2.5\text{m}$		
		$1.25\text{m} < B \leq 2.5\text{m}$ $1.25\text{m} < H \leq 2.5\text{m}$		

- (注) 1. 上表は、ボックスカルバートの設置、PC鋼材による縦締め、基礎材、均しコンクリート、型枠（剥離材塗布及びケレン作業を含む）、養生、敷モルタル、目地モルタル、グラウト、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬、レバブロック、油圧ジャッキ（ポンプを含む）、グラウトポンプ、ミキサーの損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、PC鋼材材料費、定着金具材料費は含まない。
2. 対象としている製品は、1ブロックを1部材で構成するボックスカルバートである。
3. 内空断面が台形タイプの場合やインバート形状の場合の内空高、内空幅は最大値とする。
4. PC鋼材、定着金具は、必要数量を別途計上する。
5. 縦締めは、直線部にのみ適用する。
6. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
7. 基礎碎石、均しコンクリートの材料は、種別・規格・昼夜にかかわらず適用出来る。
8. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
9. 製品長が1個当り 1.0m の場合、PC 鋼材による縦締めの費用は含まない。
10. 基面整正は含まない。

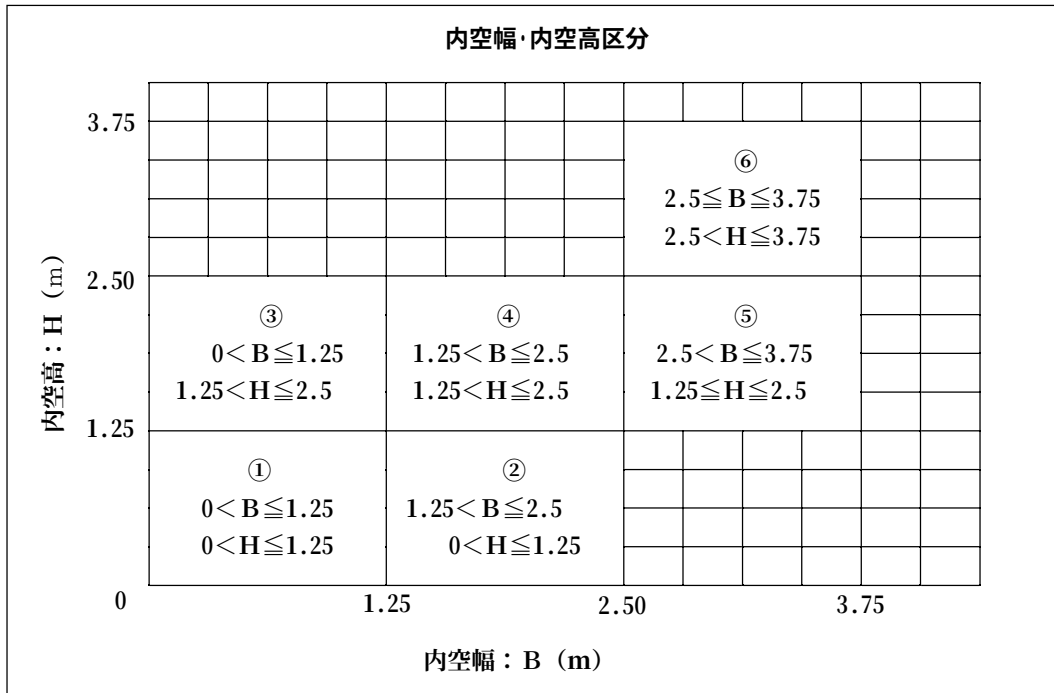
表3.8 基礎材種別

積算条件	区分
基礎材種別	基礎碎石＋均しコンクリート
	基礎碎石
	均しコンクリート
	無し

表3.9 PC鋼材による縦締め

積算条件	区分
PC鋼材による縦締め	無し
	有り

図3-1 ボックスカルバート内空幅・内空高区分



(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.10 ボックスカルバート 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25 t 吊	・賃料 ・内空高 2.5m以下の場合
	K 2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45 t 吊	・賃料 ・内空高 2.5m超の場合
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m≤H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.0m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1000×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H2000×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m<B≤3.75m, 1.25m≤H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B3000×H3000×L1500 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が1.5m/個で、内空幅・内空高が2.5m≤B≤3.75m, 2.5m<H≤3.75mの場合
		ボックスカルバート RC B600×H600×L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1000×L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 0m<H≤1.25mの場合
		ボックスカルバート RC B1000×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が0m<B≤1.25m, 1.25m<H≤2.5mの場合
		ボックスカルバート RC B1500×H1500×L2000 T-25 土被り 0.2～3.0m	作業区分が据付又は据付・撤去で、製品長が2.0m/個で、内空幅・内空高が1.25m<B≤2.5m, 1.25m<H≤2.5mの場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 暗渠排水管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.11 暗渠排水管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	管種別	呼び径	継手材料費
据付	直管	50 ～ 150mm	—
		200 ～ 400mm	
	波状管及び網状管	50 ～ 150mm	要
			不要
		200 ～ 400mm	要
			不要
		450 ～ 600mm	要
			不要
撤去	直管	50 ～ 150mm	—
		200 ～ 400mm	
	波状管及び網状管	50 ～ 150mm	
		200 ～ 400mm	
		450 ～ 600mm	
据付・撤去	直管	50 ～ 150mm	—
		200 ～ 400mm	
	波状管及び網状管	50 ～ 150mm	要
			不要
		200 ～ 400mm	要
			不要
		450 ～ 600mm	要
			不要

- (注) 1. 上表は、暗渠排水管（浅層地下排水除去のために行う）の敷設、継手材料、運搬距離 100 m 程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 暗渠排水管の敷設であり、埋設を行わない地上露出配管の敷設は別途考慮する。
3. 暗渠排水管の切断ロスを含む。（標準ロス率は、+0.01）
4. 継手材料費は継手接合の場合であり、継手を必要としない場合及び排水管価格に含む場合は計上しない。
5. 基面整正は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 暗渠排水管 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	暗渠排水管 直管 呼び径 75mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 50～150mm の場合
		暗渠排水管 直管 呼び径 300mm ポリエチレン吸水管	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が直管、呼び径が 200～400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 75mm 高密度ポリエチレン管（シングル構造）	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 50～150mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 300mm 高密度ポリエチレン管（シングル構造）	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 200～400mm の場合
		暗渠排水管 波状管 呼び径 500mm 高密度ポリエチレン管（シングル構造）	作業区分が据付又は据付・撤去で、管種別が波状管及び網状管、呼び径が 450～600mm の場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 フィルター材

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.13 フィルター材 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

フィルター材の種類	
クラッシャラン	C 80
〃	C 40
〃	C 30
粒度調整碎石	M 40
〃	M 30
〃	M 25
コンクリート用骨材	碎石 40-5
単粒度碎石 4号	30-20
再生クラッシャラン	RC 80
〃	RC 40
〃	RC 30
各	種

(注) 1. 上表は、暗渠排水管敷設に伴うフィルター材（クラッシャラン及び単粒度碎石等）の設置、締固め、運搬距離 30m 程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）。

2. フィルター材の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.20）

3. 基面整正は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.14 フィルター材 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	再生クラッシャラン RC-40	
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 管(函)渠型側溝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.15 管(函)渠型側溝 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	内径又は内空幅(mm)	基礎碎石の有無
据付	200mm 以上 400mm以下	有り
		無し
	400mmを超え600mm以下	有り
		無し
撤去	200mm 以上 400mm以下	—
	400mmを超え600mm以下	
据付・撤去	200mm 以上 400mm以下	有り
		無し
	400mmを超え600mm以下	有り
		無し

- (注) 1. 上表は、プレキャスト製管(函)渠型側溝の設置、基礎材、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬の他、コンクリートカット運転経費、目地モルタル、敷モルタルの費用、カットブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
5. 基面整正は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.16 管(函)渠型側溝 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³) 吊能力 1.7t	・賃料 ・内径又は内空幅が 200mm 以上 400mm 以下の場合
		バックホウ(クローラ型)[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 吊能力 2.9t	・賃料 ・内径又は内空幅が 400mm を超え 600mm 以下の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手(特殊)	
材料	Z 1	円形側溝 縦断用 内径 300mm T-25	作業区分が据付又は据付・撤去で、内径又は内空幅が 200mm 以上 400mm 以下の場合
		円形側溝 縦断用 内径 500mm T-25	作業区分が据付又は据付・撤去で、内径又は内空幅が 400mm を超え 600mm 以下の場合
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 プレキャスト集水桝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.17 プレキャスト集水桝 積算条件区分一覧

(積算単位：基)

作業区分	製品質量(kg/基)	基礎碎石の有無
据付	(表3.18)	有り
		無し
撤去		—
据付・撤去		有り
		無し

- (注) 1. 上表は、プレキャスト集水桝の設置、基礎材、敷砂又は敷モルタル、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、集水桝（材料費）は含まない。
2. 蓋版の有無にかかわらず適用出来る。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
6. 集水桝の材料費は別途計上する。
7. 基面整正は含まない。

表3.18 製品質量

積算条件	区分
製品質量 (kg/基)	50kg 以上 80kg 以下
	80kg を超え 400kg 以下
	400kg を超え 800kg 以下
	800kg を超え 1,200kg 以下
	1,200kg を超え 1,600kg 以下
	1,600kg を超え 2,200kg 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.19 プレキャスト集水桝 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）吊能力 2.9t	製品質量が 80kg を超え 2,200kg/基以下の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手（特殊）	製品質量が 80kg を超え 2,200kg/基以下の場合
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	製品質量が 80kg を超え 2,200kg/基以下の場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 プレキャスト集水桝（材料費）

（1）条件区分

プレキャスト集水桝（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、基とする。

3-8 鉄筋コンクリート台付管

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.20 鉄筋コンクリート台付管 積算条件区分一覧

（積算単位：m）

作業区分	管 径
据 付	(表3.21)
撤 去	
据付・撤去	

- （注）1. 上表は、鉄筋コンクリート台付管の設置、基礎碎石、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬、緊結用器具、コンクリートカッタ運転、目地モルタル、コンクリートカッタブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 断面が卵形の場合の管径は内幅とする。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
5. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
6. 基面整正は含まない。

表3.21 管径

積算条件	区分	積算条件	区分
管 径	200mm	管 径	600mm
	250mm		700mm
	300mm		800mm
	350mm		900mm
	400mm		1,000mm
	450mm		1,100mm
	500mm		1,200mm

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 22 鉄筋コンクリート台付管 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t 吊	・ 賃料 ・ 管径が 900～1,200mm の場合
		バックホウ (クローラ型) [標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³) 吊能力 2.9t	管径が 200～800mm の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手 (特殊)	管径が 200～800mm の場合
材料	Z 1	鉄筋コンクリート台付管 (バイコン台付管) 管径 300mm×長さ 2,000mm	・ 1m 当たり 0.5 本 ・ 作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 200～300 mm の場合
		鉄筋コンクリート台付管 (バイコン台付管) 管径 450mm×長さ 2,500mm	・ 1m 当たり 0.4 本 ・ 作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 350～500 mm の場合
		鉄筋コンクリート台付管 (バイコン台付管) 管径 600mm×長さ 2,500mm	・ 1m 当たり 0.4 本 ・ 作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 600～800 mm の場合
		鉄筋コンクリート台付管 (バイコン台付管) 管径 1,000mm×長さ 2,500mm	・ 1m 当たり 0.4 本 ・ 作業区分が据付又は据付・撤去で、管径が 900～1,200 mm の場合
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	管径が 200～800mm の場合
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-9 プレキャストL形側溝

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.23 プレキャストL形側溝 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	基礎碎石の有無	L形側溝の種類
据 付	有り	(表3.24)
	無し	
撤 去	—	—
据付・撤去	有り	(表3.24)
	無し	

- (注) 1. 上表は、プレキャスト製品によるL型側溝の設置、基礎碎石、運搬距離30m程度までの現場内小運搬の他、コンクリートカッタ運転経費、目地モルタル、敷モルタルの費用、コンクリートカッタブレードの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
5. 基面整正は含まない。
6. L型側溝の標準使用量は、16.5個/10mとする。

表3.24 プレキャストL形側溝の種類

積算条件	区分	
	呼び名	種類
L形側溝の種類	C250A	コンクリートL形(350×175×600)
	C250B	コンクリートL形(450×175×600)
	250A	鉄筋コンクリートL形(350×155×600)
	250B	鉄筋コンクリートL形(450×155×600)
	300	鉄筋コンクリートL形(500×155×600)
	350	鉄筋コンクリートL形(550×155×600)
	500A	鉄筋コンクリートL形(665×270×600)
	500B	鉄筋コンクリートL形(700×320×600)
	500C	鉄筋コンクリートL形(705×370×600)
	—	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.25 プレキャストL形側溝 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第1次基準値）] 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）吊能力 2.9t	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	鉄筋コンクリート L 形 300（500×155×600）	作業区分が据付又は据付・撤去の場合
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S		

3-10 プレキャストマンホール

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.26 プレキャストマンホール 積算条件区分一覧

（積算単位：基）

作業区分	製品質量	基礎碎石の有無
据 付	2,000kg/基以下	有り(円形断面)
		無し又は円形断面以外
	2,000kg/基を超え 4,000kg/基以下	有り(円形断面)
		無し又は円形断面以外
撤 去	2,000kg/基以下	—
	2,000kg/基を超え 4,000kg/基以下	—
据付・撤去	2,000kg/基以下	有り(円形断面)
		無し又は円形断面以外
	2,000kg/基を超え 4,000kg/基以下	有り(円形断面)
		無し又は円形断面以外

- （注）1. 上表は、マンホール及び蓋の設置、基礎碎石、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬の他、敷砂又は敷モルタル等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
 3. 撤去作業の場合、基礎碎石は含まない。
 4. 基礎碎石は、材料の種別・規格にかかわらず適用出来る。
 5. 基面整正は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.27 プレキャストマンホール 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・クレーン機能付・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）吊能力 2.9t	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホールふたφ600mm浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×50 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×300mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去，製品質量が2,000kg/基以下の場合
		下記の材料を各1個ずつ組み合わせて1つの代表材料とする。 ・下水道用マンホールふたφ600mm浮上防止型かぎ付 T-25 ・調整リング 600×150 ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（斜壁 600×750×600mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（直壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（管取付け壁 750×1800mm） ・下水道用鉄筋コンクリート製組立マンホール 円形0号I種（底版）	作業区分が据付又は据付・撤去，製品質量が2,000kg/基を超え4,000kg/基以下の場合
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-11 PC管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.28 PC管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	管 径	固定基礎	生コンクリート規格
据 付	(表 3.29)	90°巻き	(表 3.5)
		180°巻き	
		無し	—
撤 去		—	—
据付・撤去		—	—

- (注) 1. 上表は、PC管の設置、基礎碎石、巻きコンクリート（コンクリート、型枠）、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 撤去作業、据付・撤去作業は、PC管のみを対象としている。
 3. 基面整正は含まない。
 4. コンクリート、基礎碎石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.04、基礎碎石が+0.20とする。

表3.29 管径

積算条件	区分	積算条件	区分
管 径	600mm	管 径	1,200mm
	700mm		1,350mm
	800mm		1,500mm
	900mm		1,650mm
	1,000mm		1,800mm
	1,100mm		2,000mm

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.30 PC管 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕4.9t 吊	・賃料 ・管径が 600mm の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕16t 吊	・賃料 ・管径が 700mm～1,350mm の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕20t 吊	・賃料 ・管径が 1,500mm～1,650mm の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕25t 吊	・賃料 ・管径が 1,800mm の場合
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕35t 吊	・賃料 ・管径が 2,000mm の場合
	K 2	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	固定基礎が有る場合
		運転手(特殊)	上記以外の場合
	R 3	土木一般世話役	
材料	Z 1	PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 600mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 600mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 700mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 700mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 800mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 800mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 900mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 900mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,000mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,000mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,100mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,100mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,200mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,200mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,350mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,350mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,500mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,500mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,650mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,650mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 1,800mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 1,800mm の場合
		PC 管 1 種 外圧 S 形 管径 2,000mm×長さ 4,000mm	作業区分が据付又は据付・撤去, 管径が 2,000mm の場合
	Z 2	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	固定基礎が有る場合
	Z 3	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-12 コルゲートパイプ

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.31 コルゲートパイプ 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	規格	パイプ径	型式
(表 3.32)	フランジ型	250～600mm	円形
		750～900mm	
		1,000～1,200mm	
		1,300mm	
		1,500～1,600mm	
		1,800～2,200mm	
	ラップ型	2,000mm	円形
			アーチ形
		2,500mm	円形
			アーチ形
		3,000mm	円形
			アーチ形
		3,500mm	円形
			アーチ形
		4,000mm	円形
			アーチ形
		4,500mm	円形
			アーチ形

- (注) 1. 上表は、コルゲートパイプの設置、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬及び組立等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 基面整正は含まない。

表3.32 作業区分

積算条件	区分
作業区分	据 付
	撤 去
	据付・撤去

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.33 コルゲートパイプ 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	コルゲートパイプ 円形 1 形 400mm 板厚 2.0mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 250～600mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 1 形 800mm 板厚 2.7mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 750～900mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 1 形 1,200mm 板厚 2.7mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 1,000～1,200mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 1 形 1,350mm 板厚 3.2mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 1,300mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 1 形 1,500mm 板厚 3.2mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 1,500～1,600mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 1 形 1,800mm 板厚 3.2mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がフランジ型、パイプ径が 1,800～2,200mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 2,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 2,000mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 2,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 2,500mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 3,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 3,000mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 3,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 3,500mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 4,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 4,000mm の場合
		コルゲートパイプ 円形 2 形 4,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、規格がラップ型、型式が円形、パイプ径が 4,500mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 2,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 2,000mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 2,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 2,500mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 3,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 3,000mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 3,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 3,500mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 4,000mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 4,000mm の場合
		コルゲートパイプ アーチ形 4,500mm 板厚 4.5mm	作業区分が据付又は据付・撤去、型式がアーチ形、パイプ径が 4,500mm の場合
		Z 2	—
		Z 3	—
		Z 4	—
市場単価	S	—	

3-13 コルゲートフリューム

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.34 コルゲートフリューム 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	規格
(表 3.32)	350×350mm
	400×400mm
	500×500mm
	600×600mm
	700×700mm
	800×750mm
	900×800mm
	1,000×850mm

(注) 1. 上表は、コルゲートフリュームの設置、運搬距離 30m程度までの現場内小運搬及び組立等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 基面整正は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.35 コルゲートフリューム 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	コルゲート U 型フリューム A 形 350×350mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 350×350 の場合
		コルゲート U 型フリューム A 形 400×400mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 400×400 の場合
		コルゲート U 型フリューム A 形 500×500mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 500×500 の場合
		コルゲート U 型フリューム A 形 600×600mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 600×600 の場合
		コルゲート U 型フリューム A 形 700×700mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 700×700 の場合
		コルゲート U 型フリューム B 形 800×750mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 800×750 の場合
		コルゲート U 型フリューム B 形 900×800mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 900×800 の場合
		コルゲート U 型フリューム B 形 1,000×850mm 板厚 1.6mm	作業区分が据付又は据付・撤去で、 規格が 1,000×850 の場合
	Z 2		
	Z 3		
	Z 4		
市場単価	S		

4. 施工単価入力基準表

(1) ヒューム管 (B形管)

パッケージコード	CB222860		施工単位	m	
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	管 径	固定基礎	基礎碎石	規 格
	①据 付 ②撤 去 ③据付・撤去	(表 4.1)	①90°巻き ②180°巻き ③360°巻き ④無し	①有り ②無し	①外圧管1種 ②外圧管2種 ③各 種
	J 6	J 7	J 8		
	ラフテレーン クレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	生コンクリート 規格 (表 4.2)	鉄筋工の労務補正 ①標準(1.0) ②時間的制約を 受ける場合(1.10) ③夜間作業の場合(1.25) ④夜間作業及び時間的制約を受ける場合(1.375)		

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3～J 8 条件は選択する必要はない。
2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 3, J 4, J 7, J 8 条件は選択する必要はない。
3. J 2 条件で①～⑫を選択した場合は、J 6 条件は選択する必要はない。
4. J 2 条件で⑬～⑮を選択した場合は、J 3 条件で③を選択することは出来ない。
5. J 3 条件で①, ②, ④を選択した場合は、J 8 条件は入力する必要はない。
6. J 3 条件で③を選択した場合は、J 5 条件で②を選択することは出来ない。
7. J 3 条件で④を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
8. J 5 条件で③を選択した場合は、ヒューム管単価 (Y-0351000) [円/本] を単価登録すること。
9. J 7 条件で④を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
10. 生コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 7 条件で④を選択し、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
11. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
12. 本コードは、バックホウ (クレーン機能付)、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
また、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型)、及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。
13. 本コードは仮囲い内ジェットヒータ養生における発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。
14. 鉄筋工は以下の条件で固定している。
鉄筋材料規格 : S D 345
鉄筋径 : 「D 13」及び「D 16～D 25」
規格・仕様区分 : 一般構造物
トンネル内作業の補正 : 無
法面作業の補正 : 無
太径鉄筋補正 : 10%未満 (補正無)
構造物種別による補正 : 補正無 (一般構造物)
15. 本コードは、碎石、鉄筋、コンクリートの材料ロスを含む。

表4.1 管径

管径 (mm)	200	250	300	350	400	450	500	600	700	800
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
管径 (mm)	900	1,000	1,100	1,200	1,350					
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮					

表4.2 生コンクリート規格

規 格	入力番号
18-8-40 (高炉)	①
18-8-25 (20) (高炉)	②
18-8-40 (普通)	③
Y-0210000 (各種)	④

(2) ボックスカルバート

パッケージコード		CB222880	施 工 単 位		m	
施 工 区 分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	作業区分	製 品 長	内空幅 ・ 内空高 (m)	基礎材種別	PC 鋼材に よる縦締め	ラフテレーン クレーン賃料 補正係数
	①据 付	① 1.0 m／個	(表 4.3)	(表 4.4)	①無し ②有り	①標準
	②撤 去	② 1.5 m／個				②標準以外
③据付・撤去	③ 2.0 m／個	(実数入力)				

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
 2. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で①～③、⑥を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件で①、③を選択することは出来ない。
 4. J 2 条件で③を選択した場合は、J 3 条件で⑤、⑥を選択することは出来ない。
 5. J 2 条件で①を選択した場合は、J 5 条件は選択する必要はない。
 6. J 5 条件で②を選択した場合は、PC 鋼材、定着金具を別途必要量計上すること。
 7. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 8. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 また、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
 9. J 1 条件で①、③を選択した場合は、ボックスカルバート単価(Y-0356000) [円/個] を単価登録すること。

表4.3 内空幅・内空高 (m)

歩 掛 区 分	入力番号
① $0 < B \leq 1.25$ $0 < H \leq 1.25$	①
② $1.25 < B \leq 2.5$ $0 < H \leq 1.25$	②
③ $0 < B \leq 1.25$ $1.25 < H \leq 2.5$	③
④ $1.25 < B \leq 2.5$ $1.25 < H \leq 2.5$	④
⑤ $2.5 < B \leq 3.75$ $1.25 \leq H \leq 2.5$	⑤
⑥ $2.5 \leq B \leq 3.75$ $2.5 < H \leq 3.75$	⑥

表4.4 基礎材種別

雑 工 種	入力番号
基 礎 砕 石	均しコンクリート
○	○
○	○
	○

(3) 暗渠排水管

パッケージコード	CB222770	施 工 単 位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	管 種 別	呼 び 径	継手材料費
	①据 付	①直管	① 50 ～ 150 mm	
	②撤 去	②波状管及び	② 200 ～ 400 mm	①要
	③据付・撤去	網状管	③ 450 ～ 600 mm	②不要

- (注) 1. 本コードは、暗渠排水管の切断ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
3. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で③を選択することは出来ない。
4. J 2 条件で①を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
5. J 1 条件で①、③を選択した場合は、暗渠排水管単価 (Y-1664000) [円/m] を単価登録すること。

(4) フィルター材

パッケージコード	CB222780	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	フィルター材の種類 (表 4.5)		

- (注) 1. 本コードは、フィルター材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 1 条件で⑫を選択した場合は、砕石単価 (Y-0241000) [円/m3] を単価登録すること。
3. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

表 4.5 フィルター材の種類

種 類	入力番号	種 類	入力番号
クラッシャラン C 80	①	コンクリート用骨材 砕石 40-5	⑦
〃 C 40	②	単粒度砕石 4 号 30-20	⑧
〃 C 30	③	再生クラッシャラン RC 80	⑨
粒度調整砕石 M 40	④	〃 RC 40	⑩
〃 M 30	⑤	〃 RC 30	⑪
〃 M 25	⑥	Y-0241000 (各種)	⑫

(5) 管(函)渠型側溝(製品長 2m/個)

パッケージコード	CB222790	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	内径又は内空幅 (mm)	基礎碎石
	①据 付		
	②撤 去	① 200 以上 400 以下	①有り
	③据付・撤去	② 400 を超え 600 以下	②無し

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は選択する必要はない。
 2. J 1 条件で①、③を選択した場合は、側溝単価(Y-0300000) [円/個] を単価登録すること。
 3. 本コードは、バックホウ(クレーン機能付)の低騒音型機種についても適用出来る。
 また、本コードは、バックホウ(クレーン機能付)の普通型機種(排出ガス未対策型)および排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(6) プレキャスト集水桝

パッケージコード	CB222800	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	製品質量	基礎碎石
	①据 付		
	②撤 去		①有り
	③据付・撤去	(表 4.6)	②無し

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。
 2. J 1 条件で①又は③を選択した場合は、プレキャスト集水桝(材料費)(CB222810)を別途計上する。
 3. 本コードは、バックホウ(クレーン機能付)の低騒音機種についても適用出来る。

表 4. 6 製品質量

製品質量 (kg/基)	入力番号
50kg 以上 80kg 以下	①
80kg を超え 400kg 以下	②
400kg を超え 800kg 以下	③
800kg を超え 1,200kg 以下	④
1,200kg を超え 1,600kg 以下	⑤
1,600kg を超え 2,200kg 以下	⑥

(7) プレキャスト集水桝(材料費)

パッケージコード	CB222810	施工単位	基

- (注) 集水桝単価(Y-0302000) [円/個] は、蓋版が必要なときに、蓋版を含んだ単価を登録すること。

(8) 鉄筋コンクリート台付管

パッケージコード	CB222850	施 工 単 位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	管 径	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①据 付 ②撤 去 ③据付・撤去	(表 4.7)	①標 準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 2 条件で①～⑩を選択した場合は、J 3 条件は選択する必要はない。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 本コードは、バックホウ(クレーン機能付)、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 また、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
 4. J 1 条件で、①、③を選択した場合は、鉄筋コンクリート台付管単価(Y-0357001) [円/m] を単価登録すること。

表4.7 管径

管径 (mm)	200	250	300	350	400	450	500	600	700	800
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
管径 (mm)	900	1,000	1,100	1,200						
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭						

(9) プレキャストL形側溝(製品長 0.6m/個)

パッケージコード	CB222710	施 工 単 位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	基礎碎石	L形側溝の 種類
	①据 付 ②撤 去 ③据付・撤去	①有り ②無し	(表 4.8)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2, J 3 条件は選択する必要はない。
 2. J 3 条件で⑩を選択した場合は、側溝単価(Y-0300000) [円/個] を単価登録すること。
 3. 本コードは、バックホウ(クレーン機能付)の低騒音機種についても適用出来る。

表4.8 L形側溝の種類

呼び名	種 類	入力番号
C 250 A	コンクリートL形(350×175×600)	①
C 250 B	コンクリートL形(450×175×600)	②
250 A	鉄筋コンクリートL形(350×155×600)	③
250 B	鉄筋コンクリートL形(450×155×600)	④
300	鉄筋コンクリートL形(500×155×600)	⑤
350	鉄筋コンクリートL形(550×155×600)	⑥
500 A	鉄筋コンクリートL形(665×270×600)	⑦
500 B	鉄筋コンクリートL形(700×320×600)	⑧
500 C	鉄筋コンクリートL形(705×370×600)	⑨
—	Y-0300000(各種)	⑩

- (注) 呼び名, 種類はJISによる。

(10) プレキャストマンホール

パッケージコード	CB222840	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	製品質量	基礎碎石
	①据 付 ②撤 去 ③据付・撤去	① 2,000 kg/基以下 ② 2,000 kg/基を超え 4,000 kg/基以下	①有り(円形断面) ②無しまたは 円形断面以外

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は選択する必要はない。
 2. J 3 条件で②を選択し、「円形断面以外」となる場合は、「第Ⅱ編第2章共通工②基礎・裏込碎石工(CB221110)」により別途計上する。
 3. J 1 条件で①、③を選択した場合は、マンホール単価(Y-4050001) [円/基] を単価登録すること。
 4. 本コードは、バックホウ(クレーン機能付)の低騒音機種についても適用出来る。

(11) PC管

パッケージコード		CB222760	施 工 単 位	m	
施 工 区 分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	管 径	固定基礎	生コンクリート 規格	トラッククレーン及び ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①据 付		①90°巻き		①標 準
	②撤 去		②180°巻き		②標準以外
	③据付・撤去	(表 4.9)	③無し	(表 4.2)	(実数入力)

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. J 1 条件で②、③を選択した場合は、J 3、J 4 条件は選択する必要はない。
 3. J 3 条件で③を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
 4. J 1 条件で①、③を選択した場合は、PC管単価(Y-0352000) [円/本] を単価登録すること。
 (4 m/本)
 5. 本コードは、トラッククレーン及びラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 6. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
 7. 本コードは、コンクリート、基礎碎石の材料ロスを含む。

表4.9 管径

管径(mm)	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,350	1,500	1,650
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
管径(mm)	1,800	2,000								
入力番号	⑪	⑫								

(12) コルゲートパイプ

パッケージコード	CB222890	施 工 単 位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	規 格	パイプ径	型 式
	①据 付			
	②撤 去	①フランジ型		①円 形
	③据付・撤去	②ラップ型	(表 4.10)	②アーチ形

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で⑦～⑫を選択することは出来ない。
 2. J 2 条件で①を選択した場合は、J 4 条件で②を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件で①～⑥を選択することは出来ない。
 4. J 1 条件で①、③を選択した場合は、コルゲートパイプ単価 (Y-1660000) [円／m] を単価登録すること。

表 4. 10 パイプ径

パイプ径(mm)	250～600	750～900	1,000～1,200	1,300	1,500～1,600	1,800～2,200
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥
パイプ径(mm)	2,000	2,500	3,000	3,500	4,000	4,500
入力番号	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

(13) コルゲートフリューム

パッケージコード	CB222830	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	規 格	
	①据 付 ②撤 去 ③据付・撤去	(表 4.11)	

- (注) J 1 条件で①、③を選択した場合は、コルゲートフリューム単価 (Y-1661000) [円／m] を単価登録すること。

表 4. 11 規格

規 格	350×350	400×400	500×500	600×600	700×700	800×750
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥
規 格	900×800	1,000×850				
入力番号	⑦	⑧				

⑩－２ 排水構造物工(管(函)渠型側溝・溶接金網及び埋設鋼板型枠)

1. 適用範囲

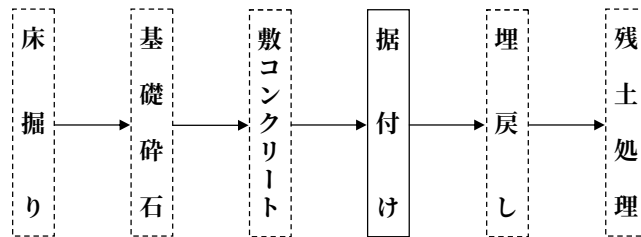
本資料は、管(函)渠型側溝・溶接金網(現場打側溝蓋補強用)の据付作業、及び埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)の設置作業に適用する。

2. 施工概要

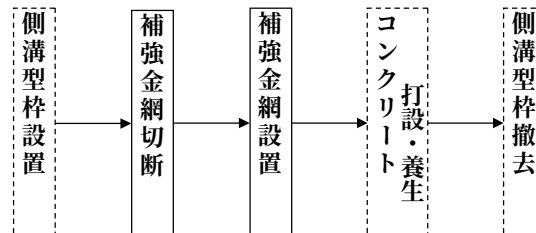
2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

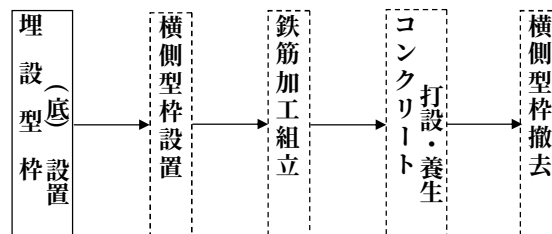
(1) 管(函)渠型側溝据付けの場合



(2) 溶接金網(現場打側溝蓋補強用)設置



(3) 埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 施工歩掛

3－1 機種の選定

機種を選定は、次表を標準とする。

表3.1 据付方法と機種・規格

構造物名称	規格区分	据付方法	使用機械	
			機械名称	規格
管(函)渠型側溝	質量 1,200 kg/個以下	クレーン車類の 使用	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9 t吊
溶接金網	側溝幅 500 mm程度	人 力	—	—
埋設鋼板型枠	鋼板 厚さ1.2 mm程度	人 力	—	—

(注) 1. 人力による場合で、持上高が2 m以上の場合は別途考慮する。

2. トラッククレーンは賃料とする。

3-2 据付歩掛

(1) 管(函)渠型側溝据付歩掛

管(函)渠型側溝据付歩掛は次表を標準とする。

なお、管(函)渠型側溝とは、一般のヒューム管やボックスカルバートの様に土中に全体埋設されるものではなく、車道部、歩道部等の側溝を兼ねた排水構造物をいう。

表3.2 管(函)渠型側溝据付歩掛 (10m当り)

1個当り長さ(mm)		1,000	2,430
1個当り質量(kg/個)		200以上	400以上
名 称	単 位	1,000以下	1,200以下
土 木 一 般 世 話 役	人	0.3	0.2
特 殊 作 業 員	〃	0.3	0.2
普 通 作 業 員	〃	1.1	0.7
トラッククレーン賃料	日	0.6	0.2
諸 雑 費 率	%	7	

- (注) 1. 歩掛は運搬距離 30m程度までの現場内小運搬を含む据付作業であり、床掘り、基面
整正、基礎(敷コンクリート、敷モルタル、砕石基礎)、埋戻しは含まない。
2. トラッククレーンは賃料とし、規格は表 3.1 による。
3. 敷モルタル、敷砂は別途必要量を計上する。
4. 撤去歩掛は据付歩掛の 50%とする。
5. 諸雑費は目地モルタル、管(函)渠型側溝損失分、コンクリートカット運転及びコ
ンクリートカットブレードの損耗費であり、労務費、トラッククレーン賃料の合計に
上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 溶接金鋼(現場打側溝蓋補強用)設置歩掛

溶接金鋼(現場打側溝蓋補強用)設置歩掛は次表を標準とする。

なお、本歩掛は、側溝上で蓋板を現場製作する場合に蓋板内に補強のために入れる溶接金鋼の設置に適用
する。

表3.3 溶接金鋼(現場打側溝蓋補強用)設置歩掛 (100 m²当り)

名 称	単 位	数 量
普通作業員	人	0.2

- (注) 1. 側溝幅 50 cm 程度に適用する。
2. 現場内小運搬・切断は上記歩掛に含まれる。
3. 溶接金鋼の使用量は次式とする。
$$\text{使用量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K_3)$$

表3.4 ロス率(K₃)

ロ ス 率	0.05

(3) 埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置歩掛

埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置歩掛は次表を標準とする。

なお、本歩掛は、側溝上で蓋板を現場打ちする場合に、底型枠として支保工を使用しない埋設鋼板型枠の設置に適用する。

(参考図)

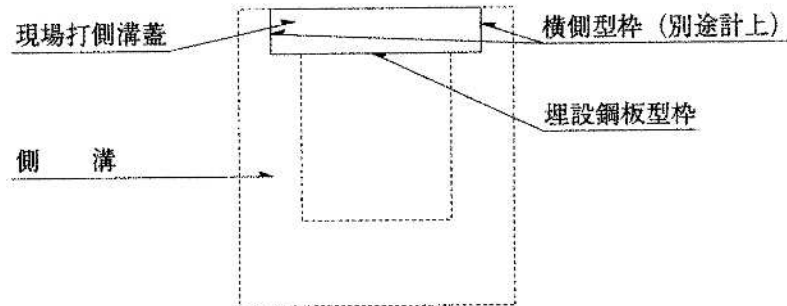


表3.5 埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置歩掛 (100 m² 当り)

名 称	単 位	数 量
普通作業員	人	0.7

(注) 1. 現場内小運搬・切断は上記歩掛に含まれる。

2. 鋼板型枠は厚さ 1.2 mm 程度とし、使用量は次式とする。

$$\text{使用量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K_4)$$

表3.6 ロス率 (K_4)

ロ ス 率	0.05

4. 単 価 表

(1) 管(函)渠型側溝据付 10m当り単価表

				施工歩掛コード	WB222910
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.2	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
管(函)渠型側溝		個	10	L=1,000mmの場合	
			4.1	L=2,430mmの場合	
トラッククレーン賃料	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	日		表3.1, 表3.2	
諸 雑 費		式	1	表3.2	
計					

(2) 溶接金網(現場打側溝蓋補強用)設置 100㎡当り単価表

				施工歩掛コード	WB222920
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	0.2	表3.3	
溶 接 金 網		㎡	105	表3.4	
諸 雑 費		式	1		
計					

(3) 埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置 100㎡当り単価表

				施工歩掛コード	WB222930
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	0.7	表3.5	
埋 設 鋼 板 型 枠		㎡	105	表3.6	
諸 雑 費		式	1		
計					

5. 施工単価入力基準表

(1) 管(函)渠型側溝据付

施工歩掛コード	WB222910	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	管(函)渠型側溝規格	作業区分	トラッククレーン賃料補正係数
	(表5.1)	①据付 ②撤去 ③据付・撤去	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 側溝単価 (Y-0300000) [円/ 個] を単価登録すること。

2. 敷モルタルについては、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」のCB240060により別途計上する。

3. トラッククレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力する。

表5.1 管(函)渠型側溝規格

1個当り長さ(mm)[1個当り質量(kg/個)]	入力番号
1,000[200以上1,000以下]	①
2,430[400以上1,200以下]	②

(2) 溶接金網(現場打側溝蓋補強用)設置

施工歩掛コード	WB222920	施工単位	m ²

(注) 1. 溶接金網単価 (Y-0140000) [円/ m²] を単価登録すること。

2. 現場内小運搬・切断及び溶接金網材料のロス分を含む。

(3) 埋設鋼板型枠(現場打側溝蓋用)設置

施工歩掛コード	WB222930	施工単位	m ²

(注) 1. 材料費単価 (Y-0800002) [円/ m²] を単価登録すること。

2. 現場内小運搬・切断及び埋設鋼板型枠のロス分を含む。

⑩－３ 排水構造物工 (現場打ち水路 (本体))

1. 適用範囲

本資料は、現場打ちのU型側溝（本体）に適用する。

1－1 適用出来る範囲

(1) 現場打ちのU型側溝（落蓋型を含む）の設置

1－2 適用出来ない範囲

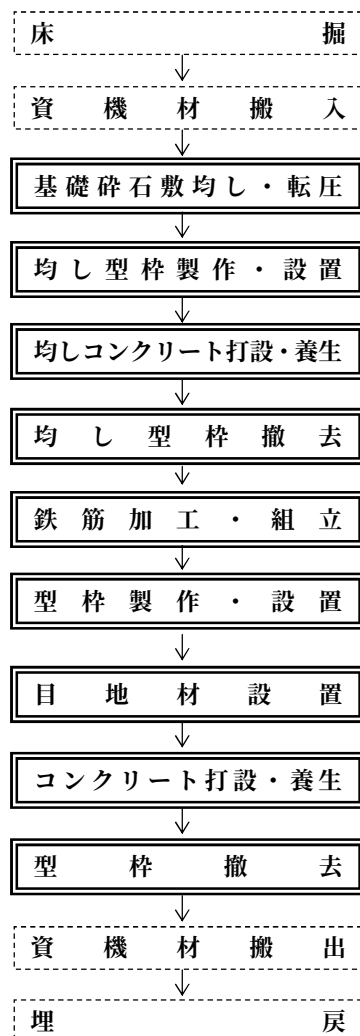
(1) プレキャスト製品の場合

(2) U型側溝（本体）の10m当りのコンクリート使用数量が3.0m³未満又は9.0m³を超える場合（無筋の場合）

(3) U型側溝（本体）の10m当りのコンクリート使用数量が3.6m³未満又は8.1m³を超える場合（有筋の場合）

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
2. 基礎碎石、均しコンクリート、目地材の有無にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち水路(本体)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 現場打ち水路(本体) 積算条件区分一覧

(積算単位:m)

コンクリート規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート使用量	養生工の種類
(表 3.2)	無し	(表 3.3)	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無
	有り	(表 3.4)	一般養生・特殊養生(練炭)
			特殊養生(ジェットヒータ)
			養生工無

- (注) 1. 上表は、現場打ちによるU型側溝のコンクリート打設、現場内小運搬(15m 以内)、シュート、ホップの架設・移動、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業を含む)、鉄筋、基礎碎石、均しコンクリート、養生、目地材の施工の他、雑機械器具(シュート、ホップ、コンクリートパイプレータ、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリート、鉄筋、基礎碎石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリートが+0.06、鉄筋が+0.03、基礎碎石が+0.20 とする。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20 cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。
4. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。
5. 蓋版は別途計上する。
6. 止水板が必要な場合は別途計上する。
7. 基面整正は含まない。
8. 鉄筋の径にかかわらず適用出来る。

表3.2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	27-8-25(20)(普通)
	18-8-40(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	18-8-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	18-8-25(高炉)
	各種

表3.3 コンクリート使用量(鉄筋無し)

積算条件	区分
10m当り コンクリート使用量	3.0m ³ /10m以上3.3m ³ /10m以下
	3.3m ³ /10mを超え3.6m ³ /10m以下
	3.6m ³ /10mを超え3.9m ³ /10m以下
	3.9m ³ /10mを超え4.2m ³ /10m以下
	4.2m ³ /10mを超え4.5m ³ /10m以下
	4.5m ³ /10mを超え4.8m ³ /10m以下
	4.8m ³ /10mを超え5.2m ³ /10m以下
	5.2m ³ /10mを超え5.6m ³ /10m以下
	5.6m ³ /10mを超え6.0m ³ /10m以下
	6.0m ³ /10mを超え6.4m ³ /10m以下
	6.4m ³ /10mを超え6.9m ³ /10m以下
	6.9m ³ /10mを超え7.4m ³ /10m以下
	7.4m ³ /10mを超え7.9m ³ /10m以下
	7.9m ³ /10mを超え8.4m ³ /10m以下
	8.4m ³ /10mを超え9.0m ³ /10m以下

表3.4 コンクリート使用量(鉄筋有り)

積算条件	区分
10m当り コンクリート使用量	3.6m ³ /10m 以上 3.8m ³ /10m 以下
	3.8m ³ /10m を超え 4.0m ³ /10m 以下
	4.0m ³ /10m を超え 4.2m ³ /10m 以下
	4.2m ³ /10m を超え 4.4m ³ /10m 以下
	4.4m ³ /10m を超え 4.6m ³ /10m 以下
	4.6m ³ /10m を超え 4.8m ³ /10m 以下
	4.8m ³ /10m を超え 5.0m ³ /10m 以下
	5.0m ³ /10m を超え 5.2m ³ /10m 以下
	5.2m ³ /10m を超え 5.5m ³ /10m 以下
	5.5m ³ /10mを超え5.8m ³ /10m以下
	5.8m ³ /10mを超え6.1m ³ /10m以下
	6.1m ³ /10mを超え6.4m ³ /10m以下
	6.4m ³ /10mを超え6.7m ³ /10m以下
	6.7m ³ /10mを超え7.0m ³ /10m以下
	7.0m ³ /10mを超え7.3m ³ /10m以下
	7.3m ³ /10mを超え7.7m ³ /10m以下
	7.7m ³ /10mを超え8.1m ³ /10m以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 現場打ち水路(本体) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K 2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 ・賃料
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D13	鉄筋有りの場合
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合
	Z 4	軽油 1.2号 パトロール給油	
市場単価	S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	鉄筋有りの場合

4. 施工単価入力基準表

(1) 現場打ち水路(本体)

パッケージコード	CB222940	施 工 単 位	m		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	コンクリート 規格	鉄筋の有無	10m 当り コンクリート 使用量	養生工の種類	鉄筋工の労務補正
	(表 4.1)	①無し ②有り	(表 4.2)	①一般養生・ 特殊養生(練炭) ②特殊養生 (ジェットヒータ) ③養生工無	①標準(1.0) ②時間的制約を受ける 場合(1.10) ③夜間作業の場合 (1.25) ④夜間作業及び時間 的制約を受ける場合 (1.375)

- (注) 1. J 1 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で⑩～⑫及びJ 5 条件を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件で①～⑤を選択することは出来ない。
 4. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、J 4 条件で③を選択し別途計上すること。
 5. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で⑤各種を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 6. 本コードは、コンクリート、鉄筋、基礎碎石の材料ロスを含む。

表 4. 1 コンクリート規格

生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号
21-8-25(20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑥	24-8-40 (高炉)	⑪
24-8-25(20) (普通)	②	21-8-25(20) (高炉)	⑦	21-8-25 (早強)	⑫
27-8-25(20) (普通)	③	24-8-25(20) (高炉)	⑧	24-8-25 (早強)	⑬
18-8-40 (普通)	④	18-8-40 (高炉)	⑨	18-8-25 (高炉)	⑭
21-8-40 (普通)	⑤	21-8-40 (高炉)	⑩	Y-0210000 (各種)	⑮

(注) Y-0210000 は、コンクリートの ㎡ 当り単価登録すること。

表4.2 コンクリート使用量

コンクリート使用量	入力番号	コンクリート使用量	入力番号
3.0m ³ /10m以上3.3m ³ /10m以下	①	3.6m ³ /10m 以上 3.8m ³ /10m 以下	⑬
3.3m ³ /10mを超え3.6m ³ /10m以下	②	3.8m ³ /10m を超え 4.0m ³ /10m 以下	⑭
3.6m ³ /10mを超え3.9m ³ /10m以下	③	4.0m ³ /10m を超え 4.2m ³ /10m 以下	⑮
3.9m ³ /10mを超え4.2m ³ /10m以下	④	4.2m ³ /10m を超え 4.4m ³ /10m 以下	⑯
4.2m ³ /10mを超え4.5m ³ /10m以下	⑤	4.4m ³ /10m を超え 4.6m ³ /10m 以下	⑰
4.5m ³ /10mを超え4.8m ³ /10m以下	⑥	4.6m ³ /10m を超え 4.8m ³ /10m 以下	⑱
4.8m ³ /10mを超え5.2m ³ /10m以下	⑦	4.8m ³ /10m を超え 5.0m ³ /10m 以下	⑲
5.2m ³ /10mを超え5.6m ³ /10m以下	⑧	5.0m ³ /10m を超え 5.2m ³ /10m 以下	⑳
5.6m ³ /10mを超え6.0m ³ /10m以下	⑨	5.2m ³ /10m を超え 5.5m ³ /10m 以下	㉑
6.0m ³ /10mを超え6.4m ³ /10m以下	⑩	5.5m ³ /10mを超え5.8m ³ /10m以下	㉒
6.4m ³ /10mを超え6.9m ³ /10m以下	⑪	5.8m ³ /10mを超え6.1m ³ /10m以下	㉓
6.9m ³ /10mを超え7.4m ³ /10m以下	⑫	6.1m ³ /10mを超え6.4m ³ /10m以下	㉔
7.4m ³ /10mを超え7.9m ³ /10m以下	⑬	6.4m ³ /10mを超え6.7m ³ /10m以下	㉕
7.9m ³ /10mを超え8.4m ³ /10m以下	⑭	6.7m ³ /10mを超え7.0m ³ /10m以下	㉖
8.4m ³ /10mを超え9.0m ³ /10m以下	⑮	7.0m ³ /10mを超え7.3m ³ /10m以下	㉗
		7.3m ³ /10mを超え7.7m ³ /10m以下	㉘
		7.7m ³ /10mを超え8.1m ³ /10m以下	㉙

⑩－４ 排水構造物工(現場打ち集水桝・街渠桝(本体))

1. 適用範囲

本資料は、現場打ちの集水桝・街渠桝(本体)に適用する。

1－１ 適用出来る範囲

(1) 現場打ちの集水桝・街渠桝の設置

1－２ 適用出来ない範囲

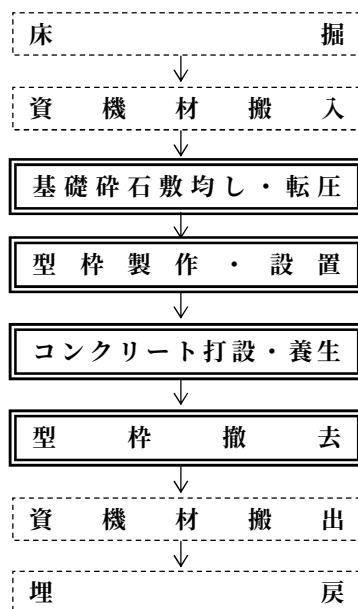
(1) プレキャスト製品の場合

(2) コンクリート打設地上高さが2mを超える場合

(3) 集水桝・街渠桝(本体)の1箇所当りのコンクリート使用数量が0.20m³未満,又は3.42m³を超える場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。

2. 基礎碎石の有無にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 現場打ち集水桝・街渠桝(本体) 積算条件区分一覧

(積算単位：箇所)

コンクリート規格	1箇所当り コンクリート使用量	養生工の種類
(表 3.2)	(表 3.3)	一般養生・特殊養生(練炭)
		特殊養生(ジェットヒータ)
		養生工無

- (注) 1. 上表は、現場打ちによる集水桝・街渠桝のコンクリート打設、現場内小運搬(15m以内)、シュート、ホップの架設・移動、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業を含む)、基礎碎石、養生の施工の他、雑機械器具(シュート、ホップ、コンクリートパイプレータ、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材、電気ドリル、電気ノコギリ、つき固め機械等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリート、基礎碎石の材料ロスを含む。標準ロス率は、コンクリート使用量が1.03m³以下/箇所の場合+0.06、1.03m³を超え/箇所の場合+0.04、また基礎碎石が+0.20とする。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
4. 雪寒仮囲いの養生が必要な場合は、「養生工無」を選択し別途計上する。
5. 蓋版は別途計上する。
6. 足掛け金物は別途計上する。ただし、集水桝コンクリート打設時に足掛け金物を先付けするタイプの場合、足掛け金物の設置手間は上表に含む。
7. 基面整正は含まない。

表3.2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	27-8-25(20)(普通)
	18-8-40(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	18-8-40(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	18-8-25(高炉)
	各種

表3.3 1箇所当りコンクリート使用量

積算条件	区分	積算条件	区分
1箇所当り コンクリート 使用量	0.20m ³ 以上0.22m ³ 以下	1箇所当り コンクリート 使用量	0.92m ³ を超え0.97m ³ 以下
	0.22m ³ を超え0.24m ³ 以下		0.97m ³ を超え1.03m ³ 以下
	0.24m ³ を超え0.26m ³ 以下		1.03m ³ を超え1.09m ³ 以下
	0.26m ³ を超え0.28m ³ 以下		1.09m ³ を超え1.15m ³ 以下
	0.28m ³ を超え0.30m ³ 以下		1.15m ³ を超え1.22m ³ 以下
	0.30m ³ を超え0.32m ³ 以下		1.22m ³ を超え1.29m ³ 以下
	0.32m ³ を超え0.34m ³ 以下		1.29m ³ を超え1.36m ³ 以下
	0.34m ³ を超え0.36m ³ 以下		1.36m ³ を超え1.44m ³ 以下
	0.36m ³ を超え0.38m ³ 以下		1.44m ³ を超え1.52m ³ 以下
	0.38m ³ を超え0.40m ³ 以下		1.52m ³ を超え1.61m ³ 以下
	0.40m ³ を超え0.43m ³ 以下		1.61m ³ を超え1.70m ³ 以下
	0.43m ³ を超え0.46m ³ 以下		1.70m ³ を超え1.80m ³ 以下
	0.46m ³ を超え0.49m ³ 以下		1.80m ³ を超え1.90m ³ 以下
	0.49m ³ を超え0.52m ³ 以下		1.90m ³ を超え2.00m ³ 以下
	0.52m ³ を超え0.55m ³ 以下		2.00m ³ を超え2.11m ³ 以下
	0.55m ³ を超え0.58m ³ 以下		2.11m ³ を超え2.23m ³ 以下
	0.58m ³ を超え0.61m ³ 以下		2.23m ³ を超え2.35m ³ 以下
	0.61m ³ を超え0.65m ³ 以下		2.35m ³ を超え2.48m ³ 以下
	0.65m ³ を超え0.69m ³ 以下		2.48m ³ を超え2.62m ³ 以下
	0.69m ³ を超え0.73m ³ 以下		2.62m ³ を超え2.77m ³ 以下
	0.73m ³ を超え0.77m ³ 以下		2.77m ³ を超え2.92m ³ 以下
	0.77m ³ を超え0.82m ³ 以下		2.92m ³ を超え3.08m ³ 以下
	0.82m ³ を超え0.87m ³ 以下		3.08m ³ を超え3.25m ³ 以下
	0.87m ³ を超え0.92m ³ 以下		3.25m ³ を超え3.42m ³ 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は,当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 現場打ち集水桝・街渠桝(本体) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	賃料
	K 2	ジェットヒータ 126MJ/h(30,100kcal/h)	・特殊養生(ジェットヒータ)の場合 ・賃料
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	型わく工	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	特殊養生(ジェットヒータ)の場合
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 現場打ち集水桝・街渠桝(本体)

パッケージコード	CB222950	施 工 単 位	箇所
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	コンクリート 規格	1箇所当り コンクリート 使用量	養生工の種類 ①一般養生・特殊養生(練炭) ②特殊養生(ジェットヒータ) ③養生工無
	(表4.1)	(表4.2)	

- (注) 1. J 1 条件で⑤を選択した場合は、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. 雪寒假囲いの養生が必要な場合は、J 3 条件で③を選択し別途計上すること。
 3. コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J 1 条件で⑤各種を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
 4. 本コードは、コンクリート、基礎碎石の材料ロスを含んでいるため、J 2 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。

表4.1 コンクリート規格

生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号	生コンクリート	入力番号
21-8-25(20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑥	24-8-40 (高炉)	⑪
24-8-25(20) (普通)	②	21-8-25(20) (高炉)	⑦	21-8-25 (早強)	⑫
27-8-25(20) (普通)	③	24-8-25(20) (高炉)	⑧	24-8-25 (早強)	⑬
18-8-40 (普通)	④	18-8-40 (高炉)	⑨	18-8-25 (高炉)	⑭
21-8-40 (普通)	⑤	21-8-40 (高炉)	⑩	Y-0210000 (各種)	⑮

(注) Y-0210000 は、コンクリートの ㎡ 当り単価登録すること。

表4.2 コンクリート使用量

コンクリート使用量	入力番号	コンクリート使用量	入力番号
0.20m ³ 以上0.22m ³ 以下	①	0.92m ³ を超え0.97m ³ 以下	②⑤
0.22m ³ を超え0.24m ³ 以下	②	0.97m ³ を超え1.03m ³ 以下	②⑥
0.24m ³ を超え0.26m ³ 以下	③	1.03m ³ を超え1.09m ³ 以下	②⑦
0.26m ³ を超え0.28m ³ 以下	④	1.09m ³ を超え1.15m ³ 以下	②⑧
0.28m ³ を超え0.30m ³ 以下	⑤	1.15m ³ を超え1.22m ³ 以下	②⑨
0.30m ³ を超え0.32m ³ 以下	⑥	1.22m ³ を超え1.29m ³ 以下	③⑩
0.32m ³ を超え0.34m ³ 以下	⑦	1.29m ³ を超え1.36m ³ 以下	③⑪
0.34m ³ を超え0.36m ³ 以下	⑧	1.36m ³ を超え1.44m ³ 以下	③⑫
0.36m ³ を超え0.38m ³ 以下	⑨	1.44m ³ を超え1.52m ³ 以下	③⑬
0.38m ³ を超え0.40m ³ 以下	⑩	1.52m ³ を超え1.61m ³ 以下	③⑭
0.40m ³ を超え0.43m ³ 以下	⑪	1.61m ³ を超え1.70m ³ 以下	③⑮
0.43m ³ を超え0.46m ³ 以下	⑫	1.70m ³ を超え1.80m ³ 以下	③⑯
0.46m ³ を超え0.49m ³ 以下	⑬	1.80m ³ を超え1.90m ³ 以下	③⑰
0.49m ³ を超え0.52m ³ 以下	⑭	1.90m ³ を超え2.00m ³ 以下	③⑱
0.52m ³ を超え0.55m ³ 以下	⑮	2.00m ³ を超え2.11m ³ 以下	③⑲
0.55m ³ を超え0.58m ³ 以下	⑯	2.11m ³ を超え2.23m ³ 以下	④⑩
0.58m ³ を超え0.61m ³ 以下	⑰	2.23m ³ を超え2.35m ³ 以下	④⑪
0.61m ³ を超え0.65m ³ 以下	⑱	2.35m ³ を超え2.48m ³ 以下	④⑫
0.65m ³ を超え0.69m ³ 以下	⑲	2.48m ³ を超え2.62m ³ 以下	④⑬
0.69m ³ を超え0.73m ³ 以下	⑳	2.62m ³ を超え2.77m ³ 以下	④⑭
0.73m ³ を超え0.77m ³ 以下	㉑	2.77m ³ を超え2.92m ³ 以下	④⑮
0.77m ³ を超え0.82m ³ 以下	㉒	2.92m ³ を超え3.08m ³ 以下	④⑯
0.82m ³ を超え0.87m ³ 以下	㉓	3.08m ³ を超え3.25m ³ 以下	④⑰
0.87m ³ を超え0.92m ³ 以下	㉔	3.25m ³ を超え3.42m ³ 以下	④⑱

⑪ 軟弱地盤処理工

⑪ー1 サンドマット工

1. 適用範囲

本資料は、軟弱地盤処理工のサンドマット工に適用する。

2. 施工パッケージ

2-1 サンドマット

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 サンドマット 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

砂材料費の有無
有り
無し

(注) 1. 上表は、サンドマットの敷均し、補助労務等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 土量は締固め（敷均し）後土量とする。

3. 砂の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.23）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.2 サンドマット 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ブルドーザ〔湿地・排出ガス対策型（第1次基準値）〕16t級	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	砂 再生砂	砂材料費有りの場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2－2 安定シート・ネット

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.3 安定シート・ネット 積算条件区分一覧
(積算単位：m2)

シート種類
シート
ネット

(注) 1. 上表は、盛土の安定処理のために行う安定シート・ネットの設置、現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 安定シート・ネットの材料のロスを含む。（標準ロス率は、+0.11）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.4 安定シート・ネット 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	土木安定シート・ネット ナイロン・ポリエステル系 1470N/3cm	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2－3 対象体積，対象面積

サンドマット用砂量の設計体積は、次式による。

$Vm=A \times L$
Vm：サンドマット用砂の設計体積（m3）
A：設計断面積（m2）
L：設計延長（m）

安定シート・ネットの設計面積は次式による。

$Am=W \times L$
Am：設計面積（m2）
W：設計幅員（m）
L：設計延長（〃）

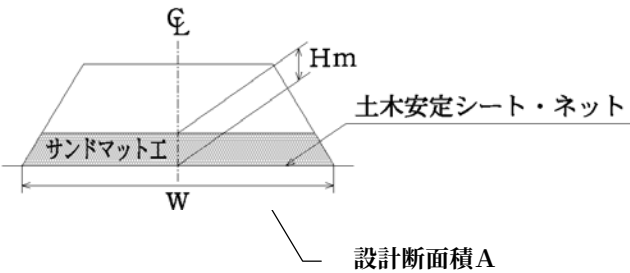


図2－1 施工図

3. 施工単価入力基準表

(1) サンドマット

パッケージコード	CB223030	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	砂材料費の有無		
	①有り ②無し		

(注) 1. J 1 条件で①有りを選択した場合は、砂単価 (Y-0240000) [円/㎡] (ほぐした土量) を単価登録すること。

2. 本コードは、サンドマットの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

(2) 安定シート・ネット

パッケージコード	CB223010	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	シート種類		
	①シート ②ネット		

(注) 1. 安定シート・ネット単価 (Y-1676000) [円/㎡] を単価登録すること。

2. 本コードは、安定シート・ネットの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

⑪－２ 粉体噴射攪拌工 (DJM工法)

1. 適用範囲

本資料は、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射攪拌工（改良材がセメント系及び石灰系の場合）に適用する。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 粉体噴射攪拌

以下のいずれかの条件に該当する場合

- (1) 杭径 1,000 mm, 打設長が 3 m を超え 33m 以下で軸間距離 800 mm から 1,500 mm の二軸施工の場合
- (2) 杭径 1,000 mm, 打設長が 3 m を超え 20m 以下で下記条件のいずれかに該当する単軸施工の場合
 - ・作業面積が狭く、二軸施工機の移動が困難な場合、又は二軸用改良材供給プラントの設置が困難な場合
 - ・杭の配列により二軸施工が困難な場合
 - ・地盤条件により二軸施工が困難な場合

1－1－2 粉体噴射攪拌（移設）

以下のいずれかの条件に該当する場合

- (1) 施工範囲が改良材供給機を中心に半径約 75m を超え、改良材供給設備を移設しなければならない場合
- (2) 同一現場内に施工箇所が 2 箇所以上あり、改良材供給設備を移設しなければならない場合

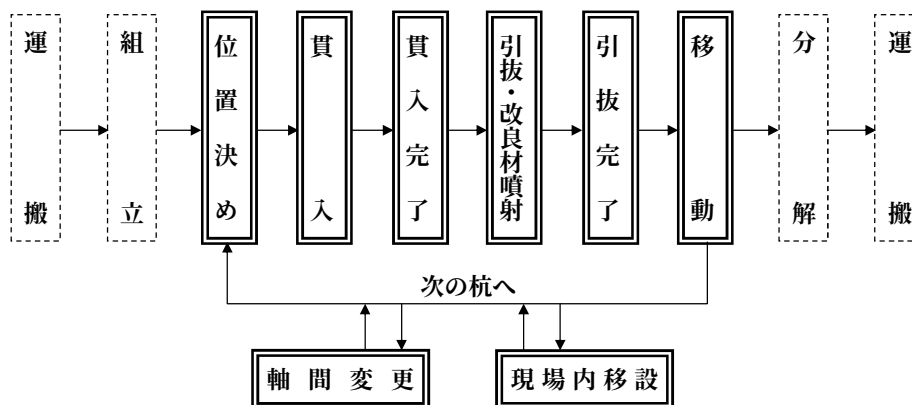
1－1－3 粉体噴射攪拌（軸間変更）

- (1) 二軸施工の場合に同一現場において、粉体噴射攪拌機の軸間変更を必要とする場合

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 粉体噴射攪拌

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 粉体噴射攪拌 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

現場制約の有無	打設長	杭長	改良材使用数量
有り	3m を超え 6m 未満	2m 未満	実数入力 (t/m)
		2m 以上 3m 未満	
		3m 以上 4m 未満	
		4m 以上 5m 未満	
		5m 以上 6m 未満	
	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	
		5m 以上 6m 未満	
		6m 以上 7m 未満	
		7m 以上 8m 未満	
		8m 以上 9m 未満	
		9m 以上 10m 未満	
	10m 以上 14m 未満	8m 以上 9m 未満	
		9m 以上 10m 未満	
		10m 以上 12m 未満	
		12m 以上 14m 未満	
	14m 以上 17m 未満	12m 以上 14m 未満	
		14m 以上 15m 未満	
		15m 以上 17m 未満	
	17m 以上 20m 以下	15m 以上 17m 未満	
		17m 以上 20m 以下	
無し	3m を超え 6m 未満	2m 未満	
		2m 以上 3m 未満	
		3m 以上 4m 未満	
		4m 以上 5m 未満	
		5m 以上 6m 未満	

現場制約の有無	打設長	杭長	改良材使用数量
無し	6m 以上 10m 未満	4m 以上 5m 未満	実数入力 (t/m)
		5m 以上 6m 未満	
		6m 以上 7m 未満	
		7m 以上 8m 未満	
		8m 以上 9m 未満	
		9m 以上 10m 未満	
	10m 以上 15m 未満	8m 以上 9m 未満	
		9m 以上 10m 未満	
		10m 以上 12m 未満	
		12m 以上 14m 未満	
		14m 以上 15m 未満	
	15m 以上 20m 以下	12m 以上 14m 未満	
		14m 以上 15m 未満	
		15m 以上 17m 未満	
		17m 以上 20m 以下	
	20m を超え 27m 未満	17m 以上 20m 以下	
		20m を超え 23m 未満	
		23m 以上 27m 未満	
	27m 以上 33m 以下	23m 以上 27m 未満	
		27m 以上 32m 未満	
		32m 以上 33m 以下	

- (注) 1. 上表は、粉体改良材の噴射攪拌による改良柱の形成、施工機械用及び改良材供給設備用足場材(敷鉄板)の設置・撤去、改良後の整地、足場材賃料、空気圧縮機の賃料及び運転経費、特許使用料、電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等)を含む。
2. 攪拌翼が貫入出来ない場合や引抜きに障害となる転石等の除去は、掘削の施工パッケージを別途計上する。
3. 現場制約の有無について
 有り：下記の条件のいずれかに該当する場合に選択
 ・作業面積が狭く、二軸施工機の移動が困難な場合、又は二軸用改良材供給プラントの設置が困難な場合
 ・杭の配列により二軸施工が困難な場合
 ・地盤条件により二軸施工が困難な場合
4. 打設長(m)は次式による。
 打設長(m) = 空打部長さ + 杭長
5. 安定処理工(土木用安定シートも含む)の施工経費は、別途計上する。
6. 改良材使用数量
 改良材は、セメント系、石灰系を標準とし、現場条件により決定する。なお、改良材のロス(損失+杭頭・着底部処理を含む)を含んでいるので、改良材使用数量は実数量(ロスによる割増をしない数量)とする。(標準ロス率は、+0.15)
7. 施工本数は杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き(改良材噴射)までの一連の作業のものである。
8. 現場内移設に伴い、粉体噴射攪拌機本体の分解・組立が必要となった場合は、分解・組立費を別途計上する。
9. 改良材供給設備の現場内移設は、3-2粉体噴射攪拌(移設)より別途計上する。
10. 軸間変更を行う場合は、3-3粉体噴射攪拌(軸間変更)より別途計上する。

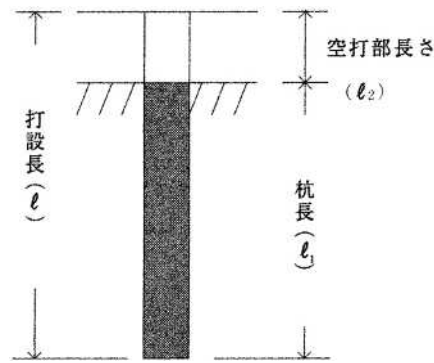


図3-1 施工図

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 粉体噴射攪拌 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	粉体噴射攪拌機 〔単軸（油圧）・スキッド式〕 攪拌モータ トルク 19.6kN・m×1 台 最大改良深度 20m	現場制約有りの場合
		粉体噴射攪拌機 〔二軸（電動）・クローラ式〕 攪拌モータ 55kW×2 台 最大改良深度 26m	現場制約無し (打設長 20m 以下)の場合
		粉体噴射攪拌機 〔二軸（電動）・クローラ式〕 攪拌モータ 90kW×2 台 最大改良深度 33m	現場制約無し (打設長 20m を超える)の 場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	普通作業員	
材料	Z 1	セメント 高炉B	
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	現場制約無しの場合
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 粉体噴射攪拌（移設）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 粉体噴射攪拌(移設) 積算条件区分一覧 (積算単位: 回)

施工方法
単軸施工
二軸施工

(注) 上表は粉体噴射攪拌における改良材供給機、改良材貯蔵槽、発動発電機、空気圧縮機、圧縮空気除湿機、空気槽、制御室、ホース及びケーブル等の設備の移設、制御室移設後の調整費等、その施工に必要な全ての機械・

労務・材料費(損料等)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 粉体噴射攪拌(移設) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 粉体噴射攪拌(軸間変更)

(1) 条件区分

軸間変更における積算条件区分はない。

積算単位は、回とする。

(注) 粉体噴射攪拌における粉体噴射攪拌機の軸間変更等,その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 粉体噴射攪拌(軸間変更) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 粉体噴射攪拌

パッケージコード	CB223110	施工単位	本	
施 工 区 分	入 力 条 件			
	J 1	J 2	J 3	J 4
各 種	現場制約 の有無 ①有り ②無し	打設長 (表 4.1) 又は (表 4.2)	杭 長 (表 4.3)	改良材使用量 (t／m) (実数入力)

- (注) 1. 改良材単価 (Y-0800008) [円/t]を単価登録すること。
2. 本コードは、改良材の材料ロス(損失+杭頭・着底部処理を含む)を含んでいるため、J 4条件は、ロス率を含まない数量を入力すること。
3. J 1条件で①を選択した場合はJ 2条件は(表 4.1)より、②を選択した場合は(表 4.2)により選択すること。
4. J 1条件で①を選択した場合は、J 3条件で⑮～⑱の選択は出来ない。
5. 先掘が必要な場合は、「第Ⅱ編第1章②土工」(CB210100)で別途計上すること。
6. 安定処理工(土木用安定シート等も含む)の施工経費は、必要に応じて別途計上する。

表4.1 打設長(現場制約有り)

打 設 長 (m)	入力番号
3mを超え 6m未満	①
6m以上 10m未満	②
10m以上 14m未満	③
14m以上 17m未満	④
17m以上 20m以下	⑤

表4.2 打設長(現場制約無し)

打 設 長 (m)	入力番号
3mを超え 6m未満	①
6m以上 10m未満	②
10m以上 15m未満	③
15m以上 20m以下	④
20mを超え 27m未満	⑤
27m以上 33m以下	⑥

表4.3 杭 長

杭長	入力番号	杭長	入力番号
2m 未満	①	10m 以上 12m 未満	⑩
2m 以上 3m 未満	②	12m 以上 14m 未満	⑪
3m 以上 4m 未満	③	14m 以上 15m 未満	⑫
4m 以上 5m 未満	④	15m 以上 17m 未満	⑬
5m 以上 6m 未満	⑤	17m 以上 20m 以下	⑭
6m 以上 7m 未満	⑥	20m を超え 23m 未満	⑮
7m 以上 8m 未満	⑦	23m 以上 27m 未満	⑯
8m 以上 9m 未満	⑧	27m 以上 32m 未満	⑰
9m 以上 10m 未満	⑨	32m 以上 33m 以下	⑱

(2) 粉体噴射攪拌 (移設)

パッケージコード	CB223130	施工単位	回
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	施工方法	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	
	①単軸施工 ②二軸施工	①標準 ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

(3) 粉体噴射攪拌 (軸間変更)

パッケージコード	CB223140	施工単位	回
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数		
	①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

⑪ー3 スラリー攪拌工

1. 適用範囲

本資料は、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行うセメント及び石灰によるスラリー攪拌工の陸上施工に適用する。

ただし、変位低減型（排土式）のうち複合噴射攪拌式は除くものとする。

なお、杭径及び打設長は以下のとおりとする。

- (1) 単軸施工：打設長3mを超え10m以下 杭径 800mm～1,200mm, 2,000mm
- (2) 単軸施工：打設長10mを超え30m以下 杭径1,000mm～1,600mm
- (3) 二軸施工：打設長3mを超え40m以下 杭径1,000mm
- (4) 二軸施工（変位低減型）：打設長3mを超え40m以下 杭径1,000mm
- (5) 二軸施工（変位低減型）：打設長3mを超え36m以下 杭径1,600mm

また、単軸施工、二軸施工の選定にあたっては、下記条件等を考慮する。

- (1) 杭の配列
- (2) 作業面積及び施工箇所のトラフィカビリティ

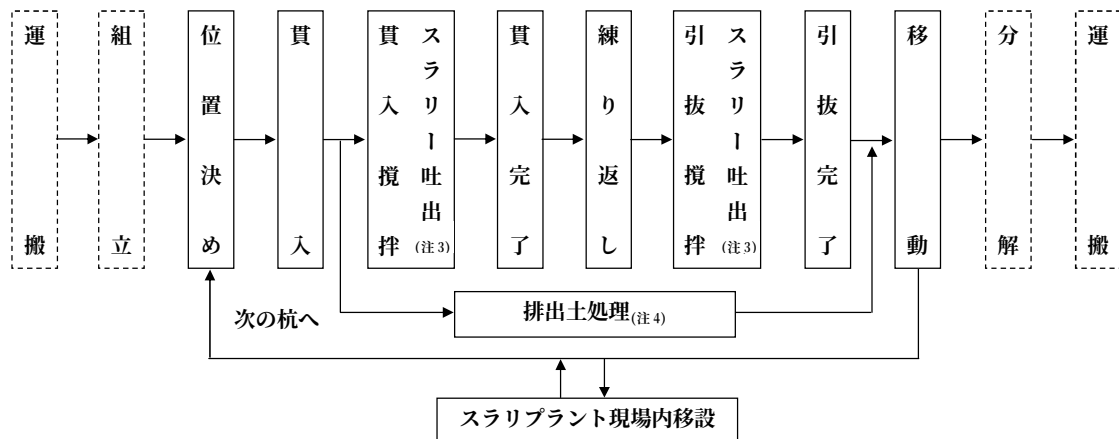
2. 施工概要

2-1 施工内容

スラリー攪拌工は、地盤中にセメント及び石灰系固化材をスラリー状（セメントミルク又はモルタル）で圧送・注入し、攪拌翼で原地盤と攪拌・混合することにより均一な混合処理改良体（コラム）を造成する工法である。変位低減型（排土式）は、周辺地盤や近接構造物に影響を与える恐れがある場合に適用する。

2-2 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. スラリプラントの現場内移設は必要に応じて計上する。
3. スラリー吐出は、工法及び施工管理方法により、貫入攪拌時または引抜き攪拌時に行う。
4. 変位低減型の場合に、排出土処理作業を計上する。

図2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

機械名	規 格	単 位	単 軸 施 工			二 軸 施 工			摘要
			φ800mm～ φ1,200mm	φ1,000mm～ φ1,600mm	φ2,000mm	φ1,000mm			
			打設長(L) 3 mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 30m以下	打設長(L) 3 mを超え 10m以下	打設長(L) 3 mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 20m以下	打設長(L) 20mを超え 40m以下	
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式)	単軸式・小型地盤改良機 27.4kN・m	台	1	—	—	—	—	—	
	単軸式 90～110kW×1	〃	—	1※1	—	—	—	—	
	単軸式 90kW×2	〃	—	—	1	—	—	—	
	二軸式 45kW×2	〃	—	—	—	1	—	—	
	二軸式 55～60kW×2	〃	—	—	—	—	1	—	
	二軸式 90kW×2	〃	—	—	—	—	—	1※2	
スラリプラント (全 自 動)	能力10m ³ ／h	基	1	—	—	—	—	—	
	能力20m ³ ／h	〃	—	1	1	1	1	1	

- (注) 1. 深層混合処理機には、施工管理計、システム管理計を含む。
2. スラリプラントには、スクリーコンベア、セメントサイロ、水槽、ポンプ、アジテータ、グラウトポンプ及びスラリプラント制御盤を含む。
3. ※の機種については、リーダー長は以下のとおりとする。
※1 打設長が10mを超え20m以下の場合24m、打設長が20mを超え30m以下の場合33mとなる。
※2 打設長が20mを超え30m以下の場合40m、打設長が30mを超え40m以下の場合50mとなる。

表3.2 機種を選定

機械名	規 格	単 位	二 軸 施 工（変位低減型）				摘要
			φ1,000mm				
			打設長(L) 3mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 20m以下	打設長(L) 20mを超え 30m以下	打設長(L) 30mを超え 40m以下	
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 45kW×2	台	1	—	—	—	
	二軸式 55～60kW×2	〃	—	1	—	—	
	二軸式 75～90kW×2	〃	—	—	1	—	
	二軸式 90kW×2	〃	—	—	—	1	
スラリプラント (全 自 動)	能力20m ³ ／h	基	1	1	1	1	

- (注) 1. 深層混合処理機には、施工管理計、システム管理計を含む。
2. スラリプラントには、スクリーコンベア、セメントサイロ、水槽、ポンプ、アジテータ、グラウトポンプ及びスラリプラント制御盤を含む。

表3.3 機種の設定

機械名	規 格	単 位	二 軸 施 工（変位低減型）				摘要
			φ1,600mm				
			打設長(L) 3mを超え 10m以下	打設長(L) 10mを超え 20m以下	打設長(L) 20mを超え 26m以下	打設長(L) 26mを超え 36m以下	
深 層 混 合 処 理 機 (スラリー式)	二軸式 90kW×2 最大施工深度10m	台	1	—	—	—	
	二軸式 90kW×2 最大施工深度20m	〃	—	1	—	—	
	二軸式 90kW×2 最大施工深度26m	〃	—	—	1	—	
	二軸式 90kW×2 最大施工深度36m	〃	—	—	—	1	
スラリプラント (全 自 動)	能力40m ³ ／h	基	1	1	1	1	

- (注) 1. 深層混合処理機には、施工管理計、システム管理計を含む。
 2. スラリプラントには、スクリーコンベア、セメントサイロ、水槽、ポンプ、アジテータ、グラウトポンプ及びスラリプラント制御盤を含む。

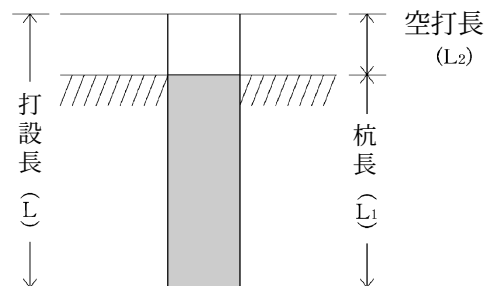


図 3-1 施工図

4. 編 成 人 員

スラリー攪拌工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

1. 表4.1 日当り編成人員 2. 人)

工 法	土木一般世話役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員
単 軸 施 工 二 軸 施 工	1	2	1
二 軸 施 工 (変位低減型)	1	3	1

- (注) 1. 編成人員には、スラリプラントの管理運転労務を含む。
 2. 深層混合処理機の運転労務歩掛は、「第 I 編 6 章 ① 建設機械運転労務」による。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭施工本数

1日当り杭施工本数は、次表を標準とする。

1. 表5.1 1日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	単 軸 施 工 (杭径φ800mm～φ1,200mm)
3mを超え 4m未満	21
4m以上 5m未満	18
5m以上 6m未満	15
6m以上 7m未満	14
7m以上 8m未満	12
8m以上 9m未満	11
9m以上 10m以下	10

1. 表5.2 1日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	単 軸 施 工 (杭径φ1,000mm～φ1,600mm)
10mを超え 12m未満	7
12m以上 14m未満	6
14m以上 19m未満	5
19m以上 25m未満	4
25m以上 30m以下	3

1. 表5.3 1日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	単 軸 施 工 (杭径φ2,000mm)
3mを超え 4m未満	10
4m以上 5m未満	9
5m以上 6m未満	8
6m以上 7m未満	7
7m以上 9m未満	6
9m以上 10m以下	5

- (注) 1. 施工本数は杭間の移動(敷鉄板の設置・撤去含む)、位置決め、貫入、攪拌、練り返し、引抜きまでの一連の作業のものである。
2. 現場内移設に伴い、処理機本体の分解・組立が必要となった場合は、分解・組立を別途計上する。
3. スラリプラントの現場内移設は、「5-4 スラリプラント現場内移設歩掛」により別途計上する。
4. 攪拌翼の貫入、引抜きに障害となる転石等の除去については、「5-5 その他」(1)により別途計上する。
5. 軸の継足しがある場合は、別途計上する。
6. 安定処理工が必要な場合は、別途計上する。

1. 表5.4 1日当り杭施工本数 (N) (本/日)

打設長 L (m)	二 軸 施 工 (杭径φ1,000mm)
3 mを超え 4 m未満	14
4 m以上 5 m未満	13
5 m以上 6 m未満	12
6 m以上 7 m未満	11
7 m以上 9 m未満	10
9 m以上 10m未満	9
10m以上 12m未満	8
12m以上 15m未満	7
15m以上 18m未満	6
18m以上 22m未満	5
22m以上 30m未満	4
30m以上 40m以下	3

- (注) 1. 施工本数は杭間の移動(敷鉄板の設置・撤去含む),位置決め,貫入,攪拌,練り返し,引抜きまでの一連の作業のものである。
2. 現場内移設に伴い,処理機本体の分解・組立が必要となった場合は,分解・組立費を別途計上する。
3. スラリプラントの現場内移設は,「5-4 スラリプラント現場内移設歩掛」により別途計上する。
4. 攪拌翼の貫入,引抜きに障害となる転石等の除去については,「5-5 その他」(1)により別途計上する。
5. 軸の継足しがある場合は,別途計上する。
6. 安定処理工が必要な場合は,別途計上する。
7. 二軸施工の改良断面図は,下図を標準とする。

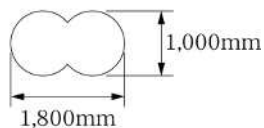


図 5-1 改良断面図

1. 表5.5 1日当り杭施工本数(N) (本/日)

打設長 L (m)	二軸施工(変位低減型) (杭径φ1,000mm)
3mを超え 3.5m未満	12
3.5m以上 4.5m未満	11
4.5m以上 5.5m未満	10
5.5m以上 7m未満	9
7m以上 9m未満	8
9m以上 11m未満	7
11m以上 14m未満	6
14m以上 19m未満	5
19m以上 26m未満	4
26m以上 39m未満	3
39m以上 40m以下	2

- (注) 1. 施工本数は杭間の移動(敷鉄板の設置・撤去含む), 位置決め, 貫入, 攪拌, 練り返し, 引抜きまでの一連の作業のものである。また、排出土処理作業を含む。
2. 現場内移設に伴い, 処理機本体の分解・組立が必要となった場合は, 分解・組立費を別途計上する。
3. スラリプラントの現場内移設は, 「5-4 スラリプラント現場内移設歩掛」により別途計上する。
4. 攪拌翼の貫入, 引抜きに障害となる転石等の除去については, 「5-5 その他」(1)により別途計上する。
5. 軸の継足しがある場合は, 別途計上する。
6. 安定処理工が必要な場合は, 別途計上する。
7. 二軸施工の改良断面図は下図を標準とする。

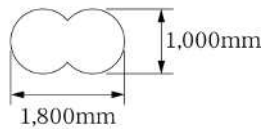


図 5-2 改良断面図

表5.6 1日当り杭施工本数(N) (本/日)

打設長 L (m)	二軸施工(変位低減型) (杭径φ1,600mm)	
	ラップ式	杭式
3mを超え 4m未満	11	22
4m以上 5m未満	10	20
5m以上 6m未満	9	18
6m以上 7m未満	8	16
7m以上 9m未満	7	14
9m以上 11.5m未満	6	12
11.5m以上 15m未満	5	10
15m以上 20.5m未満	4	8
20.5m以上 30m未満	3	6
30m以上 36m以下	2	4

- (注) 1. 施工本数は杭間の移動(敷鉄板の設置・撤去含む), 位置決め, 貫入, 攪拌, 練り返し, 引抜きまでの一連の作業のものである。また、排出土処理作業を含む。
2. 現場内移設に伴い, 処理機本体の分解・組立が必要となった場合は, 分解・組立費を別途計上する。
3. スラリプラントの現場内移設は, 「5-4 スラリプラント現場内移設歩掛」により別途計上する。
4. 攪拌翼の貫入, 引抜きに障害となる転石等の除去については, 「5-5 その他」(1)により別途計上する。
5. 軸の継足しがある場合は, 別途計上する。
6. 安定処理工が必要な場合は, 別途計上する。
7. 二軸施工の改良断面図は下図を標準とする。
8. 杭式は, 2本同時施工とする。

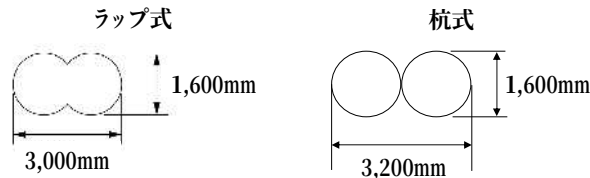


図 5-3 改良断面図

5-2 改良材使用量

改良材は, セメント系, 石灰系を標準とし, 現場条件により決定する。なお, 使用量は次式による。

$$V = v \times L_1 \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 5.1}$$

V : 1 本当り改良材使用量 (t/本)

v : 杭長 1m 当り改良材使用量 (t/m)

L₁ : 杭 長 (m)

K : ロス率

表5.7 ロス率(K)

ロ	ス	率	+0.1

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、改良後の整地に要する費用、電力に関する経費等であり労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、変位低減型の場合は、諸雑費率に排土・排出土処理（現場内仮置き）に関する費用を含む。

1. 表5.8 諸雑費率 (%)

工 法	杭 径	打設長 L (m)	諸 雑 費 率
単 軸 施 工	φ800mm～φ1,200mm	3mを超え10m以下	21
	φ1,000mm～φ1,600mm	10mを超え30m以下	20
	φ2,000mm	3mを超え10m以下	31
二 軸 施 工	φ1,000mm	3mを超え40m以下	26
二 軸 施 工 (変 位 低 減 型)	φ1,000mm	3mを超え40m以下	27
	φ1,600mm	3mを超え36m以下	33

5-4 スラリプラント現場内移設歩掛

スラリプラントを中心に施工位置が半径約100mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上ある等、スラリプラントを移設しなければならない場合は、次表を標準とする。

1. 表5.9 スラリプラント現場内移設歩掛 (1回当たり)

名 称	規 格	単 位	単軸施工 二軸施工 二軸施工(変位低減型)
土木一般世話役		人	1.0
特殊作業員		〃	2.9
普通作業員		〃	1.4
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日	1.4

- (注) 1. 移設するスラリプラントはスクリーコンベア、セメントサイロ、水槽、ポンプ、アジテータ、グラウトポンプ、スラリプラント制御盤及び発動発電機とする。
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

5-5 その他

- (1) 次の条件等により攪拌翼が貫入出来ない場合は、バックホウによる先掘りを行うものとし、「第Ⅱ編1章②土工」による。
1) 表層安定処理等を行った地盤
2) 表層に転石等が多い地盤
3) 表層に障害物等のある地盤
(2) 汚泥土の処分が必要な場合は、別途計上する。
(3) 注入材配合用水、機器洗浄等に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。
(4) スラリー攪拌工は、特許を有する工法の場合もあるので、特許料が必要な場合は別途計上する。

6. 単 価 表

(1) スラリー攪拌工杭長〇〇m 1本当り単価表

施工歩掛コード				WB223210
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{1}{N} \times 1$	表4.1 表5.1～表5.6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{1}{N} \times 2(3)$	表4.1 表5.1～表5.6
普 通 作 業 員		〃	$\frac{1}{N} \times 1$	表4.1 表5.1～表5.6
改 良 材		t	V	式5.1, 表5.7
深層混合処理機運転		日	$\frac{1}{N}$	表3.1～表3.3 表5.1～表5.6 機械損料
スラリプラント運転		〃	$\frac{1}{N}$	表3.1～表3.3 表5.1～表5.6 機械損料
諸 雑 費		式	1	表5.8
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) N: 1日当り杭施工本数(本/日)

V: 1本当り改良材使用量(t/本)

() 書き: 二軸施工(変位低減型)の場合に適用する。

(2) スラリプラント現場内移設1回当り単価表

施工歩掛コード				WB223230
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表5.9
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表5.9 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
深層混合処理機 (スラリー式)	表3.1	機-18	単軸	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ $27.4\text{kN}\cdot\text{m}$ →34 → $110\text{kW}\times 1$ 20m→62 → $110\text{kW}\times 1$ 30m→72 → $90\text{kW}\times 2$ →62 機械損料数量→1.59
			二軸	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ $45\text{kW}\times 2$ →35 → $60\text{kW}\times 2$ →38 → $90\text{kW}\times 2$ →56 機械損料数量→1.59
深層混合処理機 (スラリー式) 変位低減型	表3.2, 表3.3	機-18	二軸	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ $45\text{kW}\times 2$ →33 → $60\text{kW}\times 2$ →36 → $75\text{kW}\times 2$ →52 → $90\text{kW}\times 2$ →52 → $L\leq 10\text{m}$ 機 →53 → $L\leq 20\text{m}$ 機 →53 → $L\leq 26\text{m}$ 機 →66 → $L\leq 36\text{m}$ 機 →53 機械損料数量→1.59
スラリプラント	表3.1～表3.3	機-25	機械損料数量→1.59	

7. 施工単価入力基準表

(1) スラリー攪拌工

施工歩掛コード	WB223210	施工単位	本				
施工区分	入 力 条 件						
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	施工方法 及び杭径 区分	改良断面	杭径 (φ)	打設長 (L)	杭 長 (L ₁)	杭長1m 当り改良材 使用量	特許料 の有無
			(mm)	(m)	(m)	(t／m)	
	(表 7.1)	①ラップ式 ②杭式	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	①無 ②有

- (注) 1. 本コードには、改良材の材料ロスを含む。
 2. J 1 条件で①～⑤を選択した場合、J 2 条件は選択出来ない。
 3. J 1 条件で③を選択した場合、J 3 条件は 2,000 mm で固定される。
 4. J 1 条件で④を選択した場合、J 3 条件は 1,000 mm で固定される。
 5. J 1 条件で⑤を選択した場合、J 3 条件は 1,000mm で固定される。
 6. J 1 条件で⑥を選択した場合、J 3 条件は 1,600mm で固定される。
 7. 改良材単価 (Y-1600000) [円/t] を単価登録すること。
 8. J 7 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550004) [円/m³] を単価登録すること。

表76.1 施工方法・杭径

施工方法・杭 径		入力番号
単 軸 施 工	φ 800 mm～φ1,200 mm, 3m<L≤10m	①
	φ1,000 mm～φ1,600 mm, 10m<L≤30m	②
	φ2,000 mm, 3m<L≤10m	③
二 軸 施 工	φ1,000 mm, 3m<L≤40m	④
二 軸 施 工 (変位低減型)	φ1,000 mm, 3m<L≤40m	⑤
	φ1,600 mm, 3m<L≤36m	⑥

(2) スラリプラント現場内移設

施工歩掛コード	WB223230	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数		
	①標 準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

⑪－４ 高圧噴射攪拌工

1. 適用範囲

本資料は、粘性土及び砂質土等の地盤を対象として行う高圧噴射攪拌工のうち単管工法、二重管工法、三重管工法に適用する。

なお、単管工法は杭径 700～1,100 mm、二重管工法は杭径 1,000 mm～2,000 mm、三重管工法は杭径 1,800 mm～2,000 mmとし、いずれも杭（杭心）間隔は 3 m以下を標準とする。

ただし、機械攪拌併用方式は含まない。

2. 施工概要

2－1 施工内容

高圧噴射攪拌工は、安定材等を地盤中に高圧で噴射しながら切削・攪拌することにより地盤を改良する工法であり、ロッドの違いにより次の 3 工法に分けられる。

(1) 単管工法

単管を使用し、硬化材で切削・攪拌を行う。

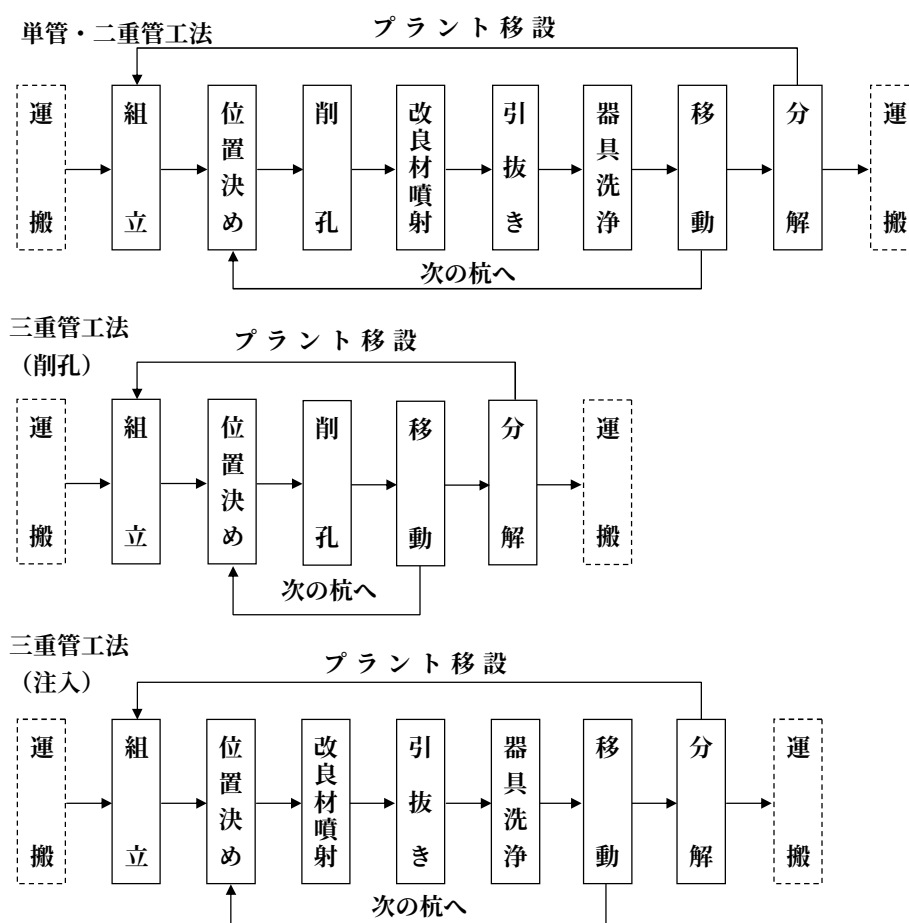
(2) 二重管工法

二重管を使用し、硬化材とエアで切削・攪拌を行う。

(3) 三重管工法

三重管を使用し、切削を水とエアで行いながら、ロッドの下部から硬化材を噴射し、攪拌する。

2－2 施工フロー



（注） 本歩掛で対応している部分は、実線部分である。

図2.1 施工フロー図

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 単管工法の機種の選定

機 種	規 格	単 位	杭 径		摘 要
			700 mm以上 800 mm以下	800 mmを超え 1,100 mm以下	
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW級	台	4	2	
高圧噴射攪拌式 地 盤 改 良 機	超高压ポンプ 19.6MPa 20~100ℓ/min	〃	4	—	
〃	超高压ポンプ 39.2MPa 100~130ℓ/min	〃	—	2	

(注) 上表は、杭径が700 mm以上800 mm以下の場合は4セットを標準とし、800 mmを超え1,100 mm以下の場合は2セットを標準とした数量である。

表3.2 二重管工法の機種の選定

機 種	規 格	単 位	数 量	摘 要
高圧噴射攪拌用地盤改良機	二重管専用型 11kW	台	1	
〃	超高压ポンプ 19.6MPa 20~100ℓ/min	〃	1	
空 気 圧 縮 機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 吐出量 5m ³ /min 吐出圧力 0.7MPa	〃	1	
ト ラ ッ ク ク レ ーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊	〃	1	

(注) 1. 上表は、1セットを標準とした数量である。

2. 空気圧縮機、トラッククレーンは、賃料とする。

表3.3 三重管工法の機種の選定

機 種	規 格	単 位	数 量		摘 要
			削 孔	注 入	
高圧噴射攪拌用地盤改良機	掘削専用型(油圧式) 内径 148 mm 11kW	台	1	—	
〃	三重管専用型 11kW	〃	—	1	
〃	超高压ポンプ 39.2MPa 14~70ℓ/min	〃	—	1	
グ ラ ウ ト ポ ンプ	横型二連複動ピストン式 吐出量200ℓ /min	〃	—	1	
〃	横型二連複動ピストン式 吐出量 37~100ℓ /min	〃	1	—	
空 気 圧 縮 機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 吐出量 5m ³ /min 吐出圧力 0.7MPa	〃	—	1	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 20t 吊	〃	—	1	

(注) 1. 上表は、削孔時及び注入時ともに1セットを標準とした数量である。

2. 空気圧縮機、ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

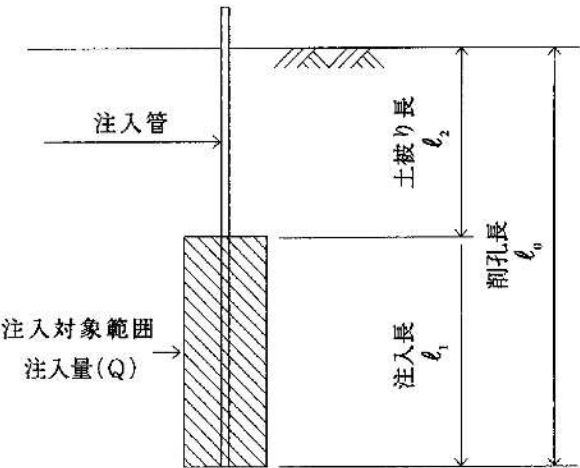


図3.1 施工図

4. 編 成 人 員

高圧噴射攪拌工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1　日当り編成人員				(人／日)		
工法			職種	土木一般 世話役	特殊作業員	普通作業員
単 管 工 法	杭 径	700 mm以上 800 mm以下	1	8	4	
		800 mmを超え 1,100 mm以下	1	5	4	
二 重		管 工 法	1	3	3	
三重管工法	削 孔 時		1	1	1	
	注 入 時		1	4	3	

(注) 上表は、単管工法の杭径 700 mm以上 800 mm以下は4セット分、800 mmを超え 1,100 mm以下は2セット分、二重管工法及び三重管工法は1セット分の人員である。

5. 施 工 歩 掛

5-1 単管工法

5-1-1 1本当り施工時間 (T_T)

単管工法における1本当り施工時間は、次式による。

$$T_T = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$$

T_T：単管工法1本当り施工時間 (min)

T₁：機械準備時間 (min)

T₂：削孔時間 (min)

T₃：注入時間 (min)

T₄：土被り部引抜時間 (min)

(1) 機械準備時間 (T₁)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び注入後の器具洗浄時間であり、13分とする。

(2) 削孔時間 (T_2)

$$T_2 = \Sigma (\gamma_1 \times \ell_0)$$

 γ_1 : 各土質毎の削孔の単位作業時間 (min/m)

 ℓ_0 : 各土質毎の削孔長 (m)
表5.1 削孔の単位作業時間 (γ_1) (min/m)

土 質	砂 質 土	粘 性 土	
	$N \leq 13$	$N < 1$	$1 \leq N \leq 4$
γ_1	3.2	2.4	2.8

(注) 1. N: 各土質毎の削孔対象地盤の最大N値。

2. 上表は、無水で削孔を行う場合であり、これにより難しい場合は別途考慮する。

3. ロッド接続時間を含む。

(3) 注入時間 (T_3)

$$T_3 = \Sigma \{(\gamma_2 + \gamma_3) \times \ell_1\}$$

 γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

 γ_3 : ロッド切断の単位作業時間 (min/m)

 ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)
表5.2 注入の単位作業時間 (γ_2) (min/m)

土 質	砂 質 土	粘 性 土	
	$N \leq 13$	$N < 1$	$1 \leq N \leq 4$
γ_2	2.7	2.7	3.2

(注) N: 各土質毎の改良対象地盤の最大N値。

表5.3 ロッド切断の単位作業時間 (γ_3) (min/m)

γ_3	0.7

(4) 土被り部引抜時間 (T_4)

$$T_4 = \gamma_4 \times \ell_2$$

 γ_4 : 土被り部引抜きの単位作業時間 (min/m)

 ℓ_2 : 土被り長 (m)
表5.4 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_4) (min/m)

γ_4	2

5-1-2 注入材料使用量

単管工法に必要な注入材料使用量は、次式による。

$$Q_T = \Sigma \{(\ell_1 \times \gamma_2) \times q \times (1 + \beta)\} \dots\dots\dots \text{式 5.1}$$

 Q_T : 単管工法の1本当り注入量 (m³)

 ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)

 γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

 q : 単管工法の注入材の吐出量 (m³/min)

 β : ロス率
表5.5 単管工法の注入材の吐出量 (q) (m³/min)

杭 径	700 mm以上 800 mm以下	800 mmを超え 1,100 mm以下
	0.08	0.10
q		

表5.6 ロス率 (β)

β	+0.19

5-1-3 1日当り施工本数

単管工法における1日当り施工本数は、次式による。

$$N = \frac{60 \times H}{T_T} \times 2 \quad (4)$$

N : 2 (4) セット1日当り施工本数 (本/日)
H : 単管工法設備の1日当り実作業時間で6.7時間とする。
T_T : 1本当り施工時間 (min)

5-1-4 諸雑費

単管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モータポンプ、水槽(一般工事用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.7 単管工法の諸雑費率 (%)	
諸 雑 費 率	30

5-1-5 損耗材料費

(1) 削孔損耗材料費

単管工法の削孔損耗材料費は、ロッド、ロッドカップリング、メタルクラウン、スィベル等の費用を計上する。

(2) 注入損耗材料費

単管工法の注入損耗材料費は、モニター、ノズル、高圧ホース等の費用を計上する。

5-2 二重管工法

5-2-1 1本当り施工時間 (T_N)

二重管工法における1本当り施工時間は、次式による。

$$T_N = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$$

T_N : 二重管工法1本当り施工時間 (min)
T₁ : 機械準備時間 (min)
T₂ : 削孔時間 (min)
T₃ : 注入時間 (min)
T₄ : 土被り部引抜時間 (min)

(1) 機械準備時間 (T₁)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び注入後の器具洗浄時間であり、25分とする。

(2) 削孔時間 (T₂)

$$T_2 = \sum (\gamma_1 \times \ell_0)$$

γ₁ : 各土質毎の削孔の単位作業時間 (min/m)
ℓ₀ : 各土質毎の削孔長 (m)

表5.8 削孔の単位作業時間 (γ ₁)				(min／m)
土 質	レキ質土	砂 質 土		粘 性 土
		N≤30	N>30	
γ ₁	45	9	13	7

(注) 1. N : 各土質毎の削孔対象地盤の最大N値。
2. ロッド接続時間を含む。

(3) 注入時間 (T_3)

$$T_3 = \Sigma \{(\gamma_2 + \gamma_3) \times \ell_1\}$$

 γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

 γ_3 : ロッド切断の単位作業時間 (min/m)

 ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)
表5.9 注入の単位作業時間 (γ_2) (min/m)

杭 径 (mm)		2,000	1,800	1,600	1,400	1,200	1,000
γ_2	砂 質 土	$N \leq 10$	$10 < N \leq 20$	$20 < N \leq 30$	$30 < N \leq 35$	$35 < N \leq 40$	$40 < N \leq 50$
		38		28		19	
	粘 性 土	$N < 1$	$N = 1$	$N = 2$	$N = 3$	$N = 4$	—
		29		22		16	—

(注) N: 各土質毎の改良対象地盤の最大N値。

表5.10 ロッド切断の単位作業時間 (γ_3) (min/m)

γ_3	2

(4) 土被り引抜時間 (T_4)

$$T_4 = \gamma_4 \times \ell_2$$

 γ_4 : 土被り部引拔きの単位作業時間 (min/m)

 ℓ_2 : 土被り長 (m)
表5.11 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_4) (min/m)

γ_4	2

5-2-2 注入材料使用量

二重管工法に必要な注入材料使用量は、次式による。

$$Q_N = \Sigma \{(\ell_1 \times \gamma_2) \times q \times (1 + \beta)\} \dots\dots\dots \text{式 5.2}$$

 Q_N : 二重管工法の1本当り注入量 (m^3)

 ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)

 γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

 q : 二重管工法の注入材の吐出量 (m^3/min)

 β : ロス率
表5.12 二重管工法の注入材の吐出量 (q) (m^3/min)

q	0.06

表5.13 ロス率 (β)

β	+0.06

5-2-3 1日当り施工本数

二重管工法における1日当り施工本数は、次式による。

$$N = \frac{60 \times H}{T_N}$$

N: 1セット1日当り施工本数 (本/日)

H: 二重管工法設備の1日当り実作業時間で6.7時間とする。

 T_N : 1本当り施工時間 (min)

5-2-4 諸雑費

二重管工法の1本当り諸雑費は、付属機器固化材サイロ、集中プラントミキサ、工事用水中モータポンプ、水槽(一般工事用)、グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.14 二重管工法の諸雑費率 (%)	
諸 雑 費 率	28

5-2-5 損耗材料費

(1) 削孔損耗材料費

二重管工法の削孔損耗材料費は、スイベル、ロッド、モニター、超高压ホース、ビット等の費用を計上する。

(2) 注入損耗材料費

二重管工法の注入損耗材料費は、超高压ホース、耐压ホース、二重管、スイベル、モニター、ノズル等の費用を計上する。

5-3 三重管工法

5-3-1 1本当り削孔施工時間 (T_s)

三重管工法における1本当り削孔施工時間は次式による。

$$T_s = T_1 + T_2$$

T_s : 三重管工法1本当り削孔時間 (min)
 T_1 : 機械準備時間 (min)
 T_2 : 削孔時間 (min)

(1) 機械準備時間 (T₁)

機械準備時間は、機械移動、機械据付時間であり、22分とする。

(2) 削孔時間 (T₂)

$$T_2 = \Sigma (\gamma_1 \times \ell_0)$$

γ_1 : 各土質毎の削孔の単位作業時間 (min/m)
 ℓ_0 : 各土質毎の削孔長 (m)

表5.15 削孔の単位作業時間 (γ₁) (min/m)

土 質	レキ質土		砂質土		粘性土
	N ≤ 50	N > 50	N ≤ 50	N > 50	
γ ₁	38	58	24	30	18

(注) 1. N: 各土質毎の削孔対象地盤の最大N値。
2. ロッド接続時間を含む。

5-3-2 1本当り注入施工時間 (T_A)

三重管工法における1本当り注入施工時間は、次式による。

$$T_A = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$$

T_A : 三重管工法1本当り注入時間 (min)
 T_1 : 機械準備時間 (〃)
 T_2 : 注入準備時間 (〃)
 T_3 : 注入時間 (〃)
 T_4 : 土被り部引抜時間 (〃)

(1) 機械準備時間 (T₁)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び注入後の器具洗浄時間であり、30分とする。

(2) 注入準備時間 (T_2)

注入準備時間は、三重管セット及びケーシングパイプ引抜時間であり、次式とする。

$$T_2 = \gamma_1 \times \ell_0$$

γ_1 : 注入準備の単位作業時間 (min/m)

ℓ_0 : 削孔長 (m)

表 5.16 注入準備の単位作業時間 (γ_1) (min/m)

γ_1	2

(3) 注入時間 (T_3)

$$T_3 = \Sigma \{(\gamma_2 + \gamma_3) \times \ell_1\}$$

γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

γ_3 : ロッド切断の単位作業時間 (min/m)

ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)

表 5.17 注入の単位作業時間 (γ_2) (min/m)

土 質	砂 質 土			粘 性 土	
	$N \leq 30$	$30 < N \leq 50$	$50 < N \leq 100$	$N \leq 3$	$3 < N \leq 5$
杭径 (mm)	2000		1800	2000	1800
γ_2	16	20			

(注) N: 各土質毎の改良対象地盤の最大N値。

表 5.18 ロッド切断の単位作業時間 (min/m)

γ_3	2

(4) 土被り部引抜時間 (T_4)

$$T_4 = \gamma_4 \times \ell_2$$

γ_4 : 土被り部引抜きの単位作業時間 (min/m)

ℓ_2 : 土被り長 (m)

表 5.19 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_4) (min/m)

γ_4	2

5-3-3 注入材料使用量

三重管工法に必要な注入材料使用量は、次式による。

$$Q_A = \Sigma \{(\ell_1 \times \gamma_2) \times q \times (1 + \beta)\} \dots\dots\dots \text{式 5.3}$$

Q_A : 三重管工法の1本当り注入量 (m^3)

ℓ_1 : 各土質毎の注入長 (m)

γ_2 : 各土質毎の注入の単位作業時間 (min/m)

q : 三重管工法の注入材の吐出量 (m^3/min)

β : ロス率

表 5.20 三重管工法の注入材の吐出量 (q) (m^3/min)

q	0.18

表 5.21 ロス率 (β)

β	+0.06

5-3-4 1日当り施工本数

三重管工法における削孔，注入の1日当り施工本数は次式とする。

(1) 削孔

$$N_s = \frac{60 \times H}{T_s}$$

N_s ：1セット1日当り削孔施工本数（本／日）

H ：削孔設備の1日当り実作業時間で6.7時間とする。

T_s ：1本当り削孔時間（min）

(2) 注入

$$N_A = \frac{60 \times H}{T_A}$$

N_A ：1セット1日当り注入施工本数（本／日）

H ：注入設備の1日当り実作業時間で6.7時間とする。

T_A ：1本当り注入時間（min）

5-3-5 諸雑費

(1) 削孔

三重管工法の削孔1本当り諸雑費は，水中ポンプ，水槽(一般工事用)の損料及び電力に関する経費等の費用であり，労務費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.22 三重管工法の削孔諸雑費率 (%)

削 孔	11

(2) 注入

三重管工法の注入1本当り諸雑費は，付属機器固化材サイロ，集中プラントミキサ，工事用水中モータポンプ，水槽(一般工事用)，グラウト流量・圧力測定装置の損料及び電力に関する経費等の費用であり，労務費，賃料，機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を上限として計上する。

表5.23 三重管工法の注入諸雑費率 (%)

注 入	24

5-3-6 損耗材料費

(1) 削孔損耗材料費

三重管工法の削孔損耗材料費は，メタルクラウン，スタビライザ，ケーシングパイプ等の費用を計上する。

(2) 注入損耗材料費

三重管工法の注入損耗材料費は，超高圧ホース，高圧圧入ホース，耐圧エアホース，三重管，スィベル，モニター，ノズル等の費用を計上する。

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

注入設備の据付・解体の歩掛は、次表とする。なお、注入範囲が注入設備を中心に半径 50m（単管は約 100m）を超える場合は、移設費として1回当たり次表の労務費、ラフテレーンクレーン賃料の合計額の 50% を必要回数計上する。

表5.24 据付・解体歩掛

(1現場当り)

名 称	単位	規 格	単 管 工 法		二重管工法	三重管工法
			杭 径			
			700 mm以上 800 mm以下	800 mmを超え 1,100 mm以下		
土 木 一 般 世 話 役	人		3	3	3	6
特 殊 作 業 員	〃		24	15	9	15
普 通 作 業 員	〃		12	12	9	12
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	日	油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型（第 2 次基 準値）・25 t 吊	2	2	2	2

(注) 1. 作業日数は、各工法とも据付け2日、解体1日とする。

2. 上表は、単管工法の杭径 700 mm以上 800 mm以下は4セット分、800 mmを超え 1,100 mm以下は2セット分、二重管工法、三重管工法は1セット分である。

3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

5-5 地盤整備費

排泥処理のためピット等を掘削する場合及び地盤改良後の整地が必要な場合は、「第Ⅱ編第1章②土工3-1 掘削」、「第Ⅱ編第1章②土工3-3 整地」により、別途計上する。

5-6 排水汚泥土処理設備費

排水及び汚泥土処理に要する設備が必要な場合は、別途計上する。

5-7 汚泥土処理費

汚泥土の産廃処理が必要な場合は、別途計上する。

5-8 足場工

仮設足場が必要な場合は、別途計上する。

5-9 水道用水費

削孔用水、注入材配合用水、機器洗浄等に用いる上水道等が必要な場合は、別途計上する。

5-10 その他

- (1) 単管工法、二重管工法及び三重管工法における注入時間が、土質条件等により本歩掛により難しい場合は、別途考慮する。
- (2) 単管工法、二重管工法及び三重管工法におけるセット数については、あらかじめ十分検討しておく。
- (3) 単管工法、二重管工法及び三重管工法は、特許を有する工法の場合もあるので、特許料が必要な場合は別途計上する。

6. 単 価 表

(1) 単管工法1本当り単価表

施工歩掛コード				WB223310
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_T/(6.7 \times 60) \times a/c$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$T_T/(6.7 \times 60) \times a/c$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_T/(6.7 \times 60) \times a/c$	〃
注 入 材 料		m ³	Q_T	式5.1
損 耗 材 料 費		式	1	
ボーリングマシン運転	油圧式5.5kW級	日	$T_T/(6.7 \times 60) \times b/c$	表3.1 機械損料
高 圧 噴 射 攪 拌 式 地 盤 改 良 機 運 転	超高压ポンプ19.6MPa 20～100ℓ/min	〃	$T_T/(6.7 \times 60) \times b/c$	〃
〃	超高压ポンプ39.2MPa 100～130ℓ/min	〃	$T_T/(6.7 \times 60) \times b/c$	〃
諸 雑 費		式	1	表5.7
特 許 料 金		〃	1	必要に応じ 計上
計				

(注) 1. T_T : 1本当り施工時間 (min)

2. a: 編成人員

3. b: 施工台数

4. c: セット数

5. Q_T : 単管工法の1本当り注入量 (m³)

(2) 二重管工法1本当り単価表

施工歩掛コード				WB223320
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_N/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_N/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注 入 材 料		m ³	Q_N	式5.2
損 耗 材 料 費		式	1	
高圧噴射攪拌用地盤改良機 運 転	二重管専用型 11kW	日	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2 機械損料
〃	超高压ポンプ19.6MPa 20～100ℓ/min	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
空 気 圧 縮 機 運 転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 吐出量5m ³ /min 吐出圧力0.7MPa	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	表3.2 機械賃料
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	〃	$T_N/(6.7 \times 60)$	〃
諸 雑 費		式	1	表5.14
特 許 料 金		〃	1	必要に応じ計 上
計				

(注) 1. T_N : 1本当り施工時間 (min)

2. Q_N : 二重管工法の1本当り注入量 (m³)

(3) 三重管工法削孔1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB223330
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_s/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$T_s/(6.7 \times 60) \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_s/(6.7 \times 60) \times 1$	〃
損 耗 材 料 費		式	1	
高圧噴射攪拌用地盤改良機 運 転	掘削専用型(油圧式) 内径148mm 11kW	日	$T_s/(6.7 \times 60)$	表3.3 機械損料
グラウトポンプ損料	横型二連複動ピストン式 吐出量37~100ℓ /min	〃	$T_s/(6.7 \times 60)$	〃
諸 雑 費		式	1	表5.22
計				

(注) T_s : 1本当り削孔時間 (min)

(4) 三重管工法注入1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB223340
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_A/(6.7 \times 60) \times 1$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 4$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_A/(6.7 \times 60) \times 3$	〃
注 入 材 料		m ³	Q_A	式5.3
損 耗 材 料 費		式	1	
高圧噴射攪拌用地盤改良機 運 転	三重管専用型 11kW	日	$T_A/(6.7 \times 60)$	表3.3 機械損料
〃	超高圧ポンプ39.2MPa 14~70ℓ/min	〃	$T_A/(6.7 \times 60)$	〃
グラウトポンプ運 転	横型二連複動ピストン式 吐出量200ℓ /min	〃	$T_A/(6.7 \times 60)$	〃
空 気 圧 縮 機 運 転	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 吐出量5m ³ /min 吐出圧力0.7MPa	〃	$T_A/(6.7 \times 60)$	表3.3 機械賃料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第 2次基準値) 20t 吊	〃	$T_A/(6.7 \times 60)$	〃
諸 雑 費		式	1	表5.23
特 許 料 金		〃	1	必要に応 じて計上
計				

(注) 1. T_A : 1本当り施工時間 (min)2. Q_A : 三重管工法の1本当り注入量 (m³)

(5) 注入設備据付・解体1現場当たり及び移設1回当たり単価表

				施工歩掛コード	WB223370 WB223380
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表5.24	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2 次基準値) 25 t 吊	日		表 5.24 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
空 気 圧 縮 機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 吐出量 5m ³ /min	機-16	燃料消費量→47 機械賃料数量 二重管工法→1.40 三重管工法→1.75

7. 施工単価入力基準表

(1) 高圧噴射攪拌工(単管工法)

施工歩掛コード		WB223310		施工単位		本				
施工区分		入 力 条 件								
各 種	J 1		J 2		J 3		J 4		J 5	
	杭径		砂質土 N≦13 の削孔長		粘性土 N<1 の削孔長		粘性土 1≦N≦4 の削孔長		砂質土 N≦13 の注入長	
	①700 mm以上 800 mm以下 ②800 mmを超え 1,100 mm以下		(m) (実数入力)		(m) (実数入力)		(m) (実数入力)		(m) (実数入力)	

J 6		J 7		J 8	
粘性土 N<1 の注入長		粘性土 1≦N≦4 の注入長		特許料の有無	
(m) (実数入力)		(m) (実数入力)		①無 ②有	

- (注) 1. 本コードには、注入材の材料ロスを含む。
 2. 注入材単価 (Y-0232000) [円/㎡] を単価登録すること。
 3. J 8 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550000) [円/本] を単価登録すること。

(2) 高圧噴射攪拌工(二重管工法)

施工歩掛コード		WB223320		施工単位		本		
施工区分		入 力 条 件						
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8
	レキ質土 の削孔長	砂質土 N≦30 の削孔長	砂質土 N>30 の削孔長	粘性土 の削孔長	砂質土の N値・杭径	粘性土の N値・杭径	砂質土の 注入長	粘性土の 注入長
	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	(表 6.1)	(表 6.2)	(m) (実数入 力)	(m) (実数入 力)

J 9		J 10	
トラッククレーン 賃料補正係数		特許料の 有無	
①標準 (1.0)		①無	
②標準以外 (実数入力)		②有	

- (注) 1. 本コードには、注入材の材料ロスを含む。
 2. J 5, J 6 条件で④以外を選択した場合は、注入材単価 (Y-0232000) [円/㎡] を単価登録すること。
 3. J 10 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550000) [円/本] を単価登録すること。
 4. 本コードは、空気圧縮機の低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 5. トラッククレーン賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。

表6.1 二重管工法の砂質土N値・杭径

杭 径 (mm)	2,000	1,800	1,600	1,400	1,200	1,000	注 入 無
改良対象地盤 の最大N値	$N \leq 10$	$10 < N \leq 20$	$20 < N \leq 30$	$30 < N \leq 35$	$35 < N \leq 40$	$40 < N \leq 50$	
入力番号	①		②		③		④

表6.2 二重管工法の粘性土N値・杭径

杭 径 (mm)	2,000	1,800	1,600	1,400	1,200	注 入 無
改良対象地盤 の最大N値	$N < 1$	$N = 1$	$N = 2$	$N = 3$	$N = 4$	
入力番号	①		②		③	④

(3) 高圧噴射攪拌工(三重管工法〔削孔工〕)

施工歩掛コード		WB223330	施工単位		本
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	レキ質土の N ≤ 50 の削孔長 (m) (実数入力)	レキ質土 N > 50 の削孔長 (m) (実数入力)	砂質土 N ≤ 50 の削孔長 (m) (実数入力)	砂質土 N > 50 の削孔長 (m) (実数入力)	粘性土 の削孔長 (m) (実数入力)

(4) 高圧噴射攪拌工(三重管工法〔注入工〕)

施工歩掛コード		WB223340	施工単位		本			
施工区分		入 力 条 件						
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	
	砂質土の N値・杭径	粘性土の N値・杭径	砂質土の 注入長	粘性土の 注入長	土破り長	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	特許料 の有無	
	(表 6.3)	(表 6.4)	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	①標準 (1.0) ②標準以外(実数入力)	①無 ②有	

- (注) 1. 本コードには、注入材の材料ロスを含む。
 2. J 1条件で③, J 2条件で②以外を選択した場合は、注入材単価 (Y-0232000) [円/㎡] を単価登録すること。
 3. J 7条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550000) [円/本] を単価登録すること。
 4. 本コードは、空気圧縮機の低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 5. ラフテレーンクレーン賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。
 6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

表6.3 三重管工法の砂質土N値・杭径

杭 径 (mm)	2,000		1,800	注 入 無
改良対象地盤 の最大N値	$N \leq 30$	$30 < N \leq 50$	$50 < N \leq 100$	
入力番号	①		②	③

表6.4 三重管工法の粘性土N値・杭径

杭径(mm)	2,000	1,800	注 入 無
改良対象地盤 の最大N値	$N \leq 3$	$3 < N \leq 5$	
入力番号	①		②

(5) 注入設備据付・解体

施工歩掛コード	WB223370	施工単位	現 場
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	工法区分 ①単管工法 ②二重管工法 ③三重管工法	単管工法 杭 径 ①700mm以上,800mm以下 ②800mmを超え1,100以下	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準(1.0) ②標準以外(実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②, ③を選択した場合は, J 2 条件は入力しなくて良い。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は, 労務費調整係数を入力すること。
 3. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種, 普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(6) 注入設備移設

施工歩掛コード	WB223380	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	工法区分 ①単管工法 ②二重管工法 ③三重管工法	単管工法 杭 径 ①700mm以上,800mm以下 ②800mmを超え1,100以下	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準(1.0) ②標準以外(実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②, ③を選択した場合は, J 2 条件は入力しなくて良い。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は, 労務費調整係数を入力すること。
 3. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種, 普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

⑪－5 ペーパードレーン工

1. 適用範囲

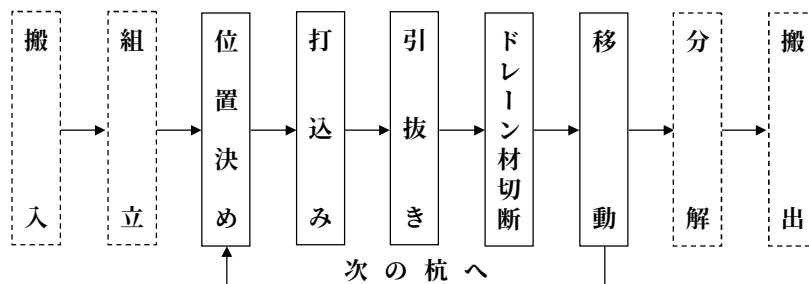
本資料は、粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちペーパードレーン工法に適用する。なお、サンドマット施工後の打設を標準とするが、ペーパードレーン打機を湿地型としているため、敷鉄板については敷設しないことを標準とする。

2. 施工概要

(1) 施工内容

本工法は、プラスチックボード、ファイバー等を地盤中に設置することにより排水柱を造成し、これにより軟弱地盤の圧密を促進する工法である。

(2) 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

機種、規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機種	規格	単位	30m以下	30mを超え 40m以下
ペーパードレーン打機	湿地型 打設長30m以下	台	1	—
	湿地型 打設長30mを超え40m以下	台	—	1

4. 編成人員

編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人)

土木一般 世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	1

5. 施 工 歩 掛

5-1 施工時間 (Tc)

サイクルタイムは、ドレーン材のペーパードレーン打機への装着・杭間の移動・芯出し・打込み・引抜き
の各時間からなり次式による。

表5.1 施工時間 (Tc) (min/本)

サイクルタイム	$1 + 0.08 \cdot L$

L : 打設長

5-2 ドレーン材の必要長

ドレーン材の1本当たりの必要長 (m) は、次式による。

$$\text{必要長 (m/本)} = (L + 0.5) \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 5.1}$$

L : 打設長 K : ロス率

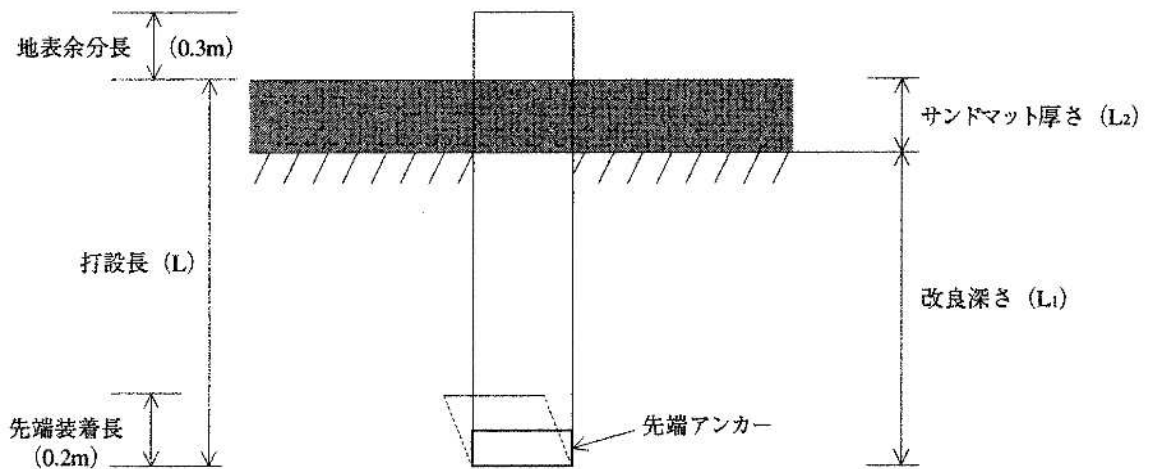
表5.2 ロス率 (K)

名 称	ロス率
ドレーン材	+0.05

5-3 サンドマット

サンドマットが必要な場合は「第Ⅱ編第2章⑩-1 サンドマット工」による。

図5.1 施工図



6. 単 価 表

(1) ペーパードレーン打設長〇〇m 100本当り単価表

		施工歩掛コード		WB223610
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{100 \times T_c}{60 \times T} \times 1$	表 4.1
特 殊 作 業 員		〃	$〃 \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$〃 \times 1$	〃
ド レ ー ン 材		m	$100 \times (L + 0.5) \times (1 + K)$	式 5.1
先 端 ア ン カ ー		個	100	
ペーパードレーン打機運転		h	$\frac{100 \times T_c}{60}$	(2)単価表 又は (3)単価表
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T_c : 1本当り施工時間 (min/本)

T : ペーパードレーン打機運転日当り運転時間 (h) = 6.2 (h/日)

L : 打設長 (m)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ペーパードレーン打機	湿地型 打設長 30m以下	機－1	運転労務数量→0.16 燃料消費量→8.1 機械損料数量→1.0
ペーパードレーン打機	湿地型 打設長 30mを超え 40m以下	機－1	運転労務数量→0.16 燃料消費量→14 機械損料数量→1.0

7. 施工単価入力基準表

(1) ペーパードレーン工

施工歩掛コード	WB223610	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1	J 2	J 3
	打設区分	打設長 (m/本)	ドレーン打機 供用日当り 運転時間
	(表6.1)	(実数入力)	① 標準 ② 標準以外 (実数入力)

(注) 1. 上表には, ドレーン材の材料ロスを含む。

2. ドレーン材単価 (Y-1636000) [円/m]及びアンカー材単価 (Y-1690000) [円/個]を単価登録すること。

表6.1 打設区分

打 設 長	入力番号
30m以下	①
30mを超え40m以下	②

⑪－6 中層混合処理工

1. 適用範囲

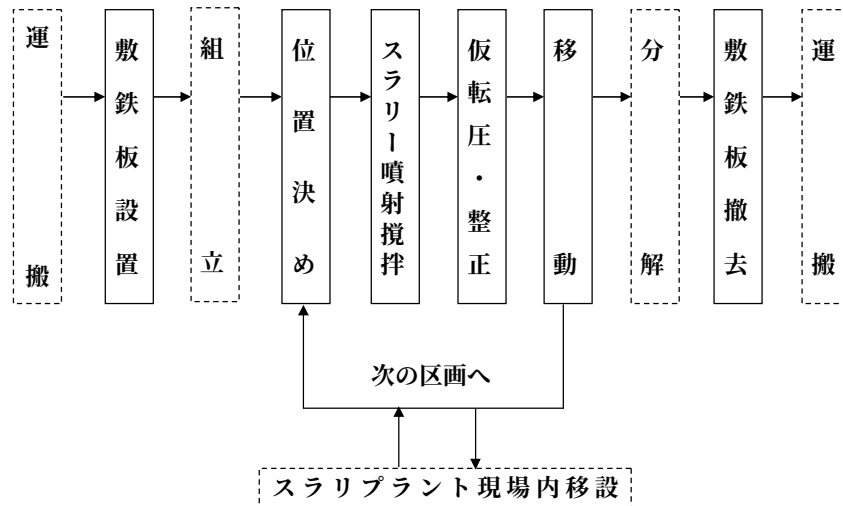
本資料は、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う中層混合処理工に適用する。

施工方式はスラリー噴射方式の機械攪拌混合とする。

改良形式は全面改良とし、改良深度2mを超え13m以下の陸上施工に適用する。

2. 施工概要

2－1 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 機 種 の 選 定

機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量			
			改良深(L) 2m<L≤5m	改良深(L) 5m<L≤8m	改良深(L) 8m<L≤10m	改良深(L) 10m<L≤13m
中層混合処理機 トレンチャ式	[バースマシン]20t(山積0.8m ³)級ハックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)5m [施工管理装置]1ビースクリーム用	台	1	—	—	—
	[バースマシン]30t(山積1.4m ³)級ハックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)8m [施工管理装置]1ビースクリーム用	〃	—	1	—	—
	[バースマシン]40t(山積1.9m ³)級ハックホ [攪拌混合装置]改良深度(標準)10m [施工管理装置]1ビースクリーム用	〃	—	—	1	—
	[バースマシン]40t(山積1.9m ³)級ハックホ (ツレビースクリーム) [攪拌混合装置]改良深度(標準)13m [施工管理装置]2ビースクリーム用	〃	—	—	—	1
スラリプラント (全自動)	20m ³ /h	〃	1			

4. 編 成 人 員

中層混合処理工の日当たり編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人/日)

工 法	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
中層混合処理工	1	1	2

(注) 編成人員には、スラリプラントの管理運転労務を含む。

5. 施 工 歩 掛

5－1 日当り作業量

1日当たり作業量は、次表を標準とする

表5.1 標準日当り作業量 (D) (m3／日)

改 良 深 度 (L) m	日当り作業量 (m3／日)
2 m < L ≤ 5 m	2 2 5
5 m < L ≤ 8 m	2 7 4
8 m < L ≤ 1 0 m	3 1 4
1 0 m < L ≤ 1 3 m	3 5 4

(注) 1. 日当り作業量は、中層混合処理機の移動（敷鉄板の設置・撤去含む）,位置決め,スラリー噴射攪拌,仮転圧・整正までの一連の作業のものである。

2. 1工事当りの施工規模が1,000m3未満の場合は、標準日当り作業量に下記補正係数を乗じるものとする。

表5.2 日当り作業量の補正係数

施工規模 1,000m3 未満	0. 8

5－2 改良材使用量

改良材はセメント系固化剤を標準とし、現場条件により決定する。なお、使用量は次式による。

$$V = v \times (1 + K) / 1000 \quad \cdots (式 5.1)$$

V : 1 m3 当りの改良材使用量 (t ／ m3)

v : 1 m3 当りの改良材添付量 (kg ／ m3)

K : ロス率

表5.3 ロス率 (K)

ロ ス 率	+ 0. 0 6

5-3 諸雑費

諸雑費は、足場材（敷鉄板）の賃料及び設置・撤去・移設に要する費用（バックホウ運転費用）、攪拌混合装置の損耗材料費（チェーン、攪拌翼、切削刃、ガイドローラ、スプロケット、アイドラーの各部品費）、空気圧縮機の賃料及び運転経費、電力に関する経費等の費用及び改良後の整地に要する費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率 (%)	改良深度 L (m)	諸雑費率
	$2\text{ m} < L \leq 5\text{ m}$	3 4
	$5\text{ m} < L \leq 8\text{ m}$	2 2
	$8\text{ m} < L \leq 10\text{ m}$	2 1
	$10\text{ m} < L \leq 13\text{ m}$	1 9

5-4 そ の 他

- (1) 次の条件等により攪拌翼が貫入出来ない場合は、バックホウによる先掘りを行うものとし、「第Ⅱ編1章②土工」による。
 - 1) 表層に転石等が多い地盤
 - 2) 表層に障害物等のある地盤
- (2) 中層混合処理工は、特許を有する工法の場合もあるので、特許料が必要な場合は別途計上する。
- (3) 中層混合処理機の分解・組立及び輸送については、「第Ⅰ編第2章②間接工事費2-2 運搬費(5) 重建設機械分解・組立」を適用する。
- (4) スラリプラントを中心に半径約200mを超える場合、揚程が5mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、スラリプラントを移設しなければならない場合は、「⑩ 軟弱地盤処理工 ⑩-3 スラリ攪拌工」の「5-4 スラリプラント現場内移設歩掛」を適用する。
- (5) 汚泥土の処分が必要な場合は、別途計上する。
- (6) 注入材配合用水、機器洗浄等に用いる上水道等必要な場合は、別途計上する。

6. 単 価 表

(1) 中層混合処理工 100m³ 当り単価表

		施工歩掛コード		WB223410
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{100}{D} \times 1$	表4.1 表5.1
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{100}{D} \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{100}{D} \times 2$	〃
改 良 材		t	$V \times 100$	式5.1
中層混合処理機運転		日	$\frac{100}{D}$	表5.1 機械損料
スラリプラント運転		〃	$\frac{100}{D}$	〃
諸 雑 費		式	1	表5.4
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上
計		式	1	

(注) D：1日当り作業量 (m³/日)

V：1m³ 当りの改良材使用量 (t/m³)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
中 層 混 合 処 理 機 ト レ ン チ ャ 機 式	[ベ-スマシン] 20t(山積0.8m ³)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度(標準)5m [施工管理装置] 1ヒ-ス-ーム用	機-20	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→118 機械損料数量1 (ベ-スマシン) →1.53 機械損料数量2 (攪拌混合装置) →1.53 機械損料数量3 (施工管理装置) →1.53
中 層 混 合 処 理 機 ト レ ン チ ャ 機 式	[ベ-スマシン] 30t(山積1.4m ³)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度(標準)8m [施工管理装置] 1ヒ-ス-ーム用	機-20	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→195 機械損料数量1 (ベ-スマシン) →1.53 機械損料数量2 (攪拌混合装置) →1.53 機械損料数量3 (施工管理装置) →1.53
中 層 混 合 処 理 機 ト レ ン チ ャ 機 式	[ベ-スマシン] 40t(山積1.9m ³)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度(標準)10m [施工管理装置] 1ヒ-ス-ーム用	機-20	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→251 機械損料数量1 (ベ-スマシン) →1.53 機械損料数量2 (攪拌混合装置) →1.53 機械損料数量3 (施工管理装置) →1.53
中 層 混 合 処 理 機 ト レ ン チ ャ 機 式	[ベ-スマシン] 40t(山積1.9m ³)級バックホ(ツ -ヒ-ス-ーム) [攪拌混合装置] 改良深度(標準)13m [施工管理装置] 2ヒ-ス-ーム用	機-20	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→251 機械損料数量1 (ベ-スマシン) →1.53 機械損料数量2 (攪拌混合装置) →1.53 機械損料数量3 (施工管理装置) →1.53
ス ラ リ プ ラ ン ト (全 自 動)	20m ³ /h	機-25	機械損料数量→1.53

7. 施工単価入力基準表

(1) 中層混合処理工

施工歩掛コード	WB223410	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	改良深度	一工事当りの 施工規模	1m3 当り 改良材 添付量	特許料の有無
	(m)	①1,000m3 未満	Kg/m3	①無
	(表 6.1)	②1,000m3 以上	(実数入力)	②有

- (注) 1. 施工数量は表 6. 1 の改良深度区分毎に計上すること。
2. 本コードには,改良材の材料ロスを含むが, J 3 条件では,ロス率を含まない数量を計上すること。
3. 改良材単価(Y-1600000) [円/t] を単価登録すること。
4. J 4 条件で②有を選択した場合は,特許料 (Y-7550004) [円/m3]を単価登録すること。
- なお,特許料金は,30 [円/m3]を標準とする。

表 6. 1 施工方法・杭径

深度 (L) m	入力番号
$2\text{ m} < L \leq 5\text{ m}$	①
$5\text{ m} < L \leq 8\text{ m}$	②
$8\text{ m} < L \leq 10\text{ m}$	③
$10\text{ m} < L \leq 13\text{ m}$	④

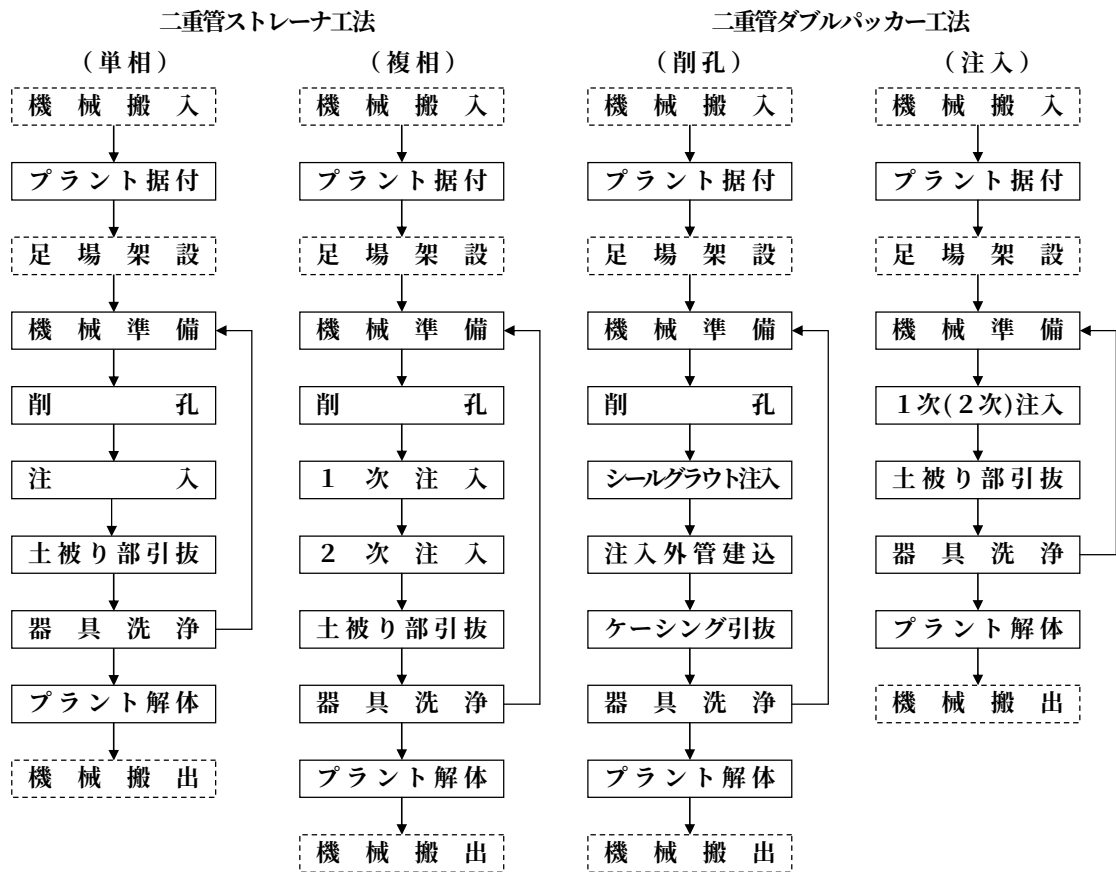
⑫ 薬液注入工

1. 適用範囲

本資料は、粘土、シルト及び砂質土等の地盤に薬液を注入し「地盤の透水性を減少」又は「地盤の強度（固結度）を増加」させる薬液注入工のうち、二重管ストレーナ工法（単相方式及び複相方式）及び二重管ダブルパッカー工法を対象とし、鉛直方向施工にのみ適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。
2. プラントとは、グラウトミキサ、薬液ミキサ、送水ポンプ、送液ポンプ、グラウトポンプ、薬液注入ポンプ、貯水槽、貯液槽、グラウト流量・圧力測定装置、水ガラス積算流量計、ボーリングマシン等、注入工に要する設備全般を示す。

図2.1 施工フロー図

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 二重管ストレナ工法の機種の選定

機 種	規 格	単位	数 量				摘要
			単 相 方 式		複 相 方 式		
			2セット	4セット	2セット	4セット	
ボーリングマシン	油圧式 5.5kW 級	台	2	4	2	4	
薬 液 注 入 ポ ン プ	吐出量 5～20ℓ／min×2 (圧力 9.8MPa)	〃	2	4	2	4	
水ガラス積算流量計	0～50ℓ／min	〃	(1)	(1)	(1)	(1)	(注)2

(注) 1. 施工本数が100本未満の場合は2セット、100本以上の場合は4セットを標準とする。

2. 水ガラス積算流量計は、総注入量500kℓ以上の場合に計上する。

表3.2 二重管ダブルパッカー工法の機種の選定

機 種	規 格	単 位	数 量					摘 要
			削 孔	一次注入	二次注入			
				セメント ベントナイト注入	溶 液 型 有機系注入	溶 液 型 無機系注入		
				1セツト	2セツト	4セツト	4セツト	4セツト
ボーリングマシン	ロータリーパーカッション式 クローラ型 81kW級	台	1	2	—	—	—	
薬液注入ポンプ	吐出量 0～20ℓ/min×2 (圧力9.8MPa)	〃	—	—	2	2	2	
ゲルミキサ	300ℓ×1槽	〃	—	—	—	1	—	
ミキシング プラント	3,000ℓ/h	〃	—	—	—	—	1	
水ガラス積算流量計	0～50ℓ/min	〃	—	—	—	(1)	(1)	(注)2

(注) 1. 削孔は施工本数が200本未満の場合は1セット、200本以上の場合は2セットを標準とする。

2. 水ガラス積算流量計は、総注入量500kℓ以上の場合に計上する。

図3.1 施工図(二重管ストレーナ工法)

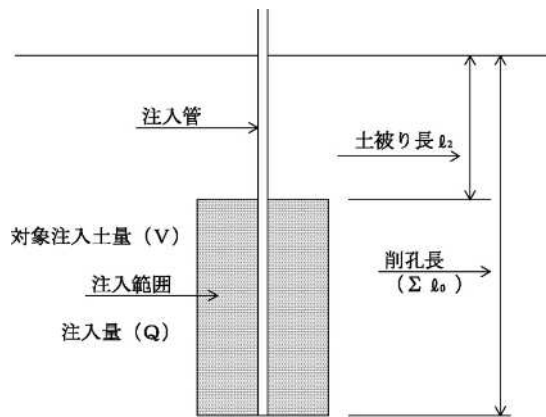
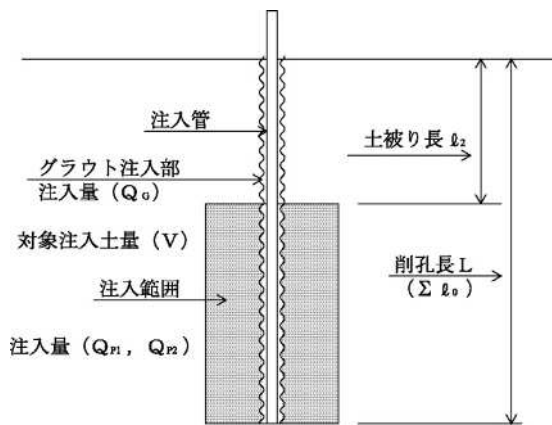


図3.2 施工図(二重管ダブルパッカー工法)



4. 編 成 人 員

薬液注入工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 二重管ストレーナ工法の日当り編成人員 (人／日)

工 法	セット数	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
単相方式	2セット	1	3	2
	4セット	1	6	2
複相方式	2セット	1	3	2
	4セット	1	6	2

表4.2 二重管ダブルパッカー工法の日当り編成人員 (人／日)

条 件	セット数	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
削 孔 時	1セット	1	3	1
	2セット	1	5	2
一次注入時	4セット	1	5	2
二次注入時	4セット	1	5	2

(注) 1. 上表は削孔時1セット, 2セット分, 一次注入時及び二次注入時は4セット分の人員である。
2. 注入材等の混合に要する労務を含む。

5. 施 工 歩 掛

5-1 二重管ストレーナ工法

(1) 1本当り施工時間 (T_s)

二重管ストレーナ工法における1本当り施工時間は、次式による。

$$T_s = T_1 + T_2 + T_3 + T_4$$

T_s : 二重管ストレーナ工法1本当り施工時間 (min)

T_1 : 機械準備時間 (min)

T_2 : 削孔時間 (min)

T_3 : 注入時間 (min)

T_4 : 土被り部引抜時間 (min)

1) 機械準備時間 (T_1)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び注入後の器具洗浄時間であり14分とする。

なお、打設間隔は1mを標準とする。

2) 削孔時間 (T_2)

$$T_2 = \Sigma (\gamma_1 \times \ell_0)$$

γ_1 : 各土質の削孔の単位作業時間 (min/m)

ℓ_0 : 各土質毎の削孔長 (m)

表5.1 削孔の単位作業時間 (γ_1) (min/m)

土 質	レ キ 質 土	砂 質 土	粘 性 土
γ_1	8.0	5.0	4.0

3) 注入時間 (T_3)

$$T_3 = Q_s / q_s$$

Q_s : 二重管ストレーナ工法の1本当り注入量 (ℓ)

q_s : 単位時間当り注入量 (ℓ/min)

表5.2 単位時間当り注入量 (q_s) (ℓ/min)

工 法 名	単 相 方 式	複 相 方 式
q_s	18	16

4) 土被り部引抜時間 (T_4)

$$T_4 = \gamma_2 \times \ell_2$$

γ_2 : 土被り部引抜の単位作業時間 (min/m)

ℓ_2 : 土被り長 (m)

表5.3 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_2) (min/m)

γ_2	2.0

(2) 注入材使用量

二重管ストレーナ工法に必要な使用量は、次式による。

$$Q_s = V \times \lambda \times 1,000 \cdots \cdots \text{式 5.1}$$

Q_s : 二重管ストレーナ工法の1本当り注入量 (ℓ)

V : 二重管ストレーナ工法の1本当り対象注入土量 (m^3)

λ : 注入率

(3) 1日当り施工本数

二重管ストレーナ工法における1日当り施工本数は、次式による。

$$N = 60 \times H / T_s \times 2 \quad (4)$$

N : 2 (4) セット1日当り施工本数 (本/日)

H : 注入設備の1日当り実作業時間で6.3時間とする。

T_s : 1本当り施工時間 (min)

(4) 諸雑費

二重管ストレーナ工法の1本当たり諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、薬液ミキサ、グラウトミキサ、送水ポンプ、送液ポンプ、貯水槽、貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額(水ガラス積算流量計は除く)に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.4 二重管ストレーナ工法の諸雑費率 (%)

工 法	セット数	諸雑費率
単 相 方 式	2	20
	4	19
複 相 方 式	2	21
	4	20

5-2 二重管ダブルパッカー工法

(1) 1本当たり削孔施工時間 (T_D)

二重管ダブルパッカー工法における1本当たり削孔施工時間は、次式による。

$$T_D = T_1 + T_2 + T_3$$

T_D : 二重管ダブルパッカー工法1本当たり削孔時間 (min)

T_1 : 機械準備時間 (min)

T_2 : 削孔時間 (min)

T_3 : 薬液注入管準備時間 (min)

1) 機械準備時間 (T_1)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び器具洗浄時間であり14分とする。

なお、打設間隔は1mを標準とする。

2) 削孔時間 (T_2)

各土質における削孔時間は、次式とする。

$$T_2 = \Sigma (\gamma_1 \times \ell_0)$$

γ_1 : 各土質毎の削孔の単位作業時間 (min/m)

ℓ_0 : 各土質毎の削孔長 (m)

表5.5 削孔の単位作業時間 (γ_1) (min/m)

土 質	レ キ 質 土	砂 質 土	粘 性 土
γ_1	6.0	5.0	3.0

3) 薬液注入管準備時間 (T_3)

薬液注入管準備時間は、グラウト注入、薬液注入管建込及びケーシング引抜時間であり、次式とする。

$$T_3 = \gamma_2 \times L$$

γ_2 : 薬液注入管準備の単位作業時間 (min/m)

L : 削孔長 (m)

表5.6 薬液注入管準備の単位作業時間 (γ_2) (min/m)

γ_2	3.0

(2) 1本当たり一次注入施工時間 (T_{PI})

二重管ダブルパッカー工法における一次注入の1本当たり注入施工時間は、次式による。

$$T_{PI} = T_1 + T_2 + T_3$$

T_{PI} : 二重管ダブルパッカー工法一次注入の1本当たり注入時間 (min)

T_1 : 機械準備時間 (min)

T_2 : 注入時間 (min)

T_3 : 土被り部引抜時間 (min)

1) 機械準備時間 (T_1)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び器具洗浄時間であり13分とする。

2) 注入時間 (T_2)

$$T_2 = Q_{P1} / q_{P1}$$

Q_{P1} : 二重管ダブルパッカー工法の一次注入の1本当り注入量 (ℓ)

q_{P1} : 単位時間当り注入量 (ℓ/min)

表5.7 単位時間当り注入量 (q_{P1}) (ℓ/min)

q_{P1}	8

3) 土被り部引抜時間 (T_3)

$$T_3 = \gamma_3 \times \ell_2$$

γ_3 : 土被り部引抜の単位作業時間 (min/m)

ℓ_2 : 土被り長 (m)

表5.8 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_3) (min/m)

γ_3	1.0

(3) 1本当り二次注入施工時間 (T_{P2})

二重管ダブルパッカー工法における二次注入の1本当り注入施工時間は、次式による。

$$T_{P2} = T_1 + T_2 + T_3$$

T_{P2} : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入時間 (min)

T_1 : 機械準備時間 (min)

T_2 : 注入時間 (min)

T_3 : 土被り部引抜時間 (min)

1) 機械準備時間 (T_1)

機械準備時間は、機械移動、機械据付及び器具洗浄時間であり13分とする。

2) 注入時間 (T_2)

$$T_2 = Q_{P2} / q_{P2}$$

Q_{P2} : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (ℓ)

q_{P2} : 単位時間当り注入量 (ℓ/min)

表5.9 単位時間当り注入量 (q_{P2}) (ℓ/min)

q_{P2}	9

3) 土被り部引抜時間 (T_3)

$$T_3 = \gamma_4 \times \ell_2$$

γ_4 : 土被り部引抜の単位作業時間 (min/m)

ℓ_2 : 土被り長 (m)

表5.10 土被り部引抜の単位作業時間 (γ_4) (min/m)

γ_4	1.0

(4) 注入材料使用量

二重管ダブルパッカー工法における注入材料使用量は、次式による。

1) グラウト注入材料

$$Q_G = \gamma_5 \times L \cdots \cdots \text{式5.2}$$

Q_G : グラウト材注入の1本当り注入量 (ℓ)

γ_5 : グラウト材注入の単位使用量 (ℓ/m)

L : 削孔長 (m)

表5.11 グラウト材注入の単位使用量 (γ_5) (ℓ/m)

γ_5	12

2) 一次注入材料

$$Q_{p1} = V \times \lambda \times 1,000 \cdots \cdots \text{式 5.3}$$

Q_{p1} : 二重管ダブルパッカー工法の一次注入の1本当り注入量 (ℓ)

V : 二重管ダブルパッカー工法の一次注入の1本当り注入対象土量 (m³)

λ : 注入率

3) 二次注入材料

$$Q_{p2} = V \times \lambda \times 1,000 \cdots \cdots \text{式 5.4}$$

Q_{p2} : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (ℓ)

V : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入対象土量 (m³)

λ : 注入率

(5) 1日当り施工本数

二重管ダブルパッカー工法における削孔、一次注入、二次注入の1日当り施工本数は、次式とする。

1) 削孔

$$N = 60 \times H / T_D (\times 2)$$

N : 1 (2) セット1日当り削孔施工本数 (本/日)

H : 削孔設備の1日当り実作業時間で、6.5時間とする。

T_D : 1本当り削孔時間 (min)

2) 一次注入

$$N = 60 \times H / T_{p1} \times 4$$

N : 4セット1日当り注入施工本数 (本/日)

H : 注入設備の1日当り実作業時間で、7.3時間とする。

T_{p1} : 1本当り注入時間 (min)

3) 二次注入

$$N = 60 \times H / T_{p2} \times 4$$

N : 4セット1日当り注入施工本数 (本/日)

H : 注入設備の1日当り実作業時間で、7.3時間とする。

T_{p2} : 1本当り注入時間 (min)

(6) 諸雑費

二重管ダブルパッカー工法削孔時の諸雑費は、グラウトポンプ・グラウトミキサ・送水ポンプ・貯水槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、一次注入及び二次注入時の諸雑費は、グラウト流量・圧力測定装置、グラウトミキサ・パッカー加圧ポンプ・送水ポンプ・送液ポンプ、貯水槽・貯液槽の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額(水ガラス積算流量計は除く)に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.12 二重管ダブルパッカー工法の諸雑費率 (%)

条 件	セット数	諸雑費率
削 孔	1	9
	2	6
一 次 注 入	4	27
二 次 注 入 有 機 系	4	26
二 次 注 入 無 機 系	4	21

5-3 消耗材料費

5-3-1 消耗材料量

(1) 二重管ストレーナ工法

1) 削孔材料消耗量

表5.13 削孔材料消耗量 (削孔径 $\phi 40.5\text{mm}$ 削孔長 1.0m 当り)

品 名	単位	レキ質土		砂質土		粘性土	
		単相	複相	単相	複相	単相	複相
二重管ボーリングロッド	m	0.05	0.05	0.03	0.03	0.02	0.02
メタルクラウン $\phi 41\text{mm}$	個	0.30	0.30	0.04	0.04	0.03	0.03
単相用グラウトモニタ $\phi 40.5\text{mm}$	〃	0.005	—	0.003	—	0.002	—
複相用グラウトモニタ $\phi 40.5\text{mm}$	〃	—	0.005	—	0.003	—	0.002
その他雑品	%	15	11	23	17	23	16

(注) 1. 本歩掛は鉛直方向への削孔のみに適用する。

2. 二重管ボーリングロッドは 3.0m/本とする。

3. その他雑品には、ロッドカップリング、圧力計、パイプレンチ、ペンチ、ドライバ、カッター、スラントルール、水切りモップ等を含み、上記合計額に率を乗じた金額を上限として計上する。

2) 注入材料消耗量

表5.14 注入材料消耗量 (注入量 1,000ℓ 当り)

品 名	単位	単相	複相	備 考
グラウトモニタ $\phi 40.5\text{mm}$	個	0.02	—	単相用
グラウトモニタ $\phi 40.5\text{mm}$	〃	—	0.02	複相用
注入ホース類 $\phi 12\text{mm}$	組	0.005	—	P = 4.9MPa (50kgf/cm ²) L = 50m × 2
注入ホース類 $\phi 12\text{mm}$	〃	—	0.005	P = 4.9MPa (50kgf/cm ²) L = 50m × 3
サクシオンホース $\phi 38\text{mm}$	〃	0.003	—	L = 3m × 2
サクシオンホース $\phi 38\text{mm}$	〃	—	0.003	L = 3m × 3
その他雑品	%	42	25	

(注) その他雑品には、二重管スイベル、スイベルカバー、継手類、ホース、ポンプ、流量計、分流バルブ、圧力計、パイプレンチ、ペンチ、ウェス、スコップ、土のう等を含み、上記合計額に率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) 二重管ダブルパッカー工法

1) 削孔材料消耗量

表5.15 削孔材料消耗量 (ケーシング削孔径 96mm 削孔長 1.0m 当り)

品 名	単位	レキ質土	砂質土	粘性土
ケーシング $\phi 96\text{mm}$ (カップリング付)	個	0.0167	0.0055	0.0040
ウォータスイベル $\phi 96\text{mm}$	〃	0.0028	0.0009	0.0007
シャ ン ク ロ ッ ド	〃	0.0083	0.0030	0.0025
その他雑品	%	41	49	55

(注) 1. 本歩掛は鉛直方向への削孔のみに適用する。

2. その他雑品には、シャングアダプタ、リングビット等が含まれており、上記合計額に率を乗じた金額を上限として計上する。

2) 注入材料消耗量

表5.16 注入材料消耗量 (注入量 1,000ℓ あたり)

品 名	単位	ダブルパッカー	備 考
二重管ホース φ12 mm	本	0.01	P = 21MPa (210kgf/cm ²) L = 20m
シールパッカーセット	個	0.02	
シールセット	〃	0.20	
注入用部品類	%	56	

(注) 注入用部品類は、上記合計額に率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3-2 消耗材料費

(1) 二重管ストレーナ工法

1) 削孔用消耗材料費 (削孔径 φ40.5 mm)

二重管ストレーナ工法の削孔用消耗材料費 (削孔径 φ40.5 mm) は、二重管ボーリングロッド、メタルクラウン (φ41 mm)、グラウトモニタ (φ40.5 mm) 等の費用を計上する。

2) 注入用消耗材料費

二重管ストレーナ工法の注入用消耗材料費は、グラウトモニタ (φ40.5 mm)、注入ホース類 (φ12 mm)、サクションホース (φ38 mm) 等の費用を計上する。

(2) 二重管ダブルパッカー工法

1) 削孔用消耗材料費 (削孔径 φ96 mm)

二重管ダブルパッカー工法の削孔用消耗材料費 (φ90 mm用) は、ドリルパイプ φ90 mm用 (1.5m)、ウォータスイベル (φ90 mm用二重管用)、ジャンクロッド等の費用を計上する。

2) 注入用消耗材料費

二重管ダブルパッカー工法の注入用消耗材料費は、二重管ホース (φ12 mm)、シールパッカーセット、シールセット等の費用を計上する。

5-4 注入設備の据付・解体及び移設

(1) 注入設備据付解体歩掛

注入設備の据付・解体 (搬入・搬出時) の歩掛は、次表を標準とする。

表5.17 注入設備据付・解体歩掛 (1現場当り)

名 称	規格	単位	二重管ストレーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	削 孔		注 入
					1セット	2セット	4セット
土木一般世話役		人	2.2	2.7	1.5	1.5	3.1
特殊作業員		〃	8.2	13.3	4.6	6.2	11.6
普通作業員		〃	3.4	5.6	1.5	2.3	3.9
トラック (クレーン装置付)	ベーストラック4t 級・吊能力2.9t	h	13	17	6	6	19

(2) 注入設備移設歩掛

注入範囲が注入設備を中心に半径 50mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合は次表を標準とする。

表5.18 注入設備移設歩掛 (1回当たり)

名 称	規格	単位	二重管ストレーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	削 孔		注 入
					1セット	2セット	4セット
土木一般世話役		人	1.3	2.0	1.0	1.0	2.0
特殊作業員		〃	5.5	8.5	3.0	4.0	7.5
普通作業員		〃	2.2	3.5	1.0	1.5	2.5
トラック (クレーン装置付)	ベーストラック4t 級・吊能力2.9t	h	8	11	4	4	12

5-5 排水汚泥土処理費

注入排水、排土などのための処理設備が必要な場合は、次表を標準とする。

表5.19 排水汚泥土処理費 (1日当たり)

名 称	単位	規 格	数 量
普通作業員	人		0.8
工事用水中モータポンプ	日	普通型(潜水ポンプ) 口径 50 mm 全揚程 20m	1.0
アルカリ水中和装置	h	炭酸ガス式 処理量 6m ³ /h	6.8
水槽	供用日	5 m ³	1.5
諸 雑 費 率	%		22

- (注) 1. 本工種以外における工事で濁水処理施設を設け、かつ、その施設で本工種で発生した削孔水等の濁水を処理する場合は計上しない。
2. 諸雑費は電力に関する経費等の費用であり、労務費及び機械損料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 現場における中和剤材料費、排泥運搬のための汚泥吸排車及び処理費は、別途計上する。
4. 上表は二重管ストレーナ工法4セットまで、二重管ダブルパッカー工法削孔2セット、注入4セットまでとする。

5-6 足場工

足場が必要な場合は、別途計上する。

5-7 その他

- (1) 本工法は、特許を有する工法の場合もあるので、特許料が必要な場合は別途計上する。
- (2) 用水費については、現場条件を確認の上、必要に応じて別途計上する。

6. 単 価 表

(1) 二重管ストレーナ工法1本当り単価表

			施工歩掛コード	WB223710
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$1/N \times a$	表 4.1
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
注 入 材 料		ℓ	Q_s	式 5.1
ボ ー リ ン グ マ シ ン	油圧式 5.5kW 級	日	$1/N \times b$	表 3.1 機械損料
薬 液 注 入 ポ ン プ	吐出量 5～20ℓ/min×2 (圧力 9.8MPa)	〃	〃	〃
水 ガ ラ ス 積 算 流 量 計	0～50ℓ/min	〃	〃	〃 (注)5
削 孔 消 耗 材 料 費		式	1	表 5.13
注 入 消 耗 材 料 費		〃	1	表 5.14
諸 雑 費		〃	1	表 5.4
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) 1. N : 1日当り施工本数

2. a : 編成人員

3. B : 施工台数

4. Q_s : 二重管ストレーナ工法の1本当り注入量 (ℓ)

5. 水ガラス積算流量計損料は、総注入量 500kℓ 以上の場合に計上する。

(2) 二重管ダブルパッカー工法削孔1本当り単価表

			施工歩掛コード	WB223720
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$1/N \times a$	表 4.2
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
グ ラ ウ ト 材		ℓ	Q_g	式 5.2
薬 液 注 入 管		m		
ボ ー リ ン グ マ シ ン 運 転	ロータリーパーカッション式 クローラ型 81kW 級	日	$1/N \times b$	表 3.2 機械損料
削 孔 消 耗 材 料 費		式	1	表 5.15
諸 雑 費		〃	1	表 5.12
計				

(注) 1. N : 1日当り施工本数

2. a : 編成人員

3. b : 施工台数

4. Q_g : グラウト注入の1本当り注入量 (ℓ)

(3) 二重管ダブルパッカー工法一次注入1本当り単価表

			施工歩掛コード	WB223730
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$1/N \times a$	表 4.2
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
注 入 材 料		ℓ	Q_{p1}	式 5.3
薬 液 注 入 ポ ン プ	吐出量 $0 \sim 20\ell/\text{min} \times 2$ (圧力 9.8MPa)	日	$1/N \times b$	表 3.2 機械損料
注 入 消 耗 材 料 費		式	1	表 5.16
諸 雑 費		〃	1	表 5.12
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) 1. N : 1日当り施工本数

2. a : 編成人員

3. b : 施工台数

4. Q_{p1} : 二重管ダブルパッカー工法の一次注入の1本当りの注入量 (ℓ)

(4) 二重管ダブルパッカー工法二次注入1本当り単価表

			施工歩掛コード	WB223740
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$1/N \times a$	表 4.2
特 殊 作 業 員		〃	〃	〃
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
注 入 材 料		ℓ	Q_{p2}	式 5.4
薬 液 注 入 ポ ン プ	吐出量 $0 \sim 20\ell/\text{min} \times 2$ (圧力 9.8MPa)	日	$1/N \times b$	表 3.2 機械損料
ゲ ル ミ キ サ	$300\ell \times 1$ 槽	〃	〃	〃 (注)5
ミ キ シ ン グ プ ラ ン ト	$3,000\ell/h$	〃	〃	〃 (注)6
水 ガ ラ ス 積 算 流 量 計	$0 \sim 50\ell/\text{min}$	〃	〃	〃 (注)7
注 入 消 耗 材 料 費		式	1	表 5.16
諸 雑 費		〃	1	表 5.12
特 許 料 金		〃	1	必要に応じて計上
計				

(注) 1. N : 1日当り施工本数

2. a : 編成人員

3. b : 施工台数

4. Q_{p2} : 二重管ダブルパッカー工法の二次注入の1本当り注入量 (ℓ)

5. ゲルミキサは、溶液型有機系注入時に計上する。

6. ミキシングプラントは、溶液型無機系注入時に計上する。

7. 水ガラス積算流量計損料は、総注入量 500kℓ 以上の場合に計上する。

(5) 注入設備据付・解体1現場当り単価表

			施工歩掛コード	WB223750
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.17
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
トラック(クレーン装置付) 運 転	ベーストラック4t級・ 吊 能 力 2.9t	h		表 5.17 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(6) 注入設備移設1回当り単価表

			施工歩掛コード	WB223760
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.18
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
トラック(クレーン装置付) 運 転	ベーストラック4t級・ 吊 能 力 2.9t	h		表 5.18 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(7) 排水汚泥土処理1日当り単価表

			施工歩掛コード	WB223770
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.8	表 5.19
工事用水中モータポンプ	普通型(潜水ポンプ) 口径 50mm 全揚程 20m	日	1.0	表 5.19 機械損料
アルカリ水中和装置	炭酸ガス式 処理量 6m ³ /h	h	6.8	〃
水槽(一般工事用)	鋼板製簡易水槽 5m ³	供用日	1.5	〃
諸 雑 費		式	1	表 5.19
計				

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ボ ー リ ン グ マ シ ン	ロータリーパーカッション式 クローラ型 81kw 級	機-12	燃料消費量 → 81ℓ/日
トラック(クレーン装置付) 運 転	ベーストラック4t級・ 吊 能 力 2.9t	機-1	

7. 施工単価入力基準表

(1) 二重管ストレーナ工法

施工歩掛コード		WB223710		施工単位		本				
施工区分		入 力 条 件								
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	
	注入方式	セット数	レキ質土 の削孔長	砂質土の 削孔長	粘性土の 削孔長	土被り長 (ℓ_2)	1 本当り 注入量 (Q_s)	水ガラス 積算流量 計の有無	特許料の 有無	
	①単相方式 ②複相方式	①2セット ②4セット	(実数入力) (m)	(実数入力) (m)	(実数入力) (m)	(実数入力) (m)	(実数入力) (ℓ)	①無 ②有	①無 ②有	

(注) 1. 注入材単価 (Y-1633000) [円/ℓ] を単価登録すること。

2. J 9 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550002) [円/ℓ] を単価登録すること。

(2) 二重管ダブルパッカー工法 (削孔工)

施工歩掛コード		WB223720		施工単位		本				
施工区分		入 力 条 件								
各 種	J 1		J 2		J 3		J 4		J 5	
	セット数		レキ質土 の削孔長		砂質土の 削孔長		粘性土の 削孔長		土被り長 (ℓ_2)	
	① 1 セット									
	② 2 セット		(実数入力) (m)		(実数入力) (m)		(実数入力) (m)		(実数入力) (m)	

(注) グラウト材単価 (Y-1635000) [円/ℓ], 薬液注入管 (注入部) 単価 (Y-1642000) [円/m], 薬液注入管 (土被り部) 単価 (Y-1643000) [円/m] を単価登録すること。

(3) 二重管ダブルパッカー工法 (一次注入工)

施工歩掛コード		WB223730		施工単位		本	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1		J 2		J 3		
	土 被 り 長 (ℓ_2)		1 本 当 り 注 入 量 (Q_{p1})		特 許 料 の 有 無		
	(実数入力)		(実数入力)		①無		
	(m)		(ℓ)		②有		

(注) 1. 注入材単価 (Y-1633000) [円/ℓ] を単価登録すること。

2. J 3 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550002) [円/ℓ] を単価登録すること。

(4) 二重管ダブルパッカー工法 (二次注入工)

施工歩掛コード		WB223740		施工単位		本	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5		
	注入材種別	土 被 り 長 (ℓ_2)	1 本 当 り 注 入 量 (Q_{P2})	水ガラス 積算流量 計の有無	特許料の 有無		
	① 溶液型有機系			① 無	① 無		
	② 溶液型無機系	(実数入力) (m)	(実数入力) (ℓ)	② 有	② 有		

(注) 1. 注入材単価 (Y-1633000) [円/ℓ] を単価登録すること。

2. J 5 条件で②を選択した場合は、特許料金 (Y-7550002) [円/ℓ] を単価登録すること。

(5) 注入設備据付・解体

施工歩掛コード	WB223750	施工単位	現場
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	注 入 方 式	セツト数	
	①二重管ストレーナ工法 ②二重管ダブルパッカー工法 (削孔) ③二重管ダブルパッカー工法 (注入)	① 1セツト ② 2セツト ③ 4セツト	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2 条件で①の選択は出来ない。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件で③の選択は出来ない。
 3. J 1 条件で③を選択した場合は, J 2 条件は③で固定する。

(6) 注入設備移設

施工歩掛コード	WB223760	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	注 入 方 式	セツト数	
	①二重管ストレーナ工法 ②二重管ダブルパッカー工法 (削孔) ③二重管ダブルパッカー工法 (注入)	① 1セツト ② 2セツト ③ 4セツト	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2 条件で①の選択は出来ない。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件で③の選択は出来ない。
 3. J 1 条件で③を選択した場合は, J 2 条件は③で固定する。

(7) 排水汚泥土処理費

施工歩掛コード	WB223770	施工単位	日

- (注) 1. 現場における中和剤材料費, 汚泥運搬のための汚泥吸排車及び処理費は別途計上するものとする。
 2. 本コードは二重管ストレーナ工法4セツトまで, 二重管ダブルパッカー工法削孔2セツト, 注入4セツトまで適用出来る。

⑬ アンカー工 (ロータリーパーカッション式)

1. 適用範囲

本資料は、ロータリーパーカッション式ボーリングマシンにより削孔を行い、アンカー鋼材にて引張力を地盤に伝達し、長期に供用するグラウンドアンカー工法に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 削孔 (アンカー)

- (1) ボーリングマシンによるアンカー孔の削孔、ドリルパイプの引抜き、横移動作業
 なお、積算においては、土質毎に積上げを行うこととする。

1-1-2 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)

- (1) アンカー鋼材の現地加工、組立から孔内挿入までの作業及び工場で組立・加工する場合のアンカー鋼材挿入作業
 (2) 緊張ジャッキで所定の緊張力(荷重)をかけ、クサビ及びナット等で定着及び頭部処理(頭部背面処理を含む)を行う作業

1-1-3 グラウト注入 (アンカー)

- (1) アンカー孔内へのグラウト注入の作業

1-1-4 ボーリングマシン移設 (アンカー)

- (1) スキッド型ボーリングマシンの据付け・撤去及び上下移動(移設)作業
 ただし、横移動は、削孔工に含む。

1-1-5 足場 (アンカー)

- (1) スキッド型ボーリングマシン据付の架台となる足場材の設置及び撤去作業

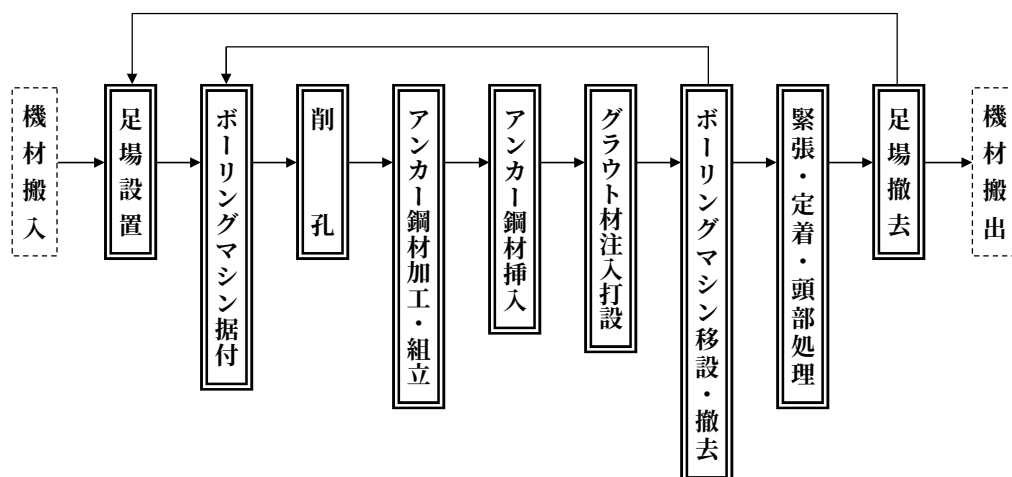
1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 足場 (アンカー)

- (1) 足場工の足場材の設置及び撤去作業で、クローラ型ボーリングマシンを選定する場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. ロータリーパーカッション式ボーリングマシンをクローラ型とするときは、足場設置・撤去及びボーリングマシン据付・移設・撤去は対象外となる。

3. 施工パッケージ

3-1 削孔（アンカー）

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 削孔（アンカー） 積算条件区分一覧

（積算単位：m）

足場工の有無	方式	呼び径	土質
有り (スキッド型)	単管方式	90mm	(表 3.2)
		115mm	
		135mm	
	二重管方式	90mm	(表 3.3)
		115mm	
		135mm	
		146mm	
無し (クローラ型)	単管方式	90mm	(表 3.2)
		115mm	
		135mm	
	二重管方式	90mm	(表 3.3)
		115mm	
		135mm	
		146mm	

（注） 1. 上表はアンカー孔の削孔，ドリルパイプの引抜き，ボーリングマシン横移動作業，削孔材料損耗品費の他，削孔水用ポンプ，給水用ポンプ，排水用ポンプ，水槽損料，電力に関する経費等，その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 呼び径とは，ドリルパイプ外径（mm）をいう。

3. 転石等土質条件が上表区分に適用しないと判断される場合は，別途考慮する。

4. 泥水処理が必要な場合は，別途計上する。

表3.2 土質(単管方式)

積算条件	区分
土質	粘性土・砂質土
	レキ質土
	玉石混り土

表3.3 土質(二重管方式)

積算条件	区分
土質	粘性土・砂質土
	レキ質土
	玉石混り土
	軟岩
	硬岩

（注）硬岩はコンクリートを含む

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 削孔(アンカー) 代表機労材規格一覧

方式	項目		代表機労材規格	備考
単管	機械	K 1	ボーリングマシン [ロータリパーカッション式] スキッド型 55kW 級	足場工有りの場合
			ボーリングマシン [ロータリパーカッション式] クローラ型 81kW 級	足場工無しの場合
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	土木一般世話役	
		R 3	特殊作業員	
		R 4	—	
	材料	Z 1	リングビット φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
			リングビット φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
			リングビット φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
		Z 2	ドリルパイプφ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
			ドリルパイプφ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
			ドリルパイプφ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
		Z 3	シャンクロッド φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
			シャンクロッド φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
			シャンクロッド φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
		Z 4	打込アダプタ φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
			打込アダプタ φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
			打込アダプタ φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
	市場単価	S	—	
二重管	機械	K 1	ボーリングマシン [ロータリパーカッション式] スキッド型 55kW 級	足場工有りの場合
			ボーリングマシン [ロータリパーカッション式] クローラ型 81kW 級	足場工無しの場合
		K 2	—	
		K 3	—	
	労務	R 1	普通作業員	
		R 2	土木一般世話役	
		R 3	特殊作業員	
		R 4	—	
	材料	Z 1	インナーロッド φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
			インナーロッド φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
			インナーロッド φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
			インナーロッド φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
		Z 2	インナービット φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
			インナービット φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
			インナービット φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
			インナービット φ146mm 用	呼び径 146mm の場合
		Z 3	リングビット φ90mm 用	呼び径 90mm の場合
			リングビット φ115mm 用	呼び径 115mm の場合
			リングビット φ135mm 用	呼び径 135mm の場合
			リングビット φ146mm 用	呼び径 146mm の場合
		Z 4	ドリルパイプ φ90mm 用 (1.5m)	呼び径 90mm の場合
			ドリルパイプ φ115mm 用 (1.5m)	呼び径 115mm の場合
			ドリルパイプ φ135mm 用 (1.5m)	呼び径 135mm の場合
			ドリルパイプ φ146mm 用 (1.5m)	呼び径 146mm の場合
	市場単価	S	—	

3-2 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理（アンカー） 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

防食方式	アンカー鋼材	削孔長	設計荷重(f)	頭部処理の有無
二重防食	PC 鋼線より線	(表 3.6)	(表 3.7)	(表 3.8)
	PC 鋼線より線（工場組立）	—		
	複合 PC 鋼線より線束	(表 3.6)	f<400kN	
	PC 鋼棒		400≦f<1,300kN	
簡易防食	PC 鋼線より線	(表 3.6)	(表 3.7)	
	PC 鋼線より線（工場組立）	—		
	PC 鋼棒	(表 3.6)	f<400kN	
			400≦f<1,300kN	

- (注) 1. 上表は、アンカー鋼材の現地加工・組立(シース、防錆材、止水部、スペーサの取付け)、孔内挿入、現場内小運搬、緊張ジャッキによる緊張、クサビ及びナット等での定着及び頭部処理(頭部背面処理を含む)の他、切断機、緊張ジャッキ、油圧ポンプ損料及び電力に関する経費等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、アンカー(材料費)は含まない。また、PC 鋼線より線を全て工場で組立・加工する場合は、アンカー鋼材の現地加工・組立は含まない。
2. 二重防食とは、腐食防護が二重になされたものをいい、簡易防食とは、腐食防護が二重になされていない簡易なものをいう。
3. PC 鋼線より線及び PC 鋼棒の現地加工・組立は、シース、防錆材、止水部の取付けである。
4. 複合 PC 鋼線より線束の現地加工・組立は、スペーサの取付けである。
5. アンカーの材料費は別途計上する。

表3.6 削孔長

積算条件	区分
削孔長	10m 以内
	10m を超える

表3.7 設計荷重

積算条件	区分
設計荷重	f < 400kN
	400 ≤ f < 1,300kN
	1,300 ≤ f < 2,000kN

表3.8 頭部処理の有無

積算条件	区分
頭部処理の有無	有り
	無し

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理(アンカー) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 グラウト注入(アンカー)

(1) 条件区分

グラウト注入(アンカー)における積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

(注) アンカー孔内へのグラウト注入打設、注入材料の他、グラウトミキサ、グラウトポンプ、工事用水中モータポンプ、水槽損料、電力に関する経費等、その他の施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

グラウトの使用量は、次式を参考とする。

$$V = \frac{D^2 \times \pi}{4 \times 10^6} \times L \times (1 + K)$$

V：注入量 (m³)

D：ドリルパイプの外径 (mm)

L：削孔長 (m)

K：補正係数

(注) 設計における補正係数は、2.2 を標準とする。ただし、過去の実績や土質条件等により本係数を使用することが不合理である場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 グラウト注入(アンカー) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	普通ポルトランドセメント 25kg 袋入	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 ボーリングマシン移設(アンカー)

(1) 条件区分

ボーリングマシン移設(アンカー)における積算条件区分はない。

積算単位は、回とする。

(注) 1. スキッド型ボーリングマシンの据付・撤去及び上下移動(移設)等、その他の施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. 横移動は、3-1 掘削(アンカー)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 ボーリングマシン移設(アンカー) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 足場（アンカー）

(1) 条件区分

足場（アンカー）における積算条件区分はない。

積算単位は、空 m³ とする。

(注) 1. アンカー施工時の足場の設置・撤去作業の他、パイプ、クランプ、足場板、ベース等、その他の施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 作業面の足場幅は、4.5m を標準とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 足場（アンカー） 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	とび工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 アンカー（材料費）

(1) 条件区分

アンカー（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、式とする。

4. 施工単価入力基準表

(1) 削孔 (アンカー)

パッケージコード		CB223910	施 工 単 位	m
施工区分	入 力 条 件			
	J 1	J 2	J 3	J 4
各 種	足場工の有無	方式	呼び径	土質区分
			① 90 mm	
			②115 mm	
	① 有り(ｽﾏｯﾄﾞ型)	①単管方式	③135 mm	
	② 無し(ｸﾚｰﾌﾞ型)	②二重管方式	④146 mm	(表 4.1)

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件の④及び J 4 条件の④⑤の選択が出来ない。
 2. 泥水処理が必要な場合は、別途計上する。
 3. 土質区分毎に本コードを積み上げるものとする。
 4. J 1 条件で①を選択した場合は、ボーリングマシン移設(アンカー)(CB223950)、足場(アンカー)(CB223970)を別途計上する。

表 4. 1 土質区分

土 質 区 分	入力番号
粘性土及び砂質土	①
レ キ 質 土	②
玉 石 混 じ り 土	③
軟 岩	④
硬 岩	⑤

(注) ⑤の硬岩については、コンクリートを含む。

(2) アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)

パッケージコード		CB223920	施 工 単 位	本	
施工区分	入 力 条 件				
	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
各 種	防食方式	アンカー鋼材種類	削孔長	設計荷重（f）	頭部処理の有無
		①PC 鋼線より線 ②PC 鋼線より線 （工場組立）		① f < 400kN ② 400 ≤ f < 1,300kN ③ 1,300 ≤ f < 2,000kN	①有り ②無し
	①二重防食 ②簡易防食	③複合 PC 鋼線より線束 ④PC 鋼棒	①10m 以内 ②10m を超える		

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件の③の選択が出来ない。
 2. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件は選択が出来ない。
 3. J 2 条件で④を選択した場合は、J 4 条件の③の選択が出来ない。
 4. オイルキャップによる頭部処理を行わない場合は、J 5 条件で②を選択すること。

(3) グラウト注入 (アンカー)

パッケージコード	CB223940	施 工 単 位	m ³

- (注) 1. 注入材 (グラウト材料) (Y-0232000) [円/m³] を単価登録すること。
 2. 入力する数量については、材料の補正を含んだ数量を入力すること。

(4) ボーリングマシン移設 (アンカー)

パッケージコード	CB223950	施 工 単 位	回
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは、スキッド型ボーリングマシンの据付・撤去及び上下移動(移設)に適用される。
2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
3. 本コードはラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
4. 本コードはラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

(5) 足場 (アンカー)

パッケージコード	CB223970	施 工 単 位	空 m3
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは、削孔をクローラ型ボーリングマシンで行う場合は適用しない。
2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
3. 本コードはラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
4. 本コードはラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

(6) アンカー (材料費)

パッケージコード		CB223980	施 工 単 位	式		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	アンカー鋼材 数 量 (実数入力) (m)	注 入 パ イ プ 数 量 (実数入力) (m)	シ ー ス 数 量 (実数入力) (m)	防 錆 材 数 量 (実数入力) (kg)	定着加工用具 数 量 (実数入力) (組)	アンカー定着具 数 量 (実数入力) (組)

- (注) 1. アンカー鋼材単価(Y-0120000) [円/m], 注入パイプ単価(Y-1639000) [円/m], シース単価(Y-0124000) [円/m], 防錆材単価(Y-1638000) [円/kg], 定着加工用具単価(Y-0134000) [円/組], アンカー定着具単価(Y-0122000) [円/組]を単価登録すること。
2. 入力する数量については、必要量を入力すること。

⑭ 構造物とりこわし工

1. 適用範囲

本資料は、河川、海岸、砂防、道路工事の石積とりこわし及び既設コンクリート構造物のはつり作業及びとりこわしコンクリート殻積込に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 石積とりこわし（人力）

（1）人力による石積のとりこわしの場合

1-1-2 コンクリートはつり

（1）平均はつり厚が6cm以下の場合

1-1-3 積込み(コンクリート殻)

（1）コンクリートはつりにより生じた破砕片の積込み

（2）石積破砕片の積込み

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 コンクリートはつり

（1）沓座拡幅工等のように、はつり（チッピング）作業が含まれている場合

（2）建築物及び舗装版のとりこわしの場合

（3）ブロック施工による旧橋の撤去の場合

（4）平均はつり厚が6cmを超える場合

（5）橋梁補修工、道路維持修繕工等で標準歩掛が設定されている工種の場合

（6）上方、水平方向に対するはつり作業の場合

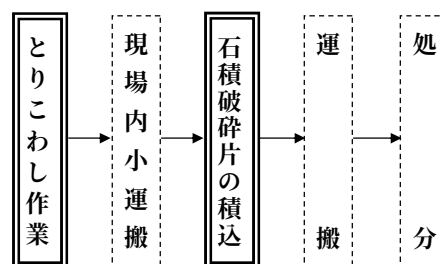
1-2-2 積込（コンクリート殻）

（1）代表機械より小型の機械を使用する場合

2. 施工概要

2-1 石積とりこわし（人力）

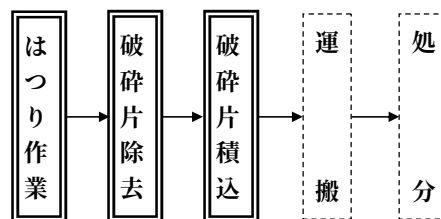
施工フローは、下記を標準とする。



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2-2 コンクリートはつり

施工フローは、下記を標準とする。



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 石積とりこわし(人力)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 石積とりこわし(人力) 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

形状	
練積	控え 35cm 以上 45cm 未満
空積	控え 45cm 未満
空積	控え 45cm 以上 60cm 未満
空積	控え 60cm 以上 90cm 未満

- (注) 1. 上表は、人力による石積とりこわし作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 石積破砕片の積込み、運搬及び人力運搬車等による現場内小運搬を必要とする場合は別途計上する。
 3. 施工数量は、石積とりこわし前の面積とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 石積とりこわし(人力) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 コンクリートはつり

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 コンクリートはつり 積算条件区分一覧

(積算単位:m2)

平均はつり厚
3cm 以下
3cm を超え 6cm 以下

- (注) 1. 上表は、既設のコンクリート構造物表面部のはつり作業、破砕片の除去の他、コンクリートブレーカの賃料、チゼルの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. コンクリート殻の運搬車への積込み、運搬は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 コンクリートはつり 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 5.0m ³ /min	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 積込み(コンクリート殻)

(1) 条件区分

積込み(コンクリート殻)の積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

- (注) 1. 構造物ととりこわしで生じたとりこわし殻等の積込費用等,その施工に必要な機械・労務・材料を含む。
2. 施工量はとりこわし構造物の破碎前の体積とする。
3. 表3. 5の代表機械より小型の機械を使用する場合は別途考慮する。
4. 殻運搬については、「第Ⅱ編第2章共通工⑤殻運搬」により、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 積込(コンクリート殻) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	運転手 (特殊)	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 石積とりこわし(人力)

パッケージコード	CB224240	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	形状		
	①練積 控え 35cm 以上 45 cm未満 ②空積 控え 45cm 未満 ③空積 控え 45cm 以上 60 cm未満 ④空積 控え 60cm 以上 90 cm未満		

(注) 施工数量は、石積とりこわし前の面積とする。

(2) コンクリートはつり

パッケージコード	CB224250	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	平均はつり厚		
	①3 cm以下 ②3 cmを超え 6 cm以下		

(注) 本コードは、空気圧縮機の低騒音型機種、普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

(3) 積込(コンクリート殻)

パッケージコード	CB224260	施工単位	m3

(注) 施工量はとりこわし構造物の破砕前の体積として算出する。

⑮ コンクリート削孔工

1. 適用範囲

本資料は、コンクリート構造物の削孔（さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等）作業に適用する。

1－1 適用出来る範囲

（１）削孔機械における適用削孔径及び削孔深が表１．１に該当する場合

表１．１ 削孔機械における適用削孔径及び削孔深

削孔機械 削孔径 及び削孔深	電動ハンマドリル(38mm)	さく岩機 [ハンドドリル(空圧式)] 質量 15kg 級	コンクリート穿孔機 [簡 易仕様型] [電動式コア ボーリングマシン] 最大 穿孔径φ 25cm
削孔径 (mm)	10 以上 30 未満	30 以上 60 以下	60 を超え 200 以下
削孔深 (mm)	100 以上 200 以下	100 以上 600 以下	200 以上 400 以下

1－2 適用出来ない範囲

（１）落橋防止に伴う橋台、橋脚の削孔である場合

2. 施工パッケージ

2-1 コンクリート削孔（電動ハンマドリル 38mm）

（1）条件区分

コンクリート削孔（電動ハンマドリル 38mm）における積算条件区分はない。

積算単位は、孔とする。

- （注）1. 電動ハンマドリル 38 mm によるコンクリート構造物の削孔（さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等）作業の他、ビット、電動ハンマドリル損料の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 足場が必要な場合は、別途計上する。
3. 鉄筋を切断しないように事前に鉄筋位置の確認を行う場合には、共通仮設費の技術管理費にて別途計上する。

（2）代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.1 コンクリート削孔(電動ハンマドリル 38 mm) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	発動発電機 [ガソリンエンジン駆動] 2kVA	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-2 コンクリート削孔（さく岩機）

（1）条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.2 コンクリート削孔(さく岩機) 積算条件区分一覧

(積算単位：孔)

削孔深さ
100 mm以上 200 mm未満
200 mm以上 400 mm未満
400 mm以上 600 mm以下

- （注）1. 上表は、さく岩機によるコンクリート構造物の削孔（さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等）作業の他、ロッド、ビットの費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 足場が必要な場合は、別途計上する。
3. 鉄筋を切断しないように事前に鉄筋位置の確認を行う場合には、共通仮設費の技術管理費にて別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 コンクリート削孔(さく岩機) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	空気圧縮機 [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 3.5～3.7m ³ /min	賃料
	K 2	さく岩機 [ハンドドリル (空圧式)] 質量 15 kg級	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-3 コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.4 コンクリート削孔(コンクリート穿孔機) 積算条件区分一覧

(積算単位：孔)

削孔径
60mm を超え 64mm 未満
64mm 以上 77mm 未満
77mm 以上 90mm 未満
90mm 以上 110mm 未満
110mm 以上 128mm 未満
128mm 以上 160mm 未満
160mm 以上 180mm 未満
180mm 以上 200mm 以下

- (注) 1. 上表は、コンクリート穿孔機によるコンクリート構造物の削孔(さし筋、アンカー、防護柵類、落石防止柵類、排水穴等)作業の他、コンクリート穿孔機固定用のアンカー打込に必要な費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. コンクリート穿孔機の適用削孔径に対する使用ビット径は、表2. 5を標準とする。
3. 足場が必要な場合は、別途計上する。
4. 鉄筋を切断しないように事前に鉄筋位置の確認を行う場合には、共通仮設費の技術管理費にて別途計上する。

表2.5 適用削孔径と使用ビット径

適用削孔径 (mm)	60 を超え 64 未満	64 以上 77 未満	77 以上 90 未満	90 以上 110 未満	110 以上 128 未満	128 以上 160 未満	160 以上 180 未満	180 以上 200 以下
使用ビット径 (mm)	64.7	77.4	90.8	110.0	128.5	160.0	180.0	204.0

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.6 コンクリート削孔(コンクリート穿孔機) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	コンクリート穿孔機[電動式コアボーリングマシン] [簡易仕様型] 最大穿孔径φ25 cm	
	K 2	発動発電機 [ガソリンエンジン駆動] 3kVA	賃料
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	ダイヤモンドビット φ64.7 mm	削孔径 60mm を超え 64mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ77.4 mm	削孔径 64mm 以上 77mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ90.8 mm	削孔径 77mm 以上 90mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ110 mm	削孔径 90mm 以上 110mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ128.5 mm	削孔径 110mm 以上 128mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ160 mm	削孔径 128mm 以上 160mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ180 mm	削孔径 160mm 以上 180mm 未満の場合
		ダイヤモンドビット φ204 mm	削孔径 180mm 以上 200mm 以下の場合
	Z 2	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート削孔（電動ハンマドリル 38 mm）

パッケージコード	CB224410	施 工 単 位	孔

（注）本コードは、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。

(2) コンクリート削孔（さく岩機）

パッケージコード	CB224420	施 工 単 位	孔
施 工 区 分	入力条件		
各 種	J 1		
	削孔深さ (表 3.1)		

（注）本コードは、空気圧縮機の普通型機種（排出ガス未対策型）及び低騒音型機種についても適用出来る。

表3.1 削孔深さ

削孔深さ区分	入力番号
100 mm以上 200 mm未満	①
200 mm以上 400 mm未満	②
400 mm以上 600 mm以下	③

(3) コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）

パッケージコード	CB224430	施 工 単 位	孔
施 工 区 分	入力条件		
各 種	J 1		
	削孔径 (表 3.2)		

（注）本コードは、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。

表3.2 適用削孔径と使用ビット径

適用削孔径 (mm)	60 を超え 64 未満	64 以上 77 未満	77 以上 90 未満	90 以上 110 未満	110 以上 128 未満	128 以上 160 未満	160 以上 180 未満	180 以上 200 以下
使用ビット径 (mm)	64.7	77.4	90.8	110.0	128.5	160.0	180.0	204.0
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧

⑩ ガス 切 断 工

⑩-1 ガス切 断 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、鋼管杭、H鋼杭、鋼矢板を現場で、ガス切断する場合に適用する。

2. ガス切断歩掛

1. 施工歩掛及び編成人員

施工歩掛及び編成人員は、次表を標準とする。

表1.1 ガス切断歩掛

(1箇所当たり)

名称	規 格		ガス消費量		構成人員	
			酸素 (m ³)	アセチレン (kg)	溶接工 (人)	普通作業員 (人)
鋼 管 杭	φ400 mm	9 mm	0.05	0.02	0.14	0.14
		12 mm	0.07	0.02	0.14	0.14
	φ500 mm	9 mm	0.07	0.02	0.14	0.14
		12 mm	0.08	0.02	0.14	0.14
		14 mm	0.09	0.02	0.14	0.14
	φ600 mm	9 mm	0.08	0.02	0.14	0.14
		12 mm	0.09	0.03	0.14	0.14
		14 mm	0.10	0.03	0.14	0.14
	φ800 mm	9 mm	0.10	0.03	0.14	0.14
		12 mm	0.11	0.03	0.14	0.14
		14 mm	0.12	0.03	0.14	0.14
		16 mm	0.13	0.03	0.14	0.14
H 鋼 杭	200×200mm		0.05	0.02	0.14	0.14
	300×300mm		0.07	0.02	0.14	0.14
	400×400mm		0.09	0.03	0.14	0.14
鋼 矢 板	軽 量		0.01	0.01	0.10	0.10
	Ⅱ型		0.03	0.01	0.10	0.10
	Ⅲ型		0.04	0.01	0.10	0.10
	Ⅳ型		0.04	0.01	0.10	0.10

3. 単 価 表

(1) ガス切断1箇所当たり単価表

		施工歩掛コード		WB224510～WB224530
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
溶 接 工		人		表1.1
普 通 作 業 員		〃		〃
酸 素 ガ ス		m ³		〃
ア セ チ レ ン ガ ス		kg		〃
諸 雑 費		式	1	
計				

4. 施工単価入力基準表

(1) ガス切断(鋼管杭)

施工歩掛コード	WB224510	施工単位	箇所
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	鋼管杭の種類 (表4.1)		

表4.1 鋼管杭の種類

種 類		入力番号
Φ400 mm	t=9 mm	①
	t=12 mm	②
Φ500 mm	t=9 mm	③
	t=12 mm	④
	t=14 mm	⑤
Φ600 mm	t=9 mm	⑥
	t=12 mm	⑦
	t=14 mm	⑧
Φ800 mm	t=9 mm	⑨
	t=12 mm	⑩
	t=14 mm	⑪
	t=16 mm	⑫

(2) ガス切断(H鋼杭)

施工歩掛コード	WB224520	施工単位	箇所
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	H鋼杭の種類 (表4.2)		

表4.2 H鋼杭の種類

種 類	入力番号
200×200mm	①
300×300mm	②
400×400mm	③

(3) ガス切断(鋼矢板)

施工歩掛コード	WB224530	施工単位	箇所
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	鋼矢板の種類 (表4.3)		

表4.3 鋼矢板の種類

種 類	入力番号
軽量	①
Ⅱ型	②
Ⅲ型	③
Ⅳ型	④

⑩－２ 鋼材現場ガス切断工

1. 適用範囲

本資料は、鋼板・丸鋼を現場で、ガス切断する場合に適用する。

2. 編成人員

編成人員は、次表を標準とする。

表2.1 編成人員 (人)

溶 接 工	普通作業員
1	1

(注) 切断労務は、溶接工・普通作業員とし、1日当り8時間を標準とする。

3. 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 鋼材現場ガス切断の施工歩掛

種別	板厚又は径 (mm)	切断長 又は箇所数	切断時間(T) (min)	ガス消費量	
				酸素ガス(S) (m ³)	アセチレンガス(A) (kg)
鋼 板	9	1m	3	0.16	0.07
	12	〃	4	0.24	0.11
	16	〃	4	0.25	0.11
	19	〃	4	0.27	0.12
	25	〃	5	0.38	0.17
丸 鋼	9	10 箇所	2	0.11	0.05
	12	〃	3	0.18	0.08
	16	〃	3	0.19	0.08
	19	〃	3	0.23	0.10
	25	〃	4	0.30	0.13

4. 単 価 表

(1) 鋼板現場ガス切断 100m当り単価表

			施工歩掛コード	WB224610
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
溶 接 工		人	$\frac{T \times 100}{60 \times 8}$	表 2.1, 表 3.1
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
アセチレンガス		kg	$A \times 100$	表 3.1
酸素ガス		m ³	$S \times 100$	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T : 切断時間 (min)

S : 酸素ガス消費量 (m3)

A : アセチレンガス消費量 (kg)

(2) 丸鋼現場ガス切断 100 箇所当り単価表

			施工歩掛コード	WB224620
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
溶 接 工		人	$\frac{T \times 100}{10 \times 60 \times 8}$	表 2.1, 表 3.1
普 通 作 業 員		〃	〃	〃
アセチレンガス		kg	$\frac{A \times 100}{10}$	表 3.1
酸素ガス		m ³	$\frac{S \times 100}{10}$	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T : 切断時間 (min)

S : 酸素ガス消費量 (m3)

A : アセチレンガス消費量 (kg)

5. 施工単価入力基準表

(1) 鋼板現場ガス切断工

施工歩掛コード	WB224610	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	鋼板の種類 (表 5.1)		

表5.1 鋼板の種類

鋼板の厚さ (mm)	番号
9	①
12	②
16	③
19	④
25	⑤

(2) 丸鋼現場ガス切断工

施工歩掛コード	WB224620	施工単位	箇所
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	丸鋼の種類 (表 5.2)		

表5.2 丸鋼の種類

丸鋼の径 (mm)	番号
9	①
12	②
16	③
19	④
25	⑤

⑰ 吸出し防止材設置工

1. 適用範囲

本資料は、吸出し防止材を設置する作業に適用する。

1-1 適用出来る範囲

- (1) 吸出し防止材を設置する場合

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 他工種の歩掛や施工パッケージに吸出し防止材設置が含まれている場合

2. 施工パッケージ

2-1 吸出し防止材設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 吸出し防止材設置 積算条件区分一覧

(積算単位：m2)

設置条件
全面
点在

- (注) 1. 上表は、吸出し防止材の設置等、その施工に必要な全ての労務・材料費（損料等を含む）を含む。
 2. 全面に設置する場合、重ね合せ等による吸出し防止材の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.07）
 3. 点在で設置する場合、吸出し防止材の材料ロスは含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.2 吸出し防止材設置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	—
	K2	—
	K3	—
労務	R1	普通作業員
	R2	—
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	吸出し防止材 合繊不織布 t=10mm 9.8kN/m
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

3. 施工単価入力基準表

(1) 吸出し防止材設置

パッケージコード	CB224720	施工単位	m2
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	設置条件 ①全面 ②点在		

- (注) 1. 吸出し防止材 (Y-1006000) [円/m3] を単価登録すること。
 2. 本コードは、全面に設置する場合、重ね合せ等による吸出し防止材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 3. 本コードは、点在で設置する場合、吸出し防止材の材料ロスは含まない。

⑱ 目地・止水板設置工

1. 適用範囲

本資料は、目地板、止水板を設置する作業に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 目地板

(1) 目地板(厚さ10～20mm)を水門、樋門、樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁等に設置する場合

1-1-2 止水板

(1) 止水板(幅100～300mm)を水門、樋門、樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁等に設置する場合

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 目地板

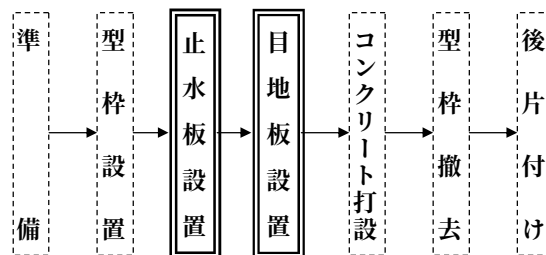
(1) 現場打擁壁工(1)、共同溝工(1)・(2)、ボックスカルバートのうち函渠工(1)の場合

1-2-2 止水板

(1) 共同溝工(1)・(2)、ボックスカルバートのうち函渠工(1)、砂防ダムの場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 目地板

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 目地板 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

目地板の種類
瀝青質目地板 t=10mm
瀝青繊維質目地板 t=10mm
樹脂発泡体(15倍発泡) t=10mm
樹脂発泡体(30倍発泡) t=10mm
ゴム発泡体 t=10mm
発泡スチロール t=10mm
瀝青質目地板 t=20mm
瀝青繊維質目地板 t=20mm
樹脂発泡体(15倍発泡) t=20mm
樹脂発泡体(30倍発泡) t=20mm
ゴム発泡体 t=20mm
発泡スチロール t=20mm
各種

(注) 1. 上表は、コンクリート構造物の継目に対する目地板の設置等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等含む)を含む。

2. 目地板の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.12)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 目地板 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1		
	K 2		
	K 3		
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3		
	R 4		
材料	Z 1	瀝青繊維質目地板 厚さ 10mm	
	Z 2		
	Z 3		
	Z 4		
市場単価	S		

3-2 止水板

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 止水板 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

止水板の種類
幅 FF200×厚さ 5mm
幅 FC200×厚さ 5mm
幅 CF200×厚さ 5mm
幅 CC200×厚さ 5mm
幅 UC300×厚さ 7mm
幅 S.R200×厚さ 5mm
幅 S.SF200×厚さ 5mm
各種

- (注) 1. 上表は、水門、樋門・樋管、水路、ボックスカルバート、擁壁等における止水板の設置等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。
 2. 止水板の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.04）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 止水板 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1	—
	K 2	—
	K 3	—
労務	R 1	普通作業員
	R 2	土木一般世話役
	R 3	—
	R 4	—
材料	Z 1	塩ビ止水板 CF 幅 200×厚さ 5mm
	Z 2	—
	Z 3	—
	Z 4	—
市場単価	S	—

4. 参考図 (塩ビ止水板)

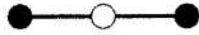
FF (フラット型フラット)



FC (フラット型コルゲート)



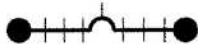
CF (センターバルブ型フラット)



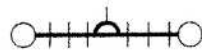
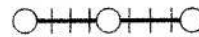
CC (センターバルブ型コルゲート)



UC (アンカット型コルゲート)



S.R (特殊型)



S.SF (特殊型)



5. 施工単価入力基準表

(1) 目地板

パッケージコード	CB224710	施工単位	m ²
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	目地板の種類 (表 5.1)		

- (注) 1. 本コードは、目地板の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 2. J 1 条件で⑬を選択した場合は、目地板単価 (Y-1140000) [円/㎡] を単価登録すること。

表5.1 目地板の種類

種 類	規 格	入力番号
瀝青質目地板	t=10	①
瀝青繊維質目地板		②
樹脂発泡体 (15 倍発泡)		③
樹脂発泡体 (30 倍発泡)		④
ゴム発泡体		⑤
発泡スチロール		⑥
瀝青質目地板	t = 20	⑦
瀝青繊維質目地板		⑧
樹脂発泡体 (15 倍発泡)		⑨
樹脂発泡体 (30 倍発泡)		⑩
ゴム発泡体		⑪
発泡スチロール		⑫
各種		⑬

(2) 止水板

パッケージコード	CB224810	施工単位	m
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	止水板の種類 (表 5.2)		

- (注) 1. 本コードは、止水板の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 2. J 1 条件で⑧を選択した場合は、止水板単価 (Y-1672000) [円/㎡] を単価登録すること。

表5.2 止水板の種類

種 類	規 格	入力番号
FF	200 × 5	①
FC	200 × 5	②
CF	200 × 5	③
C C	200 × 5	④
UC	300 × 7	⑤
S.R	200 × 5	⑥
S.SF	200 × 5	⑦
各種		⑧

⑱ 旧橋撤去工

1. 適用範囲

本資料は、鋼橋鈹桁（合成桁及び非合成桁）の高欄撤去から舗装版とりこわし、床版分割（ブロック施工）のための床版1次破碎と撤去及び鈹材撤去と床版2次破碎までの一連作業による撤去工に適用する。

なお、横断歩道橋撤去、床版打換え時のブロック施工等には適用しない。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 高欄撤去

(1) 高欄（鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ）をガス切断し、運搬車両へ積込む場合

1-1-2 アスファルト舗装版破碎・積込み

(1) 大型ブレーカによりアスファルト舗装版を破碎し、破碎後のアスファルト塊を運搬車両へ積込む場合

(2) 破碎後のアスファルト塊の大きさがバックホウにより掘削・積込みが可能な場合

1-1-3 床版1次破碎・撤去

(1) 桁下へのコンクリート落下が不可能な場合

(2) 大型ブレーカによる床版（コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄）を含む）の破碎で床版分割ブロックをクレーン作業半径内における1次仮置き場に仮置きする、もしくは直接積込む場合

(3) 床版分割撤去の1ブロック当りの大きさがおよそ2m×5m程度の場合

1-1-4 床版1次及び2次破碎・撤去

(1) 桁下へのコンクリート落下が不可能な場合

(2) 1-1-3に示す床版1次破碎作業と1次破碎後の床版を、およそ30cm×30cm程度まで2次破碎し、運搬車両へ積込む場合

1-1-5 桁1次切断・撤去

(1) 受入れ施設等にて主桁（桁長が12m以下）を2次切断せずに持込みが可能な場合

1-1-6 桁1次及び2次切断・撤去

(1) クレーン作業半径内に2次切断のためのヤードが確保でき、1次切断で主桁を切断せずに撤去が可能な場合

(2) (1)が不可能な場合で、ペントの設置および切断した主桁（桁長12m以下）の運搬車への積載が可能で別途、2次切断のためのヤードが確保出来る場合

1-1-7 アスファルト塊運搬

(1) 旧橋撤去工により発生したアスファルト塊の運搬の場合

1-1-8 床版運搬

(1) 床版1次破碎・撤去後における運搬の場合

なお、DID（人口集中地区）区間を通過する場合も適用出来る。

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 高欄撤去

(1) コンクリート高欄（壁高欄含む）の場合

1-2-2 アスファルト舗装版破碎・積込み

(1) バックホウ以外の方法により積込むことを前提として特に大きく分割する場合

1-2-3 床版1次破碎・撤去

(1) 桁下へのコンクリート落下が可能な場合

(2) 2次破碎を実施する必要がある場合

(3) 床版撤去は橋の上、又は橋台の背面に配置したクレーンでの作業であり、撤去部材長さ、質量、作業半径及び現場条件等により代表機材規格一覧（表3.3）に示す機械・規格により難しい場合

1-2-4 床版1次及び2次破碎・撤去

(1) 1次破碎における床版撤去は橋の上、または橋台の背面に配置したクレーンでの作業であり、撤去部材長さ、質量、作業半径及び現場条件等により代表機材規格一覧（表3.4）に示す機械・規格により難しい場合

1-2-5 桁1次切断・撤去

- (1) 2次切断を実施する必要がある場合

1-2-6 桁1次及び2次切断・撤去

- (1) 2次破碎のためのヤードが確保出来ない場合
- (2) 現場条件等によりベントの設置が出来ず主桁の切断が不可能な場合
- (3) 現場条件等により切断後の主桁の運搬車への積載が不可能な場合

1-2-7 アスファルト塊運搬

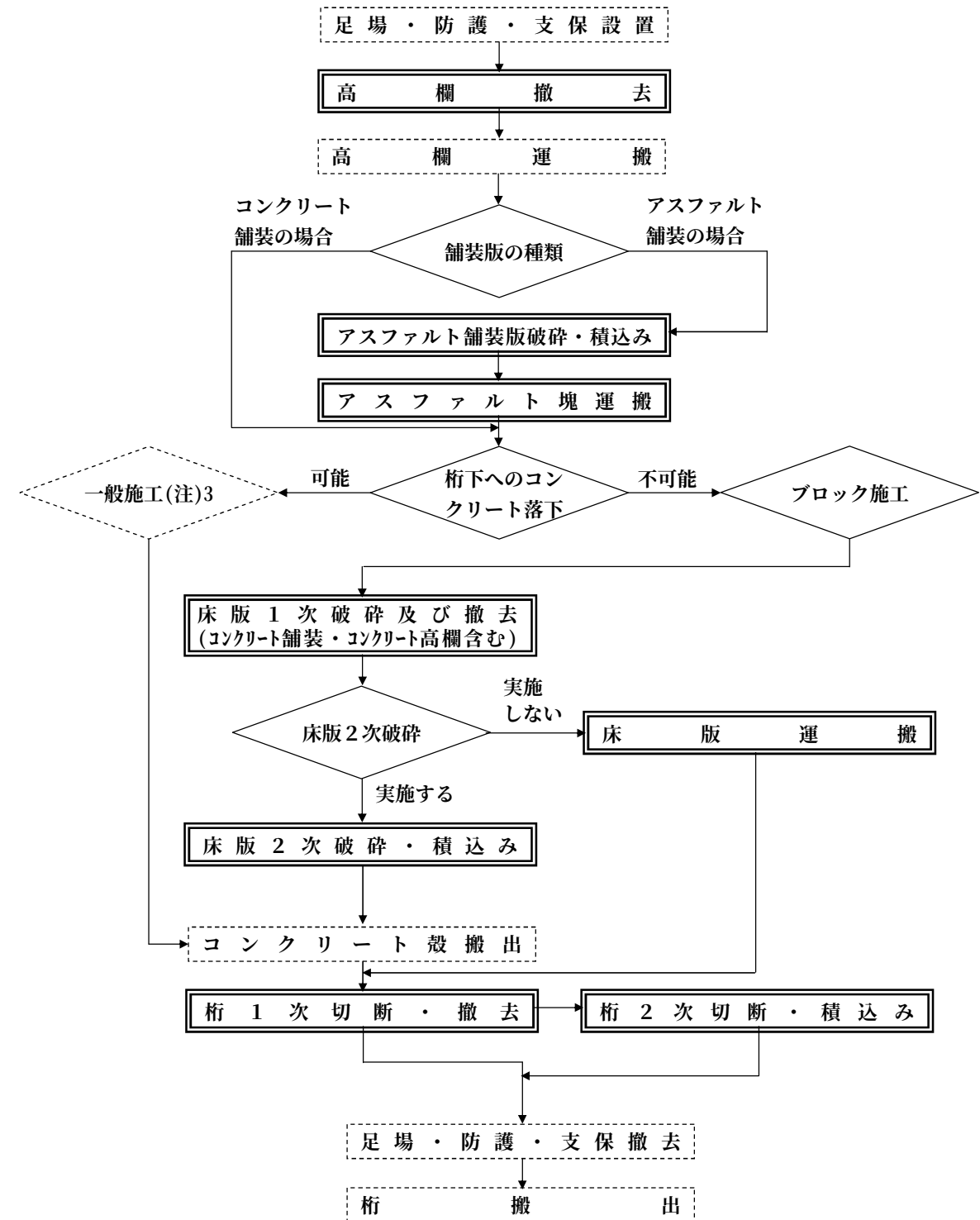
- (1) 自動車専用道路を利用する場合
- (2) 運搬距離が60kmを超える場合

1-2-8 床版運搬

- (1) 床版2次破碎後のコンクリート塊における運搬の場合
- (2) 自動車専用道路を利用する場合
- (3) 運搬距離が60kmを超える場合

2. 施 工 概 要

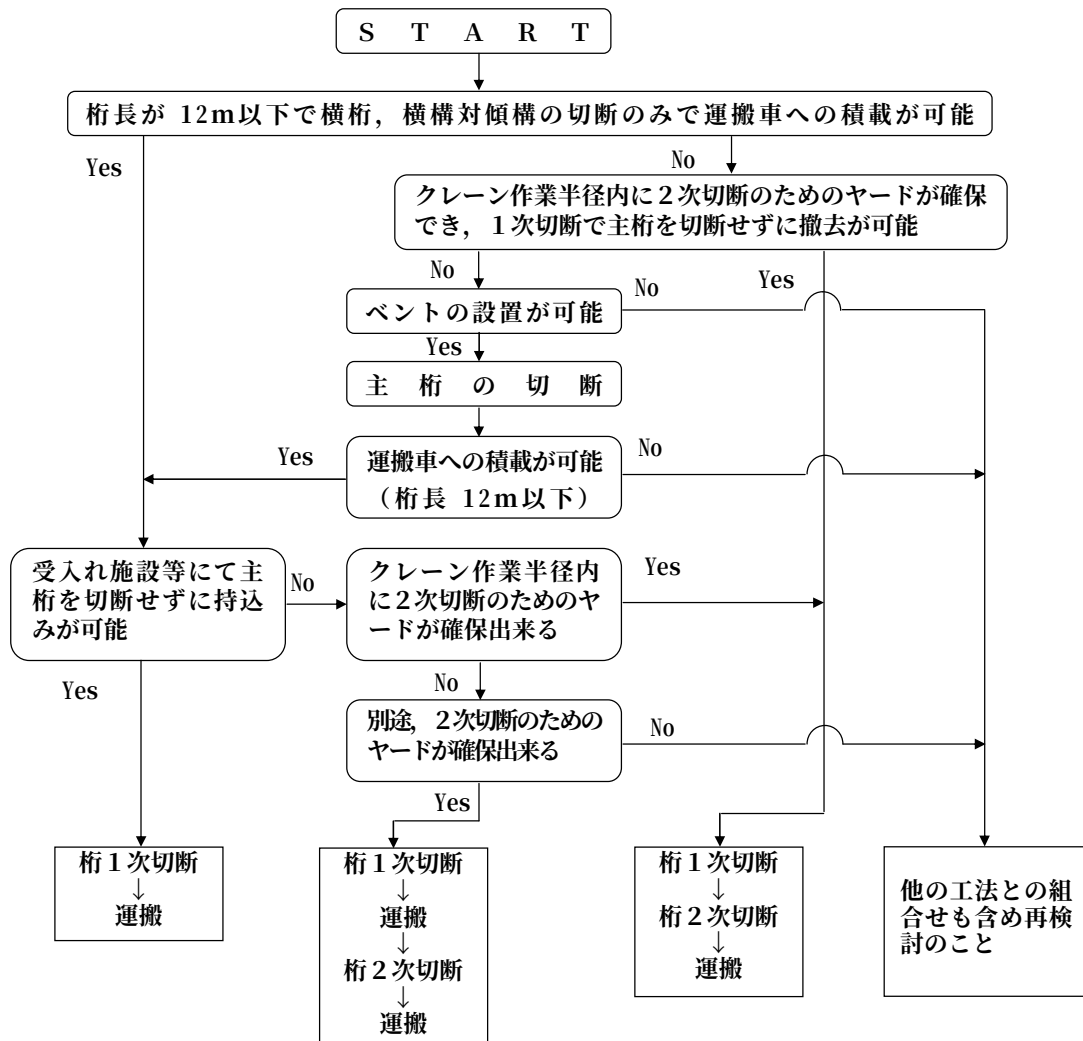
施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
2. 足場・防護・ベントが必要な場合は、「第Ⅳ編第7章橋梁工③鋼橋架設工」による。
3. 一般施工は、「第Ⅵ編第2章市場単価⑩構造物とりこわし工」により別途計上する。

図2-1 施工フロー

※桁切断の工法選定について、参考として以下を示す。



3. 施工パッケージ

3-1 高欄撤去

(1) 条件区分

高欄撤去における積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

- (注) 1. 旧橋撤去における高欄（鋼製、橋梁用ガードレール、アルミ）の切断から運搬車両への積込みまでの費用の他、高欄等の切断に必要なガス切断機損料、酸素・アセチレン、玉掛作業に必要なワイヤーロープ等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 設計数量は、高欄撤去の総延長であり、両車線の総撤去延長である。
3. コンクリート高欄（壁高欄含む）は床版1次破碎を含む。
4. 高欄撤去で生じた現場発生品の運搬については、「第Ⅰ編第2章工事費の積算③現場発生品及び支給品運搬」により、別途計上する。
5. 高欄撤去で生じた現場発生品については、別途適正に処理する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 高欄撤去 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	トラック〔クレーン装置付〕 ベーストラック 4t 級 吊能力 2.9t	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	溶接工	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 アスファルト舗装版破碎・積込み

(1) 条件区分

アスファルト舗装版破碎・積込みにおける積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

- (注) 1. 旧橋撤去における大型ブレーカによるアスファルト舗装版の破碎から運搬車両への積込みの他、チゼルの損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 設計数量は、アスファルト舗装版のみの体積である。
3. アスファルト塊の積込みは、大型ブレーカのベースマシンであるバックホウによるものであり、大型ブレーカからバケットに付替える方法を標準とする。
4. アスファルト舗装版破碎で生じた、アスファルト塊の運搬は「3-7 アスファルト塊運搬」により、別途計上する。
5. アスファルト塊処理費は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 アスファルト舗装版破碎・積込み 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	
	K 2	大型ブレーカ（ベースマシン含まず）〔油圧式〕 質量 600～800kg 級	
	K 3	—	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	運転手（特殊）	
	R 3	普通作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 床版1次破碎・撤去

(1) 条件区分

床版1次破碎・撤去における積算条件区分はない。

積算単位は、m³ とする。

- (注) 1. 床版をブロック状（1ブロック当りの大きさは、おおよそ2m×5m程度）に1次破碎後、鉄筋をガス切断したのちクレーンで吊上げて、床版分割ブロックを作業半径内における1次仮置場に仮置きする、もしくは直接積込む作業の他、チゼルの損耗費及び鉄筋切断に必要なガス切断機損料、酸素・アセチレン、玉掛作業に必要なワイヤーロープ等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 設計数量は、床版の体積である。なお、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）の場合についても設計数量に含む。
3. コンクリート殻の積込みは、大型ブレーカのベースマシンであるバックホウによるものであり、大型ブレーカからバケットに付替える方法を標準とする。
4. 床版1次破碎・撤去後における運搬については「3-8 床版運搬」により、別途計上する。
5. 床版1次破碎で生じたコンクリート殻処理費は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 床版1次破碎・撤去 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K 3	大型ブレーカ (ベースマシン含まず) [油圧式] 質量 600～800kg 級	
労務	R 1	溶接工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 床版1次及び2次破碎・撤去

(1) 条件区分

床版1次及び2次破碎・撤去における積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

- (注) 1. 1次破碎作業（作業内容は「3-3 床版1次破碎・撤去」(注) 1. 参照)の後、その床版分割ブロックをおおよそ30cm×30cm程度まで破碎（2次破碎）及び積込む作業の他、チゼルの損耗費及び鉄筋切断に必要なガス切断機損料、酸素・アセチレン、玉掛作業に必要なワイヤーロープ等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 設計数量は、床版の体積である。なお、コンクリート舗装版及びコンクリート高欄（壁高欄含む）の場合についても設計数量に含む。
3. コンクリート殻の積込みは、大型ブレーカのベースマシンであるバックホウによるものであり、大型ブレーカからバケットに付替える方法を標準とする。
4. 床版1次破碎・撤去で生じたコンクリート殻の運搬については「3-8 床版運搬」により、別途計上する。
5. 床版2次破碎・撤去で生じたコンクリート殻の運搬については「第Ⅱ編第2章共通工事5殻運搬」により、別途計上する。
6. 床版2次破碎までに生じたコンクリート殻の処理費は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 床版1次及び2次破碎・撤去 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 25t吊	賃料
	K 2	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
	K 3	大型ブレーカ (ベースマシン含まず) [油圧式] 質量600~800kg級	
労務	R 1	溶接工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 桁1次切断・撤去

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 桁1次切断・撤去 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格
(表3.6)	有り	(表3.6)
	無し	—

- (注) 1. 上表は、桁材の撤去及び積込みの他、切断作業に必要なガス切断機損料、酸素・アセチレン、玉掛作業に必要なワイヤーロープ等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 撤去部材の大きさと現場条件に応じてクレーンの機種・規格を決定する。
3. 桁材の運搬については別途計上する。
4. 桁1次切断・撤去で生じた現場発生品については、別途適正に処理する。

表3.6 クレーン規格(相吊クレーン規格)

積算条件	区分
クレーン規格 (相吊クレーン規格)	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 25t 吊
	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 35t 吊
	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 45t 吊
	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 油圧伸縮ジブ型 50t 吊
	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 100t 吊
	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 120t 吊
	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 160t 吊
	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 200t 吊
	トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 360t 吊

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 桁1次切断・撤去 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 50t 吊	賃料
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 100t 吊	賃料
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 120t 吊	賃料
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 160t 吊	賃料
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 200t 吊	賃料
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 360t 吊	賃料
	K 2	ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 25t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 35t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 45t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 50t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 100t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 120t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 160t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 200t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕 360t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
	K 3	—	
労務	R 1	溶接工	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	普通作業員	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3－6 桁1次及び2次切断・撤去

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.8 桁1次及び2次切断・撤去 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

クレーン規格	相吊クレーンの有無	相吊クレーン規格
(表 3.6)	有り	(表 3.6)
	無し	—

- (注) 1. 上表は、1次切断による桁材の撤去及び積込みと2次切断による桁の切断、積込みの他、切断作業に必要なガス切断機損料、酸素・アセチレン、玉掛作業に必要なワイヤーロープ等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 撤去部材の大きさと現場条件に応じてクレーンの機種・規格を決定する。
3. 桁材の運搬については別途計上する。
4. 桁切断・撤去で生じた現場発生品については、別途適正に処理する。

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.9 桁1次及び2次切断・撤去 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 50t 吊	賃料
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 100t 吊	賃料
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 120t 吊	賃料
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 160t 吊	賃料
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 200t 吊	賃料
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 360t 吊	賃料
	K 2	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 35t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 50t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 100t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 120t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 160t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 200t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
		トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型] 360t 吊(相吊)	・賃料 ・相吊クレーン無しの場合を除く
	K 3	—	
労務	R 1	溶接工	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	普通作業員	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 アスファルト塊運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 アスファルト塊運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

DID 区間の有無	運搬距離
無し	(表 3.11)
有り	(表 3.12)

- (注) 1. 上表は、アスファルト舗装版破碎で生じたアスファルト塊の運搬の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む。
3. タイヤ損耗の「良好」「普通」「不良」にかかわらず適用出来る。
4. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
5. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
6. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものである。
7. 運搬距離が 60 kmを超える場合は、別途考慮する。

表3.11 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km 以下
	0.5km 以下
	1.0km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.5km 以下
	6.5km 以下
	7.5km 以下
	9.5km 以下
	11.5km 以下
	15.5km 以下
	22.5km 以下
	49.5km 以下
	60.0km 以下

表3.12 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	0.3km 以下
	0.5km 以下
	1.0km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	3.5km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.0km 以下
	8.5km 以下
	11.0km 以下
	14.0km 以下
	19.5km 以下
	31.5km 以下
	60.0km 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 アスファルト塊運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手 (一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-8 床版運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.14 床版運搬 積算条件区分一覧
(積算単位：m³)

運搬距離
0.7km 以下
2.2km 以下
5.0km 以下
7.9km 以下
12.1km 以下
17.8km 以下
25.0km 以下
34.9km 以下
47.8km 以下
60.0km 以下

- (注) 1. 上表は、床版1次破碎後のコンクリート殻の運搬の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理に掛かる費用を含む。
 3. タイヤ損耗の「良好」「普通」「不良」にかかわらず適用出来る。
 4. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
 5. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
 6. D I D (人口集中地区) 区間の通過にかかわらず適用出来る。
 7. 運搬距離が 60 kmを超える場合は、別途考慮する。
 8. 床版2次破碎後における運搬については「第Ⅱ編第2章共通工25殻運搬」により、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

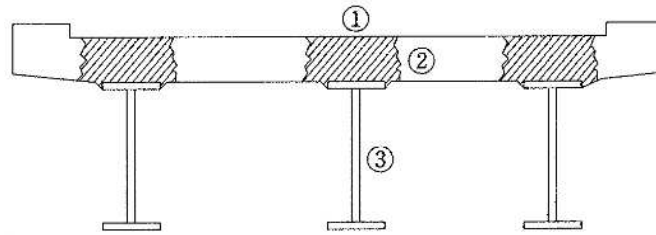
表3.15 床版運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10t 積級	タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手 (一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

(参考)

ブロック施工（床版分割施工）とは、コンクリート殻を桁下に落とすことが出来ず、ある程度のブロック状に1次破碎後、鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊上げて、撤去する工法である。

なお、「床版1次破碎・ブロック塊撤去」から「桁1次切断・撤去」の作業順序は、下記のとおりである。



作業順は、①の斜線部を大型ブレーカで1次破碎後、鉄筋をガス切断、②のブロック塊をラフテレーンクレーンで撤去し、③の桁材切断・撤去を行う。

4. 施工単価入力基準表

(1) 高欄撤去

パッケージコード	CB224910	施工単位	m

(注) 1. 施工量とは、高欄撤去の総延長であり、両車線の総撤去延長である。

2. 高欄の運搬については「第Ⅰ編第2章③現場発生品及び支給品運搬」CB010410により別途計上する。

(2) アスファルト舗装版破碎・積込み

パッケージコード	CB224920	施工単位	m3

(注) 1. 本コードは、大型ブレーカ（ベースマシンのバックハウ）の低騒音機種についても適用出来る。

2. 本コードは、大型ブレーカ（ベースマシンのバックハウ）の普通型機種（排ガス未対策型）についても適用出来る。

3. アスファルト塊の運搬については、CB224990により別途計上する。

(3) 床版1次破碎・撤去

パッケージコード	CB224930	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン賃料補正係数		
	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

3. 本コードは、大型ブレーカ（ベースマシンのバックハウ）の低騒音機種についても適用出来る。

4. 本コードは、大型ブレーカ（ベースマシンのバックハウ）の普通型機種（排ガス未対策型）についても適用出来る。

5. 床版1次破碎・撤去で生じたコンクリート殻の運搬については、CB225000により別途計上する。

6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(4) 床版1次及び2次破碎・撤去

パッケージコード	CB224970	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
3. 本コードは、大型ブレーカ(ベースマシンのバックハウ)の低騒音機種についても適用出来る。
4. 本コードは、大型ブレーカ(ベースマシンのバックハウ)の普通型機種(排ガス未対策型)についても適用出来る。
5. 床版1次破碎・撤去で生じたコンクリート殻の運搬については、CB225000により別途計上する。
6. 床版2次破碎・撤去で生じたコンクリート殻の運搬については「第Ⅱ編第2章共通工⑤殻運搬」より、別途計上する。
7. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(5) 桁1次切断・撤去

パッケージコード	CB224940	施工単位	t		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	クレーン 規格	相吊クレーン の有無	相吊クレーン 規格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	トラッククレーン賃 料補正係数
		①有り		①標準 (1.0)	①標準 (1.0)
	(表 4.1)	②無し	(表 4.1)	②標準以外 (実数入力)	②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1条件, J 3条件共に①～④を選択した場合は, J 5条件は入力する必要はない。また, J 1条件, J 3条件共に⑤～⑨を選択した場合は, J 4条件は入力する必要はない。
2. J 2条件で②を選択した場合は, J 3条件は入力する必要はない。
3. 本コードは、ラフテレーンクレーン及びトラッククレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
5. 桁の運搬については、別途計上する。
6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(6) 桁1次及び2次切断・撤去

パッケージコード	CB224980	施工単位	t		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	クレーン 規格	相吊クレーン の有無	相吊クレーン 規格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	トラッククレーン 賃料補正係数
		①有り		①標準 (1.0)	①標準 (1.0)
	(表 4.1)	②無し	(表 4.1)	②標準以外 (実数入力)	②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件, J 3 条件共に①～④を選択した場合は, J 5 条件は入力する必要はない。また, J 1 条件, J 3 条件共に⑤～⑨を選択した場合は, J 4 条件は入力する必要はない。
2. J 2 条件で②を選択した場合は, J 3 条件は入力する必要はない。
3. 本コードは, ラフテレーンクレーン及びトラッククレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
5. 桁の運搬については, 別途計上する。
6. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表4.1 クレーンの規格

規 格		入力番号
ラフテレーンクレーン 排 出 ガ ス 対 策 型 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型	25t 吊	①
	35t 吊	②
	45t 吊	③
	50t 吊	④
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型	100t 吊	⑤
	120t 吊	⑥
	160t 吊	⑦
	200t 吊	⑧
	360t 吊	⑨

(7) アスファルト塊運搬

パッケージコード	CB224990	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	DID 区間の有無	運搬距離	
	①無し ②有り	(表4.2)	

表4.2 運搬距離

積込機種・規格	バックホウ(クローラ型)標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)山積0.8m3(平積0.6m3)級							
運搬機種・規格	ダンプトラック オンロード・ディーゼル 10t積級							
DID 区間：無し								
運搬距離 (km)	0.3以下	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下	3.0以下	4.0以下	5.5以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離 (km)	6.5以下	7.5以下	9.5以下	11.5以下	15.5以下	22.5以下	49.5以下	60.0以下
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
積込機種・規格	バックホウ(クローラ型)標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)山積0.8m3(平積0.6m3)級							
運搬機種・規格	ダンプトラック オンロード・ディーゼル 10 t 積級							
DID 区間：有り								
運搬距離 (km)	0.3以下	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下	3.0以下	3.5以下	5.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運搬距離 (km)	6.0以下	7.0以下	8.5以下	11.0以下	14.0以下	19.5以下	31.5以下	60.0以下
入力番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。

(8) 床版運搬

パッケージコード	CB225000	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	運搬距離		
	(表4.3)		

(注) 床版1次破碎後のコンクリート殻運搬に適用する。床版2次破碎後の運搬は、「第Ⅱ編第2章共通工25殻運搬」により、別途計上する。

表4.3 運搬距離

積込機種・規格	バックホウ(クローラ型)標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)山積0.8m ³ (平積0.6m ³)級									
運搬機種・規格	ダンプトラック オンロード・ディーゼル 10t積級									
運搬距離 (km)	0.7以下	2.2以下	5.0以下	7.9以下	12.1以下	17.8以下	25.0以下	34.9以下	47.8以下	60.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。

②0 か ご 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、じゃかご（径 45, 60 cm）及びふとんかご（パネル式、高さ 40～60 cm、幅 120 cm）の施工に適用する。

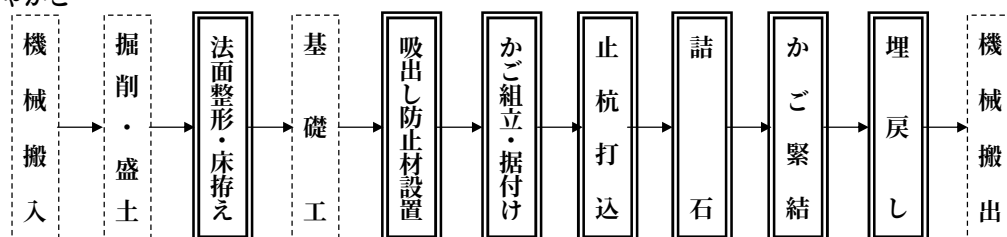
なお、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における場合には本資料は適用せず、「第Ⅲ編第 4 章地すべり防止工①-5 地すべり防止工（かご工）」による。

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー

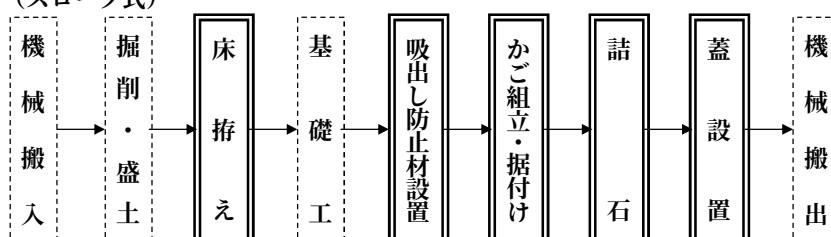
（1）じゃかご



（注）1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

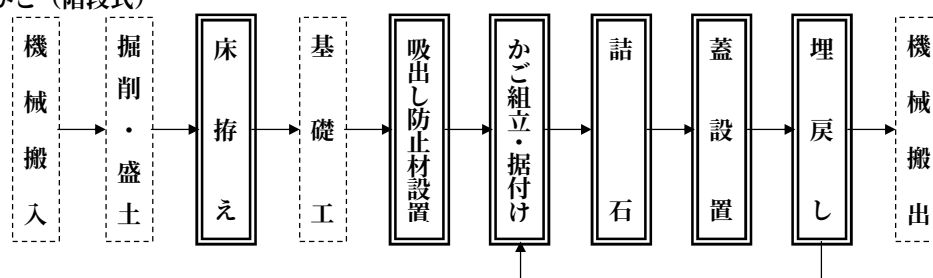
（2）ふとんかご（スロープ式）



（注）1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

（3）ふとんかご（階段式）



（注）1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 ジャカゴ

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ジャカゴ 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ジャカゴ径
設置	径 45cm
	径 60cm
撤去	径 45cm
	径 60cm

(注) 1. 上表は、ジャカゴ据付のための法面整形、床拵え、吸出し防止材の設置、かご組立・据付け、詰石、かご緊結、埋戻し及び現場内小運搬（平均運搬距離 30m程度まで）等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。

2. 吸出し防止材は全面設置、厚さは 10 mmを標準とする。

3. 止杭を必要とする場合は、「3-3 止杭打込」を別途計上すること。

4. 吸出し防止材、詰石材の材料ロスを含む。標準ロス率は、吸出し防止材が+0.07、詰石材が-0.05とする。

5. 詰石の標準使用量は、径 45cm の場合 1.5m³/10m、径 60cm の場合 2.7m³/10mとする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 ジャカゴ 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	詰石 割ぐり石 150～200mm	撤去は除く
	Z 3	鉄線ジャカゴ 円筒形ジャカゴ GS-7 線径 4.0mm(#8) 網目 13cm 径 45cm	・撤去は除く ・ジャカゴ径 45cm の場合
		鉄線ジャカゴ 円筒形ジャカゴ GS-3 線径 4.0mm(#8) 網目 13cm 径 60cm	・撤去は除く ・ジャカゴ径 60cm の場合
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 ふとんかご

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 ふとんかご 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

作業区分	ふとんかご種別	ふとんかご規格
設置	スロープ式	40cm×120cm
		50cm×120cm
		60cm×120cm
	階段式	40cm×120cm
		50cm×120cm
		60cm×120cm
撤去	スロープ式	40cm×120cm
		50cm×120cm
		60cm×120cm
	階段式	40cm×120cm
		50cm×120cm
		60cm×120cm

- (注) 1. 上表は、ふとんかご据付のための床拵え、吸出し防止材の設置、かご組立・据付け、詰石、蓋設置、埋戻し(階段式のみ)及び現場内小運搬(平均運搬距離 30m程度まで)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 吸出し防止材は全面設置、厚さは 10 mmを標準とする。本パッケージはふとんかご(階段式)の段数によらず適用出来る。
3. 吸出し防止材、詰石材の材料ロスを含む。標準ロス率は、吸出し防止材が+0.07、詰石材が-0.05 とする。
4. 詰石の標準使用量は、40cm×120cm が 4.6m³/10m、50cm×120cm が 5.7m³/10m、60cm×120cm が 6.8m³/10mとする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 ふとんかご 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	運転手（特殊）	
材料	Z 1	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z 2	ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm(#8) 網目 13cm 40cm×120cm	・撤去は除く ・ふとんかご規格 40cm×120cm の場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm(#8) 網目 13cm 50cm×120cm	・撤去は除く ・ふとんかご規格 50cm×120cm の場合
		ふとんかご 角形パネルタイプ GS-3 線径 4.0mm(#8) 網目 13cm 60cm×120cm	・撤去は除く ・ふとんかご規格 60cm×120cm の場合
	Z 3	詰石 割ぐり石 150～200mm	撤去は除く
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 止杭打込

(1) 条件区分

止杭打込における条件区分はない。

積算単位は、本とする。

(注) 1. ジャカゴの据付けのための止杭打込等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等含む）を含む。

2. 止杭は1本当たり松丸太末口 9cm、長さ 1.5m を標準とする。

(2) 代表機労材規格

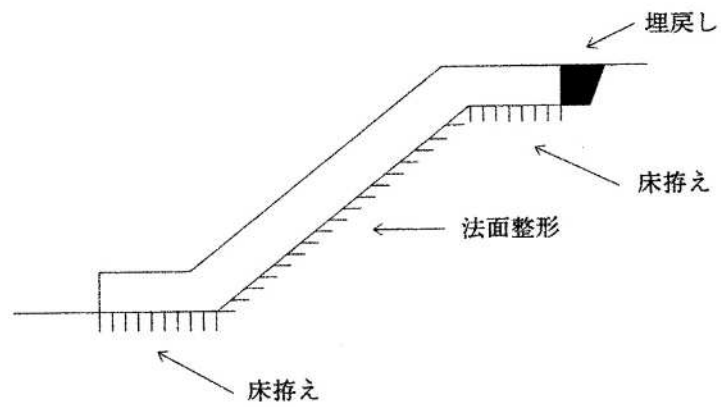
下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 止杭打込 代表機労材規格一覧

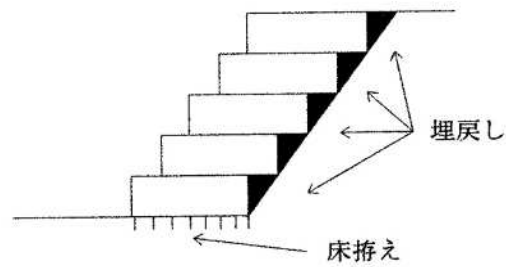
項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	松丸太末口 9cm、長さ 1.5m	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. かご工 (じゃかご, ふとんかご) 参考図

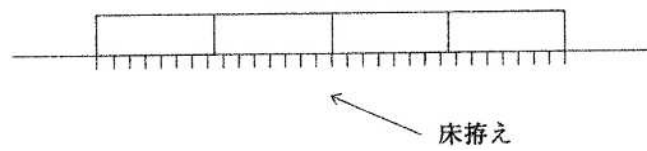
(1) じゃかご



(2) ふとんかご (階段式)



(3) ふとんかご (スロープ式)



5. 施工単価入力基準表

(1) ジャカゴ

パッケージコード	CB225010	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	作業区分	ジャカゴ径	
	①設置 ②撤去	①径45cm ②径60cm	

- (注) 1. ジャカゴ単価 (Y-1021000) [円/m], 詰石単価 (Y-0256000) [円/m³] を単価登録すること。
 2. J 1 条件で② (撤去) を選択した場合には, ジャカゴ単価 (Y-1021000), 詰石単価 (Y-0256000) の単価登録は行わない。
 3. 止杭を必要とする場合は, 止杭打込(CB225020)を別途計上すること。
 4. 本コードは, 吸出し防止材, 詰石材の材料ロスを含む。

(2) ふとんかご

パッケージコード	CB225030	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作業区分	ふとんかご種別	ふとんかご規格
	①設置 ②撤去	①スロープ式 ②階 段 式	①高さ40cm × 幅120cm ②高さ50cm × 幅120cm ③高さ60cm × 幅120cm

- (注) 1. ふとんかご単価(Y-1023000)[円/m], 詰石単価(Y-0256000)[円/m³]を単価登録すること。
 2. J 1 条件で② (撤去) を選択した場合には, ふとんかご単価(Y-1023000), 詰石単価(Y-0256000)の単価登録は行わない。
 3. 本コードは, 吸出し防止材, 詰石材の材料ロスを含む。

(3) 止杭打込

パッケージコード	CB225020	施工単位	本

- (注) 松丸太単価(Y-0401001)[円/本] を単価登録すること。

②① 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

1. 適用範囲

本資料は、超軽量材としての発泡スチロール材を盛土、擁壁及び橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 コンクリート床版

- (1) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 150m 以下の場合
- (2) 圧送コンクリートのスランプ値が 8～12cm, 粗骨材の最大寸法が 40mm 以下の場合

1-1-2 支柱設置

- (1) ベースプレート式H形鋼支柱を基礎コンクリートにアンカーボルトで固定する工法を標準とし、H形鋼規格がH300 mm×300 mm以下、長さ 9 m以下の場合

1-1-3 壁面材設置

- (1) 壁面材 1 枚当りの規格が、長さ 2.5m以下、幅 0.6m以下、質量 170 kg以下の場合

1-2 適用出来ない範囲

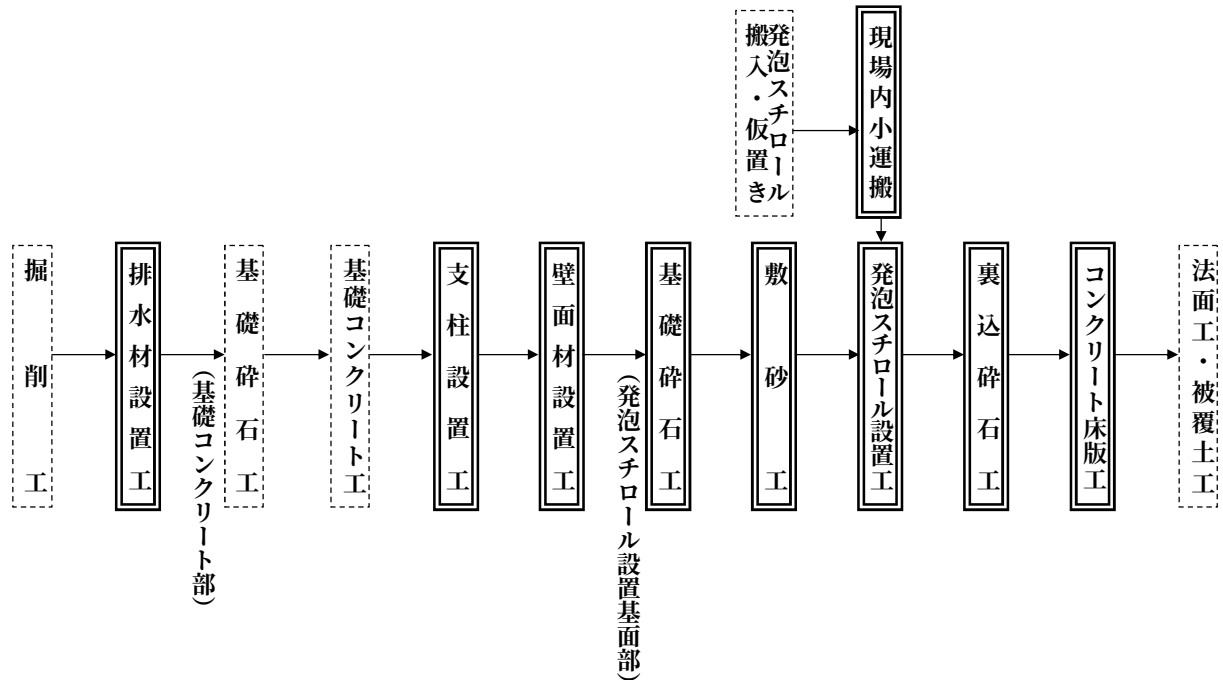
1-2-1 コンクリート床版

- (1) コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合

2. 施 工 概 要

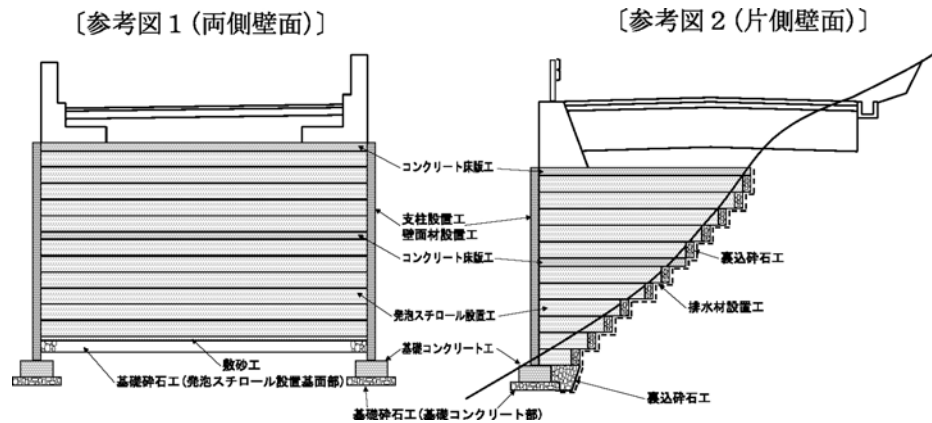
施工フローは、下記を標準とする。

2-1 壁面材設置工有り

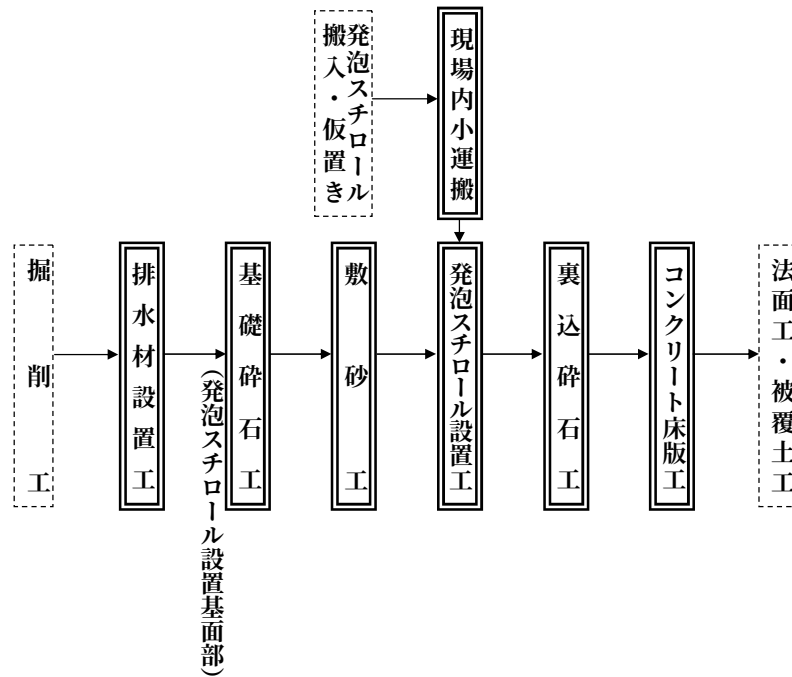


(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。

2. 排水材設置工，基礎砕石工(発泡スチロール設置基面部)，敷砂工，裏込砕石工及びコンクリート床版工は，必要に応じて計上する。

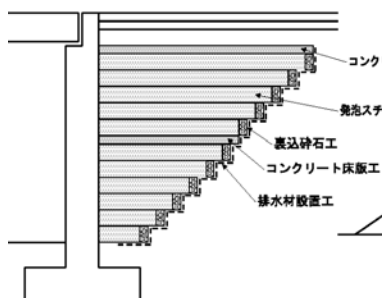


2-2 壁面材設置工無し

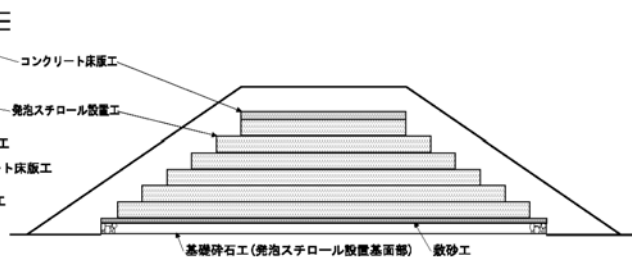


- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
 2. 排水材設置工，基礎碎石工（発泡スチロール設置基面部），敷砂工，裏込碎石工及びコンクリート床版工は，必要に応じて計上する。

〔参考図 3 (橋台裏込)〕



〔参考図 4 (盛土)〕



3. 施工パッケージ

3-1 発泡スチロール設置

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 発泡スチロール設置 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

雑工種
排水材+基礎碎石+敷砂
排水材+基礎碎石
排水材+敷砂
基礎碎石+敷砂
排水材
基礎碎石
敷砂
無し

(注) 1. 上表は、発泡スチロールを用いた盛土作業で、発泡スチロールブロックの設置、緊結金具の設置、発泡スチロールブロックの加工、排水材(不織布)の設置、発泡スチロール設置基面部の基礎材(基礎碎石・敷砂)の敷設及び転圧の他、発泡スチロールブロックの加工に用いる電気切断機、電力に関する経費及び発泡スチロールブロックの人力小運搬(運搬距離 60m 程度)の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、発泡スチロール(材料費)及び緊結金具(材料費)は含まない。

2. 発泡スチロールブロック及び緊結金具の材料費は別途計上する。

3. 排水材については、厚さ 10mm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途計上する。

4. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途計上する。なお、基礎碎石工の対象箇所は発泡スチロールブロック設置基面部であり、基礎コンクリート打設基面における基礎碎石工については、別途基礎コンクリート工にて計上する。

5. 敷砂の敷均し厚は、10cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途計上する。

6. 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用出来る。

7. 発泡スチロールブロックの固定のために L 型ピンの設置が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 発泡スチロール設置 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K1	—
	K2	—
	K3	—
労務	R1	普通作業員
	R2	土木一般世話役
	R3	—
	R4	—
材料	Z1	—
	Z2	—
	Z3	—
	Z4	—
市場単価	S	—

3-2 発泡スチロール（材料費）

(1) 条件区分

発泡スチロール（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

（注）発泡スチロールのロス率は、次表を標準とする。

表3.3 ロス率

材 料	ロ ス 率
発 泡 ス チ ロ ー ル	+0.03

3-3 緊結金具（材料費）

(1) 条件区分

緊結金具（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、個とする。

（注）緊結金具の発泡スチロール1m³当りの使用数量は、ロスを含み次表を標準とする。

表3.4 緊結金具（個／発泡スチロール1m³）

材 料	数 量
緊 結 金 具	2.3

3-4 コンクリート床版

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 コンクリート床版 積算条件区分一覧

（積算単位：m³）

生コンクリート 規格	養生工	圧送管延長距離区分	床版厚さ区分	溶接金網規格
(表 3.6)	一般養生	延長無し	10cm	(表 3.7)
			15cm	
		50m 未満	10cm	
			15cm	
		50m 以上 100m 未満	10cm	
			15cm	
		100m 以上 150m 以下	10cm	
			15cm	
	特殊養生(練炭・ ジェットヒータ)	延長無し	10cm	
			15cm	
		50m 未満	10cm	
			15cm	
		50m 以上 100m 未満	10cm	
			15cm	
		100m 以上 150m 以下	10cm	
			15cm	

- (注) 1. 上表は、発泡スチロールを用いた軽量盛土のコンクリート床版のコンクリート打設、圧送管の組立・撤去、コンクリート打設におけるホースの筒先作業等を行う機械付補助労務、型枠製作設置・撤去、型枠はく離剤塗布及びケレン作業、溶接金網設置及びコンクリートの養生、H型鋼支柱とコンクリート床版を結合するアンカーの設置労務の他、スペーサー、目地材、型枠はく離剤、養生シート、養生マット、角材、パイプ、コンクリートパイプレタ損料、散水等に使用する機械の損料、電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、支柱結合アンカー（材料費）は含まない。
2. 支柱結合アンカーの材料費は別途計上する。

3. コンクリート床版にグラウンドアンカー等を結合する場合は、別途考慮する。
4. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を50m未満、50m以上100m未満、100m以上150m以下から該当する区分を選択する。
5. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04)
6. 溶接金網の材料ロスを含む。なお、標準使用量は、床版厚さ10cmの場合101m²/10m³、床版厚さ15cmの場合69m²/10m³とする。

表3.6 生コンクリート規格

積算条件	区分
生コンクリート規格	24-8-25(20) (普通)
	18-8-40 (普通)
	24-8-25(20) (高炉)
	18-8-40 (高炉)
	24-8-25 (早強)
	各種

表3.7 溶接金網規格

積算条件	区分
溶接金網規格	G3551 線径 6.0×網目 150×150mm
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 コンクリート床版 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	型わく工	
	R4	鉄筋工	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W/C 55%	
	Z2	丸鉄線溶接金網 G3551 線径 6.0×網目 150×150mm	
	Z3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-5 支柱結合アンカー (材料費)

(1) 条件区分

支柱結合アンカー (材料費) における積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

(注) 使用数量は、コンクリート床版 m³ 当りの必要数量を計上する。

3-6 コンクリート工

基礎コンクリート部におけるコンクリート工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

3-7 型枠工

基礎コンクリート部における型枠工については、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②-1型枠工」により別途計上する。

3-8 鉄筋工

基礎コンクリート部における鉄筋工については、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。

3-9 基礎砕石工

基礎コンクリート部における基礎砕石工については、「第Ⅱ編第2章共通工②基礎・裏込砕石工, 基礎・裏込栗石工」により別途計上する。

3-10 支柱設置

(1) 条件区分

支柱設置における積算条件区分はない。

積算単位は、本とする。

- (注) 1. ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下, 長さ9m以下)を基礎コンクリートにアンカーボルトで固定する作業の他, アンカーボルトにかかわる労務・材料費等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし, 支柱(材料費)は含まない。
2. 支柱の材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 支柱設置 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-11 支柱(材料費)

(1) 条件区分

支柱(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は, 本とする。

3-12 壁面材設置

(1) 条件区分

壁面材設置に条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. 壁面材(壁面材 1 枚当りの規格が、長さ 2.5m 以下、幅 0.6m 以下、重量 170kg 以下)の設置作業、壁面材の金具による固定作業及び壁面材頂部に取付ける天端目隠しプレートの取付作業の他、支柱と壁面材との緩衝材、壁面材の継目材、天端目隠しプレート、天端目隠しプレート用ボルト・ナットの材料費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、壁面材(材料費)は含まない。
2. 壁面材の材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3.10 壁面材設置 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-13 壁面材(材料費)

(1) 条件区分

壁面材(材料費)に条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 壁面材(材料費)は壁面材の他、壁面固定金具を含む。

3-14 裏込碎石（軽量盛土）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.11 裏込碎石（軽量盛土）積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

盛土高	付帯工の割合	碎石の種類
6m 以下	-	(表 3.12)
6m 超え (付帯工有り)	0.1 以下	
	0.1 を超え 0.2 以下	
	0.2 を超え 0.3 以下	
	0.3 を超え 0.4 以下	
	0.4 を超え 0.5 以下	
	0.5 を超え 0.6 以下	
	0.6 を超え 0.7 以下	
	0.7 を超え 0.8 以下	
	0.8 を超え 0.9 以下	
	0.9 を超え 1.0 以下	

(注) 1. 上表は、発泡スチロールを用いた軽量盛土の裏込碎石の施工の他、コンクリートバケットの費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 付帯工の割合は次式にて算出し、表 3. 11 より選択する。

$$\text{付帯工の割合} = \frac{\text{裏込碎石工の盛土高 6 m を超える部分の設計数量 (m}^3\text{)}}{\text{裏込碎石工全体の設計数量 (m}^3\text{)}}$$

設計量(m³): ロスを含まない数量

3. 碎石の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.20)

表3.12 碎石の種類

積算条件	区分	
碎石の種類	再生クラッシャラン	RC-80
	再生クラッシャラン	RC-40
	クラッシャラン	C-80
	クラッシャラン	C-40
	各種	

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 裏込碎石(軽量盛土) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕25t 吊	・賃料 ・盛土高が 6m 以下を除く
	K2	バックホウ(クローラ型) 〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	賃料
	K3		
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	運転手(特殊)	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	再生クラッシャーラン RC-40	
	Z2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z3		
	Z4		
市場単価	S		

4. 施工単価入力基準表

(1) 発泡スチロール設置

パッケージコード	CB225110	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	雑 工 種 (表4.1)		

(注) 施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

表4.1 雑工種

雑 工 種			入力番号
排 水 材	基 礎 砕 石	敷 砂	
○	○	○	①
○	○		②
○		○	③
	○	○	④
○			⑤
	○		⑥
		○	⑦
			⑧

(2) 発泡スチロール (材料費)

パッケージコード	CB225111	施工単位	m3

(注) 発泡スチロールの数量は、材料ロスを含んだ必要量を入力すること。また、発泡スチロール単価 (Y-0564001) [円/m3] を単価登録すること。

(3) 緊結金具 (材料費)

パッケージコード	CB225112	施工単位	個

(注) 緊結金具の数量は、材料ロスを含んだ必要量 (発泡スチロール m3 当りの標準使用量 (2.3 個/m3)) を入力すること。また、緊結金具単価 (Y-0582000) [円/個] を単価登録すること。

(4) コンクリート床版

パッケージコード	CB225120	施工単位	m3		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	生コンクリート規格	養 生 工	圧送管延長距離区分	床版厚さ区分	溶 接 金 網 規格
	(表4.2)	(表4.3)	①延長無し ②50m未満 ③50m以上100m未満 ④100m以上150m以下	①10cm ②15cm	(表4.4)

- (注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない数量を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて計上すること。
2. J 1 条件で⑥を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。
3. 生コンクリートの夜間割増しが必要な場合は J 1 条件で⑥を選択し、生コンクリートの夜間材料単価 (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
4. J 2 条件により各養生費が計上される。
5. 表 3. 6 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は J 3 条件で①を選択する。
6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 3 条件の②, ③, 及び④から選択する。
7. J 5 条件で②を選択した場合は、溶接金網単価 (Y-0140000) [円/m2] を単価登録すること。

表 4. 2 生コンクリート規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号	規 格	入力番号
24-8-25(20) (普通)	①	24-8-25(20) (高炉)	③	24-8-25 (早強)	⑤
18-8-40 (普通)	②	18-8-40 (高炉)	④	Y-0210000 (各種)	⑥

表 4. 3 養生工

種 別	入力番号
一般養生	①
特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	②

表 4. 4 溶接金網規格

規 格	入力番号
G3551 線径6.0×網目150×150mm	①
Y-0140000(各種)	②

(5) 支柱結合アンカー (材料費)

パッケージコード	CB225121	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		
	支柱結合アンカー m3当り使用量 (本/m3) (実数入力)		

- (注) 1. J 1 条件の使用量は、必要量を入力すること。
2. 支柱結合アンカー単価 (Y-0583000) [円/本] を単価登録すること。

(6) 支柱設置

パッケージコード	CB225140	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		
	ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料 補 正 係 数		
	①標 準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)及び低騒音型機種についても適用出来る。

(7) 支柱(材料費)

パッケージコード	CB225141	施工単位	本

- (注) 支柱単価(Y-2062000) [円/本] を単価登録すること。

(8) 壁面材設置

パッケージコード	CB225150	施工単位	m2
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		
	ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料 補 正 係 数		
	①標 準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 施工量は、天端目隠しプレートを含まない壁面材実面積を入力すること。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)及び低騒音型機種についても適用出来る。

(9) 壁面材(材料費)

パッケージコード	CB225151	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	壁 面 材 m2当り使用量	壁 面 固 定 金 具 m2当り使用量	
	(枚/m2) (実数入力)	(個/m2) (実数入力)	

- (注) 1. 施工量は、天端目隠しプレートを含まない壁面材実面積を入力すること。
 2. J 1・J 2条件の使用量は、必要量を入力すること。
 3. 壁面材単価(Y-0581000) [円/枚]、壁面固定金具単価(Y-0580000) [円/個] を単価登録すること。

(10) 裏込碎石（軽量盛土）

パッケージコード	CB225160	施工単位	m3	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	盛 土 高	付 帯 工 の 割 合	砕 石 の 種 類	ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 賃 料 補 正 係 数
	①6m以下 ②6m超え (付帯工有り)	(表4.5)	(表4.6)	①標 準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、碎石の材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件及び J 4 条件は選択する必要はない。
 3. J 1 条件で②を選択した場合は、裏込碎石付帯工費が追加計上される。
 4. J 2 条件「付帯工の割合」は下式にて算出し、表 4.5 より選択する。

$$\text{付帯工の割合} = \frac{\text{裏込碎石工の盛土高 6 m を超える部分の設計数量(m3)}}{\text{裏込碎石工全体の設計数量}}$$

設計量(m3)：ロスを含まない数量

5. J 3 条件で⑤を選択した場合は、碎石単価 (Y-0241000) [円/ m³] を単価登録すること。
 6. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間作業）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 7. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第 1 次基準値）及び低騒音型機種についても適用出来る。
 8. 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第 1 次基準値）についても適用出来る。

表 4. 5 付帯工の割合

区 分	入力番号
0.1 以下	①
0.1 を超え 0.2 以下	②
0.2 を超え 0.3 以下	③
0.3 を超え 0.4 以下	④
0.4 を超え 0.5 以下	⑤
0.5 を超え 0.6 以下	⑥
0.6 を超え 0.7 以下	⑦
0.7 を超え 0.8 以下	⑧
0.8 を超え 0.9 以下	⑨
0.9 を超え 1.0 以下	⑩

表 4. 6 碎石の種類

種 別	入力番号
再生クラッシャラン RC-80	①
〃 RC-40	②
クラッシャラン C-80	③
〃 C-40	④
Y-0241000(各種)	⑤

②② 現場取卸費

1. 適用範囲

本資料は、鋼桁等（鋼桁、門扉）、PC桁及び鋼管杭の現場取卸に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 現場取卸(鋼桁)

(1) クレーン規格が200t吊以下の場合

1-1-2 現場取卸(PC桁)

(1) クレーン規格が200t吊以下の場合

1-1-3 現場取卸(鋼管杭)

(1) クレーン規格が20t吊の場合

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 現場取卸(PC桁)

(1) 直接架設する場合は原則として現場取卸費は計上しない。

ただし、PC桁を仮置きする必要がある場合は必要に応じて現場取卸(PC桁)を計上する。

2. 施工パッケージ

2-1 現場取卸(鋼桁)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 現場取卸(鋼桁) 積算条件区分一覧

(積算単位：t)

クレーン規格
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50t吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 100t吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 120t吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 160t吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 200t吊

- (注) 1. 上表は、鋼桁の現場取卸等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 規格は最大部材質量等により決定する。
3. 直接工事費に計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.2 現場取卸(鋼桁) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]100t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]120t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]160t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]200t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	とび工	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-2 現場取卸(PC桁)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.3 現場取卸(PC桁) 積算条件区分一覧

(積算単位：本)

クレーン規格	
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	16t 吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	20t 吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	25t 吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	35t 吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	45t 吊
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]	50t 吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]	100t 吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]	120t 吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]	160t 吊
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]	200t 吊

- (注) 1.上表は、PC桁の現場取卸等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
 2.規格は最大部材質量等により決定する。
 3.直接工事費に計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.4 現場取卸(PC桁) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]100t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]120t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]160t 吊	賃料
		トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型]200t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	とび工	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-3 現場取卸(鋼管杭)

(1) 条件区分

現場取卸(鋼管杭)の積算条件区分はない。

積算単位は、t とする。

(注) 鋼管杭の現場取卸等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.5 現場取卸(鋼管杭) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]20t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3. 施工単価入力基準表

(1) 現場取卸(鋼桁)

パッケージコード	CB225210	施 工 単 位	t
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	クレーン規格 (表3.1)	ラフテレーンクレーン 又はトラッククレーン 賃料補正 ①標準 ②標準以外(実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーン又はトラッククレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
 3. 工場での積込費は計上しないこと。

表3.1クレーン規格

規格	番号	規格	番号
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 16t吊	①	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 50t吊	⑥
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t吊	②	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 100t吊	⑦
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t吊	③	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 120t吊	⑧
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t吊	④	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 160t吊	⑨
ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t吊	⑤	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 200t吊	⑩

(2) 現場取卸(PC桁)

パッケージコード	CB225220	施 工 単 位	本
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	クレーン規格 (表3.1)	ラフテレーンクレーン 又はトラッククレーン 賃料補正 ①標準 ②標準以外(実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーン又はトラッククレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
 3. 工場での積込費は計上しないこと。

(3) 現場取卸 (鋼管杭)

パッケージコード	CB225230	施工単位	t
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	ラフテレーンクレーンの 賃料補正		
	①標準 ②標準以外(実数入力)		

(注) 1. ラフテレーンクレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。

2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

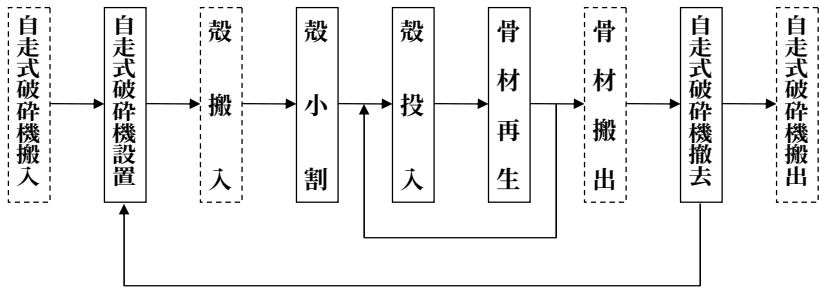
②③ 骨材再生工（自走式）

1. 適用範囲

本資料は、自走式破碎機によるコンクリート殻（鉄筋有無）の破碎作業で骨材粒度0～40mmの骨材再生工（自走式）に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
2. 殻小割が必要な場合は別途計上とする。
3. 殻搬入・骨材搬出は現場条件で異なるため別途計上とする。
4. 現場で発生した鉄屑の積込み・運搬は別途計上とする。
5. 現場内で移動する場合は、自走式破碎機設置・撤去工を計上する。
6. 骨材の品質確認が必要な場合は、試験費を別途計上する。

図2-1 施工フロー

3. 自走式破碎機設置・撤去工

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量
自走式破碎機設置・撤去	自走式破碎機	ジョークラッシャ 機械質量30t級 供給口開き×幅 450×925mm	台	1
	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	〃	1

- (注) 1. トラッククレーンは、賃料とする。
2. 現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。

3-2 施工歩掛

自走式破碎機設置・撤去工における施工歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 施工歩掛 (1台1回当たり)

名称	単位	設置	撤去
土木一般世話役	人	0.29	0.29
特殊作業員	〃	0.29	0.29
自走式破碎機運転	日	0.29	0.29
トラッククレーン運転	〃	0.17	0.17

3-3 諸雑費

諸雑費は、自走式破碎機付属機（磁力式選別機，振動ふるい機，ベルトコンベヤ）等の費用であり，労務費，機械賃料，機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	8

4. 骨 材 再 生 工

骨材再生工は、殻小割、殻投入、骨材再生までの作業とする。

4-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.1 機種を選定

作 業 種 別	機 械 名	規 格	単 位	数 量
殻 小 割	大型ブレーカ	大型ブレーカ（ベースマシン含まず） 〔油圧式〕質量600～800kg級 バックホウ（クローラ型） 〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積0.6m ³ （平積0.5m ³ ）	台	1
殻 投 入	バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.0m ³ （平積0.7m ³ ）	〃	1
骨 材 再 生	自走式破碎機	ジョークラッシュャ 機械質量30t級 供給口開き×幅 450×925mm	〃	1

（注）1. 殻小割工は、投入殻寸法が600mmを超える場合に計上する。ただし、市場単価の構造物とりこわし工を計上している場合、殻小割工は計上しない。

2. 現場状況により上表により難しい場合は、別途考慮する。

殻 小 割：大型ブレーカによりコンクリート殻を破碎する作業

殻 投 入：自走式破碎機のホッパに破碎殻を投入する作業

骨材再生：バックホウにより投入された破碎殻を自走式破碎機により粒度0～40mmに破碎し、磁力式選別機で鉄屑を除去し、振動ふるい機、ベルトコンベヤで粒度40mm以上の破碎殻を振り分けし、再投入する。

4-2 編成人員

骨材再生作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.2 日当り編成人員 (人)

土 木 一 般 世 話 役	特 殊 作 業 員
1	1

4-3 日当り施工量

骨材再生工における日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.3 日当り施工量 (m³/日)

骨 材 再 生 工	86

（注）1. 上表は、破碎前の殻処理量で鉄筋有無にかかわらず同一とする。

2. 変化率は、次のとおりとする。

$$\frac{\text{破碎後の骨材体積}}{\text{破碎前の殻体積}} = 1.0$$

4-4 諸雑費

諸雑費は、自走式破碎機付属機（磁力式選別機、振動ふるい機、ベルトコンベヤ）等の費用であり、労務費、賃料、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	6

5. 単 価 表

(1) 自走式破砕機設置(撤去) 1台1回当り単価表

		施工歩掛コード		WB225300
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表3.2
特 殊 作 業 員		〃		〃
自走式破砕機運転	ジョークラッシャ 機械質量30t級 供給口開×幅 450×925mm	日		表3.2 機械損料
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	〃		表3.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表3.3
計				

(2) 骨材再生工100m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB225310
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人	1×100/D	表4.2, 表4.3
特 殊 作 業 員		〃	1×100/D	〃
大型ブレーカ運転	大型ブレーカ(ベースマシン含まず) 〔油圧式〕質量600～800kg級 バックホウ(クローラ型) 〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積0.6m ³ (平積0.5m ³)	日	100/D	表4.3 必要に応じて計上 機械損料
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.0m ³ (平積0.7m ³)	〃	100/D	表4.3 機械損料
自走式破砕機運転	ジョークラッシャ 機械質量30t級 供給口開×幅 450×925mm	〃	100/D	表4.3 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.4
計				

(注) D: 日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大 型 ブ レ ー カ	バックホウ(クローラ型) 〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積0.6m ³ (平積0.5m ³)	機-20	機械損料1→バックホウ 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 72 機械損料数量→ 1.15
	大型ブレーカ(ベースマシン含まず) 〔油圧式〕質量600～800kg級		機械損料2→大型ブレーカ 機械損料数量→ 1.15
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.0m ³ (平積0.7m ³)	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 110 機械損料数量→ 1.12
自 走 式 破 砕 機	ジョークラッシャ 機械質量30t級 供給口開×幅 450×925mm	機-24	燃料消費量→ 169 機械損料数量→ 1.69

(注) 自走式破砕機の運転歩掛は施工歩掛に含まれている。

6. 施工単価入力基準表

(1) 自走式破碎機設置・撤去工

施工歩掛コード	WB225300	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作 業 区 分	トラッククレーン	
	①設置・撤去 ②設置 ③撤去	賃 料 補 正 係 数 ①標準 ②標準以外(実数入力)	

(注) トラッククレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

(2) 骨材再生工

施工歩掛コード	WB225310	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	投 入 殻 寸 法	バックホウ規格	
	①600mm以下 ②600mm超	①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

(注) 1. 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

2. 施工量(m³)は、破碎前の殻処理量である。

3. 市場単価の構造物とりこわしを計上した場合は、J 1条件は①600mm以下を選択すること。

4. 殻搬入・骨材搬出費用は、必要により別途計上する。

②④ 函 渠 工

②④ー1 函渠工 (1)

1. 適 用 範 囲

本資料は、函渠工（現場打カルバート工）の施工に適用する。

1－1 適用出来る範囲

1－1－1 函渠工(以下のいずれかの条件に該当する場合)

- (1) 土被り範囲 9m 以下で 1 層の現場打ちボックスカルバート（アーチ・門型等形状は問わない）
- (2) 土被り範囲 9m 以下で 1 層 2 連の現場打ちボックスカルバート
- (3) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 340m 以下の場合

1－2 適用出来ない範囲

- (1) 河川工事で施工する樋門・樋管，水路等
- (2) アーチ型の場合で，支保にセントルを使用する場合

また，本項の適用を外れる現場打カルバート工については，函渠工（2）を適用する。

2. 施 工 概 要

2－1 施工フロー

施工フローは，下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは，二重実線部分のみである。
2. 基礎材敷均し・転圧，均し型枠製作設置・撤去・均しコンクリート打設・養生，目地材設置，止水板設置は，必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 函渠

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 函渠 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

コンクリート 規格	内空寸法 (幅×高さ)m	養生工の 種類	基礎碎石 の有無	均しコンクリート の有無	目地・止水板 の有無	圧送管延長距離区分
(表3. 2)	(表3. 3)	一般養生・ 特殊養生 (練炭・ ジェット)	有り	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
					無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
			無し	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				無し	無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
					無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
			無し	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				無し	無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下

(表3. 2)	(表3. 3)	特別な養生 (仮囲い内 ジェットヒータ)	有り	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				無し	無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
			無し	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				無し	無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
			無し	有り	有り	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下
				無し	無し	延長無し
						110m 未満
						110m 以上 220m 未満
						220m 以上 340m 以下

- (注) 1. 上表は、現場打函渠(ボックスカルバートの1層2連まで、土被りが9m以下)のコンクリート打設、基礎砕石、手摺先行型枠組足場、支保、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、養生(一般養生、特殊養生(練炭)、特殊養生(ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、目地材、止水板等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠、冬期の施工での雪寒仮囲い等の特別な足場は含まない。
2. 設計数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。
3. 基礎形式は、直接基礎・杭基礎のいずれも適用出来る。
4. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.02)
5. 「特別な養生(仮囲い内ジェットヒータ)」の場合には「手摺先行型枠組足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章 仮設工⑤ー2 雪寒仮囲い工」により別途計上する。
6. 基礎砕石の敷均し厚は、20 cm 以下を標準としており、これにより難しい場合は別途考慮する。
7. 化粧型枠を使用する場合は、加算費用を、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②ー1 型枠工3ー2 化粧型枠」により別途計上する。
8. 基礎砕石、均しコンクリート、目地・止水板の材料は、種類・規格にかかわらず適用出来る。ただし、目地・止水板についてはⅠ型を標準としており、Ⅰ型以外の形状の目地・止水板を使用する場合は、別途計上する。
9. 可とう継手、取替式止水板及びグラウト管等を施工する場合は、別途計上する。
10. 防水工・防水層保護工を施工する場合は、「第Ⅳ編第4章共同溝工①ー2 共同溝工(2)」により別途計上する。
11. 手摺先行型枠組足場には、二段手摺及び幅木の機能を有している。

12. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は,超えた部分の延長距離を 110m 未満,110m 以上 220m 未満,220m 以上 340m 以下から該当する区分を選択する。

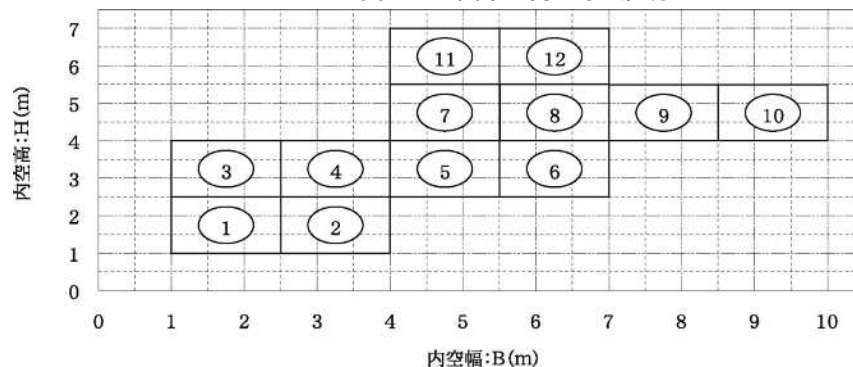
表3.2 コンクリート規格

積算条件	区分
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	各種

表3.3 内空寸法

積算条件	区分	
内空寸法 (幅×高さ)	①	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満
	②	幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満
	③	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下
	④	幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下
	⑤	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満
	⑥	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満
	⑦	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満
	⑧	幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満
	⑨	幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下
	⑩	幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下
	⑪	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下
	⑫	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下

図3-1 函渠工内空寸法区分



1層2連の場合の考え方は、下表のとおりである。

表3.4 1層2連の場合

	適用する積算条件区分
同一断面の場合	1連分のB, Hで決定
異形断面の場合	大きい断面のB, Hで決定

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 函渠 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	コンクリートポンプ車 [トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110m ³ /h	
	K 2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・仮囲い内ジェットヒータの場合 ・賃料
	K 3	発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータの場合
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	とび工	
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24-8-25(20) W/C 55%	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	仮囲い内ジェットヒータの場合
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①鉄筋工」により別途計上する。

4. 施工単価入力基準表

(1) 函渠

パッケージコード	CB225410	施工単位	m3			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	コンクリート 規格	内空寸法 (幅×高さ) (m)	養生工の種類	基礎碎石の 有無	均しコンクリ ートの有無	目地・止水板の 有無
	(表5.1)	(表5.2)	(表5.3)	①有り ②無し	①有り ②無し	①有り ②無し

J 7
圧送管延長距離区分
①延長無し
②110m 未満
③110m 以上 220m 未満
④220m 以上 340m 以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの設計量（ロス率を含まない）を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円／m3] を単価登録すること。
3. J 3 条件で②を選択した場合は、足場費を「第Ⅱ編第5章仮設工⑮－2雪寒假囲い工」により別途計上する。
4. 生コンクリートの夜間割増が必要な場合は、J1 条件で①各種を選択し、生コンクリート(Y-0210000) [円／m3] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
5. 化粧型枠を使用する場合は、化粧型枠(CB226360)及び化粧型枠(材料費)(CB226361)により別途計上する。
6. 表 3.5 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は、J 7 条件で①を選択し、超える場合はJ 7 条件の②、③及び④から選択する。なお、圧送管延長は、標準日打設量に基づく、日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。

表5.1 コンクリート規格

積算条件	区分	入力番号
コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)	①
	24-8-25(20)(普通)	②
	21-8-40(普通)	③
	24-8-40(普通)	④
	21-8-25(20)(高炉)	⑤
	24-8-25(20)(高炉)	⑥
	21-8-40(高炉)	⑦
	24-8-40(高炉)	⑧
	21-8-25(早強)	⑨
	24-8-25(早強)	⑩
	各種	⑪

表5.2 内空寸法

積算条件	区分	入力番号
内空寸法 (幅×高さ)m	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	①
	幅：2.5 以上 4.0 以下かつ高さ：1.0 以上 2.5 未満	②
	幅：1.0 以上 2.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	③
	幅：2.5 以上 4.0 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 以下	④
	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	⑤
	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：2.5 以上 4.0 未満	⑥
	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	⑦
	幅：5.5 以上 7.0 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 未満	⑧
	幅：7.0 以上 8.5 未満かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	⑨
	幅：8.5 以上 10.0 以下かつ高さ：4.0 以上 5.5 以下	⑩
	幅：4.0 以上 5.5 未満かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	⑪
	幅：5.5 以上 7.0 以下かつ高さ：5.5 以上 7.0 以下	⑫

表5.3 養生工の種類

積算条件	区分	入力番号
養生工の種類	一般養生・特殊養生(練炭, ジェット)	①
	特別な養生(仮囲い内ジェットヒータ)	②

②4-2 函渠工 (2)

1. 適用範囲

本資料は、第Ⅱ編第2章共通工 ②4-1 函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工コンクリート打設に適用する。

表1.1 函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工

河川工事で施工する函渠	道路工事で施工する函渠
・樋門・樋管(函渠(門柱等含む), 翼壁, 水叩), ボックス形式の水路等	・ボックスカルバート以外の函渠 ・1層又は1層2連以外の函渠 ・土被りが9mを超える函渠 ・「②4-1函渠工(1), 図3-1函渠工内空寸法区分」の適用範囲を外れる函渠

1-1 適用出来る範囲

- (1) コンクリート打設機械からの圧送管延長距離が 340m 以下の場合
- (2) 圧送コンクリートのスランプ値が 8～12cm, 粗骨材の最大寸法が 40mm 以下の場合

2. 施工パッケージ

2-1 コンクリート(場所打函渠)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 コンクリート(場所打函渠) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分
(表2.2)	一般養生	延長無し
		110m未満
		110m以上 220m未満
		220m以上 340m以下
	特殊養生(練炭・ジェットヒータ)	延長無し
		110m未満
		110m以上 220m未満
		220m以上 340m以下
	仮囲い内ジェットヒータ養生	延長無し
		110m未満
		110m以上 220m未満
		220m以上 340m以下

- (注) 1. 上表は、場所打函渠のコンクリート打設、ホースの筒先作業等を行う機械付補助労務、養生、圧送管組立・撤去の他、コンクリートパイプレータ損料及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 設計数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。
3. コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.02)
4. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を110m未満、110m以上220m未満、220m以上340m以下から該当する区分を選択する。

表2.2 生コンクリート規格

積算条件	区分
生コンクリート規格	21-8-25(20)(普通)
	24-8-25(20)(普通)
	21-8-40(普通)
	24-8-40(普通)
	21-8-25(20)(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)
	21-8-40(高炉)
	24-8-40(高炉)
	21-8-25(早強)
	24-8-25(早強)
	各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.3 コンクリート(場所打函渠) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	コンクリートポンプ車〔トラック架装・ブーム式〕圧送能力 90～110m ³ /h	
	K2	ジェットヒータ 126MJ/h (30,100kcal/h)	・賃料 ・一般養生を除く
	K3	発動発電機〔ディーゼルエンジン駆動〕 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA	仮囲い内ジェットヒータ養生の場合
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W/C 55%	
	Z2	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	一般養生を除く
	Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

2-2 型枠工

型枠工は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工②型枠工」により別途計上する。

2-3 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章市場単価①鉄筋工」により別途計上する。

2-4 足場工

足場工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑨-1足場工」により別途計上する。

2-5 支保工

支保工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑨-2支保工」により別途計上する。

2-6 その他

上記以外で必要なものについては、該当する各工種により別途計上する。

3. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート (場所打函渠)

パッケージコード	CB225510	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分
	(表 3.1)	①一般養生 ②特殊養生(練炭・ジェットヒータ) ③仮囲い内ジェットヒータ養生	①延長無し ②110m 未満 ③110m 以上 220m 未満 ④220m 以上 340m 以下

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの設計数量(ロス率を含まない)を入力すること。また、圧送管を計上する場合と、計上しない場合に分けて入力すること。
2. J 1 条件で⑩を選択した場合は、生コンクリート(Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
3. 生コンクリートの夜間割増が必要な場合はJ 1 条件で⑩各種を選択し、生コンクリートの夜間材料単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
4. J 2 条件により各養生費が計上される。
5. 表 2. 3 で想定するコンクリート打設機械の作業範囲(30m)を超えない場合は J 3 条件で①を選択する。
6. 作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合は、超えた部分の延長距離を J 3 条件の②、③及び④から選択する。
7. 本コードは仮囲い内ジェットヒータ養生における発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

表3.1 生コンクリート規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号	規 格	入力番号
21-8-25(20)(普通)	①	21-8-25(20)(高炉)	⑤	21-8-25(早強)	⑨
24-8-25(20)(普通)	②	24-8-25(20)(高炉)	⑥	24-8-25(早強)	⑩
21-8-40(普通)	③	21-8-40(高炉)	⑦	Y-0210000(各種)	⑪
24-8-40(普通)	④	24-8-40(高炉)	⑧		

(注) Y-0210000 はコンクリートの m3 当り単価を登録すること。

②⑤ 殻 運 搬

1. 適 用 範 囲

本資料は、構造物撤去工における殻運搬に適用する。

1－1 適用出来る範囲

- (1) 既設コンクリート構造物のとりこわしにより発生した殻（鉄筋・無筋）の運搬の場合
- (2) コンクリート舗装版、アスファルト舗装版、コンクリート＋アスファルト（カバー）舗装版の破碎作業により発生した殻の運搬の場合
- (3) バックホウを用いて行う平均施工幅1m未満の舗装版破碎（舗装厚5cm以内）により発生した殻の運搬の場合
- (4) モルタルの吹付法面のとりこわし作業により発生した殻の運搬の場合

1－2 適用出来ない範囲

- (1) 路面切削作業で発生したアスファルト殻の運搬
- (2) 電線共同溝におけるアスファルト舗装版の破碎作業により発生した殻の運搬
- (3) 自動車専用道路を利用する場合
- (4) 運搬距離が60kmを超える場合

2. 施 工 パッケージ

2－1 殻運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表2.1 殻運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

殻発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし	機械積込	無し	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			3.0km 以下
			4.0km 以下
			5.5km 以下
			6.5km 以下
			7.5km 以下
			9.5km 以下
			11.5km 以下
			15.5km 以下
			22.5km 以下
			49.5km 以下
			60.0km 以下

穀発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
コンクリート (無筋・鉄筋) 構造物とりこわし	機械積込	有り	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			3.0km 以下
			3.5km 以下
			5.0km 以下
			6.0km 以下
			7.0km 以下
			8.5km 以下
			11.0km 以下
			14.0km 以下
			19.5km 以下
			31.5km 以下
			60.0km 以下
	人力積込	無し	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			2.5km 以下
			3.0km 以下
			4.0km 以下
			5.0km 以下
			6.5km 以下
			8.5km 以下
			11.0km 以下
			16.0km 以下
			27.5km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			2.5km 以下
			3.5km 以下
			4.5km 以下
			6.0km 以下
			8.0km 以下
			10.5km 以下
			14.5km 以下
			23.0km 以下
			60.0km 以下

般発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
舗装版破碎	人力積込	無し	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			2.5km 以下
			3.0km 以下
			4.0km 以下
			5.0km 以下
			6.5km 以下
			8.5km 以下
			11.0km 以下
			16.0km 以下
			27.5km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.3km 以下
			0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			2.5km 以下
			3.5km 以下
			4.5km 以下
			6.0km 以下
			8.0km 以下
			10.5km 以下
			14.5km 以下
			23.0km 以下
			60.0km 以下

殻発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
舗装版破碎	機械積込 (騒音対策不要,舗装版厚 15cm 超) 又は (騒音対策必要)	無し	0.5km 以下
			1.0km 以下
			2.0km 以下
			2.5km 以下
			3.5km 以下
			4.5km 以下
			6.0km 以下
			7.5km 以下
			10.0km 以下
			13.5km 以下
			19.5km 以下
			39.0km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.0km 以下
			3.0km 以下
			4.0km 以下
			5.5km 以下
			7.0km 以下
			9.0km 以下
			12.0km 以下
			17.5km 以下
			28.5km 以下
			60.0km 以下
	機械積込 (騒音対策不要,舗装版厚 15cm 以下)	無し	0.3km 以下
			1.5km 以下
			3.5km 以下
			6.5km 以下
			11.5km 以下
			22.0km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.3km 以下
			1.5km 以下
			3.5km 以下
			6.0km 以下
			10.5km 以下
			19.5km 以下
			60.0km 以下

殻発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
舗装版破碎	機械積込 (小規模土工)	無し	0.3km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.5km 以下
			3.0km 以下
			3.5km 以下
			4.5km 以下
			5.5km 以下
			7.0km 以下
			9.0km 以下
			12.0km 以下
			17.0km 以下
			28.5km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.3km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.5km 以下
			3.0km 以下
			3.5km 以下
			4.5km 以下
			5.0km 以下
			6.5km 以下
			8.0km 以下
			11.0km 以下
			15.0km 以下
			24.0km 以下
			60.0km 以下

殻発生作業	積込工法区分	DID 区間の有無	運搬距離
吹付法面取壊し (モルタル)	機械積込	無し	0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.5km 以下
			3.5km 以下
			5.5km 以下
			7.5km 以下
			9.5km 以下
			12.0km 以下
			16.5km 以下
			25.5km 以下
			60.0km 以下
		有り	0.5km 以下
			1.0km 以下
			1.5km 以下
			2.5km 以下
			3.5km 以下
			5.5km 以下
			7.0km 以下
			8.5km 以下
			11.0km 以下
			15.0km 以下
			22.0km 以下
			42.0km 以下
			60.0km 以下

- (注) 1. 上表は、既設構造物等のとりこわし、舗装版の破碎によって発生するコンクリート殻又はアスファルト殻の運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。なお、積込作業は含まない。
2. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む。
3. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
4. 有料道路を利用する場合には、別途考慮する。
5. DID（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
6. 運搬距離が 60 kmを超える場合は、別途考慮する。
7. 設計数量は、構造物をとりこわす前の体積とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.2 般運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	・ 下記以外の場合 ・ タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	・ 積込工法区分が人力積込及び機械積込（小規模土工）の場合 ・ タイヤ損耗費及び補修費（良好）を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手（一般）	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3. 施工単価入力基準表

(1) 殻運搬

パッケージコード	CB227010	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	殻発生作業, 積込工法区分 (表 3.1)	DID 区間の有無 ①無し ②有り	運搬距離 (表 3.2)～(表 3.7)

表 3. 1 殻発生作業, 積込工法区分

殻発生作業	積込工法区分	入力 番号	運搬距離
コンクリート(無筋・鉄筋) 構造物とりこわし	機械積込	①	(表3.2)
	人力積込	②	(表3.3)
舗装版破碎	人力積込	③	(表3.3)
	機械積込(騒音対策不要, 舗装版厚15cm超) 又は(騒音対策必要)	④	(表3.4)
	機械積込(騒音対策不要, 舗装版厚15cm以下)	⑤	(表3.5)
	機械積込(小規模土工)	⑥	(表3.6)
吹付法面取壊し (モルタル)	機械積込	⑦	(表3.7)

表 3. 2 運搬距離

殻発生作業	コンクリート(無筋・鉄筋)構造物とりこわし				
積込工法区分	機械積込				
DID 区間：無し					
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	3.0 以下	4.0 以下	5.5 以下	6.5 以下	7.5 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	9.5 以下	11.5 以下	15.5 以下	22.5 以下	49.5 以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離 (km)	60.0 以下				
入力番号	⑯				
DID 区間：有り					
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	3.0 以下	3.5 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	8.5 以下	11.0 以下	14.0 以下	19.5 以下	31.5 以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離 (km)	60.0 以下				
入力番号	⑯				

(注) 運搬距離は片道であり, 往路と復路が異なるときは, 平均値とする。

表3.3 運搬距離

殻発生作業	コンクリート(無筋・鉄筋)構造物とりこわし,舗装版破碎				
積込工法区分	人力積込				
DID 区間：無し					
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.5 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	11.0 以下	16.0 以下	27.5 以下	60.0 以下	
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	
DID 区間：有り					
運搬距離 (km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	2.5 以下	3.5 以下	4.5 以下	6.0 以下	8.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	10.5 以下	14.5 以下	23.0 以下	60.0 以下	
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。

表3.4 運搬距離

殻発生作業	舗装版破碎				
積込工法区分	機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm超)または(騒音対策必要)				
DID 区間：無し					
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	4.5 以下	6.0 以下	7.5 以下	10.0 以下	13.5 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	19.5 以下	39.0 以下	60.0 以下		
入力番号	⑪	⑫	⑬		
DID 区間：有り					
運搬距離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	4.0 以下	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	17.5 以下	28.5 以下	60.0 以下		
入力番号	⑪	⑫	⑬		

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。

表3.5 運搬距離

殻発生作業	舗装版破碎				
積込工法区分	機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm以下)				
DID 区間：無し					
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.5 以下	3.5 以下	6.5 以下	11.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	22.0 以下	60.0 以下			
入力番号	⑥	⑦			
DID 区間：有り					
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.5 以下	3.5 以下	6.0 以下	10.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	19.5 以下	60.0 以下			
入力番号	⑥	⑦			

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。

表3.6 運搬距離

殻発生作業	舗装版破碎						
積込工法区分	機械積込(小規模土工)						
DID 区間：無し							
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離 (km)	5.5 以下	7.0 以下	9.0 以下	12.0 以下	17.0 以下	28.5 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
DID 区間：有り							
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離 (km)	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	11.0 以下	15.0 以下	24.0 以下	60.0 以下
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とする。

表3.7 運搬距離

殻発生作業	吹付法面取壊し（モルタル）				
積込工法区分	機械積込				
DID 区間：無し					
運搬距離（km）	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離（km）	5.5 以下	7.5 以下	9.5 以下	12.0 以下	16.5 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離（km）	25.5 以下	60.0 以下			
入力番号	⑪	⑫			
DID 区間：有り					
運搬距離（km）	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離（km）	5.5 以下	7.0 以下	8.5 以下	11.0 以下	15.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離（km）	22.0 以下	42.0 以下	60.0 以下		
入力番号	⑪	⑫	⑬		

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

第3章 基礎工

① 鋼管・既製コンクリート杭打工……	Ⅱ-3-①- 1	② 場所打杭工……	Ⅱ-3-②- 1
①-1 パイルハンマ工……	Ⅱ-3-①- 1	②-1 オールケーシング工・	
1 適用範囲……	Ⅱ-3-①- 1	全回転式オールケーシング工…	Ⅱ-3-②- 1
2 施工概要……	Ⅱ-3-①- 1	1 適用範囲……	Ⅱ-3-②- 1
3 機種の選定……	Ⅱ-3-①- 2	2 施工概要……	Ⅱ-3-②- 1
4 編成人員……	Ⅱ-3-①- 3	3 機種の選定……	Ⅱ-3-②- 2
5 施工歩掛……	Ⅱ-3-①- 3	4 編成人員……	Ⅱ-3-②- 2
6 諸雑費……	Ⅱ-3-①- 5	5 施工歩掛……	Ⅱ-3-②- 2
7 単価表……	Ⅱ-3-①- 6	6 単価表……	Ⅱ-3-②- 5
8 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-①- 8	7 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-②- 7
①-2 中掘工……	Ⅱ-3-①-10	②-2 リバースサーキュレーション工・	Ⅱ-3-②-11
1 適用範囲……	Ⅱ-3-①-10	1 適用範囲……	Ⅱ-3-②-11
2 施工概要……	Ⅱ-3-①-10	2 機種の選定……	Ⅱ-3-②-12
3 機種の選定……	Ⅱ-3-①-12	3 編成人員……	Ⅱ-3-②-12
4 日当り編成人員……	Ⅱ-3-①-12	4 施工歩掛……	Ⅱ-3-②-12
5 施工歩掛……	Ⅱ-3-①-12	5 杭1本当りコンクリート使用量…	Ⅱ-3-②-15
6 単価表……	Ⅱ-3-①-15	6 鉄筋工……	Ⅱ-3-②-15
7 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-①-16	7 掘削土及び泥水処理……	Ⅱ-3-②-15
①-3 鋼管ソイルセメント杭工……	Ⅱ-3-①-18	8 諸雑費……	Ⅱ-3-②-16
1 適用範囲……	Ⅱ-3-①-18	9 単価表及び内訳書……	Ⅱ-3-②-16
2 施工概要……	Ⅱ-3-①-18	10 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-②-18
3 機種の選定……	Ⅱ-3-①-21	②-3 アースオーガ工, 硬質地盤用アースオーガ工	
4 日当り編成人員……	Ⅱ-3-①-21	……	Ⅱ-3-②-20
5 施工歩掛……	Ⅱ-3-①-21	1 適用範囲……	Ⅱ-3-②-20
6 材料使用量……	Ⅱ-3-①-24	2 施工概要……	Ⅱ-3-②-20
7 諸雑費……	Ⅱ-3-①-25	3 機種の選定……	Ⅱ-3-②-20
8 単価表……	Ⅱ-3-①-26	4 編成人員……	Ⅱ-3-②-21
9 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-①-27	5 施工歩掛……	Ⅱ-3-②-21
①-4 回転杭工……	Ⅱ-3-①-29	6 材料使用量……	Ⅱ-3-②-23
1 適用範囲……	Ⅱ-3-①-29	7 鉄筋工……	Ⅱ-3-②-23
2 施工概要……	Ⅱ-3-①-30	8 諸雑費……	Ⅱ-3-②-23
3 機種の選定……	Ⅱ-3-①-31	9 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-②-24
4 日当り編成人員……	Ⅱ-3-①-31	10 単価表……	Ⅱ-3-②-25
5 施工歩掛……	Ⅱ-3-①-32		
6 単価表……	Ⅱ-3-①-33		
7 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-①-34		
①-5 杭頭処理工……	Ⅱ-3-①-36		
1 適用範囲……	Ⅱ-3-①-36		
2 施工歩掛……	Ⅱ-3-①-36		
3 単価表……	Ⅱ-3-①-36		
4 施工単価入力基準表……	Ⅱ-3-①-37		

②-4 大口径ボーリングマシン工……………	Ⅱ-3-②-28	⑤ 基礎工(鋼管矢板基礎工)……………	Ⅱ-3-⑤- 1
1 適用範囲……………	Ⅱ-3-②-28	⑤-1 打撃工法……………	Ⅱ-3-⑤- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-3-②-28	1 適用範囲……………	Ⅱ-3-⑤- 1
3 機種の選定……………	Ⅱ-3-②-29	2 施工概要……………	Ⅱ-3-⑤- 1
4 編成人員……………	Ⅱ-3-②-29	3 機種の選定……………	Ⅱ-3-⑤- 2
5 施工歩掛……………	Ⅱ-3-②-29	4 施工歩掛……………	Ⅱ-3-⑤- 3
6 杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量 ……………	Ⅱ-3-②-31	5 単価表……………	Ⅱ-3-⑤-11
7 やぐらの設置・撤去……………	Ⅱ-3-②-32	6 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-⑤-18
8 ビット等損耗費……………	Ⅱ-3-②-33	⑤-2 中掘工法……………	Ⅱ-3-⑤-23
9 諸雑費……………	Ⅱ-3-②-33	1 適用範囲……………	Ⅱ-3-⑤-23
10 泥水(ベントナイト)の処理費……………	Ⅱ-3-②-34	2 施工概要……………	Ⅱ-3-⑤-23
11 単価表……………	Ⅱ-3-②-34	3 機種の選定……………	Ⅱ-3-⑤-24
12 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-②-36	4 施工歩掛……………	Ⅱ-3-⑤-25
②-5 ダウンザホールハンマ工……………	Ⅱ-3-②-38	5 単価表……………	Ⅱ-3-⑤-27
1 適用範囲……………	Ⅱ-3-②-38	6 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-⑤-28
2 施工概要……………	Ⅱ-3-②-39	⑥ ドロップハンマ杭打工……………	Ⅱ-3-⑥- 1
3 機種の選定……………	Ⅱ-3-②-40	1 適用範囲……………	Ⅱ-3-⑥- 1
4 編成人員……………	Ⅱ-3-②-42	2 施工歩掛……………	Ⅱ-3-⑥- 1
5 施工歩掛……………	Ⅱ-3-②-42	3 単価表……………	Ⅱ-3-⑥- 2
6 杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量 ……………	Ⅱ-3-②-44	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-⑥- 3
7 やぐらの設置・撤去……………	Ⅱ-3-②-45	⑦ 木杭及び矢板打工(人力, ドロップハンマ工) ……………	Ⅱ-3-⑦- 1
8 諸雑費……………	Ⅱ-3-②-45	1 人力木杭打工……………	Ⅱ-3-⑦- 1
9 掘削土の処理費……………	Ⅱ-3-②-45	2 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-⑦- 1
10 単価表……………	Ⅱ-3-②-46	3 単価表……………	Ⅱ-3-⑦- 2
11 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-②-49	⑧ 泥水運搬工……………	Ⅱ-3-⑧- 1
③ 深礎工……………	Ⅱ-3-③- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-3-⑧- 1
1 適用範囲……………	Ⅱ-3-③- 1	2 施工概要……………	Ⅱ-3-⑧- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-3-③- 1	3 機種の選定……………	Ⅱ-3-⑧- 1
3 機種の選定……………	Ⅱ-3-③- 2	4 汚泥吸排車の運搬作業……………	Ⅱ-3-⑧- 1
4 編成人員……………	Ⅱ-3-③- 2	5 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-⑧- 2
5 施工歩掛……………	Ⅱ-3-③- 3	6 単価表……………	Ⅱ-3-⑧- 2
6 内訳書及び単価表……………	Ⅱ-3-③- 7		
7 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-③- 9		
④ ニューマチックケーソン工……………	Ⅱ-3-④- 1		
1 適用範囲……………	Ⅱ-3-④- 1		
2 施工概要……………	Ⅱ-3-④- 1		
3 掘削工法及び艀装の選定……………	Ⅱ-3-④- 1		
4 機種の選定……………	Ⅱ-3-④- 2		
5 掘削編成人員……………	Ⅱ-3-④- 4		
6 作業時間等……………	Ⅱ-3-④- 4		
7 設備等の供用日数……………	Ⅱ-3-④- 5		
8 施工歩掛……………	Ⅱ-3-④- 5		
9 仮設備工……………	Ⅱ-3-④- 9		
10 参考資料(1)……………	Ⅱ-3-④-10		
11 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-3-④-14		
12 単価表……………	Ⅱ-3-④-20		

第3章 基礎工

① 鋼管・既製コンクリート杭打工

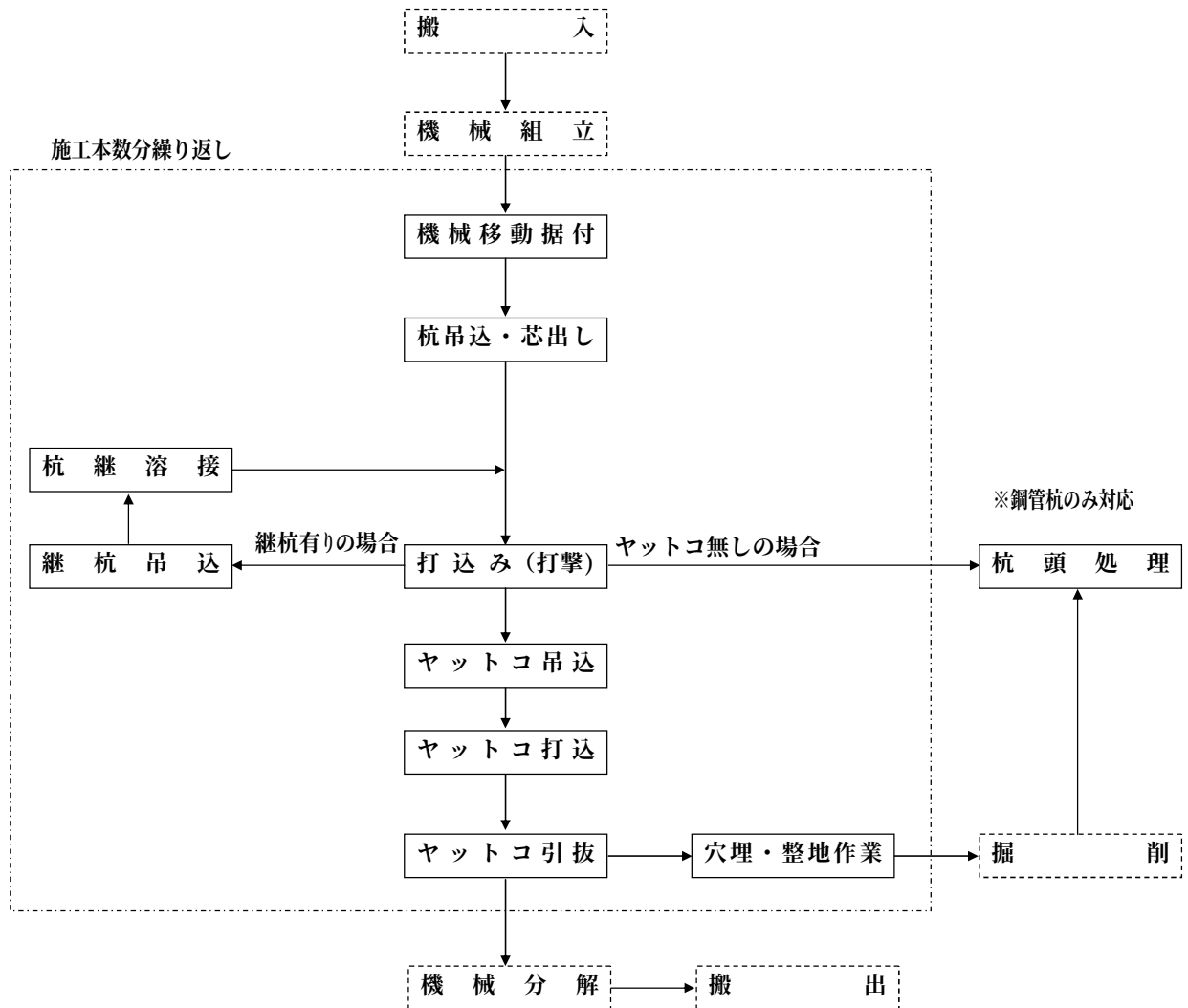
①ー1 パイルハンマ工

1. 適用範囲

本資料は、油圧パイルハンマによる鋼管杭及び既製コンクリート杭（PHC杭，RC杭，SC杭を含む）の杭打ち作業（直杭），ヤットコ使用時の穴埋作業，杭頭処理（鋼管杭のみ）に適用する。
斜杭については，別途考慮する。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは，実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

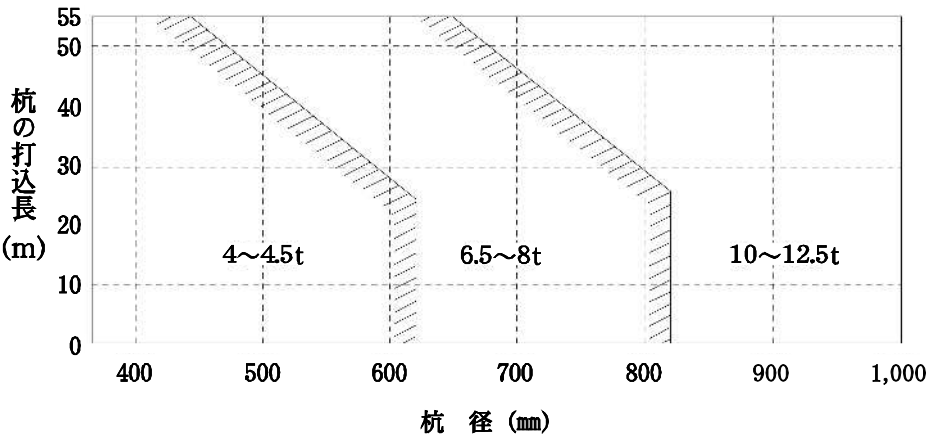
機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式 ラム質量○○t	台	1	
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m³(平積0.2m³)	//		ヤットコ使用の場合計上する。
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55t吊	//		必要に応じて計上する。

(注) 1. バックホウは、ヤットコ使用時に発生する穴埋作業用であり、ヤットコ使用のある現場に適用する。
また、バックホウは賃料とする。
2. クローラクレーンは、下記条件により杭の吊込用として必要に応じて計上する。
① 杭打機の移動範囲内において杭打機リーダの真下に杭置き場の設置が不可能な場合。
(杭打機の移動範囲は最大30mまでとする。)
② 材料置場が施工基面(杭打機の作業面)より2m以上高い場所に設けられ、杭引込のとき杭打機に落ちかかる恐れのある場合。

3-1 油圧パイルハンマの選定

油圧パイルハンマの選定は、図3-1、図3-2による。

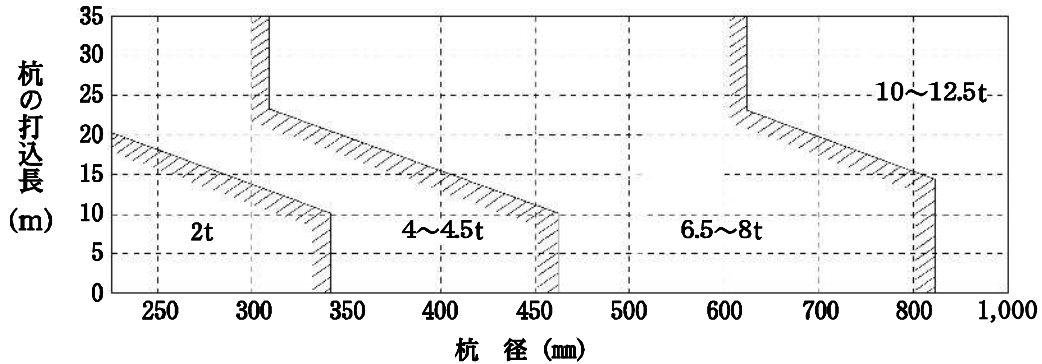
(1) 鋼管杭の場合



(注) 1. 杭の打込長15m以上で下記の条件の場合には、1ランク大きい規格を用いる。
① N値30以上で層厚3m以上の砂、砂レキの中間層を打抜く場合。
② N値15以上で層厚3m以上の粘性土を打抜く場合。
2. 杭の打込長(m)には、ヤットコ打込長(m)を含む。
3. N値は、掘削層の加重平均とする。

図3-1 鋼管杭打ちの油圧パイルハンマの選定

(2) 既製コンクリート杭の場合



(注) 1. 杭の打込長10m以上で下記の条件の場合には、1ランク大きい規格を用いる。

- ① N値30以上で層厚3m以上の砂、砂レキの中間層を打抜く場合。
 - ② N値15以上で層厚3m以上の粘性土を打抜く場合。
2. 杭の打込長 (m) には、ヤットコ打込長 (m) を含む。
3. N値は、掘削層の加重平均とする。

図3-2 既製コンクリート杭打ちの油圧パイルハンマの選定

4. 編 成 人 員

杭打機1台に対する編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人)

杭の種類 \ 職種	土木一般役	とび工	溶接工
鋼管杭	1	2	1 (2)
既製コンクリート杭	1	2	1

- (注) 1. 杭打機の運転労務は、「第I編第6章①建設機械運転労務」による。
2. 継杭を施工しない場合には、溶接工は計上しない。
3. 鋼管杭径φ800mm以上の継杭施工における溶接工は、() 内の数値を計上する。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭10本当り施工日数 (T_d)

杭10本当り施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合

$$T_d = \alpha \cdot T_a \cdot \beta \quad (\text{日}/10\text{本})$$

既製コンクリート杭の場合

$$T_d = T_a \cdot \beta \quad (\text{日}/10\text{本})$$

T_d : 杭10本当り施工日数 (日/10本)

α : 板厚係数

T_a : 杭種、機種別施工日数 (ヤットコ打ちを含む) (日/10本)

β : 作業係数 (ヤットコ使用の場合及び杭の打込長10m以下は、 $\beta = 1$)

(1) 板厚係数 (α)

鋼管杭で板厚の異なる継手の場合には、最小板厚の板厚係数とする。また、既製コンクリート杭の場合は計上しない。

表5.1 板厚係数 (α)

杭の打込長 (m)	板 厚 (mm)			
	8~10	12	14	16
16m以下	1.00	1.00	1.00	1.00
16mを超え32m以下	1.00	1.14	1.29	1.48
32mを超え48m以下	1.00	1.18	1.37	1.63
48mを超え64m以下	1.00	1.22	1.45	1.73

(2) 杭種別施工日数 (T_a)

① 鋼管杭

表5.2 鋼管杭 (T_a) (日/10本)

杭の打込長 (m)	杭 径 (mm)		
	$\phi 400\text{mm}$ 以上 $\phi 500\text{mm}$ 未満	$\phi 500\text{mm}$ 以上 $\phi 800\text{mm}$ 未満	$\phi 800\text{mm}$ 以上 $\phi 1,200\text{mm}$ 未満
16m以下	1.3	1.3	1.3
16mを超え32m以下	2.0	2.4	2.4
32mを超え48m以下	3.1	3.6	3.7
48mを超え64m以下	4.1	4.7	5.1

② 既製コンクリート杭

表5.3 既製コンクリート杭 (T_a) (日/10本)

杭の打込長 (m)	杭 径 (mm)	
	$\phi 300\text{mm}$ 以上 $\phi 600\text{mm}$ 未満	$\phi 600\text{mm}$ 以上 $\phi 1,000\text{mm}$ 未満
16m以下	1.1	1.3
16mを超え32m以下	2.4	2.8
32mを超え36m以下	3.1	3.7

(3) 作業係数 (β)

ヤットコ使用しない場合は、下記の作業係数を計上する。

表5.4 作業係数 (β)

杭の打込長 (m)		板 厚 (mm)			
		8~10	12	14	16
鋼 管 杭	10mを超え16m以下	1.31	1.46	1.69	1.92
	16m超え	1.20	1.24	1.28	1.28
コンクリート杭	10mを超え16m以下	1.50			
	16m超え	1.12			

※ヤットコ使用の場合及び杭の打込長10m以下は、 $\beta = 1$ とする。

5-2 杭頭処理

5-2-1 鋼管杭杭頭処理

鋼管杭と鉄筋及び鋼管杭とずれ止め及びストッパー等の現場溶接工歩掛は、次表を標準とする。

表5.5 鋼管杭杭頭処理溶接工歩掛 (溶接長10m当り)

鋼管杭板厚 (mm)	単位	8~10	12	14・16
溶接工	人	0.35	0.68	1.11
電気溶接機	日	0.39	0.65	1.12
諸雑費率	%	14		

- (注) 1. 鉄筋加工・組立費は、「第Ⅵ編第2章市場単価①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。
 2. 電気溶接機は、ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・排出ガス対策型(第1次基準値) 最大溶接電流300Aを標準とする。
 3. 諸雑費は、溶接棒等の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 鋼管杭とずれ止め及びストッパーの溶接長(L_y)は、ずれ止め1箇所当り、 $L_y = \pi \times D$ D : 杭径 (m) を標準とする。

5-2-2 コンクリート杭の杭頭処理

コンクリート杭の杭頭処理(カットオフ工等)が必要な場合には、別途計上する。

5-3 中詰コンクリート打設

中詰コンクリート打設は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

6. 諸 雑 費

諸雑費は、電力に関する経費、ヤットコ及び溶接機の損料、足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、溶接ワイヤー等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、諸雑費率はヤットコの有無及び溶接機の有無にかかわらず使用出来るものである。

表6.1 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	28

7. 単 価 表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230010
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1	
と び 工		〃	$T_d \times 2$	〃	
溶 接 工		〃	$T_d \times 1(2)$	表4.1 ※()内は鋼管杭径800mm以上	
杭		本	10		
クローラ式杭打機運 転	油圧ハンマ・ 直結三点支持式 ラム質量〇〇t	日	T_d	表3.1、図3-1、図3-2 機械損料	
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	〃	T_d	表3.1 ヤットコ使用時計上 機械損料	
クローラクレーン運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 50～55t吊	〃	T_d	表3.1 必要に応じて計上 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表6.1	
計					

(注) T_d : 杭10本当りの施工日数(日/10本)

(2) 鋼管杭杭頭処理溶接工10m当り単価表

施工歩掛コード					WB230050
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
溶 接 工		人		表5.5	
電 気 溶 接 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 直流アーク式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 最大溶接電流300A	日		表5.5 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表5.5	
計					

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量→1.00 機械損料数量→1.75 燃料消費量 →下記のとおりとする。
			ラム質量 燃料消費量 (ℓ/日)
			2 t 85
			4～4.5 t 123
			6.5～8 t 123
			10～12.5 t 160
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →3.8 機械賃料数量→1.6
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型50～55 t 吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →27 機械損料数量→1.12
電気溶接機	ディーゼルエンジン駆動・直流アーク式・排出ガス対策型(第1次基準値) 最大溶接電流300A	機-12	燃料消費量 →32

8. 施工単価入力基準表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工

施工歩掛コード	WB230010	施工単位	本			
施 工 区 分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	杭 種	杭打機機種	杭の打込長	板厚	杭径	ヤットコの有無
	①鋼管杭 ②既製コン クリート杭	(表8.1)	(表8.2)	(表8.3)	(表8.4)	①有 ②無

J 7	J 8
補助クレーンの有無	継杭施工の有無
①有 ②無	①有 ②無

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は鋼管杭単価 (Y-0010001) [円/本], ②を選択した場合はPHC・RC・SC杭単価 (Y-0274000) [円/本] を単価登録すること。
 2. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2 条件は②～④, J 3 条件は①～⑤, J 5 条件は①～③から選択すること。また, J 1 条件で②を選択した場合は, J 3 条件は⑥～⑨, J 5 条件は④⑤から選択し, J 4 条件は入力する必要はない。
 3. 本コードは, クローラクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

表8.1 杭打機機種

杭 打 機 機 種	入力番号
油圧パイルハンマ 2t	①
油圧パイルハンマ 4～4.5t	②
油圧パイルハンマ 6.5～8t	③
油圧パイルハンマ 10～12.5t	④

表8.2 杭の打込長

杭の打込長 (m)		入力番号
鋼管杭	10m以下	①
	10mを超え16m以下	②
	16 " 32 "	③
	32 " 48 "	④
	48m " 64 "	⑤
既製 コンクリート杭	10m以下	⑥
	10mを超え16m以下	⑦
	16 " 32 "	⑧
	32 " 36 "	⑨

表8.3 板厚

板厚 (mm)	入力番号
8～10mm	①
12mm	②
14mm	③
16mm	④

表 8. 4 杭径

杭径 (mm)	入力番号
鋼管杭 φ400mm以上φ500mm未満	①
鋼管杭 φ500 " φ800 "	②
鋼管杭 φ800 " φ1,200 "	③
既製コンクリート杭 φ300mm以上φ600mm未満	④
既製コンクリート杭 φ600mm以上φ1,000mm未満	⑤

(2) 鋼管杭杭頭処理溶接工

歩掛コード	WB230050	施工単位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	鋼管杭板厚 (mm)		
	① 8mm～10mm ② 12mm ③ 14mm・16mm		

①－２ 中掘工

1. 適用範囲

本資料は、中掘工（打撃又はグラウト注入（拡大根固め工法を含む）による打止め）による鋼管杭及び既製コンクリート杭（PHC杭，RC杭，SC＋PHC杭）の施工に適用する。
なお、適用杭径は、次表を標準とする。

表1.1 適用杭径

工 法	杭 径 (mm)	摘 要
中 掘 工	φ400～φ1,000	鋼管杭
		既製コンクリート杭

掘削長については、次図を標準とする。また、現場条件により次図により難しい場合は、別途考慮する。

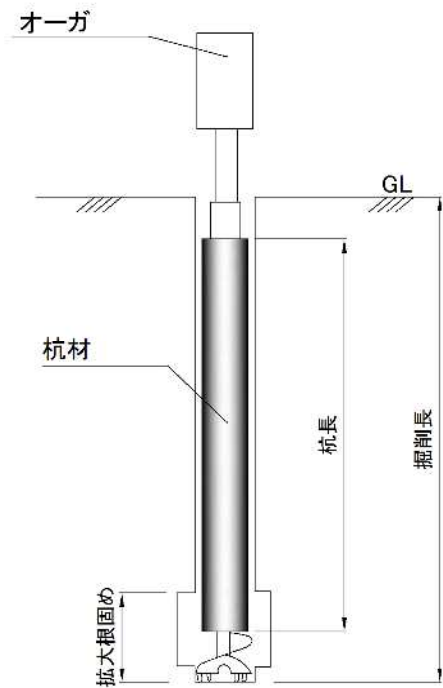


図1－1 施工図 (グラウト注入)

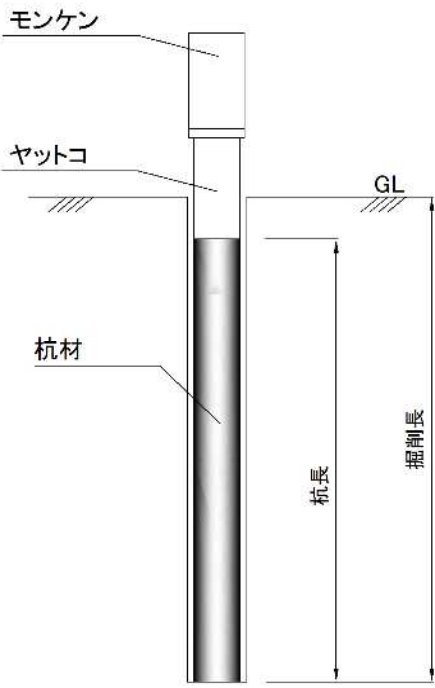


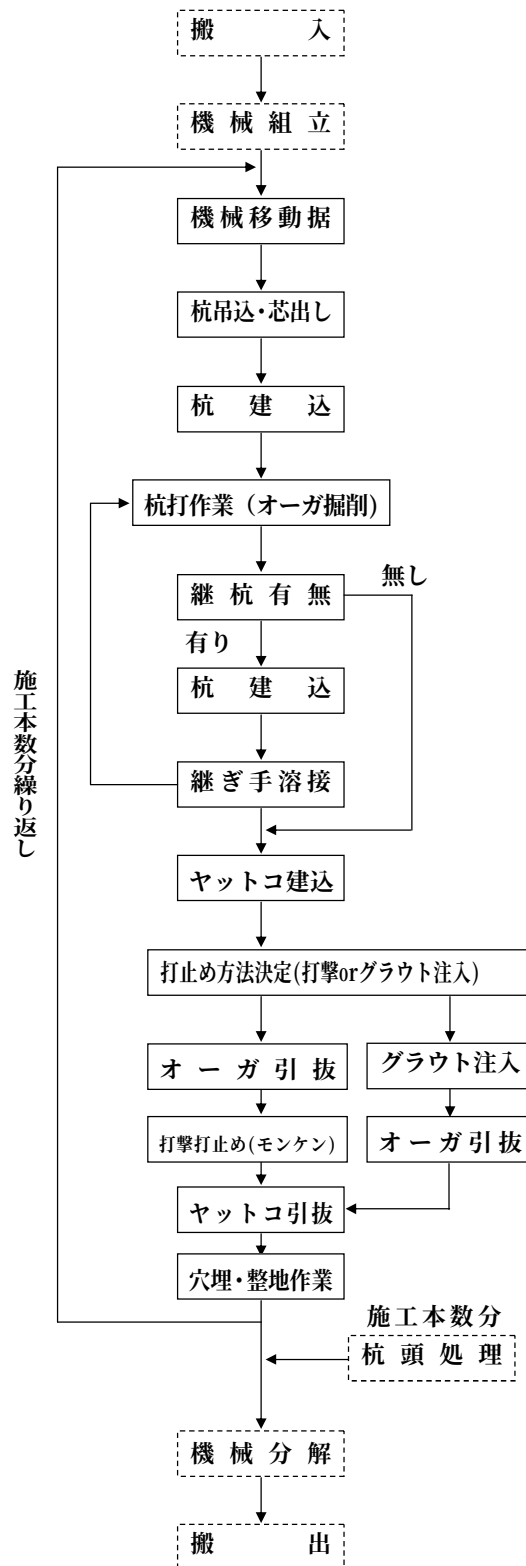
図1－2 施工図 (打撃)

2. 施工概要

中掘工は、あらかじめ杭中空部にオーガスクリュを挿入、杭建込を行った後、削孔と同時に杭を圧入していく工法である。杭打設後は、杭の支持力低下を補うためにモンケンなどにより杭を打撃し、支持層に1.0から1.5m程度打込む方法と、グラウト材を支持層に注入し杭と一体化させる方法がある。

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2. ヤットコは必要により施工する。

図2-1 施工フロー

3. 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	杭 径 (mm)				摘 要
			杭径 φ400以上φ800未満		杭径 φ800以上 φ1000未満	杭径 φ1000	
			掘削長 32m以下	掘削長 32m超え			
クローラ式 アースオーガ	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力55kW 公称杭径400～1,200mm リーダ長21～33m	台	1	—	-	-	打撃方式で施工する 場合のモンケン 10tを含む
	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力90kW 公称杭径400～1,200mm リーダ長21～33m	〃	—	1	1	1	
ク ロ ー ン ク レ ー ン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（第2次基準値） 50～55t吊	〃	1		1	—	
	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型（第1次基準値） 80t吊	〃	—		—	1	
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 山積0.45m³(平積0.35m³)	〃	1		1	1	掘削土の処理作業 (穴埋作業及び簡 易な整正を含む)

4. 日 当 り 編 成 人 員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

職 種		土 木 一 般 役 員	と び 工	特殊作業員	普通作業員	溶 接 工
工 法	打 撃	1	1	—	1	1
	グラウト注入	1	1	1	1	1

(注) 継杭を施工しない場合は、溶接工は計上しない。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭10本当り施工日数 (Td)

杭10本当り施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合

$$T_d = \alpha \cdot \beta \cdot T_a \text{ (日/10本)}$$

既製コンクリート杭の場合

$$T_d = \alpha \cdot T_a \text{ (日/10本)}$$

α : 土質係数

β : 板厚係数

T_a : 杭種, 機種別施工日数

(ヤットコの建込み及び引抜きを含むが、不要の場合でも使用出来るものとする。)

(1) 土質係数 (α)

表5.1 土質係数 (α)

N 値 の 範 囲	20未満	20以上40未満	40以上
土 質 係 数	1.00	1.13	1.27

(注) N値は、掘削層の加重平均とする。

(2) 板厚係数 (β)

鋼管杭で板厚の異なる継杭の場合には、最小板厚の板厚係数とする。また、既製コンクリート杭の場合は計上しない。

表5.2 板厚係数 (β)

掘削長 (m)	板 厚 (mm)			
	9~10	11~12	13~14	15~16
16m以下	1.00	1.00	1.00	1.00
16mを超え32m以下	1.00	1.09	1.18	1.26
32mを超え48m以下	1.00	1.12	1.23	1.34
48mを超え64m以下	1.00	1.13	1.26	1.38

(3) 杭種、施工方法別施工日数 (T_a)

① 鋼管杭 (グラウト方式)

表5.3 鋼管杭 (グラウト方式)

(日/10本)

掘削長 (m)	杭 径 (mm)						
	φ400以上 φ500未満	φ500以上 φ600未満	φ600以上 φ700未満	φ700以上 φ800未満	φ800以上 φ900未満	φ900以上 φ1,000未満	φ1,000
16m以下	1.76	1.84	1.89	1.96	2.06	2.19	2.34
16mを超え32m以下	3.36	3.65	3.86	4.12	4.38	4.68	5.02
32mを超え48m以下	4.97	5.46	5.83	6.28	6.70	7.16	7.69
48mを超え64m以下	6.57	7.27	7.80	8.44	9.03	9.64	10.36

② 鋼管杭 (打撃方式)

表5.4 鋼管杭 (打撃方式)

(日/10本)

掘削長 (m)	杭 径 (mm)						
	φ400以上 φ500未満	φ500以上 φ600未満	φ600以上 φ700未満	φ700以上 φ800未満	φ800以上 φ900未満	φ900以上 φ1,000未満	φ1,000
16m以下	1.84	1.88	1.91	1.93	1.95	1.97	2.00
16mを超え32m以下	3.44	3.69	3.88	4.09	4.27	4.46	4.67
32mを超え48m以下	5.04	5.50	5.85	6.25	6.59	6.94	7.34
48mを超え64m以下	6.65	7.31	7.82	8.41	8.92	9.42	10.01

③ 既製コンクリート杭 (グラウト方式)

表5.5 既製コンクリート杭 (グラウト方式)

(日/10本)

掘削長 (m)	杭 径 (mm)						
	φ400以上 φ500未満	φ500以上 φ600未満	φ600以上 φ700未満	φ700以上 φ800未満	φ800以上 φ900未満	φ900以上 φ1,000未満	φ1,000
16m以下	1.75	1.85	1.90	1.97	2.07	2.19	2.34
16mを超え32m以下	3.44	3.69	3.87	4.07	4.27	4.53	4.87
32mを超え48m以下	5.13	5.53	5.84	6.18	6.48	6.87	7.40
48mを超え64m以下	6.82	7.37	7.82	8.28	8.69	9.21	9.93

④ 既製コンクリート杭（打撃方式）

表5.6 既製コンクリート杭（打撃方式）

（日／10本）

掘削長（m）	杭 径（mm）						
	φ400以上 φ500未満	φ500以上 φ600未満	φ600以上 φ700未満	φ700以上 φ800未満	φ800以上 φ900未満	φ900以上 φ1,000未満	φ1,000
16m以下	1.84	1.88	1.91	1.93	1.95	1.97	2.00
16mを超え32m以下	3.53	3.72	3.88	4.03	4.16	4.31	4.53
32mを超え48m以下	5.22	5.56	5.85	6.14	6.36	6.65	7.05
48mを超え64m以下	6.91	7.40	7.82	8.24	8.57	8.99	9.58

5-2 杭頭処理

杭頭処理については、「第Ⅱ編第3章①鋼管・既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工）及び⑭既製コンクリート杭カットオフ工」による。

5-3 諸雑費

諸雑費は、労務費、材料費（杭）、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

- （1）中掘工（打撃打止め）による鋼管・既製コンクリート杭打込の諸雑費は、溶接棒、杭先端加工費、鋼管吊金具、ずれ止め、ずれ止め用ストッパー及びオーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）の運転、電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコ及び溶接機の有無にかかわらず本諸雑費率を適用出来る。

表5.7 諸雑費率

（％）

諸 雑 費 率	9

- （2）中掘工（グラウト注入）による鋼管・既製コンクリート杭打込の諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒、杭先端加工費及びオーガスクリュー、オーガヘッド、ヤットコ、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、交流アーク溶接機損料、空気圧縮機（排出ガス対策型）、モルタルプラント運転及び電力に関する経費等の費用である。なお、ヤットコの有無にかかわらず本諸雑費率を適用出来る。

表5.8 諸雑費率

（％）

諸 雑 費 率	12

（注）拡大根固め工法も上表の率を適用する。

6. 単 価 表

(1) 中掘工(打撃打止め)による鋼管・既製コンクリート杭打込10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1	
溶 接 工		〃	$T_d \times 1$	表4.1 必要に応じて計上する	
と び 工		〃	$T_d \times 1$	表4.1	
普 通 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃	
杭		本	10		
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機運転	日	T_d	表3.1 機械損料	
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型・ 排出ガス対策型(第○次基準値) ○○t吊	〃	T_d	表3.1 機械損料	
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	〃	T_d	表3.1 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表5.7	
計					

(注) T_d : 杭10本当り施工日数(日/10本)

(2) 中掘工(グラウト注入)による鋼管・既製コンクリート杭打込10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1	
溶 接 工		〃	$T_d \times 1$	表4.1 必要に応じて計上する	
特 殊 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	表4.1	
と び 工		〃	$T_d \times 1$	〃	
普 通 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃	
杭		本	10		
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機運転	日	T_d	表3.1 機械損料	
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型・ 排出ガス対策型(第○次基準値) ○○t吊	〃	T_d	表3.1 機械損料	
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	〃	T_d	表3.1 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表5.8	
計					

(注) T_d : 杭10本当り施工日数(日/10本)

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力55kW 公称杭径400～1,200mm リーダ長21～33m	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃 料 消 費 量→61 機械損料数量→ 1.50
	アースオーガ中掘機・直結三点支持式 オーガ出力90kW 公称杭径400～1,200mm リーダ長21～33m	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃 料 消 費 量→77 機械損料数量→ 1.50
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジプ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 50～55t吊	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃 料 消 費 量→51 機械損料数量→ 1.45
	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジプ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 80t吊	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃 料 消 費 量→66 機械損料数量→ 1.45
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機－18	運転労務数量→ 1.00 燃 料 消 費 量→39 機械損料数量→ 1.50

7. 施工単価入力基準表

(1) 鋼管・既製コンクリート杭打工(中掘工)

施工歩掛コード		WB230210		施工単位		本	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	工 法 ① 打撃 ② グラウト注入	杭種類 ① 鋼管杭 ② 既製コンクリート	継杭の有無 ① 有 ② 無	杭径区分 表 7・1	N 値範囲 表 7・2	掘削長区分 表 7・3	鋼管杭板厚 表 7・4

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は鋼管杭単価 (Y-0010001) [円/本], ②を選択した場合はPHC・RC・SC+PHC杭単価 (Y-0271000) [円/本] を単価登録すること。
2. J 2 条件で②を選択した場合は, J 7 条件は入力する必要はない。なお, 鋼管杭で板厚の異なる継杭の場合には, 薄い板厚の数値を入力すること。
3. J 5 条件は, 掘削層の加重平均を入力すること。
4. 本コードは, クローラクレーン, バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
5. クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)を使用する場合は, 別途考慮すること。
6. バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)を使用する場合は, 別途考慮すること。
7. 杭頭処理は, 別途計上すること。

表 7. 1 杭径区分

杭径 (D)	入力番号
$\phi 400\text{mm} \leq D < \phi 500\text{mm}$	①
$\phi 500\text{mm} \leq D < \phi 600\text{mm}$	②
$\phi 600\text{mm} \leq D < \phi 700\text{mm}$	③
$\phi 700\text{mm} \leq D < \phi 800\text{mm}$	④
$\phi 800\text{mm} \leq D < \phi 900\text{mm}$	⑤
$\phi 900\text{mm} \leq D < \phi 1,000\text{mm}$	⑥
$D = \phi 1,000\text{mm}$	⑦

表 7. 2 N値範囲

N 値	入力番号
$N < 20$	①
$20 \leq N < 40$	②
$40 \leq N$	③

表 7. 3 掘削長区分

掘削長 (L)	入力番号
$L \leq 16\text{m}$	①
$16\text{m} < L \leq 32\text{m}$	②
$32\text{m} < L \leq 48\text{m}$	③
$48\text{m} < L \leq 64\text{m}$	④

表 7. 4 鋼管杭板厚

板厚 (t)	入力番号
$t = 9 \sim 10\text{mm}$	①
$t = 11 \sim 12\text{mm}$	②
$t = 13 \sim 14\text{mm}$	③
$t = 15 \sim 16\text{mm}$	④

①－3 鋼管ソイルセメント杭工

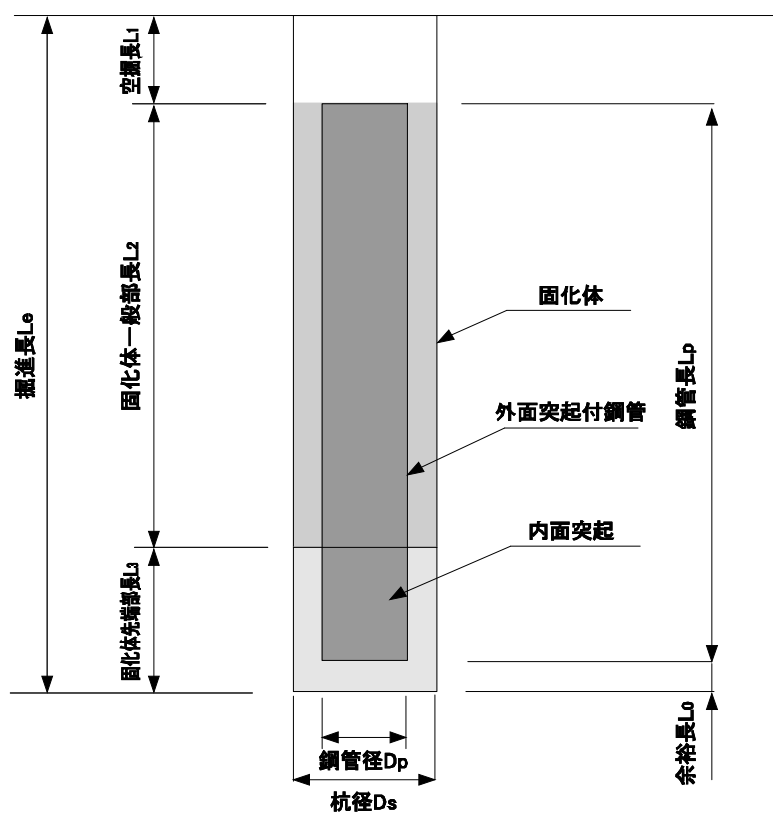
1. 適用範囲

本資料は、鋼管ソイルセメント杭工法（同時沈設方式）に適用する。杭径は800mmから1,200mm，掘進長は50mまでとする。

2. 施工概要

2－1 施工内容

鋼管ソイルセメント杭工は，地盤中に注入攪拌したセメントミルクで造成した固化体と，それと同時に沈設した外面突起付鋼管による鋼管杭の施工である。



掘進長 $L_e = \text{空掘長 } L_1 + \text{固化体一般部長 } L_2 + \text{固化体先端部長 } L_3$

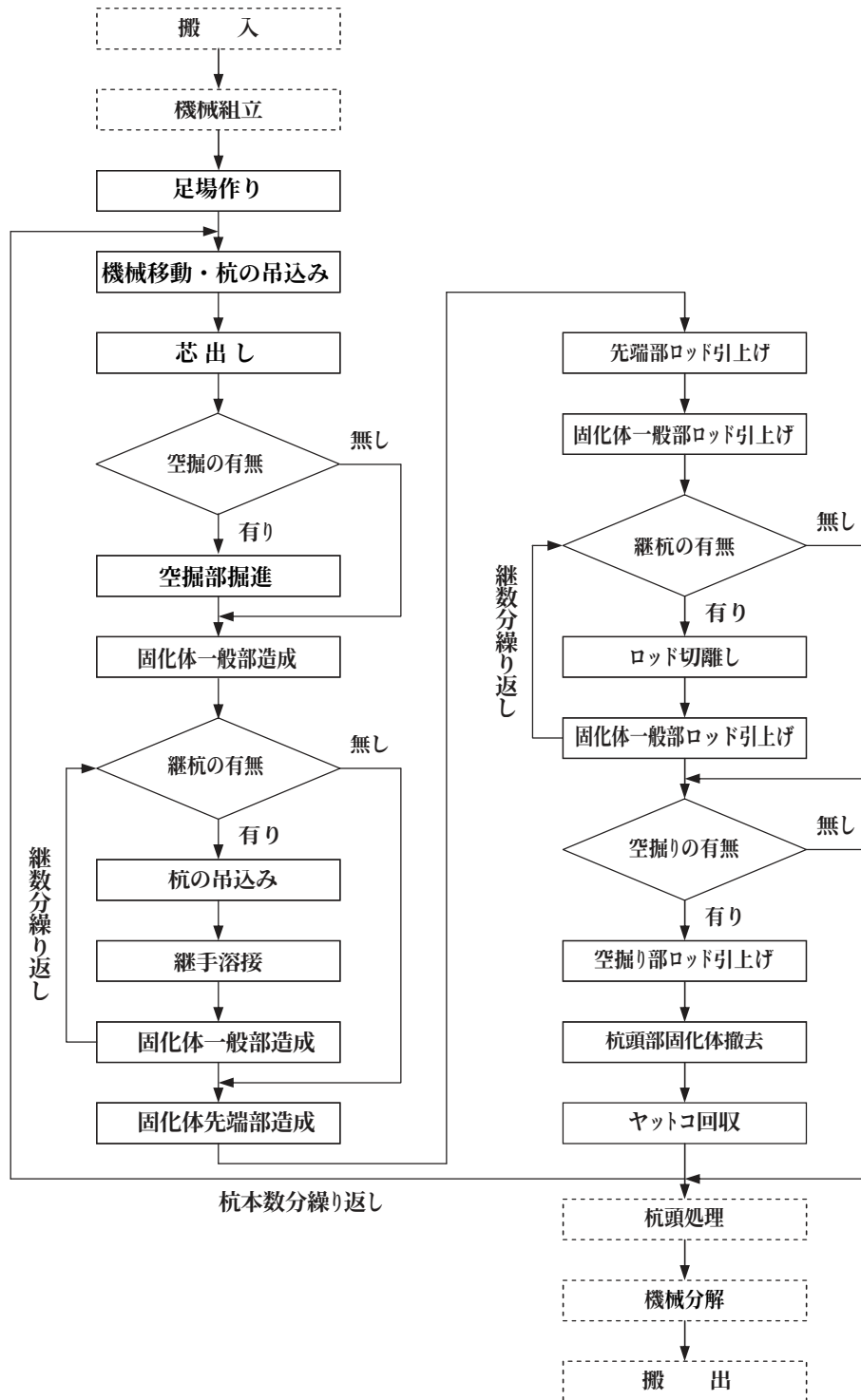
先端部長 $L_3 = 1.5D_p + 0.5D_s$

余裕長 $L_0 = 0.5D_s$

図2－1 鋼管ソイルセメント杭のモデル図

2-2 施工フロー

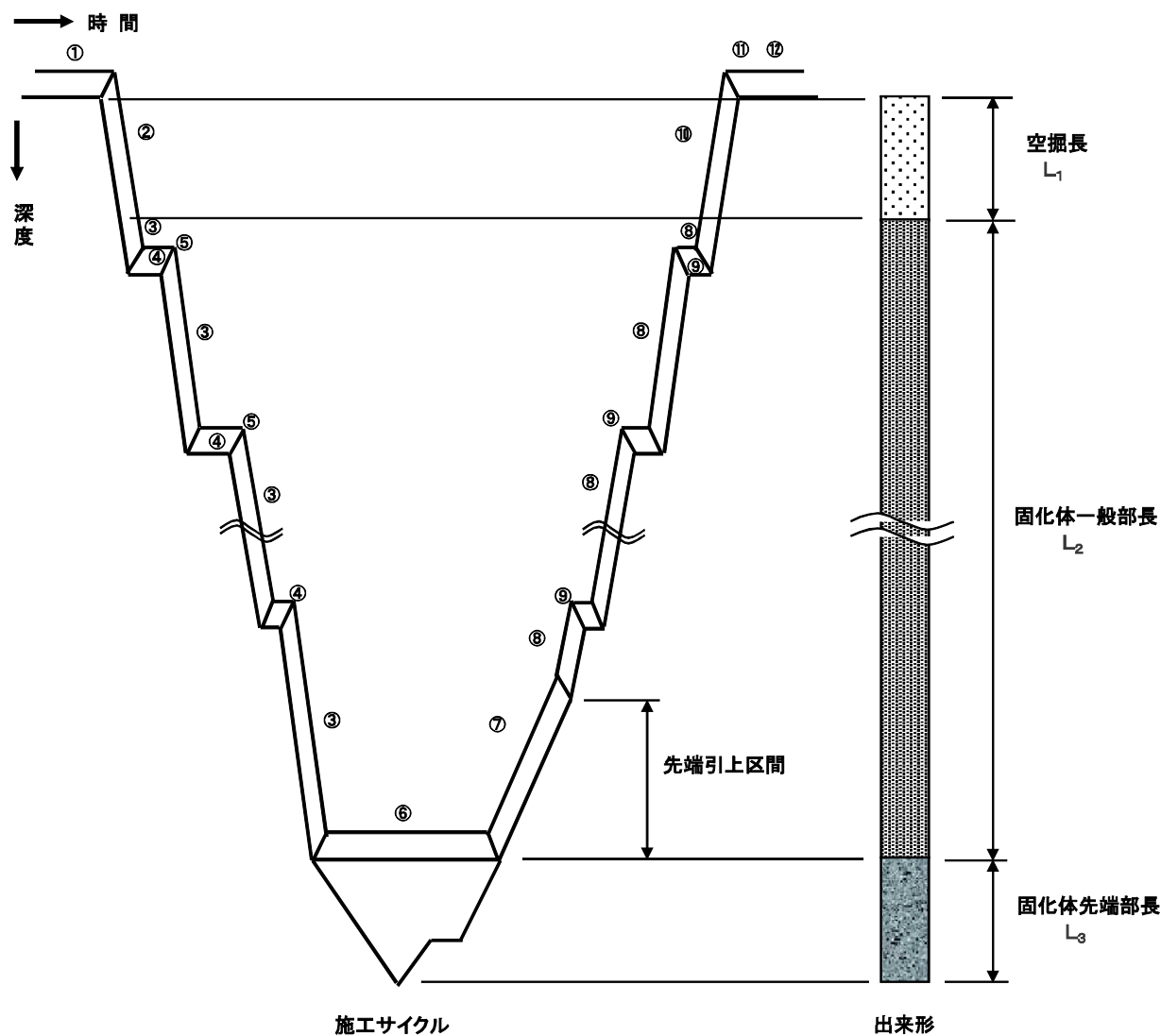
施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-2 施工フロー

2-3 施工サイクル



- ①：足場作り、機械移動、杭の吊込み、芯出し等
- ②：空掘部掘進
- ③：固化体一般部造成
- ④：溶接足場作り、杭吊込
- ⑤：継手溶接
- ⑥：固化体先端部造成
- ⑦：先端部ロッド引上げ
- ⑧：固化体一般部ロッド引上げ
- ⑨：ロッド切離し
- ⑩：空掘り部ロッド引上げ
- ⑪：杭頭部固化体撤去
- ⑫：ヤットコ回収

図2-3 施工サイクル

3. 機 種 の 選 定

機械・規格の選定は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
クローラ式杭打機	鋼管ソイルセメント杭打機 杭径800～1,500mm 最大施工深度 70m オーガ出力 110kW	台	1	杭打機ベースマシン, オーガモータ, 鋼管回転装置, 施工管理システムを含む
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 60～65t吊	〃	1	
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	1	
スラリプラント (全自動)	能力40m ³ /h	〃	1	

4. 日当り編成人員

杭打作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員

(人)

土木一般世話役	とび工	特殊作業員	普通作業員	溶接工
1	2	1	1	2 (1)

(注) 継杭を施工しない場合は、溶接工を計上しない。なお、鋼管径が800mm未満については、() 内の数値を計上する。

5. 施 工 歩 掛

杭1本当り施工時間(T_C)は、次式による。

$$T_C = (T_g + T_1 + T_w + T_s)$$

T_C : 杭1本当り施工時間 (min/本)

T_g : 〃 固化体部造成時間 (min/本)

T_1 : 〃 ロッド引上げ時間 (min/本)

T_w : 〃 継手溶接時間 (min/本)

T_s : 〃 準備時間 (min/本)

5-1 杭1本当りの固化体造成時間

$$T_g = T_{g1} + T_{g2} + T_{g3}$$

T_g : 杭1本当り固化体造成時間 (min/本)

T_{g1} : 杭1本当り空掘部掘進時間 (min/本)

$$T_{g1} = \alpha_1 \times L_1 / V_{g1}$$

α_1 : 地盤係数 (表5.1)

L_1 : 空掘長 (m)

V_{g1} : 空掘部標準掘進速度 (m/min) (表5.2)

T_{g2} : 杭1本当り固化体一般部造成時間 (min/本)

$$T_{g2} = \alpha_1 \times L_2 / V_{g2}$$

α_1 : 地盤係数 (表5.1)

L_2 : 固化体一般部長 (m)

V_{g2} : 固化体一般部標準掘進速度 (m/min) (表5.2)

表5.1 地盤係数(α_1)

荷重平均N値	地盤係数 α_1
$N < 10$	1.0
$10 \leq N < 30$	1.2
$30 \leq N < 50$	1.4

表5.2 空掘部 (V_{e1})・固化体一般部 (V_{e2}) の掘進速度 (m/min)

杭 径 (mm)	W/C (%)	固化材添加量 (kg/m ³)				摘 要	
		空 掘 部	固化体一般部				
			150	250	300		350
800 及び 900	80 100 120	1.00	1.00				
1,000	80	1.00	1.00				
	100					0.95	
	120					0.85	
1,100	80	1.00	1.00		0.95		
	100				0.95	0.80	
	120				0.80	0.70	
1,200	80	1.00	1.00	0.95	0.80		
	100		0.95	0.80	0.65		
	120		0.80	0.70	0.60		

(ポンプ能力400ℓ/min)

 T_{g3} : 杭 1 本当り固化体先端部造成時間 (min/本)

$$T_{g3} = \alpha_2 \times T_a$$

 α_2 : 地盤係数 (表 5. 3) T_a : 固化体先端部造成時間 (min/本) (表 5. 4)表5.3 地盤係数 (α_2)

荷重平均N値	地盤係数 α_2
$N < 40$	1.0
$40 \leq N < 50$	1.1
$50 \leq N < 60$	1.2
$60 \leq N < 80$	1.4

(注) 対象地盤の最大N値が50を超えるものについては、次式により換算N値を求めた上で適用する。

$$\text{換算N値} = \frac{1,500}{\text{落下50回当り貫入量(cm)}}$$

表5.4 固化体先端部造成時間 (T_a) (min/本)

鋼管径 D_p (mm)	T_a (min/本)
600	14.6
700	16.2
800	17.8
900	19.4
1,000	21.0

(注) 上表には、先端部の掘進時間、引上げ時間、鋼管定着時間を含む。

5-2 杭1本当りのロッド引上げ時間

$$T_l = T_{l1} + T_{l2} + T_{l3}$$

T_l : 杭1本当りのロッド引上げ時間 (min/本)

T_{l1} : 空掘部ロッド引上げ時間 (min/本)

$$T_{l1} = L_1 / V_{l1}$$

L_1 : 空掘長 (m)

V_{l1} : 空掘部引上げ速度 (m/min) = 2.0m/min

T_{l2} : 固化体一般部ロッド引上げ時間 (min/本)

$$T_{l2} = (L_2 - 3 \times D_p) / V_{l2}$$

L_2 : 固化体一般部長 (m)

D_p : 鋼管径 (m)

V_{l2} : 固化体一般部引上げ速度 (m/min) = 2.0m/min

T_{l3} : 固化体先端部ロッド引上げ時間 (min/本)

$$T_{l3} = 3 \times D_p / V_{l3}$$

D_p : 鋼管径 (m)

V_{l3} : 先端部引上げ速度 (m/min) = 0.5m/min

5-3 杭1本当りの継手溶接時間

$$T_w = \sum tw_i$$

T_w : 杭1本当りの継手溶接時間 (min/本)

tw_i : 継手1箇所当りの溶接時間 (表5.5)

表5.5 継手1箇所当りの溶接時間 (min/箇所)

鋼管径 (mm)	板厚 (mm)						
	9	10	11	12	14	16	19
600	29	32	37	41	53	68	95
700	33	38	43	48	62	79	111
800	26	28	32	36	46	59	83
900	29	32	36	40	51	66	93
1,000	—	34	39	44	57	73	104

(注) 鋼管径φ800mm以上は、溶接機2台を使用する溶接時間である。

5-4 杭1本当りの準備時間

準備時間は、足場作り、機械の移動、杭の吊込み、芯出し、オーガヘッド取付け・取外し、ロッド切離し、杭頭部固化体撤去、ヤットコ回収等を含む時間であり、次による。

$$T_s = \beta (49 + 14nw)$$

T_s : 杭1本当りの準備時間 (min/本)

β : 施工スペース幅係数 (表5.6)

nw : 杭の継手数 (箇所/本)

(注) ヤットコ杭も継手1箇所とする。

表5.6 施工スペース幅係数(β)

施工スペース幅	施工スペース係数(β)
$25m \leq W$	1.0
$25m > W$	1.1

(注) 杭頭部固化体撤去にて、撤去された固化体の処理費は、別途計上する。

6. 材 料 使 用 量

使用するセメント使用量，添加材使用量は，次式を標準とする。

6-1 セメント使用量

図6-1に表わす部位毎に，セメント量を計上し，各部位の使用量合計が杭1本当りのセメント使用量となる。
なお，高炉セメントB種を標準とする。

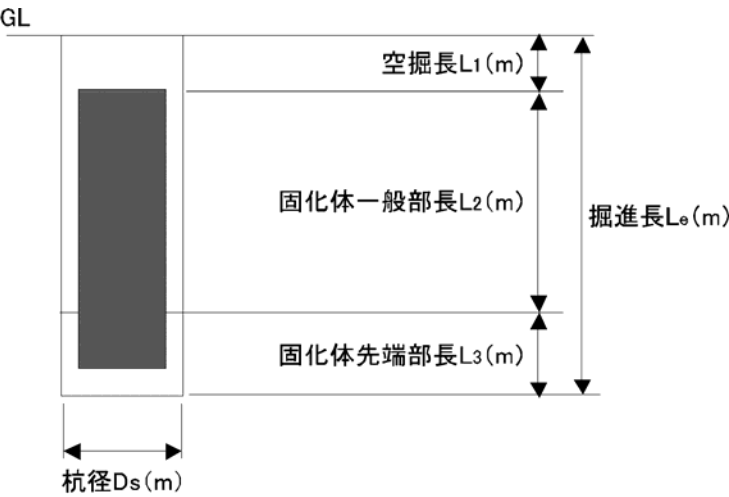


図6-1 施工した杭の部位名

$Q = C_1 + C_2 + C_3 \cdots \cdots$ 式6.1

Q：セメント使用量（t／本）

C₁：空掘部セメント使用量（t／本）

C₂：固化体一般部セメント使用量（t／本）

C₃：固化体先端部セメント使用量（t／本）

（注）C₃のセメント使用量には，引上げ注入時のセメントも含まれる。

C₁：空掘部セメント使用量

$C_1 = D_s^2 \times \pi / 4 \times L_1 \times 0.15 \times (1 + K)$

D_s：杭径

L₁：空掘部長

K：ロス率（表6.2）

C₂：固化体一般部セメント使用量

$C_2 = D_s^2 \times \pi / 4 \times L_2 \times (q / 1,000) \times (1 + K)$

D_s：杭径

L₂：固化体一般部長

q：土1m³当り固化材添加量（kg／m³）（表6.1）

K：ロス率（表6.2）

C₃：固化体先端部セメント使用量

$C_3 = D_s^2 \times \pi / 4 \times L_3 \times 1.5 \times (1 + K)$

D_s：杭径

L₃：固化体先端部長

K：ロス率（表6.2）

表6.1 土1m³当り固化材添加量 (q) (kg／m³)

固化材添加量(kg／m ³)	250	300	350

表6.2 ロス率 (K)

ロ ス 率	+0.15

6-2 添加材使用量

図6-1に表わす部位毎に、添加材使用係数をセメント量に乗じて部位毎使用量を計上し、その使用量の合計が、杭1本当りの添加材使用量となる。なお、硬化遅延剤を標準とする。

$$Q_2 = P_1 + P_2 \cdots \cdots \text{式 6. 2}$$

Q_2 ：添加材使用量 (kg／本)

P_1 ：空掘部添加材使用量 (kg／本)

$$P_1 = C_1 \times K_2 \times 1,000$$

C_1 ：空掘部セメント使用量

K_2 ：添加材使用係数 (表 6. 3)

P_2 ：固化体一般部添加材使用量 (kg／本)

$$P_2 = C_2 \times K_2 \times 1,000$$

C_2 ：固化体一般部セメント使用量

K_2 ：添加材使用係数 (表 6. 3)

(注) 固化体先端部に添加材は使用しない。

表 6. 3 添加材使用係数 (K_2)

掘 進 長 (Le)	0～15m未満	15～30m未満	30～45m未満	45～50m以下
添加材使用係数	0	0.015	0.03	0.04

(注) 掘進長 (Le) とは、図 6-1 の $L_1 + L_2 + L_3$ とする。

7. 諸 雑 費

諸雑費は、電力に関する経費、足場材 (敷鉄板) 賃料及び設置・撤去・移設、溶接機と溶接材料の費用、掘削攪拌ヘッド及びロッド、鋼管キャップ・カラー、ロッドスタビライザ、スタビライザブラケット、ロッド吊金具等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 7. 1 諸雑費率 (%)

継 杭 の 有 無	諸 雑 費 率
継 杭 無 し	23
継 杭 有 り	29

8. 単 価 表

(1) 鋼管ソイルセメント杭1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB232110
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{T_c}{(60 \times T)} \times 1$	表4.1
溶 接 工		〃	$\frac{T_c}{(60 \times T)} \times 2(1)$	継杭の場合に計上 鋼管径800mm未満は (注)による
と び 工		〃	$\frac{T_c}{(60 \times T)} \times 2$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{T_c}{(60 \times T)} \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{T_c}{(60 \times T)} \times 1$	〃
クローラ式杭打機 運 転	鋼管ソイルセメント杭打機 杭径 800～1,500mm 最大施工深度 70m オーガ出力 110kW	h	$\frac{T_c}{60}$	ベースマシン, オーガ モータ, 鋼管回転装 置, 施工管理システム を含む 機械損料
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 60～65t吊	〃	$\frac{T_c - T_w}{60}$	機械損料
バックホウ (クローラ型) 運 転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.45m ³)	〃	$\frac{T_c - T_w}{60}$	機械損料
スラリプラント (全自動)	能力40m ³ /h	〃	$\frac{T_c - T_w}{60}$	機械損料
諸 雑 費		式	1	表7.1
セメント材料費	高炉セメントB種	t	Q	式6.1, 表6.1, 表6.2
添加材材料費		kg	Q ₂	式6.2, 表6.3
鋼 管 杭	突起(リブ)付	本	1	
計				

- (注) 1. T=鋼管ソイルセメント杭打機運転日当り運転時間(h)
2. 鋼管径が800mm未満については, () の人工を計上する。

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式杭打機	鋼管ソイルセメント杭打機 杭径 800～1,500mm 最大施工深度 70m オーガ出力 110kW	機-1	運転労務費→ 0.16 燃料消費量→12 ベースマシン, オーガモータ, 鋼管回転装置, 施工管理システム を含む
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 60～65t吊	機-1	運転労務費→ 0.18 燃料消費量→13
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	機-1	運転労務費→ 0.18 燃料消費量→ 9.8

9. 施工単価入力基準表

(1) 鋼管ソイルセメント杭工

施工歩掛コード		WB232110	施工単位	本		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	杭 径 (mm)	鋼管径 D p (mm)	鋼管杭 1 本当り 杭長	鋼管杭 m当り 杭材料質量	空掘り長	固化体 一般部長
	①800	①600				
	②900	②700				
	③1,000	③800				
	④1,100	④900	(m)	(t)	(m)	(m)
	⑤1,200	⑤1,000	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
空掘り部 地盤係数	固化体一般部 地盤係数	固化体先端部 地盤係数	水セメント比 (W/C)	固化体一般部 固化材添加量	継手箇所数
(α_1) (表9.2)	(α_1) (表9.2)	(α_2) (表9.3)	(%) (表9.4)	(kg/m ³) (表9.5)	①無し ②有り (実数入力)

J 13	J 14	J 15	J 16
鋼管板厚	ヤットコ杭	施工スペース幅	バックホウ 規 格
(mm) (表9.6)	①無し ②有り	① 25m ≤ W ② 25m > W	①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

- (注) 1. 本コードは高炉セメントB種を標準とする。
 2. J 1 条件を選択した場合の J 10 条件の入力の有無は表8.1による。
 3. J 2 条件で⑤を選択した場合は、J 13 条件において①は選択出来ない。
 4. 鋼管杭単価 (Y-0015000) [円/t] を単価登録すること。
 5. 添加材単価 (Y-1241001) [円/kg] を単価登録すること。
 6. セメント及び添加材の材料補正を含んでいる。
 7. J 12 条件の②を選択した場合は、継手箇所数を実数入力し、J 13 条件において実数分の各板厚を入力すること。
 8. J 13 条件において、板厚が異なる継手の場合には薄い板厚を入力すること。
 9. 本コードは、バックホウ、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。
 10. 本コードは、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

表9.1 条件入力表

条 件		J 10		
		①	②	③
J 1	①	×	×	×
	②	×	×	×
	③	○	○	○
	④	○	○	○
	⑤	○	○	○

(注) J 1 条件を選択した場合の J 10 条件の入力について、×印の箇所については入力する必要はない。

表9.2 地盤係数 (α_1)

荷重平均N値	入力番号
$N < 10$	①
$10 \leq N < 30$	②
$30 \leq N < 50$	③

表9.3 地盤係数 (α_2)

荷重平均N値	入力番号
$N < 40$	①
$40 \leq N < 50$	②
$50 \leq N < 60$	③
$60 \leq N < 80$	④

表9.4 水セメント比 (W/C)

W/C (%)	入力番号
80	①
100	②
120	③

表9.5 固化材添加量

添加量 (kg/m^3)	入力番号
250	①
300	②
350	③

表9.6 鋼管板厚

鋼管板厚 (mm)	入力番号
$t = 9$	①
$t = 10$	②
$t = 11$	③
$t = 12$	④
$t = 14$	⑤
$t = 16$	⑥
$t = 19$	⑦

①－4 回転杭工

1. 適用範囲

本資料は、杭径800～1,200mmの胴体回転方式にて施工される掘削長7m以上48m以下の羽根外径が杭径の1.5倍である回転杭（開口タイプ、開端タイプ）に適用する。

なお、以下の条件は適用範囲外とする。

- ・鋼管長が7m未満の杭
- ・斜杭

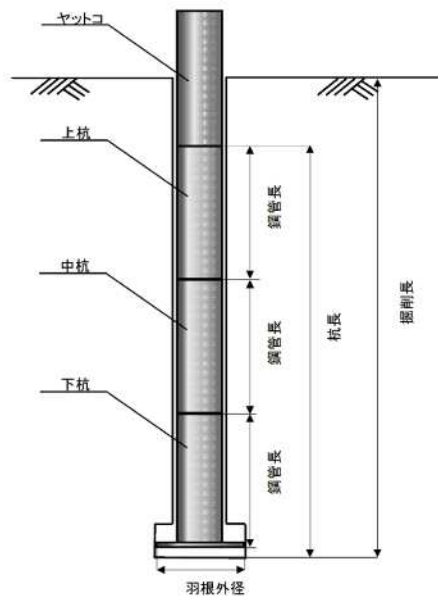
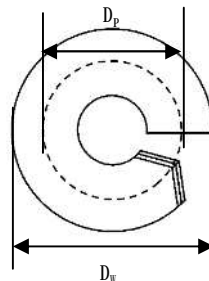
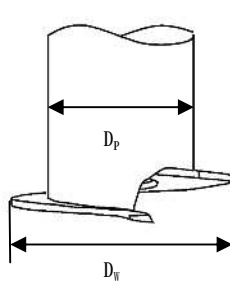


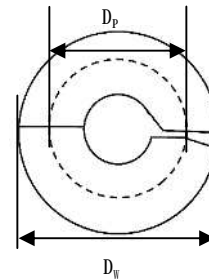
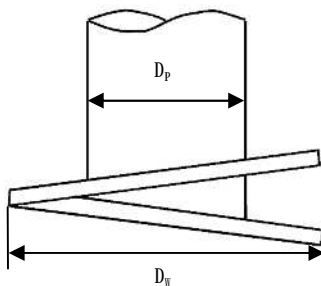
図1-1 施工図



$$D_w = D_p \times 1.5$$

D_w : 羽根外径 (mm)
 D_p : 杭径 (鋼管径) (mm)

図1-2 羽根の概要図（開口タイプ）



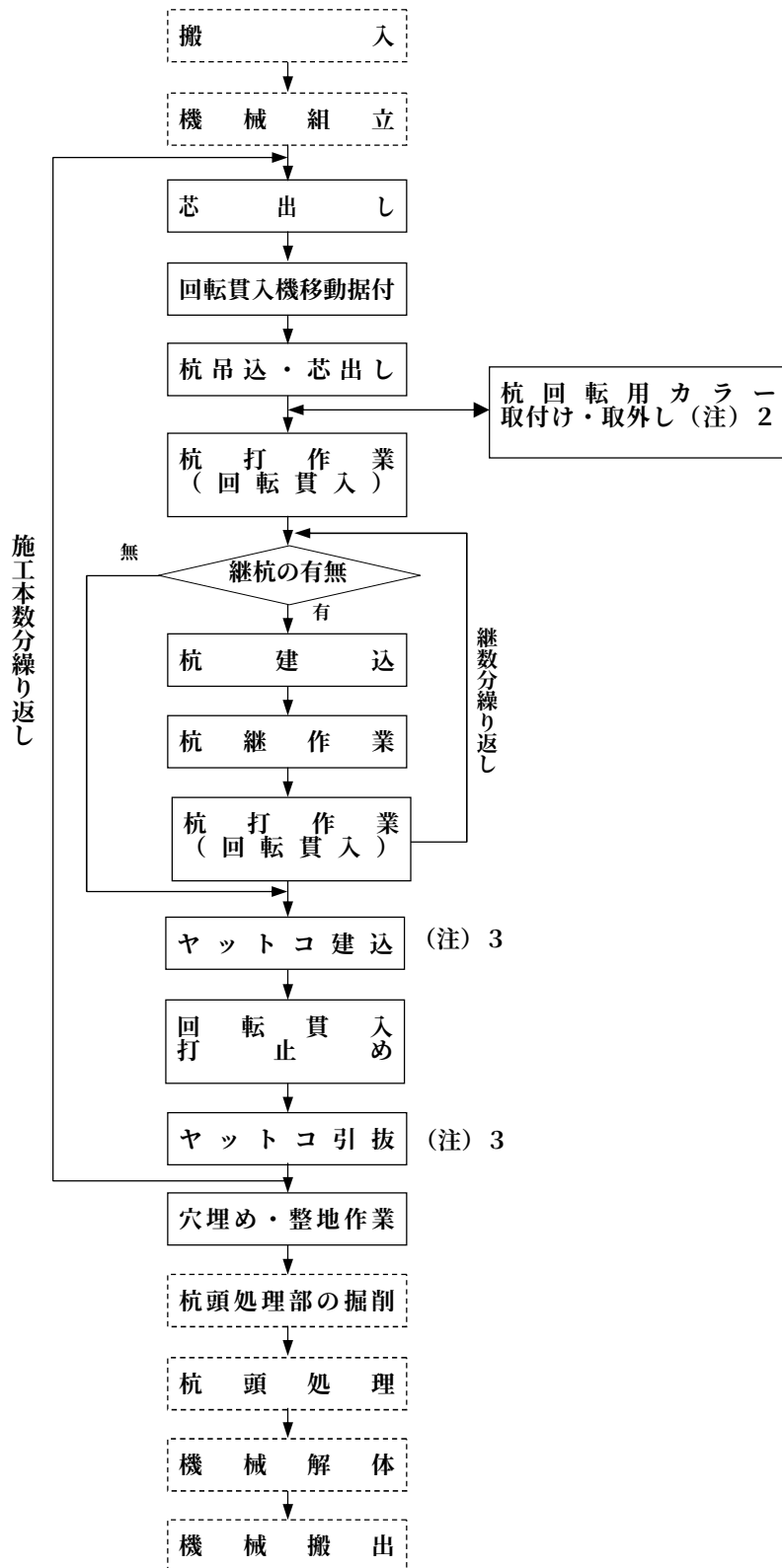
$$D_w = D_p \times 1.5$$

D_w : 羽根外径 (mm)
 D_p : 杭径 (鋼管径) (mm)

図1-3 羽根の概要図（開端タイプ）

2. 施 工 概 要

回転杭工は、先端部に羽根を有する鋼管杭に全回転型オールケーシング掘削機（回転杭用）（回転貫入機）により回転力を付与して、地中に貫入させる工法である。施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

2. 開端タイプを採用する場合

3. ヤットコは必要により施工する。

4. 杭頭処理は「第Ⅱ編第3章①鋼管・既製コンクリート杭打工（パイルハンマ工）」により別途計上する。

図 2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3. 1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
回 転 貫 入	全回転型 オールケーシング 掘削機(回転杭用)	ケーシングドライバ(スキッド 式・ディーゼル/油圧駆動) 最大掘削径2,000mm 排出ガス対策型(第3次基準値)	台	1	
回転貫入機移動 据付, 杭建込, ヤットコ建込	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 100 t 吊 排出ガス対策型(第3次基準値)	〃	1	
杭回転用カラー 取付け・取外し	クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9 t 吊 排出ガス対策型(第3次基準値)	〃	1	(注) 1 (注) 2
穴 埋 め ・ 整 地 作 業	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	1	(注) 1

- (注) 1. バックホウ、クローラクレーン(4.9 t 吊)は、賃料とする。
 2. 開端タイプを採用する場合には、クローラクレーン(4.9 t 吊)を計上する。
 3. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 4. 1 編成人員 (人)

職種	土木一般 世 話 役	とび工	特殊作業員	普通作業員	溶接工*
編 成 人 員	1	1	1	1	2 (1)

- (注) 1. 鋼管杭径800mmの場合は、() 内の数値を計上する。
 2. 継杭を施工しない場合は、溶接工は計上しない。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭10本当りの施工日数 (T_d)

杭10本当りの施工時間T_dは、次式による。

$$T_d = \alpha \times \beta \times T_a$$

α：土質係数

β：板厚係数

T_a：杭径別施工日数（日/10本）

（ヤットコの有無にかかわらず使用できるものとする。）

（1）土質係数（α）

表 5. 1 土質係数（α）

N 値の範囲	20未満	20以上40未満	40以上
土質係数	1.00	1.20	1.51

（注）N値は掘削層の加重平均とする。

（2）板厚係数（β）

表 5. 2 板厚係数（β）

最小板厚	12mm	14mm	16mm
板厚係数	1.00	1.08	1.16

（注）板厚の異なる継杭の場合は、最小板厚の板厚係数とする。

（3）杭径別施工日数（T_a）

表 5. 3 杭径別施工日数（T_a）

（日/10本）

掘削長（m）	杭径				
	800mm	900mm	1,000mm	1,100mm	1,200mm
7m以上 16m以下	5.57	5.77	6.05	6.33	6.61
16mを超え 32m以下	10.11	10.67	11.37	12.07	12.77
32mを超え 48m以下	14.65	15.56	16.68	17.81	18.94

5-2 諸雑費

回転杭工の諸雑費は、鋼管吊具、カウンタウェイト、回転反力装置、ヤットコ、チャックプレート、定規鉄板、施工管理装置、溶接機の損料、溶接ワイヤー及び銅バンドの材料費、足場材（敷鉄板）の賃料及び設置・撤去・移設、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、ヤットコ及び溶接機の有無にかかわらず、本諸雑費率を適用できる。

表 5. 4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	7

6. 単 価 表

(1) 杭10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230110
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$1 \times T_d$	表4.1	
と び 工		〃	$1 \times T_d$	〃	
特 殊 作 業 員		〃	$1 \times T_d$	〃	
普 通 作 業 員		〃	$1 \times T_d$	〃	
溶 接 工		〃	$2 (1) \times T_d$	表4.1 (注) 2	
杭		本	10		
全 回 転 型 オ ー ル ケ ー シ ン グ 掘 削 機 (回 転 杭 用) 運 転	ケーシングドライバ (スキッド式・ディーゼル/油圧駆動) 最大掘削径 2,000mm 排出ガス対策型 (第3次基準値)	日	T_d	機械損料	
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 100t吊 排出ガス対策型 (第3次基準値)	〃	T_d	機械損料	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊 排出ガス対策型 (第3次基準値)	〃	T_d	機械賃料 (注) 3	
バックラホ運 (クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	T_d	機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表5.4	
計					

- (注) 1. T_d : 杭10本当り施工日数 (日/10本)
 2. 鋼管杭径800mmの場合は、() 内の数値を計上する。
 3. 開端タイプを採用する場合は、クローラクレーン (4.9t吊) を計上する。

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
全 回 転 型 オールケーシング 掘 削 機 (回 転 杭 用)	ケーシングドライバ(スキッド式・ ディーゼル/油圧駆動) 最大掘削径2,000mm 排出ガス対策型(第3次基準値)	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 174 機械賃料損料数量→ 1.48
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 100 t 吊 排出ガス対策型(第3次基準値)	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 94 機械賃料損料数量→ 1.51
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9 t 吊 排出ガス対策型(第3次基準値)	機-28	運転労務数量→ 0.18 燃料消費量→ 2.1 機械賃料数量→ 1.64
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	機-28	運転労務数量→ 0.28 燃料消費量→ 11 機械賃料数量→ 1.59

(注) 1. 開端タイプを採用する場合は、クローラクレーン(4.9 t 吊)を計上する。

7. 施工単価入力基準表

(1) 回転杭工

施工歩掛コード	WB230110		施 工 単 位	本		
施工区分	入力条件					
各種	J1	J2	J3	J4	J5	J6
	羽根区分	継杭の有無	N値範囲	最小板厚	杭径区分	掘削長
	①開口タイプ ②開端タイプ	①有 ②無	(表7.1)	(表7.2)	(表7.3)	(表7.4)

1. J3 条件は、掘削層の加重平均により選択すること。
2. J4 条件で板厚の異なる継杭の場合には、最も薄い板厚の数値を選択すること。
3. 本コードはクローラクレーン、バックホウの低騒音型にも適用できる。
4. 鋼管杭単価(Y-0010001) [円/本]を単価登録すること。
5. バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)、排出ガス対策型(第2次基準値)を使用する場合は、別途考慮すること。
6. クローラクレーン(油圧伸縮ジブ型 4.9t 吊)の普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)、排出ガス対策型(第2次基準値)を使用する場合は、別途考慮すること。
7. 杭頭処理は「第Ⅱ編第3章①鋼管・既製コンクリート杭打工(パイルハンマ工)」により別途計上すること。

表 7. 1 N値範囲

N値	入力番号
N<20	①
20≤N<40	②
40≤N	③

表7.2 最小板厚

最小板厚	入力番号
12mm	①
14mm	②
16mm	③

表7.3 杭径区分

杭径	入力番号
800mm	①
900mm	②
1,000mm	③
1,100mm	④
1,200mm	⑤

表7.4 掘削長

掘削長	入力番号
7m以上16m以下	①
16mを超え32m以下	②
32mを超え48m以下	③

①－５ 杭頭処理工

１．適用範囲

本資料は、杭破砕機による杭径300mm以上800mm以下の既製コンクリート杭（PHC杭，RC杭）の杭頭処理のうち剛結合を目的とするカットオフ工の施工に適用する。

２．施工歩掛

既製コンクリート杭のカットオフ工歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 カットオフ工歩掛 (杭10本当たり)

名 称	規 格	単位	杭 径 (mm)		
			杭径 φ300～450mm	杭径 φ500～600mm	杭径 φ700～800mm
特殊作業員		人	1.7	2.9	4.1
杭破砕機	杭径300～600mm	日	0.50	0.83	—
	杭径700～1,000mm		—	—	1.20
諸 雑 費 率		%	18		

- (注) １．本歩掛には廃材処理費は含まれていないので、別途計上する。
 ２．諸雑費は、溶断器の損料及びアセチレン、酸素等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

３．単 価 表

(１) 既製コンクリート杭カットオフ工10本当たり単価表

		施工歩掛コード		WB231910
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特殊作業員		人		表2.1
杭破砕機運転		日		表2.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	表2.1
計				

(２) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
杭破砕機	杭径300～ 600mm 杭径700～1,000mm	機－12	主 燃 料→ガソリン 燃料消費量→1.3

4. 施工単価入力基準表

(1) 既製コンクリート杭カットオフ工

施工歩掛コード	WB231910	施工単位	本
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1		
各種	杭径の規格 (表4.1)		

表4.1 杭径の規格

杭 径	入力番号
φ300～450mm	①
φ500～600mm	②
φ700～800mm	③

② 場所打杭工

②－１オールケーシング工・全回転式オールケーシング工

1. 適用範囲

本資料は、掘削長40m以下、杭径1,000～1,500mmの揺動型オールケーシング工法、杭径1,000～2,000mmの全回転式オールケーシング工法による場所打杭の施工に適用する。

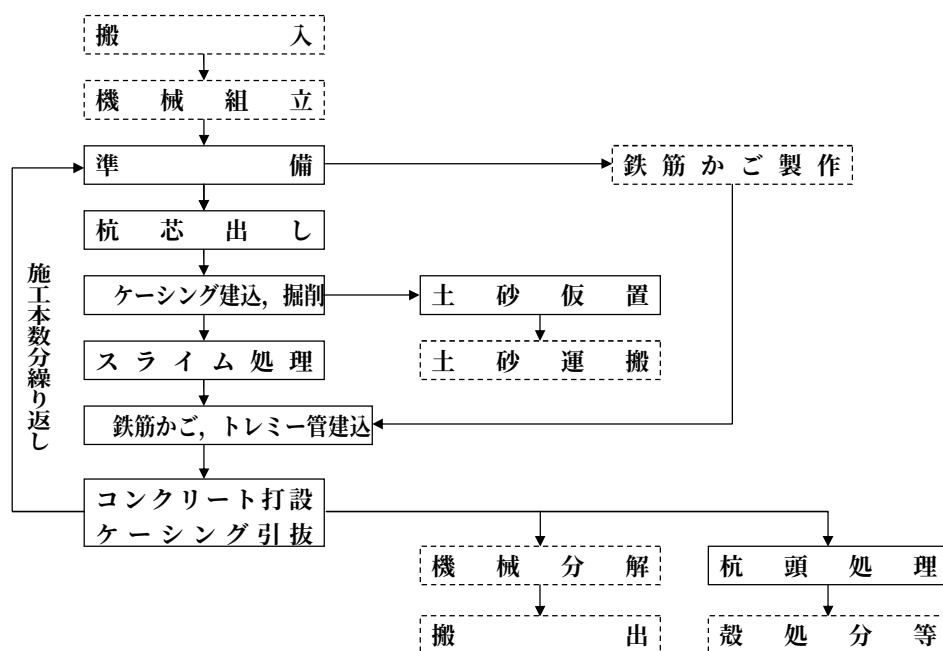
2. 施工概要

オールケーシング工法は、打込準備（敷鉄板の設置・撤去含む）を行ったのち、杭芯出しを行い、ケーシングチューブを建込み、ケーシングチューブを押込みながらハンマクラブによって土砂及び岩砕の搬出を行う。

支持層に達したことを確認した後、孔内清掃（スライム処理）、鉄筋建込を行い、さらにトレミー管によりコンクリートを打設しながらケーシングパイプを引抜くことによって杭を施工する。

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



（注） 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2－1 施工フロー

3. 機種の選定

3-1 機種選定の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種選定の選定

作業種別	機械名	規格	単位	揺動式	全回転式	摘要
	揺動型オールケーシング掘削機	クローラ式	台	1	-	図3-1
	全回転型オールケーシング掘削機	ケーシングドライバ(スキッド式・ディーゼル/油圧駆動)	〃	-	1	図3-2
鉄筋かご、ケーシング、トレミー管建込、敷鉄板設置・撤去、掘削作業	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 50～55t吊	〃	1	-	
掘削機設置・撤去、鉄筋かご、ケーシング、トレミー管建込、敷鉄板設置・撤去、掘削作業	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 60～65t吊	〃	-	1	
杭周り・機械周り整地、杭穴の埋戻整地、掘削土集土	バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	〃	1	1	

- (注) 1. 掘削土砂は、掘削機よりベッセルに排土し、クローラクレーンで旋回範囲内に仮置きし、水切りした後に運搬するものを標準とする。
 2. 掘削土処理については、「第Ⅱ編第1章②土工」により、別途計上する。
 3. 岩塊・玉石・軟岩・硬岩を含む場合は、全回転型オールケーシング掘削機を選定する。また、現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。
 4. バックホウは、賃料とする。

3-2 掘削機の規格

掘削機の規格は、杭径及び掘削長により次図を標準とする。また、現場条件により次図により難い場合は、別途考慮する。

① 揺動型オールケーシング掘削機

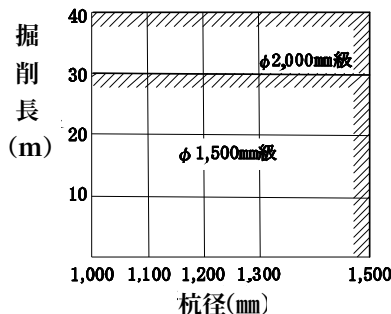


図3-1 掘削機別選定

② 全回転型オールケーシング掘削機

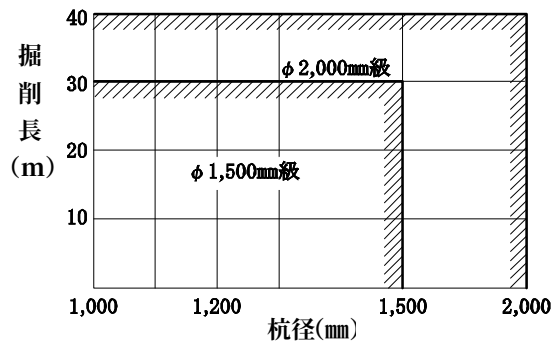


図3-2 掘削機別選定

4. 編成人員

掘削機1台に対する編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員

(人/台)

職種	土木一般世話役	とび工	特殊作業員	普通作業員
編成人員	1	1	1	1

(注) 上表は、掘削、鉄筋かご建込、コンクリート打設等及びその準備等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

5. 施工歩掛

5-1 杭1本当りの施工日数D_cは、次式による。

$$D_c = \alpha \times D_{c1}$$

D_c : 杭1本当り施工日数(日/本)

α : 土質係数

D_{c1} : 掘削長別杭1本当り施工日数(日/本)

5－2 土質係数（α）

表5.1 土質係数（α）

掘 削 機	揺動型オールケーシング掘削機	全回転型オールケーシング掘削機		
土 質	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	レキ質土 粘性土 砂及び砂質土	岩塊・玉石 軟 岩	硬 岩 中硬岩
土 質 係 数	1.00	1.00	1.80	2.80

（注） 1. 土質係数αは、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。

$$\alpha = \frac{(\alpha 1 \times \ell 1) + (\alpha 2 \times \ell 2) + \cdots}{\ell 1 + \ell 2 + \cdots}$$

ここで、α n：各土質の土質係数
ℓ n：各土質の掘削長（m）

（例）全回転型オールケーシング掘削機

掘削長20m（レキ質土，粘性土，砂及び砂質土15m，硬岩 5 m）の場合

$$\alpha = \frac{(1.00 \times 15) + (2.80 \times 5)}{15 + 5} = 1.45 \quad 1.5$$

2. αは、小数点第1位とし、小数点第2位を四捨五入する。

5－3 掘削長別杭1本当り施工日数（D_{CL}）

表5.2 1本当り施工日数（日／本）

掘 削 長	揺動型オールケーシング掘削機	全回転型オールケーシング掘削機
0 < ℓ ≤ 5	0.43	0.56
5 < ℓ ≤ 10	0.59	0.74
10 < ℓ ≤ 15	0.77	0.93
15 < ℓ ≤ 20	0.96	1.13
20 < ℓ ≤ 25	1.17	1.34
25 < ℓ ≤ 30	1.41	1.56
30 < ℓ ≤ 35	1.66	1.78
35 < ℓ ≤ 40	1.92	2.02

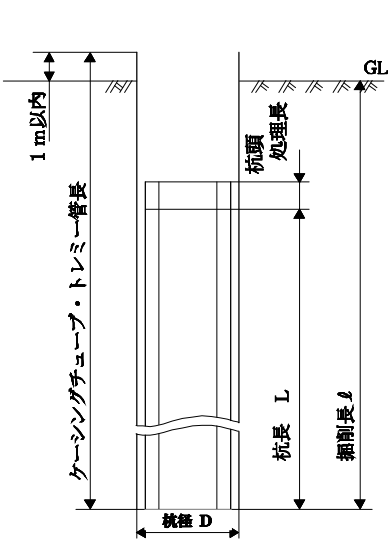


図5－1 施工図（揺動式）

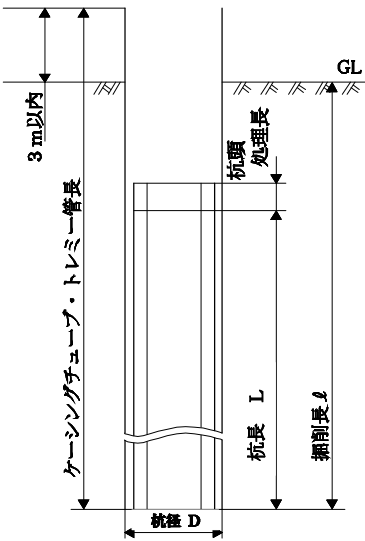


図5－2 施工図（全回転式）

5-4 材料の使用量

杭1本に必要なコンクリート使用量は、次式による。

$$Q = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times L \times (1 + K)$$

Q：杭1本当りのコンクリート使用量（m³/本）

D：杭径（m）

L：杭長（m）

K：ロス率

コンクリート使用量のロス率（損失＋杭頭処理分を含む）は、次表とする。

表5.3 ロス率(K)

ロ ス 率	+0.08

5-5 杭頭処理

杭1本当り杭頭処理歩掛は、次表とする。

表5.4 杭頭処理歩掛 (1本当り)

名 称	単位	数量
土木一般世話役	人	0.2
特 殊 作 業 員	〃	0.4
普 通 作 業 員	〃	0.2
諸 雑 費 率	%	20

- (注) 1. 諸雑費は、空気圧縮機運転（排出ガス対策型）、コンクリートブレーカ損料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 殻処分費が必要な場合は、別途計上する。
3. 殻積込については、「第Ⅱ編第2章⑭構造物とりこわし工」により、別途計上する。
4. 殻運搬については、「第Ⅱ編第2章⑮殻運搬」により、別途計上する。

5-6 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①－1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

5-7 諸雑費

基礎杭工の諸雑費は、施工機械足場用の足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設、ハンマグラブ、ケーシングチューブ、ハンマクラウン、ブランジャ、ベッセル、スラッシュタンク、トレミー管、コンクリート打込スロープ、工事用水中モータポンプの損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費、運転経費及び機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する（杭頭処理の労務費は含まない）。

また、全回転型オールケーシング掘削機の諸雑費には、ビット等の損耗費用を含むものとする。

表5.5 諸雑费率 (%)

揺 動 式	19
全 回 転 式	22

6. 単 価 表

(1) 基礎杭工1本当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要	施工歩掛コード	
					WB230310	WB230320
土 木 一 般 世 話 役		人	1×D _c	表4.1	○	
と び 工		〃	1×D _c	〃	○	
特 殊 作 業 員		〃	1×D _c	〃	○	
普 通 作 業 員		〃	1×D _c	〃	○	
掘 削 機 運 転		日	D _c		○	
クローラクレーン運転		〃	D _c	機械損料	○	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転		〃	D _c	機械賃料	○	
杭 頭 処 理		本	1	必要により計上する。	○	
コ ン ク リ ー ト		m ³				○
鉄 筋 工		t				○
殻 積 込		m ³	D	必要により計上する。 (CB224260)	○	
殻 運 搬 費	D T 10 t 積級	m ³	D	必要により計上する。 (CB227010)	○	
処 分 費		〃	D	必要により計上する。	○	
諸 雑 費		式	1	表5.5	○	
計						

(注) D_c：杭1本当り施工日数 (日/本)

D：杭頭処理量 (m³/本)

(2) 杭頭処理1本当り単価表

				施工歩掛コード	WB230350
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表5.4	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
諸 雑 費		式	1	〃	
計					

(3) 機械運転単価表

工 法	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
揺 動 式	揺動型 オールケーシング掘削機	クローラ式 最大掘削径φ1,500mm 最大掘削径φ2,000mm	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 119 機械損料数量→ 1.40
	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 69 機械損料数量→ 1.29
	バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-28	運転労務数量→ 0.80 燃料消費量→ 28 機械賃料数量→ 1.48
全 回 転 式	全 回 転 型 オールケーシング掘削機	ケーシングドライバ (スキッド式・ ディーゼル/油圧駆動) 最大掘削径φ1,500mm	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 75 機械損料数量→ 1.45
		ケーシングドライバ (スキッド式・ ディーゼル/油圧駆動) φ2,000mm	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 103 機械損料数量→ 1.45
	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 60～65t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 88 機械損料数量→ 1.38
	バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-28	運転労務数量→ 0.80 燃料消費量→ 29 機械賃料数量→ 1.60

7. 施工単価入力基準表

(1) ベント掘削機械経費(複合単価表)

施工歩掛コード		WB230310		施工単位		本							
施工区分		入 力 条 件											
		J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
各 種	掘削機の規格	杭1本当り掘削長区分 											

- (注) 1. 本コードは、杭頭処理により発生するコンクリート殻積込費用を含んでおり、積込みの有無にかかわらず適用出来る。なお、杭頭処理量は、適宜判断しJ12条件に実数入力する。
2. J1条件で①、③を選択した場合、J2条件の⑦、⑧は選択出来ない。
3. J1条件で①、②を選択した場合は、J3～J5条件の入力は必要ない。
4. J6条件で②を選択した場合は、J7条件～J12条件の入力は必要ない。
5. J7条件で①を選択した場合は、殻処分費(Y-7600000) [円/㎡]を単価登録すること。なお、殻処分費の管理費区分は「T」を設定している。
6. J9条件で②を選択した場合は、J10条件及びJ11条件の入力は必要ない。
7. 殻運搬は、殻発生作業を「コンクリート(無筋・鉄筋)構造物とりこわし」、積込工法区分を「機械積込」、で固定している。
8. 本コードは、ベント掘削機運転、杭頭処理(WB230350)、杭頭処理に伴う殻積込(CB224260)、殻運搬(CB227010)、処分(WB020051)の複合となっている。
9. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
10. 本コードは、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準)についても適用出来る。

表7.1 杭1本当たり掘削長区分

掘削長区分(L)	入力番号
0m < L ≤ 5m	①
5m < L ≤ 10m	②
10m < L ≤ 15m	③
15m < L ≤ 20m	④
20m < L ≤ 25m	⑤
25m < L ≤ 30m	⑥
30m < L ≤ 35m	⑦
35m < L ≤ 40m	⑧

表7.2 運搬距離

穀発生作業	コンクリート(無筋・鉄筋)構造物とりこわし				
積込工法区分	機械積込				
D I D区間：無し					
運搬距離 (km)	0.3以下	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	3.0以下	4.0以下	5.5以下	6.5以下	7.5以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	9.5以下	11.5以下	15.5以下	22.5以下	49.5以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離 (km)	60.0以下				
入力番号	⑯				
D I D区間：有り					
運搬距離 (km)	0.3以下	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離 (km)	3.0以下	3.5以下	5.0以下	6.0以下	7.0以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離 (km)	8.5以下	11.0以下	14.0以下	19.5以下	31.5以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離 (km)	60.0以下				
入力番号	⑯				

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは，平均値とする。

(2) ベルト杭体工(複合単価表)

施工歩掛コード		WB230320		施工単位		本					
施工区分		入 力 条 件									
各 種	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10	J11
	杭 径	杭 長	コン クリ ート 規 格	異形棒鋼 種 類	杭一本 当り鉄 筋量 (D 13)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 16)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 16 ～ 25)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 29 ～ 32)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 35)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 38)	杭一本 当り鉄 筋量 (D 41)
	D	L		①SD295A ②SD345							
	(mm)	(m)	(表.3)		(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)

各 種	J12	J13	J14	J15	J16	J17
	(D 51) 杭一本 当り鉄 筋量(t)	(各種) 杭一本 当り鉄 筋量(t)	施 工 規 模	時 間 制 約 を 受 け る 場 合 の 補 正	夜 間 作 業 補 正	太 径 鉄 筋 補 正
	(実数 入力)	(実数 入力)	①10t以上 (標準) ②10t未満	①有 ②無	①有 ②無	(表.4)

- (注) 1. 本コードは、コンクリート(WB230340)、鉄筋工(WB810010)の複合となっている。
なお、鉄筋工は、規格・仕様区分を場所打杭用かご筋で設定している。
2. 鉄筋かごを無溶接工法にて加工・組立する場合及びJ4条件①②以外の異形棒鋼種類を使用する場合は、本コードで対応出来ないため、コンクリート(WB230340)を適用し、鉄筋工は別途考慮すること。
3. J4条件で①を選択した場合、J7～J12条件は入力出来ない。
4. J4条件で②を選択した場合、J6条件は入力出来ない。
5. J13条件を入力した場合は、鉄筋コンクリート用棒鋼単価(Y-0004000) [円/t] を単価登録すること。
6. J3条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
7. 本コードはコンクリート及び鉄筋の材料補正を含む。
8. J14条件で②を選択した場合は、J15条件は選択出来ない。
9. J17条件の補正を行う場合は、1単位当り構造物に使用する全ての鉄筋規格において、同じ補正を行うこと。

表7.3 コンクリート規格

コ ン ク リ ー ト 規 格				入力番 号
30-18-25	セメント量350kg/m³以上	W/C55%以下	普通ポルトランドセメント	①
30-18-25	セメント量350kg/m³以上	W/C55%以下	高炉B	②
30-18-40	セメント量350kg/m³以上	W/C55%以下	普通ポルトランドセメント	③
30-18-40	セメント量350kg/m³以上	W/C55%以下	高炉B	④
生コンクリート各種(Y-0210000)				⑤

表 7. 4 太径鉄筋補正

太径鉄筋の割合	入力番号
10%未満 (補正無)	①
10%以上20%未満	②
20%以上40%未満	③
40%以上	④

(3) ペノト杭コンクリート (材料)

施工歩掛コード	WB230340	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	杭 径 D	杭 長 L	コ ン ク リ ー ト 規 格
	(mm)	(m)	(表7.3)

(注) 1. J 3 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。

2. 本コードは、コンクリートの材料補正を含む。

(4) 杭頭処理 (ペノト杭)

施工歩掛コード	WB230350	施工単位	本

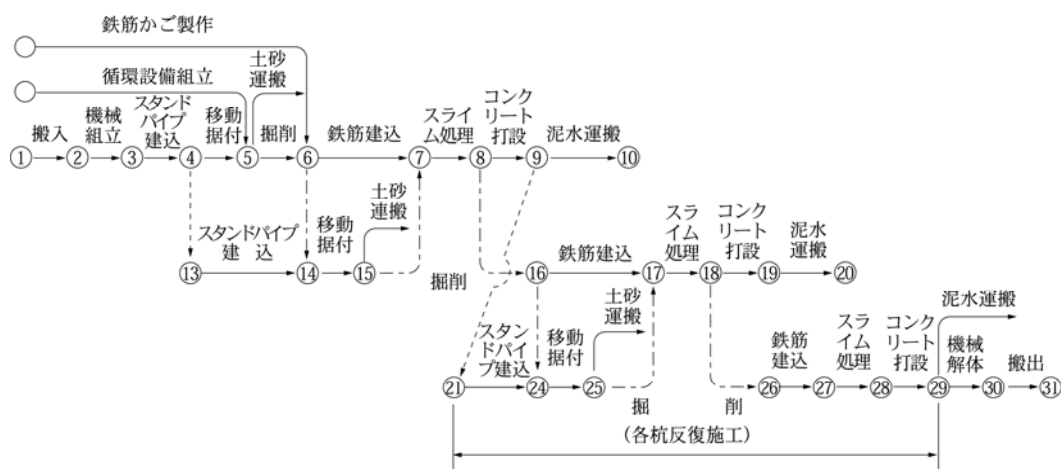
②ー2 リバースサーキュレーション工

1. 適用範囲

本資料は、リバースサーキュレーションによる場所打杭工の施工に適用する。なお、揚水方式はポンプサクショ方式とし、杭径は800～2,000mm、掘削長は70mまでとする。施工方法はA工法（クローラクレーン2台による施工）を標準とし、作業面積、障害物等によりクローラクレーン2台を常時使用して作業することが不可能な場合はB工法（クレーン1台施工）とする。

工法別作業順序

(A工法)



(B工法)

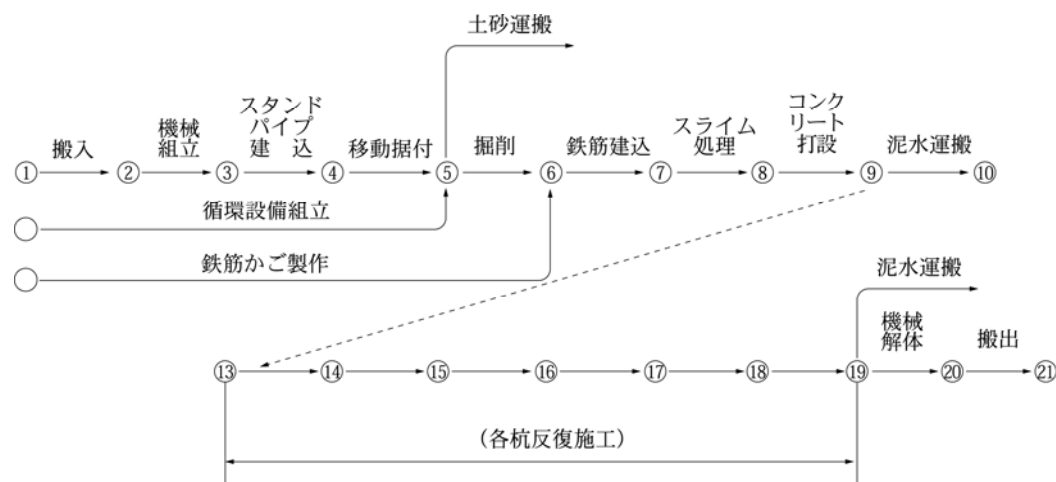


図1-1 工法別作業順序

2. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量		摘 要
				A工法	B工法	
	リバースサーキュレーションドリル	ロータリテーブル式, 最大掘削径3,200mm, 最大掘削長200m	台	1	1	
	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 40t吊	〃	2	1	(注)
スタンドパイプ 施工用	油 圧 式 鋼 管 引 拔 機	4本ジャッキ式(各種)	〃	1	1	
掘削土処理用	バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	1	1	(注)
	スラッシュタンク		槽	必要量	必要量	

(注) クローラクレーン、バックホウは、賃料とする。

3. 編 成 人 員

掘削機1台に対する編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 編成人員

(人/台)

職種	土木一般世話役	特 殊 作 業 員	と び 工	普 通 作 業 員
A 工 法	1	1	2	2
B 工 法	1	1	2	1

(注) この人員は、掘削機操作、水中ポンプ操作、鉄筋かご建込、コンクリート打設等を含んだ一連の作業にたずさわる人員である。

4. 施 工 歩 掛

4-1 掘削長杭径別杭1本当り施工日数(d₁)

(1) 掘削長杭径別杭1本当り施工日数は、次表による。

表4.1 掘削長杭径別杭1本当り施工日数(d₁)

(日/本)

杭径(mm) 掘削長(m)	800≦D≦1,100	1,100<D≦1,400	1,400<D≦1,700	1,700<D≦2,000
0<L ₁ ≦10	0.51	0.55	0.59	0.63
10<L ₁ ≦20	0.69	0.81	0.93	1.05
20<L ₁ ≦30	0.87	1.07	1.27	1.47
30<L ₁ ≦40	1.05	1.33	1.61	1.90
40<L ₁ ≦50	1.23	1.59	1.96	2.32
50<L ₁ ≦60	1.41	1.85	2.30	2.74
60<L ₁ ≦70	1.59	2.11	2.64	3.16

(注) 上表には、準備、リバース機による掘削、スタンドパイプ建込部掘削、スタンドパイプ建込・引抜き、鉄筋かご建込、トレミー管建込、コンクリート打設を含む。

(2) 杭N本当り施工日数は、次式による。

$$d = d_1 \times N \times \gamma \quad (\text{日})$$

d : 掘削長杭径別杭N本当り施工日数(日)

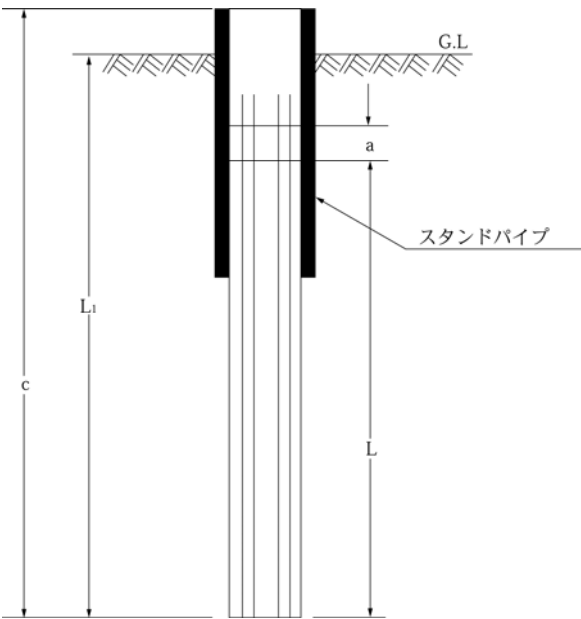
d₁ : 掘削長杭径別杭1本当り施工日数(日/本)

N : 施工本数(本)

γ : 施工係数

表4.2 施工係数(γ)

工 法	A 工 法	B 工 法	
杭 径(mm)	800以上2,000以下	1,400以下	1,400を超える
係 数	1	1.70	1.47



L : 杭長
L₁ : 掘削長
a : 杭頭処理長
c : トレミー管建込長

図 4－1 施工図

4－2 杭 1 本の施工に要する各機械の供用日数及び運転日数

(1) 掘削機（リバースサーキュレーションドリル）の供用日数

$d_R = 1.51 \times \gamma \times \delta \times d_1$ (供用日／本)
 d_R : 掘削機（リバースサーキュレーションドリル）の供用日数（供用日／本）
 γ : 施工係数（表 4. 2）
 δ : 掘削係数（表 4. 3）
 d_1 : 掘削長杭径別杭 1 本当り施工日数（日／本）

表 4. 3 掘削係数(δ)

杭 径(mm)	1,400以下	1,400を超える
掘削係数	0.70	0.80

(2) クローラクレーンの運転日数

$d_{C1} = \gamma \times \varepsilon_1 \times d_1$ (日／本)
 $d_{C2} = \gamma \times \varepsilon_2 \times d_1$ (日／本)
 d_{C1} : クローラクレーン運転日数（1 台目）
 d_{C2} : " (2 台目)
 γ : 施工係数（表 4. 2）
 ε_1 : クレーン係数（表 4. 4）
 ε_2 : "
 d_1 : 掘削長杭径別杭 1 本当り施工日数（日／本）

表 4. 4 クレーン係数(ε₁, ε₂)

係 数	工 法	杭径1,400mm以下	杭径1,400mmを超える
ε ₁	A, B工法	0.99	
ε ₂	A工法	0.99	0.68

(3) 油圧式鋼管圧入引抜機の供用日数

$$d_H = 1.51 \times \gamma \times d_1 \text{ (供用日/本)}$$

d_H : 油圧式鋼管圧入引抜機の供用日数 (供用日/本)

γ : 施工係数 (表4. 2)

d_1 : 掘削長杭径別杭1本当り施工日数 (日/本)

(4) バックホウの運転日数

$$d_B = 1.09 \times \gamma \times \delta \times d_1 \text{ (日/本)}$$

d_B : バックホウの運転日数 (日/本)

γ : 施工係数 (表4. 2)

δ : 掘削係数 (表4. 3)

d_1 : 掘削長杭径別杭1本当り施工日数 (日/本)

なお、この日数には、沈殿池の掘削、残土処理、簡単な作業足場敷均し等の全てを含む。

4-3 労務歩掛

(1) 表3.1に示す作業員等の杭1本当り労務歩掛 (M) は、次式による。

$$M = \gamma \times d_1 \times n \text{ (人/本)}$$

M : 作業員等の杭1本当り労務歩掛 (人/本)

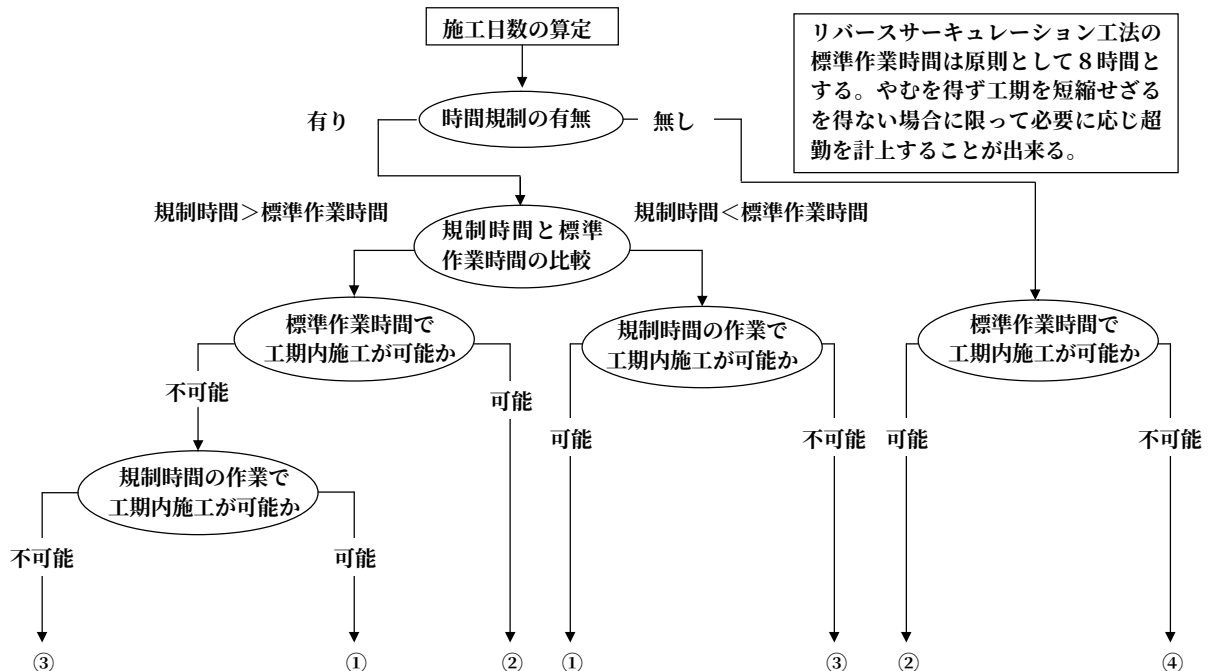
γ : 施工係数 (表4. 2)

d_1 : 掘削長杭径別杭1本当り施工日数 (日/本)

n : 編成人員 (人)

(2) ダンプトラックの運転労務は、「第I編第6章①建設機械運転労務」による。

4-4 施工日数算定にあたってのフロー



- ① 規制時間内施工で積算する。
- ② 標準時間作業時間 (8 時間) で積算する。
- ③ パーティ数を考慮して積算する。
- ④ 超勤及びパーティ数を考慮して積算する。

5. 杭1本当りコンクリート使用量

杭1本当りに必要なコンクリート使用量は、次式による。

$$Q = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times L \times (1 + K) \text{ (m}^3\text{/本)}$$

Q：杭1本当りコンクリート使用量 (m³/本)

D：杭径 (m)

L：杭長 (m)

K：コンクリートロス率

コンクリート量のロス（ロス＋杭頭処理部分を含む）は、次表とする。

表5.1 コンクリートのロス率(K)

ロ ス 率	+0.12

6. 鉄 筋 工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①－1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

なお、無溶接工法により鉄筋かごを組立・加工する場合は、「第Ⅵ編第2章①－1鉄筋工（太径鉄筋含む）」の適用範囲外になるので別途考慮する。

7. 掘削土及び泥水処理

（1）掘削土の運搬が必要な場合は、ダンプトラック（オンロード・ディーゼル10t積級）を別途計上する。

（2）掘削土の産業廃棄物処理費が必要な場合は、別途計上する。

（3）泥水処理費が必要な場合は、別途計上する。

8. 諸 雑 費

杭1本当たりの諸雑費は、鉄筋かご建込時の溶接材、ブランジャ・スタンドパイプ・トレミー管・電気溶接機・ドリルパイプ・サクショホース・デリバリーホース・工事用水中モータポンプ・三翼ビット・ハンマグラブ及びハンマクラウンの損料、足場材（敷鉄板）賃料及び設置・撤去・移設に関する経費、電力に関する経費、杭頭処理等の費用であり労務費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表8.1 諸雑费率 (%)

工 法	A工法・B工法
諸 雑 費 率	31

9. 単価表及び内訳書

(1) 基礎杭工1本当たり内訳書

施工歩掛コード				WB230410
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\gamma \times d_1 \times n$	表3.1, 表4.1, 表4.2
特 殊 作 業 員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
と び 工		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\gamma \times d_1 \times n$	〃
油 圧 式 鋼 管 掘 削 機	4本ジャッキ式（各種）	供用日	$1.51 \times \gamma \times d_1$	表4.1, 表4.2 機械損料
リバースサーキュレリションドリル	ロータリテーブル式 最大掘削径3,200mm 最大掘削長200m	〃	$1.51 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1, 表4.2, 表4.3 機械損料
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 40t吊	日	$\gamma \times \varepsilon_1 \times d_1$	表4.1, 表4.2, 表4.4 機械賃料
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 40t吊	〃	$\gamma \times \varepsilon_2 \times d_1$	表4.1, 表4.2, 表4.4 機械賃料
バックハウ（クローラ型）運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	$1.09 \times \gamma \times \delta \times d_1$	表4.1, 表4.2, 表4.3 機械賃料
コ ン ク リ ー ト		m ³		単価表(2)
鉄 筋 工		t		別途計上
ダンプトラック運転	オンロード・ディーゼル 10t積級	h		別途計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	表8.1
計				

(注) 1. 諸雑費の対象額には、鉄筋工、コンクリート材料費、ダンプトラック運転は含まれない。

2. スラッシュタンクは、別途計上する。

3. クローラクレーン、バックハウは、賃料とする。

4. γ : 施工係数

d_1 : 掘削長杭径別杭1本当たり施工日数

n : 編成人員

δ : 掘削係数

ε_1 : クレーン係数

ε_2 : クレーン係数

(2) コンクリート工杭1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB230420
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
コ ン ク リ ー ト		m ³		
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) コンクリート数量については、「5. 杭1本当りコンクリート使用量」を参照。

(3) スラッシュタンク杭1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB230430
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ス ラ ッ シ ュ タ ン ク		供用日	$1.51 \times \gamma \times d_l$	表4.1,4.2 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) スラッシュタンクは各規格毎に必要量を計上する。

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	機-28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 45 機械賃料数量→ 1.28
ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 40t吊	機-27	燃料消費量→ 52 機械賃料数量→ 1.00

10. 施工単価入力基準表

(1) リバース杭体工

施工歩掛コード	WB230410	施工単位	本	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	工法	杭径(D) (mm)	掘削長区分 (L ₁)	クローラクレーン 賃料補正係数
	①A工法			①標準
	②B工法	(実数入力)	(表10.2)	②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、クローラクレーン、バックホウの低騒音機種についても、適用出来る。
 2. 本コードは、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）についても、適用出来る。
 3. クローラクレーン、バックホウは、賃料とする。
 4. クローラクレーンの賃料補正（夜間作業）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

表10.1 杭径区分

リバース杭径 (mm)	入力番号
$800 \leq D \leq 1,100$	①
$1,100 < D \leq 1,400$	②
$1,400 < D \leq 1,700$	③
$1,700 < D \leq 2,000$	④

表10.2 掘削長区分

掘削長 (m)	入力番号
$0 < L_1 \leq 10$	①
$10 < L_1 \leq 20$	②
$20 < L_1 \leq 30$	③
$30 < L_1 \leq 40$	④
$40 < L_1 \leq 50$	⑤
$50 < L_1 \leq 60$	⑥
$60 < L_1 \leq 70$	⑦

(2) コンクリート工

施工歩掛コード	WB230420	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	杭径 (mm) (実数入力)	杭長 (m) (実数入力)	コンクリート 規格区分 (表10.3)

- (注) 1. 本コードは、コンクリートの材料補正を含む。
 2. J 3 条件で⑤を選択した場合には、各種（Y-0210000）にコンクリートのm³当り単価を単価登録すること。

表10.3 コンクリート規格区分

コ ン ク リ ー ト 規 格		入力番号
30-15-25 (20)	セメント量350kg/m ³ 以上W/C55%以下 高炉B	①
30-15-40	セメント量350kg/m ³ 以上W/C55%以下 高炉B	②
30-18-40	普通ポルトランドセメント	③
30-18-40	高炉B	④
各種 (Y-0210000)		⑤

(3) スラッシュタンク

施工歩掛コード		WB230430	施工単位	本	
施工区分	入力条件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	工法	杭径区分 (D)	掘削長区分 (L ₁)	施工係数区分 (γ)	スラッシュタンク 10m ³ の有無
	①A工法	(表10.1)	(表10.2)	①γ=1.00	①有
	②B工法			②γ=1.47	②無
			③γ=1.70		

J 6	J 7	J 8	J 9	J 10
スラッシュタンク数 10m ³	スラッシュタンク 20m ³ の有無	スラッシュタンク数 20m ³	スラッシュタンク 30m ³ の有無	スラッシュタンク数 30m ³
(槽) (実数入力)	①有 ②無	(槽) (実数入力)	①有 ②無	(槽) (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 4 条件は①で固定される。
2. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で①、②を選択した場合は、J 4 条件は③で固定される。
3. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で③、④を選択した場合は、J 4 条件は②で固定される。
4. J 5 条件で②を選択した場合は、J 6 条件は入力する必要はない。
5. J 7 条件で②を選択した場合は、J 8 条件は入力する必要はない。
6. J 9 条件で②を選択した場合は、J 10 条件は入力する必要はない。

②－３ アースオーガ工・硬質地盤用アースオーガ工

1. 適用範囲

本資料は、掘削長30m以下、杭径350mm～600mmのアースオーガにより掘削注入を行うモルタル場所打杭の施工に適用する。

なお、適用土質は、レキ質土、砂及び砂質土、粘性土、岩塊・玉石、軟岩（Ⅰ）及び軟岩（Ⅱ）とする。

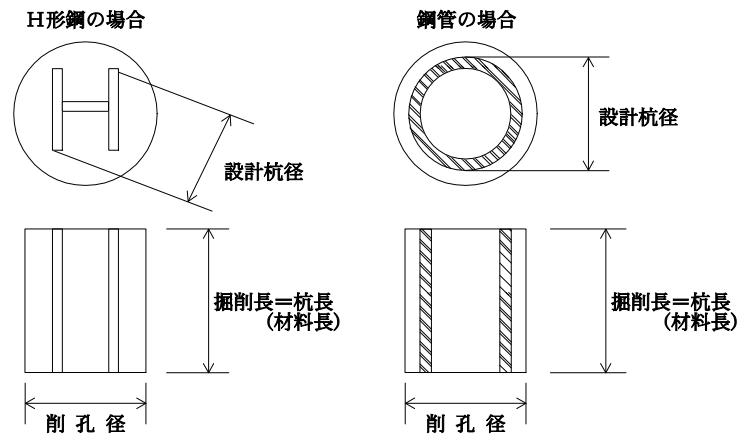
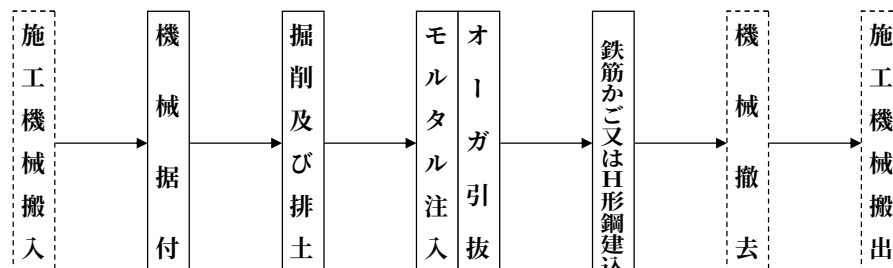


図1-1 施工図

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

3-1 機種選定の選定

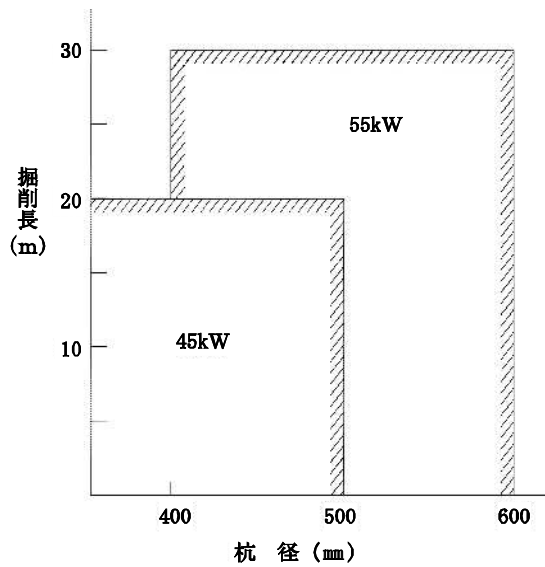
機械・規格の選定は、次表を標準とする。

表3.1 機種選定の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
	クローラ式アースオーガ	単軸式・直結三点支持式 リーダ長18～21m	台	1	アースオーガ出力は 図3-1による
鉄筋かご又は H形鋼の建込み	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 30～35t吊	〃	1	

3-2 アースオーガ

アースオーガの選定は、次図を標準とするが、現場条件により次図により難しい場合は別途考慮する。



(注) 杭径400mm以上で岩塊・玉石、軟岩(Ⅰ)、軟岩(Ⅱ)を連続して2m以上含む場合は、杭径掘削長にかかわらず、オーガ出力は90kWとする。

図3-1 アースオーガの選定

4. 編 成 人 員

掘削機1台に対する編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人/台)			
土木一般世話役	と	び	工 特 殊 作 業 員 普 通 作 業 員
1		2	1 1

(注) 掘削機、クレーンの運転労務は、「第Ⅰ編第6章①建設機械運転労務」により別途計上する。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭10本当り施工日数(d)

杭10本当り施工日数は、次式による。

$$d = \frac{\alpha \cdot d_a}{F} \quad (\text{日}/10\text{本})$$

d : 杭10本当り施工日数 (日/10本)

α : 土質係数

d_a : 杭径掘削長別杭10本当り施工日数 (日/10本)

F : 作業係数

(1) 土質係数 (α)

土質係数は、次表を標準とする。

表5.1 土質係数(α)

N値 \ 土質	土	岩塊・玉石	軟岩(I) 軟岩(II)
20 未 満	1.0	3.2	1.8
20 以 上	1.1		

- (注) 1. ここでいう「土」とは、レキ質土、粘性土、砂及び砂質土をいう。
 2. 土質係数αは、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。

$$\alpha = \frac{\alpha_1 \times \ell_1 + \alpha_2 \times \ell_2 + \dots}{\ell_1 + \ell_2 + \dots}$$

ここで、 α_n ：各土質の土質係数

ℓ_n ：各土質の掘削長(m)

(例) 土N値20以上の層5m、岩塊層5mの場合

$$\alpha = \frac{1.1 \times 5 + 3.2 \times 5}{5 + 5} = 2.15 \quad 2.2$$

(2) 杭径掘削長別杭10本当り施工日数 (d_a)

杭径掘削長別杭10本当り施工日数は、次表を標準とする。

表5.2 杭径掘削長別杭10本当り施工日数(d_a) (日/10本)

掘削長(m) \ 杭径(mm)	350以上 500以下	500を超え 600以下
10以下	1.3	1.4
10を超え14以下	1.7	1.8
14を超え18以下	2.0	2.2
18を超え22以下	2.8	2.9
22を超え26以下	3.1	3.3
26を超え30以下	3.4	3.7

(注) 杭径掘削長別杭10本当り施工日数には、準備時間、掘削時間、モルタル注入時間、鉄筋かご又はH形鋼建込及び継足し時間等を含む。

(3) 作業係数 (F)

作業係数は、次表を標準とする。

作業係数は、基準値を0.9とし、次式により補正する。

$$F = 0.9 + f$$

F：作業係数

f：作業条件による補正係数

表5.3 作業条件による補正係数(f)

条件 \ 補正係数(f)	-0.05	0	+0.05	摘 要
施 工 規 模 (1 工 事 当 り)	1,000本未満	1,000本以上 2,000本未満	2,000本以上	連続地中壁工の場合
	100本未満	100本以上 200本未満	200本以上	連続地中壁工以外の場合

6. 材 料 使 用 量

杭10本当りモルタル使用量は，次式による。

$$Q = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times L \times (1 + K) \times 10 \text{ (m}^3\text{/10本)}$$

Q : 杭10本当りモルタル使用量 (m³/10本)
D : 鉄筋かごの場合は，杭径 (m)
H形鋼の場合は，削孔径 (m)
L : 打設長 (m)
K : ロス率

表6.1 ロス率(K)

杭 径 (mm)	350以上600以下
ロ ス 率	+0.18

7. 鉄 筋 工

鉄筋工は，「第Ⅵ編第2章①－1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

8. 諸 雑 費

諸雑費は，オーガスクリュ，オーガヘッド，モルタルプラント（25kW）の損料及び電力に関する経費の費用等であり，労務費，機械損料及び運転経費の合計額に，次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお，次表の上段の値は土のみの場合に適用し，下段の値は岩塊，玉石，軟岩（Ⅰ）・（Ⅱ）を連続して2m以上施工する場合に適用する。

表8.1 諸雑費率 (%)

杭径 掘削長 モルタル区分	350mm以上 500mm以下		500mmを超え 600mm以下
	20m以下	20mを超え 30m以下	30m以下
モルタルプラント使用	20 28	27 31	
モルタルプラント不使用	10 18	18 22	

9. 単 価 表

(1) 杭10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230510
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1×d	表4.1	
と び 工		〃	2×d	〃	
特 殊 作 業 員		〃	1×d	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×d	〃	
モ ル タ ル		m ³	Q		
鋼材(H形鋼又は鉄筋かご)		kg			
クローラ式アースオーガ運 転	単軸式・直結三点支持式 リーダ長18～21m	日	d	表3.1、図3-1 機械損料	
クローラクレーン運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 30～35t吊	〃	$\frac{1}{2} \times d$	機械損料	
諸 雑 費		式	1	表8.1	
計					

- (注) 1. d：杭10本当り施工日数(日/10本)
 2. Q：杭10本当りモルタル使用量(m³/10本)

名 称	WB230510	WB230520	WB230530	WB230540
土 木 一 般 世 話 役	○			
と び 工	○			
特 殊 作 業 員	○			
普 通 作 業 員	○			
モ ル タ ル		○		
鋼材(H形鋼又は鉄筋かご)			○	○
クローラ式アースオーガ運 転	○			
クローラクレーン運 転	○			
諸 雑 費	○	○	○	○
計				

(2) モルタル10 本当り単価表

施工歩掛コード					WB230520
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
モ ル タ ル		m ³	10 × Q		
諸 雑 費		式	1		
計					

- (注) Q：杭1本当りモルタル使用量(m³/本)

(3) H形鋼10本当り単価表

施工歩掛コード					WB230530
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
H 形 鋼		t			
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項	
クローラ式 アースオーガ	表3.1	機-18	運転労務数量→ 1.00 機械損料数量→ 1.58 燃料消費量→ 下記のとおりとする	
			規 格	燃料消費量(ℓ/日)
			45kW	49
			55kW	63
			90kW	56
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジフ型 30～35t吊	機-18	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 54 機械損料数量→ 1.58	

(注) クローラ式アースオーガで、作業専用の油圧ユニットにディーゼルエンジンを使用する場合、排出ガス対策型とする。

10. 施工単価入力基準表

(1) 場所打杭工（アースオーガ）

施工歩掛コード		WB230510	施工単位	本		
施工区分	入 力 条 件					
各種	J 1	J 2 ・ J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	杭径 (mm)	掘削長 (m)	岩塊・玉石・軟岩ⅠⅡ を連続2m以上施工する 場合の有無	工種種別	アースオーガ 出力	土の掘削長 (m) N値20未満
	①350以上 400未満 ②400以上 500以下 ③500を超え 600以下	(実数入力)	①有 ②無	①連続地中壁工 ②連続地中壁工 以外	(表10・1)	(実数入力)

J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
土の掘削長 (m) N値20以上 (実数入力)	岩塊・玉石 の掘削長 (m) (実数入力)	軟岩(Ⅰ)・ 軟岩(Ⅱ) の掘削長 (m) (実数入力)	施工規模 (1工事あたり) (表10. 2)	モルタルプラント の有無 ①有 ②無

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 4 条件は②及びJ 6 条件は①で固定される。
2. J 1 条件で②及び③を選択し、J 4 条件で①を選択した場合は、J 6 条件は③で固定される。
3. J 1 条件で②を選択し、J 3 条件で20m以下を入力し、J 4 条件で②を選択した場合は、J 6 条件は①で固定される。
4. J 1 条件で②を選択し、J 3 条件で20mを超えを入力し、J 4 条件で②を選択し場合は、J 6 条件は②で固定される。

5. J 1 条件で③を選択し、J 4 条件で②を選択した場合は、J 6 条件は②で固定される。
6. J 5 条件で①を選択した場合は、J11条件は④～⑥は選択出来ない。
7. J 5 条件で②を選択した場合は、J11条件は①～③は選択出来ない。
8. クローラクレーン、アースオーガは、低騒音型機種にかかわらず適用出来る。

表10. 1 アースオーガ出力

アースオーガ出力 (kW)	入力番号
45	①
55	②
90	③

表10. 2 施工規模

工種種別	施工規模	入力番号
連続地中壁工	1,000本未満	①
	1,000本以上2,000本未満	②
	2,000本以上	③
連続地中壁工以外	100本未満	④
	100本以上200本未満	⑤
	200本以上	⑥

(2) 材料費 (モルタル)

施工歩掛コード	WB230520	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	杭径 (m)	打設長 (m)	
	(実数入力)	(実数入力)	

- (注) 1. モルタルの材料補正を含む。
2. 生モルタル単価 (Y-0221000) [円/㎡]を単価登録すること。

(3) 材料費 (H鋼)

施工歩掛コード	WB230530	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	杭1本当りH鋼質量 (kg/本)		
	(実数入力)		

- (注) H形鋼単価 (Y-0008000) [円/t] を単価登録すること。

(4) 鉄筋かご

施工歩掛コード		WB230540		施工単位		本					
施工区分		入 力 条 件									
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	J 10	
	異形棒鋼 種類 ① S D 295 A ② S D 345	(D 13) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(D 16) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(D 16) 杭一本当り鉄筋量 (t) 25	(D 29) 杭一本当り鉄筋量 (t) 32	(D 35) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(D 38) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(D 41) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(D 51) 杭一本当り鉄筋量 (t)	(各種) 杭一本当り鉄筋量 (t)	
		(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	(実数 入力)	
各 種	J 11	J 12	J 13	J 14							
	施工規模	時間的制約を 受ける場合の補正	夜間作業補正	太径鉄筋補正							
	①10 t 以上 (標準) ②10 t 未満	①有 ②無	①有 ②無	(表10.3)							

- (注) 1. 本コードは、鉄筋工 (WB810010) の規格・仕様区分を場所打杭用かご筋で設定している。
2. 鉄筋かごを無溶接工法にて加工・組立する場合及び J 1 条件①②以外の異形棒鋼種類を使用する場合は、別途考慮すること。
3. J 1 条件で①を選択した場合、J 4～J 9 条件は入力出来ない。
4. J 1 条件で②を選択した場合、J 3 条件は入力出来ない。
5. J 10 条件を入力した場合は、鉄筋コンクリート用棒鋼単価 (Y-0004000) [円／t] を単価登録すること。
6. J 11 条件で②を選択した場合、J 12 条件は選択出来ない。
7. J 14 条件の補正を行う場合は、1 単位当り構造物に使用する全ての鉄筋規格において、同じ補正をすること。

表10.3 太径鉄筋補正

太径鉄筋の割合	入力番号
10%未満(補正無)	①
10%以上20%未満	②
20%以上40%未満	③
40%以上	④

②-4 大口径ボーリングマシン工

1. 適用範囲

本資料は、大口径ボーリングマシンによる場所打杭工（山留工、地すべり抑止杭等）の施工に適用する。

なお、適用範囲は、杭径190～510mm、掘削長35m以下とする。

表1.1 設計杭径及び削孔径

設計杭径(mm) 項目	190～220	221～320	321～425	426～475	476～510
削孔径 (mm)	250	350	450	500	550
鋼 管	設計杭径は、鋼管の外径とする。				
H 形 鋼	設計杭径は、H形鋼の対角線長とする。				

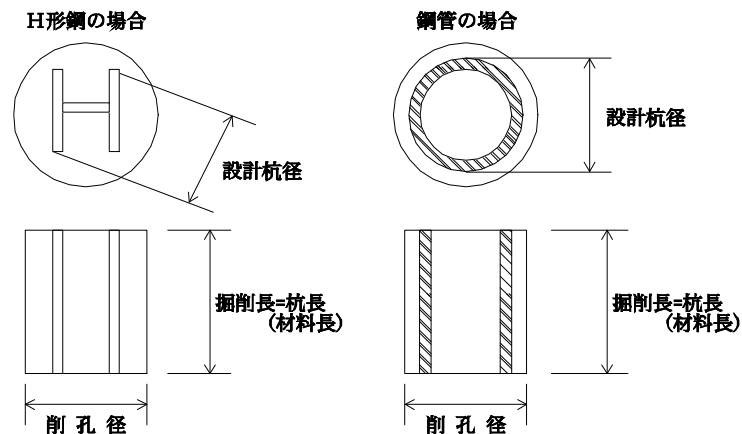
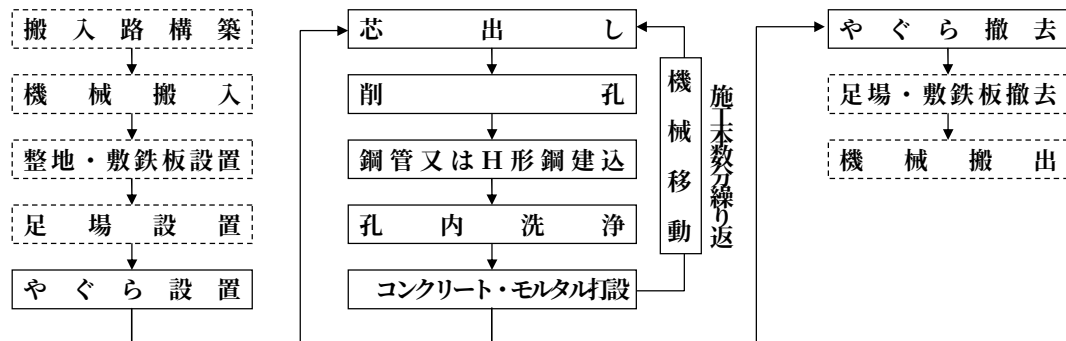


図1-1 施工図

2. 施工概要

本工法は、大口径ボーリングマシンを使用して施工するもので、地盤を掘削し、鋼管杭又はH形鋼を建込み、中詰コンクリートの打設、外詰モルタルの注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は土質・岩質に対する適用範囲が広く、使用するビットによって粘性土、レキ質土、岩等に対応でき、孔壁の崩落保護を行いながら施工することを標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

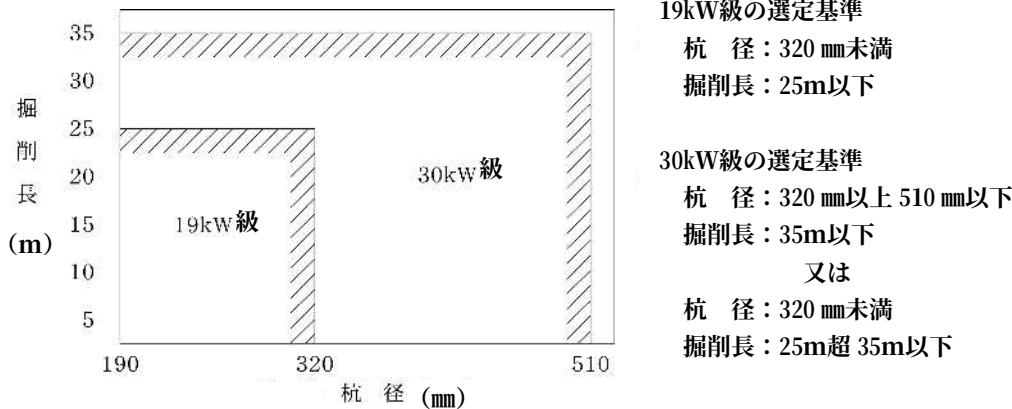
2. 泥土の処理費が必要な場合は、別途計上する。

図2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

3-1 大口径ボーリングマシンの選定

施工機械の選定は、次図を標準とする。



(注) 現場条件により機械の搬入が困難で、これにより難い場合は別途考慮する。

図3-1 大口径ボーリングマシンの選定

3-2 補助機械の選定

鋼管、H形鋼の建込み、大口径ボーリングマシンの移動は付属のウインチで施工することを標準とするが、下記現場及び作業条件により補助機械が必要な場合は、別途計上する。

現場及び作業条件

- ① 施工場所より10m以内に材料置場を設けることが出来ない場合。
- ② 民家、構造物、その他の施設等を破損又は、危険にさらす恐れがある場合。
- ③ 水路等の連続的な凸凹の障害により大口径ボーリングマシン付属ウインチによる施工が困難な場合。

表3.1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
資材等の現場内小運搬、 鋼管、H形鋼の建込み、 大口径ボーリングマシンの移動	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 16t吊	台	1	必要に応じて計上する

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは上表を標準とするが、現場条件により上表により難い場合は別途考慮する。
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. 編 成 人 員

大口径ボーリングマシンによる場所打杭工の編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人)

職 種	土 木 一 般 世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員
編 成 人 員	1	2	2

(注) 継杭を施工する場合は、溶接工0.75人工計上する。

5. 施 工 歩 掛

杭1本当り施工日数 (T_c)

H形鋼杭の場合……………T_c = T₁ + T₂ + T₃ + T₄

鋼管杭の場合……………T_c = T₁ + T₂ + T₃ + (T₄・K₁)

- T₁: 杭1本当りの削孔日数 (日/本)
T₂: 杭1本当りの準備・建込み等日数 (日/本)
T₃: 杭1本当りの充填日数 (日/本)
T₄: 杭1本当りの溶接日数 (日/本)
K₁: 鋼管板厚補正係数

(注) T_4 は継杭(※₁立継溶接)を施工する場合に計上する。

なお、継杭(※₂横継溶接)を施工する場合は、 T_c には計上せずに、別途計上とする。

※₁立継溶接・・・・・・鋼材を大口径ボーリングマシンのウインチ等で建込みながら溶接する施工方法。

※₂横継溶接・・・・・・現場内の溶接ヤードにて鋼材を横にして溶接する施工方法。

① 杭1本当りの削孔日数(T_1)

表5.1 土質毎の削孔日数(T_a)

(日/ｍ)

土質・岩質 ボーリングマシン	レキ質土 軟岩(I)	砂及び砂質土 粘性土	岩塊・玉石	軟岩(II)	硬 岩
19kW級	0.15	0.07	0.24	0.34	0.44
30kW級					

(注) 1. 土質毎の削孔日数(T_a)は、掘削する土質毎に次のとおり加算して算出する。

$$T_1 = T_{a1} \times L_1 + T_{a2} \times L_2 + T_{a3} \times L_3 + T_{a4} \times L_4 + \dots$$

T_{an} : 各土質毎の削孔日数(日/ｍ)

L_n : 各土質の削孔長(ｍ)

2. T_1 は小数点第2位とし、小数点第3位を四捨五入する。

(例) 大口径ボーリングマシン19kW級を使用してレキ質土5ｍ、砂質土の層10ｍを施工した場合

$$T_1 = 0.15 \text{ (日/ｍ)} \times 5 \text{ (ｍ)} + 0.07 \text{ (日/ｍ)} \times 10 \text{ (ｍ)} = 1.45$$

② 杭1本当りの準備・建込み等日数(T_2)

杭1本当りの準備(足場作り、1回目のビット取付、大口径ボーリングマシンの移動、芯出し)、鋼管・H形鋼建込、孔内洗浄、ロッド継足し・引抜き等の施工日数は次表とする。

表5.2 杭種毎の準備・建込み等日数(T_2)

(日/本)

杭種	杭長	9.0m以下	9.1m～18.0m	18.1m～27.0m	27.1m～35.0m
H形鋼	形鋼	0.57	0.74	0.90	1.07
鋼管	管	0.60	0.76	0.93	1.10

(注) 1. 機械の1回の移動距離3ｍ以内を標準とし、ブロック間の移動は、別途考慮する。

2. 足場作りとは、大口径ボーリングマシンの下に敷く足場材の敷設とし、全体の仮設足場は含まない。

3. 削孔途中でのロッド引抜や挿入及びロッドの先端補修を含む。

4. 補助機械の有無にかかわらず適用出来る。

③ 杭1本当りの充填日数(T_3)

杭1本当りのモルタル及び中詰コンクリート打設日数は、次表とする。

表5.3 H形鋼(モルタル杭)(T_3)

(日/本)

杭径	杭長	9.0m以下	9.1m～18.0m	18.1m～27.0m	27.1m～35.0m
190mm以上350mm未満		0.09	0.15	0.21	0.27
350mm以上510mm以下		0.16	0.31	0.47	0.62

表5.4 鋼管(モルタル・コンクリート杭)(T_3)

(日/本)

杭径	杭長	9.0m以下	9.1m～18.0m	18.1m～27.0m	27.1m～35.0m
190mm以上400mm未満		0.10	0.18	0.23	0.30
400mm以上510mm以下		0.14	0.28	0.42	0.60

(注) 1. モルタル注入はグラウトポンプにより行い、注入パイプの取付け・取外しを含む時間である。

2. 中詰コンクリートは、トラックミキサ等による打設時間とする。

④ 杭1本当りの溶接日数 (T₄)

表5.5 H形鋼(T₄) (日/本)

H形鋼規格(mm) 溶接回数(標準) 杭長		150～175	200～250	300～350
L≤12m	0回	-	-	-
12m<L≤24m	1回	0.08	0.20	0.43
24m<L≤35m	2回	0.16	0.40	0.86

表5.6 鋼管(T₄) (日/本)

鋼管外径(mm) 溶接回数(標準) 杭長		190以上 300未満	300以上 400未満	400以上 500未満	500以上 510以下
L≤12m	0回	-	-	-	-
12m<L≤24m	1回	0.08	0.12	0.15	0.18
24m<L≤35m	2回	0.16	0.24	0.30	0.36

なお、現場条件により溶接回数(標準)により難しい場合は、表5.7より1回当りの溶接日数を加減する。

表5.7 1回当りの溶接日数 (日/回)

H形鋼規格(mm)	1回当り溶接日数	鋼管外径(mm)	1回当り溶接日数
150～175	0.08	190以上300未満	0.08
200～250	0.20	300以上400未満	0.12
300～350	0.43	400以上500未満	0.15
		500以上510以下	0.18

- (例1) 鋼管外径190mm杭長30m 溶接回数が3回の場合(標準2回)
0.16(日/本・標準) + 0.08(日/回・1回当り) = 0.24(日/本)
- (例2) 鋼管外径190mm杭長9m 溶接回数が1回の場合(標準0回)
0(日/本・標準) + 0.08(日/回・1回当り) = 0.08(日/本)

⑤ 鋼管板厚補正係数 (K₁)

表5.8 鋼管板厚補正係数 (K₁)

板 厚 (mm)	～15	16～20	21～25	26～30
係 数	1.00	1.60	2.15	2.86

(注) 板厚30mmを超えるものについては、別途考慮する。

6. 杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量

杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量は、次式とする。

ただし、H形鋼を使用する場合はモルタル杭を標準とする。

6-1 モルタルを使用する場合

$$Q = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times \ell \times (1 + K_2 \text{又は} K_3) \quad (\text{m}^3/\text{本})$$

D: 鋼管の場合は、杭径 (m)

H形鋼の場合は、削孔径 (m)

ℓ: 打設長 (m)

K₂又はK₃: モルタルロス率

表6.1 モルタルロス率(鋼管の場合) (K_2)

杭 径 (mm)	190～250	251～425	426～510
K_2	+0.6	+0.5	+0.2

(注) ロス率には、地山との空隙充填分のモルタルを含む。

表6.2 モルタルロス率(H形鋼の場合) (K_3)

K_3	+0.1

6-2 コンクリート(生コン)を使用する場合

$$Q_1 = \frac{\pi}{4} \times (D_1^2 - D^2) \times \ell \times (1 + K_4) \text{ (m}^3\text{/本)}$$

$$Q_2 = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times \ell \times (1 + K_5) \text{ (m}^3\text{/本)}$$

 Q_1 : モルタル使用量 (m³/本) Q_2 : 中詰コンクリート使用量 (m³/本) D : 杭径 (m) D_1 : 削孔径 (m) ℓ : 打設長 (m) K_4 : モルタルロス率 K_5 : 中詰コンクリートロス率表6.3 モルタルロス率 (K_4)

K_4	+0.3

表6.4 中詰コンクリートロス率 (K_5)

K_5	+0.02

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。ただし、搬入搬出時及びやぐらを解体しなければ移動出来ない場合に計上する。

なお、やぐらの設置・撤去に伴う経費は、直接工事費に計上するものとする。

表7.1 やぐらの設置・撤去歩掛(ラフテレーンクレーン使用の場合) (1基1回当り)

名 称	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役	人	1.0	
と び 工	〃	1.0	
特 殊 作 業 員	〃	2.0	
普 通 作 業 員	〃	2.0	
ラフテレーンクレーン運 転	日	1.0	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値)16t吊

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. ラフテレーンクレーンは、上表を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

表7.2 やぐらの設置・撤去歩掛(索道使用の場合) (1基1回当たり)

名 称	単位	数量	摘 要
土木一般世話役	人	1.0	
と び 工	〃	3.0	
特 殊 作 業 員	〃	2.5	
普 通 作 業 員	〃	3.5	
ウインチ運転	日	1.5	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m
発動発電機運転	〃	1.5	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75 kVA (19kW級用) 定格容量100 kVA (30kW級用)

- (注) 1. 発動発電機は、賃料とする。
2. 索道の設置・撤去が必要な場合は、別途計上する。

8. ビット等損耗費

ビット等損耗費は、大口径ボーリングマシンに使用するビット及びロッド等の費用であり、労務費、材料費、機械損料の合計額に次表の率を乗じた金額を計上する。
なお、ビット等損耗費については、杭1本当たりで算出する。

表8.1 ビット等損耗費率(P) (1m当り損耗費率)

杭径(mm)	土質	砂質土 粘性土	レキ質土 軟岩(Ⅰ)	軟岩(Ⅱ)	硬 岩	岩 塊 玉 石
190～220		14%				24%
221～320		16%	35%			62%
321～425		14%	35%	45%		80%
426～475		9%				
476～510		7%				

- (注) 1. ビット等損耗費率は、掘削する土質毎に損耗費率を加重平均して算出する。

$$\text{損耗費率}P = \frac{P_1 \times L_1 + P_2 \times L_2 \cdots}{L_1 + L_2 \cdots}$$

ここで、 P_n ：各土質毎のビット等損耗費率
 L_n ：各土質の掘削長(m)

2. Pは整数とし、小数点第1位を四捨五入する。
(例) 杭径350mm, 砂質土2m, レキ質土15m, 岩塊・玉石3mの場合

$$P = \frac{14\% \times 2\text{m} + 35\% \times 15\text{m} + 80\% \times 3\text{m}}{2\text{m} + 15\text{m} + 3\text{m}} = 39.6\cdots \cdots 40\%$$

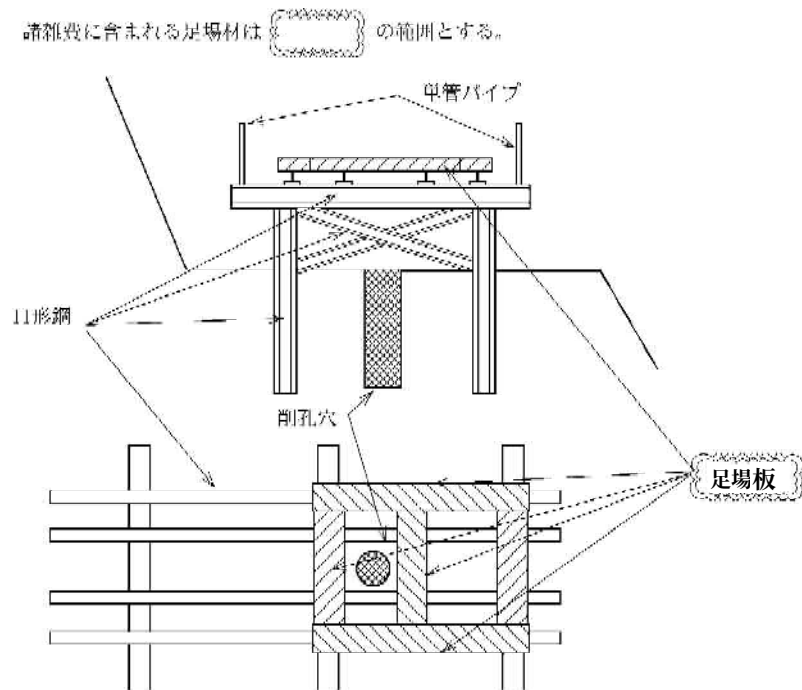
9. 諸 雑 費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材、溶接機及び溶接棒、注入管、やぐら及び水槽損料、グラウトポンプ(試錐ポンプ)、サンドポンプ、ベントナイトミキサ、グラウトポンプ(モルタル圧送用)、グラウトミキサ、マッドスクリーン、給水ポンプの損料及び燃料費、ベントナイトの材料費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表9.1 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	23

- (注) 1. 傾斜地等で仮設足場が必要な場合は、別途計上する。
2. 補助機械賃料、やぐらの設置・撤去及び仮設足場の設置・撤去の費用は、諸雑費対象額としない。



(注) 足場については、主部材（H形鋼等）の組立及び損料等は含まず、大口径ボーリングマシンの足場材である。

足場については、作業する現場条件及び機械及び材料等の重量を考慮し、適正に構造を検討する。

図9-1 足場概念図

10. 泥水（ベントナイト）の処理費

泥水処理等の費用については、別途計上するものとする。

11. 単 価 表

(1) 大口径ボーリングマシンによる場所打杭1本当り単価表

		施工歩掛コード		WB230610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_c \times 1$	表4.1
特 殊 作 業 員		〃	$T_c \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_c \times 2$	〃
溶 接 工		〃	$T_4 \times 0.75$	継杭の場合に計上 鋼管の場合は(注)2による
中 詰 材 料		m ³		モルタル・コンクリート
鋼 管 ・ H 形 鋼 等		kg		
大口径ボーリングマシン運 転		日	$T_1 + T_2$	機械損料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 16t吊	〃	T_2	必要に応じて計上 機械賃料
ピ ッ ト 等 損 耗 費		式	1	表8.1
諸 雑 費		〃	1	表9.1
計				

(注) 1. 泥土処理費が必要な場合は、別途計上とする。

2. 鋼管における数量については、「 $T_4 \times K_1 \times 0.75$ 」とする。

(2) やぐらの設置・撤去単価表(ラフテレーンクレーン使用の場合)

施工歩掛コード	WB230630

(1基1回当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表7.1
と び 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 16t吊	日		表7.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) やぐらの設置・撤去単価表(索道使用の場合)

施工歩掛コード	WB230630

(1基1回当り)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表7.2
と び 工		〃		〃
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ウ イ ン チ 運 転	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	日		表7.2 機械損料
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量 75 kVA (19kW級用) 定格容量 100 kVA (30kW級用)	〃		表7.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
大口径ボーリングマシン	図3-1	機-14	運転時間→6.0h/日
ウ イ ン チ	開放型(電動)・単胴・ 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	機-14	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量 75 kVA (19kW級用) 定格容量 100 kVA (30kW級用)	機-16	燃料消費量 75 kVA→ 43 100 kVA→ 57 機械賃料数量→ 1.3

12. 施工単価入力基準表

(1) 場所打杭工(大口径ボーリングマシン工)

施工歩掛コード		WB230610	施工単位		本	
施工区分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	杭種別	杭径	削孔径	杭 1 本当りの レキ質土 ・軟岩 (I) の掘削長	杭 1 本当りの 砂及び砂質土 ・粘性土 の掘削長	杭 1 本当りの 岩塊・玉石の 掘削長
			(m)	(m)	(m)	(m)
	(表12.1)	(表12.2)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12	J 13
杭1本当りの 軟岩(II) の掘削長	杭1本当りの 硬岩の 掘削長	杭1本当りの 溶接回数	鋼管板厚 補正係数 (K ₁)	モルタル 規格	コンクリート 規格	H形鋼m当り 材料質量
(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	(表12.3)	(表12.4)	(表12.5)	(t) (実数入力)

J 14	J 15	J 16	J 17
鋼管杭m当り 材料質量	補助機械 の使用	ラフテレーン クレーン 賃料補正係数	コンクリート 夜間割増 の有無
(t) (実数入力)	①有 ②無	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①無 ②有

- (注) 1. J 1条件で「①」を選択した場合はJ 10, J 12, J 14, J 17条件は入力する必要はない。
 2. J 1条件で「②」を選択した場合はJ 3, J 12, J 13, J 17条件は入力する必要はない。
 3. J 1条件で「③」を選択した場合はJ 13条件は入力する必要はない。
 4. J 9条件は縦継ぎ溶接の溶接回数のことである。また横継ぎ溶接の場合や溶接の無い場合は「②」を選択し「0」と入力し、J 10条件は入力する必要はない。なお、横継ぎ溶接の場合は別途計上とする。
 5. モルタル及びコンクリートの材料補正を含む。
 6. J 12条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート単価(Y-0210000) [円/ m³] を単価登録すること。
 7. J 13条件を実数入力した場合は、H形鋼単価(Y-0008000) [円/ t] を単価登録すること。
 8. J 14条件を実数入力した場合は、鋼管杭単価(Y-0010000) [円/ t] を単価登録すること。
 9. J 15条件で「②」を選択した場合はJ 16 条件は入力する必要はない。
 10. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。また本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)にも適用出来る。
 11. J 17条件で「②」を選択した場合は、生コンクリート夜間割増額(Y-0213000) [円/ m³] を単価登録し、労務費調整係数も入力すること。

表12.1 杭種別

杭 種 別	入力番号
モルタル杭(H鋼)	①
モルタル杭(鋼管)	②
コンクリート杭(鋼管)	③

表12. 2 杭径

H形鋼規格	入力番号	鋼管規格	入力番号
150×150	①	D = 200	⑦
175×175	②	D = 250	⑧
200×200	③	D = 300	⑨
250×250	④	D = 350	⑩
300×300	⑤	D = 400	⑪
350×350	⑥	D = 450	⑫
		D = 500	⑬

表12. 3 鋼管板厚補正係数(K₁)

板厚区分 (mm)	入力番号
～15	①
16～20	②
21～25	③
26～30	④

表12. 4 モルタル規格

モルタル規格	入力番号
1 : 1 普通	①
1 : 2 普通	②
1 : 3 普通	③
1 : 1 高炉	④
1 : 2 高炉	⑤
1 : 3 高炉	⑥

表12. 5 コンクリート規格

生コンクリート規格	入力番号
18-8-25(20) (普通)	①
18-8-25(20) (高炉)	②
18-8-40 (普通)	③
18-8-40 (高炉)	④
Y-0210000 (各種)	⑤

(2) やぐら設置・撤去

施工歩掛コード	WB230630	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	施工方法	発動発電機の規格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①ラフテレーン クレーン使用 ②索道使用	①75kVA ②100kVA	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で「②」を選択した場合はJ 2 条件は入力する必要はない。
 2. J 1 条件で「②」を選択した場合はJ 3 条件は入力する必要はない。また、索道の設置・撤去は別途計上すること。
 3. ラフテレーンクレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）にも適用出来る。
 5. 本コードは、発動発電機の低騒音機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）にも適用出来る。

②ー5 ダウンザホールハンマ工

1. 適用範囲

本資料は、ダウンザホールハンマによる場所打杭工（山留工、地すべり抑止杭、構造物基礎杭、仮設物基礎杭等）の施工に適用する。

適用範囲は、杭径170～580mm、杭長30m以下とし、杭の頭出しを行う場合にも適用する。

なお、頭出しの長さは11m以下とする。

継杭は地中部のみとし、地上部の継杭は場所打杭工の対象としない。

表1.1 杭径及び削孔径

項目 \ 杭径(mm)	170～ 220	221～ 270	271～ 320	321～ 360	361～ 410	411～ 460	461～ 510	511～ 580
削 孔 径 (mm)	250	300	350	400	450	500	550	600
鋼 管	杭径は、鋼管の外径とする。							
H 形 鋼	杭径は、H形鋼の対角線長とする。							

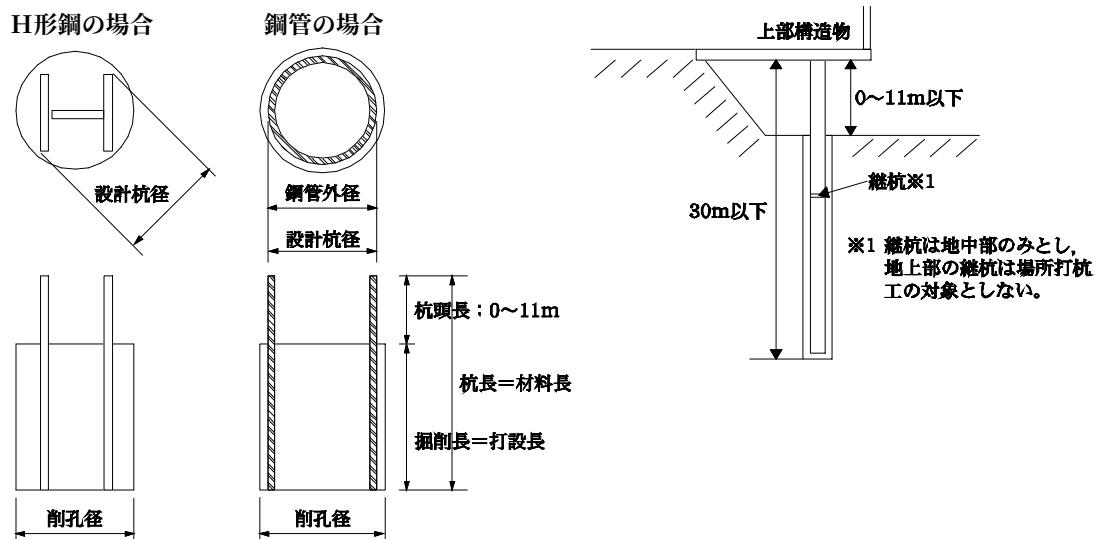


図1-1 施工図

2. 施 工 概 要

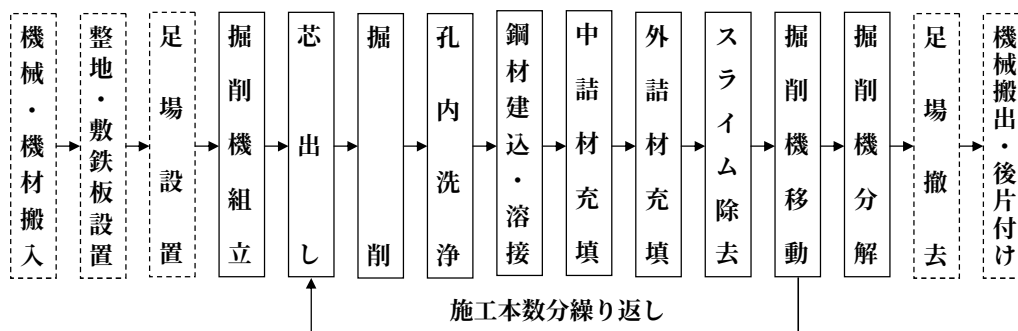
本工法は、クレーン又は大口径ボーリングマシンに取付けたダウンザホールハンマの打撃により地盤を掘削し、鋼管杭又はH形鋼杭を建込み、中詰材・外詰材の注入等の一連作業で杭を形成するものである。

なお、本工法は比較的安定した地盤で孔壁保護を行わずに施工する場合に適用し、孔壁保護を行う場合には、本工法の適用外とし別途考慮する。

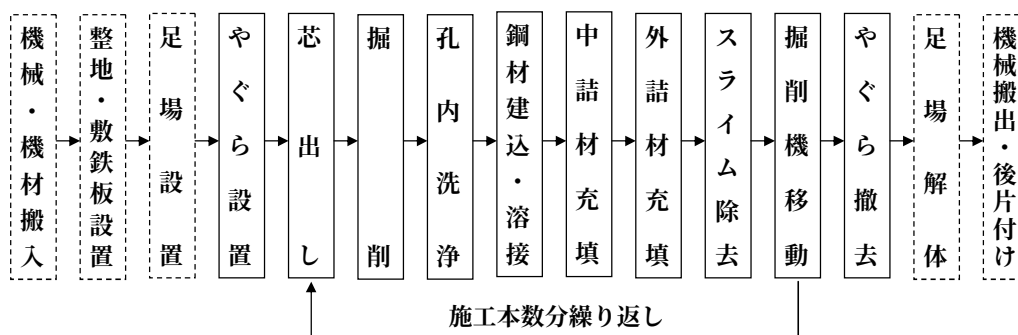
2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

1) A工法（クレーン工法）



2) B工法（大口径ボーリングマシン工法）



（注） 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

2-2 工法の選定

工法の選定は、図2-2による。

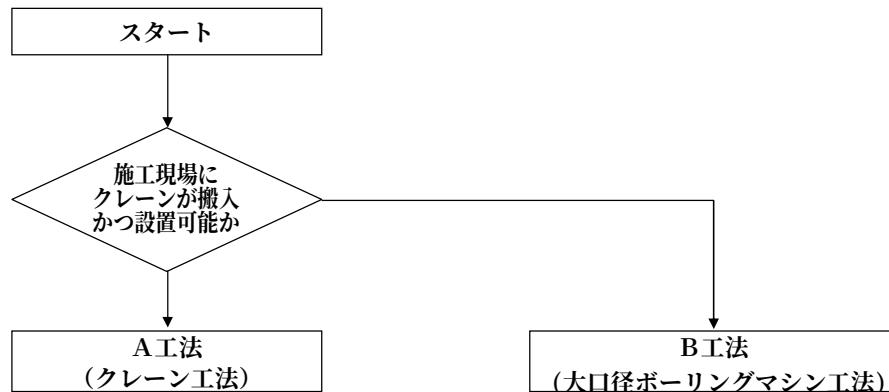


図2-2 工法の選定

3. 機種の選定

3-1 機種の選定

機械・規格は、下記を標準とする。

表3.1 機種の選定 (A工法)

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
	クレーン(掘削用)		台	1	図3-1, 表3.3
	ダウンザホールハンマ	空圧式	〃	1	表3.4
	空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値)	〃	必要台数	表3.5
鋼管杭・H形鋼杭建込用 掘削機組立・分解用	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	〃	1	

- (注) 1. 鋼管杭, H形鋼杭の建込みは, ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型25t吊)を標準とするが, 現場条件により上表により難しい場合は, 別途考慮する。
 2. 機械の移動については, 自走を標準とする。
 3. クレーン(掘削用)の組立(リーダ, 減速機の取付け)・分解時については, ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型25t吊)を標準とするが, 現場条件により上表により難しい場合は, 別途考慮する。
 4. 空気圧縮機は, 賃料とする。
 5. 粉塵対策が必要な場合には, 給水ポンプ, 集塵機を共通仮設費の安全費に別途計上する。

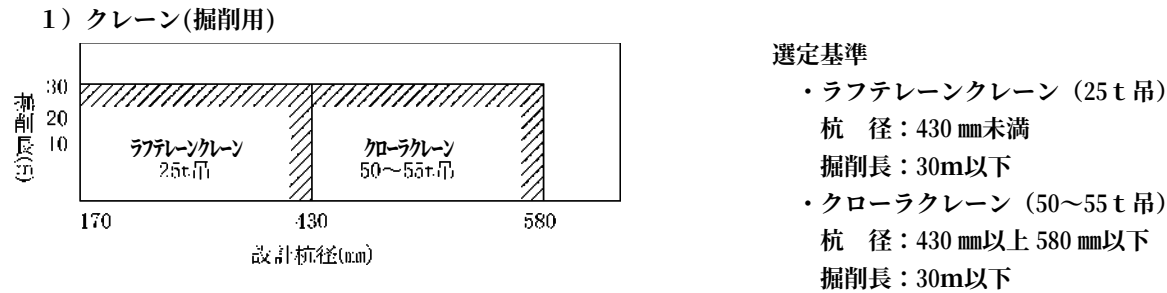
表3.2 機種の選定 (B工法)

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
	大口径ボーリングマシン		台	1	図3-2
	ダウンザホールハンマ	空圧式	〃	1	表3.4
	空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値)	〃	必要台数	表3.5
資材等現場内小運搬 掘削機の移動 鋼管杭, H形鋼杭建込	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	〃	1	必要に応じてラフテレーンクレーン(補助クレーン用)を別途計上する。

- (注) 1. 鋼管杭、H形鋼杭の建込み、掘削機の移動については、大口径ボーリングマシン付属のウインチで施工することを標準とする。
2. 現場、作業条件が下記に該当する場合は、必要に応じて補助クレーンを別途計上する。
- ①工事場所により10m以内のところに材料置場を設けることが出来ない場合。
 - ②民家、構造物、その他の施設等を破損又は危険にさらす恐れのある場合。
 - ③現場条件等により、大口径ボーリングマシン付属のウインチによる施工が困難な場合。
3. 作業は、補助クレーンの場合、準備作業までとする。
4. 空気圧縮機、ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
5. 粉塵対策が必要な場合には、給水ポンプ、集塵機を共通仮設費の安全費に別途計上する。

3-2 掘削機の選定

掘削機の選定は、次図を標準とする。



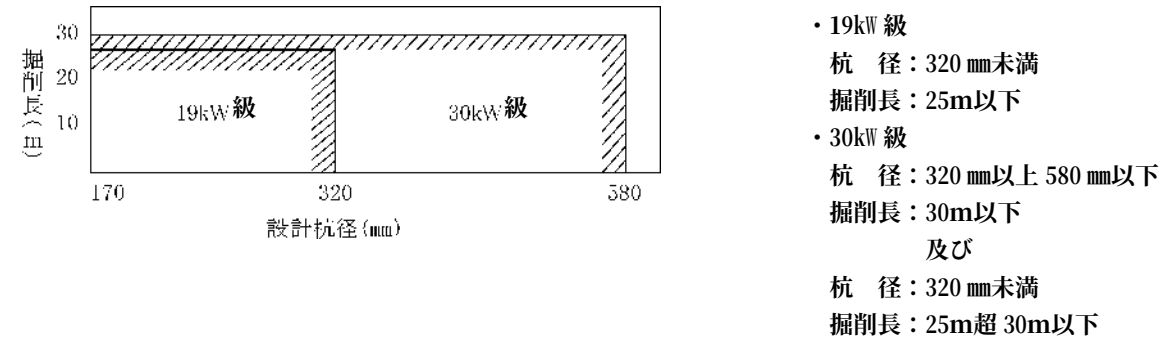
(注) 現場条件等により、上図により難しい場合は別途考慮する。

図3-1 クレーン(掘削用)機種選定

表3.3 クレーン(掘削用)機種・規格

機 械 名	規 格	摘 要
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55t吊	

2) 大口径ボーリングマシン



(注) 現場条件等により、上図により難しい場合は別途考慮する。

図3-2 大口径ボーリングマシンの選定

3-3 ダウンザホールハンマの選定

ダウンザホールハンマの選定は、次表を標準とする。

表3.4 ダウンザホールハンマの選定

杭 径 (mm)	170～ 220	221～ 270	271～ 320	321～ 360	361～ 410	411～ 460	461～ 510	511～ 580
ダウンザホール ハンマ 規 格	250～300mm		302～381mm		382～ 457mm	508～762mm		

3-4 空気圧縮機の選定

空気圧縮機の選定は、次表を標準とする。

表3.5 空気圧縮機の選定

杭 径 (mm)	170～270	271～360	361～460	461～510	511～580
空気圧縮機規格・台数	18～19m ³ /min 1台 7.5～7.8m ³ /min 1台	18～19m ³ /min 2台	18～19m ³ /min 3台	18～19m ³ /min 3台 7.5～7.8m ³ /min 1台	18～19m ³ /min 4台

- (注) 1. 空気圧縮機は、可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値)とする。
2. 空気圧縮機は、賃料とする。

4. 編 成 人 員

ダウンザホールハンマによる場所打杭工の編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 編成人員 (人)

工法種別	職種	土木一般役	とび工	特殊作業員	普通作業員	溶接工
A (クレーン工法)		1	1	1	1	1
B (大口径ボーリングマシン工法)		1	1	1	2	1

(注) 継杭を施工しない場合は、溶接工を計上しない。

5. 施 工 歩 掛

5-1 杭1本当り施工日数(T_d)

杭1本当り施工日数は、次式による。

鋼管杭の場合…………… $T_d = \alpha \cdot \beta \cdot T_a$ (日/本) ……式5.1

H形鋼杭の場合…………… $T_d = \alpha \cdot T_a$ (日/本) ……式5.2

① 土質係数(α)

表5.1 土質係数(α)

土質区分	砂質土	レキ質土	粘性土	岩塊・玉石	軟岩	中硬岩	硬岩
土質係数	0.68	0.97	0.95	1.02	1.00	1.05	1.27

(注) 1. 土質係数αは、掘削する土質毎の係数を次のとおり加重平均して算出する。

$$\alpha = \frac{\alpha_1 \times \ell_1 + \alpha_2 \times \ell_2 + \alpha_3 \times \ell_3 + \alpha_4 \times \ell_4 + \dots}{\ell_1 + \ell_2 + \ell_3 + \ell_4 + \dots}$$

α_n: 各土質の土質係数

ℓ_n: 各土質の掘削長(m)

2. αは小数点第2位とし、小数点第3位を四捨五入する。

(例) 軟岩の層5m、砂質土の層10mの場合

$$\alpha = \frac{1.0 \times 5 + 0.68 \times 10}{10 + 5} = 0.79$$

② 板厚係数(β)

表5.2 板厚係数(β)

掘削長(m)	板 厚 t (mm)			
	9 ≤ t < 15	15 ≤ t < 21	21 ≤ t < 27	27 ≤ t ≤ 30
ℓ ≤ 12	1.00	1.00	1.00	1.00
12 < ℓ ≤ 24	1.00	1.04	1.09	1.15
24 < ℓ ≤ 30	1.00	1.06	1.13	1.21

(注) 上表は、鋼管杭のみ適用する。

③ 工法, 杭種別施工日数 (T_a)

(1) A工法(クレーン工法) 鋼管杭

表5.3 A工法(クレーン工法) 鋼管杭 (T_a)

掘削長(m)	杭 径 (mm)						
	170~220	221~270	271~320	321~360	361~430	431~510	511~580
$\ell \leq 12$	0.74	0.75	0.77	0.78	0.80	0.83	0.87
$12 < \ell \leq 24$	1.47	1.52	1.56	1.60	1.65	1.75	1.86
$24 < \ell \leq 30$	2.08	2.15	2.22	2.28	2.36	2.52	2.67

(注) 削孔口周辺が崩壊する場合は, 保護対策を別途計上する。

(2) B工法(大口径ボーリングマシン工法) 鋼管杭

表5.4 B工法(大口径ボーリングマシン工法) 鋼管杭 (T_a)

掘削長(m)	杭 径 (mm)						
	170~220	221~270	271~320	321~360	361~430	431~510	511~580
$\ell \leq 12$	0.75	0.76	0.77	0.79	0.80	0.84	0.87
$12 < \ell \leq 24$	1.42	1.46	1.51	1.54	1.59	1.68	1.78
$24 < \ell \leq 30$	1.98	2.05	2.11	2.16	2.23	2.38	2.52

(注) 削孔口周辺が崩壊する場合は, 保護対策を別途計上する。

(3) A工法(クレーン工法) H形鋼杭

表5.5 A工法(クレーン工法) H形鋼杭 (T_a)

掘削長(m)	杭 径 (mm)						
	170~220	221~320	321~360	361~430	431~500	501~570	571~580
$\ell \leq 12$	0.74	0.75	0.78	0.80	0.84	0.87	0.88
$12 < \ell \leq 24$	1.47	1.52	1.61	1.69	1.81	1.94	2.06
$24 < \ell \leq 30$	2.07	2.16	2.30	2.43	2.63	2.84	3.06

(注) 削孔口周辺が崩壊する場合は, 保護対策を別途計上する。

(4) B工法(大口径ボーリングマシン工法) H形鋼杭

表5.6 B工法(大口径ボーリングマシン工法) H形鋼杭 (T_a)

掘削長(m)	杭 径 (mm)						
	170~220	221~320	321~360	361~430	431~500	501~570	571~580
$\ell \leq 12$	0.75	0.76	0.78	0.81	0.84	0.87	0.88
$12 < \ell \leq 24$	1.42	1.47	1.55	1.63	1.74	1.85	1.96
$24 < \ell \leq 30$	1.97	2.05	2.18	2.30	2.48	2.68	2.88

(注) 削孔口周辺が崩壊する場合は, 保護対策を別途計上する。

6. 杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量

杭1本当りモルタル及びコンクリート使用量は、次式による。

ただし、H形鋼を使用する場合は、モルタル杭を標準とする。

6-1 モルタルを使用する場合

$$Q = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times \ell \times (1 + K_1) \cdots \cdots \text{式6.1}$$

Q : モルタル使用量 (m³/本)

D : 杭径 (m)

ℓ : 打設長 (m)

K₁ : モルタルロス率

表6.1 モルタルロス率 (K₁)

K ₁	+0.23

(注) ロス率には、地山との空隙充填分を含む。

6-2 コンクリート (生コン) を使用する場合

$$Q_1 = \frac{\pi}{4} \times (D_1^2 - D^2) \times \ell \times (1 + K_2) \cdots \cdots \text{式6.2}$$

$$Q_2 = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times \ell \times (1 + K_3) \cdots \cdots \text{式6.3}$$

Q₁ : モルタル使用量 (m³/本)

Q₂ : 中詰コンクリート使用量 (m³/本)

D : 杭径 (m)

D₁ : 削孔径 (m)

ℓ : 打設長 (m)

K₂ : モルタルロス率

K₃ : 中詰コンクリートロス率

表6.2 モルタルロス率 (K₂)

K ₂	+0.3

表6.3 中詰コンクリートロス率 (K₃)

K ₃	+0.02

7. やぐらの設置・撤去

やぐらの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

ただし、搬入搬出時及びやぐらの解体をしなければ移動出来ない場合に計上する。

表7.1 やぐらの設置・撤去歩掛(ラフテレーンクレーン使用の場合) (1基1回当たり)

名 称	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役	人	1.0	
と び 工	〃	1.0	
特 殊 作 業 員	〃	2.0	
普 通 作 業 員	〃	2.0	
ラフテレーンクレーン運転	日	1.0	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

表7.2 やぐらの設置・撤去歩掛(索道使用の場合) (1基1回当たり)

名 称	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役	人	1.0	
と び 工	〃	3.0	
特 殊 作 業 員	〃	2.5	
普 通 作 業 員	〃	3.5	
ウ イ ン チ 運 転	日	1.5	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m
発 動 発 電 機 運 転	〃	1.5	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75 kVA

(注) 1. 発動発電機は、賃料とする。

2. 索道の設置・撤去が必要な場合は、別途計上する。

8. 諸 雑 費

諸雑費は、大口径ボーリングマシンの足場材(B工法のみ)、電気溶接機及び溶接材、注入管、高圧ホース、やぐら装置(B工法のみ)、グラウトポンプ(モルタル圧送用)、コンクリートバケット、レシーバタンク損料、リーダ・減速機(A工法のみ)、電力に関する経費、ビット等の損耗費用であり、労務費、材料費、機械損料、賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表8.1 諸雑費率(A工法, B工法) (%)

諸 雑 費 率	19

(注) 1. 傾斜地等で仮設足場が必要な場合、敷鉄板仮設が必要な場合は、別途計上する。

2. 補助ウインチ損料、補助ラフテレーンクレーン賃料、やぐらの設置・撤去及び仮設足場等の設置・撤去の費用は、諸雑費の対象額としない。

9. 掘削土の処理費

掘削土等の処理費用については、別途計上するものとする。

10. 単 価 表

(1) 杭1本当り単価表(A工法)

		施工歩掛コード			WB230810
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1	
と び 工		〃	$T_d \times 1$	〃	
特 殊 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃	
普 通 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃	
溶 接 工		〃	$T_d \times 1$	表4.1(継杭の場合に計上)	
中 詰 材 料		m ³		式6.1～式6.3	
鋼 管 ・ H 形 鋼 等		本	1		
クレーン(掘削用)運転		日	T_d	図3-1 機械損料	
ダウンザホール マシンマ運転	空圧式	〃	T_d	表3.4 機械損料	
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・ スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値)	〃	T_d	表3.5 機械賃料	
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	〃	T_d	鋼管杭・H形鋼杭建込用 掘削機組立・分解用 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表8.1	
計					

(注) T_d : 杭1本当り施工日数(日/本)

(2) 杭1本当り単価表(B工法)

		施工歩掛コード			WB230810
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1	
と び 工		〃	$T_d \times 1$	〃	
特 殊 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃	
普 通 作 業 員		〃	$T_d \times 2$	〃	
溶 接 工		〃	$T_d \times 1$	表4.1(継杭の場合に計上)	
中 詰 材 料		m ³		式6.1～式6.3	
鋼 管 ・ H 形 鋼 等		本	1		
大口徑ボーリング マシン運転		日	T_d	図3-2 機械損料	
ダウンザホール マシンマ運転	空圧式	〃	T_d	表3.4 機械損料	
空気圧縮機運転	可搬式・エンジン駆動・ スクリュ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値)	〃	T_d	表3.5 機械賃料	
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	〃	T_d	必要に応じて計上 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表8.1	
計					

(注) T_d : 杭1本当り施工日数(日/本)

(3) やぐらの設置・撤去1基1回当たり単価表(ラフテレーンクレーン使用の場合)

施工歩掛コード					WB230820
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表7.1	
と び 工		〃		〃	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表7.1 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(4) やぐらの設置・撤去1基1回当たり単価表(索道使用の場合)

施工歩掛コード					WB230820
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表7.2	
と び 工		〃		〃	
特 殊 作 業 員		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ウ イ ン チ 運 転	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	日		表7.2 機械損料	
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75 kVA	〃		表7.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
大口径ボーリングマシン	図3-2	機-25	機械損料数量→1.28	
空 気 圧 縮 機	表3.5	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする	
			規 格	数 量
			7.5~7.8m ³ /min	62
			18~19m ³ /min	146
			機械賃料数量→ 1.33	
ダウンザホールハンマ	空圧式 表3.4	機-25	機械損料数量→ 1.37	
ウイ ン チ (やぐら設置・撤去用)	開放型(電動)・単胴 巻上能力2.8t×30m/min 巻取容量φ22×200m	機-25	機械損料数量→ 1.55	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量75 kVA	機-16	燃 料 消 費 量→ 43	機 械 賃 料 数 量→ 1.18
ラフテレーンクレーン (掘削用)	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	機-18	運 転 労 務 数 量→ 1.00	燃 料 消 費 量→ 95
			機 械 損 料 数 量→ 1.63	
クローラクレーン (掘削用)	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50~55t吊	機-18	運 転 労 務 数 量→ 1.00	燃 料 消 費 量→ 56
			機 械 損 料 数 量→ 1.08	

ŷŷ e½]âSXOıQeR>Wûm-
(ŷ) X4b@bSgmŷ 0Â0ı000ü0ë0ı0ó0ŷ

e½]âkic>0³0ü0É		WB230810	e½]âSØM	g,			
e½]âSR	Q e Rg >aN ö						
T z	ÿ ÿ *	ÿ ÿ *	ÿ ÿ *	ÿ ÿ *	ÿ ÿ *	ÿ ÿ *	
	] å l Õ \$`ÿ! ]âıŌÿ 0`0ı0ü0ó]â ıŌÿ 0`u(0D0_X4Ŧ \$aÿ"]âıŌÿ ˆ`Sã_0üü 0ë0ó0`0P0-0óÿ 0` u(0D0_X4Ŧ	gmzR% \$`0â0ë0ı0ëgm (ÿ( 'ü ) \$a0â0ë0ı0ëgm ( 'ü {ı ) \$b0³0ó0`0ë0ü0ëgm ('ü {ı)	O•u(vıv„ \$`g,S-ÿ vı v„ÿ ri 0n X4Ŧ \$aNıŠ-ri 0n X4Ŧ	gm„ (30Ŧ ([ÿepQeR>)	gmÿ g,_S0Šn x ĄEëW0n c~RJ•w () ([ÿepQeR>)	gmÿ g,_S0Šn 0ı0-ĄEëW0n c~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	
ÿ*ÿ	ÿ*ÿ	ÿ*ÿ	ÿ*10	ÿ*11	ÿ*12	ÿ*13	ÿ*14
gmÿg,_S0Š 0n ` W0n c~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	gmÿg,_S0Š 0n ĄXŠ%wó 0nc~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	gmÿg,_S0Š 0n Ž00n c~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	gmÿg,_S0Š 0nNxl Ą00n c~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	gmÿg,_S0Š 0nxl Ą00n c~RJ•w ÿ ÿ ÿ [ÿepQeRÿ	gmÿ g,_S0Š gmw () ([ÿepQeR>)	'ü{ıgm _S0Šgm gPe™ĄEë (ÿT) ([ÿepQeR>)	ÿ(_b'ü _S0Šgm gPe™ĄEë (ÿT) ([ÿepQeR>)
ÿ*15	ÿ*16	ÿ*17	ÿ*18	ÿ*19		ÿ*20	ÿ*21
g•SŠS:R (`h 11.1)	]™g0n g q! \$`g \$aq!	0â0ë0ı0ë %0h< (`h 11.2)	0³0ó0`0ë 0ü0E%0<  (`h 11.3)	0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó0`0ı0â ÿ 0Ü0ü0`0P0-0óuÿ %0h< \$`c'Qú0-0ı[p{VW< ({,ÿ k!Wún– P\$) \$ac'Qú0-0ı[p{VW< ({,ÿ k!Wún– P\$)		^ÜRĄ0`0ı00ó 0ng q!  \$`g \$aq!	0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó0`0ı0â 0nĄĄE™~ÜkePÂ ÿ ^ÜRĄ0`0ı0ü0óuÿ \$`j n– \$aj n–NâY ([ÿepQeR>)

(lè)ŷ ŷ g,0³0ü0É0o ŷ0 c~RJ•wŷ bSŠ-•w0 0nX4T 0k•ıu(0Y0<0
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$`0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*20 gaNö0oQeR>0ŷ_Ą%•0o0j0D
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$a0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*19 gaNö0oQeR>0ŷ_Ą%•0o0j0D
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$`0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*13 gaNöŷŷ*15 gaNöŷŷ*18 gaNö0oQeR>0Y0<Ą%•0o0j0D
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$a0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*14 gaNöŷŷ*18 gaNö0oQeR>0Y0<_Ą%•0o0j0D
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$b0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*14 gaNö0oQeR>0ŷ_Ą%•0o0j0D
ŷ ŷ ŷ*ŷ gaNö0g\$a0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*12 gaNöŷŷ*13 gaNöŷ ŷ*14 gaNö0oQeR>0ŷ_Ą%•0o0j0Oŷ {, !a}è{, ŷ
zàNıŠ-]âıaŷ ŷ ŷ \$`ŷ ŷ ŷ !aŷ ŷ ŷ \$`ŷ ŷ ŷ 0•ıu(0WR%• Š N 0Y0<0S0D
ŷ ŷ ŷ*13 gaNö0[ŸepQeR>0ŷ_X4T 0oŷ 'ü{ıgmSXOŷ Y-0010000ŷŷ;Qŧŷ ŷTŷ=0`SXOıv{`20Y0<0S0D
ŷ ŷ ŷ*14 gaNö0[ŸepQeR>0ŷ_X4T 0oŷ ŷ(_b'üSXOŷ Y-0008000ŷŷ;Qŧŷ ŷTŷ=0`SXOıv{`20Y0<0S0D
10ŷ ŷ*18 gaNö0g\$d0•xbž0W0_X4T 0oŷ u 0³0ó0`0ë0ü0ë0ŷ Y-0210000ŷŷ;Qŧŷ Qŷ=0`SXOıv{`20Y0<0S0D
11ŷ ŷ*20 gaNö0g\$a0•xbž0W0_X4T 0oŷ ŷ*21 gaNö0oQeR>0ŷ_Ą%•0o0j0D
12ŷ g,0³0ü0É0oŷ 0â0ë0ı0ëSĄ0s0³0ó0`0ë0ü0É0ngPe™Üke0`0g0D0D
13ŷ 0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó0`0ı0ü0óŷ 0Ü0ü0`0P0-0óuŷ(ŷ 0oONŠ~ŷ_ž.0k0d0D0f0,•ıu(Qúge0< 0
14ŷ 0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó0`0ı0ü0óŷ ^ÜRĄ0`0ı0ü0óŷ(0oONŠ —óŷz.0k0d0D0f0,•ıu(Qúge0<0 0-0_ŷ 0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó
0ı0ü0ó0nf• Wkj_z.ŷ c'Qú 0-0ıg*[p{VW<ŷ SĄ0sc'Qú0-0ı[p{VW<ŷ {,ŷ k!Wún-P\$ŷ 0k0d0D0f0,•ıu(Qúge0< 0
15ŷ 0é0Ō0/Ą0ı0ü0ó0`0ı0ü0óĄĄE™~Ükcŷ Y •~Ükcŷ 0`100_X4T 0oŷ R`RÙĄE»Šžet0ĄĄE0ŷ0Y0<0S0D
16ŷ zzl W~.j_0ofn• Wkj_ z.ŷ c'Qú0-0ıg*[p{VW<ŷ 0k0d0D0f0,•ıu(Qúge0<0 0-0_ŷ fn• Wkj_z.0nONŠ —ój_z.0k
0d0D0f0,•ıu(Qúge0<0

表 11. 1 板厚区分

板厚区分 (mm)	入力番号
$9 \leq t < 15$	①
$15 \leq t < 21$	②
$21 \leq t < 27$	③
$27 \leq t \leq 30$	④

表 11. 2 モルタル規格

モルタル規格	入力番号
1 : 1	①
1 : 2	②
1 : 3	③
1 : 1 高炉	④
1 : 2 高炉	⑤
1 : 3 高炉	⑥

表 11. 3 コンクリート規格

生コンクリート規格	入力番号
18-8-25 (20) (普通)	①
18-8-25 (20) (高炉)	②
18-8-40 (普通)	③
18-8-40 (高炉)	④
各 種	⑤

(2) やぐら設置・撤去

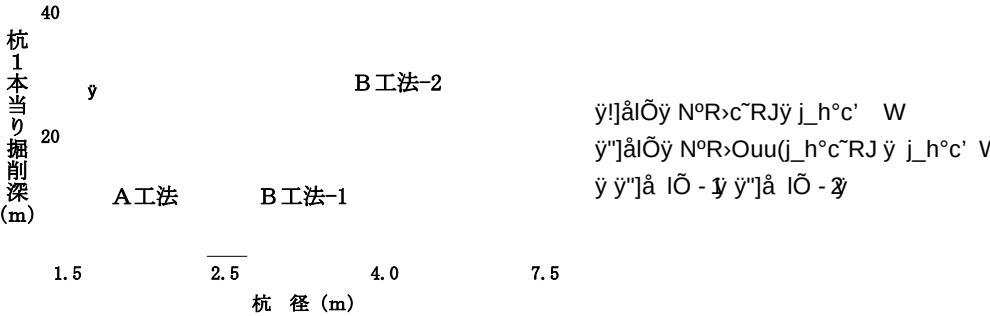
施工歩掛コード	WB230820	施工単位	回
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	使用機械区分 ①ラフテレーンクレーン ②索道	ラフテレーンクレーンの 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件の入力の必要はない。

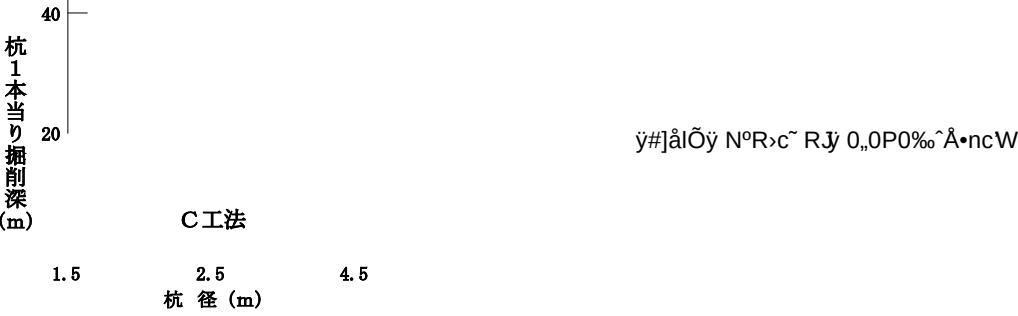
- J 1 条件で②を選択した場合は, 索道の設置・撤去は本コードに含まないので, 別途計上すること。
- ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
- ラフテレーンクレーンは低騒音型機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
- 発動発電機の普通型機種(排出ガス未対策型)にも適用出来る。また, 発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

\$b mñy]ǎ

ÿÿ • i u { ÄV ò
g,ÆÇe™0oÿ N°R>SÊ0sN°R>Qh°c~RJÿ j_h°c'W ÿ 0é0= 0Êü0×0i0ü0ÈW uY]ǎlÖ0k0~0xÿ ÿ ÿ ÿ Vóÿ ÿ ÿ 0ky: 0Y
{ÄVò0nmñy gm0ne½]ǎ0k•i0Y0<0
0j0Jÿ g,ÆÇe™0g0ngm_„0h0é0=0Êü0×0i0ü0È0nQlyǎ 0Ü0è0Èzt•“0n_ÿ 0h0W WÆE:R 0oÿ ^hÿ ÿ ÿ 0h0Y0<ÿa



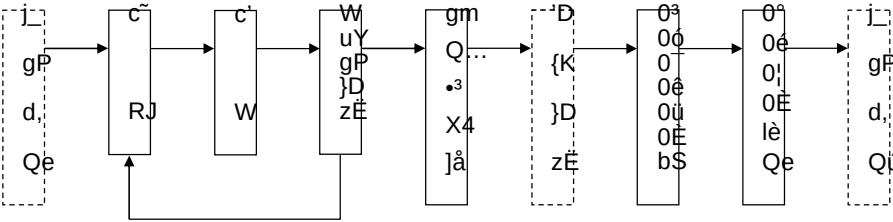
V ÿÿ ÿ •iu(gm_„SÊ0sc~RJmñj n- ÿ
(lè) gm_„ 2.5^ 4.0n0h0Mÿgmj_„S0ñc~RJmñL 2 00' •..0H0×4T 0oÿ c~RJmñ2 0n0N 0' c~RJ0Y0<X4T 0g0, B
]ǎlÖ0'•x[ÿ0Y0<0,0n0h0Y0< 0



Vóÿ ÿ ÿ •iu(gm_„SÊ0sc~RJmñc~RJj_0LspX40kd,QeQúg0j0DX4Tÿ

^hÿÿÿ WÆê	
WÆê	•i u(W Æê
W	x SÊ0sx ÆêW [~W SÊ0s]~W ÿ 0i0-SÊ0s 0i0-ÆêW
\\©	\\©XJ0ûs%wóSÊ0s0S0Æ0%0LÆêW ÿ [~W ÿ 0i0-ÆêW 0hm÷T 0W0_ÿW ZB\\©ÿ ! ÿ ÿ ÿ ÿ ÿ ÿ N-xl\\©0ú xl \\©ÿ ! ÿ ÿ

ÿÿ e ½]i ǎ, % •
e½]ǎ0Ö0í0ü0oÿ N Š 0j n-0h0Y00



(lè) g,kic>0g[p_Ü0W0f0D0<0n0oÿ [ÿ]Ú•èR 0n0•0g0B00
Vóÿ ÿ ÿ e½]ǎ0Öí0ü

ŷŷ j _ z .0 n x[š
ŷŷŷ c~RJW uYOlim0kO•u(0Y0<j_h°0û%•h<0oŷ kl^h0'j n-0h0Y00

^hŷŷŷ j_z.0n•x [š

O\im z. R%	j_ h° T	%• h<	SXOMepĩ	Jâ IÖ				dX %•
				A	B-1	B-2	C	
c' W	0 - 0 0é à0 . 0 0 ē	I^W'0-0éà0-0S0è0û0.0 0:0³000Ä0-0 èc'Qú0-0¹[p{VW<{(, k!Wún-P\$ 0Ð0±0Ä0Eñ ŷ ^szMŷ (.4r³	Sđ 1	%Ė				
c'W SÊds W uYgP0n T•¼0•	0é0Ö0Æ0i0ü0ó0~0i0ō	I^W'08~.0 0ÖW0û c'Qú0-0¹[p{VW<{(, k!Wún-P\$ 25tT	0 1	%Ė	%Ė	%Ė		
	0,, 0P 0%o ^Å .n	l!f 0,,0P0%oŷ 0â0û0¿0!0±0ó0ÄN0 €ŷR> 0.5t	0 1				%Ė	gm„ 4.5m Nân 0kO•u(
c~ RJ	\\ W 0 Ð0 Ä 0 - 0 Ű (0 - 0 í 0 ü W é)	-ûRÖ lqzM0.03mŷ ^s zM0.0 2mŷ •...\\eĖVpV0û c'Qú0-0¹[p{VW<{(, k!Wún-P\$ lqzN(.11rŷ ^s zN(.0 8ŷ	0 1		%Ė			
			0 1			%Ė		

ŷ lèŷŷŷ N ^h0nŠ-P™0oŷ~RJW 0'gmzĩ•Ñ-£0kNĩ•n0M0xX4T 0g0B00
ŷŷ c'W •Kd,0k0Ü0è0Ê0³0ó0Ü0ä0'•u(0Y0<X4T 0oŷ R%•Š N 0Y00
ŷŷŷŷ]âIÖ0n0é0Ö0Æ0i0ü0ó0~0i0ü0ó0lim0oŷ 0Ð0Ä0~0Ü0ŷgmQ...d,Qe0ûd,Qú0'T00€
ŷŷ 0é0Ö0Æ0i0ü0ó0~0i0ü0ó\\ W<0Ð0Ä0~0Ü0ŷ lqzM0.1ŷm ŷ 0oŷ ĄĖe™0h0Y0<

ŷŷ ŷ W uYgP
W uYgP0oŷ 0é0±0Ê0û0×0000'•u(0Wŷ Qh0f0nW ĄĖ0k0mfc~RJmñQh•w0'e½j]â0Wŷ WgP0od±S»0W0j0DŠVĖ
0'SŸRG0h0Y0<0 0~0_ŷ O•%h<0oŷ W W'S {-[l0k0~0c0fz [š0Y0<0

ŷŷŷj_h°d e™Ü kc
mñŷ]â0kO•u(0Y0<c~RJj_hŷ \\ W<0Ð0Ä0~0Ü0ŷ c' W j_hŷ 0~0é0à0-0S0ŷ 0nd e™0k0m0f0oŷ l©wóRK-ŷ- N-
xl©0ûxl l© (ŷ) 0h0W0f•kžŷ fB•"-_S0šd e™0k[0w0 e™Ükc0~L0F0,0n 0h0Wŷ ^Ükc0â0oŷ kl^h0h0Y0<ŷa

^hŷŷŷ ^ÜkcOâp

j_h° T \©R ^	N-xl©0ûxl©ŷ !` ŷ	dX %•
0 - 0 0é à0 . 0 0 ē	ŷ 0.1	ŷ!]â IÖ
\\ W < 0Ð0Ä0 - 0 Ű! (R_Ö \\ q N 0.03m)	ŷ 0.1	ŷ"]â IÖ -1

ŷŷ } è b N °T á
c~RJW uYOlim}èb N°T0oŷ kl^h0'j n-0h0Y0< 0

^ hŷŷŷ c R W uYOlim}èb N T á

ŷ N°ŷ

Evz. gm„ (n)	Jâ IÖ	Jâ IÖ			
	Åâ IÖ	Ðâ IÖ -1	Ðâ IÖ -2	Ųâ IÖ	
	1. 5Nân 2. 5Nân	2. 5•...0H 4. 0Nân	2. 5Nân 7. 5Nân	1. 5Nân 2. 5Nân	2. 5•...0H 4. 5Nân
W g(N „,N ŠqLy	1	1	1	1	1
0Ê0ó0Í0ërKŠâ	2	2	4	2	4
r y k Š 0 mT á	1	1	1	1	1
f n • Oi\mT á	1	1	1	1	1

5. 施 工 歩 掛

5-1 深礎杭1本当り施工日数

深礎杭1本当り施工歩掛は、次式による。

$$d = \alpha \cdot d_1 \cdot \ell \text{ (日/本)}$$

d : 深礎杭1本当り施工日数 (日/本)
 α : 土質係数
 d_1 : 掘削1m当り施工日数 (日/m)
 ℓ : 深礎杭1本当り掘削長 (m/本)

(1) 土質係数 (α)

土質係数は、次表を標準とする。

表5.1 土質係数 (α)

土	岩
砂及び砂質土, 粘性土, レキ質土	岩塊・玉石混じり土, 軟岩(Ⅰ), (Ⅱ), 中硬岩, 硬岩(Ⅰ)
0.57	1.12

(注) 杭1本当り土質区分が異なる場合の土質係数 α は、次のとおり加重平均して算出する。

$$\alpha = \frac{\alpha_1 \times \ell_1 + \alpha_2 \times \ell_2}{\ell_1 + \ell_2}$$

α_1 : 土質係数 (土)
 ℓ_1 : 掘削長 (土)
 α_2 : 土質係数 (岩)
 ℓ_2 : 掘削長 (岩)

(2) 掘削1m当り施工日数 (d_1)

掘削1m当り施工日数は、次表を標準とする。

なお、岩掘削は火薬によるものとする。

表5.2 掘削1m当り施工日数 (d_1) (A工法) (日/m)

掘削深(m) \ 杭径(m)	1.5以上 2.0以下	2.0を超え 2.5以下
	0.34	0.41
5以下	0.34	0.41
5を超え10以下	0.45	0.54
10を超え15以下	0.56	0.67
15を超え20以下	0.67	0.80

表5.3 掘削1m当り施工日数 (d_1) (B工法-1) (日/m)

掘削深(m) \ 杭径(m)	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下
	0.73	0.77	0.82
5以下	0.73	0.77	0.82
5を超え10以下	0.85	0.90	0.95
10を超え15以下	0.97	1.03	1.09
15を超え20以下	1.09	1.16	1.22

表5.4 掘削1m当り施工日数(d₁) (B工法-2)

(日/m)

杭径(m) 掘削深	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下	4.0を超え 4.5以下	4.5を超え 5.0以下	5.0を超え 5.5以下	5.5を超え 6.0以下	6.0を超え 6.5以下	6.5を超え 7.0以下	7.0を超え 7.5以下
5以下	—	—	—	1.06	1.13	1.23	1.32	1.45	1.60	1.76
5を超え10以下	—	—	—	1.16	1.23	1.33	1.43	1.57	1.74	1.91
10を超え15以下	—	—	—	1.20	1.28	1.38	1.49	1.63	1.81	1.99
15を超え20以下	—	—	—	1.23	1.31	1.42	1.52	1.67	1.86	2.04
20を超え25以下	1.04	1.11	1.17	1.25	1.33	1.45	1.55	1.71	1.89	2.08
25を超え30以下	1.06	1.13	1.19	1.27	1.36	1.47	1.58	1.73	1.92	2.11
30を超え35以下	1.07	1.14	1.20	1.29	1.37	1.49	1.60	1.75	1.94	2.14
35を超え40以下	1.08	1.15	1.22	1.30	1.39	1.50	1.61	1.77	1.97	2.16

表5.5 掘削1m当り施工日数(d₁) (C工法)

(日/m)

杭径(m) 掘削深(m)	1.5以上 2.5以下	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下	4.0を超え 4.5以下
5以下	0.98	0.98	1.36	1.65	2.10
5を超え10以下	1.15	1.15	1.52	1.86	2.36
10を超え15以下	1.33	1.33	1.68	2.07	2.68
15を超え20以下	1.50	1.50	1.84	2.28	2.89
20を超え25以下	—	1.67	2.00	2.49	3.16
25を超え30以下	—	1.85	2.16	2.70	3.42
30を超え35以下	—	2.02	2.32	2.91	3.69
35を超え40以下	—	2.19	2.48	3.12	3.95

(3) 諸雑費

諸雑費は、施工機械足場用の足場材(敷鉄板)賃料及び設置・撤去・移設、軸流ファン・工事用水中モータポンプ、ピックハンマ、コンクリートブレーカ、排土バケット、昇降用梯子、空気圧縮機、火薬、雷管、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、工事用水中モータポンプの有無に関係なく同率とする。

表5.6 諸雑費率(β)

(%)

諸 雑 費 率	工 法	A工法	B工法-1	B工法-2	C工法
	土質区分				
	砂及び砂質土、 粘性土、レキ質土 (土)	13	16	10	11
	岩塊・玉石混じり土、 軟岩(I)、(II)、 中硬岩、硬岩(I) (岩)	27	34	27	16

(注) 1. 岩掘削は火薬を標準としており、火薬による施工が困難な場合は、別途考慮する。

2. 杭1本当り土質区分が異なる場合の諸雑費率βは、次のとおり加重平均して算出する。

$$\beta = \frac{\alpha_1 \times \beta_1 \times l_1 + \alpha_2 \times \beta_2 \times l_2}{\alpha_1 \times l_1 + \alpha_2 \times l_2}$$

α₁: 土質係数(土)

β₁: 諸雑費率(土)

l₁: 掘削長(土)

α₂: 土質係数(岩)

β₂: 諸雑費率(岩)

l₂: 掘削長(岩)

5-2 杭内足場工

(1) 足場の種類及び数量

足場の種類は、手摺先行型枠組足場を標準とする。

掛面積は、次式による。

$$\text{掛面積 (m}^2\text{)} = \text{掘削 1 m 当り掛面積 (m}^2\text{)} \times \text{掘削深 (m)}$$

表5.7 掘削1m当り掛面積 (m²)

杭 径 (m)	1.5以上 2.0以下	2.0を超え 2.5以下	2.5を超え 3.0以下	3.0を超え 3.5以下	3.5を超え 4.0以下	4.0を超え 4.5以下
掛面積 (m ²)	1.2	1.5	3.6	3.6	5.0	6.6
杭 径 (m)	4.5を超え 5.0以下	5.0を超え 5.5以下	5.5を超え 6.0以下	6.0を超え 6.5以下	6.5を超え 7.0以下	7.0を超え 7.5以下
掛面積 (m ²)	8.2	9.7	11.3	12.9	14.4	16.0

(2) 設置・撤去歩掛

足場設置・撤去歩掛は、「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」による。ただし、ラフテレーンクレーンが使用出来ない場合は、別途考慮する。

5-3 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

5-4 コンクリート工

(1) コンクリート使用量

コンクリート使用量は、次式による。

$$V = \frac{\pi}{4} \times D^2 \times l_1 \times 1.02 \text{ (m}^3\text{/本)}$$

V : 杭 1 本当りコンクリート使用量 (m³/本)

D : 杭径 (公称径) (m)

l₁ : 打設長 (m)

(2) 打設歩掛

打設歩掛は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。

5-5 グラウト工

(1) 注入歩掛

グラウト材は、混合済みグラウト材の現場持込みを標準とする。

土留材と地山の隙間をグラウトにより間詰する場合の注入歩掛は、次表を標準とする。

表5.8 グラウト注入歩掛 (注入量10m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.49
特 殊 作 業 員		//	0.98
普 通 作 業 員		//	0.49
諸 雑 費 率		%	21

(注) 1. グラウト用パイプが必要な場合は、別途計上する。

2. 諸雑費は、グラウトポンプ、グラウトホース、グラウト流量・圧力測定装置、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) グラウト使用量

次式を標準とするが、現場条件により次式が適用出来ない場合は、別途考慮する。

$$G = 0.08 \pi (D + 0.08) \ell_2 \times 1.14$$

G : 杭1本当りグラウト使用量 (m³/本)

D : 杭径 (公称径) (m)

ℓ_2 : 杭1本当りグラウト必要長 (m)

5-6 掘削作業設備組立解体工 (C工法に適用)

深礎杭1本当りのやぐら装置、作業用足場等の組立・解体は、次表を標準とする。

表5.9 組立・解体歩掛 (深礎杭1本当り)

名 称	規 格	単 位	杭 径 (m)		
			1.5以上2.5未満	2.5以上3.0未満	3.0以上4.5以下
土 木 一 般 世 話 役		人	0.6	0.9	1.2
と び 工		//	0.9	1.1	1.3
特 殊 作 業 員		//	1.3	1.5	1.7
普 通 作 業 員		//	1.1	1.6	2.1
トラッククレーン運転	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	日	0.6		
諸 雑 費 率		%	3		

(注) 1. 上表は、組立と解体を合計した歩掛である。

2. 諸雑費は、作業用足場等の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. トラッククレーンは、賃料とする。

4. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

6. 内訳書及び単価表

(1) 深礎杭 1 本当り内訳書

施工歩掛コード					WB230910, WB230930, WB230920,
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
掘 削 土 留		本		単価表(2)	
掘削作業設備組立解体工	やぐら装置	式	1	単価表(3) ※C工法のみ計上	
杭 内 足 場 工	手摺先行型枠組足場	掛 m^2			
鉄 筋 工		t			
コ ン ク リ ー ト 工		m^3			
グ ラ ウ ト 工		//		単価表(4)	
土 留 材	ライナープレート	m			
計					

(2) 掘削土留 1 本当り単価表

施工歩掛コード					WB230910
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	d×M	d: 深礎杭1本当り施工日数 M: 表4.1の人員	
ト ン ネ ル 特 殊 工		//	d×M		
特 殊 作 業 員		//	d×M		
普 通 作 業 員		//	d×M		
クラムシェル運転	油圧クラムシェル・ テレスコピック式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) バケット容量(平積 $0.4m^3$)	日	d	※A工法のみ計上 機械賃料	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	//	d	※A、B工法のみ計上 機械賃料	
小型バックホウ運 (クローラ型)運転	電動式 山積 $0.03m^3$ (平積 $0.021m^3$)	//	d	※B工法-1のみ計上 機械賃料	
小型バックホウ運 (クローラ型)運転	超小旋回型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 $0.11m^3$ (平積 $0.08m^3$)	//	d	※B工法-2のみ計上 機械賃料	
や ぐ ら 装 置	簡易やぐら(モータウインチ付) 能力 $0.5t$	//	d'	※C工法のみ計上 $d'=1.5\times d$ d': 深礎杭1本当り供用日数 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表5.6	
計					

(3) 掘削作業設備組立解体工 杭 1 本当り単価表 (C工法のみ計上)

施工歩掛コード					WB230920
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表5.9	
と び 工		//		//	
特 殊 作 業 員		//		//	
普 通 作 業 員		//		//	
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	日		表5.9 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表5.9	
計					

7. 施工単価入力基準表

(1) 掘削土留

施工歩掛コード		WB230910	施工単位	本		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	工法	杭径	砂・砂質 粘性土・ レキ質土 の掘削長	岩塊・玉石 混じり土・軟岩 中硬岩・硬岩 の掘削長	中硬岩・硬岩掘 削の有無	ラフテレーン クレーン賃料 補正係数
	①A工法					
	②B工法－1				①無	①標準
	③B工法－2	(m)	(m)	(m)	②有	②標準以外
	④C工法	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(岩石割増)	(実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で①～③を選択し、J 5 条件で②を選択した場合は、岩石割増（中硬岩）として、運転1時間
当り損料が補正される。
2. J 1 条件で④を選択した場合は、J 6 条件は選択する必要はない。
3. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
4. 本コードは、クラムシェルの低騒音型機種についても適用出来る。
5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレー
ンの普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

(2) グラウト注入工

施工歩掛コード	WB230930	施工単位	m ³

- (注) 1. グラウト用パイプは、別途計上する。
2. 注入用モルタル単価（Y-0220000）[円/m³] を単価登録すること。

(3) 掘削作業設備組立・解体（C工法のみ）

施工歩掛コード	WB230920	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1	J 2	
	杭径種別 (表7.1)	トラッククレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

- (注) ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

表7.1 杭径種別

杭 径 (m)	入力番号
1.5以上2.5未満	①
2.5以上3.0未満	②
3.0以上4.5以下	③

(4) 土留材材料費（撤去しない埋設）

施工歩掛コード	WB230940	施工単位	m

- (注) ライナープレート単価（Y-1662000）[円/m] を単価登録すること。

(5) コンクリート工

コンクリート工については、「第4章①コンクリート工」のCB240010を使用すること。
なお、コンクリートの数量欄には、設計量（ $\pi/4 \times D^2 \times L$ ）を入力すること。

④ ニューマチックケーソン工

1. 適用範囲

本資料は、掘削深度が40m未満でかつ掘削面積が40m²以上300m²未満までのニューマチックケーソン工事に適用する。

なお、次項の掘削条件等の場合、又は現場条件により本資料により難い場合は、別途考慮する。

- (1) 函内作業気圧（函内作業気圧とはゲージ圧力（絶対圧力：大気圧）をいう）が、0.4MPa以上で施工する場合
- (2) 工期等により3組以上で施工する場合
 なお、「組」については、「第Ⅰ編第2章①直接工事費3. 労務費」を参照
- (3) ケーソン1基に対し、2艀装（マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1艀装、マテリアルロック1艀装）以外で施工する場合

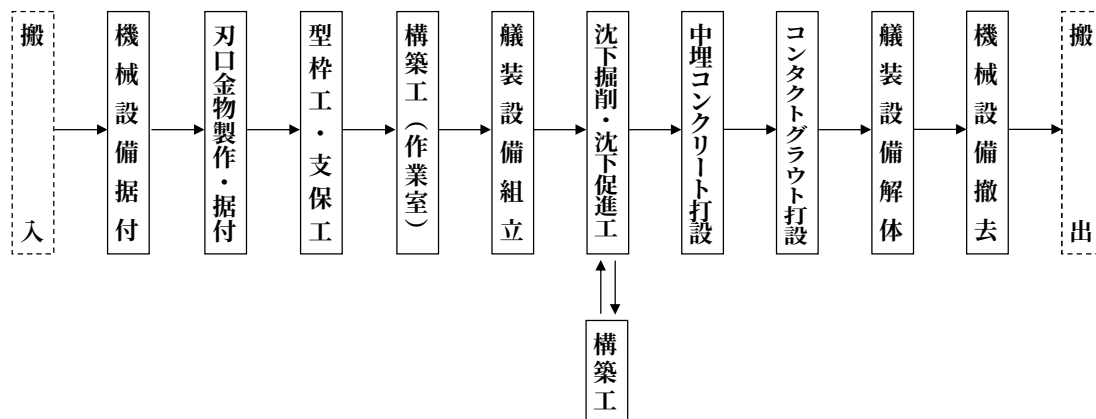
2. 施工概要

2-1 工法説明

ニューマチックケーソン工法は、ケーソンを構築し底部に作業室を設けて、送気設備より地下水に対抗する圧力の空気を送り、ドライに近い状態の室内へ作業員が入り、土砂を掘削、排出してケーソンを所定の支持地盤まで沈下させる工法である。

2-2 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. ケーソンにはピアケーソンと止水壁ケーソンがあり、このフローはピアケーソンについて適用する。

図2-1 施工フロー

3. 掘削工法及び艀装の選定

掘削工法及び艀装は、ケーソン1基の掘削面積により、次表を標準とする。

表3.1 掘削工法及び艀装数

ケーソン1基の掘削面積	工 法	艀装数	艀 装 内 訳
40m ² 以上300m ² 未満	機械掘削	2	マンロック（空気減圧対応型）又はマンロック（酸素減圧対応型）1艀装、マテリアルロック1艀装

4. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

減圧方法が空気減圧を行う場合に空気減圧対応型を選定し、酸素減圧対応型を計上しない。又、減圧方法が酸素減圧を行う場合に酸素減圧対応型を選定し、空気減圧対応型を計上しない。

表4.1 機種を選定(ケーソン1基当り)

種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
排土設備	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 50 t 吊	台	1	(注) 1
	バ ケ ッ ト	1.0m ³ 級	個	2	1マテリアルロックにつき2個
	土 砂 ホ ッ パ	10m ³ 級	基	1	
機 装 設 備	マテリアルロック	通過可能バケット1.0m ³ 径×長さφ1.8～1.9×5.5m級 圧力0.4MPa	〃	1	機械掘削1基
	マ ン ロ ッ ク (空気減圧対応型)	立型10～12人用 圧力0.4MPa	〃	1	暖房、自記気圧計、自動換気装置を含む
	マ ン ロ ッ ク (酸素減圧対応型)	立型8人用 圧力0.4MPa	〃	1	暖房、自記気圧計、自動換気装置、酸素・二酸化炭素計測装置及び濃度表示器を含む
	ケーソン用エレベータ (内 圧 用)	3人用 圧力0.4MPa	〃	1	必要に応じて別途計上
	ケーソン用エレベータシャフト (内 圧 用)	3人用 圧力0.4MPa	式	1	〃
	マテリアルシャフト	径×長さφ1.2m×2.0m級 圧力0.4MPa	〃	1	必要数量
	マ ン シ ャ フ ト	径×長さφ1.2m×2.0m級 圧力0.4MPa	〃	1	〃
	スペシャルシャフト	径×長さφ1.4m×0.5m級 圧力0.4MPa	個	2	
	ボ ッ ト ム ド ア	径1.4m級 圧力0.4MPa	〃	2	
	自動圧力調整装置	径100mm級 圧力0.4MPa	〃	1	
	高 圧 ホ ー ス	径100mm級 長さ10m 圧力1.0MPa	本	7	
	送 気 管	径100mm 長さ5.5m 圧力1.0MPa	m		ゲージ設備からケーソンまで
	照 明 設 備		式	1	
掘削設備	天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル	山積0.15m ³ (平積0.13m ³)	台	1	掘削面積40m ² 以上100m ² 未満の場合
				2	〃 100 〃 300 〃
	走 行 レ ー ル (天井走行式ショベル用)	長さ2m級×1本	式	1	必要数量
安全設備	酸素集合装置	マンロック、ホスピタルロック用	基	1	必要に応じて別途計上(注)2
	酸素呼吸装置 (マンロック用)	マンロック、ホスピタルロック用	台	10	〃 〃
安全管理・連絡設備	ガ ス 検 知 器	携帯用	個	1	(注) 3
	ガ ス 検 知 器 (ニューマチックケーソン用)	定置式〔3点(酸素、メタン、H ₂ S)計測用〕	台	1	(注) 3,4
		定置式〔5点(酸素、メタン、H ₂ S、CO、CO ₂)計測用〕	〃	1	
	電話又はインターホン		式	1	(注) 3
	ブ ザ ー		〃	1	〃
	函 内 T V		〃	1	〃

(注)1. クローラクレーンは、賃料とする。

2. 酸素減圧を行う場合、酸素集合装置、酸素呼吸装置(マンロック用)について、共通仮設費の安全費で別途計上する。

3. 安全管理・連絡設備は、共通仮設費(率分)に含まれる。

4. ガス検知器(ニューマチックケーソン用)は、現場条件により3点または5点計測用を用いる。

5. 現場条件により上表により難しい場合は別途考慮する。

表4.2 機種の選定(1工事当り機械設備)

種別	機 械 名	規 格	単位	数 量	摘 要
送気設備	空 気 圧 縮 機	吐出量29/36m ³ /min 圧力0.4MPa	台	必要台数	(注) 1
	圧縮空気清浄機	処理量 1,100m ³ /h	〃	必要台数	(注) 2
	クーリングタワー	40～60 t/h	〃	必要台数	(注)3, 4, 5
	循 環 水 ポ ン プ	口径80mm・全揚程30m	〃	必要台数	(注)4, 6
	レシーバータンク	容量2.5m ³ 圧力0.7～0.9MPa	〃	必要台数	(注) 2
	送 気 管	径150mm 長さ5.5m 圧力1.0MPa	m	空気圧縮機からゲージ設備まで	
救急設備	ホスピタルロック(空気再圧対応型)	〔中型〕 径×長さ φ1.9×4m級 圧力0.5MPa	台	1	(注) 7
	ホスピタルロック(酸素再圧対応型)	〔中型〕 径×長さ φ1.9×4m級 圧力0.5MPa	〃	1	(注) 7, 8
	酸素集合装置	マンロック, ホスピタルロック用	基	1	〃
	酸素呼吸装置(ホスピタルロック用)	マンロック, ホスピタルロック用	台	4	〃 必要に応じて別途計上
	圧縮空気清浄機	処理量 650m ³ /h	〃	1	(注) 7
	高 気 圧 下 用 空 気 呼 吸 器	〔半閉鎖循環式〕 圧力0.4MPa 使用時間30min 3ℓ級	個	4	〃
予備設備	空 気 圧 縮 機	可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 7.5～7.8m ³ /min 10.5～11m ³ /min 18～19m ³ /min の中から選定	台	必要台数	(注) 9
	発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス対策型(第1次基準値) 35kVA	〃	必要台数	〃
電 力 設 備			式	1	

- (注) 1. 必要空気量を求め、それに見合う空気圧縮機の台数を計上する。
 2. 空気圧縮機の容量に見合う台数を計上する。
 3. クーリングタワー用補給水として、清水(水道水、ろ過河川水等)を次の量補給する。
 40 t/h……7ℓ/min
 4. 空気圧縮機動力100kW当り180ℓ/minの清水が得られる場合は、その取水設備を計上し、クーリングタワーと循環水ポンプは計上しない。
 5. クーリングタワー用の補給水について、水道水等による補給が出来ず運搬を伴う場合には別途考慮する。
 6. 循環水ポンプについては、必要台数に予備ポンプを含める。
 7. 救急設備は、共通仮設費の安全費で別途計上する。
 8. 酸素減圧を行う場合、酸素集合装置、酸素呼吸装置(ホスピタルロック用)について、共通仮設費の安全費で別途計上する。
 9. 予備設備の空気圧縮機、発動発電機は、賃料とする。
 10. 現場条件により上表により難しい場合は、必要により別途考慮する。なお、空気圧縮機用の仮設建屋の費用は共通仮設費において、別途計上する。

5. 掘削編成人員

5-1 函内作業

ケーソン1基当りの函内作業の編成人員は、次表を標準とする。

表5.1 函内編成人員 (人/基)

掘削工法	掘削面積	潜かん世話役	潜かん工	摘 要
機 械 掘 削	40m ² 以上100m ² 未満	1	5	天井走行式ショベル1台
	100m ² 以上300m ² 未満	1	7	天井走行式ショベル2台

(注) 機械掘削の場合の函内掘削機械の運転は、潜かん工が行うものとし、上表に含まれている。

5-2 函外作業

ケーソン1基当りの函外作業の編成人員は、次表を標準とする。

表5.2 函外編成人員 (人/基)

艀装数	潜かん世話役	潜かん工	特殊作業員	普通作業員	摘 要
2	1	1	1 (0)	2	

(注) 函内作業気圧が0MPa(素掘)の場合は、特殊作業員は計上しない。

5-3 送気用設備

送気用設備の運転の編成人員は、次表を標準とする。

表5.3 送気用設備編成人員 (人)

特 殊 作 業 員	電 工
1	1

6. 作 業 時 間 等

6-1 函内作業及び函外作業

函内作業及び函外作業に従事する作業員の1組当り作業時間(賃金対象時間)は8時間とし、1日2交替(2組)とする。

6-2 送気用設備

送気用設備の運転に従事する特殊作業員、電工の作業時間は、全日(24時間)とし、2交替で従事するものとする。
なお、所要日数は、送気開始日から終了日までとする。

7. 設備等の供用日数

設備等の供用日数は、積上げて算出することを原則とするが、次表のとおり算定することが出来る。

表7.1 供用日数

設 備 等	供 用 日 数	摘 要
排土設備	$(A+B+E) \times 1.4$	ケーソンが2基以上の場合は、重複する分を減ずること。
掘削設備	$(A+B+E) \times 1.4$	
艦装設備	$(A+B+C) \times 1.4$	
安全設備	$(A+B+C) \times 1.4$	
送気設備	$(A+B+C+D) \times 1.4$	
救急設備	$(A+B+C) \times 1.4$	
予備設備	$(A+B+C) \times 1.4$	

ただし、A：ケーソン構築日数（艦装日数含む）

B：掘削沈下日数

C：中埋コンクリート打設・養生日数（支持力テスト含む）

D：定置式空気圧縮機組立・分解日数

E：天井走行式ショベル組立・分解日数

- (注) 1. 送気用空気圧縮機は、最大容量分を同時に据付・撤去する。
 2. 送気用空気圧縮機は、各ロットの掘削又は構築作業毎に運転台数を求め計上する。
 3. 艦装用シャフトは、ケーソン1基当たり全使用本数の1/2は全供用日数を、残1/2は全供用日数の1/2を供用日数とする。
 4. 供用日数は整数止めとし、小数点以下第1位を切り上げるものとする。

8. 施 工 歩 掛

8-1 刃口金物製作・据付

8-1-1 刃口金物の材料費

刃口金物の材料費（製作費含む）は、一般管理費等のみ対象とする。

8-1-2 刃口金物の据付け

刃口金物の据付けは、次表を標準とする。

表8.1 刃口金物据付歩掛

(1基当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	$0.5 \times T_1$	T_1 ：1基当たり刃口金物質量（t）
溶接工		〃	$1.0 \times T_1$	
普通作業員		〃	$0.8 \times T_1$	
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊	日	$0.24 \times T_1$	
諸 雑 費 率		%	7	

- (注) 1. 据付地盤の整地は含まない。
 2. 溶接工には、機械工を含む。
 3. 電気溶接機の運転を含む。
 4. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 5. 諸雑費は、電力に関する経費、溶接機の損料、燃料・油脂及び溶接ワイヤー等の費用であり、労務費及び賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

8-2 沈下掘削

8-2-1 機械掘削

施工1日(2組)当りの掘削量(D_c)は、次式による。

$$D_c = \beta \times D_{c1}$$

D_c: 1日(2組)当りの掘削量(m³・地山/日)

β: 補正係数

D_{c1}: 機械掘削1日(2組)当りの掘削量(m³・地山/日)

表8.2 機械掘削1日(2組)当りの掘削量(D_{c1}) (m³・地山/日)

掘削面積(m ²) 函内 作業気圧(MPa)	40～60未満	60～100未満	100～300未満
0(素掘)	53.4 (—)	61.4 (—)	96.3 (—)
0を超え0.10以下	51.9 (—)	59.6 (—)	93.6 (—)
0.10を超え0.14以下	42.0 (45.0)	48.2 (51.8)	75.7 (81.2)
0.14を超え0.18以下	30.5 (36.6)	35.1 (42.1)	55.1 (66.1)
0.18を超え0.22以下	19.8 (26.7)	22.8 (30.7)	35.8 (48.2)
0.22を超え0.26以下	16.0 (22.9)	18.4 (26.3)	28.9 (41.3)
0.26を超え0.30以下	12.2 (18.3)	14.0 (21.1)	22.0 (33.0)
0.30を超え0.34以下	— (14.5)	— (16.7)	— (26.2)
0.34を超え0.36以下	— (11.4)	— (13.2)	— (20.6)
0.36を超え0.38以下	— (9.9)	— (11.4)	— (17.9)
0.38を超え0.40以下	— (9.9)	— (11.4)	— (17.9)

(注) 酸素減圧を行う場合は、()内の数を計上する。

表8.3 土質による補正係数(β)

土質	砂、砂質土、 粘性土及び粘土	レキ及び レキ質土	玉石混り 砂レキ	軟岩(Ⅰ)	軟岩(Ⅱ)
補正係数	1.00	0.84	0.56	0.35	0.17

- (注) 1. 刃口据付面から掘削深3mまでは、上表を30%低減する。
2. 軟岩(Ⅰ)は、ピックハンマ等による掘削、軟岩(Ⅱ)は発破を必要とする場合の歩掛である。
3. 軟岩(Ⅱ)の場合、掘削10m³当り火薬2.1kg、雷管13個を計上する。
4. 軟岩(Ⅱ)の場合は削岩機を、軟岩(Ⅰ)の場合はピックハンマを次の台数計上する。
掘削面積 40m²以上100m²未満 2台
空気圧縮機(削岩機用) 7.5～7.8m³/min [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] × 1台
掘削面積 100m²以上300m²未満 3台
空気圧縮機(削岩機用) 7.5～7.8m³/min [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] × 1台
掘削面積 40m²以上100m²未満 2台
空気圧縮機(ピックハンマ) 7.5～7.8m³/min [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] × 1台
掘削面積 100m²以上300m²未満 3台
空気圧縮機(ピックハンマ) 7.5～7.8m³/min [可搬式・エンジン駆動・スクリュ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] × 1台
5. 軟岩(Ⅰ)で亀裂が少なくブレーカを使用しても大塊となるもの及び軟岩(Ⅱ)において中硬岩に近く相当に発破を必要とするものについては、日当り掘削量を30%低減することが出来る。

8-3 沈下促進工法

8-3-1 載荷工法

(1) 材料

水荷重（ポンプによる注排水）を標準とするが、現場条件等によりその他の工法が必要な場合は別途計上する。

(2) 水荷重（ポンプによる注排水）作業

水荷重（ポンプによる注排水）作業は、次表を標準とする。

表8.4 水荷重（ポンプによる注排水）作業歩掛（1 t 当り）

名 称	単 位	数 量
特 殊 作 業 員	人	0.02

(注) 注排水は、工事用水中モータポンプ 普通型(潜水ポンプ)φ100を必要台数計上する。

8-4 構築工

8-4-1 本体及び止水壁の製作

本体及び止水壁は、鉄筋コンクリート構造を標準とする。

(1) 本体及び止水壁の構築日数

コンクリートは早強セメント使用を標準とし、1ロット（ロット）当り標準構築日数は、艀装の組立・解体を含めて10日（普通セメント使用の場合12日）とする。なお、止水壁の製作は止水壁ケーソンを使用する場合のみ適用する。

(2) 投入打設工

「第Ⅱ編第4章①コンクリート工（鉄筋構造物）」により別途計上する。

(3) 足場工

① 足場は枠組足場を標準とし、掛面積は、次式による。

$$1 \text{ ロット足場掛面積 (掛m}^2\text{)} = 1 \text{ ロット外周面積} \times 1.6 \text{ (掛m}^2\text{)}$$

なお、上式の数量は、ケーソン内側の足場数量も含む。

② 足場の設置及び撤去は、1ロット毎に計上する。

③ 足場の架設器材及び設置・撤去歩掛は、「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」により、別途計上する。

(4) 型枠工

「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。

(5) 支保工

「第Ⅱ編第5章⑨-2支保工」により別途計上する。

(6) 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）」により別途計上する。

(7) 養生工

「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

8-4-2 中埋コンクリート打設

(1) 中埋コンクリート工

中埋コンクリート打設、コンクリートポンプ車の運転経費は「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」による。

(2) 型枠工

「第Ⅱ編第4章②型枠工」により別途計上する。

(3) 支保工

「第Ⅱ編第5章⑨足場支保工」により別途計上する。

(4) 鉄筋工

鉄筋工は、「第Ⅵ編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。

(5) 養生工

「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」により別途計上する。

(6) ブローパイプバルブ調整

ケーソン1基当りのブローパイプのバルブ調整は、次表を標準とする。

表8.5 ブローパイプバルブ調整 (1基当り)

名 称	単 位	数 量
潜 か ん 工	人	6.3
諸 雑 費	%	21

- (注) 1. バルブ調整は中埋コンクリートの打設量に関係ない。
 2. 諸雑費はボールバルブ、フランジの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

8-4-3 コンタクトグラウト打設

コンタクトグラウト打設が必要な場合は、別途計上する。

9. 仮 設 備 工

9-1 仮設備の組立・解体

仮設備の組立・解体は、次表により計上する。

ただし、定置式空気圧縮機設備、土砂ホッパ等を同場所に同時に2台以上組立・解体する場合は、次表に台数分を乗じて計上する。

表9.1 仮設備の組立・解体歩掛

(1台当り)

名 称	規格	単 位	定置式空気圧縮機設備 (29/36m ³ /min)		土砂ホッパ (10m ³ 級)		天井走行式ショベル(山積0.15 m ³ (平積0.13m ³))		クーリングタワー 設備 (40～60 t /h)		ホスピタルロック	
			組立 7.0 日	解体 5.0日	組立	解体	組立 3.2日	解体 3.2日	組立	解体	組立	解体
土木一般世話役		人	3.3	2.0	1.5	0.5	2.2	2.2	—	—	1.0	1.0
とび工		〃	7.0	3.0	5.2	2.5	—	—	—	—	3.0	1.0
溶接工		〃	14.0	5.0	3.5	1.3	—	—	1.0	0.5	4.0	1.1
潜かん工		〃	—	—	—	—	7.9	6.3	—	—	—	—
電 工		〃	3.0	1.0	0.4	0.2	1.0	1.0	—	—	—	—
普通作業員		〃	11.0	5.0	0.6	0.4	—	—	0.7	0.3	3.3	2.0
コンクリート		m ³	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊	日	2.0	1.0	1.5	1.0	3.2	3.2	0.3	0.2	1.0	1.0
諸 雑 費		%	24		7		10		32		14	

- (注) 1. 組立材料は、地盤状態のよい水平面上に設置した場合の必要量を計上するものとし、コンクリートの打設歩掛は組立・解体歩掛に含まれている。
2. 天井走行式ショベルの組立・解体には、天井走行レールの組立・解体を含む。
3. 定置式空気圧縮機の歩掛は、レシーバータンク、圧縮空気清浄装置の組立・解体を含んでいる。
4. クーリングタワーの歩掛は、空気圧縮機等からの配管を含む。
5. 天井走行式ショベルの解体歩掛は、函内作業気圧0.22MPa（酸素減圧の場合は0.26MPa）までを標準とし、それ以上については別途考慮する。
6. 諸雑費は組立に必要な配管、ボルトナット、バルブ、パッキン、土砂ホッパの足下に設置するH形鋼、ホスピタルロックの建屋材等であり、労務費、組立材料費、機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
7. 定置式空気圧縮機設備の基礎コンクリートの撤去については、市場単価により別途計上する。
8. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

9-2 送気用配管設備

配管は、一般配管用鋼管（ガス管）とし、空気圧縮機からゲージ設備まではφ150mm、ゲージ設備からケーソンまではφ100mmを標準とし、配管歩掛は次表を標準とする。

表9.2 配管歩掛

(100m当り)

名 称	単 位	管 径 (mm)			
		100		150	
		組立	解体	組立	解体
土木一般世話役	人	1.0	0.5	1.0	0.6
普通作業員	〃	3.0	2.0	4.0	2.0
配 管 工	〃	3.0	2.0	5.0	3.0
諸 雑 費	%	21		16	

- (注) 諸雑費はパッキン、ボルトナット、ティー、バルブの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

9-3 艀装設備組立・解体

潜函のシャフト(たて管)、送気管、排気管及び配電管等の設備機械の艀装は、1リフト(ロット)毎に組立・解体を行い、歩掛は次表を標準とする。

表9.3 組立・解体歩掛
(人/1艀装・1リフト(ロット)当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0
潜 か ん 工		〃	3.0
溶 接 工		〃	5.5
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 50t吊	日	1.0
諸 雑 費		%	6

(注) 1. 沈下完了後の解体労務は、上記の工数に含まれているので別途計上しない。
2. 艀装組立・解体日数は、1艀装1リフト(ロット)当り1日とする。
3. クローラクレーンは、賃料とする。
4. 諸雑費は艀装に伴うボルトナット、送排気管、パッキンであり、労務費、賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

10. 参 考 資 料

10-1 函内照明設備

函内照明は40W蛍光灯とし、個数は次式による。

$$N > (1 + \frac{L}{6}) S + 0.14A$$

N: ケーソン内40W蛍光灯個数(個)

L: マンシャフト長(m)

S: マンロック数(基)

A: 掘 削 面 積 (m²)

10-2 1組当り掘削実作業時間

1組当りの掘削実作業時間は、次表を標準とする。

表10.1 1組当り掘削実作業時間

函内作業気圧(MPa)	1組当り掘削実作業時間(分)
0(素掘)	7.0 (一)
0を超え0.10以下	6.8 (一)
0.10を超え0.14以下	5.5 (5.9)
0.14を超え0.18以下	4.0 (4.8)
0.18を超え0.22以下	2.6 (3.5)
0.22を超え0.26以下	2.1 (3.0)
0.26を超え0.30以下	1.6 (2.4)
0.30を超え0.34以下	— (1.9)
0.34を超え0.36以下	— (1.5)
0.36を超え0.38以下	— (1.3)
0.38を超え0.40以下	— (1.3)

(注) 1. 上記の1組当り掘削実作業時間は、平成27年4月「高気圧作業安全衛生規則」の改正により、高圧下の時間(高圧室内作業者に加圧を開始した時から減圧を開始するまでの時間)を基礎に純作業時間を考慮し示したものである。
2. ()内は酸素減圧を行った場合の作業時間を示す。

10-3 酸素使用量

酸素使用量は以下を標準とする。

(1) 酸素使用量

酸素使用量は、次式による

$$\text{酸素使用量 (m}^3\text{)} = \Sigma (\text{a} \times \text{b} \times \text{c})$$

酸素使用量：1組当り酸素使用量 (m³)

a：区分毎の1人当り酸素使用量 (m³/人)

b：区分毎の1組当り函内編成人員 (人/組)

c：区分毎の交替数 (組)

表10.2 酸素使用量 (m³)

区 分 函内作業気圧 (MPa)		1人当り 酸素使用量 a (m ³ /人)	1組当り 函内編成人員 b (人/組)	交替数 c (組)
掘 削 作 業 時	0.10を越え 0.14以下	2.1	編成人員(表5.1)	交替数
	0.14を越え 0.18以下	3.8	〃	〃
	0.18を越え 0.22以下	3.6	〃	〃
	0.22を越え 0.26以下	4.5	〃	〃
	0.26を越え 0.30以下	4.4	〃	〃
	0.30を越え 0.34以下	4.7	〃	〃
	0.34を越え 0.36以下	4.3	〃	〃
	0.36を越え 0.38以下	4.0	〃	〃
そ の 他	0.38を越え 0.40以下	4.4	〃	〃
	作業室内設備解体	(注)3	4人/組	〃
	地耐力試験	〃	〃	〃
中埋コンクリート確認		〃	〃	〃

- (注) 1. 酸素使用量には、酸素ボンベ内の圧力低下によるロス率25%を含む。
 2. 酸素(医療用)費用については、共通仮設費の安全費で別途計上する。
 3. 函内作業気圧時の酸素使用量を用いる。

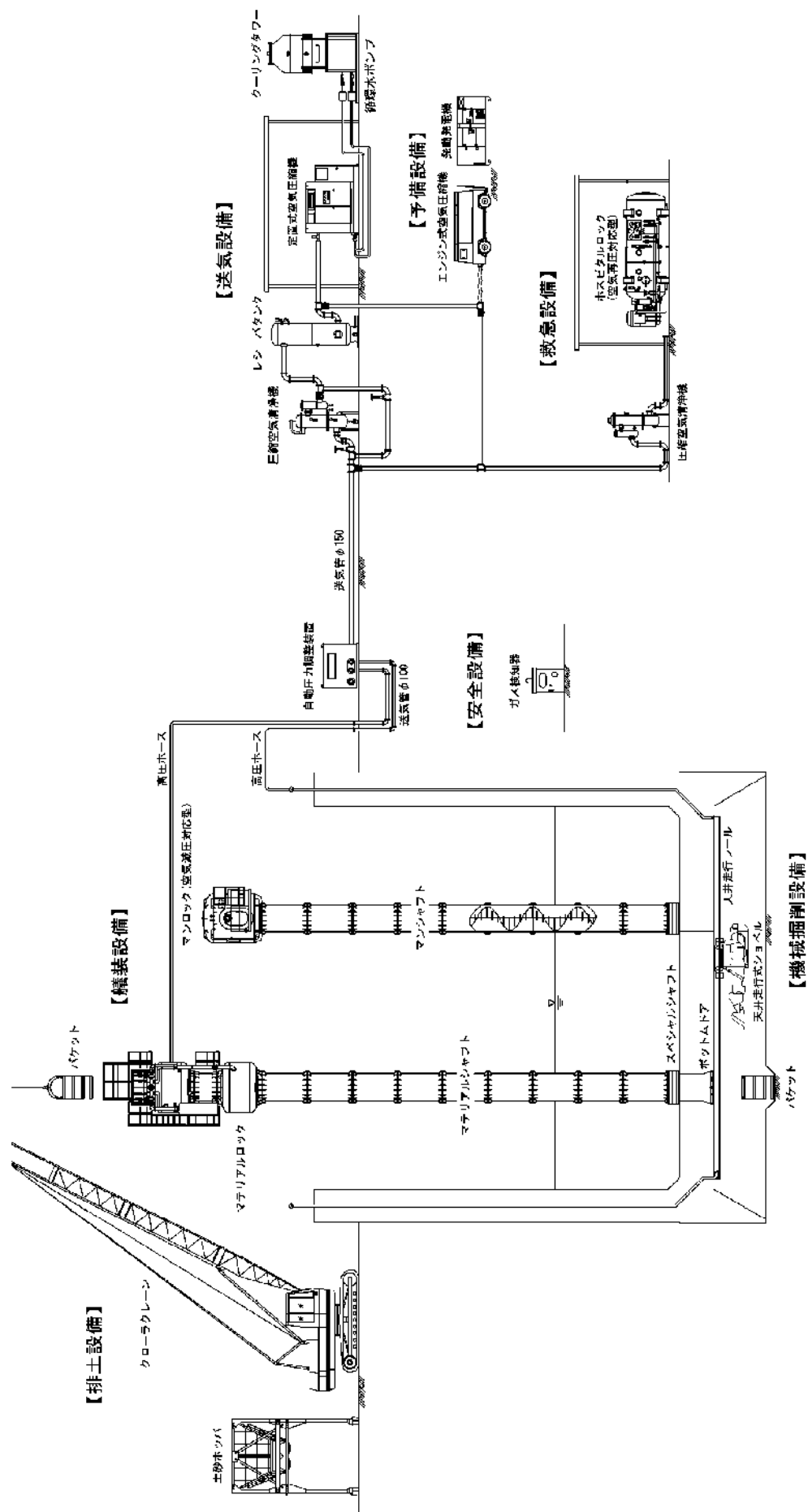
10-4 酸素集合装置設置・撤去(マンロック・ホスピタルロック用)

酸素集合装置設置・撤去は、次表を標準とする。

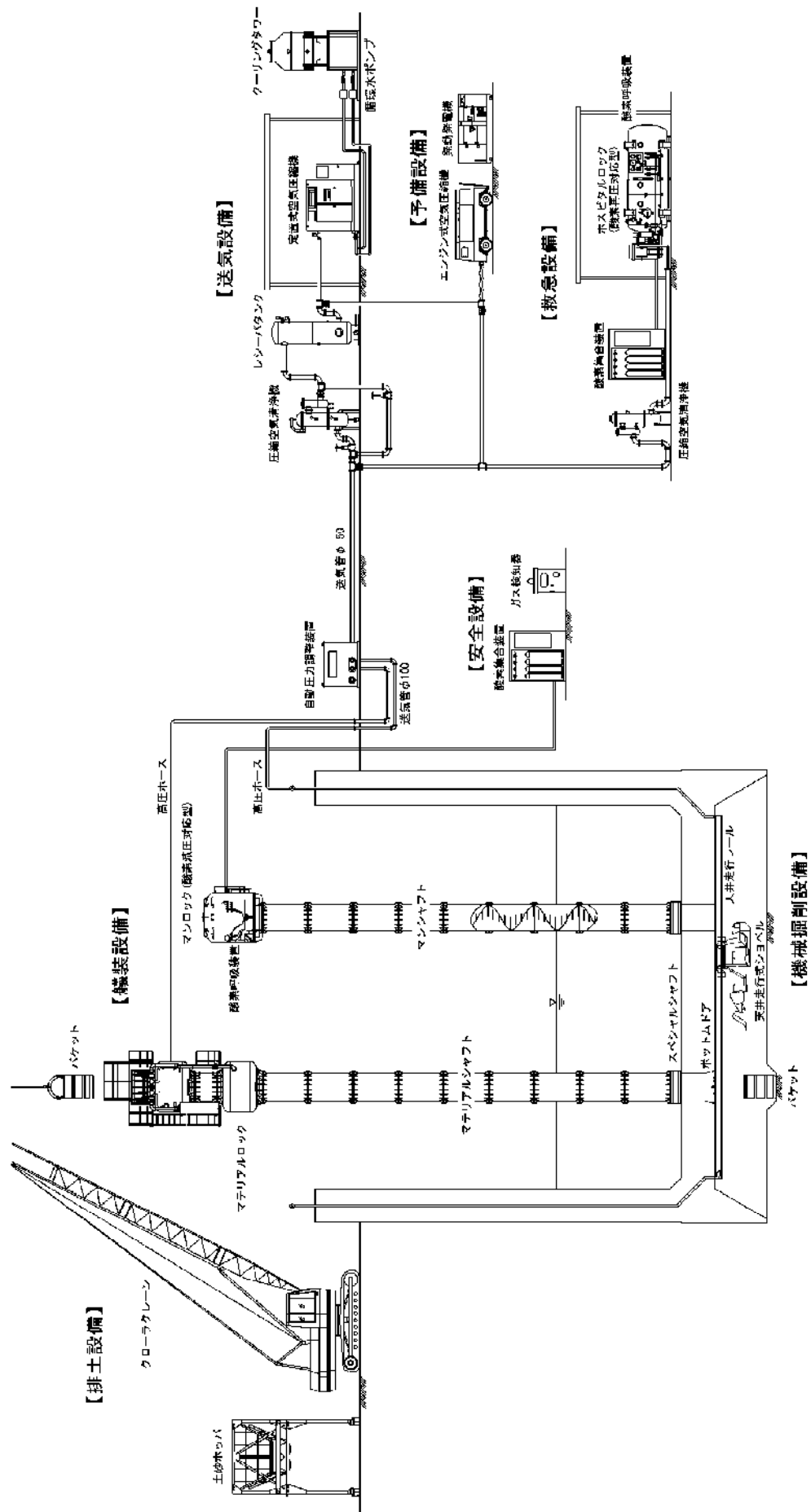
表10.3 酸素集合装置設置・撤去(マンロック・ホスピタルロック用) (1基当り)

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
特 殊 作 業 員		人	2.0	1.0
普 通 作 業 員		〃	1.0	0.5
諸 雑 費 率		%	30	

- (注) 1. 上記には、酸素集合装置の設置及び配管を含む。
 2. 諸雑費は、設置に伴う配管材料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。



参考図1 ニューマチックケーソン工法（空気減圧）概要図



参考図2 ニューマチックケーソン工法 (酸素減田) 概要図

11. 単 価 表

(1) 刃口金物材料費1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231010
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
材 料 費		基			
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 刃口金物据付1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231020
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人		表8.1	
溶 接 工		〃		〃	
普通作業員		〃		〃	
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次 基準値) 25 t 吊	日		〃 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	〃	
計					

(3) 機械掘削10m³当り単価表

施工歩掛コード					WB231220
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
潜 かん 世 話 役		人	$M \times 2 \times 10 / D_c$		
潜 かん 工		〃	$M \times 2 \times 10 / D_c$		
特 殊 作 業 員		〃	$M \times 2 \times 10 / D_c$		
普 通 作 業 員		〃	$M \times 2 \times 10 / D_c$		
シ ョ ベ ル 電 力		kWh	H _w		
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基 準値) 50 t 吊	日	$10 / D_c$	機械賃料	
発 破 経 費		式	1	必要に応じて別途計上	
諸 雑 費		〃	1		

(注) 1. M =表5.1人員+表5.2人員2. H_w : ショベル電力

$$H_w = P_s \times Q_s \times D \times 2 \times H \times 10 / D_c$$

 P_s : 天井走行式ショベル電力 (kW) Q_s : 天井走行式ショベル燃料消費率 (kWh/kW) D : 天井走行式ショベル台数 (台) H : 1組当り掘削実作業時間……表10.1 D_c : 機械掘削1日(2組)当り掘削量

3. 函内作業気圧が0MPa(素掘)の場合は, 特殊作業員は計上しない。

4. 軟岩(Ⅰ), 軟岩(Ⅱ)の場合は, 削岩機, ピックハンマ, 空気圧縮機(排出ガス対策型(第1次基準値)), 火薬, 雷管を必要数計上する。

(4) 送気用設備運転1日当り単価表(2交替)

施工歩掛コード		WB231230		
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1(人)×2(2方) ×11/8(h)	表5.3 (数量×供用日数)
電 工		〃	1(人)×2(2方) ×11/8(h)	〃
電 力 量 (空 気 圧 縮 用)		kWh	86kWh (50Hz) 110kWh (60Hz)	数量×延運転時間
電 力 量 (クーリングタワー用)		〃	0.91kWh	必要に応じて別途計 上
電 力 量 (循環水ポンプ用)		〃	5.3kWh	数量×延運転時間
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(5) 水荷重(ポンプによる注排水)作業1t当り単価表

施工歩掛コード		WB231250		
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	0.02	表8.4
工事用水中モータ ポンプ運 転	普通型(潜水ポンプ) φ100	日		必要日数計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(6) ブローパイプバルブ調整ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード		WB231240		
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
潜 か ん 工		人	6.3	表8.5
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 艀装設備組立・解体1艀装1リフト(ロット)当り単価表

施工歩掛コード		WB231270		
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人	1.0	表9.3
潜 か ん 工		〃	3.0	〃
溶 接 工		〃	5.5	〃
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基 準値) 50t吊	日	1.0	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表9.3
計				

(8) 排土設備ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231280
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
クローラクレーン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 50 t 吊	台	1	表4.1 (WB231220で計上)	
バ ケ ッ ト	1.0m ³ 級	個	2	〃	
土 砂 ホ ッ パ	10m ³ 級	基	1	〃	
諸 雑 費		式	1		
計					

(9) 艀装設備ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231290
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
マテリアルロック	通過可能バケット1.0m ³ 径×長さφ1.8～1.9×5.5 m級 圧力0.4MPa	基	1	表4.1	
マ ン ロ ッ ク (空気減圧対応型)	立型10～12人用 圧力0.4MPa	〃	1	〃	
マ ン ロ ッ ク (酸素減圧対応型)	立型8人用 圧力0.4MPa	〃	1	〃	
ケーソン用エレベータ (内 圧 用)	3人用 圧力0.4MPa	〃	1	〃 (必要に応じて 別途計上)	
ケーソン用エレベータシャフト (内 圧 用)	3人用 圧力0.4MPa	式	1	〃 (〃)	
マテリアルシャフト	径×長さφ1.2m×2.0m級 圧力0.4MPa	〃	1	〃 (必要数量)	
マ ン シ ャ フ ト	径×長さφ1.2m×2.0m級 圧力0.4MPa	〃	1	〃 (〃)	
スペシャルシャフト	径×長さφ1.4m×0.5m級 圧力0.4MPa	個	2	〃	
ポ ッ ト ム ド ア	径1.4m級 圧力0.4MPa	〃	2	〃	
自動圧力調整装置	径100mm級 圧力0.4MPa	〃	1	〃	
高 圧 ホ ー ス	径100mm級 長さ10m 圧力1.0MPa	本	7	〃	
送 気 管	径100mm 長さ5.5m 圧力 1.0MPa	m		〃 (ゲージ設備か らケーソンまで)	
照 明 設 備		式	1	〃	
諸 雑 費		〃	1		
計					

(10) 掘削設備ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231300
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
天井走行式ショベル	山積0.15m ³ (平積0.13m ³)	台	1	表4.1 掘削面積40m ² 以上 100m ² 未満	
天井走行式ショベル	山積0.15m ³ (平積0.13m ³)	〃	2	〃 〃 100 m ² 〃 300m ² 〃	
走 行 レ ー ル (天井走行式ショベル用)	長さ2m級×1本	式	1	〃 (必要数量)	
諸 雑 費		〃	1		
計					

(11) 送気設備（空気圧縮機）1工事当り単価表

施工歩掛コード					WB231310
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
空 気 圧 縮 機	吐出量 29 / 36 m ³ / min 圧力0.4MPa	台		表4.2 (必要数量計上)	
諸 雑 費		式	1		
計					

(12) 送気設備（その他）1工事当り単価表

施工歩掛コード					WB231320
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
圧 縮 空 気 洗 浄 機	処理量 1,100m ³ / h	台		表4.2 (必要数量計上)	
クーリングタワー	40～60 t / h	〃		〃 (〃)	
循 環 水 ポ ンプ	口径80mm・全揚程30m	〃		〃 (〃)	
レシーバータンク	容量2.5m ³ 圧力0.7～0.9MPa	〃		〃 (〃)	
送 気 管	径150mm 長さ5.5m 圧力1.0MPa	m		〃 (〃)	
諸 雑 費		式	1		
計					

(13) 安全設備 ケーソン1基当り単価表

施工歩掛コード					WB231370
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
酸 素 集 合 装 置	マンロック, ホスピタルロック用	基	1	表4.1	
酸 素 呼 吸 装 置 (マンロック用)	マンロック, ホスピタルロック用	台	10	〃	
酸 素 (医 療 用)		m ³		表10.2	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) 酸素（医療用）費用については、共通仮設費の安全費に計上する。

(14) 救急設備 1工事当り単価表

施工歩掛コード					WB231330
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
ホスピタルロック (空気再圧対応型)	〔中型〕 径×長さ φ1.9×4m級・圧力0.5MPa	台	1	表4.2	
ホスピタルロック (酸素再圧対応型)	〔中型〕 径×長さ φ1.9×4m級・圧力0.5MPa	〃	1	〃	
酸 素 集 合 装 置	マンロック, ホスピタルロック用	基	1	〃 (必要に応じて別途計上)	
酸 素 呼 吸 装 置 (ホスピタルロック用)	マンロック, ホスピタルロック用	台	4	〃 (〃)	
圧 縮 空 気 清 浄 機	処理量 650m ³ / h	〃	1	〃	
高気圧下用空気呼吸器	〔半閉鎖循環式〕 圧力0.4MPa 使用時間30min 3t級	個	4	〃	
諸 雑 費		式	1		
計					

(15) 仮設備の組立・解体 1 台当り単価表

施工歩掛コード					WB231350
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人		表9.1	
と び 工		〃		〃	
溶 接 工		〃		〃	
潜 か ん 工		〃		〃	
電 工		〃		〃	
普通作業員		〃		〃	
コンクリート		m ³		〃	
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出 ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日		表9.1 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表9.1	
計					

(16) 予備設備 1 工事当り単価表

施工歩掛コード					WB231340
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
エンジン式 空気圧縮機	可搬式・エンジン駆動・ス クリュー型・排出ガス対策型 (第1次基準値)	台		表4.2(必要台数計上) 機械賃料	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆 動・排出ガス対策型(第 1次基準値) 35kVA	〃		〃	
諸 雑 費		式	1		
計					

(17) 送気用配管設備組立・解体 100m 当り単価表

施工歩掛コード					WB231360
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人		表9.2	
普通作業員		〃		〃	
配 管 工		〃		〃	
諸 雑 費		式	1	〃	
計					

(18) 酸素集合装置設置・撤去(マンロック・ホスピタルロック用) 1 基当り単価表

施工歩掛コード					WB231380
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
特殊作業員		人		表10.3	
普通作業員		〃		〃	
諸 雑 費		式	1	〃	
計					

(19) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型(潜水ポンプ) φ100	機-14	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準 値) 50 t 吊	機-16	燃料消費量→122 機械賃料数量→ 2.15
クローラクレーン (艀 装 用)	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準 値) 50 t 吊	機-16	燃料消費量→ 61 機械賃料数量→ 1.00

12. 施工単価入力基準表

12-1 各種設備

(1) 排土設備

施工歩掛コード	WB231280	施工単位	基
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	供用日数 (日) (実数入力)		

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1の排土設備の供用日数を入力すること。
2. クローラクレーン運転は、沈下掘削 (WB231220) で計上する。

(2) 艀装設備

施工歩掛コード	WB231290	施工単位	基	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	供用日数	マンロック	ケーソン用エレベータ (内圧用)の有無	ケーソン用エレベータ シャフト(内圧用)の 有無
	(日)	①空気減圧対応型	①無	①無
	(実数入力)	②酸素減圧対応型	②有	②有

J 5	J 6	J 7
マテリアルシャフト (個) (実数入力)	マンシャフト (個) (実数入力)	送気管 (m) (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1 の艀装設備の供用日数を入力すること。
2. 照明設備費 (Y-6450101) [円/式]を単価登録すること。

(3) 掘削設備(天井走行式ショベル)

施工歩掛コード	WB231300	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	供用日数 (日) (実数入力)	掘削面積 ① 40m ² 以上100m ² 未満 ② 100m ² 以上300m ² 未満	天井走行用レール (m) (実数入力)

- (注) J 1 条件には、表7.1の掘削設備の供用日数を入力すること。

(4) 送気設備(空気圧縮機)

施工歩掛コード	WB231310	施工単位	式
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	供用日数 (台・日) (実数入力)		

- (注) J 1 条件には、表7.1の送気設備の供用日数×設備台数(最低必要台数+1)を入力すること。

(5) 送気設備 (その他)

施工歩掛コード	WB231320	施工単位	式			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	供用日数 (日) (実数入力)	圧縮空気清浄機 1,100 (m ³ /h) (台) (実数入力)	クーリングタワー 40~60 (t/h) (台) (実数入力)	循環水ポンプ 径80mm 全揚程30m (台) (実数入力)	レシーバタンク 2.5 (m ³) (台) (実数入力)	送気管 φ150mm (m) (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1 の送気設備の供用日数を入力すること。
 2. J 2～J 5 条件には現場条件を考慮し、必要台数を入力すること。

(6) 安全設備

施工歩掛コード	WB231370	施工単位	式
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	供用日数 (日) (実数入力)	酸素使用量 (m ³) (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1 の安全設備の供用日数を入力すること。
 2. 酸素 (Y-1402001) [円/m³] を単価登録をすること。
 3. 本コードは共通仮設費の安全費に計上すること。
 4. 酸素集合装置を使用する場合は、酸素集合装置設置・撤去 (WB231380) で別途計上する。

(7) 救急設備

施工歩掛コード	WB231330	施工単位	式
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	供用日数 (日) (実数入力)	ホスピタルロック ①空気再圧対応型 ②酸素再圧対応型	

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1 の救急設備の供用日数を入力すること。
 2. 本コードは共通仮設費の安全費に計上すること。
 3. 酸素集合装置を使用する場合は、酸素集合装置設置・撤去 (WB231380) で別途計上する。

(8) 予備設備

施工歩掛コード	WB231340		施工単位	式	
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	供用日数 (日)	エンジン式 空気圧縮機 7.5～7.8m ³ /min (台)	エンジン式 空気圧縮機 10.5～11m ³ /min (台)	エンジン式 空気圧縮機 18～19m ³ /min (台)	発動発電機 35kVA (台)
		①無 ②有	①無 ②有	①無 ②有	
	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

- (注) 1. J 1 条件には、表7.1 の予備設備の供用日数を入力すること。
 2. 本コードは、空気圧縮機、発動発電機の (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

12-2 刃口金物製作・据付

(1) 刃口金物材料費

施工歩掛コード	WB231010	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ケーソン工用刃口金物の規格		
	①円 形 ②矩 形 ③小判形 ④各 種		

- (注) 1. 本コードは一般管理費のみを対象とし、管理費区分は「5」を設定している。
2. J 1 条件で①～③を選択した場合は、工場製作品単価が計上される。なお、適用にあたっては、規格・仕様等の詳細について確認すること。
3. J 1 条件で④を選択した場合は、ケーソン工用刃口金物単価 (Y-1396000) [円／t] を単価登録すること。

(2) 刃口金物据付

施工歩掛コード	WB231020	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		J 2
	1 基当り刃口金物質量 (t)		ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	(実数入力)		①標 準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. ラフテレーンクレーンは賃料とする。
2. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

12-3 掘削作業

(1) 送気用設備運転費

施工歩掛コード	WB231230	施工単位	式			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	クーリングタワー 使用の有無	空気圧縮機規格 (m ³ / min)	空気圧縮機 延運転時間 (h)	クーリングタワー 延運転時間 (h)	循環水ポンプ 延運転時間 (h)	供用日数 (日)
	①有 ②無	①29.0(50HZ) ②36.0(60HZ)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合には、J 4 条件は入力する必要はない。
2. J 3, J 4 及び J 5 条件には、各送気設備機械の延運転時間を入力すること。
例) 延運転時間 = 1 台目運転時間 + 2 台目運転時間 + ・ ・ ・ + n 台目運転時間
3. J 6 条件には、表7.1 の送気設備の供用日数 (D: 定置式空気圧縮機組立・解体日数を除く) を入力すること。
4. 空気圧縮機、クーリングタワー及び循環水ポンプの電力料 (Y-7500000) [円／kWh] を単価登録すること。
5. 労務単価は、2 交替制で 1 組の賃金対象時間が 11 時間である為、労務費調整係数等の指定を下記のとおり行うこと。
〔労務費調整係数 = 1.136, 超過時間 = 3.0〕

(2) 沈下掘削(機械掘削)

施工歩掛コード	WB231220	施工単位	m ³			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1		J 2	J 3	J 4	J 5
	掘削面積		土質区分	減圧方法	函内作業 気圧区分	掘削深さによる 補正
	①40m ² 以上60m ² 未満 ②60m ² 以上100m ² 未満 ③100m ² 以上300m ² 未満		(表12.1)	①空気減圧 ②酸素減圧	(表12.2)	①無 ②有

J 6	J 7	J 8	J 9
日当り掘削量の補正	火薬使用の 有無	火薬使用量 (kg/10m ³)	雷管使用量 (個/10m ³)
①無 ②有	①無 ②有	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 2条件で①, ②, ③を選択した場合には, J 6, J 7, J 8, J 9条件の入力の必要はない。
 2. J 3条件が①の場合は, J 4条件で⑧～⑪を選択することができない。また, J 3条件が②の場合は, J 4条件で①, ②を選択することができない。
 3. J 5条件には, 刃口据付面から掘削深 3 m までの部分については②を, 3 mを超える部分については①を入力すること。
 4. J 6条件は, 表8.2, 表8.3 の(注) 5を考慮し, 日当り掘削量の補正が必要な場合②を選択すること。
 5. J 7条件で②を選択した場合には, 火薬単価 (Y-1680000) [円/kg] 及び電気雷管単価 (Y-1681000) [円/個] を単価登録すること。
 6. 天井走行式ショベルの電力料 (Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。
 7. 労務単価は, 賃金対象時間が8時間である為, 労務単価の補正において, 労務費調整係数等の指定を下記のとおり行うこと。〔労務費調整係数=1.063, 超過時間=0〕
 8. 本コードは, クローラクレーンの低騒音機種についても, 適用出来る。
 9. クローラクレーンは, 賃料とする。
 10. 本コードは, クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を考慮している。

表12.1 土質区分

砂,砂質土,粘性土及び粘土	①
レキ及びレキ質土	②
玉石混じり砂レキ	③
軟岩(Ⅰ)	④
軟岩(Ⅱ)	⑤

表12.2 函内作業気圧区分 (MPa)

0 (素掘)	①	0.26を超え～0.30以下	⑦
0 を超え～0.10以下	②	0.30を超え～0.34以下	⑧
0.10を超え～0.14以下	③	0.34を超え～0.36以下	⑨
0.14を超え～0.18以下	④	0.36を超え～0.38以下	⑩
0.18を超え～0.22以下	⑤	0.38を超え～0.40以下	⑪
0.22を超え～0.26以下	⑥		

12-4 沈下促進工法(載荷工法)

(1) 水荷重(ポンプによる注排水)作業

施工歩掛コード	WB231250	施工単位	t

- (注) 1. 水中ポンプの運転費は、水中ポンプの運転費(WB231260)で計上する。
2. 本コードには、水中ポンプの設置、撤去は含まれない。

(2) 水中ポンプ運転費

施工歩掛コード	WB231260	施工単位	式
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	水中ポンプ規格 (表12.3)	ポンプ運転日数 (台・日) (実数入力)	ポンプの運転日 当り運転時間 (時間) (実数入力)

- (注) 1. J 2 条件には、ケーソン1基に必要な水荷重の注排水に要する運転日数を入力すること。

$$\text{ポンプ運転日数(台・日)} = \{A / (B \times C \times n)\} \times n = A / (B \times C)$$
A: ケーソン1基に必要な水荷重の総注排水量
B: ポンプ1台当り吐出量(60m³/h)
C: ポンプの運転日当り運転時間
n: ポンプ設置台数
2. 電力料(Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。

表12.3 水中ポンプ規格

揚程(m)	出力(kW)	入力番号
10	3.7	①
15	5.5	②

12-5 構築工(中埋コンクリート打設)

(1) ブローパイプバルブ調整

施工歩掛コード	WB231240	施工単位	基

12-6 仮設備工

(1) 仮設備の組立・解体費

施工歩掛コード	WB231350	施工単位	台
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	機 械 区 分 ①定置式空気圧縮機設備 ②土砂ホッパ ③天井走行式ショベル(天井走行式山積0.15m ³ (平積0.13m ³)) ④クレーンタワー設備 ⑤ホスピタルロック	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標 準 ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、コンクリート単価(Y-0210000) [円/kg] を単価登録すること。
2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
3. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

(2) 送気用配管設備組立・解体費

施工歩掛コード	WB231360	施工単位	m
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	管径区分 ① 100mm ② 150mm		

(3) 艀装設備組立・解体費 (1 艀装・1 リフト (ロット))

施工歩掛コード	WB231270	施工単位	リフト(ロット)
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	クローラクレーン 賃料補正係数 ① 標準 ② 標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは、クローラクレーンの低騒音機種についても、適用出来る。
 2. クローラクレーンは、賃料とする。
 3. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

12-7 酸素集合装置設置・撤去

(1) 酸素集合装置設置・撤去 (マンロック、ホスピタルロック用)

施工歩掛コード	WB231380	施工単位	基
施工区分	入力条件		
	J 1		
各 種	作業区分 ① 設置・撤去 ② 設置 ③ 撤去		

12-8 ST内訳表

(1) 機械(機械掘削)

名 称	規 格	単位	施工歩掛コード		
			WB231220	WB231280	WB231300
潜 かん 世 話 役		人	○		
潜 かん 工		〃	○		
特 殊 作 業 員		〃	○		
普 通 作 業 員		〃	○		
天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル 損 料	山積0.15m ³ (平積0.13m ³)	台			○
走 行 レ ー ル (天井走行式ショベル用)	長さ2m級	式			○
天 井 走 行 式 シ ョ ベ ル 電 力		kWh	○		
クローラクレーン賃料	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型・排出 ガス対策型(第1次基準値) 50 t 吊	日	○		
パ ケ ッ ト 損 料		個		○	
土 砂 ホ ッ パ 損 料		基		○	

(2) 送気用設備・運転

名 称	規 格	単位	施工歩掛コード		
			WB231230	WB231320	WB231310
特 殊 作 業 員		人	○		
電 工		〃	○		
空 気 圧 縮 機 損 料	吐出量29/36m ³ /min 圧力0.4MPa	台			○
圧 縮 空 気 清 浄 機 損 料		〃		○	
クーリングタワー損料		〃		○	
循 環 水 ポ ン プ 損 料	口径80mm・全揚程30m	〃		○	
レ シ ー パ タ ン ク 損 料		〃		○	
送 気 管		m		○	
電力料(空気圧縮機用)		kWh	○		
電力料(クーリングタワー用)		〃	○		
電力料(循環水ポンプ用)		〃	○		

(3) 水中ポンプ運転

名 称	規 格	単 位	施工歩掛コード	
			WB231260	WB231250
特 殊 作 業 員		人		○
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ 運 転	普通型(潜水ポンプ) φ100	日	○	

(4) 仮設備組立解体費

名 称	施 工 歩 掛 コ ー ド				
	WB231350				
	定置式空気圧 縮機設備	土砂ホッパ	天井走行式 ショベル	クーリングタワー 設備 (40 t / h)	ホスピタル ロック
土 木 一 般 世 話 役	○	○	○		○
と び 工	○	○			○
溶 接 工	○	○	(○)	○	○
電 工	○	○	○		
普 通 作 業 員	○	○		○	○
コ ン ク リ ー ト	○				
ラフテレーンクレーン賃料	○	○	○	○	○

(注) () は潜かん工である。

⑤ 基礎工（鋼管矢板基礎工）

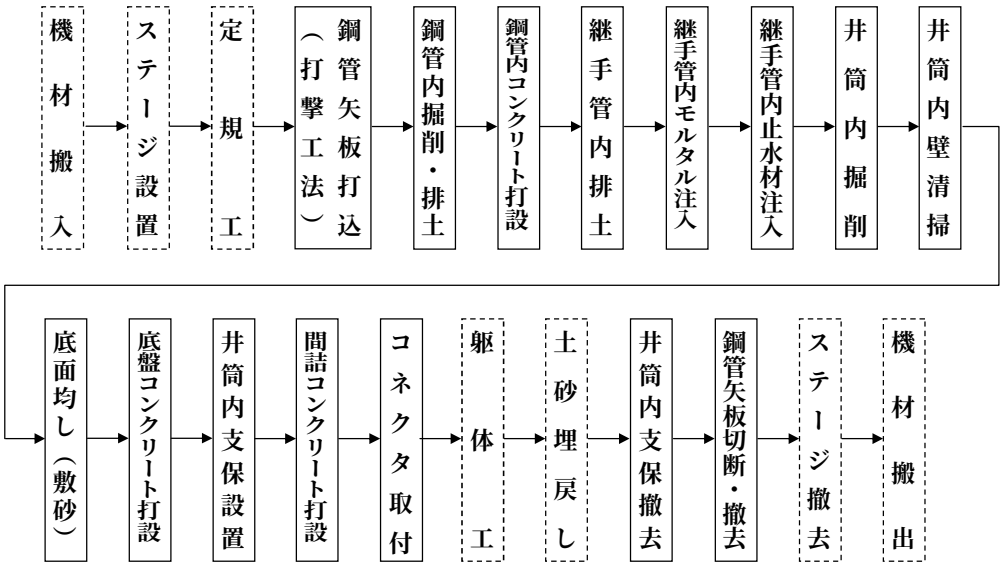
⑤－１ 打撃工法

1. 適用範囲

本資料は、橋梁下部等における杭径800～1,200mmの鋼管矢板による基礎工事のうち、仮締切兼用方式に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



（注） 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2－1 施工フロー

3. 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種 の 選 定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式杭打機	油圧ハンマ・直結三点支持式、又は直結斜杭打ち兼用油圧ハンマ・直結三点支持式	台	1	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55t吊	〃	1	
ハンマグラブ		個	1	
クラムシェル	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	台	1	
コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	〃	1	
杭打ち用 ウォータージェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325 ℓ/min	〃	1	
鉄筋スタッド施工機械	2,000A用	組	1	スタッド溶接機・ 4連ガン・制御装置・ 昇降フレーム・ 電動空気圧縮機・ 自走式リフト(2台) を含む
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	台	1	
電気溶接機	半自動アーク溶接機 定格電流500A	〃	1	
水中切断機		〃	1	
バイプロハンマ	60kW	〃	1	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量60kVA	〃	1	
	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量250kVA	〃	1	
	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量300kVA	〃	1	

(注) 1. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

2. 発動発電機、トラッククレーンは、賃料とする。

3-1 油圧パイルハンマの選定

油圧パイルハンマの選定は、次図による。

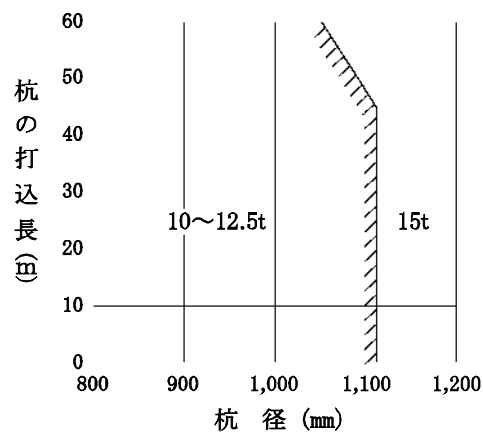


図3-1 油圧パイルハンマの選定

4. 施 工 歩 掛

4－1 鋼管矢板打込工（打撃工法）

鋼管矢板の打込みは、油圧ハンマによる施工を標準とする。

4－1－1 編 成 人 員

杭打機1台に対する日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	と び 工	普 通 作 業 員	溶 接 工
1	2	1	2

(注) 継杭を施工しない場合には、溶接工は計上しない。

4－1－2 油圧ハンマによる打込み

(1) 杭10本当り施工日数 (T_d)

杭10本当り施工日数は、次式による。

$T_d = \alpha \cdot \beta \cdot T_a$ (日／10本)

T_d：杭10本当り施工日数 (日／10本)

α：土質係数

β：板厚係数

T_a：規格別施工日数

(注) βについては杭長にて決定、T_aについては打込長にて決定すること。

① 土質係数 (α)

表4.2 土質係数 (α)

N値の範囲	
1～20未満	20以上
1.00	1.07

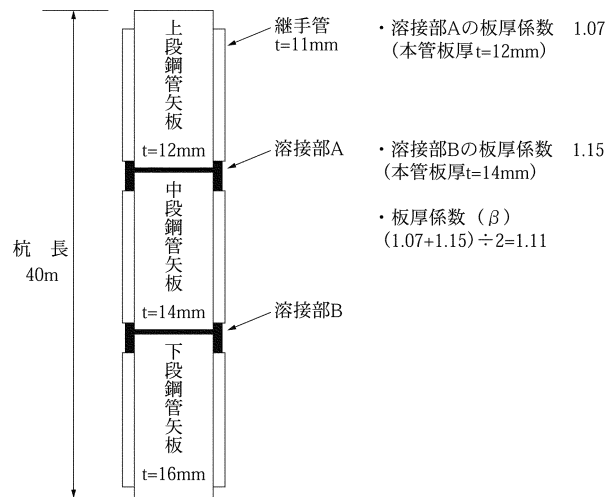
(注) N値は、打込層の加重平均N値とする。

② 板厚係数 (β)

表4.3 板厚係数 (β)

杭 長 (m)	継手管 板 厚 (mm)	本 管 板 厚 (mm)						
		9	10	12	14	16	19	22
16m以下	9	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
	11	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
16mを超え32m以下	9	0.94	0.96	1.00	1.07	1.17	1.33	1.61
	11	1.01	1.02	1.06	1.13	1.22	1.40	1.67
32mを超え48m以下	9	0.94	0.95	1.00	1.07	1.18	1.37	1.71
	11	1.00	1.03	1.07	1.15	1.24	1.44	1.77
48mを超え64m以下	9	0.94	0.96	1.00	1.09	1.18	1.39	1.73
	11	1.00	1.02	1.07	1.15	1.27	1.49	1.86

- (注) 1. 本管の板厚が異なる場合には、薄い板厚の板厚係数を採用する。
 2. 溶接箇所が2箇所以上ある場合は、それぞれの板厚係数の平均値を採用する。



参考図

③ 規格別施工日数 (T_a)表4.4 規格別施工日数 (T_a)

打 込 長 (m)	杭 径 (mm)				
	800	900	1,000	1,100	1,200
16m以下	1.4	1.5	1.6	1.7	1.4
16mを超え32m以下	4.4	4.7	5.0	5.3	4.8
32mを超え48m以下	7.9	8.3	8.8	9.4	8.7
48mを超え64m以下	11.3	12.2	12.5	12.2	12.5

4-1-3 諸雑費率

表4.5 諸雑費率 (％)

	単杭	継杭
諸 雑 費 率	23	31

(注) 溶接棒(ワイヤ)、足場材の費用、電気溶接機損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2 定規工(導杭・導枠)

定規工の施工歩掛は、下記による。

4-2-1 導杭

「第Ⅱ編第5章②-1 バイプロハンマ工」のバイプロハンマによるH形鋼の施工(打込み、引抜き)による。

4-2-2 導枠

「第Ⅱ編第5章⑧仮設材設置撤去工」の切梁・腹起しによる。

4-3 鋼管内掘削工

鋼管内の掘削の歩掛は、次表を標準とする。

表4.6 鋼管内掘削工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.19
普 通 作 業 員		〃	0.74
ハ ン マ グ ラ ブ 運 転		日	0.40
諸 雑 費 率		％	14

(注) 1. 管内掘削後のスライム処理を含む。
2. 諸雑費は、ハンマクラウン損料、工事用水中モータポンプ損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 日当りの施工量は、53m³を標準とする。

4-4 鋼管内コンクリート打設工

4-4-1 施工歩掛

鋼管内のコンクリート打設工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.7 鋼管内コンクリート打設工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.08
特 殊 作 業 員		〃	0.20
普 通 作 業 員		〃	0.27
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	日	0.08

(注) 日当りの施工量は、125m³を標準とする。

4-4-2 鋼管内コンクリートの使用量

鋼管内コンクリートの使用量は、次式による。

使用量(m³)=設計数量×(1+K)……式4.1

K:ロス率

表4.8 ロス率(K)

ロ	ス	率	+0.04

4-5 継手管内排土工

P-P型継手における継手管内の排土の歩掛は、次表を標準とする。

表4.9 継手管内排土工歩掛 (継手100m当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4
特 殊 作 業 員		〃	1.2
普 通 作 業 員		〃	1.3
杭 ウ ォ ー 打 ジ ェ ッ ト 運 転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7MPa吐出量325ℓ/min	日	0.4
諸 雑 費 率		%	6

- (注) 1. 諸雑費は、工事用水中モータポンプ損料、水槽損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 日当りの施工量は、250mを標準とする。

4-6 継手管内モルタル注土工

4-6-1 施工歩掛

P-P型継手における継手管内のモルタル注入の歩掛は、次表を標準とする。

表4.10 継手管内モルタル注土工歩掛 (継手100m当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4
特 殊 作 業 員		〃	1.0
普 通 作 業 員		〃	0.8
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量60kVA	日	0.5
諸 雑 費 率		%	12

- (注) 1. 諸雑費は、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、工事用水中モータポンプ損料、水槽損料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 日当りの施工量は、250mを標準とする。

4-6-2 継手管内モルタルの使用量

継手管内モルタルの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 4. 2}$$

K：ロス率

表4.11 ロス率 (K)

ロ	ス	率	+0.05

継手管内モルタルの設計数量は、パイプ型 (P-P型) $\phi 165.2\text{mm}$ の場合、 $2.5\text{m}^3/100\text{m}$ を標準とする。
なお、これにより難い場合は、別途考慮する。

4-7 継手管内止水材注土工

4-7-1 施工歩掛

P-P型継手における継手管内の止水材注入の歩掛は、次表を標準とする。

表4.12 継手管内止水材注土工歩掛 (継手100m当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.5
特 殊 作 業 員		〃	1.4
普 通 作 業 員		〃	1.0
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量60kVA	日	0.9
諸 雑 費 率		%	16

- (注) 1. 諸雑費は、グラウトミキサ損料、グラウトポンプ損料、工事用水中モータポンプ損料、水槽損料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 日当りの施工量は、200mを標準とする。

4-7-2 継手管内止水材の使用量

継手管内止水材の使用量は、次式による。

使用量 (m³) = 設計数量 × (1 + K) ……式 4. 3

K：ロス率

表4.13 ロス率 (K)

ロ	ス	率	+0.14

継手管内止水材の設計数量は、パイプ型 (P-P型) φ165.2mmの場合、2.5m³/100mを標準とする。
なお、これにより難い場合は、別途考慮する。

4-8 井筒内掘削工

井筒内の水中掘削の歩掛は、次表を標準とする。

表4.14 井筒内掘削工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.07
普 通 作 業 員		〃	0.33
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	日	0.13

(注) 日当りの施工量は、143m³を標準とする。

4-9 底面均し(敷砂)工

水中における底面均し(敷砂)の歩掛は、次表を標準とする。

表4.15 底面均し(敷砂)工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.7
潜 水 士		〃	1.2
普 通 作 業 員		〃	1.3
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	日	0.2
諸 雑 費 率		%	6

(注) 1. 井筒の内壁清掃作業を含む。
2. 諸雑費は、潜水土の設備用具等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 日当りの施工量は、19m³を標準とする。

4-10 底盤コンクリート打設工

4-10-1 施工歩掛

底盤コンクリートの水中打設の歩掛は、次表を標準とする。

表4.16 底盤コンクリート打設工歩掛 (10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.08
特 殊 作 業 員		〃	0.18
普 通 作 業 員		〃	0.27
コンクリートポンプ車運転	トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m ³ /h	日	0.08

(注) 1. 潜水土による作業(水中コンクリートの均し、確認等)が必要な場合は、別途計上する。
2. 日当りの施工量は、125m³を標準とする。

4-10-2 底盤コンクリートの使用量

底盤コンクリートの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 4. 4}$$

K：ロス率

表4.17 ロス率(K)

ロ	ス	率	+0.09

4-11 井筒内支保設置・撤去工

井筒内の排水・注水を伴う支保設置・撤去の歩掛は、次表を標準とする。

表4.18 井筒内支保設置・撤去工歩掛

(10 t 当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	2.6
と び 工		〃	6.5
溶 接 工		〃	4.1
普 通 作 業 員		〃	3.9
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジフ型 50～55t吊	日	4.1
諸 雑 費 率		%	23

- (注) 1. 設置及び撤去の合計であり、構成は設置65%、撤去35%である。
 2. 井筒内の排水及び注水作業を含む。
 3. 支保工内に支柱を建込む場合は、別途計上する。
 4. 諸雑費は、工事用水中モータポンプ損料、電気溶接機損料、ガス切断機損料、電力に関する経費、酸素、アセチレン、ホース等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 5. 日当りの施工量は、4 t を標準とする。

4-12 井筒内支保間詰コンクリート工

4-12-1 施工歩掛

井筒内の支保間詰コンクリート打設の歩掛は、次表を標準とする。

表4.19 井筒内支保間詰コンクリート打設工歩掛

(10m³当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.9
特 殊 作 業 員		〃	2.4
普 通 作 業 員		〃	2.8
コ ン ク リ ー ト ポ ンプ 車 運 転	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	日	0.7

- (注) 1. 底板等の設置撤去労務を含む。
 なお、底板等の材料費は、別途計上する。
 2. 日当りの施工量は、11m³を標準とする。

4-12-2 井筒内支保間詰コンクリートの使用量

井筒内支保間詰コンクリートの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 4. 5}$$

K：ロス率

表4.20 ロス率(K)

ロ	ス	率	+0.04

4-13 コネクタ取付工

4-13-1 鉄筋スタッド方式

鉄筋スタッド方式によるコネクタ取付けの歩掛は、次表を標準とする。

表4.21 コネクタ取付工(鉄筋スタッド方式)歩掛 (4列10段当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.2
特 殊 作 業 員		〃	0.4
溶 接 工		〃	0.2
普 通 作 業 員		〃	0.2
鉄筋スタッド施工機械運転	2,000A用	日	0.2
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量250kVA	〃	0.2
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型4.9t吊	〃	0.1
諸 雑 費		%	5

- (注) 1. 鉄筋スタッド方式(4列)に適用するものであり、それ以外については別途考慮する。
 2. 鉄筋スタッド施工機械運転には、スタッド溶接機・4連ガン・制御装置・昇降フレーム・電動空気圧縮機・自走式リフト(2台)の運転経費を含む。
 3. 諸雑費は、電気溶接機損料、溶接棒、昇降フレーム固定治具、グラインダー、マーカ等の費用であり、労務費、材料費、機械損料、機械賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 日当りの施工量は、50段を標準とする。
 5. 発動発電機、トラッククレーンは、賃料とする。

4-13-2 プレートブラケット方式

プレートブラケット方式の取付歩掛は、次表を標準とする。

表4.22 コネクタ取付工(プレートブラケット方式)歩掛 (1t当り)

名 称	規 格	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4
溶 接 工		〃	2.3
普 通 作 業 員		〃	0.6
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 運 転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	日	0.4
電 気 溶 接 機 運 転	半自動アーク溶接機 定格電流500A	〃	2.1
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量300kVA	〃	2.1

- (注) 1. 1日当りの施工量は、3tを標準とする。
 2. 発動発電機は、賃料とする。

4-14 鋼管矢板切断・撤去工

鋼管矢板の切断・撤去工は、水中切断機による鋼管矢板の切断及び切断後の鋼管矢板の撤去作業に適用する。

4-14-1 編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.23 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	と	び	工	特殊作業員	普通作業員
1		1		1	1

4-14-2 鋼管矢板10本当り切断・撤去施工日数 (T_x)

鋼管矢板10本当り切断・撤去施工日数は、次式による。

$$T_x = T_y + T_z \text{ (日/10本)}$$

T_x : 鋼管矢板10本当り施工日数 (日/10本)

T_y : " 切断日数 (日/10本)

T_z : " 撤去日数 (日/10本)

4-14-3 鋼管矢板10本当り切断日数 (T_y)

表4.24 鋼管矢板10本当り切断日数 (日/10本)

鋼管矢板杭径	800mm	900~1,000mm	1,100~1,200mm
施工日数	1.4	1.6	1.8

4-14-4 鋼管矢板10本当り撤去日数 (T_z)

鋼管矢板10本当りの準備作業を含めた撤去日数は、次表を標準とする。

表4.25 鋼管矢板10本当り撤去日数 (日/10本)

鋼管矢板10本当り撤去日数	0.5

5. 単 価 表

(1) 鋼管矢板打込工(打撃工法)10本当り単価表

施工歩掛コード	WB231510

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_d \times 1$	表4.1
溶 接 工		〃	$T_d \times 2$	表4.1 必要に応じて計上
と び 工		〃	$T_d \times 2$	表4.1
普 通 作 業 員		〃	$T_d \times 1$	〃
鋼 管 矢 板		本	10	肉厚、 杭径毎に別段書き
補 強 材		〃		必要に応じて計上
クローラ式杭打機運転		日	T_d	表3.1 機械損料
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	〃	T_d	表3.1 必要に応じて計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.5
計				

(注) T_d : 杭10本当り施工日数(2) 鋼管内掘削工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231520

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.6
普 通 作 業 員		〃		〃
ハンマグラブ運転		日		表4.6 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.6
計				

(3) 鋼管内コンクリート打設工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231530

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.7
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³		式4.1
コンクリートポンプ重 運	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	日		表4.7 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 継手管内排土工継手100m当り単価表

施工歩掛コード	WB231540

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.9
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
杭 打 ち 用 ウ ェ ッ ト 運 転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7 MPa 吐出量325ℓ/min	日		表4.9 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.9
計				

(5) 継手管内モルタル注入工継手100m当り単価表

施工歩掛コード	WB231550

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.10
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
注 入 材 料		m ³		式4.2
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量60kVA	日		表4.10 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.10
計				

(6) 継手管内止水材注入工継手100m当り単価表

施工歩掛コード	WB231560

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.12
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
注 入 材 料		m ³		式4.3
止 水 袋		m		必要数計上
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量60kVA	日		表4.12 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.12
計				

(7) 井筒内掘削工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231570

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.14
普 通 作 業 員		〃		〃
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	日		表4.14 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(8) 底面均し(敷砂)工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231580

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.15
潜 水 士		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
敷 砂 材 料		m ³	10	
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	日		表4.15 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.15
計				

(9) 底盤コンクリート打設工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231590

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.16
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³		式4.4
コンクリートポンプ車 運 転	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	日		表4.16 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(10) 井筒内支保設置・撤去工10 t 当り単価表

施工歩掛コード	WB231600

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.18
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55t吊	日		表4.18 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.18
計				

(11) 井筒内支保間詰コンクリート工10m³当り単価表

施工歩掛コード	WB231610

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.19
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³		式4.5
コンクリートポンプ車 運	トラック架装・ブーム式 圧送能力90~110m ³ /h	日		表4.19 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(12) コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式）4列10段当り単価表

施工歩掛コード	WB231670

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.21
特 殊 作 業 員		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
鉄 筋 ス タ ッ ド 鋼 材		本	40	
鉄筋スタッド施工機械運転	2,000A用	日		表4.21 スタッド溶接機・4連ガン・ 制御装置・昇降フレーム・ 電動空気圧縮機・ 自走式リフト（2台）を含む 機械損料
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量250kVA	〃		表4.21 機械賃料
ト ラ ッ ク ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型 4.9t吊	〃		表4.21 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.21
計				

(13) コネクタ取付工（プレートブラケット方式）1 t 当り単価表

施工歩掛コード	WB231620

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.22
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	日		表4.22 機械損料
電 気 溶 接 機 運 転	半自動アーク溶接機 定格電流500A	〃		表4.22 機械損料
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量300kVA	〃		表4.22 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 材料費は別途計上すること。

(14) 鋼管矢板切断・撤去工10本当り単価表

施工歩掛コード	WB231630

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$T_x \times 1$	表4.23
と び 工		〃	$T_x \times 1$	〃
特 殊 作 業 員		〃	$T_x \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$T_x \times 1$	〃
水 中 切 断 機		日	T_y	表4.24 機械損料
バイプロハンマ運転	60kW	〃	T_z	表4.25 機械損料
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量300kVA	〃	T_x	機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T_x ：鋼管矢板10本当り施工日数（日／10本）

T_y ：鋼管矢板10本当り切断日数（日／10本）

T_z ：鋼管矢板10本当り撤去日数（日／10本）

(15)導枠，井筒内支保材料費1 t 当り単価表

施工歩掛コード	WB231640

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
材 料 費		t	1	
修理費及び損耗費	山留主部材	〃	1	
副 部 材 賃 料	副部材(A)	〃	0.22(0.67)	Ⅱ－5－⑧,表6.1
修理費及び損耗費	〃	〃	0.22(0.67)	〃 , 〃
副 部 材 賃 料	副部材(B)	〃	0.04(0.06)	〃 , 〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 上表の副部材 (A) (B) の () 書きについては，火打ブロック使用の場合の数量である。

(16)コネクタ材料費（プレートブラケット）1 t 当り単価表

施工歩掛コード	WB231650

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
材 料 費		t	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(17) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式杭打機	油圧ハンマ 直結三点支持式 又は 直/斜杭打ち兼用油圧ハンマ・ 直結三点支持式	機-18	運転労務数量→1.00 機械損料数量→1.59 燃料消費量→下記のとおりとする
			ラム質量 燃料消費量(ℓ/日)
			10～12.5t 150 15t 187
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→55 機械損料数量→下記のとおりとする 鋼管矢板打込→1.59 その他工種→1.49
ハンマグラブ		機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→55 機械損料1→ハンマグラブ 機械損料数量→1.49 機械損料2→クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型50～55t吊 機械損料数量→1.49
クラムシエル	油圧ロープ式・クローラ型 バケット容量(平積)0.8m ³	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→107 機械損料数量→1.50
コンクリートポンプ車	トラック架装・ブーム式 圧送能力90～110m ³ /h	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→109 機械損料数量→1.21
杭打ち用ウォータ ジェット	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7 MPa 吐出量325ℓ/min	機-24	燃料消費量→131 機械損料数量→1.25
鉄筋スタッド施工機械	2,000A用	機-25	機械損料数量→1.75 スタッド溶植機・4連ガン・制御装置・ 昇降フレーム・電動空気圧縮機・ 自走式リフト(2台)を含む
発動発電機 (コネクタ取付 鉄筋スタッド方式)	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量250kVA	機-16	燃料消費量→218 機械賃料数量→1.75
水中切断機		機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→73 機械損料1→水中切断機 機械損料数量→1.49 機械損料2→クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型50～55t吊 機械損料数量→1.49
パイプロハンマ	60kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃料消費量→68 機械損料1→パイプロハンマ60kW 機械損料数量→1.19 機械損料2→クローラクレーン 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型50～55t吊 機械損料数量→1.19
電気溶接機	半自動アーク溶接機 定格電流500A	機-25	機械損料数量→1.50
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 定格容量 60kVA 定格容量300kVA	機-16	燃料消費量→下記のとおりとする 継手管内モルタル→42 継手管内止水材→50 コネクタ取付→263 (プレートブラケット方式) 鋼管矢板切断撤去→266 機械賃料数量→1.3

6. 施工単価入力基準表

(1) 鋼管矢板打込工(打撃工法)

施工歩掛コード		WB231510	施工単位	本		
施工区分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	杭10本当り 施工日数 (T d) ①標準 ②標準以外 (実数入力)	土質係数(α) (打込層の加重 平均N値) ①1~20未満 ②20以上	板厚係数(β) ①標準 ②標準以外 (実数入力)	杭長 (表6.1)	継手管板厚 ①9mm ②11mm	本管板厚 (表6.2)
	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
	根入長 (打込長) (表6.1)	鋼管矢板杭径 (表6.3)	補助クローラ クレーンの有無 ①有 ②無	杭打機種種 (表6.4)	継杭の有無 ①有 ②無	補強材の有無 ①有 ②無

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合の施工日数(T d)は実数入力であり、小数第2位を四捨五入し、小数第1位止めとする。なお、J 2~J 8 条件は入力する必要はない。
2. 溶接箇所が2箇所以上ある場合はJ 3 条件で②を選択し、それぞれの板厚係数の平均値を入力すること。なお、J 4~J 6 条件は入力する必要はない。
3. J 12 条件で①を選択した場合は、補強材単価(Y-1693002) [円/本] を単価登録すること。
4. 本コードは、クローラクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
5. 鋼管矢板1本当たりの単価(Y-0018000) [円/本] を単価登録すること。

表6.1 杭長及び打込長

杭長及び打込長(m)	入力番号
16m以下	①
16mを超え32m以下	②
32mを超え48m以下	③
48mを超え64m以下	④

表6.2 本管板厚

板厚(mm)	入力番号
9mm	①
10mm	②
12mm	③
14mm	④
16mm	⑤
19mm	⑥
22mm	⑦

表6.3 鋼管矢板杭径

杭径(mm)	入力番号
φ800mm	①
φ900mm	②
φ1,000mm	③
φ1,100mm	④
φ1,200mm	⑤

表6.4 杭打機機種

機 種	入力番号
クローラ式杭打機(油圧ハンマ・直結三点支持式) ラム質量10~12.5 t	①
クローラ式杭打機・直/斜杭打ち兼用油圧ハンマ・直結三点支持式 ラム質量 15 t	②

(2) 鋼管内掘削工

施工歩掛コード	WB231520	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	ハンマグラブの規格 (表6.5)		

(注)現場条件により濁水処理が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章⑰濁水処理工（一般土木工事）」による。

表6.5 ハンマグラブの規格

規 格	入力番号
径800mm	①
径1,000mm	②
径1,100mm	③
径1,200mm	④

(3) 鋼管内コンクリート打設工

施工歩掛コード	WB231530	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	生コンクリート規格 (表6.6)		

(注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含むので施工量は、設計量（ロス率による割増をしない数量）を入力すること。

2. J 1条件で⑦を選択した場合は、生コンクリート単価（Y-0210000）〔円／ m³〕を単価登録すること。

表6.6 生コンクリート規格

規 格	入力番号
C=370kg/m ³ （普通）	①
C=370kg/m ³ （高炉）	②
18-8-25(20)（普通）	③
18-8-25(20)（高炉）	④
24-8-40（普通）	⑤
24-8-40（高炉）	⑥
各種 Y-0210000	⑦

(4) 継手管内排土工

施工歩掛コード	WB231540	施工単位	m

(5) 継手管内モルタル注入工

施工歩掛コード	WB231550	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	モルタル使用量 ①標準（パイプP-P 型 径165.2mm） ②標準以外	モルタル設計数量 (m ³ / 100m) (実数入力)	

(注) 1. J 1条件①②共に、生モルタルの材料ロスを含む。

2. J 1条件で①を選択した場合はJ 2条件は入力する必要はない。

3. J 1条件で②を選択した場合は、設計数量（ロス率による割増をしない数量）を実数入力すること。

4. 生モルタル単価（Y-0221000）〔円／ m³〕を単価登録すること。

5. 本コードは、発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

6. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

(6) 継手管内止水材注入工

施工歩掛コード	WB231560	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	注入材使用量 ①標準 (パイプP-P型 径165.2mm) ②標準以外	注入材設計数量 (m^3 / 100m) (実数入力)	止水袋使用量 (m/100m) (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件①②共に、注入材の材料ロスを含む。
 2. J 1 条件で①を選択した場合は J 2 条件は入力する必要はない。
 3. J 1 条件で②を選択した場合は、設計数量 (ロス率による割増をしない数量) を実数入力すること。
 4. 注入材単価 (Y-0232000) [円 / m^3] 及び止水袋単価 (Y-1677000) [円 / m] を単価登録すること。
 5. 本コードは、発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。
 6. 本コードは、発動発電機の普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

(7) 井筒内掘削工

施工歩掛コード	WB231570	施工単位	m^3

(8) 底面均し (敷砂) 工

施工歩掛コード	WB231580	施工単位	m^3

- (注) 砂単価 (Y-0240000) [円 / m^3] を単価登録すること。

(9) 底盤コンクリート打設工

施工歩掛コード	WB231590	施工単位	m^3
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	生コンクリート規格 (表6.6)		

- (注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含むので施工量は、設計量 (ロス率による割増をしない数量) を入力すること。
 2. J 1 条件で⑦を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円 / m^3] を単価登録すること。
 3. 潜水土による作業 (水中コンクリートの均し、確認等) が必要な場合は、別途計上すること。

(10) 井筒内支保設置・撤去工

施工歩掛コード	WB231600	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	作業区分 ①設置・撤去 ②設置のみ ③撤去のみ		

- (注) 導棒、井筒内支保材料費は、WB231640 で別途計上すること。

(11) 井筒内支保間詰コンクリート工

施工歩掛コード	WB231610	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	生コンクリート規格		
	(表6.6)		

- (注) 1. 本コードは、生コンクリートの材料ロスを含むので施工量は、設計量（ロス率による割増をしない数量）を入力すること。
 2. J 1条件で⑦を選択した場合は、生コンクリート単価（Y-0210000）[円／ m³] を単価登録すること。
 3. 底板等の材料費は別途計上すること。

(12) コネクタ取付工（鉄筋スタッド方式）

施工歩掛コード	WB231670	施工単位	段

- (注) 1. 鉄筋スタッド材料費（Y-0899000）[円／本] を単価登録すること。
 2. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
 3. 本コードは、クローラクレーン及び発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

(13) コネクタ取付工（プレートブラケット方式）

施工歩掛コード	WB231620	施工単位	t

- (注) 1. コネクタ材料費（プレートブラケット）は、WB231650 で別途計上すること。
 2. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
 3. 本コードは、クローラクレーン及び発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

(14) 鋼管矢板切断・撤去工

施工歩掛コード	WB231630	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	鋼管矢板杭径		
	(表6.7)		

- (注) 1. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
 2. 本コードは、クローラクレーン及び発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

表6.7 鋼管矢板杭径

鋼管矢板杭径	入力番号
800mm	①
900 ～ 1,000mm	②
1,100 ～ 1,200mm	③

(15) 導柵、井筒内支保材料費

施工歩掛コード		WB231640	施工単位	t		
施工区分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	部材・規格 (表6.8)	火打 ブロック の有無 ①有 ②無	供用日数 (日) (実数入力)	継続工事 の有無 ①有 ②無	総供用日数 (日) (実数入力)	主部材 修理費及び 損耗費の有無 ①有 ②無
	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	
	主部材 一現場での 使用回数 (回／現場) (実数入力)	副部材A 修理費及び 損耗費の有無 ①有 ②無	副部材A 一現場での 使用回数 (回／現場) (実数入力)	副部材Bの 修理費及び損 耗費の有無 ①有 ②無	副部材B 一現場での 使用回数 (回／現場) (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、工場製作品単価が計上されるため、管理費区分は〔5〕(一般管理費のみ対象)を設定している。また、J 2～J 11 条件は入力する必要はない。
2. J 1 条件で②を選択した場合は、副部材(A)(B)を含む。
3. J 1 条件で②を選択した場合の施工量は、山留主部材の質量とする。
4. 継続工事となる場合は、J 3 条件に当該工事の供用日数を入力し、J 5 条件で総供用日数を入力する。
5. 継続工事以外(J 4 条件で②を選択)は、J 3 条件に供用日数を入力し、J 5 条件は入力する必要はない。
6. J 3 条件の供用日数(継続工事の場合はJ 5 条件の総供用日数)は、賃料計上限度額(一現場当り修理費及び損耗費を含む)である不足弁償金にかかる市中価格(新品)の80%を超えないように調整の上入力すること。
- また、本コードは賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。
7. J 6 条件で②を選択した場合は、J 7 条件は入力する必要はない。
8. J 8 条件で②を選択した場合は、J 9 条件は入力する必要はない。
9. J 10 条件で②を選択した場合は、J 11 条件は入力する必要はない。
10. 使用回数による修理費及び損耗費を補正しない場合は、J 7 条件、J 9 条件及びJ 11 条件に「1」を入力すること。

表6.8 部材・規格

部材・規格	入力番号
導柵、井筒内支保・円弧部(H形鋼)	①
導柵、井筒内支保・直線部(H形鋼)	②

(16) コネクタ材料費(プレートブラケット)

施工歩掛コード	WB231650	施工単位	t

(注) 管理費区分は〔5〕(一般管理費のみ対象)を設定している。

⑤－２ 中掘工法

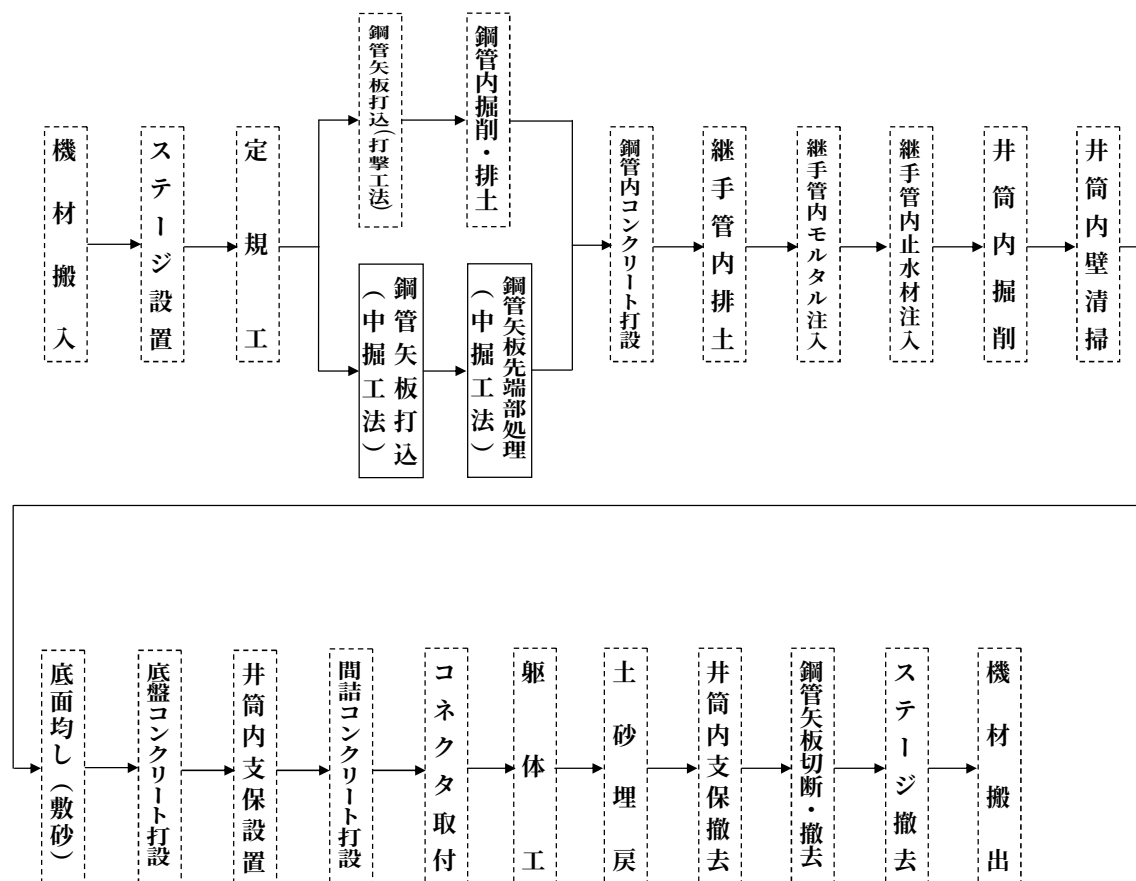
1. 適用範囲

本資料は、橋梁下部等における杭径800～1,200mmの鋼管矢板による基礎工事のうち、仮締切兼用方式（中掘工法）に適用する。

なお、中掘工法の先端処理方法については、根固め工法（セメントミルク噴出攪拌方式）のみの適用とする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 定規工，鋼管内コンクリート打設，継手管内排土，継手管内モルタル注入，継手管内止水材注入，井筒内掘削，井筒内壁清掃，底面均し（敷砂），底盤コンクリート打設，井筒内支保設置・撤去，間詰コンクリート打設，コネクタ取付，鋼管矢板切断・撤去は、「第Ⅱ編第3章①－1 打撃工法」による。

図2－1 施工フロー

3. 機種 の 選 定

3-1 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種 の 選 定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラ式アースオーガ アースオーガ中掘機	直結三点支持式 オーガ出力90kW	台	1	A区分に適用
	直結三点支持式 オーガ出力110kW			B区分に適用
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50～55t吊	〃	1	鋼管径φ1,000mm以下
	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 80t吊			鋼管径φ1,000mmを超え 1,200mm以下
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	1	掘削土の処理作業 (仮栈橋上施工時は 計上しない)
モルタルプラント	攪拌容量500ℓ×2 281～300ℓ/min	〃	1	

(注) 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。

3-2 クローラ式アースオーガの選定

クローラ式アースオーガの選定は、次図による。

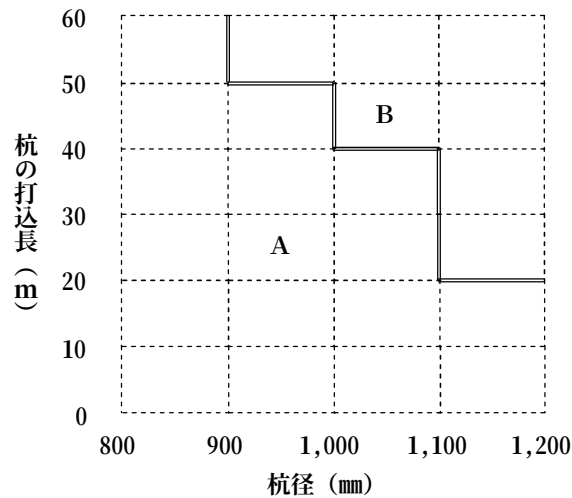


図3-1 クローラ式アースオーガの選定

4. 施 工 歩 掛

4－1 鋼管矢板打込工（中掘工法）

現場条件により油圧ハンマによる施工が出来ない場合は、中掘工法とする。

4－1－1 編成人員

鋼管矢板中掘工法の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	と び 工	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員	溶 接 工
1	2	1	1	2

4－1－2 施工歩掛

(1) 鋼管矢板1本当り施工時間 (T_c)

$$T_c = T_e + T_z$$

T_c：鋼管矢板1本当り施工時間（分／本）

T_e：鋼管矢板1本当りオーガ掘削時間（分／本）

T_z：鋼管矢板1本当りグラウト施工・継手溶接・その他準備時間（分／本）

1) 鋼管矢板1本当りオーガ掘削時間 (T_e)

鋼管矢板1本当りオーガ掘削時間 (T_e) は、次表を標準とする。

表4.2 鋼管矢板1本当りオーガ掘削時間 (T_e) (分／本)

加重平均N値		N値20未満		N値20以上40未満		N値40以上	
鋼管矢板杭径		800mm以上 1,000mm以下	1,000mmを超え 1,200mm以下	800mm以上 1,000mm以下	1,000mmを超え 1,200mm以下	800mm以上 1,000mm以下	1,000mmを超え 1,200mm以下
打 込 長	1m以上 5m以下	8.7	9.6	17.1	18.5	28.2	30.6
	5mを超え 10m以下	23.2	25.6	45.6	49.2	75.2	81.6
	10mを超え15m以下	37.7	41.6	74.1	80.0	122.2	132.6
	15mを超え20m以下	52.2	57.6	102.6	110.7	169.2	183.6
	20mを超え25m以下	66.7	73.6	131.1	141.5	216.2	234.6
	25mを超え30m以下	81.2	89.6	159.6	172.2	263.2	285.6
	30mを超え35m以下	95.7	105.6	188.1	203.0	310.2	336.6
	35mを超え40m以下	110.2	121.6	216.6	233.7	357.2	387.6
	40mを超え45m以下	124.7	137.6	245.1	264.5	404.2	438.6
	45mを超え50m以下	139.2	153.6	273.6	295.2	451.2	489.6
	50mを超え55m以下	153.7	169.6	302.1	326.0	498.2	540.6
	55mを超え60m以下	168.2	185.6	330.6	356.7	545.2	591.6

2) 鋼管矢板1本当りグラウト施工・継手溶接・その他準備時間 (T₂)表4.3 鋼管矢板1本当りグラウト施工・継手溶接・その他準備時間 (T₂) (分/本)

鋼管板厚		t9~10				t12				t14			
継杭回数		0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
鋼管径	800mm以上1,000mm以下	111.6	184.8	258.0	331.2	111.6	194.6	277.6	360.6	111.6	205.9	300.2	394.5
	1,000mmを超え1,200mm以下	120.9	201.7	282.5	363.3	120.9	214.4	307.9	401.4	120.9	229.4	337.9	446.4
鋼管板厚		t16				t19							
継杭回数		0	1	2	3	0	1	2	3				
鋼管径	800mm以上1,000mm以下	111.6	220.6	329.6	438.6	111.6	247.9	384.2	520.5				
	1,000mmを超え1,200mm以下	120.9	247.9	374.9	501.9	120.9	283.4	445.9	608.4				

(注) 1. 鋼管径・長さにかかわらず、グラウト注入（グラウトロッド挿入、引抜等を含む）の準備時間を含む。

2. 半自動溶接機2台を使用する場合の溶接時間を含む。また、溶接には連結継手管2箇所を含む。

3. 足場作り、杭打機の移動、鋼管矢板の吊込、芯出し及び回転防止材の設置等を含む。

4-1-3 諸雑費率

諸雑費は、グラウト材（セメントミルク）、溶接棒（ワイヤ）、杭先端加工、足場材の費用、オーガスクリユー・オーガヘッド・交流アーク溶接機損料、空気圧縮機運転費、電力に関する経費等を含み、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	11

5. 単 価 表

(1) 鋼管矢板打込工(中掘工法)10本当り単価表

施工歩掛コード	WB231660

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	表4.1
溶 接 工		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 2$	〃
特 殊 作 業 員		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	〃
と び 工		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	〃
鋼 管 矢 板		本		肉厚, 杭径毎に別段書き
クローラ式アースオーガ アースオーガ中掘機運転		h	$10 \times T_c / 60$	表3.1 機械損料
クローラクレーン運転		〃	$10 \times T_c / 60 \times 0.6$	表3.1 機械損料
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5m^3 (平積 0.4m^3)	〃	$10 \times T_c / 60 \times 0.3$	表3.1 機械損料 (注) 3
モルタルプラント運転	攪拌容量 $500\varnothing \times 2$	日	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T$	表3.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.4
計				

- (注) 1. T_c : 鋼管矢板1本当り施工時間(分/本)
 2. T: 杭打機運転1日当り運転時間
 3. バックホウ運転については、仮栈橋上施工時には計上しない。

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラ式アースオーガ アースオーガ中掘機	直結三点支持式 オーガ出力90kW オーガ出力110kW	機-1	
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 50~55t吊 80t吊	機-1	
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5m^3 (平積 0.4m^3)	機-1	
モルタルプラント	攪拌容量 $500\varnothing \times 2$	機-25	機械損料数量→1.00

6. 施工単価入力基準表

(1) 鋼管矢板打込工(中掘工法)

施工歩掛コード		WB231660	施工単位	本			
施工区分	入 力 条 件						
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	鋼管矢板杭径 (mm)	継杭回数	鋼管板厚	打込長	打 込 層 の 加重平均N値	掘削土の 処理作業	バックホウ 規 格
	(実数入力)	①継無 ② 1 回 ③ 2 回 ④ 3 回	①9～10mm ②12mm ③14mm ④16mm ⑤19mm	(表6.1)	①20未満 ②20～40未満 ③40以上	①有 ②無	①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

(注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要は無い。

2. J 6 条件については、仮栈橋上施工時に②を選択する。

3. 鋼管矢板1本当たりの単価(Y-0018000) [円/本] を単価登録すること。

4. 本コードは、クローラクレーン、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。

5. 本コードは、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)にも適用できる。

表6.1 打込長

打込長	入力番号
1m以上5m以下	①
5mを超え10m以下	②
10mを超え15m以下	③
15mを超え20m以下	④
20mを超え25m以下	⑤
25mを超え30m以下	⑥
30mを超え35m以下	⑦
35mを超え40m以下	⑧
40mを超え45m以下	⑨
45mを超え50m以下	⑩
50mを超え55m以下	⑪
55mを超え60m以下	⑫

⑥ ドロップハンマ杭打工

1. 適用範囲

本資料はドロップハンマ杭打工によるRC杭の施工に適用する。なお、杭径は200～300mm、杭長は2～6mで杭長の80～100%の打込みとする。

2. 施工歩掛

2-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)20t吊	台	1
モンケン	質量1.0t(2.0t)	台	1

(注)1. 現場の路面状況等によりラフテレーンクレーンによる施工が困難な場合はクローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型22.5t吊)による。

2. 杭径300mmで杭長が5m以上の場合はモンケンの規格は2.0tとする。

2-2 ドロップハンマ杭打設歩掛

ドロップハンマ杭打設歩掛は、次表を標準とする。

表2.2 杭打設歩掛

(10本当たり)

杭 径 (mm)			200			250				300			
杭 長 (m)													
名 称	規 格	単位	2	3	4	3	4	5	6	3	4	5	6
土木一般世話役		人	0.26	0.30	0.34	0.41	0.48	0.55	0.61	0.65	0.81	0.98	1.14
とび工		〃	0.52	0.60	0.68	0.82	0.96	1.10	1.22	1.30	1.62	1.96	2.28
普通作業員		〃	0.52	0.60	0.68	0.82	0.96	1.10	1.22	1.30	1.62	1.96	2.28
ラフテレーンクレーン賃料	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)20t吊	日	0.26	0.30	0.34	0.41	0.48	0.55	0.61	0.65	0.81	0.98	1.14
諸 雑 費		%	1.0										

(注)1. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

2. クローラクレーンによる場合の運転時間は「ラフテレーンクレーン賃料日数×7時間」とする。

3. 諸雑費はモンケン、二本構損料であり、労務費及びラフテレーンクレーン賃料(クローラクレーンの場合は損料及び運転経費)の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 単 価 表

(1) ドロップハンマ杭打工 10 本当り単価表

					施工歩掛コード	WB231710
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要		
土 木 一 般 世 話 役		人		表2.2		
と び 工		〃		〃		
普 通 作 業 員		〃		〃		
R C 杭		本	10			
ラフテレーンクレーン賃料 又はクローラクレーン運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス 対策型(第2次基準値)20 t 吊又は機械駆動式ウイン チ・ラチスジブ型22.5 t 吊	日 又は h		表2.2		
諸 雑 費		式	1	〃		
計						

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
クローラクレーン	機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型 22.5 t 吊	機-1	

4. 施工単価入力基準表

(1) ドロップハンマ杭打工

施工歩掛コード		WB231710	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	杭径	杭長	クレーンの種類	ラフテレーンクレーン賃料補正係数
	①200 mm	①2m	①ラフテレーンクレーン	①標準
	②250 mm	②3m		②標準以外
	③300 mm	③4m	②クローラクレーン	(実数入力)
		④5m		
		⑤6m		

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件の④、⑤は選択することが出来ない。
 2. J 1 条件で②、③を選択した場合は、J 2 条件の①は選択することが出来ない。
 3. J 3 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は選択する必要はない。
 4. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 5. RC 杭単価(Y-0272000) [円/本] を単価登録すること。
 6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 7. 本コードは、ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型(第1次基準値)、普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

⑦ 木杭及び矢板打工(人力, ドロップハンマ工)

1. 人力木杭打工

本資料は、木杭長3m以下のものに適用する。

表1.1 人力杭打歩掛表(1本当り)

(単位:人)

末口 杭長(m)	6 cm以下	6 cmを超え 9 cm以下	9 cmを超え 12 cm以下	12 cmを超え 15 cm以下
1.2	0.04	0.06	0.08	—
1.5	—	0.09	0.13	0.19
1.8	—	0.12	0.22	0.23
2.1	—	—	0.36	0.57
2.4	—	—	0.47	0.69
2.7	—	—	—	0.80
3.0	—	—	—	1.09

(注) 1. 本表は、普通地質における 80%以上 100%の根入率の場合であり、根入率 70%以上 80%未満は2割減、70%未満の場合は3割減とする。

2. 本表は杭木小運搬、先端仕揃え、元口切揃え及び足場器具損料一切を含む。

3. 杭抜取歩掛は本表の7割とすること。

4. 本表以外のものは、本表の直近下位を取ること。

5. 本歩掛は、普通作業員を使用すること。

2. 単 価 表

(1) 人力木杭打工1本当り単価表

				施工歩掛コード	WB231810
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
普 通 作 業 員		人		表1.1	
杭 丸 太		本	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 人力木杭抜取工1本当り単価表

				施工歩掛コード	WB231820
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
普 通 作 業 員		人		表1.1	
諸 雑 費		式	1		
計					

3. 施工単価入力基準表

(1) 人力木杭打工

施工歩掛コード	WB231810	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	末口	杭長	施工条件による補正係数
	(表 3.1)	(表 3.2)	(表 3.3)

(注) 1. 本表には、杭木仕拵歩掛を含む。

2. 杭丸太単価 (Y-0404000) [円/本]を単価登録すること。

3. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は①で固定される。

4. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件で④～⑦は選択出来ない。

5. J 1 条件で③を選択した場合は、J 2 条件で⑥及び⑦は選択出来ない。

6. J 1 条件で④を選択した場合は、J 2 条件で①は選択出来ない。

表3.1 末口

末口	入力番号
6 cm以下	①
6 cmを超え 9 cm以下	②
9 cmを超え 12 cm以下	③
12 cmを超え 15 cm以下	④

表3.2 杭長

杭長	入力番号
1.2m	①
1.5m	②
1.8m	③
2.1m	④
2.4m	⑤
2.7m	⑥
3.0m	⑦

表3.3 施工条件による補正係数

施工条件による補正係数	入力番号
根入率 80%以上 100%	①
根入率 70%以上 80%未満	②
根入率 70%未満	③

(2) 人力木杭抜取工

施工歩掛コード	WB231820	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	末口	杭長	施工条件による補正係数
	(表 3.1)	(表 3.2)	(表 3.3)

(注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件で①で固定される。

2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件で④～⑦は選択出来ない。

3. J 1 条件で③を選択した場合は、J 2 条件で⑥及び⑦は選択出来ない。

4. J 1 条件で④を選択した場合は、J 2 条件で①は選択出来ない。

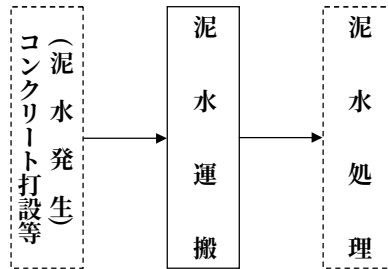
⑧ 泥 水 運 搬 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、工事の施工に伴い発生する泥水を、汚泥吸排車（8.0 t）を使用して運搬する場合に適用する。なお、泥水処理が必要な場合は、泥水処理費を別途計上する。

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記のとおりとする。



（注） 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機 種 の 選 定

運搬機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	適 用
汚泥吸排車	積載質量 8.0 t	

4. 汚泥吸排車の運搬作業

汚泥吸排車（8.0 t）による泥水 100 m³当りの運搬日数は、下表とする。

表4.1 吸排車泥水運搬日数 (100 m³当り)

積込運搬機種・規格	汚泥吸排車 積載質量 8.0 t 吸入管径 75 mm				
D I D区間：無し					
運搬距離 (km)	2.0以下	6.3以下	14.8以下	25.7以下	60.0以下
運搬日数 (日)	2.2	2.6	3.2	4.3	6.5
D I D区間：有り					
運搬距離 (km)	1.9以下	5.9以下	13.1以下	22.6以下	60.0以下
運搬日数 (日)	2.2	2.6	3.2	4.3	6.5

（注）1. 上表は、泥水 100 m³を運搬（泥水の吸入及び排出を含んだ）する日数である。

2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。

4. D I D（人口集中地区）は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。

5. 運搬距離が、60 kmを超える場合は、別途考慮する。

5. 施工単価入力基準表

(1) 汚泥吸排車運搬

施工歩掛コード	WB232010	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1		
	運搬距離 (表 5.1)		

表5.1 運搬距離

積込運搬機種・規格	汚泥吸排車 積載質量 8.0 t 吸入管径 75 mm				
D I D区間：無し					
運搬距離 (km)	2.0以下	6.3以下	14.8以下	25.7以下	60.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
D I D区間：有り					
運搬距離 (km)	1.9以下	5.9以下	13.1以下	22.6以下	60.0以下
入力番号	①	②	③	④	⑤

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

6. 単 価 表

(1) 汚泥吸排車運搬 100 m³当り単価表

					施工歩掛コード	WB232010
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要		
汚 泥 吸 排 車 運 転	積載質量 8.0 t 吸入 管径75mm	日		表4.1 機械損料		
諸 雑 費		式	1			
計						

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
汚 泥 吸 排 車	積載質量 8.0 t 吸 入管径75mm	機－19	運転労務数量→1.20 燃料消費量 →96 機械損料数量→1.44

第4章 コンクリート工

① コンクリート工……………	Ⅱ-4-①- 1	②-2 型枠工(省力化構造)……………	Ⅱ-4-②- 6
1 適用範囲……………	Ⅱ-4-①- 1	1 適用範囲……………	Ⅱ-4-②- 6
2 コンクリート打設工法の選定……………	Ⅱ-4-①- 2	2 施工概要……………	Ⅱ-4-②- 6
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-4-①- 3	3 施工パッケージ……………	Ⅱ-4-②- 7
4 施工歩掛……………	Ⅱ-4-①- 7	4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-4-②- 7
5 単価表……………	Ⅱ-4-①- 9	③ 溶接金網設置工……………	Ⅱ-4-③- 1
6 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-4-①-10	1 適用範囲……………	Ⅱ-4-③- 1
② 型枠工……………	Ⅱ-4-②- 1	2 施工歩掛……………	Ⅱ-4-③- 1
②-1 型枠工……………	Ⅱ-4-②- 1	3 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-4-③- 1
1 適用範囲……………	Ⅱ-4-②- 1	4 単価表……………	Ⅱ-4-③- 1
2 施工概要……………	Ⅱ-4-②- 1		
3 施工パッケージ……………	Ⅱ-4-②- 2		
4 施工単価入力基準表……………	Ⅱ-4-②- 5		

第4章 コンクリート工

① コンクリート工

1. 適用範囲

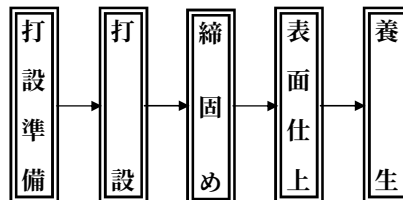
本資料は、一般的な構造物（無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物）の人力及び機械によるコンクリート打設、及び人力によるモルタル練に適用する。

1-1 適用出来る範囲（以下のいずれかの条件に該当する場合）

- (1) 無筋構造物（表1. 1を参照）
- (2) 鉄筋構造物（表1. 1を参照）
- (3) 小型構造物（表1. 1を参照）
- (4) モルタル練

1-2 適用出来ない範囲（以下のいずれかの条件に該当する場合）

- (1) ダムコンクリート、トンネル覆工コンクリート、砂防コンクリート、コンクリート舗装、消波根固めブロック、コンクリート桁及び軽量コンクリート等の特殊コンクリート打設、並びに、橋梁床版の養生工
- (2) 場所打擁壁工
- (3) 函渠工
- (4) 共同溝工（ただし、現場打ちの電線共同溝（C・C・BOX）を除く。）
- (5) 橋台・橋脚工



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

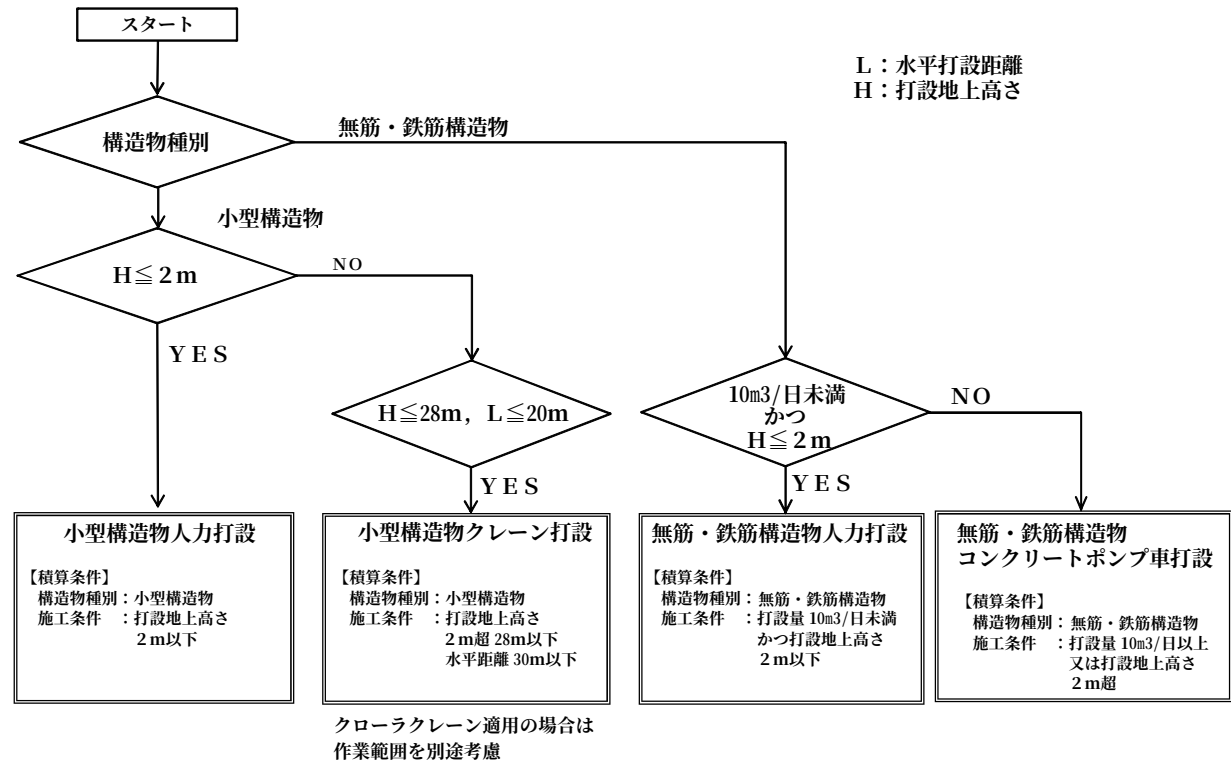
表1. 1 コンクリート構造物の分類

構造物種別	コンクリート構造物の分類
無筋構造物	マッシブな構造物、比較的単純な鉄筋を有する構造物、均しコンクリート等
鉄筋構造物	水路、水門、ポンプ場下部工、栈橋上部コンクリート、橋梁床版、壁高欄等の鉄筋量の多い構造物
小型構造物	コンクリート断面積が1㎡以下の連続している側溝、笠コンクリート等、コンクリート量が1㎡以下の点在する集水桝、照明基礎、標識基礎等

2. コンクリート打設工法の選定

コンクリート打設工法の選定は、図2－1を標準とするが、現場状況等を考慮し、これにより難しい場合は、別途考慮する。

図2－1 コンクリート打設工法の選定



3. 施工パッケージ

3-1 コンクリート

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 コンクリート 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

構造物 種別	施工条件	コンクリー ト規格	設計日 打設量	養生工の 種類	圧送管 延長距離区分	現場内小 運搬の有無	打設高さ、 水平距離	
無筋 ・ 鉄筋 構造物	打設量 10m3/日 以上又は 打設地上 高さ 2m 超	(表 3.3)	10m3 以上 300m3 未満	養生無し	延長無し	—	—	
					60m 以下	—	—	
					60m を超え 120m 以下	—	—	
					120m を超え 180m 以下	—	—	
					180m を超え 240m 以下	—	—	
				一般養生	延長無し	—	—	
					60m 以下	—	—	
					60m を超え 120m 以下	—	—	
					120m を超え 180m 以下	—	—	
					180m を超え 240m 以下	—	—	
				特殊養生 (練炭, ジェットヒータ)	延長無し	—	—	
					60m 以下	—	—	
					60m を超え 120m 以下	—	—	
					120m を超え 180m 以下	—	—	
					180m を超え 240m 以下	—	—	
			300m3 以上 600m3 未満	養生無し	延長無し	—	—	
					240m 以下	—	—	
				一般養生	延長無し	—	—	
	240m 以下				—	—		
	特殊養生 (練炭, ジェットヒータ)			延長無し	—	—		
			240m 以下	—	—			
	打設量 10m3/日 未満かつ 打設地上 高さ 2m 以下		—	養生無し	—	有り	—	
					無し			
				一般養生	—	有り		
無し								
特殊養生 (練炭, ジェットヒータ)			—	有り	—			
			無し					
小型 構造物			打設地上 高さ 2m 超 28m 以下 水平距離 30m 以下	—	養生無し	—	—	(表 3.4)
					一般養生			
	特殊養生 (練炭)							
	特殊養生 (ジェットヒータ)							
	打設地上 高さ 2m 以下		—	養生無し	—	有り	—	
				無し				
				一般養生		有り		
				無し				
				特殊養生 (練炭)		有り		
		無し						
特殊養生 (ジェットヒータ)	有り							
	無し							

- (注) 1. 上表は,一般的な構造物(無筋構造物,鉄筋構造物,小型構造物)のコンクリート打設,締固め,表面仕上,養生,15m以下の人力運搬車による現場内小運搬の他,シュート,ホッパ,コンクリートパイプレータ,コンクリートバケット損料,電力に関する経費,ホースの筒先作業等を行う機械付補助作業等,その施工に要する全ての費用を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は,無筋構造物が+0.04,鉄筋構造物が+0.02,小型構造物が+0.06とする。
3. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設において,コンクリートポンプ車圧送のコンクリートのスランプ値及び粗骨材の最大寸法は,次表のとおりとする。

表3.2 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車圧送のコンクリートの標準範囲

スランプ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)
8 ~ 12	40 以下

4. 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設において,コンクリートポンプ車から作業範囲 30mを超える場合は,超えた部分について圧送管延長距離を積算条件区分から選択する。この場合,圧送管の日々の組立・撤去費用を含む。なお,圧送管の固定足場(受枠)を必要とする場合は,別途計上する。
5. 小型構造物クレーン車打設において,クローラクレーンを使用する場合は,現場条件から打設高さを検討し,適当なブーム長さを設定する。
6. 小型構造物クレーン車打設のバケット容量は, $V=0.6\text{m}^3$ を標準とする。
7. 特殊養生は,河川・海岸・道路工事における寒中コンクリートの養生に適用する。なお,養生方法は給熱養生を標準とし,鉄筋構造物はジェットヒータ養生,鉄筋構造物以外は練炭養生を原則とする。また,異形ブロック製作における養生は適用しない。養生のための足場は別途計上とする。

表3.3 コンクリート規格

積算条件	区分	
コンクリート 規格	21-8-25(20)(普通)	19.5-8-40(高炉)
	24-8-25(20)(普通)	18-5-40(高炉)
	27-8-25(20)(普通)	21-5-40(高炉)
	30-8-25(20)(普通)	18-8-40(高炉)
	40-8-25(20)(普通)	21-8-40(高炉)
	18-8-40(普通)	24-8-40(高炉)
	19.5-8-40(普通)	21-12-40(高炉)
	21-8-40(普通)	40-8-25(早強)
	21-12-40(普通)	21-8-25(早強)
	22.5-8-40(普通)	24-8-25(早強)
	24-8-40(普通)	18-8-25(高炉)
	4.5-2.5-40(普通)	21-5-80(高炉)
	21-8-25(20)(高炉)	18-3-40(高炉)
	24-8-25(20)(高炉)	21-3-40(高炉)
	19.5-5-40(高炉)	Y-020000(各種)

表3.4 打設高さ, 水平距離

積算条件	区分
打設高さ, 水平距離	打設高さ約 17m 以下, 水平距離約 17m 以下
	打設高さ約 25m 以下, 水平距離約 18m 以下
	打設高さ約 25m 以下, 水平距離約 20m 以下
	打設高さ約 28m 以下, 水平距離約 20m 以下
	水平距離約 30m 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 コンクリート 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90～110 m ³ /h	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
	K 2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]16t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 17m 以下、水平距離約 17m 以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]20t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平距離約 18m 以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]25t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 25m 以下、水平距離約 20m 以下の場合
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]35t 吊	・賃料 ・小型構造物で、打設高さ約 28m 以下、水平距離約 20m 以下の場合
		クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型]50t 吊	・賃料 ・小型構造物で、水平距離約 30m 以下の場合
	K 3	ジェットヒータ 126 MJ/h (30,100kcal/h)	無筋・鉄筋構造物で、特殊養生(練炭、ジェットヒータ)の場合、又は小型構造物で、特殊養生(ジェットヒータ)の場合
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 24-8-25 (20) W/C55%	
	Z 2	軽油 1.2 号 パトロール給油	無筋・鉄筋構造物ポンプ車打設の場合、又は小型構造物で、水平距離約 30m 以下の場合
	Z 3	灯油 白灯油 業務用 ミニローリー	無筋・鉄筋構造物で、特殊養生(練炭、ジェットヒータ)の場合、又は小型構造物で、特殊養生(ジェットヒータ)の場合
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 モルタル練

(1) 条件区分

モルタル練の条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 モルタル練 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

セメント種類	混合比
普通	1 : 1
	1 : 2
	1 : 3
高炉	1 : 1
	1 : 2
	1 : 3

表3.7 モルタル材料 (1m³ 当り)

混 合 比	セ メ ン ト	砂
1 : 1	1,100 kg	0.75 m ³
1 : 2	720 kg	0.95 m ³
1 : 3	530 kg	1.05 m ³

- (注) 1. 上表は、人力によるモルタル練作業、小運搬、通常の養生費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料(損料等)を含む。
 2. 上表は、材料ロスを含む。
 3. 上表は、目地等の仕上げを含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 モルタル練 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	セメント 高炉 B 25 kg袋入	
	Z 2	砂 細目 (洗い)	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施 工 歩 掛

4-1 圧送管組立・撤去

4-1-1 適用範囲

本歩掛は、表4. 1に示す施工パッケージ以外で、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合の、
 超えた部分の圧送管延長分の組立・撤去に適用する。

表4. 1 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

・函渠（1）	・重力式擁壁	・もたれ式擁壁
・逆T型擁壁	・L型擁壁	・コンクリート

4-1-2 圧送管組立・撤去歩掛

コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合は、超えた部分の圧送管延長分について、次表の労務を、組立・撤去歩掛として計上する。

なお、これにより難い場合は別途考慮する。

表4. 2 圧送管組立・撤去歩掛 (10m当り)

名 称	単 位	組 立	撤 去
普 通 作 業 員	人	0.26	0.20

(注) 圧送管の固定足場（受枠）を必要とする場合は、別途計上する。

4-2 養生工

4-2-1 適用範囲

本歩掛は、表4. 3に示す施工パッケージ以外の養生工に適用する。

表4. 3 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

・ヒューム管（B形管）	・函渠（1）	・現場打基礎コンクリート
・天端コンクリート	・小型擁壁（B）	・重力式擁壁
・もたれ式擁壁	・逆T型擁壁	・L型擁壁
・コンクリート		

4-2-2 一般養生工

一般養生工における歩掛は、次表を標準とする。

表4. 4 養生歩掛 (10m3 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普 通 作 業 員	人	0.30	0.16	0.69
諸 雑 費 率	%	17	33	19

(注) 諸雑費は、シート、養生マット、角材、パイプ、散水等に使用する機械の損料及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-3 養生工（特殊養生）

4-3-1 適用範囲

本歩掛は、表4. 5に示す施工パッケージ以外の河川、海岸、道路工事における寒中コンクリートの養生に適用する。なお、養生方法は給熱養生を標準とし、鉄筋構造物はジェットヒータ養生、鉄筋構造物以外は練炭養生を原則とする。

また、異形ブロック製作における養生は、適用しない。

表4. 5 本歩掛が適用出来ない施工パッケージ

・ヒューム管（B形管）	・函渠（1）	・現場打基礎コンクリート
・天端コンクリート	・小型擁壁（B）	・重力式擁壁
・もたれ式擁壁	・逆T型擁壁	・L型擁壁
・コンクリート		

4-3-2 特殊養生工

4-3-2-1 特殊養生工(練炭養生)

練炭による特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表4.6 特殊養生歩掛(練炭養生) (10m³ 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普 通 作 業 員	人	0.88	0.54	1.56
諸 雑 費 率	%	25	25	32

- (注) 1. 諸雑費は、練炭、コンロ、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 養生のための足場は、別途計上する。

4-3-2-2 特殊養生工(ジェットヒータ養生)

(1) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.7 機種の選定

機 械 名	規 格
ジ ェ ッ ト ヒ ー タ	126MJ/h (30,100kcal/h)

(2) 施工歩掛

ジェットヒータによる特殊養生歩掛は、次表を標準とする。

表4.8 特殊養生歩掛(ジェットヒータ養生) (10m³ 当り)

名 称	単 位	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
普 通 作 業 員	人	0.74	0.43	2.4
ジェットヒータ運転	h	30	28	157
諸 雑 費 率	%	13	28	33

- (注) 1. ジェットヒータは、賃料とする。
2. 諸雑費は、電力に関する経費、シート、養生マット、角材、パイプ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 養生のための足場は、別途計上する。

(3) 運転時間

ジェットヒータによる特殊養生に要する施工機械運転日当り運転時間は、次表を標準とする。

表4.9 施工機械運転日当り運転時間 (h/日)

名 称	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物
ジ ェ ッ ト ヒ ー タ 運 転	18.5	15.2	20.1

- (注) ジェットヒータの運転時間当り燃料消費量は、灯油 3.6ℓ/hとする。

5. 単 価 表

(1) 圧送管組立・撤去費 10m3 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人	$0.46 \times L/B$	表 4.2
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 1. Lは、コンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超えた部分の圧送管延長とする。
 2. Bは、コンクリートの標準日打設とする。
 3. 設計日打設量が 10m3 以上 300m3 未満の場合は、標準日打設量を 81m3 とする。
 4. 設計日打設量が 300m3 以上 600m3 未満の場合は、標準日打設量を 400m3 とする。

(2) 養生工（一般養生）10m3 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表 4.4
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) 養生工（特殊養生・練炭）10m3 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表 4.6
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(4) 養生工（特殊養生・ジェットヒータ）10m3 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表 4.8
ジ ェ ッ ト ヒ ー タ 運 転	126MJ/h (30,100kcal/h)	h		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(5) ジェットヒータ運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
燃 料 費	灯油	ℓ		表 4.9
ジ ェ ッ ト ヒ ー タ 賃 料	126MJ/h (30,100kcal/h)	h	1	時間当り賃料→賃料×1/表 4.9
諸 雑 費		式	1	
計				

6. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート

パッケージコード		CB240010	施 工 単 位	m3	
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	構造物種別	施工条件	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類
	①無筋・鉄筋構造物 ②小型構造物	①打設量 10m3/日以上又は打設地上高さ 2m 超 ②打設量 10m3/日未満かつ打設地上高さ 2m 以下 ③打設地上高さ 2m 超 28m 以下, 水平距離 30m 以下 ④打設地上高さ 2m 以下	(表 5.1)	①10m3 以上 300m3 未満 ②300m3 以上 600m3 未満	①養生無し ②一般養生 ③特殊養生 (練炭, ジェットヒータ) ④特殊養生(練炭) ⑤特殊養生 (ジェットヒータ)

J 6	J 7	J 8	J 9	J 10
圧送管距離延長区分	現場内小運搬の有無	打設高さ, 水平距離	ラフテレーンクレーン賃料補正	クローラクレーン賃料補正
①延長無し ②60m 以下 ③60m を超え 120m 以下 ④120m を超え 180m 以下 ⑤180m を超え 240m 以下 ⑥240m 以下	①有り ②無し	①打設高さ約 17m 以下, 水平距離約 17m 以下 ②打設高さ約 25m 以下, 水平距離約 18m 以下 ③打設高さ約 25m 以下, 水平距離約 20m 以下 ④打設高さ約 28m 以下, 水平距離約 20m 以下 ⑤水平距離約 30m 以下	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは, コンクリートの材料ロスを含んでいるため, 施工量は, ロス率を含まない数量を入力すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2 条件で③,④を, J 5 条件で④,⑤を選択出来ない。
3. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件で①,②を, J 5 条件で③を選択出来ない。
4. J 2 条件で①を選択した場合, J 3 条件の⑫,⑮,⑰,⑱,㉑,㉒,㉓の生コンクリート規格が適用外となるため選択出来ない。
5. J 2 条件で①,②,④を選択した場合は, J 8 条件を選択する必要はない。また, J 9～J 10 条件を入力する必要はない。
6. J 2 条件で①,③を選択した場合は, J 7 条件を選択する必要はない。
7. J 2 条件で②～④を選択した場合は, J 4 条件, J 6 条件を選択する必要はない。
8. J 3 条件で㉓を選択した場合, コンクリート(Y-0210000)[円/m3]を単価登録すること。また, 生コンクリートの夜間割り増しを行う場合は, 割増金額を考慮した単価を登録すること。また, 労務費調整係数も入力すること。
9. J 4 条件で①を選択した場合, J 6 条件で⑥を選択出来ない。また, J 4 条件で②を選択した場合, J 6 条件で②～⑤を選択出来ない。
10. J 8 条件で①～④を選択した場合は, J 10 条件を選択する必要はない。
11. J 8 条件で⑤を選択した場合は, J 9 条件を選択する必要はない。
12. J 9 条件及びJ 10 条件で②を選択した場合は, ラフテレーンクレーン・クローラクレーンの賃料補正を実数入力(夜間補正)し, 労務費調整係数も入力すること。
13. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
14. J 5 条件で雪寒囲いの養生が必要な場合は, ①を選択し「第Ⅱ編第5章仮設工⑮-2 雪寒仮囲い

工」により別途計上すること。

15. 作業範囲（30m）を超えて圧送管を延長する場合は，超えた部分の延長距離を J 6 条件の②～⑥から選択する。なお，圧送管延長は，標準日打設量に基づく，日々の圧送管延長を平均した延長となるため留意すること。

表 6. 1 生コンクリート規格

生コンクリート	入力 番号	生コンクリート	入力 番号	生コンクリート	入力 番号
21-8-25 (20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑪	24-8-40 (高炉)	⑳
24-8-25 (20) (〃)	②	4.5-2.5-40 (〃)	⑫	21-12-40 (〃)	㉑
27-8-25 (20) (〃)	③	21-8-25 (20) (高炉)	⑬	40-8-25 (早強)	㉒
30-8-25 (20) (〃)	④	24-8-25 (20) (〃)	⑭	21-8-25 (〃)	㉓
40-8-25 (20) (〃)	⑤	19.5-5-40 (〃)	⑮	24-8-25 (〃)	㉔
18-8-40 (〃)	⑥	19.5-8-40 (〃)	⑯	18-8-25 (高炉)	㉕
19.5-8-40 (〃)	⑦	18-5-40 (〃)	⑰	21-5-80 (〃)	㉖
21-8-40 (〃)	⑧	21-5-40 (〃)	⑱	18-3-40 (〃)	㉗
21-12-40 (〃)	⑨	18-8-40 (〃)	⑲	21-3-40 (〃)	㉘
22.5-8-40 (〃)	⑩	21-8-40 (〃)	㉔	Y-0210000 (各種)	㉙

(2) モルタル練

パッケージコード	CB240060	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	セメント種類	混合比	
	① 普通	① 1 : 1	
	② 高炉	② 1 : 2	
		③ 1 : 3	

② 型 枠 工

②－1 型 枠 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、一般土木工事の構造物及び「土木構造物設計マニュアル（案）－土木構造物・橋梁編－」（平成 11 年 10 月 28 日建設省）に基づき設計された場所打ち鉄筋構造物（ボックスカルバート、L 型、逆 T 式擁壁、張出し式・壁式橋脚）の施工にかかる型枠、橋梁の床版部・支承部・連結部等に使用する発泡スチロールによる撤去しない埋設型枠に適用する。

1－1 適用出来る範囲

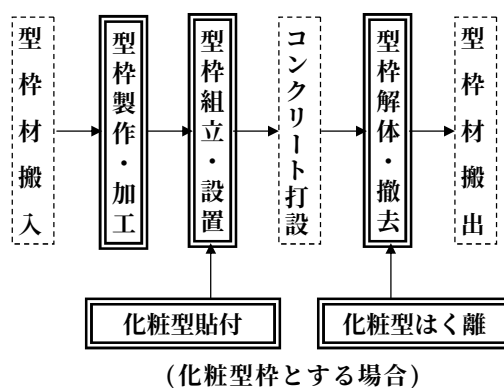
- （１）平均設置高 30m 以下の場合
- （２）第Ⅱ編第 2 章共通工⑤-1 場所打擁壁工（１），②④-1 函渠工（１）。ただし「３－２ 化粧型枠」に限る。

1－2 適用出来ない範囲

- （１）鋼橋床版、コンクリート桁、砂防、ダム、トンネル等で、標準歩掛において別途、型枠の基準が設定されている工種の場合
- （２）「土木構造物設計マニュアル（案）－樋門編－」（平成 13 年 12 月 21 日国土交通省）に基づき設計された函渠、胸壁、しゃ水壁、門柱、ゲート操作台、翼壁の型枠工
- （３）第Ⅱ編第 2 章共通工⑤-1 場所打擁壁工（１），②④-1 函渠工（１）。ただし「３－２ 化粧型枠」を除く。
- （４）第Ⅳ編第 4 章共同溝工①-1，2 共同溝工（１）（２），第 7 章橋梁工⑨-1 橋台・橋脚工（１）
- （５）化粧型と型枠が一体となった製品等を使用し、貼付・はく離作業が不要な場合

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



- （注） 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 構造物の分類は、「第Ⅱ編第 4 章コンクリート工①コンクリート工」による。
3. 水抜きパイプの有無にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 型枠

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする

表3.1 型枠 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

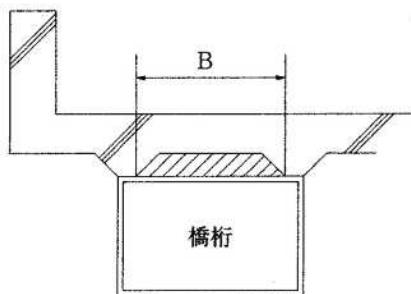
型枠の種類	構造物の種類
一般型枠	鉄筋・無筋構造物
	小型構造物
	鉄筋・無筋構造物（合板円形型枠使用）
	均しコンクリート
化粧型枠	鉄筋・無筋構造物
	小型構造物
	鉄筋・無筋構造物（合板円形型枠使用）
撤去しない埋設型枠	床版部
	支承部・連結部

- (注) 1. 上表は型枠の組立・設置・撤去、水抜パイプの設置、はく離剤塗布及びケレン作業の他、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、さん木、洋釘、はく離剤及び電気ドリル、電気ノコギリ損料、電力に関する経費、仮設材の持上（下）げ機械に要する費用等、その施工に要する全ての費用を含む。ただし、化粧型枠（材料費）及び撤去しない埋設型枠（材料費）は含まない。
2. 撤去しない埋設型枠の床版部には、接着・小運搬を含む。また、支承部・連結部には発泡スチロールの加工・接着・現場内小運搬を含む。
3. 水抜きパイプの有無にかかわらず適用出来る。ただし、水抜パイプ材料は、必要量を別途計上する。
4. コンクリート、足場、支保は含まない。
5. 化粧型枠（使い捨て型）の材料費は、別途計上する。
6. 化粧型枠の処分費が必要な場合は、別途計上する。
7. 撤去しない埋設型枠の材料費（発泡スチロール）は、別途計上とする。なお、床版部はハンチ等の加工費も含めて別途計上する。
8. 撤去しない埋設型枠の設置面積は下記とする。

$$\text{設置面積 (m}^2\text{)} = B \times L \quad B: \text{設置幅 (m)}$$

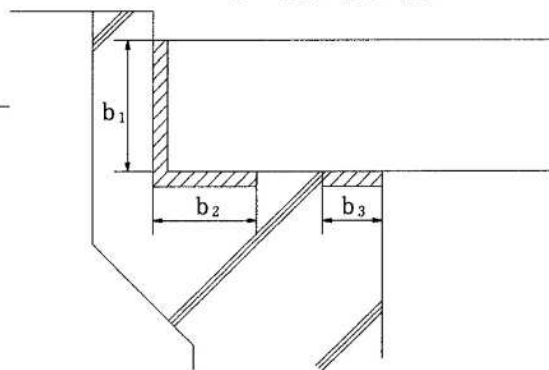
$$L: \text{設置延長 (m)}$$

(1) 床版部



(2) 支承部・連結部

$$B = b_1 + b_2 + b_3$$



9. 撤去しない埋設型枠の材料（発泡スチロール）の使用量
 支承部・連結部の発泡スチロールの使用量は、次式による。
 使用量（m2）＝設置面積（m2）×（1＋K）……………（式2.1）
 K：ロス率

表3.2 ロス率 (K)

ロ ス 率	＋ 0.04

(2) 代表機労材規格
 下表機労材は、当該パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 型枠 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	型わく工	一般型枠・化粧型枠の場合
		特殊作業員	撤去しない埋設型枠の場合
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 化粧型枠

(1) 条件区分

化粧型枠の積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- (注) 1. 化粧型の貼付・はく離作業が必要な化粧型枠（使い捨て型）の製作・設置・撤去，はく離剤及び電気ドリル，電動ノコギリ損料，電力に関する経費，仮設材の持上（下）げ機械に要する費用等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等）の内，一般型枠との差額のみを含む。ただし，化粧型枠（材料費）は含まない。
2. 化粧型と型枠が一体となった製品を使用し，貼付・はく離作業が不要な場合は適用出来ない。
3. 化粧型枠の材料費は別途計上する。
4. 化粧型枠の処分費が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機材規格

下記機材は，当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.4 化粧型枠 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	型わく工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 化粧型枠（材料費）

(1) 条件区分

化粧型枠（材料費）の積算条件区分はない。

積算単位は㎡とする。

3-4 撤去しない埋設型枠（材料費）

(1) 条件区分

撤去しない埋設型枠（材料費）の積算条件区分はない。

積算単位は㎡とする。

4. 施工単価入力基準表

(1) 型枠

パッケージコード	CB240210	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1	J 2	
	型枠の種類	構造物の種類	
	① 一般型枠 ② 化粧型枠 ③ 撤去しない埋設型枠	① 鉄筋・無筋構造物 ② 小型構造物 ③ 鉄筋・無筋構造物（合板円形型枠使用） ④ 均しコンクリート ⑤ 床版部 ⑥ 支承部・連結部	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2 条件で①～④以外は選択出来ない。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件で①～③以外は選択出来ない。
 3. J 1 条件で②を選択した場合は, 「(各種) 型枠+化粧型枠」の施工費が計上される。
 4. J 1 条件で②を選択した場合は, 化粧型枠(材料費)を別途登録すること。
 5. J 1 条件で③を選択した場合は, J 2 条件で⑤, ⑥以外は選択出来ない。
 6. J 1 条件で③を選択した場合は, 撤去しない埋設型枠(材料費)を別途登録すること。

(2) 化粧型枠

パッケージコード	CB226360	施工単位	m2

- (注) 1. 施工量は設計量を入力する。
 2. 化粧型枠の処分費が必要な場合は, 別途計上すること。
 3. 本コードにより化粧型枠設置費用のみが計上される。

(3) 化粧型枠(材料費)

パッケージコード	CB226361	施工単位	m2

- (注) 1. 型枠材数量は, 材料ロスを含んだ必要量を入力し, 化粧型枠(使い捨て型)(Y-0462101) [円/m2] を単価登録すること。
 2. 化粧型枠の処分費が必要な場合は, 別途計上すること。

(4) 撤去しない埋設型枠(材料費)

パッケージコード	CB240212	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1		
	施工区分		
	① 床 版 部 ② 支承部・連結部		

- (注) 1. 発泡スチロール(JIS A 9511)(Y-0564000) [円/m2] を単価登録すること。発泡スチロール単価は, 空 m3 当たり単価を m2 に換算すること。
 2. 床版部の発泡スチロール単価は, 材料費とハンチ等の加工費の合計を入力する。
 3. 支承部・連結部には材料ロスを含む。

②－２ 型枠工 (省力化構造)

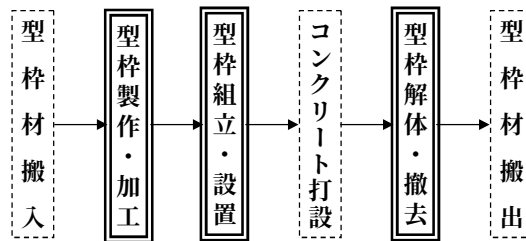
1. 適用範囲

本資料は、「土木構造物設計マニュアル（案）－樋門編－」（平成13年12月21日国土交通省）に基づき設計された函渠，胸壁，しゃ水壁，門柱，ゲート操作台，翼壁の内，平均設置高 30m 以下の型枠工（円形型枠，化粧型枠を除く）に適用する。

なお，上記適用範囲以外の積算は，「第Ⅱ編第4章コンクリート工②－1型枠工」によるものとする。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。



（注）本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 型枠(鉄筋構造)〔省力化構造〕

(1) 条件区分

型枠(鉄筋構造)〔省力化構造〕における積算条件区分はない。

積算単位は m² とする。

- (注) 1. 型枠工(省力化構造)における型枠の製作・設置・撤去, はく離剤塗布及びケレン作業の他, 型枠用合板, さん木, 洋釘, 電気ドリル, 電気ノコギリ, 鋼製型枠損料, 電力に関する経費, 組立支持材及びはく離剤等の費用及び仮設材の持上(下)げ機械に要する費用等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 半径 5 m 以下の円形部分には適用しない。
3. 水抜パイプの設置は, 別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表 3. 1 型枠(鉄筋構造)〔省力化構造〕 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	—	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	型わく工	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	—	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 型枠(鉄筋構造)〔省力化構造〕

パッケージコード	CB240410	施工単位	m ²

(注) 「土木構造物設計マニュアル(案) 一極門編一」に基づかない鉄筋構造物の積算は, 「第Ⅱ編第4章②-1 型枠工」による。

③ 溶接金網設置工

1. 適用範囲

本資料は、河川護岸の平場部に、溶接金網を設置する場合に適用する。

2. 施工歩掛

溶接金網設置歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 溶接金網設置歩掛 (100 m² 当り)

名 称	単位	数 量
普 通 作 業 員	人	2
溶 接 金 網	m ²	100

(注) 本歩掛には、スペーサの設置作業を含む。
 なお、スペーサの材料費は別途計上すること。

3. 単 価 表

(1) 溶接金網設置 100 m² 当り単価表

施工歩掛コード					WB240510
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	2	表 2.1	
溶 接 金 網		m ²	100	〃	
諸 雑 費		式	1		
計					

4. 施工単価入力基準表

(1) 溶接金網設置(護岸用)

施工歩掛コード	WB240510	施工単位	m ²

(注) 1. 溶接金網単価 (Y-0140000) [円/m²] を単価登録すること。

2. スペーサの材料費は別途計上すること。

第5章 仮 設 工

① 仮設工・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-①- 1	④ 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)	Ⅱ-5-④- 1
② 鋼矢板(H形鋼)工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②- 1	1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-④- 1
②-1 バイプロハンマ工・・・・・・・・	Ⅱ-5-②- 1	2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-④- 1
1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②- 1	3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-④- 1
2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②- 2	4 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-④- 3
3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②- 4	5 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-④- 4
4 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-21	⑤ 鋼矢板施工法選定表(参考)・・	Ⅱ-5-⑤- 1
5 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-25	⑤-1 鋼矢板打込施工法選定表(参考)	Ⅱ-5-⑤- 1
②-2 バイプロハンマ工(軽量鋼矢板打込引抜工)	Ⅱ-5-②-32	⑤-2 鋼矢板・H形鋼引抜施工法	Ⅱ-5-⑤- 3
1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-32	選定フロー(参考)・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑤- 3
2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-32	⑥ 仮設材設置撤去工・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 1
3 機種の選定・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-32	1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 1
4 編成人員・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-33	2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 1
5 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-33	3 機種の選定・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 1
6 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-35	4 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 2
7 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-36	5 H形鋼の使用区分・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 3
②-3 油圧圧入引抜工・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-38	6 部材質量・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 3
1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-38	7 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 5
2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-38	8 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑥- 8
3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-40	⑦ 足場支保工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 1
4 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-48	⑦-1 足場工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 1
5 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-55	1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 1
②-4 ディーゼルハンマ・プレボーリング	Ⅱ-5-②-60	2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 1
1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-60	3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 2
2 機種の選定・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-60	4 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 2
3 編成人員及び運転時間・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-61	5 参考図(足場工)・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 3
4 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-62	6 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 4
5 水上施工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-65	⑦-2 支保工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 5
6 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-67	1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 5
7 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-②-70	2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 5
③ 矢板工(アースオーガ併用圧入工)・・	Ⅱ-5-③- 1	3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 6
1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 1	4 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 7
2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 1	5 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑦- 7
3 機種の選定・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 1	⑧ 締切排水工・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 1
4 編成人員・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 1	1 適用範囲・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 1
5 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 2	2 施工概要・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 1
6 単価表・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 4	3 施工歩掛・・・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 1
7 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-③- 5	4 内訳書及び単価表・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 3
		5 施工単価入力基準表・・・・・・・・	Ⅱ-5-⑧- 5

⑨ ウエルポイント工……………Ⅱ-5-⑨- 1	⑬-2 雪寒仮囲い工……………Ⅱ-5-⑬- 3
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑨- 1	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑬- 3
2 施工概要……………Ⅱ-5-⑨- 1	2 施工概要……………Ⅱ-5-⑬- 3
3 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑨- 2	3 仮囲いタイプ及び機種の選定……………Ⅱ-5-⑬- 4
4 内訳書及び単価表……………Ⅱ-5-⑨- 3	4 設置・撤去歩掛……………Ⅱ-5-⑬- 5
5 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑨- 5	5 養生工(Pタイプ, Wタイプ, PWタイプ共通) ……………Ⅱ-5-⑬- 6
⑩ 土のう工……………Ⅱ-5-⑩- 1	6 除雪工……………Ⅱ-5-⑬- 6
⑩-1 土のう工……………Ⅱ-5-⑩- 1	7 数量算出基準……………Ⅱ-5-⑬- 7
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑩- 1	8 単価表……………Ⅱ-5-⑬- 9
2 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑩- 1	9 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑬-11
3 単価表……………Ⅱ-5-⑩- 2	⑭ 仮設防護柵工……………Ⅱ-5-⑭- 1
4 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑩- 2	⑭-1 切土及び発破防護柵工……………Ⅱ-5-⑭- 1
⑩-2 大型土のう工……………Ⅱ-5-⑩- 3	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑭- 1
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑩- 3	2 施工概要……………Ⅱ-5-⑭- 1
2 施工概要……………Ⅱ-5-⑩- 3	3 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑭- 3
3 機種の選定……………Ⅱ-5-⑩- 3	4 単価表……………Ⅱ-5-⑭- 4
4 製作・設置歩掛……………Ⅱ-5-⑩- 4	5 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑭- 5
5 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑩- 4	⑭-2 掘削(発破)防護柵工……………Ⅱ-5-⑭- 7
6 単価表……………Ⅱ-5-⑩- 6	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑭- 7
7 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑩- 9	2 施工概要……………Ⅱ-5-⑭- 7
⑪ 仮橋・仮栈橋工……………Ⅱ-5-⑪- 1	3 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑭- 8
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑪- 1	4 単価表……………Ⅱ-5-⑭- 9
2 施工概要……………Ⅱ-5-⑪- 1	5 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑭-10
3 機種の選定……………Ⅱ-5-⑪- 2	⑮ 濁水処理工(一般土木工事)……………Ⅱ-5-⑮- 1
4 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑪- 3	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑮- 1
5 単価表……………Ⅱ-5-⑪- 9	2 施工概要……………Ⅱ-5-⑮- 1
6 参考図……………Ⅱ-5-⑪-12	3 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑮- 1
7 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑪-13	4 単価表……………Ⅱ-5-⑮- 3
⑫ 汚濁防止フェンス工……………Ⅱ-5-⑫- 1	5 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑮- 4
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑫- 1	⑯ 敷鉄板設置撤去工……………Ⅱ-5-⑯- 1
2 施工概要……………Ⅱ-5-⑫- 1	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑯- 1
3 機種の選定……………Ⅱ-5-⑫- 1	2 機種の選定……………Ⅱ-5-⑯- 1
4 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑫- 1	3 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑯- 1
5 使用材料……………Ⅱ-5-⑫- 1	4 単価表……………Ⅱ-5-⑯- 1
6 内訳書及び単価表……………Ⅱ-5-⑫- 2	5 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑯- 3
7 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑫- 2	⑰ 防塵処理工……………Ⅱ-5-⑰- 1
⑬ 仮囲い設置・撤去工……………Ⅱ-5-⑬- 1	1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑰- 1
⑬-1 仮囲い設置撤・去工……………Ⅱ-5-⑬- 1	2 施工概要……………Ⅱ-5-⑰- 1
1 適用範囲……………Ⅱ-5-⑬- 1	3 機種の選定……………Ⅱ-5-⑰- 1
2 施工概要……………Ⅱ-5-⑬- 1	4 施工歩掛……………Ⅱ-5-⑰- 1
3 日当り編成人員……………Ⅱ-5-⑬- 1	5 単価表……………Ⅱ-5-⑰- 3
4 日当り施工量……………Ⅱ-5-⑬- 1	6 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑰- 3
5 諸雑費……………Ⅱ-5-⑬- 1	
6 仮設材損料……………Ⅱ-5-⑬- 1	
7 単価表……………Ⅱ-5-⑬- 2	
8 施工単価入力基準表……………Ⅱ-5-⑬- 2	
9 参考図(仮囲い概念図)……………Ⅱ-5-⑬- 2	

⑱	仮設電力設備工	Ⅱ-5-(⑱)- 1
1	適用範囲	Ⅱ-5-(⑱)- 1
2	工事用電力の区分	Ⅱ-5-(⑱)- 1
3	仮設計画	Ⅱ-5-(⑱)- 1
4	積算の手順	Ⅱ-5-(⑱)- 1
5	商用電源方式と発電機方式の選定	Ⅱ-5-(⑱)- 2
6	基本料金	Ⅱ-5-(⑱)- 3
7	仮設電力設備の構成	Ⅱ-5-(⑱)- 5
8	単価表	Ⅱ-5-(⑱)-10
9	施工単価入力基準表	Ⅱ-5-(⑱)-19
⑲	グラフによる標準的な仮設電力設備の積算	Ⅱ-5-(⑲)- 1
1	適用範囲	Ⅱ-5-(⑲)- 1
2	積算	Ⅱ-5-(⑲)- 1
3	その他	Ⅱ-5-(⑲)- 1

⑳	法面工(仮設用モルタル吹付工)	Ⅱ-5-(㉔)- 1
1	適用範囲	Ⅱ-5-(㉔)- 1
2	施工概要	Ⅱ-5-(㉔)- 1
3	機種の選定	Ⅱ-5-(㉔)- 1
4	施工歩掛	Ⅱ-5-(㉔)- 2
5	吹付材料配合比	Ⅱ-5-(㉔)- 2
6	材料の使用量	Ⅱ-5-(㉔)- 2
7	単価表	Ⅱ-5-(㉔)- 3
8	施工単価入力基準表	Ⅱ-5-(㉔)- 4
㉑	交通誘導警備員	Ⅱ-5-(㉑)- 1
1	適用範囲	Ⅱ-5-(㉑)- 1
2	計上区分	Ⅱ-5-(㉑)- 1
3	施工単価入力基準表	Ⅱ-5-(㉑)- 2

第5章 仮 設 工

① 仮 設 工

(1) 仮設工項目

- 1) 型枠, 支保工, 足場工に要する費用
- 2) 山留(土留, 仮締切), 仮井筒, 築島工に要する費用
- 3) 水替工, 仮水路に要する費用
- 4) 工事施工に必要な機械設備(コンクリートプラント, アスファルトプラント等)に要する費用
- 5) 用水, 電力等の供給設備に要する費用
- 6) 仮道, 仮橋, 現場補修等に要する費用

(2) 仮設工の積算

1) 仮設工として積算する内容は次のとおりとする。

- イ. 型枠, 支保工, 足場工の設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該設備の使用期間中の損料(賃料)
- ロ. 山留(土留, 仮締切), 仮井筒, 築島工の設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該設備の使用期間中の損料(賃料)
- ハ. 水替工, 仮水路の設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該設備の使用期間中の電力料及び損料(賃料)
- ニ. 工事施工に必要な機械設備の設置, 撤去, 及び補修等に要する費用
 - (イ) コンクリートプラント, アスファルトプラント等の設置, 撤去及び当該施設の補修に要する費用
 - (ロ) トンネル工事における照明設備に係る設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該設備の使用期間中の電力料
- ホ. 電力, 用水等の供給設備の設置, 撤去, 補修等に要する費用
 - (イ) 電力, 用水等の供給設備に係る設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該供給設備の使用期間中の損料(賃料)
- ヘ. 仮道, 仮橋, 現道補修等に要する費用
 - (イ) 仮道, 仮橋に係る設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該仮施設の使用期間中の損料(賃料)
 - (ロ) 公道等の補修に要する費用
- ト. 工事施工に必要な防護施設(転落, 飛来等の防止柵及び発破用防護柵等), 仮囲い(工事用防護塀)に係る設置, 撤去, 補修に要する費用及び当該防護施設等の使用期間中の損料(賃料)
- チ. 工事施工に伴う防じん対策(簡易舗装, タイヤ洗浄装置, 路面清掃等)に係る設置, 撤去, 補修に要する費用及び使用期間中の損料(賃料)
- リ. 仮区画線に係る費用

2) 積算方法

仮設工の積算(工事用仮設材を後続工事に継続して使用する場合, 発注後の工期延期により仮設物の存置が長期となる場合等)は, 現場条件を的確に把握することにより必要額を適正に積上げるものとする。

3) 仮設材の損料率

表2.1 土留、仮締切、築島、仮橋等の材料損料率

種別 期間	損料率(%)		
	木 材	鋼 材	じゃかご
3ヶ月未満	60	10	100
6ヶ月 "	70	20	100
1年 "	90	30	100
2年 "	100	50	100
3年 "	100	70	100

- (注) 1. 再使用不可能なもの及び長さ2m未満の場合は全損とする。
ただし、鋼材の内回収可能なものについては、スクラップ控除する。
2. タイロッドは1工事全損としスクラップ控除する。
3. ボルト、カスガイ、釘、鉄線等は全損とする。
4. 上表は、「建設用仮設材損料算定基準」(昭和44年6月12日付け建設省機械発第65号)及び「建設用仮設材賃料積算基準」(平成7年3月29日付け建設省経機発第43号)に示す材料以外のものに適用する。

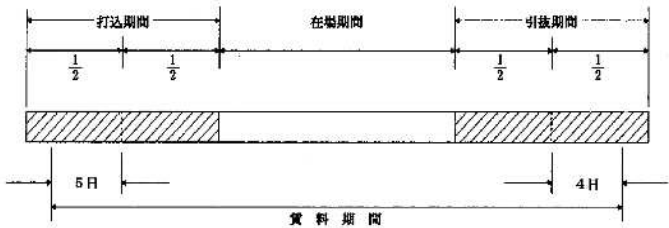
表2.2 足場材、支保材、防護柵の材料損料率

種別 期間	損料率(%)			
	木 材	金 網	シート	ワイヤロープ
3ヶ月未満	25	80	30	20
6ヶ月 "	40	90		
1年 "	50	100		
2年 "	75	100		
3年 "	100	100		

- (注) 1. 簡易な足場材又は、期間が1ヶ月未満の木材については、損料率15%とする。
2. 上表は、「建設用仮設材損料算定基準」及び「建設用仮設材賃料積算基準」に示す材料以外のものに適用する。

4) 鋼矢板の賃料期間の算定

鋼矢板の賃料期間の算定については、下記を標準とする。



賃料期間(日) = (打込期間 × 1/2) + (在場期間) + (引抜期間 × 1/2) + (5日 + 4日)

- (注) 1. 仮設材H杭についても同様の扱いにする。
2. 土留、締切、路面覆工等を使用される切梁腹起し覆工板については打込(引抜)日数を設置(撤去)日数と読みかえ同様の扱いとする。
3. 損料材についても同様の扱いとする。

5) 適用区分による賃料の補正について

供用日数(又は月数)の長短による賃料にかかる市場単価の適用区分が変わることによって賃料計上額(1現場当り修理及び損耗費を除く。)が当該日数(又は月数)の増加に比例せず減少する場合がある。したがって、減少する時点までの供用日数(又は月数)における賃料計上額(1現場当り修理及び損耗費を除く。)は、その減少する時点における賃料計上額(1現場当り修理及び損耗費を除く。)を上限とし、下記の方法により減額補正する。

下記により難い場合は、別途考慮する。

```

graph TD
    A[仮設材の未撤去] -- 全体未撤去 --> B{使用する仮設材}
    A -- 一部未撤去 --> C{撤去部分 L1}
    B -- 中古品 --> D[市中価格 × 90%]
    B -- 新品 --> E[市中価格]
    C -- スケラップ長未満 --> F["撤去部分 L1  
(市中価格 × 80%) × 質量 ... 中古品  
(市中価格 × 90%) × 質量 ... 新品  
未撤去部分 L2  
(市中価格 × 90%) × 質量 ... 中古品  
(市中価格) × 質量 ... 新品"]
    C -- スケラップ長以上 --> G["撤去部分 L1  
(資材 + 修理費及び損耗費) × 質量  
未撤去部分 L2  
(不足分弁償金(中古)) × 質量  
(不足分弁償金(新品)) × 質量"]
    F -- ③ (イ) (ロ) --> H[ ]
    G -- ③ (イ) (ロ) --> H
    
```

The flowchart determines the scrap value based on whether temporary materials are used or removed. It branches into two main paths: one for materials that are used (leading to market price calculations) and one for materials that are removed (leading to scrap value calculations based on length and weight).

```

graph TD
    A[ scrap metal disposal ] -- "あり(全体撤去)" --> B{切断による撤去}
    A -- "なし  
(一部or全体未撤去)" --> C[未撤去の範囲]
    B -- "なし" --> D["(賃料+修理費及び  
損耗費)×質量"]
    B -- "あり" --> E{撤去部分 (L1) (L2)}
    C -- "全体未撤去" --> D
    C -- "一部未撤去" --> F{撤去部分 (L1)}
    E -- "スクラップ長  
未満" --> G["L 1 又は L 2 のどちらかがスクラップ長未満の場合  
(不足分償金(中古)×90%)×質量  
(不足分償金(新品)×90%)×質量  
L 1、L 2 共にスクラップ長未満の場合  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(中古)×90%))×質量  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(新品)×90%))×質量"]
    E -- "スクラップ長  
以上" --> H["(賃料+修理費及び損耗費)×質量"]
    F -- "スクラップ長  
以上" --> I["撤去部分 (L1)  
(賃料+修理費及び損耗費)×質量  
未撤去部分 (L2)  
(不足分償金(中古))×質量  
(不足分償金(新品))×質量"]
    F -- "スクラップ長  
未満" --> J["撤去部分 (L1)  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(中古)×90%))×質量  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(新品)×90%))×質量  
未撤去部分 (L2)  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(中古)×90%))×質量  
(事象発生時点までの賃料+(不足分償金(新品)×90%))×質量"]
    
```

図10

II-5-①-3

- ① 当初より撤去しない場合
 - (イ) 中古品の場合は市中価格の90%とする。
 - (ロ) 新品を使用する場合、又は中古品が入手不可能な場合は市中価格とする。
- ② 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本ものが全て撤去出来なくなった場合

(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(中古)))×質量

(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(新品)))×質量
- ③ 当初より、現地の状況で1本もののうち、一部を撤去しない場合



- (イ) L1について
 - ・ L1がスクラップ長以上の場合、賃料を計上する。
(賃料+修理費及び損耗費)×質量
 - ・ L1がスクラップ長未満の場合、市中価格を計上する。
(市中価格×80%)×質量・・・中古品の場合
(市中価格×90%)×質量・・・新品の場合
- (ロ) L2について
 - ・ L1がスクラップ長以上の場合、L2(未撤去部分)については、不足分弁償金を計上する。
(不足分弁償金(中古))×質量
(不足分弁償金(新品))×質量
 - ・ L1がスクラップ長未満の場合、L2(未撤去部分)については、市中価格を計上する。
(市中価格×90%)×質量・・・中古品の場合
(市中価格)×質量・・・新品の場合
- ④ 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本もののうち、一部が撤去出来なくなった場合



- (イ) L1について
 - ・ L1がスクラップ長以上の場合、賃料を計上する。
(賃料+修理費及び損耗費)×質量
 - ・ L1がスクラップ長未満の場合、事象発生時点までの賃料及び不足分弁償金を計上する。
(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(中古)×90%))×質量
(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(新品)×90%))×質量
- (ロ) L2について
 - ・ L1がスクラップ長以上の場合、L2(未撤去部分)については、不足分弁償金を計上する。
(不足分弁償金(中古))×質量
(不足分弁償金(新品))×質量
 - ・ L1がスクラップ長未満の場合、L2(未撤去部分)については、事象発生時点までの賃料+不足分弁償金を計上する。
(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(中古)))×質量
(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(新品)))×質量

- ⑤ 当初は切断をせず撤去するものとしていたが、現地の状況により切断を行い撤去した場合



- (イ) スクラップ長以上のL1又はL2について

・賃料を計上する。

(賃料+修理費及び損耗費)×質量

- (ロ) スクラップ長未満のL1又はL2について

・L1又はL2のどちらかがスクラップ長未満の場合、不足分弁償金を計上する。

(不足分弁償金(中古)×90%)×質量

(不足分弁償金(新品)×90%)×質量

・L1, L2共にスクラップ長未満の場合、事象発生時点までの賃料及び不足分弁償金を計上する。

(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(中古)×90%))×質量

(事象発生時点までの賃料+(不足分弁償金(新品)×90%))×質量

- ⑥ 当初より切断をせず撤去する場合

・賃料を計上する

(賃料+修理費及び損耗費)×質量

- (注) 1. 当初より賃料を計上していたが、賃貸契約期間中に、引き抜き不能や撤去部分がスクラップ長未満など別の現場に転用出来ない資材については、全損扱いとし、事象発生時点までの賃料+不足分弁償金を、全損扱いとなった資材の全質量分計上すること。
2. 賃貸契約期間が延びて購入に切り替えとなった資材についても、切り替え時点までの賃料+不足分弁償金を、購入に切り替えた資材の全質量分計上すること。
3. 購入への切り替えは、賃貸契約期間延長後の賃料(賃料+修理費及び損耗費等)と、購入へ切り替えた場合の金額(切り替え時点までの賃料+不足分弁償金)を比較するなど、適宜判断すること。
4. ③(イ)の2項目の様にスクラップ長未満のL1(撤去部分)を市中価格にて計上する場合において、その撤去部分を「官保有材」とする場合に、市中価格×90%(中古)×質量又は市中価格(新品)×質量を計上するなど、別途考慮し計上すること。

7) 仮設材質料に係る修理費及び損耗費の作業区分について

〔鋼矢板・H形鋼〕

- イ. 打込みを伴う場合(打撃、振動、圧入工法等)

最大N値が20未満……………軽作業

〃 20以上39以下……………標準

〃 40以上……………重作業

- ロ. 補助工法を併用し打込みを伴う場合(ジェット併用パイプロハンマ・オーガ併用圧入・ジェット併用圧入工法)及び打込みを伴わない場合(プレボーリング工法)

最大N値が39以下……………軽作業

〃 40以上……………標準

- (注) 「先端部分のみに補助工法を併用しないで打込む場合」及び「プレボーリング工法で先端部分のみを打撃する場合」についても、ロ.を適用する。

〔主桁・腹起し材〕

主桁・腹起し材……………標準

(3) 単価表

① 当初より撤去しない場合

鋼矢板・H形鋼 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250010
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼	各 種	t	1	単価は市中価格の90% (市中価格)	
諸 雑 費		式	1		
計					

() 内は新品の場合

② 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本ものが全て撤去出来なくなった場合

鋼矢板・H形鋼 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250050
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1		
鋼 矢 板 or H 形 鋼	各 種	//	1	単価は不足分弁償金 (中古 or 新品)	
諸 雑 費		式	1		
計					

③ 当初より、現地の状況で1本もののうち、一部を撤去しない場合

1) 撤去部分 (スクラップ長以上の場合)

鋼矢板・H形鋼 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250030
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1		
修 理 費 及 び 損 耗 費		//	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

2) 撤去部分 (スクラップ長未満の場合)

鋼矢板・H形鋼 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250030
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼	各 種	t	1	単価は市中価格の80% (90%)	
諸 雑 費		式	1		
計					

() 内は新品の場合

3) 未撤去部分 (撤去部分がスクラップ長以上の場合)

鋼矢板・H形鋼 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250020
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼	各 種	t	1	単価は不足分弁償金 (中古 or 新品)	
諸 雑 費		式	1		
計					

④ 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本もののうち、一部が撤去出来なくなった場合

1) 撤去出来る部分（スクラップ長以上の場合）

鋼矢板・H形鋼 1t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250040
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1		
修 理 費 及 び 損 耗 費		//	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

2) 撤去出来る部分（スクラップ長未満の場合）

鋼矢板・H形鋼 1t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250040
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 o r H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1		
鋼 矢 板 o r H 形 鋼	各 種	//	1	単価は不足分弁償金の90%（中古or新品）	
諸 雑 費		式	1		
計					

⑤ 当初は切断せず撤去するものとしていたが、現地の状況により切断を行い撤去した場合

1) 撤去出来る部分（スクラップ長以上の場合）

鋼矢板・H形鋼 1t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250040
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 or H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1		
修 理 費 及 び 損 耗 費		//	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

2) 撤去出来る部分（スクラップ長未満の場合）

鋼矢板・H形鋼 1t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB250040
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
鋼 矢 板 o r H 形 鋼 賃 料	各 種	t	1	L1, L2共にスクラップ長未満の場合計上	
鋼 矢 板 o r H 形 鋼	各 種	//	1	単価は不足分弁償金の90%（中古or新品）	
諸 雑 費		式	1		
計					

(4) 施工単価入力基準表

① 当初より撤去しない場合

施工歩掛コード	WB250010	施工単位	t
施 工 区 分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	仮設材の種類	新品中古別	
	①鋼矢板 ②H形鋼	①中古品 ②新 品	

(注) J 1 条件で①を選択した場合は、鋼矢板市中価格 (Y-7014102) [円/t]を、②を選択した場合は、H形鋼市中価格 (Y-7054102) [円/t]を単価登録すること。

② 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本ものが全て撤去できなくなった場合

施工歩掛コード	WB250050	施工単位	t
施 工 区 分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	仮設材の種類	供用日数	
	(表4.1)	(日) (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板不足分弁償金単価 (Y-7012101) [円/t]を、⑥～⑪を選択した場合は、H形鋼不足分弁償金単価 (Y-7052101) [円/t]を単価登録すること。なお、不足分弁償金は、当該工事における賃貸契約開始時のリース品状況に応じて、中古又は新品の価格を入力する。
2. 賃料は、賃料単価の供用日数に対応する賃料により算出される。
3. J 1 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板賃料 (Y-7010000) [円/t]を単価登録すること。
4. J 1 条件で⑥～⑪を選択した場合は、H形鋼賃料 (Y-7050000) [円/t]を単価登録すること。

表 4.1 仮設材の種類

仮設材の種類		入力番号
鋼 矢 板 [本矢板]	Ⅱ型[48kg/m]	①
	Ⅲ型[60kg/m]	②
	Ⅳ型[76.1kg/m]	③
	V _L 型[105kg/m]	④
	軽量型[2型,3型]	⑤
H 形 鋼 [杭 用]	200型[49.9kg/m]	⑥
	250型[71.8kg/m]	⑦
	300型[93kg/m]	⑧
	350型[135kg/m]	⑨
	400型[172kg/m]	⑩
	594型[170kg/m]	⑪

③ 当初より、現地の状況で1本もののうち、一部を撤去しない場合

1) 撤去部分

施工歩掛コード	WB250030	施工単位	t			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	撤去部分長さ	仮設材の種類	供用日数	1 現場での 使用回数	1 現場当り修理 費及び損耗費	新品中古別
	① 撤 去 部 分 スクラップ 長以上	(表 4.1)	(日) (実数入力)	(回) (実数入力)	①標準作業	①中古品
	② 撤 去 部 分 スクラップ 長未満				②軽 作 業 ③重 作 業	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 6 条件を入力する必要はない。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、賃料単価の供用日数に対応する賃料により算出される。なお、継続工事においては適用出来ないものとする。また、修理費及び損耗費を計上しない場合にも、適用出来ないものとする。
3. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 4 条件を1回とすること。
4. J 1 条件で①を選択し、J 2 条件で⑤を選択した場合は、J 5 条件で③を選択することができない。
5. J 1 条件で①を選択し、J 2 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板賃料 (Y-7010000) [円/t]を単価登録すること。
6. J 1 条件で①を選択し、J 2 条件で⑥～⑪を選択した場合は、H形鋼賃料 (Y-7050000) [円/t]を単価登録すること。
7. J 1 条件で①を選択した場合は、修理費及び損耗費 (Y-0450000) [円/t]を単価登録すること。
8. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3～J 5 条件を入力する必要はない。また、J 6 条件に①又は②を入力すること。
9. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板市中価格 (Y-7014102) [円/t]を単価登録すること。
10. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で⑥～⑪を選択した場合は、H形鋼市中価格 (Y-7054102) [円/t]を単価登録すること。
11. 供用日数は、賃料計上限度額 (1 現場当り修理費及び損耗費を含む) である施工業者が入手可能な購入価格 (市中価格) の 80%を超えないように調整のうえ入力すること。また、賃料の減額補正のための比較検討を行うこと。なお、加工材を使用する場合は、不足分弁償金 (新品) を購入価格とする。

2) 未撤去部分

イ. 撤去部分がスクラップ長以上の場合

施工歩掛コード	WB250020	施工単位	t
施 工 区 分	入力条件		
各 種	J 1		
	仮設材の種類		
	(表4.1)		

- (注) J 1 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板不足分弁償金単価 (Y-7012101) [円/t]を、⑥～⑪を選択した場合は、H形鋼不足分弁償金単価 (Y-7052101) [円/t]を単価登録すること。なお、不足分弁償金は中古又は新品の価格を入力する。

ロ. 撤去部分がスクラップ長未満の場合は、①WB250010 を適用するものとする。

- ④ 当初は撤去を考えていたが、現地の状況で1本もののうち、一部が撤去出来なくなった場合
1) 撤去出来る部分

施工歩掛コード	WB250040	施工単位	t			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	撤去部分長さ	事象発生時点ま での賃料計上の 有無	仮設材の種類	供用日数	1 現場での 使用回数	1 現場当り修理 費及び損耗費
	①撤去部分 スクラップ°長以上		(表 4.1)	(日)	(回)	①標準作業 ②軽 作 業 ③重 作 業
	②撤去部分 スクラップ°長未満	①有 ②無				

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、賃料単価の供用日数に対応する賃料により算出される。なお、継続工事においては適用出来ないものとする。また、修理費及び損耗費を計上しない場合にも、適用出来ないものとする。
2. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 5 条件を1回とすること。
3. J 1 条件で①を選択し、J 3 条件で⑤を選択した場合は、J 6 条件で③を選択することができない。
4. J 1 条件で①を選択し、J 3 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板賃料 (Y-7010000) [円/t]を単価登録すること。
5. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件を選択出来ない。
6. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で①を選択し、J 3 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板賃料(Y-7010000) [円/t]を単価登録すること。
7. J 1 条件で①を選択し、J 3 条件で⑥～⑩を選択した場合は、H形鋼賃料 (Y-7050000) [円/t]を単価登録すること。
8. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で①を選択し、J 3 条件で⑥～⑩を選択した場合は、H形鋼賃料(Y-7050000) [円/t]を単価登録すること。
9. J 1 条件で①を選択した場合は、修理費及び損耗費 (Y-0450000) [円/t]を単価登録すること。
10. J 1 条件で②を選択した場合は、J 5, J 6 条件を選択出来ない。
11. J 1 条件で②を選択し、J 2 条件で②を選択した場合は、J 4 条件を選択出来ない。
12. J 1 条件で②を選択し、J 3 条件で①～⑤を選択した場合は、鋼矢板不足分弁償金 (Y-7012101) [円/t]を単価登録すること。なお、不足分弁償金は中古又は新品の価格を入力する。
13. J 1 条件で②を選択し、J 3 条件で⑥～⑩を選択した場合は、H形鋼不足分弁償金 (Y-7052101) [円/t]を単価登録すること。なお、不足分弁償金は中古又は新品の価格を入力する。
14. 供用日数は、賃料計上限度額 (1 現場当り修理費及び損耗費を含む) である施工業者が入手可能な購入価格 (市中価格) の 80%を超えないように調整のうえ入力すること。また、賃料の減額補正のための比較検討を行うこと。なお、加工材を使用する場合は、不足分弁償金 (新品) を購入価格とする。

2) 撤去出来ない部分

- イ. 撤去出来る部分がスクラップ長以上の場合は、③WB250020 を適用するものとする。
- ロ. 撤去出来る部分がスクラップ長未満の場合は、②WB250050 を適用するものとする。

- ⑤ 当初は切断せず撤去するものとしていたが、現地の状況により切断を行い撤去した場合
④WB250040 を適用するものとする。
- ⑥ 当初より切断をせず撤去する場合
④WB250040 を適用するものとする。

② 鋼矢板 (H形鋼) 工

②-1 バイプロハンマ工

1. 適 用 範 囲

本資料は、電動式バイプロハンマ、油圧式可変超高周波型バイプロハンマ（以下「油圧式バイプロハンマ」という）による鋼矢板・H形鋼の継施工を伴う打込み（ウォータジェット併用施工を含む）及び引拔きの陸上施工及び水上施工に適用する。

なお、陸上施工とは、クレーンを陸上に設置して行う施工のことで、次の形態が該当する。

- ・クレーンの設置場所：陸上（栈橋上等を含む）
- ・鋼矢板・H形鋼の施工場所：陸上部又は水中部

また、水上施工とは、クレーンを台船上に設置して行う施工のことである。

継施工における施工法は、次のとおりである。

〔鋼矢板〕 先行する鋼矢板を打込み後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接する方法。

〔H形鋼〕 先行するH形鋼を打込み後、それに接続するH形鋼を鉛直に建込んだ状態で継手部をボルトにより接合する方法。

鋼矢板型式毎の打込長（引拔長）の適用範囲は、表1. 1～表1. 3を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

（1）打込み（電動式バイプロハンマ）

表1. 1 打込長 (m)

鋼 矢 板 種 類		普 通					広 幅			広 幅 (ハット形)	
鋼 矢 板 型 式		I A型	II型	III型	IV型	V _L 型	II _w 型	III _w 型	IV _w 型	10H型	25H型
打込長 (m)	バ イ プ ロ ハ ン マ 単 独 施 工	6以下	15以下	19以下	25以下	25以下	15以下	19以下	25以下	15以下	19以下
	ウ ォ ー タ ジ ェ ッ ト 併 用 施 工	—	15以下	19以下	25以下	25以下	15以下	19以下	25以下	19以下	25以下

H 形 鋼 型 式		H200	H250	H300	H350	H400
打込長 (m)	バ イ プ ロ ハ ン マ 単 独 施 工	12以下	15以下	25以下	25以下	25以下
	ウ ォ ー タ ジ ェ ッ ト 併 用 施 工	15以下	19以下	25以下	25以下	25以下

(2) 打込み（油圧式バイプロハンマ）

表1.2 打込長 (m)										
鋼矢板種類		普通					広 幅			広 (ハット形) 幅形
鋼矢板型式		ⅠA型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型 25H型
打込長 (m)	バイプロハンマ単独施工	—	15以下	19以下	25以下	25以下	15以下	19以下	25以下	15以下 19以下
	ウォータージェット併用施工	—	15以下	19以下	25以下	25以下	15以下	19以下	25以下	19以下 25以下
H 形 鋼 型 式		H200	H250	H300	H350	H400				
打込長 (m)	バイプロハンマ単独施工	6以下	15以下	25以下	25以下	25以下				
	ウォータージェット併用施工	—	19以下	25以下	25以下	25以下				

(3) 引抜き（電動式バイプロハンマ、油圧式バイプロハンマ）

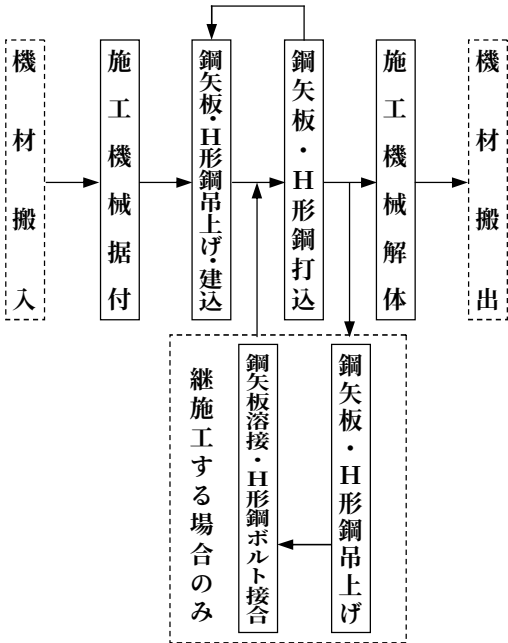
表1.3 引抜長 (m)		
	電動式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ
鋼 矢 板 H 形 鋼	25以下	25以下

2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

(1) 打込み

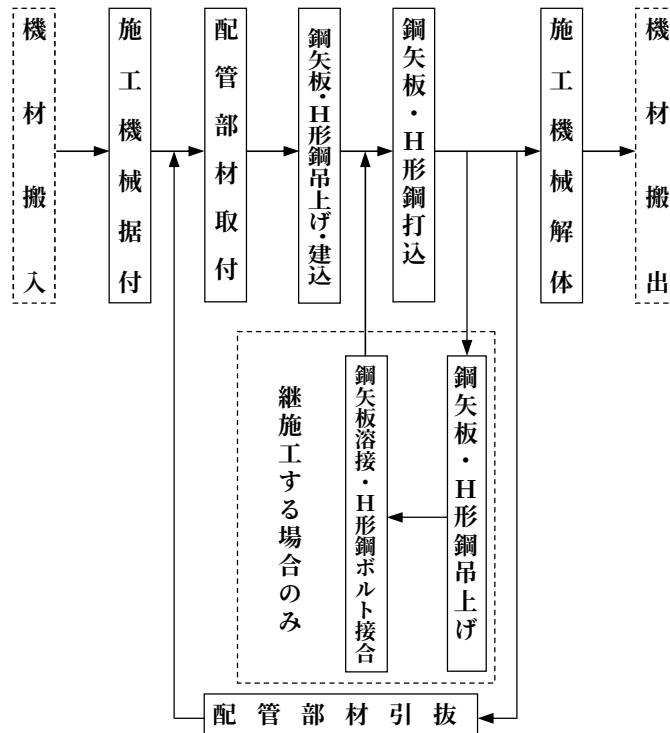


※導材（ガイド）及び敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー (打込み)

(2) 打込み (ウォータージェット併用施工)

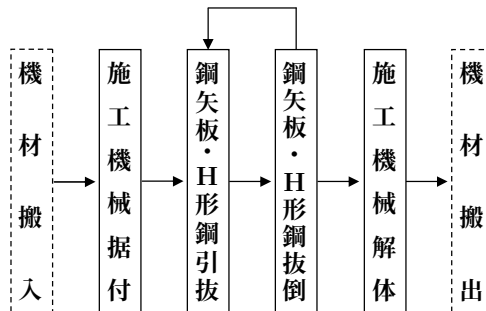


※導材（ガイド）及び敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-2 施工フロー (打込み (ウォータージェット併用施工))

(3) 引抜き



※敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-3 施工フロー (引抜き)

3. 施 工 歩 掛

3-1 機種を選定

(1) バイブロハンマの規格

鋼矢板、H形鋼の打込み、引抜きに使用するバイブロハンマの規格は、次表を標準とする。

なお、ハット形鋼矢板の打込みに使用するバイブロハンマは、フランジ把持式の専用チャック装備を標準とする。

1) 打込み（電動式バイブロハンマ）

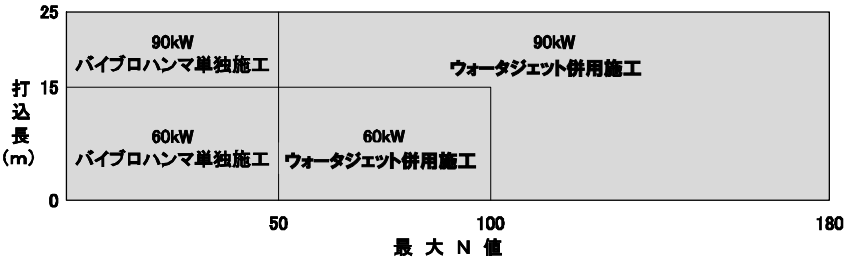


図3-1 電動式バイブロハンマ 機種を選定範囲

表3.1 機種を選定 (電動式バイブロハンマ)

施 工 方 法		バイブロハンマ単独施工	ウォータジェット併用施工	
最 大 N 値		$N_{max} < 50$	$50 \leq N_{max} < 100$	$100 \leq N_{max} \leq 180$
打 込 長	15m以下	電動式・普通型 60kW 電動式・可変モーメント型 (ハット形鋼矢板用) 60kW		電動式・普通型90kW 電動式・可変モーメント型 (ハット形鋼矢板用) 90kW
	25m以下	電動式・普通型 90kW 電動式・可変モーメント型 (ハット形鋼矢板用) 90kW		
杭 打 ち 用 ウォータジェット		— エンジン式・排出ガス対策型 (第1次基準値) ポンプ圧力14.7MPa 吐出量325 ℓ/min×2台 (14.7MPa 325 ℓ/min×1台)(注)1		

- (注) 1. 杭打ち用ウォータジェットの()書きは $N_{max} < 50$ で転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要が生じた場合に計上する。
2. 対象地盤の最大N値が、50を超えるものについては、式3.1により換算N値を求めたうえで適用する。
- $$\text{換算N値} = \frac{1,500}{\text{落下50回当り貫入量 (cm)}} \cdots \text{式 3.1}$$
3. 打込長は、地表面よりの鋼矢板及びH形鋼の打込長であり、鋼矢板長及びH形鋼長とは異なる。

2) 打込み（油圧式バイブロハンマ）



※ () 書きは、ハット形鋼矢板の場合。
図3-2 油圧式バイブロハンマ 機種を選定範囲

表3.2 機種を選定(油圧式バイプロハンマ)

施 工 方 法		バイプロハンマ単独施工	ウォータージェット併用施工	
最 大 N 値		$N_{\max} < 50$	$50 \leq N_{\max} < 100$	$100 \leq N_{\max} \leq 180$
打 込 長	25m以下	油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型(第1次基準値) 224kW 油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型(第2次基準値) 235kW (注) 1		
杭 打 ち 用 ウォータージェット		—	エンジン式・排出ガス対策型(第1次基準値) ポンプ圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min×2台 (14.7MPa 325ℓ/min×1台)(注) 2	

- (注) 1. 打込長 () 書きは、ハット形鋼矢板の場合に選定する。
 2. 杭打ち用ウォータージェットの () 書きは、 $N_{\max} < 50$ で転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合に計上する。
 3. 対象地盤の最大N値が、50を超えるものについては、式3. 1により換算N値を求めたうえで適用する。
 4. 打込長は、地表面よりの鋼矢板及びH形鋼の打込長であり、鋼矢板長及びH形鋼長とは異なる。

3) 引抜き

引抜作業に使用する機械・規格は、N値にかかわらず次表を標準とする。

表3.3 引抜作業の機種を選定

	電動式バイプロハンマ		油圧式バイプロハンマ	
	引 抜 長	規 格	引 抜 長	規 格
鋼 H 矢 板 鋼	25m以下	電動式・普通型60kW	25m以下	油圧式・可変超高周波型 ・排出ガス対策型 (第1次基準値) 224kW

- (注) 1. 上表は、広幅鋼矢板(Ⅱw, Ⅲw, Ⅳw)及びハット形鋼矢板(10H, 25H)には適用しない。
 2. 引抜長は、地表面よりの鋼矢板及びH形鋼の引抜長であり、鋼矢板長及びH形鋼長とは異なる。

表3.4 付属機械の機種を選定

バイプロハンマ種別	施 工 内 容	機 械 名	規 格
電動式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)・引抜き	ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 50～55t吊
油圧式バイプロハンマ	打込み(WJ併用施工を含む)		
	引抜き	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊

(注) 現場条件により濁水処理が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章⑩濁水処理工(一般土木工事)」により別途計上する。

(2) 付属機械

バイプロハンマの付属機械の機械・規格は、次表を標準とするが、現場条件により次表により難しい場合は、施工上必要な機械・規格を計上する。なお、水上施工の場合の台船、引船は表3. 5を標準とする。

表3.5 台船・引船

杭 打 機 台 船	矢 板 積 台 船	引 船
ク レ ー ン 付 台 船 台船(300t 積) 1 台 クローラークレーン(40～50t 吊)1 台	台 船 (200t 積) 1 台	引 船 (鋼製 D 200PS 型 15GT)1 台

3-2 日当り編成人員

鋼矢板、H形鋼の打込・引抜作業の日当り編成人員は、表3. 6を標準とする。なお、水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、表3. 7を標準とする。

表3. 6 打込・引抜作業の日当り編成人員 (人/日)

項 目	区 分	土 木 一 般 世 話 役	と び 工	普通作業員	溶 接 工
パイプロハンマ 単 独 施 工 (打込み, 引抜き)	継施工無し	1	2	1	—
	鋼矢板(溶接接合)	1	2	1	2
	H形鋼 (ボルト接合)	1	3	1	—
ウォータージェット 併 用 施 工	継施工無し	1	2	1	1
	鋼矢板(溶接接合)	1	2	1	2
	H形鋼 (ボルト接合)	1	3	1	1

表3. 7 船舶作業の日当り編成人員 (人/日)

職 種	杭打機台船	矢板積台船	引 船
高 級 船 員	1		1

- (注) 1. 船員は休日以外の休止日については、共通仮設費の準備費における繋船費として計上する。
 2. 潜水土は必要に応じて船員と同様な方法で計上する。
 3. 海上及び港湾工事で、これにより難しい場合は別途考慮する。
 4. 上表は打込み又は引抜作業時の配置人員であり、搬入、搬出等の回航は共通仮設費における運搬費として計上する。

3-3 日当り施工枚(本)数

(1) 打込み(継施工無し)

鋼矢板、H形鋼の日当り打込枚数及び本数(N)は、表3. 8～表3. 19による。

1) 電動式パイプロハンマによる施工($N_{max} < 50$)

表3. 8 日当り施工枚(本)数(N) (陸上施工) [枚(本)/日]

型式 打込長(m)	I A型	II型	III型	IV型	V _L 型	II _W 型	III _W 型	IV _W 型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	57	56	55	54	52	55	53	52	53	51	56	54	52	49	47
4以下	51	49	47	44	40	46	43	39	42	39	48	44	41	36	32
6以下	47	43	40	37	32	40	36	32	35	31	43	38	34	28	25
9以下		38	35	31	26	34	30	26	29	25	37	32	28	22	19
12以下		33	29	26	21	29	25	21	24	20	32	27	23	18	15
15以下		29	26	22	18	25	21	18	20	17		23	19	15	12
19以下			24	21	16		20	16		16			18	14	11
23以下				18	14			14					15	12	9
25以下				16	13			13					14	10	8

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.9 日当り施工枚(本)数(N) (水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	I A型	II型	III型	IV型	V _L 型	II _w 型	III _w 型	IV _w 型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	29	28	28	28	27	28	28	27	28	27	28	28	27	27	26
4以下	27	26	26	25	23	26	25	23	24	23	26	25	24	22	21
6以下	26	25	24	22	21	23	22	21	22	20	24	23	21	19	17
9以下		23	22	20	18	21	20	18	19	17	23	20	19	16	14
12以下		21	19	18	15	19	17	15	17	15	21	18	16	14	12
15以下		19	18	16	14	17	15	14	15	13		16	15	12	10
19以下			17	15	13		15	13		12			14	11	9
23以下				14	11			11					12	10	8
25以下				13	10			10					11	9	7

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

2) 油圧式バイプロハンマによる施工 ($N_{\max} < 50$)

表3.10 日当り施工枚(本)数(N) (陸上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	II型	III型	IV型	V _L 型	II _w 型	III _w 型	IV _w 型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	56	55	53	51	55	53	51	52	50	56	54	52	49	46
4以下	48	46	43	39	45	42	38	41	37	48	44	40	35	31
6以下	42	39	36	31	39	35	31	34	30	42	37	33	27	24
9以下	37	33	30	25	33	29	25	28	24		31	27	21	18
12以下	31	28	25	20	28	24	20	23	19		26	22	17	14
15以下	28	25	21	17	24	20	17	19	16		22	18	14	12
19以下		21	18	14		17	14		13			16	12	10
23以下			16	12			12					13	10	8
25以下			14	11			11					12	9	7

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.11 日当り施工枚(本)数(N) (水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	II型	III型	IV型	V _L 型	II _w 型	III _w 型	IV _w 型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	28	28	28	27	28	28	27	27	27	28	28	27	26	26
4以下	26	25	25	23	25	24	23	24	23	26	25	24	22	20
6以下	24	23	22	20	23	22	20	21	20	24	22	21	18	17
9以下	22	21	20	17	21	19	17	19	17		20	18	16	14
12以下	20	19	17	15	19	17	15	16	14		18	16	13	11
15以下	19	17	15	13	17	15	13	14	13		16	14	11	10
19以下		16	14	11		13	11		11			12	10	8
23以下			12	10			10					11	8	7
25以下			11	9			9					10	8	6

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

3) 電動式バイブロハンマとウォータジェット併用施工

表3.12 日当り施工枚(本)数(N)(陸上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	64 (68)	62 (67)	60 (65)	56 (62)	62 (66)	59 (65)	56 (62)	59 (64)	55 (62)	64 (68)	61 (65)	58 (63)	52 (60)	49 (57)
4以下	40 (44)	38 (43)	35 (41)	31 (38)	37 (43)	34 (40)	31 (38)	34 (40)	30 (37)	40 (44)	36 (41)	33 (39)	28 (35)	25 (32)
6以下	29 (33)	27 (32)	25 (30)	22 (27)	27 (31)	24 (29)	22 (27)	24 (29)	21 (26)	29 (33)	25 (30)	23 (28)	19 (25)	17 (22)
9以下	22 (25)	20 (24)	18 (22)	16 (20)	20 (24)	18 (22)	16 (20)	17 (21)	15 (19)	21 (25)	19 (23)	17 (21)	14 (18)	12 (16)
12以下	17 (19)	15 (18)	14 (17)	12 (15)	15 (18)	13 (17)	12 (15)	13 (16)	11 (15)	16 (19)	14 (17)	13 (16)	10 (14)	9 (12)
15以下	13 (16)	12 (15)	11 (14)	9 (12)	12 (15)	11 (14)	9 (12)	10 (13)	9 (12)	13 (16)	11 (14)	10 (13)	8 (11)	7 (10)
19以下		11 (13)	10 (12)	8 (10)		9 (11)	8 (10)	9 (11)	8 (10)		10 (12)	9 (11)	7 (9)	6 (8)
23以下			8 (10)	7 (9)			7 (9)		6 (8)			7 (9)	6 (8)	5 (7)
25以下			7 (9)	6 (8)			6 (8)		6 (7)			6 (8)	5 (7)	4 (6)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要があるが生じた場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.13 日当り施工枚(本)数(N)(水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	30 (31)	30 (31)	29 (30)	28 (30)	30 (31)	29 (30)	28 (30)	29 (30)	28 (30)	30 (31)	29 (31)	29 (30)	27 (29)	26 (29)
4以下	24 (25)	23 (25)	22 (24)	20 (23)	23 (24)	22 (24)	20 (23)	21 (23)	20 (22)	23 (25)	22 (24)	21 (23)	19 (22)	17 (21)
6以下	19 (21)	18 (20)	17 (20)	16 (18)	18 (20)	17 (19)	16 (18)	17 (19)	15 (18)	19 (21)	18 (20)	16 (19)	14 (17)	13 (16)
9以下	16 (17)	15 (17)	14 (16)	12 (15)	15 (17)	14 (16)	12 (15)	13 (16)	12 (15)	16 (17)	14 (16)	13 (15)	11 (14)	10 (13)
12以下	13 (14)	12 (14)	11 (13)	10 (12)	12 (14)	11 (13)	10 (12)	11 (13)	9 (12)	13 (14)	11 (13)	10 (12)	9 (11)	8 (10)
15以下	11 (12)	10 (12)	9 (11)	8 (10)	10 (12)	9 (11)	8 (10)	9 (11)	8 (10)	11 (12)	10 (11)	9 (11)	7 (9)	6 (8)
19以下		9 (10)	8 (10)	7 (9)		8 (10)	7 (9)	8 (9)	7 (9)		8 (10)	8 (9)	6 (8)	5 (7)
23以下			7 (8)	6 (8)			6 (8)		6 (7)			6 (8)	5 (7)	5 (6)
25以下			6 (8)	5 (7)			5 (7)		5 (7)			6 (7)	5 (6)	4 (5)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要があるが生じた場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

4) 電動式バイプロハンマとウォータージェット併用施工 ($100 \leq N_{\max} \leq 180$)

表3.14 日当り施工枚(本)数(N) (陸上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	58	55	52	46	55	50	46	50	45	57	52	48	42	37
4以下	33	31	27	23	30	26	23	26	22	33	28	25	20	17
6以下	23	21	19	15	21	18	15	17	15	23	19	17	13	11
9以下	17	15	13	11	15	13	11	12	10	17	14	12	9	8
12以下	13	11	10	8	11	10	8	9	8	12	10	9	7	6
15以下	10	9	8	6	9	8	6	7	6	10	8	7	5	4
19以下		7	6	5		6	5	6	5		7	6	4	4
23以下			5	4			4		4			5	4	3
25以下			5	4			4		4			4	3	3

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.15 日当り施工枚(本)数(N) (水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	29	28	27	26	28	27	26	27	25	29	27	26	24	23
4以下	21	20	19	16	20	18	16	18	16	21	19	17	15	13
6以下	17	15	14	12	15	14	12	13	12	16	14	13	11	9
9以下	13	12	11	9	12	10	9	10	9	13	11	10	8	7
12以下	10	10	8	7	9	8	7	8	7	10	9	8	6	5
15以下	9	8	7	6	8	7	6	6	5	9	7	6	5	4
19以下		7	6	5		6	5	5	5		6	5	4	3
23以下			5	4			4		4			4	3	3
25以下			4	3			3		3			4	3	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

5) 油圧式バイプロハンマとウォータジェット併用施工

表3.16 日当り施工枚(本)数(N) (陸上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	61 (66)	58 (64)	55 (62)	51 (58)	58 (64)	54 (61)	50 (58)	53 (60)	49 (57)	56 (62)	52 (60)	46 (55)	42 (51)
4以下	36 (42)	34 (40)	31 (37)	27 (34)	33 (39)	30 (36)	26 (33)	29 (36)	26 (33)	31 (38)	28 (35)	23 (30)	20 (27)
6以下	26 (30)	24 (29)	21 (27)	18 (24)	23 (28)	21 (26)	18 (23)	20 (25)	17 (23)	22 (27)	19 (25)	16 (21)	13 (19)
9以下	19 (23)	17 (21)	15 (20)	13 (17)	17 (21)	15 (19)	13 (17)	14 (19)	12 (17)	16 (20)	14 (18)	11 (15)	9 (13)
12以下	14 (17)	13 (16)	11 (15)	10 (13)	13 (16)	11 (14)	9 (13)	11 (14)	9 (12)	12 (15)	10 (14)	8 (11)	7 (10)
15以下	12 (14)	10 (13)	9 (12)	8 (10)	10 (13)	9 (12)	8 (10)	9 (11)	7 (10)	9 (12)	8 (11)	6 (9)	5 (8)
19以下		8 (11)	7 (10)	6 (8)		7 (10)	6 (8)	7 (9)	6 (8)	8 (10)	7 (9)	5 (7)	4 (6)
23以下			6 (8)	5 (7)			5 (7)		5 (7)		5 (7)	4 (6)	4 (5)
25以下			5 (7)	4 (6)			4 (6)		4 (6)		5 (7)	4 (5)	3 (5)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要がある場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.17 日当り施工枚(本)数(N) (水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	30 (31)	29 (30)	28 (30)	27 (29)	29 (30)	28 (30)	27 (29)	28 (29)	27 (29)	28 (30)	27 (29)	26 (28)	24 (27)
4以下	22 (24)	21 (23)	20 (23)	18 (21)	21 (23)	20 (22)	18 (21)	19 (22)	18 (21)	20 (23)	19 (22)	17 (20)	15 (18)
6以下	18 (20)	17 (19)	15 (18)	14 (17)	17 (19)	15 (18)	14 (17)	15 (18)	13 (16)	16 (18)	14 (17)	12 (15)	11 (14)
9以下	14 (16)	13 (16)	12 (15)	10 (13)	13 (15)	12 (14)	10 (13)	11 (14)	10 (13)	12 (15)	11 (14)	9 (12)	8 (11)
12以下	11 (13)	11 (13)	10 (12)	8 (11)	10 (13)	9 (12)	8 (11)	9 (11)	8 (10)	10 (12)	9 (11)	7 (9)	6 (8)
15以下	10 (11)	9 (11)	8 (10)	7 (9)	9 (11)	8 (10)	7 (9)	7 (9)	6 (9)	8 (10)	7 (9)	6 (8)	5 (7)
19以下		7 (9)	7 (8)	6 (7)		6 (8)	6 (7)	6 (8)	5 (7)	7 (9)	6 (8)	5 (7)	4 (6)
23以下			6 (7)	5 (6)			5 (6)		4 (6)		5 (7)	4 (5)	3 (5)
25以下			5 (6)	4 (6)			4 (6)		4 (5)		4 (6)	3 (5)	3 (4)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要がある場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

6) 油圧式バイプロハンマとウォータージェット併用施工 ($100 \leq N_{\max} \leq 180$)

表3.18 日当り施工枚(本)数(N) (陸上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	51	48	44	38	47	42	38	41	36	45	40	33	29
4以下	27	24	21	17	24	20	17	20	16	22	19	15	12
6以下	18	16	14	11	16	13	11	13	11	15	12	9	8
9以下	13	12	10	8	11	9	8	9	7	10	9	6	5
12以下	10	9	7	6	8	7	6	7	5	8	6	5	4
15以下	8	7	6	4	7	5	4	5	4	6	5	4	3
19以下		5	5	4		4	4	4	3	5	4	3	2
23以下			4	3			3		3		3	2	2
25以下			3	3			3		2		3	2	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.19 日当り施工枚(本)数(N) (水上施工)

[枚(本)／日]

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	27	26	25	23	26	24	23	24	22	25	24	21	19
4以下	18	17	15	13	17	15	13	15	13	16	14	12	10
6以下	14	13	11	9	12	11	9	10	9	12	10	8	7
9以下	11	10	8	7	9	8	7	8	7	9	7	6	5
12以下	8	7	6	5	7	6	5	6	5	7	6	4	4
15以下	7	6	5	4	6	5	4	5	4	5	5	3	3
19以下		5	4	3		4	3	4	3	4	4	3	2
23以下			4	3			3		3		3	2	2
25以下			3	2			2		2		3	2	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

(2) 打込み(継施工有り)

鋼矢板、H形鋼1枚(本)につき1箇所継施工(打込み)する場合の日当り打込枚数及び本数(N)は、表3.20～表3.31を標準とする。

また、鋼矢板、H形鋼1枚(本)につき2箇所以上継施工を行う場合は、表3.32の補正係数(F)を、表3.20～表3.31の枚数及び本数に乗じて、1日当り継施工枚数及び本数を次式により求める。

鋼矢板、H形鋼1枚(本)当りX箇所継ぐ場合の日当り継施工枚数及び本数 $=N \times F$

なお、日当り継施工枚数及び本数については、小数点第1位を四捨五入し、整数とする。

1) 電動式バイブロハンマによる施工($N_{\max} < 50$)

表3.20 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	21	17	15	8	19	15	10	10	8	18	14	13	10
4以下	20	16	14	8	18	14	10	9	7	17	13	12	9
6以下	19	15	13	8	17	13	9	9	7	16	12	11	9
9以下	18	14	12	7	16	12	9	8	7	15	11	10	8
12以下	17	13	11	7	15	11	8	8	6	14	10	9	7
15以下	16	12	10	6	14	11	8	8	6	12	10	8	6
19以下		12	10	6		10	7		6		9	8	6
23以下			9	6			7				8	7	5
25以下			9	6			7				8	6	5

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.21 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	15	13	12	7	14	12	9	8	7	14	11	10	9
4以下	15	12	11	7	14	11	8	8	6	13	11	10	8
6以下	14	12	10	7	13	11	8	8	6	12	10	9	7
9以下	14	11	10	6	12	10	8	7	6	11	10	8	7
12以下	13	11	9	6	12	9	7	7	6	11	9	8	6
15以下	12	10	9	6	11	9	7	7	5	10	8	7	6
19以下		10	9	6		9	7		5		8	7	5
23以下			8	5			6				7	6	5
25以下			8	5			6				7	6	5

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

2) 油圧式バイプロハンマによる施工 ($N_{\max} < 50$)

表3.22 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	21	17	15	8	19	15	10	10	8	18	14	13	10
4以下	20	16	14	8	18	14	10	9	7	17	13	11	9
6以下	19	15	13	8	17	13	9	9	7	16	12	10	8
9以下	18	14	12	7	16	12	9	8	7	14	11	9	8
12以下	16	13	11	7	14	11	8	8	6	13	10	9	7
15以下	15	12	10	6	13	10	7	7	6	12	9	8	6
19以下		11	9	6		9	7		5		9	7	6
23以下			9	5			6				8	6	5
25以下			8	5			6				7	6	5

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.23 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	15	13	12	7	14	12	9	8	7	14	11	10	9
4以下	15	12	11	7	14	11	8	8	6	13	11	10	8
6以下	14	12	10	7	13	11	8	8	6	12	10	9	7
9以下	13	11	10	6	12	10	7	7	6	11	9	8	7
12以下	13	11	9	6	12	9	7	7	5	11	9	7	6
15以下	12	10	9	6	11	9	7	6	5	10	8	7	6
19以下		10	8	5		8	6		5		7	6	5
23以下			8	5			6				7	5	5
25以下			7	5			5				7	5	4

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

3) 電動式バイプロハンマとウォータジェット併用施工

表3.24 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	22 (23)	17 (18)	15 (15)	8 (9)	20 (21)	15 (16)	11 (11)	10 (10)	8 (8)	19 (19)	14 (15)	13 (13)	10 (11)
4以下	18 (19)	15 (15)	13 (13)	8 (8)	17 (18)	13 (14)	9 (10)	9 (9)	7 (7)	15 (16)	12 (13)	11 (11)	9 (9)
6以下	16 (17)	13 (14)	11 (12)	7 (7)	14 (15)	11 (12)	8 (9)	8 (8)	6 (7)	13 (14)	10 (11)	9 (10)	7 (8)
9以下	13 (14)	11 (12)	9 (10)	6 (7)	12 (13)	10 (11)	7 (8)	7 (8)	6 (6)	11 (12)	9 (10)	8 (9)	6 (7)
12以下	11 (12)	9 (10)	8 (9)	5 (6)	10 (11)	8 (9)	6 (7)	6 (7)	5 (6)	9 (10)	8 (9)	6 (8)	5 (6)
15以下	9 (11)	8 (9)	7 (8)	5 (5)	9 (10)	7 (8)	5 (6)	5 (6)	5 (5)	8 (9)	7 (8)	5 (7)	5 (6)
19以下		8 (8)	7 (8)	4 (5)		6 (7)	5 (6)	5 (6)	4 (5)	7 (8)	6 (7)	5 (6)	4 (5)
23以下			6 (7)	4 (5)			5 (5)		4 (4)		5 (6)	4 (5)	4 (5)
25以下			5 (6)	4 (4)			4 (5)		4 (4)		5 (6)	4 (5)	3 (4)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要が生じた場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.25 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	16 (16)	13 (14)	12 (12)	7 (8)	15 (15)	12 (12)	9 (9)	8 (9)	7 (7)	14 (14)	11 (12)	10 (11)	9 (9)
4以下	14 (14)	12 (12)	10 (11)	7 (7)	13 (13)	11 (11)	8 (8)	8 (8)	6 (6)	12 (13)	10 (10)	9 (10)	7 (8)
6以下	12 (13)	10 (11)	9 (10)	6 (6)	11 (12)	9 (10)	7 (8)	7 (7)	6 (6)	11 (11)	9 (10)	8 (9)	7 (7)
9以下	11 (11)	9 (10)	8 (9)	5 (6)	10 (11)	8 (9)	6 (7)	6 (7)	5 (6)	9 (10)	8 (8)	7 (8)	6 (7)
12以下	9 (10)	8 (9)	7 (8)	5 (5)	9 (10)	7 (8)	6 (6)	6 (6)	5 (5)	8 (9)	7 (7)	6 (7)	5 (6)
15以下	8 (9)	7 (8)	6 (7)	4 (5)	8 (9)	6 (7)	5 (6)	5 (6)	4 (5)	7 (8)	6 (7)	5 (6)	4 (5)
19以下		7 (7)	6 (7)	4 (5)		6 (7)	5 (5)	5 (5)	4 (5)	6 (7)	6 (6)	4 (5)	4 (5)
23以下			5 (6)	4 (4)			4 (5)		4 (4)		5 (6)	4 (5)	4 (4)
25以下			5 (6)	3 (4)			4 (5)		3 (4)		5 (5)	4 (4)	3 (4)

(注) 1. 凡例

上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$

下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要が生じた場合。

2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

4) 電動式バイプロハンマとウォータージェット併用施工 ($100 \leq N_{\max} \leq 180$)

表3.26 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	21	17	14	8	19	15	10	10	8	18	14	12	10
4以下	17	14	11	7	15	12	8	8	6	14	11	9	7
6以下	14	11	10	6	12	10	7	7	6	11	9	7	6
9以下	11	9	8	5	10	8	6	6	5	9	7	6	5
12以下	9	8	7	4	8	7	5	5	4	7	6	5	4
15以下	8	7	6	4	7	6	4	4	4	6	5	4	3
19以下		5	5	3		5	4	4	3	6	5	3	3
23以下			4	3			3		3		4	3	2
25以下			4	3			3		3		3	3	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.27 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	16	13	11	7	14	12	9	8	7	14	11	10	8
4以下	13	11	10	6	12	10	7	7	6	11	9	8	7
6以下	11	9	8	5	10	8	6	6	5	9	8	7	5
9以下	9	8	7	5	9	7	5	5	5	8	7	5	5
12以下	8	7	6	4	7	6	5	5	4	7	6	4	4
15以下	7	6	5	4	6	5	4	4	3	6	5	4	3
19以下		5	5	3		5	4	4	3	5	4	3	2
23以下			4	3			3		3		3	3	2
25以下			3	2			2		2		3	3	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

5) 油圧式バイプロハンマとウォータジェット併用施工

表3.28 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	22 (22)	17 (17)	15 (15)	8 (9)	20 (20)	15 (16)	10 (11)	10 (10)	8 (8)	18 (19)	14 (14)	12 (13)	10 (10)
4以下	17 (19)	14 (15)	12 (13)	7 (8)	16 (17)	12 (13)	9 (9)	8 (9)	7 (7)	14 (16)	11 (12)	10 (11)	8 (9)
6以下	15 (16)	12 (13)	10 (11)	6 (7)	13 (14)	11 (12)	8 (8)	8 (8)	6 (6)	12 (14)	10 (11)	8 (9)	7 (8)
9以下	12 (14)	10 (11)	9 (10)	6 (6)	11 (12)	9 (10)	7 (7)	6 (7)	5 (6)	10 (11)	8 (9)	7 (8)	5 (7)
12以下	10 (11)	8 (10)	7 (9)	5 (6)	9 (10)	7 (8)	5 (7)	6 (6)	5 (5)	8 (10)	7 (8)	5 (7)	5 (6)
15以下	9 (10)	7 (8)	6 (8)	4 (5)	8 (9)	6 (8)	5 (6)	5 (6)	4 (5)	7 (8)	6 (7)	4 (6)	4 (5)
19以下		6 (8)	6 (7)	4 (4)		5 (7)	4 (5)	4 (5)	4 (4)	6 (7)	5 (6)	4 (5)	3 (4)
23以下			5 (6)	3 (4)			4 (5)		3 (4)		4 (5)	3 (4)	3 (4)
25以下			4 (5)	3 (4)			3 (4)		3 (4)		4 (5)	3 (4)	2 (4)

- (注) 1. 凡例
 上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$
 下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要が生じた場合。
 2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.29 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	16 (16)	13 (13)	12 (12)	7 (7)	15 (15)	12 (12)	9 (9)	8 (8)	7 (7)	14 (14)	11 (11)	10 (11)	8 (9)
4以下	13 (14)	11 (12)	10 (11)	6 (7)	12 (13)	10 (11)	8 (8)	7 (8)	6 (6)	11 (12)	10 (10)	9 (9)	7 (8)
6以下	12 (13)	10 (11)	9 (9)	6 (6)	11 (12)	9 (10)	7 (7)	7 (7)	5 (6)	10 (11)	8 (9)	7 (8)	6 (7)
9以下	10 (11)	8 (10)	8 (9)	5 (6)	9 (10)	8 (8)	6 (7)	6 (6)	5 (5)	8 (10)	7 (8)	6 (7)	5 (6)
12以下	8 (9)	8 (8)	7 (8)	4 (5)	8 (9)	6 (8)	5 (6)	5 (6)	4 (5)	7 (8)	6 (7)	5 (6)	4 (5)
15以下	8 (8)	7 (8)	6 (7)	4 (5)	7 (8)	6 (7)	5 (5)	4 (5)	4 (5)	6 (7)	5 (6)	4 (5)	4 (5)
19以下		5 (7)	5 (6)	4 (4)		5 (6)	4 (5)	4 (5)	3 (4)	6 (7)	5 (6)	4 (5)	3 (4)
23以下			5 (5)	3 (4)			4 (4)		3 (4)		4 (5)	3 (4)	2 (4)
25以下			4 (5)	3 (4)			3 (4)		3 (3)		3 (5)	3 (4)	2 (3)

- (注) 1. 凡例
 上 段: $50 \leq N_{\max} < 100$
 下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要が生じた場合。
 2. 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

6) 油圧式バイプロハンマとウォータージェット併用施工 ($100 \leq N_{\max} \leq 180$)

表3.30 日当り継施工枚(本)数(N) (陸上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	20	16	14	8	18	14	10	9	7	17	13	11	9
4以下	15	12	10	6	13	10	7	8	6	12	10	8	6
6以下	12	10	8	5	10	8	6	6	5	10	7	6	5
9以下	9	8	7	4	8	6	5	5	4	7	6	4	4
12以下	8	7	5	4	6	5	4	4	3	6	5	4	3
15以下	6	5	5	3	6	4	3	4	3	5	4	3	2
19以下		4	4	3		3	3	3	2	4	3	3	2
23以下			3	2			2		2		3	2	2
25以下			3	2			2		2		3	2	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)及び敷鉄板の施工手間が含まれている。

表3.31 日当り継施工枚(本)数(N) (水上施工) (1枚(本)当り1箇所継ぎ)

型式 打込長(m)	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型	H250	H300	H350	H400
2以下	15	12	11	7	14	11	8	8	6	13	11	9	8
4以下	12	10	9	6	11	9	7	7	5	10	8	7	6
6以下	10	8	7	5	9	7	5	5	5	8	7	5	5
9以下	8	7	6	4	7	6	5	5	4	7	5	4	4
12以下	6	5	5	3	6	5	4	4	3	6	5	3	3
15以下	6	5	4	3	5	4	3	4	3	4	4	3	2
19以下		4	3	2		3	2	3	2	3	3	3	2
23以下			3	2			2		2		3	2	2
25以下			3	2			2		2		3	2	2

(注) 施工枚(本)数には、導材(ガイド)の施工手間が含まれている。

7) 鋼矢板, H形鋼 1 枚 (本) 当り箇所継施工箇所数による補正

表 3. 32 補正係数(F) [鋼矢板(H形鋼)1枚(本)当り2箇所以上継施工を行う場合]

適 用		鋼矢板 II, III, IV, V _L , II _w , III _w , IV _w , 10H, 25H											
最 大 N 値		単独施工 (N _{max} <50)				ウォータージェット併用施工 (50≤N _{max} <100)				ウォータージェット併用施工 (100≤N _{max} ≤180)			
継施工箇所数		2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
補 正 係 数 (F)	陸上施工	0.63	0.46	0.37	0.30	0.70 (0.67)	0.54 (0.51)	0.44 (0.42)	0.38 (0.35)	0.74	0.60	0.50	0.43
	水上施工	0.67	0.51	0.41	0.34	0.72 (0.70)	0.57 (0.55)	0.48 (0.45)	0.41 (0.38)	0.76	0.62	0.53	0.46

適 用		H形鋼 H250, H300, H350, H400											
最 大 N 値		単 独 施 工 (N _{max} <50)				ウォータージェット併用施工 (50≤N _{max} <100)				ウォータージェット併用施工 (100≤N _{max} ≤180)			
継施工箇所数		2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
補 正 係 数 (F)	陸上施工	0.66	0.49	0.39	0.33	0.72 (0.69)	0.57 (0.54)	0.48 (0.44)	0.41 (0.37)	0.77	0.63	0.54	0.48
	水上施工	0.69	0.53	0.43	0.36	0.75 (0.72)	0.60 (0.57)	0.51 (0.47)	0.44 (0.40)	0.79	0.66	0.57	0.50

(注) ウォータージェット併用施工における () 書きは, N_{max}<50の場合で, 転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要が生じた場合。

(3) 継施工費

表 3. 33 継施工費

鋼矢板・H形鋼型式		継施工費(円/箇所)
鋼 矢 板	II型	6,120
	III型	6,430
	IV型	6,820
	V _L 型	7,970
	VI _L 型	8,240
	II _w 型	7,470
	III _w 型	7,700
	IV _w 型	8,230
	10H型(ハット)	11,800
	25H型(ハット)	12,600
H 形 鋼	H250	16,400
	H300	21,600
	H350	26,700
	H400	38,600

(注) 継施工費に含まれる費用は, 次のとおりである。

鋼矢板継施工費: 溶接棒費用, 補強板材料費, 開先加工費

H形鋼継施工費: 補強板材料費, 接続用ボルト・ナット材料費,

H形鋼孔明け加工費

(4) 引抜き

鋼矢板、H形鋼の日当り引抜き枚数及び本数(N)は、次表を標準とする。

表3.34 日当り施工枚(本)数(N)							[枚(本)／日]		
引 抜 長 (m)	2以下	4以下	6以下	9以下	12以下	15以下	19以下	23以下	25以下
陸 上 施 工	91	78	68	58	50	43	38	33	30
水 上 施 工	50	46	42	38	34	31	28	25	24

- (注) 1. 上表は、広幅鋼矢板(Ⅱw, Ⅲw, Ⅳw)及びハット形鋼矢板(10H, 25H)には適用しない。
2. 鋼矢板・H形鋼を鉛直に吊上げた状態で鋼矢板等を切断する場合については、別途計上する。

3-4 諸雑費

諸雑費は、溶接棒、導材(ガイド)賃料、施工機械足場用の敷鉄板賃料、電気溶接機損料、ウォータジェット併用施工用付属機器に関する経費(配管バンド及び溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モータポンプ損料、水槽及び配管損料)、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.35 諸雑費率 (%)

施 工 区 分	パイプロハンマ 規 格		諸 雑 費 率				
			継 施 工 無 し		継 施 工 有 り		
			普通・広幅 鋼矢板 H形鋼	ハット形 鋼矢板	普通・広幅 鋼矢板	ハット形 鋼矢板	H形鋼
パイプロハンマ 単独施工・打込み	電動式	60kW	22 15	18 13	21 15	18 13	20 15
		90kW	30 20	24 18	27 20	23 17	27 19
	油圧式	224kW	2	1	2	2	1
		(235kW)(注)2	2	2	2	2	2
ウォータジェット 併用施工・打込み	電動式	60kW	22(26) 21(20) (注)3	20(23) 19(18) (注)3	21(25) 20(19) (注)3	19(22) 18(18) (注)3	21(25) 20(19) (注)3
		90kW	27(32) 25(24) (注)3	23(27) 22(21) (注)3	25(30) 24(23) (注)3	23(26) 21(21) (注)3	25(30) 24(23) (注)3
	油圧式	224kW	8(8) 8(7) (注)3	7(8) 7(7) (注)3	8(9) 8(8) (注)3	8(8) 8(7) (注)3	8(8) 8(7) (注)3
		(235kW)(注)3					
引 抜 き	電動式	60kW	19 13 (注)4	—	—	—	—
	油圧式	224kW	0.1 — (注)4	—	—	—	—

(注) 1. 凡例

上段：陸上施工の場合

下段：水上施工の場合

2. パイプロハンマ規格における()書きは、ハット形鋼矢板の場合に適用する。

3. ウォータジェット併用施工・打込みにおける()書きは、 $N_{\max} < 50$ の場合で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要がある場合に計上する。

4. 引抜きの諸雑費率は、広幅鋼矢板には適用しない。

4. 単 価 表

(1) バイプロハンマ施工による鋼矢板等の打込み又は引抜き10枚(本)当り単価表

		施工歩掛コード	WB250200, WB250210, WB250240, WB250250		
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.6 表3.8~3.11, 3.20~3.23, 3.32, 3.34	
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times \frac{2}{(3)}$	〃 〃	
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃	
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 (必要に応じて計上) 〃	
バイプロハンマ 杭 打 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1~3.4 〃 機械損料	
引 船 運 転	鋼製 D 200PS型 15GT	〃	$\frac{10}{N}$	表3.5 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
ク レ ー ン 付 台 船 運 転	台船300t積 クローラクレーン45~50t吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
矢板積台船運転	200t積	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
継 施 工 費		箇所	10×X	表3.33 (必要に応じて計上)	
諸 雑 費		式	1	表3.35	
計					

(注) N:日当り施工枚(本)数〔枚(本)／日〕

X:1枚(本)当り継施工箇所数〔箇所／枚(本)〕

() 書き:H形鋼(継施工有り)の場合に適用する。

(2) バイプロハンマとウォータージェット併用施工による鋼矢板等の打込み10枚(本)当り単価表

		施工歩掛コード			WB250220, WB250230
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.6 表3.12~3.19, 3.24~3.32, 3.34	
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$ (3)	〃 〃	
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃	
溶 接 工		〃	$\frac{10}{N} \times 1$ [2]	〃 〃	
バイプロハンマ 杭 打 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1~3.2, 3.4 〃 機械損料	
杭 打 ち 用 ウォータ ジ ェ ッ ト 運 転	エンジン式・排出ガス対策型 (第1次基準値)ポンプ圧力 14.7MPa, 吐出量325ℓ/min	〃	$\frac{10}{N} \times \text{台数}$	表3.1~3.2 〃 機械損料	
引 船 運 転	鋼製 D 200PS型 15GT	〃	$\frac{10}{N}$	表3.5 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
クレーン付台船運転	台船300t積 クローラークレーン45~50t吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
矢 板 積 台 船 運 転	200t積	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (必要に応じて計上) 〃 機械損料	
継 施 工 費		箇所	10×X	表3.33(必要に応じて計上)	
諸 雑 費		式	1	表3.35	
計					

(注) N:日当り施工枚(本)数〔枚(本)／日〕

X:1枚(本)当り継施工箇所数〔箇所／枚(本)〕

() 書き: H形鋼(継施工有り)の場合に適用する。

[] 書き: 鋼矢板(継施工有り)の場合に適用する。

(3) 矢板積台船(200t積)運転1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
矢 板 積 台 船	200t積	供用日	1.3	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 機械運転単価表(陸上施工)

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	適用
パイプロハンマ 杭 打 機	電動式・普通型 60kW 90kW	機-20	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 65 機械損料 1 → パイプロハンマ(単体) [電動式・普通型] 60kW, 90kW 機械損料数量 → 1.3 機械損料 2 → クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]50~55t 吊 機械損料数量 → 1.3	打込み 引抜き
パイプロハンマ 杭 打 機 (ハット形鋼矢板用)	電動式・ 可変モーメント型 60kW 90kW	機-20	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 65 機械損料 1 → パイプロハンマ(単体) [電動式・可変モーメント型] 60kW, 90kW 機械損料数量 → 1.3 機械損料 2 → クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]50~55t 吊 機械損料数量 → 1.3	打込み
パイプロハンマ 杭 打 機	油圧式・ 可変超高周波型・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 224kW	機-20	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 465 機械損料 1 → パイプロハンマ [油圧式・可変超高周波型・排 出ガス対策型(第1次基準値)] 機械損料数量 → 1.3 機械損料 2 → クローラクレーン [油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]50~55t 吊 機械損料数量 → 1.3	打込み
			運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 499 機械損料 1 → パイプロハンマ [油圧式・可変超高周波型・排 出ガス対策型(第1次基準値)] 機械損料数量 → 1.2 機械損料 2 → ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対 策型(第1次基準値)]25t 吊 機械損料数量 → 1.2	引抜き
パイプロハンマ 杭 打 機 (ハット形鋼矢板用)	油圧式・ 可変超高周波型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-20	運転労務数量 → 1.0 燃料消費量 → 483 機械損料 1 → パイプロハンマ [油圧式・可変超高周波型・排 出ガス対策型(第2次基準値)] 1.3 機械損料数量 → クローラクレーン 機械損料 2 → [油圧駆動式ウインチ・ラチス ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値)]50~55t 吊 機械損料数量 → 1.3	打込み
杭 打 ち 用 ウォータージェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃料消費量 → 110 機械損料数量 → 1.3	打込み

(5) 機械運転単価表(水上施工)

名 称	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バイプロハンマ (単 体)	電動式・普通型 60kW, 90kW	機-25	機 械 損 料 数 量 → 1.3
バイプロハンマ (単 体) (ハット形鋼矢板用)	電動式・可変モーメント型 60kW, 90kW	機-25	機 械 損 料 数 量 → 1.3
バイプロハンマ (単 体)	油圧式・可変超高周波型・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 224kW	機-24	燃 料 消 費 量 → 400 機 械 損 料 数 量 → 1.3
バイプロハンマ (単 体) (ハット形鋼矢板用)	油圧式・可変超高周波型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 235kW	機-24	燃 料 消 費 量 → 418 機 械 損 料 数 量 → 1.3
杭 打 ち 用 ウォータージェット	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機-24	燃 料 消 費 量 → 110 機 械 損 料 数 量 → 1.3
クレーン付台船	クローラクレーン 45～50t吊 台船300t積	機-11	船 員 名 称 → 高級船員 運 転 労 務 数 量 → 1.0 (クローラクレーン) 燃 料 消 費 量 → 51 機 械 損 料 数 量 → 1.3 機 械 損 料 単 位 → 供用日 (台 船) 機 械 損 料 数 量 → 1.3
引 船	鋼製 D 200PS型 15GT	機-11	船 員 名 称 → 高級船員 運 転 労 務 数 量 → 1.0 燃 料 消 費 量 → 111(重油) 機 械 損 料 数 量 → 1.0 機 械 損 料 単 位 → 供用日

5. 施工単価入力基準表

(1) バイプロハンマ施工による鋼矢板等の打込み(鋼矢板)

施工歩掛コード	WB250200	施工単位	枚		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工場所 ①陸上 ②水上	バイプロハンマ の規格 (表5.1)	鋼矢板 1 枚当り 継施工箇所数 (表5.2)	鋼矢板型式 (表5.3)	鋼矢板打込長 (表5.4)

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 5 条件で⑦～⑨を選択することは出来ない。
 2. J 2 条件で②を選択した場合は、J 4 条件で①, ②, ⑥, ⑨, J 5 条件で①～⑥を選択することは出来ない。
 3. J 2 条件で③を選択した場合は、J 4 条件で①, ⑨, ⑩を選択することは出来ない。
 4. J 2 条件で④を選択した場合は、J 4 条件で①～⑧を選択することは出来ない。
 5. J 3 条件で②～⑥を選択した場合は、J 4 条件で①を選択することは出来ない。
 6. 本コードはクローラクレーン、油圧式バイプロハンマの低騒音機種についても適用出来る。
 7. 鋼矢板の賃料又は材料費については「WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上する。
 8. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。
 9. 本コードは、J 3 条件で入力した箇所数分の継施工費が計上される。

表5.1 バイプロハンマの規格

規 格	入力番号
電動式・60kW	①
電動式・90kW	②
油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型(第1次基準値) 224kW	③
油圧式・可変超高周波型・排出ガス対策型(第2次基準値) 235kW	④

表5.2 鋼矢板(H形鋼)1枚当り継施工箇所数

鋼矢板(H形鋼)1枚当り継施工箇所数	無し	1	2	3	4	5
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥

表5.3 鋼矢板型式

型 式	入力番号
I A型	①
II型	②
III型	③
IV型	④
V _L 型	⑤
IIw型	⑥
IIIw型	⑦
IVw型	⑧
10H型	⑨
25H型	⑩

表5.4 鋼矢板打込長(電動式・油圧式バイプロハンマ)

型式 打込長(m)			I A型	Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型
2以下	入力番号	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	—	—	○	○	○	—	○	○	—	○
23以下	入力番号	⑧	—	—	—	○	○	—	—	○	—	—
25以下	入力番号	⑨	—	—	—	○	○	—	—	○	—	—

(注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。

2. 打込長は、地表面よりの鋼矢板の打込長であり、鋼矢板長とは異なる。

(2) バイプロハンマ施工による鋼矢板等の打込み(H形鋼)

施工歩掛コード	WB250210	施工単位	本		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工場所 ①陸上 ②水上	バイプロハンマ の規格 (表5.1)	H形鋼1本当り 継施工箇所数 (表5.2)	H形鋼型式 (表5.5)	H形鋼打込長 (表5.6又は 表5.7)

(注) 1. J 2条件で①又は②を選択した場合は、J 5条件は表5.6を適用する。

2. J 2条件で③を選択した場合は、J 5条件は表5.7を適用する。

3. J 2条件で④を選択することは出来ない。

4. J 2条件で①を選択した場合は、J 5条件で⑦～⑨を選択することは出来ない。

5. J 2条件で②を選択した場合は、J 4条件で①, ②, J 5条件で①～⑥を選択することは出来ない。

6. J 3条件で②～⑥を選択した場合は、J 4条件で①を選択することは出来ない。

7. 本コードはクローラークレーン、油圧式バイプロハンマの低騒音機種についても適用出来る。

8. H形鋼の賃料又は材料費については「第Ⅱ編第5章①仮設工及びWB251760」により別途計上する。

9. J 1条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。

10. 本コードは、J 3条件で入力した箇所数分の継施工費が計上される。

表5.5 H形鋼型式

型 式	入力番号
H200	①
H250	②
H300	③
H350	④
H400	⑤

表5.6 H形鋼打込長(電動式バイブロハンマ)

型式 打込長(m)			H200	H250	H300	H350	H400
2以下	入力番号	①	○	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	○	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	○	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	—	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	—	—	○	○	○
23以下	入力番号	⑧	—	—	○	○	○
25以下	入力番号	⑨	—	—	○	○	○

- (注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。
 2. 打込長は、地表面よりのH形鋼の打込長であり、H形鋼長とは異なる。

表5.7 H形鋼打込長(油圧式バイブロハンマ)

型式 打込長(m)			H200	H250	H300	H350	H400
2以下	入力番号	①	○	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	—	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	—	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	—	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	—	—	○	○	○
23以下	入力番号	⑧	—	—	○	○	○
25以下	入力番号	⑨	—	—	○	○	○

- (注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。
 2. 打込長は、地表面よりのH形鋼の打込長であり、H形鋼長とは異なる。

(3) バイブロハンマとウォータージェット併用施工による鋼矢板等の打込み(鋼矢板)

施工歩掛コード	WB250220	施工単位	枚			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	施工場所	バイブロハンマ の規格	鋼矢板1枚当り 継施工箇所数	鋼矢板型式	鋼矢板打込長	最大N値
	①陸上 ②水上	(表5.1)	(表5.2)	(表5.8)	(表5.9)	① $50 \leq N_{max} < 100$ ② $100 \leq N_{max} \leq 180$ ③ $N_{max} < 50$

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 5 条件で⑦～⑨、J 6 条件で②を選択することは出来ない。
 2. J 2 条件で②を選択しJ 5 条件で①～⑥を選択した場合は、J 6 条件は②とする。
 3. J 2 条件で③を選択した場合は、J 4 条件で⑧、⑨を選択することは出来ない。
 4. J 2 条件で④を選択した場合は、J 4 条件で①～⑦を選択することは出来ない。
 5. J 6 条件③は、 $N_{max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要性が生じた場合に適用する。
 6. 本コードはクローラクレーン、油圧式バイブロハンマの低騒音機種についても適用出来る。
 7. 鋼矢板の賃料又は材料費については「WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上する。
 8. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。
 9. 本コードは、J 3 条件で入力した箇所数分の継施工費が計上される。

表5.8 鋼矢板型式

型 式	入力番号
Ⅱ型	①
Ⅲ型	②
Ⅳ型	③
V _L 型	④
Ⅱw型	⑤
Ⅲw型	⑥
Ⅳw型	⑦
10H型	⑧
25H型	⑨

表5.9 鋼矢板打込長(ウォータージェット併用電動式・油圧式バイプロハンマ)

打込長(m) \ 型式			Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	V _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型
2以下	入力番号	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	—	○	○	○	—	○	○	○	○
23以下	入力番号	⑧	—	—	○	○	—	—	○	—	○
25以下	入力番号	⑨	—	—	○	○	—	—	○	—	○

(注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。

2. 打込長は、地表面よりの鋼矢板の打込長であり、鋼矢板長とは異なる。

(4) バイプロハンマとウォータージェット併用施工による鋼矢板等の打込み(H形鋼)

施工歩掛コード	WB250230	施工単位	本			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	施工場所	バイプロハンマ の規格	H形鋼1本当り 継施工箇所数	H形鋼型式	H形鋼打込長	最大N値
	①陸上 ②水上	(表5.1)	(表5.2)	(表5.5)	(表5.10又は 表5.11)	① $50 \leq N_{\max} < 100$ ② $100 \leq N_{\max} \leq 180$ ③ $N_{\max} < 50$

(注) 1. J 2 条件で①又は②を選択した場合は、J 5 条件は表5.10を適用する。

2. J 2 条件で③を選択した場合は、J 5 条件は表5.11を適用する。

3. J 2 条件で④を選択することは出来ない。

4. J 2 条件で①を選択した場合は、J 5 条件で⑦～⑨、J 6 条件で②を選択することは出来ない。

5. J 2 条件で②を選択しJ 5 条件で①～⑥を選択した場合は、J 6 条件は②とする。

6. J 3 条件で②～⑥を選択した場合は、J 4 条件で①を選択することは出来ない。

7. J 6 条件③は、 $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要がある場合に適用する。

8. 本コードはクローラークレーン、油圧式バイプロハンマの低騒音機種についても適用出来る。

9. H形鋼の賃料又は材料費については「第Ⅱ編第5章①仮設工及びWB251760」により別途計上する。

10. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。

11. 本コードは、J 3 条件で入力した箇所数分の継施工費が計上される。

表5.10 H形鋼打込長 (ウォータージェット併用電動式バイブロハンマ)

型式 打込長(m)			H200	H250	H300	H350	H400
2以下	入力番号	①	○	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	○	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	○	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	○	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	—	○	○	○	○
23以下	入力番号	⑧	—	—	○	○	○
25以下	入力番号	⑨	—	—	○	○	○

- (注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。
 2. 打込長は、地表面よりのH形鋼の打込長であり、H形鋼長とは異なる。

表5.11 H形鋼打込長 (ウォータージェット併用油圧式バイブロハンマ)

型式 打込長(m)			H250	H300	H350	H400
2以下	入力番号	①	○	○	○	○
4以下	入力番号	②	○	○	○	○
6以下	入力番号	③	○	○	○	○
9以下	入力番号	④	○	○	○	○
12以下	入力番号	⑤	○	○	○	○
15以下	入力番号	⑥	○	○	○	○
19以下	入力番号	⑦	○	○	○	○
23以下	入力番号	⑧	—	○	○	○
25以下	入力番号	⑨	—	○	○	○

- (注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な打込長を示したものである。
 2. 打込長は、地表面よりのH形鋼の打込長であり、H形鋼長とは異なる。

(5) バイブロハンマ施工による矢板等の引抜き(鋼矢板)

施工歩掛コード	WB250240	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	施工場所	バイブロハンマの規格	引抜長
	①陸上 ②水上	①電動式60kW ②油圧式224kW	(表5.12)

- (注) J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。

表5.12 引抜長

引抜長(m)		型式	鋼矢板 H形鋼
2以下	入力番号	①	○
4以下	入力番号	②	○
6以下	入力番号	③	○
9以下	入力番号	④	○
12以下	入力番号	⑤	○
15以下	入力番号	⑥	○
19以下	入力番号	⑦	○
23以下	入力番号	⑧	○
25以下	入力番号	⑨	○

- (注) 1. ○印は、型式毎の選択可能な引抜長を示したものである。
2. 引抜長は、地表面よりの鋼矢板及びH形鋼の引抜長であり、鋼矢板長及びH形鋼長とは異なる。

(6) バイプロハンマ施工による矢板等の引抜き(H形鋼)

施工歩掛コード	WB250250	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	施工場所	バイプロハンマの規格	引抜長
	①陸上 ②水上	①電動式60kW ②油圧式224kW	(表5.12)

(注) J 1条件で②を選択した場合は、必要に応じて繫船費及び回航費用を共通仮設費に計上すること。

(7) 鋼矢板賃料(普通鋼矢板)

施工歩掛コード	WB250150	施工単位	枚					
施工区分	入 力 条 件							
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8
	鋼矢板の種類	鋼矢板1枚 当りの長さ	供用日数	継続工事 の有無	総供用日数	修理費 及び損耗費 の有無	作業区分	一現場での 使用回数
	①Ⅱ型							
	②Ⅲ型	(m/枚)	(日)	①無	(日)	①無	①標準作業	(回)
	③Ⅳ型						②軽作業	
	④Ⅴ型	(実数入力)	(実数入力)	②有	(実数入力)	②有	③重作業	(実数入力)

- (注) 1. 継続工事となる場合はJ 3条件に当該工事の供用日数を入力し、J 5条件で総供用日数(賃料単価決定のため)を入力する。
2. 継続工事以外(J 4条件で①を選択)は、J 3条件に供用日数を入力し、J 5条件は入力する必要はない。
3. J 3条件の供用日数(継続工事の場合はJ 5条件の総供用日数)は、賃料計上限度額(1現場当り修理費及び損耗費を含む)である施工業者が入手可能な購入価格(市中価格)の80%を超えないように調整のうえ入力すること。
また、本コードは賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。
4. J 6条件で①を選択した場合は、J 7、J 8条件は入力する必要はない。
5. J 7条件の作業区分は、「第Ⅱ編第5章①仮設工(仮設材賃料に係る修理費及び損耗費の作業区分)」による。
6. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 8条件に「1」を入力する。

(8) 鋼矢板材料

施工歩掛コード	WB250160	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	鋼矢板の材質	鋼矢板の種類	鋼矢板1枚当りの長さ
	① S Y 295 ② S Y 390 ③ S Y W 295 ④ S Y W 390	①Ⅱ型 ⑥Ⅱw型 ②Ⅲ型 ⑦Ⅲw型 ③Ⅳ型 ⑧Ⅳw型 ④V _L 型 ⑨10H型 ⑤V _L 型 ⑩25H型	(m/枚) (実数入力)

(注) 1. 鋼矢板を目的物(新品価格)とする場合に適用する。

2. 本コードについては、矢板長が6m 未満20m を超える場合には適用出来ないため、その場合には、WB 250170にて別途計上する。

(9) 鋼矢板等材料(撤去出来ない場合)

「第Ⅱ編第5章①仮設工 WB250010, WB250020, WB250030, WB250040」により計上する。

(10) 鋼矢板(各種)

施工歩掛コード	WB250170	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	名 称 ①鋼矢板賃料 ②鋼矢板材料		

(注) 鋼矢板(賃料, 材料)単価(Y-0016001) [円/枚]を単価登録すること。

(11) H形鋼賃料

施工歩掛コード	WB251760	施工単位	本					
施工区分	入 力 条 件							
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8
	H形鋼の種類	H形鋼 1本当り長さ	供用日数	継続工事 の有無	総供用日数	修理費 及び損耗費 の有無	作業区分	一現場での 使用回数
	①H200							
	②H250							
	③H300	(m/本)	(日)	①無	(日)	①無	①標準作業	(回)
	④H350						②軽作業	
⑤H400	(実数入力)	(実数入力)	②有	(実数入力)	②有	③重作業	(実数入力)	

(注) 1. 継続工事となる場合はJ 3条件に当該工事の供用日数を入力し、J 5条件で総供用日数(賃料単価決定のため)を入力する。

2. 継続工事以外(J 4条件で①を選択)はJ 3条件に供用日数を入力し、J 5条件は入力する必要はない。

3. J 3条件の供用日数(継続工事の場合はJ 5条件の総供用日数)は、賃料計上限度額(1現場当り修理費及び損耗費を含む)である施工業者が入手可能な購入価格(市中価格)の80%を超えないように調整のうえ入力すること。

また、本コードは賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。

4. J 6条件で①を選択した場合は、J 7, J 8条件は入力する必要はない。

5. J 7条件の作業区分は、「第Ⅱ編第5章①仮設工(仮設材賃料に係る修理費及び損耗費の作業区分)」による。

6. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 8条件に「1」を入力する。

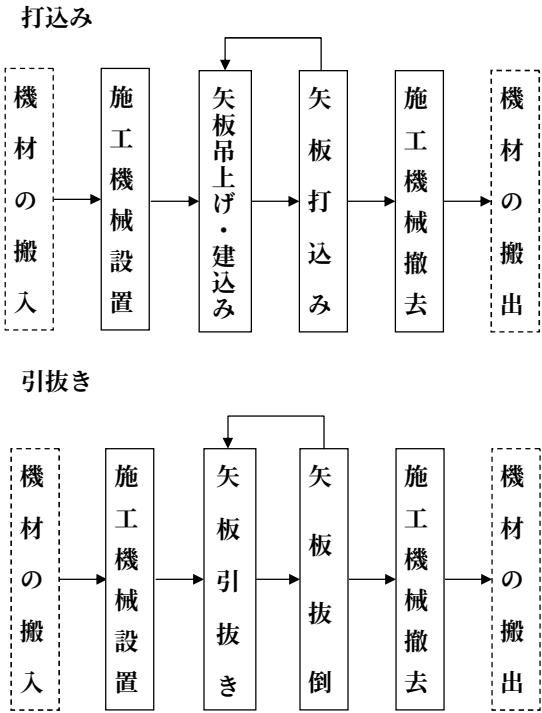
②ー２ バイブロハンマ工 (軽量鋼矢板打込引抜工)

1. 適用範囲

本資料は、電動式バイブロハンマによる軽量鋼矢板の打込み、引抜きに適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
バイブロハンマ	15kW	台	1	
クローラクレーン	機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型 16t吊	〃	1	
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 16t吊	〃	1	必要時のみ計上
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動・排出ガス 対策型（第1次基準値） 17／20kVA	〃	1	〃

(注) 1. トラッククレーンは、現場内小運搬用として次の場合のみ計上する。

- ① 施工場所から 30m 以内のところに矢板置場を設けることが出来ない場合
 - ② 作業場所が狭小で民家その他施設、構造物などを破損又は危険にさらす恐れのある場合
2. 発動発電機は、商用電源がない場合に計上する。

4. 編 成 人 員

軽量鋼矢板の打込み、引抜き作業の編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 打込み、引抜き作業の編成人員 (人)

土木一般世話役	とび工	普通作業員
1	2	1

5. 施 工 歩 掛

5-1 打込み及び引抜き施工時間

矢板1枚当り打込み及び引抜き施工時間は、次式による。

$$TC = \frac{Ts + Tb}{fc} \dots\dots\dots (\text{分/枚})$$

TC：矢板1枚当り施工時間 (分/枚)

Ts： " 準備時間 (分/枚)

Tb： " 打込み又は引抜き時間 (分/枚)

fc：現場の条件による作業係数

(1) 軽量鋼矢板1枚当り準備時間 (Ts)

軽量鋼矢板1枚当り準備時間は、次表を標準とする。

表5.1 軽量鋼矢板1枚当り準備時間 (Ts) (分/枚)

打 込 み	引 抜 き
$Ts = 0.3 \cdot L + 2$	$Ts = 0.15 \cdot L + 1.5$

(注) L：矢板長さ (m)

(2) 軽量鋼矢板1枚当り打込み又は引抜き時間 (Tb)

$$Tb = \gamma \cdot t \cdot K \dots\dots\dots (\text{分/枚})$$

γ ：土質による打込み又は引抜き時間 (分/m)

t：矢板根入長 (m)

K：軽量鋼矢板の種類による係数

① 土質による打込み又は引抜き時間 (γ)

土質による打込み又は引抜き時間は、次表を標準とする。

表5.2 打込み又は引抜き時間 (分/m)

工 種		(γ_1) レキ質土・砂・砂質土	(γ_2) 粘性土
打 込	バイブロハンマ	$0.02 \cdot N_1 + 0.7$	$0.03 \cdot N_2 + 0.7$
引 抜	バイブロハンマ	0.4	0.7

(注) 1. N_1 , N_2 ：各地質ごとの根入長に対する加重平均N値

2. γ の算出については $\gamma_1 \cdot \gamma_2$ を各々算出し、下式により加重平均する。

$$\gamma = \frac{\gamma_1 \times \ell_1 + \gamma_2 \times \ell_2}{\ell_1 + \ell_2}$$

γ ：土質による打込み又は引抜き時間 (分/m)

γ_1 ：レキ質土・砂・砂質土の打込み又は引抜き時間 (分)

ℓ_1 ： γ_1 に対する根入長 (m)

γ_2 ：粘性土の打込み又は引抜き時間 (分)

ℓ_2 ： γ_2 に対する根入長 (m)

② 軽量鋼矢板の種類による係数 (K)

表5.3 軽量鋼矢板の種類による係数 (K)

矢 板 種 類	打 込 み	引 抜 き
軽量鋼矢板 250 mm	0.5	0.6
軽量鋼矢板 333 mm	0.8	0.95

③ 現場の条件による作業係数 (f c)

作業係数は、次式による。

$$f\ c = f_0 + f_1 + f_2 + f_3 + f_4$$

f_0 : 基準作業係数

$f_1 \sim f_4$: 作業条件による補正係数

表5.4 基準作業係数 (f_0)

打 込 み	引 抜 き
0.8	0.7

表5.5 作業条件による補正係数

条 件 \ 係 数		-0.05	0	+0.05	摘 要
f_1	家屋、鉄道、橋梁、道路施設、構造物などによる障害の程度	かなりある	な し	—	作業中断の有無、並びに機械の行動に制約される。
f_2	現場の広さによる作業難易の程度	不 良	普 通	—	機械の移動、矢板の仮置場所、矢板の吊込みなどに十分な広さがあるか。
f_3	足場の状況により作業に及ぼす程度	不 良	普 通	良	不陸、軟弱等による足場の良否
f_4	施 工 規 模 (1工事当り)	100 枚未満	100 枚以上 300 枚未満	300 枚以上	

5-2 運転時間

(1) バイプロハンマ、クローラクレーン、発動発電機

- ・軽量鋼矢板1枚当り運転時間 = T C
- ・運転日当り運転時間 (T) = 「建設機械等損料表」のバイプロハンマの標準時間
- ・バイプロハンマの電源に商用電源を用いた場合の電力料の算出は、1枚当り施工時間 (T C) に、0.7を乗じたものとする。

(2) トラッククレーン

- ・軽量鋼矢板1枚当り運転時間 = T C × 0.6

6. 単 価 表

(1) バイプロハンマによる軽量鋼矢板打込み又は引抜き 10 枚当り単価表

		施工歩掛コード		WB251010, WB251020
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10 \cdot TC}{60} \times \frac{1}{T} \times 1$	表 4.1
と び 工		〃	$\frac{10 \cdot TC}{60} \times \frac{1}{T} \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10 \cdot TC}{60} \times \frac{1}{T} \times 1$	〃
バイプロハンマ 杭 打 機 運 転		h	$\frac{10 \cdot TC}{60}$	ベースマシン +バイプロハンマ
発 動 発 電 機 運 転		日	$\frac{10 \cdot TC}{60} \times \frac{1}{T}$	必要に応じて計上
トラッククレーン 運 転		h	$\frac{10 \cdot TC}{60} \times 0.6$	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T=バイプロハンマ運転日当り運転時間 (h)

TC=軽量鋼矢板 1 枚当り施工時間 (分)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
電 動 式 バイプロハンマ 杭 打 機	15kW	機-5	機械損料 1→バイプロハンマ 15kW (商用電力を使用した場合は下記による) 電力量→E×0.7 E→バイプロハンマの時間当り電力消費量 (kWh) T→バイプロハンマ運転日当り運転時間 (h) TC→矢板 1 枚当り施工時間 (分)
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジ ン駆動・排出ガス 対策型 (第 1 次基準値) 17/20kVA	機-12	運転時間→バイプロハンマの運転日当り運転時間 (h)
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 16t 吊	機-1	

7. 施工単価入力基準表

(1) 軽量鋼矢板打込み工

施工歩掛コード		WB251010		施工単位		枚										
施工区分		入 力 条 件														
作業内容		J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12	J 13	J 14	J 15
各 種	矢板長	矢板根入長	矢板の種類	レキ質土・砂・砂質土 に対する根入長	粘性土に対する根入長	根入長に対する加重平均N値 レキ質土・砂・砂質土の	粘性土の根入長に対する加重平均N値	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	トラッククレーンの有無	使用電源	杭打機供用日当り運転時間	トラッククレーン供用日当り運転時間	
	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	軽量鋼矢板 ① 250 mm ② 333 mm	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	f 1 (表 7.1)	f 2 (表 7.2)	f 3 (表 7.3)	f 4 (表 7.4)	①有 ②無	① 発動電機 ② 商用電源	(実数入力) 標準 [1.0]	(実数入力) 標準 [1.0]	

- (注) 1. 商用電源の場合は、電力料 (Y-7500000) を単価登録すること。
2. 軽量鋼矢板の賃料又は材料費は、別途計上すること。
3. 本コードはクローラクレーン、バイプロハンマ、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。
4. J 12 条件で②を選択した場合は、J 15 条件は入力の必要はない。

表 7. 1 作業条件による補正係数 (f1)

作業条件	現場条件	
	かなりある	なし
家屋、鉄道、橋梁、道路施設、構造物などによる障害の程度 (作業中断の有無、並びに機械の行動に制約される。)	①	②

表 7. 2 作業条件による補正係数 (f2)

作業条件	現場条件	
	不良	普通
現場の広さによる作業難易の程度 (機械の移動、矢板の仮置場所、矢板の吊込などに十分な広さがあるか。)	①	②

表 7. 3 作業条件による補正係数 (f3)

作業条件	現場条件		
	不良	普通	良
足場の状況により作業に及ぼす程度 (不陸、軟弱等による足場の良否)	①	②	③

表 7. 4 作業条件による補正係数 (f4)

作業条件 現場条件	100 枚未満	100 枚以上 300 枚未満	300 枚以上
	①	②	③

(2) 軽量鋼矢板引き工

施工歩掛コード		WB251020		施工単位		枚								
施工区分		入 力 条 件												
作業内容		J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12	J 13
各 種	矢板長	矢板根入長	矢板の種類	レキ質土・砂・砂質土 に対する根入長	粘性土に対する根入長	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	作業条件による補正係数	トラッククレーンの有無	使用電源	杭打機供用日当り運転時間	トラッククレーン供用日当り運転時間
	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	軽量鋼板 ① 250 mm ② 333 mm	(m) (実数入力)	(m) (実数入力)	f 1 (表 7.1)	f 2 (表 7.2)	f 3 (表 7.3)	f 4 (表 7.4)	①有 ②無	① 発電機 ② 商用電源	(実数入力) 標準 [1.0]	(実数入力) 標準 [1.0]	

- (注) 1. 商用電源の場合は、電力料 (Y-7500000) を単価登録すること。
2. 軽量鋼矢板の賃料又は材料費は、別途計上すること。
3. 本コードはクローラクレーン、バイプロハンマ、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。
4. J 10 条件で②を選択した場合は、J 13 条件は入力する必要はない。

②－３ 油圧圧入引抜き

1. 適用範囲

本資料は、油圧式杭圧入引抜き機による鋼矢板の圧入（ $N_{max} \leq 600$ ）及び引抜きの施工に適用する。

なお、継矢板の施工法は、先行する鋼矢板を圧入後、それに接続する鋼矢板を鉛直に建込んだ状態で継手部を溶接するものである。

$N_{max} \leq 50$ での施工における油圧式杭圧入引抜き機の反力チャックのつかみ代は次のとおりとする。

- ・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ_L、Ⅵ_L、Ⅱw、Ⅲw、Ⅳw型の場合：500mmを標準とする。
- ・ハット形鋼矢板（10H、25H型）の場合：550mmを標準とする。

$N_{max} \leq 50$ での施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は反力チャックのつかみ代と同じ幅を標準とする。なお、 $50 < N_{max} \leq 600$ の施工における布掘深さ（又は、地表面よりの余裕高さ）は、1,000mmを標準とする。

また、鋼矢板型式毎の圧入長（引抜長）の適用範囲は、次表を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

鋼矢板の型式		Ⅱ型	Ⅲ型	Ⅳ型	Ⅴ _L 型	Ⅵ _L 型	Ⅱw型	Ⅲw型	Ⅳw型	10H型	25H型
圧入長	$N_{max} \leq 25$	10以下	15以下	20以下	25以下	25以下	12以下	25以下	25以下	12以下	25以下
	$N_{max} \leq 50$	12以下	18以下	20以下	25以下	25以下	14以下	25以下	25以下	14以下	25以下
	$50 < N_{max} \leq 600$	10以下	15以下	20以下	25以下	25以下	12以下	25以下	25以下	—	—
引抜長		12以下	18以下	20以下	25以下	25以下	—				

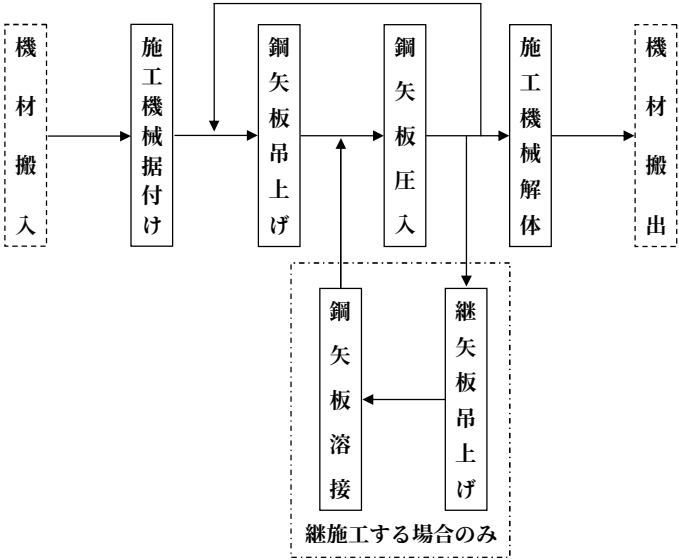
- (注) 1. 圧入長（引抜長）とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長（引抜長）であり、鋼矢板長とは異なる。
2. 圧入（ $N_{max} \leq 50$ ）は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する場合は適用出来る。
3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。
4. 圧入（ $600 < N_{max}$ ）は別途考慮する。

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。

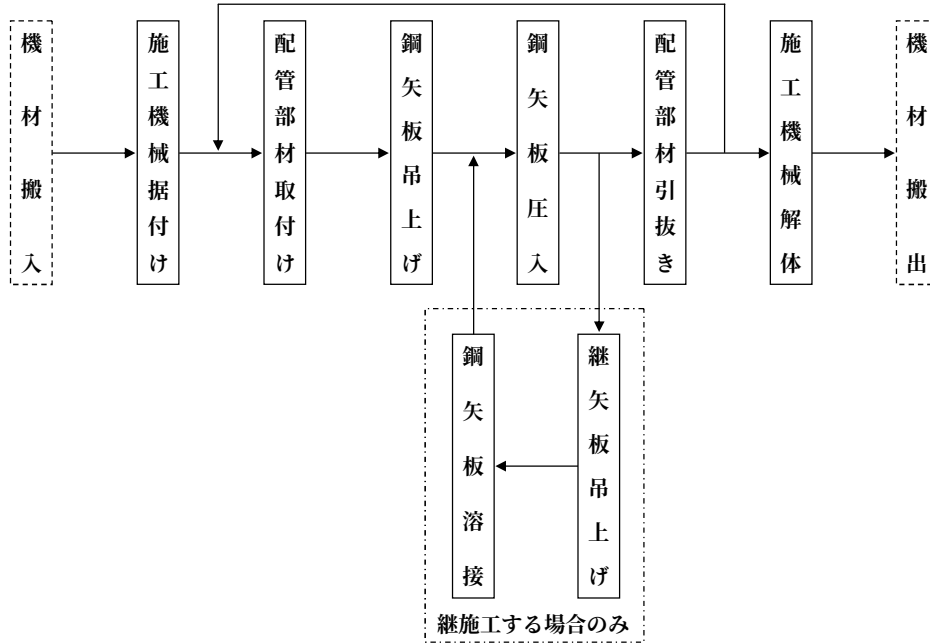
(1) 圧入（ $N_{max} \leq 25$ ）



※ 施工機械足場用の敷鉄板の施工を含む。

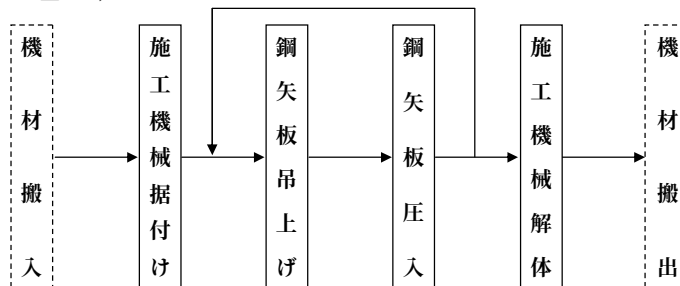
(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー（圧入（ $N_{max} \leq 25$ ））

(2) 圧入 ($N_{\max} \leq 50$)

※ 施工機械足場用の敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

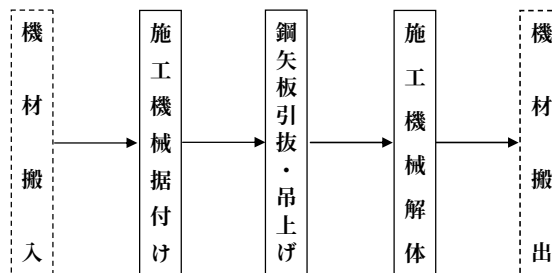
図2-2 施工フロー (圧入 ($N_{\max} \leq 50$))(3) 圧入 ($50 < N_{\max} \leq 600$)

※ 施工機械足場用の敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-3 施工フロー (圧入 ($50 < N_{\max} \leq 600$))

(4) 引抜き



※ 施工機械足場用の敷鉄板の施工を含む。

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-4 施工フロー (引抜き)

3. 施 工 歩 掛

3-1 機種を選定

(1) 油圧式杭圧入引抜機

油圧式杭圧入引抜機の規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作業の種類		圧 入			引 抜 き
最 大 N 値		Nmax≤25	Nmax≤50	50<Nmax≤600	—
鋼 矢 板 型 式	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（第1次基準値） 圧入力 981～1,471kN 引抜力 1,079～1,569kN		エンジン式ユニット(硬質地盤専用)・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 （第1次基準値） 圧入力 981～1,471kN 引抜力1,079～1,569kN
	V _L ・VI _L 型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（第1次基準値） 広幅鋼矢板用 圧入力 981～1,471kN 引抜力1,079～1,569kN		エンジン式ユニット(硬質地盤専用)・ 排出ガス対策型（第2次基準値） 広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引抜力 900kN	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型 （第1次基準値） 広幅鋼矢板用 圧入力 981～1,471kN 引抜力1,079～1,569kN
	Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw型				—
	10H・25H型	エンジン式ユニット・ 排出ガス対策型（第2次基準値） ハット形鋼矢板900mm用 圧入力 1,000kN 引抜力 1,100kN		—	—

(注) 圧入 ($N_{max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する場合は適用できる。

(2) 付属機械

油圧式杭圧入引抜機の付属機械の機械・規格は、次表を標準とする。

表3.2 付属機械の機種を選定

作業の種類 機械名	圧入 ($N_{max} \leq 25$) 引抜き	圧入 ($N_{max} \leq 50$)	圧入 ($50 < N_{max} \leq 600$)	備 考
ラフテレーンクレーン (注)4	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊 (注)2		油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 50～51 t 吊 (注)2	陸上からの施工時のみ
杭 打 ち 用 ウ ェ ー タ ジ ェ ッ ト	—	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	—	
ク レ ー ン 付 台 船	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積 (注)3		—	水上からの施工時のみ
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT (注)3		—	

(注) 1. 圧入 ($N_{max} \leq 50$) は、杭打ち用ウェータジェットを使用する場合に適用するものとし、 $N_{max} \leq 25$ においても転石等によりやむを得ず杭打ち用ウェータジェットを使用する場合は適用できる。

2. ラフテレーンクレーンは、損料とする。

3. 水上施工の場合の注意事項

- ・潜水土船を必要に応じ計上する。
- ・海上及び港湾工事で、上表により難しい場合は別途考慮する。
- ・クレーン付台船には、圧入 ($N_{max} \leq 25$) 時は油圧式杭圧入引抜機、同油圧ユニット、電気溶接機及び鋼矢板を搭載するものとし、鋼矢板の搭載質量は、230 t (圧入 ($N_{max} \leq 50$) 時は杭打ち用ウェータジェット、水槽も搭載し、鋼矢板の搭載質量は、210 t) 以下とする。

4. 現場条件により上表により難しい場合は、現場条件に適した規格を選定すること。

5. 濁水処理装置が必要な場合は、「第Ⅱ編5章⑦濁水処理工(一般土木工事)」により別途計上する。

3-2 日当り編成人員

(1) 油圧圧入引抜工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.3 日当り編成人員 (人/日)				
作業の種類	土木一般世話役	特殊作業員	とび工	溶接工(注)2
圧入($N_{max} \leq 25$)	1	1	2	2
圧入($N_{max} \leq 50$)	1	1	2	2
圧入($50 < N_{max} \leq 600$)	1	1	2	—
引抜き	1	1	2	—

(注) 1. 圧入 ($N_{max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
2. 溶接工は継矢板を施工する場合のみ計上する。

(2) 水上施工の1船団に対する船舶作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.4 船舶作業の日当り編成人員 (人/日)			
職種	クレーン付台船	引船	
高級船員	1	1	

(注) 1. 船員は、休日以外の休止日については、共通仮設費の準備費における繋船費として計上する。
2. 潜水士が必要な場合は、船員と同様な方法で別途計上する。
3. 海上及び港湾工事で、上表により難しい場合は別途考慮する。
4. 上表は、圧入又は引抜作業の配置人員であり、搬入、搬出等の回航は共通仮設費の運搬費として計上する。

3-3 日当り施工枚数

(1) 圧入、引抜き（継施工なし）

鋼矢板の圧入及び引抜作業における日当り施工枚数（N）は、表3.5～表3.12を標準とする。

1) 圧入 ($N_{max} \leq 25$)

表3.5 日当り施工枚数 (N) (枚/日)							
鋼矢板型式 \ 圧入長	6m以下	9m以下	12m以下	15m以下	19m以下	23m以下	25m以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	35	28	22	18	15	13	—
V _L ・VI _L 型	31	24	19	16	13	11	9.7
Ⅱ _w ・Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	31	24	19	15	13	11	9.5
10H・25H型	28	21	17	14	11	9.3	8.3

(注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1.1による。
3. 最小圧入長は、4.0m以上を標準とする。
4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

2) 圧入 ($N_{\max} \leq 50$)

表3.6 日当り施工枚数 (N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	24 (27)	19 (22)	16 (18)	13 (15)	11 (13)	9.3 (11)	— (—)
V _L ・VI _L 型	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	10 (12)	8.4 (9.9)	7.5 (8.9)
Ⅱ _W ・Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型	23 (25)	18 (20)	14 (16)	12 (14)	9.8 (11)	8.3 (9.7)	7.4 (8.7)
10H・25H型	21 (23)	16 (19)	13 (15)	11 (12)	8.7 (10)	7.3 (8.8)	6.5 (7.8)

(注) 1. 圧入 ($N_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。

2. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

3. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。

4. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。

5. 上 段: $25 < N_{\max} \leq 50$ 下段()書き: $N_{\max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要性が生じた場合。

6. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

3) 圧入 ($50 < N_{\max} \leq 100$)

表3.7 日当り施工枚数 (N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	13	9.2	6.9	5.5	4.4	3.6	—
V _L ・VI _L 型	12	8.2	6.1	4.8	3.9	3.2	2.8
Ⅱ _W ・Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型	12	8.2	6.1	4.8	3.9	3.2	2.8

(注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。

3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。

4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

5. 本歩掛は、オーガによる先行掘削の有無にかかわらず適用出来る。

4) 圧入 ($100 < N_{\max} \leq 180$)

表3.8 日当り施工枚数 (N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	11	7.8	5.7	4.6	3.7	3.0	—
V _L ・VI _L 型	9.7	6.8	5.0	4.0	3.2	2.6	2.3
Ⅱ _W ・Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型	9.7	6.8	5.0	4.0	3.2	2.6	2.3

(注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。

3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。

4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

5. 本歩掛は、オーガによる先行掘削の有無にかかわらず適用出来る。

5) 圧入 ($180 < N_{\max} \leq 250$)

表3.9 日当り施工枚数 (N) (枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	11	7.4	5.4	4.3	3.5	2.8	—
V _L ・VI _L 型	9.4	6.5	4.8	3.7	3.0	2.5	2.2
Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw型	9.4	6.5	4.8	3.7	3.0	2.5	2.2

- (注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
 2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。
 4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。
 5. 本歩掛は、オーガによる先行掘削の有無にかかわらず適用出来る。

6) 圧入 ($250 < N_{\max} \leq 375$)

表3.10 日当り施工枚数 (N) (枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	9.3	6.4	4.7	3.7	3.0	2.4	—
V _L ・VI _L 型	8.1	5.6	4.1	3.2	2.6	2.1	1.8
Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw型	8.1	5.6	4.1	3.2	2.6	2.1	1.8

- (注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
 2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。
 4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。
 5. 本歩掛は、オーガによる先行掘削の有無にかかわらず適用出来る。

7) 圧入 ($375 < N_{\max} \leq 600$)

表3.11 日当り施工枚数 (N) (枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型	7.6	5.2	3.8	3.0	2.4	1.9	—
V _L ・VI _L 型	6.6	4.5	3.3	2.6	2.1	1.7	1.5
Ⅱw・Ⅲw・Ⅳw型	6.6	4.5	3.3	2.6	2.1	1.7	1.5

- (注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
 2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 3. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。
 4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。
 5. 本歩掛は、オーガによる先行掘削の有無にかかわらず適用出来る。

8) 引抜き

表3.12 日当り施工枚数(N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 引抜長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ _L ・Ⅵ _L 型	58	48	40	34	30	25	23

- (注) 1. 引抜長とは、地表面より鋼矢板の引抜長であり、鋼矢板長とは異なる。
 2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 3. 最小引抜長は、4. 0m以上を標準とする。
 4. 日当り施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

(2) 圧入(継施工あり)

鋼矢板1枚につき1箇所継施工(圧入)する場合の日当り施工枚数(N)は、表3.13～表3.14を標準とする。

鋼矢板1枚につき2箇所以上継施工を行う場合は、表3.15の補正係数を、表3.13～表3.14の枚数に乗じて、日当り継施工枚数を求める。

(注) 鋼矢板1枚当りX箇所継ぐ場合の日当り継施工枚数 $N' = N \times F$ (F:補正係数)

日当り継施工枚数 N' が10以上の場合は、小数第1位を四捨五入し、整数とする。

日当り継施工枚数 N' が10未満の場合は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位とする。

1) 圧入継施工 ($N_{\max} \leq 25$)

表3.13 日当り継施工枚数(N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ型	17	15	13	—	—	—	—
Ⅲ型	14	13	11	10	—	—	—
Ⅳ型	13	12	10	9.5	8.6	7.9	—
Ⅴ _L 型	7.6	7.1	6.6	6.2	5.7	5.2	5.0
Ⅵ _L 型	6.4	6.0	5.6	5.3	5.0	4.6	4.4
Ⅱ _w 型	15	13	11	—	—	—	—
Ⅲ _w 型	12	11	9.7	8.6	7.9	7.1	6.2
Ⅳ _w 型	9.2	8.4	7.7	7.0	6.5	6.0	5.3
10H型	8.4	7.6	7.0	—	—	—	—
25H型	6.8	6.3	5.9	5.5	5.0	4.5	4.2

- (注) 1. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
 2. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 3. 最小圧入長は、4.0m以上を標準とする。
 4. 日当り継施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

2) 圧入継施工 ($N_{\max} \leq 50$)

表3. 14 日当り継施工枚数 (N)

(枚/日)

鋼矢板型式 \ 圧入長	6m 以下	9m 以下	12m 以下	15m 以下	19m 以下	23m 以下	25m 以下
Ⅱ型	14 (15)	12 (13)	11 (12)	—	—	—	—
Ⅲ型	12 (13)	11 (11)	9.6 (10)	8.4 (9.2)	7.5 (8.4)	—	—
Ⅳ型	11 (11)	9.7 (10)	8.9 (9.5)	7.9 (8.6)	7.1 (7.9)	6.2 (7.1)	—
V _L 型	7.0 (7.1)	6.4 (6.7)	5.8 (6.2)	5.5 (5.8)	5.0 (5.5)	4.4 (5.0)	4.4 (4.7)
VI _L 型	5.9 (6.1)	5.5 (5.7)	5.1 (5.3)	4.8 (5.1)	4.4 (4.8)	4.0 (4.4)	4.0 (4.2)
Ⅱw型	13 (13)	11 (12)	9.4 (10)	8.5 (9.4)	—	—	—
Ⅲw型	11 (11)	9.5 (10)	8.2 (8.9)	7.5 (8.2)	6.7 (7.1)	5.7 (6.7)	5.2 (6.2)
Ⅳw型	8.3 (8.6)	7.5 (7.9)	6.7 (7.2)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	5.0 (5.7)	4.6 (5.3)
10H型	7.6 (7.9)	6.9 (7.4)	6.2 (6.7)	5.7 (6.0)	—	—	—
25H型	6.3 (6.5)	5.8 (6.1)	5.3 (5.6)	5.0 (5.1)	4.5 (4.7)	3.9 (4.5)	3.9 (4.2)

- (注) 1. 圧入 ($N_{\max} \leq 50$) は、杭打ち用ウォータージェットを使用する場合に適用する。
 2. 圧入長とは、地表面よりの鋼矢板の圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。
 3. 鋼矢板型式毎の適用範囲は、表1. 1による。
 4. 最小圧入長は、4. 0m以上を標準とする。
 5. 上 段： $25 < N_{\max} \leq 50$
 下段()書き： $N_{\max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する
 必要が生じた場合。
 6. 日当り継施工枚数には、敷鉄板の施工手間が含まれている。

3) 鋼矢板1枚当り継施工箇所数による補正

表3. 15 補正係数(F) (鋼矢板1枚当り2箇所以上継施工を行う場合)

鋼矢板1枚当り継施工箇所数 (X)	2箇所	3箇所	4箇所	5箇所
補正係数 (F)	0.66	0.50	0.40	0.34

(3) 継施工費

「第Ⅱ編第5章仮設工②－1パイプロハンマ工3. 施工歩掛3－3日当り施工枚(本)数(3)継施工費」により別途計上する。

(4) 鋼矢板の引抜き・切断

鋼矢板を鉛直に吊上げた状態で、鋼矢板を切断する場合については、別途計上する。

(5) 油圧式杭圧入引抜機の据付け・解体歩掛

据付け・解体は、施工前の準備としての施工機械の配置、試運転調整等と施工後の施工機械の解体・撤去作業であり、歩掛は次表を標準とする。

表3.16 据付・解体歩掛

作業の種類	労務(人/回)			組合せ機械運転時間(日/回)	
	土木一般世話役	特殊作業員	とび工	油圧式杭圧入引抜機	ラフテレーンクレーン
圧入($N_{max} \leq 25$)	0.29	0.29	0.58	0.25	0.30
圧入($N_{max} \leq 50$)	0.50	0.50	1.00	0.29	0.45
圧入($50 < N_{max} \leq 600$)	1.10	1.10	2.19	0.59	0.90
引抜き	0.19	0.19	0.39	0.13	0.19

- (注) 1. 圧入($N_{max} \leq 50$)は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用する。
 2. 本歩掛は、既設鋼矢板、反力架台いずれを使用する場合も適用出来る。
 3. 本表は、据付・解体1回当りの歩掛である。したがって、1工事で機械1組につき、工事着工時には1回、現場内移設時には移設回数分計上する。
 4. 水上施工等で反力架台が設置出来ない場合には、初期鋼矢板の施工は、パイプロハンマ工により別途計上する。また、引抜きにおいても残鋼矢板の施工はパイプロハンマ工により別途計上する。
 (初期又は残鋼矢板：Ⅱ～Ⅳ型4枚、 $V_L \sim VI_L$ 型及びⅡw～Ⅳw型3枚、10H・25H型4枚)
 なお、クレーン付台船及び引船の運転日数は、土木一般世話役の歩掛を「日/回」と読み替えて適用するものとし、回航費用は別途計上する。

3-4 諸雑費

圧入($N_{max} \leq 25$)、圧入($N_{max} \leq 50$)及び引抜きにおける諸雑費は、溶接棒、施工機械足場用の敷鉄板賃料、電気溶接機損料、ウォータジェット併用施工用付属機器に関する経費(配管バンド、溶接棒、電気溶接機損料、工事用水中モータポンプ損料、水槽及び配管損料)、現場内小運搬に関する経費、電力に関する経費等の費用(継施工に関する経費は除く)であり、労務費、機械損料及び機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

圧入($50 < N_{max} \leq 600$)における諸雑費は、溶接棒、施工機械足場用の敷鉄板賃料、電気溶接機損料、現場内小運搬に関する経費、排出土処理用のバックホウ運転に関する経費、オーガスクリュ及びオーガヘッド並びにケーシング損料等の費用であり、労務費、機械損料及び機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

なお、上記諸雑費に含まれるもの以外で施工に際し、オーガスクリュ及びオーガヘッド等へ付着した土等を除去するための高圧洗浄機やエアーコンプレッサーを用いる必要が生じた場合は、別途考慮すること。

表3.17 諸雑費率

(%)

作業の種類	陸上施工				水上施工			
	継施工なし		継施工あり		継施工なし		継施工あり	
	普通・広幅鋼矢板	ハット形鋼矢板	普通・広幅鋼矢板	ハット形鋼矢板	普通・広幅鋼矢板	ハット形鋼矢板	普通・広幅鋼矢板	ハット形鋼矢板
圧入($N_{max} \leq 25$)	1	1	2	2	1	1	3	2
圧入($N_{max} \leq 50$)	8	6	8	7	6	5	8	7
圧入($50 < N_{max} \leq 600$)	16	—						
引抜き	0.2 (注)2	—						

- (注) 1. 圧入($N_{max} \leq 50$)は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用する。
 2. 引抜きの諸雑費率は、広幅鋼矢板には適用しない。

4. 単 価 表

(1) 鋼矢板圧入10枚当り単価表 (Nmax≤25)

			施工歩掛コード	WB251330
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.3 表3.5
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値)25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表3.2 (注)2 〃 機械損料
クレーン付台船運 転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)3 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)3 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

- (注) 1. N：日当り施工枚数 (枚／日)
 2. 陸上からの施工時のみ計上する。
 3. 水上からの施工時のみ計上する。

(2) 鋼矢板圧入10枚当り単価表 (Nmax≤50)

			施工歩掛コード	WB251340
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.3 表3.6
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1 〃 機械損料
杭 打 ち 用 ウォータジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	〃	$\frac{10}{N}$	表3.2 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値)25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)3 〃 機械損料
クレーン付台船運転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)4 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)4 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

(注) 1. 本単価表は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用する。

2. N：日当り施工枚数(枚/日)

3. 陸上からの施工時のみ計上する。

4. 水上からの施工時のみ計上する。

(3) 鋼矢板圧入10枚当り単価表 (50<Nmax≤600)

			施工歩掛コード	WB251390
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.3 表3.7～表3.11
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第1次基準値)50～51 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表3.2 (注)2 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

- (注) 1. N：日当り施工枚数（枚／日）
2. 陸上からの施工時のみ計上する。

(4) 継鋼矢板圧入10枚当り単価表（Nmax≤25）

		施工歩掛コード		WB251350
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 1$	表3.3 表3.13, 表3.15
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 1$	〃 〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 2$	〃 〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 2$	〃 〃 〃
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	表3.1 表3.13, 表3.15 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	表3.2 (注)2 〃 〃 機械損料
クレーン付台船運転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	〃 (注)3 〃 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	〃 (注)3 〃 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

- (注) 1. NorN'：日当り継施工枚数（枚／日）
X：1枚当り継施工箇所数（箇所／枚）
2. 陸上からの施工時のみ計上する。
3. 水上からの施工時のみ計上する。

(5) 継鋼矢板圧入10枚当り単価表 (Nmax≤50)

		施工歩掛コード		WB251360
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 1$	表3.3 表3.14, 表3.15
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 1$	〃 〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 2$	〃 〃 〃
溶 接 工		〃	$\frac{10}{\text{NorN}'} \times 2$	〃 〃 〃
継 施 工 費		箇所	10×X	
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	表3.1 表3.14, 表3.15 機械損料
杭 打 ち 用 ウォータジェット運転	エンジン式・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	表3.2 〃 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値)25 t 吊	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	〃 (注)3 〃 〃 機械損料
クレーン付台船運転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	〃 (注)4 〃 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	$\frac{10}{\text{NorN}'}$	〃 (注)4 〃 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

(注) 1. 本単価表は、杭打ち用ウォータジェットを使用する場合に適用する。

2. NorN'：日当り継施工枚数（枚／日）
X：1枚当り継施工箇所数（箇所／枚）
3. 陸上からの施工時のみ計上する。
4. 水上からの施工時のみ計上する。

(6) 鋼矢板引抜き10枚当り単価表

		施工歩掛コード		WB251370
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.3 表3.12
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値)25 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表3.2 (注)2 〃 機械損料
クレーン付台船運転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)3 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	$\frac{10}{N}$	〃 (注)3 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表3.17
計				

- (注) 1. N：日当り施工枚数(枚/日)
 2. 陸上からの施工時のみ計上する。
 3. 水上からの施工時のみ計上する。

(7) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体1回当り単価表

		施工歩掛コード		WB251380
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.16
特 殊 作 業 員		〃		〃
と び 工		〃		〃
油圧式杭圧入引抜機運転		日		表3.1 表3.16 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値)25 t 吊	〃		表3.2 (注)2 〃 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第1次基準値)50～51 t 吊	〃		〃 (注)2 〃 機械損料
クレーン付台船運転	クローラクレーン35～40 t 吊 台船300 t 積	〃	da	〃 (注)3 〃 機械損料
引 船 運 転	鋼製 D 100PS型 4.9GT	〃	da	〃 (注)3 〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. da: 土木一般世話役の据付・解体歩掛 (日/回)

2. 陸上からの施工時のみ計上する。

3. 水上からの施工時のみ計上する。

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・排出ガス対策型(第1次基準値) 圧入力 981～1,471kN 引拔力 1,079～1,569kN	機－24	燃料消費量 →132 機械損料数量→1.45
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・排出ガス対策型(第1次基準値)広幅鋼矢板用 圧入力 981～1,471kN 引拔力 1,079～1,569kN	機－24	燃料消費量 →132 機械損料数量→1.45
油圧式杭圧入引抜機	エンジン式ユニット・排出ガス対策型(第2次基準値) ハット形鋼矢板900mm用 圧入力 1,000kN 引拔力 1,100kN	機－24	燃料消費量 →202 機械損料数量→1.45
油圧式杭圧入引抜機 (鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用)	エンジン式ユニット(硬質地盤専用)・排出ガス対策型(第2次基準値)普通鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 900kN	機－24	燃料消費量 →202 機械損料数量→1.45
油圧式杭圧入引抜機 (鋼矢板Ⅴ _L ・Ⅵ _L ・Ⅱ _W ・Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型用)	エンジン式ユニット(硬質地盤専用)・排出ガス対策型(第2次基準値)広幅鋼矢板用 圧入力 800kN 引拔力 900kN	機－24	燃料消費量 →202 機械損料数量→1.45
杭打ち用 ウォータージェット	エンジン式・排出ガス対策型(第1次基準値) 圧力 14.7MPa 吐出量 325ℓ/min	機－24	燃料消費量 →120 機械損料数量→1.45
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →107 機械損料数量→1.45
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 50～51 t 吊	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →139 機械損料数量→1.45
クレーン付台船	(クローラクレーン) 35～40 t 吊 (台船) 300 t 積	機－11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 運転労務数量→1.00 (クローラクレーン) 燃料消費量 →45 機械損料数量→1.45 機械損料単位→供用日 (台船) 機械損料数量→1.45
引 船	鋼製 D 100PS型 4.9GT	機－11	運転1日当り単価表 船員名称 →高級船員 運転労務数量→1.00 主燃料 →重油 燃料消費量 →57 機械損料数量→1.21 機械損料単位→供用日

5. 施工単価入力基準表

(1) 圧入 ($N_{\max} \leq 25$)

施工歩掛コード	WB251330	施工単位	枚	
施工区分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	施工場所	鋼矢板型式	圧入長	ラフテレーン クレーン規格
	①陸上 ②水上	(表5.1)	(表5.2)	①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は, J 4 条件は入力する必要はない。

2. J 1 条件で②を選択した場合は, 必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。

3. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

4. 鋼矢板の賃料又は, 材料費については「第Ⅱ編第5章仮設工②－1 バイプロハンマ工WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上すること。

表5.1 鋼矢板型式

鋼矢板型式	入力番号
Ⅱ型	①
Ⅲ型	②
Ⅳ型	③
V _L 型	④
VI _L 型	⑤
Ⅱ _w 型	⑥
Ⅲ _w 型	⑦
Ⅳ _w 型	⑧
10H型	⑨
25H型	⑩

表5.2 圧入長 ($N_{\max} \leq 25$)

鋼矢板 型 式	圧入長 (m)		6 以下	9 以下	10 以下	12 以下	15 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
			入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
Ⅱ型			○	○	○	—	—	—	—	—	—
Ⅲ型			○	○	—	○	○	—	—	—	—
Ⅳ型			○	○	—	○	○	○	○	—	—
V _L ・VI _L 型			○	○	—	○	○	○	—	○	○
Ⅱ _w 型			○	○	—	○	—	—	—	—	—
Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型			○	○	—	○	○	○	—	○	○
10H型			○	○	—	○	—	—	—	—	—
25H型			○	○	—	○	○	○	—	○	○

(注) 1. ○印は, 鋼矢板型式毎の選択可能な圧入長を示したものである。

2. 圧入長とは, 地表面よりの圧入長であり, 鋼矢板長とは異なる。

(2) 圧入 ($N_{max} \leq 50$)

施工歩掛コード	WB251340	施工単位	枚		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工場所	最大N値	鋼矢板型式	圧入長	ラフテレーン クレーン規格
	①陸上 ②水上	① $25 < N_{max} \leq 50$ ② $N_{max} \leq 25$ (ウォータージェット使用時)	(表5.1)	(表5.3)	①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。
 3. J 2 条件②は、 $N_{max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要がある場合のみ選択する。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 5. 鋼矢板の賃料又は、材料費については「第Ⅱ編第5章仮設工②－1パイプロハンマ工WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上すること。

表5.3 圧入長 ($N_{max} \leq 50$)

鋼矢板 型 式	6 以下	9 以下	12 以下	14 以下	15 以下	18 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
Ⅱ型	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
Ⅲ型	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—
Ⅳ型	○	○	○	—	○	—	○	○	—	—
V _L ・VI _L 型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○
Ⅱ _w 型	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○
10H型	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
25H型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○

- (注) 1. ○印は、鋼矢板型式毎の選択可能な圧入長を示したものである。
 2. 圧入長とは、地表面よりの圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

(3) 圧入 ($50 < N_{max} \leq 600$)

施工歩掛コード	WB251390	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	最大N値	鋼矢板型式	圧入長
	① $50 < N_{max} \leq 100$ ② $100 < N_{max} \leq 180$ ③ $180 < N_{max} \leq 250$ ④ $250 < N_{max} \leq 375$ ⑤ $375 < N_{max} \leq 600$	(表5.1)	(表5.4)

- (注) 1. J 2 条件の⑨、⑩は、選択することが出来ない。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 3. 鋼矢板の賃料又は、材料費については「第Ⅱ編第5章仮設工②－1パイプロハンマ工WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上すること。

表5.4 圧入長 (50<Nmax≤600)

鋼矢板 型 式	圧入長 (m)	6 以下	9 以下	10 以下	12 以下	15 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
		入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
Ⅱ型		○	○	○	—	—	—	—	—	—
Ⅲ型		○	○	—	○	○	—	—	—	—
Ⅳ型		○	○	—	○	○	○	○	—	—
V _L ・VI _L 型		○	○	—	○	○	○	—	○	○
Ⅱ _W 型		○	○	—	○	—	—	—	—	—
Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型		○	○	—	○	○	○	—	○	○

(注) 1. ○印は、鋼矢板型式毎の選択可能な圧入長を示したものである。

2. 圧入長とは、地表面よりの圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

(4) 圧入継施工 (Nmax≤25)

施工歩掛コード	WB251350	施工単位	枚		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工場所 ①陸上 ②水上	鋼矢板型式 (表5.1)	圧入長 (表5.5)	鋼矢板 1枚当り 継施工箇所数 (表5.6)	ラフテレーン クレーン規格 ①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)

(注) 1. J 1条件で②を選択した場合は、J 5条件は入力する必要はない。

2. J 1条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。

3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

4. 本コードは、J 4条件で入力した箇所数分の継施工費が計上される。

5. 鋼矢板の賃料又は、材料費については「第Ⅱ編第5章仮設工②—1パイプロハンマ工WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上すること。

表5.5 圧入長 (継施工 Nmax≤25)

鋼矢板 型 式	圧入長 (m)	6 以下	9 以下	10 以下	12 以下	15 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
		入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
Ⅱ型		○	○	○	—	—	—	—	—	—
Ⅲ型		○	○	—	○	○	—	—	—	—
Ⅳ型		○	○	—	○	○	○	○	—	—
V _L ・VI _L 型		○	○	—	○	○	○	—	○	○
Ⅱ _W 型		○	○	—	○	—	—	—	—	—
Ⅲ _W ・Ⅳ _W 型		○	○	—	○	○	○	—	○	○
10H型		○	○	—	○	—	—	—	—	—
25H型		○	○	—	○	○	○	—	○	○

(注) 1. ○印は、鋼矢板型式毎の選択可能な圧入長を示したものである。

2. 圧入長とは、地表面よりの圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

表5.6 鋼矢板1枚当り継施工箇所数

鋼矢板1枚当り継施工箇所数(X)	標準(1)	2	3	4	5
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤

(5) 圧入継施工 ($N_{max} \leq 50$)

施工歩掛コード	WB251360	施工単位	枚			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	施工場所	最大N値	鋼矢板 型式	圧入長	鋼矢板 1枚当り 継施工 箇所数	ラフテレーン クレーン規格
	①陸上 ②水上	① $25 < N_{max} \leq 50$ ② $N_{max} \leq 25$ (ウォータジェット使用時)	(表5.1)	(表5.7)	(表5.6)	①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)

- (注) 1. J 1条件で②を選択した場合は、J 6条件は入力する必要はない。
 2. J 1条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。
 3. J 2条件②は、 $N_{max} \leq 25$ で、転石等により、やむを得ず杭打ち用ウォータジェットを使用する必要がある場合のみ選択する。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 5. 鋼矢板の賃料又は、材料費については「第Ⅱ編第5章仮設工②－1パイプロハンマ工WB250150, WB250160, WB250170」により別途計上すること。

表5.7 圧入長(継施工 $N_{max} \leq 50$)

鋼矢板 型 式	圧入長 (m)	6 以下	9 以下	12 以下	14 以下	15 以下	18 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
Ⅱ型	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
Ⅲ型	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—
Ⅳ型	○	○	○	—	○	—	○	○	—	—	—
V _L ・VI _L 型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○	○
Ⅱ _w 型	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
Ⅲ _w ・Ⅳ _w 型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○	○
10H型	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
25H型	○	○	○	—	○	—	○	—	○	○	○

- (注) 1. ○印は、鋼矢板型式毎の選択可能な圧入長を示したものである。
 2. 圧入長とは、地表面よりの圧入長であり、鋼矢板長とは異なる。

(6) 引抜き

施工歩掛コード	WB251370	施工単位	枚		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	
	施工場所	鋼矢板型式	引抜長	ラフテレーン クレーン規格	
	①陸上 ②水上	(表5.1)	(表5.8)	①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)	

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は入力する必要はない。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。
 3. J 2 条件での⑥～⑩は、選択することが出来ない。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

表5.8 引抜長

引抜長 (m)	6 以下	9 以下	12 以下	15 以下	18 以下	19 以下	20 以下	23 以下	25 以下
	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号	入力 番号
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
II型	○	○	○	—	—	—	—	—	—
III型	○	○	○	○	○	—	—	—	—
IV型	○	○	○	○	—	○	○	—	—
V _L ・VI _L 型	○	○	○	○	—	○	—	○	○

- (注) 1. ○印は、鋼矢板型式毎の選択可能な引抜長を示したものである。
 2. 引抜長とは、地表面よりの鋼矢板の引抜長であり、鋼矢板長とは異なる。

(7) 油圧式杭圧入引抜機据付・解体

施工歩掛コード	WB251380	施工単位	回	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分 ①圧入 (Nmax≤25) ②圧入 (Nmax≤50) ③圧入 (50<Nmax≤600) ④引抜き	鋼矢板型式 (表5.1)	施工場所 ①陸上 ②水上	ラフテレーン クレーン規格 ①排出ガス対策型 (第2次基準値) ②排出ガス対策型 (第1次基準値)

- (注) 1. J 1 条件で③を選択した場合は、J 2 条件で⑨⑩及びJ 4 条件を選択することが出来ない。
 2. J 1 条件で④を選択した場合は、J 2 条件で⑥～⑩を選択することが出来ない。
 3. J 3 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は入力する必要はない。
 4. J 3 条件で②を選択した場合は、必要に応じて繋船費及び回航費用を共通仮設費に計上する。
 5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 6. 施工数量は据付・解体を1回として入力し、1工事で機械1組につき、工事着手時には1回、現場内移設時には移設回数分計上する。
 7. 水上施工等で反力架台が設置出来ない場合には、初期矢板(残矢板)の施工を「第II編第5章仮設工②—1パイプロハンマ工」により別途積算する。

②－４ ディーゼルハンマ・プレボーリング

1. 適用範囲

本資料は、ディーゼルハンマ工法によるH形鋼の施工（打込み）及びプレボーリング工法によるH形鋼の施工（打込み）に適用する。

2. 機種選定

2－1 ディーゼルハンマの規格

(1) 機械の種類

施工機械は、土質、打込長による施工性及び騒音、振動等を考慮し、現場条件に適した機種を選定する。

(2) 機械の規格

機械の規格は、H形鋼のサイズ、打込長、土質などにより異なるが、一般的には、次表を標準とする。

図2.1 ディーゼルハンマ規格選定図

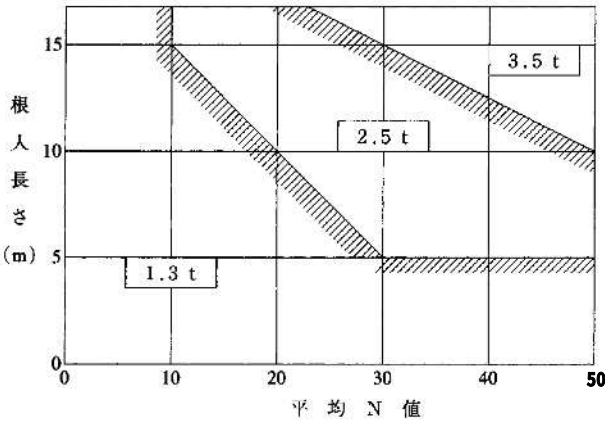


表2.1 クローラ式杭打機標準機種

ディーゼルハンマ規格	杭打機
ラム質量1.3 t	ディーゼルハンマ・ブーム式
〃 2.5 t	〃
〃 3.5 t	ディーゼルハンマ直結三点支持式

2－2 アースオーガ（プレボーリング用）の規格

図2.2 アースオーガ規格選定図

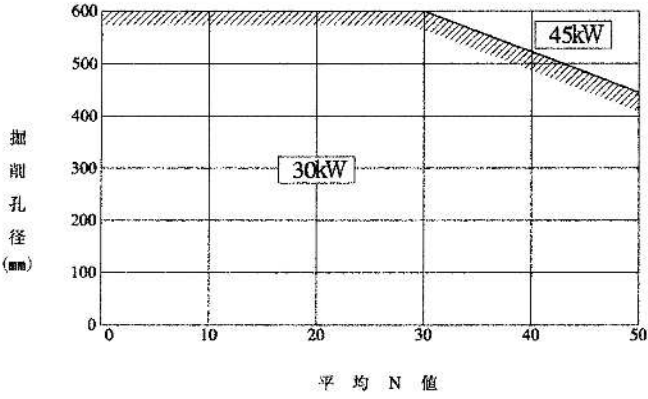


表2.2 クローラ式杭打機標準機種

アースオーガ規格	杭 打 機
30kW	ディーゼルハンマ及びアースオーガ併用・直結三点支持式
45kW	〃

(注) 1. 打込みを行う場合のディーゼルハンマ規格はラム質量1.3tを標準とする。

2. 打込みを行わない場合はディーゼルハンマに替えて、モンケン(2t)の装備を標準とする。

(1) アースオーガ径

H形鋼サイズとアースオーガ径の関係は、次表を標準とする。

表2.3 H形鋼サイズとアースオーガ径

H 形 鋼 サ イ ズ	H200	H250	H300	H350
アースオーガ径	φ350mm	φ400mm	φ450mm	φ500mm

2-3 その他の機種

(1) 補助クレーン

現場内小運搬用クレーンは、トラッククレーン(油圧伸縮ジブ型 16 t吊)を標準とし、下記の場合等必要に応じて考慮する。

- ① 施工場所から 30m 以内のところに材料置場を設けることが出来ない場合。
- ② 民家、その他施設、構造物等を破損又は危険にさらす恐れのある場合。

(2) バックホウ(プレボーリング工法のみ適用)

バックホウ(クローラ型)は、掘削土の処理作業(穴埋作業及び簡単な整正を含む)として標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)山積 0.45 m³(平積 0.35 m³)を標準とする。

3. 編成人員及び運転時間

3-1 編成人員

H形鋼施工の1班編成は、次表を標準とする。

ただし、杭打機等の運転労務は「第I編第6章①建設機械運転労務」により別途計上する。

表3.1 H形鋼施工編成人員 (人)

工 種	職 種	土 木 一 般 世 話 役	と び 工	普通作業員
打込み	ディーゼルハンマ	1	2	1
	プレボーリング	1	2	1

3-2 運転時間

- (1) H形鋼施工機械の運転日当り運転時間は「建設機械等損料算定表」の杭打機の標準時間とする。
- (2) 補助クレーンは、単独機械とし、運転時間は打込み又は引抜施工時間の60%とする。
- (3) プレボーリング工法の場合は、バックホウの杭1本の施工に要する運転時間は、T c × 0.3min/本とする。

4. 施 工 歩 掛

H形鋼 1 本当りの打込施工時間は次式による。

$$T_c = \frac{T_s + T_b}{F} \quad (\text{min/本})$$

T c : H形鋼 1 本当り施工時間 (min /本)

T s : H形鋼 1 本当り準備時間 (min /本)

T b : H形鋼 1 本当り打込時間 (min /本)

F : 作業係数

4-1 H形鋼 1 本当り準備時間 (T s)

準備時間は、足場づくり、杭打機の移動、H形鋼の吊込み、芯出し、機械の給油脂等を含む時間であり、次表とする。

表 4. 1 H形鋼 1 本当り準備時間 (min/本)

工 種		時間
打込み	デ ィ ー ゼ ル ハ ン マ	10
	プ レ ボ ー リ ン グ	12

- (注) 1. プレボーリングの準備時間には打込みのための時間も含む。
2. プレボーリングで打込みをしない場合は2分を減ずるものとする。

4-2 H形鋼 1 本当り打込み時間 (T b)

(1) ディーゼルハンマ

$$T_b = \gamma \times \ell \times K \quad (\text{min /本})$$

T b : H形鋼 1 本当り打込時間 (min /本)

γ : 打込みの単位作業時間 (min /m)

ℓ : H形鋼の根入長 (m)

K : ハンマ係数

表 4. 2 ディーゼルハンマによる打込みの単位作業時間 (γ) (min/m)

土質	砂質土・レキ質土(γ ₁)	粘性土(γ ₂)
γ	0.03N ₁ +0.4	0.05N ₂ +0.4

- (注) 1. N₁, N₂: 各地質ごとの根入長に対する加重平均N値
2. γ の算出については、γ₁・γ₂ を各々算出し、次式により加重平均する。

$$\gamma = \frac{\gamma_1 \times \ell_1 + \gamma_2 \times \ell_2}{\ell_1 + \ell_2}$$

γ : 施工土質に対する打込み単位作業時間 (min / m)

γ₁: 砂質土, レキ質土に対する単位作業時間 (min / m)

γ₂: 粘性土に対する単位作業時間 (min / m)

ℓ₁: γ₁ に対する根入長 (m)

ℓ₂: γ₂ に対する根入長 (m)

図 4. 1 施工状況(ディーゼルハンマ)

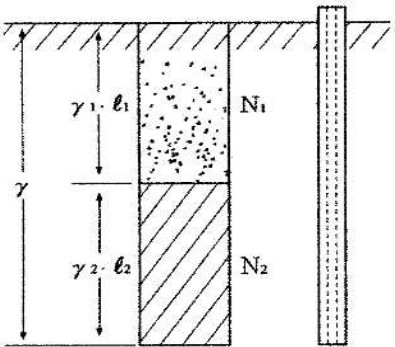


表4.3 H形鋼のハンマ係数(K)

H形鋼規格		H200	H250	H300	H350
工種	ディーゼルハンマ	0.90	0.95	1.00	1.05
打込み	ディーゼルハンマ	0.90	0.95	1.00	1.05

(2) プレボーリング

$$Tb = Tb_0 + Tbh$$

$$Tb_0 = \gamma_0 \times \ell_0 \times K_0$$

$$Tbh = \gamma \times \ell \times K$$

Tb : H形鋼1本当り掘削・打込時間 (min/本)

Tb_0 : H形鋼1本当り掘削時間 (min/本)

Tbh : H形鋼1本当り打込時間 (min/本)

γ_0 : 掘削の単位作業時間 (min/m)

ℓ_0 : 掘削深さ (m)

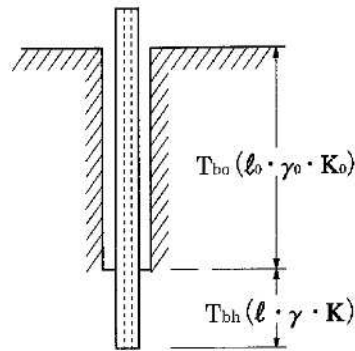
K_0 : ハンマ係数

γ : 打込単位作業時間 (min/m)

ℓ : 打止め長さ (m)

K : ハンマ係数

図4.2 施工状況(プレボーリング)

表4.4 掘削・打止単位作業時間 (γ_0, γ)

工種	土質	
	砂質土・レキ質土 (γ_{01}, γ_1)	粘性土 (γ_{02}, γ_2)
アースオーガ掘削	$0.03N_1 + 1.5$	$0.05N_2 + 1.5$
ディーゼルハンマ打止め	$0.03N_1 + 0.4$	$0.05N_2 + 0.4$

(注) 1. N_1, N_2 : 各土質ごとの根入長に対する加重平均N値

2. γ の算出については, $\gamma_{01}, \gamma_1, \gamma_{02}, \gamma_2$ を各々算出し, 次式により加重平均する。

$$\gamma_0 = \frac{\gamma_{01} \times \ell_{01} + \gamma_{02} \times \ell_{02}}{\ell_{01} + \ell_{02}}$$

γ_0 : 施工土質に対する掘削単位作業時間 (min/m)

γ_{01} : 砂質土・レキ質土に対する掘削単位作業時間 (min/m)

γ_{02} : 粘性土に対する掘削単位作業時間 (min/m)

ℓ_{01} : γ_{01} に対する掘削深さ (m)

ℓ_{02} : γ_{02} に対する掘削深さ (m)

γ の計算は, ディーゼルハンマ打込みの場合に準ずるが ℓ は打止めのための根入長とする。

表4.5 H形鋼のハンマ係数 (K_0 , K)

ハンマ 係 数	H形鋼の規格 (掘削径)	H200 (φ350)	H250 (φ400)	H300 (φ450)	H350 (φ500)
	工 種				
K_0	ア ー ス オ ー ガ 掘 削	0.90	0.95	1.00	1.10
K	ディーゼルハンマ打止め	0.90	0.95	1.00	1.05

4-3 作業係数 (F)

現場作業条件による作業係数 (F) は, 表4.6の基準作業係数 (F_0) に表4.7の作業条件による補正係数を加え算出する。

$$F = F_0 + (f_1 + f_2 + f_3)$$

F : 作業係数

F_0 : 基準作業係数

$f_1 \sim f_3$: 作業条件による補正係数

(1) 基準作業係数

機種による係数は, 次表とする。

表4.6 基準作業係数

工 種		F_0
打込み	ディーゼルハンマ	0.80
	プレボーリング	0.80

(2) 作業条件による補正係数

作業条件による係数は, 次表を標準とする。

表4.7 作業条件による補正係数

補正值 条 件		-0.05	0	+0.05	摘 要
f_1	家屋, 鉄道, 橋梁, 道路, 施設, 構造物などによる障害の程度	かなりある	なし	—	作業中断の有無, 並びに機械の行動に制約される。
f_2	現場の広さによる作業難易の程度	不良	普通	—	機械の移動, 矢板の仮置場所, 矢板の吊込みなどに十分な広さがあるか。
f_3	施 工 規 模 (1工事当り)	50本未満	50本以上 150本未満	150本以上	

4-4 諸雑費 (プレボーリング工法)

諸雑費は, オーガスクリュ及びオーガヘッド損料, 発動発電機を使用した場合の発動発電機損料及び運転経費等の費用であり, 労務費, 杭打機損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお, 商用電源を使用した場合は () 内の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.8 諸雑費率 (%)

諸雑費率	11(4)

5. 水 上 施 工

5-1 台船及び引船

船打の場合の台船、引船は次表とする。

表5.1 台船及び引船

杭打機台船	矢板積台船	引船
300 t 積×1台	200 t 積×1台	鋼製 D 100PS型×1台

- (注) 1. 杭打機台船とは台船にクローラークレーンと杭打機を搭載する。
 2. 潜水士船は、必要に応じて別途計上する。
 3. 杭打機台船にはウインチ(複胴開放式1.5 t) 2台を計上する。
 4. 海上施工の場合は規格を別途考慮する。

5-2 1船団に対する編成人員

船打の1船団に対する船舶作業の配置人員は、次表を標準とする。

表5.2 船舶作業の編成人員

(人)

職種	杭打機台船	矢板積台船	引船
高級船員	1		1

- (注) 1. 船員は休日以外の休止日については計上する。
 2. 潜水士は、必要に応じて別途計上する。
 3. 海上及び港湾工事で、これにより難い場合は別途考慮する。
 4. 上表は打込み作業時の配置人員であり、搬入、搬出等の回航は共通仮設費の運搬費に計上する。

5-3 引船の運転時間

引船は作業日当たり平均3時間運転とし、作業期間中拘束することを標準とする。

5-4 施工歩掛

水上施工におけるH形鋼1本当り打込施工時間は次式による。

$$T_c = \frac{T_s + T_b}{F} + T_w \quad (\text{min/本})$$

T_c : H形鋼1本当り施工時間 (min/本)

T_s : H形鋼1本当り準備時間 (min/本)

T_b : H形鋼1本当り打込時間 (min/本)

F : 作業係数

T_w : 水上施工における準備時間 (min/本)

(注) $T_s \cdot T_b \cdot F$ の値は、「4-1, 4-2, 4-3」(ディーゼルハンマ)に準ずる。

(1) 水上施工における準備時間 (T_w)

水上施工における準備時間 (T_w)

$$T_w = T_1 + T_2 + T_3 \dots \dots \dots (\text{min/本})$$

T_1 : H形鋼1本当り導棒取付取外し時間 (min/本)

(ただし、引抜きの場合は計上しない。)

T_2 : H形鋼1本当り台船小移動時間 (min/本)

T_3 : H形鋼1本当り台船大移動時間 (min/本)

(注) 1. 台船の小移動とはウインチによるワイヤー巻込み及び引出しにより導棒1組分移動することをいう。

2. 台船の大移動とは引船等により移動し、また、アンカーの取直しを行う移動である。

表5.3 H形鋼1本当たり標準準備時間

(min/本)

H形鋼1本当たり 準備時間 (min)		備考		
		1回当たり 時間	導柵取付取外し,台船移動回数	1回当たり本数
T_1	$\frac{90}{N_1}$	1.5時間	導柵転用ごとに1回	$N_1 = \frac{8}{P} + 1$
T_2	$\frac{48}{N_2}$	0.8時間	導柵転用3回につき小移動2回	$N_2 = N_1 \times \frac{3}{2}$
T_3	$\frac{120}{N_3}$	2.0時間	導柵転用3回につき大移動1回	$N_3 = N_1 \times 3$

 $N_1 \sim N_3$: 1回当たり本数

P : H形鋼の施工ピッチ (m)

(注) 1. H形鋼の法線は方形の場合の標準である。

2. 施工規模, 法線形状により, これにより難い場合は所要回数及び導柵1回当たりH形鋼本数を増減することが出来る。

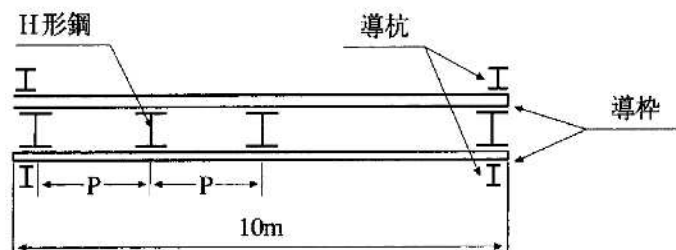
5-5 導柵

導柵は, 次表を標準とする。

表5.4 標準導柵

材料	規格	長さ×本数	1組当たり施工本数
H形鋼	200×200	10m×2本	$\frac{8}{P} + 1$

P : H形鋼の施工ピッチ (m)



(注) 1. 施工規模, 法線形状, H形鋼規格, 現場条件により, これにより難い場合は長さ及び1組当たりH形鋼本数を増減することが出来る。

2. 導杭はH形鋼 (200×200) を標準とする。

3. 1工事所要数量は, 導杭4本, 導柵2本として, 賃料計上する。なお, 導柵の賃料算定は別途考慮する。

6. 単 価 表

(1) ディーゼルハンマによるH形鋼打込み 10 本当り単価表

施工歩掛コード	WB251710

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	表3.1
と び 工		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	〃
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機 運 転		h	$10 \times T_c / 60$	本体+ハンマ
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型16 t 吊	〃	$10 \times T_c / 60 \times 0.6$	必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) T_c : H形鋼 1 本当り施工時間 (min/本) T : 杭打機の運転日当り運転時間 (h/日)

(2) プレボーリング工法によるH形鋼打込み 10 本当り単価表

施工歩掛コード	WB251720

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	表3.1
と び 工		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$10 \times T_c / 60 \times 1 / T \times 1$	〃
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機 運 転		h	$10 \times T_c / 60$	本体+ハンマ
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型16 t 吊	〃	$10 \times T_c / 60 \times 0.6$	必要に応じて計上
バ ッ ク ホ ウ 運 転	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積 0.45m ³ (平積0.35m ³)	〃	〃 $\times 0.3$	3-2(3)
諸 雑 費		式	1	表4.8
計				

(注) T_c : H形鋼 1 本当り施工時間 (min / 本) T : 杭打機の運転日当り運転時間 (h/日)

(3) ディーゼルハンマによるH形鋼打込み 10 本当り単価表
(水上施工の場合)

			施工歩掛コード	WB251750
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10 \times Tc}{60} \times \frac{1}{T} \times 1$	表3.1
と び 工		〃	$\frac{10 \times Tc}{60} \times \frac{1}{T} \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10 \times Tc}{60} \times \frac{1}{T} \times 1$	〃
高 級 船 員		〃	$\frac{10 \times Tc}{60} \times \frac{1}{T} \times \frac{1}{\text{作業日数率}} \times 2$	表5.2
ク ロ ー ラ 式 杭 打 機 運 転		h	$\frac{10 \times Tc}{60}$	ディーゼルハンマ+本体
引 船 運 転		h	$\frac{10 \times Tc}{60} \times \frac{1}{T} \times 3$	
台 船 運 転	200 t 積	日	$\frac{10 \times Tc}{T \times 60}$	
〃	300 t 積	〃	〃	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. T=杭打機の運転日当り運転時間 (h/日)

2. 作業日数率=0.9

(4) 台船 (鋼製 300 t 積) 運転日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
台 船 損 料	300 t 積	供用日	1.1	
ウ イ ン チ 損 料	複胴開放式1.5 t	日	2	
諸 雑 費		式	1	
計				

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ディーゼルハンマ 及びアースオーガ 併用・直結三点 支持式杭打機	ラム質量1.3t オーガ出力 30kW 45kW	機-4	電力料→0.5Eo 主燃料→qp+0.5qh
クローラ式杭打機	ラム質量1.3t 2.5t 3.5t	機-1	ラム質量1.3t→ディーゼルハンマ・ブーム式 " 2.5t→" " 3.5t→ディーゼルハンマ直結三点支持式 1時間当り燃料消費量(Qf) $Qf=qp+(Tb/Tc) \cdot qh(\ell/h)$ qp:クローラ式杭打機の時間当り燃料消費量(ℓ/h) qh:ディーゼルパイルハンマの燃料消費量(ℓ/h)
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型16t吊	機-1	
バックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	機-1	
引 船	鋼製D 100PS型	機-13	主燃料→A重油 1日拘束とし、供用日損料は補正する。 補正損料=(9欄+11欄/t) t=3×作業日数率
台 船	200t積	機-25	電力料の積算はしない 機械損料数量→1.1

(注) 1. qp:杭打機の時間当り燃料消費量 (ℓ/h)qh:ディーゼルハンマの時間当り燃料消費量 (ℓ/h)

Eo:アースオーガの時間当り電力消費量 (kWh)

Tc:H形鋼1本当り施工時間 (min/本)

Tb:H形鋼1本当り打込時間 (min/本)

2. 作業日数率は0.9とする。

7. 施工単価入力基準表

(1) H形鋼打込工(ディーゼルハンマ)

施工歩掛コード	WB251710	施工単位	本	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	補助クレーン の有無	杭打機の種類	1 本当り施工時間 T c	1 本当り打込時間 T b
	①無 ②有	(表8.1)	(分／本) (実数入力)	(分／本) (実数入力)

(注) 1. 施工時間(T c)は小数1位を四捨五入し、整数止めとする。

2. H形鋼の賃料又は、材料費は別途計上すること。

表8.1 輸送対象橋種

種 類	入力番号
ラム質量1.3t ブーム	①
〃 2.5t 〃	②
〃 3.5t 直結	③

(2) H形鋼打込工(プレボーリング)

施工歩掛コード	WB251720	施工単位	本	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	打込の有無	補助クレーンの有無	杭打機の種類	1 本当たり施工時間 T c
	①有	①無	(表 8.2)	(分／本)
	②無	②有		(実数入力)
	J 5	J 6		
	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第 1 次基準値) ②排出ガス対策型 (第 2 次基準値)	使用電源の区分 ①発動発電機 ②商用電源		

(注) 1. 施工時間(T c)は小数1位を四捨五入し、整数止めとする。

2. J 1条件で①を選択した場合は、J 3条件で③及び④の選択は出来ない。

3. J 1条件で②を選択した場合は、J 3条件で①及び②の選択は出来ない。

4. H形鋼の賃料、又は材料費は別途計上すること。

5. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

表8.2 杭打機の種類

種 類	入力番号
アースオーガ30kW ラム質量1.3t	①
〃 45KW 〃	②
アースオーガ30KW モンケン2t	③
〃 45KW 〃	④

(3) H形鋼打込工(水上施工 ディーゼルハンマ)

施工歩掛コード	WB251750	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	杭打機の種類	1本当り施工時間 T c	1本当り打込時間 T b
	(表8.3)	(分/本) (実数入力)	(分/本) (実数入力)

(注) 1. 施工時間(T c)は小数1位を四捨五入し、整数止めとする。

2. H形鋼の賃料又は材料費は別途計上すること。

表8.3 杭打機の種類

種 類	入力番号
ブーム式 ラム質量1.3 t	①
〃 〃 2.5 t	②
直結三点 〃 3.5 t	③

(4) H形鋼賃料

「第Ⅱ編第5章仮設工②鋼矢板(H形鋼)工②-1パイプロハンマ工」による。

(5) H形鋼杭材料(撤去出来ない場合)

「第Ⅱ編第5章仮設工①仮設工」による。

(6) 導棒賃料

施工歩掛コード	WB251770	施工単位	式	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	供用日数	継続工事の有無	総供用日数	修理費及び損耗費 の有無
	(日)	①無	(日)	①無
	(実数入力)	②有	(実数入力)	②有
	J 5			
	1 現場での 使用回数 (回／現場) (実数入力)			

(注) 1. 継続工事となる場合は、J 1条件に当該工事の供用日数を入力し、J 3条件で総供用日数を入力する。

2. 継続工事以外(J 2条件で①を選択)は、J 1条件に供用日数を入力し、J 3条件は入力する必要はない。

3. J 1条件の供用日数(継続工事の場合はJ 3条件の総供用日数)は、賃料計上限度額(一現場当り修理費及び損耗費を含む)である不足分弁償金に係る市中価格(新品)の80%を超えないように調整のうえ入力すること。

また、本コードは、賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。

4. J 4条件で①を選択した場合は、J 5条件は入力する必要はない。

5. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 5条件に「1」を入力すること。

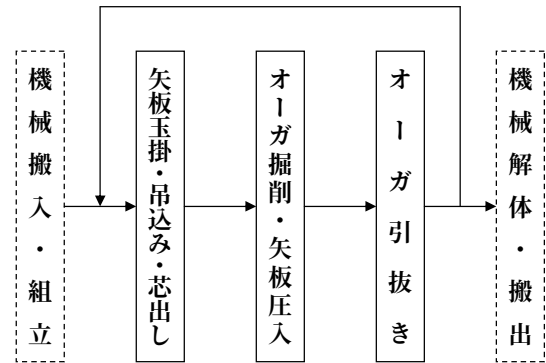
③ 矢板工 (アースオーガ併用圧入工)

1. 適用範囲

本資料は、アースオーガ併用圧入杭打機による鋼矢板の打込みに適用する。なお、適用出来る鋼矢板はⅡ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ_L型とし、オーガ径はⅡ，Ⅲ，Ⅳ型はφ320 mm，Ⅴ_L型はφ400 mmとする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

最大N値	$N_{max} \leq 50$	$50 < N_{max} \leq 65$
圧入長	20m以下	
機種	アースオーガ（油圧式） 併用圧入杭打機 34kN・m	アースオーガ 併用圧入杭打機 90kW

- (注) 1. 電動式オーガ（90kW）は、鋼矢板Ⅴ_L型のみ適用する。
2. 対象地盤の最大N値が 50 を超えるものについては、次式により換算N値を求めた上で適用する。
- $$\text{換算N値} = \frac{1,500}{\text{落下50回当り貫入量 (cm)}}$$
3. 圧入長とは、地表面からの鋼矢板の圧入長さであり、鋼矢板長とは異なる。
4. 油圧式オーガについては最大掘削トルク、電動式オーガについてはオーガ出力を示す。

4. 編成人員

鋼矢板の打込圧入作業の編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 打込圧入の編成人員 (人)

土木一般世話役	とび工	普通作業員
1	2	1

5. 施 工 歩 掛

5-1 鋼矢板の1日当りの圧入枚数(N)は、表5.1～5.4による。

表5.1 日当り施工枚数(Ⅱ型) (枚/日)

最大N値Nmax 圧入長(m)	25 以下	25を超え 50以下
2以下	38	34
2を超え 4以下	33	26
4を超え 6以下	29	21
6を超え 8以下	26	18
8を超え10以下	23	15
10を超え13以下	21	13
13を超え16以下	18	11
16を超え20以下	16	9

表5.2 日当り施工枚数(Ⅲ型) (枚/日)

最大N値Nmax 圧入長(m)	25 以下	25を超え 50以下
2以下	37	32
2を超え 4以下	31	23
4を超え 6以下	27	19
6を超え 8以下	24	15
8を超え10以下	21	13
10を超え13以下	19	11
13を超え16以下	17	9
16を超え20以下	15	8

表5.3 日当り施工枚数(Ⅳ型) (枚/日)

最大N値Nmax 圧入長(m)	25 以下	25を超え 50以下
2以下	36	30
2を超え 4以下	30	22
4を超え 6以下	26	17
6を超え 8以下	22	14
8を超え10以下	20	12
10を超え13以下	18	10
13を超え16以下	15	8
16を超え20以下	13	7

表5.4 日当り施工枚数(V_L型) (枚/日)

最大N値N _{max} 圧入長(m)	25 以下	25を超え 50以下	50を超え 65以下
2以下	35	29	25
2を超え 4以下	29	20	16
4を超え 6以下	24	15	11
6を超え 8以下	21	12	9
8を超え 10以下	19	10	7
10を超え13以下	16	8	6
13を超え16以下	14	7	5
16を超え20以下	12	6	4

(注) 最大N値が50を超えるものについては、換算N値とする。

5-2 諸雑費

諸雑費は、掘削土処理（穴埋め作業等）作業費、矢板等設置現場内小運搬費、オーガスクリュ及びオーガヘッド損料、電力に関する経費、足場材（敷鉄板等）、鋼矢板圧入金具取付に関する経費等の費用であり、労務費、杭打機損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.5 諸雑費率 (%)

機 種	諸雑費率
アースオーガ（油圧式）併用圧入杭打機34kN・m	34
アースオーガ併用圧入杭打機90kW	39

6. 単 価 表

(1) アースオーガ併用圧入工法による鋼矢板打込み 10 枚当り単価表

		施工歩掛コード			WB251110
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表4.1 表5.1～5.4	
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃 〃	
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃 〃	
杭 打 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表3.1 表5.1～5.4	
諸 雑 費		式	1	表5.5	
計					

(注) N：日当り施工枚数（枚／日）

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ロ ー ラ 式 ア ー ス オ ー ガ	アースオーガ（油圧式） 併用圧入杭打機 34kN・m	機－18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →57 機械損料数量→1.59
	ア ー ス オ ー ガ 併用圧入杭打機 90kW		運転労務数量→1.00 燃料消費量 →74 機械損料数量→1.59

7. 施工単価入力基準表

(1) 鋼矢板打込み工（アースオーガ併用圧入）

施工歩掛コード	WB251110	施工単位	枚
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	矢 板 型 式	最 大 N 値	圧 入 長
	①Ⅱ型	(表7.1)	(表7.2)
	②Ⅲ型		
	③Ⅳ型		
	④Ⅴ _L 型		

(注) 1. J 1 条件で①～③を選択した場合は、J 2 条件で③を選択することはできない。

2. 鋼矢板の賃料又は材料費については、「第Ⅱ編第5章仮設工②鋼矢板（H形鋼）工②－1パイプロハンマ工 WB250150（鋼矢板賃料（普通鋼矢板））、WB250160（鋼矢板材料）」により別途計上すること。

表7.1 最大N値 (Nmax)

最大N値 (Nmax)	入力番号
25以下	①
25を超え50以下	②
50を超え65以下	③

表7.2 圧入長 (m)

圧入長 (m)	入力番号
2 以下	①
2を超え 4以下	②
4を超え 6以下	③
6を超え 8以下	④
8を超え 10以下	⑤
10を超え13以下	⑥
13を超え16以下	⑦
16を超え20以下	⑧

④ 鋼矢板 (H形鋼) 工 (クレーン引抜き工)

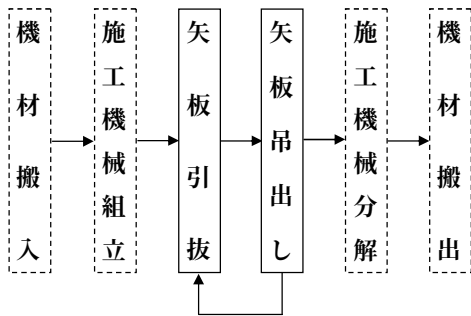
1. 適用範囲

本資料は、引抜き長10m以上20m以下の鋼矢板及びH形鋼をクレーンとワイヤ式杭抜き機による施工に適用する。適用にあたっては、現場条件により他工法との比較検討を行うものとする。

2. 施工概要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

2-2 参考図等

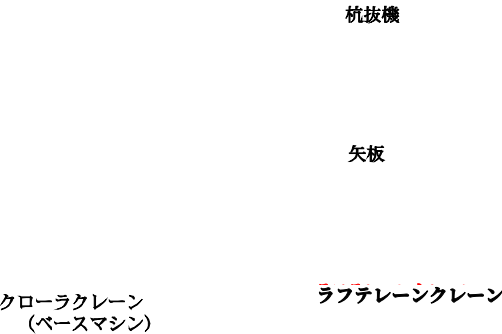


図2-2 施工図

3. 施工歩掛

3-1 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
杭 抜 き 機	(杭抜き機) ワイヤ式 最大引抜き力2,940kN (300t) (クローラクレーン) 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 30～35t吊	台	1	ワイヤ式杭抜き機 + クローラクレーン (ベースマシン)
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 20t吊	〃	1	合引き及び吊出し用

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

3-2 日当り編成人員

クレーン引抜作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.2 日当り編成人員 (人/日)

土木一般世話役	と び 工	普 通 作 業 員
1	2	1

3-3 日当り引抜枚[本]数

矢板、H形鋼の施工1日当り引抜枚[本]数(N)は、次表を標準とする。

表3.3 日当り引抜枚[本]数(N) (枚[本]/日)

作業補正条件 引抜長 (m)	家屋、鉄道、橋梁、道路、施設 及び構造物による障害	
	有 り	無 し
10以上 12以下	20	23
12を超え15以下	18	20
15を超え20以下	15	17

(注) 家屋、鉄道、橋梁、道路、施設及び構造物による障害の有無は、作業中断の有無及び作業の行動制限の有無によって判断する。

4. 単 価 表

(1) クレーンによる鋼矢板及びH形鋼引抜10枚(本) 当り単価表

		施工歩掛コード		WB251610 WB251620
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表3.2 表3.3
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
杭 抜 き 機 運 転	(杭抜き機) ワイヤ式 最大引抜力2,940kN (300t) (クローラクレーン) 油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型 30～35t吊	日	$\frac{10}{N}$	表3.1 機械損料
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対 策型(第1次基準値) 20 t 吊	〃	$\frac{10}{N}$	表3.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) N:日当り施工枚(本)数(枚[本]/日)

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
杭 抜 き 機	ワイヤ式 最大引抜力 2,940kN (300 t)	機-20	運転労務数量→1.00
			燃料消費量 →53
			機械損料1 →杭抜き機
			機械損料数量 →1.58
			機械損料2 →クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型30～35 t 吊)
			機械損料数量 →1.58

5. 施工単価入力基準表

(1) 鋼矢板クレーン引抜

施工歩掛コード	WB251610	施工単位	枚
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	引 抜 長	障害の有無	ラフテレーンクレーン賃料補正係数
	①10m以上 12m以下 ②12mを超え15m以下 ③15mを超え20m以下	①無し ②有り	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、クローラクレーン、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 障害の有無は、家屋、鉄道、橋梁、道路、施設及び構造物の影響による作業の中断及び作業制限の有無によって判断する。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型(第2次基準値)、普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

(2) H形鋼クレーン引抜

施工歩掛コード	WB251620	施工単位	本
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	引 抜 長	障害の有無	ラフテレーンクレーン賃料補正係数
	①10m以上 12m以下 ②12mを超え15m以下 ③15mを超え20m以下	①無し ②有り	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、クローラクレーン、ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 障害の有無は、家屋、鉄道、橋梁、道路、施設及び構造物の影響による作業の中断及び作業制限の有無によって判断する。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型(第2次基準値)、普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

⑤ 鋼矢板施工法選定表 (参考)

⑤-1 鋼矢板打込施工法選定表 (参考)

鋼矢板打込施工法選定表は、陸上での一般的な施工条件（鋼矢板型式，環境条件，N値及び継施工の有無）を基として経済性を考慮した参考の選定表であり，現場施工条件等により本表により難しい場合は，別途考慮すること。

鋼矢板 型式	環境 対策	打込長	継施工無し				継施工有り			
			N値				N値			
			Nmax≦25 ※1	25<Nmax≦50 ※1,2	50<Nmax≦180 ※2	≦600	Nmax≦25 ※1	25<Nmax≦50 ※1,2	50<Nmax≦180 ※2	
I A型	無し	L ≦6m	電動式バイプロハンマ		—		—			
II 型	無し	L ≦15m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L ≦6m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用		
		6m<L ≦10m								
		10m<L ≦15m	油圧式バイプロハンマ				油圧式バイプロハンマ			
	無振動	4m ≦L ≦10m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
		10m<L ≦12m	—		—	—	—			
III型	無し	L ≦19m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L ≦12m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用		
		12m<L ≦15m								
		15m<L ≦19m	油圧式バイプロハンマ				油圧式バイプロハンマ			
	無振動	4m ≦L ≦15m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
		15m<L ≦18m	—		—	—	—			
IV型	無し	L ≦25m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L ≦20m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用		
		20m<L ≦25m	油圧式バイプロハンマ							
	無振動	4m ≦L ≦20m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
VL型	無し	L ≦25m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L ≦25m	油圧式杭圧入 引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	無振動	4m ≦L ≦20m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦65 電動式アース オーガ併用圧 入杭打機	65<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—	
		20m<L ≦25m			—		—	—		
VIL型	無振動	4m<L ≦25m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)		油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—	

鋼矢板 型式	環境 対策	打込長	継施工無し				継施工有り			
			N値				N値			
			Nmax≦25 ※1	25<Nmax≦50 ※1,2	50<Nmax≦180 ※2	≦600	Nmax≦25 ※1	25<Nmax≦50 ※1,2	50<Nmax≦180 ※2	
IIw型	無し	L≦15m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L≦12m	油圧式バイプロハンマ		油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機		油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
		12m<L≦15m					油圧式バイプロハンマ			
	無振動	4m≦L≦12m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
		12m<L≦14m	—						—	
IIIw型	無し	L≦19m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L≦12m	油圧式杭圧入引抜機		油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
		12m<L≦19m	油圧式バイプロハンマ							
	無振動	4m≦L≦25m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
IVw型	無し	L≦25m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	低振動	L≦25m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
	無振動	4m≦L≦25m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	50<Nmax≦600 油圧式杭圧入引抜機 (硬質地盤専用)	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
10H型	無し	L≦15m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
		15m<L≦19m	—							
	低振動	L≦12m	油圧式バイプロハンマ		油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機		油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
		12m<L≦15m					油圧式バイプロハンマ			
		15m<L≦19m					—			
	無振動	4m≦L≦12m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		
12m<L≦14m		—								
25H型	無し	L≦19m	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	電動式バイプロハンマ		電動式バイプロハンマ ウォータージェット併用	
		19m<L≦25m	—							
	低振動	L≦15m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式バイプロハンマ	油圧式バイプロハンマ ウォータージェット併用		
		15m<L≦19m	油圧式バイプロハンマ							
		19m<L≦25m	—							
	無振動	4m≦L≦25m	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—	油圧式杭圧入引抜機	油圧式杭圧入引抜機 ウォータージェット併用	—		

※ 1. 以下の条件において、現場条件（転石等）により、やむを得ずウォータージェット併用施工とする場合は、別途考慮する。

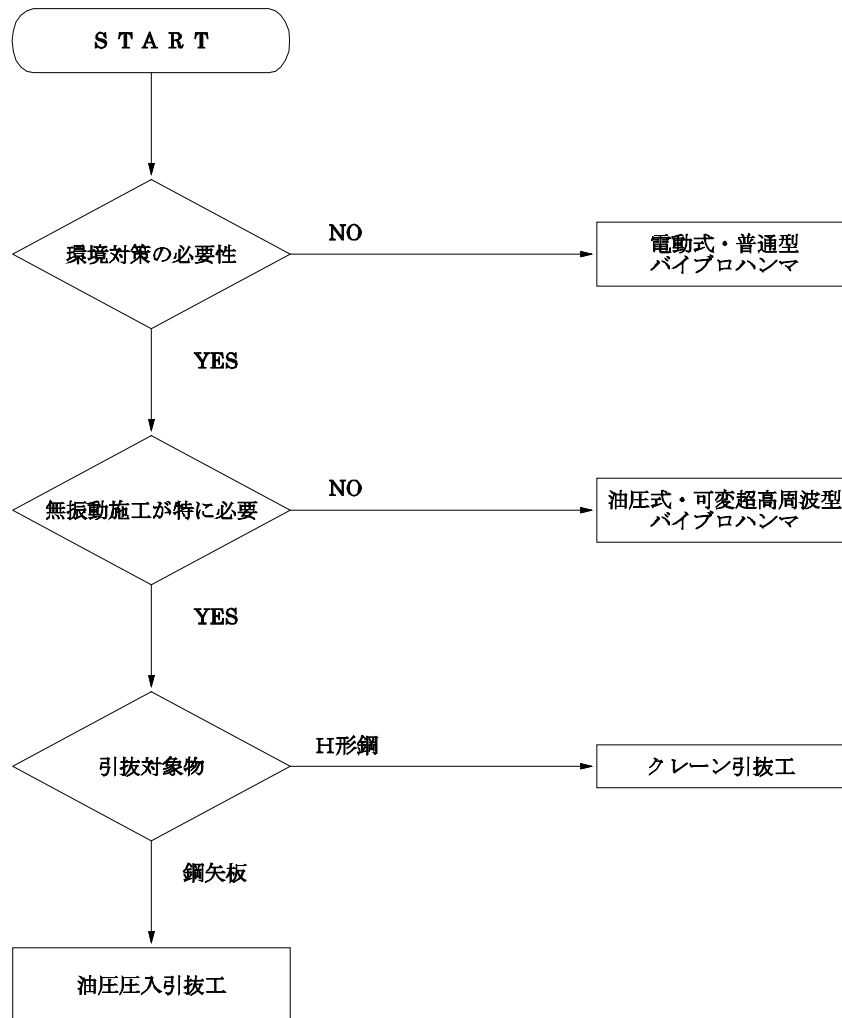
ただし、低振動条件の油圧式杭圧入引抜機施工区分については、油圧式バイプロハンマ・ウォータージェット併用とする。

・ N値条件（電動式バイプロハンマ，油圧式バイプロハンマ）：Nmax<50

・ N値条件（油圧式杭圧入引抜機）：Nmax≤25

※ 2. バイプロハンマ工におけるN値区分については、25<Nmax<50，50≤Nmax≤180と読み替える。

⑤－２ 鋼矢板・H形鋼引抜施工法選定フロー (参考)



- (注) 1. 上表は、陸上での一般的な施工条件の基で経済性を考慮したフローである。
 2. 上表は、広幅鋼矢板とハット形鋼矢板については対象外である。

⑥ 仮設材設置撤去工

1. 適用範囲

本資料は、土留（親杭横矢板工法、鋼矢板工法）、締切（一重締切、二重締切）、路面覆工等で使用される仮設材のうち、切梁、腹起し、タイロッド、横矢板（土留板）及び覆工板の設置撤去工に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



※必要に応じて計上

(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
切梁・腹起し設置・撤去 タイロッド・腹起し設置・撤去 覆工板設置・撤去 覆工板受桁設置・撤去	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊	台	1	

(注) 1. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。
2. 現地地盤が軟弱な場合や水中に施工する場合などラフテレーンクレーンによる作業が困難な場合は、クローラークレーン等現場条件に適合した機種とすることが出来る。

4. 施 工 歩 掛

4-1 施工歩掛

各工種の施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 施工歩掛

名 称	規 格	単 位	工 種 区 分					
			1		2		3	
			切梁・腹起し (10t当り)		タイロッド ・腹起し (10t当り)		横 矢 板 (10m ² 当り)	
			設 置	撤 去	設 置	撤 去	設 置	撤 去
土木一般世話役		人	1.7(1.0)	1.0(0.5)	4.9	2.2	0.4	0.2
と び 工		〃	3.2(1.9)	1.9(1.2)	9.9	4.4	—	—
溶 接 工		〃	1.7(1.0)	1.0(0.5)	4.9	2.2	—	—
普 通 作 業 員		〃	1.7(1.0)	1.0(0.5)	4.9	2.2	1.2	0.6
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊	日	1.7(1.0)	1.0(0.5)	4.9	2.2	—	—
諸 雑 費 率		%	4	6	8	9	—	—
歩掛算出の施工 質量又は施工面積			主部材及び副部材の 全質量		タイロッド及び 腹起し材の質量		壁 面 積	

- (注) 1. 切梁・腹起しにおいては、加工材を標準とし、中間支柱の施工は含まない。また、火打ブロックを使用する場合は、() 内の値を計上する。
 2. タイロッド・腹起しにおいては、中埋土の充填排除は含まない。
 3. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.2 覆工板・覆工板受桁設置、撤去歩掛

名 称	規 格	単位	工 種 区 分					
			4		5		6	
			覆工板設置面積700㎡以下		覆工板設置面積700㎡を超える			
			覆工板・覆工板受桁 (100㎡当り)		覆 工 板 (100㎡当り)		覆工板受桁 (10t当り)	
			設置	撤去	設置	撤去	設置	撤去
土木一般世話役		人	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
と び 工		〃	4.6	2.7	2.5	1.4	1.6	1.0
溶 接 工		〃	2.1	1.3	—	—	1.6	1.0
普 通 作 業 員		〃	5.1	3.2	0.8	0.5	3.2	2.0
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊	日	2.9	1.8	0.8	0.5	1.6	1.0
諸 雑 費 率		%	3	4	—	—	5	6
歩掛算出の施工 面積又は施工質量			覆工板の面積		覆工板の面積		覆工板受桁の質量	

- (注) 1. 工種区分「4」は、覆工板及び受桁、桁受の設置撤去の歩掛が含まれており、1工事当りの覆工板設置面積700m²以下に適用する。覆工板設置面積が700m²を超える場合は、工種区分「5」及び「6」を適用する。
 2. 覆工板においては、据置式(はめこみ式)の加工材を標準とし、路面のすりつけ作業は含まない。
 3. 覆工板受桁においては、加工材を標準とする。
 4. 覆工板受桁用桁受においては、(注)3に準じ加工材を標準とする。なお、歩掛算出については覆工板受桁の質量と覆工板受桁用桁受の質量を含めて算出する。
 5. 諸雑費は、溶接棒、アセチレンガス、酸素ガス、溶接機損料、溶接機運転経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. H形鋼の使用区分

積算にあたっての使用区分は、次表を標準とする。

表5.1 使用区分

項目 \ 用途	切梁・腹起し	親杭
設計計算	加工材	生材
質量算出	〃	〃
賃料計算	〃	〃

(注) 仮設材設置・撤去工に使用する材料については、「建設用仮設材賃料積算基準」による。

6. 部材質量

6-1 主部材及び副部材の質量算出

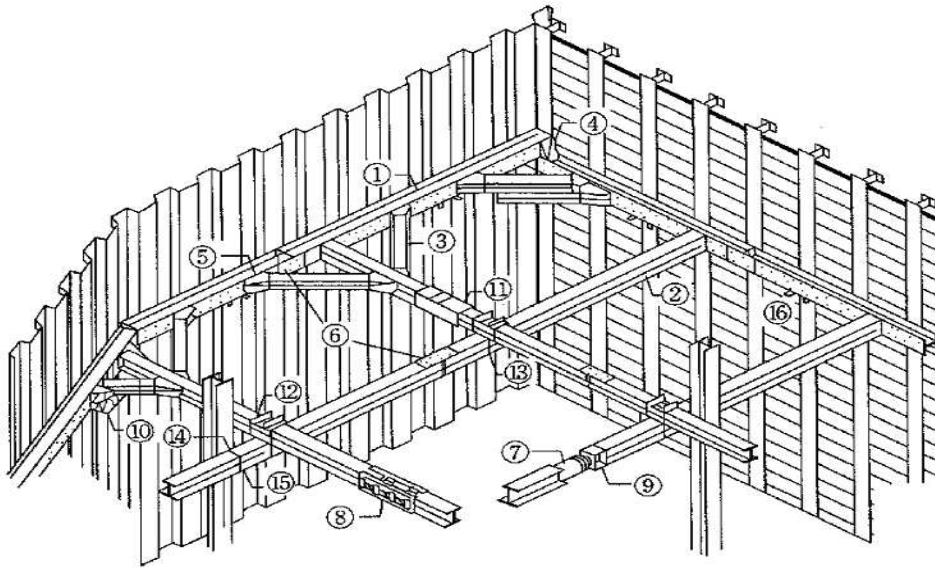
主部材及び副部材の質量算出は、次表を標準とする。

ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

表6.1 部材質量算出方法

部材名	部 品 名	質量算出方法	摘 要
主部材	切梁,腹起し, 火打梁,補助ピース	積上げ	キリンジャッキ・火打受 ピース(火打ブロック) の長さに相当する部材長 の質量を控除すること。
副部材 (A)	隅部ピース,交差部ピース, カバープレート,キリン ジャッキ,ジャッキカバー, ジャッキハンドル, 火打受ピース,腰掛金物, (火打ブロック)	主部材質量 ×0.22(0.67)	キリンジャッキ・火打受 ピースの長さは,どちらも 50cmとする。火打ブロッ クを使用する場合は,() 内の値とする。
副部材 (B)	ブラケット,ボルト・ナット	主部材質量 ×0.04(0.06)	1回毎全損とする。火打ブ ロックを使用する場合 は,()内の値とする。

図6-1 土留標準図



No.	部 材 名 称
1	腹 起 し
2	切 梁
3	火 打 梁
4	隅 部 ビ ー ス
5	火 打 受 ビ ー ス
6	カ バ ー プ レ ー ト
7	キ リ ン ジ ャ ッ キ
8	ジ ャ ッ キ カ バ ー
9	補 助 ビ ー ス
10	自 在 火 打 受 ビ ー ス
11	土 圧 計
12	交 叉 部 ビ ー ス
13	交 叉 部
14	締 付 用 U ボ ル ト
15	切 梁 プ ラ ケ ッ ト
16	腹 起 プ ラ ケ ッ ト

6-2 受桁及び桁受の質量算出

覆工板の受桁及び桁受の質量算出は、次式による。

$$\text{受桁及び桁受質量 (t)} = \text{覆工板設置面積 (m}^2\text{)} \times 0.134 \cdots \text{(式6.1)}$$

ただし、1工事当りの覆工板設置面積が、700m²を超える場合は、別途考慮する。

7. 単 価 表

(1) 山留材賃料 1 t 当り単価表

施工歩掛コード				WB251910
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
主 部 材 賃 料		t	1	
修 理 費 及 び 損 耗 費	主部材	〃	1	
副 部 材 賃 料	副部材(A)	〃	0.22(0.67)	
修 理 費 及 び 損 耗 費	副部材(A)	〃	0.22(0.67)	
修 理 費 及 び 損 耗 費	副部材(B)	〃	0.04(0.06)	
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 覆工板賃料 1 m²当り単価表

施工歩掛コード				WB251920
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
覆 工 板 賃 料		m ²	1	
修 理 費 及 び 損 耗 費		〃	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 覆工板受桁及び覆工板受桁桁受賃料（設置面積700m²以下） 1 m²当り単価表

施工歩掛コード				WB251920
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
受 桁 ・ 桁 受 賃 料		t	0.134	
修 理 費 及 び 損 耗 費		〃	0.134	
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 切梁・腹起し設置・撤去10 t 当り単価表

施工歩掛コード				WB251930
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(5) タイロッド・腹起し設置10t 当り単価表

		施工歩掛コード		WB251940
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.1 機械賃料
タ イ ロ ッ ド	φ32～42mm	t		必要量計上
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(6) タイロッド・腹起し撤去10t 当り単価表

		施工歩掛コード		WB251940
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
と び 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(7) 横矢板設置10m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB251970
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
普 通 作 業 員		〃		〃
横 矢 板		m ³		壁面積(10m ²)×板厚
諸 雑 費		式	1	
計				

(8) 横矢板撤去10m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB251970
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(9) 覆工板・受桁設置・撤去100m²当り単価表（覆工板設置面積700m²以下）

				施工歩掛コード	WB251990
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.2	
と び 工		〃		〃	
溶 接 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表4.2	
計					

(10) 覆工板設置・撤去100m²当り単価表（覆工板設置面積700m²を超える）

				施工歩掛コード	WB251950
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.2	
と び 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(11) 覆工板受桁設置・撤去10 t 当り単価表（覆工板設置面積700m²を超える）

				施工歩掛コード	WB251960
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.2	
と び 工		〃		〃	
溶 接 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日		表4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表4.2	
計					

8. 施工単価入力基準表

(1) 山留材賃料

施工歩掛コード		WB251910	施工単位	t		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	火打ブロック の有無	供用日数	継続工事の有無	総供用日数	修理費及び 損耗費の計上	1現場での 使用回数
		(日)		(日)		(回)
	①有 ②無	(実数入力)	①無 ②有	(実数入力)	①有 ②無	(実数入力)

- (注) 1. 本コードは、副部材(A)(B)を含む。
 2. 施工量は、主部材の質量とする。
 3. 継続工事となる場合は、J 2条件に当該工事の供用日数を入力し、J 4条件で総供用日数を入力する。
 4. 継続工事以外(J 3条件で①を選択)は、J 2条件に供用日数を入力し、J 4条件は入力する必要はない。
 5. J 2条件の供用日数(継続工事の場合はJ 4条件の総供用日数)は、賃料計上限度額(一現場当り修理費及び損耗費を含む)である不足分弁償金に係る市中価格(新品)の80%を超えないように調整のうえ入力すること。
 また、本コードは、賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。
 6. J 5条件で②を選択した場合は、J 6条件は入力する必要はない。
 7. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 6条件に「1」を入力すること。

(2) 覆工板賃料

施工歩掛コード		WB251920	施工単位	m ²		
施工区分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	仮設材区分	供用月(日)数	継続工事の有無	総供用月(日)数	修理費及び損耗費の計上	1現場での使用回数
		(月又は日)		(月又は日)		(回)
	(表8.1)	(実数入力)	①無 ②有	(実数入力)	①有 ②無	(実数入力)

- (注) 1. J 1条件で①～⑦を選択した場合、J 2条件は供用月数、J 4条件は総供用月数を入力する。
 また、J 1条件で⑧～⑩を選択した場合、J 2条件は供用日数、J 4条件は総供用日数を入力する。
 2. 継続工事となる場合は、J 2条件に当該工事の供用月(日)数を入力し、J 4条件で総供用月(日)数を入力する。
 3. 継続工事以外(J 3条件で①を選択)は、J 2条件に供用月(日)数を入力し、J 4条件は入力する必要はない。
 4. J 2条件の供用月(日)数(継続工事の場合はJ 4条件の総供用月(日)数)は、賃料計上限度額(一現場当り修理費及び損耗費を含む)である不足分弁償金に係る市中価格(新品)の80%を超えないように調整のうえ入力すること。
 また、本コードは、賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。
 5. J 5条件で②を選択した場合は、J 6条件は入力する必要はない。
 6. 使用回数による修理費及び損耗費の補正をしない場合は、J 6条件に「1」を入力すること。

表8.1 仮設材区分

種 類	入力番号
覆 工 板 (鋼 製 従 来 型)	①
覆 工 板 (鋼 製 補 強 型)	②
覆 工 板 (鋼 製 滑 り 止 め 従 来 型)	③
覆 工 板 (鋼 製 滑 り 止 め 補 強 型)	④
覆 工 板 (コンクリート製 従 来 型)	⑤
覆 工 板 (コンクリート製 補 強 型 2m ²)	⑥
覆 工 板 (コンクリート製 補 強 型 3m ²)	⑦
鋼 製 マ ッ ト (t = 50mm)	⑧
鋼 製 マ ッ ト (t = 100mm)	⑨
覆 工 板 受 桁 及 び 覆 工 板 受 桁 桁 受 (設 置 面 積 700m ² 以 下)	⑩

(3) タイロッド材料費

施工歩掛コード	WB251980	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	スクラップ区分		
	①スクラップ控除有 ②スクラップ控除無		

- (注) 1. タイロッド単価 (Y-0132000) [円／t] を単価登録すること。
 2. J 1 条件で①を選択した場合は、スクラップ単価 (Y-6400000) [円／t] を単価登録すること。なお、この場合の単価は、正の値で入力する。
 3. スクラップの管理費区分は「9」を設定している。

(4) 切梁腹起し設置・撤去

施工歩掛コード	WB251930	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	火打ちブロックの有無	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	①有 ②無	①標準(1.0) ②標準以外(実数入力)

- (注) 1. 施工量は主部材及び副部材の全質量とする。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(5) タイロッド腹起し設置・撤去

施工歩掛コード	WB251940	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

(6) 横矢板設置・撤去

施工歩掛コード	WB251970	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	横矢板の厚さ	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	(m)	

- (注) 1. J 1 条件で①③を選択した場合は、横矢板単価 (Y-0408000) [円／m²] を単価登録すること。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。

(7) 覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m²以下)

施工歩掛コード	WB251990	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	ラフテレーンクレーン	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。

(8) 覆工板設置・撤去 (設置面積700m²を超える)

施工歩掛コード	WB251950	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	ラフテレーンクレーン	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

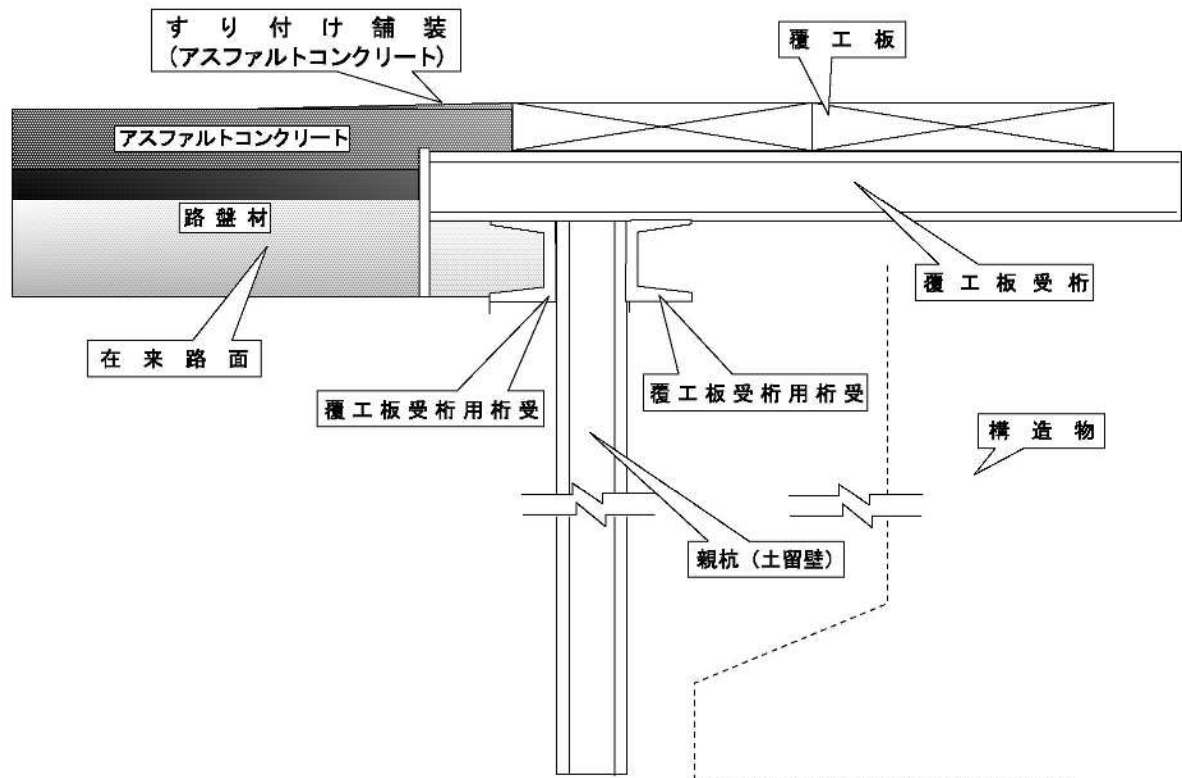
- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。

(9) 覆工板受桁設置・撤去 (設置面積700m²を超える)

施工歩掛コード	WB251960	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分	ラフテレーンクレーン	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。

参考図(覆工板受桁及び桁受)



⑦ 足 場 支 保 工

⑦-1 足 場 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、一般土木工事の構造物施工にかかる平均設置高30m以下の足場工に適用する。

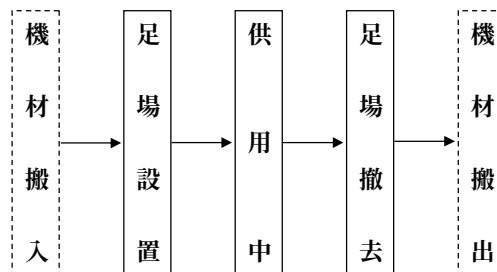
ただし、高さ2m未満の構造物及び鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル等で標準歩掛が設定されている工種には適用出来ない。

また、「第Ⅱ編第2章共通工⑤-1 場所打擁壁工(1)」、「第Ⅱ編第2章共通工②④-1 函渠工(1)」、「第Ⅳ編第4章共同溝工①共同溝工(1)(2)」、「第7章橋梁工⑩-1 橋台・橋脚工(1)」については、適用出来ない。

2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

2-2 工法の選定

工法の選定は、次図を標準とする。

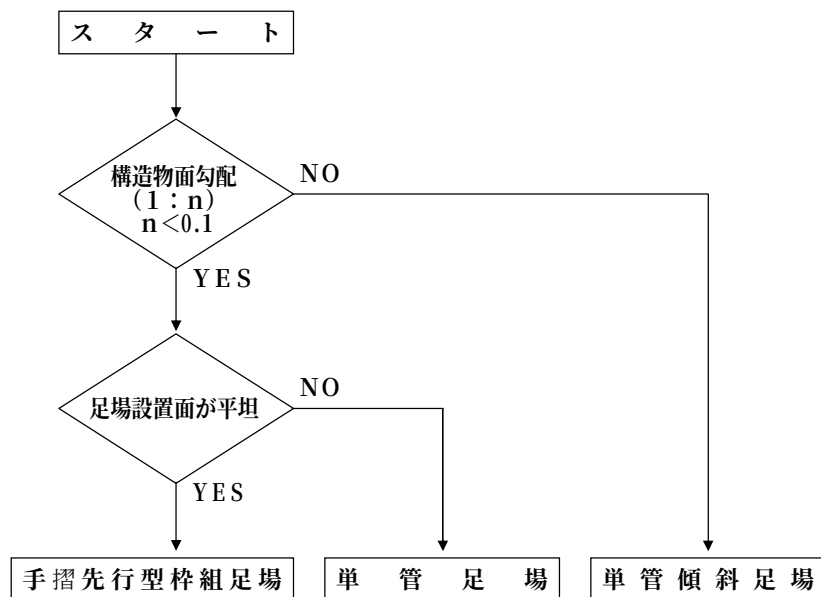


図2-2 工法の選定

3. 施 工 歩 掛

足場材の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 足場材設置・撤去歩掛 (100掛m²当り)

名 称	規 格	単位	手摺先行型 枠組足場	単 管 足 場	単管傾斜足場
土木一般世話役		人	1.4	1.7	1.4
と び 工		〃	6.3(7.7)	6.3(7.7)	4.1(5.6)
普 通 作 業 員		〃	1.2	1.6	2.5
ラフテレーン クレーン運 転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日	1.4	0.8	0.8
諸 雑 費 率		%	34(31)	32(29)	35(30)

- (注) 1. 安全ネットが必要な場合は、() 内の数値を計上する。
2. 諸雑費は、足場工仮設材等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
なお、諸雑費には、供用中の足場材損料を含むものとする。
・手摺先行型枠組足場における仮設材内訳は、壁つなぎ、敷板、建枠、筋違、板付布枠、連結ピン、アームロック、ジャッキベース、手摺柱、手摺、手摺枠(二段手摺の機能を有する)、幅木、階段、養生ネット(メッシュシート)等である。また、安全ネットを設置した場合の安全ネットである。
・単管足場における仮設材内訳は、丸パイプ、直交クランプ、自在クランプ、直線ジョイント、固定ベース、足場板、敷板、壁つなぎ、階段、養生ネット(メッシュシート)等である。また、安全ネットを設置した場合の安全ネットである。
・単管傾斜足場における仮設材内訳は、丸パイプ、直交クランプ、自在クランプ、直線ジョイント、足場板、固定ベース、養生ネット(メッシュシート)等である。また、安全ネットを設置した場合の安全ネットである。
3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. 単 価 表

(1) 手摺先行型枠組足場・単管足場・単管傾斜足場100掛m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB252110
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表3.1
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーン クレーン運 転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日		表3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表3.1
計				

5. 参考図(足場工)

図5-1 足場工参考図

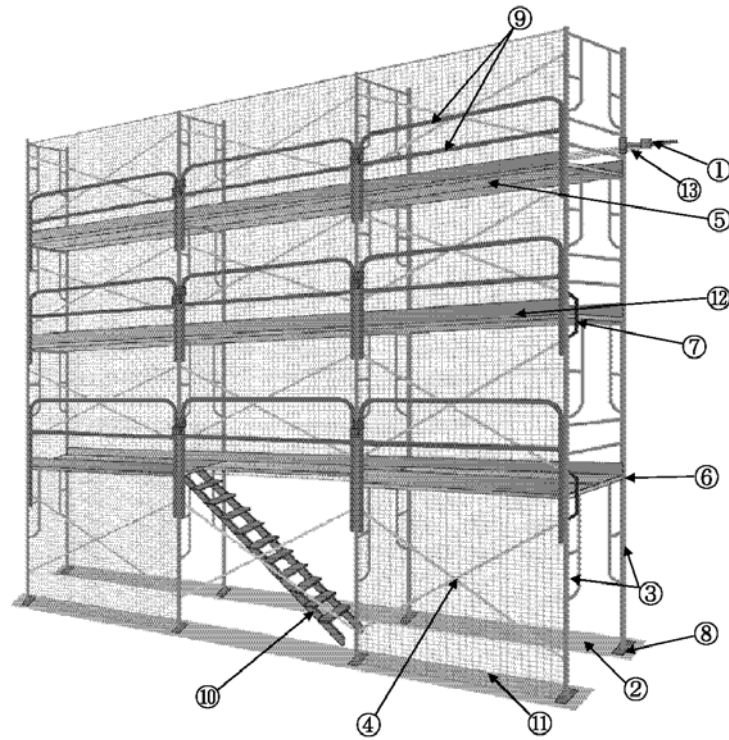
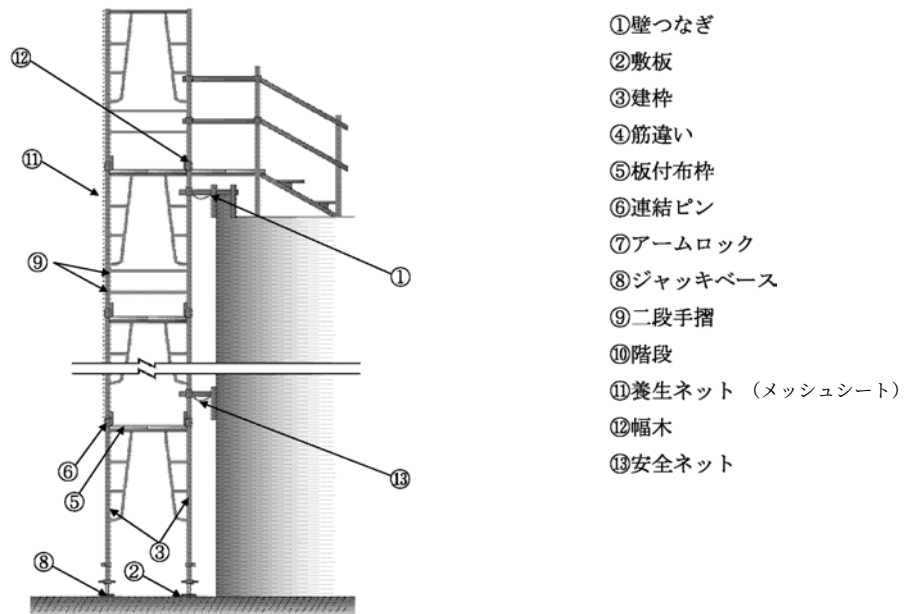


図5-2 足場工断面参考図



6. 施工単価入力基準表

(1) 足場工

施工歩掛コード	WB252110	施工単位	掛 m^2
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各種	工 法	安全ネット	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①手摺先行型枠組足場 ②単管足場 ③単管傾斜足場	①必要 ②不要	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
2. 本コードはラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。
3. 本コードはラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

⑦-2 支 保 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、一般土木工事の構造物施工にかかる平均設置高30m以下の支保工に適用する。

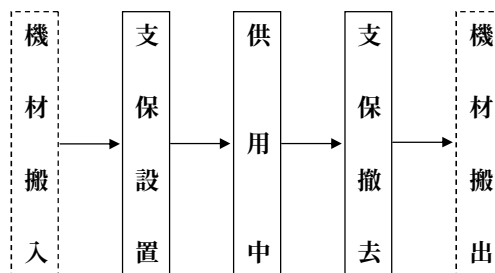
ただし、鋼橋床版、砂防、ダム、トンネル等で標準歩掛が設定されている工種には適用出来ない。

また、「第Ⅱ編第2章共通工⑤-1 場所打擁壁工(1)」、「第Ⅱ編第2章共通工②④-1 函渠工(1)」、「第Ⅳ編第4章 共同溝工①共同溝工(1)(2)」、「第7章橋梁工⑨-1 橋台・橋脚工(1)」については、適用出来ない。

2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

2-2 工法の選定

工法の選定は、次図による。

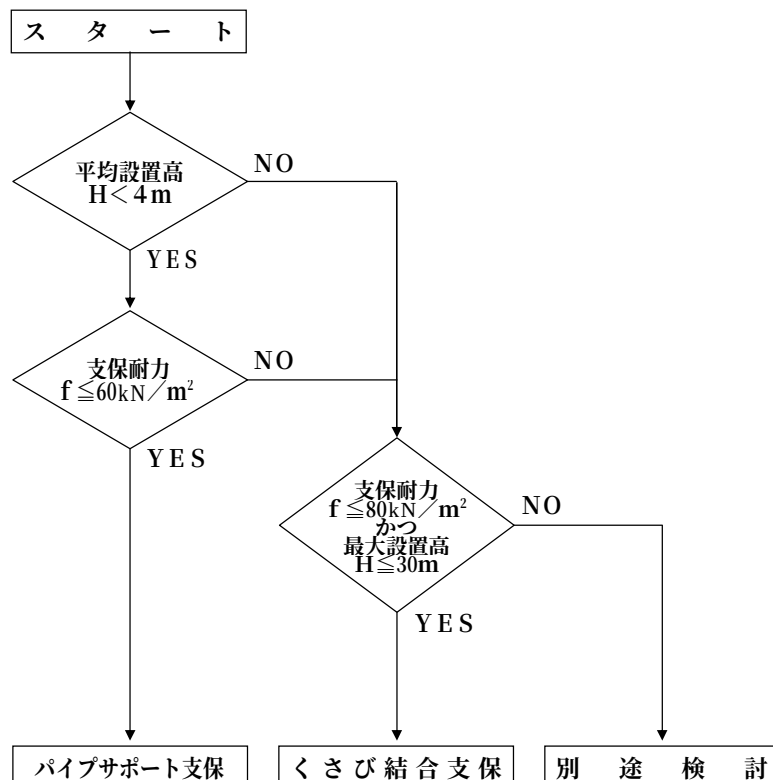


図2-2 工法の選定

3. 施 工 歩 掛

支保材の設置・撤去歩掛は、表3.1を標準とする。ただし、パイプサポート支保の総設置数量40空 m^3 以下の小規模工事では表3.2を標準とする。

表3.1 支保材設置・撤去歩掛 (100空 m^3 当り)

名 称	規 格	単 位	支保耐力 f (kN/m^2)			
			パイプサポート支保		くさび結合支保	
			$f \leq 40$	$40 < f \leq 60$	$f \leq 40$	$40 < f \leq 80$
コンクリート厚(t)(参考)		cm	$t \leq 120$	$120 < t \leq 190$	$t \leq 120$	$120 < t \leq 250$
土 木 一 般 世 話 役		人	2.6	4.2	1.4	2.1
型 わ く 工		〃	4.7	8.7	1.3	2.7
と び 工		〃	2.2	2.4	3.3	4.2
普 通 作 業 員		〃	5.1	11.1	3.3	6.0
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	日	—		0.5	1.2
諸 雑 費 率		%	15		33	

- (注) 1. 諸雑費は、仮設材等の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- ・パイプサポート支保における仮設材内訳は、パイプサポート、型枠受台、根がらみ、水平つなぎ、根がらみクランプ、直交クランプ、頭つなぎ等である。
 - ・くさび結合支保における仮設材内訳は、ジャッキベース、大引受ジャッキ、建地材、つなぎ材、斜材等である。
2. 参考値のコンクリート厚について、張出し部等で断面の変化する場合のコンクリート厚は、平均とする。
3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

表3.2 支保材設置・撤去歩掛(小規模) (10空 m^3 当り)

名称	単位	支保耐力 f (kN/m^2)
		パイプサポート支保
		$f \leq 40$
コンクリート厚 (t) (参考)	cm	$t \leq 120$
土 木 一 般 世 話 役	人	0.29
型 わ く 工	〃	0.53
と び 工	〃	0.25
普 通 作 業 員	〃	0.57
諸 雑 費 率	%	13

4. 単 価 表

(1) パイプサポート支保・くさび結合支保100 空^m 当り単価表

		施工歩掛コード		WB252210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.1
型 わ く 工		〃		〃
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日		表3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表3.1
計				

(2) パイプサポート支保(小規模) 10 空^m 当り単価表

		施工歩掛コード		WB252210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.2
型 わ く 工		〃		〃
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) 支保工

施工歩掛コード	WB252210	施工単位	空 ^m	
施工区分	入 力 条 件			
	J 1	J 2	J 3	J 4
各 種	支 保 工 法	総 設 置 数 量 (V)	支 保 耐 力	ラフテレーン クレーン 賃料補正係数
	①パイプサポート支保 ②くさび結合支保	① V > 40空 ^m ② V ≤ 40空 ^m	(表5.1)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件は選択出来ない。

2. J 2 条件で②を選択した場合は, J 3 条件は①で固定される。また, J 4 条件は選択出来ない。

3. J 1 条件で①を選択した場合は, J 3 条件の③は選択出来ない。

4. J 1 条件で②を選択した場合は, J 3 条件の②は選択出来ない。

5. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

6. 本コードはラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

7. 本コードはラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

表5.1 支保耐力

支保耐力[コンクリート厚(参考)]	入力番号
$f \leq 40\text{kN/m}^2$ [$t \leq 120\text{cm}$]	①
$40\text{kN/m}^2 < f \leq 60\text{kN/m}^2$ [$120 < t \leq 190\text{cm}$]	②
$40\text{kN/m}^2 < f \leq 80\text{kN/m}^2$ [$120 < t \leq 250\text{cm}$]	③

⑧ 締 切 排 水 工

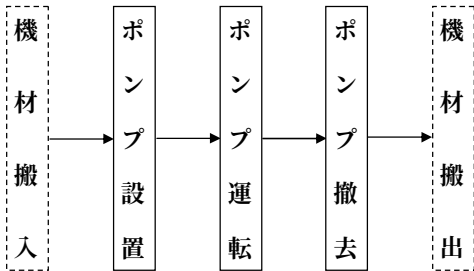
1. 適 用 範 囲

本資料は、仮設工のうち河川、道路、砂防工事などの水中締切、地中締切の排水工事で、全揚程が15m以下の場合に適用するものとし、ダム本体工事などの大規模工事の排水工事には適用しない。

2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

2-2 排水方法の選定

排水方法は、作業時排水又は常時排水とする。

(1) 作業時排水とは、作業前(1～3時間)から排水し始めて、作業終了後には排水を中止する方法をいう。

なお、作業時排水には、コンクリート打設前後の型枠組立・養生などのための一時的に昼夜排水するものも含む。

(2) 常時排水とは、昼夜連続的に排水する方法をいう。

3. 施 工 歩 掛

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定 (ポンプ運転)

機 械 名	規 格	単位	数量				摘 要	
			排 水 量 (m ³ /h)					
			0以上 40未満	40以上 120未満	120以上 450未満	450以上 1,300未満		
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型（潜水ポンプ） 口径150mm, 全揚程10m	台	1	－	1	－		
	普通型（潜水ポンプ） 口径200mm, 全揚程10m	〃	－	1	2	5		
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動 排出ガス対策型 (第2次基準値)	定格容量 25kVA	〃	1	－	－	－	
		定格容量 35kVA	〃	－	1	－	－	
		定格容量 60kVA	〃	－	－	1	－	
		定格容量 100kVA	〃	－	－	－	1	

- (注) 1. 工事用水中モータポンプの動力源は、発動発電機を標準とする。
2. 工事用水中モータポンプ及び発動発電機は、賃料とする。
3. 現場状況等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
4. 現場条件により、工事用水中モータポンプの動力源が商用電源の場合は、別途考慮する。

3-2 運転工歩掛

(1) 運転日数

排水期間中のポンプの運転日数は、工事の規模、現場状況などから積上げて算出するものとする。

(2) 労務歩掛

ポンプの排水現場1箇所当りの日当り運転歩掛は、次表とする。

表3.2 ポンプ運転歩掛 (人/1箇所・日)

名 称	排 水 方 法	
	作 業 時 排 水	常 時 排 水
特 殊 作 業 員	0.14	0.17

- (注) 1. 歩掛は、運転日当り運転時間が作業時排水8h、常時排水24hを標準としたものである。
 2. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。
 3. 歩掛は、排水方法にかかわらず、排水現場1箇所当りポンプ台数が1～5台の運転労務歩掛を標準としたものである。現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。
 4. 1工事中に数分割の締切がある場合は、1締切現場を1箇所とする。

(3) 諸雑費

諸雑費は、ポンプの配管材料の損料、分電盤の賃料等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に下表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.3 諸雑費率 (%)

排 水 方 法	作 業 時 排 水	常 時 排 水
諸 雑 費 率	3	1

3-3 設置・撤去歩掛

ポンプの設置・撤去に要する1箇所当りの歩掛は、次表を標準とする。

表3.4 設置・撤去歩掛 (1箇所)

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.5
特 殊 作 業 員		〃	0.1
普 通 作 業 員		〃	2.0
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	0.5

- (注) 1. バックホウは、賃料とする。
 2. 歩掛及び運転日数は、1締切現場当りポンプ設置・撤去台数が1～5台が標準であり、上表により難しい場合は、別途考慮する。
 3. 使用機械・規格については上表を標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、別途選定出来るものとする。
 4. 歩掛には、配管設置・撤去労務を含む。
 5. 1工事中に数分割の締切がある場合は、1締切現場を1箇所とする。

4. 内訳書及び単価表

(1) 締切排水内訳書

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ポ ン プ 運 転		日		単価表(2)
ポンプ設置・撤去		箇所		単価表(3)
計				

(2) ポンプ運転1日当り単価表

施工歩掛コード	WB252310

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表3.2
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ 運 転	普通型(潜水ポンプ)	日	1	表3.1 機械賃料
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第2次基準値)	〃	1	表3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表3.3
計				

(3) ポンプ設置・撤去1箇所当り単価表

施工歩掛コード	WB252320

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表3.4
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8㎥(平積0.6㎥) 吊能力2.9t	日		表3.4 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
工 事 用 水 中 モ ー タ ポ ン プ	普通型 (潜水ポンプ)	機－30	機械賃料数量→(常時排水) 1.1 (作業時排水) 1.2
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 定格容量 25kVA 定格容量 35kVA 定格容量 60kVA 定格容量 100kVA	機－16	(常時排水) 燃料消費量→ 25kVA→ 79 35kVA→115 60kVA→199 100kVA→312 機械賃料数量→ 1.1
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 定格容量 25kVA 定格容量 35kVA 定格容量 60kVA 定格容量 100kVA	機－16	(作業時排水) 燃料消費量→ 25kVA→ 26 35kVA→ 38 60kVA→ 66 100kVA→104 機械賃料数量→ 1.2
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	機－28	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 69 機械賃料数量→ 1.16

5. 施工単価入力基準表

(1) ポンプ運転

施工歩掛コード	WB252310	施工単位	日
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	排水量区分	排水方法	
	(表5.1)	①作業時排水 ②常時排水	

(注) 1. 日数は、排水ポンプの運転日数を入力すること。

2. 本コードは、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。

3. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）および排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

表5.1 排水量区分

排水量 (m ³ /h)	入力番号
0以上 40未満	①
40 " 120 "	②
120 " 450 "	③
450 " 1,300 "	④

(2) ポンプ設置・撤去

施工歩掛コード	WB252320	施工単位	箇所

(注) 1. 本コードは、バックホウ（クレーン機能付き）の低騒音型機種についても適用出来る。

2. 本コードは、バックホウ（クレーン機能付き）の普通型機種（排出ガス未対策型）および排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

⑨ ウェルポイント工

1. 適用範囲

本資料は、構造物等の掘削工事におけるウェルポイント工に適用する。

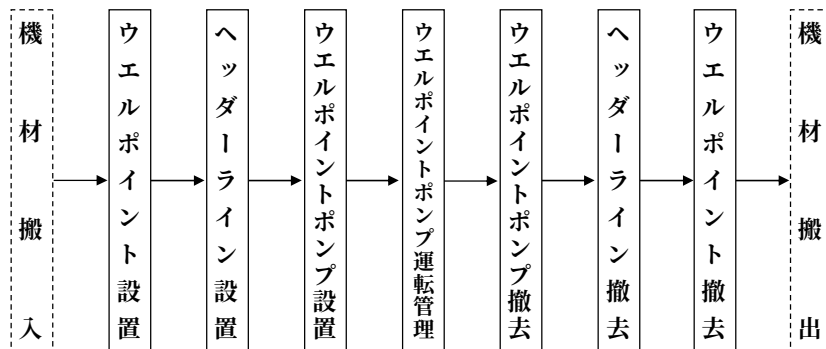
2. 施工概要

2-1 施工内容

この工法は、地下水低下工法の一つで、真空効果を利用して強制的に土中の水を抜き取る工法である。

2-2 施工フロー

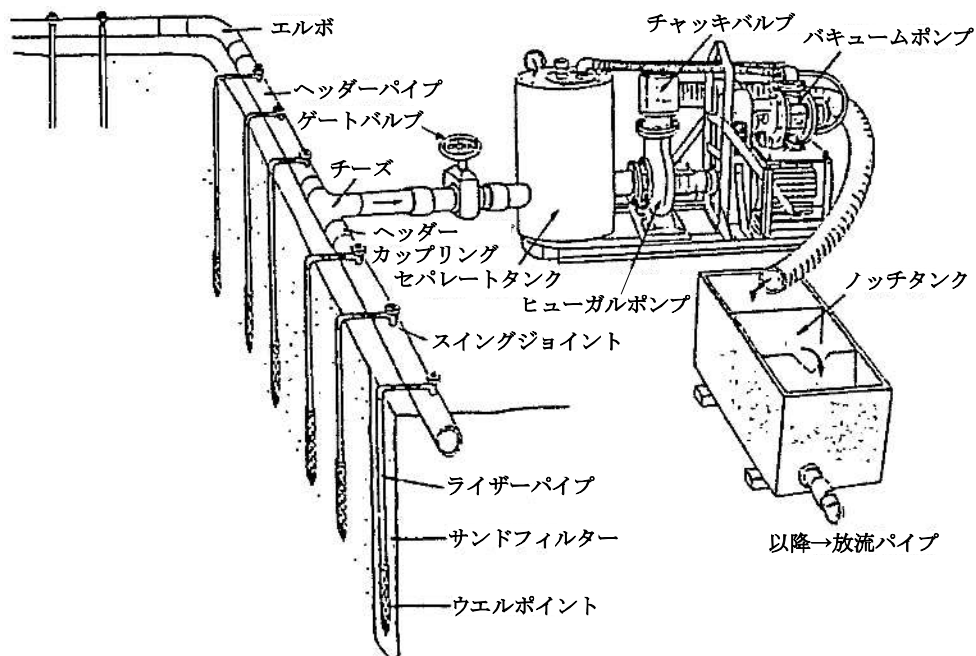
施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

2-3 参考図等



(用語の説明)

ウェルポイント……ウェルポイント、ライザーパイプ、スイングジョイント

ヘッダーライン……ヘッダーパイプ、ヘッダーカップリング、エルボ、チーズ等

ウェルポイントポンプ (1組) ……バキュームポンプ、ヒューガルポンプ、セパレートタンク、チャッキバルブ、ゲートバルブ、ノッチタンク、放流パイプ等

参考図

3. 施 工 歩 掛

3-1 ウエルポイント設置・撤去歩掛

ウエルポイント設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 ウエルポイント設置・撤去歩掛 (100本当たり)

名 称	規 格	単 位	設 置	撤 去
土 木 一 般 世 話 役		人	2.5	1.3
特 殊 作 業 員		〃	7.1	3.9
普 通 作 業 員		〃	7.1 (10.8)	6.0
ジ ェ ッ ト 装 置		日	2.3	—
諸 雑 費 率		%	38(40)	45

- (注) 1. 歩掛に含まれる作業
 [設置] ウエルポイント組立・打込み、ヘッダーライン設置までである。
 [撤去] ヘッダーライン撤去、ウエルポイント引抜き・解体までである。
 2. () 書きはサンドフィルターを使用する場合。
 3. 諸雑費は、材料費(サンドフィルターを使用する場合)、トラック(クレーン装置付)運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 諸雑費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は「ウエルポイント設置」の諸雑費率から1%減ずるものとし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

$$\text{電力使用量 (kWh)} = 15\text{kW} \times 0.9 \times 4.7\text{h} \times 0.023 \times \text{ウエルポイント施工本数} \cdots \text{式} 3.1$$

 5. 歩掛には、現場内小運搬を含む。
 6. 本歩掛は、商用電源(低圧電力・臨時契約)を標準としているため、基本料金、工事費負担金、受電設備等の費用を「第Ⅱ編第5章仮設工②仮設電力設備工」により別途計上する。

3-2 ウエルポイントポンプ設置・撤去歩掛

ウエルポイントポンプ設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 ウエルポイントポンプ設置・撤去歩掛 (1組当たり)

名 称	単 位	設 置	撤 去
土 木 一 般 世 話 役	人	0.3	0.1
特 殊 作 業 員	〃	0.9	0.6
普 通 作 業 員	〃	1.2	0.8
諸 雑 費 率	%	39	31

- (注) 1. 上表は、ゲートバルブから放流パイプまでの設置・撤去歩掛である。
 2. 諸雑費は、トラック(クレーン装置付)運転経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3-3 ウエルポイントポンプ運転管理歩掛

ウエルポイントポンプ運転管理歩掛は、次表を標準とする。

表3.3 ウエルポイントポンプ運転管理歩掛 (1日当たり)

名 称	単 位	ポンプ使用組数
		1～5組
土 木 一 般 世 話 役	人	0.2
特 殊 作 業 員	〃	0.7
諸 雑 費 率	%	36×使用組数

- (注) 1. 労務単価は、時間外手当等を考慮しない。
 2. ポンプ使用組数は、1組から5組を標準とし、これ以外は別途考慮する。
 3. 諸雑費は、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 4. 諸雑費内の電力に関する経費については、低圧電力・臨時契約を標準としており、これにより難しい場合は、諸雑費率を見込まないものとし、電力使用量を次式により求め別途計上する。

$$1\text{日当り電力使用量 (kWh)} = 18.5\text{kW} \times 0.9 \times 24\text{h} \times \text{使用組数} \cdots \text{式} 3.2$$

 5. 本歩掛は、商用電源(低圧電力・臨時契約)を標準としているため、基本料金、工事費負担金、受電設備等の費用を「第Ⅱ編第5章仮設工②仮設電力設備工」により別途計上する。

4. 内訳書及び単価表

(1) ウエルポイント工内訳書

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ウエルポイント設置		本		単価表(3)
ウエルポイント撤去		〃		〃
ウエルポイントポンプ設置		組		単価表(5)
ウエルポイントポンプ撤去		〃		〃
ウエルポイントポンプ運転管理		日		単価表(6)
ウエルポイント工損料		式	1	
ジェット装置損料		〃	1	
計				

(2) ウエルポイント設置・撤去100本当り内訳書

施工歩掛コード	WB252410

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ウエルポイント設置		本		単価表(3)
ウエルポイント撤去		〃		単価表(3)
計				

(3) ウエルポイント設置又は撤去100本当り単価表

施工歩掛コード	WB252411 , WB252412

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表3.1
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(4) ウエルポイントポンプ設置・撤去1組当り内訳書

施工歩掛コード	WB252430

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ウエルポイントポンプ設置		組		単価表(5)
ウエルポイントポンプ撤去		〃		単価表(5)
計				

(5) ウエルポイントポンプ設置又は撤去1組当り単価表

施工歩掛コード	WB252431 , WB252432

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土木一般世話役		人		表3.2
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(6) ウェルポイントポンプ運転管理1日当り単価表

				施工歩掛コード	WB252440
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	0.2	表3.3	
特 殊 作 業 員		〃	0.7	〃	
諸 雑 費		式	1	〃	
計					

(7) ウェルポイント工損料1式

				施工歩掛コード	WB252450
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
ウェルポイントポンプ 損 料 (供 用 1 日 当 り)		日		$\frac{\text{供用1箇月当り損料}}{30} \times \text{使用組数}$	
〃 (1 現 場 当 り)		組			
ウェルポイント損 料 (供 用 1 日 当 り)		日		$\frac{\text{供用1箇月当り損料}}{30} \times \text{使用本数}$	
〃 (1 現 場 当 り)		本			
ヘ ッ ダ ー ラ イ ン 損 料 (供 用 1 日 当 り)		日		$\frac{\text{供用1箇月当り損料}}{30} \times \text{使用延長}$	
〃 (1 現 場 当 り)		m			
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) ヘッダーライン及びウェルポイント部分で海水又は機械器具に対して腐蝕作用のある薬液の影響を直接
受ける箇所に敷設するものの損料は、現場条件を考慮し、50%の範囲で増額補正することが出来る。

(8) ジェット装置損料1式

				施工歩掛コード	WB252460
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
ジェット装置損料 (供 用 1 日 当 り)		日		$\frac{\text{供用1箇月当り損料}}{30}$	
〃 (1 現 場 当 り)		組	1		
スターカッター損料 (供 用 1 日 当 り)		日		$\frac{\text{供用1箇月当り損料}}{30}$	
〃 (1 現 場 当 り)		個	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) スターカッターは必要に応じて計上。

5. 施工単価入力基準表

(1) ウェルポイント設置, 撤去

施工歩掛コード	WB252410	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	作業区分	サンドフィルター 使用の有無	電力設備
	①設置,撤去 ②設置のみ ③撤去のみ	①無 ②有	①商用電源 (標準) ②その他

- (注) 1. J 1 条件で③を選択した場合は, J 2, J 3 条件は入力する必要はない。
 2. J 3 条件で①を選択した場合は, 基本料金, 工事費負担金, 受電設備等の費用を「第Ⅱ編第5章仮設工
 ②仮設電力設備工」により別途計上する。
 3. J 3 条件で②を選択した場合は, 電力に関する経費を別途計上する。
 4. 設置の場合は, ジェット装置損料をWB252460で別途計上する。

(2) ウェルポイントポンプ設置, 撤去

施工歩掛コード	WB252430	施工単位	組
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		
	作業区分		
	①設置,撤去 ②設置のみ ③撤去のみ		

(3) ウェルポイントポンプ運転管理

施工歩掛コード	WB252440	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	電力設備	ポンプ使用組数	
	①商用電源 (標準) ②その他	(組) (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, 基本料金, 工事費負担金, 受電設備等の費用を別途計上する。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は, 電力に関する経費を別途計上する。
 3. J 1 条件で②を選択した場合は, J 2 条件は入力する必要はない。
 4. J 2 条件のポンプ組数は1組から5組を標準とし, これ以外は別途考慮するものとする。

(4) ウェルポイント工損料

施工歩掛コード	WB252450	施工単位	式		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	ウエルポイント ポンプ組数	ウエルポイント 本数	ヘッダーライン 延長	腐蝕補正 の有無	供用日数
	①無			②有	
	(組) (実数入力)	(本) (実数入力)	(m) (実数入力)	(実数入力)	(日) (実数入力)

- (注) 1. J 1, J 2, J 3, J 5 条件は, 1 現場当りの実数を入力する。なお, 流用する場合は別途考慮すること。
 2. ヘッダーライン及びウェルポイント部分で海水又は機械器具に対して腐蝕作用のある薬液の影響を直接
 受ける箇所に敷設するものの損料は, 現場条件を考慮し, 50%の範囲で増額補正することが出来る。
 3. 上記補正はJ 4 条件で②を選択し, 50%の範囲内で実数入力する。ただし, 2%の増額であれば0.02を実数
 入力する。

(5) ジェット装置損料

施工歩掛コード	WB252460	施工単位	式
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	スターカッター の有無	供用日数	
	①無 ②有	(日) (実数入力)	

(注) J 2 条件は、1 現場当りの実数を入力する。なお、流用する場合は別途考慮すること。

⑩ 土 の う 工

⑩-1 土 の う 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、簡易な仮締切工に適用するものとし、仕拵、積立、撤去の各作業よりなるものとする。

2. 施 工 歩 掛

2-1 土のう仕拵・積立・撤去歩掛

土のう仕拵・積立・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 土のう仕拵・積立・撤去歩掛 (100 袋当り)

種別／工種	材 料	仕 拵	積 立	撤 去	合 計
土 の う	化学セシイ土のう	2.0	1.0	1.2	4.2

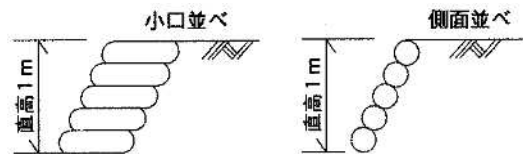
2-2 土のう積材料使用量

材料の使用量については、次表を標準とする。

表2.2 土のう積材料使用量

規 格	袋数／m ² 当り		詰土量・質量／袋	
	小口並べ	側面並べ	m ³ ／袋	kg／袋
62×48cm	17	14	0.02	40

土のう袋数 = 1 m² 当り袋数 × 直高 × 延長



(注) 詰土量は地山土量とする。

3. 単 価 表

(1) 土のう 100 袋当り単価表

		施工歩掛コード		WB252610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 砂		m ³	2	100袋×0.02m ³ /袋
普 通 作 業 員		人		表2.1
土 の う	62×48cm	袋	100	
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 土のう積工 10 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB252620
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 砂		m ³		表2.2
土 の う	62×48cm	袋		〃
普 通 作 業 員		人		表2.1,表2.2
諸 雑 費		式	1	
計				

4. 施工単価入力基準表

(1) 土のう工

施工歩掛コード	WB252610	施工単位	袋
施工区分	入力条件		
各 種	J 1		
	作業内容 ①仕拵,積立,撤去 ②仕拵,積立 ③撤去		

(注) J 1 条件で①, ②を選択した場合は, 購入土単価 (Y-1613000) [円/m³] を単価登録すること。
 なお, 流用土の場合は0 [円/m³] で単価登録する。

(2) 土のう積工

施工歩掛コード	WB252620	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分 ①小口並べ ②側面並べ	作業内容 ①仕拵,積立,撤去 ②仕拵,積立 ③撤去	

(注) 1. J 2 条件で①, ②を選択した場合は, 購入土単価 (Y-1613000) [円/m³] を単価登録すること。
 なお, 流用土の場合は0 [円/m³] で単価登録する。
 2. 施工数量は, 直高×延長の面積を入力する。

⑩－２ 大型土のう工

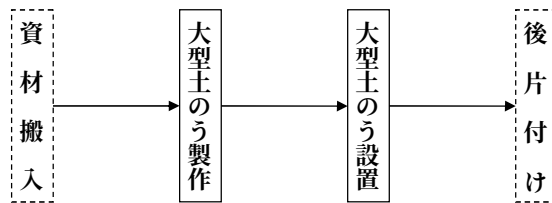
1. 適用範囲

本資料は、大型土のうの製作・設置、撤去に適用する。
 なお、大型土のうの袋材は、容量 1 m^3 を標準とする。

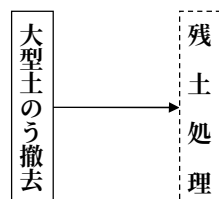
2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

①製作・設置



②撤去



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2－1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	作業半径	機械名	規格	単位	数量	摘要
製作	—	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8 m^3 (平積 0.6 m^3) 吊能力 2.9 t	台	1	
設置・撤去	6m以下	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.8 m^3 (平積 0.6 m^3) 吊能力 2.9 t	〃	1	
	6mを超え 20m以下	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 25t吊	〃	1	

(注) 1. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 2. 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

4. 製作・設置歩掛

4-1 編成人員

製作から設置までの一連の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	1

(注) 1. 上表は、横取り作業(12mまで：製作現場～仮置場)を含む。

2. 製作現場と設置現場が異なる場合は、積込・荷卸・運搬等必要な費用を別途計上する。

4-2 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.2 日当り施工量

作業種別	単位	施工量
製作・設置	袋	36 (52)

(注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、()内を使用する。

4-3 諸雑費

諸雑費は、製作枠等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4 (6)

(注) ラフテレーンクレーンを使用する場合は、()内を使用する。

5. 施工歩掛

5-1 編成人員

製作、設置、撤去作業を単独で行う場合の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表5.1 日当り編成人員 (人)

作業種別	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
製作	1	1	1
設置	1	1	1
撤去	1	1	—

(注) 1. 製作には、横取り作業(12mまで：製作現場～仮置場)を含む。

2. 製作現場と設置現場が異なる場合は、積込・荷卸・運搬等必要な費用を別途計上する。

3. 撤去には、中詰材排出を含む。

5-2 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.2 日当り施工量

作業種別	単位	施工量
製作	袋	62
設置	〃	86 (80)
撤去	〃	144 (134)

- (注) 1. ラフテレーンクレーンを使用する場合は、()内を使用する。
 2. 袋材の処分費及び残土処理費が必要な場合は、別途計上する。

5-3 諸雑費

諸雑費は、製作枠等の費用であり、製作労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.3 諸雑費率 (%)

諸雑費率(製作)	7

6. 単 価 表

(1) 大型土のう製作・設置10袋当り単価表（バックホウ設置）

		施工歩掛コード			WB252730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	1×10/D	表4.1, 表4.2	
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
大 型 土 の う	容量1m ³	袋	10		
土 砂		m ³	10	ほぐした土量	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表4.3	

(注) D：日当り施工量

(2) 大型土のう製作・設置10袋当り単価表（ラフテレーンクレーン設置）

		施工歩掛コード			WB252730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	1×10/D	表4.1, 表4.2	
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
大 型 土 の う	容量1m ³	袋	10	ほぐした土量	
土 砂		m ³	10		
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表4.2 機械賃料	
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 25t吊	〃	10/D	表4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表4.3	

(注) D：日当り施工量

(3) 大型土のう製作10袋当り単価表

		施工歩掛コード			WB252730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	1×10/D	表5.1, 表5.2	
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
大 型 土 の う	容量1m ³	袋	10	ほぐした土量	
土 砂		m ³	10		
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表5.3	

(注) D:日当り施工量

(4) 大型土のう設置10袋当り単価表

		施工歩掛コード			WB252730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	1×10/D	表5.1, 表5.2	
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.2 作業半径6m以下の場合 機械賃料	
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 25t吊	〃	10/D	表5.2 作業半径6mを超え 20m以下の場合 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		

(注) D:日当り施工量

(5) 大型土のう撤去10袋当り単価表

		施工歩掛コード			WB252730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	1×10/D	表5.1, 表5.2	
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃	
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.2 作業半径6m以下の場合 機械賃料	
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第3次基準値) 25t吊	〃	10/D	表5.2 作業半径6mを超え 20m以下の場合 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		

(注) D:日当り施工量

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 超低騒音型・排出ガス対策型(第 3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	機-28	【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 98 機械賃料数量→ 1.39 【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 112 機械賃料数量→ 1.44 【製作】 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 112 機械賃料数量→ 1.44 【設置】 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 88 機械賃料数量→ 1.36 【撤去】 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 74 機械賃料数量→ 1.26

7. 施工単価入力基準表

(1) 大型土のう工

施工歩掛コード	WB252730	施工単位	袋	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	袋詰土区分	設置作業半径	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①製作・設置	①購入土	①6m以下	①標準
	②製作	②流用土	②6mを超え 20m以下	②標準以外 (実数入力)
	③設置			
	④撤去			

- (注) 1. J 1条件で①又は②を選択した場合は、大型土のう袋材単価 (Y-0561101) [円/袋] を単価登録すること。
2. J 1条件で②を選択した場合は、J 3, J 4条件は入力する必要はない。
3. J 1条件で③又は④を選択した場合は、J 2条件は入力する必要はない。
4. J 2条件で①を選択した場合は、購入土単価 (Y-1613000) [円/㎡] を単価登録すること。
5. J 3条件で①を選択した場合は、J 4条件は入力する必要はない。
6. 本コードは、バックホウの排出ガス対策型 (第1次基準値) 及び排出ガス対策型 (第2次基準値) についても適用出来る。
7. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種、普通型機種 (排出ガス未対策型)、排出ガス対策型 (第1次基準値) 及び排出ガス対策型 (第2次基準値) についても適用出来る。
8. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
9. 撤去後の袋材の処分費及び残土処理費が必要な場合は別途計上する。

⑪ 仮橋・仮栈橋工

1. 適用範囲

本資料は、鋼製による仮橋及び仮栈橋の上部工（桁の架設・撤去、覆工板設置・撤去、高欄設置・撤去）と下部工（橋脚設置・撤去、杭橋脚打込・引抜及び設置・撤去）で、支間長39m以下に適用する。

ただし、下部工は橋脚高24m以下とし、橋脚と杭橋脚の区分については、図2－2 仮橋・仮栈橋工概念図による。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

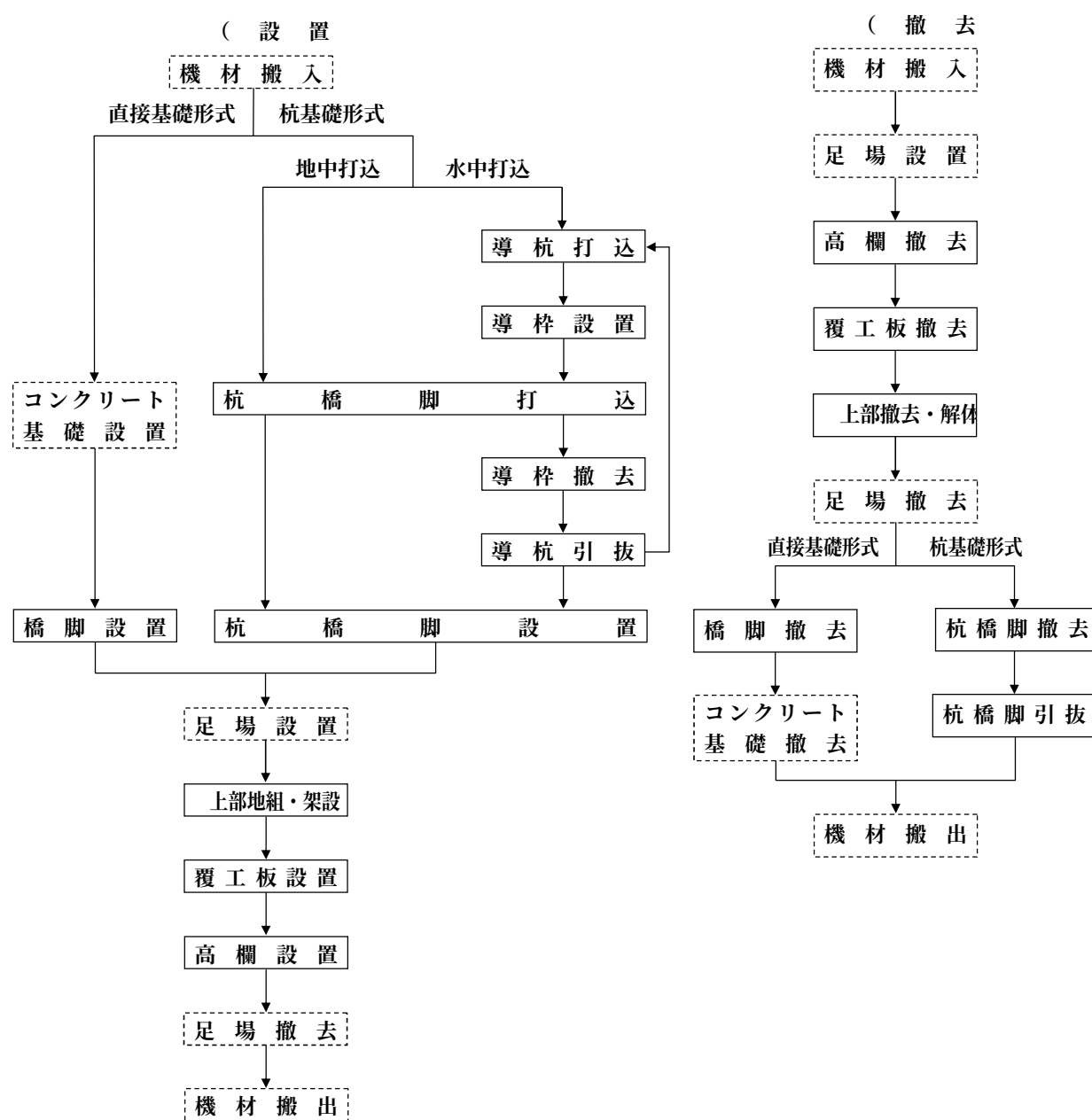


図2－1 施工フロー

参考図（概念図）

橋脚、杭橋脚等の区分は、次図による。

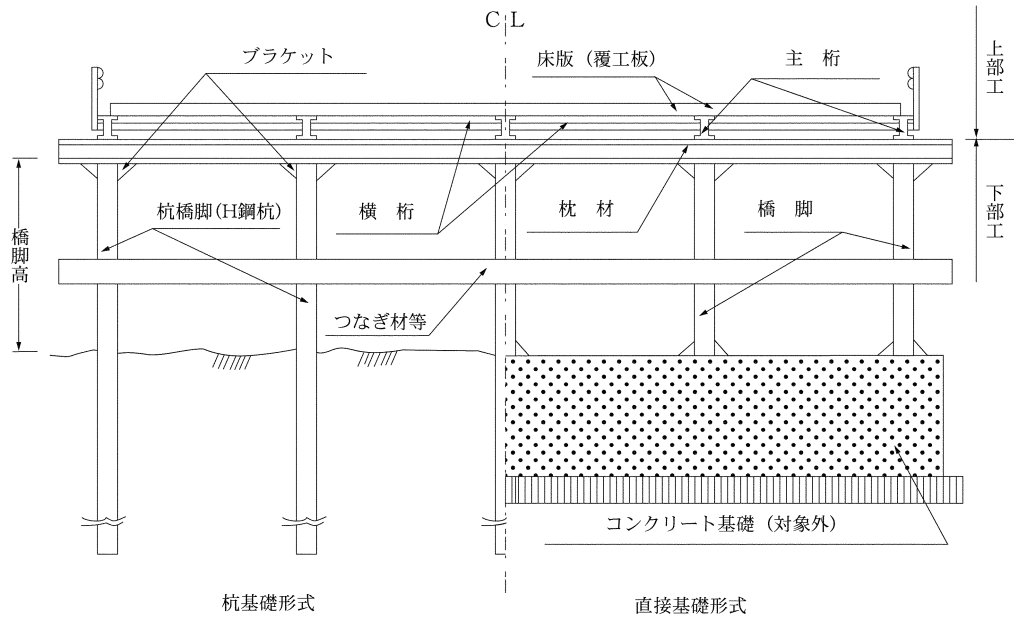


図2-2 仮橋・仮栈橋工概念図

3. 機種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
直接基礎形式	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 〇〇t吊	台	1	
杭基礎形式	クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ ラチスジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 〇〇t吊	〃	1	

(注) 1. クレーンは、最大部材質量（地組がある場合は、地組部材質量）作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去、高欄設置・撤去、覆工板設置・撤去、橋脚設置・撤去、導枠設置・撤去等の工程を配慮し、同一機種で選定することを標準とするが、現場条件により上表により難しい場合は、現場条件に適合した機種とすることが出来る。

2. ラフテレーンクレーン、クローラクレーンは、賃料とする。

3. 杭橋脚打込・引抜、導杭打込・引抜については、表4. 8より選定する。

4. ラフテレーンクレーンで、7 t 吊、10 t 吊、45 t 吊を選定した場合は、排出ガス対策型（第1次基準値）とする。

4. 施 工 歩 掛

4-1 上部工

4-1-1 架設・撤去工

上部工の架設・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 架設・撤去工歩掛 (10t 当り)

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			架 設	撤 去	
橋 り ょ う 世 話 役		人	1.2	0.8	
橋 り ょ う 特 殊 工		〃	3.4	1.6	
溶 接 工		〃	—	0.5	
普 通 作 業 員		〃	2.0	1.4	
ラフテレーンクレーン 又はクローラクレーン 運	〇〇t吊	日	1.3	0.7	
諸 雑 費 率		%	16	2	

- (注) 1. 本歩掛には、地組・解体作業及び架設に伴う本締めも含む。
 2. 架設・撤去の対象質量は、架設・撤去すべき主桁、横桁の質量で、高力ボルト、覆工板、高欄の質量は含まない。
 3. 諸雑費は、ガス切断器、酸素、アセチレン、ホース、ドリフトピン、仮締めボルト、インパクトレンチ、トルクレンチ、高力ボルト及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-1-2 覆工板設置・撤去工

覆工板設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 覆工板設置・撤去工歩掛 (100m²当り)

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			設 置	撤 去	
土 木 一 般 世 話 役		人	0.9	0.5	
と び 工		〃	2.9	1.5	
普 通 作 業 員		〃	1.1	0.7	
ラフテレーンクレーン 又はクローラクレーン 運	〇〇t吊	日	1.0	0.5	

(注) 上表には、路面のすりつけ作業は含まない。

4-1-3 高欄設置・撤去工

高欄設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.3 高欄設置・撤去工歩掛 (100m当り)

名 称	規 格	単位	数量				摘 要
			ガードレール型		単管パイプ型		
			設 置	撤 去	設 置	撤 去	
土 木 一 般 世 話 役		人	1.3	0.7	1.0	0.6	
普 通 作 業 員		〃	5.0	3.3	3.8	2.1	
溶 接 工		〃	(2.6)	(1.3)	—	—	必要に応じて 計上する (注)2 (注)3
ラフテレーンクレーン 又はクロラクレーン 運 転	〇〇t吊	日	(1.1)	(0.7)	—	—	
諸 雑 費 率		%	(6)	(2)	—	—	

- (注) 1. 高欄型式は、仮橋はガードレール型、仮栈橋は単管パイプ型を標準とする。
 2. 溶接工及びクレーンは、高欄の支柱基礎として形鋼を橋面上に設置する場合の支柱と基礎の溶接及び基礎の吊込用として計上する。
 3. 諸雑費は、溶接又は切断が必要な場合の電気溶接機（エンジン付）又はガス切断器、酸素、アセチレン、ホース等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2 下部工

4-2-1 橋脚設置・撤去工（直接基礎形式）

橋脚設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.4 橋脚設置・撤去工歩掛 (10t 当り)

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			設 置	撤 去	
橋 り ょ う 世 話 役		人	1.7	1.1	
橋 り ょ う 特 殊 工		〃	4.2	3.0	
溶 接 工		〃	1.1	1.0	
普 通 作 業 員		〃	2.6	1.4	
ラフテレーンクレーン 運 転	〇〇t吊	日	1.5	0.7	
諸 雑 費 率		%	28	1	

- (注) 1. 橋脚設置に伴う本締めも含む。
 2. 設置・撤去の対象質量は、設置・撤去すべき橋脚、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
 3. 諸雑費は、電気溶接機（エンジン付）、ガス切断器、酸素、アセチレン、ホース、ドリフトピン、仮締めボルト、インパクトレンチ、トルクレンチ、高力ボルト及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2-2 杭橋脚設置・撤去工（杭基礎形式）

4-2-2-1 杭橋脚打込・引抜き

(1) 機種を選定

(1)-1 機種を選定

H形鋼の打込みに使用する電動式バイプロハンマの機械・規格は、次表を標準とする。

表4.5 機種を選定（打込み）

		バイプロハンマ施工	ウォータージェット併用施工
最大 N 値		$N_{max} < 50$	$50 \leq N_{max} \leq 80$
打込長	20m以下	60kW	
	25m以下	90kW	
杭打ち用ウォータージェット		—	14.7MPa 325ℓ/min×2台 (14.7MPa 325ℓ/min×1台)

(注) 1. ウォータジェット併用施工における () 書きは、 $N_{max} < 50$ の場合で、転石等によりやむを得ず杭打ち用ウォータージェットを使用する必要がある場合に計上する。

2. 対象地盤の最大N値が50以上のものについては、次式により換算N値を求めたうえで適用する。

$$\text{換算N値} = \frac{1,500}{\text{落下50回当り貫入量 (cm)}}$$

3. 打込長は、地表面よりのH形鋼の打込長であり、H形鋼長とは異なる。

4. 本歩掛の適用範囲は、表4.6のとおりとするが、これにより難しい場合は別途考慮する。

表4.6 打込長

H形鋼形式		H200・250	H300	H350・400
打込長 (m)	バイプロハンマ施工	13以下	20以下	25以下
	ウォータージェット併用施工	16以下	25以下	25以下

H形鋼の引抜きに使用する電動式バイプロハンマの機械・規格は、N値に関係なく次表を標準とする。

表4.7 機種を選定（引抜き）

	引抜き長	規格
H形鋼	25m以下	60kW

(注) 引抜き長は、地表面よりのH形鋼の引抜き長であり、H形鋼長とは異なる。

(1)-2 付属機械

バイプロハンマの付属機器の機械・規格は、次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。

表4.8 付属機器の機械・規格

機種	バイプロハンマ規格	電動式バイプロハンマ	
		60kW	90kW
クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)		50～55t吊	

(2) 編成人員

H形鋼の打込み、引抜作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.9 日当り編成人員 (人/日)

施 工 区 分	土 木 一 般 世 話 役	と び 工	普通作業員	特殊作業員
パイプロハンマ施工	1	2	1	—
ウォータージェット併用施工	1	2	1	1

(3) 日当り施工本数

H形鋼の日当り打込み、引抜本数(N)は次表を標準とする。

① 電動式パイプロハンマによる施工 (N_{max}<50)

表4.10 日当り施工本数(N) (本/日)

型式 打込長 (m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	63	59	55	49	45
4以下	47	40	35	28	24
6以下	38	31	26	20	17
8以下	32	25	21	16	13
10以下	27	21	17	13	10
13以下	23	17	14	10	8
16以下			12	8	7
20以下			10	7	6
22以下				6	5
25以下				5	4

(注) 継施工が必要な場合、施工本数(N)は別途考慮する。

② 電動式バイプロハンマとウォータージェット併用による施工

表4.11 日当り施工本数(N)

(本/日)

型式 打込長 (m)	H200	H250	H300	H350	H400
2以下	60 (65)	55 (60)	50 (56)	43 (49)	38 (45)
4以下	35 (40)	30 (35)	26 (31)	20 (25)	18 (22)
6以下	25 (29)	21 (25)	17 (21)	13 (17)	11 (15)
8以下	19 (23)	16 (19)	13 (16)	10 (13)	8 (11)
10以下	16 (19)	13 (16)	11 (13)	8 (10)	7 (9)
13以下	13 (15)	10 (13)	8 (11)	6 (8)	5 (7)
16以下	10 (13)	8 (10)	7 (9)	5 (7)	4 (6)
20以下			6 (7)	4 (5)	3 (5)
22以下			5 (6)	4 (5)	3 (4)
25以下			4 (6)	3 (4)	3 (4)

(注) 1. 継施工が必要な場合、施工本数(N)は別途考慮する。

2. 上 段: $50 \leq N_{\max} \leq 80$ 下段()書き: $N_{\max} < 50$ で、転石等により、やむを得ずウォータージェットを使用する
必要が生じた場合。

③ 引抜き

表4.12 日当り施工本数(N)

(本/日)

引 抜 長 (m)	2以下	4以下	6以下	8以下	10以下	13以下	16以下	20以下	22以下	25以下
引抜数量 (本/日)	56	46	39	34	30	26	22	19	17	16

(4) 諸雑費

表4.13 諸雑費率

施 工 区 分	バイプロハンマ 機種・規格		諸 雑 費 率 (%)
バイプロハンマ単独打込	電動式	60kW	20
		90kW	27
ウォータージェット併用打込	電動式	60kW	23 (25)
		90kW	27 (30)
引 抜 き	電動式	60kW	20

(注) 1. ウォータージェット併用打込における()書きは $N_{\max} < 50$ の場合で、転石等によりやむを得ずウォータージェットを使用する必要が生じた場合に計上する。

2. 諸雑費は、電力に関する経費、現場内小運搬費用、電気溶接機運搬経費(バイプロハンマ施工時)、ウォータージェット併用施工用付属機器運転経費及び材料費(電力に関する経費、工事用水中モータポンプ及び電気溶接機運転経費、水槽及び配管損料、配管バンド及び溶接棒)等の費用であり、打込労務費、杭打機及びウォータージェットの機械損料及び運転経費の合計額に、上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2-2-2 杭橋脚設置・撤去工

杭橋脚設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.14 杭橋脚設置・撤去工歩掛 (10t 当り)

名 称	規 格	単位	数 量		摘 要
			設 置	撤 去	
橋 り ょ う 世 話 役		人	2.1	1.2	
橋 り ょ う 特 殊 工		//	3.9	2.3	
溶 接 工		//	3.2	1.6	
普 通 作 業 員		//	2.6	1.3	
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日	1.9	1.4	
諸 雑 費 率		%	28	2	

- (注) 1. 杭橋脚設置に伴う本締めも含む。
 2. 設置・撤去の対象質量は、設置・撤去すべき枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルト及び杭の質量は含まない。
 3. 諸雑費は、電気溶接機(エンジン付)、ガス切断器、酸素、アセチレン、ホース、ドリフトピン、仮締めボルト、インパクトレンチ、トルクレンチ、高力ボルト及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2-3 定規工(導杭・導枠)

杭橋脚(H鋼杭)を水中に打込む場合に計上することを標準とする。

(1) 導杭打込・引抜工

導杭打込・引抜工は、4-2-2-1 杭橋脚打込・引抜工による。

導杭の規格は、H形鋼(300×300)とし、施工本数は、杭橋脚打込10本当たり8本で、打込長は杭橋脚打込長の50%とする。

(2) 導枠設置・撤去工

導枠設置・撤去工の歩掛は、次表を標準とする。

表4.15 導枠設置・撤去工歩掛 (杭橋脚打込10本当り)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.45	
と び 工		//	1.23	
普 通 作 業 員		//	0.52	
クローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日	0.65	
諸 雑 費 率		%	10	

- (注) 諸雑費は、導杭、導枠に使用するH形鋼の賃料及びボルト等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 単 価 表

(1) 上部工架設・撤去工10t 当り単価表

施工歩掛コード WB252810				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表4.1
橋 り ょ う 特 殊 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又はクローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(2) 覆工板設置・撤去工100m²当り単価表

施工歩掛コード WB252820				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.2
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 又はクローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 高欄設置・撤去工100m当り単価表

施工歩掛コード WB252830				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.3
普 通 作 業 員		〃		〃
溶 接 工		〃		必要に応じて計上 表4.3
ラフテレーンクレーン 又はクローラクレーン 運 転	〇〇t吊	日		必要に応じて計上 表3.1、表4.3 機械賃料
諸 雑 費		式	1	必要に応じて計上 表4.3
計				

(4) 橋脚設置・撤去工(直接基礎形式) 10t 当り単価表

施工歩掛コード	WB252840

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表4.4
橋 り ょ う 特 殊 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	〇〇t吊	日		表3.1、表4.4 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.4
計				

(5) バイプロハンマ施工によるH形鋼の打込み又は引抜き10本当り単価表

施工歩掛コード	WB252850・WB252880

(H形鋼打込, 又は引抜長〇〇m)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表4.9～表4.12
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
バ イ プ ロ ハ ン マ 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表4.5、表4.8 表4.10～表4.12 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.13
計				

(注) N: 日当り施工本数 [本/日]

(6) バイプロハンマとウォータージェット併用施工によるH形鋼の打込み10本当り単価表

施工歩掛コード	WB252850

(H形鋼打込長〇〇m)

名 称	規 格	単位	×数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{N} \times 1$	表4.9～表4.12
と び 工		〃	$\frac{10}{N} \times 2$	〃
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{N} \times 1$	〃
バ イ プ ロ ハ ン マ 機 運 転		日	$\frac{10}{N}$	表4.5、表4.8 表4.10～表4.12 機械損料
杭打ち用ウォーター ジェット運転	エンジン式 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力14.7MPa 吐出量325ℓ/min	〃	$\frac{10}{N} \times$ 台数	表4.5 表4.10～表4.12 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.13
計				

(注) N: 日当り施工本数 [本/日]

(7) 杭橋脚設置・撤去工(杭基礎形式) 10t 当り単価表

		施工歩掛コード		WB252860
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
橋 り ょ う 世 話 役		人		表4.14
橋 り ょ う 特 殊 工		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
クローラクレーン運転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.14 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.14
計				

(8) 導枠設置・撤去工 杭橋脚打込10本当り単価表

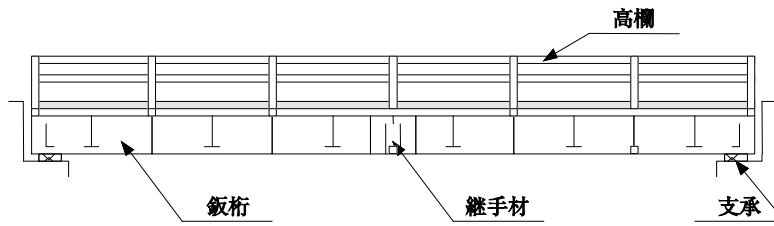
		施工歩掛コード		WB252870
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.15
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
クローラクレーン運転	〇〇t吊	日		表3.1、表4.15 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.15
計				

(9) 機械運転単価表

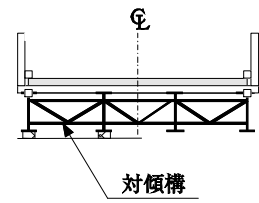
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 排出ガス対策型 (第1次基準値) 35t吊 40t吊 50t吊 55t吊 65t吊 80t吊 100t吊 150t吊	機-27	燃料消費量 35t→ 68 40t→ 70 50t→ 80 55t→ 80 65t→ 96 80t→ 112 100t→ 112 150t→ 144 機械賃料数量→1.0
バイプロハンマ杭打機	電動式・普通型 60kW 90kW	機-20	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→62 機 械 損 料 1→バイプロハンマ(単体) 電動式・普通型 60kW, 90kW 機械損料数量→1.20 機 械 損 料 2→クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 50～55t吊 機械損料数量→1.20
杭 打 ち 用 ウ ォ ー タ ジ ェ ッ ト	エンジン式・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 圧力14.7 MPa 吐出量325ℓ/min	機-24	燃 料 消 費 量→118 機械損料数量→1.20

6. 参 考 図

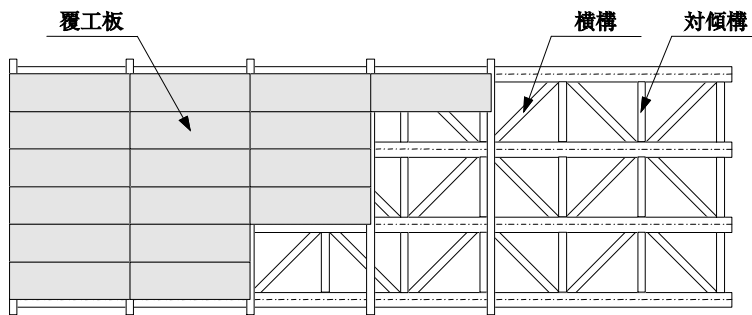
(1) 鉸桁



【側面図】

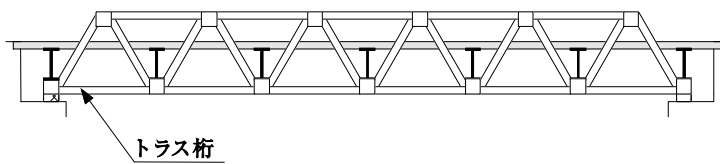


【断面図】

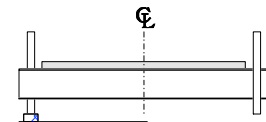


【平面図】

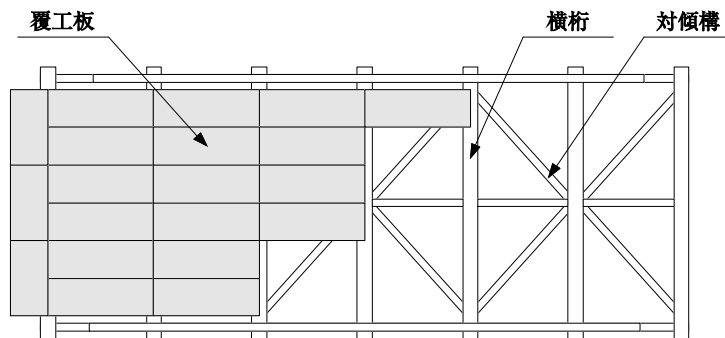
(2) トラス桁



【側面図】



【断面図】



【平面図】

7. 施工単価入力基準表

(1) 上部工架設・撤去工

施工歩掛コード	WB252810	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作業区分	クレーンの機種・規格	クレーン賃料補正係数
	①架設	(表7.1)	①標準(1.0)
	②撤去		②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 部材の材料費及び賃料は、別途計上すること。

2. 本コードの対象数量、架設・撤去すべき主桁、横桁の質量で、高力ボルト、覆工板、高欄の質量は含まない。

3. クレーン賃料補正(夜間施工)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードで、ラフテレーンクレーンの油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)を選択した場合は普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

5. クレーンは、最大部材質量(地組がある場合は、地組部材質量)作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去、高欄設置・撤去、覆工板設置・撤去、橋脚設置・撤去、導枠設置・撤去等の工程を配慮し、同一の機種で選定すること。

6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表7.1 クレーンの機種・規格

機 械 名	規格	入力番号
ラフテレーンクレーン 油 圧 伸 縮 ジ ブ 型 ・ 排 出 ガ ス 対 策 型 (第 2 次 基 準 値)	25 t 吊	①
	35 t 吊	②
	45 t 吊	③
	50 t 吊	④
クローラクレーン 排 出 ガ ス 対 策 型 (第 1 次 基 準 値) 油 圧 駆 動 式 ウ ィ ン チ ・ ラ チ ス ジ ブ 型	35 t 吊	⑤
	40 t 吊	⑥
	50 t 吊	⑦
	55 t 吊	⑧
	65 t 吊	⑨
	80 t 吊	⑩
	100 t 吊	⑪
	150 t 吊	⑫

(注)ラフテレーンクレーンで45t吊を選定した場合は、第1次基準値とする。

(2) 覆工板設置・撤去工

施工歩掛コード	WB252820	施工単位	m ²
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作業区分	クレーン機種・規格	クレーン賃料補正係数
	①設置 ②撤去	(表7.1)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 部材の材料費及び賃料は、別途計上すること。

2. クレーン賃料補正（夜間施工）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードで、ラフテレーンクレーンの油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）を選択した場合は普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

4. クレーンは、最大部材質量（地組がある場合は、地組部材質量）作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去、高欄設置・撤去、覆工板設置・撤去、橋脚設置・撤去、導枠設置・撤去等の工程を配慮し、同一の機種で選定すること。

5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(3) 高欄設置・撤去工

施工歩掛コード	WB252830	施工単位	m		
施 工 区 分	入 力 条 件				
	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
各 種	形式区分	作業区分	溶接工及び クレーンの有無	クレーン機種・規格	クレーン 賃料補正係数
	①ガードレール型 ②単管パイプ型	①設置 ②撤去	①必要 ②不要	(表7.1)	①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合、J 3, J 4, J 5 条件は入力する必要はない。

2. 部材の材料費及び賃料は、別途計上すること。

3. J 3 条件で②を選択した場合、J 4, J 5 条件は入力する必要はない。

4. 仮橋はガードレール型、仮栈橋は、単管パイプ型を標準とする。

5. 溶接工及びクレーンは、高欄の支柱基礎として形鋼を橋面上に設置する場合の支柱と基礎の溶接及び基礎の吊込みが必要な場合に計上すること。

6. クレーン賃料補正（夜間施工）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

7. 本コードで、ラフテレーンクレーンの油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）を選択した場合は普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

8. クレーンは、最大部材質量（地組がある場合は、地組部材質量）作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去、高欄設置・撤去、覆工板設置・撤去、橋脚設置・撤去、導枠設置・撤去等の工程を配慮し、同一の機種で選定すること。

9. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(4) 橋脚設置・撤去工（直接基礎形式）

施工歩掛コード	WB252840	施工単位	t
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	作業区分	クレーン機種・規格	クレーン賃料補正係数
	①設置 ②撤去	(表7.1)	①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 部材の材料費及び賃料は、第Ⅱ編第5章仮設工⑥矢板工（H形鋼）WB251760 等により別途計上すること。
2. クレーン賃料補正（夜間施工）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
3. 本コードで、ラフテレーンクレーンの油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）を選択した場合は普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。
4. クレーンは、最大部材質量（地組がある場合は、地組部材質量）作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去、高欄設置・撤去、覆工板設置・撤去、橋脚設置・撤去、導柝設置・撤去等の工程を配慮し、同一の機種で選定すること。
5. 本コードの対象数量は、設置・撤去すべき橋脚、枕、ブラケット、つなぎ材等の質量で、高力ボルトの質量は含まない。
6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。
7. J 2条件で⑤～⑫は選択出来ない。
8. 本コードは、現地調整に伴う軽微な加工（切断・溶接等）費用を含む。なお、精度が要求される加工（H形鋼の切断・削孔等）が必要な場合については別途計上すること。

(5) 杭橋脚打込み（杭基礎形式、陸上施工）

施工歩掛コード	WB252850	施工単位	本	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	H形鋼の型式	ウォータージェットの有無	最大N値	打込長
	①H200			
	②H250			
	③H300			
	④H350	①有	①50未満	(表7.2)
	⑤H400	②無	②50以上80以下	

- (注) 1. J 1条件①～②、J 2条件①を選択した場合は、J 4条件で⑧～⑩の選択は出来ない。
2. J 1条件①～②、J 2条件②を選択した場合は、J 4条件で⑦～⑩の選択は出来ない。
3. J 1条件③、J 2条件②を選択した場合は、J 4条件で⑨、⑩の選択は出来ない。
4. J 2条件②を選択した場合は、J 3条件は選択出来ない。
5. H形鋼の賃料及び材料費については、「第Ⅱ編第5章①仮設工及び⑥矢板工（H形鋼）WB251760」で別途計上すること。

表7.2 打込・引抜長

長さ	入力番号	長さ	入力番号
2m以下	①	13m以下	⑥
4m以下	②	16m以下	⑦
6m以下	③	20m以下	⑧
8m以下	④	22m以下	⑨
10m以下	⑤	25m以下	⑩

(注)打込み及び引抜きは、地表面から打込み及び引抜長さであり、H形鋼長とは異なる。

(6) 杭橋脚引抜き(杭基礎形式, 陸上施工)

施工歩掛コード	WB252880	施工単位	本
施工区分	入力条件		
	J 1		
各種	引抜き長 (表7.2)		

(注)本コードはクローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(7) 杭橋脚設置・撤去工(杭基礎形式)

施工歩掛コード	WB252860	施工単位	t
施工区分	入力条件		
	J 1	J 2	J 3
各種	作業区分 ①設置 ②撤去	クレーン機種・規格 (表7.1)	クレーン賃料補正係数 ①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 部材の材料費及び賃料は別途計上すること。

2. クレーン賃料補正(夜間施工)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードの対象数量は, 設置・撤去すべき枕, ブラケット, つなぎ材等の質量で, 高力ボルト質量は含まない。

4. クレーンは, 最大部材質量(地組がある場合は, 地組部材質量)作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去, 高欄設置・撤去, 覆工板設置・撤去, 橋脚設置・撤去, 導枠設置・撤去等の工程を配慮し, 同一の機種で選定すること。

5. 打込み・引抜き費用については, 別途計上すること。

6. J 2条件で①～④は選択出来ない。

7. 本コードはクローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

8. 本コードは, 現地調整に伴う軽微な加工(切断・溶接等)費用を含む。なお, 精度が要求される加工(H形鋼の切断・削孔等)が必要な場合については別途計上すること。

(8) 導枠設置・撤去工

施工歩掛コード	WB252870	施工単位	本
施工区分	入力条件		
	J 1	J 2	
各種	クレーンの機種・規格 (表7.1)	クレーン賃料補正係数 ①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. 数量は, 杭橋脚の設置本数を入力すること。

2. 導枠の規格はH形鋼(300 × 300)を標準とするが, H形鋼の規格にかかわらず適用出来る。

3. 本コードは, 導枠, 導枠に使用するH形鋼の賃料及びボルト等の費用を含んでいる。

ただし, 導枠の打込みはWB252850, 引抜きはWB252880を別途計上すること。

4. クレーン賃料補正(夜間施工)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

5. クレーンは, 最大部材質量(地組がある場合は, 地組部材質量)作業半径・吊上げ高及び主桁等の架設・撤去, 高欄設置・撤去, 覆工板設置・撤去, 橋脚設置・撤去, 導枠設置・撤去等の工程を配慮し, 同一の機種で選定すること。

6. J 1条件で①～④は選択出来ない。

7. 本コードはクローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

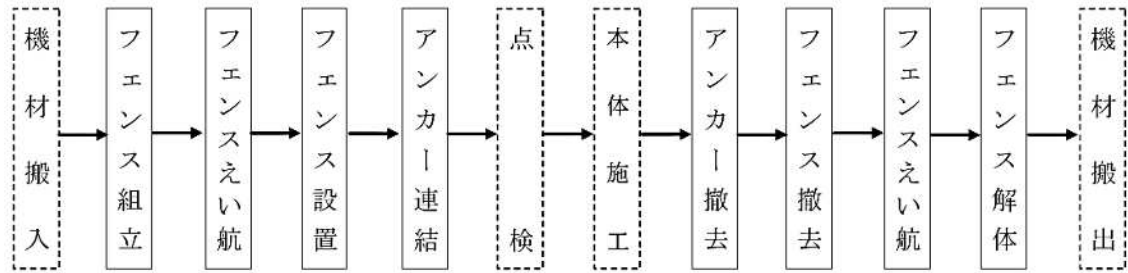
⑫ 汚濁防止フェンス工

1. 適用範囲

本資料は、河川、海岸工事等に使用する汚濁防止フェンスの設置・撤去で、えい航距離1 km 以下に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注)本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)吊能力2.9t	台	1	

(注) 1. バックホウは賃料とする。
2. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 施工歩掛

設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 設置・撤去歩掛 (100m当り)

名 称	規 格	単位	数 量	
			設 置	撤 去
土 木 一 般 世 話 役		人	1.3	0.9
普 通 作 業 員		〃	3.2	2.2
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m3(平積0.6m3)吊能力2.9t	日	1.3	0.9
諸 雑 費 率		%	3	

(注) 1. 上表には、1 km までのフェンスえい航作業を含むものとし、えい航の有無にかかわらず適用出来るものとする。
2. 諸雑費は、船外機船に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、現場条件により、これより難しい場合は、別途考慮する。

5. 使用材料

アンカー工(アンカーブロック、アンカーワイヤ)の費用として、フェンス賃料の10%を計上することを標準とする。

6. 内訳書及び単価表

(1) 汚濁防止フェンス工内訳書

施工歩掛コード				WB253010
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
汚 濁 防 止 フ ェ ン ス 設 置		m		単価表(2)
汚 濁 防 止 フ ェ ン ス 撤 去		〃		〃
フ ェ ン ス 賃 料		〃		
ア ン カ ー 工		式	1	フェンス賃料×0.10
諸 雑 費		〃	1	
計				

(2) 汚濁防止フェンス設置・撤去 100m当り単価表

施工歩掛コード				WB253020
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 4.1
普 通 作 業 員		〃		〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日		表 4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 4.1
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	機-28	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→83 機 械 賃 料 数 量→1.03

7. 施工単価入力基準表

(1) 汚濁防止フェンス

施工歩掛コード	WB253010	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分 ①設置・撤去 ②設置 ③撤去		

(注) 1. 汚濁防止フェンス賃料 (Y-1076000) [円/m] を単価登録すること。

なお、フェンス賃料は使用日数分の賃料 [円/m] を入力すること。

2. バックホウは、低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)、排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

(2) 汚濁防止フェンス設置・撤去

施工歩掛コード	WB253020	施工単位	m

⑬ 仮囲い設置・撤去工

⑬－１ 仮囲い設置・撤去工

1. 適用範囲

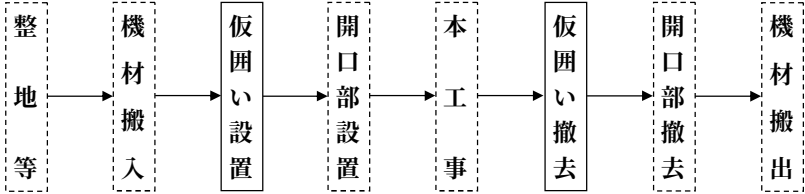
本資料は、建設工事現場における仮囲いの設置及び撤去に適用する。ただし、塗装及び機材搬出入用等のゲートには適用しない。

表1.1 適用範囲

項目	適用範囲
基礎形式	丸パイプ土中打込式
囲い高さ	3m

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.1 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	普通作業員
1	5

4. 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.1 日当り施工量 (m/日)

施工区分	単位	設置	撤去
日当り施工量	m	35	49

5. 諸雑費

諸雑費は、設置及び撤去における、ハンマ、ラチェットレンチ、脚立、フックボルト、クランプ等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.1 諸雑費率 (%)

諸雑費率	10

6. 仮設材損料

仮囲い設置・撤去工に使用する仮設材損料(供用日当り損料)は、次表を標準とする。

表6.1 仮囲い10m当り仮設材損料

名称	単位	損料(円)	摘要
仮囲い仮設材損料	供用日	147	仮囲い鉄板 丸パイプ

7. 単 価 表

(1) 仮囲い設置及び撤去 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB253110
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表3.1, 表4.1
普 通 作 業 員		〃	5×10/D	〃
仮 設 材 損 料		供用日		
諸 雑 費		式	1	表5.1
計				

(注) D：日当り施工量

8. 施工単価入力基準表

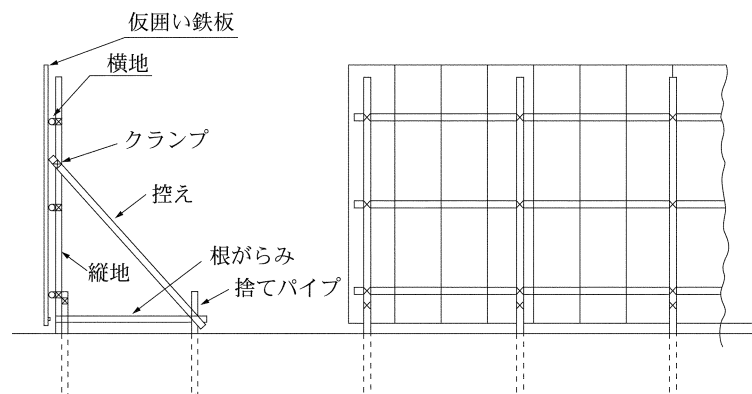
(1) 仮囲い設置・撤去(丸パイプ土中打込式・囲い高さ3m)

施工歩掛コード	WB253110	施工単位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	作業区分 (表 7.1)	仮囲い供用日数 (実数入力) (日)	

表8.1 作業区分

仮囲い作業区分	入力番号
設置・撤去	①
設 置	②
撤 去	③

9. 参考図(仮囲い概念図)



(注) 縦地及び横地等格子材は丸パイプ

⑬－２ 雪寒仮囲い工

1. 適用範囲

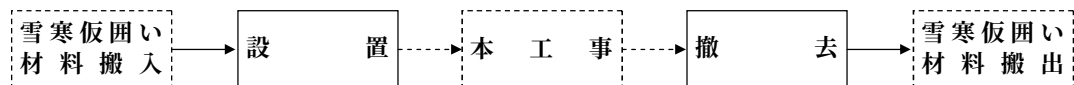
本資料は、積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において、平均設置高 30m以下の「雪寒仮囲い」を設置する工事に適用する。

なお、小型構造物には適用しない。

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2－1 施工フロー

2－2 施工歩掛補正

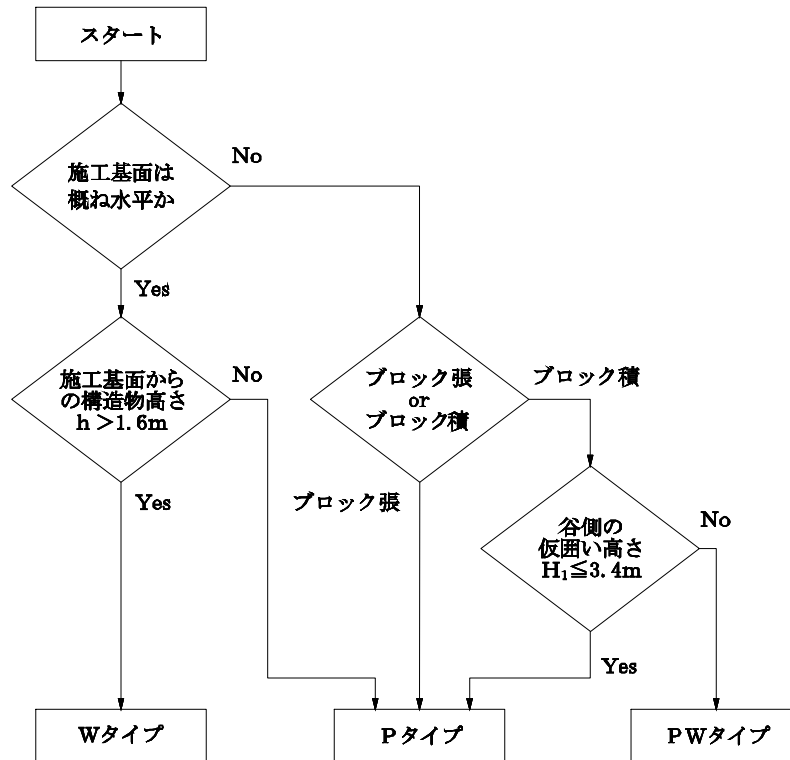
仮囲い内の作業は、冬期歩掛労務補正の割増率を 1／3 に補正して適用するものとする。

なお、仮囲いの設置、撤去作業には 1／3 の補正は適用しない。

3. 仮囲いタイプ及び機種の選定

3-1 仮囲いタイプの選定

仮囲いタイプの選定は、次図を標準とする。



(注) $H_1 = h + 1.8 - (B_1 \div 2) \times 10\%$ (m) もしくは,
 $H_1 = h_1 + 1.8 - (b + 0.5 + 1.2) \times 10\%$ (m)
 H_1 : 谷側での仮囲い高さ h : 構造物高さ h_1 : 谷側での構造物高さ
 B_1 : 仮囲い幅 (奥行) b : 構造物幅 (奥行)

図3-1 仮囲いタイプの選定

表3.1 仮囲いの構成部材

	囲い 枠 部 材	屋根梁・屋根受け梁部材
P タ イ プ	パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・I 形鋼・H 形鋼等
W タ イ プ	枠組足場+シート	単管パイプ・既製ビーム・I 形鋼・H 形鋼等
P W タ イ プ	枠組足場+パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・H 形鋼等

3-2 機種の選定

仮設材の持上げ(下げ)機種は、次表を標準とする。

表3.2 機種の選定(仮設材の持上げ(下げ)機械)

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25t 吊

(注) ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. 設置・撤去歩掛

4-1 Pタイプの設置・撤去歩掛

Pタイプ雪寒仮囲いの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 雪寒仮囲い設置・撤去歩掛(Pタイプ) (100 m²当り)

名 称	単位	数量
土 木 一 般 世 話 役	人	1.3
普 通 作 業 員	〃	5.6
ラフテレーンクレーン運転	日	1.0
諸 雑 費 率	%	11

- (注) 1. 諸雑費は、仮囲い仮設材等の費用であり、労務費と機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
2. 仮囲いの面積算出にあたっては、「7. 数量算出基準」を参照のこと。

4-2 Wタイプ・PWタイプの設置・撤去歩掛

Wタイプ・PWタイプ雪寒仮囲いの設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 雪寒仮囲い設置・撤去歩掛(W・PWタイプ) (100 m²当り)

名 称	単位	桝組足場部 (S ₁)	桝組足場以外 (S ₂)
土 木 一 般 世 話 役	人	1.5	1.4
と び 工	〃	5.6	4.2
普 通 作 業 員	〃	5.0	4.7
ラフテレーンクレーン運転	日	0.8	0.8
諸 雑 費 率	%	15(45)	12

- (注) 1. 仮囲い用の足場幅は、1.2mを標準とする。
2. 諸雑費は、仮囲い仮設材等の費用であり、労務費と機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、手摺先行型桝組足場を使用する場合は、() 書きの値を使用するものとする。
3. 「桝組足場部」は構造物天端の高さまでであり、「桝組足場以外」は構造物天端以上の屋根部分とする。(7.数量算出基準を参照)
4. 上記歩掛は、足場を兼用した仮囲いの設置・撤去歩掛であり、兼用出来ない場合の足場は必要数量を別途計上する。
5. 手摺先行型桝組足場には、二段手摺及び幅木の機能を有している。

5. 養生工 (Pタイプ, Wタイプ, PWタイプ共通)

仮囲い内でのコンクリート養生は,「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」を標準とし,特殊養生(仮囲い内ジェットヒータ養生)を行う場合は下記を適用する。

5-1 特殊養生(仮囲い内ジェットヒータ養生)

(1) 機種及び施工歩掛

仮囲い内でのジェットヒータによる養生歩掛は,次表を標準とする。

表5.1 養生歩掛(仮囲い内ジェットヒータ養生) (10 m³当り)

名 称	規 格	単位	数 量	
			無筋構造物	鉄筋構造物
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]運転	油だき・熱風・直火型 熱出力 126MJ/h(30,100kcal/h)	h	30	28
発動発電機運転	ディーゼルエンジン駆動 定格容量 (50/60Hz) 2.7/3kVA			

(注) ジェットヒータは, 賃料とする。

(2) 運転時間

ジェットヒータによる養生に要する施工機械運転日当り運転時間は,次表を標準とする。

表5.2 施工機械運転日当り運転時間 (h/日)

名 称	単位	無筋構造物	鉄筋構造物
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]運転	h	18.5	15.2
発動発電機運転			

(注) ジェットヒータ運転時間当り燃料消費量は, 灯油 3.6ℓ/hとする。

6. 除 雪 工

6-1 除雪(仮囲い屋根部)

仮囲い屋根部に 50 cm以上の積雪があった場合を対象とし,次表を標準とする。

表6.1 除雪歩掛(仮囲い屋根部) (10 m³当り)

名 称	単位	Pタイプ, Wタイプ, PWタイプ
普 通 作 業 員	人	0.4

除雪量 (m³) $V = A \times H$

A: 除雪対象面積(屋根面積) (m²)

H: 積雪深 (m)

7. 数量算出基準

雪寒仮囲いの数量算出においては、下記を標準とする。

なお、数量算出基準の仮囲い面積とは、壁面及び屋根部の計5面の外面積を対象としている。

7-1 Pタイプ

(1) Pタイプ(標準タイプ)

$$S = L \times (H_1 + H_2 + B_2) + B_1 \times (H_1 + H_2) \quad (\text{m}^2)$$

S : 仮囲い面積 (m²)

b : 対象構造物の幅 (m)

ℓ : 対象構造物の長さ (m)

h : 対象構造物の高さ (m)

B₁ : 仮囲いの底面の幅 (m)

$$B_1 = b + 0.8 \times 2$$

B₂ : 仮囲いの屋根の幅 (m)

$$B_2 = \sqrt{B_1^2 + (B_1 \times 0.1)^2}$$

L : 仮囲いの長さ (m)

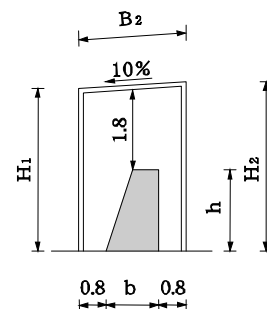
$$L = \ell + 0.8 \times 2$$

H₁ : 仮囲いの低い方の側面の高さ (m)

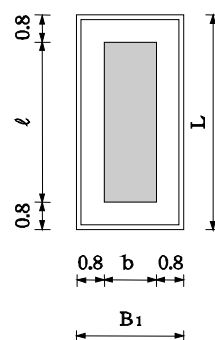
$$H_1 = h + 1.8 - (B_1 \div 2) \times 0.1$$

H₂ : 仮囲いの高い方の側面の高さ (m)

$$H_2 = h + 1.8 + (B_1 \div 2) \times 0.1$$



(断面図)



(平面図)

(2) Pタイプ(ブロック張タイプ)

$$S = L \times (H_1 + H_2 + B_2) + (b + 0.8 \times 2) \times (H_1 + H_2 + h) - h \times (b - b_1 + b_2 + 0.8 \times 2) \quad (\text{m}^2)$$

S : 仮囲い面積 (m²)

b : 対象構造物の幅 (m)

ℓ : 対象構造物の長さ (m)

h : 対象構造物の高さ (m)

h₁ : 対象構造物の谷側での高さ (m)

h₂ : 対象構造物の山側での高さ (m)

B₁ : 仮囲いの断面の幅 (m)

$$B_1 = b + 0.8 \times 2$$

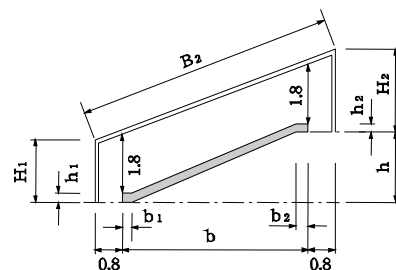
B₂ : 仮囲いの屋根の幅 (m)

L : 仮囲いの長さ (m)

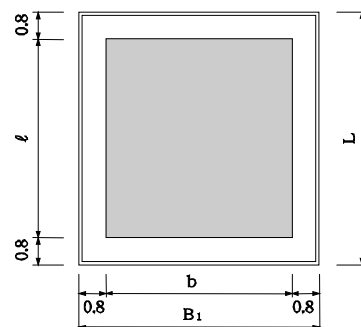
$$L = \ell + 0.8 \times 2$$

H₁ : 仮囲いの谷側の側面の高さ (m)

H₂ : 仮囲いの山側の側面の高さ (m)



(断面図)



(平面図)

7-2 Wタイプ

$$S_1 = \{2 \times (b + \ell) + 0.5 \times 8 + 1.2 \times 4\} \times h \quad (\text{m}^2)$$

$$S_2 = L \times (H_1 + H_2 + B_2 - h \times 2) + B_1 \times (H_1 + H_2 - h \times 2) \quad (\text{m}^2)$$

S_1 : 桢組足場面積 (m²)

S_2 : 桢組足場以外の面積 (m²)

b : 対象構造物の幅 (m)

ℓ : 対象構造物の長さ (m)

h : 対象構造物の高さ (m)

B_1 : 仮囲いの底面の幅 (m)

$$B_1 = b + 0.5 \times 2 + 1.2 \times 2$$

B_2 : 仮囲いの屋根の幅 (m)

$$B_2 = \sqrt{B_1^2 + (B_1 \times 0.1)^2}$$

L : 仮囲いの長さ (m)

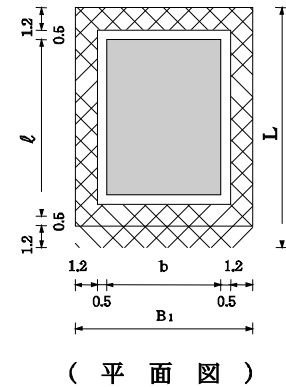
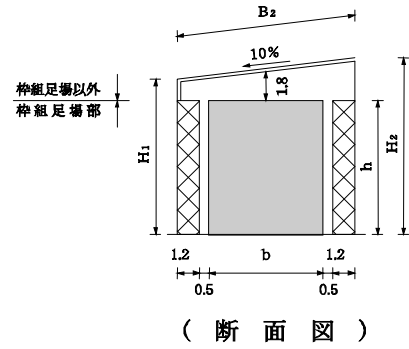
$$L = \ell + 0.5 \times 2 + 1.2 \times 2$$

H_1 : 仮囲いの低い方の側面の高さ (m)

$$H_1 = h + 1.8 - (B_1 \div 2) \times 0.1$$

H_2 : 仮囲いの高い方の側面の高さ (m)

$$H_2 = h + 1.8 + (B_1 \div 2) \times 0.1$$



7-3 PWタイプ

$$S_1 = (\ell + 0.8 \times 2) \times h_1 \quad (\text{m}^2)$$

$$S_2 = L \times (H_1 + H_2 + B_2 - h_1) + B_1 \times (H_1 + H_2 - h_1 - h_2) + (b + 0.8 + 0.5) \times h_2 \times 2 + (b + 0.5 \times 2) \times (h_1 - h_2) \quad (\text{m}^2)$$

S_1 : 桢組足場面積 (m²)

S_2 : 桢組足場以外の面積 (m²)

b : 対象構造物の幅 (m)

ℓ : 対象構造物の長さ (m)

h_1 : 対象構造物の谷側での高さ (m)

h_2 : 対象構造物の山側での高さ (m)

B_1 : 仮囲いの断面の幅 (m)

$$B_1 = b + 0.5 + 0.8 + 1.2$$

B_2 : 仮囲いの屋根の幅 (m)

$$B_2 = \sqrt{B_1^2 + (B_1 \times 0.1)^2}$$

L : 仮囲いの長さ (m)

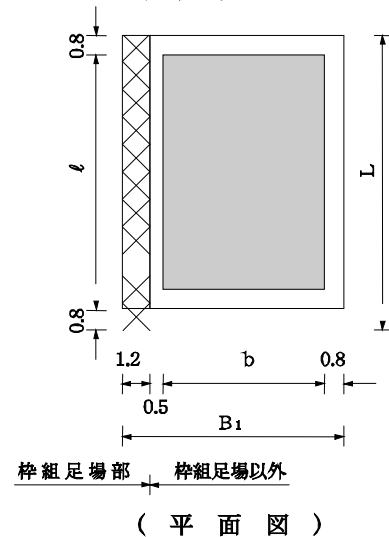
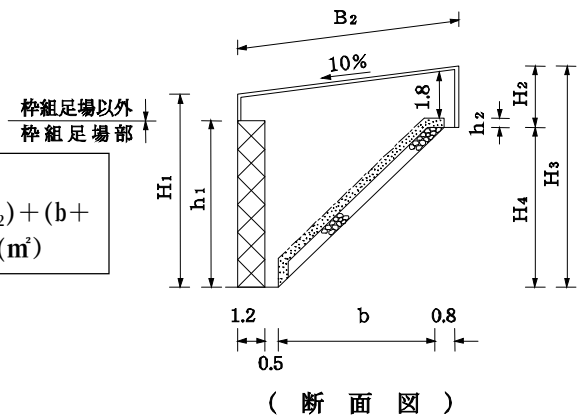
$$L = \ell + 0.8 \times 2$$

H_1 : 仮囲いの低い方 (谷側) の側面の高さ (m)

$$H_1 = h_1 + 1.8 - (b + 0.5 + 1.2) \times 0.1$$

H_2 : 仮囲いの高い方 (山側) の側面の高さ (m)

$$H_2 = h_2 + 1.8 + 0.8 \times 0.1$$



8. 単 価 表

(1) 仮囲い設置・撤去(Pタイプ) 100 m²当り単価表

施工歩掛コード					WB253210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1.3	表 4.1	
普 通 作 業 員		〃	5.6	〃	
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値) 25 t 吊	日	1.0	表 3.2, 表 4.1 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表 4.1	
計					

(2) 仮囲い設置・撤去(W・PWタイプ)

① 仮囲い設置・撤去(W・PWタイプ) 一式内訳書

施工歩掛コード					WB253220
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
仮 囲 い 設 置 撤 去 (W ・ P W タ イ プ)	枠組足場部	m ²		②単価表	
〃	枠組足場以外	〃		③単価表	
計					

② 仮囲い設置・撤去(W・PWタイプ) 枠組足場部 100 m²当り単価表

施工歩掛コード					WB253221
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1.5	表 4.2	
と び 工		〃	5.6	〃	
普 通 作 業 員		〃	5.0	〃	
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値) 25 t 吊	日	0.8	表 3.2, 表 4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表 4.2	
計					

③ 仮囲い設置・撤去(W・PWタイプ) 枠組足場以外 100 m²当り単価表

施工歩掛コード					WB253222
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1.4	表 4.2	
と び 工		〃	4.2	〃	
普 通 作 業 員		〃	4.7	〃	
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型(第2次基準値) 25 t 吊	日	0.8	表 3.2, 表 4.2 機械賃料	
諸 雑 費		式	1	表 4.2	
計					

(3) 特殊養生(仮囲い内ジェットヒータ養生) 10 m³当り内訳書

施工歩掛コード					WB253240
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]運転	油だき・熱風・直火型 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h)	h		表 5.1 (5)単価表	
発 動 発 電 機 運 転	ディーゼルエンジン駆動 定格容量(50/60Hz)2.7/3kVA	〃		表 5.1 機械損料	
計					

(4) 除雪工(仮囲い屋根部) 10 m³当り単価表

施工歩掛コード					WB253250
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	0.4	表 6.1	
諸 雑 費		式	1		
計					

(5) ジェットヒータ運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
燃 料 費	灯油	ℓ		表 5.2	
業務用可搬型ヒータ [ジェットヒータ]	油だき・熱風・直火型 熱出力 126MJ/h (30,100kcal/h)	h	1	時間当り賃料→賃料× 1/表 5.2	
諸 雑 費		式	1		
計					

(6) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	摘 要	
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動 定格容量(50/60Hz)2.7/3kVA	機-13	時間当り損料→1日当り 損料×1/表 5.2	

9. 施工単価入力基準表

(1) 仮囲い設置・撤去 (Pタイプ)

施工歩掛コード	WB253210	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

2. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間作業）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

(2) 仮囲い設置・撤去 (W・PWタイプ)

施工歩掛コード	WB253220	施工単位	式	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	枠組足場部 面積（S ₁ ）	枠組足場以外 面積（S ₂ ）	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	手摺先行型枠組 足場使用の有無
	（㎡）	（㎡）	①標 準	① 有
	（実数入力）	（実数入力）	②標準以外 （実数入力）	② 無

(注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

2. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間作業）を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

(3) 特殊養生（仮囲い内ジェットヒータ養生）

施工歩掛コード	WB253240	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	構造物種別 ①無筋構造物 ②鉄筋構造物		

(注) 本コードは、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。

(4) 除雪（仮囲い屋根部）

施工歩掛コード	WB253250	施工単位	m ³

⑭ 仮設防護柵工

⑭－１ 切土及び発破防護柵工

1. 適用範囲

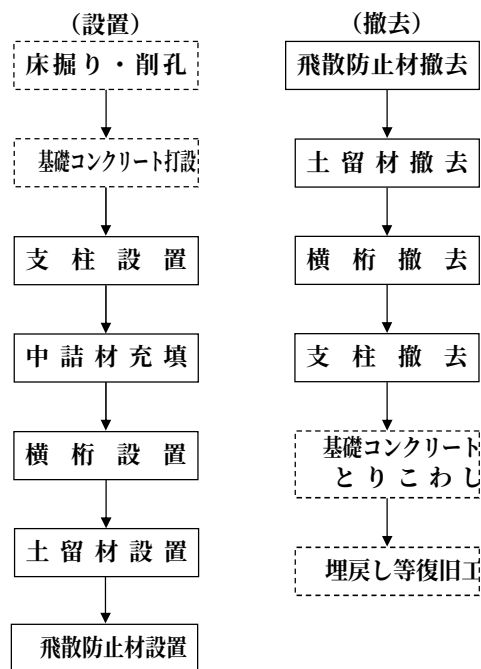
本資料は、切土及び発破による落石又は飛石を防止するための仮設防護柵の設置・撤去に適用する。

ただし、仮設防護柵の支柱はH形鋼とし、仮設防護柵の高さ（地上高）は、2.5～10m、支柱間隔1.5～4.0m及び根入長は2m以下のものとする。

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。
 2. 横桁等設置・撤去の有無にかかわらず適用出来る。

図2－1 施工フロー

2-2 参考図等

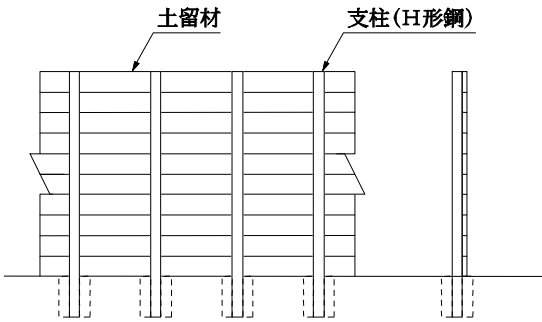
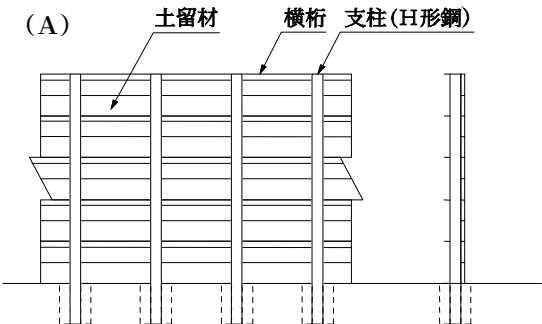


図2-2

支柱形式	支柱	H形鋼
	横桁	無し
土留材施工内容		全面施工
飛散防止材施工内容		—



支柱形式	支柱	H形鋼
	横桁	有り
土留材施工内容		土留全面又は土留及び飛散防止材併用施工
飛散防止材施工内容		—

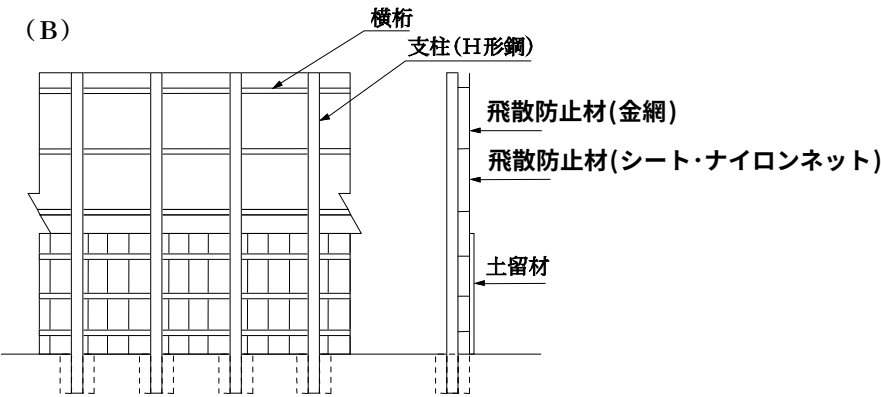


図2-3

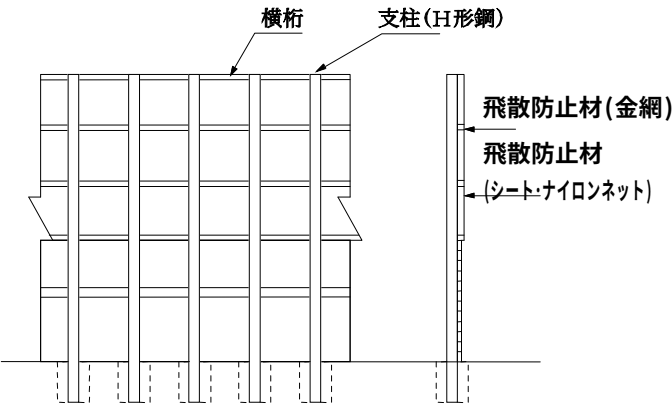


図2-4

支柱形式	支柱	H形鋼
	横桁	有り
土留材施工内容		—
飛散防止材施工内容		全面施工

3. 施 工 歩 掛

3-1 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 10t吊	台	1	仮設材吊込用
高 所 作 業 車	トラック架装リフト・ ブーム型・標準デッキタイプ 作業床高さ12m	〃	1	切土及び発破防護柵工用 仮設足場

- (注) 1. ラフテレーンクレーン及び高所作業車は、賃料とする。
2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途選定する。

3-2 日当り編成人員

切土及び発破防護柵の設置・撤去作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.2 日当り編成人員 (人/日)

作 業 区 分	土 木 一 般 役 員	と び 工	普 通 作 業 員
設 置	1	1	2
撤 去	1	1	2

3-3 日当り施工量

日当り施工量(D)は、次表を標準とする。

表3.3 日当り施工量(D) (m²)

作 業 区 分	設 置	撤 去
日当り施工量(D)	70	109

3-4 諸雑費

諸雑費は、中詰材、溶接棒、電気グラインダー研削板、アセチレンガス、酸素ガス、番線、電気グラインダー損料、電気溶接機運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.4 諸雑費率 (%)

作 業 区 分	設 置	撤 去
諸 雑 費 率	11	13

(注) 中詰材の施工の有無及び中詰材種類にかかわらず適用出来る。

3-5 材料使用量

飛散防止材(金網、シート・ナイロンネット)の使用量は、継重ね量を見込み、次式による。

$$\text{使用量 (m}^2\text{)} = \text{設計面積 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式3.1}$$

K: ロス率

表3.5 ロス率(K)

材 料 種 別	ロ ス 率
金 網	+0.04
シート・ナイロンネット	+0.09

4. 単 価 表

(1) 切土及び発破防護柵の設置・撤去100㎡当り内訳書

		施工歩掛コード		WB253310
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
切土及び発破防護柵の設置		㎡	100	単価表(2)
切土及び発破防護柵の撤去		㎡	100	単価表(2)
計				

(2) 切土及び発破防護柵の設置・撤去100㎡当り単価表

		施工歩掛コード		WB253311 , WB253312
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/D	表3.2, 表3.3
と び 工		〃	1×100/D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×100/D	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 10t吊	日	1×100/D	表3.1, 〃 機械賃料
高 所 作 業 車 運 転	トラック架装リフト・ ブーム型・標準デッキタイプ 作業床高さ12m	〃	1×100/D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表3.4
計				

D：日当り施工量（㎡／日）

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
高 所 作 業 車	トラック架装リフト・ ブーム型・標準デッキタイプ 作業床高さ12m	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →28 機械賃料数量 →1.07

5. 施工単価入力基準表

(1) 切土及び発破防護柵の設置・撤去

施工歩掛コード	WB253310	施工単位	m ²	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	設置・撤去	ラフテレーン クレーンの規格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	高所作業車 賃料補正係数
	①設置		①標準	①標準
	②撤去		②標準以外	②標準以外
	③設置・撤去	(表5.1)	(実数入力)	(実数入力)

(注) 1. ラフテレーンクレーン及び高所作業車の賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

2. 鋼材の賃料・修理費及び損耗費について鋼板を使用する場合は「第Ⅱ編第5章①仮設工」, 鋼矢板を使用する場合は、「第Ⅱ編第5章②鋼矢板(H形鋼)工②-1パイプロハンマ工WB250150」, H形鋼を使用する場合は、「第Ⅱ編第5章②鋼矢板(H形鋼)工②-1パイプロハンマ工WB251760」により計上すること。

なお、横桁で鋼材以外の材料を使用する場合は別途計上すること。

3. ラフテレーンクレーンは、油圧伸縮ジブ型10t吊を標準とする。

4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 土留材(板材)材料費

施工歩掛コード	WB253320	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土留材(矢板) 設置期間 (表5.2)		

(注) 1. 土留材(板材)単価(Y-0050000) [円/m²] を単価登録すること。

2. 本歩掛は「第Ⅱ編第5章①仮設工表2. 1」の材料損料率を設定している。

(3) 金網材料費

施工歩掛コード	WB253330	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	金網設置期間 (表5.2)		

(注) 1. 金網単価(Y-0136000) [円/m²] を単価登録すること。

2. 本歩掛は「第Ⅱ編第5章①仮設工表2. 2」の材料損料率を設定している。

3. 金網は材料使用量のロスを含む。

(4) シート・ナイロンネット材料費

施工歩掛コード	WB253340	施工単位	m ²

(注) 1. シート・ナイロンネット単価(Y-0052000) [円/m²] を単価登録すること。

2. 本歩掛は「第Ⅱ編第5章①仮設工表2. 2」の材料損料率を設定している。

3. シート・ナイロンネットは材料使用量のロスを含む。

表5.1 ラフテレーンクレーン規格

ラフテレーンクレーン規格	入力番号
油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 10 t 吊 (標準)	①
油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 16 t 吊	②
油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 20 t 吊	③
油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 25 t 吊	④

表5.2 土留材(板材), 金網設置期間

設置期間	入力番号
3 ヶ月未満	①
6 ヶ月未満	②
1 年未満	③
2 年未満	④
3 年未満	⑤

⑭-2 掘削(発破)防護柵工

1. 適用範囲

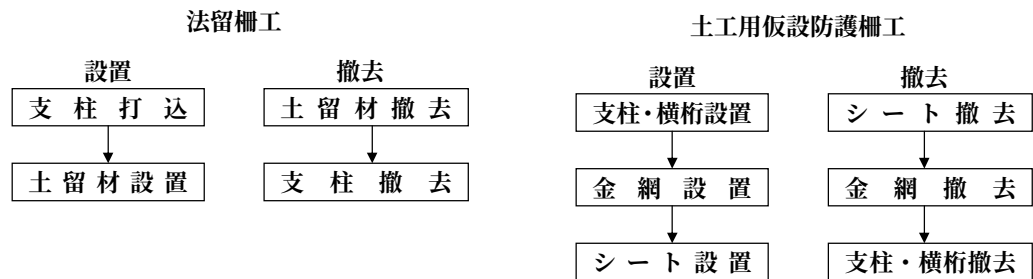
本資料は、特殊防護柵（法留柵・土工用仮設防護柵）の人力による設置・撤去に適用する。

ただし、法留柵は砂質土等の床掘時における崩壊防止、土工用仮設防護柵は土工作业等で第三者への被害を防止する必要がある場合で柵高 1.5m のものに適用する。

2. 施工概要

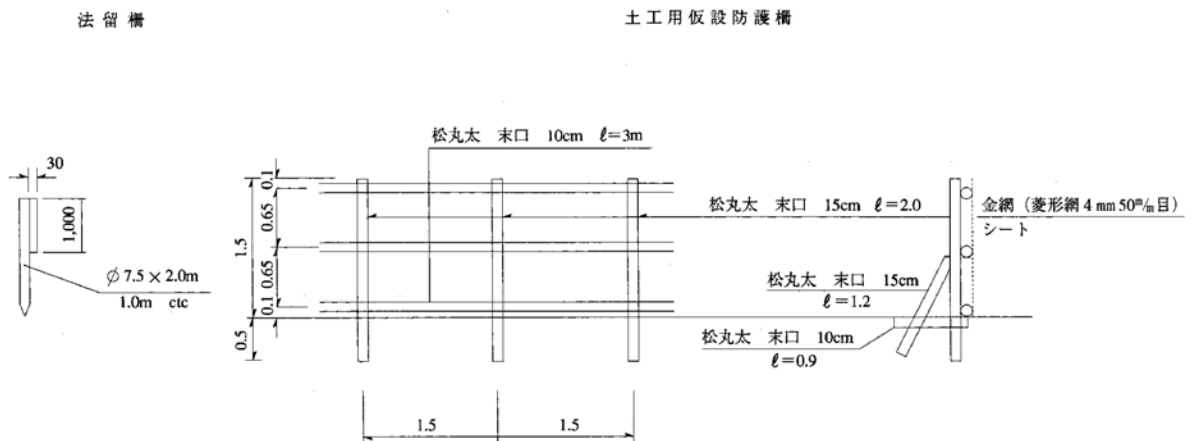
2-1 施工フロー

標準施工フローは、下記のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

2-2 参考図



3. 施 工 歩 掛

3-1 特殊防護柵

(1) 法留柵設置撤去歩掛

法留柵工の施工歩掛は次表を標準とする。

表3.1 法留柵設置撤去歩掛 (100m当り)

名 称	単位	規 格	数 量	摘 要
普 通 作 業 員	人		11.2	
板 材	m ³	雑矢板 2.0m×3~4.5 cm×12 cm	3.0	全 損
杭 材	本	切丸太φ7.5 cm ℓ=2.0m	100	〃

(2) 土工用仮設防護柵設置撤去歩掛

土工用仮設防護柵工の施工歩掛は次表を標準とする。

表3.2 仮設防護柵設置撤去歩掛 (3m当り)

名 称	単位	規 格	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役	人		0.11	
普 通 作 業 員	〃		0.44	
杭 材	本	(松丸太末口 15 cm ℓ=2.0m)	2	杭 用
	〃	(松丸太末口 10 cm ℓ=3.0m)	3	横 桁 用
	〃	(松丸太末口 15 cm ℓ=1.2m)	2	支 保 杭 用
	〃	(松丸太末口 10 cm ℓ=0.9m)	2	支 保 杭 用
金 網	m ²	菱形 4 mm×50 mm目	4.8	
シ ー ト	〃	2.7m×3.6m×0.5 mm	5.0	

(注) 土工については、別途計上するものとする。

4. 単 価 表

(1) 法留柵工(特殊防護柵) 100m当り設置撤去単価表

					施工歩掛コード	WB253410
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要		
普 通 作 業 員		人		表 3.1		
板 材	雑矢板 2.0m×3~4.5 cm×12 cm	m ³		"		
杭 材	切丸太 φ7.5 cm ℓ=2.0m	本		"		
諸 雑 費		式				
計						

(2) 土工用仮設防護柵工(特殊防護柵) 3m当り据付撤去単価表

			施工歩掛コード	WB253420
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表 3.2
普 通 作 業 員		//		//
杭材	松丸太末口 15 cm ℓ=2.0m	本		// 杭用
	松丸太末口 10 cm ℓ=3.0m	//		// 横桁用
	松丸太末口 15 cm ℓ=1.2m	//		// 支保杭用
	松丸太末口 10 cm ℓ=0.9m	//		// 支保杭用
金 網	菱形 4 mm×50 mm目	m ²		//
シ ー ト	2.7m×3.6m×0.5 mm	//		//
諸 雑 費		式		
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) 法留柵工(特殊防護柵)

施工歩掛コード	WB253410	施工単位	m

(2) 土工用仮設防護柵工(特殊防護柵)

施工歩掛コード	WB253420	施工単位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	供用日数 (表 5.1)		

(注) 1. 土工については別途計上すること。

2. 本歩掛は,「第Ⅱ編第5章①仮設工表2. 2」の材料損料率を設定している。

表5.1 供用日数

供 用 日 数	入力番号
3 ヶ 月 未 満	①
6 ヶ 月 未 満	②
1 年 未 満	③
2 年 未 満	④
3 年 未 満	⑤

⑮ 濁水処理工 (一般土木工事)

1. 適用範囲

本資料は、一般土木工事（ダム・トンネル及び浚渫工事は除く）における濁水処理工に適用する。

1-1 濁水処理設備

濁水処理設備は、機械処理沈殿方式を標準とする。

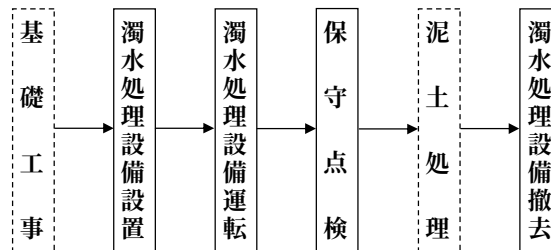
また、濁水処理設備能力は、 $30\sim 60$ 、 $100\text{m}^3/\text{h}$ を標準とする。なお、 $30\sim 60$ 、 $100\text{m}^3/\text{h}$ 以外を使用した場合は別途考慮する。

1-2 使用薬剤

使用薬剤は、無機凝集剤、高分子凝集剤、炭酸ガスの3種類使用を標準とする。なお、使用数量については、別途計上する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 濁水処理設備の運転時間は、運転日当たり8時間を標準とする。
 なお、強制排水ポンプが必要な場合は、別途計上する。

図2-1 施工フロー

3. 施工歩掛

3-1 濁水処理設備設置・撤去

濁水処理設備設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 濁水処理設備設置・撤去歩掛 (1箇所当り)

名 称	規 格	単位	30～60 m^3/h		100 m^3/h	
			設置	撤去	設置	撤去
土木一般世話役		人	3	2	4	3
電 工		〃	4	1	5	1
設 備 機 械 工		〃	8	5	9	6
普 通 作 業 員		〃	5	2	6	4
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日	1	1	2	2

- (注) 1. 上屋の設置・撤去及び設備の基礎については、上記歩掛に含まない。
 2. 上記歩掛には、設備の調整に要する費用を含む。
 3. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

3-2 濁水処理設備運転

濁水処理装置は、損料とする。

3－3 濁水処理設備の保守点検

保守点検の歩掛は、次表を標準とする。

表3.2 濁水処理設備保守点検歩掛 (1回当たり)

名 称	単位	数量
設 備 機 械 工	人	0.1
普 通 作 業 員	〃	0.3

- (注) 1. 濁水処理設備の保守点検は、濁水処理設備運転日に1回実施を標準とする。
2. 保守点検は、濁水処理設備の日常の運転にかかわる全ての保守・点検を含む。

3－4 泥土処理作業

泥土処理作業については、現場条件により別途計上する。

4. 単 価 表

(1) 濁水処理設備設置1箇所当り単価表

		施工歩掛コード		WB253510
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 3.1
電 工		〃		〃
設 備 機 械 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 1次基準値) 25 t 吊	日		表 3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 濁水処理設備撤去1箇所当り単価表

		施工歩掛コード		WB253510
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 3.1
電 工		〃		〃
設 備 機 械 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 1次基準値) 25 t 吊	日		表 3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 濁水処理設備保守・点検1回当り単価表

		施工歩掛コード		WB253520
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
設 備 機 械 工		人	0.1	表 3.2
普 通 作 業 員		〃	0.3	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 濁水処理設備1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB253530
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
電 力 料		kWh		
濁 水 処 理 装 置 損 料	各 種	日	1	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
濁 水 処 理 装 置 [ポータブル型・ 機械処理沈澱方式]	処理能力 30 m ³ /h 処理能力 40 m ³ /h 処理能力 60 m ³ /h 処理能力 100 m ³ /h	機-14	電力消費量→45 電力消費量→88 電力消費量→104 電力消費量→112

5. 施工単価入力基準表

(1) 濁水処理設備設置・撤去

施工歩掛コード	WB253510	施工単位	箇所
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	濁水処理設備能力	作業区分	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	①30～60m ³ /h ②100m ³ /h	①設置・撤去 ②設 置 ③撤 去	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 濁水処理設備保守点検

施工歩掛コード	WB253520	施工単位	回

(3) 濁水処理設備運転

施工歩掛コード	WB253530	施工単位	日
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	処理能力		
	① 30m ³ /h ② 40m ³ /h ③ 60m ³ /h ④100m ³ /h		

- (注) 電力料金 (Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。

⑩ 敷鉄板設置・撤去工

1. 適用範囲

本資料は、工事用道路等において、軟弱地盤等により工事用車両の通行に支障がある場合の敷鉄板設置・撤去作業に適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

機 械 名	規 格	敷 鉄 板	
		設 置	撤 去
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	○	○

(注) ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

3. 施工歩掛

施工歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 施工歩掛

(100㎡当り)

名 称	規 格	単位	設 置	撤 去
と び 工		人	0.1	0.1
普 通 作 業 員		〃	0.3	0.2
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日	0.1	0.1

(注) 使用する敷鉄板は、賃料とする。

4. 単 価 表

(1) 敷鉄板設置100㎡当り単価表

		施工歩掛コード		WB253610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表3.1
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 敷鉄板撤去100㎡当り単価表

		施工歩掛コード		WB253610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
と び 工		人		表3.1
普 通 作 業 員		//		//
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t吊	日		表3.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 敷鉄板賃料1枚当り単価表

		施工歩掛コード		WB253630
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
敷 鉄 板 賃 料		枚・日		必要日数を 計上
整 備 費		枚	1	必要な場合 計上
不 足 分 弁 償 金		t		必要量を計 上
諸 雑 費		式	1	
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) 敷鉄板設置・撤去

施工歩掛コード	WB253610	施工単位	m ²
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	作業区分	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数	
	①設置 ②撤去 ③設置・撤去	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

2. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種, 及び普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

(2) 敷鉄板賃料

施工歩掛コード	WB253630		施工単位	枚		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	敷鉄板の 種類	不足分弁償金 の有無 (t／枚)	供用日数 (日)	継続工事 の有無	総供用日数 (日)	整備費の 有無
	(表5.1)	①無 ②有 (実数入力)	(実数入力)	①無 ②有	(実数入力)	①無 ②有

(注) 1. J 1 条件で④を選択し, J 2 条件で①を選択した場合は, 敷鉄板賃料 (Y-7214000) [円/枚・日] を単価登録すること。

2. J 1 条件で④を選択し, J 2 条件で②を選択した場合は, 不足分弁償金 (Y-7212000) [円/枚] を単価登録すること。

3. J 1 条件で④を選択し, J 2 条件で①を選択し, J 6 条件で②を選択した場合は, 整備費 (Y-721000) [円/枚] を単価登録すること。

4. J 2 条件で②を選択した場合は, J 3～J 6 条件は選択出来ない。

5. 継続工事となる場合は, J 3 条件に当該工事の供用日数を入力し, J 5 条件で総供用日数 (賃料単価決定のため) を入力すること。

6. 継続工事以外 (J 4 条件で①を選択) は, J 3 条件に供用日数を入力し, J 5 条件は入力する必要はない。

7. J 3 条件の供用日数 (継続工事の場合は J 5 条件の総供用日数) は, 賃料計上限度額である施工業者が入手可能な購入価格 (市中価格) の90%を超えないように調整のうえ入力すること。また, 本コードは, J 1 条件が①～③について賃料の減額補正のための比較検討を考慮している。

表5.1 敷鉄板の種類

規格	入力番号
22×1,524×6096	①
22×1,524×3048	②
25×1,524×6096	③
各種	④

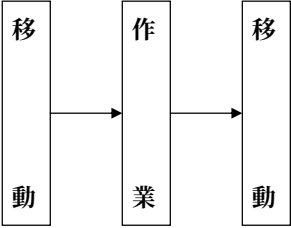
⑰ 防 塵 処 理 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、工事施工に伴う防塵対策の内、現道工事、仮道（切替、工事用含む）、又は現道を運搬作業に使用する
るとき等の散水車による防塵処理を行う場合に適用する。
なお、塩化カルシウム散布等による防塵処理を行う場合は別途考慮する。

2. 施 工 概 要

施工フローは、次図下記を標準とする。



3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定	
機 械 名	機種・規格
散 水 車	トラック架装型 5,500～6,500ℓ

4. 施 工 歩 掛

4－1 散水作業

散水は1回1.0ℓ／㎡を標準とする。
1回当りの散水作業時間は次式による。
1回当りの散水作業時間＝1.0× $\frac{1}{Q}$ × A （h／回）
Q：時間当り散水量(ℓ／h)
A：散水面積（㎡）
散水面積は、原則として1車線当りW＝ 3.0mとして算出する。
A＝L×W
L：作業1回当りの対象延べ路線延長（m）
W：1車線当りの散水幅

4-2 時間当り散水量 (Q)

散水作業の時間当り散水量の算定は、次式による。

$$Q = \frac{60 \times q}{cm}$$

q：散水車のタンク容量 (ℓ)，なお，6,500ℓ を標準とする。

cm：1サイクル当り所要時間 (分)

4-3 1サイクル当り所要時間 (cm)

$$cm = \frac{2 \times d}{V} + t_1 + t_2 + t_3 + t_4$$

d：給水場所までの片道距離 (m)

V：走行速度 (m/分)

t₁：給水ホース取付・取外し時間 (分)

t₂：給水時間 (分)

t₃：待機・現場待時間 (分)

t₄：散水時間 (分)

(1) 走行速度 (V)

走行速度は、次表とする。

表4.1 走行速度 (m/分)

走行速度	500

(2) 給水ホース取付け・取外し時間 (t₁)

給水ホース取付け・取外し時間は、次表とする。

表4.2 給水ホース取付・取外し時間 (分)

給水ホース取付・取外し時間	5

(3) 給水時間 (t₂)

給水時間は、次表とする。

表4.3 給水時間 (分)

給 水 時 間	18

(4) 待機・現場待時間 (t₃)

待機・現場待時間は、次表とする。

表4.4 待機・現場待時間 (分)

待機・現場待時間	5

(5) 散水時間 (t₄)

散水時間は、次表とする。

表4.5 散水時間 (分)

散 水 時 間	10

5. 単 価 表

(1) 防塵処理(散水作業) 1回当り単価表

			施工歩掛コード	WB253710
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
散 水 車 運 転	トラック架装型 5,500～6,500ℓ	h	1.0×1/Q×A	
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
散 水 車	トラック架装型 5,500～6,500ℓ	機-6	

6. 施工単価入力基準表

(1) 防塵処理(散水作業)

施工歩掛コード	WB253710	施工単位	回
施 工 区 分	入 力 条 件		
作 業 内 容	J 1	J 2	
各 種	作業1回当り 延べ路線延長 (L) (実数入力) (m)	給水場所までの 片道距離(d) (実数入力) (m)	

⑱ 仮設電力設備工

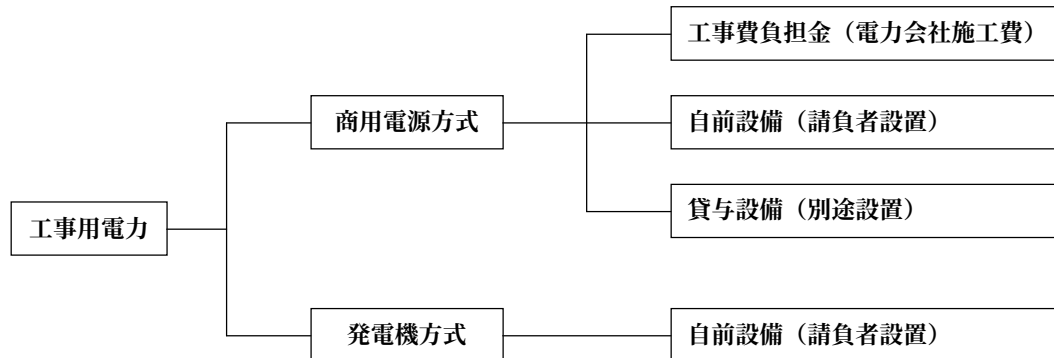
1. 適用範囲

本資料は、土木工事に係わる工事用仮設電力設備のうち、負荷設備容量が 500kW 以下の仮設電力設備の積算に適用する。ただし、管理用常用施設には適用しない。

なお、指定仮設等を除き「第Ⅱ編第5章㊸グラフによる標準的な仮設電力設備の積算」に示す適用範囲に該当する設備については、当該グラフにより積算することが出来る。

2. 工事用電力の区分

工事用電力は大別すると次のように区分される。



- (注) 1. 工事費負担金 電力会社の配電設備の工事が必要な場合で、その工事代金をいう。
 2. 自前設備 受注者が工事用電力に必要な設備を自ら設置する場合。
 3. 貸与設備 発注者又は、別途工事（前回工事等）で設置した施設を使用する場合。

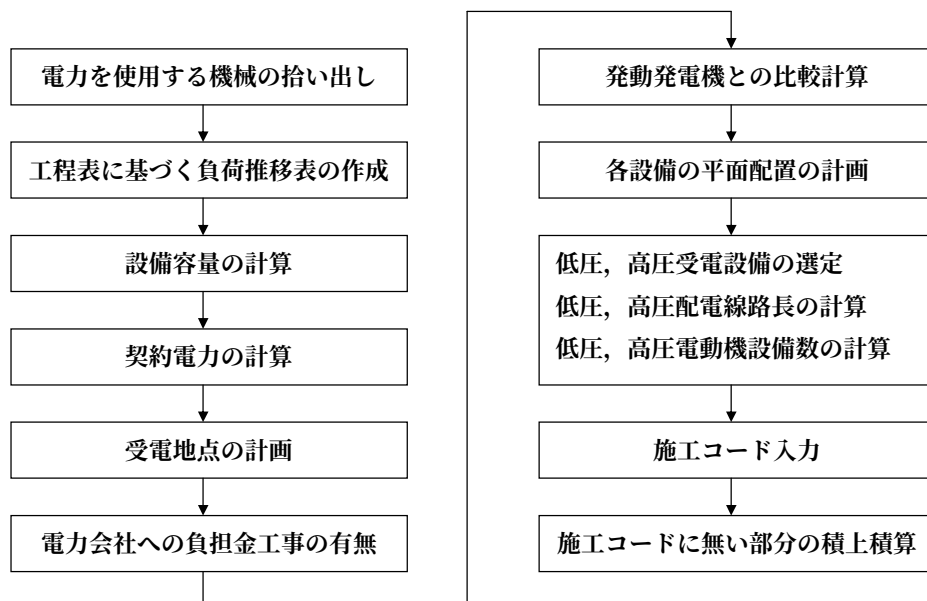
3. 仮設計画

仮設電力設備は、土木工事の工程に従って計画するものとし、可能な限り一時期に使用電力が集中する計画を避け、工事期間中に平均して電気を使用する計画を立案するものとする。

また、保安施設、排水ポンプ等で常時又は、連続的に運転する設備は「商用電源方式」を、杭打ち作業等のように昼間だけで断続的に使用する場合は「発電機方式」を使用する等、負荷設備の実状に応じた適切な電源方式を計画しなければならない。

4. 積算の手順

積算は、次の手順で行うものとする。



5. 商用電源方式と発電機方式の選定

商用電源方式又は、発電機方式の選定は、どちらかが明らかに有利と判断される場合以外は経済比較（5－1，5－2）を行って決めるものとする。特に次の場合は経済比較を行うものとする。

- ① 工事現場（仮設受電点）から電力会社の配電線路までの距離が長い場合
- ② 基礎杭工事等の断続的で昼間のみ電力を使用する場合
- ③ 工事用電力の使用期間が短い場合

5－1 商用電源方式

次の各項目を積上げ必要額を算出する。

① 電力会社の工事費負担金

電力会社の配電線路に何れかの工事が必要な場合は、その工事金額を各電力会社と電気供給約款に基づき協議し工事費負担金を算出する。

- ② 工事期間中の基本料金及び電力料金の合計額
- ③ 必要となる仮設電力設備費の合計額

5－2 発電機方式

発電機の容量は、各土木工種に指定がある場合はその指定容量で、容量指定の無い場合は使用する発電機容量を算定し、作業工程から運転時間を算出し、「第Ⅰ編総則第12章その他②賃料入力基準表（1）発動発電機（各種）」より必要額を算出する。

5－3 工事費負担金

工事負担金は、仮設電力を使用することにより、電力会社の配電線路の工事が必要となり、その工事に要する代金のことで、常時契約と臨時契約の区別がある。

① 常時契約の場合

低圧又は、高圧で供給を受ける場合で、新たに電気を使用又は、増加する場合、これに伴い配電設備の工事こう長が1,000m、地中の場合は150mを超える場合にその超過こう長分に次の金額を乗じて得た金額に消費税相当額を加えた金額が工事費負担金となる。精算は一般にやむをえない事情によって設計の変更をした場合等を除き精算されない。

負担金は一般に以下により算出する。

区 分	単 位	金 額
架空配電設備の場合	超過こう長1mにつき	各電力会社供給約款による
地中配電設備の場合	超過こう長1mにつき	〃

② 臨時契約の場合

臨時契約によって電気の供給を受ける場合、電力会社が新たに供給設備を施設しなければならない場合で、施設する供給設備の工事費にその設備を撤去する場合の諸経費を加えた金額から、その撤去後の資材の残存価格を差し引いた金額に消費税相当額を加えた金額である。なお、設計変更、材料単価の変動その他特別の事情によって工事費負担金に差異を生じた場合は工事完成後精算される。

負担金は電力会社との個別協議による。

6. 基本料金

6-1 契約種別

電力会社との契約電力の種別は、別紙「工事用電力の契約種別選択フロー」により決定するものとする。

仮設で使用する主な契約種別（電気供給約款）

常時契約	低圧電力	低圧で電気の供給を受けて、動力を使用する需要で契約電力が原則として 50kW 未満のもの	3相3線式 200V
	高圧電力A	高圧で電気の供給を受けて、動力（付帯電灯を含む）を使用する需要で、契約電力が 50kW 以上 500kW 未満のもの	3相3線式 6000V
臨時契約	低圧電力 高圧電力A	動力（高圧は付帯電灯を含む）を使用する需要で、契約期間1年未満のものに適用される。 契約種別及び適用範囲は、5kW 以下は定額制、それ以外は常時契約と同じ扱い	常時契約に 同じ

- (注) 1. 低圧とは、標準電圧 100V 又は、200V をいう。
 2. 高圧とは、標準電圧 6000V をいう。
 3. 動力とは、電灯及び小型機器以外の電気機器をいう。
 4. 付帯電灯とは、動力を使用するために直接必要な作業用の電灯その他これに準ずるものをいう。
 5. 臨時契約は、常時契約該当料金に 20%増が適用される。

6-2 契約電力の算定

契約電力の計算は、電力会社の電気供給約款に従って算定するものとする。なお、計算過程上は1キロボルトアンペアを1キロワットとみなす。

6-2-1 低圧電力の場合（常時契約及び臨時契約）

(1) 基本料金

基本料金 = $K \times Z \times S$

K：基本料金単価（各契約の単価、円／kW）

Z：最大契約電力（kW）

S：需要契約期間（月）

注）基本料金単価は、後述の「6-3」に示した単価とする。

(2) 最大契約電力（Z）

- ① 負荷設備（kW）を入力換算して、合計値（X）を求める。

表6.1 (電気供給約款)

契約負荷設備		換算率
単相低圧 電動機	出力が馬力表示のもの	100.0%
	出力が kW //	133.0%
三相低圧 電動機	出力が馬力表示のもの	93.3%
	出力が kW //	125.0%
三相高圧 電動機	出力が馬力表示のもの	87.8%
	出力が kW //	117.6%
溶接器	1次側最大入力 kVA 表示	70.0%

- ② 上記①で得た合計値（X）から、表6.2の係数を乗じ合計値（Y）を求める。

表6.2 (電気供給約款)

順序	区分	率
最大の入力のものから順に	最初の2台の入力につき	100%
	次の2台の入力につき	95%
	上記以外のものの入力につき	90%

③ 上記②で得た合計値（Y）に表6. 3の係数を乗じて最大契約電力（Z）を求める。

表6. 3 (電気供給約款)

範 囲	率
最初の6kWにつき	100%
次の14kWにつき	90%
次の30kWにつき	80%
50kWを超える部分につき	70%

(注) 最大契約電力（Z）が「50kW」を超える場合は、「高圧電力A」の契約となる。

6-2-2 高圧電力A（臨時契約）の場合

(1) 基本料金

基本料金 = $K \times Z \times S$

K：基本料金単価（円/kW）

S：需要契約期間（月）

Z：最大契約電力（kW）

注）基本料金単価は、後述の「6-3」に示した単価とする。

(2) 最大契約電力（Z）

「契約負荷設備」と「契約受電設備容量」の2通り計算し、小さい値をとる。

1) 契約負荷設備の計算

① 負荷設備の入力換算計算

表6. 1により「X」を算出する。

② 台数圧縮の計算

表6. 2により「Y」を算出する。

③ ②で算出した「Y」に表6. 4の係数を乗じて得た値を「最大契約電力（Z）」とする。

表6. 4 (電気供給約款)

範 囲	率
最初の6kWにつき	100%
次の14kWにつき	90%
次の30kWにつき	80%
次の100kWにつき	70%
次の150kWにつき	60%
次の200kWにつき	50%
500kWを超える部分につき	30%

2) 契約受電設備容量の計算

① 必要な変圧器容量を求める。

各負荷の出力（kW）を集計して合計容量（P）を求め、以下により変圧器容量を求める。

変圧器容量 = $P \times (\text{需要率} \div 100) \div \text{COS} \theta$

② 需要率及びCOSθは表6. 5を標準とする。

表6. 5

P	需 要 率
100kW 以下	75%
200 "	70%
300 "	65%
500 "	60%
700 "	55%

$\text{COS} \theta = \text{力率改善後の値}$
 $= 0.95$

(注) 1. 変圧器容量は、直近上位を選択するものとするが、変圧器は1割以下の過負荷に対応することからその範囲内の容量とする。

2. 計算した変圧器容量が最も大きい負荷容量以下となる場合は別途考慮するものとする。

表6.6 標準変圧器容量

kVA

単相	5	7.5	10	15	20	30	50	75	100	150	200	300	500
三相	5	7.5	10	15	20	30	50	75	100	150	200	300	500

③ 設備容量の圧縮計算

①で求めた変圧器の総容量及び高圧機器の入力換算値の合計を表6.7により圧縮した値を契約受電設備容量とする。

表6.7

(電気供給約款)

範 囲	率
最初の 50kW につき	80%
次の 50kW につき	70%
次の 200kW につき	60%
次の 300kW につき	50%
600kW を超える部分につき	40%

6-2-3 高圧電力A(常時契約)の場合

一般的にデマンド契約方式が用いられる。「デマンド契約」とは、実際の使用電力をメータ(電力会社取付)により毎月計測し、その月の契約電力は前 11 ヶ月間の計測電力値を比較し最大値を契約電力とするもので、契約変更は自動的に行われる。

なお、契約後1年未満は、前 11 ヶ月の計測値が無いことから、契約月から前月までを比較し、決定される。

6-3 力率割引き

基本料金は、力率改善コンデンサを設置することにより力率割引きの適用を受けることが出来るので、適切な力率改善コンデンサを設置して割引を受けるものとする。

- (1) 低圧電力(常時、臨時共)は、力率 90%として基本料金 5%引きとする。
- (2) 高圧電力(常時、臨時共)は、力率 95%として基本料金 10%引きとする。

7. 仮設電力設備の構成

仮設電力設備は、次の項目に区分して積算するものとする。

- ① 基本料金(役務費に計上)
- ② 電力量料金(直接工事費に計上)
- ③ 工事費負担金(必要場合は役務費に計上)
- ④ 受電設備

低圧受電設備は、電力会社から低圧で受電して工事用機械等に電気を供給する設備

高圧受電設備は、電力会社から高圧で受電し低圧に変換して工事用機械等に電気を供給する設備

- ⑤ 低圧配電線路
低圧機器に受電設備から必要な場所まで配電する配線設備
- ⑥ 高圧配電線路
高圧機器に受電設備から必要な場所まで配電する配線設備
- ⑦ 低圧電動機設備
低圧工事用機械のための区分開閉器
- ⑧ 高圧電動機設備
高圧工事用機器のための区分開閉器
- ⑨ 照明設備
現場の作業照明設備
- ⑩ その他
上記以外の設備

7-1 施工コード

本施工コードは、汎用性の高い500kW以下の仮設電力設備用である。よって、500kWを超える設備及び特殊な設備を必要とする仮設電力設備にあつては、設備実態に応じ別途個別に積上げ積算するものとする。

7-1-1 受電設備

受電設備は、原則として1現場1箇所計上するものとし、以下の設備から適切な設備を選定する。なお、高圧受電設備はキュービクル方式を標準とする。

①	負荷設備容量が25kW以下の場合	低圧受電設備(25kW以下)
②	25kWを超え50kW以下	“(50kW以下)
③	50kWを超え100kW以下	高圧受電設備(100kW以下)
④	100kWを超え300kW以下	“(300kW以下)
⑤	300kWを超え500kW以下	“(500kW以下)

(変圧器、コンデンサ損料はキュービクル損料(③、④、⑤)に含んでいる。)

7-1-2 配電線路

(1) 低圧配電線路

- ① 低圧配電線路は、電柱による架線方式を標準とする。
- ② 使用電線サイズは負荷容量と距離に応じ表7.1により選定するものとする。

表7.1

負荷／距離	50m	100m	150m	200m	250m	300m	350m	400m	450m	500m
10kW以下	2.6	3.2	14	22	22	22	38	38	38	38
20kW以下	3.2	22	22	38	38	60	60	60	100	100
30kW以下	14	22	38	60	60	100	100	100	100	
40kW以下	22	38	60	60	100	100				
50kW以下	22	38	60	100	100					
60kW以下	22	60	100	100						

(注) 電線規格は、3.2までは直径(mm)を、14以上は断面積(mm²)を示す。

(2) 高圧配電線路

高圧配電線路は、電柱による架線方式を標準とする。

(3) 坑内配電線路

坑内配電線路は、トンネル工事における坑内の各種施工機械に電力を送電するためのケーブル電線路である。

使用電圧により、低圧、高圧の区分がある。使用ケーブルの種類は表7.2とする。

表7.2

区分	ケーブルの種類
低圧ケーブル	VVRケーブル×3C
高圧ケーブル	CVケーブル×3C

(4) ころがし配線

ころがし配線は、低圧電動機設備から電動機までは機械付属ケーブルを用いるものとするが、工事用機械の配置上10m以上の距離を必要とする場合に、ころがし配線でケーブルを計上する。

また、ケーブルの保護を必要とする場合は、別途計上するものとする。なお、ケーブルは、移動を考慮してキャブタイヤケーブルである。

7-1-3 低圧、高圧電動機設備

電動機設備は、低圧は機械台数により表 7.3 から適切な回路数の仮設ボックスを選定し、高圧は機械 1 台に 1 台とする。

ただし、低圧電動機設備の台数には、0.4kW 未満の電動機及び単相 100V 負荷は含めないものとする。

表 7. 3

接続する機械台数	仮設ボックス回路数
3 台以下	3 回路
5 台以下	5 回路
7 台以下	7 回路
10 台以下	10 回路

7-1-4 照明設備

(1) 工事用照明

工事現場で使用する 500 W 投光器に適用する。

(2) 坑内照明

坑内照明は、40 W 蛍光灯を片側 5 m 間隔に設置することを標準とし、ケーブルサイズは表 7.4 による。

坑内照明の計上は、日当り 17 時間を標準とする。

なお、使用電力量は次式で計算し、電力量コードで別途計上するものとする。

使用電力量 (kWh) = 17 h / 日 × 0.04kWh × 個数 × 照明日数

表 7. 4

トンネル長	320m	430m	590m	700m	890m	1150m	1500m
ケーブルサイズ	5.5	8	14	22	38	60	100

(注) ケーブルサイズは、断面積 (mm²) である。

(3) 切羽照明

トンネル工事の切羽部及び覆工で使用する 500 W 投光器に使用する。

切羽照明の計上は、日当り 17 時間を標準とする。

使用電力量は次式で計算し、電力量コードで別途計上するものとする。

使用電力量 (kWh) = 17h / 日 × 0.5kWh × 灯数 × 照明日数

7-2 労務費

仮設電力設備で個別に積上げ積算を行う場合、労務費は原則として「設置+撤去」に要する歩掛を計上するものとする。なお、「撤去歩掛」は設置歩掛に 0.5 を乗じた値で、「全損」で計上する撤去歩掛は 0.2 を乗じた値とする。

ただし、撤去を含まない場合は「設置」のみとする。

7-3 設備費の積算方法

仮設電力設備で個別に積上げ積算を行う場合、設備費は「供用日当り損料×供用日数」及び「材料費×損料率」で計上するものとする。

損料率により計上する場合は、各材料について表 7.5 の電力設備の損料率表により供用期間に応じた損率を用いて損料を計算し計上するものとする。

- ・損料率により計上する材料は、電線、配線器具等とする。
- ・供用日当り損料で計上する設備は、キュービクル式受変電設備、高圧気中開閉器等とする。

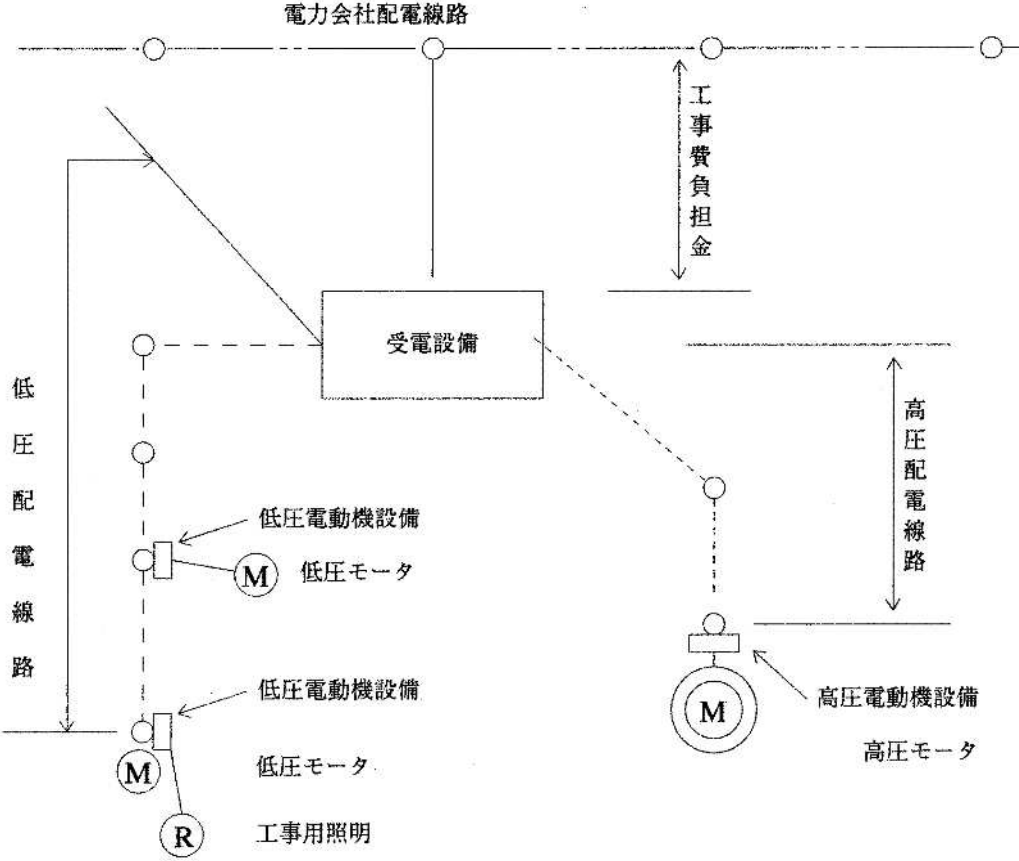
表 7.5 電力設備の損料率 (%)

種別 期間	木柱類	電線類	碍子類	器具類	電線管類
3ヶ月未満	20	10	10	10	100
6ヶ月未満	25	10	10	15	100
1年未満	35	15	15	20	100
2年未満	45	30	25	30	100
3年未満	60	40	35	45	100

- (注) 1. 再使用不可能なものは、「全損」扱いとする。
2. 上表は建設用仮設材料算定基準に記載のないものに適用する。
3. 種別区分は下記による。

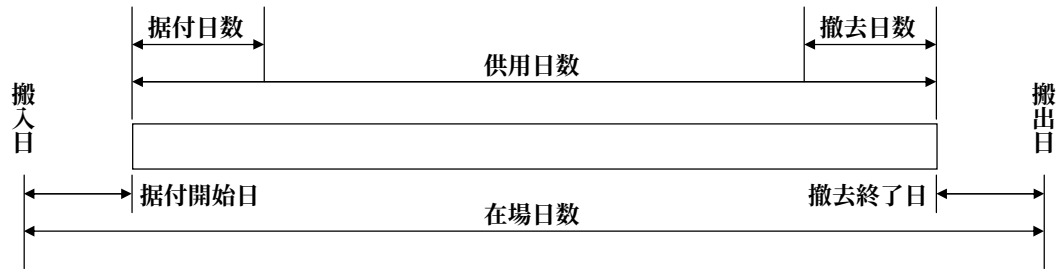
- ・木柱類 木柱、腕木など
- ・電線類 電線、ケーブルなど
- ・碍子類 碍子、装柱金具、コンクリート柱など
- ・器具類 分電盤、灯具、配線器具など
- ・電線管類 電線管、接地材料など

7-4 仮設電力設備の配置例

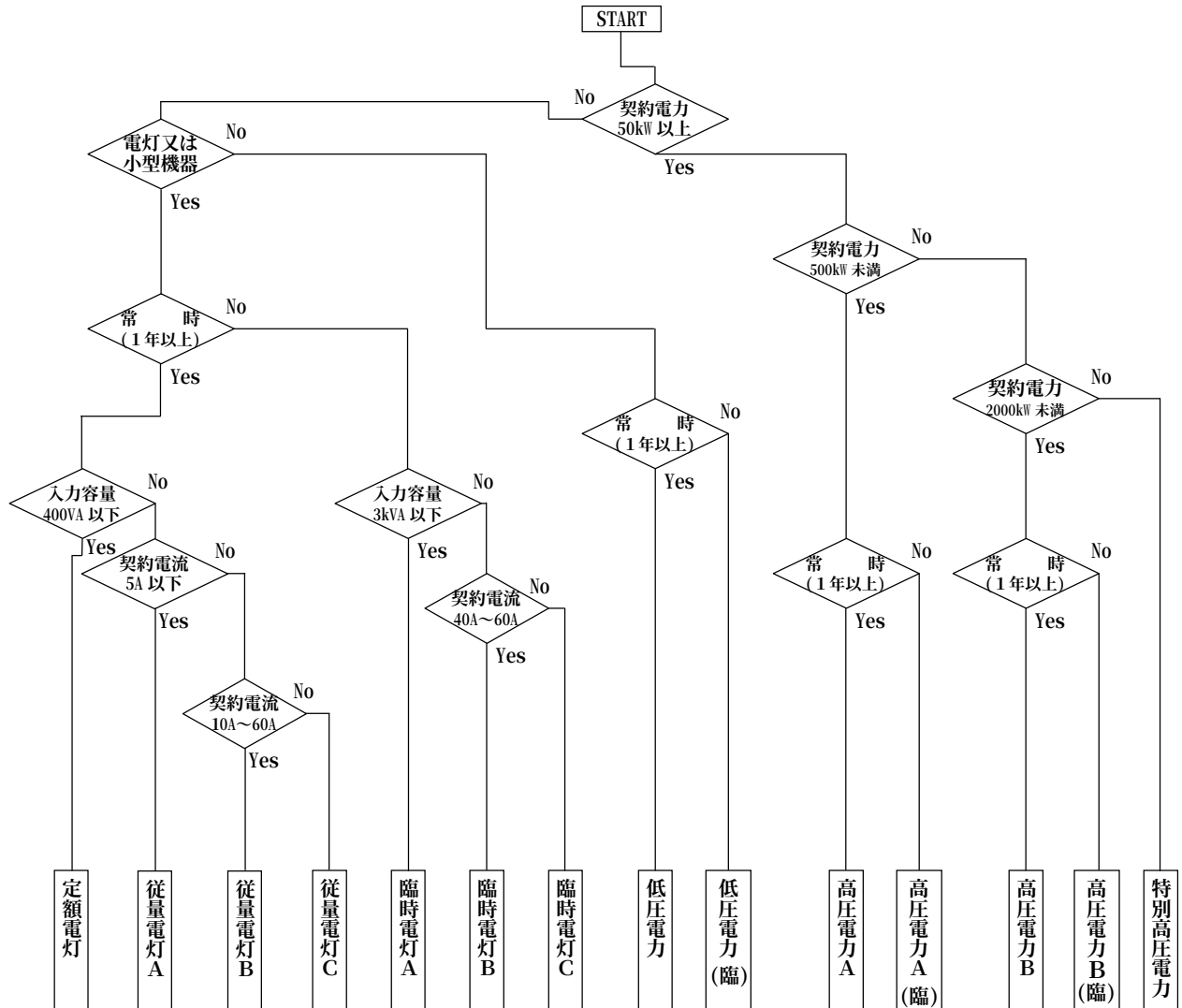


7-5 供用日数の算出

供用日数は下記を標準として算出するものとする。



工事用電力の契約種別選定フロー



8. 単 価 表

(1) 低圧受電設備1箇所当り単価表

		施工歩掛コード		WB253810				
名 称	規 格	単位	単価	25kW 以下		50kW 以下		備 考
				数 量	金 額	数 量	金 額	
コンクリート柱	7m-19cm 4200[N] (430kgf)	本		1		1		損率
低圧ピン礎子	中	個		3		3		損率
腕 金	1.2m	本		1		1		損率
アームタイ	2.3-25-945	〃		1		1		損率
装柱金具	Uボルト 13-220	個		1		1		損率
亜鉛メッキ銅撚線	2種, A級, 22sq	kg		1.2		1.2		全損
巻付グリップ	22sq	個		4		4		全損
エントランスキャップ	VE42	〃		1				全損
〃	VE70	〃				1		全損
足場ボルト	C P用	本		8		8		損率
プリカチューブ	50mm	m		1				全損
〃	76mm	〃				1		全損
ステンレスベルト	SFBT-10	〃		4		4		全損
ステンレスベルト	同上締金具	個		5		5		全損
根 かせ	コンクリートA形	〃		1		1		損率
電 線 管	VE70	m				4		全損
〃	VE42	〃		4				全損
〃	VE16	〃		2		2		全損
接 地 棒	10φ-1000	本		2		2		全損
同上リード端子	10φ用	個		2		2		全損
電 線	VVR100sq-3c	m				4		損率
〃	VVR38sq-3c	〃		4				損率
電 線	IV5.5	〃		3		3		損率
玉 礎 子	100×100	個		1		1		損率
仮設ボックス	屋外用 600×700×200	面				1		損率
〃	屋外用 500×400×200	〃		1				損率
漏電遮断器	600V, 3P, 100AF	個				1		損率
〃	600V, 3P, 50AF	〃		2		3		損率
〃	600V, 3P, 30AF	〃		1		1		損率
低圧ブレーカ	600V, 3P, 225AF	〃		1		1		損率
進相コンデンサ	200V, 250μF	〃				1		損率
〃	200V, 200μF	〃		1		2		損率
〃	200V, 150μF	〃		2		2		損率
電 工	(設置+撤去)	人		6.0		8.0		
普通作業員	(設置+撤去)	〃		3.0		3.0		
諸 雑 費		式		1		1		
計								

(2) 高圧受電設備 1箇所当り単価表

				施工歩掛コード				WB253820			
名 称	規 格	単位	単価	100kW 以下		300kW 以下		500kW 以下		備 考	
				数量	金額	数量	金額	数量	金額		
高圧キュービクル	6.6kV, 500kVA C B形	日						**		損料	
〃	6.6kV, 300kVA PF・S	〃				**				損料	
〃	6.6kV, 100kVA PF・S	〃		**						損料	
高圧気中開閉器	6.6kV, 300A 無方向	〃						**		損料	
〃	6.6kV, 200A 無方向	〃				**				損料	
〃	6.6kV, 100A 無方向	〃		**						損料	
コンクリート柱	10m－19cm－350 3400〔N〕(350kgf)	本		1		1		1		損率	
腕 金	1.8m	〃		2		2		2		損率	
〃	0.9m	〃		1		1		1		損率	
ア ー ム タ イ	2.3－25－945	〃		3		3		3		損率	
装 柱 金 具	Uボルト 13－220	個		3		3		3		損率	
高 圧 耐 張 碍 子	普通形	〃		3		3		3		損率	
引 留 ク ラ ン プ	38sq	〃				3		3		損率	
〃	22sq	〃		3						損率	
蓄力形コネクタ	38sq	〃				12		12		損率	
〃	22sq	〃		12						損率	
避 雷 器	8.4kV, 一般形	〃		3		3		3		損率	
玉 碍 子	100×100	〃		1		1		1		損率	
高 圧 ピ ン 碍 子	普通形	〃		3		3		3		損率	
亜鉛メッキ銅燃線	2種, A級, 22sq	kg		1.7		1.7		1.7		全損	
巻 付 グ リ ッ プ	22sq	個		4		4		4		全損	
根 か せ	コンクリートA形	個		1		1		1		損率	
足 場 ボ ル ト	C P用	本		13		13		13		損率	
電 線 管	G P70	m				10		10		全損	
〃	G P54	〃		10						全損	
〃	G P28	〃		10		10		10		全損	
ステンレスベルト	SFTB-10	〃		5.6		5.6		5.6		全損	
ステンレスベルト	同上締金具	個		7		7		7		全損	
電 線	CV, 6.6kV, 38sq－3 c	m				10		10		損率	
〃	CV, 6.6kV, 22sq－3 c	〃		10						損率	
電 線	PDC, 6.6kV, 38sq	〃				5		5		損率	
〃	PDC, 6.6kV, 22sq	〃		5						損率	
電 線	IV, 38sq	〃						10		損率	
〃	IV, 22sq	〃		10		10				損率	
接 地 棒	10φ－1500	本		5		5		5		全損	
同上リード端子	10φ用	個		5		5		5		全損	
接 地 銅 板	900×900×1.5 t	枚		1		1		1		全損	
水 切 り カ バ ー	100A	個		3		3		3		全損	
分 岐 カ バ ー	T1, 2 個用	〃		12		12		12		全損	
ステーブロック	N0.1, ロット付	〃		1		1		1		全損	
端 末 処 理 材 料	屋外, 6.6kV, 38sq－3 c	〃				1		1		全損	
〃	屋外, 6.6kV, 22sq－3 c	〃		1						全損	
〃	屋内, 6.6kV, 38sq－3 c	〃				1		1		全損	
〃	屋内, 6.6kV, 22sq－3 c	〃		1						全損	
技 術 者	(設置＋撤去)	人		1.05		1.05		1.05			
電 工	(設置＋撤去)	〃		23.50		26.00		26.00			
普 通 作 業 員	(設置＋撤去)	〃		12.00		12.00		12.00			
諸 雑 費		式		1		1		1			
計											

(3) 低圧配電線路 400m当り単価表

施工歩掛コード	WB253830

名 称	規 格	単位	単価	低圧配電線路		備 考
				数量	金額	
コンクリート柱	7m-19 cm 4200 [N] (430kgf)	本		10		損率
低 圧 碍 子		個		33		損率
低 圧 ラ ッ ク		〃		33		損率
足 場 ボ ル ト	C P用	本		80		損率
電 線	各種	m		1210		表 8.1 のとおり 損率
根 か せ	コンクリート A形, 1000×170×140	個		10		損率
亜鉛メッキ鋼撚線	2 種, A 級, 22sq	kg		4.8		全損
巻 付 グ リ ッ プ	22sq	個		16		全損
ステーブロック	N0.1, ロット付	〃		4		全損
玉 碍 子	100×100	〃		4		損率
電 工	(設置+撤去)	人		15.18		本員数に表 8.1 計上分を加算する
普 通 作 業 員	(設置+撤去)	〃		24.68		〃
諸 雑 費		式		1		
計						

表 8. 1

名 称	規 格	単位	単価	OW, 2.6 mm		OW, 3.2 mm		OW, 14sq		OW, 22sq		OW, 38sq		備 考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	OW, 2.6 mm	m		1210										
〃	OW, 3.2 mm	〃				1210								
〃	OW, 14sq	〃						1210						
〃	OW, 22sq	〃								1210				
〃	OW, 38sq	〃										1210		
〃	OW, 60sq	〃												
〃	OW, 100sq	〃												
電 工	(設置+撤去)	人		4.50		4.50		6.75		11.25		11.25		架線労務のみ
普通作業員	(設置+撤去)	〃		6.75		6.75		11.25		18.00		18.00		〃

表 8. 1

名 称	規 格	単位	単価	OW, 60sq		OW, 100sq		備 考
				数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	OW, 2.6 mm	m						
〃	OW, 3.2 mm	〃						
〃	OW, 14sq	〃						
〃	OW, 22sq	〃						
〃	OW, 38sq	〃						
〃	OW, 60sq	〃		1210				
〃	OW, 100sq	〃				1210		
電 工	(設置+撤去)	人		13.50		20.25		
普通作業員	(設置+撤去)	〃		22.50		33.75		

(4) 高圧配電線路 400m当り単価表

施工歩掛コード	WB253840

名 称	規 格	単位	単価	高圧配電線路		備 考
				数量	金額	
コンクリート柱	10m-19 cm 3400 [N] (350kgf)	本		10		損率
高圧ピン碍子	普通形, 大	個		21		損率
高圧耐張碍子	普通形	〃		18		損率
腕 金	1.5m	本		10		損率
腕 金	1.8m	〃		1		損率
装 柱 金 具	Uボルト 13-220	個		11		損率
足 場 ボ ル ト	C P用	本		130		損率
ア ー ム タ イ	2.3-25-945	〃		11		損率
電 線	6kV, 0E, 22sq	m		1210		損率
電 線	PDC, 6kV, 22sq	〃		5		損率
根 か せ	コンクリート A形, 1000-170-140	個		10		損率
亜鉛メッキ鋼燃線	2種, A級, 22sq	kg		6.8		全損
巻 付 グ リ ッ プ	22sq	個		16		全損
ステーブロック	N0.1, ロット付	〃		4		全損
玉 碍 子	100×100	〃		4		損率
電 工	(設置+撤去)	人		41.0		
普 通 作 業 員	(設置+撤去)	〃		66.0		
諸 雑 費		式		1		
計						

(5) 坑内配電線路 100m当り単価表

施工歩掛コード	WB253850

名 称	規 格	単位	単価	坑内電線路		備 考
				数量	金額	
ケ ー ブ ル	各 種	m				表 8.2 による 損率
一 般 支 持 金 具		個				〃 全損
一 般 用 受 皿		〃				〃 全損
アンカーボルト	M10	〃		100		全損
電 工	(設置+撤去)	人				本員数に表 8.2 計上分を加算する
諸 雑 費		式		1		
計						

表8.2

名 称	規 格	単位	単価	WR,5.5sq-3C		WR,8sq-3C		WR,14sq-3C		WR,22sq-3C		WR,38sq-3C		備考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	V V R, 5.5sq-3C	m		100										
"	" , 8sq-3C	"				100								
"	" , 14sq-3C	"						100						
"	" , 22sq-3C	"								100				
"	" , 38sq-3C	"										100		
"	" , 60sq-3C	"												
"	" , 100sq-3C	"												
"	6 kV , CV14sq-3C	"												
"	" , CV22sq-3C	"												
"	" , CV38sq-3C	"												
一般支持金具	T A85	個		50		50		50		50		50		
一般用受皿	15R, ポリエチレン	"		50		50		50		50		50		
"	25R, ポリエチレン	"												
電 工	(設置+撤去)	人		10.05		13.20		13.20		18.00		18.00		

表8.2

名 称	規 格	単位	単価	WR,60sq-3C		WR,100sq-3C		6kV,CV14sq-3C		6kV,CV22sq-3C		6kV,CV38sq-3C		備考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	V V R, 5.5sq-3C	m												
"	" , 8sq-3C	"												
"	" , 14sq-3C	"												
"	" , 22sq-3C	"												
"	" , 38sq-3C	"												
"	" , 60sq-3C	"		100										
"	" , 100sq-3C	"				100								
"	6 kV , CV14sq-3C	"						100						
"	" , CV22sq-3C	"								100				
"	" , CV38sq-3C	"										100		
一般支持金具	T A85	個		50		50		50		50		50		
一般用受皿	15R, ポリエチレン	"						50		50		50		
"	25R, ポリエチレン	"		50		50								
電 工	(設置+撤去)	人		24.00		39.00		24.00		24.00		39.00		

(6) ころがし配線 100m当り単価表

施工歩掛コード						WB253860
名 称	規 格	単位	単価	ころがし配線		備 考
				数量	金額	
ケ ー ブ ル	各 種	m				表 8.3 による 損率
電 工		人				"
諸 雑 費		式		1		
計						

表 8. 3

名 称	規 格	単位	単価	2PNCI,5.5sq-3C		2PNCI,8sq-3C		2PNCI,14sq-3C		2PNCI,22sq-3C		2PNCI,38sq-3C		備考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	2PNCI, 5.5sq-3C	m		100										
"	" , 8sq-3C	"				100								
"	" , 14sq-3C	"						100						
"	" , 22sq-3C	"								100				
"	" , 38sq-3C	"										100		
"	" , 60sq-3C	"												
"	" , 100sq-3C	"												
電 工	(設置+撤去)	人		4.95		4.95		4.95		6.75		9.45		

表 8. 3

名 称	規 格	単位	単価	2PNCI,60sq-3C		2PNCI,100sq-3C		備 考
				数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	2PNCI, 5.5sq-3C	m						
"	" , 8sq-3C	"						
"	" , 14sq-3C	"						
"	" , 22sq-3C	"						
"	" , 38sq-3C	"						
"	" , 60sq-3C	"		100				
"	" , 100sq-3C	"				100		
電 工	(設置+撤去)	人		9.45		15.00		

(7) 低圧電動機設備 1 面当り単価表

施工歩掛コード	WB253870

名 称	規 格	単位	単価	低圧電動機設備		備 考
				数量	金額	
仮 設 ボ ッ ク ス	各 種	面				表 8.4 による 損率
低 圧 ブ レ ー カ	各 種	個				" 損率
接 地 棒	10φ-1000	本		1		全損
同 上 リ ー ド 端 子	10φ用	個		1		全損
電 線	600V, VVR(SV)38sq-3C	m		10		損率
電 工	(設置+撤去)	人		1.44		本員数に表 8.4 計上分を加算する
諸 雑 費		式		1		
計						

表8.4

名 称	規 格	単位	単価	仮設ボックス(3回路)		仮設ボックス(5回路)		仮設ボックス(7回路)		仮設ボックス(10回路)	
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
仮設ボックス	屋外用 400×300×200	面		1							
〃	〃 500×400×200	面				1					
〃	〃 600×700×200	面						1			
〃	〃 700×1200×200	面								1	
漏電ブレーカ	600V, 3P, 30AF	個				1		2		3	
〃	600V, 3P, 50AF	〃		2		2		2		3	
〃	600V, 3P, 100AF	〃		1		1		2		3	
〃	600V, 3P, 200AF	〃				1		1		1	
電 工	(設置+撤去)	人		1.95		1.95		2.70		3.15	

(8) 高圧電動機設備 1 台当り単価表

施工歩掛コード	WB253880

名 称	規 格	単位	単価	高圧電動機設備		備 考
				数量	金額	
高圧気中開閉器	6.6kV, 100A無方向	日		※	※	損料
電 線	6.6kV, CV14sq-3C	m		15		損率
接 地 棒	10φ-1500	本		2		全損
同上リード端子	10φ用	個		2		全損
接 地 銅 板	900-900-1.5t	枚		1		全損
端 末 接 続 材 料	屋外, 6.6kV, 14sq-3C	個		1		全損
端 末 接 続 材 料	屋内, 6.6kV, 14sq-3C	〃		1		全損
電 線 管	GP54	m		15		全損
電 工	(設置+撤去)	人		11.50		
普 通 作 業 員	(設置+撤去)	〃		3.50		
諸 雑 費		式		1		
計						

(9) 工事用照明 10 個当り単価表

施工歩掛コード	WB253890

名 称	規 格	単位	単価	工事用照明		備 考
				数量	金額	
ラ ン プ	白熱灯, 500W	個		10※n		全損
照 明 器 具	リフレクタ投光器	〃		10		損率
ケ ー ブ ル	VVR, 5.5sq-2C	m		100		損率
電 工	(設置+撤去)	人		3.9		
諸 雑 費		式		1		
計						

(10) 坑内照明 100m当り単価表

施工歩掛コード	WB253900

名 称	規 格	単位	単価	坑内照明		備 考
				数量	金額	
ラ ン プ	蛍光灯 40W直管	個		20×n		全損
照 明 器 具	40W蛍光灯防湿, 防雨	〃		20		損率
ケ ー ブ ル	各 種	m				表 8.5 による 損率
一般支持金具	T A 85	個				〃 全損
一 般 用 受 皿	ポリエチレン	〃				〃 全損
アンカーボルト	M10	〃		100		〃 全損
〃	M 8	〃		40		〃 全損
電 工	(設置+撤去)	人		9		本員数に表 8.5 計上分を加算する
諸 雑 費		式		1		
計						

表 8. 5

名 称	規 格	単位	単価	1m~30mの場合		32m~43mの場合		45m~50mの場合		52m~70mの場合		備考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	VVR, 5.5sq-3C	m		100								
〃	〃, 8sq-3C	〃				100						
〃	〃, 14sq-3C	〃						100				
〃	〃, 22sq-3C	〃								100		
〃	〃, 38sq-3C	〃										
〃	〃, 60sq-3C	〃										
〃	〃, 100sq-3C	〃										
一般支持金具	T A 85	個		50		50		50		50		
一 般 用 受 皿	15R, ポリエチレン	〃		50		50		50		50		
〃	25R, ポリエチレン	〃										
電 工	(設置+撤去)	人		10.05		13.20		13.20		18.00		

表 8. 5

名 称	規 格	単位	単価	70m~80mの場合		82m~110mの場合		112m~150mの場合		備考
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	
ケ ー ブ ル	VVR, 5.5sq-3C	m								
〃	〃, 8sq-3C	〃								
〃	〃, 14sq-3C	〃								
〃	〃, 22sq-3C	〃								
〃	〃, 38sq-3C	〃		100						
〃	〃, 60sq-3C	〃				100				
〃	〃, 100sq-3C	〃						100		
一般支持金具	T A 85	個		50		50		50		
一 般 用 受 皿	15R, ポリエチレン	〃		50						
〃	25R, ポリエチレン	〃				50		50		
電 工	(設置+撤去)	人		18.00		24.00		39.00		

(11) 切羽照明 10 個当り単価表

施工歩掛コード	WB253910

名 称	規 格	単位	単価	切羽照明		備 考
				数量	金額	
ラ ン プ	白熱灯, 500W	個		10×n		全損
照 明 器 具	リフレクタ投光器	//		10		損率
ケ ー ブ ル	2 PNCT, 3.5sq-2 C	m		100		損率
電 工	(設置+撤去)	人		3.9		
諸 雑 費		式		1		
計						

9. 施工単価入力基準表

(1) 低圧受電設備

施工歩掛コード	WB253810	施工単位	箇所	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	区分	作業内容	設置期間	設備費
	①25kW 以下 ②50kW 以下	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 区分選定は負荷出力の合計値で行い、25kW 以下はJ 1条件で①,超える場合は②を選択する。

(2) 高圧受電設備

施工歩掛コード	WB253820	施工単位	箇所		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	区分	作業内容	設置期間	キュービクル 供用日数	設備費
	①100kW 以下 ②300kW 以下 ③500kW 以下	(表 9.1)	(表 9.2)	(日) (実数入力)	(表 9.3)

(注) 1. 引込柱は架空配電線路の電柱を兼ねるものとする。

2. 区分選定は、高圧機器(変圧器が無い場合)入力換算値+変圧器合計容量で行う。

3. 地中引込の場合には適用しない。

(3) 低圧配電線路

施工歩掛コード	WB253830	施工単位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	電線の種類	作業内容	設置期間	設備費
	(表 9.4)	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 架空電線(電柱)方式である。

(4) 高圧配電線路

施工歩掛コード	WB253840	施工単位	m
施工区分	入力条件		
	J 1	J 2	J 3
各種	作業内容	設置期間	設備費
	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 架空電線(電柱)方式である。

(5) 坑内配電線路

施工歩掛コード	WB253850	施工単位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	施工区分	作業内容	設置期間	設備費
	(表 9.5)	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 本コードは、コンクリート壁面サドル留めである。

(6) ころがし配線

施工歩掛コード	WB253860	施工単位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	施工区分	作業内容	設置期間	設備費
	(表 9.6)	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 長距離では使用しないこと。

表9.1 作業内容

作業内容	入力番号
設置、撤去	①
設置のみ	②
撤去のみ	③
労務費なし	④

表9.2 設置期間

設置期間	入力番号
3ヶ月未満	①
6ヶ月未満	②
1年未満	③
2年未満	④
3年未満	⑤

表9.3 設備費

設備費	入力番号
設備費含む	①
設備費含まず	②

(7) 低圧電動機設備

施工歩掛コード	WB253870	施工単位	面	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	仮設ボックス 回路数	作業内容	設置期間	設備費
	(表 9.7)	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)

(注) 機械1台に複数のモータがあって、1本ケーブルで接続する場合は全体で1台と見なす。

(8) 高圧電動機設備

施工歩掛コード	WB253880	施工単位	台	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業内容	設置期間	開閉器 供用日数 (日)	設備費
	(表 9.1)	(表 9.2)	(実数入力)	(表 9.3)

(注) 高圧電動機設備1台に1台計上する。

(9) 工事用照明

施工歩掛コード	WB253890	施工単位	個	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業内容	設置期間	設備費	ランプ数
	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)	(個) (実数入力)

(注) 1. ランプ数は、照明時間をランプ寿命 2000 時間で割り個数を算出する。(切上げ)

2. 照明器具及ケーブル 10m/個を含んでいる。

3. 照明器具は他の仮設物等にバイス等で固定する。

(10) 坑内照明

施工歩掛コード	WB253900	施工単位	m		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工区分	作業内容	設置期間	設備費	照明灯 点灯日数 (日)
	(表 9.8)	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)	(実数入力)

(注) 1. 本コードはコンクリート壁面サドル留めである。

2. J 1 条件は照明区間全長で選択すること。

3. 照明器具及ケーブルを含んでいる。

4. 受電設備～坑口までの配線は別途計上すること。

(11) 切羽照明

施工歩掛コード	WB253910	施工単位	個	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業内容	設置期間	設備費	照明灯 点灯日数 (日)
	(表 9.1)	(表 9.2)	(表 9.3)	(実数入力)

(注) 照明器具及ケーブル 10m/個を含んでいる。

表9.4 電線の種類

電線の種類	入力番号
0W 2.6 mm	①
0W 3.2 mm	②
0W 14mm ²	③
0W 22mm ²	④
0W 38mm ²	⑤
0W 60mm ²	⑥
0W100mm ²	⑦

表9.5 施工区分 (坑内配電線路)

施工区分		入力番号	施工区分		入力番号
低 圧 (VVR)	5.5mm ² × 3C	①	高 圧 (6kV, CV)	14mm ² × 3C	⑧
	8mm ² × 3C	②		22mm ² × 3C	⑨
	14mm ² × 3C	③		38mm ² × 3C	⑩
	22mm ² × 3C	④			
	38mm ² × 3C	⑤			
	60mm ² × 3C	⑥			
	100mm ² × 3C	⑦			

表9.6 施工区分 (ころがし配線)

施工区分		入力番号
低 圧 (2 PNCT)	5.5mm ² × 3C	①
	8mm ² × 3C	②
	14mm ² × 3C	③
	22mm ² × 3C	④
	38mm ² × 3C	⑤
	60mm ² × 3C	⑥
	100mm ² × 3C	⑦

表9.7 仮設ボックス回路数

仮設ボックス回路数	入力番号
3 回路以下	①
5 回路以下	②
7 回路以下	③
10 回路以下	④

表9.8 施工区分 (坑内照明)

施工区分		入力番号
トンネル長	1m～ 320m	①
	321m～ 430m	②
	431m～ 590m	③
	591m～ 700m	④
	701m～ 890m	⑤
	891m～1150m	⑥
	1151m～1500m	⑦

⑱ グラフによる標準的な仮設電力設備の積算

1. 適用範囲

本資料は、「第Ⅱ編第5章⑳仮設電力設備工」の適用を受ける仮設電力設備のうち指定仮設等、設備条件が明示され積上げ積算が必要なものを除き、次の条件を全て満たすものについて適用する。

- (1) 引込み電路延長が150m以内であること。

(注) 引込み電路延長とは受変電設備（低圧にあっては引込み用分電盤をいう。以下同じ）から、引込み用構内柱までの工事現場内の引込みのための電線路の延長をいう。

- (2) 受変電設備から工事現場内に設置する分電盤又は高圧配電設備にあっては負荷端までの最大延長が、1,000m以内であること。

2. 積算

- (1) 仮設電力の設備費は、グラフー(1)、グラフー(2)により、設備容量と設備の在場期間（仮設電力設備を工事現場に設置し撤去するまでの期間）から定まる金額を計上する。なお、金額は10,000円単位とし、10,000円未満は切り捨てとする。

- (2) 仮設電力設備費には次の項目が含まれている。

イ. 受変電設備の設置、撤去費

ロ. 引込み、構内配線路の設置、撤去費

ハ. 分電盤の設置、撤去費

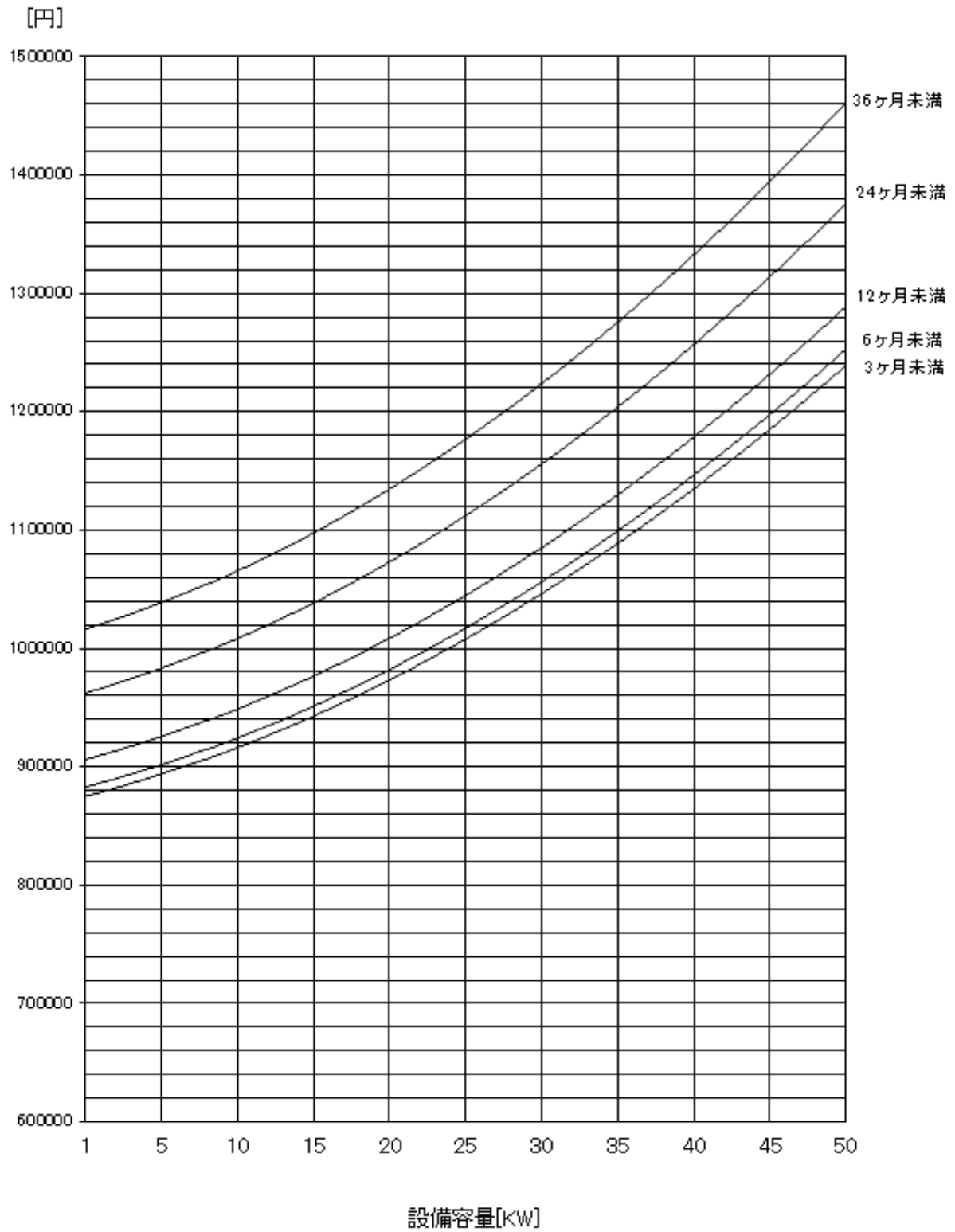
ニ. その他、負荷に電力を供給するために必要な、標準的な機材の設置、撤去費

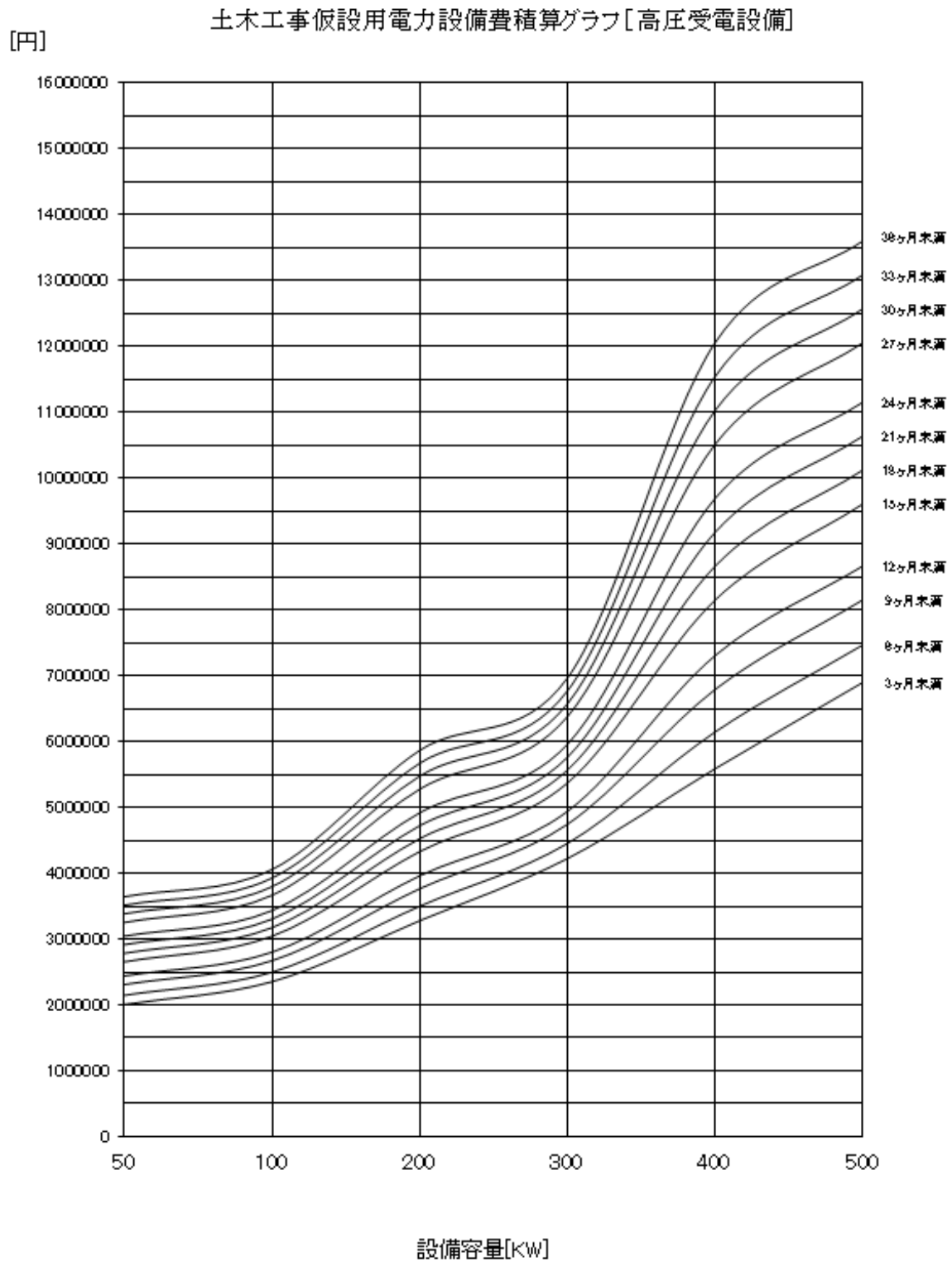
ホ. 受変電設備、分電盤、ケーブルその他の機材の在場期間に相当する損料

3. その他

本基準に定めのない事項は、「第Ⅱ編第5章⑳仮設電力設備工」によること。

グラフ-(1)土木工事仮設用電力設備費積算グラフ[低圧受電設備]





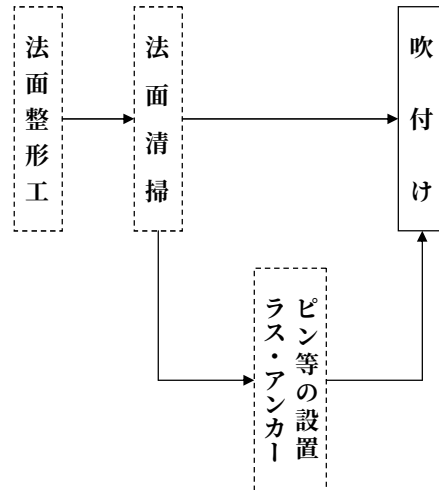
②0 法面工 (仮設用モルタル吹付工)

1. 適用範囲

本資料は、もたれ式擁壁等の掘削部の施工で危険防止のために仮モルタルを吹付ける場合に適用する。
なお、吹付厚は3cmを標準とする。

2. 施工概要

施工フローは次図のとおりとする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

3. 機種の選定

使用する機械の機種・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	台数	摘 要
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型 可搬式 スクリューエンジン 掛 10.5~11.0 m ³ /min	1	
モルタルコンクリート吹付機	湿式 0.8~1.2 m ³ /h	1	ミキサ付
ベ ル ト コ ン ベ ヤ (ポ ー タ ブ ル)	[エンジン駆動] 機長7m ベルト幅350mm	2	材料の投入用
発 動 発 電 機	排出ガス対策型 ディーゼルエンジン駆動 10kVA	1	ベルトコンベヤ, 電気ドリル 計量器等の動力源
計 量 器	骨材累加算・機械式 300kg×1槽・2桿	1	
ポ ン プ	小型渦巻ポンプ (呼水・片吸込・モータ駆動型 口径50mm)	1	揚水用 必要に応じて計上

(注) 空気圧縮機及び発動発電機は賃料とする。

4. 施 工 歩 掛

4－1 仮設用モルタル吹付工（吹付厚3cm）

仮設用モルタル吹付工（吹付厚3cm）の歩掛は次表とする。

表4.1 仮設用モルタル吹付工歩掛（100 m²当り）

名 称	単位	数 量
		吹付厚 3 cm
土 木 一 般 世 話 役	人	0.5
法 面 工	〃	2.0
特 殊 作 業 員	〃	1.1
普 通 作 業 員	〃	1.3
モルタルコンクリート吹付機	h	4.1
空 気 圧 縮 機 運 転	日	0.6
発 動 発 電 機 運 転	〃	0.6
計 量 器 損 料	〃	0.6
ベルトコンベヤ（ポータブル） 損 料	〃	1.2
小 型 渦 巻 ポ ン プ 損 料	〃	0.6
諸 雑 費 率	%	2

(注) 1. 上表は仮設ロープにより施工する場合の歩掛である。

2. 本歩掛にはモルタルコンクリート吹付機、空気圧縮機、ベルトコンベヤ（ポータブル）等の据付撤去及び吹付材料の現場内小運搬を含む。

3. 目地が必要な場合は、材料のみ別途計上する。

4. 諸雑費は、送水ポンプ損料、吹付機のホース及び仮設ロープ損料、水槽損料、骨材ホッパ損料、水抜パイプ等の費用として労務費、機械運転経費、機械損料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4－2 法面清掃

法面清掃のみが必要な場合は、「第Ⅱ編第2章①－5現場吹付法砕工」により計上する。

4－3 ラス張工

ラス張が必要な場合は、法面清掃の有無にかかわらず「第Ⅵ編第2章⑥－2吹付砕工」により計上する。

5. 吹付材料配合比

吹付材料配合比は、次表を標準とするが、現場条件によりこれにより難しい場合は別途考慮する。

表5.1 吹付材料配合比（1 m³当り）

工 種	セメント	砂	水セメント比	摘 要
モルタル吹付工	420 kg	(1,680 kg) 1.24 m ³	45～55%	C : S = 1 : 4

6. 材料の使用量

吹付材料の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量} \times (1 + K)$$

K：ロス率

表6.1 ロス率（K）

名 称	ロス率	摘 要
吹付材料	+0.27	はね返り損失及び混合の損失を含む

7. 単 価 表

(1) 仮設用モルタル吹付工 100 m²当り単価表

施工歩掛コード WB254010				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.5	表 4.1
法 面 工		〃	2.0	〃
特 殊 作 業 員		〃	1.1	〃
普 通 作 業 員		〃	1.3	〃
セ メ ン ト		kg	1,600	表 5.1, 表 6.1
砂		m ³	4.7	〃
目 地 材		m ²		必要に応じて計上する
モルタルコンクリート吹付機運転	湿式 0.8~1.2 m ³ /h	h	4.1	ミキサ付 表 4.1, 機械損料
空 気 圧 縮 機 運 転	排出ガス対策型 可搬式 スクリュー エンジン掛 10.5~11.0 m ³ /min	日	0.6	表 4.1, 機械賃料
発 動 発 電 機 運 転	排出ガス対策型 ディーゼルエンジン駆動 10kVA	〃	0.6	〃
計 量 器 損 料	骨材累加算・機械式 300kg×1槽・2桿	〃	0.6	表 4.1, 機械損料
ポ ン プ 損 料	小型渦巻ポンプ(呼水・片吸込・ モータ駆動型 口径 50 mm)	〃	0.6	表 4.1, 機械損料 揚水用 必要に応じて計上する
ベ ル ト コ ン ベ ヤ (ポータブル) 損料	[エンジン駆動] 機長 7 m ベルト幅 350 mm	〃	1.2	表 4.1, 機械損料
諸 雑 費		式	1	表 4.1
計				

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
モルタルコンクリート吹付機	湿式 0.8~1.2 m ³ /h	機-13	
空 気 圧 縮 機	排出ガス対策型 可搬式 スクリュー エンジン掛 10.5~11.0 m ³ /min	機-16	燃料消費量 →105 機械賃料数量→1.7
発 動 発 電 機	排出ガス対策型 ディーゼルエンジン駆動 10kVA	機-16	燃料消費量 →13 機械賃料数量→1.3

8. 施工単価入力基準表

仮設用モルタル吹付工

施工歩掛コード	WB254010	施工単位	m ²
施 工 区 分	入 力 条 件		
各種	J 1	J 2	J 3
	セメントの 種類 (表 7.1)	小型渦巻ポンプ の機種 (表 7.2)	モルタル吹付機 の供用日当り 運転時間 ① 標準 ② 標準以外 (実数入力)

(注) 1. 上表は、吹付材料のロスを含む。

2. 目地が必要な場合は、材料のみ別途計上する。

3. J 1 条件で③を選択した場合は、セメント単価 (Y-0200000) [円/ t]を登録すること。

4. 本コードは、発動発電機及び空気圧縮機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用できる。

表 7. 1 セメントの種類

種 類	番 号
普 通 (袋物)	①
高炉 B (袋物)	②
各種 (Y-0200000)	③

表 7. 2 小型渦巻ポンプの機種

種 類	番 号
小型渦巻ポンプ (呼水・片吸込・ モータ駆動型 口径 50 mm)	揚程 10m ①
	揚程 15m ②
	揚程 20m ③
	揚程 30m ④
無し	⑤

②① 交通誘導警備員

1. 適用範囲

本資料は、交通誘導警備員及び機械の誘導員等の交通管理を行う場合に適用する。

2. 計上区分

現場条件に応じて、交通誘導警備員の配置人員、作業時間帯、期間を計上する。

表2.1 交通誘導員の計上区分

区分	現場条件	計 算 式	
		交通誘導警備員A	交通誘導警備員B
1	昼間勤務(8:00～17:00) 実働 8時間(交替要員無し)	$A \times \text{必要日数} \times N$	$A \times \text{必要日数} \times N$
2	昼間勤務(8:00～17:00) 実働 9時間(交替要員有り)	$1.2A \times \text{必要日数} \times N$	$1.2A \times \text{必要日数} \times N$
3	夜間勤務(20:00～5:00) 実働 8時間(交替要員無し)	$1.5A \times \text{必要日数} \times N$	$1.5A \times \text{必要日数} \times N$
4	夜間勤務(20:00～5:00) 実働 9時間(交替要員有り)	$1.8A \times \text{必要日数} \times N$	$1.8A \times \text{必要日数} \times N$
5	24時間勤務 実働 22時間(交替要員無し)	$3.0A \times \text{必要日数} \times N$	$3.0A \times \text{必要日数} \times N$
6	24時間勤務 実働 24時間(交替要員有り)	$3.4A \times \text{必要日数} \times N$	$3.5A \times \text{必要日数} \times N$

- (注) 1. A：交通誘導警備員単価 N：配置人員
 2. 日曜、祝祭日等の休日割増は適用しない。
 3. 区分5、6は2交替制勤務とする。
 4. 交替要員有りは、休憩、休憩時間についても交通誘導を行う場合に適用する。
 5. 作業時間帯等が異なる場合は、別途積算するものとする。

3. 施工単価入力基準表

(1) 交通誘導警備員 A

施工歩掛コード	WB010211	施工単位	人日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分		
	表3.1		

(注) 1. 上表には、交替補正及び賃金の割増を含む。

2. 施工数量は交替要員を除いた人数とし、“必要日数×N”より算出するものとする。ただし、配置人員(N)は、作業時間及び作業時間帯にかかわらず「1日当りの編成人員」とし、特にJ 1条件の⑤、⑥を使用する場合「延べの人数」としないよう注意すること。

(2) 交通誘導警備員 B

施工歩掛コード	WB010212	施工単位	人日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分		
	表3.1		

(注) 1. 上表には、交替補正及び賃金の割増を含む。

2. 施工数量は交替要員を除いた人数とし、“必要日数×N”より算出するものとする。ただし、配置人員(N)は、作業時間及び作業時間帯にかかわらず「1日当りの編成人員」とし、特にJ 1条件の⑤、⑥を使用する場合「延べの人数」としないよう注意すること。

表3.1 作 業 区 分

区分	入力番号
昼間勤務 (交替要員無し)	①
昼間勤務 (交替要員有り)	②
夜間勤務 (交替要員無し)	③
夜間勤務 (交替要員有り)	④
24時間勤務 (交替要員無し)	⑤
24時間勤務 (交替要員有り)	⑥

第Ⅲ編 河 川

第 1 章 河川海岸·····	Ⅲ- 1 -①- 1
第 2 章 河川維持工·····	Ⅲ- 2 -①- 1
第 3 章 砂防工·····	Ⅲ- 3 -①- 1
第 4 章 地すべり防止工·····	Ⅲ- 4 -①- 1

第1章 河川海岸

① 消波根固めブロック工……………	Ⅲ-1-①- 1	④-2 バックホウ浚渫船……………	Ⅲ-1-④-23
①-1 消波根固めブロック工……………	Ⅲ-1-①- 1	1 適用範囲……………	Ⅲ-1-④-23
1 適用範囲……………	Ⅲ-1-①- 1	2 施工概要……………	Ⅲ-1-④-23
2 施工概要……………	Ⅲ-1-①- 2	3 機種の選定……………	Ⅲ-1-④-23
3 施工パッケージ……………	Ⅲ-1-①- 3	4 浚渫船の運転……………	Ⅲ-1-④-24
4 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-①-14	5 回航費並びに運搬費……………	Ⅲ-1-④-26
①-2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)		6 雑工事費……………	Ⅲ-1-④-26
(0.25 t 以上 35.5 t 以下) ……	Ⅲ-1-①-23	7 汚濁防止フェンス……………	Ⅲ-1-④-26
1 適用範囲……………	Ⅲ-1-①-23	8 単価表……………	Ⅲ-1-④-27
2 施工概要……………	Ⅲ-1-①-23	9 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-④-29
3 施工パッケージ……………	Ⅲ-1-①-24	⑤ 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工	
4 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-①-27		Ⅲ-1-⑤- 1
② 捨石工……………	Ⅲ-1-②- 1	1 適用範囲……………	Ⅲ-1-⑤- 1
1 適用範囲……………	Ⅲ-1-②- 1	2 施工概要……………	Ⅲ-1-⑤- 1
2 施工概要……………	Ⅲ-1-②- 1	3 機種の選定……………	Ⅲ-1-⑤- 1
3 施工パッケージ……………	Ⅲ-1-②- 2	4 ブロック組立工……………	Ⅲ-1-⑤- 1
4 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-②- 4	5 ケーブル組立工……………	Ⅲ-1-⑤- 2
③ 消波工……………	Ⅲ-1-③- 1	6 グラウト工……………	Ⅲ-1-⑤- 2
1 適用範囲……………	Ⅲ-1-③- 1	7 可とう継手工……………	Ⅲ-1-⑤- 2
2 施工概要……………	Ⅲ-1-③- 1	8 機械器具経費……………	Ⅲ-1-⑤- 3
3 捨石均し工……………	Ⅲ-1-③- 2	9 内訳書及び単価表……………	Ⅲ-1-⑤- 3
4 ブロック製作・据付工……………	Ⅲ-1-③- 3	10.施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-⑤- 5
5 間接費……………	Ⅲ-1-③- 9		
6 内訳書及び単価表……………	Ⅲ-1-③-11		
7 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-③-16		
④ 浚渫工……………	Ⅲ-1-④- 1		
④-1 ポンプ式浚渫船……………	Ⅲ-1-④- 1		
1 適用範囲……………	Ⅲ-1-④- 1		
2 施工概要……………	Ⅲ-1-④- 1		
3 機種の選定……………	Ⅲ-1-④- 1		
4 浚渫船の運転……………	Ⅲ-1-④- 2		
5 排砂管……………	Ⅲ-1-④- 8		
6 汚濁防止フェンス……………	Ⅲ-1-④-12		
7 単価表……………	Ⅲ-1-④-13		
8 施工単価入力基準表……………	Ⅲ-1-④-18		

第1章 河 川 海 岸

① 消波根固めブロック工

① - 1 消波根固めブロック工

1. 適 用 範 囲

本資料は、河川、砂防、海岸、道路工事に使用する 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの現地製作、陸上よりの敷設工事に適用する。

1 - 1 適用出来る範囲

1 - 1 - 1 消波根固めブロック製作

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの現地製作の場合

1 - 1 - 2 消波根固めブロック横取り

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの横取りのみの場合

1 - 1 - 3 消波根固めブロック積込み

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの積込のみの場合

1 - 1 - 4 消波根固めブロック荷卸

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの荷卸のみの場合

1 - 1 - 5 消波根固めブロック据付け

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックの陸上よりの敷設の場合

1 - 1 - 6 消波根固めブロック運搬

(1) 11.0 t 以下(実質量とする)の消波根固めブロックのトラックによる運搬の場合

1 - 2 適用出来ない範囲

1 - 2 - 1 消波根固めブロック製作

(1) 11.0 t を超える(実質量とする)消波根固めブロックの現地製作の場合(「第Ⅲ編第1章③消波工」による)

1 - 2 - 2 消波根固めブロック横取り

(1) 11.0 t を超える(実質量とする)の消波根固めブロックの横取りのみの場合

1 - 2 - 3 消波根固めブロック積込み

(1) 11.0 t を超える(実質量とする)の消波根固めブロックの積込のみの場合

1 - 2 - 4 消波根固めブロック荷卸

(1) 11.0 t を超える(実質量とする)の消波根固めブロックの荷卸のみの場合

1 - 2 - 5 消波根固めブロック据付け

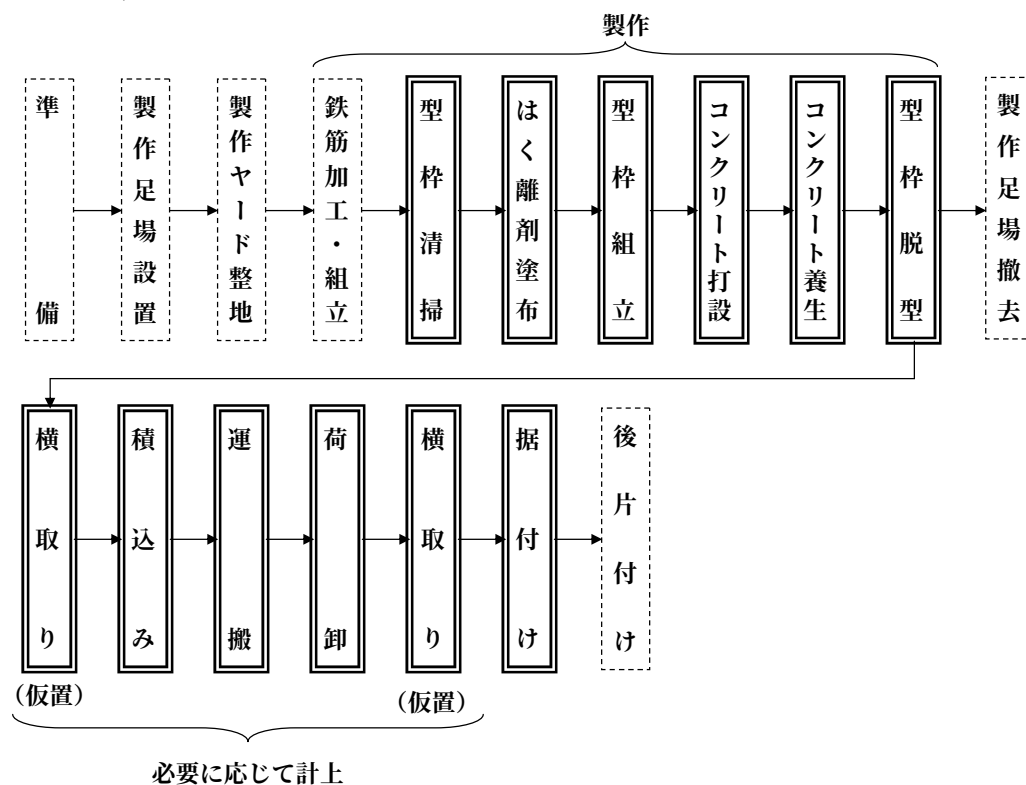
(1) 11.0 t を超える(実質量とする)消波根固めブロックの陸上よりの敷設の場合

1 - 2 - 6 消波根固めブロック運搬

(1) 11.0 t を超える(実質量とする)消波根固めブロックのトラックによる運搬の場合

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 据付けは連結金具の有無にかかわらず適用出来る。

なお、ブロック製作後の各工程の作業内容については下記による。

- (1) 横取り：ブロックの移動（型枠脱型場所～製作場所仮置き場又は据付場所仮置き場～据付場所）を目的としたもので、クレーンによるブロックの移動距離 50m未満の範囲内の作業をいう。
ただし、クレーンによる移動の範囲内で、型枠脱型場所から直接製作場所仮置き場へ現場内小運搬をする場合は「型枠脱型」として取扱う。
- (2) 運搬：トラック等による運搬作業をいう。ただし、運搬距離が 50m未満の場合は横取りとして取扱う。
- (3) 荷卸：トラック等から地面に置く作業をいう。
一旦地面に置くことなく、直接ブロック据付作業を行う場合は据付作業とする。

3. 施工パッケージ

3-1 消波根固めブロック製作

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 消波根固めブロック製作 積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	型枠の種類	生コンクリート 規格	1 個当り コンクリート 体積 (m3/個)	1 個当り型枠 面積(m2/個)	養生工の種別
2.5 t 以下	鋼製型枠・ FRP 製型枠	(表 3.2)	(表 3.3)	(表 3.3)	一般
					給熱
	直積ブロック用 鋼製型枠				一般
					給熱
2.5t を超え 5.5t 以下	鋼製型枠・ FRP 製型枠		(表 3.4)	(表 3.4)	一般
					給熱
	直積ブロック用 鋼製型枠				一般
					給熱
5.5t を超え 11.0t 以下	鋼製型枠・ FRP 製型枠	(表 3.5)	(表 3.5)	一般	
				給熱	
	直積ブロック用 鋼製型枠			一般	
				給熱	

- (注) 1. 上表は、消波根固めブロックの製作（現地で製作するコンクリート投入打設、型枠の清掃及び組立・脱型、はく離剤塗布）、養生（給熱養生を含む）の他、コンクリート打設小器材、型枠はく離剤、インパクトレンチ損料、養生シート、練炭火鉢及び養生囲い材料（シート、さん木等）、電力に関する経費等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料を含む）を含む。
2. コンクリートの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.01）
3. 鉄筋（連結用フック含む）の加工・組立費用及び材料費は、「第VI編第2章①－1 鉄筋工(太径鉄筋含む)」による。
4. 給熱養生は、練炭を使用した場合である。
5. 給熱養生は、養生期間を3日程度としたもので、養生囲いの設置・撤去を含む。

表3.2 生コンクリート規格

種 別	種 別	種 別
18-5-40 (普通)	21-8-40 (普通)	21-5-40 (高炉)
18-8-25(20) (普通)	21-12-25(20) (普通)	21-8-25(20) (高炉)
18-8-40 (普通)	21-12-40 (普通)	21-8-40 (高炉)
18-12-25(20) (普通)	18-5-40 (高炉)	24-8-25(20) (高炉)
18-12-40 (普通)	18-8-40 (高炉)	27-5-40 (高炉)
19.5-8-40 (普通)	19.5-5-40 (高炉)	各種
21-8-25(20) (普通)	19.5-8-40 (高炉)	

表3.3 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分表
[消波根固めブロック規格:2.5t 以下]

1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)
0.17m3 以上 0.23m3 以下	2.00m2 以上 2.20m2 以下	0.57m3 を超え 0.64m3 以下	3.50m2 以上 3.96m2 以下
	2.20m2 を超え 2.40m2 以下		3.96m2 を超え 4.42m2 以下
	2.40m2 を超え 2.60m2 以下		4.42m2 を超え 4.88m2 以下
	2.60m2 を超え 2.80m2 以下		4.88m2 を超え 5.34m2 以下
	2.80m2 を超え 3.00m2 以下		5.34m2 を超え 5.80m2 以下
0.23m3 を超え 0.28m3 以下	2.20m2 以上 2.43m2 以下	0.64m3 を超え 0.71m3 以下	3.75m2 以上 4.27m2 以下
	2.43m2 を超え 2.66m2 以下		4.27m2 を超え 4.78m2 以下
	2.66m2 を超え 2.89m2 以下		4.78m2 を超え 5.29m2 以下
	2.89m2 を超え 3.12m2 以下		5.29m2 を超え 5.80m2 以下
	3.12m2 を超え 3.35m2 以下		5.80m2 を超え 6.31m2 以下
0.28m3 を超え 0.33m3 以下	2.37m2 以上 2.64m2 以下	0.71m3 を超え 0.79m3 以下	4.06m2 以上 4.62m2 以下
	2.64m2 を超え 2.91m2 以下		4.62m2 を超え 5.18m2 以下
	2.91m2 を超え 3.18m2 以下		5.18m2 を超え 5.74m2 以下
	3.18m2 を超え 3.45m2 以下		5.74m2 を超え 6.30m2 以下
	3.45m2 を超え 3.72m2 以下		6.30m2 を超え 6.86m2 以下
0.33m3 を超え 0.39m3 以下	2.59m2 以上 2.90m2 以下	0.79m3 を超え 0.86m3 以下	4.28m2 以上 4.90m2 以下
	2.90m2 を超え 3.21m2 以下		4.90m2 を超え 5.52m2 以下
	3.21m2 を超え 3.52m2 以下		5.52m2 を超え 6.14m2 以下
	3.52m2 を超え 3.83m2 以下		6.14m2 を超え 6.76m2 以下
	3.83m2 を超え 4.14m2 以下		6.76m2 を超え 7.38m2 以下
0.39m3 を超え 0.45m3 以下	2.81m2 以上 3.16m2 以下	0.86m3 を超え 0.94m3 以下	4.58m2 以上 5.26m2 以下
	3.16m2 を超え 3.51m2 以下		5.26m2 を超え 5.93m2 以下
	3.51m2 を超え 3.86m2 以下		5.93m2 を超え 6.60m2 以下
	3.86m2 を超え 4.21m2 以下		6.60m2 を超え 7.27m2 以下
	4.21m2 を超え 4.56m2 以下		7.27m2 を超え 7.94m2 以下
0.45m3 を超え 0.51m3 以下	3.04m2 以上 3.43m2 以下	0.94m3 を超え 1.04m3 以下	4.92m2 以上 5.66m2 以下
	3.43m2 を超え 3.82m2 以下		5.66m2 を超え 6.39m2 以下
	3.82m2 を超え 4.21m2 以下		6.39m2 を超え 7.12m2 以下
	4.21m2 を超え 4.60m2 以下		7.12m2 を超え 7.85m2 以下
	4.60m2 を超え 4.99m2 以下		7.85m2 を超え 8.58m2 以下
0.51m3 を超え 0.57m3 以下	3.25m2 以上 3.69m2 以下	1.04m3 を超え 1.13m3 以下	5.25m2 以上 6.05m2 以下
	3.69m2 を超え 4.12m2 以下		6.05m2 を超え 6.84m2 以下
	4.12m2 を超え 4.55m2 以下		6.84m2 を超え 7.63m2 以下
	4.55m2 を超え 4.98m2 以下		7.63m2 を超え 8.42m2 以下
	4.98m2 を超え 5.41m2 以下		8.42m2 を超え 9.21m2 以下

表3.4 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分表
 [消波根固めブロック規格:2.5tを超え 5.5t 以下]

1個当り コンクリート 体積(m ³)	1個当り型枠面積(m ²)	1個当り コンクリート 体積(m ³)	1個当り型枠面積(m ²)
1.05m ³ 以上 1.15m ³ 以下	5.14m ² 以上 5.94m ² 以下	1.73m ³ を超え 1.87m ³ 以下	6.61m ² 以上 7.81m ² 以下
	5.94m ² を超え 6.73m ² 以下		7.81m ² を超え 9.00m ² 以下
	6.73m ² を超え 7.52m ² 以下		9.00m ² を超え 10.19m ² 以下
	7.52m ² を超え 8.31m ² 以下		10.19m ² を超え 11.38m ² 以下
	8.31m ² を超え 9.10m ² 以下		11.38m ² を超え 12.57m ² 以下
1.15m ³ を超え 1.25m ³ 以下	5.35m ² 以上 6.21m ² 以下	1.87m ³ を超え 2.01m ³ 以下	6.91m ² 以上 8.19m ² 以下
	6.21m ² を超え 7.06m ² 以下		8.19m ² を超え 9.46m ² 以下
	7.06m ² を超え 7.91m ² 以下		9.46m ² を超え 10.73m ² 以下
	7.91m ² を超え 8.76m ² 以下		10.73m ² を超え 12.00m ² 以下
	8.76m ² を超え 9.61m ² 以下		12.00m ² を超え 13.27m ² 以下
1.25m ³ を超え 1.37m ³ 以下	5.58m ² 以上 6.50m ² 以下	2.01m ³ を超え 2.17m ³ 以下	7.24m ² 以上 8.60m ² 以下
	6.50m ² を超え 7.41m ² 以下		8.60m ² を超え 9.95m ² 以下
	7.41m ² を超え 8.32m ² 以下		9.95m ² を超え 11.30m ² 以下
	8.32m ² を超え 9.23m ² 以下		11.30m ² を超え 12.65m ² 以下
	9.23m ² を超え 10.14m ² 以下		12.65m ² を超え 14.00m ² 以下
1.37m ³ を超え 1.48m ³ 以下	5.87m ² 以上 6.83m ² 以下	2.17m ³ を超え 2.33m ³ 以下	7.53m ² 以上 8.99m ² 以下
	6.83m ² を超え 7.80m ² 以下		8.99m ² を超え 10.45m ² 以下
	7.80m ² を超え 8.77m ² 以下		10.45m ² を超え 11.91m ² 以下
	8.77m ² を超え 9.74m ² 以下		11.91m ² を超え 13.37m ² 以下
	9.74m ² を超え 10.71m ² 以下		13.37m ² を超え 14.83m ² 以下
1.48m ³ を超え 1.61m ³ 以下	6.04m ² 以上 7.08m ² 以下	2.33m ³ を超え 2.51m ³ 以下	7.95m ² 以上 9.49m ² 以下
	7.08m ² を超え 8.12m ² 以下		9.49m ² を超え 11.02m ² 以下
	8.12m ² を超え 9.16m ² 以下		11.02m ² を超え 12.55m ² 以下
	9.16m ² を超え 10.20m ² 以下		12.55m ² を超え 14.08m ² 以下
	10.20m ² を超え 11.24m ² 以下		14.08m ² を超え 15.61m ² 以下
1.61m ³ を超え 1.73m ³ 以下	6.34m ² 以上 7.46m ² 以下		
	7.46m ² を超え 8.58m ² 以下		
	8.58m ² を超え 9.70m ² 以下		
	9.70m ² を超え 10.82m ² 以下		
	10.82m ² を超え 11.94m ² 以下		

表3.5 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分表
 [消波根固めブロック規格:5.5tを超え11.0t以下]

1個当り コンクリート 体積(m3)	1個当り型枠面積(m2)	1個当り コンクリート 体積(m3)	1個当り型枠面積(m2)
2.20m3以上 2.40m3以下	10.01m2以上11.59m2以下	3.45m3を超え 3.70m3以下	12.23m2以上14.51m2以下
	11.59m2を超え13.15m2以下		14.51m2を超え16.79m2以下
	13.15m2を超え14.73m2以下		16.79m2を超え19.07m2以下
2.40m3を超え 2.60m3以下	10.38m2以上12.08m2以下	3.70m3を超え 3.96m3以下	12.86m2以上15.28m2以下
	12.08m2を超え13.76m2以下		15.28m2を超え17.70m2以下
	13.76m2を超え15.46m2以下		17.70m2を超え20.12m2以下
2.60m3を超え 2.80m3以下	10.74m2以上12.56m2以下	3.96m3を超え 4.23m3以下	13.33m2以上15.93m2以下
	12.56m2を超え14.36m2以下		15.93m2を超え18.51m2以下
	14.36m2を超え16.18m2以下		18.51m2を超え21.11m2以下
2.80m3を超え 3.00m3以下	11.12m2以上13.04m2以下	4.23m3を超え 4.53m3以下	13.87m2以上16.61m2以下
	13.04m2を超え14.96m2以下		16.61m2を超え19.35m2以下
	14.96m2を超え16.88m2以下		19.35m2を超え22.09m2以下
3.00m3を超え 3.22m3以下	11.51m2以上13.53m2以下	4.53m3を超え 4.84m3以下	14.45m2以上17.37m2以下
	13.53m2を超え15.55m2以下		17.37m2を超え20.27m2以下
	15.55m2を超え17.57m2以下		20.27m2を超え23.19m2以下
3.22m3を超え 3.45m3以下	11.94m2以上14.10m2以下		
	14.10m2を超え16.24m2以下		
	16.24m2を超え18.40m2以下		

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 消波根固めブロック製作 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K2	-	
	K3	-	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	-	
材料	Z1	生コンクリート 高炉 21－8－25(20) W/C 55%	
	Z2	鋼製型枠 異形ブロック 30t未満	賃料
	Z3	練炭 高4号	給熱養生の場合
	Z4	-	
市場単価	S	-	

3-2 消波根固めブロック横取り

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 消波根固めブロック横取り積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固めブロック規格	クレーン機種
2.5 t 以下	(表3.8)
2.5 t を超え 5.5 t 以下	
5.5 t を超え 11.0 t 以下	

(注) 1. 上表は、消波根固めブロックの横取り、ワイヤーロープ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

2. クレーンによるブロックの移動距離 50m 未満の範囲とする。

表3.8 クレーン機種

積算条件	区分
クレーン機種	ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊
	ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 35 t 吊
	ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 45 t 吊
	ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.9 消波根固めブロック横取り 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50 t 吊	賃料
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	普通作業員	
	R 4		
材料	Z 1	-	
	Z 2	-	
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-3 消波根固めブロック積込み

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.10 消波根固めブロック積込み積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固めブロック規格	クレーン機種
2.5 t 以下	(表 3.8)
2.5 t を超え 5.5 t 以下	
5.5 t を超え 11.0 t 以下	

(注) 上表は、消波根固めブロックの積込み、ワイヤーロープ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 消波根固めブロック積込み 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50 t 吊	賃料
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	普通作業員	
	R 4		
材料	Z 1	-	
	Z 2	-	
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-4 消波根固めブロック荷卸

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 消波根固めブロック荷卸積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固めブロック規格	クレーン機種
2.5 t 以下	(表 3.8)
2.5 t を超え 5.5 t 以下	
5.5 t を超え 11.0 t 以下	

(注) 上表は、消波根固めブロックの荷卸、ワイヤーロープ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 消波根固めブロック荷卸 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50 t 吊	賃料
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	普通作業員	
	R 4		
材料	Z 1	-	
	Z 2	-	
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-5 消波根固めブロック据付け

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.14 消波根固めブロック据付け 積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固めブロック規格	据付場所	消波根固めブロック 10 個当り連結金具 設置数量	据付方法	クレーン 機種
2.5 t 以下	陸上	実数入力	乱積	(表 3.8)
			層積	
	水中		乱積	
			層積	
2.5 t を超え 5.5 t 以下	陸上		乱積	
			層積	
	水中		乱積	
			層積	
5.5 t を超え 11.0 t 以下	陸上		乱積	
			層積	
	水中		乱積	
			層積	

- (注) 1. 上表は、消波根固めブロックの据付けの他、連結金具、ワイヤーロープ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。
2. 据付け(水中)とは、据付作業の内、玉外し作業又はブロックの据付位置の確認作業を水中で行う場合に適用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は,当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.15 消波根固めブロック据付け 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45 t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50 t 吊	賃料
	K 2	-	
	K 3	-	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
		潜水連絡員	据付場所が「水中」の場合
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	潜水土	据付場所が「水中」の場合
材料	Z 1	連結金具(根固めブロック用) $\phi 16\text{mm}$	
	Z 2	-	
	Z 3	-	
	Z 4	-	
市場単価	S	-	

3-6 消波根固めブロック運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.16 消波根固めブロック運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：個)

消波根固め ブロック規格	作業区分	トラック1台当り ブロック積載個数	トラック1台当り 運搬距離
2.5t以下	積込み・荷卸	(表3.12)	(表3.13)
	積込み・据付け(乱積)		
	積込み・据付け(層積)		
2.5tを超え5.5t以下	積込み・荷卸		
	積込み・据付け(乱積)		
	積込み・据付け(層積)		
5.5tを超え11.0t以下	積込み・荷卸		
	積込み・据付け(乱積)		
	積込み・据付け(層積)		

(注) 上表は、消波根固めブロックの仮置き時又は据付け時の運搬、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

表3.17 トラック1台当りブロック積載個数(n)

積算条件	2.5t以下	2.5tを超え5.5t以下	5.5tを超え11.0t以下
トラック1台当り ブロック積載個数	1個	1個	1個
	2個		
	3個		
	4個		
	5個	2個	2個
	6個		
	7個		
	8個	3個	
	9個		
	10個		
	11個以上15個以下	4個	
	15個を超え23個以下		

(注) トラック1台当りブロック積載個数(n)はブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は下記による。

$$n = X / W \text{ (小数以下切り捨て)}$$

X : トラック等の積載質量 (t)

W : ブロック1個当りの質量(実質量) (〃)

表3.18 トラック1台当り運搬距離

積算条件	区分
トラック1台当り 運搬距離	0.5km以下
	1.0km以下
	1.5km以下
	2.0km以下
	2.5km以下
	3.0km以下
	3.5km以下
	4.0km以下
	4.5km以下
	5.0km以下
	5.5km以下
	6.0km以下
	6.5km以下
	7.0km以下
	7.5km以下
	8.5km以下
	9.5km以下
	10.5km以下
	11.5km以下
	12.5km以下
	14.0km以下
	15.0km以下

- (注) 1. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
 2. 片道運搬距離が15kmを超える場合は、別途考慮すること。

(2) 代表機労材規格

次表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.19 消波根固めブロック運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	トラック [普通] 11t 積	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手 (一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 消波根固めブロック製作

パッケージコード		CB310010		施 工 単 位			個
施工区分	入 力 条 件						
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	消波根固めブロック規格	型 枠 の 種 類	生コンクリート規格	1個当りコンクリート体積 (m^3 ／個)	1個当り型枠面積 (m^2 ／個)	養 生 工 の 種 別	クレーンの賃料補正係数
	(表 4.1)	(表 4.2)	(表 4.3)	(表 4.4) (表 4.5) (表 4.6)	(表 4.4) (表 4.5) (表 4.6)	①一般 ②給熱	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合, J 4 条件は表 4. 4 の 1 ～ ⑦以外選択出来ない。
J 1 条件で②を選択した場合, J 4 条件は表 4. 5 の 1 ～ ⑤以外選択出来ない。
J 1 条件で③を選択した場合, J 4 条件は表 4. 6 の 1 ～ ③以外選択出来ない。
2. J 3 条件で②を選択した場合は, 1 m³当り単価を生コンクリート各種 (Y-0210000) に単価登録すること。
3. 本コードは, コンクリートの材料ロスを含んでいるため, J 4 条件は, ロス率を含まない数量を選択すること。
4. 本コードには型枠賃料を含んでいるが, J 2 条件で②を選択した場合は, 必要に応じて所定の特許等実施料を別途計上すること。
5. 鉄筋 (連結用フックを含む) を使用する場合は, 「第Ⅵ編第2章①ー1鉄筋工」により別途計上すること。
6. クレーン賃料補正 (夜間補正) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
7. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る
8. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表 4. 1 消波根固めブロック規格

ブロック実質量	入力番号
2.5 t 以下	①
2.5 t を超え5.5 t 以下	②
5.5 t を超え11.0 t 以下	③

表 4. 2 型枠の種類

賃 料 表 の 名 称		入力番号
異形ブロック 30 t 未満のもの	鋼製型枠・FRP 製型枠	①
	直積ブロック用 鋼製型枠	②

表4.3 生コンクリート規格

種 別	入力番号	種 別	入力番号	種 別	入力番号
18-5-40 (普通)	①	21-8-40 (普通)	⑧	21-5-40 (高炉)	⑮
18-8-25(20) (普通)	②	21-12-25(20) (普通)	⑨	21-8-25(20) (高炉)	⑯
18-8-40 (普通)	③	21-12-40 (普通)	⑩	21-8-40 (高炉)	⑰
18-12-25(20) (普通)	④	18-5-40 (高炉)	⑪	24-8-25(20) (高炉)	⑱
18-12-40 (普通)	⑤	18-8-40 (高炉)	⑫	27-5-40 (高炉)	⑲
19.5-8-40 (普通)	⑥	19.5-5-40 (高炉)	⑬	Y-0210000 (各種)	⑳
21-8-25(20) (普通)	⑦	19.5-8-40 (高炉)	⑭		

表4.4 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分

[消波根固めブロック規格:2.5t 以下]

1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	入力 番号	1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	入力 番号
0.17m3 以上 0.23m3 以下	2.00m2 以上 2.20m2 以下	①	0.57m3 を超え 0.64m3 以下	3.50m2 以上 3.96m2 以下	⑳
	2.20m2 を超え 2.40m2 以下	②		3.96m2 を超え 4.42m2 以下	㉑
	2.40m2 を超え 2.60m2 以下	③		4.42m2 を超え 4.88m2 以下	㉒
	2.60m2 を超え 2.80m2 以下	④		4.88m2 を超え 5.34m2 以下	㉓
	2.80m2 を超え 3.00m2 以下	⑤		5.34m2 を超え 5.80m2 以下	㉔
0.23m3 を超え 0.28m3 以下	2.20m2 以上 2.43m2 以下	⑥	0.64m3 を超え 0.71m3 以下	3.75m2 以上 4.27m2 以下	㉕
	2.43m2 を超え 2.66m2 以下	⑦		4.27m2 を超え 4.78m2 以下	㉖
	2.66m2 を超え 2.89m2 以下	⑧		4.78m2 を超え 5.29m2 以下	㉗
	2.89m2 を超え 3.12m2 以下	⑨		5.29m2 を超え 5.8m2 以下	㉘
	3.12m2 を超え 3.35m2 以下	⑩		5.8m2 を超え 6.31m2 以下	㉙
0.28m3 を超え 0.33m3 以下	2.37m2 以上 2.64m2 以下	⑪	0.71m3 を超え 0.79m3 以下	4.06m2 以上 4.62m2 以下	㉚
	2.64m2 を超え 2.91m2 以下	⑫		4.62m2 を超え 5.18m2 以下	㉛
	2.91m2 を超え 3.18m2 以下	⑬		5.18m2 を超え 5.74m2 以下	㉜
	3.18m2 を超え 3.45m2 以下	⑭		5.74m2 を超え 6.30m2 以下	㉝
	3.45m2 を超え 3.72m2 以下	⑮		6.30m2 を超え 6.86m2 以下	㉞
0.33m3 を超え 0.39m3 以下	2.59m2 以上 2.90m2 以下	⑯	0.79m3 を超え 0.86m3 以下	4.28m2 以上 4.90m2 以下	㉟
	2.90m2 を超え 3.21m2 以下	⑰		4.90m2 を超え 5.52m2 以下	㊱
	3.21m2 を超え 3.52m2 以下	⑱		5.52m2 を超え 6.14m2 以下	㊲
	3.52m2 を超え 3.83m2 以下	⑲		6.14m2 を超え 6.76m2 以下	㊳
	3.83m2 を超え 4.14m2 以下	⑳		6.76m2 を超え 7.38m2 以下	㊴
0.39m3 を超え 0.45m3 以下	2.81m2 以上 3.16m2 以下	㉑	0.86m3 を超え 0.94m3 以下	4.58m2 以上 5.26m2 以下	㊵
	3.16m2 を超え 3.51m2 以下	㉒		5.26m2 を超え 5.93m2 以下	㊶
	3.51m2 を超え 3.86m2 以下	㉓		5.93m2 を超え 6.60m2 以下	㊷
	3.86m2 を超え 4.21m2 以下	㉔		6.60m2 を超え 7.27m2 以下	㊸
	4.21m2 を超え 4.56m2 以下	㉕		7.27m2 を超え 7.94m2 以下	㊹
0.45m3 を超え 0.51m3 以下	3.04m2 以上 3.43m2 以下	㉖	0.94m3 を超え 1.04m3 以下	4.92m2 以上 5.66m2 以下	㊺
	3.43m2 を超え 3.82m2 以下	㉗		5.66m2 を超え 6.39m2 以下	㊻
	3.82m2 を超え 4.21m2 以下	㉘		6.39m2 を超え 7.12m2 以下	㊼
	4.21m2 を超え 4.60m2 以下	㉙		7.12m2 を超え 7.85m2 以下	㊽
	4.60m2 を超え 4.99m2 以下	㉚		7.85m2 を超え 8.58m2 以下	㊾
0.51m3 を超え 0.57m3 以下	3.25m2 以上 3.69m2 以下	㉛	1.04m3 を超え 1.13m3 以下	5.25m2 以上 6.05m2 以下	㊿
	3.69m2 を超え 4.12m2 以下	㉜		6.05m2 を超え 6.84m2 以下	㊱
	4.12m2 を超え 4.55m2 以下	㉝		6.84m2 を超え 7.63m2 以下	㊲
	4.55m2 を超え 4.98m2 以下	㉞		7.63m2 を超え 8.42m2 以下	㊳
	4.98m2 を超え 5.41m2 以下	㉟		8.42m2 を超え 9.21m2 以下	㊴

表4.5 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分
[消波根固めブロック規格:2.5tを超え 5.5t 以下]

1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	入力 番号	1 個当り コンクリート 体積(m3)	1 個当り型枠面積(m2)	入力 番号
1.05m3 以上 1.15m3 以下	5.14m2 以上 5.94m2 以下	①	1.73m3 を超え 1.87m3 以下	6.61m2 以上 7.81m2 以下	③①
	5.94m2 を超え 6.73m2 以下	②		7.81m2 を超え 9.00m2 以下	③②
	6.73m2 を超え 7.52m2 以下	③		9.00m2 を超え 10.19m2 以下	③③
	7.52m2 を超え 8.31m2 以下	④		10.19m2 を超え 11.38m2 以下	③④
	8.31m2 を超え 9.10m2 以下	⑤		11.38m2 を超え 12.57m2 以下	③⑤
1.15m3 を超え 1.25m3 以下	5.35m2 以上 6.21m2 以下	⑥	1.87m3 を超え 2.01m3 以下	6.91m2 以上 8.19m2 以下	③⑥
	6.21m2 を超え 7.06m2 以下	⑦		8.19m2 を超え 9.46m2 以下	③⑦
	7.06m2 を超え 7.91m2 以下	⑧		9.46m2 を超え 10.73m2 以下	③⑧
	7.91m2 を超え 8.76m2 以下	⑨		10.73m2 を超え 12.00m2 以下	③⑨
	8.76m2 を超え 9.61m2 以下	⑩		12.00m2 を超え 13.27m2 以下	③⑩
1.25m3 を超え 1.37m3 以下	5.58m2 以上 6.50m2 以下	⑪	2.01m3 を超え 2.17m3 以下	7.24m2 以上 8.60m2 以下	④①
	6.50m2 を超え 7.41m2 以下	⑫		8.60m2 を超え 9.95m2 以下	④②
	7.41m2 を超え 8.32m2 以下	⑬		9.95m2 を超え 11.3m2 以下	④③
	8.32m2 を超え 9.23m2 以下	⑭		11.3m2 を超え 12.65m2 以下	④④
	9.23m2 を超え 10.14m2 以下	⑮		12.65m2 を超え 14.00m2 以下	④⑤
1.37m3 を超え 1.48m3 以下	5.87m2 以上 6.83m2 以下	⑯	2.17m3 を超え 2.33m3 以下	7.53m2 以上 8.99m2 以下	④⑥
	6.83m2 を超え 7.80m2 以下	⑰		8.99m2 を超え 10.45m2 以下	④⑦
	7.80m2 を超え 8.77m2 以下	⑱		10.45m2 を超え 11.91m2 以下	④⑧
	8.77m2 を超え 9.74m2 以下	⑲		11.91m2 を超え 13.37m2 以下	④⑨
	9.74m2 を超え 10.71m2 以下	⑳		13.37m2 を超え 14.83m2 以下	④⑩
1.48m3 を超え 1.61m3 以下	6.04m2 以上 7.08m2 以下	㉑	2.33m3 を超え 2.51m3 以下	7.95m2 以上 9.49m2 以下	⑤①
	7.08m2 を超え 8.12m2 以下	㉒		9.49m2 を超え 11.02m2 以下	⑤②
	8.12m2 を超え 9.16m2 以下	㉓		11.02m2 を超え 12.55m2 以下	⑤③
	9.16m2 を超え 10.2m2 以下	㉔		12.55m2 を超え 14.08m2 以下	⑤④
	10.2m2 を超え 11.24m2 以下	㉕		14.08m2 を超え 15.61m2 以下	⑤⑤
1.61m3 を超え 1.73m3 以下	6.34m2 以上 7.46m2 以下	㉖			
	7.46m2 を超え 8.58m2 以下	㉗			
	8.58m2 を超え 9.70m2 以下	㉘			
	9.70m2 を超え 10.82m2 以下	㉙			
	10.82m2 を超え 11.94m2 以下	㉚			

表4.6 1個当りコンクリート体積－1個当り型枠面積の区分
[消波根固めブロック規格:5.5tを超え 11.0t 以下]

1個当り コンクリート 体積(m3)	1個当り型枠面積(m2)	入力 番号	1個当り コンクリート 体積(m3)	1個当り型枠面積(m2)	入力 番号
2.20m3 以上 2.40m3 以下	10.01m2 以上 11.59m2 以下	①	3.45m3 を超え 3.70m3 以下	12.23m2 以上 14.51m2 以下	⑲
	11.59m2 を超え 13.15m2 以下	②		14.51m2 を超え 16.79m2 以下	⑳
	13.15m2 を超え 14.73m2 以下	③		16.79m2 を超え 19.07m2 以下	㉑
2.40m3 を超え 2.60m3 以下	10.38m2 以上 12.08m2 以下	④	3.70m3 を超え 3.96m3 以下	12.86m2 以上 15.28m2 以下	㉒
	12.08m2 を超え 13.76m2 以下	⑤		15.28m2 を超え 17.70m2 以下	㉓
	13.76m2 を超え 15.46m2 以下	⑥		17.70m2 を超え 20.12m2 以下	㉔
2.60m3 を超え 2.80m3 以下	10.74m2 以上 12.56m2 以下	⑦	3.96m3 を超え 4.23m3 以下	13.33m2 以上 15.93m2 以下	㉕
	12.56m2 を超え 14.36m2 以下	⑧		15.93m2 を超え 18.51m2 以下	㉖
	14.36m2 を超え 16.18m2 以下	⑨		18.51m2 を超え 21.11m2 以下	㉗
2.80m3 を超え 3.00m3 以下	11.12m2 以上 13.04m2 以下	⑩	4.23m3 を超え 4.53m3 以下	13.87m2 以上 16.61m2 以下	㉘
	13.04m2 を超え 14.96m2 以下	⑪		16.61m2 を超え 19.35m2 以下	㉙
	14.96m2 を超え 16.88m2 以下	⑫		19.35m2 を超え 22.09m2 以下	㉚
3.00m3 を超え 3.22m3 以下	11.51m2 以上 13.53m2 以下	⑬	4.53m3 を超え 4.84m3 以下	14.45m2 以上 17.37m2 以下	㉛
	13.53m2 を超え 15.55m2 以下	⑭		17.37m2 を超え 20.27m2 以下	㉜
	15.55m2 を超え 17.57m2 以下	⑮		20.27m2 を超え 23.19m2 以下	㉝
3.22m3 を超え 3.45m3 以下	11.94m2 以上 14.10m2 以下	⑯			
	14.10m2 を超え 16.24m2 以下	⑰			
	16.24m2 を超え 18.40m2 以下	⑱			

(2) 消波根固めブロック横取り

パッケージコード	CB310100	施 工 単 位	個
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	消波根固め ブロック規格 (表 4.1)	クレーン機種 (表 4.7)	クレーンの賃料 補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. クレーン賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表4.7 クレーン機種

機 種	入力番号
ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)25 t 吊	①
〃 35 t 吊	②
〃 45 t 吊	③
〃 50 t 吊	④

(3) 消波根固めブロック積込み

パッケージコード	CB310180	施 工 単 位	個
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	消波根固め ブロック規格 (表 4.1)	クレーン機種 (表 4.7)	クレーンの賃料 補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. クレーン賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(4) 消波根固めブロック荷卸

パッケージコード	CB310190	施 工 単 位	個
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	消波根固め ブロック規格 (表 4.1)	クレーン機種 (表 4.7)	クレーンの賃料 補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. クレーン賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(5) 消波根固めブロック据付け

パッケージコード		CB310070		施 工 単 位		個							
施工区分		入 力 条 件											
J 1		J 2		J 3		J 4		J 5		J 6			
各	種	消波根固めブロック規格		据 付 場 所		消波根固めブロック10個当り 連結金具設置数量		据 付 方 法		クレーン機種		クレーンの賃料補正係数	
		(表 4.1)		①陸上 ②水中		(実数 入力) 金額 補正		①乱積 ②層積		(表 4.7)		①標準 ②標準 以外 (実数 入力)	

- (注) 1. 連結金具1個当り単価を連結金具各種(Y-0551001)に単価登録すること。
 2. J 3 条件で連結金具を設置しない場合は,0 を入力すること。
 3. クレーン賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。
 4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 5. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(6) 消波根固めブロック運搬

パッケージコード	CB310040	施 工 単 位	個	
施 工 区 分	入	力	条	件
	J 1	J 2	J 3	J 4
各 種	消波根固めブロック規格 (表4.1)	作業区分 ①積込・荷卸 ②積込・据付 (乱積) ③積込・据付 (層積)	ブロック積載個数 トラック1台当り (表4.8)	運搬距離 トラック1台当り (表4.9)

- (注) 1. 本コードは、運搬距離が50m以上で、トラック等による運搬を行う場合に適用する。
 2. J 1 条件で②を選択した場合は、J 3 条件の⑤～⑫は選択出来ない。
 3. J 1 条件で③を選択した場合は、J 3 条件の③～⑫は選択出来ない。

表4.8 トラック1台当りブロック積載個数

積 載 個 数(個)	1個	2個	3個	4個	5個
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤
積 載 個 数(個)	6個	7個	8個	9個	10個
入 力 番 号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
積 載 個 数(個)	11個以上15個以下	15個超え23個以下			
入 力 番 号	⑪	⑫			

表4.9 トラック1台当り運搬距離

運 搬 距 離(km)	0.5km以下	1.0km以下	1.5km以下	2.0km以下	2.5km以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤
運 搬 距 離(km)	3.0km以下	3.5km以下	4.0km以下	4.5km以下	5.0km以下
入 力 番 号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運 搬 距 離(km)	5.5km以下	6.0km以下	6.5km以下	7.0km以下	7.5km以下
入 力 番 号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運 搬 距 離(km)	8.5km以下	9.5km以下	10.5km以下	11.5km以下	12.5km以下
入 力 番 号	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
運 搬 距 離(km)	14.0km以下	15.0km以下			
入 力 番 号	㉑	㉒			

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる場合は平均値とする。

①ー2 消波根固めブロック工(ブロック撤去工)(0.25t以上 35.5t以下)

1. 適用範囲

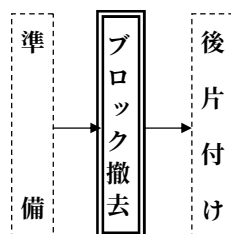
本資料は、根固め工における陸上からの根固めブロック撤去に適用する。

1-1 適用出来る範囲

- (1) ブロック質量が0.25t以上35.5t以下(実質量とする)の場合
- (2) 撤去・仮置きの場合(撤去したブロックを直接河川敷等のヤードに仮置きする場合)
- (3) 撤去・据付けの場合(既設ブロック又は仮設的に設置されたブロックを仮置きせずに据え直す場合)
- (4) 撤去・積込みの場合(撤去したブロックを直接トレーラ等に積込む場合)

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 撤去は連結金具の撤去の有無にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 根固めブロック撤去

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 根固めブロック撤去 積算条件区分一覧

(積算単位：個)

作業区分	ブロック質量	堆砂の有無	クレーン機種
撤去・仮置き	0.25 t 以上 6.5 t 以下	無し	(表 3.2)
		有り	
	6.5 t を超え 12.5 t 以下	無し	
		有り	
	12.5 t を超え 35.5 t 以下	無し	
		有り	
撤去・据付け(乱積)	0.25 t 以上 6.5 t 以下	無し	
		有り	
	6.5 t を超え 12.5 t 以下	無し	
		有り	
	12.5 t を超え 35.5 t 以下	無し	
		有り	
撤去・据付け(層積)	0.25 t 以上 6.5 t 以下	無し	
		有り	
	6.5 t を超え 12.5 t 以下	無し	
		有り	
	12.5 t を超え 35.5 t 以下	無し	
		有り	
撤去・積込み	0.25 t 以上 6.5 t 以下	無し	
		有り	
	6.5 t を超え 12.5 t 以下	無し	
		有り	
	12.5 t を超え 35.5 t 以下	無し	
		有り	

(注) 1. 「撤去・仮置き」：撤去したブロックを直接河川敷等のヤードに仮置きする場合である。直接トレーラに積込む場合は「撤去・積込み」を適用する。

2. 「撤去・据付け」：既設ブロック又は仮設的に設置されたブロックを仮置きせずに直接据直す(据付ける)場合である。「乱積、層積」の区分は、既存の積形状によらず、新たに据付ける積形状により判断する。

3. 上表は、下記の費用を含む。

(1) 撤去・仮置きの場合

・消波根固めブロックの撤去・仮置きその他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 撤去・据付け(乱積)の場合

・消波根固めブロックの撤去・据付け(乱積)その他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(3) 撤去・据付け(層積)の場合

・消波根固めブロックの撤去・据付け(層積)その他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(4) 撤去・積込みの場合

・消波根固めブロックの撤去・積込みその他、ワイヤーロープ等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

4. 堆砂の有無の「有り」は、根固めブロック上に砂が堆積している場合に適用する。

表3.2 クレーン機種

積算条件	区分
クレーン機種	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 20 t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 35 t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 45 t 吊
	ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 50 t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 35～40 t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 45～50 t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 80 t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 100 t 吊
	クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 150 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 30～35 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 40～45 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 50～55 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 60～65 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 80 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 100 t 吊
	クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 150 t 吊

(2) 代表機材規格

下表機材は、当該施工パッケージで使用されている機材の代表的な規格である。

表3.3 根固めブロック撤去 代表機材規格一覧

項目		代表機材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 20t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 35t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 45t 吊	賃料
		ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 50t 吊	賃料
		クローラクレーン [機械駆動ウインチ・ラチスジブ] 35～40 t 吊	
		クローラクレーン [機械駆動ウインチ・ラチスジブ] 45～50 t 吊	
		クローラクレーン [機械駆動ウインチ・ラチスジブ] 80 t 吊	
		クローラクレーン [機械駆動ウインチ・ラチスジブ] 100 t 吊	
		クローラクレーン [機械駆動ウインチ・ラチスジブ] 150 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 30～35 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 40～45 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 50～55 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 60～65 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 80 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 100 t 吊	
		クローラクレーン [油圧駆動ウインチ・ラチスジブ] 150 t 吊	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	土木一般世話役	
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	運転手(特殊)	クローラクレーン の場合
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	クローラクレーン の場合
	Z2	-	
	Z3	-	
	Z4	-	
市場単価	S	-	

4. 施工単価入力基準表

(1) 根固めブロック撤去

パッケージコード	CB310210	施 工 単 位	個		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	ブロック質量	堆砂の有無	クレーン機種	ラフテレーンクレーンの賃料補正係数
			①無し ②有り		①標準 ②標準以外 (実数入力)
	(表4.1)	(表4.2)		(表4.3)	

- (注) 1. J 4条件で⑥～⑰を選択した場合は、J 5条件は入力する必要はない。
 2. J 5条件で賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
 3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表4.1 作業区分

作業区分	入力番号
撤去・仮置き	①
撤去・据付け(乱積)	②
撤去・据付け(層積)	③
撤去・積込み	④

表4.2 ブロック質量

ブロック質量	入力番号
0.25 t 以上 6.5 t 以下	①
6.5 t を超え 12.5 t 以下	②
12.5 t を超え 35.5 t 以下	③

表4.3 クレーン機種

機 種	入力番号	
ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型)	20 t 吊	①
〃	25 t 吊	②
〃	35 t 吊	③
〃	45 t 吊	④
〃	50 t 吊	⑤
クローラクレーン(機械駆動式ウインチ・ラチスジブ型)	35～40 t 吊	⑥
〃	45～50 t 吊	⑦
〃	80 t 吊	⑧
〃	100 t 吊	⑨
〃	150 t 吊	⑩
クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)	30～35 t 吊	⑪
〃	40～45 t 吊	⑫
〃	50～55 t 吊	⑬
〃	60～65 t 吊	⑭
〃	80 t 吊	⑮
〃	100 t 吊	⑯
〃	150 t 吊	⑰

② 捨 石 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、河川及び海岸工事における護岸の根固めを目的とした、捨石工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 捨石

(1) 捨石質量 1,000kg 以下／個の陸上からの施工を行う場合

1-1-2 表面均し

(1) 施工期間中の平均水位以上の陸上の表面を均す場合

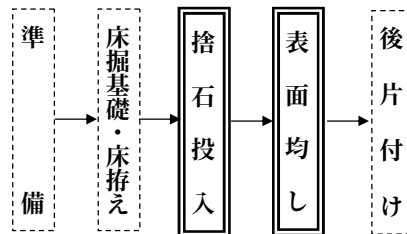
1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 表面均し（水中部）

(1) 潜水土等を用いて水中部の表面を均す場合

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 捨石

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 捨石 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

最大作業半径
9m 以下
9m を超え 24m 以下

- (注) 1. 上表は、捨石の投入の他、ワイヤモック等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。ただし、捨石（材料費）は含まない。
2. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表3.2に示す代表機械により難しい場合は、別途考慮する。
3. 捨石の材料費は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 捨石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	・最大作業半径が 9m を超え 24m 以下の場合 ・賃料
	K2	バックホウ（クローラ型）[標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）] 山積 0.8m3（平積 0.6m3）	
	K3	—	
労務	R1	運転手（特殊）	
	R2	普通作業員	
	R3	特殊作業員	最大作業半径が 9m を超え 24m 以下の場合
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 捨石（材料費）

(1) 条件区分

捨石（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、m3 とする。

(注) 捨石材料の使用量は、設計量に次表のロス率を割増しする。

使用量 (m3) = 設計量 (m3) × (1 + K)

表3.3 ロス率 (K)

ロ ス 率	0.21

- (注) 1. 上表のロス率には、間詰、中詰石の数量を含む。
2. 現場条件（軟弱地盤等）で、上表により難しい場合は、別途考慮する。

3-3 表面均し

(1) 条件区分

表面均しにおける積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. 根固め等のために投入した捨石の表面均し、人力による間詰、中詰石の現場内小運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 捨石規格、作業半径、現場条件により、表3. 4に示す代表機械により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3. 4 表面均し 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.8m^3 （平積 0.6m^3 ）	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手（特殊）	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 捨石

パッケージコード	CB310410	施工単位	m3
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J1	J2	
	最大作業半径	ラフテレーン クレーン 賃料補正係数	
	(表4.1)	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)	

- (注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。
 2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
 3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
 4. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。

表4.1 最大作業半径

最大作業半径	入力番号
9m以下	①
9mを超え24m以下	②

(2) 捨石(材料費)

パッケージコード	CB310411	施工単位	m3

- (注) 捨石(間詰, 中詰石を含む)数量は、材料ロスを含んだ必要量を入力し、捨石単価(Y-1003000) [円/m3]を単価登録すること。

(3) 表面均し

パッケージコード	CB310420	施工単位	m2

- (注) 1. 人力による間詰, 中詰石の現場内小運搬を含む。
 2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

③ 消波工

1. 適用範囲

本資料は、海岸工事における離岸堤、消波堤、突堤等の海上作業における捨石均し工及びブロック 50.0 t 以下（実質量とする）製作・据付工であり作業場所（ブロック積込場所からブロック据付場所までの間）に適用する。

（1）作業可能日数

海上作業における作業可能日数は、近傍の気象・海象（風向、風速、波高、潮位、潮流等）資料並びに作業方法、施工実績等をもとに決定する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

（1）捨石均し工

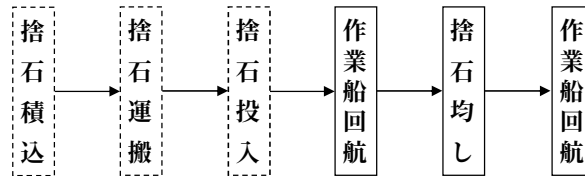


図2-1 施工フロー

（2）ブロック製作・据付工

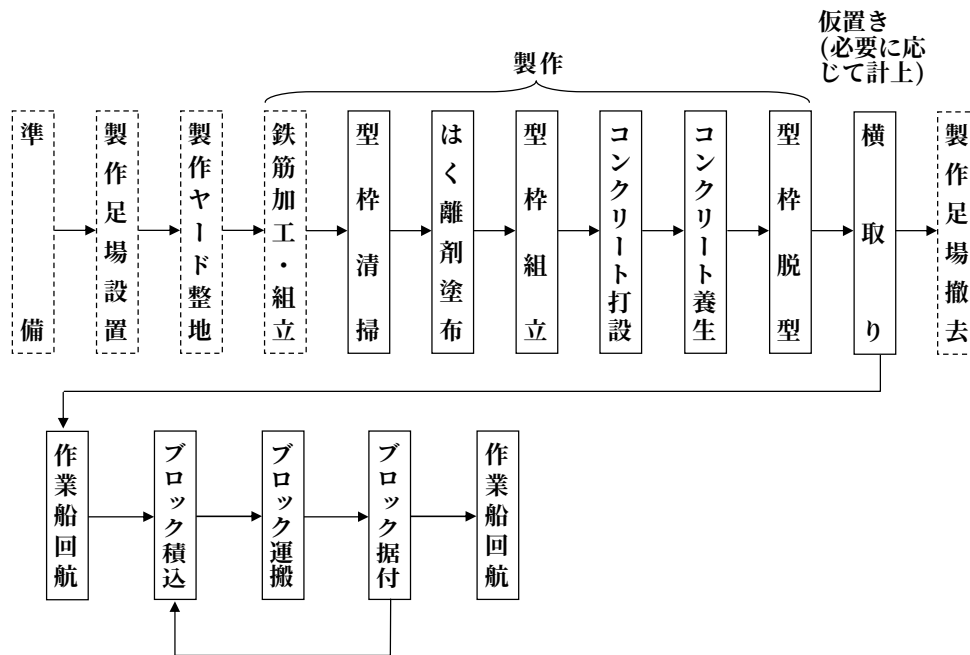


図2-2 施工フロー

- （注）1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. ブロック据付工のブロック製作歩掛のうち、ブロック実質量11.0 t 以下のブロック製作は、「第Ⅲ編 1 章①-1 消波根固めブロック工」を使用する。
 3. 横取りとは、ブロックの移動（型枠脱型場所～製作場所仮置き場又は据付場所仮置き場～据付場所）を目的としたもので、クレーンによるブロックの移動距離50m未満の範囲内の作業をいう。ただし、クレーンの範囲内で、型枠脱型場所から直接製作場所仮置き場へ現場内小運搬を行うことが可能な場合は「型枠脱型」として取扱う。

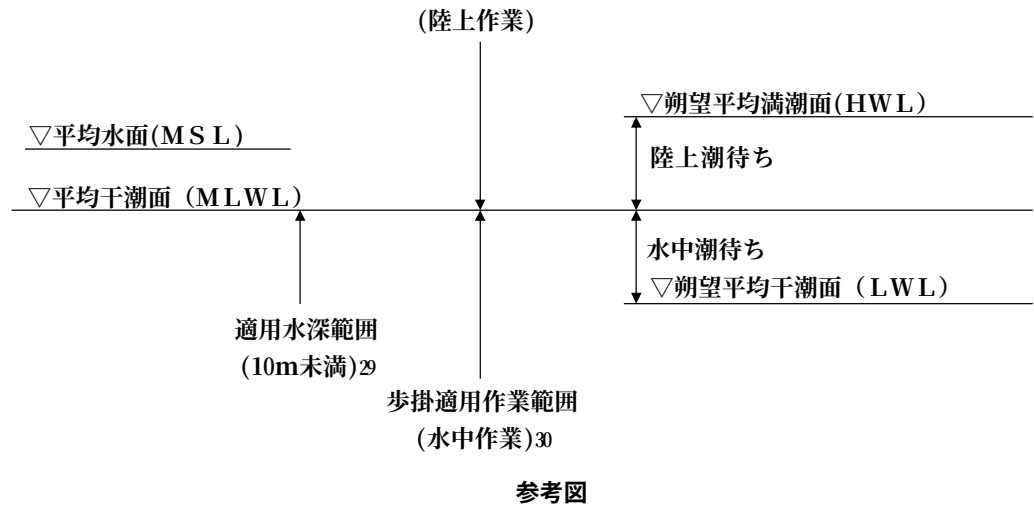
3. 捨石均し工

捨石均しは、平均干潮面（M. L. W. L）から水深 10m未満の水中作業に適用する。

なお、均しの定義は次による。

- (1) 本 均 し：ケーソン等を載せる面の均し。
- (2) 荒 均 し：基礎捨石の表面の均し。
- (3) 被覆均し：被覆石（基礎マウンドの基礎捨石の表面を保護するための石）の表面の均し。

3－1 水中と陸上との施工区分



平均干潮面（MLWL）が設定されていないところでは、（平均水面（MS L）＋朔望平均干潮面（LWL））／2とする。

3－2 作業船

使用する作業船は自航潜水土船とし、次表を標準とする。

表3.1 自航潜水土船の規格

名 称	規 格
自 航 潜 水 土 船	D 180PS型 3～5t吊 4.9GT

(注) 上表により難い場合は、別途考慮する。

3－3 編成人員

自航潜水土船の編成人員は、次表を標準とする。

表3.2 編成人員 (人)

高 級 船 員	潜 水 士	潜 水 連 絡 員
1	1	1

(注) 高級船員は、潜水送気員を兼務する。

3－4 日当り施工量

- (1) 日当り施工量（Q₁）

日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.3 日当り施工量 (Q₁) (m²／日)

区 分	本 均 し	荒 均 し		被 覆 均 し	
均し精度	±5cm	±30cm	±50cm	±30cm	±50cm
均し面積	14	27	39	20	26

3-5 材料の使用数量

岩石等及び砂利の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量} \times (1 + K)$$

K：ロス率

表3.4 ロス率(K)

材 料 名	岩 石 等	砂 利
ロ ス 率	+0.10	+0.15

(注) 海底地盤や潮流等の現場条件により、これにより難しい場合は別途考慮する。

4. ブロック製作・据付工

4-1 施工方法

ブロック積み・運搬・据付け方法は、次表を標準とする。

表4.1 据付方法

作 業 船 の 組 合 せ	備 考
クレーン付台船 又は非航起重機船 引 船 自航潜水士船	クレーン付台船又は非航起重機船で積み込み・運搬・据付の全てを1編成当り1隻で行うものをいう。

(注) 自航潜水士船は、水中設置の場合に計上する。

水中設置とは、ブロックの一部が平均干潮面以下にある場合をいう。

∇ MSL (平均水面)

∇ MLWL (平均干潮面)

∇ LWL (朔望平均干潮面)

なお、平均干潮面 (MLWL) の設定されていないところでは、平均水面 (MSL) と朔望平均干潮面 (LWL) との1/2とする。

4-2 機種の選定

4-2-1 製作・横取り機械の選定

ブロック製作から横取りまでに使用するクレーンの機械・規格は、次表を標準とする。

表4.2 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第1次基準値) 25t 吊	台	1	型枠工に使用
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 100t 吊	//	1	コンクリート工、横取りに使用

(注) 1. ブロック実質量, 作業半径, 地盤等, 現場条件により上記により難しい場合は、別途考慮する。
2. ラフテレーンクレーン, クローラクレーンは、賃料とする。

4-2-2 作業船の選定

ブロック積込、運搬、据付に使用する作業船の機械・規格は、次表を標準とする。

表4.3 クレーン付台船・非航起重機船と引船の選定

機 械 名	規 格		単位	数量								摘 要
				ブロック実質量								
	吊 能 力	積 載 質 量		4.5t 以下	4.5t を超え 7.5t 以下	7.5t を超え 12.5t 以下	12.5t を超え 22.0t 以下	22.0t を超え 31.0t 以下	31.0t を超え 37.5t 以下	37.5t を超え 50.0t 以下		
クレーン付台船	45～50t	500t	台	1								
	80t	700t	〃		1							
	100t	1,000t	〃			1						
非航起重機船	100t	1,000t	〃				1	1				
	120t	1,000t	〃						1			
	150t	1,000t	〃							1		
引 船	鋼製 D450PS 型 35GT		〃	1	1							
	鋼製 D600PS 型 50GT		〃				1	1				
	鋼製 D700PS 型 60GT		〃			1			1	1		

(注) 現場条件により、上記により難しい場合は、別途考慮する。

4-3 自航潜水土船の規格

自航潜水土船の規格は、次表を標準とする。

表4.4 自航潜水土船の規格

名 称	規 格
自 航 潜 水 土 船	D 180PS型 3～5t吊 4.9GT

4-4 製作

4-4-1 鉄筋工

鉄筋工は、鉄筋(連結用フック含む)の加工・組立費用及び材料費であり、「第IV編第2章①-1鉄筋工(太径鉄筋含む)」により別途計上する。

4-4-2 型枠工

(1) 型枠の賃料

型枠の賃料は、別途計上する。

(2) 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛

型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表4.5 型枠の組立・脱型及び型枠清掃、はく離剤塗布歩掛 (100m²当り)

名 称	規 格	単位	ブロック実質量	
			11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
土木一般世話役		人	0.3	0.2
特 殊 作 業 員		〃	0.5	0.5
普 通 作 業 員		〃	1.5	1.5
ラフテレーン クレーン運転	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型(第1次基準値) 25t 吊	日	0.4	0.4

(注) 鋼製及び FRP 製型枠使用を標準とし、木製型枠使用の場合は、別途考慮する。

4-4-3 コンクリート工

(1) コンクリート投入打設方法

コンクリート投入打設方法は、クレーン打設を標準とする。

(2) コンクリート投入打設歩掛

コンクリート投入打設歩掛及びクレーンの運転時間は、次表を標準とする。

表4.6 コンクリート投入打設歩掛 (100m³当り)

名 称	規 格	単位	ブロック実質量	
			11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
土木一般世話役		人	0.9	0.7
特 殊 作 業 員		〃	1.8	1.5
普 通 作 業 員		〃	2.5	2.1
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 運 転	油圧駆動ウインチ・ラチスジブ型 100t 吊	日	1.2	0.8

(注) 現場条件等で上表により難しい場合は、別途考慮する。

(3) 養生工

養生工の歩掛は、次表を標準とする。なお、給熱養生の場合は別途考慮する。

表4.7 一般養生工歩掛 (100m³当り)

名 称	単位	ブロック実質量	
		11.0t を超え 25.0t 以下	25.0t を超え 50.0t 以下
普通作業員	人	1.0	0.6

(注) 本歩掛では、むしろ、シート掛け、養生剤程度のものを使用する。

(4) 材料の使用量

材料の使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計量} \times (1 + K)$$

K：ロス率

表4.8 ロス率

材 料	ロ ス 率
コ ン ク リ ー ト	+0.01

(注) 現場練りコンクリートを使用する場合も、上表のロス率を用いてもよい。

4-4-4 諸雑費

諸雑費は、型枠はく離剤、インパクトレンチ損料、コンクリートバケット、パイプレータ、養生シート及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.9 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	3

(注) 一般養生を行わない場合も適用出来る。

4-5 横取り

4-5-1 横取り歩掛

(1) 日当り施工量 (Q_{cl})

ブロックの横取りの作業に関する日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.10 日当り施工歩掛量 (Q_{cl}) (個/日)

ブロック実質量	11.0t を超え25.0t以下	25.0t を超え50.0t以下
横 取 り	40	39

(2) 編成人員

横取りのクレーン1台当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.11 クレーン1台当り編成人員 (人/台)

土 木 一 般 世 話 役	特 殊 作 業 員	普 通 作 業 員
1	1	1

(注) 現場条件等で上表により難しい場合は、別途考慮する。

4-5-2 諸雑費

諸雑費は、ブロックの横取り作業に必要なワイヤーロープの損料等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.12 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	0.6

4-6 積込・据付

4-6-1 編成人員

(1) 積込・据付作業

ブロックの積込・据付作業の編成人員は、次表を標準とする。

表4.13 編成人員 (人)

土 木 一 般 世 話 役	特 殊 作 業 員	運 転 手 (特 殊)	普 通 作 業 員
1	1	1	1

4-6-2 作業船の編成人員

各作業船の編成人員は、次表を標準とする。

表4.14 クレーン付台船及び非航起重機船 編成人員 (人)

高 級 船 員	普 通 船 員
1	2

表4.15 引船 編成人員 (人)

高 級 船 員
2

表4.16 自航潜水士船 編成人員 (人)

高 級 船 員	潜 水 士	潜 水 連 絡 員
1	1	1

(注) 高級船員は、潜水送気員を兼務する。

4-6-3 施工歩掛

ブロック積込、運搬、据付にかかる日当り施工個数は、次表を標準とする。

表4.17 日当り施工個数 (Q₂)

(個/日)

ブロック実質量(t) 片道運搬距離(km)	4.5t以下	4.5tを超え 7.5t以下	7.5tを超え 12.5t以下	12.5tを超え 22.0t以下	22.0tを超え 31.0t以下	31.0tを超え 37.5t以下	37.5tを超え 50.0t以下
5km以下	39	31	31	28	21	17	16
9km以下	28	23	23	20	15	12	12
12km以下	20	16	16	14	10	9	8
14km以下	15	12	12	11	8	6	6
15km以下	12	9	9	9	6	5	5

(注) 片道運搬距離は、ブロック積込場所からブロック据付場所までとする。

積込みから据付けまでの1日当り施工個数は、次式による。

$$Q_2 = \frac{\text{日当り作業時間} \times 60 - T_1 - T_2}{T_3} \quad (\text{個/日})$$

(注) 1. T₁, T₂, T₃は次のとおりである。

T₁: 作業船の往復運搬時間 (min)

T₂: 作業船の積込場所及び据付場所への接岸、アンカー取付け・取外し時間 (min)

T₃: ブロック1個当り積込・据付時間 (min)

2. 本式は、積込み場所から据付け場所までの片道運搬距離が15kmを超える場合に適用する。

3. 日当り作業時間は8時間を標準とする。

4-6-3-1 運転時間

作業船の運転日当り運転時間は、次表とする。

表4.18 作業船の運転日当り運転時間 (P₁, P₂)

(h/日)

作 業 船 名	運 転 時 間
クレーン付台船 又は非航起重機船	$\frac{T_3 \times N}{60} \times 1$ 日のサイクル数
引 船	$\frac{T_1 + T_2}{60} \times 1$ 日のサイクル数

(注) 1. T₁, T₂, T₃は次のとおりである。

T₁: 作業船の往復運搬時間 (min)

T₂: 作業船の積込場所及び据付場所への接岸、アンカー取付け・取外し時間 (min)

T₃: ブロック1個当り積込・据付時間 (min)

N: 1サイクル当りブロック運搬個数 (個)

2. 1日のサイクル数の算定は、以下による。

1日のサイクル数 = 日当り作業時間 / T_c

1日のサイクル数は整数とし、端数を切り捨てる。

T_c: ブロック運搬1サイクル当り施工時間 (h)

3. クレーン付台船又は非航起重機船、引船の乗組員の日当り作業時間は、T_c × 1日のサイクル数 (整数) により求めた時間とする。

4. 日当り作業時間は8時間が標準であり、1日のサイクル数は1回を標準とする。

4-6-3-2 1サイクル当り施工時間

作業船の組合せによる1サイクル当り施工時間は、次式による。

$$T_c = \frac{T_1 + T_2 + T_3 \times N}{60}$$

T_c : ブロック運搬1サイクル当り施工時間 (h)

T_1 : 作業船の往復運搬時間 (min)

T_2 : 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付け・取外し時間 (min)

T_3 : ブロック1個当り積込・据付時間 (min)

N : 1サイクル当りブロック運搬個数 (個)

(1) 作業船の往復運搬時間 (T_1)

作業船の往復運搬時間は、次式とする。

$$T_1 = \frac{2L \times 60}{5.5}$$

L : 積込場所から据付場所までの片道運搬距離 (km)

作業船の平均速度は 5.5 km/h とする。

(2) 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付・取外し時間 (T_2)

表 4. 19 作業船の積込場所及び据付場所への接岸, アンカー取付・取外し時間
(min/1 サイクル)

作業船の積込場所及び据付場所への接岸 アンカー取付・取外し時間	54

(3) ブロック1個当り積込・据付時間 (T_3)

表 4. 20 ブロック1個当り積込・据付時間 (min/個)

ブロック実質量 (t)	積込・据付時間
4.5 t 以下	8.0
4.5 t を超え 7.5 t 以下	10.0
7.5 t を超え 12.5 t 以下	10.0
12.5 t を超え 22.0 t 以下	11.0
22.0 t を超え 31.0 t 以下	15.0
31.0 t を超え 37.5 t 以下	18.0
37.5 t を超え 50.0 t 以下	19.0

5. 間 接 費

5-1 繋船費(準備費)

繋船費は、作業船の休転中の労務費であり、以下による。なお、共通仮設費における準備費で別途計上する。

- (1) 海象条件不良による休転日……………繋船費対象とする。
- (2) 休日等による休転日……………繋船費対象外とする。
- (3) 運転準備、後片付け期間……………繋船費対象とする。

(4) 休転率

$$(A - B - C) / C$$

A：供用日数(運転準備、後片付け期間を含む)

B：休日等による休転日数

C：海上作業可能日数(休日等に係る日を除く)

(5) 繋船日数

作業日数(全作業量/1日当り作業量)×休転率

(6) 繋船費対象労務員

各船舶の船員を対象とする。

5-2 退避費(準備費)

退避費は、現地作業途中で降雨、波浪等の気象、海象条件により退避する場合の経費で、引船の損料及び燃料費を計上する。なお、共通仮設費における準備費で別途計上する。

この場合、労務費は、繋船費に含まれる。

運行速度は、平均速度5.5km/hとする。

計上日数は、各海岸の実績による(参考値は1箇月当り2～3日程度が多い)。

5-3 交通船費(運搬費)

交通船は、現地の測量、作業中の連絡用として交通船を見込むことが出来る。なお、共通仮設費における準備費で別途計上する。

計上日数=海上作業日数+準備、後片付け日数

5-4 回航又はえい航費(運搬費)

本基準という回航・えい航とは、

- (1) 回 航：航行距離が片道25海里(46km)以上(一平水区域内の回航は除く)航行させる場合。
- (2) えい航：航行距離が片道25海里(46km)未満又は一平水区域内において航行させる場合。

ただし、上記によることが不適当な場合は、条件等を考慮して別途積算することが出来る。

※ 回航又はえい航(運搬費)の内容

回航又はえい航(運搬費)は工事の施工に必要な船舶等を、入手可能であると推定される場所より原則として工事現場までの往復に要する費用とする。

なお、共通仮設費における準備費で別途計上する。

ただし、当該工事に使用後、次の場合は往路の費用のみ計上する。

- ① 当該工事現場付近で使用の見込みがある場合。
- ② 当該工事現場を次期工事のため、基地として利用する場合。

5-4-1 回航

回航費は、次式による。

回航費＝艀装費＋運転費＋検査料

(1) 艀装費

回航される船舶、機械器具等を目的地まで安全に航行するために必要な船体の補強、固縛、防水工事等あるいは回航のための解体・組立に要する費用で、下記により計上する。

艀装費＝被回航船舶等の購入価格×艀装費率

ただし、これにより難い場合は、別途考慮する。

表5.1 艀装費率

被回航船舶等の種類	被えい回航の場合	自力回航の場合
主 作 業 船	0.0025 (0.0020)	0.00030
付 属 作 業 船	0.0015	0.00015
船 舶 附 属 品	0.0010	—

(注) () の艀装費率は、静穏な海域のみを回航する被回航船舶の艀装費率。

(2) 運転費

運転費は、次式による。

運転費＝材料費＋機械損料＋労務費＋上乘費

① 回航用引船

回航用引船は、原則として作業時の引船を使用する。

ただし、海象条件等により、これにより難い場合、別途考慮する。

引船のえい航速度は、5.7km／h、日当り運転時間は「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

② 機械損料

引船の機械損料は「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

被えい航船については、供用日当り損料のみ計上する。

③ 上乘費

被えい航船舶のうち主作業船については、回航中の保安要員として普通船員2名を乗船させることを標準とする。

ただし、保安要員は、船の大きさ、回航距離、経路等により増減することが出来る。

(3) 検査料

日本海事検定協会の検査料金表による。

5-4-2 えい航

えい航費は、次式による。

えい航費＝運転費

(1) 運転費

運転費は、次式による。

運転費＝材料費＋機械損料＋労務費＋上乘費

① えい航用引船

えい航用引船は、原則として作業時の引船を使用する。

ただし、海象条件等により、これにより難い場合、別途考慮する。

引船のえい航速度は、5.7km／h、日当り運転時間は「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

② 機械損料

引船の機械損料は「建設機械等損料算定表」の標準値とする。

被えい航船については、供用日当り損料のみ計上する。

③ 上乘費

被えい航船舶のうち主作業船については、回航中の保安要員として普通船員2名を乗船させることを標準とする。

ただし、保安要員は、船の大きさ、回航距離、経路等により増減することが出来る。

6. 内訳書及び単価表

(1) 捨石材料 1 m³ 当り単価表

		施工歩掛コード			WB310510
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
捨 石		m ³		表 3.4	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 捨石均し 1 m² 当り単価表

		施工歩掛コード			WB310520
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
自 航 潜 水 士 船 運 転	D 180PS型 3～5t吊 4.9GT	日	$\frac{1}{Q_1}$	表3.3 単価表(7)	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) Q₁: 日当り施工量

(3) ブロック (実質量○○t) 製作 10 個当り単価表

		施工歩掛コード			WB310600
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$(表4.5) \times A / 100 \times 10$ + $(表4.6) \times V / 100 \times 10$		
特 殊 作 業 員		〃	$(表4.5) \times A / 100 \times 10$ + $(表4.6) \times V / 100 \times 10$		
普 通 作 業 員		〃	$(表4.5) \times A / 100 \times 10$ + $(表4.6) \times V / 100 \times 10$ + $(表4.7) \times V / 100 \times 10$		
生 コ ン ク リ ー ト		m ³		表4.8	
(鉄 筋)		t			
ラフテレーンクレーン運転	油圧伸縮ジブ型 排出ガス対策型 (第1次基準値) 25t吊	日	$(表4.5) \times A / 100 \times 10$	機械賃料	
クローラクレーン運転	油圧駆動ウインチ・ ラチスジブ型100t吊	〃	$(表4.6) \times V / 100 \times 10$	機械賃料	
型 枠		m ²			
諸 雑 費		式	1	表4.9	
計					

(注) 1. 養生工を給熱養生とする場合は、養生工の普通作業員を除き別途計上する。

2. V: ブロック1個当りコンクリート体積 (m³)3. A: ブロック型枠面積 (m²)

(4) ブロック (実質量○○t) 横取り 10 個当り単価表

		施工歩掛コード			WB310610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土木一般世話役		人	$\frac{10}{Q_{Cl}} \times 1 \times D$	Q_{Cl} : 日当り作業個数(個/日) 表4.10 編成人員: 表4.11 クローラクレーン: 機械賃料	
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{Q_{Cl}} \times 1 \times D$		
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{Q_{Cl}} \times 1 \times D$		
クローラ クレーン運転	油圧駆動ウインチ・ ラチスジブ型100t吊	日	$\frac{10}{Q_{Cl}} \times D$		
諸 雑 費		式	1	表4.12	
計					

(注) D: 横取り作業回数

(5) ブロック積込み・運搬・据付け 10 個当り単価表

		施工歩掛コード			WB310530
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	$\frac{10}{Q_2} \times 1$	表4.13	
特 殊 作 業 員		〃	$\frac{10}{Q_2} \times 1$	〃	
運 転 手 (特 殊)		〃	$\frac{10}{Q_2} \times 1$	〃	
普 通 作 業 員		〃	$\frac{10}{Q_2} \times 1$	〃	
クレーン付台船又は 非航起重機船運転	旋回式	日	$\frac{10}{Q_2}$	表4. 3 単価表(6)又は機-26 機械賃料	
引 船 運 転		〃	$\frac{10}{Q_2}$	表4. 3 機-11	
自航潜水土船運転	D 180PS型 3~5t吊 4.9GT	〃	$\frac{10}{Q_2}$	単価表(7) 水中設置の場合に計上 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) Q_2 : 日当り施工個数 (表4. 17)

(6) クレーン付台船運転1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人	1	表4.14
普 通 船 員		〃	2	〃
燃 料 費	軽油	ℓ	片道運搬距離15km以下 40～50t吊り→108 80t吊り→172 100t吊り→206 片道運搬距離15kmを超える 40～50t吊り→ $22 \times P_1$ 80t吊り→ $35 \times P_1$ 100t吊り→ $42 \times P_1$	
クローラクレーン		供用日	1.88	機械損料
台 船		〃	1.88	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) P_1 : クレーン付台船の運転1日当り運転時間 (表4. 18)

(7) 自航潜水土船運転1日当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人	1	表3.2又は表4.16
潜 水 士		〃	1	〃
潜 水 連 絡 員		〃	1	〃
燃 料 費	軽油	ℓ	捨石均し工→145 ブロック据付工→110	
自 航 潜 水 士 船	D 180PS型 3～5t吊 4.9GT	供用日	1.88	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(8) 繋船費(クレーン付台船又は非航起重機船) 1式内訳書

施工歩掛コード	WB310540

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		(表4.14編成人員)× (5-1(5)繋船日数)
普 通 船 員		〃		〃
計				

(9) 繋船費(引船) 1式内訳書

施工歩掛コード	WB310540

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
高 級 船 員		人		(表4.15編成人員)× (5-1(5)繋船日数)
計				

(10) 繋船費（自航潜水土船）1 式内訳書

施工歩掛コード	WB310540

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人		(表3.2又は表4.16編成人員)× (5-1(5)繋船日数
潜 水 士		//		//
潜 水 連 絡 員		//		//
計				

(11) 退避費（引船）1 日当り単価表

施工歩掛コード	WB310550

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
燃 料 費	重油	ℓ		5-2
引 船		供用日	1.88	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(12) 回航又はえい航運転費（引船）1 日当り単価表

施工歩掛コード	WB310560

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人	2	5-4 表4.15
普 通 船 員		//		5-4
燃 料 費	重油	ℓ		//
引 船	鋼製, ○○PS型	供用日	1.65	5-4 表4.3 機械損料
ク レ ー ン 付 台 船	旋回式	//	1.65	// 表4.3
非 航 起 重 機 船		//	1.65	// 表4.3
諸 雑 費		式	1	
計				

(13) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適 用 単 価 表	指 定 事 項
非 航 起 重 機 船	表4.3	機-26	労 務 数 量→表4.14 機 械 損 料 数 量→ 1.88 燃 料 消 費 量 片道運搬距離15km以下 100t吊→372 120t吊→417 150t吊→480 片道運搬距離15kmを超える 100t吊→ $76 \times P_1$ 120t吊→ $85 \times P_1$ 150t吊→ $98 \times P_1$ 主 燃 料→重油
引 船	表4.3	機-11	単 価 表 単 位→日 船 員 数 量→表4.15 機 械 損 料 単 位→供用日 機 械 損 料 数 量→ 1.88 燃 料 消 費 量 片道運搬距離15km以下 鋼製D 450PS型35GT→407 鋼製D 600PS型50GT→539 鋼製D 700PS型60GT→637 片道運搬距離15kmを超える 鋼製D 450PS型35GT→ $83 \times P_2$ 鋼製D 600PS型50GT→ $110 \times P_2$ 鋼製D 700PS型60GT→ $130 \times P_2$ 主 燃 料→重油
交 通 船	鋼製D 50PS型 4.9GT	機-11	単 価 表 単 位→日 船 員 数 量→高級船員 機 械 損 料 単 位→供用日 機 械 損 料 数 量→ 1.95 燃 料 消 費 量→42 主 燃 料→重油
ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油圧駆動ウインチ・ ラチスジブ型 ○○t吊	機-27	運転時間6.4h/日

(注) P_2 ：各作業船の運転1日当り運転時間(表4.18)

7. 施工単価入力基準表

(1) 捨石工(捨石材料)

施工歩掛コード		WB310510	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1			
	捨石材の種類番号 ①岩 石 等 ②砂 利			

(注) 1. 本コードは、捨石材の材料ロスを含むため、施工量は設計数量とする。

2. 「捨石材」単価 Y-1003000 [円/m³] に単価登録すること。

(2) 捨石工(捨石均し)

施工歩掛コード		WB310520	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1		J 2	
	均し区分 ①本 均 し ②荒 均 し ③被覆均し		均し精度 ① ± 30 cm ② ± 50 cm	

(注) J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件の入力は必要なく、均し精度は「± 5 cm」で固定している。

(3) ブロック製作

施工歩掛コード	WB310600		施工単位		個							
施工区分	入 力 条 件											
	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	
各 種	消波根固めブロック規格	型枠の種類	1個当り型枠面積（㎡／個）	生コンクリート規格	1個当りコンクリート体積（㎡／個）	養生工の種類	型枠エクレーン規格	型枠エクレーン機種	コンクリートエクレーン規格	コンクリートエクレーン機種	クレーンの賃料補正係数	
	(表 7.1)	(表 7.2)	(実数入力)	(表 7.3)	(実数入力)	①一般 ②給熱	①標準 ②標準 以外	(表 7.4)	①標準 ②標準 以外	(表 7.4)	①標準 ②標準 以外 (実数入力)	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件では①～③を入力すること。
 2. J 4 条件で②を選択した場合は、1 m³当り単価を生コンクリート各種 (Y-0210000) に単価登録すること。
 3. J 6 条件で②を選択した場合は、消波根固めブロック給熱養生工を別途考慮すること。
 4. J 7 条件で①を選択した場合は、J 8 条件は①で固定される。
 5. J 9 条件で①を選択した場合は、J 10 条件は⑨で固定される。
 6. 本コードはロス率を含む。
 7. 本コードは型枠賃料を含んでいるが、J 2 条件で③又は⑤を選択した場合は、必要に応じて所定の特許等実施料を別途計上すること。
 8. 鉄筋 (連結用フックを含む) を使用する場合は、「第VI編第2章①－1鉄筋工」により別途計上すること。
 9. クレーン賃料補正 (夜間補正) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 10. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。
 11. 本コードは、ラフテレーンクレーン、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表7.1 消波根固めブロック規格

ブロック実質量	入力番号
11.0 t を超え 25.0 t 以下	①
25.0 t を超え 50.0 t 以下	②

表7.2 型枠の種類

賃料表の名称		入力番号
異形ブロック 30 t 未満のもの	鋼製型枠	①
	FRP 製型枠	②
	直積ブロック用鋼製型枠	③
異形ブロック 30 t 以上 50 t 未満のもの	鋼製型枠	④
	直積ブロック用鋼製型枠	⑤
異形ブロック 50 t 以上のもの	鋼製型枠	⑥

表7.3 生コンクリート規格

種 別	入力番号	種 別	入力番号	種 別	入力番号
18-5-40 (普通)	①	21-8-40 (普通)	⑧	21-5-40 (高炉)	⑮
18-8-25(20) (普通)	②	21-12-25(20) (普通)	⑨	21-8-25(20) (高炉)	⑯
18-8-40 (普通)	③	21-12-40 (普通)	⑩	21-8-40 (高炉)	⑰
18-12-25(20) (普通)	④	18-5-40 (高炉)	⑪	24-8-25(20) (高炉)	⑱
18-12-40 (普通)	⑤	18-8-40 (高炉)	⑫	27-5-40 (高炉)	⑲
19.5-8-40 (普通)	⑥	19.5-5-40 (高炉)	⑬	Y-0210000 (各種)	⑳
21-8-25(20) (普通)	⑦	19.5-8-40 (高炉)	⑭		

表7.4 クレーン機種

機 種	入力番号
ラフテレーンクレーン(油圧伸縮ジブ型) 25 t 吊	①
〃 35 t 吊	②
〃 45 t 吊	③
〃 50 t 吊	④
クローラクレーン(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 35 t 吊	⑤
〃 40 t 吊	⑥
〃 50 t 吊	⑦
〃 80 t 吊	⑧
〃 100 t 吊	⑨
〃 150 t 吊	⑩
〃 300 t 吊	⑪
〃 450 t 吊	⑫

(4) ブロック横取り

施工歩掛コード		WB310610		施工単位		個	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5		
	消波根固めブロック規格 (表 7.1)	横取り作業回数 (実数入力)	クレーン規格 ①標準 ②標準 以外	クレーン機種 (表 7.4)	クレーンの賃料補正係数 ①標準 ②標準 以外 (実数入力)		

(注) 1. 本コードの横取りは、製作場所又は仮置場での横取り作業に適用する。

2. J 3 条件で①を選択した場合は、J 4 条件は⑨で固定され、J 3 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は⑩～⑫を入力すること。

3. クレーン賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

5. 本コードは、ラフテレーンクレーン、クローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(5) ブロック積み・運搬・据付け工

施工歩掛コード	WB310530	施工単位	個			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	作業区分 ①陸上設置 ②水中設置	ブロック実質量 ①4.5 t 以下 ②4.5 t を超え 7.5 t 以下 ③7.5 t を超え 12.5 t 以下 ④12.5 t を超え 22.0 t 以下 ⑤22.0 t を超え 31.0 t 以下 ⑥31.0 t を超え 37.5 t 以下 ⑦37.5 t を超え 50.0 t 以下	片道運搬距離 ①5km 以下 ②9km 以下 ③12km 以下 ④14km 以下 ⑤15km 以下 ⑥15km を超え る	日 当 り 据 付 個 数 (個／日) (実数入力)	運 転 日 当 り 運 転 時 間 非 航 起 重 機 船 の ク レ ン 付 台 船 及 び (h／日) (表 4.9) (実数入力)	引 船 の 運 転 日 当 り 運 転 時 間 (h／日) (表 4.9) (実数入力)

- (注) 1. 陸上設置とは、ブロックを平均干潮面より上に設置する場合をいう。なお、平均干潮面が設定されていないところでは、平均水面と望望平均干潮面との1/2とする。
 2. J 3条件で①から⑤を選択した場合は、J 4からJ 6条件の入力は必要ない。
 3. 日当り作業時間が8時間を超える場合は、労務費補正を行うこと。
 4. 往路と復路の運搬距離が異なる場合、平均距離で判定する。

(6) 間接費(繫船費)

施工歩掛コード	WB310540	施工単位	式		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業船の種類	作業日数	供用日数	海上作業	休日等による
	①クレーン付台船	(日)	(日)	可能日数	休転日数
	又は非航起重機船			(日)	(日)
	②引船				
	③自航潜水土船	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

- (注) 1. 本コードは、共通仮設費の準備費に積上げ計上する。
 2. J 2からJ 4条件は、各船舶ごとの作業日数を入力する。

(7) 間接費(退避費)引船

施工歩掛コード	WB310550	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	ブロック実質量 ①4.5t以下 ②4.5tを超え7.5t以下 ③7.5tを超え12.5t以下 ④12.5tを超え22.0t以下 ⑤22.0tを超え31.0t以下 ⑥31.0tを超え37.5t以下 ⑦37.5tを超え50.0t以下	退避距離(km) (実数入力)	

- (注) 1. 本コードは、共通仮設費の準備費に積上げ計上する。
 2. J 2条件の退避距離は往復距離で入力する。

(8) 間接費(交通船運転)

施工歩掛コード	WB310570	施工単位	日

(注) 本コードは、共通仮設費の運搬費に積上げ計上する。

(9) 間接費(回航又はえい航運転費(引船))

施工歩掛コード	WB310560	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	ブロック実質量 ①4.5t以下 ②4.5tを超え7.5t以下 ③7.5tを超え12.5t以下 ④12.5tを超え22.0t以下 ⑤22.0tを超え31.0t以下 ⑥31.0tを超え37.5t以下 ⑦37.5tを超え50.0t以下	被回航(えい航)船の 保安要員 ①標準(2名) ②標準外(実数入力)	

(注) 1. 本コードは、共通仮設費の運搬費に積上げ計上する。

2. J 1 条件で①を選択した場合は、クローラクレーン[機械駆動ウィンチ・ラチスジブ]
45～50t吊単価(Y-5919001) [円/日] を単価登録すること。
3. J 1 条件で②を選択した場合は、クローラクレーン[機械駆動ウィンチ・ラチスジブ]
80t吊単価(Y-5919002) [円/日] を単価登録すること。
4. J 1 条件で③を選択した場合は、クローラクレーン[機械駆動ウィンチ・ラチスジブ]
100t吊単価(Y-5919003) [円/日] を単価登録すること。
5. J 1 条件で④及び⑤を選択した場合は、起重機船[旋回・ディーゼル式]
100t吊単価(Y-5918001) [円/日] を単価登録すること。
6. J 1 条件で⑥を選択した場合は、起重機船[旋回・ディーゼル式]
120t吊単価(Y-5918002) [円/日] を単価登録すること。
7. J 1 条件で⑦を選択した場合は、起重機船[旋回・ディーゼル式]
150t吊単価(Y-5918003) [円/日] を単価登録すること。

(10) 間接費(回航用艀装費)

施工歩掛コード	WB310580	施工単位	式

(注) 1. 本コードは、共通仮設費の運搬費に積上げ計上する。

2. 回航用艀装費(Y-7700000) [円/式] を単価登録すること。

(11) 間接費(回航検査料)

施工歩掛コード	WB310590	施工単位	式

(注) 1. 本コードは、共通仮設費の運搬費に積上げ計上する。

2. 回航検査料(Y-1075000) [円/式] を単価登録すること。

④ 浚渫工

④-1 ポンプ式浚渫船

1. 適用範囲

本資料は、河川及び湖沼におけるポンプ浚渫船（電動機式E200～E500PS型、ディーゼル式D250～D1,350PS型）による浚渫工の施工に適用する。

2. 施工概要

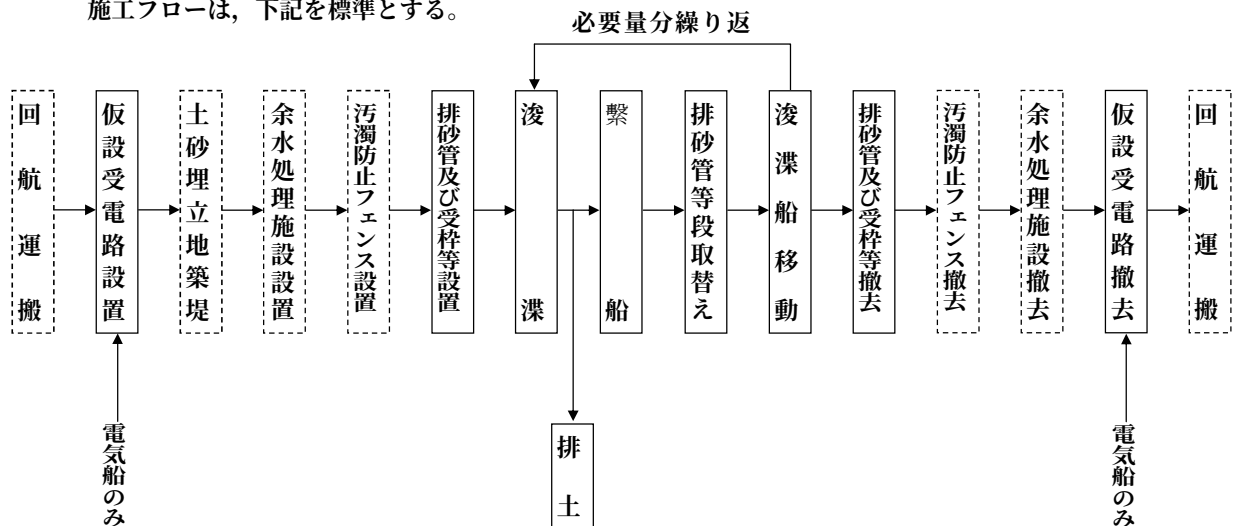
2-1 施工内容

ポンプ浚渫船は、船首から水底に下したラダーの先端のカッタにより土砂を掘削し、水とともにサンドポンプによって土砂を吸込み排送する作業船であり、自航式と非航式がある。

施工は、一般に河床等の土砂をポンプ浚渫船により掘削、揚泥し、排砂管（水上管・陸上管）により目的の捨土場所に搬送することにより行われる。

2-2 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 仮設受電路設置・撤去において、本歩掛で対応しているのは材料損耗率のみであり、施工歩掛は別途計上する。
 3. 土砂埋立地築堤、余水処理施設設置・撤去、汚濁防止フェンス設置・撤去は、別途計上する。

図2-1 施工フロー

3. 機種を選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

機 械 名	規 格	浚渫ポンプの規格範囲	排砂管径範囲	単位	数量	摘 要
ポンプ浚渫船	電 動 機 式 E200PS型	200PS型以上 350PS型未満	200mm以上300mm未満	隻	1	
	電 動 機 式 E500PS型	500PS型	350mm以上380mm未満	〃	1	
	ディーゼル式 D250PS型	200PS型以上 300PS型未満	250mm以上300mm未満	〃	1	
	ディーゼル式 D420PS型	350PS型以上 440PS型未満	300mm以上350mm未満	〃	1	
	ディーゼル式 D600PS型	540PS型以上 650PS型未満	350mm以上400mm未満	〃	1	
	ディーゼル式 D800PS型	720PS型以上 850PS型未満	400mm	〃	1	
	ディーゼル式 D1,350PS型	1,000PS型以上 1,350PS型未満	400mmを超え560mm未満	〃	1	

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 浚渫船の運転

4-1 浚渫能力

(1) 単位時間当り排泥量

浚渫能力は、土質（粒度、硬さ、比重）、土厚、浚渫深度、揚程、排泥距離、含泥率、管内流速、排砂管設置状況等の要素によって左右され、各河川及び湖沼、施工箇所状況により異なるものであるから、実績値を基として、各種条件を調査のうえ技術的検討を加え、更に余掘量を考慮して決定する。

なお、浚渫能力に関係する平均排砂管設置計画については、河川浚渫等で排送距離変化が多い浚渫箇所の場合には、図4-1のように想定し浚渫土量区分ブロックと捨土土量ブロックを区分し、これらを結ぶ幹線及び支線の経路を定め、各ブロック毎の配管重心距離 $L_1, L_2, L_3 \cdots L_n$ （次図で求める）と、各ブロック毎の浚渫土量及び捨土土量 $V_1, V_2, V_3 \cdots V_n$ （机上計算）を求めて、次式で平均距離を算出する。

$$\text{平均距離} = \frac{\sum (L_n \times V_n)}{\sum V_n}$$

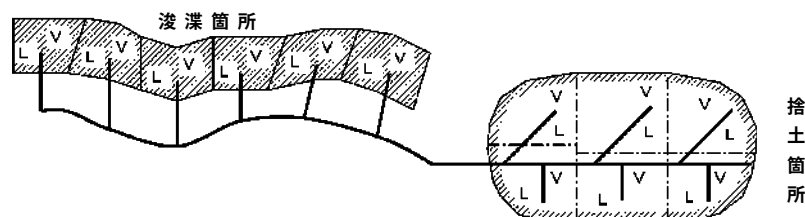


図4-1 排砂管設置計画図(河川浚渫等)

また、湖沼浚渫等で排送距離変化が少ない浚渫箇所の場合には、図4-2のように想定し幹線及び支線を排土配管形状より捨土土量ブロックを区分し、これら各ブロック毎の浚渫船からの配管重心距離 $L_1, L_2, L_3 \cdots L_n$ （次図で求める）と、各ブロック毎捨土土量 $V_1, V_2, V_3 \cdots V_n$ （机上計算）を求めて、次式で平均距離を算出する。

$$\text{平均距離} = \frac{\sum (L_n \times V_n)}{\sum V_n}$$

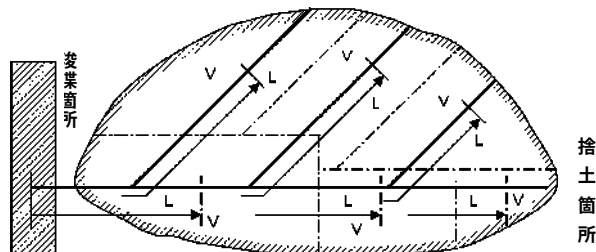


図4-2 排砂管設置計画図(湖沼浚渫等)

(2) 浚渫土量

積算対象となる浚渫土量は、計画浚渫面に対する土量とし、浚渫の出来高土量の検収は跡坪による検収を原則とする。

ただし、河川及び湖沼の施工箇所状況によって、河床土砂の移動が甚だしく、浚渫箇所が短期間で埋没し跡坪による検収が困難な場合は、排土土量が確実に検収できるよう種々対策を講じたうえで、その土量をもって浚渫土量とする。

なお、現在一般に用いられているカッタ式浚渫船においては、計画浚渫断面に対する余掘は避けられないものである。

余掘量は、契約対象土量とはしないが、浚渫取扱土量中に含め積算の対象とする。

4-2 浚渫船運転労務費

(1) 浚渫船の1日当り運転時間と乗務員の勤務時間（標準）

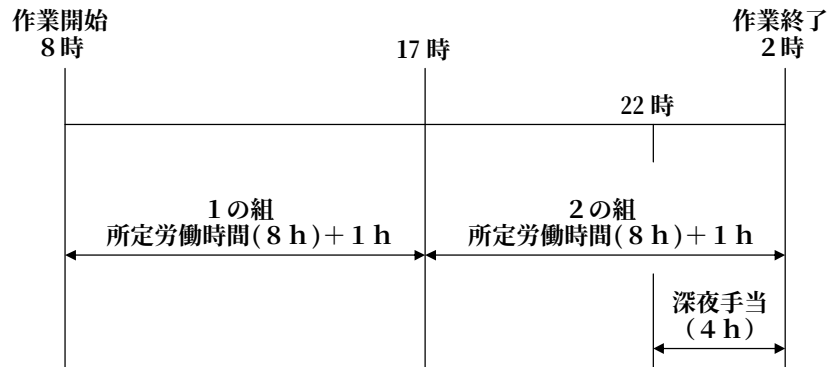
浚渫船の1日当り運転時間は、13時間運転を標準とする。

また、乗務員の勤務は、1組9時間の2交替、18時間勤務を標準とし、現場条件によりこれにより難い場合は、別途考慮する。

なお、1組当り実労働時間は8時間とし、1の組の作業時間帯は8時～17時、2の組の作業時間帯は17

時～2時とする。

図4-3 時間帯(標準)



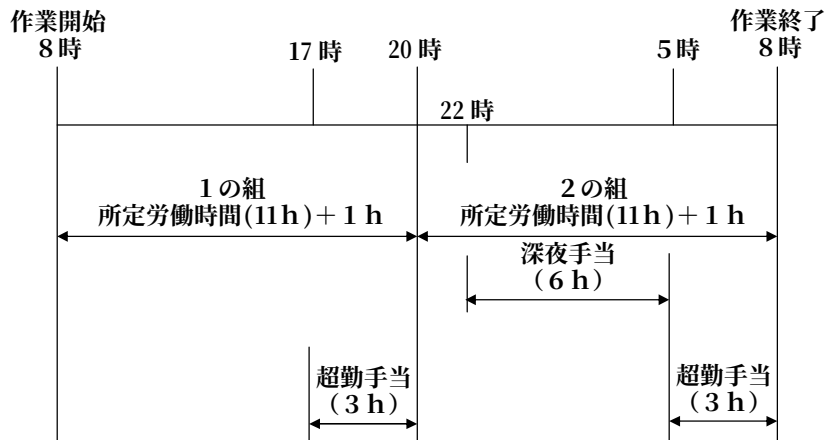
- 1) 2交替(2組)18時間勤務に伴う乗務員1人当り労務単価は、次により算出する。

$$\text{深夜勤務手当割増率} = 4\text{ h} \times 0.25 / 8\text{ h} = 1 / 8$$

$$\text{1組当り平均割増率} = 1 / 8 \times 1 / 2 = 0.06$$

$$\text{乗務員1人当り労務単価} = \text{基準額} \times (1 + \text{構成比} \times 0.06)$$
- 2) 上図は、1日2交替作業の場合を示す。
- (2) 浚渫船の1日当り運転時間と乗務員の勤務時間を別途考慮する場合(標準外)
 浚渫船の1日当り運転時間は、17時間を標準とする。
 また、乗務員の勤務は、1組12時間の2交替、24時間勤務を標準とし、現場条件によりこれにより難しい場合は、別途考慮する。
 なお、1組当り実労働時間は11時間とし、1の組の作業時間帯は8時～20時、2の組の作業時間帯は20時～8時とする。

図4-4 時間帯(標準外)



- 1) 2交替(2組)24時間勤務に伴う乗務員1人当り労務単価は、次により算出する。

$$\text{超過勤務手当割増率} = (3\text{ h} + 3\text{ h}) \times 1.25 / 8\text{ h} = 7.5 / 8$$

$$\text{深夜勤務手当割増率} = (7\text{ h} - 1\text{ h}) \times 0.25 / 8\text{ h} = 1.5 / 8$$

$$\text{1組当り平均割増率} = (7.5 / 8 + 1.5 / 8) \times 1 / 2 = 0.56$$

$$\text{乗務員1人当り労務単価} = \text{基準額} \times (1 + \text{構成比} \times 0.56)$$
- 2) 上図は、1日2交替作業の場合を示す。

(3) 編成人員

浚渫作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人)

船 級	高 級 船 員	普 通 船 員	摘 要
(D250, D420PS型) E200PS型	(4) 4	(8) 6	1日2交替18〔24〕 時間勤務, 1組当り9〔12〕 時間勤務で, 実労働時間は8〔11〕 時間とする。
(D600, D800PS型) E500PS型	(4) 4	(14) 10	
(D1,350PS型)	(6)	(18)	

(注) 1. () 内は、ディーゼル船の編成人員である。

2. [] 内は、勤務時間を別途考慮する場合(標準外)である。

(4) 休転日数と運転日数

浚渫期間中における浚渫船の休転日は、1箇月につき(A)=4日、(B)=7日 計11日を標準とする。

(A)は、浚渫船及び水上管の移動、段取替え、錨の打替え、風浪出水時に対する警戒作業並びに浚渫船の整備、修理等のために休転する日である。

ただし、出水期等による特殊事情のある場合は、別途計上する。

(B)は、休日のために休転する日である。したがって、この休転日数以外を月間運転日数として、月間計画浚渫土量並びに計画浚渫期間を決定する。

4-3 浚渫船損料

排土作業に使用する湿地ブルドーザの供用日当り運転時間(t)の損料補正については、原則として補正しない。

4-4 電力費

(1) 契約電力

基本料金算定の基礎となる契約最大電力は、使用する機種の負荷設備及び受電設備及び負荷率を勘案し、電力会社の供給規定により決定する。

(2) 電力費の負担区分

電力費は、電力会社との需給契約別に原則として次のように区分する。

(イ) 需給契約が官の場合

基本料金、電力量料金ともに官負担を原則とする。

ただし、最大指示電力計による最大電力が契約電力を超過した場合の超過料金は、通常の場合、業者負担とする。

(ロ) 需給契約が業者の場合

基本料金、電力量料金ともに業者負担を原則とする。

(3) 計画使用電力量

計画使用電力量(m³当り)の決定は、土質(粒度、硬さ、比重)、土厚、浚渫深度、揚程、排泥距離、含泥量、管内流速、排砂管設置状況等、いろいろの要素によって左右され、各河川及び湖沼、施工箇所の状況により異なるものであるから、実績値を基として各諸条件を調査、検討のうえ決定する。

(4) 電力量料金の計算

(イ) 使用変(受)電所の基準電力量が定められるもの

各月毎の計画浚渫土量を決定し、これにm³当り計画電力を乗じてそれぞれの月の使用電力量として、料金を計算する。

(ロ) 使用変(受)電所の基準電力量が定められないもの

計画浚渫土量にm³当り計画電力量を乗じて、使用電力量を計算し料金を計算する。

4-5 排砂管保守費

浚渫船運転中における排砂管の保守で排砂管設置の全区間にわたり見回りをを行い、漏水、その他事故の未然防止に努めるものとし、これに要する人員は浚渫船運転1日につき次表を標準とする。

表4.2 排砂管保守要員 (人)

機 種	普通作業員	摘 要
ポンプ浚渫船	2	労務単価は基準額のみ計上する。

(注) 中継ポンプを設置する場合、あるいは特別に危険防止、その他の理由のため必要な場合は、別途計上する。

4-6 繋船費

繋船費は、共通仮設費の準備費で、下記により積上げ計上する。

浚渫船の休転中における乗務員の労務費であって、4-2(3)に定められた休転日(A)のほか、運転準備期間7日と浚渫完了後の後片付け期間5日を対象とするが、汚濁防止フェンス設置・撤去がある場合には、運転準備期間に3日と後片付け期間に3日を加算する。ただし、4-2(3)に定められた休転日(B)については、対象としない。繋船費の対象とする乗務員の員数は、次表を標準とする。

運転準備期間とは、浚渫箇所に浚渫船を配置し、点検を行い、水上管（フロータ付）を設置し、運転状態に入るまでの準備作業に要する期間をいう。

浚渫完了後の後片付け期間とは、計画全土量の浚渫を完了し、浚渫船及び水上管を安全地帯にえい航繋留し、整備修理を完了するまでの後片付け作業に要する期間とする。

表4.3 日当り編成人員 (人)

船 級	高 級 船 員	普 通 船 員	摘 要
(D250, D420PS型) E200PS型	(2) 2	(4) 3	労務単価は基準額のみ計上する。
(D600, D800PS型) E500PS型	(2) 2	(7) 5	
(D1,350PS型)	(3)	(9)	

(注) () 内は、ディーゼル船の編成人員である。

準備並びに後片付け期間とも、陸上作業に必要な日数は含まない。

なお、河川及び湖沼の状況によっては、前記事項以外にも、乗務員全員が常に船の繋留維持管理のための作業に従事する必要がある、工期内における準備及び後片付けの全日数を繋船費の対象としなければならない場合もあるので、これらについても別途計上する。

4-7 作業船運転費

作業現場内の浚渫船及び水上管の移動段取替え、風浪出水時における退避、繫留等の作業に従事するもので、作業船の種類及び規格は次表を標準とし、対象日数は浚渫船の運転日数と繫船日数とする。

表4.4 機種の選定

種類及び規格 浚渫船機種		揚 錨 船		交 通 船		
		規 格	隻	規 格		隻
ポンプ浚渫船	E200PS型	D1t吊	1	鋼製 D30PS型	3.0GT	1
	E500PS型	D3t吊	1	鋼製 D50PS型	4.9GT	1
	D250PS型	D1t吊	1	鋼製 D30PS型 3.0GT		1
	D420PS型	D3t吊	1			
	D600PS型					
	D800PS型	D5t吊	1	鋼製 D50PS型	4.9GT	1
	D1,350PS型			鋼製 D60PS型	6.0GT	1

(注) 1. 揚錨船は、1.6時間を1日平均としてその所要材料費を別途計上する。

(標準外は2.1 時間)

2. 交通船は、2.4時間を1日平均としてその所要材料費を別途計上する。

(標準外は3.1 時間)

3. 無償貸与、その他上表により難しい場合には、別途考慮する。

4. 揚錨船及び交通船の運転については、本船の船員が運転する。

4-8 受電路架設費

受電路架設費は、下記により計上する。

既設受電路又は電源より浚渫船に至る電路の架設並びに撤去に要する材料・労務費であって、それぞれの地形に応じた適当な構造のものとし、材料費にあつては、次表の損耗率により積算した損耗料を計上する。

表4.5 損耗率 (1回当たり)

品 名	損 耗 率
木 材 類	33%
電 柱 (不 注 入 柱)	20%
鋼 材 類	20%
被覆硬銅線水底ケーブル	「建設機械等損料算定表」により積算する。
碍 子 類	20%

4-9 回航費並びに運搬工費

回航費は、浚渫船の回航に、また、運搬工費は、本船解体、部品、排砂管、フロータ及び工事用仮設材の運搬に要する費用で、それぞれ必要に応じて共通仮設費の運搬費で積上げ計上する。

4-10 雑工事費

(1) 出水期における浚渫船の安全対策として、河川及び湖沼の状況により繫留設備あるいは待避溝の設置を見込むとともに浚渫船待避に要する費用を計上する。

(2) その他、浚渫工事に伴う雑工事が必要な場合は、別途計上する。

4-11 機械損料及び修理費

民船による場合の機械損料は「請負工事機械経費積算要領」に基づく「建設機械等損料算定表」により算出する。

なお、浚渫船（電動機式）には、フロータケーブル（E500PS型は250m、E200PS型は200m）が付属する。

4-12 機械管理費及び修理費

官船による場合は、機械管理費及び機械修理費を計上する。

なお、浚渫船（電動機式）には、フロータケーブル（E500PS型は250m、E200PS型は200m）が付属する。

（１）機械管理費

浚渫船本船、揚錨船、交通船及び付属品などの機械管理費は、「請負工事機械経費積算要領」に基づき算出する。

（２）機械修理費

1) 本船消耗品の支給

本船消耗品は、土砂の通過によって著しい摩耗をうける部品を対象とし、次表を標準とする。

表4.6 本船消耗部品名

№	品 名	№	品 名	№	品 名
1	ポンプケーシング	7	後面ライナ	13	サクシオンヘッドブッシュ（丸）
2	スタフィングボックス	8	サクシオンマウス	14	サクシオンヘッドブッシュ（二つ割）
3	前面カバー	9	マウスリング	15	カッタ先端シャフトスリーブ
4	後面カバー	10	インペラシャフトスリーブ	16	カッタナイフ
5	インペラ	11	インペラシャフトナット	17	船内管
6	前面ライナ	12	カッタ及びサクシオンヘッドライト	18	サクシオンゴムスリーブ

これらの部品は、その製造にかなりの期間を要するので交換予備部品については、官側において確保し、消耗度合を考慮して順次支給することを原則とする。

なお、これらの部品にかかわる修理については、現場修理費に含むものとする。

（３）現場修理費

現場修理費は、浚渫船の正常な機能を常時維持するために必要な費用であり、本船については船体回り修理費、電気・エンジン関係修理費、パッキン及びロープ類の取替費、工具費、本船消耗部品修理費等である。また、揚錨船及び交通船の現場修理費が必要な場合は、別途計上する。

5. 排 砂 管

5－1 排砂管設置費

排砂管設置費は、浚渫箇所より排土箇所に至る排砂管及び受枠の設置並びに撤去に要する材料費、機械経費、労務費であり、河川及び湖沼の状況によってこれにより難い場合は、別途考慮する。

排砂管の対象日数及び対象本数は、排泥計画に基づき、各ブロックの施工に必要な浚渫船運転日数及び本数とする。

(1) 排砂管及び受枠

この歩掛は河川の一般高水敷及び湖沼における陸上作業を対象としたものであり、これにより難い特殊条件（湿泥地地下及び著しく高さの高い配管等）の場合は、別途考慮する。

1) 排砂管及び受枠の区分

排砂管及び受枠の区分は、表5. 1、表5. 2を標準とする。

(イ) 管径による区分

表5. 1 管径区分

区 分	管 径
I	200mm～300mm
II	350mm～560mm

(ロ) 高さによる区分

表5. 2 高さ区分

区 分	設 置 高 さ
A (0m)	笠木のみ
B (1m)	0m～1.5m
C (2m)	1.5m～2.5m
D (3m)	2.5m～3.5m

(注) 1. 設置高さとは、笠木の地上からの高さである。

2. 図5－2受枠の構造図参照のこと。

2) 受枠の間隔

受枠の間隔は、排砂管6mもの1本につき受枠を2組とし、その間隔は3mを標準とする。

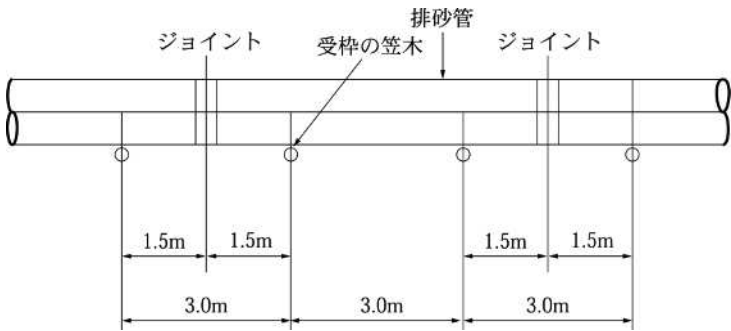


図5－1 受枠の間隔

3) 排砂管及び受枠の歩掛

排砂管及び受枠の歩掛は、次による。

(イ) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表5.3 機種の選定

管径区分	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
I・II	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排山ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	台	1	

(注) 1. バックホウ(クレーン機能付き)は、「クレーン等安全規則」,「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。

2. 現場条件等により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

(ロ) 編成人員

排砂管及び受枠作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表5.4 日当り編成人員 (人)

作業種別	管径・高さ区分	とび工	普通作業員
設 置	I・II	A・B	—
		C・D	2
撤 去	I・II	A・B	—
		C・D	2

(注) 上表には排砂管・受枠・仕切弁・分岐管等の現場内小運搬及びボルト・パッキングの締付け又は取外し等、受枠の杭木等の吊込み及び杭木穴の掘削等の全ての作業を含む。

(ハ) 日当り施工量

標準編成人員による日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.5 日当り施工量 (本/日)

管径・高さ区分 作業種別	I・II			
	A	B	C	D
設 置	14	9	6	4
撤 去	16	10	7	5

(ニ) 受枠材損耗率

受枠材損耗率は、次表を標準とする。

表5.6 受枠材損耗率 (1回当り)

材 料	損 耗 率
受 枠 木 材	33%

(ホ) 受枠材使用量

受枠材は松丸太を標準とし、排砂管 10 本当りの受枠材使用量は、次表による。

表5.7 受枠材使用量 (排砂管10本当り)

管径区分	高さ区分	受枠材使用量												計
		笠 木			杭 木			胴 木			筋 違			
		径×長 [cm][m]		数 量 [本] [m³]	径×長 [cm][m]		数 量 [本] [m³]	径×長 [cm][m]		数 量 [本] [m³]	径×長 [cm][m]		数 量 [本] [m³]	
Ⅰ	A	12×1.5	20	0.43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.43
	B	12×1.5	20	0.43	12×2.0	40	1.15	—	—	—	—	—	—	1.58
	C	12×1.5	20	0.43	12×3.0	40	1.73	9×6.5	20	1.30	9×3.0	20	0.49	3.95
	D	12×1.5	20	0.43	12×4.5	40	2.59	9×6.5	40	2.60	9×4.0	40	1.30	6.92
Ⅱ	A	12×1.5	20	0.43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.43
	B	12×1.8	20	0.52	12×2.0	40	1.15	—	—	—	—	—	—	1.67
	C	12×1.8	20	0.52	12×3.0	40	1.73	9×6.5	20	1.30	9×3.0	20	0.49	4.04
	D	12×1.8	20	0.52	12×4.5	40	2.59	9×6.5	40	2.60	9×4.0	40	1.30 ₀	7.01

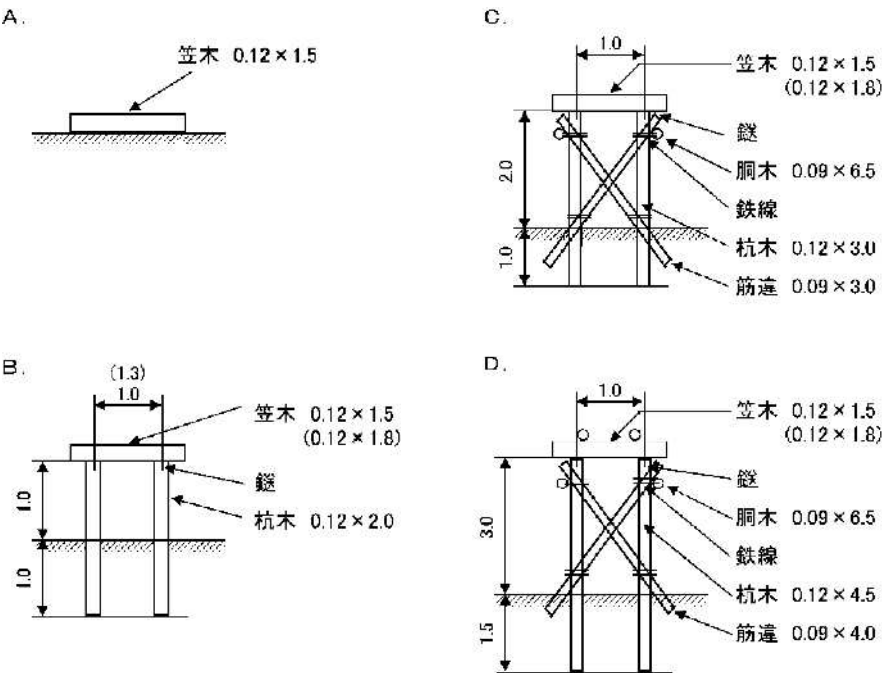
(ヘ) 諸雑費

諸雑費は、鋸、鉄線等の費用とし、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.8 諸雑費率 (%)

管 径 区 分	Ⅰ・Ⅱ			
高 さ 区 分	A	B	C	D
諸 雑 費 率	—	1	2	1

4) 受枠の構造図



(注) () は、Ⅱの場合の使用材とする。

図5-2 受枠の構造図

(2) 排砂管及びフロータ

この歩掛は河川及び湖沼の水上作業を対象としたものであり、これにより難い特殊条件（水中配管等）の場合は、別途考慮する。

(i) 排砂管の区分

排砂管の区分は、表5.1を標準とする。

(ii) 排砂管及びフロータの歩掛

排砂管及びフロータの歩掛は、次による。

(イ) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表5.9 機種の選定

管径区分	機 械 名	規 格	単位	数量	摘要
I・II	揚 錨 船	D1t吊又は D3t吊又は D5t吊	隻	1	
	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	台	1	

- (注) 1. 揚錨船の規格については、ポンプ浚渫船付のものとする。
 2. バックホウ(クレーン機能付き)は、「クレーン等安全規則」、「移動式クレーン構造規格」に準拠した機械である。
 3. 現場条件等により、上表により難い場合は、別途考慮する。

(ロ) 編成人員

排砂管及びフロータ作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表5.10 日当り編成人員

(人)

施工・管径区分		高級船員	普通船員	普通作業員
設 置	I・II	1	4	2
撤 去	I・II	1	4	2

(注) 上表には排砂管・フロータ等の現場内小運搬及びボルト・排砂管取付用バンド・連結用鎖等の締付け又は取外し等全ての作業を含む。

(ハ) 日当り施工量

標準編成人員による日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.11 日当り施工量 (本/日)

施 工 区 分	設 置	撤 去
管 径 区 分	I・II	I・II
日 当 り 施 工 量	12	14

5-2 排土費

浚渫土砂が排土箇所場外に流出するのを防止するために必要な処置、また排土箇所を不陸のないように仕上げるために必要な機械及び労務費であって、排土箇所の状況により異なるが、浚渫船運転1日に対し次表を標準とする。

表5.12 排土機械及び労務

機 種		機 械 名		普通作業員	摘 要
		規 格	運転時間 (h／日)		
ポンプ浚渫船	E200PS型	ブルドーザ湿地・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t級	1.9	5人／日	労務単価は基準額 のみ計上する。
	E500PS型		2.3		
	D250PS型		1.9		
	D420PS型		2.3		
	D600PS型				
	D800PS型		3.4		
	D1,350PS型				

- (注) 1. 直接築堤用土に利用する場合は、別途計上する。
2. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

表5.13 排土機械及び労務 (標準外)

機 種		機 械 名		普通作業員	摘 要
		規 格	運転時間(h／日)		
ポンプ浚渫船	E 200 P S 型	ブルドーザ 湿地・ 排出ガス対策型 (第1次基準値) 13 t 級	2.5	5 人／日	労務単価は基準額 のみ計上する。
	E 500 P S 型		3.0		
	D 250 P S 型		2.5		
	D 420 P S 型		3.0		
	D 600 P S 型				
	D 800 P S 型		4.5		
	D 1,350 P S 型				

- (注) 1. 直接築堤用土に利用する場合は、別途計上する。
2. 現場条件より上表により難しい場合は、別途考慮する。

5-3 排水工事

浚渫船より土砂とともに排出される水を排土箇所場外に放流するために必要な施設として余水吐き、余水処理装置等に要する材料、労務費については、土質、排土箇所の状況により、別途計上する。

5-4 雑工事

排砂管設置等に伴う雑工事が必要な場合は、別途計上する。

6. 汚濁防止フェンス

汚濁防止フェンス設置・撤去は、「第Ⅱ編第5章⑭汚濁防止フェンス工」により計上する。

7. 単 価 表

(1) 浚渫船(〇〇〇PS型)運転1日(13時間)当り単価表(民船)

				施工歩掛コード WB310710 WB310720
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人		表4.1
普 通 船 員		〃		〃
ポンプ浚渫船運転	〇〇式 〇〇PS型	日		機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 浚渫船(〇〇〇PS型)機械損料1日(13時間)当り単価表(民船)

				施工歩掛コード WB310730
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
フ ロ ー タ 損 料	鋼製 長〇m×径〇〇mm	組・日		日当り機械損料に 機械損料数量を乗じて 計上する。 機械損料数量→1.71
ジョイント損料	ゴム製 長〇〇mm×径〇〇mm	個・日		
排 砂 管 損 料	鋼製(陸上)長〇m×径〇〇mm	本・日		
〃	鋼製(水上)長〇m×径〇〇mm	〃		
仕 切 弁 損 料	鋼製 長〇〇mm×径〇〇mm	個・日		
曲 管 損 料	鋼製 径〇〇mm	本・日		
分 岐 管 損 料	鋼製 径〇〇mm	〃		
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 浚渫船(〇〇〇PS型)運転1日(13時間)当り単価表(官船)

				施工歩掛コード WB310710 WB310720
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人		表4.1
普 通 船 員		〃		〃
ポンプ浚渫船修理費	〇〇式 〇〇PS型	h		
諸 雑 費		式	1	
計				

(4) 浚渫船(〇〇〇PS型)機械管理費1日当り単価表(官船)

施工歩掛コード				WB310740
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
ポンプ浚渫船管理費	〇〇〇PS型	日		日当り機械損料に 機械損料数量を乗じて 計上する。 機械損料数量→1.71
フロータ管理費	長〇m×径〇〇mm	組・日		
ジョイント管理費	長〇〇mm×径〇〇mm	個・日		
排砂管管理費	(陸上) 長〇m×径〇〇mm	本・日		
〃	(水上) 長〇m×径〇〇mm	〃		
仕切弁管理費	長〇〇mm×径〇〇mm	個・日		
曲管管理費	径〇〇mm	本・日		
分岐管管理費	径〇〇mm	〃		
諸 雑 費		式	1	
計				

(5) 排砂管保守費1日当り単価表

施工歩掛コード				WB310770
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.2 労務単価は基準額のみ 計上する
諸 雑 費		式	1	
計				

(6) 繫船費1日当り単価表

施工歩掛コード				WB310780
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人		表4.3 労務単価は基準額のみ 計上する
普 通 船 員		〃		
諸 雑 費		式	1	
計				

(7) 揚錨船(D〇t吊)運転1日当り単価表

施工歩掛コード				WB310750
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
重 油		ℓ		〇〇ℓ/日
損 料		日	1	日当り損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(8) 交通船(総トン数〇〇t)運転1日当り単価表

施工歩掛コード				WB310760
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
重 油		ℓ		〇〇ℓ/日
損 料		日	1	日当り損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(9) 排砂管及び受枠設置 10 本当り単価表 (高さ区分A・B)

		施工歩掛コード			WB310790
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	7×10/D	表5.4, 表5.5	
受 枠 木 材	松丸太	m ³		表5.6, 表5.7	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.5 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表5.8	
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(10) 排砂管及び受枠設置 10 本当り単価表 (高さ区分C・D)

		施工歩掛コード			WB310790
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
と び 工		人	2×10/D	表5.4, 表5.5	
普 通 作 業 員		〃	5×10/D	〃	
受 枠 木 材	松丸太	m ³		表5.6, 表5.7	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.5 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表5.8	
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(11) 排砂管及び受枠撤去 10 本当り単価表 (高さ区分A・B)

		施工歩掛コード			WB310800
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	6×10/D	表5.4, 表5.5	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.5 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(12) 排砂管及び受枠撤去 10 本当り単価表 (高さ区分C・D)

		施工歩掛コード			WB310800
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
と び 工		人	2×10/D	表5.4, 表5.5	
普 通 作 業 員		〃	4×10/D	〃	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	日	10/D	表5.5 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(13) 排砂管及びフロータ設置 10 本当り単価表

施工歩掛コード					WB310820
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
高 級 船 員		人	1×10/D	表5.10, 表5.11	
普 通 船 員		〃	4×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃	
揚 錨 船 運 転	D1t吊又は D3t吊又は D5t吊	日	10/D	表5.11 機械損料	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	〃	10/D	表5.11 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(14) 排砂管及びフロータ撤去 10 本当り単価表

施工歩掛コード					WB310830
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
高 級 船 員		人	1×10/D	表5.10, 表5.11	
普 通 船 員		〃	4×10/D	〃	
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃	
揚 錨 船 運 転	D1t吊又は D3t吊又は D5t吊	日	10/D	表5.11 機械損料	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)運転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	〃	10/D	表5.11 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) D:日当り施工量(本/日)

(15) 排土費 1 日当り単価表

施工歩掛コード					WB310840
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
普 通 作 業 員		人		表5.12 基本労務単価のみ計上	
ブ ル ド ー ザ 運 転	湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t級	h		表5.12 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(16) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
ポンプ浚渫船	電動機式 E200PS型	機-14	電力消費量→2,327
	電動機式 E500PS型		電力消費量→5,824
	ディーゼル式 D250PS型	機-12	燃料消費量→重油910
	ディーゼル式 D420PS型		燃料消費量→重油1,534
	ディーゼル式 D600PS型		燃料消費量→重油2,184
	ディーゼル式 D800PS型		燃料消費量→重油2,912
	ディーゼル式 D1,350PS型		燃料消費量→重油4,914
揚 錨 船	D1t吊	機-12	燃料消費量→重油10
	D3t吊		燃料消費量→重油20
	D5t吊		燃料消費量→重油29
揚 錨 船 〔排砂管及び フロート設置・撤去〕	D1t吊	機-24	燃料消費量→重油10 機械損料数量→1.62
	D3t吊		燃料消費量→重油20 機械損料数量→1.62
	D5t吊		燃料消費量→重油29 機械損料数量→1.62
交 通 船	D30PS型 3.0GT	機-12	燃料消費量→重油17
	D50PS型 4.9GT		燃料消費量→重油29
	D60PS型 6.0GT		燃料消費量→重油34
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積0.8m ³ (平積0.6m ³) 吊能力2.9t	機-18	〔排砂管及び受枠設置・撤去〕 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→120 機械損料数量→ 1.46 〔排砂管及びフロート設置・撤去〕 運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→117 機械損料数量→ 1.46
ブルドーザ	湿地・排出ガス対策型 (第1次基準値) 13t級	機-1	

8. 施工単価入力基準表

(1) 浚渫船運転費

1) 運転時間標準の場合

施工歩掛コード	WB310710	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	浚渫船規格	浚渫船 機械使用区分	供用日当り運転時間 (h/日)
	(表 8.1)	①持込 ②貸与	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 2 交替制で 18 時間稼働 13 時間運転とする。

2. J 1 条件で①, ②を選択した場合は, 電力料 (電気船) (Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。

3. J 1 条件で①, ②, ④, ⑥を選択した場合は J 2 条件を入力する必要はない。

4. J 2 条件で①を選択した場合は, 排砂管損料 (WB310730) を計上すること。

5. J 2 条件で②を選択した場合は, 浚渫船機械管理費 (WB310740) を計上すること。また, 現場修理費 (Y-5932000) [円/日] を単価登録すること。

6. J 3 条件の供用日当り運転時間 (h/日) は実数入力とし, 小数第 2 位四捨五入, 小数第 1 位止め入力とする。

7. 労務単価は, 2 交替制で 1 組の賃金対象時間が 8 時間である為, 労務費調整係数等の指定を下記のとおり行うこと。

〔労務費調整係数 1.063 , 超勤時間 0 〕

表 8.1 浚渫船規格

規 格	入力番号
ポンプ浚渫船 (電動機式 E 200 P S 型)	①
ポンプ浚渫船 (電動機式 E 500 P S 型)	②
ポンプ浚渫船 (ディーゼル式 D 250 P S 型)	③
ポンプ浚渫船 (ディーゼル式 D 420 P S 型)	④
ポンプ浚渫船 (ディーゼル式 D 600 P S 型)	⑤
ポンプ浚渫船 (ディーゼル式 D 800 P S 型)	⑥
ポンプ浚渫船 (ディーゼル式 D 1,350 P S 型)	⑦

2) 運転時間標準外の場合

施工歩掛コード	WB310720	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	浚渫船規格	浚渫船 機械使用区分	供用日当り運転時間 (h/日)
	(表 8.1)	①持込 ②貸与	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 2 交替制で 24 時間稼働 17 時間運転とする。

2. J 1 条件で①, ②を選択した場合は, 電力料 (電気船) (Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。

3. J 1 条件で①, ②, ④, ⑥を選択した場合は J 2 条件を入力する必要はない。

4. J 2 条件で①を選択した場合は, 排砂管損料 (WB310730) を計上すること。

5. J 2 条件で②を選択した場合は浚渫船機械管理費 (WB310740) を計上すること。また, 現場修理費 (Y-5932000) [円/日] を単価登録すること。

6. J 3 条件の供用日当り運転時間 (h/日) は実数入力とし, 小数第 2 位四捨五入, 小数第 1 位止め入力と

する。

7. 労務単価は、2 交替制で1組の賃金対象時間が 11 時間である為、労務費調整係数等の指定を下記のとおり行うこと。

[労務費調整係数 1.136 , 超勤時間 3]

(2) 機械損料

1) 排砂管損料(フロータ、ゴムジョイント、排砂管)民船の場合

施工歩掛コード		WB310730	施工単位	日			
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7
	排砂管径	フロータ数 (組)	水上管用 ジョイント数 (個)	排砂管本数 (陸上・水上) (本)	仕切弁数 (個)	曲管本数 (本)	分岐管本数 (本)
	(表 8.2)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

(注) 1. 排砂管損料日数は排泥計画に基づき各ブロック毎の浚渫船運転日数を計上する。

2. J 1 条件で⑤を選択し、J 2～J 7 において実数入力をした場合には、フロータ(各種)(Y-0481000) [円/組]、ジョイント(各種)(Y-0482000) [円/個]、排砂管(各種)(Y-0480000) [円/本]、仕切弁(各種)(Y-0483000) [円/個]、曲管(各種)(Y-0484000) [円/本] 及び分岐管(各種)(Y-0485000) [円/本] を単価登録すること。
3. J 2～J 7 条件は、排泥計画に基づき各ブロック毎の排泥距離に対する必要数量を実数入力する事とし、小数第1位四捨五入、整数止め入力とする。

表 8. 2 排砂管径規格

規 格	入力番号
排砂管径 300 mm	①
排砂管径 350 mm	②
排砂管径 400 mm	③
排砂管径 510 mm	④
各種	⑤

2) 浚渫船機械管理費 官船の場合

施工歩掛コード		WB310740	施工単位	日	
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	浚渫船規格 (官船)	供用日当り運転時間 (h／日)	浚渫船運転	排砂管径	フロータ数 (組)
	(表 8.3)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①標準(13時間運転) ②標準以外(17時間運転)	(表 8.2)	(実数入力)

J 6	J 7	J 8	J 9	J 10
水上管用 ジョイント数 (個)	排砂管本数 (陸上・水上) (本)	仕切弁数 (個)	曲管本数 (本)	分岐管本数 (本)
(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

- (注) 1. 排砂管損料日数は排泥計画に基づき各ブロック毎の浚渫船運転日数を計上する。
2. J 4 条件で⑤を選択し, J 5～J 10 において実数入力をした場合には, フロータ(各種)(Y-0481000) [円/組], ジョイント(各種)(Y-0482000) [円/個], 排砂管(各種)(Y-0480000) [円/本], 仕切弁(各種)(Y-0483000) [円/個], 曲管(各種)(Y-0484000) [円/本] 及び分岐管(各種)(Y-0485000) [円/本] を単価登録すること。
3. J 2 条件の供用日当り運転時間(h/日)は実数入力とし, 小数第2位四捨五入, 小数第1位止め入力とする。
4. J 5～J 10 条件は, 排泥計画に基づき各ブロック毎の排泥距離に対する必要数量を実数入力する事とし, 小数第1位四捨五入, 整数止め入力とする。

表 8. 3 浚渫船規格(官船)

規 格	入力番号
ディーゼル式 D 250 P S 型	①
ディーゼル式 D 600 P S 型	②
ディーゼル式 D 1,350 P S 型	③

(3) 排砂管保守費

施工歩掛コード	WB310770	施工単位	日

(4) 繋船費

施工歩掛コード	WB310780	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	浚渫船規格		
	(表 8.1)		

(注) 共通仮設費の準備費として積算する。

(5) 交通船費

施工歩掛コード	WB310760	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	浚渫船規格 (表 8.1)	浚渫船運転 ①標準(13 時間運転) ②標準外(17 時間運転)	

(6) 揚錨船費

施工歩掛コード	WB310750	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	浚渫船規格 (表 8.1)	浚渫船運転 ①標準(13 時間運転) ②標準外(17 時間運転)	

(7) 排砂管及び受枠設置

施工歩掛コード	WB310790	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	管径区分 (表 8.4)	高さ区分 (表 8.5)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

表 8. 4 管径区分

区 分	入力番号
I (200 mm ～ 300 mm)	①
II (350 mm ～ 560 mm)	②

表 8. 5 高さ区分

区 分	入力番号
A (0 m) 【笠木のみ】	①
B (1 m) 【0 m ～ 1.5 m】	②
C (2 m) 【1.5 m ～ 2.5 m】	③
D (3 m) 【2.5 m ～ 3.5 m】	④

(8) 排砂管及び受枠撤去

施工歩掛コード	WB310800	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	高さ区分 (表 8.5)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

(9) 排砂管及びフロータ設置

施工歩掛コード	WB310820	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	浚渫船規格 (表 8.1)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

(10) 排砂管及びフロータ撤去

施工歩掛コード	WB310830	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	浚渫船規格 (表 8.1)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

(11) 排土費

施工歩掛コード	WB310840	施工単位	日
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	浚渫船規格 (表 8.1)	浚渫船運転 ①標準 ②標準外	ブルドーザ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

(注) 本コードは、ブルドーザの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

④ー２ バックホウ浚渫船

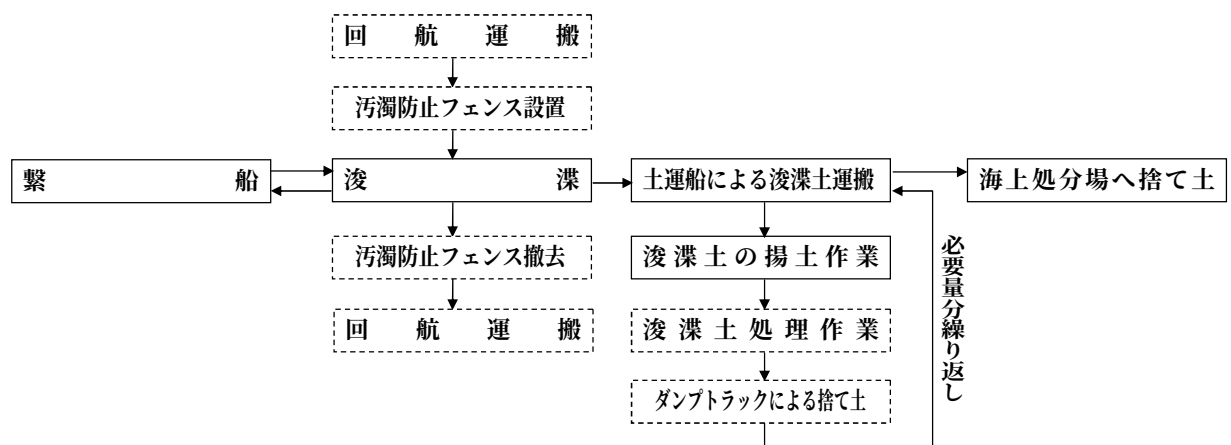
1. 適用範囲

本資料は、河川及びダムにおけるバックホウ浚渫船による浚渫工の施工に適用する。また、適用する土質は、粘性土、砂質土及び砂、レキ質土等とする。

2. 施工概要

バックホウ浚渫船は、スパッド付台船等に搭載されたバックホウにて、河床等の土砂を掘削し、土運船等にて土砂の運搬を行う。

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。
 2. 汚濁防止フェンス又は汚濁防止柵（バックホウ浚渫船用付属品）については、掘削時に濁水の拡散により、水質等の影響がある場合に、別途計上する。
 3. 浚渫土処理作業については、浚渫土の処理時に発生する余水処理や運搬及び浚渫土の再利用時の固化処理であり、必要な場合は別途計上する。
 4. 本歩掛には、浚渫作業中の浚渫船の引船運転を含む。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。ただし、規格を選定する際には、以下の項目を考慮し、決定するものとする。

- 1) 浚渫深度（表3.1 摘要参照）
- 2) 施工数量、工期、運転時間、土捨て場の受入れ土量等

表3.1 機種の選定

(人)

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ浚渫船	D 1.0m ³	隻	1	標準最大作業水深4m
	D 2.0m ³	〃	1	標準最大作業水深6m

(注) 現場条件（現場の広さ、機械の搬入条件）により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 浚 渫 船 の 運 転

4－1 浚渫能力（単位時間当り浚渫量）

積算の基礎となる浚渫能力は、次式により算出し決定する。なお、1日当りの浚渫船の運転時間は、7時間を標準とする。積算対象となる浚渫土量は、計画浚渫面に対する地山土量とし、浚渫の出来高土量の検収は跡坪による検収を原則とする。ただし、河川及びダム の施工箇所の状況によって河床土砂の移動が甚だしく、浚渫箇所が短期間で埋没し跡坪による検収が困難な場合は、浚渫土量が確実に検収できるよう種々対策を講じたうえ、その土量をもって浚渫土量とする。

余掘量は、契約対象土量とはしないが、浚渫取扱土量中に含め積算の対象とする。

$Q=45.5q \times \alpha \times E$ ……式4.1

Q：バックホウ浚渫船1時間当り浚渫量（m³／h）

q：バックホウバケット容積（m³）

α：土質係数

E：作業係数

表4. 1 土質係数α

土 質		係 数
分 類	N 値	
粘 性 土	10未満	1.00
砂 質 土 及 び 砂	10～30未満	0.68
レ キ 質 土	30～50未満	0.56

表4. 2 作業係数E

係 数	作業係数適用条件
1.00	平均土厚が1mを超え、かつ浚渫区域が連続している工事
0.82	平均土厚が1m以下、又は浚渫区域が点在している工事
0.70	平均土厚が1m以下、かつ浚渫区域が点在している工事

（注） 平均土厚には、余掘厚が含まれる。

4－2 浚渫船運転労務費

（1）編成人員

浚渫作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4. 3 日当り編成人員（人）

作 業 種 別	高 級 船 員	普 通 船 員	運転手(特殊)
バックホウ浚渫船 D1.0m ³ 及びD2.0m ³	1	2	1

（2）休転日数と運転日数

浚渫期間中における、浚渫船の休転日は、次表のとおりとする。

月間計画浚渫土量並びに計画浚渫期間を決定する際に、次表の休転日数以外を月間運転日数とする。

表4. 4 バックホウ浚渫船の1箇月当り休転日

休 転 日 種 別	休 転 日 数	備 考
A	1	浚渫船等の修理等のための休転日
B	8	休日のための休転日

（注） ただし、出水期等による特殊事情がある場合は、別途考慮する。

4-3 繋船費

繋船費は、共通仮設費の準備費で、下記により積上げ計上する。

浚渫船の休転日（A）における乗務員の労務費及び、次表に示す運転準備期間及び後片付け期間の乗務員の労務費を計上する。なお、休転日（B）については積上げの対象とはせず、また乗務員数は、表4.3に示す職種及び人員とする。

表4.5 運転準備及び後片付け期間

	日 数
運 転 準 備 期 間	2 (5)
後 片 付 け 期 間	2 (5)

(注) 汚濁防止フェンス設置時は、() 内とする。

4-4 作業船運転費

作業現場内の風浪出水時における退避、繋留等の作業が必要な場合は、別途計上する。

4-5 土運船運転費

バックホウ浚渫船より掘削した土砂を、土運船で陸揚げ場まで運搬又は海上処分場まで運搬するのに要する費用である。

(1) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.6 機種の選定

作 業 種 別	土 運 船			引 船			摘 要
	規 格	単 位	数 量	規 格	単 位	数 量	
1日当り平均浚渫量 215m ³ 以下	密閉式 100m ³ 積	隻	2	鋼製 D 300PS型 25GT	隻	2	
1日当り平均浚渫量 216m ³ 以上645m ³ 以下	密閉式 300m ³ 積	//	2	鋼製 D 500PS型 40GT	//	2	

(注) 海上処分場への捨て土の場合、土運船の規格は「開閉式」に読み替える。

(2) 編成人員

土運船及び引船の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.7 日当り編成人員 (人)

作 業 種 別	土 運 船	引 船	
	普 通 船 員	高 級 船 員	普 通 船 員
1日当り平均浚渫量 215m ³ 以下	2	2	—
1日当り平均浚渫量 216m ³ 以上645m ³ 以下	2	2	2

(3) 浚渫土運搬作業日数

土運船による浚渫土の運搬作業日数は、浚渫作業日数を計上するものとする。なお、運搬作業1日当り作業内容は、次のとおりである。

- ① 浚渫船からの浚渫土積込時間
- ② 運搬・回送時間
- ③ 浚渫土の積卸時間
- ④ 土運船段取替え時間

なお、運搬・回送距離は35km（片道）まで含むものとし、これを超える場合は別途考慮する。

4-6 浚渫土揚土費

土運船によって運搬された浚渫土のダンプトラックへの積込み又は仮置き作業に要する費用である。

(1) 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表4.8 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
1日当り平均浚渫量 365m ³ 以下	(バックホウ (クローラ型))	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	台	1	
1日当り平均浚渫量 366m ³ 以上645m ³ 以下			//	2	

(2) 浚渫土揚土作業日数

浚渫土の揚土作業日数は、浚渫作業日数を計上するものとする。

4-7 ダンプトラック運搬費

処分地への浚渫土運搬に要する費用であり、「第Ⅱ編第1章②土工(施工パッケージ)3-2 土砂等運搬」により別途計上する。

5. 回航費並びに運搬費

回航費は、浚渫船の回航、又は、本船解体及び工事用仮設材の運搬に要する費用で、それぞれ必要に応じて共通仮設費の運搬費として積上げ計上する。

6. 雑工事費

- (1) 出水期における浚渫船の安全対策が必要な場合は、河川及びダム状況により繋留設備、又は待避溝の設置を見込むとともに浚渫船待避に要する費用を計上する。
- (2) その他、浚渫工事に伴う雑工事が必要な場合は、別途計上する。

7. 汚濁防止フェンス

汚濁防止フェンス設置・撤去は「第Ⅱ編第5章⑭汚濁防止フェンス工」により別途計上する。

8. 単 価 表

(1) 浚渫船(○○m³) 運転1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB311210
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人	1	表4.3
普 通 船 員		〃	2	〃
運 転 手 (特 殊)		〃	1	〃
バックホウ浚渫船運転	D ○○m ³	日	1	機械損料
汚 濁 防 止 枠		供用日	1.51	必要に応じて計上 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 繫船費1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB311220
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人	1	表4.3
普 通 船 員		〃	2	〃
運 転 手 (特 殊)		〃	1	〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(3) 土運船(○○○m³積) 運転1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB311230
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
高 級 船 員		人		表4.7
普 通 船 員		〃		〃
引 船 運 転	鋼製 D ○○○PS型 ○○GT	日		表4.6、表4.7 機械損料
土 運 船	○○式 ○○○m ³ 積	供用日		表4.6、表4.7 日当り機械損料に 機械損料数量を乗 じて計上する。 【指定事項】 機械損料数量→1.50
諸 雑 費		式	1	
計				

- (注) 1. 海上処分場への捨て土の場合、土運船の規格は「開閉式」に読み替える。
2. 日当り機械損料に機械損料数量を乗じて計上する。

(4) 浚渫土揚土1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB311240
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
バックホウ (クローラ型)運転	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	日		表4.8 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ浚渫船	D 1.0m ³	機－24	燃料消費量→252 機械損料数量→ 1.51
	D 2.0m ³		燃料消費量→371 機械損料数量→ 1.51
引 船	鋼製 D300PS型 25GT	機－24	燃料消費量→489 機械損料数量→ 1.50
	鋼製 D500PS型 40GT		燃料消費量→803 機械損料数量→ 1.50
バックホウ (クローラ型)	標準型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	機－18	機械労務数量→ 1.00 燃料消費量→150 機械損料数量→ 1.50

9. 施工単価入力基準表

(1) 浚渫船運転費

施工歩掛コード	WB311210	施工単位	日
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	浚渫船規格 ①D 1.0m ³ ②D 2.0m ³	汚濁防止枠の有無 ①有 ②無	

(2) 繋船費

施工歩掛コード	WB311220	施工単位	日

(注) 共通仮設費の準備費として積算する。

(3) 土運船運搬費

施工歩掛コード	WB311230	施工単位	日
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	1日当り 平均浚渫量 (表9.1)	土運船規格 ①密閉式 ②開閉式	

表9.1 1日当り平均浚渫量

規 格	入力番号
215m ³ 以下	①
216m ³ 以上645m ³ 以下	②

(4) 浚渫土揚土費

施工歩掛コード	WB311240	施工単位	日
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	1日当り 平均浚渫量 (表9.2)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)	

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種及び普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

表9.2 1日当り平均浚渫量

規 格	入力番号
365m ³ 以下	①
366m ³ 以上645m ³ 以下	②

⑤ 軟弱地盤上における柔構造樋門・樋管工

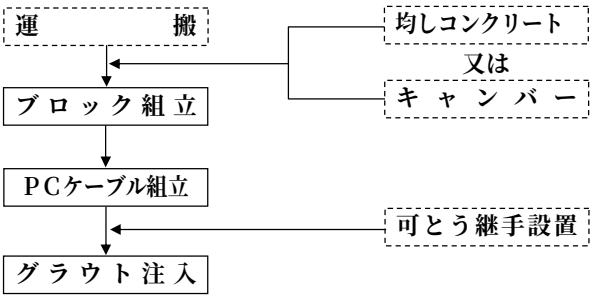
1. 適用範囲

本資料は、軟弱地盤上の河川堤防内に設置するPCプレキャスト構造の樋門・樋管(1,800□～2,100□×1,700～2,000L)に適用する。

ただし、特殊な構造の樋管や、函体の沈下を許容することが困難な樋管等については、適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型	台	1	

- (注) 1. 規格が5 t吊以上100 t未満となる場合は、ラフテレーンクレーンを標準とする。
2. 現場条件により上表により難い場合は、別途考慮する。
3. トラッククレーン、ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. ブロック組立工

ブロックの芯合わせ、据付け、無収縮モルタル及びゴム目地による目地作業（型枠設置・撤去、目地工）、裏込グラウト工までの作業とし、歩掛は次表を標準とする。

表4.1 ブロック組立工歩掛 (1ブロック当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.3	
特 殊 作 業 員		〃	1.4	
普 通 作 業 員		〃	1.3	
ト ラ ッ ク ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型 ○○t吊	日	0.2	
諸 雑 費 率		%	14	

- (注) 1. 規格が5 t吊以上100 t未満となる場合は、ラフテレーンクレーンを標準とする。
2. トラッククレーン規格及びラフテレーンクレーン規格は、現場条件により選定する。
3. 諸雑費は、据付調整用塩ビ材、型枠材、ゴム目地用コーキング材、グラウト材、グラウトポンプ及びグラウトミキサの損料、電力に関する経費、ビニールホース、流出防止用パッキン等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 目地材（無収縮モルタル・ゴム目地）の使用量については別途計上し、計上にあたっては次のとおりとする。
① 無収縮モルタルについては、1ブロック当たり0.06m³とする。
② ゴム目地については、沈下量によって材質及び厚さを決定する。使用量については、別途計上とする。

5. ケーブル組立工

5-1 ケーブル組立工内訳

ケーブル組立工の内訳は、次表を標準とする。

表5.1 ケーブル組立工内訳

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
P C ケ ー ブ ル		kg		
シ ー ス		m		
定 着 装 置		個		
PCケーブル組立工		ケーブル数		表5.2

- (注) 1. PCケーブルのロス率は、+0.05とし、スクラップ控除はしない。
 2. シースは実長を計上し、ロス率は、+0.06としてスクラップ控除はしない。
 3. 定着装置は、必要個数を計上する。

5-2 PCケーブル組立工

PCケーブル組立工は、PCケーブル切断、シース組立、シース内ケーブル挿入、ケーブル整正、定着装置組立、緊張、モルタル跡埋作業とし、歩掛は次表を標準とする。

表5.2 PCケーブル組立工歩掛 (10ケーブル当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1.0	
特 殊 作 業 員		//	4.5	
普 通 作 業 員		//	2.4	
諸 雑 費 率		%	9	

- (注) 1. ケーブル延長は、定着装置内面間の実延長とする。
 2. 諸雑費は、定着部のグリッド、定着部型枠、定着装置取付金具、結束線、サンドペーパー、シール材等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. グラウト工

グラウト工は、シース内へのグラウト材の注入作業で、歩掛は次表を標準とする。

表6.1 グラウト工歩掛 (シース・100m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.3	
特 殊 作 業 員		//	1.6	
普 通 作 業 員		//	1.5	
諸 雑 費 率		%	15	

- (注) 諸雑費は、グラウト材、グラウトポンプ、グラウトミキサ、電力に関する経費、ビニールホース等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

7. 可とう継手工

可とう継手については、沈下量によって材質及び厚さが異なるので別途計上する。

8. 機械器具経費

PCケーブル組立工に使用する機械器具は、次表を標準とする。

表8.1 機械器具

(1工事当たり)

機 械 名	規 格	単 位	数 量	供 用 日 数	運 転 日 数
緊張ジャッキ・ポンプ		組	2		—
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 45kVA	台	1	—	

- (注) 1. 供用日数については、工事工程により日数計上する。
 2. 発動発電機は、賃料とする。
 3. 燃料費は、別途計上する。

9. 内訳書及び単価表

(1) 柔構造樋門・樋管工内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
プレキャストブロック		ブロック		WB311010
ブ ロ ッ ク 組 立 工		//		単価表(2)
ケ ー ブ ル 組 立 工		式	1	内訳書(3)
グ ラ ウ ト 工		m		単価表(5)
機 械 器 具		式	1	内訳書(6)
諸 雑 費		//	1	
計				

(2) ブロック組立工

ブロック組立工1ブロック当り単価表

施工歩掛コード	WB311020

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
ト ラ ッ ク ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型 ○○t吊	日		表4.1 機械賃料
諸 雑 費		式		表4.1
計				

- (注) 1. 規格が5 t 吊以上100 t 未満となる場合は、ラフテレーンクレーンを標準とする。
 2. 目地材は、材料費を別途計上する。

(3) ケーブル組立工

ケーブル組立工一式当り内訳書

施工歩掛コード	WB311030

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
P C ケ ー ブ ル		kg		
シ ー ス		m		
定 着 装 置		個		必要個数計上する
P C ケ ー ブ ル 組 立 工		ケーブル数		単価表(4)
計				

(4) PCケーブル組立工

PCケーブル組立工10ケーブル当り単価表

施工歩掛コード	WB311040

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表5.2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式		〃
計				

(5) グラウト工

グラウト工シース100m当り単価表

施工歩掛コード	WB311050

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表6.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式		〃
計				

(6) 機械器具一式当り内訳書

施工歩掛コード	WB311060

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
緊張ジャッキ・ポンプ		組・日		表8.1 機械損料
発 動 発 電 機	ディーゼルエンジン駆動・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 45kVA	台・日		表8.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	
計				

10. 施工単価入力基準表

(1) プレキャストブロック材料費

施工歩掛コード	WB311010	施工単位	ブロック

(注) プレキャストブロック単価 (Y-0384000) [円/個] を単価登録すること。

(2) ブロック組立工

施工歩掛コード	WB311020	施工単位	ブロック
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	
各 種	クレーン規格 (表9.1)	クレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. トラッククレーン・ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は労務費調整係数も入力すること。

2. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

表10.1 クレーン規格

クレーン規格	入力番号
ラフテレーンクレーン50 t 吊	①
トラッククレーン100 t 吊	②
トラッククレーン120 t 吊	③
トラッククレーン160 t 吊	④
トラッククレーン200 t 吊	⑤
トラッククレーン360 t 吊	⑥

(3) ケーブル組立工

施工歩掛コード	WB311030	施工単位	式	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	PCケーブル 質量 (kg) (実数入力)	シース延長 (m) (実数入力)	定着装置 (個) (実数入力)	PCケーブル数 (ケーブル) (実数入力)

(注) 1. J 1 は定着装置内面間の実延長分の質量を入力する。

2. J 2 は実延長分を入力する。

3. P C ケーブル単価 (Y-0150000) [円/kg], シース材単価 (Y-0124000) [円/m], 定着装置単価 (Y-0152000) [円/個] を単価登録すること。

(4) PCケーブル組立工

施工歩掛コード	WB311040	施工単位	ケーブル

(5) グラウト工

施工歩掛コード	WB311050	施工単位	m

(6) 機械器具経費

施工歩掛コード	WB311060	施工単位	式
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	緊急ジャッキ・ポンプ 供用日数 (日) (実数入力)	発動発電機 運転日数 (日) (実数入力)	

(注) 1. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

2. 本コードは、発動発電機の低騒音機種についても適用出来る。

3. 緊張ジャッキ・ポンプ損料（Y-5001000）[円／供用日]を単価登録すること。

第2章 河川維持工

① 堤防除草工	Ⅲ-2-①- 1	⑨ 多自然護岸工	Ⅲ-2-⑨- 1
1 適用範囲	Ⅲ-2-①- 1	⑨-1 巨石積(張)工	Ⅲ-2-⑨- 1
2 施工概要	Ⅲ-2-①- 1	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑨- 1
3 工法の選定	Ⅲ-2-①- 2	2 施工概要	Ⅲ-2-⑨- 2
4 施工パッケージ	Ⅲ-2-①- 3	3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑨- 3
5 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-①-14	4 基本数量の算出基準	Ⅲ-2-⑨- 8
② 堤防天端補修工	Ⅲ-2-②- 1	5 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑨- 9
1 適用範囲	Ⅲ-2-②- 1	⑨-2 木杭打工	Ⅲ-2-⑨-12
2 施工概要	Ⅲ-2-②- 1	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑨-12
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-②- 2	2 施工概要	Ⅲ-2-⑨-12
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-②- 4	3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑨-12
③ 堤防芝養生工	Ⅲ-2-③- 1	4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑨-13
1 適用範囲	Ⅲ-2-③- 1	⑨-3 巨石据付工	Ⅲ-2-⑨-14
2 施工概要	Ⅲ-2-③- 1	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑨-14
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-③- 2	2 機種の選定	Ⅲ-2-⑨-14
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-③- 4	3 施工歩掛	Ⅲ-2-⑨-14
④ 伐木除根工	Ⅲ-2-④- 1	4 単価表	Ⅲ-2-⑨-14
1 適用範囲	Ⅲ-2-④- 1	5 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑨-15
2 施工概要	Ⅲ-2-④- 1	⑩ 護岸基礎ブロック工	Ⅲ-2-⑩- 1
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-④- 2	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑩- 1
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-④-13	2 施工概要	Ⅲ-2-⑩- 1
⑤ 塵芥処理工	Ⅲ-2-⑤- 1	3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑩- 2
1 適用範囲	Ⅲ-2-⑤- 1	4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑩- 5
2 施工概要	Ⅲ-2-⑤- 1	⑪ かごマット工	Ⅲ-2-⑪- 1
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑤- 2	⑪-1 かごマット工(スロープ型)	Ⅲ-2-⑪- 1
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑤- 9	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑪- 1
⑥ ボーリンググラウト工	Ⅲ-2-⑥- 1	2 施工概要	Ⅲ-2-⑪- 1
1 適用範囲	Ⅲ-2-⑥- 1	3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑪- 2
2 施工概要	Ⅲ-2-⑥- 2	4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑪- 3
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑥- 3	⑪-2 かごマット工(多段積型)	Ⅲ-2-⑪- 4
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑥- 8	1 適用範囲	Ⅲ-2-⑪- 4
⑦ 粗朶沈床工	Ⅲ-2-⑦- 1	2 施工概要	Ⅲ-2-⑪- 5
1 適用範囲	Ⅲ-2-⑦- 1	3 機種の選定	Ⅲ-2-⑪- 5
2 施工概要	Ⅲ-2-⑦- 1	4 施工歩掛	Ⅲ-2-⑪- 5
3 機種の選定	Ⅲ-2-⑦- 1	5 材料使用量	Ⅲ-2-⑪- 6
4 施工歩掛	Ⅲ-2-⑦- 2	6 単価表	Ⅲ-2-⑪- 6
5 単価表	Ⅲ-2-⑦- 4	7 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑪- 7
6 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑦- 5		
⑧ 機械土工(河床等掘削)	Ⅲ-2-⑧- 1		
1 適用範囲	Ⅲ-2-⑧- 1		
2 施工概要	Ⅲ-2-⑧- 1		
3 施工パッケージ	Ⅲ-2-⑧- 1		
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑧- 3		

⑫	ブロックマット工	Ⅲ-2-⑫- 1	⑮	笠コンクリートブロック据付工	Ⅲ-2-⑮- 1
1	適用範囲	Ⅲ-2-⑫- 1	1	適用範囲	Ⅲ-2-⑮- 1
2	施工概要	Ⅲ-2-⑫- 1	2	施工概要	Ⅲ-2-⑮- 1
3	機種の選定	Ⅲ-2-⑫- 1	3	施工パッケージ	Ⅲ-2-⑮- 1
4	施工歩掛	Ⅲ-2-⑫- 1	4	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑮- 3
5	単価表	Ⅲ-2-⑫- 3	⑯	グラウトホール工	Ⅲ-2-⑯- 1
6	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑫- 4	1	適用範囲	Ⅲ-2-⑯- 1
7	参考資料	Ⅲ-2-⑫- 5	2	施工パッケージ	Ⅲ-2-⑯- 1
⑬	野芝種子吹付工	Ⅲ-2-⑬- 1	3	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑯- 1
1	適用範囲	Ⅲ-2-⑬- 1	⑰	連節ブロックの水中吊落し工	Ⅲ-2-⑰- 1
2	施工概要	Ⅲ-2-⑬- 1	1	適用範囲	Ⅲ-2-⑰- 1
3	施工パッケージ	Ⅲ-2-⑬- 2	2	機種の選定	Ⅲ-2-⑰- 1
4	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑬- 4	3	施工歩掛	Ⅲ-2-⑰- 1
⑭	袋詰玉石工	Ⅲ-2-⑭- 1	4	材料使用量	Ⅲ-2-⑰- 1
1	適用範囲	Ⅲ-2-⑭- 1	5	単価表	Ⅲ-2-⑰- 2
2	施工概要	Ⅲ-2-⑭- 1	6	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑰- 3
3	施工パッケージ	Ⅲ-2-⑭- 1	7	参考図	Ⅲ-2-⑰- 4
4	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑭- 3	⑱	光ケーブル配管工	Ⅲ-2-⑱- 1
			1	適用範囲	Ⅲ-2-⑱- 1
			2	施工概要	Ⅲ-2-⑱- 1
			3	施工パッケージ	Ⅲ-2-⑱- 1
			4	施工単価入力基準表	Ⅲ-2-⑱- 9

第2章 河川維持工

① 堤防除草工

1. 適用範囲

本資料は、河川堤防及び高水敷等の除草、集草、梱包、積込み・荷卸及び運搬に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草（芝刈）、芝養生（拔取り）、薬剤散布は含まない。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 除草

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草の場合

1-1-2 集草

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草後の集草の場合

1-1-3 梱包

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草・集草後の梱包の場合

1-1-4 積込・荷卸

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草・集草・梱包後の積込・荷卸の場合

1-1-5 運搬（堤防除草）

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草後の集積物の運搬の場合

1-1-6 除草、集草（人力）、梱包、積込・荷卸（総合）

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草、人力による集草、梱包、積込・荷卸の場合

1-1-7 除草、集草（機械）、梱包、積込・荷卸（総合）

(1) 河川堤防及び高水敷等の除草、機械による集草、梱包、積込・荷卸の場合

(2) 除草と集草を同一機種で行う場合

1-2 適用出来ない範囲

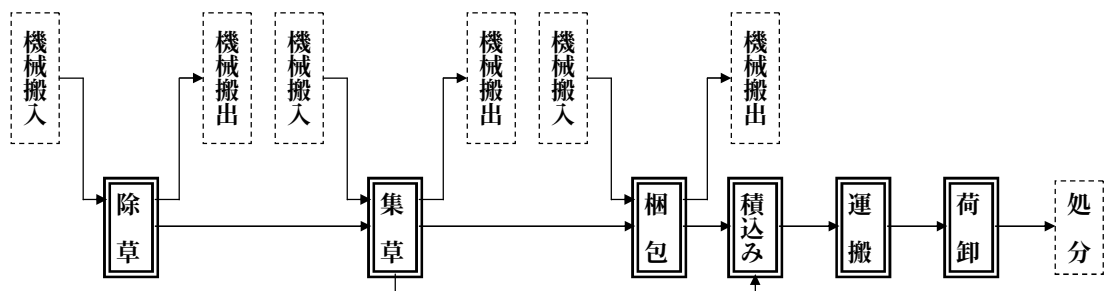
1-2-1 運搬（堤防除草）

(1) 自動車専用道路を利用する場合

(2) 運搬距離が40 kmを超える場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

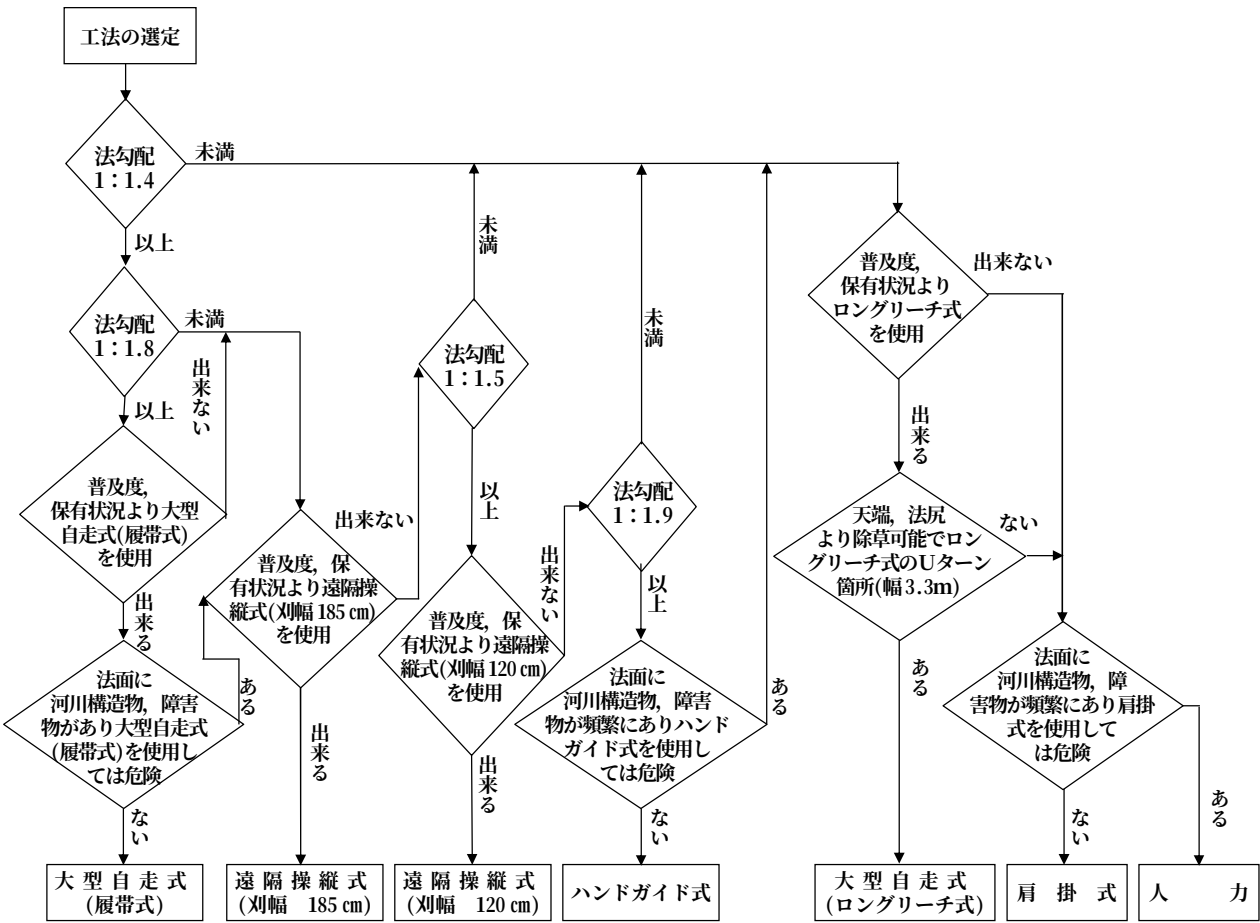


(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

図2-1 施工フロー

3. 工法の選定

除草工法の選定は、下図を標準とする。



(注) 工法の選定は、現場条件及び機械の普及度、保有状況により選定出来るものとする。

図3-1 工法の選定

4. 施工パッケージ

4-1 除草

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.1 除草 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

除草機種	機械使用条件	飛散防止措置
大型自走式(ロングリーチ式)	持込	-
	貸与	
大型自走式(履带式)	持込	
	貸与	
遠隔操縦式(刈幅 185cm)	持込	
	貸与	
遠隔操縦式(刈幅 120cm)	持込	
	貸与	
ハンドガイド式(刈幅 150cm)	-	
肩掛式(カッタ径 255mm)	-	有り
		無し
人力	-	-

(注) 1. 上表は、河川堤防及び高水敷等の除草、補助刈の他、燃料費、補助刈に使用する機械経費、飛び石防護材(肩掛式の場合)、鎌、砥石等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 危険物、空き缶、ビニール、流木、石等の除去は、「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。

3. 肩掛式(カッタ径 255mm)以外で飛散防止措置が必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.2 除草 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	草刈車 ロングリーチ装置付 オール式	大型自走式(ロングリーチ式)の場合
		草刈車 [大型自走式] 履带式	大型自走式(履带式)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 185cm	遠隔操縦式(刈幅 185cm)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 120cm	遠隔操縦式(刈幅 120cm)の場合
		草刈機 [ハンドガイド式・笹／ヨシ等用] [簡易搭乗型] 刈幅 150 cm	ハンドガイド式(刈幅 150cm)の場合
		草刈機 [肩掛式] カッタ径φ255mm	肩掛式(カッタ径 255mm)の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	人力は除く
	R 2	運転手(特殊)	大型自走式(ロングリーチ式)の場合
	R 3	普通作業員	飛散防止措置無しは除く
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-2 集草

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.3 集草 積算条件区分一覧 (積算単位：㎡)

集草機種	機械使用条件
大型自走式(履带式)	持込
	貸与
遠隔操縦式(集草幅 180cm)	持込
	貸与
遠隔操縦式(集草幅 160cm)	持込
	貸与
ハンドガイド式(集草幅 200 cm)	-
人力	-

- (注) 1. 上表は、河川堤防及び高水敷等の除草後の集草の他、燃料費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 機械集草は、機械の普及度・現場条件により使用出来る場合に行う。
3. 集草機械は、大型自走式(履带式)、遠隔操縦式(刈幅 185 cm)、遠隔操縦式(刈幅 120 cm)、ハンドガイド式草刈機[簡易搭乗型](刈幅 150 cm)の各除草機械のアタッチメントで「レーキ式(タイン式)」を標準とする。なお、遠隔操縦式の集草幅 180 cmは刈幅 185 cm、集草幅 160 cmは刈幅 120 cmの除草機械のアタッチメントである。
4. 廃棄、処分費用等が必要な場合は、別途計上する。
5. 危険物、空き缶、ビニール、流木、石等の除去は、「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.4 集草 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	集草機 [大型自走式] 履带式	大型自走式(履带式)の場合
		集草機 [遠隔操縦式] 集草幅 180cm	遠隔操縦式(集草幅 180cm)の場合
		集草機 [遠隔操縦式] 集草幅 160cm	遠隔操縦式(集草幅 160cm)の場合
		集草機 [ハンドガイド式] [簡易搭乗型] 集草幅 200 cm	ハンドガイド式(集草幅 200cm)の場合
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	人力は除く
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	人力は除く
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-3 梱包

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.5 梱包 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

機械使用条件
持込
貸与

- (注) 1. 上表は、河川堤防及び高水敷等の除草・集草後の梱包の他、燃料費、梱包材料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 梱包は、機械の普及度・現場条件により使用出来る場合に行う。
 3. 刈草梱包機械は、ハンドガイド式[簡易搭乗型] (梱包径 50 cm×幅 70 cm) を標準とする。
 4. 廃棄、処分費用等が必要な場合は、別途計上する。
 5. 危険物、空き缶、ビニール、流木、石等の除去は、「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.6 梱包 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	刈草梱包機械 [ハンドガイド式] [簡易搭乗型] 梱包径 50cm×幅 70cm	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-4 積込・荷卸

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.7 積込・荷卸 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

機種
ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級）（梱包無し）
ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級）（梱包有り）
パッカー車（回転式・積載容量 8m ³ ）

- (注) 1. 上表は、河川堤防及び高水敷等の除草・集草・梱包後の積込・荷卸の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 運搬機械はダンプトラックを標準とし、処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には、パッカー車を選定する。
3. 廃棄、処分費用等が必要な場合は、別途計上する。
4. 危険物、空き缶、ビニール、流木、石等の除去は、「第Ⅲ編第2章河川維持工④塵芥処理工」で別途計上する。
5. 運搬機械が現地（天端や法尻等）に入れない場合の積込みは、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.8 積込・荷卸 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-5 運搬(堤防除草)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表4.9 運搬(堤防除草) 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

運搬機種	梱包の有無	DID 区間の有無	運搬距離(片道)
ダンプトラック(オンロード・ディーゼル・2t 積級)	梱包有り	無し	(表 4.10)
		有り	(表 4.11)
	梱包無し	無し	(表 4.10)
		有り	(表 4.11)
パッカー車 (回転式・積載容量 8m ³)	-	無し	(表 4.12)
		有り	(表 4.13)

- (注) 1. 上表は、河川堤防及び高水敷等の除草後の集積物の運搬の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む。
3. 運搬機種はダンプトラックを標準とし、処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には、パッカー車を選定する。
4. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
5. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
6. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
7. 自動車専用道路を利用する場合は、別途考慮する。
8. 運搬距離が 40 km を超える場合は、別途考慮する。
9. 集積物の処分費は、別途計上する。

表4.10 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.5km 以下
	4.0km 以下
	6.0km 以下
	7.5km 以下
	9.5km 以下
	11.0km 以下
	13.0km 以下
	17.0km 以下
	22.0km 以下
	25.0km 以下
	32.5km 以下
	40.0km 以下

表4.11 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.5km 以下
	4.0km 以下
	5.5km 以下
	7.0km 以下
	8.5km 以下
	10.0km 以下
	12.0km 以下
	15.5km 以下
	19.0km 以下
	21.5km 以下
	26.0km 以下
	40.0km 以下

表4.12 運搬距離(3)

積算条件	区分
運搬距離	5.0km 以下
	6.5km 以下
	8.0km 以下
	10.0km 以下
	12.0km 以下
	14.0km 以下
	16.0km 以下
	18.0km 以下
	20.5km 以下
	26.5km 以下
	35.0km 以下
	40.0km 以下

表4.13 運搬距離(4)

積算条件	区分
運搬距離	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.5km 以下
	9.0km 以下
	11.0km 以下
	12.5km 以下
	14.5km 以下
	16.0km 以下
	18.0km 以下
	22.0km 以下
	27.0km 以下
	40.0km 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.14 運搬(堤防除草) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2t 積級	タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
		パッカー車 [回転式] 積載容量 8.0m ³	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手 (一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-6 除草, 集草(人力), 梱包, 積込・荷卸(総合)

(1) 条件区分

条件区分は, 次表を標準とする。

表4.15 除草, 集草(人力), 梱包, 積込・荷卸(総合) 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

除草機種	梱包の有無	機械使用条件	運搬機械	飛散防止措置
大型自走式 (ロングリーチ式)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
	梱包無し	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
大型自走式 (履带式)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
	梱包無し	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
遠隔操縦式 (刈幅 185cm)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	-
	梱包無し	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
遠隔操縦式 (刈幅 120cm)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
	梱包無し	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
ハンドガイド式 (刈幅 150cm)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	(表4.17)
	梱包無し	-	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
肩掛式 (カッタ径 255mm)	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
	梱包無し	-	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	
人力	梱包有り	(表4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	-
	梱包無し	-	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)	
			バッカー車(回転式・積載容量 8m ³)	

- (注) 1. 上表は, 河川堤防及び高水敷等の除草, 人力による集草, 梱包, 積込・荷卸, 補助刈の他, 燃料費, 補助刈に使用する機械経費, 飛び石防護材(肩掛式の場合), 鎌, 砥石, 梱包材料等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 刈草梱包機械は, ハンドガイド式(梱包 φ50 cm×70 cm)を標準とする。
3. 運搬機械はダンプトラックを標準とし, 処分場等受入れ側の指定機械がバッカー車のみに限られる場合には, バッカー車を選定する。
4. 運搬機械が現地(天端や法尻等)に入れない場合の積込みは別途考慮する。
5. 廃棄, 処分費用等が必要な場合は, 別途計上する。
6. 危険物, 空き缶, ビニール, 流木, 石等の除去は, 「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。
7. 肩掛式(カッタ径 255mm)以外で飛散防止措置が必要な場合は, 別途計上する。

表4.16 機械使用条件

積算条件	区分
機械使用条件	持込
	貸与

表4.17 飛散防止措置

積算条件	区分
飛散防止措置	有り
	無し

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.18 除草、集草(人力)、梱包、積込・荷卸(総合) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	草刈車 ロンゲリチーフ装置付 ホール式	大型自走式(ロンゲリチーフ式)の場合
		草刈車 [大型自走式] 履带式	大型自走式(履带式)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 185cm	遠隔操縦式(刈幅 185cm)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 120cm	遠隔操縦式(刈幅 120cm)の場合
		草刈機 [ハンドガイド式・笹／ヨシ等用] [簡易搭乗型] 刈幅 150cm	ハンドガイド式(刈幅 150cm)の場合
		草刈機 [肩掛式] カッタ径 255mm	肩掛式(カッタ径 255mm)の場合
	K 2	刈草梱包機械 [ハンドガイド式] [簡易搭乗型] 梱包径 50cm×幅 70cm	梱包有りの場合
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	人力は除く
	R 3	運転手(特殊)	大型自走式(ロンゲリチーフ式)の場合
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4-7 除草, 集草(機械), 梱包, 積込・荷卸(総合)

(1) 条件区分

条件区分は, 次表を標準とする。

表 4. 19 除草, 集草(機械), 梱包, 積込・荷卸(総合) 積算条件区分一覧 (積算単位: m²)

除草機種	梱包の有無	機械使用条件	運搬機械
大型自走式 (履带式)	梱包有り	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
	梱包無し	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
			パッカー車(回転式・積載容量 8m ³)
遠隔操縦式 (刈幅 185cm)	梱包有り	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
	梱包無し	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
			パッカー車(回転式・積載容量 8m ³)
遠隔操縦式 (刈幅 120cm)	梱包有り	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
	梱包無し	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
			パッカー車(回転式・積載容量 8m ³)
ハンドガイド式 (刈幅 150cm)	梱包有り	(表 4.16)	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
	梱包無し	-	ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t 積級)
			パッカー車(回転式・積載容量 8m ³)

- (注) 1. 上表は, 河川堤防及び高水敷等の除草, 機械による集草, 梱包, 積込・荷卸, 補助刈の他, 燃料費, 補助刈に使用する機械経費, 梱包材料等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 除草と集草を同一機種で行う場合に適用する。
3. 集草機械は, 各々の除草機械のアタッチメント [レーキ式(タイン式)] とする。
4. 刈草梱包機械は, ハンドガイド式[簡易搭乗型](梱包径 50 cm×幅 70 cm)を標準とする。
5. 運搬機械はダンプトラックを標準とし, 処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合には, パッカー車を選定する。
6. 運搬機械が現地(天端や法尻等)に入れない場合の積込みは別途考慮する。
7. 廃棄, 処分費用等が必要な場合は, 別途計上する。
8. 危険物, 空き缶, ビニール, 流木, 石等の除去は, 「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。
9. 飛散防止措置が必要な場合は, 別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表4.20 除草, 集草(機械), 梱包, 積込・荷卸(総合) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	集草機 [大型自走式] 履带式	大型自走式(履带式)の場合
		集草機 [遠隔操縦式] 集草幅 180cm	遠隔操縦式(刈幅 185cm)の場合
		集草機 [遠隔操縦式] 集草幅 160cm	遠隔操縦式(刈幅 120cm)の場合
		集草機 [ハンドガイド式] [簡易搭乗型] 集草幅 200cm	ハンドガイド式(刈幅 150cm)の場合
	K 2	草刈車 [大型自走式] 履带式	大型自走式(履带式)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 185cm	遠隔操縦式(刈幅 185cm)の場合
		草刈機 [遠隔操縦式] 刈幅 120cm	遠隔操縦式(刈幅 120cm)の場合
		草刈機 [ハンドガイド式・笹／ヨシ等用] [簡易搭乗型] 刈幅 150cm	ハンドガイド式(刈幅 150cm)の場合
	K 3	刈草梱包機械 [ハンドガイド式] [簡易搭乗型] 梱包 径 50cm×幅 70cm	梱包有りの場合
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

5. 施工単価入力基準表

(1) 除草

パッケージコード	CB320010	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	除草機種 (表 5.1)	機械使用条件 ①持込 ②貸与	飛散防止措置 ①有り ②無し

- (注) 1. J 1 条件で⑤, ⑥を選択した場合, J 2 条件は入力する必要はない。
 2. J 1 条件で①～⑤を選択した場合は, J 3 条件を入力する必要はない。
 3. J 1 条件で⑦を選択した場合は, J 2, J 3 条件を入力する必要はない。

表5.1 除草機種

除 草 機 種	入力番号
大型自走式 (ロングリーチ式)	①
大型自走式 (履带式)	②
遠隔操縦式 (刈幅 185 cm)	③
遠隔操縦式 (刈幅 120 cm)	④
ハンドガイド式 (刈幅 150 cm)	⑤
肩掛式 (カッタ径 255 mm)	⑥
人力	⑦

(2) 集草

パッケージコード	CB320030	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	集草機種 (表 5.2)	機械使用条件 ①持込 ②貸与	

- (注) J 1 条件で④, ⑤を選択した場合, J 2 条件は入力する必要はない。

表5.2 集草機種

集 草 機 種	入力番号
大型自走式 (履带式)	①
遠隔操縦式 (集草幅 180 cm)	②
遠隔操縦式 (集草幅 160 cm)	③
ハンドガイド式 (集草幅 200 cm)	④
人力	⑤

(3) 梱包

パッケージコード	CB320090	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	機械使用条件 ①持込 ②貸与		

(4) 積込・荷卸

パッケージコード	CB320040	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	機種 ①ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t積級) (梱包無し) ②ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t積級) (梱包有り) ③パッカー車 (回転式・積載容量 8m3)		

(注) 運搬機械はダンプトラックを標準とし、処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合は、パッカー車を選定する。

(5) 運搬 (堤防除草)

パッケージコード	CB320050	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	運搬機械	梱包の有無	DID 区間の有無	運搬距離（片道）
	①ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t積級） ②パッカー車（回転式・積載容量8m3）	①梱包有り ②梱包無し	①無し ②有り	（表 5.3～5.5）

(注) J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。

表5.3 ダンプトラック (オンロード・ディーゼル2t積級) 運搬 (梱包無し)

運搬機種	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級）（梱包無し）						
DID 区間：無し							
運搬距離（km）	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	9.5 以下	11.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	13.0 以下	17.0 以下	22.0 以下	25.0 以下	32.5 以下	40.0 以下	
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
DID 区間：有り							
運搬距離（km）	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.0 以下	8.5 以下	10.0 以下
入力番号	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
運搬距離（km）	12.0 以下	15.5 以下	19.0 以下	21.5 以下	26.0 以下	40.0 以下	
入力番号	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

表5.4 ダンプトラック(オンロード・ディーゼル・2t積級) 運搬(梱包有り)

運搬機種	ダンプトラック（オンロード・ディーゼル・2t 積級）（梱包有り）						
DID 区間：無し							
運搬距離（km）	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	9.5 以下	11.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運搬距離（km）	13.0 以下	17.0 以下	22.0 以下	25.0 以下	32.5 以下	40.0 以下	
入力番号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
DID 区間：有り							
運搬距離（km）	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.0 以下	8.5 以下	10.0 以下
入力番号	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
運搬距離（km）	12.0 以下	15.5 以下	19.0 以下	21.5 以下	26.0 以下	40.0 以下	
入力番号	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

表5.5 パッカー車(回転式・積載容量8m3) 運搬距離

運搬機種	パッカー車（回転式・積載容量 8m3）					
DID 区間：無し						
運搬距離（km）	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	10.0 以下	12.0 以下	14.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤	⑥
運搬距離（km）	16.0 以下	18.0 以下	20.5 以下	26.5 以下	35.0 以下	40.0 以下
入力番号	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
DID 区間：有り						
運搬距離（km）	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	9.0 以下	11.0 以下	12.5 以下
入力番号	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
運搬距離（km）	14.5 以下	16.0 以下	18.0 以下	22.0 以下	27.0 以下	40.0 以下
入力番号	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

(6) 除草, 集草 (人力), 梱包, 積込・荷卸 (総合)

パッケージコード	CB320070	施 工 単 位	m2		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	除草機種	梱包の有無	機械使用条件	運搬機械	飛散防止措置
	(表 5.6)	①梱包有り ②梱包無し	①持込 ②貸与	①ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2 t 積級) ②パッカー車 (回転式・積載容量 8 m3)	①有り ②無し

- (注) 1. J 1 条件で⑤, ⑥, ⑦を選択し, J 2 条件で②を選択した場合, J 3 条件を入力する必要はない。
 2. J 1 条件で①～⑤, ⑦を選択した場合, J 5 条件を入力する必要はない。
 3. J 2 条件で①を選択した場合, J 4 条件は①とする。
 4. J 4 条件で運搬機械はダンプトラックを標準とし, 処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合は, パッカー車を選定する。

表 5. 6 除草機種

除 草 機 種	入力番号
大型自走式 (ロングリーチ式)	①
大型自走式 (履帯式)	②
遠隔操縦式 (刈幅 185 cm)	③
遠隔操縦式 (刈幅 120 cm)	④
ハンドガイド式 (刈幅 150 cm)	⑤
肩掛式 (カッタ径 255 mm)	⑥
人力	⑦

(7) 除草, 集草 (機械), 梱包, 積込・荷卸 (総合)

パッケージコード	CB320080	施 工 単 位	m2		
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	
	除草機種 (表 5.7)	梱包の有無 ①梱包有り ②梱包無し	機械使用条件 ①持込 ②貸与	運搬機械 ①ダンプトラック (オンロード・ディーゼル・2t積級) ②パッカー車 (回転式・積載容量8m3)	

- (注) 1. 本コードは, 除草と集草を同一機種で行う場合に適用する。
 2. J 1 条件で④を選択し, J 2 条件で②を選択した場合, J 3 条件は入力する必要はない。
 3. J 2 条件で①を選択した場合, J 4 条件は①とする。
 4. J 4 条件で運搬機械はダンプトラックを標準とし, 処分場等受入れ側の指定機械がパッカー車のみに限られる場合は, パッカー車を選定する。

表 5. 7 除草機種 (機械集草)

除 草 機 種	入力番号
大型自走式 (履帯式)	①
遠隔操縦式 (刈幅 185 cm)	②
遠隔操縦式 (刈幅 120 cm)	③
ハンドガイド式 (刈幅 150 cm)	④

② 堤防天端補修工

1. 適用範囲

本資料は、河川堤防の管理用通路における天端補修に適用する。

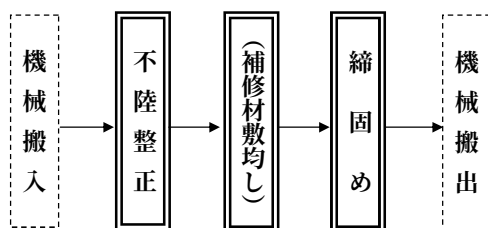
1-1 適用出来る範囲

1-1-1 不陸整正・締固め

(1) 補修材平均厚さが325mm以下の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. () 書きは必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 不陸整正・締固め

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 不陸整正・締固め 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材平均厚さ
無し	—	—
有り	クラッシャーラン(C-40)	(表3.2)
	クラッシャーラン(C-30)	
	クラッシャーラン(C-20)	
	粒度調整碎石(M-40)	
	粒度調整碎石(M-30)	
	粒度調整碎石(M-25)	
	再生クラッシャーラン(RC-40)	
	再生クラッシャーラン(RC-30)	
	再生クラッシャーラン(RC-20)	
	碎石各種	
	補修材料費不要	—

(注) 1. 上表は、管理用通路等の天端補修における不陸整正、補修材敷均し、締固め等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 補修材の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.11)

表3.2 補修材平均厚さ

積算条件	区分
補修材平均厚さ	25mm未満
	25mm以上75mm未満
	75mm以上125mm未満
	125mm以上175mm未満
	175mm以上225mm未満
	225mm以上275mm未満
	275mm以上325mm以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 不陸整正・締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	モータグレーダ [土工用] ブレード幅 3.1m	
	K2	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 運転質量 8～20t	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手 (特殊)	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	再生クラッシュラン (RC-40)	・補修材敷均し「有り」かつ材料が必要な場合
	Z2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 不陸整正・締固め

パッケージコード	CB320210	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材 平均厚さ
	① 敷均しあり ② 敷均しなし (表 4.1)	(表 4.1)	(表 4.2)

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合、J 2、J 3 条件は入力する必要はない。
 2. 発生土等の利用により補修材料費が不要な場合には、J 2 条件で⑪を選択すること。
 なお、J 2 条件で⑩を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。
 3. J 2 条件で⑩を選択した場合には、碎石単価 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。
 4. 本コードは、補修材の材料ロスを含む。
 5. 本コードは、タイヤローラの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び低騒音機種についても適用出来る。

表 4. 1 補修材の種類

補修材の種類		入力番号	補修材の種類		入力番号
クラッシャラン	(C-40)	①	再生クラッシャラン	(RC-40)	⑦
〃	(C-30)	②	〃	(RC-30)	⑧
〃	(C-20)	③	〃	(RC-20)	⑨
粒度調整碎石	(M-40)	④	碎石各種		⑩
〃	(M-30)	⑤	補修材料費不要		⑪
〃	(M-25)	⑥			

表 4. 2 補修材平均厚さ

補修材平均厚さ	入力番号
25mm 未満	①
25mm 以上 75mm 未満	②
75mm 以上 125mm 未満	③
125mm 以上 175mm 未満	④
175mm 以上 225mm 未満	⑤
225mm 以上 275mm 未満	⑥
275mm 以上 325mm 以下	⑦

③ 堤防芝養生工

1. 適用範囲

本資料は、主に芝の繁茂している河川堤防及び高水敷等において、芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草、積込運搬に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 抜根

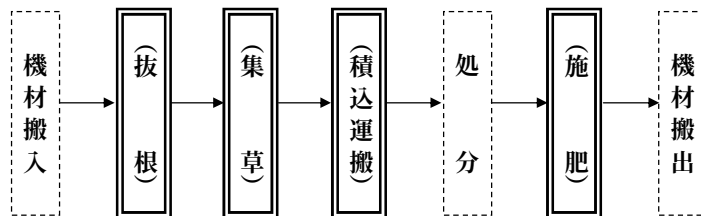
- (1) 芝養生工における抜根、集草、積込運搬の一連作業又は抜根と集草、もしくは各個別作業の場合
- (2) 積込運搬作業を含む場合で、運搬距離が15km(片道)以下の場合

1-1-2 施肥

- (1) 化学肥料の散布量が300～1,000kg/10,000m²の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. () 書きは必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 抜根

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 抜根 積算条件区分一覧

(積算単位：㎡)

作業区分
抜根＋集草＋積込運搬
抜根＋集草
抜根のみ
集草のみ
積込運搬のみ

- (注) 1. 上表は、芝の繁茂している河川堤防、高水敷等において、芝育成を目的とした芝養生工における抜根、集草（ゴミ、流木等の除去を含む）、積込運搬作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 処分費用等が必要な場合は、別途計上する。
3. 危険物、石の除去は、「第Ⅲ編第2章河川維持工⑤塵芥処理工」で別途計上する。
4. 積込運搬は、運搬距離15km（片道）以下に適用し、15km（片道）を超える場合は別途考慮する。
5. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理に掛かる費用を含む。
6. 積込運搬はタイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 抜根 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級	・ 積込運搬の場合 ・ タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	軽作業員	抜根の場合
	R2	普通作業員	集草、積込運搬の場合
	R3	運転手（一般）	積込運搬の場合
	R4	土木一般世話役	抜根の場合
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	積込運搬の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 施肥

(1) 条件区分

施肥における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. 堤防養生のための芝の施肥作業、肥料の現場内小運搬の他、肥料の材料費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 化学肥料の散布量が $300 \sim 1,000\text{kg}/10,000\text{m}^2$ の場合に適用し、これにより難しい場合は別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 施肥 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	トラック [普通型] 2t 積	
	K2	薬剤散布機 [背負式] 2.2kW 級	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手(一般)	
	R3	土木一般世話役	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z2	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 抜根

パッケージコード	CB320320	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	作業区分		
	(表 4.1)		

(注) 本コードで、積込運搬作業を含む場合は、運搬距離 15km (片道) 以下に適用し、15km (片道) を超える場合は適用出来ない。

表 4. 1 作業区分

作 業 内 容	入力番号
抜根+集草+積込運搬	①
抜根+集草	②
抜根のみ	③
集草のみ	④
積込運搬のみ	⑤

(2) 施肥

パッケージコード	CB320310	施 工 単 位	m2

④ 伐木除根工

1. 適用範囲

本資料は、河川堤防、高水敷又は中州に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用する。

1-1 適用出来ない範囲

1-1-1 伐木・伐竹（伐木除根）

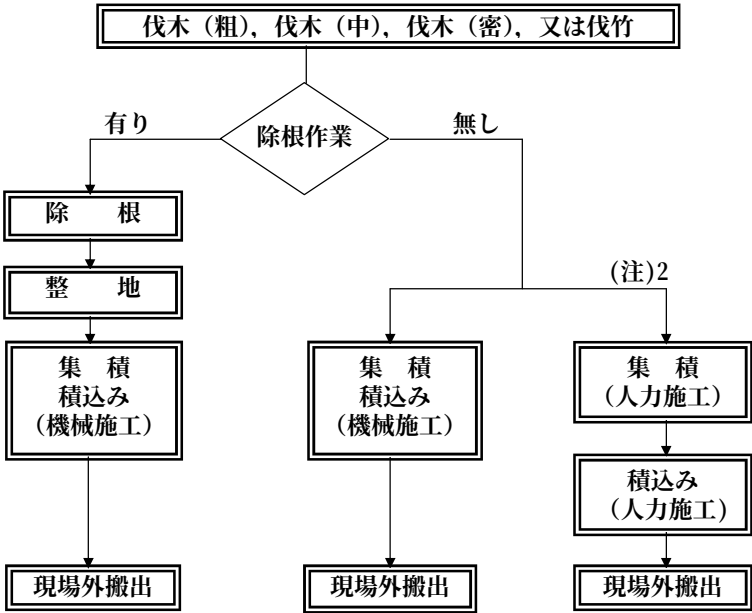
（1）樹木と竹が混在する場合

1-1-2 運搬（伐木除根）

（1）運搬距離が60 kmを超える場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 除根作業が無い場合の集積の機械施工と人力施工の選定は、集積機械であるバックホウが現地に入れるか否かで決定するものとする。

3. 施工パッケージ

3-1 伐木・伐竹(伐木除根)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 伐木・伐竹(伐木除根) 積算条件区分一覧
(積算単位：m²)

樹木・竹の区分 樹木密集度
伐木(粗) (10本/100m ² 未満)
伐木(中) (10本/100 m ² 以上 50本/100 m ² 未満)
伐木(密) (50本/100m ² 以上)
伐竹

(注) 1. 上表は、伐木・伐竹、除草(下草刈)、伐木・伐竹を運搬可能な大きさに切断する作業の他、草刈機(肩掛式)、チェーンソーの運転経費、損耗費等、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 伐木・伐竹(伐木除根) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	普通作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 除根（伐木除根）

（1）条件区分

除根（伐木除根）における積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- （注） 1. 除根作業の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 対象面積は、「3-1 伐木・伐竹（伐木除根）」の伐木、伐竹面積と同面積とする。
 3. 除根した根の集積は含まない。

（2）代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 除根（伐木除根） 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）	
	K 2	バックホウ用アタッチメント〔掴み装置〕 最大把持外径（開口幅）0.7m級	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手（特殊）	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 整地(伐木除根)

(1) 条件区分

整地(伐木除根)における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

(注) 1. 伐木・伐竹・除根後の整地作業の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 対象面積は、「3-1 伐木・伐竹(伐木除根)」の伐木、伐竹面積と同面積とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 整地(伐木除根) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)[標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8 m^3 (平積0.6 m^3)	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-4 集積積込み(機械施工)(伐木除根)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 集積積込み(機械施工)(伐木除根) 積算条件区分一覧

(積算単位:m²)

除根作業の有無
有り
無し

(注) 1. 上表は、伐木・伐竹・除根後の機械施工による集積、伐木、伐竹面積内の除草(下草刈)にかかわる集積、人力による補助作業、現場内小運搬(200m程度)、現場外搬出の積込み作業の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 対象面積は、「3-1 伐木・伐竹(伐木除根)」の伐木、伐竹面積と同面積とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 集積積込み(機械施工)(伐木除根) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	
	K 2	バックホウ用アタッチメント [掴み装置] 最大把持外径(開口幅) 0.7m 級	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	普通作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 集積（人力施工）（伐木除根）

（1）条件区分

集積（人力施工）（伐木除根）における積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

- （注）1. 伐木・伐竹・除根後の機械施工が困難な箇所での人力施工による集積作業，伐木，伐竹面積内の除草（下草刈）に関わる集積，現場内小運搬（100m程度）の他，その施工に必要な全ての労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 対象面積は，「3-1 伐木・伐竹（伐木除根）」の伐木，伐竹面積と同面積とする。
3. 現場外搬出時の積込作業は含まない。

（2）代表機労材規格

下表機労材は，当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 集積（人力施工）（伐木除根） 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	軽作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 積込み(人力施工)(伐木除根)

(1) 条件区分

積込み(人力施工)(伐木除根)における積算条件区分はない。

積算単位は、㎡とする。

(注) 1. 伐木・伐竹・除根後の人力施工による集積作業時の現場外搬出に伴う積込み作業の他、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 対象面積は、「3-1 伐木・伐竹(伐木除根)」の伐木、伐竹面積と同面積とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 積込み(人力施工)(伐木除根) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 運搬(伐木除根)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.9 運搬(伐木除根) 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

積込条件	除根作業の有無	DID 区間の有無	運搬距離
人力施工	-	無し	(表 3.10)
		有り	(表 3.11)
機械施工	有り	無し	(表 3.12)
		有り	(表 3.13)
	無し	無し	(表 3.14)
		有り	(表 3.15)

- (注) 1. 上表は、伐木除根工の現場外搬出に伴う運搬の他、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。
3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
4. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものである。
5. 運搬距離が60kmを超える場合は、別途考慮する。
6. 集積物の処分費は、別途計上する。
7. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む。
8. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。

表3.10 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.5km 以下
	4.0km 以下
	5.5km 以下
	7.5km 以下
	9.5km 以下
	12.0km 以下
	15.0km 以下
	19.0km 以下
	24.0km 以下
	31.0km 以下
	49.0km 以下
	60.0km 以下

表3.11 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.5km 以下
	4.0km 以下
	5.5km 以下
	7.5km 以下
	9.5km 以下
	11.5km 以下
	14.5km 以下
	18.0km 以下
	22.0km 以下
	27.5km 以下
	34.5km 以下
	60.0km 以下

表3.12 運搬距離(3)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	2.5km 以下
	3.0km 以下
	3.5km 以下
	4.0km 以下
	4.5km 以下
	5.5km 以下
	6.5km 以下
	7.5km 以下
	8.5km 以下
	10.0km 以下
	11.5km 以下
	13.5km 以下
	15.5km 以下
	18.0km 以下
	21.0km 以下
	25.0km 以下
	30.5km 以下
	41.5km 以下
	60.0km 以下

表3.13 運搬距離(4)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	2.5km 以下
	3.0km 以下
	3.5km 以下
	4.0km 以下
	4.5km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.0km 以下
	8.0km 以下
	9.5km 以下
	11.0km 以下
	12.5km 以下
	14.0km 以下
	16.0km 以下
	18.5km 以下
	21.0km 以下
	25.0km 以下
	29.0km 以下
	60.0km 以下

表3.14 運搬距離(5)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	2.5km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	4.5km 以下
	5.0km 以下
	6.5km 以下
	7.5km 以下
	8.5km 以下
	9.5km 以下
	11.0km 以下
	12.5km 以下
	14.5km 以下
	16.5km 以下
	19.0km 以下
	22.0km 以下
	26.0km 以下
	32.0km 以下
	47.0km 以下
	60.0km 以下

表3.15 運搬距離(6)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.5km 以下
	2.0km 以下
	2.5km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	4.5km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.0km 以下
	8.0km 以下
	9.0km 以下
	10.0km 以下
	11.5km 以下
	13.0km 以下
	15.0km 以下
	17.0km 以下
	19.5km 以下
	22.0km 以下
	25.5km 以下
	30.0km 以下
	60.0km 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は,当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.16 運搬(伐木除根) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル]2t 積級	・集積積込み作業が人力施工の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル]10t 積級	・集積積込み作業が機械施工の場合 ・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-8 伐木・伐竹(複合)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.17 伐木・伐竹(複合) 積算条件区分一覧 (積算単位:m²)

樹木・竹の区分 樹木密集度	除根作業の有無	集積積込み作業の区分
伐木(粗) (10本/100m ² 未満)	有り	機械施工
	無し	機械施工 人力施工
伐木(中) (10本/100m ² 以上 50本/100m ² 未満)	有り	機械施工
	無し	機械施工 人力施工
伐木(密) (50本/100m ² 以上)	有り	機械施工
	無し	機械施工 人力施工
伐竹	有り	機械施工
	無し	機械施工 人力施工

(注) 上表は、伐木・伐竹、除草(下草刈)、伐木・伐竹を運搬可能な大きさに切断する作業、除根、除根後の整地、集積、集積時の人力による補助作業、集積時の現場内小運搬(人力施工の場合100m程度、機械施工の場合200m程度)、現場外搬出時の積込み作業の他、草刈機(肩掛式)、チェーンソーの運転経費、損耗費、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.18 伐木・伐竹(複合) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	集積積込み作業が機械施工の場合
	K 2	バックホウ(クローラ型) [標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	・ 除根作業が有りの場合 ・ 賃料
	K 3	バックホウ用アタッチメント [掴み装置] 最大把持外径(開口幅)0.7m級	集積積込み作業が機械施工の場合
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	運転手(特殊)	
	R 4	普通作業員	
材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	集積積込み作業が機械施工の場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 伐木・伐竹(伐木除根)

パッケージコード	CB320510	施 工 単 位	m2
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	樹木・竹の区分 樹木密集度		
	①伐木(粗)(10本/100m2未満)		
	②伐木(中)(10本/100 m2以上 50本/100 m2未満)		
	③伐木(密)(50本/100m2以上)		
	④伐竹		

(2) 除根(伐木除根)

パッケージコード	CB320530	施 工 単 位	m2

(注) 本コードは、バックホウの低騒音型機種、超低騒音型機種についても適用出来る。

(3) 整地(伐木除根)

パッケージコード	CB320540	施 工 単 位	m2

(注) 本コードは、バックホウの普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)及び排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。

(4) 集積積込み(機械施工)(伐木除根)

パッケージコード	CB320560	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	除根作業の有無		
	① 有り		
	② 無し		

(注) 本コードは、バックハウの低騒音型機種、超低騒音型機種についても適用出来る。

(5) 集積(人力施工)(伐木除根)

パッケージコード	CB320550	施工単位	m2

(6) 積込み(人力施工)(伐木除根)

パッケージコード	CB320570	施工単位	m2

(注) 本コードは、積込み(人力施工)による場合に適用する。

(7) 運搬(伐木除根)

パッケージコード	CB320580	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	積込条件	除根作業の有無	DID 区間の有無	運搬距離
	①人力施工	①有り	①無し	(表 4.1～表 4.3)
	②機械施工	②無し	②有り	

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合、J 2 条件は選択する必要はない。
 2. J 1 条件で①を選択した場合、J 4 条件は表 4. 1 より選択すること。
 3. J 1 条件で②、J 2 条件で①を選択した場合、J 4 条件は表 4. 2 より選択すること。
 4. J 1 条件で②、J 2 条件で②を選択した場合、J 4 条件は表 4. 3 より選択すること。

表 4. 1 ダンプトラック運搬距離(人力積込)

運搬機種・規格	ダンプトラック オンロードディーゼル 2 t 積級						
DID 区間：無し							
運 搬 距 離 (km)	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.5 以下	9.5 以下	12.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運 搬 距 離 (km)	15.0 以下	19.0 以下	24.0 以下	31.0 以下	49.0 以下	60.0 以下	
入 力 番 号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
DID 区間：有り							
運 搬 距 離 (km)	1.0 以下	2.5 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.5 以下	9.5 以下	11.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
運 搬 距 離 (km)	14.5 以下	18.0 以下	22.0 以下	27.5 以下	34.5 以下	60.0 以下	
入 力 番 号	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

表4.2 ダンプトラック運搬距離(機械積込, 除根有り)

運搬機種・規格		ダンプトラック オンロードディーゼル 10 t 積級						
DID 区間：無し								
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運 搬 距 離 (km)	4.5 以下	5.5 以下	6.5 以下	7.5 以下	8.5 以下	10.0 以下	11.5 以下	13.5 以下
入 力 番 号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
運 搬 距 離 (km)	15.5 以下	18.0 以下	21.0 以下	25.0 以下	30.5 以下	41.5 以下	60.0 以下	
入 力 番 号	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	
DID 区間：有り								
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	3.5 以下	4.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運 搬 距 離 (km)	4.5 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.0 以下	8.0 以下	9.5 以下	11.0 以下	12.5 以下
入 力 番 号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
運 搬 距 離 (km)	14.0 以下	16.0 以下	18.5 以下	21.0 以下	25.0 以下	29.0 以下	60.0 以下	
入 力 番 号	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	

(注) 運搬距離は片道であり, 往路と復路が異なる場合は, 平均値とする。

表4.3 ダンプトラック運搬距離(機械積込, 除根無し)

運搬機種・規格		ダンプトラック オンロードディーゼル 10 t 積級						
DID 区間：無し								
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	4.0 以下	4.5 以下	5.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運 搬 距 離 (km)	6.5 以下	7.5 以下	8.5 以下	9.5 以下	11.0 以下	12.5 以下	14.5 以下	16.5 以下
入 力 番 号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
運 搬 距 離 (km)	19.0 以下	22.0 以下	26.0 以下	32.0 以下	47.0 以下	60.0 以下		
入 力 番 号	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		
DID 区間：有り								
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.5 以下	2.0 以下	2.5 以下	3.0 以下	4.0 以下	4.5 以下	5.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
運 搬 距 離 (km)	6.0 以下	7.0 以下	8.0 以下	9.0 以下	10.0 以下	11.5 以下	13.0 以下	15.0 以下
入 力 番 号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
運 搬 距 離 (km)	17.0 以下	19.5 以下	22.0 以下	25.5 以下	30.0 以下	60.0 以下		
入 力 番 号	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		

(注) 運搬距離は片道であり, 往路と復路が異なる場合は, 平均値とする。

(8) 伐木・伐竹(複合)

パッケージコード	CB320590	施工単位	m2
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	樹木・竹の区分 樹木密集度	除根作業の有無	集積積み作業の区分
	①伐木(粗)(10本/100m2未満)	①有り	①機械施工
	②伐木(中)(10本/100 m2以上 50本/100 m2未満)	②無し	②人力施工
	③伐木(密)(50本/100m2以上)		
	④伐竹		

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は①で固定される。
2. 運搬が必要な場合は、(7) 運搬(伐木除根) CB320580 により別途計上すること。
3. バックホウの賃料は、普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)及び排出ガス対策型(第2次基準値)についても適用出来る。
4. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、超低騒音型機種についても適用出来る。

⑤ 塵芥処理工

1. 適用範囲

本資料は、河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、現場外搬出に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 散在塵芥収集

- (1) 散在している塵芥（空き缶・木片等）を人力によりビニール袋等に拾い集める場合
- (2) 作業場所の草丈が、0.5m 程度以下の場合
- (3) 塵芥量が $1\text{m}^3/1,000\text{m}^2$ 程度以下の場合
- (4) 散在塵芥収集により集積された塵芥を運搬する場合

1-1-2 堆積塵芥収集（機械処理）

- (1) 塵芥量が $1\text{m}^3/1,000\text{m}^2$ 程度以上を機械により収集・集積する場合
- (2) 堆積塵芥収集により集積された塵芥を運搬する場合

1-1-3 堆積塵芥収集（人力処理）

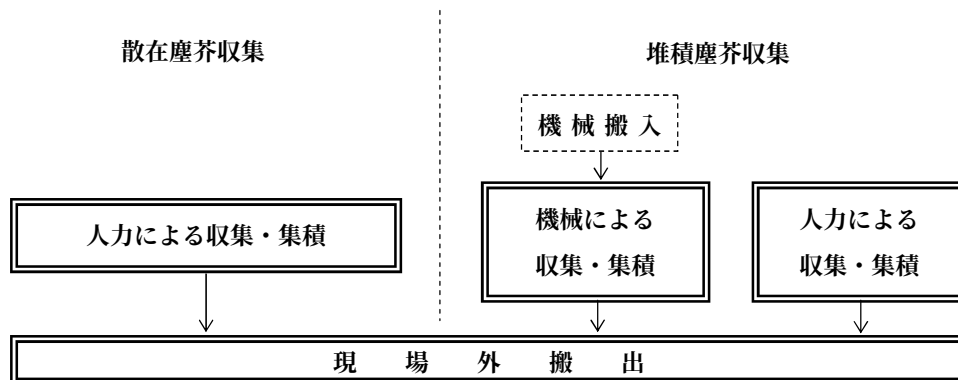
- (1) 塵芥量が $1\text{m}^3/1,000\text{m}^2$ 程度以上を人力により収集・集積する場合
- (2) 堆積塵芥収集により集積された塵芥を運搬する場合

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 運搬距離が 60km を超える場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 散在塵芥収集

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 散在塵芥収集 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

作業区分	DID 区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込み・貸与
収集・集積のみ	-	-	-
収集・集積・運搬	無し	(表 3.2)	(表 3.4)
	有り	(表 3.3)	
運搬のみ	無し	(表 3.2)	
	有り	(表 3.3)	

- (注) 1. 上表は、散在塵芥の収集・集積、現場内小運搬(30m 程度)、分別作業、運搬車への積込み、積込まれた塵芥の処分場までの運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、運搬のみの場合は、運搬車への積込みを別途計上する。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
3. DID (人口集中地区) は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
4. 自動車専用道路を利用する場合は、別途考慮する。
5. 集積物の処分費は、別途計上する。
6. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む
7. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
8. 運搬距離が 60km を超える場合は、別途考慮する。

表3.2 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.5km 以下
	6.0km 以下
	7.5km 以下
	9.5km 以下
	12.0km 以下
	14.5km 以下
	17.5km 以下
	21.5km 以下
	26.5km 以下
	34.5km 以下
	46.0km 以下
	60.0km 以下

表3.3 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.0km 以下
	7.0km 以下
	8.5km 以下
	10.5km 以下
	13.0km 以下
	15.5km 以下
	18.0km 以下
	22.5km 以下
	25.5km 以下
	29.5km 以下
	60.0km 以下

表3.4 ダンプトラック持込・貸与

積算条件	区分
ダンプトラック持込み・貸与	持込
	貸与

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 散在塵芥収集 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1 ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2t 積級	・運搬を含む場合 ・タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K 2 —	
	K 3 —	
労務	R 1 運転手 (一般)	運搬を含む場合
	R 2 軽作業員	
	R 3 土木一般世話役	
	R 4 —	
材料	Z 1 軽油 1.2号 パトロール給油	運搬を含む場合
	Z 2 —	
	Z 3 —	
	Z 4 —	
市場単価	S —	

3-2 堆積塵芥収集(機械処理)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 堆積塵芥収集(機械処理) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

作業区分	塵芥の種類	DID 区間の 有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与
収集・集積のみ	-	-	-	-
収集・集積・運搬	木片、空き缶、枯草等の かさ高物	無し	(表 3. 7)	(表 3. 4)
		有り	(表 3. 8)	
	コンクリート塊等の重量物	無し	(表 3. 9)	
		有り	(表 3. 10)	
運搬のみ	木片、空き缶、枯草等の かさ高物	無し	(表 3. 7)	
		有り	(表 3. 8)	
	コンクリート塊等の重量物	無し	(表 3. 9)	
		有り	(表 3. 10)	

- (注) 1. 上表は、堆積した塵芥の収集・集積、現場内小運搬(30m程度)、分別作業、運搬車への積込み、機械処理による堆積塵芥収集で積込まれた塵芥の処分場までの運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、運搬のみの場合は、運搬車への積込みを別途計上する。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
3. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
4. 自動車専用道路を利用する場合は、別途考慮する。
5. 集積物の処分費は、別途計上とする。
6. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む
7. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
8. 運搬距離が60kmを超える場合は、別途考慮する。

表3.7 運搬距離(1)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.0km 以下
	6.5km 以下
	8.0km 以下
	9.5km 以下
	11.5km 以下
	13.5km 以下
	16.0km 以下
	19.0km 以下
	22.5km 以下
	27.5km 以下
	35.0km 以下
	46.0km 以下
	60.0km 以下

表3.8 運搬距離(2)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.5km 以下
	8.5km 以下
	10.5km 以下
	12.0km 以下
	14.5km 以下
	16.5km 以下
	19.0km 以下
	23.0km 以下
	27.0km 以下
	29.5km 以下
	60.0km 以下

表3.9 運搬距離(3)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.5km 以下
	9.0km 以下
	11.0km 以下
	13.0km 以下
	15.5km 以下
	18.5km 以下
	22.0km 以下
	26.5km 以下
	33.0km 以下
	46.0km 以下
	60.0km 以下

表3.10 運搬距離(4)

積算条件	区分
運搬距離	0.5km 以下
	1.0km 以下
	2.0km 以下
	3.0km 以下
	4.0km 以下
	5.0km 以下
	6.0km 以下
	7.0km 以下
	8.5km 以下
	10.5km 以下
	12.0km 以下
	14.0km 以下
	17.0km 以下
	19.5km 以下
	22.5km 以下
	26.5km 以下
	29.5km 以下
	60.0km 以下

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 堆積塵芥収集(機械処理) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)〕山積0.28m ³ (平積0.20m ³)	
	K 2	ダンプトラック〔オンロード・ディーゼル〕2t 積級	・運搬を含む場合 ・タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	運転手(一般)	運搬を含む場合
	R 3	普通作業員	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 堆積塵芥収集(人力処理)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.12 堆積塵芥収集(人力処理) 積算条件区分一覧

(積算単位:m³)

作業区分	塵芥の種類	DID 区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与
収集・集積のみ	-	-	-	-
収集・集積・運搬	木片, 空き缶, 枯草等のかさ高物	無し	(表 3. 7)	(表 3. 4)
		有り	(表 3. 8)	
	コンクリート塊等の重量物	無し	(表 3. 9)	
		有り	(表 3. 10)	
運搬のみ	木片, 空き缶, 枯草等のかさ高物	無し	(表 3. 7)	
		有り	(表 3. 8)	
	コンクリート塊等の重量物	無し	(表 3. 9)	
		有り	(表 3. 10)	

- (注) 1. 上表は、堆積した塵芥の収集・集積、現場内小運搬(30m程度)、分別作業、運搬車への積込み、人力処理による堆積塵芥収集で積込まれた塵芥の処分場までの運搬等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、運搬のみの場合は、運搬車への積込みを別途計上する。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
3. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
4. 自動車専用道路を利用する場合は、別途考慮する。
5. 集積物の処分費は、別途計上とする。
6. 運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用を含む
7. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
8. 運搬距離が60kmを超える場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.13 堆積塵芥収集(人力処理) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2t 積級	・運搬を含む場合 ・タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(一般)	運搬を含む場合
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	軽作業員	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	運搬を含む場合
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 散在塵芥収集

パッケージコード	CB320710	施 工 単 位	m2	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	DID 区間の有無	運搬距離	ダンプトラック 持込・貸与
	①収集・集積のみ			
	②収集・集積・運搬	①無し	(表4.1)	①持込
	③運搬のみ	②有り	(表4.2)	②貸与

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合はJ 2～J 5 条件は入力する必要はない。
 2. J 2 条件で①を選択した場合、J 3 条件は、表 4.1 より選択すること。
 3. J 2 条件で②を選択した場合、J 3 条件は、表 4.2 より選択すること。
 4. 集積物の処分費は、別途計上する。

表4.1 運搬距離

DID 区間：無し										
運 搬 距 離 (km)	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.5 以下	6.0 以下	7.5 以下	9.5 以下	12.0 以下	14.5 以下	17.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運 搬 距 離 (km)	21.5 以下	26.5 以下	34.5 以下	46.0 以下	60.0 以下					
入 力 番 号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮					

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

表4.2 運搬距離

DID 区間：有り										
運 搬 距 離 (km)	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	7.0 以下	8.5 以下	10.5 以下	13.0 以下	15.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運 搬 距 離 (km)	18.0 以下	22.5 以下	25.5 以下	29.5 以下	60.0 以下					
入 力 番 号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮					

(注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

(2) 堆積塵芥収集 (機械処理)

パッケージコード	CB320720	施 工 単 位	m3			
施 工 区 分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	
	作業区分	塵芥の種類	DID 区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与	
	①収集・集積のみ	①木片，空き缶，枯	①無し	(表4.3)	①持込	
	②収集・集積・運搬	草等のかさ高物	②有り	(表4.4)	②貸与	
	③運搬のみ	②コンクリート塊等の重量物		(表4.5)		
				(表4.6)		

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2～J 5 条件は入力する必要はない。
 2. J 2 条件で①, J 3 条件で①を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.3 より選択すること。
 3. J 2 条件で①, J 3 条件で②を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.4 より選択すること。
 4. J 2 条件で②, J 3 条件で①を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.5 より選択すること。
 5. J 2 条件で②, J 3 条件で②を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.6 より選択すること。
 6. 集積物の処分費は別途計上する。

(3) 堆積塵芥収集 (人力処理)

パッケージコード	CB320730	施 工 単 位	m3			
施 工 区 分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	
	作業区分	塵芥の種類	DID 区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与	
	①収集・集積のみ	①木片，空き缶，枯	①無し	(表4.3)	①持込	
	②収集・集積・運搬	草等のかさ高物	②有り	(表4.4)	②貸与	
	③運搬のみ	②コンクリート塊等の重量物		(表4.5)		
				(表4.6)		

- (注) 1. J 1 条件で①を選択した場合は, J 2～J 5 条件は入力する必要はない。
 2. J 2 条件で①, J 3 条件で①を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.3 より選択すること。
 3. J 2 条件で①, J 3 条件で②を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.4 より選択すること。
 4. J 2 条件で②, J 3 条件で①を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.5 より選択すること。
 5. J 2 条件で②, J 3 条件で②を選択した場合, J 4 条件は, 表 4.6 より選択すること。
 6. 集積物の処分費は別途計上する。

表 4.3 運搬距離

運搬対象：木片, 空き缶, 枯草等のかさ高物											
DID 区間：無し											
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.5 以下	8.0 以下	9.5 以下	11.5 以下	13.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
運 搬 距 離 (km)	16.0 以下	19.0 以下	22.5 以下	27.5 以下	35.0 以下	46.0 以下	60.0 以下				
入 力 番 号	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱				

(注) 運搬距離は片道であり, 往路と復路が異なる場合は, 平均値とする。

表4.4 運搬距離

運搬対象：木片，空き缶，枯草等のかさ高物											
DID 区間：有り											
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	8.5 以下	10.5 以下	12.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
運 搬 距 離 (km)	14.5 以下	16.5 以下	19.0 以下	23.0 以下	27.0 以下	29.5 以下	60.0 以下				
入 力 番 号	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱				

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる場合は，平均値とする。

表4.5 運搬距離

運搬対象：コンクリート塊等の重量物											
DID 区間：無し											
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.5 以下	9.0 以下	11.0 以下	13.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
運 搬 距 離 (km)	15.5 以下	18.5 以下	22.0 以下	26.5 以下	33.0 以下	46.0 以下	60.0 以下				
入 力 番 号	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱				

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる場合は，平均値とする。

表4.6 運搬距離

運搬対象：コンクリート塊等の重量物											
DID 区間：有り											
運 搬 距 離 (km)	0.5 以下	1.0 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.0 以下	8.5 以下	10.5 以下	12.0 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
運 搬 距 離 (km)	14.0 以下	17.0 以下	19.5 以下	22.5 以下	26.5 以下	29.5 以下	60.0 以下				
入 力 番 号	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱				

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる場合は，平均値とする。

⑥ ボーリンググラウト工

1. 適用範囲

本資料は、注入設備2セット施工により、河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメントベントナイトを注入するボーリンググラウト工に適用する。なお、注入工法は下図に示すような堤体上から、土を削孔し注入するロッド工法及び構造物内空断面が、おおむね高さ 1.2×幅 1.5m以上の構造物（樋管等）内コンクリート床版を削孔してその裏側に注入するパッカー工法とする。

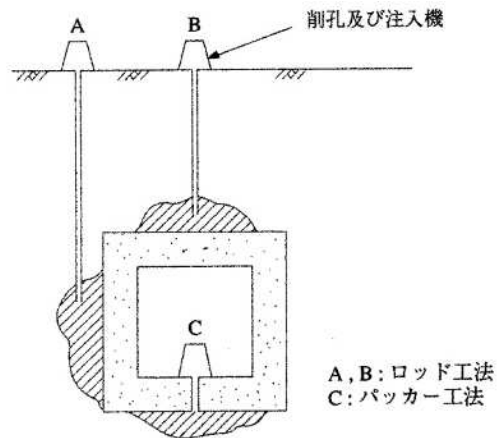


図1-1 施工法

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 削孔

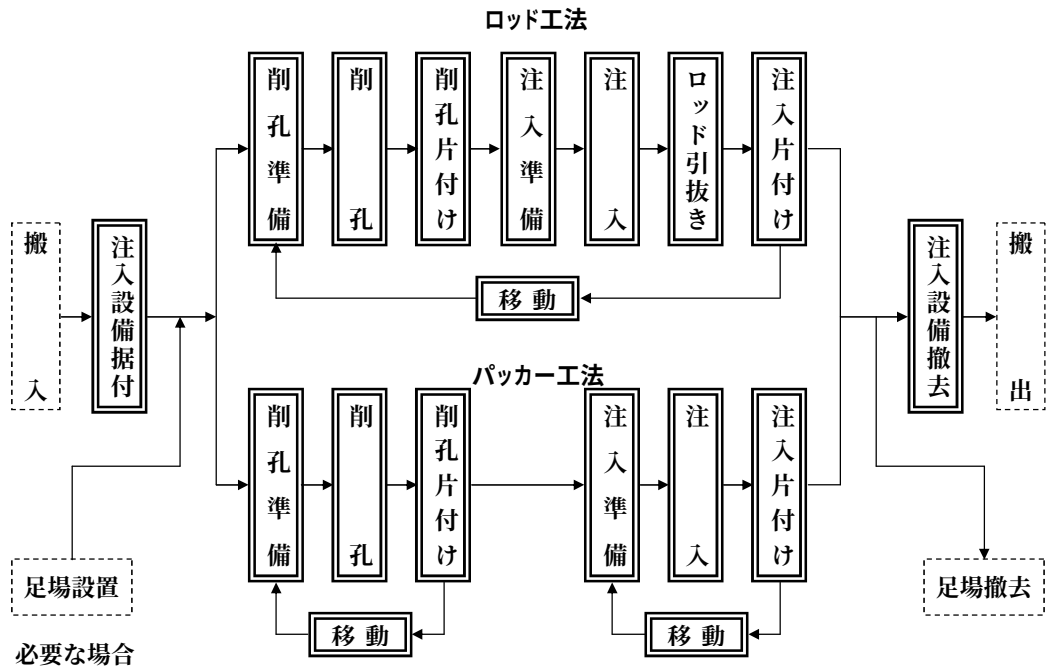
- (1) 削孔長が 1.0m以上 16.0m未満、土質係数が 1.8 以下のロッド工法の場合
- (2) 削孔長が 2.0m未満のパッカー工法の場合

1-1-2 注入

- (1) 注入工 1m³ 当り注入日数が 0.10 日以上 0.31 日未満（1 分間当り注入量が 4ℓ/min 以上 12ℓ/min 未満）の場合

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 削孔

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 削孔 積算条件区分一覧

(積算単位：孔)

工法	削孔長	土質係数 (α)
ロッド工法	1.0m 以上 2.0m 未満	(表 3.2)
	2.0m 以上 3.0m 未満	
	3.0m 以上 4.0m 未満	
	4.0m 以上 5.0m 未満	
	5.0m 以上 6.0m 未満	
	6.0m 以上 7.0m 未満	
	7.0m 以上 8.0m 未満	
	8.0m 以上 9.0m 未満	
	9.0m 以上 10.0m 未満	
	10.0m 以上 11.0m 未満	
	11.0m 以上 12.0m 未満	
	12.0m 以上 13.0m 未満	
	13.0m 以上 14.0m 未満	
	14.0m 以上 15.0m 未満	
	15.0m 以上 16.0m 未満	
パッカー工法	0.2m 未満	—
	0.2m 以上 0.4m 未満	
	0.4m 以上 0.6m 未満	
	0.6m 以上 0.8m 未満	
	0.8m 以上 1.0m 未満	
	1.0m 以上 1.2m 未満	
	1.2m 以上 1.4m 未満	
	1.4m 以上 1.6m 未満	
	1.6m 以上 1.8m 未満	
	1.8m 以上 2.0m 未満	

- (注) 1. 上表は、ボーリンググラウト工における土及びコンクリート床版の削孔、メタルクラウンの損耗費の他、グラウトミキサ・グラウトポンプ・グラウト流量圧力測定装置・給水用水中ポンプ・水槽損料、ボーリングロッド・カップリング・シングルコアチューブ・コアビット・コアカップリング・コアチューブ・アンカー損耗費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 削孔径はロッド工法がφ46mm、パッカー工法がφ52mm(2インチ)を標準とする。
3. 土質係数(α)は、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。αは小数第2位を四捨五入し、第1位とし、表3.2より選択する。

$$\alpha = \frac{\alpha 1 \times L1 + \alpha 2 \times L2}{L1 + L2}$$

ここで、α1：砂質土及び粘性土の土質係数(=1.0)

α2：レキ質土の土質係数(=2.5)

L1：砂質土及び粘性土の総削孔長(m)

L2：レキ質土の総削孔長(m)

表3.2 土質係数(α)

積算条件	区分
土質係数(α)	1.0
	1.1
	1.2
	1.3
	1.4
	1.5
	1.6
	1.7
	1.8

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 削孔 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ボーリングマシン [油圧式] 5.5kW 級	ロッド工法の場合
		コンクリート穿孔機 [電動式コアボーリングマシン] 〔簡易仕様型〕 最大穿孔径φ25cm	パッカー工法の場合
	K2	発動発電機 [ディーゼル駆動・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 45kVA	賃料
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	—	
材料	Z1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z2	メタルクラウン φ46mm	ロッド工法の場合
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 注入

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.4 注入 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

工法	注入工 1 m3 当り 注入日数（S）	注入材料の配合	セメントの種類
ロッド工法	(表 3.5)	軟練り配合	普通セメント
			高炉 B セメント
			各種
		中練り配合 1	普通セメント
			高炉 B セメント
			各種
		中練り配合 2	普通セメント
			高炉 B セメント
			各種
		各種配合	－
パッカー工法		軟練り配合	普通セメント
			高炉 B セメント
			各種
		中練り配合 1	普通セメント
			高炉 B セメント
	各種		
	中練り配合 2	普通セメント	
		高炉 B セメント	
		各種	
	各種配合	－	

(注) 1. 上表は、ボーリンググラウト工におけるセメントベントナイトの注入の他、グラウトミキサ・グラウトポンプ・グラウト流量圧力測定装置・給水用水中ポンプ・ホース・注入機材損料、記録紙等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 標準の注入工1m³ 当り注入日数 (S) は、2セット当り0.12日 (1分間当り注入量を0.01m³/min) とするが、1分間当り注入量を、試験注入等を行って決める場合は次式により算出する。Sは小数第3位を四捨五入し、第2位止めとし、表3.5より選択する。

$$S = 1 / (408 \times q \times 2)$$

q : 1分間当り注入量 (m³/min)

(10ℓ/min = 0.01m³/min)

3. 室内実験結果から良好であると確認された注入材料(セメントベントナイト)の配合例を示す。おおむね、水みちの充填は軟練り、空洞の充填は中練りが適している。

1) 軟練り配合

配合	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材
質 量 比	1	0.3	2.3	1/5000	—
1 m3 当り	366kg	110kg	841kg	74g	—

(フロー値 25～30 秒)

2) 中練り配合

配合 1	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材
質 量 比	1	1	4	1/5000	0.05
1 m3 当り	208kg	208kg	832kg	42g	10.4kg

(スランプ 23cm)

配合 2	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材
質 量 比	1	1	3.5	1/5000	—
1 m3 当り	238kg	238kg	832kg	48g	—

(スランプ 23cm)

4. 注入材料の材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04)

表3.5 注入工1m3 当り注入日数 (S)

積算条件	区分	参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)
注入工 1 m3 当り注入日数 (S)	0.10 日	11.7～12.0ℓ/min
	0.11 日	10.7～11.6ℓ/min
	0.12 日(標準)	9.9～10.6ℓ/min
	0.13 日	9.1～9.8ℓ/min
	0.14 日	8.5～9.0ℓ/min
	0.15 日	8.0～8.4ℓ/min
	0.16 日	7.5～7.9ℓ/min
	0.17 日	7.1～7.4ℓ/min
	0.18 日	6.7～7.0ℓ/min
	0.19 日	6.3～6.6ℓ/min
	0.20 日	6.0～6.2ℓ/min
	0.21 日	5.7～5.9ℓ/min
	0.22 日	5.5～5.6ℓ/min
	0.23 日	5.3～5.4ℓ/min
	0.24 日	5.1～5.2ℓ/min
	0.25 日	4.9～5.0ℓ/min
	0.26 日	4.7～4.8ℓ/min
	0.27 日	4.5～4.6ℓ/min
	0.28 日	4.3～4.4ℓ/min
	0.29 日	4.2ℓ/min
	0.30 日	4.1ℓ/min
	0.31 日	4.0ℓ/min

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 注入 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ボーリングマシン [油圧式] 5.5kW 級	ロッド工法の場合
	K2	発動発電機 [ディーゼル駆動・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 45kVA	賃料
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	普通作業員	
	R4	—	
材料	Z1	ベントナイト 25kg/袋 メッシュ 200	注入材料が各種配合以外の場合
		注入材 (各種配合) 一式	注入材料が各種配合の場合
	Z2	セメント 高炉 B 25kg 袋入	注入材料が各種配合以外の場合
	Z3	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z4	起泡剤 アルミ粉	注入材料が各種配合以外の場合
市場単価	S	—	

3-3 注入設備据付・解体

(1) 条件区分

注入設備据付・解体における積算条件区分はない。

積算単位は、回とする。

(注) 1. 注入設備の据付・解体に要する費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。

2. 注入設備2セット分の費用である。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 注入設備据付・解体 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4t 級・吊能力 2.9t	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	特殊作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手 (特殊)	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 足場工

堤防法面等で足場を使用する場合は、「第Ⅱ編第5章⑨-1足場工」により別途計上する。

4. 施工単価入力基準表

(1) 削孔

パッケージコード	CB320820	施工単位	孔
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	工法	削孔長	土質係数(α)
	①ロッド工法 ②パッカー工法	(表 4.1)	(表 4.2)

- (注) 1. J 1 条件で①を入力した場合, J 2 条件の⑯から㉔は選択出来ない。
 2. J 1 条件で②を入力した場合, J 2 条件の①から⑮は選択出来ない。
 3. J 1 条件で②を入力した場合, J 3 条件に入力の必要はない。
 4. 本コードは, 発動発電機の普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
 5. 本コードは, 発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。
 6. 本コードで, ロッド工法とした場合メタルクラウン損耗費が含まれている。

表4.1 削孔長

削孔長	入力番号
1.0m 以上 2.0m 未満	①
2.0m 以上 3.0m 未満	②
3.0m 以上 4.0m 未満	③
4.0m 以上 5.0m 未満	④
5.0m 以上 6.0m 未満	⑤
6.0m 以上 7.0m 未満	⑥
7.0m 以上 8.0m 未満	⑦
8.0m 以上 9.0m 未満	⑧
9.0m 以上 10.0m 未満	⑨
10.0m 以上 11.0m 未満	⑩
11.0m 以上 12.0m 未満	⑪
12.0m 以上 13.0m 未満	⑫
13.0m 以上 14.0m 未満	⑬
14.0m 以上 15.0m 未満	⑭
15.0m 以上 16.0m 未満	⑮
0.2m 未満	⑯
0.2m 以上 0.4m 未満	⑰
0.4m 以上 0.6m 未満	⑱
0.6m 以上 0.8m 未満	⑲
0.8m 以上 1.0m 未満	㉑
1.0m 以上 1.2m 未満	㉒
1.2m 以上 1.4m 未満	㉓
1.4m 以上 1.6m 未満	㉔
1.6m 以上 1.8m 未満	㉕
1.8m 以上 2.0m 未満	㉖

表4.2 ロッド工法の土質係数(α)

土質係数(α)	入力番号
1.0	①
1.1	②
1.2	③
1.3	④
1.4	⑤
1.5	⑥
1.6	⑦
1.7	⑧
1.8	⑨

(2) 注入

パッケージコード	CB320810	施工単位	m3	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	工法	注入工 1 m3 当り 注入日数 (S)	注入材料の配合	セメントの種類
	①ロッド工法 ②パッカー工法	(表 4.3)	①軟練り配合 ②中練り配合 1 ③中練り配合 2 ④各種配合	①普通セメント ②高炉 B セメント ③各種

- (注) 1. J3条件で④を選択した場合は、注入材単価(Y-0232000) [円/m3]に注入材の合計額を単価登録すること。
また、J4条件に入力の必要はない。
2. J4条件で③を選択した場合は、セメント単価(Y-0200000) [円/t]を単価登録すること。
3. 本コードは、発動発電機の普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。
4. 本コードは、発動発電機の低騒音型機種についても適用出来る。
5. 本コードは、注入材の材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

表4.3 注入工1m3 当り注入日数(S)

注入日数	入力番号	注入日数	入力番号
0.10 日	①	0.21 日	⑫
0.11 日	②	0.22 日	⑬
0.12 日	③	0.23 日	⑭
0.13 日	④	0.24 日	⑮
0.14 日	⑤	0.25 日	⑯
0.15 日	⑥	0.26 日	⑰
0.16 日	⑦	0.27 日	⑱
0.17 日	⑧	0.28 日	⑲
0.18 日	⑨	0.29 日	⑳
0.19 日	⑩	0.30 日	㉑
0.20 日	⑪	0.31 日	㉒

(3) 注入設備据付・解体

パッケージコード	CB320830	施工単位	回

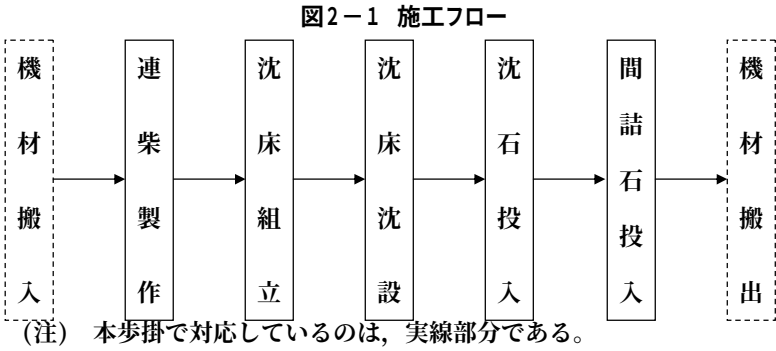
⑦ 粗 朶 沈 床 工

1. 適 用 範 囲

本歩掛は、陸上で粗朶を組立て、陸上から水中へ吊落す場合に適用する。連柴格子の間隔は1 m、柵格子の間隔は2 m、厚さは90 cmとする。

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



3. 機 種 の 選 定

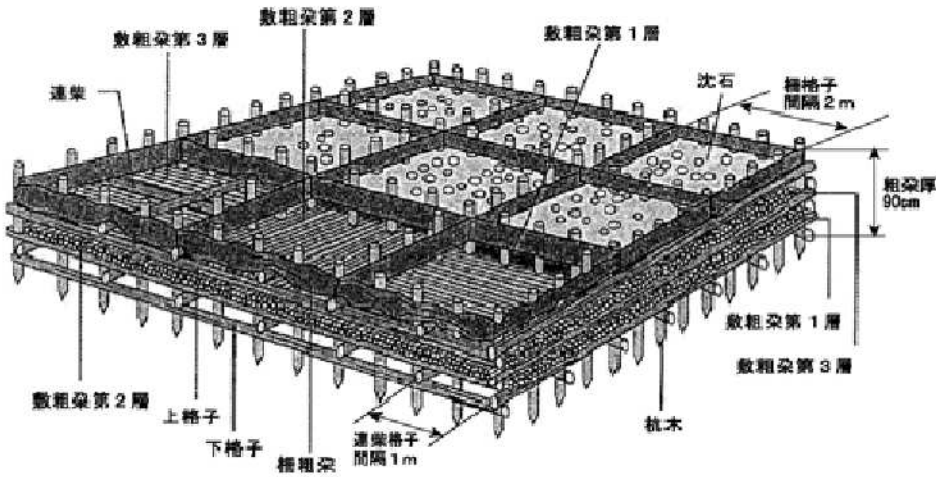
機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘要
沈床組立・沈床沈設・沈石投入・間詰石投入	クローラクレーン	油圧駆動式 ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	台	1	
沈石投入・間詰石投入	バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	1	

(注) 作業半径、現場条件により上表により難しい場合は、機械・規格を別途考慮する。

粗朶沈床概念図



4. 施 工 歩 掛

4-1 粗朶沈床組立・沈設

粗朶沈床(厚90cm)組立・沈設歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 粗朶沈床(厚90cm)組立歩掛・沈設歩掛 (100 m²当り)

名 称	規 格	単 位	連柴製作 ・沈床組立	沈床沈設 ・沈石投入
土 木 一 般 世 話 役		人	2.9	0.7
特 殊 作 業 員		〃	4.9	0.8
普 通 作 業 員		〃	13.9	0.9
粗 朶	L=2.7m 45cm上がり60cm 200cm上がり55cm	束	670	—
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	h	5.7	3.6
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	〃	—	3.3
諸 雑 費 率		%	19	19

- (注) 1. 連柴製作・沈床組立歩掛は、仮締切等により粗朶沈床を現地に直接施工する場合にも適用出来る。
 2. 連柴製作・沈床組立歩掛には、粗朶沈床材料の運搬距離 80m程度までの現場内小運搬を含む。
 3. 粗朶の使用数量は、連柴製作と敷粗朶に使用する粗朶の数量とする。
 4. 連柴製作・沈床組立歩掛の諸雑費は、柵粗朶、杭木、二子縄、鉄線等の費用であり、労務費、材料費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 5. 沈床沈設・沈石投入歩掛には、沈石の運搬距離 80m程度までの現場内小運搬を含む。
 6. 沈床沈設・沈石投入に粗朶沈床を固定するための仮設のH鋼杭等が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章仮設工」により、打込工を別途計上する。
 7. 沈床沈設・沈石投入にボート等が必要な場合は、別途計上する。
 8. 沈床沈設・沈石投入の諸雑費は、吊込金具、玉掛ワイヤー等の費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4-2 間詰石投入

間詰石投入歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 間詰石投入歩掛 (100 m³当り)

名 称	規 格	単 位	間詰石投入
土 木 一 般 世 話 役		人	0.7
特 殊 作 業 員		〃	0.9
普 通 作 業 員		〃	0.6
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	h	4.7
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準 値) 山積0.5 m ³ (平積0.4 m ³)	〃	8.7
諸 雑 費 率		%	3

- (注) 1. 間詰石投入歩掛には、間詰石の運搬距離 80m程度までの現場内小運搬を含む。
 2. 間詰石投入にボート等が必要な場合は、別途計上する。
 3. 諸雑費は、オレンジピールバケットの費用であり、労務費、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

4－3 粗朶沈床沈設の材料使用数量

沈石の材料使用数量は、次式を標準とする。

使用数量(㎥)=設計数量(㎥)×(1+K)...式4.1

設計数量：表4.3

K：ロス率（表4.4）

表4.3 沈石設計数量 (100㎡当り)

材 料 名	規 格	単 位	数 量
沈 石	8～30kg／個	㎥	35

- (注) 1. 粗朶沈床 100㎡当りの沈石設計数量は、上表を標準とする。
2. 沈石の規格は、流速等現場条件により、上表により難しい場合は、別途選定する。
3. 沈石設計数量には、間詰石は含まない。

表4.4 ロス率(K)

材 料 名	沈 石
ロ ス 率	+0.07

4－4 間詰石投入の材料使用数量

間詰石の使用数量は、次式による。

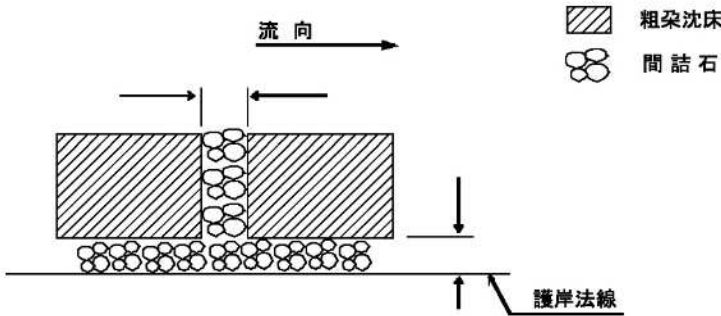
使用数量(㎥)=設計数量(㎥)×(1+K)... 式4.2

K ：ロス率（表4.5）

表4.5 ロス率(K)

材 料 名	間 詰 石
ロ ス 率	+0.03

間詰石投入概念図



5. 単 価 表

(1) 連柴製作・沈床組立 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB321130
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
粗 朶	L=2.7m 45cm上がり60cm 200cm上がり55cm	束		〃
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	h		表4.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(2) 沈床沈設・沈石投入 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB321140
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
沈 石	8～30kg／個	m ³		式4.1,表4.3,表4.4
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	h		表4.1 機械損料
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型(第1 次基準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃		〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(3) 間詰石投入 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB321150
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.2
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
間 詰 石		m ³		式4.2,表4.5
クローラクレーン運転	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	h		表4.2 機械損料
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準型・排出ガス対策型(第1 次基準値) 山積0.5m ³ (平積 0.4m ³)	〃		〃 機械損料
諸 雑 費		式	1	表4.2
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型 50～55 t 吊	機-1	
バックホウ(クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基 準値) 山積0.5m ³ (平積0.4m ³)	〃	

6. 施工単価入力基準表

(1) 連柴製作・沈床組立

施工歩掛コード	WB321130	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーン 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 粗朶単価 (Y-1024101) [円/束] を単価登録すること。
2. 本コードはクローラクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 沈床沈設・沈石投入

施工歩掛コード	WB321140	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	クローラクレーン 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	バックホウ (クローラ型) 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

- (注) 1. 沈石単価 (Y-0257000) [円/ m³] を単価登録すること。
2. 本コードは、クローラクレーン及びバックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
3. 粗朶沈床を固定するための仮設のH鋼杭等が必要な場合は、「第Ⅱ編第5章仮設工」により、杭打ち工を別途計上する。

(3) 間詰石投入

施工歩掛コード	WB321150	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	クローラクレーン 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	バックホウ (クローラ型) 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	バックホウ規格 ①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

- (注) 1. 間詰石単価 (Y-0258000) [円/ m³] を単価登録すること。
2. 本コードは、クローラクレーン及びバックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

⑧ 機械土工（河床等掘削）

1. 適用範囲

本資料は、河川工事における以下の機械土工を、超ロングアームバックホウにより施工する場合に適用する。ただし、下記以外の一般土工には適用しない。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 河床等掘削

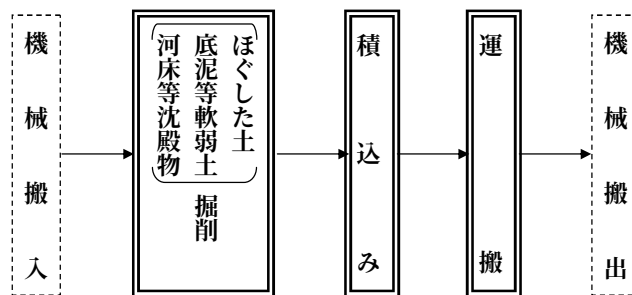
- (1) 川や水路及び河川等の河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去するような軽量作業及び道路、河川工事におけるほぐした土の掘削、積込み
- (2) 最大掘削深さが 11.7m 以下の場合

1-1-2 軟弱土等運搬

- (1) 川や水路及び河川等の河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去した後の運搬

2. 施工概要

施工フローは下記のとおりとする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは二重実線部分のみである。
2. タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 河床等掘削

(1) 条件区分

河床等掘削における積算条件区分はない。

積算単位は、m³ とする。

- (注) 河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去するような軽量作業及び道路、河川工事におけるほぐした土の掘削、積み込み等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 河床等掘削 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔超ロングアーム・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.4m ³ （平積 0.3m ³ ）	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手（特殊）	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 軟弱土等運搬

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.2 軟弱土等運搬 積算条件区分一覧

(積算単位：m3)

DID 区間の有無	運搬距離
無し	0.3km 以下
	0.8km 以下
	1.5km 以下
	2.5km 以下
	3.5km 以下
	6.5km 以下
	9.0km 以下
	13.0km 以下
	19.5km 以下
	40.0km 以下
	60.0km 以下
有り	0.3km 以下
	0.8km 以下
	1.5km 以下
	2.5km 以下
	3.5km 以下
	4.5km 以下
	8.5km 以下
	12.0km 以下
	17.5km 以下
	30.0km 以下
	50.0km 以下
	60.0km 以下

- (注) 1. 上表は、河床等に堆積した沈殿物、底泥等の軟弱土を掘削除去した後の運搬作業及び道路、河川工事におけるほぐした土の運搬作業等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。
 3. DID(人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査報告資料添付の人口集中地区境界図によるものとする。
 4. 現場条件により表3.3で想定する機械により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 軟弱土等運搬 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	タイヤ損耗費及び補修費 (良好)を含む
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(一般)	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 河床等掘削

パッケージコード	CB321410	施工単位	m3

(注) 上表の土量は地山土量である。

(2) 軟弱土等運搬

パッケージコード	CB321420	施工単位	m3
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	DID区間の有無	運搬距離	
	①無し ②有り	(表4.1)	

(注) 上表の土量は地山土量である。

表4.1 運搬距離

積込機種・規格	バックホウ（クローラ型）〔超ロングアーム・排出ガス対策型（第1次基準値）〕				
DID 区間：無し					
運 搬 距 離(km)	0.3 以下	0.8 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤
運 搬 距 離(km)	6.5 以下	9.0 以下	13.0 以下	19.5 以下	40.0 以下
入 力 番 号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運 搬 距 離(km)	60.0 以下				
入 力 番 号	⑪				
DID 区間：有り					
運 搬 距 離(km)	0.3 以下	0.8 以下	1.5 以下	2.5 以下	3.5 以下
入 力 番 号	①	②	③	④	⑤
運 搬 距 離(km)	4.5 以下	8.5 以下	12.0 以下	17.5 以下	30.0 以下
入 力 番 号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運 搬 距 離(km)	50.0 以下	60.0 以下			
入 力 番 号	⑪	⑫			

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なるときは平均値とする。

⑨ 多自然護岸工

⑨－１ 巨石積（張）工

１．適用範囲

本資料は、河川における多自然護岸工事の施工で巨石張工（練・空）、巨石積工（練）について適用する。

１－１ 適用出来る範囲

１－１－１ 巨石張（練）

（１）法勾配 1：1 以上，石材径 40 cm 以上 100 cm 以下の場合

１－１－２ 巨石張（空）

（１）法勾配 1：1 以上，石材径 40 cm 以上 100 cm 以下の場合

１－１－３ 巨石積（練）

（１）法勾配 1：1 未満，石材径 40 cm 以上 100 cm 以下の場合

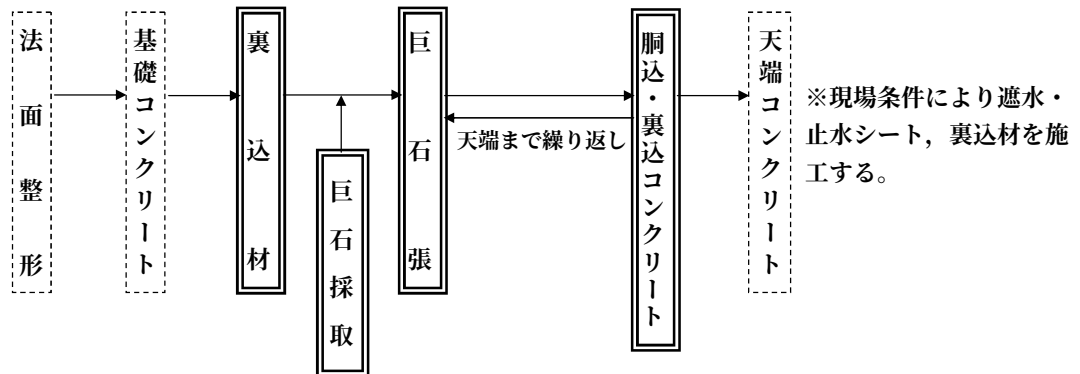
１－１－４ 巨石採取

（１）巨石材（径 40 cm 以上 100 cm 以下）を機械により現地採取する場合

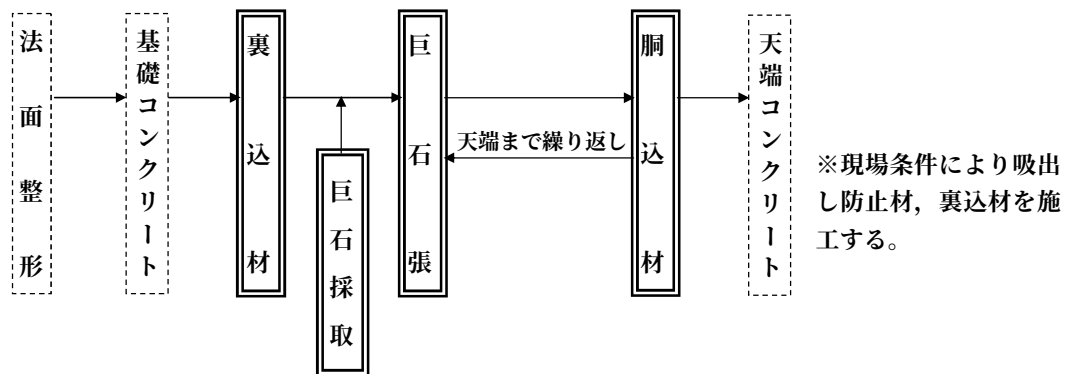
2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。

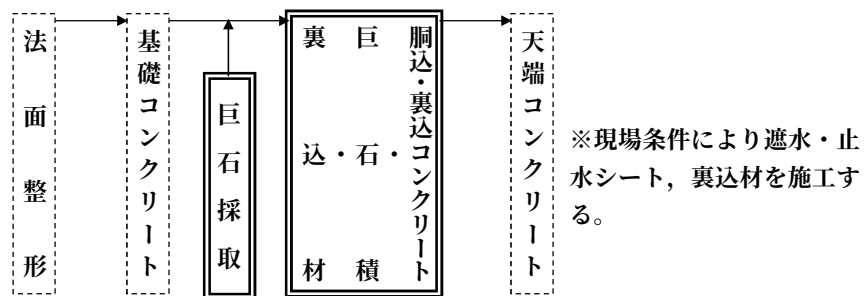
(1) 巨石張（練）



(2) 巨石張（空）



(3) 巨石積（練）



※上記作業の手順は、現場による

(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 巨石張（練）、巨石積（練）は、吸出し防止材、水抜きパイプ設置の有無にかかわらず、本施工パッケージを適用出来る。

3. 胴込・裏込コンクリートは、一般養生を含んでおり、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3. 施工パッケージ

3-1 巨石張(練)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 巨石張(練) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

石材径 区分	遮水シート の有無	止水シートの 有無	裏込材 の有無	裏込材 規格	胴込・裏込 コンクリート使用量	胴込・裏込 コンクリート規格
(表3.2)	有り	有り	有り	(表3.3)	(表3.4)	(表3.5)
			無し	—		
		無し	有り	(表3.3)		
			無し	—		
	無し	有り	有り	(表3.3)		
			無し	—		
		無し	有り	(表3.3)		
			無し	—		

- (注) 1. 上表は、巨石(法勾配1：1以上)の設置、裏込材設置、胴込・裏込コンクリート打設(一般養生を含む)、遮水シート・止水シート、水抜きパイプ、吸出し防止材、現場内小運搬の他、型枠、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、つき固め機械損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、石材(材料費)は含まない。
 2. 石材径とは、最大径と最小径の平均値とする。
 3. 20m程度の現場内小運搬を含むが、施工現場まで距離がある場合(20m超)の運搬費は、別途計上する。
 4. 石材を現地採取する場合は、「3-6 巨石採取」で別途計上する。また、石材を購入する場合は、購入費をm²当り単価で別途計上する。
 5. かみ合せによる石の加工を含む。
 6. 遮水・止水シート、裏込材、胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は、遮水・止水シートが+0.09、裏込材が+0.20、胴込・裏込コンクリートが+0.13とする。
 7. 裏込材とは、裏込碎石(クラッシュラン、雑割石等)とする。

表3.2 石材径区分

積算条件	区分
石材径区分	40 cm以上 60 cm未満
	60 cm以上 80 cm未満
	80 cm以上 100 cm以下

表3.3 胴込・裏込材規格

積算条件	区分
胴込・裏込材規格	再生クラッシュラン RC-40
	再生クラッシュラン RC-80
	クラッシュラン C-40
	クラッシュラン C-80
	碎石各種

表3.4 胴込・裏込コンクリート使用量

積算条件	区分
胴込・裏込コンクリート 使用量 (m ³ /10m ²)	0.5m ³ 以上1.0m ³ 以下
	1.0m ³ を超え1.5m ³ 以下
	1.5m ³ を超え2.0m ³ 以下
	2.0m ³ を超え2.5m ³ 以下
	2.5m ³ を超え3.0m ³ 以下
	3.0m ³ を超え3.5m ³ 以下
	3.5m ³ を超え4.0m ³ 以下
	4.0m ³ を超え4.5m ³ 以下
	4.5m ³ を超え5.0m ³ 以下

表3.5 胴込・裏込コンクリート規格

積算条件	区分
胴込・裏込コンクリート 規格	18-8-25(20)
	18-8-40
	19.5-8-40
	18-5-40(高炉)
	18-8-25(20)(高炉)
	18-8-40(高炉)
	19.5-8-40(高炉)
	生コンクリート各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 巨石張(練) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	裏込材が有りの場合
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	裏込材が有りの場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z 2	再生クラッシャラン RC-40	裏込材が有りの場合
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	裏込材が有りの場合
	Z 4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シートもしくは、止水シートが有りの場合
市場単価	S	—	

3-2 巨石張(空)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 巨石張(空) 積算条件区分一覧 (積算単位：m²)

石材径 区分	吸出し防止 材の有無	裏込材 の有無	裏込材 規格	胴込材 規格
(表3.2)	有り	有り	(表3.3)	(表3.3)
		無し	—	
	無し	有り	(表3.3)	
		無し	—	

- (注) 1. 上表は、巨石(法勾配 1 割以上)の設置、裏込材設置、胴込材設置、吸出し防止材、現場内小運搬の他、型枠、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、つき固め機械損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、石材(材料費)は含まない。
2. 石材径とは、最大径と最小径の平均値とする。
3. 20m程度の現場内小運搬を含むが、施工現場まで距離がある場合(20m超)の運搬費は、別途計上する。
4. 石材を現地採取する場合は、「3-6 巨石採取」で別途計上する。また、石材を購入する場合は、購入費を m² 当り単価で別途計上する。
5. かみ合せによる石の加工を含む。
6. 吸出し防止材、裏込材、胴込材の材料ロスを含む。標準ロス率は、吸出し防止材が+0.09、裏込材及び胴込材が+0.20 とする。
7. 裏込材とは、裏込碎石(クラッシャラン、雑割石等)、胴込材とは、胴込碎石(玉石、割栗石、雑割石等)とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

3.8 巨石張(空) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)]山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	
材料	Z 1	吸出し防止材 合織不織布 t=10mm 9.8kN/m	吸出し防止材が有りの場合
	Z 2	再生クラッシュラン RC-40(裏込材)	裏込材が有りの場合
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 4	再生クラッシュラン RC-40(胴込材)	
市場単価	S	—	

3-3 巨石積(練)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.9 巨石積(練) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

石材径 区分	遮水シート の有無	止水シート の有無	裏込材 の有無	裏込材 規格	胴込・裏込 コンクリート使用量	胴込・裏込 コンクリート規格
(表3.2)	有り	有り	有り	(表3.3)	(表3.4)	(表3.5)
			無し	—		
		無し	有り	(表3.3)		
			無し	—		
	無し	有り	有り	(表3.3)		
			無し	—		
		無し	有り	(表3.3)		
			無し	—		

- (注) 1. 上表は、巨石(法勾配 1 割未満)の設置、裏込材設置、胴込・裏込コンクリート打設(一般養生を含む)、遮水シート・止水シート、水抜きパイプ、吸出し防止材、現場内小運搬の他、型枠、コンクリートバケット、コンクリートパイプレータ、つき固め機械損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、石材(材料費)は含まない。
2. 石材径とは、最大径と最小径の平均値とする。
3. 20m程度の現場内小運搬を含むが、施工現場まで距離がある場合(20m超)の運搬費は、別途計上する。
4. 石材を現地採取する場合は、「3-6 巨石採取」で別途計上する。また、石材を購入する場合は、購入費を m² 当り単価で別途計上する。
5. かみ合せによる石の加工を含む。
6. 遮水・止水シート、裏込材、胴込・裏込コンクリートの材料ロスを含む。標準ロス率は、遮水・止水シートが+0.09、裏込材が+0.20、胴込・裏込コンクリートが+0.13 とする。
7. 裏込材とは、裏込碎石(クラッシュラン、雑割石等)とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 巨石積(練) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	裏込材が有りの場合
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	裏込材が有りの場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 18-8-25(20) W/C 60%	
	Z 2	再生クラッシュラン RC-40	裏込材が有りの場合
	Z 3	軽油 1.2号 パトロール給油	裏込材が有りの場合
	Z 4	遮水シート 厚 1.0+10.0mm	遮水シートもしくは、 止水シートが有りの場合
市場単価	S	—	

3-4 基礎コンクリート工

基礎コンクリート工は、「第Ⅲ編第2章⑩護岸基礎ブロック工」又は「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」及び「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。

3-5 天端コンクリート工

天端コンクリート工は、「第Ⅱ編第4章①コンクリート工」及び「第Ⅱ編第4章②-1型枠工」により別途計上する。

3-6 巨石採取

(1) 条件区分

巨石採取における積算条件区分はない。

積算単位は、個とする。

(注) 1. 巨石採取は、多自然護岸工事における巨石材(径 40cm 以上～100cm 以下)の掘削、採取、積込み、洗浄、選別、現場内小運搬の他、掴み装置、高圧洗浄機、電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 機械による破碎作業や火薬類による発破作業が必要な場合は、別途計上する。

3. 採取による 20m 程度の現場内小運搬を含むが、施工現場まで距離がある場合(20m 超)の運搬費は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.11 巨石採取 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型） 〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	
	K 2	バックホウ用アタッチメント 〔掴み装置〕 最大把持外径 1.0m 級	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手（特殊）	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-7 巨石（材料費）

(1) 条件区分

巨石（材料費）における積算条件区分はない。

積算単位は、m² とする。

4. 基本数量の算出基準

石材及び胴込・裏込材の基本数量の算出

図4-1 石材1個当り占有面積

1個当りの占有面積

$$A' = \frac{\sqrt{3}}{2} D^2$$

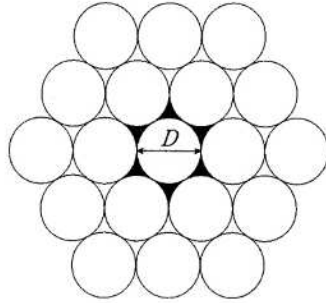


図4-2 胴込材 数量の算定

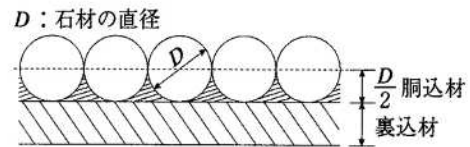
胴込材は、径の $\frac{1}{2}$ まで入れる。

表4.1 石材の基本数量

径(m)	体積(m ³ /個)	面積(m ² /個)	占有面積(m ² /個)	10m ² 当り基本数量(個)
D	$V = \pi D^3 / 6$	$A = (\pi D^2 / 4)$	$A' = (3^{1/2}) D^2 / 2$	$N = 10 / A'$

表4.2 裏込・胴込材の基本数量

工 種	裏 込 材		胴 込 材	
	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)	種 類	10 m ² 当り基本数量(m ³)
空 石 張	砕 石 等	施工厚(m) × 10(m ²)	雑 割 石 割 栗 石 玉 石 等	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$
練 石 張 及 び 練 石 積	砕 石 等 及 コ ン ク リ ー ト	施工厚(m) × 10(m ²)	コンクリート	$[(D \times 10 \text{ m}^2) - (V \times N)] / 2$

5. 施工単価入力基準表

(1) 巨石張(練)

パッケージコード		CB321510	施工単位		m2
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	石材径区分	遮水シート の有無	止水シート の有無	裏込材 の有無	裏込材 規 格
	①40cm以上60cm未満				
	②60cm以上80cm未満	①有り	①有り	①有り	
	③80cm以上100cm以下	②無し	②無し	②無し	(表 5.3)

J 6	J 7	J 8
胴込・裏込 コンクリート 10m2当り使用量 (m3/10m2)	胴込・裏込 コンクリート 規 格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
(表5.1)	(表5.2)	①標 準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 6 条件で①を選択出来ない。
 2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 6 条件で①、②を選択出来ない。
 3. J 2 条件で①を選択した場合は、遮水シート単価 (Y-1675000) [円/m2] を単価登録すること。
 4. J 3 条件で①を選択した場合は、止水シート単価 (Y-1674101) [円/m2] を単価登録すること。
 5. J 4 条件で②を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
 6. J 5 条件で⑤を選択した場合は、碎石単価 (Y-0241000) [円/m3] を単価登録すること。
 7. 本コードは、胴込・裏込材、遮水・止水シートの材料ロスを含んでいるため、J 6 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
 8. J 7 条件で⑧を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m3] を単価登録すること。
 9. 石材を採取する場合は、巨石採取(CB321570)で別途計上する。また、購入する場合は、巨石(材料費)(CB321580)で別途計上する。
 10. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 11. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
 12. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

表 5. 1 胴込・裏込コンクリート 10m2 当り使用量 (m3/10m2)

規 格	入力番号
0.5m3 以上 1.0m3 以下	①
1.0m3 を超え 1.5m3 以下	②
1.5m3 を超え 2.0m3 以下	③
2.0m3 を超え 2.5m3 以下	④
2.5m3 を超え 3.0m3 以下	⑤
3.0m3 を超え 3.5m3 以下	⑥
3.5m3 を超え 4.0m3 以下	⑦
4.0m3 を超え 4.5m3 以下	⑧
4.5m3 を超え 5.0m3 以下	⑨

表5.2 胴込・裏込コンクリート規格

規 格	入力番号
18-8-25(20)	①
18-8-40	②
19.5-8-40	③
18-5-40(高炉)	④
18-8-25(20)(高炉)	⑤
18-8-40(高炉)	⑥
19.5-8-40(高炉)	⑦
生コンクリート各種(Y-0210000)	⑧

表5.3 胴込・裏込材規格

規 格	入力番号
再生クラッシュラン RC-40	①
再生クラッシュラン RC-80	②
クラッシュラン C-40	③
クラッシュラン C-80	④
砕石各種 (Y-0241000)	⑤

(2) 巨石張 (空)

パッケージコード		CB321520		施 工 単 位		m2							
施工区分		入					力		条		件		
各 種		J 1		J 2		J 3		J 4		J 5		J 6	
		石材径区分		吸出し防止材の有無		裏込材の有無		裏込材規格		胴込材規格		ラフテレーンクレーン賃料補正係数	
		①40cm以上60cm未満										①標準	
		②60cm以上80cm未満		①有り		①有り						②標準以外	
		③80cm以上100cm以下		②無し		②無し		(表 5.3)		(表5.3)		(実数入力)	

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合は、吸出し防止材単価 (Y-1006000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. J 3 条件で②を選択した場合は、J 4 条件は入力する必要はない。
 3. 本コードは、胴込・裏込材、吸出し防止材の材料ロスを含む。
 4. J 4 条件で⑤を選択した場合は、砕石単価 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。
 5. J 5 条件で⑤を選択した場合は、砕石単価 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。
 6. 石材を採取する場合は、巨石採取 (CB321570) で別途計上する。また、購入する場合は、巨石(材料費) (CB321580) で別途計上する。
 7. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 8. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
 9. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

(3) 巨石積(練)

パッケージコード		CB321530	施 工 単 位	m2	
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	石材径区分	遮水シート の有無	止水シート の有無	裏込材 の有無	裏込材 規 格
	①40cm以上60cm未満				
	②60cm以上80cm未満	①有り	①有り	①有り	
	③80cm以上100cm以下	②無し	②無し	②無し	(表 5.3)

J 6	J 7	J 8
胴込・裏込 コンクリート 10㎡当り使用量	胴込・裏込 コンクリート 規 格	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
(m3/10m2)		①標 準
(表5.1)	(表5.2)	②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 6 条件で①を選択出来ない。
 2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 6 条件で①、②を選択出来ない。
 3. J 2 条件で①を選択した場合は、遮水シート単価 (Y-1675000) [円/ m2] を単価登録すること。
 4. J 3 条件で①を選択した場合は、止水シート単価 (Y-1674101) [円/ m2] を単価登録すること。
 5. J 4 条件で②を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。
 6. J 5 条件で⑤を選択した場合は、砕石単価 (Y-0241000) [円/ m3] を単価登録すること。
 7. 本コードは、胴込・裏込材、遮水・止水シートの材料ロスを含むため、J 6 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
 8. J 7 条件で⑧を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/ m3] を単価登録すること。
 9. 石材を採取する場合は、巨石採取(CB321570)で別途計上する。また、購入する場合は、巨石(材料費)(CB321580)で別途計上する。
 10. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
 11. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
 12. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)についても適用出来る。

(4) 巨石採取

パッケージコード	CB321570	施工単位	個

(5) 巨石(材料費)

パッケージコード	CB321580	施工単位	m2

- (注) 石材単価 (Y-1720000) [円/ m2] を単価登録すること。

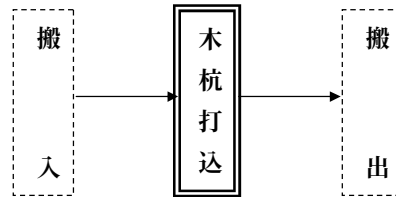
⑨-2 木杭打工

1. 適用範囲

本資料は、河川における多自然護岸工の施工で、杭長3.5m以下の木杭の打込みに適用する。

2. 施工概要

施工フローは下記を標準とする。



(注) 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

3. 施工パッケージ

3-1 木杭打

(1) 条件区分

木杭打における積算条件区分はない。

積算単位は、本とする。

(注) 護岸等における大型ブレーカ（バックホウ装着式）による木杭打込みの他、大型ブレーカの先に付ける木杭打込用のキャップの費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 木杭打 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	
	K 2	大型ブレーカ（ベースマシン含まず）〔油圧式〕 質量600～800kg 級	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	運転手（特殊）	
	R 4	—	
材料	Z 1	杭丸太（松） 長2.0m×末口12cm 皮付 先端加工	
	Z 2	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 木杭打

パッケージコード	CB321710	施 工 単 位	本

- (注) 1. 木杭単価 (Y-0425000) [円／本] を単価登録すること。
2. 本コードはバックホウ (大型ブレーカベースマシン) の低騒音型機種及び普通型機種 (排出ガス未対策型) についても適用出来る。

⑨-3 巨石据付工

1. 適用範囲

本資料は、河川における多自然護岸工事の施工で、巨石（0.5～1.5m）を据付ける場合（水平置き）に適用する。

2. 機種の選定

表2.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値）25 t 吊	台	1	

（注）1. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

2. 現場状況等により上表により難しい場合は、石材の大きさ、質量、作業半径及び現場状況により機種・規格を別途選定する。

3. 施工歩掛

3-1 巨石据付歩掛

巨石据付歩掛は、次表を標準とする。

表3.1 巨石据付歩掛

（10 m²当り）

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.24
石 工		〃	0.30
普 通 作 業 員		〃	0.56
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値）25 t 吊	日	0.20

3-2 材料使用量

巨石の使用数量は、次式による。

巨石の使用数量（個）＝ $10 \div (\sqrt{3} / 2 \times [\text{巨石径m}]^2)$ 式3.1

4. 単 価 表

（1）巨石据付 10 m²当り単価表

施工歩掛コード	WB322010

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.24	表3.1
石 工		〃	0.30	〃
普 通 作 業 員		〃	0.56	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値）25 t 吊	日	0.20	〃 機械賃料
巨 石	径0.5～1.5m	個		式3.1
諸 雑 費		式	1	
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) 巨石据付工

施工歩掛コード	WB322010	施工単位	m ²	
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	ラフテレーンクレーンの規格	ラフテレーンクレーンの賃料補正係数	巨 石	巨 石 の 径 (m)
	(表5.1)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①購 入 ②現地採取	(実数入力)

- (注) 1. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型についても適用出来る。また、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）にも適用出来る。
2. ラフテレーンクレーンの夜間補正を行った場合は、労務費調整係数も入力する。
3. J 3条件で①を選択した場合は、巨石単価（Y-0259000）「円／個」を単価登録すること。また、J 3条件で②を選択した場合は、J 4条件を入力する必要はない。
4. J 4条件は、巨石の径を「m」単位で、小数第2位を四捨五入し、1位止めで入力すること。

表5.1 ラフテレーンクレーンの規格

ラフテレーンクレーンの規格			番号
ラフテレーンクレーン（油圧伸縮ジブ型）20 t 吊			①
〃	〃	25 t 吊	②
〃	〃	35 t 吊	③

⑩ 護岸基礎ブロック工

1. 適用範囲

本資料は、護岸工のプレキャスト基礎ブロック（ブロック長2m, 3.3m, 4m, 5m）の施工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 プレキャスト基礎

(1) 中詰材の種類がコンクリートの場合

- ・ブロック長が2m, 3.3m, 5mの場合
- ・ブロック下幅が500mm以上1,100mm以下の場合

(2) 中詰材の種類がコンクリート以外又は無しの場合

- ・ブロック長が2m, 3.3m, 4m, 5mの場合
- ・ブロック下幅が400mm以上1,100mm以下の場合
- ・中詰材料にコンクリート以外のものを使用する場合
- ・中詰作業を行わない場合（ただし、連結部分にだけ中詰作業を行うものは含む）

1-1-2 中詰コンクリート打設

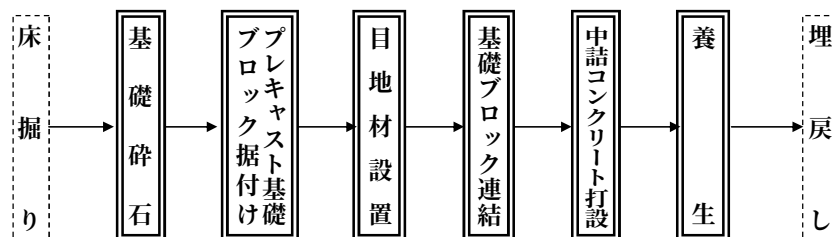
(1) 護岸基礎ブロック工における中詰（プレキャスト基礎）

2. 施工概要

2-1 中詰材の種類（コンクリート）

施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー

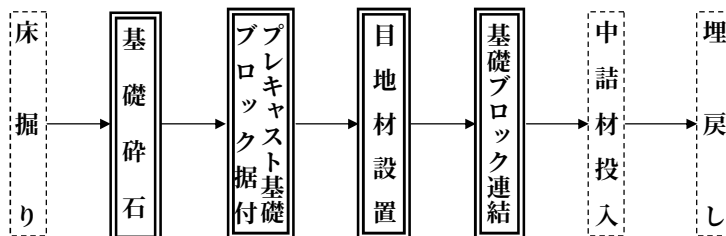


- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 目地材設置の有無にかかわらず適用出来る。
 3. 一般養生、特殊養生にかかわらず適用出来る。

2-2 中詰材の種類（コンクリート以外又は無し）

施工フローは、下記を標準とする。

図2-2 施工フロー



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 目地材設置の有無にかかわらず適用出来る。
 3. 一般養生、特殊養生にかかわらず適用出来る。
 4. 中詰材は、必要に応じて計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 プレキャスト基礎

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 プレキャスト基礎 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅
コンクリート	2,000mm	(表3.2)
	3,300mm	
	5,000mm	
コンクリート以外 又は無し	2,000mm	(表3.3)
	3,300mm	
	4,000mm	
	5,000mm	

- (注) 1. 上表は、基礎材、プレキャスト基礎ブロック(据付け、連結、目地材)、中詰コンクリート打設、養生(中詰材の種類がコンクリートの場合)等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、プレキャスト基礎(材料費)、中詰コンクリート(材料費)及び連結金具は含まない。
2. プレキャスト基礎ブロック、連結金具及び中詰コンクリートの材料費は別途計上する。

表3.2 ブロック下幅(中詰材の種類がコンクリートの場合)

積算条件	区 分
ブロック下幅	500 mm以上 600 mm未満
	600 mm以上 700 mm未満
	700 mm以上 900 mm未満
	900 mm以上 1,100 mm未満
	1,100 mm

表3.3 ブロック下幅(中詰材の種類がコンクリート以外又は無しの場合)

積算条件	区 分
ブロック下幅	400mm 以上 500mm 未満
	500 mm以上 600 mm未満
	600 mm以上 700 mm未満
	700 mm以上 900 mm未満
	900 mm以上 1,100 mm未満
	1,100 mm

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 プレキャスト基礎 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)]25t吊	賃料
	K 2	バックホウ(クローラ型)[標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)]山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	賃料
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	運転手(特殊)	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 プレキャスト基礎(材料費)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 プレキャスト基礎(材料費) 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

ブロック製品長
2,000mm
3,300mm
4,000mm
5,000mm

(注) 上表は、プレキャスト基礎ブロック、連結金具及びコンクリート以外の中詰材の材料費を含む。

3-3 中詰コンクリート(材料費)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.6 中詰コンクリート(材料費) 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

生コンクリート規格
(表3.8)

(注) 1. 上表は、プレキャスト基礎ブロックの中詰コンクリートに適用し、使用量はプレキャスト基礎ブロック1m当りの必要量を計上する。

2. レディーミクストコンクリートの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3/\text{m)} = \text{設計量 (m}^3/\text{m)} \times (1 + K) \cdots \text{式 3. 1}$$

K：ロス率

表3.7 ロス率(K)

材 料	ロス率
レディーミクストコンクリート	+0.05

表3.8 生コンクリート規格

積算条件	区 分		
コンクリート規格	21-8-25 (20) (普通)	24-8-40 (普通)	24-8-40 (高炉)
	24-8-25(20) (普通)	4.5-2.5-40 (普通)	21-12-40 (高炉)
	27-8-25 (20) (普通)	21-8-25 (20) (高炉)	40-8-25 (早強)
	30-8-25(20) (普通)	24-8-25 (20) (高炉)	21-8-25 (早強)
	40-8-25 (20) (普通)	19.5-5-40 (高炉)	24-8-25 (早強)
	18-8-40 (普通)	19.5-8-40 (高炉)	18-8-25 (高炉)
	19.5-8-40 (普通)	18-5-40 (高炉)	21-5-80 (高炉)
	21-8-40 (普通)	21-5-40 (高炉)	18-3-40 (高炉)
	21-12-40(普通)	18-8-40 (高炉)	21-3-40 (高炉)
	22.5-8-40 (普通)	21-8-40 (高炉)	(各種)

3-4 中詰コンクリート打設

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.9 中詰コンクリート打設 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

生コンクリート規格
(表3.8)

- (注) 1. 上表は、中詰コンクリートクレーン車打設及び養生等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
 2. 養生は、養生材の被覆、散水養生、被覆養生程度とする。
 3. レディーミクストコンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.05)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 中詰コンクリート打設 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1 ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25 t 吊	賃料
	K 2 —	
	K 3 —	
労務	R 1 普通作業員	
	R 2 特殊作業員	
	R 3 土木一般世話役	
	R 4 —	
材料	Z 1 生コンクリート 高炉 18-8-25 (20) W/C 60%	
	Z 2 —	
	Z 3 —	
	Z 4 —	
市場単価	S —	

4. 施工単価入力基準表

(1) プレキャスト基礎

パッケージコード	CB322120	施 工 単 位	m	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	中詰材の種類	ブロック製品長	ブロック下幅	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	(表 4.1)	(表 4.2)	(表 4.3)	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、必要に応じ「第Ⅱ編第2章⑭構造物とりこわし工 積込(コンクリート殻)(CB224260)」を別途計上する。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件で③は選択出来ない。
3. J 1 条件で①を選択した場合は、J 3 条件で①は選択出来ない。
4. J 1 条件で①を選択した場合は、中詰コンクリート(材料費)(CB322122)を別途計上する。
5. 中詰コンクリートの夜間割増が必要な場合及びラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
6. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、及び低騒音型機種についても適用出来る。
7. 本コードは、バックホウの低騒音型機種、普通型機種(排出ガス未対策型及び排出ガス対策型(第1次基準値))についても適用出来る。

表 4. 1 中詰材の種類

中詰材の種類	入力番号
コンクリート	①
コンクリート以外又は無し	②

表 4. 2 基礎ブロック1個当り製品長

基礎ブロック1個当り製品長	入力番号
2,000mm	①
3,300mm	②
4,000mm	③
5,000mm	④

表 4. 3 基礎ブロック1個当り下幅

基礎ブロック1個当り下幅	入力番号
400mm 以上500mm 未満	①
500mm 以上600mm 未満	②
600mm 以上700mm 未満	③
700mm 以上900mm 未満	④
900mm 以上1,100mm 未満	⑤
1,100mm	⑥

(2) プレキャスト基礎 (材料費)

パッケージコード	CB322121	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	ブロック製品長		
	(表 4.2)		

(注) 1. 基礎ブロック単価 (Y-0800005) [円/個] を単価登録すること。

2. 基礎ブロック単価には、連結金具及びコンクリート以外の中詰材の材料費を含む。

(3) 中詰コンクリート (材料費)

パッケージコード	CB322122	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1		J 2
	中詰コンクリート使用量		コンクリート規格
	(実数入力) (m ³ /m)		(表 4.4)

(注) J 1 条件は、材料ロスを含んだ必要量を入力すること。また、夜間割増が必要な場合は、J 2 条件で㊸を選択し、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。

表 4. 4 コンクリート規格

コンクリート	入力番号	コンクリート	入力番号	コンクリート	入力番号
21-8-25(20) (普通)	①	24-8-40 (普通)	⑪	24-8-40 (高炉)	㉑
24-8-25(20) (〃)	②	4.5-2.5-40 (〃)	⑫	21-12-40 (〃)	㉒
27-8-25(20) (〃)	③	21-8-25 (20) (高炉)	⑬	40-8-25 (早強)	㉓
30-8-25(20) (〃)	④	24-8-25(20) (〃)	⑭	21-8-25 (〃)	㉔
40-8-25 (20) (〃)	⑤	19.5-5-40 (〃)	⑮	24-8-25 (〃)	㉕
18-8-40 (〃)	⑥	19.5-8-40 (〃)	⑯	18-8-25 (高炉)	㉖
19.5-8-40 (〃)	⑦	18-5-40 (〃)	⑰	21-5-80 (〃)	㉗
21-8-40 (〃)	⑧	21-5-40 (〃)	⑱	18-3-40 (〃)	㉘
21-12-40 (〃)	⑨	18-8-40 (〃)	⑲	21-3-40 (〃)	㉙
22.5-8-40 (〃)	⑩	21-8-40 (〃)	⑳	Y-0210000 (各種)	㉚

(4) 中詰コンクリート打設

パッケージコード	CB322140	施工単位	m ³
施工区分	入力条件		
各種	J 1		J 2
	生コンクリート規格		ラフテレーンクレーン 賃料補正係数
	(表 4.4)		① 標準 (1.0) ② 標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件で㉚を選択した場合は、生コンクリート単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。2. コンクリートの夜間割増額が必要な場合は、J 1 条件で㉚を選択しコンクリート (Y-0210000) [円/m³] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。

3. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型)、及び低騒音型機種についても適用出来る。

5. 本コードは、コンクリートの材料ロスを含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。

⑪ かごマット工

⑪-1 かごマット工(スロープ型)

1. 適用範囲

本資料は、一般部又は曲線部の鉄線かごを使用した護岸でのかごマット(スロープ型)の施工に適用する。粗面のかご蓋を使用する場合にも適用する。

1-1 適用出来る範囲

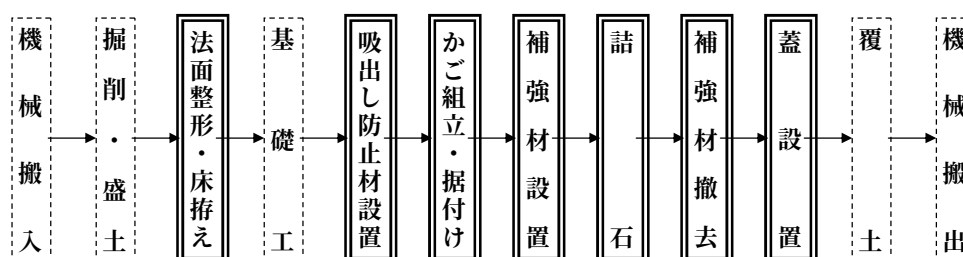
- (1) 中詰用石材が、栗石、割栗石の場合
- (2) 中詰用石材の石径がかご厚さ 30 cm で概ね 5～15 cm, かご厚さ 50 cm で概ね 15～20 cm の場合
- (3) 法勾配 1 : 2.0 以上の場合

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 「第2編第8河川維持④-1 ごマット工(多段積型)」の場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 吸出し防止材設置の有無にかかわらず本施工パッケージを適用出来る。

図2-1 施工フロー

3. 施工パッケージ

3-1 かごマット設置 (スロープ型)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 かごマット設置 (スロープ型) 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

かご厚さ	かご本体材質	詰石種類	詰石規格
t=30cm	亜鉛アルミメッキ	栗石	径5～15cm
			各種
		割栗石	径5～15cm
			各種
	各種	栗石	径5～15cm
			各種
		割栗石	径5～15cm
			各種
t=50cm	亜鉛アルミメッキ	栗石	各種
		割栗石	径15～20cm
			各種
	各種	栗石	各種
		割栗石	径15～20cm
			各種

- (注) 1. 上表は、かごマット (スロープ型) の設置、詰石、吸出し防止材設置、補強材設置、法面整形・床拵えの他、補強材 (単管パイプ、鉄筋等)、消耗材料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む) を含む。
 2. 20m程度の現場内小運搬を含む。
 3. 吸出し防止材は厚さ 10 mm を標準とする。
 4. 中詰用石材、吸出し防止材の材料ロスを含む。標準ロス率は、中詰用石材が+0.08、吸出し防止材が+0.07とする。
 5. 中詰用石材の標準使用量は、かごマット容積の 90%とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 かごマット設置 (スロープ型) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³)	
	K2		
	K3		
労務	R1	普通作業員	
	R2	運転手 (特殊)	
	R3	特殊作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	かごマット (スロープ型) t=30cm メッキ鉄線	かご厚さが t=30cm の場合
		かごマット (スロープ型) t=50cm メッキ鉄線	かご厚さが t=50cm の場合
	Z2	割栗石 径 50～150mm	かご厚さが t=30cm の場合
		割栗石 径 150～200mm	かご厚さが t=50cm の場合
	Z3	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z4		
市場単価	S		

4. 施工単価入力基準表

(1) かごマット設置(スロープ型)

パッケージコード	CB322210	施 工 単 位		m2
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	かご厚さ	かご本体材質	詰石種類	詰石規格
	① t = 30 cm ② t = 50 cm	①亜鉛アルミ メッキ ②各種	①栗石 ②割栗石	(表 4.1)

- (注) 1. J 2 条件で②各種を選択した場合は、「かごマット(スロープ型)(各種)」単価(Y-1022000) [円/㎡] を単価登録すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 4 条件で④を選択出来ない。また、J 1 条件で②を選択した場合は、J 4 条件で①、③を選択出来ない。
3. J 3 条件で①を選択した場合は、J 4 条件は①、②から選択すること。また②を選択した場合は、J 4 条件は③～⑤から選択すること。
4. J 4 条件で②を選択した場合は、「栗石(各種)」単価(Y-0249000) [円/㎡] を単価登録すること。また、⑤を選択した場合は、「割栗石(各種)」単価(Y-0250000) [円/㎡] を単価登録すること。
5. 本コードは法面整形が不要な場合であっても適用出来る。
6. 本コードは、中詰用石材、吸出し防止材の材料ロスを含む。

表 4. 1 詰石規格

詰 石 種 類	規 格	入力番号
栗 石	径5 ～ 15cm	①
	各 種	②
割 栗 石	径5 ～ 15cm	③
	径15 ～ 20cm	④
	各 種	⑤

⑪-2 かごマット工 (多段積型)

1. 適用範囲

本資料は、護岸等への鉄線かごを使用した、かごマット (多段積型) の施工に適用する。かごマット (性能規定・長期性能型) は「鉄線籠型護岸の設計・施工技術基準 (案)」に基づく。なお、曲線部での施工にも適用することが出来る。

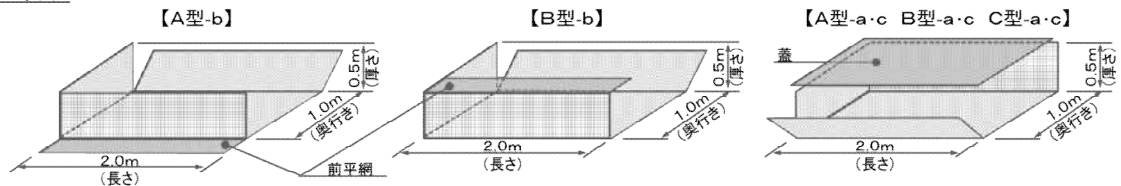
1-1 適用出来る範囲

- (1) 中詰用石材が、栗石、割栗石、玉石等で、石径が概ね 5~20cm
- (2) 勾配が 1:1.0 以下
- (3) かご厚さ 50cm・長さ 2m・奥行 1m の「突込式」及び「並列式」の多段積型の施工
- (4) かごタイプが A 型、B 型、C 型
- (5) 基礎面からの直高 (設置高) が 5m 以下

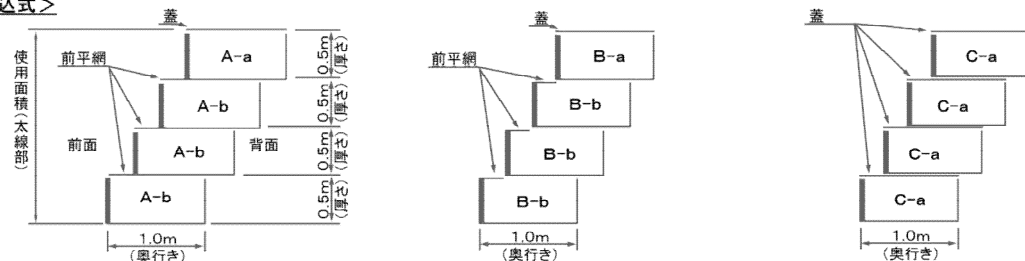
1-2 適用出来ない範囲

- (1) 「第Ⅲ編第2章河川維持⑪-1 かごマット工 (スロープ型)」の場合
- (2) 石を詰めたマットの水中等への吊り込み設置
- (3) 自動車荷重の影響を受ける場合 (兼用道路等) (鉄線籠型護岸の設計・施工技術基準 (案))
- (4) 補強材不要の省力型かごマットを使用する場合

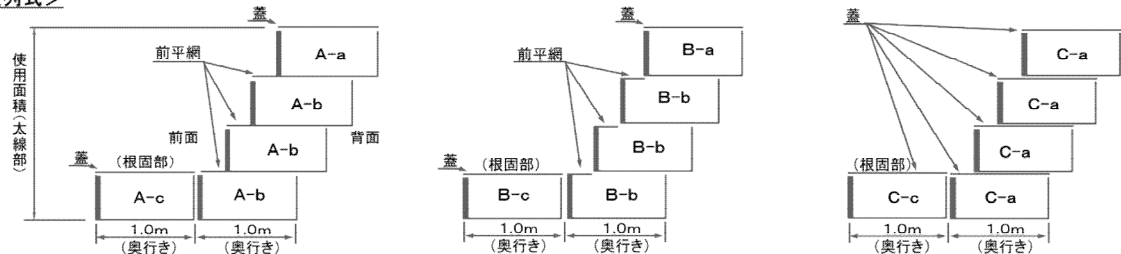
<ユニット>



<突込式>



<並列式>

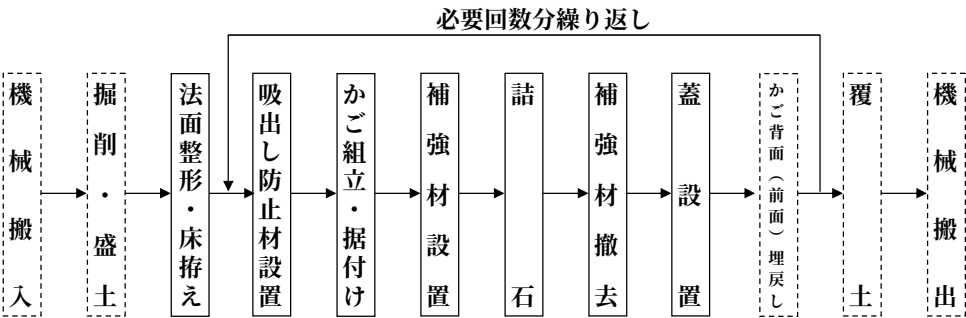


(注) かごマットの使用面積は、太線部とする。

図1-1 かごマット工 (多段積型) の区分 (突込式・並列式)、使用面積

2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは実線部分である。

図2-1 施工フロー

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数 量	摘要
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 吊能力2.9t 吊	台	1	

- (注) 1. バックホウ(クローラ型)は賃料とする。
2. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 施 工 歩 掛

かごマット工(多段積型)の歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 かごマット工(多段積型) 施工歩掛 (100 m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	2.8
特 殊 作 業 員		〃	3.2
普 通 作 業 員		〃	7.4
バックホウ(クローラ型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.45 m ³ (平積0.35 m ³) 2.9t 吊	日	8.0
諸 雑 費 率		%	1

- (注) 1. 上表には、かごマット組立・据付け、詰石、吸出し防止材設置、補強材設置・撤去、法面整形・床拵えの他、蓋設置を含む。法面整形・床拵えの有無にかかわらず適用出来る。
2. バックホウ(クローラ型)運転には、運搬距離100m程度の現場内小運搬作業を含む。
3. 中詰用石材の石径は5~20cmを標準とする。吸出し防止材は厚さ10mmを標準とする。
なお、これによらない場合も上表は適用出来る。
4. 諸雑費は、補強材料(単管パイプ、合板等)の損料、工具類等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 材 料 使 用 量

中詰用石材，吸出し防止材の使用数量は次式による。

$$\text{中詰用石材の使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \quad \cdots \cdots \text{式 5.1}$$

設計数量は，かごマット容積の90%を標準とする。

なお，これにより難い場合は別途考慮する。

K：ロス率

$$\text{吸出し防止材の使用数量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \quad \cdots \cdots \text{式 5.2}$$

K：ロス率

表5.1 ロス率(K)

材料名	中詰用石材	吸出し防止材
ロス率	+0.09	+0.16

(注) 中詰用石材のロス率は石径が5～20cmの場合であり，他の石径の場合は別途考慮する。

6. 単 価 表

(1) かごマット(多段積型)工 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB322220
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 4.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
かごマット(多段積型)	最上部 [A-a, B-a, C-a]	m	$200 \times \left(\frac{1}{n+c} \right)$	n：積段数 [○-a, ○-b] c：根固段数 [○-c] []：かごタイプ
	一般部 [A-b, B-b, C-a]	〃	$200 \times \left(\frac{n-1}{n+c} \right)$	
	根固部 [A-c, B-c, C-c]	〃	$200 \times \left(\frac{c}{n+c} \right)$	
中 詰 用 石 材		m ³		式 5.1, 表 5.1
吸 出 し 防 止 材	t=10mm	m ²		式 5.1, 表 5.1
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) 2.9t 吊	日		表 4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 4.1
計				

(注) かごマット(多段積型)において最上部，根固部の数量は少数第2位を四捨五入し，第1位とする。一般部の数量は200mから最上部，根固め部の数量を差し引いた値とする。

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.45 m ³ (平積 0.35 m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →31 機械賃料数量→1.20

7. 施工単価入力基準表

(1) かごマット(多段積型)工

施工歩掛コード	WB322220	施工単位		m ²		
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	
	かご形式	かご本体材質	法勾配	積段数	根固め段数	
	①A型	①亜鉛アルミ	①1:0.5 以下	(実数入力)	(実数入力)	
	②B型	メッキ鉄線	②1:0.5 を超え			
③C型	②各種	1:1.0 以下				

J 6	J 7	J 8	J 9
中詰用石材種類	中詰用石材規格	中詰用石材使用量 (m ³ /100 m ²)	吸出し防止材 使用量 (m ³ /100 m ²)
① 割栗石 ② 栗石 ③ 玉石	① 15～20cm ② 各種	① 標準 (90 m ³) ② 標準以外 (実数入力)	(実数入力)

- (注) 1. 「吸出し防止材」単価 (Y-1006000) [円/m²] を単価登録すること。
2. J 1 条件で③を選択した場合は、J 3 条件を入力する必要はない。
3. J 2 条件で②を選択した場合は、J 3 条件を入力する必要はない。
4. J 2 条件で②を選択した場合は、「かごマット多段積型(各種) a 型」単価 (Y-1022001) [円/m], 「かごマット多段積型(各種) b 型」単価 (Y-1022002) [円/m], 「かごマット多段積型(各種) c 型」単価 (Y-1022003) [円/m] を単価登録すること。
5. J 6 条件で②, ③を選択した場合は、J 7 条件は②で固定される。
6. J 6 条件で①, J 7 条件で②を選択した場合は、「割栗石(各種)」単価 (Y-0250000) [円/m³] を,
J 6 条件で②を選択した場合は、「栗石(各種)」単価 (Y-0249000) [円/m³] を,
J 6 条件で③を選択した場合は、「玉石(各種)」単価 (Y-0254000) [円/m³] を単価登録すること。
7. 本コードは、材料ロスを含んでおり、J 8 条件, J 9 条件の使用量は、設計量(ロス率による割増をしない数量)を入力すること。
8. 本コードは、バックホウの低騒音機種についても適用出来る。
9. 本コードは、バックホウの排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

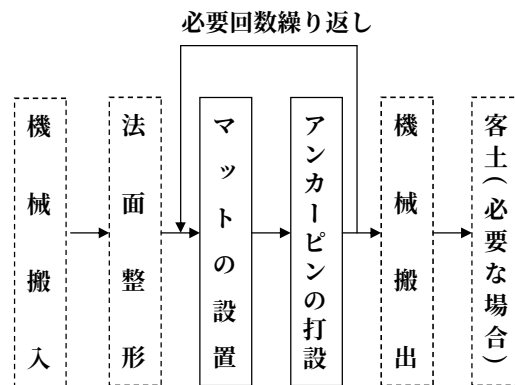
⑫ ブロックマット工

1. 適用範囲

本資料は、法勾配 1 : 1.5 ~ 1 : 3.0 で、マット長さ 2.0 ~ 8.0m のブロックマット工に適用する。
また、ブロックマットの幅、種類にかかわらず適用出来る。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛に対応しているのは実線部分である。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数 量		摘要
			最大法長 5.5m 以下	最大法長 5.5m を超え 18m 以下	
バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9t 吊	台	1	—	
ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t 吊	台	—	1	

- (注) 1. バックホウ(クローラ型)及びラフテレーンクレーンは賃料とする。
2. 現場条件により、上表により難しい場合は別途考慮する。
3. 最大法長とは、1 施工現場において最大となる施工法面の長さである。

4. 施工歩掛

4-1 日当り編成人員

日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員 (人/日)

土木一般世話役	普通作業員
1	5 (3)

(注) 最大法長(適用マット長さ) 5.5m 以下でバックホウ施工の場合は、() 書きを適用する。

4-2 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.2 日当り施工量 (㎡/日)

適用マット長さ (m)	日当り施工量
2.0m 以上 2.5m 以下	231 (174)
2.5m を超え 3.5m 以下	245 (187)
3.5m を超え 4.5m 以下	259 (201)
4.5m を超え 5.5m 以下	273 (214)
5.5m を超え 6.5m 以下	286
6.5m を超え 7.5m 以下	300
7.5m を超え 8.0m 以下	314

- (注) 1. マット長さとはマット1枚当りの長さである。
 2. 日当り施工量には、マットの設置、アンカーピンの打設を含む。
 3. 最大法長 5.5m (適用マット長さ) 以下でバックホウ施工の場合は、() 書きを適用する。

4-3 アンカーピン使用量

アンカーピンの使用量は、次表を標準とする。

表4.3 アンカーピン使用量 (本/100 ㎡)

法面勾配	数量
1:1.5 以上 1:1.8 未満	70
1:1.8 以上 1:2.0 未満	60
1:2.0 以上 1:3.0 未満	50
1:3.0	30

4-4 諸雑費

諸雑費は、ワイヤーロープ、吊金具、工具等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.4 諸雑費率 (%)

ブロックマット工	6 (8)

- (注) 最大法長 5.5m (適用マット長さ) 以下でバックホウ施工の場合は、() 書きを適用する。

5. 単 価 表

(1) ブロックマット工 (最大法長 5.5m 以下) 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB323010
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/D	表 4.1, 表 4.2
普 通 作 業 員		〃	3×100/D	〃
ブ ロ ッ ク マ ッ ト		m ²	100	
ア ン カ ー ピ ン		本		表 4.3
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス 対策型(第 2 次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 2.9t 吊	日	1×100/D	表 4.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 4.4
計				

(注) D:日当り施工量 (m²/日)(2) ブロックマット工 (最大法長 5.5m を超え 18m 以下) 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB323020
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×100/D	表 4.1, 表 4.2
普 通 作 業 員		〃	5×100/D	〃
ブ ロ ッ ク マ ッ ト		m ²	100	
ア ン カ ー ピ ン		本		表 4.3
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 25t 吊	日	1×100/D	表 4.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 4.4
計				

(注) D:日当り施工量 (m²/日)

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第 2 次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 2.9t 吊	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →81 機械賃料数量→1.18

6. 施工単価入力基準表

(1) ブロックマット工 (最大法長 5.5m 以下)

施工歩掛コード	WB323010	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	マット長さ	法勾配	
	(表 6.1)	(表 6.2)	

(注) 1. J 1 条件は①～④から選択すること。

2. ブロックマット単価 (Y-1055001) [円/m²], アンカーピン単価 (Y-1266001) [円/本] を単価登録すること。

3. 本コードは, バックホウ (クローラ型) の低騒音機種についても適用出来る。

4. 本コードは, バックホウ (クローラ型) の排出ガス対策型 (第 1 次基準値) についても適用出来る。

表 6. 1 マット長さ

マット長さ	入力番号
2.0m 以上 2.5m 以下	①
2.5m を超え 3.5m 以下	②
3.5m を超え 4.5m 以下	③
4.5m を超え 5.5m 以下	④
5.5m を超え 6.5m 以下	⑤
6.5m を超え 7.5m 以下	⑥
7.5m を超え 8.0m 以下	⑦

表 6. 2 法勾配

法勾配	入力番号
1:1.5 以上 1:1.8 未満	①
1:1.8 以上 1:2.0 未満	②
1:2.0 以上 1:3.0 未満	③
1:3.0	④

(2) ブロックマット工 (最大法長 5.5m を超え 18m 以下)

施工歩掛コード	WB323020	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	マット長さ	法勾配	ラフテレーンクレーン 賃料補正
	(表 6.1)	(表 6.2)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件は⑤～⑦から選択すること。

2. ブロックマット単価 (Y-1055001) [円/m²], アンカーピン単価 (Y-1266001) [円/本] を単価登録すること。

3. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音機種についても適用出来る。

5. 本コードは, ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型 (第 1 次基準値) についても適用出来る。

7. 参 考 資 料

日当り施工量の決定に必要なマット長さの選定は下記を標準とするが、これにより難しい場合は別途考慮する。

1) 設置延長 $L \leq 7.0\text{m}$ の場合

マット長さ $L1$ は設置延長 L とする。なお、小段がある場合も同様とする。

マット長さ $L1=L$
ここで、 L =設置延長

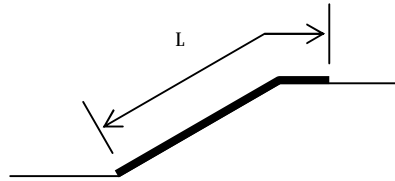


図7-1 マット長さの標準 (7.0m 以下の場合)

2) 設置延長 $L > 7.0\text{m}$ の場合

マット長さ $L1$ は 6.0m を基本として、最上段で調整する。なお、小段がある場合も同様とする。

(マット長さの割り付けの例)

マット長さ $L1=6.0\text{m}$ $L2=L-L1$

ここで、 L =設置延長

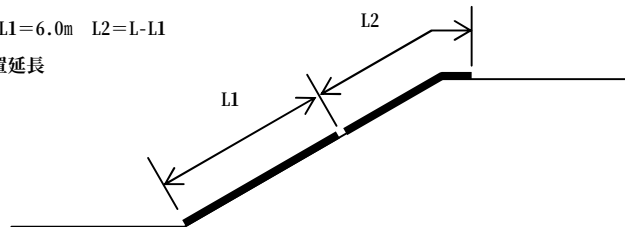


図7-2 マット長さの標準 (7.0m を超える場合)

⑬ 野芝種子吹付工

1. 適用範囲

本資料は、河川工事における野芝種子吹付に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 野芝種子吹付

(1) 河川工事(堤防, 高水敷, 低水部法面及びこれに準ずる箇所)の法面保護工のうち, 種子吹付機を使用して野芝種子, 肥料等を吹付ける作業。

1-1-2 被覆シート張

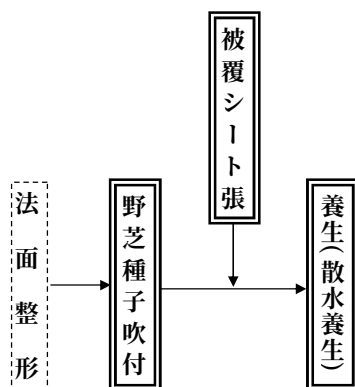
(1) 河川工事(堤防, 高水敷, 低水部法面及びこれに準ずる箇所)の法面保護工のうち, 長繊維不織布, ポリエチレンフィルム等で被覆する作業。

1-1-3 養生(散水養生)

(1) 河川工事(堤防, 高水敷, 低水部法面及びこれに準ずる箇所)の法面保護工のうち, 養生材を吹付ける作業。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 土壌改良剤, 土壌安定剤の有無にかかわらず適用出来る。
3. 土壌改良剤は, pH値4未満(H_2O)であるような酸性が強い場合に使用する。

3. 施工パッケージ

3-1 野芝種子吹付

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 野芝種子吹付 積算条件区分一覧

(積算単位：m²)

養生材の有無
有り
無し

- (注) 1. 法面部への野芝種子、肥料、養生材、土壌改良剤、土壌安定剤の吹付け、小型渦巻ポンプ等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 法面清掃、被覆シート張、養生（散水養生）は含まない。
3. 繊維ネット、法面整形、ラス張は含まない。
4. 吹付材料の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.20）
5. 吹付材料の配合は、表3.2を標準とする。

表3.2 吹付材料の配合

(100m² 当り)

吹付材料	配合	吹付材料	配合
種子（野芝）	2kg	(注)土壌改良剤	4kg
肥料	10kg	土壌安定剤	0.1kg
養生材	20kg	—	—

(注) 土壌改良剤は、pH値4未満（H₂O）であるような酸性が強い場合に使用する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 野芝種子吹付 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	種子吹付機[車載式（種子専用）] タンク容量 2.5m ³ 搭載トラック 3t 車	
	K2	トラック[普通型] 4.0～4.5t 積	
	K3	—	
労務	R1	法面工	
	R2	普通作業員	
	R3	運転手（一般）	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	種子(野芝) 発芽促進剤処理済	
	Z2	肥料 高度化成肥料 N：P：K=15：15：15	
	Z3	軽油 1.2号 バトロール給油	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-2 被覆シート張

(1) 条件区分

被覆シート張における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. 被覆シート張は、種子吹付施工後、風による種子の飛散や降雨等によるエロージョン等を防止するため、長繊維不織布、ポリエチレンフィルム等を被覆する作業等、その施工に要する全ての労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 被覆シートの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.25）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 被覆シート張 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	法面工	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	—	
材料	Z 1	被覆シート 長繊維不織布 245N/5cm	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 養生（散水養生）

(1) 条件区分

養生（散水養生）における積算条件区分はない。

積算単位は、 m^2 とする。

- (注) 1. その施工に要する全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 回数については、必要に応じて計上すること。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 養生（散水養生） 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	小型渦巻ポンプ[可搬・自吸・エンジン駆動型]口径 50 mm 全揚程 30m	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	普通作業員	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	ガソリン レギュラー スタンド	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 野芝種子吹付

パッケージコード	CB322310	施工単位	m2
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	養生材の有無		
	① 有り ② 無し		

- (注) 1. 種子(野芝)単価(Y-1502101) [円/kg], 肥料単価(Y-1512000) [円/kg] を単価登録すること。
 2. 法面整形が必要な場合は, 「第Ⅱ編第2章①-1 法面整形工(CB220110)」により別途計上する。
 3. 本コードは, 吹付材料の材料ロスを含んでいるため, 施工量は, ロス率を含まない数量を入力すること。

(2) 被覆シート張

パッケージコード	CB322320	施工単位	m2

- (注) 1. 被覆シート単価(Y-0562000) [円/m2] を単価登録すること。
 2. 本コードは, 被覆シートの材料ロスを含んでいるため, 施工量は, ロス率を含まない数量を入力すること。

(3) 養生(散水養生)

パッケージコード	CB322330	施工単位	m2

⑭ 袋詰玉石工

1. 適用範囲

1-1 適用出来る範囲

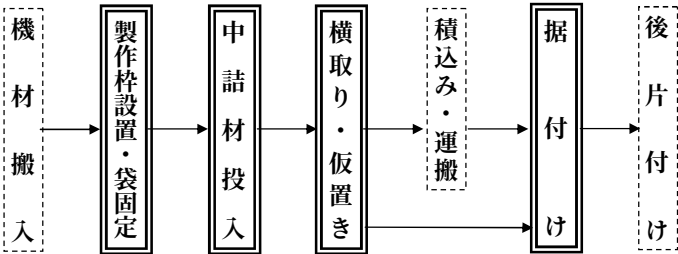
- (1) 本資料は、袋材（袋材規格2 t用及び3 t用）に詰石（50 mm ～ 300 mm 程度の玉石，割栗石，コンクリート殻）したものを現地で製作し，築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。
なお，積み方法は，平積み，乱積み及び多段積みとする。

1-2 適用出来ない範囲

- (1) 中詰材を投入した袋材の積み込み・運搬作業のみの場合。
(2) 据付深さが9mを超える場合又は作業半径が18mを超える場合。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは，二重実線部分のみである。
2. 濁水予防のために洗いをを行う場合は，別途計上すること。
3. 積み込み・運搬を行う場合は，別途計上すること。
4. 横取りは，定置から1スイングで袋材を仮置き場に移動する作業とする。

3. 施工パッケージ

3-1 袋詰玉石

(1) 条件区分

条件区分は，次表を標準とする。

表3.1 袋詰玉石 積算条件区分一覧		(積算単位：袋)
袋詰玉石用袋材規格	施工条件	中詰材区分
2t 用(長期性能型)	据付深さ 4m 以下及び 作業半径 5m 以内	購入材
		流用又は採取材
	据付深さ 4m を超え 9m 以下又は 作業半径 5m を超え 18m 以下	購入材
		流用又は採取材
3t 用(長期性能型)	—	購入材
		流用又は採取材

- (注) 1. 上表は，袋詰玉石の製作枠設置・袋固定，中詰材料・投入作業，横取り・仮置き，据付け（袋の連結作業含む）の他，製作枠，連結ロープ等，その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 流用又は採取材の採取費用は含まない。
3. 横取り・仮置きは，1 スイングまで含む。
4. 施工条件の「据付深さ」とは，施工基面（機械設置基面）から袋材据付面とする。
①据付深さ 4m以下及び作業半径 5m以下の場合（図3-1の範囲Ⅰ）
②据付深さ 4mを超え 9m以下又は作業半径 5mを超え 18m以下の場合（図3-1の範囲Ⅱ）

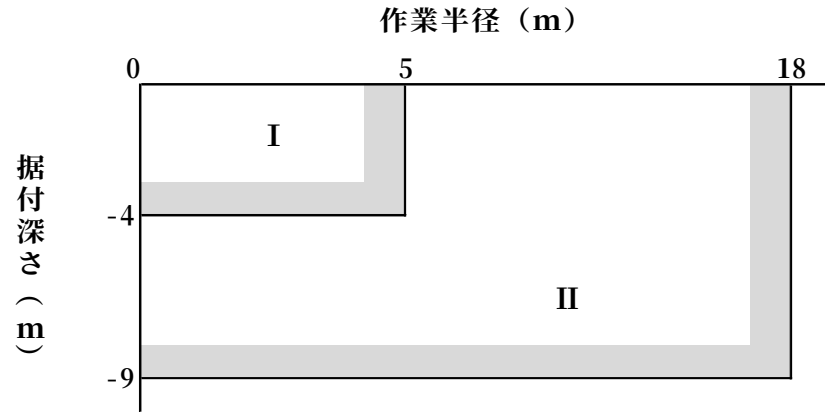


図3-1

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 袋詰玉石 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	バックホウ（クローラ型）[標準型・超低騒音型・クレーン機能付・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9t	賃料
	K2	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第3次基準値）] 25t 吊	・ 賃料 ・ 袋詰玉石用袋材が 2t 用かつ据付深さ 4m を超え 9 m 以下又は作業半径 5 m を超え 18 m 以下の場合 ・ 袋詰玉石用袋材が 3t 用の場合
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	運転手（特殊）	
	R4	特殊作業員	
材料	Z1	袋詰玉石用袋材 2t 用(長期性能型)	袋詰玉石用袋材規格が 2t 用の場合
		袋詰玉石用袋材 3t 用(長期性能型)	袋詰玉石用袋材規格が 3t 用の場合
	Z2	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z3	中詰材 割栗石 150～200mm	中詰材を購入する場合
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 袋詰玉石

パッケージコード	CB322430	施 工 単 位	袋	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	袋詰玉石用 袋材規格 ①2t 用 ②3t 用	施工条件 ①据付深さ 4m 以下及び 作業半径 5m 以内 ②据付深さ 4m を超え 9m 以下又は作業半径 5m を 超え 18m 以下	中詰材区分 ①購入材 ②流用又は採取材	ラフテレーン クレーン 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件を入力する必要はない。
2. J 3 条件で①を選択した場合は、中詰材の単価 (Y-1726000) [円/㎡]を単価登録すること。
3. 表 3.2 で想定するラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業)を行った場合は、労務調整係数を入力すること。
4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型)、排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 及び排出ガス対策型 (第 2 次基準値) についても適用出来る。
5. 本コードは、バックホウの普通型機種 (排出ガス未対策型)、排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 及び排出ガス対策型 (第 2 次基準値) についても適用出来る。

⑮ 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用範囲

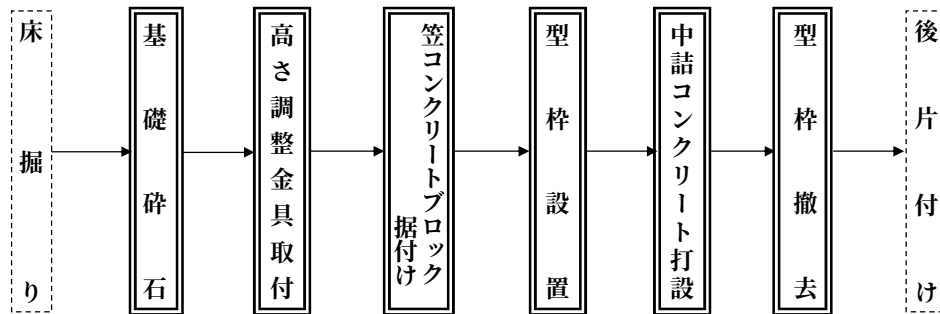
本資料は、矢板護岸工におけるプレキャスト笠コンクリートブロックの据付けに適用する。

1-1 適用出来る範囲

(1) 重量 1.1t /個未満のプレキャスト笠コンクリートブロックの場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
 2. 型枠設置・撤去は、必要に応じて計上する。
 3. 基礎砕石の有無にかかわらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 笠コンクリートブロック

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 笠コンクリートブロック 積算条件区分一覧 (積算単位: m)

中詰コンクリート型枠の有無	中詰コンクリート規格	中詰コンクリート 100m 当り設計量
無し	(表 3.2)	11m3 以上 16m3 未満
		16m3 以上 23m3 未満
		23m3 以上 31m3 未満
		31m3 以上 39m3 未満
		39m3 以上 47m3 未満
有り		47m3 以上 56m3 未満
		56m3 以上 65m3 未満
		65m3 以上 75m3 未満
		75m3 以上 85m3 未満
		85m3 以上 96m3 未満

- (注) 1. 上表は、笠コンクリートブロックの据付け、高さ調整金具取付、ブロック連結、中詰コンクリート打設、型枠設置・撤去、基礎砕石、目地材、調整金具、連結金具、コンクリート打設小器材、養生材及びはく離剤、現場内小運搬等、その施工に要する全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、笠コンクリートブロック(材料費)は含まない。
 2. 笠コンクリートブロックの材料費は別途計上する。
 3. 中詰コンクリートの養生は、一般養生を見込んでおり、これにより難しい場合は、別途考慮する。
 4. 中詰コンクリートの材料ロスを含む。(標準ロス率は、+0.04)
 5. 運搬距離 30mまでの現場内小運搬を含んでいるが、これにより難しい場合は別途考慮する。
 6. 基礎砕石の敷均し厚は、10 cm 以下を標準とし、材料の種別・規格を問わない。

表3.2 中詰コンクリート規格

積算条件	区分
中詰コンクリート規格	18-8-40 (普通)
	// (高炉)
	21-8-25(20) (普通)
	// (高炉)
	生コンクリート各種

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.3 笠コンクリートブロック 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格		備考
機械	K 1	ラフテレーンクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値)] 25t 吊	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	型わく工	型枠有りの場合
材料	Z 1	生コンクリート 高炉 21-8-25(20) W/C 55%	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 笠コンクリートブロック (材料費)

(1) 条件区分

笠コンクリートブロック (材料費) における積算条件区分はない。

積算単位は、mとする。

4. 施工単価入力基準表

(1) 笠コンクリートブロック

パッケージコード		CB322910	施 工 単 位	m
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	中詰コンクリート 型枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り設計量	ラフテレーン クレーン賃料 補正係数
	①無し ②有り	(表 4.1)	(表 4.2)	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 2 条件で⑤を選択した場合は、生コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。
2. 中詰コンクリート設計量の夜間割増が必要な場合は、J 2 条件で⑤を選択し、コンクリート (Y-0210000) [円/㎡] に夜間割増額を考慮して単価登録すること。また、労務費調整係数も入力すること。
3. ラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間作業) を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
4. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び、低騒音型機種についても適用出来る。
5. 本コードは、中詰コンクリートの材料ロスを含んでいるため、J 3 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。

表 4. 1 中詰コンクリート規格

コンクリート規格	入力番号
18-8-40 (普通)	①
" (高炉)	②
21-8-25(20) (普通)	③
" (高炉)	④
生コンクリート各種(Y-0210000)	⑤

表 4. 2 中詰コンクリート 100m 当り設計量

中詰コンクリート 100m当り設計量	入力番号
11m3以上16m3未満	①
16m3以上23m3未満	②
23m3以上31m3未満	③
31m3以上39m3未満	④
39m3以上47m3未満	⑤
47m3以上56m3未満	⑥
56m3以上65m3未満	⑦
65m3以上75m3未満	⑧
75m3以上85m3未満	⑨
85m3以上96m3未満	⑩

(2) 笠コンクリートブロック (材料費)

パッケージコード	CB322911	施工単位	m

- (注) 笠コンクリートブロック (Y-0386001) [円/m] を単価登録すること。

⑩ グラウトホール工

1. 適用範囲

本資料は、河川工事における樋門・樋管のグラウトホール取付けに適用する。

2. 施工パッケージ

2-1 グラウトホール

(1) 条件区分

グラウトホールにおける積算条件区分はない。

積算単位は、組とする。

(注) 1. グラウトホール及び沈下板の設置の他、その施工に必要な全ての労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、グラウト管(材料費)は含まない。

2. グラウト管の材料費は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表2.1 グラウトホール 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	特殊作業員	
	R 2	—	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	—	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

2-2 グラウト管(材料費)

(1) 条件区分

グラウト管(材料費)における積算条件区分はない。

積算単位は、組とする。

3. 施工単価入力基準表

(1) グラウトホール

パッケージコード	CB322510	施工単位	組

(2) グラウト管(材料費)

パッケージコード	CB322511	施工単位	組

(注) グラウト管単価(Y-0800009) [円/組] を単価登録すること。

⑪ 連節ブロックの水中吊落し工

1. 適用範囲

本資料は、クレーンにより連節ブロックを水中に吊落す場合に適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

機械名	規 格	単位	数量	適 要
クローラクレーン	[油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型] 30～35 t 吊, 40～45 t 吊, 50～55 t 吊, 60～65 t 吊	台	1	
トラッククレーン	[油圧伸縮ジブ型] 20 t 吊, 25 t 吊, 30 t 吊, 35 t 吊, 40～45 t 吊, 50 t 吊	台	1	

(注) クレーンは上表を標準とするが、現場条件等を考慮し、機種・規格を別途選定する。

3. 施工歩掛

連節ブロック水中吊落し歩掛は次表を標準とする。

表3.1 連節ブロック水中吊落し歩掛 (100 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4	
普 通 作 業 員		〃	1.2	
クレーン運転		h	3.1	表2.1

4. 材料使用量

連節ブロック水中吊落し材料は、次表を標準とする。

表4.1 連節ブロック水中吊落し材料 (1工事当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
合 板	12mm×900mm×1800mm	枚	22.0	
松 丸 太	末口18cm×5m	m ³	0.12	
松 丸 太	末口15cm×5m	〃	0.07	
松 丸 太	末口9cm×1m	〃	0.04	
ワイヤロープ	A種6×24 φ16mm	m	20.0	
ワイヤロープ	A種6×24 φ9mm	〃	14.0	
ワイヤクリップ	φ16mm用	個	36.0	
ワイヤクリップ	φ12mm用	〃	22.0	
ワイヤクリップ	φ9mm用	〃	7.2	
矢 バ イ ス	1-I型	本	1.2	
矢バイス用ワイヤロープ	A種6×24 φ12mm	m	7.2	
諸 雑 費 率		%	2	

(注) 諸雑費は、鉄線、マニラロープ等の費用であり、材料費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 単 価 表

(1) 連節ブロック水中吊落し(労力・機械) 100 m³当り単価表

			施工歩掛コード	WB322610
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4	表3.1
普 通 作 業 員		〃	1.2	〃
ク レ ー ン 運 転		h	3.1	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(2) 連節ブロック水中吊落し(材料) 1 工事当り単価表

			施工歩掛コード	WB322620
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
合 板	12mm×900mm×1800mm	枚	22.0	表4.1
松 丸 太	末口18cm×5m	m ³	0.12	〃
松 丸 太	末口15cm×5m	〃	0.07	〃
松 丸 太	末口9cm×1m	〃	0.04	〃
ワ イ ヤ ロ ー プ	A種6×24 φ16mm	m	20.0	〃
ワ イ ヤ ロ ー プ	A種6×24 φ9mm	〃	14.0	〃
ワ イ ヤ ク リ ッ プ	φ16mm用	個	36.0	〃
ワ イ ヤ ク リ ッ プ	φ12mm用	〃	22.0	〃
ワ イ ヤ ク リ ッ プ	φ9mm用	〃	7.2	〃
矢 バ イ ス	1-I型	本	1.2	〃
矢バイス用ワイヤロープ	A種6×24 φ12mm	m	7.2	〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
クローラクレーン	(油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型) 30～35 t 吊	機-1	
	〃 40～45 t 吊		
	〃 50～55 t 吊		
	〃 60～65 t 吊		
トラッククレーン	(油圧伸縮ジブ型) 20 t 吊	機-1	
	〃 25 t 吊		
	〃 30 t 吊		
	〃 35 t 吊		
	〃 40～45 t 吊		
	〃 50 t 吊		

6. 施工単価入力基準表

(1) 連節ブロック水中吊落し工

施工歩掛コード	WB322610	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	クレーンの規格	クレーン供用日当り 運転時間	
	(表 6.1)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	

(2) 連節ブロック水中吊落し工材料

施工歩掛コード	WB322620	施工単位	工事

(注) 松丸太(末口 18cm×5m)単価(Y-0401002) [円/㎡], 松丸太(末口 15cm×5m)単価(Y-0401003) [円/㎡], 松丸太(末口 9cm×1m)単価(Y-0401004) [円/㎡], ワイヤクリップ(φ16mm用)単価(Y-3559001) [円/個], ワイヤクリップ(φ12mm用)単価(Y-3559002) [円/個], ワイヤクリップ(φ9mm用)(Y-3559003)単価 [円/個], 矢バイス単価(Y-0800004) [円/本] を単価登録すること。

表6.1 クレーンの規格

クレーンの規格		入力番号
クローラクレーン (油圧駆動式ウインチ・ラチスジブ型)	30～35 t 吊	①
〃	〃	②
〃	〃	③
〃	〃	④
トラッククレーン (油圧伸縮ジブ型)	20 t 吊	⑤
〃	〃	⑥
〃	〃	⑦
〃	〃	⑧
〃	〃	⑨
〃	〃	⑩

7. 参 考 図

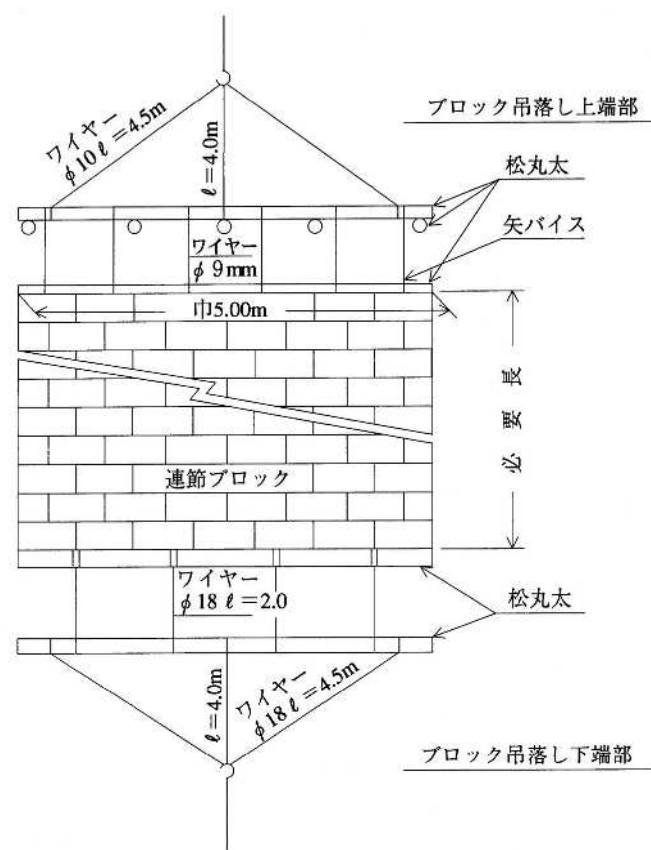


図7-1 連節ブロック水中吊落し平面図

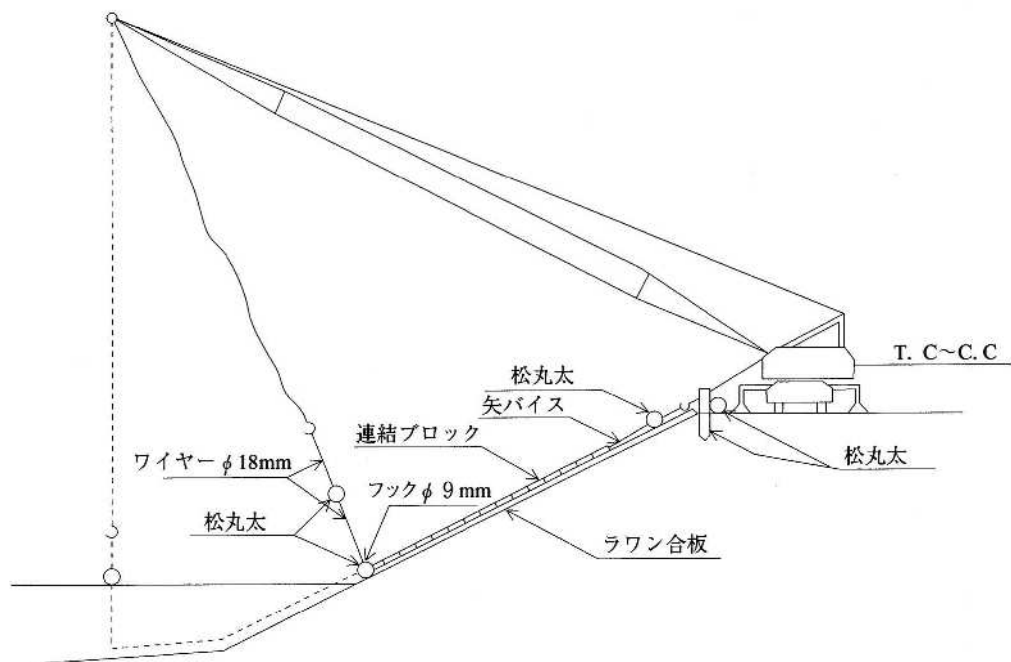


図7-2 連節ブロック水中吊落し断面図

⑱ 光ケーブル配管工

1. 適用範囲

本資料は、河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 掘削(光ケーブル配管)

- (1) 河川堤防に布設する光ケーブル配管工事の掘削(土の状態を問わない)を行う場合

1-1-2 埋戻し締固め

- (1) 土質が、レキ質、砂・砂質土、粘性土の場合
(2) 保護砂の有無にかかわらず適用出来る

1-1-3 配管設置(埋設部)

- (1) 設置条数(2~4条)のFEP管類(φ50~80程度)の埋設部における配管設置

1-1-4 配管設置(露出部)

- (1) 設置条数(2~4条)の厚鋼電線管類(φ50~80程度)の露出部における配管設置
(2) 設置箇所が、橋梁添架部、橋梁横断部、堤防露出部、管渠部の場合

1-1-5 ハンドホール

- (1) ハンドホール規格が、高さ1,500mm以下、質量2,500kg以下の場合

1-2 適用出来ない範囲

1-2-1 配管設置(埋設部)

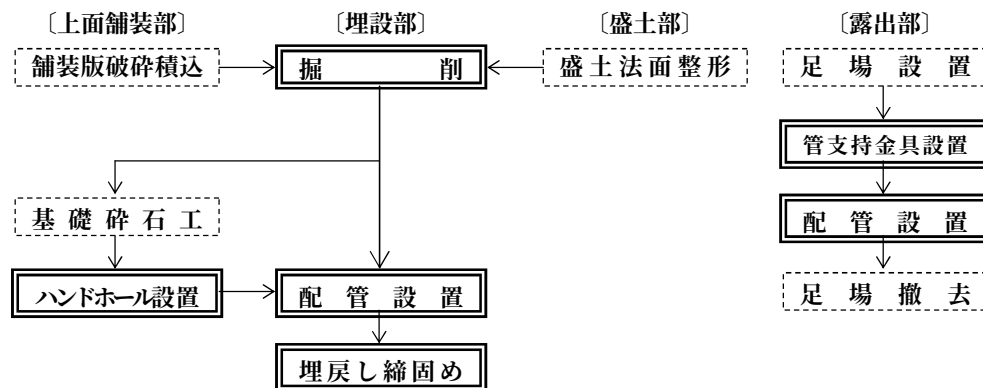
- (1) 露出部の配管
(2) 河川堤防における光ケーブル用以外の配管

1-2-2 配管設置(露出部)

- (1) 埋設部の配管

2. 施工概要

施工フローは、次図を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 舗装版破碎積込は、「第IV編第3章②舗装版破碎工」による。
3. 基礎砕石工は、「第II編第2章②基礎・裏込砕石工、基礎・裏込栗石工」による。
4. 盛土法面整形は、「第II編第2章①-1法面整形工」による。
5. ダンプトラック運搬が必要な場合「第II編第1章②土工(土砂等運搬)」による。

3. 施工パッケージ

3-1 掘削(光ケーブル配管)

(1) 条件区分

掘削(光ケーブル配管)の積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

(注) 掘削(光ケーブル配管)は河川堤防での光ケーブルの設置における掘削、基面整正(床揃え又は敷砂)の他、基面整正作業時に必要な締固め機械の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.1 掘削(光ケーブル配管) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	普通作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 埋戻し締固め

(1) 条件区分

埋戻し締固めの積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

- (注) 1. 埋戻し締固め、埋設表示シートの設置及び締固め機械の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、敷砂、保護砂の材料費は含まない。
2. 埋戻し締固めの土量は締固め後の土量とする。
3. 敷砂及び保護砂に購入土を使用する場合の材料費は別途計上する。
4. 水締め作業が必要な場合は別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 埋戻し締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・排出ガス対策型(第1次基準値)〕 山積 0.28m ³ (平積 0.2m ³)	賃料
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	運転手(特殊)	
	R 2	普通作業員	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-3 敷砂, 保護砂 (材料費)

(1) 条件区分

敷砂, 保護砂 (材料費) における積算条件区分はない。

積算単位は, m³ とする。

3-4 配管設置 (埋設部)

(1) 条件区分

条件区分は, 次表を標準とする。

表3.3 配管設置 (埋設部) 積算条件区分一覧

(積算単位: 配管設置m当り)

多孔保護管の有無	設置条数
無し	2 条
	3 条
	4 条
有り	2 条
	3 条
	4 条

- (注) 1. 上表は, 埋設部における配管設置, 配管付属品と配管継手材等の取付け及び, 通線確認並びに管内清掃作業等, その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料を含む) を含む。ただし, 配管付属品及び多孔保護管の材料費は含まない。
2. 対象延長 (設計数量) は, 配管設置箇所の掘削延長 (継手含む) とし, 配管の条数に関係なく算出する。(参考図1 参照)
3. 配管付属品及び多孔保護管の材料費については, 別途必要量を計上する。
4. 配管材の材料ロスを含む。(標準ロス率は, +0.01)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は, 当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 配管設置 (埋設部) 代表機労材規格一覧

項目	代表機労材規格	備考
機械	K 1	—
	K 2	—
	K 3	—
労務	R 1	普通作業員
	R 2	土木一般世話役
	R 3	—
	R 4	—
材料	Z 1	FEP 80mm
	Z 2	—
	Z 3	—
	Z 4	—
市場単価	S	—

3-5 配管設置（露出部）

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 配管設置（露出部） 積算条件区分一覧

（積算単位：配管設置m当り）

配管材設計数量/対象延長	設置条数
1.00 以上	2 条
	3 条
	4 条
0.95 以上 1.00 未満	2 条
	3 条
	4 条
0.90 以上 0.95 未満	2 条
	3 条
	4 条
0.85 以上 0.90 未満	2 条
	3 条
	4 条
0.80 以上 0.85 未満	2 条
	3 条
	4 条

- (注) 1. 上表は、露出部における配管設置、配管付属品、支持金具と配管付属品の取付け及び通線確認並びに管内清掃等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。ただし、配管付属品及び支持金具の材料費は含まない。
2. 対象延長（設計数量）は配管継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。（参考図2参照）
3. 配管付属品及び支持金具の材料費については、別途必要量を計上する。
4. 高所作業車及び足場が必要な場合については現場条件に適合する足場費用を計上する。
5. 配管材設計数量/対象延長の条件区分は、参考図2における $a/(a+b)$ の比率による。
6. 配管材の材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.01）

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 配管設置(露出部) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	—	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	土木一般世話役	
	R 3	—	
	R 4	—	
材料	Z 1	厚鋼電線管 G54	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-6 配管支持金具(材料費)

(1) 条件区分

配管支持金具(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、個とする。

3-7 プルボックス(材料費)

(1) 条件区分

プルボックス(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、個とする。

3-8 可とう電線管(材料費)

(1) 条件区分

可とう電線管(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、mとする。

3-9 伸縮継手(材料費)

(1) 条件区分

伸縮継手(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、個とする。

3-10 ノーマルベンド(材料費)

(1) 条件区分

ノーマルベンド(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、個とする。

3-11 多孔保護管(材料費)

(1) 条件区分

多孔保護管(材料費)における積算条件区分はない。
積算単位は、mとする。

3-12 ハンドホール

(1) 条件区分

ハンドホールの積算条件区分はない。

積算単位は、個とする。

(注) ハンドホールの設置、ベルマウス等の取付け及び蓋の設置手間等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料を含む)を含む。

(2) 代表機労材規格

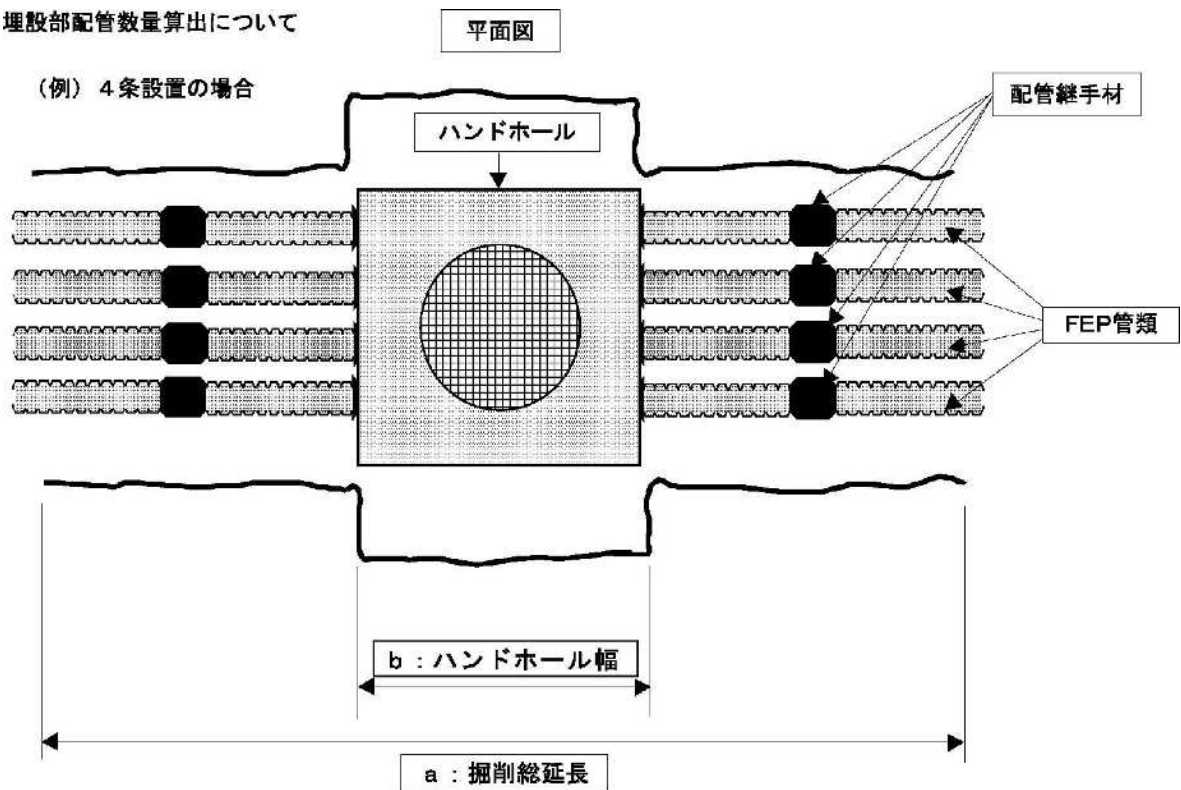
下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.7 ハンドホール 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	トラック [クレーン装置付] ベーストラック 4t 級・吊能力 2.9 t	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	普通作業員	
	R 2	運転手(特殊)	
	R 3	特殊作業員	
	R 4	土木一般世話役	
材料	Z 1	ハンドホール 600×600×600mm R2K-60 蓋付	
	Z 2	軽油 1.2 号 バトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

[参考図1]

埋設部配管数量算出について



対象延長（掘削延長）＝※ a－b とする。
※ハンドホール幅は除き，配管継手材等は含む。

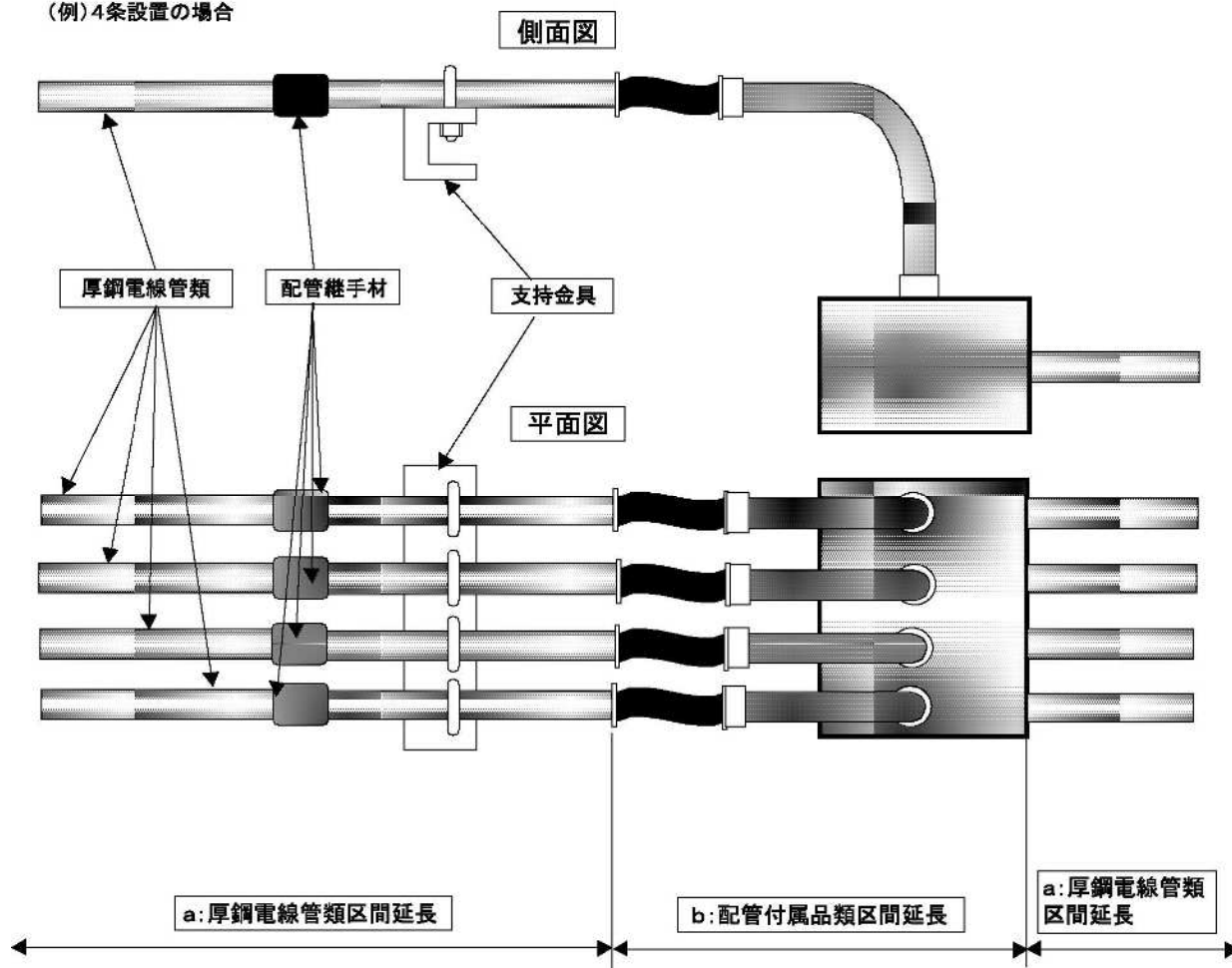
配管材料使用量

設計数量×条数 ※設計数量＝FEP管類延長
FEP管類延長とは，対象延長（掘削距離）＝a－b とする。
諸雑費には，配管継手材を含む。

[参考図2]

露出部配管数量算出について

(例)4条設置の場合



対象延長=※ a + b

※ a: 厚鋼電線管類区間延長とは
配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。

b: 配管付属品類区間延長とは
配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。

(例)

プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品

配管材料使用量

設計数量×条数 ※設計数量= a: 厚鋼電線管類区間延長
諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。
支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。

4. 施工単価入力基準表

(1) 土工

1) 掘削(光ケーブル配管)

パッケージコード	CB322710	施工単位	m3

(注) 本コードはバックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

2) 埋戻し・締固め

パッケージコード	CB322720	施工単位	m3

(注) 本コードはバックホウの低騒音型機種及び普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

3) 敷砂, 保護砂 (材料費)

パッケージコード	CB322721	施工単位	m3

(注) 1. 砂単価 (Y-0240000) [円/m³] を単価登録すること。なお、ほぐした土量 1 m³ 当りの単価を登録すること。

2. 本コードは、(施工数量) × (砂単価) であるため、数量は敷砂, 保護砂の必要数量 (ほぐし) を入力すること。

(2) 配管設置

1) 配管設置 (埋設部)

パッケージコード	CB322780	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	多孔保護管の有無	設 置 条 数	
	①無し ②有り	① 2 条 ② 3 条 ③ 4 条	

(注) 1. 本コードは、配管材の材料ロスを含んでいるため、対象延長 (施工量) は、掘削総延長からハンドホール幅を除いた掘削延長 (ロス率を含まない数量) を入力すること。(参考図 1 参照)

2. J 2 条件を選択することにより、配管材必要数量が計上される。

3. 配管材単価 (Y-3236000) [円/m] を単価登録すること。

4. J 1 条件で②を選択した場合、多孔保護管 (材料費) (CB322781) を別途計上すること。

5. 必要に応じて配管付属品費を別途計上すること。

2) 配管設置 (露出部)

パッケージコード	CB322800	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	配管材設計数量/対象延長	設 置 条 数	
	①1.00 ②0.95 以上 1.00 未満 ③0.90 以上 0.95 未満 ④0.85 以上 0.90 未満 ⑤0.80 以上 0.85 未満	① 2 条 ② 3 条 ③ 4 条	

(注) 1. 本コードは、配管材使用量の材料ロスを含んでいるため、対象延長 (施工量) は、ロス率を含まない数量を入力すること。

2. J 1 条件の「対象延長」は、厚鋼電線管類区間延長及び配管付属品類区間延長、また「配管材設計数量」は、1 条当り厚鋼電線管類区間延長とする。(参考図 2 参照)

3. J 2 条件を選択することにより、配管材必要数量が計上される。

4. 配管材単価 (Y-3236000) [円/m] を単価登録すること。

5. 必要に応じて配管支持管金具材料費 (CB322730) 及び配管付属品費 (CB322740 ~ CB322770) を別途計

上すること。その他に必要な配管付属品については、別途計上する。

3) 配管支持金具 (材料費)

パッケージコード	CB322730	施工単位	個

(注) 受金具単価 (Y-3237000) [円/個] を単価登録すること。

4) プルボックス (材料費)

パッケージコード	CB322740	施工単位	個

(注) プルボックス単価 (Y-3300000) [円/個] を単価登録すること。

5) 可とう電線管 (材料費)

パッケージコード	CB322750	施工単位	m

(注) 電線管単価 (Y-3200000) [円/m] を単価登録すること。

6) 伸縮継手 (材料費)

パッケージコード	CB322760	施工単位	個

(注) 伸縮継手単価 (Y-1253000) [円/個] を単価登録すること。

7) ノーマルバンド (材料費)

パッケージコード	CB322770	施工単位	個

(注) ノーマルバンド単価 (Y-3234000) [円/個] を単価登録すること。

8) 多孔保護管 (材料費)

パッケージコード	CB322781	施工単位	m

(注) 多孔保護管単価 (Y-3240000) [円/m] を単価登録すること。

(3) ハンドホール

1) ハンドホール

パッケージコード	CB322810	施工単位	個

(注) 1. ハンドホール単価 (蓋を含む) (Y-3550000) [円/個] を単価登録すること。

第3章 砂 防 工

① 土工	Ⅲ-3-①- 1	②-3 コンクリート工	
①-1 土工	Ⅲ-3-①- 1	(横取りを行う場合)	Ⅲ-3-②-18
1 適用範囲	Ⅲ-3-①- 1	1 適用範囲	Ⅲ-3-②-18
2 施工概要	Ⅲ-3-①- 2	2 機種の選定	Ⅲ-3-②-18
3 施工パッケージ	Ⅲ-3-①- 5	3 施工概要	Ⅲ-3-②-18
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-①-10	4 施工歩掛	Ⅲ-3-②-18
①-2 土工(バックホウ床掘山積 0.45 m ³		5 単価表	Ⅲ-3-②-19
(平積 0.35 m ³))	Ⅲ-3-①-12	6 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②-19
1 適用範囲	Ⅲ-3-①-12	②-4 砂防コンクリート生産	
2 施工概要	Ⅲ-3-①-12	(ミキサによる混合)工	Ⅲ-3-②-20
3 機種の選定	Ⅲ-3-①-12	1 適用範囲	Ⅲ-3-②-20
4 施工歩掛	Ⅲ-3-①-12	2 機種の選定	Ⅲ-3-②-20
5 単価表	Ⅲ-3-①-14	3 施工歩掛	Ⅲ-3-②-20
6 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-①-15	4 単価表	Ⅲ-3-②-22
② コンクリート工	Ⅲ-3-②- 1	5 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②-22
②-1 コンクリート工	Ⅲ-3-②- 1	②-5 砂防コンクリート運搬(投入)工	
1 適用範囲	Ⅲ-3-②- 1		Ⅲ-3-②-23
2 施工概要	Ⅲ-3-②- 1	1 適用範囲	Ⅲ-3-②-23
3 機種の選定	Ⅲ-3-②- 1	2 機種の選定	Ⅲ-3-②-23
4 材料使用数量	Ⅲ-3-②- 1	3 コンクリート運搬(投入)歩掛	Ⅲ-3-②-23
5 型枠工	Ⅲ-3-②- 2	4 単価表	Ⅲ-3-②-24
6 化粧型枠工	Ⅲ-3-②- 2	5 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②-24
7 足場工	Ⅲ-3-②- 2	②-6 残存型枠工	Ⅲ-3-②-25
8 砂防コンクリート打設歩掛	Ⅲ-3-②- 3	1 適用範囲	Ⅲ-3-②-25
9 止水板設置	Ⅲ-3-②- 4	2 施工概要	Ⅲ-3-②-25
10 単価表	Ⅲ-3-②- 5	3 機種の選定	Ⅲ-3-②-25
11 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②- 7	4 施工歩掛	Ⅲ-3-②-25
②-2 コンクリート工		5 単価表	Ⅲ-3-②-28
(ケーブルクレーン打設)	Ⅲ-3-②-10	6 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②-30
1 適用範囲	Ⅲ-3-②-10	③ 仮設備工	Ⅲ-3-③- 1
2 機種の選定	Ⅲ-3-②-10	③-1 仮設備工	Ⅲ-3-③- 1
3 材料使用量	Ⅲ-3-②-10	1 仮設備工	Ⅲ-3-③- 1
4 コンクリート投入	Ⅲ-3-②-10	2 運搬工	Ⅲ-3-③- 3
5 型枠工	Ⅲ-3-②-11	3 内訳書及び単価表	Ⅲ-3-③- 5
6 化粧型枠工	Ⅲ-3-②-11	4 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-③- 7
7 締固め、養生、打継面清掃工歩掛	Ⅲ-3-②-12	③-2 仮設備工(砂防コンクリート生産設備)	
8 堤冠コンクリート締固め養生歩掛	Ⅲ-3-②-12		Ⅲ-3-③-10
9 岩盤清掃歩掛	Ⅲ-3-②-12	1 適用範囲	Ⅲ-3-③-10
10 チッピング歩掛	Ⅲ-3-②-13	2 施工概要	Ⅲ-3-③-10
11 単価表	Ⅲ-3-②-13	3 施工歩掛	Ⅲ-3-③-10
12 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-②-16	4 単価表	Ⅲ-3-③-11
		5 施工単価入力基準表	Ⅲ-3-③-11

③-3 仮設備工(軌条及び機械設備)……………Ⅲ-3-③-12	⑨ 堤冠部保護工(隅石張)……………Ⅲ-3-⑨- 1
1 適用範囲……………Ⅲ-3-③-12	1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑨- 1
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-③-12	2 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑨- 1
3 単価表……………Ⅲ-3-③-13	3 単価表……………Ⅲ-3-⑨- 1
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-③-13	4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑨- 2
③-4 仮設備工	⑩ 仮締切工……………Ⅲ-3-⑩- 1
(ケーブルクレーン付属設備)……………Ⅲ-3-③-14	⑩-1 砂防土砂仮締切・砂防土砂
1 適用範囲……………Ⅲ-3-③-14	土のう仮締切……………Ⅲ-3-⑩- 1
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-③-14	1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑩- 1
3 単価表……………Ⅲ-3-③-16	2 施工概要……………Ⅲ-3-⑩- 1
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-③-17	3 機種を選定……………Ⅲ-3-⑩- 2
④ 養生工(練炭)……………Ⅲ-3-④- 1	4 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑩- 2
1 適用範囲……………Ⅲ-3-④- 1	5 単価表……………Ⅲ-3-⑩- 3
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-④- 1	6 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑩- 8
3 単価表……………Ⅲ-3-④- 1	⑩-2 砂防コンクリート締切……………Ⅲ-3-⑩-11
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-④- 1	1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑩-11
⑤ 石材等採取工	2 施工概要……………Ⅲ-3-⑩-11
(割石, 雑割石, 野面石採取)……………Ⅲ-3-⑤- 1	3 機種を選定……………Ⅲ-3-⑪-11
1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑤- 1	4 コンクリート投入……………Ⅲ-3-⑩-11
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑤- 1	5 型枠工……………Ⅲ-3-⑩-11
3 単価表……………Ⅲ-3-⑤- 1	6 構造物とりこわし工……………Ⅲ-3-⑩-11
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑤- 2	7 単価表……………Ⅲ-3-⑩-12
⑥ ケーブルクレーンによる資材等の運搬	8 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑩-14
……………Ⅲ-3-⑥- 1	⑪ 鋼製砂防工……………Ⅲ-3-⑪- 1
1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑥- 1	1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑪- 1
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑥- 1	2 施工概要……………Ⅲ-3-⑪- 1
3 単価表……………Ⅲ-3-⑥- 2	3 機種を選定……………Ⅲ-3-⑪- 1
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑥- 3	4 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑪- 2
⑦ 水替とい工……………Ⅲ-3-⑦- 1	5 単価表……………Ⅲ-3-⑪- 4
1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑦- 1	6 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑪- 5
2 施工概要……………Ⅲ-3-⑦- 1	⑫ 砂防ソイルセメント工……………Ⅲ-3-⑫- 1
3 材料の選定……………Ⅲ-3-⑦- 1	1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑫- 1
4 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑦- 2	2 施工概要……………Ⅲ-3-⑫- 1
5 単価表……………Ⅲ-3-⑦- 2	3 施工パッケージ……………Ⅲ-3-⑫- 2
6 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑦- 2	4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑫- 6
⑧ 銘板工……………Ⅲ-3-⑧- 1	
1 適用範囲……………Ⅲ-3-⑧- 1	
2 施工歩掛……………Ⅲ-3-⑧- 1	
3 単価表……………Ⅲ-3-⑧- 1	
4 施工単価入力基準表……………Ⅲ-3-⑧- 1	

第3章 砂 防 工

① 土工

①-1 土工

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 掘削（砂防）

- (1) 砂防工のうち、本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁（擁壁）、護岸を主たる作業とする場合
- (2) 土砂、岩塊・玉石、軟岩、硬岩、転石の掘削
- (3) 作業土工における床掘りの場合

1-1-2 土砂等運搬（砂防）

- (1) 砂防工のうち、本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁（擁壁）、護岸を主たる作業とする場合
- (2) 運搬距離が片道7km以下の場合
- (3) 運搬路が砂利道、河床路等その他これに準ずる搬路が主で、舗装道路を含む場合は、舗装道路の走行距離が全体走行距離の半分に満たない場合

1-1-3 押土（ルーズ）（砂防）

- (1) 砂防工のうち、本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁（擁壁）、護岸を主たる作業とする場合
- (2) 自工区内において60m以下の押土の場合
- (3) 自工区外を含む作業で、自工区内運搬距離が自工区外より長く、かつ、片道の合計運搬距離が60m以下の場合
- (4) 土砂、岩塊・玉石、破碎岩の運搬

1-1-4 積込（ルーズ）（砂防）

- (1) 砂防工のうち、本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁（擁壁）、護岸を主たる作業とする場合
- (2) 土取場（仮置場）から採取する場合の土砂等の積込みの場合
- (3) 作業土工で生じ、仮置きされた土砂等の積込みの場合
- (4) 掘削工、作業土工で生じた残土の仮置場での積込みの場合
- (5) 掘削工、作業土工において地山掘削後、一度ルーズな状態とした土砂等の積込みの場合
- (6) 締固めを伴わない埋戻作業の場合

1-2 適用出来ない範囲（土木工事標準積算基準書等により別途計上するもの）

1-2-1 掘削（砂防）

- (1) 軟岩、硬岩、転石において集積・積込又は集積・押土を含む場合
- (2) 硬岩Ⅱの掘削の場合
- (3) 砂防工のうち、河道掘削等の場合

1-2-2 押土（ルーズ）（砂防）

- (1) 地山の掘削を伴う押土の場合

1-2-3 積込（ルーズ）（砂防）

- (1) 地山掘削した土砂等を、直接運搬車両等に投入する場合
- (2) 砂防工のうち、河道掘削等の場合

1-3 適用出来ない範囲（別途考慮するもの）

1-3-1 土砂等運搬（砂防）

- (1) 自動車専用道路を利用する場合

2. 施 工 概 要

2-1 施工フロー

施工フローは下記を標準とする。

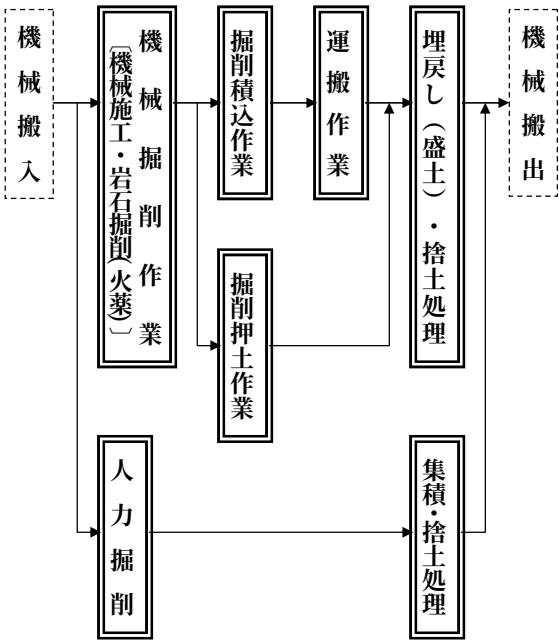
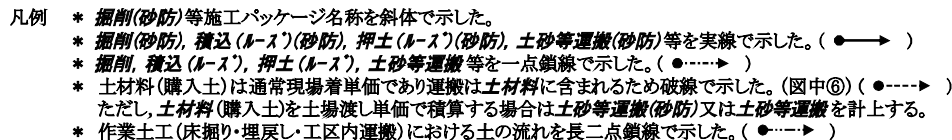


図2-1 施工フロー

- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 各作業の対象となる施工パッケージは「2-2 土の流れ概念図及び対応施工パッケージ」による。



- III-3-①-3

(参考) 積込 (ルーズ) (砂防) の計上が必要な掘削 (砂防) の積算条件

掘削 (砂防)					積込 (ルーズ) (砂防)
積算条件					
土質	押土の有無	障害の有無	掘削範囲	火薬使用	
土砂	有り	—	—	—	要
	無し	無し			不要
		有り			不要
岩塊・玉石	有り	—	—	—	要
	無し	無し			不要
		有り			不要
軟岩	—	—	機械走行面より5m以内	—	要
			機械走行面より5m超	可	要
				不可	要
硬岩	—	—	機械走行面より5m以内	—	要
			機械走行面より5m超	可	要
				不可	要
転石	—	—	機械走行面より5m以内	—	要
			機械走行面より5m超	可	要
				不可	要

2-3 掘削工法の選定
岩石掘削工法の選定フローは下記を標準とする。

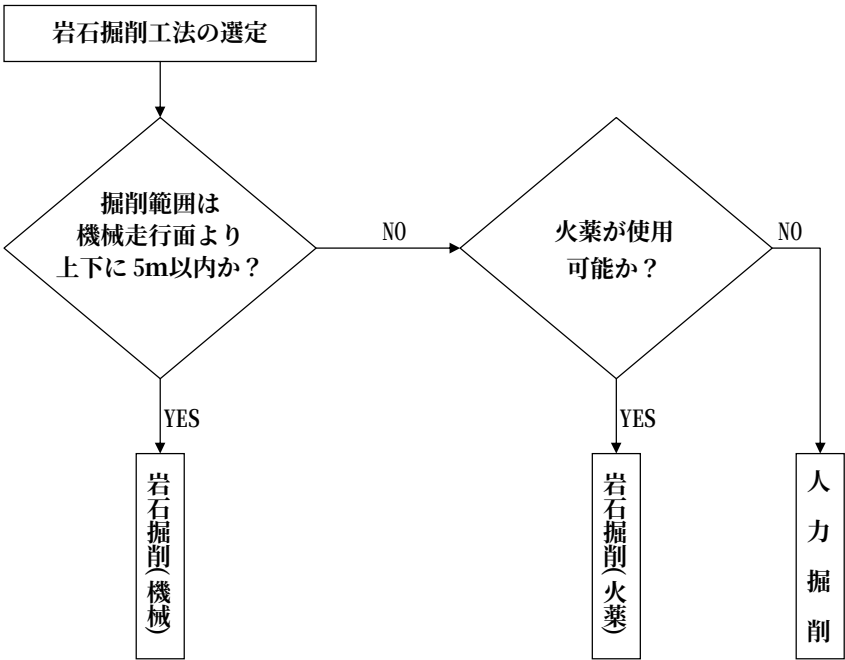


図2-2 岩石掘削工法の選定

3. 施工パッケージ

3-1 掘削(砂防)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 掘削(砂防) 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

土質	押土の有無	障害の有無	掘削範囲	火薬使用
土砂	有り	—	—	—
	無し	無し	—	—
		有り	—	—
岩塊・玉石	有り	—	—	—
	無し	無し	—	—
		有り	—	—
軟岩	—	—	機械走行面より5m以内	—
	—	—	機械走行面より5m超	可
	—	—		不可
硬岩	—	—	機械走行面より5m以内	—
	—	—	機械走行面より5m超	可
	—	—		不可
転石	—	—	機械走行面より5m以内	—
	—	—	機械走行面より5m超	可
	—	—		不可

(注) 1. 上表は、砂防工事における土砂、岩塊・玉石の掘削・積込み・運搬(掘削と同時に押土による運搬)、軟岩、硬岩、転石の掘削等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 土量は、地山土量とする。

3. 押土の有無

①無し：土砂及び岩塊・玉石の場合で、運搬距離が60mを超える場合

②有り：土砂及び岩塊・玉石の場合で、運搬距離が60m以下の場合(60m以内の工区内運搬を含む)

4. 障害の有無

①無し：作業現場が広い、作業範囲が標準内及び転石の混入等の影響による作業妨害が少なく、連続した掘削作業が出来る場合。なお標準内とは、作業範囲が機械走行面より上下に5m以内とする。

②有り：作業現場が狭い、作業範囲が標準外及び転石の混入等の影響による作業妨害が多く、連続した掘削作業が困難な場合

5. 掘削範囲

①機械走行面より5m以内：作業範囲が機械走行面より上下に5m以内の場合は、機械による岩石掘削。

②機械走行面より5m超：作業範囲が機械走行面より上下に5mを超える場合は、火薬又は人力による岩石掘削。

6. 火薬使用は作業範囲が機械走行面より上下に5mを超える場合で、火薬が使用可能か否かにより区分する。

7. 火薬の標準的な使用量は、含水爆薬とし、土質・岩分類毎に軟岩では1日当り4.5kg、硬岩では1日当り4.2kg、転石では1日当り1.5kgとし、これにより難い場合は別途計上する。

8. 土砂の人力掘削については「第Ⅱ編第1章土工②土工 3-1 掘削の『現場制約あり』及び③作業土工③-1 床掘工1-1-1 床掘りの『現場制約あり』」を適用する。

9. 機械による岩石掘削には、破砕片除去、法面整形を含まない。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 掘削(砂防) 代表機労材規格一覧

土質	押土の有無	掘削範囲	項目		代表機労材規格	備考
土砂 岩塊・ 玉石	有り	—	機械	K1	ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 15t 級	
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	—	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
	無し	—	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	—	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
軟岩 硬岩 転石	—	機械走行面 より5m以内	機械	K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
				K2	大型ブレーカ (ベースマシン含まず) [油圧式] 質量1,300kg級	
				K3	—	
			労務	R1	運転手 (特殊)	
				R2	—	
				R3	—	
				R4	—	
			材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	
		機械走行面 より5m超	機械	K1	—	
				K2	—	
				K3	—	
			労務	R1	特殊作業員	
				R2	普通作業員	
				R3	土木一般世話役	
				R4	—	火薬使用不可の場合
			材料	Z1	—	火薬使用可の場合
				Z2	—	
				Z3	—	
				Z4	—	
			市場単価	S	—	

3-2 土砂等運搬(砂防)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 土砂等運搬(砂防) 積算条件区分一覧 (積算単位：m³)

運搬距離	土質区分
0.5km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
1.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
1.5km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
2.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
2.5km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
3.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
4.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
5.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
6.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩
7.0km以下	土砂(岩塊・玉石混り土含む)
	軟岩
	硬岩

- (注) 1. 上表は、砂防工事における土砂等の運搬の他、運搬機械におけるタイヤの損耗及び修理にかかる費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。また、タイヤ損耗の「良好」、「普通」、「不良」にかかわらず適用出来る。
2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。
3. 運搬土量は地山の土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 土砂等運搬(砂防) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	タイヤ損耗費及び補修費 (普通)を含む
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手 (一般)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 押土(ルーズ)(砂防)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 押土(ルーズ)(砂防) 積算条件区分一覧 (積算単位:m3)

土質
土砂
岩塊・玉石
破碎岩

(注) 1. 上表は、砂防工事における集積・押土等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.6 押土(ルーズ)(砂防) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ブルドーザ [普通・排出ガス対策型 (第1次基準値)] 15t級	
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	運転手 (特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 積込(ルーズ)(砂防)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.7 積込(ルーズ)(砂防) 積算条件区分一覧 (積算単位:m³)

土 質
土 砂
岩塊・玉石
破 砕 岩

- (注) 1. 上表は、砂防工事における土取場(仮置場)から採取する場合の土砂等の積込み、掘削工又は作業土工で生じた土砂等の仮置場での積込み等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 土量は地山土量とする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 積込(ルーズ)(砂防) 代表機労材規格一覧

項 目		代表機労材規格	備 考
機 械	K1	バックホウ(クローラ型) [標準型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	
	K2	—	
	K3	—	
労 務	R1	運転手(特殊)	
	R2	—	
	R3	—	
	R4	—	
材 料	Z1	軽油1.2号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 掘削(砂防)

パッケージコード	CB330040	施 工 単 位		m3	
施 工 区 分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	土質	押土の有無	障害の有無	掘削範囲	火薬使用
	①土砂				
	②岩塊・玉石				
	③軟岩	①有り	①無し	①機械走行面より 5m 以内	①不可
	④硬岩	②無し	②有り	②機械走行面より 5m 超	②可
	⑤転石				

(注) 1. 上表の土量は、地山土量である。

2. J 1 条件で①または②を選択した場合は、J 4, J 5 条件は入力する必要はない。

3. J 1 条件で①または②を選択し J 2 条件で①を選択した場合は、J 3 条件は入力する必要はない。

4. J 1 条件で③, ④, ⑤のいずれかを選択した場合は、J 2, J 3 条件は入力する必要はない。

5. J 1 条件で③, ④, ⑤のいずれかを選択し J 4 条件で①を選択した場合は、J 5 条件は入力する必要はない。

(2) 土砂等運搬(砂防)

パッケージコード	CB330030	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	運搬距離	土質	
	①0.5km 以下	①土砂（岩塊・玉石混り土含む） ②軟岩 ③硬岩	
	②1.0km 以下		
	③1.5km 以下		
④2.0km 以下			
⑤2.5km 以下			
⑥3.0km 以下			
⑦4.0km 以下			
⑧5.0km 以下			
⑨6.0km 以下			
⑩7.0km 以下			

(注) 1. 上表の土量は、地山土量である。

2. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは平均値とする。

(3) 押土(ルーズ)

パッケージコード	CB330020	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土質		
	①土 砂		
	②岩塊・玉石		
	③破 碎 岩		

(注) 1. 上表の土量は、地山土量である。

(4) 積込 (ルーズ) (砂防)

パッケージコード	CB330010	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	土質		
	①土 砂 ②岩塊・玉石 ③破 碎 岩		

(注) 1. 上表の土量は、地山土量である。

①ー2 土工 (バックホウ床掘山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³))

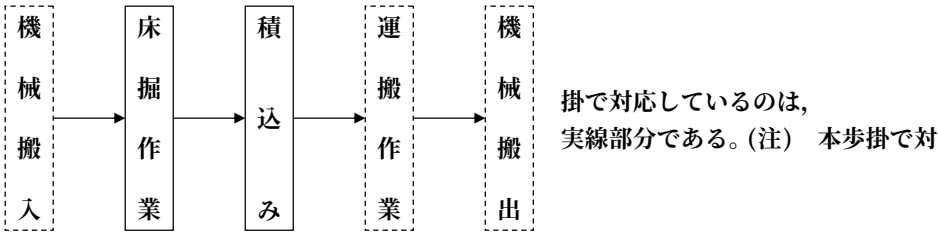
1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤，副堰堤，床固め，帯工，水叩き，側壁，護岸）の施工のうち，平均床掘幅が2 m未満の床掘作業に適用する。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。

図2ー1 施工フロー



3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	作業内容	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
床 掘 り (作業土工)	平均床掘幅 2 m未満の場合	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2 次基準値） 山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³)	台	1	

4. 施工歩掛

4ー1 土量換算係数（f）

全て地山の土量で表示する。ただし，運転1時間当り土工量（地山の土量）をほぐした土量及び締固め後の土量の状態に換算する場合は，次表の土量換算係数を乗じて算出する。

表4.1 土量換算係数fの値

求める作業量 基準の作業量	地山の土量	ほぐした土量	締固めた後の 土量
地山の土量	1	L	C

※ L及びCは「第Ⅱ編第1章①土量変化率等」による。

4-2 適用土質及び機械損料補正

適用土質及び機械損料補正は、次表のとおり区分する。

表4.2 適用土質及び機械損料補正

分類名称	床掘作業	
	適用土質	損料補正
レキ質土	レキ質土	1.00
砂・砂質土	砂・砂質土	1.00
粘性土	粘性土	1.00
岩塊・玉石	岩塊・玉石	1.00
軟岩 (I)	レキ質土	1.00
軟岩 (II)	〃	1.00
中硬岩	破砕岩	1.25
硬岩 (I)	〃	1.25
転岩	〃	1.25

(注) 1. 軟岩 (I), 軟岩 (II), 中硬岩, 硬岩 (I) の床掘作業は「ルーズな状態」に適用する。

2. 各土質の分類名称の定義は土木工事共通仕様書による。

4-3 バックホウの作業能力

運転時間1時間当たり土工量は、次式による。

$$\text{土工量} = \frac{3,600 \times q \times f \times E}{Cm} \quad (\text{m}^3/\text{h})$$

q : 1サイクル当りの作業量 (地山土量) (m^3)

f : 土量換算係数 (表4.1)

E : 作業効率 (表4.4)

Cm : 1サイクル当りの所要時間 (sec) (表4.3)

① 1サイクル当りの作業量 (地山土量) (q)

$$q = q_0 \times K$$

q_0 : 公称バケット山積容量 (m^3)

K : バケット係数 (0.76)

公称バケット容量山積 0.45 m^3 級に対しては $q = 0.34 \text{ m}^3$ とする。

② 1サイクル当りの所要時間

表4.3 サイクルタイム (Cm) (sec)

旋回角度	90°以下	90°超
1サイクルの所要時間	30	35

③ 作業効率 (E)

表4.4 作業効率(E)

現場条件 土質名	床掘作業			ルーズな状態の積込み		
	良好	普通	不良	良好	普通	不良
砂 砂質土	0.80	0.65	0.50	0.85	0.70	0.55
レキ質土 粘性土	0.70	0.55	0.40	0.75	0.60	0.45
岩塊 玉石	0.60	0.45	0.30	0.65	0.50	0.35
破碎岩	—	—	—	—	0.40	0.25

(注) 1. 作業範囲は、機械走行面より下側 5 m 以内を基準とする。

2. 作業範囲が広く、床掘深さが最適（1～4 m程度）で、地山がゆるんでいて、しかも転石等による作業妨害が少なく連続作業が可能等の条件が揃っている場合は良好とする。

3. 作業範囲が狭く、床掘深さが最適でなく（上記の他）又は地山が固く、かつ転石の混入が多く連続作業が困難で作業妨害の多い等の条件が揃っている場合は不良とする。

4. 掘削深さが最適であっても地山が固い場合、又は掘削深さが最適でなくても地山がゆるんでいる場合等、上記 2. 3. の条件の中位と考えられるような場合は普通とする。

5. ルーズな状態の積込みの場合は、上記の条件のうち土の固さを除いた他の条件を勘案して数値を決定する。

6. 破碎岩（中硬岩以上）の積込みは、機械損料の補正を行う。運転時間当り損料の補正係数は+0.25とする。

5. 単 価 表

(1) バックホウ床掘 100 m³当り単価表

施工歩掛コード	WB330210

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	h		100/Q
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) Q：運転時間当り土工量（地山土量）

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型（第2次基準値） 山積 0.45 m ³ （平積 0.35 m ³ ）	機－1	

6. 施工単価入力基準表

バックホウ床掘 (山積 0.45 m³ (平積 0.35 m³))

施工歩掛コード	WB330210	施工単位	m ³	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	現場条件	土・岩質分類	旋回角度	バックホウ 供用日当り 運転時間
	①床掘・良好	①砂・砂質土	①90°以下	
	②床掘・普通	②レキ質土・粘性土	②90°超	
	③床掘・不良	③岩塊・玉石		①標準
	④ルーズ・良好	④破碎岩		②標準以外
	⑤ルーズ・普通			(実数入力)
	⑥ルーズ・不良			

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
2. J 1 条件で①～④を選択した場合は、J 2 条件で④は選択出来ない。
3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
4. バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）を使用する場合は、別途考慮すること。

② コンクリート工

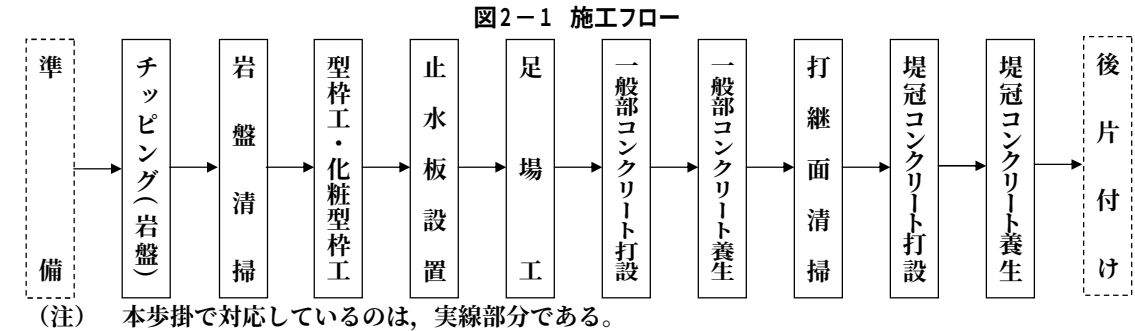
②ー1 コンクリート工

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）における打設量 10m³／日以上 150m³／日未満及び平均打設高 30m以下のコンクリート打設の施工に適用する。ただし、ケーブルクレーンで施工する場合を除く。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
型枠工 コンクリート打設	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第2次基準値）25t吊	台	1	

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

4. 材料使用数量

コンクリートの使用数量は、次式による。

使用数量（m³）＝設計数量（m³）×（1＋K）・・・式4.1
K：ロス率

表4.1 ロス率(K)

種別	ロス率
コンクリート	+0.04

5. 型 枠 工

5-1 適用範囲

外部型枠、内部型枠に適用する。

5-2 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布施工歩掛

木製型枠 100 m²当り施工歩掛は、次表を標準とする。

表5.1 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布施工歩掛 (100 m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	2.5	
型 枠 工		〃	18.3	
普 通 作 業 員		〃	6.3	
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t 吊	日	2.3	機械賃料
諸 雑 費 率		%	17	

(注) 1. 諸雑費は、型枠用合板、型枠用金物、組立支持材、ケレンはく離剤及び電気ドリル、電動ノコギリ損料、電力に関する経費、溶接機に要する費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

3. 水抜きパイプの設置が必要な場合は、別途計上する。

6. 化粧型枠工

6-1 適用範囲

本資料は、砂防工事施工にかかる型枠工のうち、化粧型枠を使用する場合において、化粧型の貼付・はく離作業が必要な場合に適用する。なお、化粧型と型枠が一体となった製品等を使用し、貼付・はく離作業が不要な場合は適用しない。

6-2 化粧型枠歩掛

化粧型枠歩掛は、化粧を施す面積分の表5.1を、次表の率で割増しをする。

表6.1 化粧型枠工割増率

割 増 率	+0.37

(注) 1. 化粧型枠(使い捨てタイプ)は、必要数量を計上する。

2. 化粧型枠の処分費が必要な場合は、別途計上する。

7. 足 場 工

7-1 適用範囲

高さ2m以上で、外部型枠、内部型枠の設置・撤去用足場(キャットウォーク)を設置する場合に適用する。

7-2 設置及び撤去歩掛

足場設置及び撤去歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 足場設置及び撤去歩掛 (設置延長10m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役		人	0.1
と び 工		〃	0.4
普 通 作 業 員		〃	0.4
諸 雑 費 率		%	27

(注) 1. 諸雑費は、斜面用足場プラケット、足場板、丸パイプ、直交クランプ、板付布枠、幅木等の費用として、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 高さ方向の標準設置間隔は、1.8mとする。

8. 砂防コンクリート打設歩掛

8-1 一般部コンクリート打設歩掛

一般部コンクリート打設にかかる施工歩掛は、次表を標準とする。

表8.1 一般部コンクリート打設歩掛 (100 m³当り)

名 称		規 格	単 位	1日当り打設量 (m ³ /日)	
				10 以上 50 未満	50 以上 150 未満
土 木 一 般 世 話 役			人	1.8 (1.6)	1.3 (1.1)
特 殊 作 業 員			〃	4.4 (4.4)	2.8 (2.8)
普 通 作 業 員			〃	5.9 (5.1)	4.0 (3.2)
ラフテレーンクレーン 運 転		油圧伸縮ジブ型・排出ガス対 策型(第2次基準値) 25 t 吊	日	1.7 (1.7)	1.1 (1.1)
雑工種率	チ ッ ピ ン グ		%	20 (22)	30 (34)
	岩 盤 清 掃		〃	12 (13)	17 (20)
諸 雑 費 率			〃	24 (20)	30 (25)

(注) 1. 上表の労務歩掛は、コンクリート打設・養生、打継面・岩着面のモルタル敷均し、打継面清掃・チッピング・岩盤清掃等を含むものである。

2. 雑工種、諸雑費は、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、雑工種は必要に応じて別途計上する。

〔雑工種(チッピング)〕

チッピング労務、空気圧縮機損料、さく岩機損料、さく岩機運転経費及び電力に関する経費。

〔雑工種(岩盤清掃)〕

岩盤清掃労務、高圧洗浄機損料、工事用水中モータポンプ損料、電力に関する経費。

〔諸雑費〕

養生マット、コンクリートバケット損料、コンクリートバイブレータ損料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機損料、電力に関する経費。

3. コンクリートバケット容量は、1.0 m³を標準とし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

4. 特殊養生を必要とする場合は()内の数値を計上し、養生にかかる費用は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生については別途考慮する。

5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

8-2 堤冠コンクリート打設歩掛

堤冠コンクリート打設歩掛は、次表を標準とする。

表8.2 堤冠コンクリート打設歩掛

(10 m³当り)

名 称	規 格	単 位	1ブロック当り打設量 (m ³ /ブロック)		
			鉄材 3未満	グラノリシック 20未満	富配合 30未満
土 木 一 般 世 話 役		人	3.3 (3.3)	0.6 (0.6)	0.3 (0.3)
特 殊 作 業 員		〃	5.7 (5.7)	2.7 (2.7)	1.3 (1.3)
普 通 作 業 員		〃	12.5 (12.0)	1.6 (1.1)	1.0 (0.5)
ラフテレーンクレーン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策 型 (第2次基準値) 25t 吊	日	0.2 (0.2)		
諸 雑 費 率		%	7 (4)	21 (11)	32 (12)

(注) 1. 上表の労務歩掛は、コンクリート打設・養生等を含むものである。

2. 諸雑費は、養生マット、コンクリートバケット損料、コンクリートパイプレータ損料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機損料、電力に関する経費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. コンクリートバケット容量は、1.0 m³ を標準とし、これにより難い場合は、別途考慮する。

4. 特殊養生の場合は () 内の数値を適用し、養生にかかる費用は「第Ⅲ編第3章④養生工 (練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生については別途考慮する。

5. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

9. 止 水 板 設 置

9-1 止水板 (塩化ビニル製止水板) 設置歩掛

10m当りの止水板設置歩掛は、次表を標準とする。

表9.1 止水板設置歩掛

(10m当り)

名 称	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役	人	0.3
普 通 作 業 員	〃	0.8

9-2 止水板使用数量

止水板の使用数量は、次式による。

使用数量 (m) = 設計数量 (m) × (1 + K) … 式 9.1

K : ロス率

表9.2 ロス率 (K)

種 別	ロス率
止 水 板	+0.07

10. 単 価 表

(1) 木製型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布作業 100 m²当り単価表

施工歩掛コード	WB330330

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.1
型 枠 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25 t 吊	日		表 5.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 5.1
計				

(2) 足場設置及び撤去 設置延長 10m当り単価表

施工歩掛コード	WB330340

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7.1
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) 一般部コンクリート打設 100 m³当り単価表

施工歩掛コード	WB330440

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 8.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³		式 4.1, 表 4.1 現場コンクリートプラント使用費除く
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25 t 吊	日		表 8.1 機械賃料
雑工種	チ ッ ピ ン グ	式	1	表 8.1 必要に応じて計上
	岩 盤 清 掃	〃	1	〃 必要に応じて計上
諸 雑 費		〃	1	表 8.1
計				

(4) 堤冠コンクリート打設 10 m³当り単価表

施工歩掛コード	WB330450

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 8.2
特 殊 作 業 員		//		//
普 通 作 業 員		//		//
コ ン ク リ ー ト		m ³		式 4.1, 表 4.1 現場コンクリートプラント使用は除く
ラ フ テ レ ー ン ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)25 t 吊	日		表 8.2 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 8.2
計				

(5) 止水板設置 10m当り単価表

施工歩掛コード	WB330390

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9.1
普 通 作 業 員		//		//
止 水 板	塩化ビニル製	m		式 9.1, 表 9.2
諸 雑 費		式	1	
計				

11. 施工単価入力基準表

(1) 型枠工

施工歩掛コード	WB330330	施工単位	m ²
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	J 3
	化粧型枠の有無 ①無 ②有	化粧型枠材の使用量 (m ² /100 m ²) (実数入力)	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件で必要量(材料補正を含む)を入力し、化粧型枠(使い捨て型)単価(Y-0462101) [円/m²] を単価登録すること。
2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。
3. 化粧型枠の処分費が必要な場合は、別途計上する。
4. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。
5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)、排出ガス対策型(第1次基準値)、及び低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 足場工

施工歩掛コード	WB330340	施工単位	m

(3) 一般部コンクリート打設

施工歩掛コード	WB330440	施工単位	m ³	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	現場コンクリート プラント使用 の有無	生コンクリート の規格	生コンクリート 割増額の有無
	①10 m ³ ／日以上 50 m ³ ／日未満 ②50 m ³ ／日以上 150 m ³ ／日未満	①無 ②有	(表 10.1)	①有 ②無

J 5	J 6	J 7
養生方法 ①一般養生 ②特殊養生	雑工種 (表 10.2)	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. 本コードは、コンクリート打設・養生、打継面・岩着面のモルタル敷均し、打継面清掃、チッピング、岩盤清掃等を含む。
2. コンクリート混合物の材料ロスを含む。
3. 現場コンクリートプラントを使用する場合は、J 2 条件で②を選択する。その場合、J 3、J 4 条件は入力する必要はない。
4. J 3 条件で⑥を選択した場合は、生コンクリート各種単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
5. J 4 条件で①を選択した場合は、生コンクリート割増額単価(Y-0212000) [円/m³] を単価登録すること。

と。

6. J 5 条件で②を選択した場合は、WB331510（養生工（練炭））を別途計上する。
7. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。
8. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）、及び低騒音型機種についても適用出来る。

表 10. 1 生コンクリートの規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号
18-5-40 (高炉B)	①	21-5-40 (高炉B)	⑨
18-8-40 (")	②	21-5-80 (")	⑩
18-5-80 (")	③	27-5-40 (")	⑪
18-8-80 (")	④	C = 300 kg/m ³ -5-40 (")	⑫
19.5-5-40 (")	⑤	C = 300 kg/m ³ -5-80 (")	⑬
19.5-8-40 (")	⑥	C = 600 kg/m ³ G _{max} = 40 (")	⑭
19.5-5-80 (")	⑦	C = 600 kg/m ³ G _{max} = 80 (")	⑮
19.5-8-80 (")	⑧	生コンクリート各種	⑯

表 10. 2 雑工種

雑 工 種	入力番号
チップング・岩盤清掃	①
チップング	②
岩盤清掃	③
無し	④

(4) 堤冠コンクリート打設

施工歩掛コード	WB330450	施工単位	m ³	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	作業区分	現場コンクリートプラント使用の有無	生コンクリートの規格	生コンクリート割増額の有無
	(表 10.3)	①無 ②有	(表 10.1)	①有 ②無
	J 5	J 6		
	養生方法	ラフテレーンクレーン賃料補正係数		
	①一般養生 ②特殊養生	①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)		

- (注) 1. 本コードは、堤冠コンクリート打設・養生等を含む。
2. コンクリート混合物の材料ロスを含む。
3. 現場コンクリートプラントを使用する場合は、J 2 条件で②を選択する。その場合、J 3, J 4 条件は入力する必要はない。
4. J 3 条件で⑯を選択した場合は、生コンクリート各種単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
5. J 4 条件で①を選択した場合は、生コンクリート割増額単価 (Y-0212000) [円/m³] を単価登録すること。
6. J 5 条件で②を選択した場合は、WB331510（養生工（練炭））を別途計上する。
7. ラフテレーンクレーンの賃料補正（夜間補正）を行った場合は、労務費調整係数を入力すること。
8. 本コードは、ラフテレーンクレーンの普通型機種（排出ガス未対策型）、排出ガス対策型（第1次基準値）、及び低騒音型機種についても適用出来る。

表 10. 3 作業区分

作 業 区 分	入力番号
鉄材 3 (m ³ /ブロック) 未満	①
グラノリシック 20 (m ³ /ブロック) 未満	②
富配合 30 (m ³ /ブロック) 未満	③

(5) 止水板設置

施工歩掛コード	WB330390	施工単位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	止水板規格 (表 10. 4)		

- (注) 1. J 1 条件で④を選択した場合は、塩ビ止水板単価 (Y-1672000) [円/m] を単価登録すること。
2. 止水板の材料ロスを含む。

表 10.4 止水板規格

止水板規格	入力番号
CF300×7	①
CC300×7	②
UC200×6	③
塩ビ止水板各種	④

②-2 コンクリート工 (ケーブルクレーン打設)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）のコンクリート工のうち、ケーブルクレーン打設で施工する場合に適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
コンクリート投入	コンクリートバケット	両開ゴムシール付 ローラゲート型1.0m ³	台	1	
	ケーブルクレーン	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9t吊	〃	1	砂防工用
型枠設置・撤去	ケーブルクレーン	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9t吊	〃	1	砂防工用

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、現場条件に適合した機械・規格を別途考慮する。

3. 材料使用量

コンクリートの使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 3.1}$$

K：ロス率

表3.1 ロス率(K)

種 別	ロ ス 率
コ ン ク リ ー ト	+0.04

4. コンクリート投入

コンクリート投入（打継面・岩着面のモルタル敷均し含む）は、下記による。

4-1 コンクリート投入日当り編成人員

表4.1 日当り編成人員

(人/日)

名 称	特殊作業員		普通作業員
	運転員	バケット	合 計
ケーブルクレーン	1	1	1

4-2 ケーブルクレーンの作業能力

運転1時間当り投入数量は、次式による。

$$Q = \frac{60 \times q}{Cm}$$

Q：1時間当り投入数量 (m³/h)

q：コンクリートバケット容量 (m³)

Cm：1サイクル当り所要時間 (min)

4-3 ケーブルクレーンのサイクルタイム

サイクルタイムは、次式による。

$$Cm = \frac{2L}{V_1} + \frac{2(h_1 + h_2)}{V_2} + t$$

Cm：1サイクル当り所要時間 (min/回)

t：バケット積卸し、コンクリート放出時間

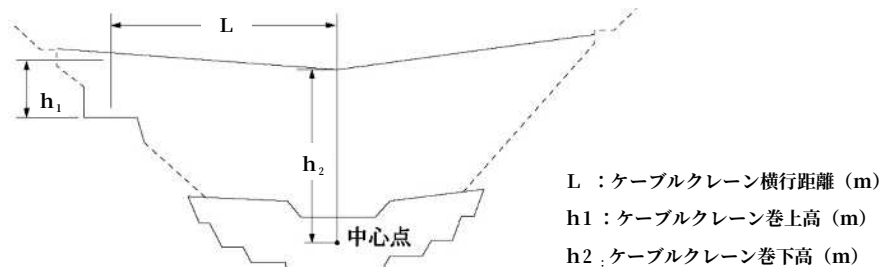
t = 3 min とする。 (min/回)

V1（横行速度）、V2（巻上・巻下速度）は、次表を標準とする。

表4.2 横行速度(V_1), 巻上・巻下速度(V_2) (m/min)

名 称	速 度
横行速度(V_1)	$0.52L+56$
巻上・巻下速度(V_2)	$2.11\{(h_1+h_2)/2\}+6.67$

(注) 現場条件により本式を適用し難い場合は、別途考慮する。



5. 型 枠 工

5-1 適用範囲

外部型枠, 内部型枠に適用する。

5-2 型枠設置・撤去, ケレンはく離剤塗布施工歩掛

型枠 100 m² 当り施工歩掛は、次表を標準とする。

表5.1 型枠設置・撤去, ケレンはく離剤塗布施工歩掛 (100 m²当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	2.0	
型 わ く 工		〃	13.0	
普 通 作 業 員		〃	13.0	
ケーブルクレーン運転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	日	2.0	機械損料
諸 雑 費 率		%	9	

(注) 諸雑費は、メタルフォーム, 木製型枠, 角パイプ, フォームタイ, 座金, プラスチックコン, セパレータ, 丸鋼, はく離剤等の費用であり, 労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

6. 化粧型枠工

化粧型枠工は、「第Ⅲ編第3章砂防工②-1 コンクリート工」による。

7. 締固め、養生、打継面清掃工歩掛

10 m³当りの施工歩掛は、次表を標準とする。

表7.1 コンクリート締固め、養生、打継面清掃工歩掛

(10 m³当り)

名称	単位	コンクリート締固め、養生、打継面清掃(m ³ /日)			養生
		50未満	50以上 100未満	100以上	
土木一般世話役	人	0.14	0.10	0.10	—
特殊作業員	〃	0.28	0.21	0.14	—
普通作業員	〃	0.39	0.32	0.25	0.13
諸雑費率	%	9	10	10	39 (2)

(注) 1. コンクリート締固め、打継面清掃の諸雑費は、コンクリートパイプレータ損料、高圧洗浄機損料、高圧洗浄機運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 養生の諸雑費は、養生マット、工事用水中モータポンプ損料、工事用水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 養生の()は、自然水を利用する場合。自然水を利用する施設が必要な場合は、別途計上する。

4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生については別途考慮する。

8. 堤冠コンクリート締固め、養生歩掛

10 m³当りの締固め、養生歩掛は、次表を標準とする。

表8.1 堤冠コンクリート締固め、養生歩掛

(10 m³当り)

名称	単位	1ブロック当り締固め量(m ³ /ブロック)			堤冠コンクリート 養生
		鉄材 3未満	グラノリシック 20未満	富配合 30未満	
土木一般世話役	人	3.3	0.6	0.3	—
特殊作業員	〃	5.7	2.7	1.3	—
普通作業員	〃	12.0	1.1	0.5	0.9
諸雑費率	%	4	10	10	39 (0.3)

(注) 1. 堤冠コンクリート締固めの諸雑費は、コンクリートパイプレータ損料、運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. 堤冠コンクリート養生の諸雑費は、養生マット、散水養生で使用する工事用水中モータポンプ損料、工事用水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 堤冠コンクリート養生の諸雑費率の()内は、自然水を利用する場合に適用する。自然水を利用する施設が必要な場合は、別途計上する。

4. 特殊養生の場合は「第Ⅲ編第3章④養生工(練炭)」を別途計上する。なお、ジェットヒータ養生については別途考慮する。

9. 岩盤清掃歩掛

10 m²当りの岩盤清掃歩掛は、次表を標準とする。

表9.1 岩盤清掃歩掛

(10 m²当り)

名 称	単位	数 量
土木一般世話役	人	0.1
普通作業員	〃	0.5
諸雑費率	%	33

(注) 諸雑費は、高圧洗浄機損料、工事用水中モータポンプ損料、高圧洗浄機運転経費、工事用水中モータポンプ運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

10. チッピング歩掛

10 m当りのチッピング歩掛は、次表を標準とする。

表 10. 1 チッピング歩掛 (10 m²当り)

名 称	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役	人	0.1
特 殊 作 業 員	〃	0.3
普 通 作 業 員	〃	0.3
諸 雑 費 率	%	23

(注) 1. 継続工事の打継面処理には、適用しない。

2. 諸雑費は、空気圧縮機損料、さく岩機損料、さく岩機運転経費及び電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

11. 単 価 表

(1) コンクリート投入 100 m³当り単価表 (ケーブルクレーン)

		施工歩掛コード			WB330310
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
コ ン ク リ ー ト		m ³		式 3.1	
ケ ー ブ ル ク レ ー ン 運 転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	h	100/Q	(2)単価表 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) Q：ケーブルクレーン運転 1 時間当り投入数量 (m³/h)

(2) コンクリート投入 1 時間当り単価表 (ケーブルクレーン)

		施工歩掛コード			WB330320
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
特 殊 作 業 員		人	1/T	表 4.1	
普 通 作 業 員		〃	1/T	〃	
ケ ー ブ ル ク レ ー ン 運 転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	日	1/T	単価表(8) 機械損料	
コ ン ク リ ー ト バ ケ ッ ト	両開ゴムシール付ローラゲート型 容量 1.0 m ³	〃	1/T	バケット数 1 個 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) T：ケーブルクレーン運転日当り運転時間 (h/日)

(3) 型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布作業 100 m² 当り単価表

		施工歩掛コード			WB330520
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.1	
型 枠 工		〃		〃	
普 通 作 業 員		〃		〃	
ケ ー ブ ル ク レ ー ン 運 転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	日		表 5.1 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表 5.1	
計					

(4) コンクリート締固め、打継面清掃10m³ 当り単価表

		施工歩掛コード		WB330350
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 7.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(5) コンクリート養生10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB330360
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表 7.1
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(6) 堤冠コンクリート締固め10m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB330370
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 8.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(7) 堤冠コンクリート養生10m³ 当り単価表

		施工歩掛コード		WB330380
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表 8.1
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(8) ケーブルクレーン運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	n	(注)2
普 通 作 業 員		〃	n	(注)3
燃 料 費		ℓ	運転1時間当り 燃料消費量×T	(軽油)
ケ ー ブ ル ク レ ー ン	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9 t	日	1	機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. T: ケーブルクレーン運転日当り運転時間。コンクリート投入打設の運転日当り運転時間は6.9時間とし、型枠の現場内小運搬の運転日当り運転時間は、3.0時間とする。

2. n: 特殊作業員数。コンクリート投入打設、型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布作業において、運転員として特殊作業員を1名計上する。

3. n: 普通作業員数。型枠設置・撤去、ケレンはく離剤塗布作業において、合図員として普通作業員を1名計上する。

(9) 岩盤清掃10㎡当り単価表

		施工歩掛コード		WB330400
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 9.1
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(10) チッピング10㎡当り単価表

		施工歩掛コード		WB330410
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 10.1
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

12. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート投入(ケーブルクレーン運転)

施工歩掛コード		WB330310		施工単位		m ³	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	
	現場コンクリート プラント使用の 有無	生コンクリート の規格	生コンクリート 割増額の有無	ケ ー ブ ル ク レ ー ン 横行距離 L (m)	ケ ー ブ ル ク レ ー ン 巻上高 h ₁ (m)	ケ ー ブ ル ク レ ー ン 巻下高 h ₂ (m)	
	①無 ②有	(表 12.1)	①有 ②無	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	

(注) 1. コンクリート混合物の材料ロスを含む。

2. 現場コンクリートプラントを使用する場合は、J 1 条件で②を選択する。その場合、J 2, J 3 条件は入力する必要はない。

3. J 2 条件で⑥を選択した場合は、生コンクリート(各種)単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。4. J 3 条件で①を選択した場合は、生コンクリート割増額単価(Y-0212000) [円/m³] を単価登録すること。

表 12. 1 生コンクリートの規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号
18-5-40 (高炉B)	①	21-5-40 (高炉B)	⑨
18-8-40 (")	②	21-5-80 (")	⑩
18-5-80 (")	③	27-5-40 (")	⑪
18-8-80 (")	④	C = 300 kg/m ³ -5-40 (")	⑫
19.5-5-40 (")	⑤	C = 300 kg/m ³ -5-80 (")	⑬
19.5-8-40 (")	⑥	C = 600 kg/m ³ G _{max} = 40 (")	⑭
19.5-5-80 (")	⑦	C = 600 kg/m ³ G _{max} = 80 (")	⑮
19.5-8-80 (")	⑧	各種	⑯

(2) 型枠工(ケーブルクレーン運転)

施工歩掛コード	WB330520	施工単位	m ²
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	化粧型枠の有無	化粧型枠材の 使用量 (m ² ／100 m ²)	
	①無 ②有	(実数入力)	

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合は、J 2 条件で必要量(材料ロスを含む)を入力し、化粧型枠(使い捨て型)単価(Y-0462101) [円/m²] を単価登録すること。

2. J 1 条件で①を選択した場合は、J 2 条件は入力する必要はない。

3. 化粧型枠の処分費が必要な場合は、別途計上する。

(3) コンクリート締固め, 打継面清掃

施工歩掛コード	WB330350	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	作業区分 ① 50 m ³ /日未満 ② 50 m ³ /日以上 100 m ³ /日未満 ③ 100 m ³ /日以上		

(4) コンクリート養生

施工歩掛コード	WB330360	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	養生方法 ①散水養生 ②自然水利用		

(注) 本コードは, 散水養生, 自然水利用の場合に適用し, 特殊養生(練炭)についてはWB331510(養生工(練炭))を別途計上する。なお, 特殊養生(ジェットヒーター)については別途考慮する。

(5) 堤冠コンクリート締固め

施工歩掛コード	WB330370	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	作業区分 (表 12.2)		

表 12. 2 作業区分

作 業 区 分	入力番号
鉄材 3(m ³ /ブロック)以下	①
グラノリシック 20(m ³ /ブロック)以下	②
富配合 30(m ³ /ブロック)以下	③

(6) 堤冠コンクリート養生

施工歩掛コード	WB330380	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	養生方法 ①散水養生 ②自然水利用		

(注) 本コードは, 散水養生, 自然水利用の場合に適用し, 特殊養生(練炭)についてはWB331510(養生工(練炭))を別途計上する。なお, 特殊養生(ジェットヒーター)については別途考慮する。

(7) 岩盤清掃

施工歩掛コード	WB330400	施工単位	m ²

(8) チッピング

施工歩掛コード	WB330410	施工単位	m ²

②-3 コンクリート工 (横取りを行う場合)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）のケーブルクレーンによるコンクリート投入において、不整地運搬車により横取りを行う場合に適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

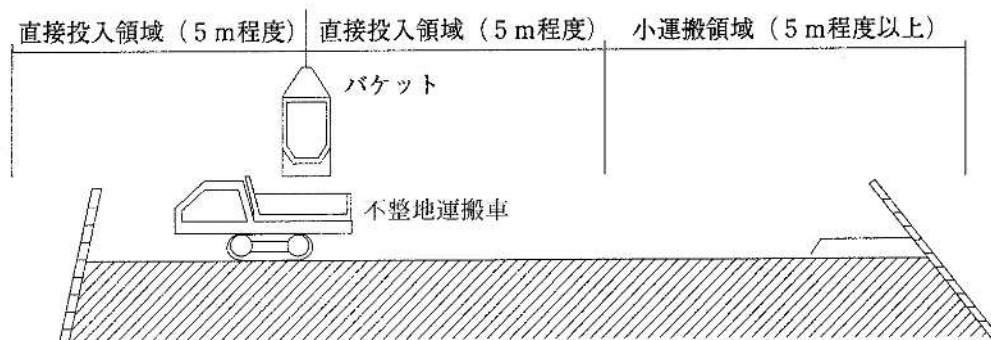
表2.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
不整地運搬車による横取り	不整地運搬車	クローラ型,ダンプ式 (1t積,2t積,2.5t積,3t積,3.5t積,4t積,5t積)	台	1	

3. 施工概要

施工概要は下図のとおり。

図3-1 施工概要図



4. 施工歩掛

4-1 不整地運搬車による横取り

不整地運搬車による横取り歩掛は次のとおりとする。

$$\text{不整地運搬車運転日数 (日/}\text{m}^3\text{)} = \frac{1}{Q} \times \frac{1}{T} \quad \cdots \cdots \text{式 4.1}$$

Q：ケーブルクレーン運転1時間当り投入量 (m^3/h) は、「第Ⅲ編第3章砂防工②-2 コンクリート工（ケーブルクレーン打設）」による。

T：ケーブルクレーン運転日当り運転時間 (h/日)

5. 単 価 表

(1) 不整地運搬車による横取り 100 m³当り単価表

施工歩掛コード		WB330610		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
不整地運搬車運転	クローラ型ダンプ式	日	$100 \times \left(\frac{1}{Q} \times \frac{1}{T} \right)$	式 4.1, (2) 単価表
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. Q: ケーブルクレーン運転1時間当り投入量 (m³/h) は, 「第Ⅲ編第3章砂防工②-2コンクリート工(ケーブルクレーン打設)」による。

2. T: ケーブルクレーン運転日当り運転時間 (h/日) は, 6.9時間とする。

(2) 不整地運搬車運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
運 転 手 (特 殊)		人	1	
不整地運搬車損料	クローラ型ダンプ式	日	1	
燃 料 費	(燃料: 軽油)	ℓ	1時間当り燃料消費量×T	第Ⅰ編第6章②原動機燃料消費量による。
諸 雑 費		式	1	
計				

6. 施工単価入力基準表

(1) 不整地運搬車による横取り

施工歩掛コード	WB330610	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	ケーブルクレーン 1時間当り投入量 (実数入力) (m ³ /h)	不整地運搬車 区 分 (表 6.1)	

表6.1 不整地運搬車区分

不整地運搬車区分		入力番号
クローラ型ダンプ式	1t 積	①
〃	2t 積	②
〃	2.5t 積	③
〃	3t 積	④
〃	3.5t 積	⑤
〃	4t 積	⑥
〃	5t 積	⑦

②-4 砂防コンクリート生産(ミキサによる混合)工

1. 適用範囲

本資料は、砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)のコンクリート工において、現地でミキサによるコンクリート生産(堤冠保護工用の鉄材コンクリート混合を含む)を行う場合に適用する。

なお、施工規模、施工条件により運搬及び荷役機械の施工箇所への搬入搬出が困難な場合にのみ適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
コンクリート生産	コンクリートミキサ	可傾式手動傾胴型・エンジン又はモータ付 ドラム容量0.08m ³	台	1	
		簡易傾胴型・モータ付 ドラム容量0.20, 0.30m ³	〃	1	

3. 施工歩掛

3-1 コンクリートミキサによる混合歩掛

コンクリートミキサによる混合歩掛は、表3.1及び表3.2とする。

表3.1 コンクリートミキサによる混合歩掛(労務)

(10 m³当り)

種別 ミキサ 容量	無筋・鉄筋構造物			小型構造物(Ⅰ)			小型構造物(Ⅱ)		
	ミキサ 練上 能力 (m ³ /h)	混合労務		ミキサ 練上 能力 (m ³ /h)	混合労務		ミキサ 練上 能力 (m ³ /h)	混合労務	
		特殊 作業員 (人)	普通 作業員 (人)		特殊 作業員 (人)	普通 作業員 (人)		特殊 作業員 (人)	普通 作業員 (人)
0.08 m ³	1.3	1.1	6.7 (5.2)	1.3	1.2	6.7 (5.2)	1.2	1.4	7.5 (6.0)
0.20 m ³	2.7	0.53	5.8 (4.4)	2.5	0.61	5.7 (4.3)	2.3	0.71	6.3 (4.9)
0.30 m ³	4.0	0.36	5.3 (3.8)	3.8	0.40	5.3 (3.8)	3.7	0.44	5.8 (4.4)

(注) 1. 混合作業は、骨材、セメント等の運搬、投入、混合、吐出しまでとする。

2. 骨材、セメント等の運搬は人力によるものとする。

3. 骨材、セメント等の運搬を機械(ベルトコンベヤ等)で行う場合は、普通作業員の労務について()内の数量を適用し、機械運転費(積込み、積卸し、機械付普通作業員の労務費を含む)を別途計上する。

4. 上表には、構造物の実作業時間による補正を含んでいる。

5. 上表には、構造物のコンクリート使用量に対するロス分の生産を含んでいる。

6. 堤冠保護工用の鉄材コンクリートを混合する場合は、無筋・鉄筋構造物を適用する。

表3.2 コンクリートミキサによる混合歩掛(機械) (10 m³当り)

種 別 ミキサ 容 量	無筋・鉄筋構造物		小型構造物 (Ⅰ)		小型構造物 (Ⅱ)	
	コン クリ ート ミキサ	燃料消費量 又は 電力消費量	コン クリ ート ミキサ	燃料消費量 又は 電力消費量	コン クリ ート ミキサ	燃料消費量 又は 電力消費量
0.08 m ³	1.1 日	3.4L 3.0kWh	1.2 日	3.7L 3.3kWh	1.4 日	4.3L 3.9kWh
0.20 m ³	0.53 日	4.9kWh	0.61 日	5.6kWh	0.71 日	6.5kWh
0.30 m ³	0.36 日	5.0kWh	0.40 日	5.5kWh	0.44 日	6.1kWh

- (注) 1. 上表には、構造物の実作業時間による補正を含んでいる。
 2. 上表には、構造物のコンクリート使用量に対するロス分の生産を含んでいる。
 3. 電力は、商用電源を標準とする。なお、発動発電機等による場合は別途考慮する。
 4. 堤冠保護工用の鉄材コンクリートを混合する場合は、無筋・鉄筋構造物を適用する。

表3.3 コンクリート構造物の分類

構造物種別		コンクリート構造物の分類
無 筋 構 造 物		マッシブな無筋構造物，比較的単純な鉄筋を有する構造物及び均しコンクリート等。
鉄 筋 構 造 物		水路，水門，ポンプ場下部工，栈橋上部コンクリート等の鉄筋量の多い構造物。
小型構造物	Ⅰ	最大高さ1 m程度の擁壁，側溝，ブロック基礎，笠コンクリート等のコンクリート断面積が小さく（1 m ² 以下）連続している構造物。
	Ⅱ	形状が複雑な構造物及び集水樹，空気弁，排泥弁，道路照明・標識・防護柵の基礎等の少量（1 m ³ 以下）のコンクリート量で点在する構造物。

3-2 諸雑費

諸雑費は、計量車損料の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表3.4 諸雑費率 (%)

種 別 ミキサ 容 量	無筋・ 鉄筋構造物	小型構造物 (Ⅰ)	小型構造物 (Ⅱ)
0.08 m ³	0.7	0.8	0.8
0.20 m ³	0.4	0.5	0.5
0.30 m ³	0.3	0.4	0.4

- (注) 骨材，セメント等の運搬を機械（ベルトコンベヤ等）で行う場合は、上表の率を計上しないものとする。

4. 単 価 表

(1) コンクリートミキサ混合 10 m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB330710
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表 3.1
普 通 作 業 員		〃		〃
コンクリートミキサ	可傾式手動傾胴型 又は簡易傾胴型	日		表 2.1, 表 3.2
燃 料 消 費 量 又 電 力 消 費 量	(燃料: ガソリン) (電力: 商用電源)	ℓ kWh		〃
諸 雑 費		式	1	表 3.4
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) コンクリートミキサ混合

施工歩掛コード	WB330710	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	構造物 区 分 (表 5.1)	ミキサ 区 分 (表 5.2)	運搬方法 区 分 (表 5.3)

- (注) 1. J 2 条件で①～③ (モータ付) を選択した場合, 電力料金 (Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。
 2. J 3 条件で② (機械) を選択した場合には, 機械運転経費 (積込み, 積卸し, 機械付普通作業員の労務) を別途計上すること。

表5.1 構造物区分

構 造 物 区 分	入力番号
無筋・鉄筋コンクリート	①
小型構造物 (I)	②
小型構造物 (II)	③

表5.2 ミキサ区分

ミ キ サ 区 分	入力番号
0.08m ³ モータ付	①
0.20m ³ 〃	②
0.30m ³ 〃	③
0.08m ³ エンジン付	④

表5.3 材料運搬方法区分

運 搬 方 法 区 分	入力番号
人 力	①
機 械	②

②ー5 砂防コンクリート運搬(投入)工

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）のコンクリート工のうち、運搬（投入）の場合に適用する。

2. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種を選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
コンクリート運搬 (投入)	アジテータトラック (トラックミキサ)	[トラック架装型] 0.8~0.9, 1.6~1.7, 3.0~3.2, 4.4 m ³	台	1	

3. コンクリート運搬(投入)歩掛

3-1 コンクリート運搬(投入)編成人員

アジテータトラック（トラックミキサ）を使用する場合の編成人員は次表とし、組合せ機械及び台数により職種及び人員を積上げ計算する。

表3.1 アジテータトラック(トラックミキサ)編成人員

名 称		機 種	アジテータトラック (トラックミキサ)
		単 位	
運 転 手	(一般)	人／台	1

3-2 コンクリート材料及び混合物の使用量

使用量 (m³) = 設計量 (m³) × (1 + K) ……式 3.1

表3.2 コンクリート混合物のロス率(K)

ロ ス 率
+0.04

(注) ロス率は本堰堤・副堰堤・床固め・帯工・水叩き・側壁・護岸の他、本体と同時打設する間詰にも適用出来る。

4. 単 価 表

(1) コンクリート運搬 アジテータトラック (トラックミキサ) 100 m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB330820
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
アジテータトラック (トラックミキサ)	トラック架装型	h	104/Q	表 2.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) Q (m³/h) : アジテータトラック (トラックミキサ) 1時間当りコンクリート運搬量

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
アジテータトラック (トラックミキサ)	表 2.1	機-6	

5. 施工単価入力基準表

(1) コンクリート運搬 アジテータトラック (トラックミキサ)

施工歩掛コード	WB330820	施工単位	m ³
施工区分	入 力 条 件		
作 業 区 分	J 1	J 2	J 3
各 種	時間当り運搬量 Q (m ³ /h)	アジテータトラック 機種	アジテータトラック 供用日当り運転時間
	(実数入力)	(表 5.1)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) コンクリート混合物のロスを含む。

表 5.1 アジテータトラック (トラックミキサ) 機種

アジテータトラック (トラックミキサ) 機種		入力番号
名称	規格	
アジテータトラック (トラックミキサ)	トラック架装型 混合容量0.8~0.9m ³	①
	トラック架装型 混合容量1.6~1.7m ³	②
	トラック架装型 混合容量3.0~3.2m ³	③
	トラック架装型 混合容量4.4m ³	④

②-6 残存型枠工

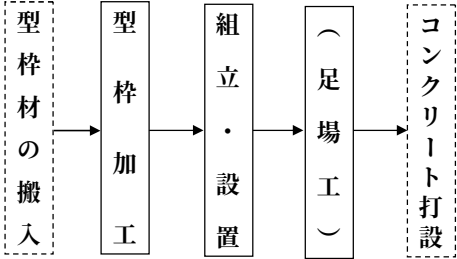
1. 適用範囲

本資料は、砂防工事の構造物施工にかかる平均設置高 30m以下の残存型枠及び残存化粧型枠の施工、及び天端の手摺及び足場（キャットウォーク）の設置・撤去に適用する。

本工法は、プレキャストのコンクリート二次製品による型枠を使用し、コンクリート打設・養生後の型枠の撤去を必要としない型枠工のことをいう。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

2. () 書きは必要な場合計上する。

図 2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

機 械 名	規 格
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第 2 次基準値） 25 t 吊

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、現場条件にあった機械・規格を選定する。

4. 施工歩掛

4-1 残存型枠工及び残存化粧型枠工歩掛

残存型枠及び残存化粧型枠の加工、組立・設置にかかる施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 残存型枠及び残存化粧型枠の施工歩掛 (100 m²当り)

名 称	単位	型枠材 1 枚当りの質量	
		残存型枠	残存化粧型枠
		60 kg以下	110 kg以下
土 木 一 般 世 話 役	人	2.0	2.1
型 わ く 工	〃	4.8	4.8
普 通 作 業 員	〃	3.3	3.7
溶 接 工	〃	2.3	2.5
ラフテレーンクレーン運転	日	1.7	1.9
諸 雑 費 率	%	16	16

(注) 1. 残存化粧型枠は意匠を目的とした平面・凹凸面の型枠材に適用する。

2. 上記歩掛は、水抜きパイプの設置を含むものであるが、水抜きパイプの有無にかかわらず適用出来る。水抜きパイプ材料は、必要量を別途計上する。

3. 上記歩掛は、半径 10m以下の円形部分には適用しない。

4. 諸雑費は、組立支持材及び電気溶接機、コンクリートカッター、インパクトレンチ、電気

ドリル、ディスクグラインダー、鉄筋カッター、溶接棒、電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 型枠材は、残存型枠・残存化粧型枠及び残存型枠・残存化粧型枠用組立部材を計上する。

6. ラフテレーンクレーンは賃料とする。

7. 狭隘等の現場条件により、クレーン据付が困難な場合、又は据付により施工に支障が生じる場合には別途考慮する。

4-2 残存型枠及び化粧型枠使用数量

残存型枠及び残存化粧型枠の使用数量は、次式による。

$$\text{使用数量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \quad \cdots\text{式 4. 1}$$

K：ロス率

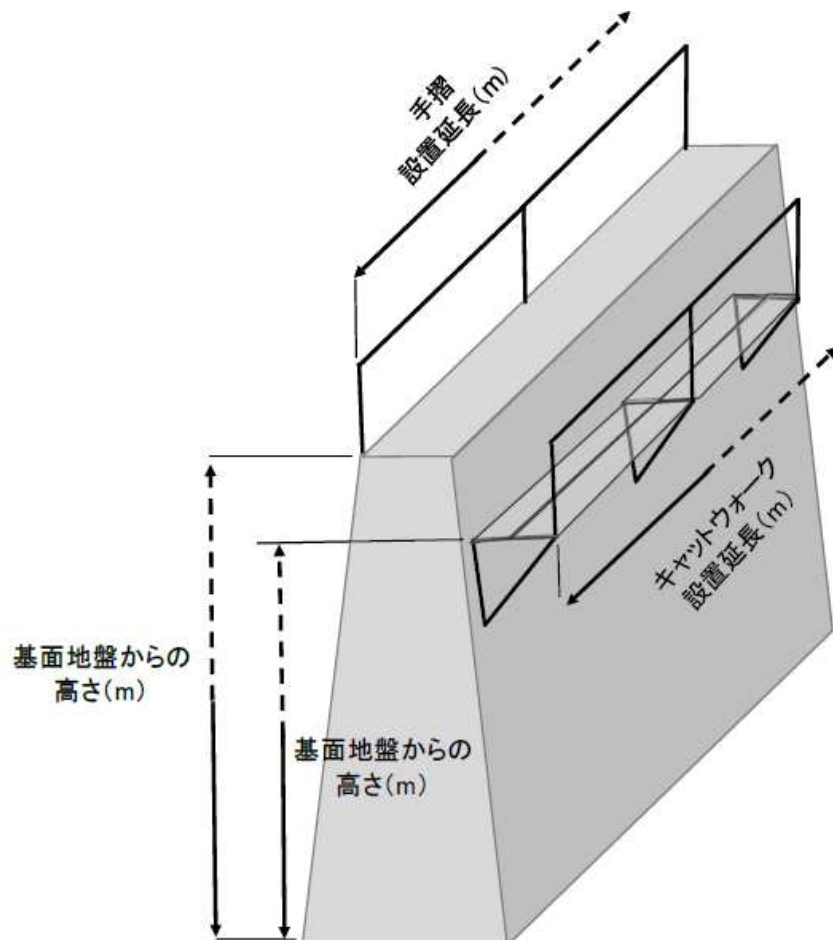
表4.2 ロス率(K)

材 料 名	残存型枠	残存化粧型枠
	60kg 以下	110kg 以下
ロ ス 率	6%	

4-3 天端の手摺及び足場（キャットウォーク）の設置・撤去

(1) 適用範囲

基面地盤より高さ2m以上に手摺やキャットウォークを設置する場合に適用する。



(注) 足場を複数段設置する場合は、各段の合計延長を計上する。

図4-1 手摺、足場（キャットウォーク）の施工長さ

(2) 施工歩掛

天端の手摺及び足場（キャットウォーク）の設置・撤去にかかる施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.3 天端手摺設置・撤去歩掛 (100m 当り)

名 称	単位	手摺
土 木 一 般 世 話 役	人	1.3
と び 工	//	3.4
諸 雑 費 率	%	8

(注) 諸雑費は、インパクトレンチ、手摺、単管パイプ、クランプ等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.4 足場(キャットウォーク)設置・撤去歩掛 (100m 当り)

名 称	単位	足場(キャットウォーク)
土 木 一 般 世 話 役	人	2.7
と び 工	//	5.8
普 通 作 業 員	//	5.4
諸 雑 費 率	%	23

(注) 諸雑費は、インパクトレンチ、手摺、単管パイプ、クランプ、斜面用足場ブラケット、足場板、取付ボルト、取付ボルト穴の埋戻し用モルタル等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 単 価 表

(1) 残存型枠及び残存化粧型枠工 100 m²当り単価表

		施工歩掛コード		WB330850
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.1
型 枠 組 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
溶 接 工		〃		〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日		表4.1 機械賃料
型 枠 材		m ²		式4.1, 表4.2 組立部材含む
水 抜 き パ イ プ		m		必要に応じ計上
諸 雑 費		式	1	表4.1
計				

(2) 天端手摺設置・撤去 100m当り単価表

施工歩掛コード		WB330860		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.3
と び 工		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) 足場(キャットウォーク)設置・撤去 100m当り単価表

施工歩掛コード		WB330870		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表4.4
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

6. 施工単価入力基準表

(1) 残存型枠及び残存化粧型枠工

施工歩掛コード		WB330850	施工単位	m ²
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	型枠材種別	水抜きパイプの有無	水抜きパイプ使用量	ラフテレーンクレーン賃料補正係数
	①残存型枠	①無し	(m／100 m ²)	①標準
	②残存化粧型枠	②有り	(実数入力)	②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 残存型枠材(組立部材含む)単価(Y-0385000) [円/m²] を単価登録すること。

2. J 2 条件で①を選択した場合は, J 3 条件を入力する必要はない。②を選択した場合は, 水抜きパイプ単価(Y-0585000) [円/m] を単価登録すること。

3. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

4. 本コードは, ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型(第1次基準値), 普通型機種(排出ガス未対策型)及び, 低騒音機種についても適用出来る。

(2) 天端手摺設置・撤去

施工歩掛コード	WB330860	施工単位	m

(3) 足場(キャットウォーク)設置・撤去

施工歩掛コード	WB330870	施工単位	m

③ 仮 設 備 工

③－１ 仮 設 備 工

1. 仮 設 備 工

1－1 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤，副堰堤，床固め，帯工，水叩き，側壁，護岸）における仮設備工に適用する。

1－2 施工フロー

施工フローは，下記を標準とする。

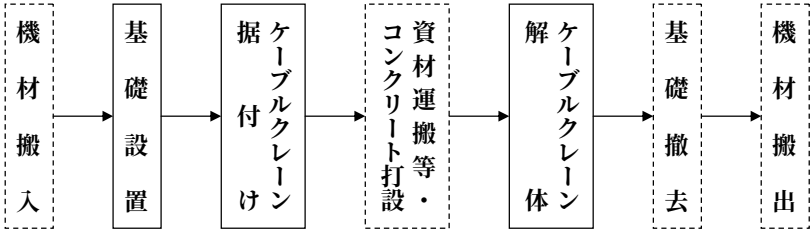


図 1-1 施工フロー

（注） 本歩掛で対応しているのは，実線部分である。

1-3 ケーブルクレーン(両端固定式)基礎・据付け・解体歩掛

ケーブルクレーン(両端固定式)基礎・据付け・解体歩掛は、次表を標準とする。

表1.1 ケーブルクレーン(両端固定式)基礎・据付・解体歩掛

(1基当り)

施工内容 規格 t		名 称 スパン (m)	基 礎 設 置 (ウインチベース・ アンカーベース)			据 付 け (機械据付・ワイヤ張上)				解 体 (機械解体・ワイヤ撤去)			
			土木 一般世話 役(人)	特殊 作業員 (人)	普通 作業員 (人)	土木 一般世話 役(人)	と び 工 (人)	普通 作業員 (人)	ウ イ ン チ 運 転 (日)	土木 一般世話 役(人)	と び 工 (人)	普通 作業員 (人)	ウ イ ン チ 運 転 (日)
2 t 未 満	75以下	2		5	5	3	14	9	3	2	7	5	2
	76～125			5	7	4	17	10	3	2	9	6	2
	126～175			6	9	4	20	13	4	3	9	7	2
	176～225			6	11	5	23	15	4	3	11	8	3
	226～275			7	13	6	26	16	5	4	12	9	3
	276～325			7	15	6	29	18	6	4	14	10	3
	326～375			8	17	7	32	20	6	4	15	11	4
	376～425			8	19	8	34	22	7	5	16	12	4
	426～500			9	21	8	37	24	7	5	18	13	5
3 t 未 満	75以下	2		5	7	4	20	12	3	3	9	6	2
	76～125			5	9	5	22	14	3	3	11	7	2
	126～175			6	11	6	25	16	4	3	12	8	2
	176～225			6	13	6	28	18	4	4	13	9	3
	226～275			7	15	7	31	20	5	4	15	10	3
	276～325			7	17	8	34	21	6	5	16	11	3
	326～375			8	19	8	37	24	6	5	17	12	4
	376～425			8	21	9	40	25	7	5	19	13	4
	426～500			9	23	10	43	27	7	6	20	14	5
4 t 未 満	75以下	2		5	8	5	23	15	3	3	9	7	2
	76～125			5	10	6	26	16	3	3	11	8	2
	126～175			6	12	6	29	19	4	4	12	8	2
	176～225			6	14	7	32	20	4	4	14	9	3
	226～275			7	16	8	35	22	5	4	15	11	3
	276～325			7	18	8	38	24	6	5	16	12	3
	326～375			8	20	9	41	26	6	5	18	12	4
	376～425			8	22	10	44	27	7	6	19	13	4
	426～500			9	24	10	47	30	7	6	21	14	5
5 t 未 満	75以下	2		5	8	6	26	16	3	3	10	7	2
	76～125			5	10	6	29	18	3	3	12	8	2
	126～175			6	12	7	32	20	4	4	12	9	2
	176～225			6	14	8	34	22	4	4	14	10	3
	226～275			7	16	8	38	24	5	4	16	12	3
	276～325			7	18	9	40	26	6	5	17	12	3
	326～375			8	20	10	44	27	6	5	18	13	4
	376～425			8	22	10	47	29	7	6	19	14	4
	426～500			9	24	11	50	31	7	6	21	15	5

(注) 1. 基礎(ウインチベース, アンカーベース)の歩掛には、人力による掘削・整地・コンクリート打設の作業を含む。型枠を施工する場合は型わく工1人を規格にかかわらず別途計上する。

2. ウインチベース材料として、コンクリート3 m³を計上する。また、アンカーベース材料は別途計上する。

3. ケーブルクレーンアンカーは、吊上げ能力、主索径間等を考慮し別途計上する。

4. 機械により基礎掘削を行う場合は別途考慮する。

5. 基礎コンクリート破碎・撤去は、必要に応じて別途計上する。

6. タワーが必要な場合は別途計上する。

7. 支柱の据付・解体・損料・賃料を第Ⅲ編第3章③仮設備工（ケーブルクレーン付属設備）にて別途計上すること。

8. キャリア、滑車の損料を別途計上すること。

1－4 砂防工のケーブルクレーンの積算については下記のとおりとする。

- (1) ケーブルクレーンの支柱（木製、鉄製等）の数量、損料は、別途計上する。
(2) ケーブルクレーンに使用するワイヤロープ（主索、巻上索、横行索）の数量は、別途計上する。
(3) ケーブルクレーンに使用するワイヤロープの損率は、次表を標準とする。

表1.2 ケーブルクレーン(両端固定式)用ワイヤロープの損率

	損率(月当り)	損率(年当り)	耐用年数(年)
主 索	0.038	0.2	5
巻 上 索	0.094	0.5	2
横 行 索	0.094	0.5	2

(注) 1. 供用期間が5箇月以下の場合は、損率（月当り）を適用する。

2. 供用期間が5箇月を超える場合は、損率（年当り）を適用する。

(4) ケーブルクレーン据付・解体用ウインチの運転日当り運転時間は、4.3時間とする。

2. 運 搬 工

2－1 適用範囲

本資料は、堰堤本体掘削用土工機械の分解・組立を実施する場合の輸送費積算に適用する。

2－2 施工歩掛

輸送費の積算は、共通仮設費に計上する。

分解・組立1台当り歩掛は、次式を標準とする。

$$P = M1 + M2 + Z$$

P：分解・組立に要する費用

M1：分解に必要な労務費（分解工数は表2.1による）

M2：組立に必要な労務費（組立工数は表2.1による）

Z：分解・組立に使用されるラフテレーンクレーン又は、ケーブルクレーンの運転にかかわる費用（表2.1による）

表2.1 土工機械分解・組立歩掛

(1台当り)

種 別	分解時最大 部品質量	延 工 数	ケーブルクレーン又は ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型(第1次基準値) 運転日数(日)	諸雑費率 (%)
		特殊作業員(人)		
分 解	3 t 未満	$M=(1.4 \times W - 2.7) \times 1.3$	$D=0.2 \times W - 0.4$	—
	4 t 未満	$M=(1.2 \times W - 3.2) \times 1.3$	$D=0.2 \times W - 0.5$	—
	5 t 未満	$M=(0.6 \times W - 1.5) \times 1.3$	$D=0.1 \times W - 0.2$	—
組 立	3 t 未満	$M=(1.6 \times W - 3.1) \times 1.3$	$D=0.3 \times W - 0.5$	2
	4 t 未満	$M=(1.4 \times W - 3.7) \times 1.3$	$D=0.2 \times W - 0.6$	2
	5 t 未満	$M=(0.7 \times W - 1.7) \times 1.3$	$D=0.1 \times W - 0.3$	4

(注) 1. M：延工数（人）、W：機械質量（t）、D：運転日数（日）を示す。

2. M、Dは、小数第2位を切捨てし、第1位とする。なお、特殊作業員歩掛の中には、整備工・普通作業員・とび工の歩掛を含む。

3. Wの適用範囲は、それぞれの分解時最大部品質量を超え25tまでとする。

4. 分解時及び組立時に使用する機械は現場条件を考慮し、ケーブルクレーン・ラフテレーンクレーンのうちいずれかを選定する。

5. ケーブルクレーンの規格（吊上げ能力）は、分解時最大部品質量、コンクリート運搬数量を考慮し決定する。

6. ラフテレーンクレーンの規格は、油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値）25t吊とする。

7. 分解・組立に使用するクレーン類の回送時間は、上表の運転日数には含まない。
8. ブルドーザの21t級については分解時最大部品質量が3tを超えるため、4t未満又は5t未満を適用する。
9. 搬入で分解・組立、搬出で分解・組立を計上する。
10. ケーブルクレーン1日当り運転時間は6.7時間とする。
11. 諸雑費は、分解・組立時に必要な消耗品費（油圧作動油、鉄線等）であり、組立労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
12. ラフテレーンクレーンは賃料として、上表の運転時間から日で計上する。
13. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

3. 内訳書及び単価表

(1) ケーブルクレーン(両端固定式)設備1基当り内訳書

施工歩掛コード				WB330910
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
ケーブルクレーン基礎		基		(3) 単価表
ケーブルクレーン据付		基		(3) 単価表
ケーブルクレーン解体		基		(3) 単価表
計				

(2) 土工機械分解・組立1台当り内訳書

施工歩掛コード				WB330930
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土工機械分解		台	1	(5) 単価表
土工機械組立		〃	1	(5) 単価表
計				

(3) ケーブルクレーン(両端固定式)基礎・据付け・解体1基当り単価表

施工歩掛コード				WB330911, WB330912, WB330913
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土木一般世話役		人		表1.1
特殊作業員		〃		〃
型わく工		〃		表1.1 (注)1
とび工		〃		表1.1
普通作業員		〃		〃
使用材料		式	1	別途計上
ウインチ運転		日		表1.1 単価表(6) 機械損料
ウインチベースコンクリート		m ³	3	表1.1 (注)2
諸雑費		式	1	
計				

(4) ワイヤロープ損耗費一式単価表

施工歩掛コード				WB330920
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
主 索		m		表1.2
巻 上 索		〃		〃
横 行 索		〃		〃
計				

(5) 土工機械分解又は組立1台当り単価表

		施工歩掛コード		WB330931, WB330932
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人		表2.1
ケーブルクレーン運転又は ラフテレーンクレーン		日		表2.1 機械損料又は機械賃料
諸 雑 費		式	1	表2.1
計				

(6) ケーブルクレーン（両端固定式）及びウインチ運転1日当り単価表

		施工歩掛コード		WB330934
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 作 業 員		人	1	
燃 料 費 (電 力)		ℓ (kWh)	運転1時間当り 燃料消費量 × T	軽油
ケ ー ブ ル ク レ ー ン		日	1	機械損料
ワイヤロープ等損耗費		式	1	別途計上 ワイヤロープ, 支柱等
諸 雑 費		〃	1	
計				

(注) T: ケーブルクレーン運転日当り運転時間

ケーブルクレーン（両端固定式）基礎・据付け・解体の運転日当り運転時間は4.3 時間とし、土工機械の分解・組立の運転日当り運転時間は6.7 時間とする。

4. 施工単価入力基準表

(1) ケーブルクレーン(両端固定式)基礎・据付・解体

施工歩掛コード	WB330910	施工単位	基			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	作業種別 (表 3.1)	ケーブルクレーン規格 (表3.2)	ウインチ (ケーブル クレーン) の動力 ①商用電源 ②エンジン	ウインチ 運転1時間当り 燃料消費量 (実数入力)	ウインチベース コンクリート規格 (表3.3)	型枠施工の有無 ①有 ②無

(注) 1. アンカーベース材料は別途計上する。

2. 機械により基礎掘削を行う場合は、別途考慮する。

3. 基礎コンクリート破碎・撤去は必要に応じて別途計上する。

4. タワーが必要な場合は、別途計上する。

5. J 1 条件で①、②及び④を選択した場合は、ウインチベースコンクリート 3 m³を含む。

6. J 1 条件で①、②、③、⑤及び⑥を選択し、J 2 条件で⑩～⑮を選択した場合は、ケーブルクレーン損料(Y-5823000) [円/日] を単価登録すること。6. J 1 条件で③、⑤及び⑥を選択した場合は、J 5 条件及びJ 6 条件は選択する必要はない。

7. J 2 条件で①～⑨を選択した場合は、J 3 条件は②で固定され、ウインチ運転1時間当り燃料消費量は 8.7(l/h)とし、J 4 条件は入力する必要はない。

また、表 1.1 の基礎・据付け・解体歩掛の規格(3 t 未満)が適用される。

8. J 3 条件で①を選択した場合は、電力料単価(Y-7500000) [円/kWh] を単価登録すること。

9. J 5 条件で③を選択した場合は、生コンクリート単価(Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。

10. ワイヤロープ損耗費を WB330920 により別途計上すること。

11. 支柱の据付・解体・損料・賃料を第Ⅲ編第3章③仮設備工(ケーブルクレーン付属設備)にて別途計上すること。

12. キャリア、滑車の損料を別途計上すること。

表4.1 作業種別

作 業 種 別	入力番号
基礎・据付け・解体	①
基礎・据付け	②
据付け・解体	③
基礎	④
据付け	⑤
解体	⑥

表4.2 ケーブルクレーン(両端固定式)の規格

規格 スパン(m)	両端固定・ ディーゼル駆動式 2.9t	2t 未満	3t 未満	4t 未満	5t 未満
	入 力 番 号				
75以下	①	⑩	⑪	⑫	⑬
76～125	②	⑪	⑫	⑬	⑭
126～175	③	⑫	⑬	⑭	⑮
176～225	④	⑬	⑭	⑮	⑯
226～275	⑤	⑭	⑮	⑯	⑰
276～325	⑥	⑮	⑯	⑰	⑱
326～375	⑦	⑯	⑰	⑱	⑲
376～425	⑧	⑰	⑲	⑲	⑳
426～500	⑨	⑱	㉑	㉒	㉓

表4.3 ウインチベースコンクリート規格

ウインチベースコンクリート規格	入力番号
18-5-40(高炉)	①
18-8-40(〃)	②
各種	③
不要	④

(2) ワイヤロープ損耗費

施工歩掛コード	WB330920	施工単位	式	
施 工 区 分	入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	供用月数 (月)	主索の員数 (m)	巻上索の員数 (m)	横行索の員数 (m)
	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)	(実数入力)

(注) ワイヤロープ(主索)単価(Y-0106001)[円/m], ワイヤロープ(巻上索)単価(Y-0106002)[円/m]及びワイヤロープ(横行索)単価(Y-0106003)[円/m]を単価登録すること。

(3) 土工機械分解・組立

施工歩掛コード	WB330930	施工単位	台			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	作業種別	機械質量 (W) (t)	分解時最大 部品質量	使用機械	ウインチ (ケーブルクレー ン)の動力	ケーブルクレー ン運転1時間当り 燃料消費量
	(表 3.4)	(実数入力)	(表 3.5)	(表 3.6)	①商用電源 ②エンジン	(実数入力)

(注) 1. J 4条件で①を選択した場合は、J 5条件は②で固定され、ケーブルクレーン運転1時間当り燃料消費量は8.7(ℓ/h)とし、J 6条件は入力する必要はない。

2. J 4条件で②～⑤を選択した場合は、ケーブルクレーン損料(Y-5823000)[円/日]を単価登録すること。

3. J 4条件で⑥を選択した場合は、J 5条件、J 6条件を入力する必要は無い。

4. J 5 条件で①を選択した場合は、電力料単価（Y-7500000）[円／kWh]を単価登録すること。
5. 本コードは、ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。

表4.4 作業種別

作 業 内 容	入力番号
分 解 ・ 組 立	①
分 解	②
組 立	③

表4.5 分解時最大部品質量

分解時最大部品質量	入力番号
3 t 未満	①
4 t 未満	②
5 t 未満	③

表4.6 使用機械

使用機械		入力番号
ケーブルクレーン	両端固定式・ディーゼル駆動式 2.9t	①
ケーブルクレーン	両端固定式 2t未満	②
ケーブルクレーン	両端固定式 3t未満	③
ケーブルクレーン	両端固定式 4t未満	④
ケーブルクレーン	両端固定式 5t未満	⑤
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値）25t吊	⑥

③ー2 仮設備工 (砂防コンクリート生産設備)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤，副堰堤，床固め，帯工，水叩き，側壁，護岸）の施工において，現地のコンクリートプラント（簡易型）によるコンクリート生産を行うための施設を設置する場合に適用する。

2. 施工概要

施工フローは，下記を標準とする。

(1) 給水設備（水槽）設置・撤去

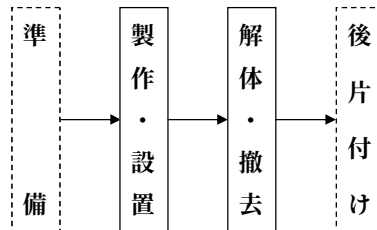


図2-1 施工フロー (給水設備(水槽) 設置・撤去)

(注) 本歩掛で対応しているのは，実線部分である。

3. 施工歩掛

3-1 給水設備（水槽） 設置・撤去歩掛

水槽の設置・撤去歩掛は，次表を標準とする。

表3.1 給水設備(水槽) 設置・撤去歩掛

(1基当たり)

設備名	名称	規格	単位	数量		摘要
				設置	撤去	
水槽	普通作業員		人	2.4	1.6	
	型わく工		〃	1.2	0.8	
	杉板	4m×1.8cm×24cm	m ³	0.11	—	水槽用
	杉角	バタ角 3m×9cm×9cm	〃	0.07	—	〃

(注) 1. 材料費は，全損とする。

2. 設置には水槽製作を含んでいる。

3. 撤去には水槽解体を含んでいる。

4. 単 価 表

(1) 給水設備（水槽）設置・撤去 1 基当り単価表

		施工歩掛コード		WB331060
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表4.6
型 わ く 工		〃		〃
杉 板	4m×1.8cm×24cm	m ³		〃
杉 角	バタ角 3m×9cm×9cm	〃		〃
諸 雑 費		式	1	
計				

5. 施工単価入力基準表

(1) 給水設備（水槽）設置・撤去

施工歩掛コード		WB331060	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件			
各 種	J 1			
	作業区分 (表 4.1)			

(注) J 1 条件で①（設置）又は③（設置＋撤去）を選択した場合には、杉板（4 m × 1.8 cm × 24 cm）単価（Y-0414000）[円／m³]を単価登録すること。

表5.1 作業区分

作業区分	入力番号
設 置	①
撤 去	②
設 置 ＋ 撤 去	③

③－３ 仮設備工(軌条及び機械設備)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工において、軌条設備及び機械設備（ミキサ等）を人力により設置する場合に適用する。

なお、施工規模、施工条件により運搬及び荷役機械の施工箇所への搬入搬出が困難な場合にのみ適用する。

2. 施工歩掛

2－1 軌条設備設置・撤去歩掛

軌条設備の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 軌条設備設置・撤去歩掛（梯線 100m当り）

名 称	単 位	作 業 内 容	
		設 置	撤 去
と び 工	人	1.0	0.5
普 通 作 業 員	〃	5.0	2.5

(注) 1. 整地費は、別途計上する。

2. 軌条は、6～9kg/mとする。

3. 運搬距離 30m程度の現場内小運搬を含む。

4. 使用期間中の軌条設備損料は、別途計上する。

2－2 機械設備設置・撤去歩掛

機械設備（ミキサ、ウインチ、ポンプ、コンプレッサ及びこれらの関連機器）の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表2.2 機械設備設置・撤去歩掛（1t当り）

名 称	単 位	作 業 内 容	
		設 置	撤 去
と び 工	人	1.0	0.5
普 通 作 業 員	〃	4.0	2.0

(注) 1. 運搬距離 30m程度の現場内小運搬を含む。

2. 使用期間中の機械設備損料は、別途計上する。

3. 単 価 表

(1) 軌条設備設置・撤去梯線 100m当り単価表

				施工歩掛コード	WB331210
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
と び 工		人		表2.1	
普 通 作 業 員		//		//	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 機械設備設置・撤去 1 t 当り単価表

				施工歩掛コード	WB331220
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
と び 工		人		表2.2	
普 通 作 業 員		//		//	
諸 雑 費		式	1		
計					

4. 施工単価入力基準表

(1) 軌条設備設置・撤去

施工歩掛コード	WB331210	施工単位	m
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	作業区分 (表 4.1)		

(注) 使用期間中の軌条設備損料は、別途計上する。

(2) 機械設備設置・撤去

施工歩掛コード	WB331220	施工単位	t
施 工 区 分	入 力 条 件		
	J 1		
各 種	作業区分 (表 4.1)		

(注) 使用期間中の機械設備損料は別途計上する。

表4.1 作業区分

作業区分	入力番号
設 置	①
撤 去	②
設 置 + 撤 去	③

③－４ 仮設備工 (ケーブルクレーン付属設備)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工におけるケーブルクレーンの付属設備として、支柱設備（タワー）及びウインチ小屋を設置する場合に適用する。

2. 施工歩掛

2－1 支柱設備設置・撤去

支柱設備設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 支柱設備設置・撤去歩掛 (1基当り)

支 柱 高 さ (m)	設 置					撤 去			
	土木一般 世話役 (人)	とび工 (人)	普 通 作業員 (人)	ケーブル クレーン 運 転 (日)	諸 雑 費 率 (%)	土木一般 世話役 (人)	とび工 (人)	普 通 作業員 (人)	ケーブル クレーン 運 転 (日)
4m以下	1	4	1	1	21	1	1	1	1
4mを超え 8m以下	2	6	2	2	13		2		
8m 〃 12m 〃	3	10	3	3			4		
12m 〃 16m 〃	4	13	4	4	9	2	5	2	2
16m 〃 20m 〃	6	17	6	6			6		
20m 〃 24m 〃	7	21	7	7		3	7	3	3
24m 〃 28m 〃	8	25	8	8	9				

(注) 1. 諸雑費は、支柱固定用のワイヤロープ、基礎等の費用として、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2. ケーブルクレーンの規格は〔両端固定・ディーゼル駆動式〕・定格荷重2.9t)とする。

3. ケーブルクレーン運転にはクレーン運転労務として特殊作業員1人/日及び資材積込、取卸労務として特殊作業員2人/日の合計3人/日を計上する。

表2.2 四角支柱質量表

等辺山形鋼の規格	質量 (kg/m)
50×50×6 mm	63
65×65×6 mm	69
75×75×6 mm	73
90×90×7 mm	85
90×90×10 mm	98
100×100×10 mm	105
100×100×13 mm	122

(注) 1. 上表は四角支柱1m当り質量であり、支柱質量の算出は次のとおりとする。

【例】50×50×6を使用した高さ10mの支柱の場合

支柱質量＝63 kg/m×2本×10m＝1,260 kg

2. H形鋼（賃料）は、別途計上する。

3. 四角支柱は、損料で計上する。

表2.3 器材損率表

名 称	1年未満	1年以上2年未満	2年以上
受 索 装 置 付 支 柱 鈎	20%	40%	60%
受 索 装 置 付 押 込 支 柱 鈎	20%	40%	60%

(注) 必要に応じて受索装置付支柱鈎又は受索装置付押込支柱鈎のいずれかを損料で計上する。

2-2 ウインチ小屋設置・撤去

ウインチ小屋設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

表2.4 ウインチ小屋設置・撤去歩掛

(1基当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	撤 去	備 考
普 通 作 業 員		人	2	1	
と び 工		〃	1	0.5	
亜 鉛 鉄 板	波板0.25×762×1829mm	枚	2.9	—	損料
杉 板	2等4.0m×1.8cm×24cm	m ³	0.01	—	損料
足 場 丸 太	長さ6.0m 末口4.5cm	本	1.1	—	損料
切 丸 太	長さ4.0m 末口9.0cm	〃	4.2	—	損料
丸 釘		kg	0.40	—	全損(材料)
鉄 線	なまし鉄線#8 径4mm	〃	3.2	—	全損(材料)

(注) 1. 亜鉛鉄板、杉板、足場丸太、切丸太は損料で計上する。なお損料率は「第Ⅱ編第5章①仮設工」の材料損料率表を適用するものとする。

2. 丸釘、鉄線は全損として、材料費で計上する。

3. 単 価 表

(1) 支柱設備設置・撤去1基当り単価表

		施工歩掛コード		WB331310
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表2.1
と び 工		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
ケーブルクレーン運転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9t	日		〃 機械損料
四 角 支 柱	等辺山形鋼	t		表2.2
H 形 鋼 賃 料		〃		〃
受索装置付支柱釣 又 受索装置付押込支柱釣		個	1	表2.3
諸 雑 費		式	1	表2.1
計				

(注) 1. 必要に応じて受索装置付支柱釣損料又は受索装置付押込支柱釣損料を計上する。

2. 撤去時には各材料は計上しない。

(2) ウインチ小屋設置・撤去1基当り単価表

		施工歩掛コード		WB331320
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表2.4
と び 工		〃		〃
垂 鉛 鉄 板	波板0.25×762×1829mm	枚		〃
杉 板	2等4.0m×1.8cm×24cm	m ³		〃
足 場 丸 太	長さ6.0m 末口4.5cm	本		〃
切 丸 太	長さ4.0m 末口9.0cm	〃		〃
丸 釘		kg		〃
鉄 線	なまし鉄線#8 径4mm	〃		〃
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) 1. 亜鉛鉄板、杉板、足場丸太、切丸太は損料で計上する。

2. 丸釘、鉄線は全損として材料費で計上する。

3. 撤去時には、各材料は計上しない。

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
ケ ー ブ ル ク レ ー ン	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9t	機—8	運転労務数量→3.0 機械損料数量→1.0 燃料消費量→37.41 ℓ/日

4. 施工単価入力基準表

(1) 支柱設備設置・撤去

施工歩掛コード	WB331310	施工単位	基			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	作業区分	支柱高さ 区 分	四角支柱 質 量 (t)	H形鋼 質 量 (t)	受索装置 区 分	受索装置 機材損率 区 分
	(表4.1)	(表4.2)	(実数入力)	(実数入力)	(表4.3)	(表4.4)

(注) 1. J 1 条件で①（設置）又は③（設置＋撤去）を選択した場合には、四角支柱損料（Y-0479001）[円／t]，H形鋼質料（Y-7050000）[円／t]，受索装置損料（Y-0800005）[円／個] を単価登録すること。

2. J 1 条件で②（撤去）を選択した場合はJ 3，J 4，J 5，J 6の入力は行わない。

(2) ウインチ小屋設置・撤去

施工歩掛コード	WB331320	施工単位	基
施 工 区 分	入力条件		
各 種	J 1		
	作業区分 (表 4.1)		

(注) J 1 条件で①（設置）又は③（設置＋撤去）を選択した場合には、亜鉛鉄板損料（Y-0800006）[円／枚]，杉板損料（Y-0800003）[円／㎡]，丸釘（Y-0800007）[円／kg]，足場丸太損料（Y-0426001）[円／本]，切丸太損料（Y-0427001）[円／本] を単価登録すること。

表4.1 作業区分

作 業 区 分	入力番号
設 置	①
撤 去	②
設置＋撤去	③

表4.2 支柱高さ区分

支 柱 高 さ 区 分	入力番号
4m以下	①
4mを超え 8m以下	②
8m // 12m //	③
12m // 16m //	④
16m // 20m //	⑤
20m // 24m //	⑥
24m // 28m //	⑦

表4.3 受索装置区分

受 索 装 置 区 分	入力番号
受 索 装 置 付 支 柱 鈎	①
受索装置付押込支柱鈎	②

表 4. 4 受索装置機材損率区分

受 索 装 置 区 分	入力番号
1 年 未 満	①
1 年 以 上 2 年 未 満	②
2 年 以 上	③

④ 養生工 (練炭)

1. 適用範囲

本資料は、砂防工事における冬期のコンクリート養生（練炭）に適用する。

2. 施工歩掛

養生歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 コンクリート養生 (砂防工) 歩掛 (10 m³当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.40	
諸 雑 費 率		%	13	

(注) 諸雑費は、シート（耐火性）、練炭、コンロ、足場板、単管、自在クランプの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

3. 単 価 表

(1) コンクリート養生（砂防工）10 m³当り単価表

		施工歩掛コード		WB331510
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
普 通 作 業 員		人	0.40	表2.1
諸 雑 費		式	1	〃
計				

4. 施工単価入力基準表

養生工

施工歩掛コード	WB331510	施工単位	m ³

⑤ 石材等採取工(割石, 雑割石, 野面石採取)

1. 適用範囲

本資料は, 砂防工における石材(割石, 雑割石, 野面石又は雑石, 玉石)を人力により現地採取する場合に適用する。

2. 施工歩掛

(1) 石材採取歩掛は, 次表を標準とする。

表2.1 石材(割石, 雑割石, 野面石又は雑石, 玉石)採取歩掛

種 別	割石 ㎡当り		雑割石 ㎡当り		野面石又は雑石 ㎡当り	玉石 ㎡当り
	石工	普 通 作業員	石工	普 通 作業員	普 通 作業員	普 通 作業員
控長25cm	—	—	—	—	0.22	—
〃 30cm	0.51	0.37	0.34	0.30	0.28	—
〃 35cm	0.54	0.41	0.37	0.32	0.35	—
〃 45cm	0.60	0.50	0.43	0.38	0.46	—
〃 55cm	—	—	—	—	0.59	—
長径15cm以上	—	—	—	—	—	0.60

(注) 1. 機械による破碎作業や火薬類による発破作業が必要な場合は別途計上する。

2. 採取による現場内小運搬を含む。

3. 石代を要する場合は別途計上する。

3. 単 価 表

(1) 石材採取1㎡(㎡)当り単価表

		施工歩掛コード		WB331610, WB331620	
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
石 工		人		表2.1	
普 通 作 業 員		〃		〃	
諸 雑 費		式	1		
計					

4. 施工単価入力基準表

(1) 石材(割石, 雑割石, 野面石, 雑石)採取

施工歩掛コード	WB331610	施工単位	m ²
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	石材の種類 (表4.1)	石材の径 (表4.2)～ (表4.4)	

表4.1 採取石材の種類

種 類	入力番号
割 石	①
雑 割 石	②
野面石及び雑石	③

表4.2 割石の径

石 径	入力番号
控 長 30cm	①
〃 35cm	②
〃 45cm	③

表4.3 雑割石の径

石 径	入力番号
控 長 30cm	①
〃 35cm	②
〃 45cm	③

表4.4 野面石又は雑石の径

石 径	入力番号
控 長 25cm	①
〃 30cm	②
〃 35cm	③
〃 45cm	④
〃 55cm	⑤

(2) 石材(玉石)採取

施工歩掛コード	WB331620	施工単位	m ³

⑥ ケーブルクレーンによる資材等の運搬

1. 適用範囲

本資料は、砂防工事における運搬作業のうち、資材をケーブルクレーンにより運搬する場合に適用する。

2. 施工歩掛

2-1 運転時間当り運搬量

運転時間当り運搬量は、次式とする。

$$\text{運搬量} = \frac{60 \times q \times E}{Cm} \quad (\text{m}^3/\text{h}), (\text{m}/\text{h}), (\text{t}/\text{h}) \cdots \text{式 2.1}$$

ただし、 q ：ケーブルクレーンの吊上容量 (m^3) ($q = \frac{W}{w}$)

W ：ケーブルクレーンの許容積載質量 (t)

w ：単位体積質量

土砂 $1.8 \text{ t}/\text{m}^3$

軟岩 $2.2 \text{ t}/\text{m}^3$

硬岩 $2.5 \text{ t}/\text{m}^3$

栗石 $1.6 \text{ t}/\text{m}^3$

碎石 $1.5 \text{ t}/\text{m}^3$

(コンクリート $2.35 \text{ t}/\text{m}^3$)

E ：作業効率 [$E = 1$]

$$Cm = \frac{2L}{V_1} + \frac{2(h_1 + h_2)}{V_2} + t \quad (\text{min}/\text{回}) \cdots \text{式 2.2}$$

ただし、 Cm ：1サイクル当り所要時間 ($\text{min}/\text{回}$)

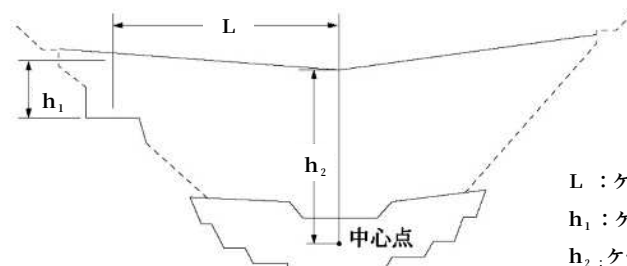
t ：バケット積卸し、放出時間 ($\text{min}/\text{回}$) [$t = 3 \text{ min}$]

V_1 ：横行速度 (m/min)

横行距離 100m未満 → 80 (m/min)

100m以上 → 130 (m/min)

V_2 ：巻上、巻下速度 (m/min) [$V_2 = 22 \text{ m}/\text{min}$]



L ：ケーブルクレーン横行距離 (m)

h_1 ：ケーブルクレーン巻上距離 (m)

h_2 ：ケーブルクレーン巻下距離 (m)

2-2 編成人員

表2.1 ケーブルクレーン運搬編成人員

材 料 名	特 殊 作 業 員			普 通 作 業 員	
	運転員	玉 掛	合 図	荷 積	荷 卸
土 砂 等	1	1	1	—	1
栗 石					
鋼 材 等					

2-3 吊上能力

ケーブルクレーンの規格は[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重 2.9t を標準とし、吊上容量の算出にあたっては、土砂バケット等の質量を考慮する。

なお、資材運搬の積載容量は小数第2位を四捨五入し、小数第1位止めとして算出するものとする。

3. 単 価 表

(1) ケーブルクレーン運搬工 1 m^3 (m, t) 当り単価表

		施工歩掛コード			WB331710, WB331730
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
土 砂 バ ケ ッ ト		日		必要に応じて計上 1×2/日作業量	
ケーブルクレーン 運 転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9 t	h	1 / Q	(2)単価表 機械損料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) Q：ケーブルクレーン運転1時間当り運搬量

(2) ケーブルクレーン運転1時間当り単価表

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要	
ケーブルクレーン 運 転	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9 t	日	1 / T	機械損料	
特 殊 作 業 員		人	2 / T	表2.1	
普 通 作 業 員		〃	1 / T	表2.1	
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) T：ケーブルクレーンの運転日当り運転時間は6.9 時間とする。

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
ケ ー ブ ル ク レ ー ン	[両端固定・ディーゼル駆動式] 定格荷重2.9 t	機—8	運転労務数量→1.0 機械損料数量→1.0 燃料消費量→60.03 ℓ/日

4. 施工単価入力基準表

(1) ケーブルクレーン運搬工(土砂等)

施工歩掛コード	WB331710	施工単位	m ³
施工区分	入力条件		
各種	J 1	J 2	
	時間当り 作業量 (Q) (m ³ /h)	土砂バケット の有無	
	(実数入力)	①有 ②無	

(注) J 2 条件で①を選択した場合、土砂バケット損料単価 (Y-1051000) [円/日]を単価登録すること。

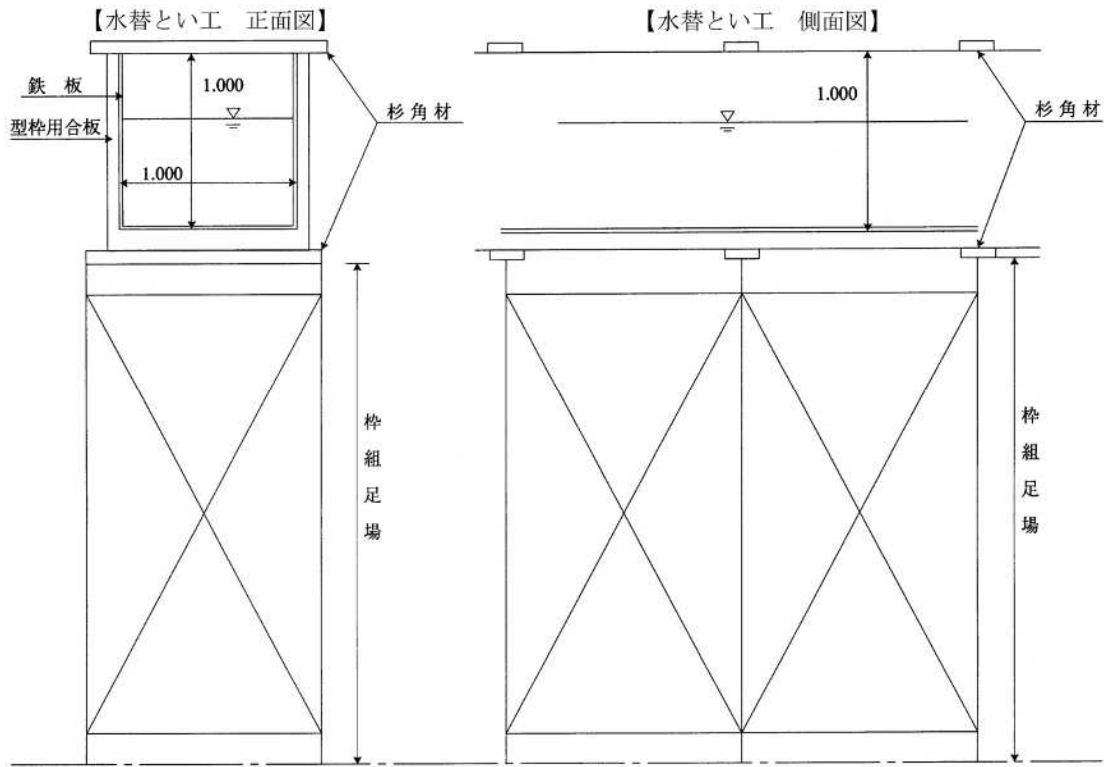
(2) ケーブルクレーン運搬工(鋼材等)

施工歩掛コード	WB331730	施工単位	t
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	時間当り 作業量 (Q) (t/h)		
	(実数入力)		

⑦ 水 替 と い 工

1. 適 用 範 囲

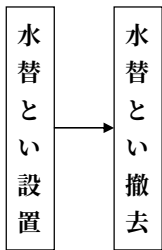
本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴い、必要となった水替作業をといにより行う場合に適用する。



2. 施 工 概 要

施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 材 料 の 選 定

使用する材料の種類・規格は次表を標準とする。

表3.1 とい材料の種類

材 料 名	規 格	摘 要
杉 角 材	10.5×10.5×4000	
鉄 板	亜鉛引0.3×914×1829	全損

4. 施 工 歩 掛

設置・撤去及び移設歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 設置・撤去歩掛 (100m当り)

名 称	単 位	設置・撤去
土 木 一 般 世 話 役	人	11.1
と び 工	〃	9.3
大 工	〃	19.5
普 通 作 業 員	〃	28.4
杉 角 材	m ³	5.3
鉄 板	枚	196
諸 雑 費 率	%	13(17)

(注) 1. 諸雑費は型枠用合板、及び枠組足場の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上し、手摺先行型枠組足場を使用する場合は()書きの率とする。

5. 単 価 表

(1) 水替とい工(設置・撤去) 100m当り単価表

施工歩掛コード				WB331910
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	11.1	表4.1
と び 工		〃	9.3	〃
大 工		〃	19.5	〃
普 通 作 業 員		〃	28.4	〃
杉 角 材	10.5×10.5×4000	m ³	5.3	〃
鉄 板	亜鉛引 0.3×914×1829	枚	196	〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

6. 施工単価入力基準表

(1) 水替とい工(設置・撤去)

施工歩掛コード	WB331910	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各種	J 1		
	手摺先行型 枠組足場の有無		
	①無 ②有		

(注) 亜鉛引鉄板単価(Y-0102000) [円/枚] を単価登録すること。

⑧ 銘 板 工

1. 適 用 範 囲

本資料は、砂防施設に銘板を取り付ける場合に適用する。

2. 施 工 歩 掛

銘板工歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 砂防銘板工歩掛

名 称	単 位	数 量	摘 要
銘板材料費	式	1	

- (注) 1. 材料費のみを計上する。
2. 取付労務は別途計上することが出来る。

3. 単 価 表

砂防銘板工 1 式当り単価表

		施工歩掛コード		WB332010
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
銘 板 材 料 費		式	1	表 2.1
諸 雑 費		式	1	
計				

4. 施工単価入力基準表

(1) 砂防銘板工

施工歩掛コード	WB332010	施工単位	式

(注)銘板材料費 (Y-3641001) [円／式]を単価登録すること。

⑨ 堤冠部保護工(隅石張)

1. 適用範囲

本資料は、砂防堰堤の堤冠部保護として、隅石張（天然切石 30 cm×30 cm×45 cm）を施工する場合に適用する。

2. 施工歩掛

堤冠部保護工（隅石張）歩掛は、次表を標準とする。

表2.1 堤冠部保護工(隅石張)歩掛 (9 m当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
石 工		人	1.0	
普 通 作 業 員		//	2.6	
隅 石	30 cm×30 cm×45 cm	個	30	
モ ル タ ル		m ³	0.16	

表2.2 モルタル材料 (1 m³当り)

配合比	セメント	砂
1 : 2	720 kg	0.95 m ³

3. 単 価 表

(1) 堤冠部保護工(隅石張) 9 m当り単価表

施工歩掛コード					WB332410
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
石 工		人	1.0	表 2.1	
普 通 作 業 員		//	2.6	//	
隅 石	30 cm×30 cm×45 cm	個	30	//	
モ ル タ ル	C = 720 kg/m ³	m ³	0.16	// , (2)単価表	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) モルタル 1 m³当り単価表

施工歩掛コード					WB332420
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
セ メ ン ト		t	0.72	表 2.2	
砂		m ³	0.95	//	
諸 雑 費		式	1		
計					

4. 施工単価入力基準表

(1) 堤冠部保護工(隅石張)

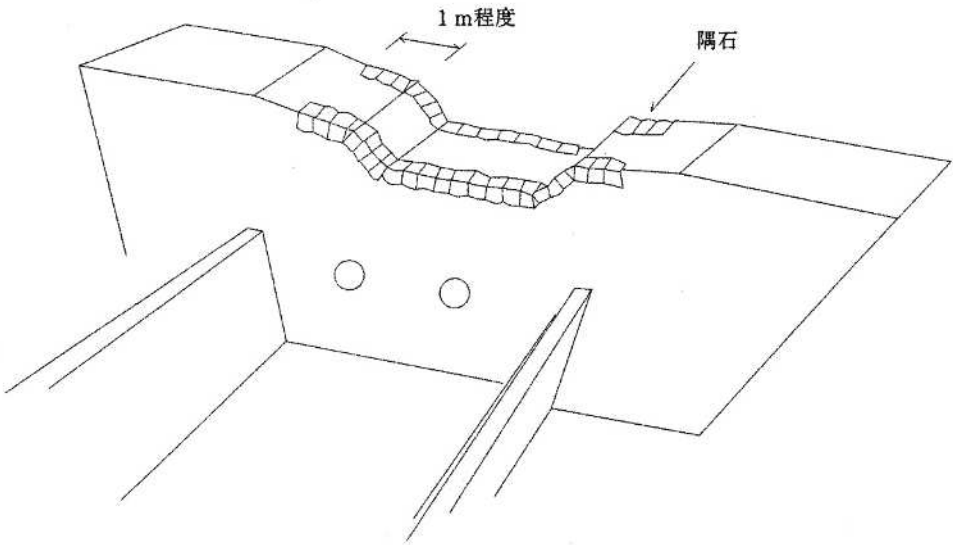
施工歩掛コード	WB332410	施工単位	m
施工区分	入力条件		
各種	J 1		
	セメントの種類 (表 4.1)		

- (注) 1. 隅石 (30 cm×30 cm×45 cm) 単価 (Y-0800005) [円／個]を単価登録すること。
2. J 1 条件で⑤を選択した場合は、セメント (各種) 単価(Y-0200000)[円／t]を単価登録すること。

表4.1 セメントの種類

セメント	入力番号
普通	①
普通 (袋物)	②
高炉 B	③
高炉 B (袋物)	④
各種	⑤

参考図



⑩ 仮 締 切 工

⑩ー1 砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切

1. 適 用 範 囲

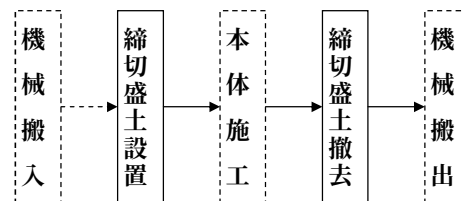
本資料は,砂防工(本堰堤,副堰堤,床固め,帯工,水叩き,側壁,護岸)の施工に伴う仮締切工の現地土砂を用いた砂防土工,土のう積工及び大型土のう工に適用する。

2. 施 工 概 要

施工フローは,下図を標準とする。

(1) 砂防土砂仮締切

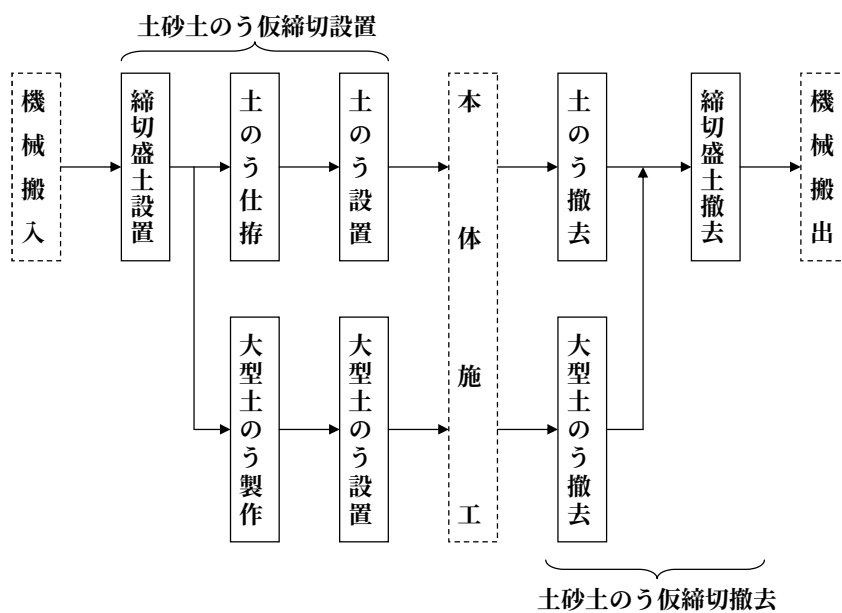
図 2-1 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは,実線部分である。

(2) 砂防土砂土のう仮締切

図 2-2 施工フロー



(注) 本歩掛で対応しているのは,実線部分である。

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

工種	作業半径	機械名	規格	単位	数量	摘要
製作	—	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8 m ³ (平積0.6 m ³) 吊能力2.9t	台	1	
設置 撤去	6m 以下	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.8 m ³ (平積0.6 m ³) 吊能力2.9t	〃	1	
	6m を超え 20m 以下	ラフテレーン クレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 25t 吊	〃	1	

- (注) 1. バックホウ及びラフテレーンクレーンは、賃料とする。
 2. 現場条件により、上表により難い場合は、別途考慮する。
 3. 締切盛土設置・締切盛土撤去については、「第Ⅲ編第3章砂防工①－1土工」の「3－1 掘削(砂防)」による。

4. 施 工 歩 掛

土工は、「第Ⅲ編第3章砂防工①－1土工」の3. 施工パッケージによる。

土のう工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑫－1土のう工」の2. 施工歩掛による。

大型土のう工は、「第Ⅱ編第5章仮設工⑫－2大型土のう工」の4. 施工歩掛による。

5. 単 価 表

(1) 砂防土砂仮締切 100 m³当り単価表

施工歩掛コード	WB331330

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	J 2 条件											
					①						②					
					J 1 条件						J 1 条件					
					①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
積込 (ルーズ) (砂防)		m ³	100	CB330010							○		○	○		○
押土 (ルーズ) (砂防)		〃	100	CB330020								○	○		○	○
掘削 (砂防)	押 土 無 し	〃	100	CB330040	○		○	○		○						
掘削 (砂防)	押 土 有 り	〃	100	CB330040		○	○		○	○						
計																

(2) 砂防土砂土のう仮締切 100 m³当り単価表

施工歩掛コード	WB331340

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	J 2 条件											
					①						②					
					J 1 条件						J 1 条件					
					①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
積込 (ルーズ) (砂防)		m ³	100	CB330010							○	○			○	○
押土 (ルーズ) (砂防)		〃	100	CB330020									○	○	○	○
掘削 (砂防)	押土無し	〃	100	CB330040	○	○			○	○						
掘削 (砂防)	押土有り	〃	100	CB330040			○	○	○	○						
土 の う 積 工		式	1	(3)単価表	○		○		○		○		○		○	
大型土のう工 (製作・設置)		〃	1	(4)単価表 (5)単価表		○		○		○		○		○		○
大型土のう工 (撤 去)		〃	1	(8)単価表												
計																

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	J 2条件											
					①						②					
					J 1条件						J 1条件					
					⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
積込 (ルーズ) (砂防)		m ³	100	CB330010							○	○			○	○
押土 (ルーズ) (砂防)		〃	100	CB330020									○	○	○	○
掘削 (砂防)	押土無し	〃	100	CB330040	○	○			○	○						
掘削 (砂防)	押土有り	〃	100	CB330040			○	○	○	○						
土 の う 積 工		式	1	(3)単価表	○		○		○		○		○		○	
大型土のう工 (製作・設置)		〃	1	(4)単価表 (5)単価表												
大型土のう工 (撤 去)		〃	1	(8)単価表		○		○		○		○		○		○
計																

(3) 土のう積工 10 m³単価表

					施工歩掛コード	WB252620
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要		
土 砂		m ³		第Ⅱ編第5章仮設工⑫-1土のう工の表2.2による。		
土 の う	62×48 cm	袋		〃		
普 通 作 業 員		人		第Ⅱ編第5章仮設工⑫-1土のう工の表2.1による。		
諸 雑 費		式	1			
計						

(4) 大型土のう製作・設置(バックホウ設置) 10 袋当り単価表

施工歩掛コード	WB252730

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	第Ⅱ編第 5 章仮設工⑫-2 大型土のう工 製作・設置歩掛による
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	〃
土 砂		m ³	10	〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	日	10/D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) D:日当り施工量

(5) 大型土のう製作・設置(ラフテレーンクレーン設置) 10 袋当り単価表

施工歩掛コード	WB252730

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	第Ⅱ編第 5 章仮設工⑫-2 大型土のう工 製作・設置歩掛による
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	〃
土 砂		m ³	10	〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	日	10/D	〃 機械賃料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 25 t 吊	〃	10/D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) D:日当り施工量

(6) 大型土のう製作 10 袋当り単価表

施工歩掛コード	WB252730

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10／D	第Ⅱ編第5章仮設工⑫-2 大型土のう工 製作歩掛による
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
大 型 土 の う	容量 1 m ³	袋	10	〃
土 砂		m ³	10	〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	日	10／D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) D：日当り施工量

(7) 大型土のう設置 10 袋当り単価表

施工歩掛コード	WB252730

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10／D	第Ⅱ編第5章仮設工⑫-2 大型土のう工 設置歩掛による
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10／D	〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	日	10／D	〃 機械賃料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 25 t 吊	〃	10／D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) D：日当り施工量

(8) 大型土のう撤去 10 袋当り単価表

施工歩掛コード	WB252730

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10／D	第Ⅱ編第5章仮設工⑫-2 大型土のう工 撤去歩掛による
特 殊 作 業 員		〃	1×10／D	〃
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	日	10／D	〃 機械賃料
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 25 t 吊	〃	10／D	〃 機械賃料
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(注) D：日当り施工量

(9) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・ 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.8 m ³ (平積 0.6 m ³) 吊能力 2.9 t	機-28	【製作・設置】 (バックホウによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量 →98 機械賃料数量→1.39 【製作・設置】 (ラフテレーンクレーンによる設置) 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量 →112 機械賃料数量→1.44 【製作】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量 →112 機械賃料数量→1.44 【設置】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量 →88 機械賃料数量→1.36 【撤去】 運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量 →74 機械賃料数量→1.26

6. 施工単価入力基準表

- (1) 砂防土砂仮締切 [砂防土工 (バックホウの掘削・積込 (山積 0.8 m³ (平積 0.6 m³)) 砂防・ブルドーザの掘削・押土 (15 t 級) 砂防)] [複合]

施工歩掛コード		WB331330		施工単位		m ³			
施工区分		入 力 条 件							
各 種		J 1		J 2		J 3		J 4	
		砂防土砂仮締切 作業内容		土の状態		土質区分		障害の有無	
		(表 6.1)		(表 6.2)		(表 6.3)		(表 6.4)	

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. J 2 条件に①を選択した場合、J 4 条件を入力出来る。
 3. J 3 条件の③は、J 2 条件では②を選択した時に限り選択出来る。

表 6. 1 砂防土砂仮締切作業内容

作 業 内 容		入力番号
締切盛土設置	バックホウ設置	①
	ブルドーザ設置	②
	バックホウ+ブルドーザ設置	③
締切盛土撤去	バックホウ撤去	④
	ブルドーザ撤去	⑤
	バックホウ+ブルドーザ撤去	⑥

表 6. 2 土の状態

土質・岩質	入力番号
地山	①
ルーズ	②

表 6. 3 土質区分

土質・岩質	入力番号
土砂	①
岩塊・玉石	②
破碎岩	③

表 6. 4 障害の有無

現場条件	入力番号
障 害 な し	①
障 害 あ り	②

- (2) 砂防土砂土のう仮締切 [砂防土工 (バックホウ掘削・積込 (山積 0.8 m^3 (平積 0.6 m^3)) 砂防・ブルドーザ掘削・押土 (15 t 級) 砂防), 土のう積工, 大型土のう工] [複合]

施工歩掛コード	WB331340	施工単位	m ³			
施工区分	入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	砂防土砂土のう 仮締切工 作業内容 (表 6.5)	土の状態 (表 6.2)	砂防土工 土質区分 (表 6.3)	砂防土工 障害の有無 (表 6.4)	土のう積工 工種 ①小口並べ ②側面並べ	締切盛土100 ³ m当り 土のうの使用量 (実数入力) (m ² /100 ³ m)

J 7	J 8	J 9
締切盛土 100 m^3 当り 大型土のうの使用量 (実数入力) (袋/ 100 m^3)	袋詰土 区分 ①購入土 ②流用土	設置作業 半径 ① 6 m 以下 ② 6 m を超え 20 m 以下

- (注) 1. 上表の土量は、地山土量である。
 2. J 6 条件の施工数量は、直高×延長の面積を入力する。
 3. J 1 条件の①, ③, ⑤を選択した場合、J 7 条件を入力する必要はない。なお、購入土単価(Y-1613000)[円/ m^3]を単価登録すること。流用土の場合、「0」を登録すること。
 4. J 1 条件の②, ④, ⑥を選択した場合、J 5, J 6 条件を入力する必要はない。なお、大型土のう袋材単価(Y-0561101)[円/袋]を単価登録すること。
 5. J 1 条件の⑦, ⑨, ⑪を選択した場合、J 7 条件を入力する必要はない。
 6. J 1 条件の⑧, ⑩, ⑫を選択した場合、J 5～J 6 は条件入力する必要はない。
 7. J 1 条件の①, ③, ⑤, ⑦～⑫を選択した場合、J 8 条件を入力する必要はない。
 8. J 1 条件の①, ③, ⑤, ⑦, ⑨, ⑪を選択した場合、J 9 条件を入力する必要はない。
 9. J 2 条件に①を選択した場合、J 4 条件を入力出来る。
 10. J 3 条件の③は、J 2 条件では②を選択した時に限り選択出来る。
 11. J 6, J 7 条件の入力数量は、締切盛土 100 m^3 当りに換算した使用量を入力すること。
 12. J 8 条件で①を選択した場合は、大型土のう購入土単価(Y-1613000)[円/ m^3]を単価登録すること。

表6.5 砂防土砂土のう仮締切作業内容

作 業 内 容		入力番号
土 砂 土 の う 締 切 盛 土 置 設	バックホウ設置・土のう積工(仕拵・積立)	①
	バックホウ設置・大型土のう工(製作・設置)	②
	ブルドーザ設置・土のう積工(仕拵・積立)	③
	ブルドーザ設置・大型土のう工(製作・設置)	④
	バックホウ+ブルドーザ設置・土のう積工(仕拵・積立)	⑤
	バックホウ+ブルドーザ設置・大型土のう工(製作・設置)	⑥
土 砂 土 の う 締 切 盛 土 去 撤	バックホウ撤去・土のう積工(撤去)	⑦
	バックホウ撤去・大型土のう工(撤去)	⑧
	ブルドーザ撤去・土のう積工(撤去)	⑨
	ブルドーザ撤去・大型土のう工(撤去)	⑩
	バックホウ+ブルドーザ撤去・土のう積工(撤去)	⑪
	バックホウ+ブルドーザ撤去・大型土のう工(撤去)	⑫

⑩ー2 砂防コンクリート締切

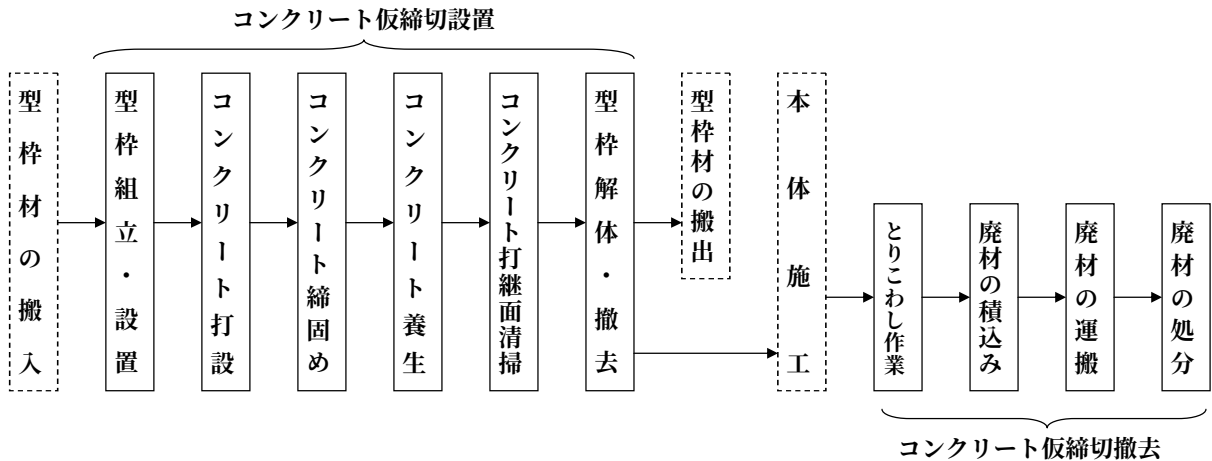
1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴うコンクリート仮締切に適用する。また、コンクリート仮締切撤去については、「第Ⅵ編第2章市場単価⑩構造物とりこわし工」及び「第Ⅱ編第2章共通工②5般運搬」による。

2. 施工概要

施工フローは、下図を標準とする。

図2-1 施工フロー



3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
型枠工 コンクリート打設	ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25t吊	台	1	

（注）現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

表3.2 構造物とりこわし工 規格・仕様区分

区分	規格・仕様	単位	工法選定	摘要
無筋構造物	機械施工	m ³		

（注）大型ブレーカは、機械設置地盤より上下5m以内の作業に適用する。

4. コンクリート投入

コンクリート投入については、「第Ⅲ編第3章砂防工②ー1コンクリート工」8. 砂防コンクリート打設歩掛による。

5. 型枠工

型枠工については、「第Ⅲ編第3章砂防工②ー1コンクリート工」5. 型枠工による。

6. 構造物とりこわし工

構造物とりこわし運搬処分工については、「Ⅵ編第2章市場単価⑩構造物とりこわし工」及び「第Ⅱ編第2章共通工②5般運搬」による。

7. 単 価 表

(1) コンクリート仮締切 100 m³当り単価表

					施工歩掛コード	WB331350		
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	J 1 条件			
					①	②	③	
コンクリート投入		m ³	100	(2)単価表	○		○	
型 枠		式	1	(3)単価表	○		○	
構造物とりこわし(複合)		//	1	(4)単価表		○	○	
計								

(2) 一般部コンクリート打設 100 m³当り単価表

					施工歩掛コード	WB330440
名 称		規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役			人		第Ⅲ編第3章砂防工②-1 コンクリート工 表 8.1 一般部コンクリート打設歩掛による	
特 殊 作 業 員			〃		〃	
普 通 作 業 員			〃		〃	
コ ン ク リ ー ト			m ³		第Ⅲ編第3章砂防工②-1 コンクリート工 4. 材料使用量 式 4.1 材料使用量による	
ラフテレーンクレーン		油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 25 t 吊	日		第Ⅲ編第3章砂防工②-1 コンクリート工 表 8.1 一般部コンクリート打設歩掛による 機械賃料	
雑 工 種	チ ッ ピ ン グ		式	1	〃	
	岩 盤 清 掃		〃	1	〃	
諸 雑 費			〃	1	〃	
計						

(3) 型枠設置・撤去,ケレンはく離剤塗布作業 100 m²当り単価表

					施工歩掛コード	WB330330
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要		
土 木 一 般 世 話 役		人		第Ⅲ編第 3 章砂防工②-1 コンクリート工 表 5.1 木製型枠設置・撤去,ケレンはく離剤 塗布施工歩掛による		
型 わ く 工		//		//		
普 通 作 業 員		//		//		
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 25 t 吊	日		// 機械賃料		
諸 雑 費		式	1	//		
計						

(4) 構造物とりこわし(複合) 1式当り単価表

				施工歩掛コード	WB811840
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
構造物とりこわし		m ³		市場単価	
殻 運 搬		//		CB227010	
処 分 費		//			
計					

8. 施工単価入力基準表

(1) 砂防コンクリート仮締切 [コンクリート投入, 構造物とりこわし (複合)]

施工歩掛コード		WB331350		施工単位		m ³	
施工区分		入 力 条 件					
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	
	砂防 コンクリート 締切作業内容 (表 8.1)	現場 コンクリート プラント使用の有無 ①無 ②有	規格 生 コンクリートの (表 8.2)	割 増額の有無 生 コンクリート ①有 ②無	100 m ³ 当り型枠の数量 (実数入力) (m ² /100 m ³)	締切 コンクリート (表 8.3)	

J 7	J 8	J 9	J 10	J 11	J 12
養生 方法 ①一般養生 ②特殊養生	雑 工 種 (表 8.4)	コン クリ ート 殻 運 搬 処 分 作 業 の 有 無 ①有 ②無	コン クリ ート 殻 D I D 区 間 の 有 無 ①無 ②有	運 搬 距 離 コン クリ ート 殻 (表 8.5)	ラ フ テ レ ン ク レ ン 賃 料 補 正 係 数 ①標準 (1.0) ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. コンクリート構造物の材料補正を含む。

2. 型枠工は, 化粧型枠の有無: 無で固定されており, 条件が異なる場合は適用出来ないので, 第Ⅲ編第3章②-1 コンクリート工の型枠工 (WB330330) で積算すること。
3. 本コードは, ラフテレーンクレーンの低騒音型機種についても適用出来る。また, ラフテレーンクレーンの普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第1次基準値) についても適用出来る。
4. コンクリートプラントを使用する場合はJ 2条件で②を選択する。その場合, J 3及びJ 4条件を入力する必要はない。
5. J 1条件で①を選択した場合は, J 9～J 11 条件を入力する必要はない。
6. J 1条件で②を選択した場合は, J 2～J 7条件を入力する必要はない。
7. J 3条件で①を選択した場合は, 生コンクリート各種単価 (Y-0210000) [円/m³] を単価登録すること。
8. J 5条件の入力数量は, 締切コンクリート 100 m³当りに換算した使用量を入力すること。
9. 施工数量は, 構造物のとりこわし前の体積とする。
10. 構造物とりこわし (複合) は, 構造物区分: 無筋構造物, 工法及び運搬区分: 機械施工+ダンプトラック オンロード・ディーゼル・10 t 積級, 施工規模による加算: 10 m³以上, 時間的制約を受ける場合の補正: 無, 夜間作業補正: 無, 低騒音・低振動対策: 不要, で固定されており, 条件が異なる場合は適用出来ないので, 第Ⅵ編第2章⑩構造物工の構造物とりこわし (複合) (WB811840) で積算すること。
11. J 9条件で①を選択した場合は, 処分費 (Y-7600000) [円/m³] を単価登録すること。
12. J 9条件で②を選択した場合は, J 10～J 11 条件を入力する必要はない。
13. J 12 条件でラフテレーンクレーンの賃料補正 (夜間補正) を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

表8.1 砂防コンクリート締切作業内容

作 業 内 容	番 号
コンクリート締切設置	①
コンクリート締切撤去	②
コンクリート締切設置・撤去	③

表8.2 生コンクリートの規格

規 格	入力番号	規 格	入力番号
18-5-40 (高炉B)	①	21-5-40 (高炉B)	⑨
18-8-40 (")	②	21-5-80 (")	⑩
18-5-80 (")	③	27-5-40 (")	⑪
18-8-80 (")	④	C=300 kg/m ³ -5-40 (")	⑫
19.5-5-40 (")	⑤	C=300 kg/m ³ -5-80 (")	⑬
19.5-8-40 (")	⑥	C=600 kg/m ³ G _{max} =40 (")	⑭
19.5-5-80 (")	⑦	C=600 kg/m ³ G _{max} =80 (")	⑮
19.5-8-80 (")	⑧	生コンクリート各種	⑯

表8.3 作業区分

作 業 区 分	入力番号
50 (m ³ /日) 未満	①
50 (m ³ /日) 以上 150 (m ³ /日) 未満	②

表8.4 雑工種

雑工種	入力番号
チップング・岩盤清掃	①
チップング	②
岩盤清掃	③
無し	④

表8.5 運搬距離

般発生作業	コンクリート（無筋・鉄筋）構造物とりこわし				
積込工法区分	機械積込				
D I D区間：無し					
運搬距離(km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離(km)	3.0 以下	4.0 以下	5.5 以下	6.5 以下	7.5 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離(km)	9.5 以下	11.5 以下	15.5 以下	22.5 以下	49.5 以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離(km)	60.0 以下				
入力番号	⑯				
D I D区間：有り					
運搬距離(km)	0.3 以下	0.5 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下
入力番号	①	②	③	④	⑤
運搬距離(km)	3.0 以下	3.5 以下	5.0 以下	6.0 以下	7.0 以下
入力番号	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
運搬距離(km)	8.5 以下	11.0 以下	14.0 以下	19.5 以下	31.5 以下
入力番号	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
運搬距離(km)	60.0 以下				
入力番号	⑯				

(注) 運搬距離は片道であり，往路と復路が異なる時は，平均値とする。

⑪ 鋼製砂防工

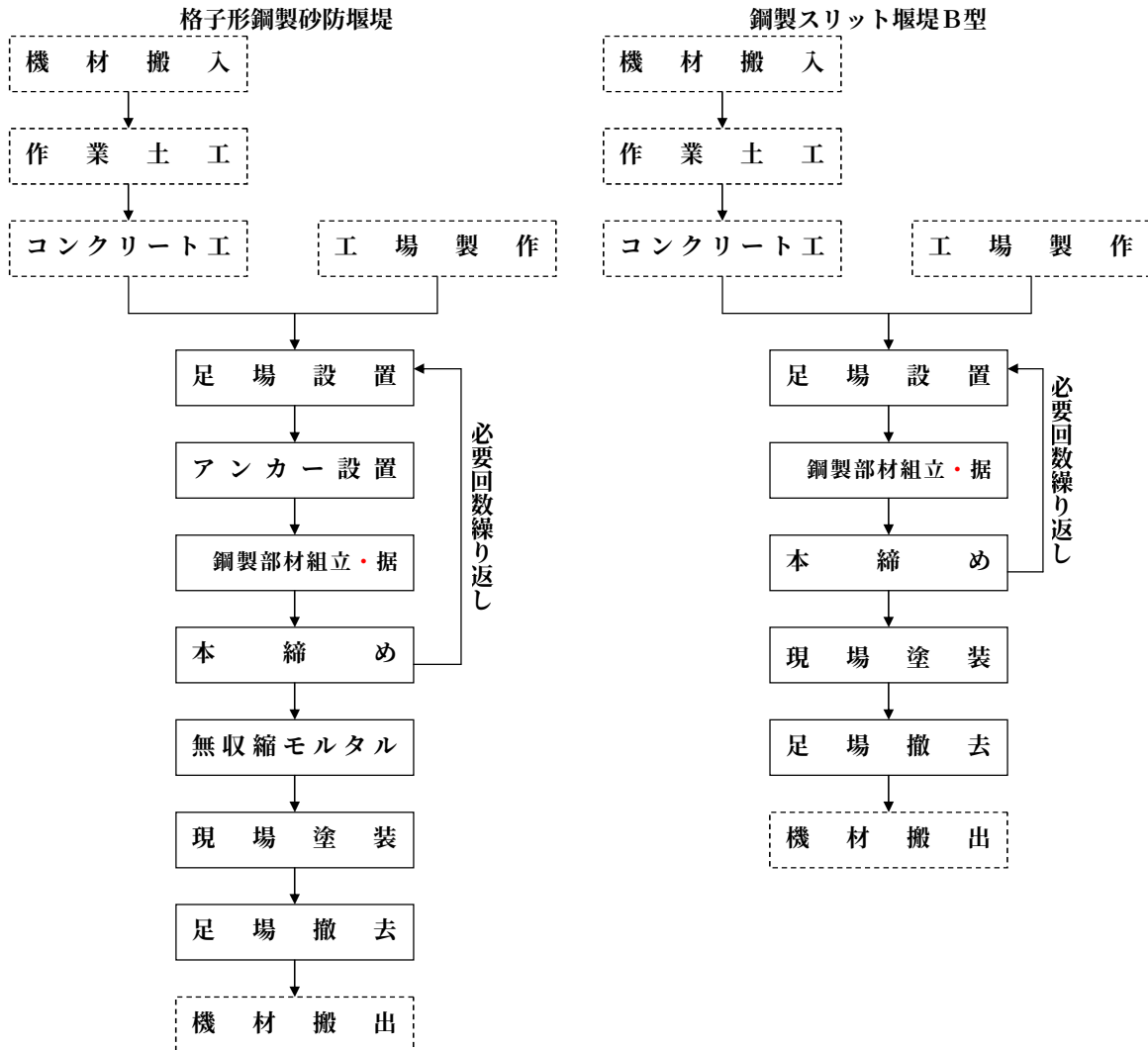
1. 適用範囲

本資料は、鋼製砂防工の透過型のうち、格子形鋼製砂防堰堤、鋼製スリット堰堤B型を施工する場合に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

2. 鋼製部材組立・据付けは、地組、仮締めを含む。

3. 機種の選定

鋼製部材の組立・据付け作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	台	1	

(注) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。

4. 施 工 歩 掛

4-1 鋼製部材組立・据付け工

鋼製部材の組立・据付け歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 組立・据付け歩掛

鋼製砂防形式	1日当り組立・据付け質量 Dw(t/日)	編成人員		使用機種	諸雑費率 (%)
格子形 鋼製砂防堰堤	$Dw = \frac{W}{0.11W + 3.76}$	土木一般世話役 特 殊 作 業 員 普 通 作 業 員 と び 工	1 1 1 2	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊 1台	27
鋼製 スリット堰堤B型	$Dw = \frac{W}{0.09W + 2.92}$	土木一般世話役 特 殊 作 業 員 普 通 作 業 員 と び 工	1 1 1 2	ラフテレーンクレーン 油圧伸縮ジブ型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 25t吊 1台	26

W：組立・据付け総質量 単位(t)

- (注) 1. 本歩掛は、組立・据付けに伴う地組、仮締め、足場設置・撤去を含む。本締め工は含まない。
2. 組立・据付け質量は、アンカーボルト、ボルト・ナット、ワッシャを除く鋼製部材の総質量とする。
3. 諸雑費は、電力に関する経費、組立工具の損料、ドリフトピン、仮締めボルトの費用及び足場損料(安全ネットを含む)等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 日当り施工量Dwは小数第2位を四捨五入し、第1位までとする。

4-2 鋼製砂防材料費

鋼製砂防堰堤材料費、鋼製スリット堰堤材料費は、一般管理費等のみ対象とする。

4-3 本締め工

本締め工歩掛は、次表を標準とする。

表4.2 本締め工歩掛

鋼製砂防形式	1日当り施工量 Dq(本/日)	1日当り編成人員 (人/日)		諸雑費率 (%)
格子形 鋼製砂防堰堤	$Dq = \frac{Q}{0.5Q/1,000 + 1.09}$	土木一般世話役 特 殊 作 業 員	1 3	22
鋼製 スリット堰堤B型	$Dq = \frac{Q}{1.3Q/1,000 + 0.6}$	土木一般世話役 特 殊 作 業 員	1 2	25

Q：本締めボルト総本数(本) (高力ボルト+トルシア型ボルト)

- (注) 1. 本歩掛は、組立・据付けの際の本締め工に適用する。
2. 諸雑費は、電力に関する経費、組立工具の損料等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
3. 日当り施工量Dqは小数1位を四捨五入し、整数止めとする。

4-4 アンカー工

アンカー工は、格子形鋼製砂防堰堤の組立・据付時に柱脚部を固定するためのアンカーボルトの施工であり、施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.3 アンカー工歩掛 (1日当り)

1日当り施工量 Dq(本/日)	1日当り編成人員 (人/日)	諸雑費率 (%)
$Dq = \frac{Q}{0.02Q + 0.22}$	土木一般世話役 特 殊 作 業 員 普 通 作 業 員	1 2 1
		13

Q：アンカーボルト総本数(本)

(注)1. 本歩掛は、格子形鋼製砂防堰堤のアンカーボルトの施工に適用する。

2. 本歩掛には、ベースプレート下面のレベル調整用の無収縮モルタルの施工労務費を含む。

3. 無収縮モルタル材料は、別途計上する。

4. 諸雑費は、電力に関する経費、削孔機具及びグラウトミキサの損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 日当り施工量Dqは小数1位を四捨五入し、整数止めとする。

4-5 現場塗装工(はけ塗り)

現場塗装工(はけ塗り)は、トルシアボルト頭部を含む、全ての外面に対する中塗り及び上塗り塗装であり、次表を標準とする。

表4.4 現場塗装工(はけ塗り)歩掛 (100㎡当り)

名 称	単位	格子形鋼製砂防堰堤	鋼製スリット堰堤B型
塗 装 工	人	2.9	3.2
諸 雑 費 率	%	1	2

(注)1. 本歩掛は、塗装対象面積に対して中塗り、上塗りの2層の塗装(清掃及びタッチアップ作業を含む)を実施する場合の歩掛である。

2. 塗料や希釈材等の材料は別途計上するものとし、使用数量は「鋼道路橋塗装便覧」によるものとする。

3. 諸雑費は、はけ、ハンドミキサの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 単 価 表

(1) 組立・据付け工, 鋼材質量 10 t 当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤B型)

			施工歩掛コード	WB332500
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	10/Dw×1	表 4.1
特 殊 作 業 員		〃	10/Dw×1	〃
普 通 作 業 員		〃	10/Dw×1	〃
と び 工		〃	10/Dw×2	〃
ラフテレーンクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値) 25 t 吊	日	10/Dw	表 4.1 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 4.1
計				

(注) Dw: 1 日当り組立・据付け質量(表 4.1)

(2) 本締め工 100 本当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤B型)

			施工歩掛コード	WB332510
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	100/Dq×1 (1)	表 4.2
特 殊 作 業 員		〃	100/Dq×3 (2)	〃
本 締 め ボ ル ト		本	100	
諸 雑 費		式	1	表 4.2
計				

(注) 1. Dq: 1 日当りのボルト取付け本数 (表 4.2)

2. () は鋼製スリット堰堤B型の場合に適用する。

(3) アンカー工 100 本当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤)

			施工歩掛コード	WB332520
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	100/Dq×1	表 4.3
特 殊 作 業 員		〃	100/Dq×2	〃
普 通 作 業 員		〃	100/Dq×1	〃
ア ン カ ー ボ ル ト		本	100	
無 収 縮 モ ル タ ル		m ³		必要数量を別途計上
諸 雑 費		式	1	表 4.3
計				

(注) 1. Dq: 1 日当りのボルト取付け本数 (表 4.3)

(4) 現場塗装工 (はけ塗り) 100 m²当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤B型)

			施工歩掛コード	WB332530
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
塗 装 工		人		表 4.4
塗 料		kg		必要数量を別途計上
塗 料 用 シ ン ナ ー		ℓ		〃
諸 雑 費		式	1	表 4.4
計				

6. 施工単価入力基準表

(1) 組立・据付け工(格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤B型)

施工歩掛コード	WB332500	施工単位	t
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	鋼製砂防形式 ①格子形 鋼製砂防堰堤 ②鋼製スリット堰堤 B型	組立・据付総重量 (W) (実数入力) (t)	ラフテレーンクレーン 賃料補正係数 ①標準(1.0) ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. 架設に伴う仮締めは含むが、本締め工は含まない。

2. ラフテレーンクレーンの賃料補正(夜間作業)を行った場合は、労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは、ラフテレーンクレーンの排出ガス対策型(第1次基準値)、及び低騒音型機種についても適用出来る。

(2) 本締め工

施工歩掛コード	WB332510	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	鋼製砂防形式	本締めボルト	
	①格子形 鋼製砂防堰堤 ②鋼製スリット堰堤 B型	総本数 (Q) (実数入力) (本)	

(注) 1. 組立・据付けの際の本締め工に適用する。

2. 本締めボルト単価(Y-0119000) [円/本] を単価登録すること。

(3) アンカー工

施工歩掛コード	WB332520	施工単位	本
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	アンカーボルト 総本数 (Q) (実数入力) (本)	100 本当り無収縮 モルタル必要量 (m ³ /100 本) (実数入力)	

(注) 1. 格子形鋼製砂防堰堤のアンカーボルトの施工に適用する。

2. 無収縮モルタル材料単価(Y-0223000) [円/ m^3] を単価登録すること。

3. アンカーボルト単価(Y-0112102) [円/本] を単価登録すること。

(4) 現場塗装工(はけ塗り)

施工歩掛コード		WB332530		施工単位		㎡			
施工区分		入 力 条 件							
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	
	鋼製砂防 形 式	中塗塗装 種 別	上塗塗装 種 別	中塗塗装 使 用 量	上塗塗装 使 用 量	中塗希釈剤 使 用 量	上塗希釈剤 使 用 量	色彩	
	①格子形鋼製 砂防堰堤							①赤系 ②青・緑系 ③黄・オレンジ系 ④中彩A ⑤中彩B	
	②鋼製スリット 堰堤B型	(表 6.1)	(表 6.2)	(実数入力) (kg／100㎡)	(実数入力) (kg／100㎡)	(実数入力) (ℓ／100㎡)	(実数入力) (ℓ／100㎡)	⑥淡彩 ⑦白	

- (注) 1. J 2 条件で①, ②, ③, ④を選択した場合は, J 4 条件を入力する必要はない。
 2. J 2 条件で⑤を選択した場合は, J 4 条件を入力すること。
 3. J 2 条件で③, ④, ⑤を選択した場合は, J 6 条件を入力すること。また, 塗装単価 (Y-0500000) [円/ kg], 希釈剤単価 (Y-0501000) [円/ℓ] を単価登録すること。
 4. J 2 条件で③を選択した場合は, J 8 条件は⑥で固定される。
 5. J 3 条件で①, ②, ③, ④を選択した場合は, J 5 を入力する必要はない。
 6. J 3 条件で⑤を選択した場合は, J 5 条件を入力すること。
 7. J 3 条件で③, ④, ⑤を選択した場合は, J 7 条件を入力すること。また, 塗装単価 (Y-0500000) [円/ kg], 希釈剤単価 (Y-0501000) [円/ℓ] を単価登録すること。
 8. J 3 条件で③を選択した場合は, J 8 条件は⑥で固定される。
 9. 本歩掛は, 塗装対象面積に対して中塗り, 上塗りの2層の塗装(清掃及びタッチアップ作業を含む)を実施する場合の歩掛である。

表 6. 1 中塗塗装種別

塗料種類	標準塗装使用量	入力番号
塩化ゴム系樹脂塗料	170 g/m ²	①
ポリウレタン樹脂塗料	140 g/m ²	②
シリコンアルキド樹脂塗料	120 g/m ²	③
ふっ素樹脂塗料	140 g/m ²	④
各 種		⑤

表 6. 2 上塗塗装種別

塗料種類	標準塗装使用量	入力番号
塩化ゴム系樹脂塗料	150 g/m ²	①
ポリウレタン樹脂塗料	120 g/m ²	②
シリコンアルキド樹脂塗料	110 g/m ²	③
ふっ素樹脂塗料	120 g/m ²	④
各 種		⑤

⑫ 砂防ソイルセメント工

1. 適用範囲

本資料は、砂防工(本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸)の基礎及び中詰において施工位置周辺ヤードにて現地発生土とセメントをバックホウにて攪拌混合し、運搬、敷均し、締固めを行い、構造物を構築する砂防ソイルセメント工の施工に適用する。

1-1 適用出来る範囲

1-1-1 粒径処理

(1) 対象土質が、砂質土及びレキ質土の場合

1-1-2 攪拌混合

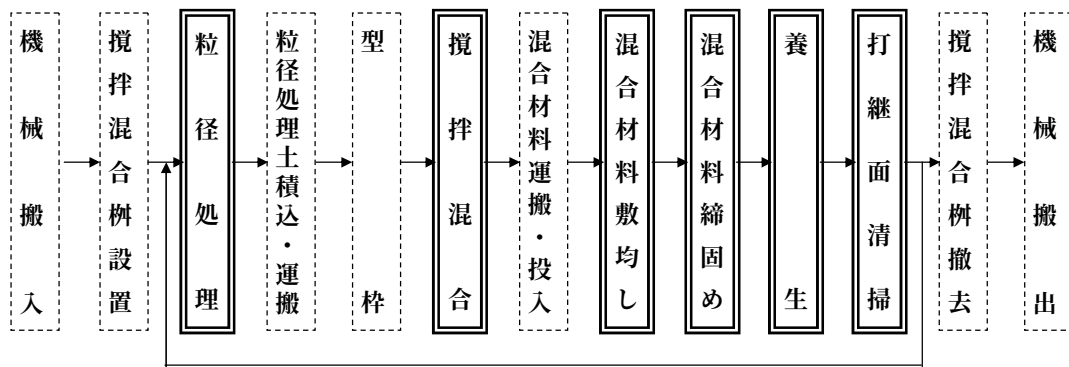
(1) セメントの使用量が、25.5t/100m³ 以下の場合

1-1-3 混合材料敷均し・締固め

(1) 現地発生土とセメントの混合材料を敷均し、締固める場合

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。

2. 混合材料敷均し・締固めはシート養生の有無によらず適用出来る。

3. 施工パッケージ

3-1 粒径処理

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 粒径処理 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

粒径処理率 (%)
40 を超え 45 以下
45 を超え 50 以下
50 を超え 60 以下
60 を超え 80 以下
80 を超え 100 以下

(注) 1. 上表は、砂防ソイルセメント工におけるバックホウ（スケルトンバケット付）を使用した骨材の最大寸法以上の土砂をふるい分ける作業の他、スケルトンバケットの損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。

2. 土量は、粒径処理後の土量（ほぐし土量）である。

3. 粒径処理率は次式による。

$$\text{粒径処理率}(\%) = (\text{粒径処理後土量}) / (\text{粒径処理前土量})$$

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.2 粒径処理 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	運転手（特殊）	
	R 3	普通作業員	
	R 4	—	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-2 粒径処理土積込

粒径処理土の積込みは、「第Ⅲ編第3章砂防工①土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3-3 粒径処理土運搬

粒径処理土の運搬は、「第Ⅲ編第3章砂防工①土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3-4 攪拌混合

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.3 攪拌混合 積算条件区分一覧

(積算単位：m³)

セメント 100m ³ 当り使用量
0.4t/100m ³ 以下
0.4t/100m ³ を超え 0.8t/100m ³ 以下
0.8t/100m ³ を超え 1.2t/100m ³ 以下
1.2t/100m ³ を超え 1.6t/100m ³ 以下
1.6t/100m ³ を超え 2.0t/100m ³ 以下
2.0t/100m ³ を超え 2.5t/100m ³ 以下
2.5t/100m ³ を超え 3.0t/100m ³ 以下
3.0t/100m ³ を超え 3.5t/100m ³ 以下
3.5t/100m ³ を超え 4.1t/100m ³ 以下
4.1t/100m ³ を超え 4.6t/100m ³ 以下
4.6t/100m ³ を超え 5.2t/100m ³ 以下
5.2t/100m ³ を超え 5.8t/100m ³ 以下
5.8t/100m ³ を超え 6.5t/100m ³ 以下
6.5t/100m ³ を超え 7.2t/100m ³ 以下
7.2t/100m ³ を超え 7.9t/100m ³ 以下
7.9t/100m ³ を超え 8.7t/100m ³ 以下
8.7t/100m ³ を超え 9.5t/100m ³ 以下
9.5t/100m ³ を超え 10.4t/100m ³ 以下
10.4t/100m ³ を超え 11.3t/100m ³ 以下
11.3t/100m ³ を超え 12.3t/100m ³ 以下
12.3t/100m ³ を超え 13.3t/100m ³ 以下
13.3t/100m ³ を超え 14.4t/100m ³ 以下
14.4t/100m ³ を超え 15.5t/100m ³ 以下
15.5t/100m ³ を超え 16.7t/100m ³ 以下
16.7t/100m ³ を超え 18.0t/100m ³ 以下
18.0t/100m ³ を超え 19.3t/100m ³ 以下
19.3t/100m ³ を超え 20.7t/100m ³ 以下
20.7t/100m ³ を超え 22.2t/100m ³ 以下
22.2t/100m ³ を超え 23.8t/100m ³ 以下
23.8t/100m ³ を超え 25.5t/100m ³ 以下

- (注) 1. 上表は、砂防ソイルセメント工における、粒径処理土投入、セメント投入、攪拌混合、混合材料積込の他、用水及び電力に関する経費等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 土量は、締固め状態における土量である。
3. セメントの材料ロスを含む。（標準ロス率は、+0.06）
4. 積算条件区分のセメント 100m³ 当り使用量は、材料ロスを含まない数量とする。
5. セメント袋に関する費用（材料費、充填費）は、必要に応じて別途計上する。
6. セメント袋に関する費用（処分費）は、必要に応じて別途計上する。
7. セメントサイロが必要な場合は、別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 攪拌混合 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ(クローラ型)〔標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値)〕 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t	
	K 2	—	
	K 3	—	
労務	R 1	土木一般世話役	
	R 2	特殊作業員	
	R 3	運転手(特殊)	
	R 4	普通作業員	
材料	Z 1	セメント 高炉 B	
	Z 2	軽油 1.2号 パトロール給油	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

3-5 混合材料運搬

混合材料の運搬は、「第Ⅲ編第3章砂防工①土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3-6 混合材料投入

混合材料の投入は、「第Ⅲ編第3章砂防工①土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

3-7 混合材料敷均し・締固め

(1) 条件区分

混合材料敷均し・締固めにおける積算条件区分はない。

積算単位は、m³とする。

- (注) 1. 砂防ソイルセメント工における混合材料の敷均し、締固め、シート養生、打継面処理の他、タンパ及びランマの運転経費及び養生の材料費、打継面処理の労務に関する費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費（損料等を含む）を含む。
2. 土量は、締固め後の土量である。
3. シート養生の有無によらず適用出来る。
4. 養生はシート養生を標準とするが、これにより難しい場合は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。
5. 打継面処理は、打継面の清掃のみを標準とし、セメントの散布が必要な場合は、材料費を別途計上する。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.5 混合材料敷均し・締固め 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K 1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）	賃料
	K 2	振動ローラ（舗装用）〔搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 運転質量 3～4t	賃料
	K 3	—	
労務	R 1	運転手（特殊）	
	R 2	普通作業員	
	R 3	土木一般世話役	
	R 4	特殊作業員	
材料	Z 1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z 2	—	
	Z 3	—	
	Z 4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) 粒径処理

パッケージコード	CB332610	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	粒径処理率 (%)		
	(表 4.1)		

- (注) 1. 上表の土量は、粒径処理後の土量（ほぐし土量）である。
 2. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

表 4. 1 粒径処理率

粒径処理率 (%)	入力番号
40 を超え 45 以下	①
45 を超え 50 以下	②
50 を超え 60 以下	③
60 を超え 80 以下	④
80 を超え 100 以下	⑤

(2) 攪拌混合

パッケージコード	CB332620	施 工 単 位	m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	セメント 100m3 当り使用量 (t/100m3)		
	(表 4.2)		

- (注) 1. 上表の土量は、締固め状態における土量である。
 2. 本コードは、セメントの材料ロスを含んでいるため、J 1 条件は、ロス率を含まない数量を選択すること。
 3. セメント単価 (Y-0200000) [円/t] を単価登録すること。
 4. セメント袋に関する費用（材料費、充填費）は、必要に応じて別途計上する。
 5. セメント袋に関する費用（処分費）は、必要に応じて処分費 (Y-7600001) [円/t] を別途計上する。
 6. セメントサイロが必要な場合は、別途計上する。
 7. 本コードは、バックホウ（クレーン機能付）の低騒音型機種についても適用出来る。

表4.2 セメント100m³ 当り使用量

セメント 100m ³ 当り使用量	入力番号	セメント 100m ³ 当り使用量	入力番号
0.4t/100m ³ 以下	①	7.9t/100m ³ を超え 8.7t/100m ³ 以下	⑩
0.4t/100m ³ を超え 0.8t/100m ³ 以下	②	8.7t/100m ³ を超え 9.5t/100m ³ 以下	⑪
0.8t/100m ³ を超え 1.2t/100m ³ 以下	③	9.5t/100m ³ を超え 10.4t/100m ³ 以下	⑫
1.2t/100m ³ を超え 1.6t/100m ³ 以下	④	10.4t/100m ³ を超え 11.3t/100m ³ 以下	⑬
1.6t/100m ³ を超え 2.0t/100m ³ 以下	⑤	11.3t/100m ³ を超え 12.3t/100m ³ 以下	⑭
2.0t/100m ³ を超え 2.5t/100m ³ 以下	⑥	12.3t/100m ³ を超え 13.3t/100m ³ 以下	⑮
2.5t/100m ³ を超え 3.0t/100m ³ 以下	⑦	13.3t/100m ³ を超え 14.4t/100m ³ 以下	⑯
3.0t/100m ³ を超え 3.5t/100m ³ 以下	⑧	14.4t/100m ³ を超え 15.5t/100m ³ 以下	⑰
3.5t/100m ³ を超え 4.1t/100m ³ 以下	⑨	15.5t/100m ³ を超え 16.7t/100m ³ 以下	⑱
4.1t/100m ³ を超え 4.6t/100m ³ 以下	⑩	16.7t/100m ³ を超え 18.0t/100m ³ 以下	⑲
4.6t/100m ³ を超え 5.2t/100m ³ 以下	⑪	18.0t/100m ³ を超え 19.3t/100m ³ 以下	⑳
5.2t/100m ³ を超え 5.8t/100m ³ 以下	⑫	19.3t/100m ³ を超え 20.7t/100m ³ 以下	㉑
5.8t/100m ³ を超え 6.5t/100m ³ 以下	⑬	20.7t/100m ³ を超え 22.2t/100m ³ 以下	㉒
6.5t/100m ³ を超え 7.2t/100m ³ 以下	⑭	22.2t/100m ³ を超え 23.8t/100m ³ 以下	㉓
7.2t/100m ³ を超え 7.9t/100m ³ 以下	⑮	23.8t/100m ³ を超え 25.5t/100m ³ 以下	㉔

(3) 混合材料数均し・締固め

パッケージコード	CB332630	施工単位	m ³

- (注) 1. 上表の土量は、締固め後の土量である。
2. 打継面処理で、セメント散布が必要な場合は、材料費を別途計上する。
3. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。
また、バックホウの普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。
4. 本コードは、振動ローラ（舗装用）の低騒音型機種についても適用出来る。
また、振動ローラ（舗装用）の普通型機種（排出ガス未対策型）についても適用出来る。

第4章 地すべり防止工

① 地すべり防止工	Ⅲ-4-①- 1	1 適用範囲	Ⅲ-4-①-41
①-1 集水井工(ライナープレート土留工法)	Ⅲ-4-①- 1	2 施工概要	Ⅲ-4-①-41
1 適用範囲	Ⅲ-4-①- 1	3 機種の選定	Ⅲ-4-①-41
2 施工概要	Ⅲ-4-①- 1	4 施工歩掛	Ⅲ-4-①-41
3 工法の選定	Ⅲ-4-①- 1	5 材料使用量	Ⅲ-4-①-42
4 施工歩掛	Ⅲ-4-①- 2	6 単価表	Ⅲ-4-①-42
5 内訳書及び単価表	Ⅲ-4-①- 6	7 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-43
6 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①- 9	①-6 地すべり防止工(じゃかご)	Ⅲ-4-①-44
①-2 集水井工(プレキャスト土留工法)	Ⅲ-4-①-10	1 適用範囲	Ⅲ-4-①-44
1 適用範囲	Ⅲ-4-①-10	2 施工概要	Ⅲ-4-①-44
2 施工概要	Ⅲ-4-①-10	3 機種の選定	Ⅲ-4-①-44
3 土留掘削作業	Ⅲ-4-①-10	4 施工歩掛	Ⅲ-4-①-45
4 底版コンクリート工	Ⅲ-4-①-11	5 材料使用数量	Ⅲ-4-①-45
5 昇降用設備設置工	Ⅲ-4-①-11	6 単価表	Ⅲ-4-①-46
6 井戸蓋工	Ⅲ-4-①-12	7 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-47
7 内訳書及び単価表	Ⅲ-4-①-13	①-6 集排水ボーリング孔洗浄工	Ⅲ-4-①-48
8 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-15	1 適用範囲	Ⅲ-4-①-48
①-3 地すべり防止工(集排水ボーリング工)	Ⅲ-4-①-16	2 施工概要	Ⅲ-4-①-48
1 適用範囲	Ⅲ-4-①-16	3 機種の選定	Ⅲ-4-①-48
2 施工概要	Ⅲ-4-①-16	4 施工歩掛	Ⅲ-4-①-49
3 施工パッケージ	Ⅲ-4-①-17	5 集水井内足場工	Ⅲ-4-①-49
4 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-22	6 単価表	Ⅲ-4-①-50
①-4 地すべり防止工(山腹水路工)	Ⅲ-4-①-24	7 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-50
1 適用範囲	Ⅲ-4-①-24		
2 施工概要	Ⅲ-4-①-24		
3 機種の選定	Ⅲ-4-①-25		
4 編成人員	Ⅲ-4-①-25		
5 施工歩掛	Ⅲ-4-①-25		
6 材料使用数量	Ⅲ-4-①-30		
7 単価表	Ⅲ-4-①-31		
8 参考図	Ⅲ-4-①-35		
9 施工単価入力基準表	Ⅲ-4-①-36		
①-5 地すべり防止工(ふとんかご)	Ⅲ-4-①-41		

第4章 地すべり防止工

① 地すべり防止工

①-1 集水井工^{しゅうすいせい} (ライナープレート土留工法)

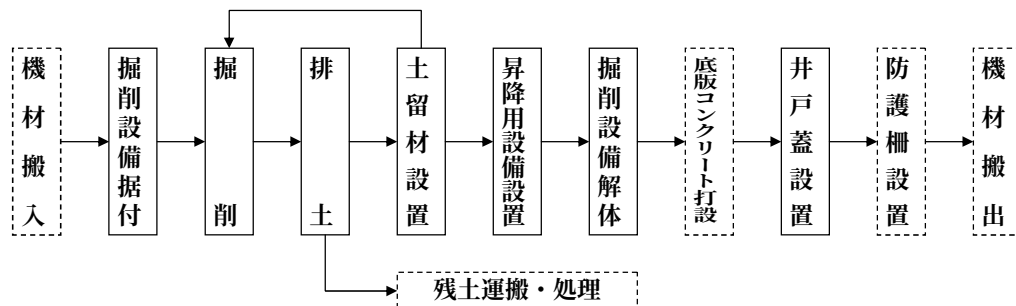
1. 適用範囲

本資料は、人力併用機械掘削、ライナープレート土留工法の人力併用機械掘削による径 3.5m で掘削深 40m 以下の集水井工に適用する。

なお、径はライナープレートの公称径(ボルト穴間の径)とする。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

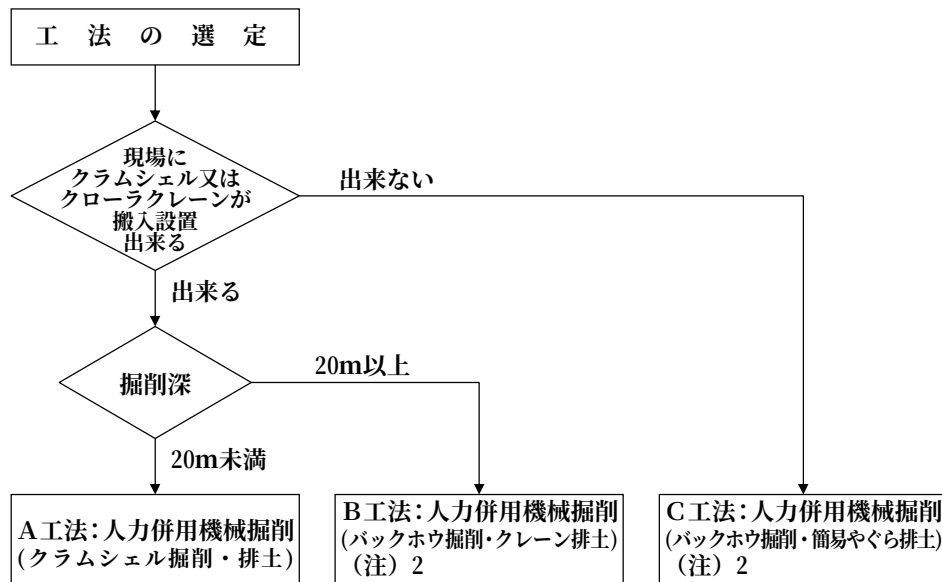


(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

3. 工法の選定

工法の選定は図3-1を標準とする。



(注) 1. 現場条件等により上図により難しい場合は、別途考慮する。

2. 全掘削深をB工法又はC工法で施工する。

図3-1 工法の選定

4. 施 工 歩 掛

4－1 土留掘削作業

(1) 機種の選定

掘削土留作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表4.1 機種選定の選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量	工 法			摘 要
					A	B	C	
掘削及び排土	クラムシェル	油圧クラムシェル・ テレスコピック式 平積 0.4 m ³	台	1	○			
排土及び土留材・機材の吊込み	クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 4.9 t 吊	〃	1	○	○		
	やぐら装置	簡易やぐら(モータウインチ付) 能力 2.0 t 鋼製φ60.5×4.0m	〃	1			○	
掘 削	小型バックホウ(クローラ型)	電動式 山積 0.022 m ³ (平積 0.015 m ³)	〃	1		○	○	

- (注) 1. 上表の機械は、掘削土を集水井の井戸脇に仮置きする場合である。
2. クラムシェル及びクローラクレーンは、賃料とする。
3. 上表により難しい場合は別途考慮する。

(2) 土留材

土留材は、ライナープレートとし、使用規格は、土圧計算等によって決定する。

(3) 編成人員

掘削土留作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.2 日当り編成人員 (人)

A・B・C工法	土木一般世話役	トンネル特殊工	特殊作業員	普通作業員
	1	3	1	1

(4) 集水井1基当り施工日数

掘削土留作業1基当り施工歩掛は次式とする。なお、土留材(ライナープレート、補強材等)及び工事用昇降梯子、安全ネットの取付けを含む歩掛である。

$$D = \frac{\ell_1}{d_1} + \frac{\ell_2}{d_2} \quad \cdots \cdots \text{式 4.1}$$

D：集水井1基当り施工日数(日／基)

d₁：砂・砂質土、粘性土、レキ質土の掘削日当り施工量(d n)(m／日) ……表 4.3

d₂：岩塊・玉石混じり土、軟岩、中硬岩の掘削日当り施工量(d n)(m／日) ……表 4.3

ℓ₁：砂・砂質土、粘性土、レキ質土の掘削延長(m)

ℓ₂：岩塊・玉石混じり土、軟岩、中硬岩の掘削延長(m)

(注) 岩掘削で火薬類等を使用する場合は、別途考慮する。

1) 掘削日当り施工量 (d_n)

掘削日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.3 掘削日当り施工量 d_n (m/日)

工法	土質	掘削深(m)			
		10未満	10以上～ 20未満	20以上～ 30未満	30以上～ 40以下
A工法	砂・砂質土, 粘性土, レキ質土 (d_1)	2.55	2.30	—	
	岩塊・玉石混じり土, 軟岩, 中硬岩 (d_2)	1.55	1.38	—	
B工法	砂・砂質土, 粘性土, レキ質土 (d_1)	—		1.10	0.99
	岩塊・玉石混じり土, 軟岩, 中硬岩 (d_2)	—		0.66	0.59
C工法	砂・砂質土, 粘性土, レキ質土 (d_1)	1.54	1.26	0.99	0.72
	岩塊・玉石混じり土, 軟岩, 中硬岩 (d_2)	0.92	0.76	0.59	0.43

(注) 日掘削量の算出における掘削深は、全土質の総掘削延長とする。

(5) 諸雑費

諸雑費は、軸流ファン、工事用水中モータポンプ、ピックハンマ、コンクリートブレーカ、空気圧縮機[排出ガス対策型(第1次基準値)]の機械損料・運転経費及び排土バケット、工事用昇降梯子、安全ネット、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、工事用水中モータポンプの有無に関係なく同率とする。

表4.4 諸雑費率 (%)

諸 雑 費 率	14

4-2 コンクリート工

底版コンクリート及び固定基礎コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

4-3 井戸蓋工

(1) 機種を選定

井戸蓋工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表4.5 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9t吊	台	1	

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

(2) 編成人員

井戸蓋工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.6 日当り編成人員 (人/日)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

(3) 日当り施工量

井戸蓋工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.7 日当り施工量 (基/日)

作業種別	数量
井戸蓋設置	4.5

(注) コンクリート製蓋及び鉄網製蓋に適用する。

4-4 昇降用設備設置工

(1) 機種の選定

昇降用設備設置工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表4.8 機種の選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9t吊	台	1	

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

(2) 編成人員

昇降用設備設置工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.9 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

(3) 日当り施工量

昇降用設備設置工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.10 日当り施工量 (1日当り)

作業種別	単位	数量
昇降用設備設置	m	18

(注) 螺旋型梯子及び直梯子に適用する。

(4) 諸雑費

諸雑費は、軸流ファンの運転経費、電力に関する経費等の費用であり、労務費、機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表4.11 諸雑费率 (%)

諸雑费率	
	5

4-5 掘削作業設備の据付・解体

(1) 機種の選定

やぐら装置の据付・解体に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表4.12 機種の選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
トラック	[クレーン装置付]ベーストラック2t級 吊能力2.9t	台	1	

(2) 編成人員

やぐら装置の据付け・解体作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.13 日当り編成人員 (人／日)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

(3) 日当り施工量

やぐら装置の据付け・解体の日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.14 日当り施工量 (1日当り)

作 業 種 別	単 位	数 量
やぐら装置の据付け・解体	基	1.7

5. 内 訳 書 及 び 単 価 表

(1) 集水井(ライナープレート土留壁) 1基当り内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
掘 削 土 留		基	1	単価表(2)
底版コンクリート工		m ³		第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工により別途計上
井 戸 蓋 工		基	1	単価表(4)
昇降用設備設置工		m		〃 (5)
掘削作業設備据付・解体工	やぐら装置	式	1	※C工法のみ計上 単価表(6)
土 留 材	ライナープレート, 補強材等	基		単価表(3)
昇降用設備材		式	1	WB020022により計上
計				

(2) 掘削土留1基当り単価表

				施工歩掛コード	WB340010
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1×D	表4.2, 式4.1, 表4.3	
ト ン ネ ル 特 殊 工		〃	3×D	〃	
特 殊 作 業 員		〃	1×D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃	
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧クラムシェル・テレスコピック式 平積0.4 m ³	日	D	式4.1 ※A工法のみ計上 機械賃料	
ク ロ ー ラ ク レ ー ン 運 転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9 t吊	〃	D	式4.1 ※A・B工法のみ計上 機械賃料	
小 型 バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) 運 転	電動式 山積0.022 m ³ (平積0.015 m ³)	〃	D	式4.1 ※B・C工法のみ計上 機械損料	
や ぐ ら 装 置 運 転	簡易やぐら(モータウィンチ付) 能力2.0 t 鋼製φ60.5×4.0m	〃	D	式4.1 ※C工法のみ計上 機械損料	
諸 雑 費		式	1	表4.4	
計					

(注) D: 集水井1基当り施工日数(日/基)

(3) 土留材材料費1基当り単価表

				施工歩掛コード	WB340020
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
ライナープレート		m			
補 強 リ ン グ		個			
補 強 材		t		必要に応じて計上	
諸 雑 費		式	1		
計					

(4) 井戸蓋工1基当り単価表

		施工歩掛コード		WB340030
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×1/D	表4.6, 表4.7
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	〃
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9t 吊	日	1×1/D	表4.7 機械賃料
井 戸 蓋 材		基	1	
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D:日当り施工量(基/日)

(5) 昇降用設備設置10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340040
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表4.9, 表4.10
特 殊 作 業 員		〃	2×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9t 吊	日	1×10/D	表4.10 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表4.11
計				

(注) 1. D:日当り施工量(m/日)

2. 昇降用設備材料費は、別途計上する。

(6) 掘削作業設備据付・解体1基当り単価表

		施工歩掛コード		WB340050
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×1/D	表4.13, 表4.14
特 殊 作 業 員		〃	2×1/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×1/D	〃
ト ラ ッ ク 運 転	[クレーン装置付] ベーストラック 2t級 吊能力2.9t	日	1×1/D	表4.14 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D:日当り施工量(基/日)

(7) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧クラムシェル・テレスコピック式 平積 0.4 m ³	機－28	運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 →48 機 械 賃 料 数 量 →1.41
ク ロ ー ラ ク レ ー ン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9 t 吊	機－28	運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 (A 工 法) →13 (B 工 法) →17 (昇降用設備・井戸蓋) →15 機 械 賃 料 数 量 →1.47
小 型 バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型)	電動式・山積 0.022 m ³ (平積 0.015 m ³)	機－25	(B 工 法) 機 械 損 料 数 量 →1.47 (C 工 法) 機 械 損 料 数 量 →1.40
や ぐ ら 装 置	簡易やぐら (モータウインチ付) 能力 2.0 t 鋼製φ60.5×4.0m	機－25	機 械 損 料 数 量 →1.43
ト ラ ッ ク	[クレーン装置付] ベーストラック 2 t 級 吊能力 2.9 t	機－18	運 転 労 務 数 量 →1.00 燃 料 消 費 量 →23 機 械 損 料 数 量 →1.20

6. 施工単価入力基準表

(1) 掘削土留工(ライナープレート土留工法)

施工歩掛コード		WB340010	施工単位	基
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	工 法 の 種 類 ①A工法 ②B工法 ③C工法	砂・砂質土・粘性土・ レキ質土の掘削長 (m) (実数入力)	岩塊・玉石, 軟岩, 中 硬 岩 の 掘 削 長 (m) (実数入力)	加-ラ-の賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件で③を選択した場合は, J 4 条件は入力する必要はない。また, 簡易やぐらが設定されるため, WB340050 で掘削作業設備据付・解体を別途計上すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

(2) 土留材材料費(ライナープレート土留工法)

施工歩掛コード		WB340020	施工単位		基
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	
	ライナープレートの 施工延長 (m／基) (実数入力)	補強リングの箇数 (個／基) (実数入力)	補強材の設置 ①有 ②無	補強材の質量 (t／基) (実数入力)	

(注) 1. ライナープレート単価(Y-1662000) [円/m], 補強リング単価(Y-1692000) [円/個]を単価登録すること。

2. J 3 条件で①を選択した場合は, 補強材単価(Y-1693000) [円/t]を単価登録すること。

3. J 3 条件で②を選択した場合は, J 4 条件は入力する必要はない。

(3) 井戸蓋工(ライナープレート土留工法)

施工歩掛コード	WB340030	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーンの賃料補正係数 ①標準 ②標準以外(実数入力)		

(注) 1. 井戸蓋材単価(Y-0146000) [円/基]を単価登録すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

(4) 昇降用設備設置工(ライナープレート土留工法)

施工歩掛コード	WB340040	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーンの賃料補正係数 ①標準 ②標準以外(実数入力)		

(注) 1. 昇降用設備の材料費は含まれないため, WB020022 により別途計上すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 昇降用設備設置工延長は設置深さとする。

4. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

(5) 掘削作業設備据付・解体

施工歩掛コード	WB340050	施工単位	基

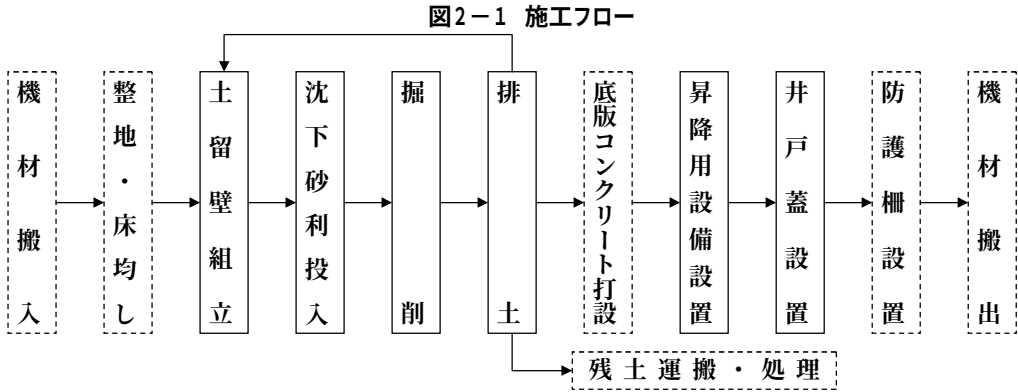
①ー2 集水井工しゅうすいせい(プレキャスト土留工法)

1. 適用範囲

本資料は、人力併用機械掘削、プレキャスト土留工法による公称径 3.5m,掘削深 20m以下の集水井工の自沈方式に適用する。なお、セグメント方式の場合は別途考慮する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 土留掘削作業

3-1 機種を選定

(1) 土留掘削作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
掘削及び排土	クラムシェル	油圧クラムシェル・ テレスコピック式 平積 0.4 m ³	台	1	
土留材・機材の吊込み	クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガ ス対策型(第1次基準値) 4.9 t 吊	〃	1	

(注) 1. 上表の機械は、掘削土を集水井の井戸脇に仮置きする場合である。
2. クラムシェル及びクローラクレーンは、賃料とする。

(2) 土留材

土留材は、プレキャスト土留壁とし、使用規格は土圧計算等によって決定する。

3-2 編成人員

土留掘削作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表3.2 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	トンネル特殊工	普通作業員
1	2	1

3-3 施工歩掛

(1) 集水井1基当り施工日数

土留掘削作業1基当り施工歩掛は次式とする。なお、土留材の組立、グラウトの注入、沈下材の設置を含む歩掛である。

$$D = \frac{\ell_1}{d_1} + \frac{\ell_2}{d_2} \quad \dots\dots \text{式 3.1}$$

D : 集水井1基当り施工日数 (日/基)

d_1 : 粘性土、レキ質土の日当り施工量 (m/日)

d_2 : 軟岩の日当り施工量 (m/日)

ℓ_1 : 粘性土、レキ質土の掘削延長 (m)

ℓ_2 : 軟岩の掘削延長 (m)

1) 日当り施工量 (dn)

日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.3 日当り施工量 (dn) (m/日)

掘削深(m)	10m未満	10m以上 20m以下
土質区分		
粘性土・レキ質土 d1	1.37	1.31
軟 岩 d2	1.21	1.10

(注) 1. 砂質土、中硬岩、硬岩の場合は、別途考慮する。

2. 日掘削数量の算出における掘削深は、全土質の総掘削延長とする。

2) 諸雑費

諸雑費は、軸流ファン、工事用水中モータポンプ、ピックハンマ、コンクリートブレーカ、空気圧縮機（排出ガス対策型（第1次基準値））の機械損料・運転経費及び工事用昇降梯子、安全ネット、縦方向接合鉄筋、鉄筋挿入孔注入材（グラウト材）、沈下材及び電力に関する経費等の費用であり、労務費と機械運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。なお、工事用水中モータポンプの有無に関係なく同率とする。

表3.4 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	15

4. 底版コンクリート工

底版コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

5. 昇降用設備設置工

5-1 機種を選定

昇降用設備設置工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表5.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型（第1次基準値） 4.9t吊	台	1	

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

5-2 編成人員

昇降用設備設置工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表5.2 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

5-3 日当り施工量

昇降用設備設置工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.3 日当り施工量 (m/日)

作 業 別	数 量
昇 降 用 設 備	22

(注) 螺旋型梯子及び直梯子に適用する。

5-4 諸雑費

諸雑費は、軸流ファンの機械損料・運転経費・電力に関する経費等の費用であり、労務費と機械賃料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.4 諸雑费率 (%)

諸 雑 費 率	6

6. 井戸蓋工

6-1 機種を選定

井戸蓋工に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表6.1 機種を選定

機 械 名	規 格	単 位	数 量	摘 要
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9t吊	台	1	

(注) クローラクレーンは、賃料とする。

6-2 編成人員

井戸蓋工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表6.2 日当り編成人員 (人)

土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
1	2	1

6-3 日当り施工量

井戸蓋工の日当り施工量は、次表を標準とする。

表6.3 日当り施工量 (1日当り)

作 業 別	数 量
井 戸 蓋 設 備	4.8

(注) コンクリート製蓋及び鉄網製蓋に適用する。

7. 内 訳 書 及 び 単 価 表

(1) 集水井(プレキャスト土留壁) 1基当り内訳書

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 留 掘 削		基	1	単価表(2)
底版コンクリート工		m ³		第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工により別途計上
昇降用設備設置工		m		単価表(3)
井 戸 蓋 工		基	1	〃 (4)
昇 降 用 設 備 材		〃	1	
計				

(2) 土留掘削工1基当り単価表

施工歩掛コード	WB340060

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×D	表3.2, 式3.1, 表3.2
ト ン ネ ル 特 殊 工		〃	2×D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×D	〃
ク ラ ム シ ェ ル 運 転	油圧クラムシェル・テレスコピック式 平積0.4 m ³	日	D	表3.3, 式3.1 機械賃料
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 4.9 t 吊	〃	D	表3.3, 式3.1 機械賃料
土 留 材	プレキャスト土留材	基	1	
諸 雑 費		式	1	表3.4
計				

(注) D:集水井1基当り施工日数(日/基)

(3) 昇降用設備設置10m当り単価表

施工歩掛コード	WB340070

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表5.2, 表5.3
特 殊 作 業 員		〃	2×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	1×10/D	〃
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第1次基準値) 4.9 t 吊	日	1×10/D	表5.3 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表5.4
計				

(注) 1. D:日当り施工量(m/日)

2. 昇降用設備材料費は別途計上する。

(4) 井戸蓋工1基当り単価表

				施工歩掛コード	WB340080
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
土 木 一 般 世 話 役		人	1 / D	表 6.2, 表 6.3	
特 殊 作 業 員		〃	2 / D	〃	
普 通 作 業 員		〃	1 / D	〃	
クローラクレーン運転	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9 t 吊	日	1 / D	表 6.3 機械賃料	
井 戸 蓋 材		基	1		
諸 雑 費		式	1		
計					

(注) D:日当り施工量 (基/日)

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
ク ラ ム シ ェ ル	油圧クラムシェル・テレスコピック式 平積 0.4 m ³	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →48 機械賃料数量 →1.36
クローラクレーン	油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 4.9 t 吊	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 (土留掘削) →11 (昇降用設備設置) →12 (井戸蓋設置) →6.7 機械賃料数量 →1.41

8. 施工単価入力基準表

(1) 土留掘削工(プレキャスト土留工法)

施工歩掛コード	WB340060	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	粘性土・ レキ質土の 掘削長 (m) (実数入力)	軟岩の 掘削長 (m) (実数入力)	クローラクレーンの 賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. プレキャスト土留壁単価 (Y-1665000) [円/基] を単価登録すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

(2) 昇降用設備設置工(プレキャスト土留工法)

施工歩掛コード	WB340070	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーンの賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 昇降用設備の材料費は含まれないため, WB020022 により別途計上すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

4. 昇降用設備設置工延長は設置深さとする。

(3) 井戸蓋工(プレキャスト土留工法)

施工歩掛コード	WB340080	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1		
	クローラクレーンの賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)		

(注) 1. 井戸蓋材単価 (Y-0146000) [円/基] を単価登録すること。

2. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合, 労務費調整係数も入力すること。

3. 本コードは, クローラクレーンの普通型機種(排出ガス未対策型)及び低騒音型機種にも適用出来る。

①－３ 地すべり防止工 (集排水ボーリング工)

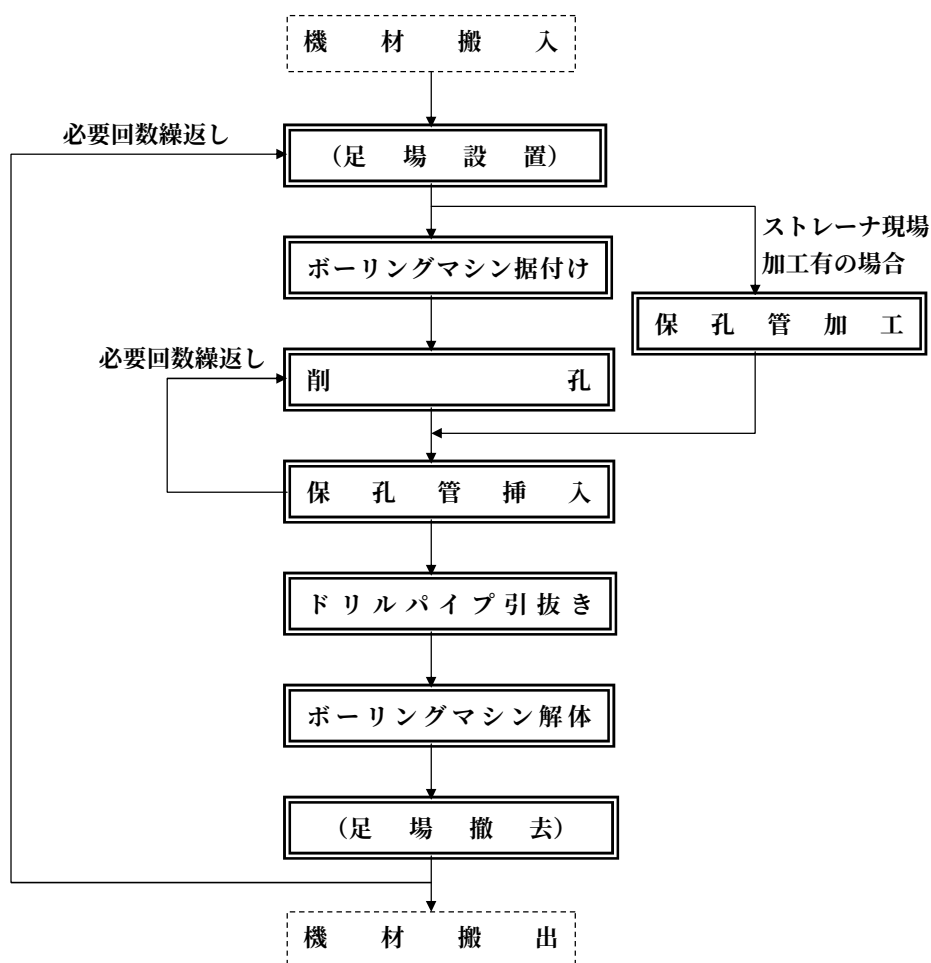
1. 適用範囲

本資料は、地表及び集水井内において、ロータリパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径φ90～135 mm、削孔長 80m以下、削孔角度は水平±10 度以内の作業に適用する。

2. 施工概要

2－1 施工フロー

施工フローは、下記を標準とする。



- (注) 1. 本施工パッケージで対応しているのは、二重実線部分のみである。
2. 書きは必要な場合計上する。

3. 施工パッケージ

3-1 ボーリング

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.1 ボーリング 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分
(表3.2)	(表3.3)	φ90mm	50m／本以下
			50m／本を超え 80m／本以下
		φ115mm	50m／本以下
			50m／本を超え 80m／本以下
		φ135mm	50m／本以下
			50m／本を超え 80m／本以下

- (注) 1. 上表は、集排水ボーリング工における削孔、ドリルパイプの引抜き、同一足場上での移動の他、削孔材料(シャンクロッド、クリーニングアダプタ、エクステンションロッド、ドリルパイプ、インナーロッド、リングビット、インナービット、ウォータースイベル)の損料、工事用水中モータポンプ(普通型(潜水ポンプ) 口径 50mm、全揚程 30m)の賃料、ファン損料、水槽等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。
3. 削孔する土質が異なる場合は、土質毎に計上する。
4. 削孔長区分は、土質毎ではなく、削孔する1本の全長で判断する。
5. 工事用水中モータポンプ(給水用、排水用)を複数台で使用する場合にも適用出来る。
6. 施工場所は、施工機械の配置位置を示す。

表3.2 施工場所

積算条件	区 分
施工場所	地 表
	集 水 井 内

表3.3 土質

積算条件	区 分
土質区分	粘 性 土 ・ 砂 質 土
	レ キ 質 土
	岩 塊 ・ 玉 石
	軟 岩

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.4 ボーリング 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ボーリングマシン [ロータリパーカッション式・スキッド型] 55kW 級	
	K2	発電発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排出ガス対策型 (第2 次基準値) 125kVA	賃料
	K3	グラウトポンプ [横型二連複動ピストン式] 吐出量 200L/min	
労務	R1	普通作業員	
	R2	土木一般世話役	
	R3	特殊作業員	
	R4	—	
材料	Z1	ドリルパイプφ90mm 用 (1.0m)	呼び径がφ90mm で集 水井内の場合
		ドリルパイプφ90mm 用 (1.5m)	呼び径がφ90mm で地表 の場合
		ドリルパイプφ115mm 用 (1.0m)	呼び径がφ115mm で集 水井内の場合
		ドリルパイプφ115mm 用 (1.5m)	呼び径がφ115mm で地表 の場合
		ドリルパイプφ135mm 用 (1.0m)	呼び径がφ135mm で集 水井内の場合
		ドリルパイプφ135mm 用 (1.5m)	呼び径がφ135mm で地表 の場合
	Z2	インナーロッドφ90mm 用 (1.0m)	呼び径がφ90mm で集 水井内の場合
		インナーロッドφ90mm 用 (1.5m)	呼び径がφ90mm で地表 の場合
		インナーロッドφ115mm 用 (1.0m)	呼び径がφ115mm で集 水井内の場合
		インナーロッドφ115mm 用 (1.5m)	呼び径がφ115mm で地表 の場合
		インナーロッドφ135mm 用 (1.0m)	呼び径がφ135mm で集 水井内の場合
		インナーロッドφ135mm 用 (1.5m)	呼び径がφ135mm で地表 の場合
	Z3	リングビット φ90mm 用	呼び径がφ90mm の場合
		リングビット φ115mm 用	呼び径がφ115mm の場合
		リングビット φ135mm 用	呼び径がφ135mm の場合
	Z4	軽油 1.2 号 パトロール給油	
市場単価	S	—	

3-2 保孔管

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.5 保孔管 積算条件区分一覧

(積算単位：m)

施工場所	保孔管種別	ストレーナ現場加工の有無	保孔管種類(VP)	保孔管種類(SGP)	製品区分
(表3.2)	VP	有り	(表3.6)	-	-
		無し			工場加工品 既製保孔管
	SGP	有り	-	(表3.7)	-
		無し			

- (注) 1. 上表は、集排水ボーリング工における保孔管加工(管のネジ切り加工を含む)・挿入の他、工事用水中モータポンプ(普通型(潜水ポンプ) 口径 50mm, 全揚程 30m)の賃料,ファン損料及び電力に関する費用等,その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。
2. 保孔管はVP管(JISK6741)を標準とするが,活動中の地すべり地区で,挿入後剪断,よじれ等により保孔管破損の恐れのある場合はSGP管とする。
3. 保孔管材料のロスを含む。標準ロス率は,地表かつVP管が+0.03,地表かつSGP管が+0.04,集水井内かつVP管が+0.06,集水井内かつSGP管が+0.08とする。
4. VP管(ストレーナ現場加工無し)は,工場加工品又は,既製保孔管(既製品。外管がVPの二重管を含む。)とする。

表3.6 保孔管種類(VP)

積算条件	区分
保孔管種類(VP)	VP40
	VP50
	VP65
	VP75
	各種(VP)

表3.7 保孔管種類(SGP)

積算条件	区分
保孔管種類(SGP)	SGP40A
	SGP50A
	SGP65A
	SGP80A
	SGP90A
	各種(SGP)

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.8 保孔管 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	ボーリングマシン [ロータリパーカッション式・スキッド型] 55kW 級	SGP の場合
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	配管工	SGP の場合
	R2	特殊作業員	
	R3	普通作業員	
	R4	土木一般世話役	
材料	Z1	配管用炭素鋼鋼管 (SGP JIS G 3452) 黒ねじ無し管 80A	SGP の場合
		硬質塩化ビニル管 (VP 管 JIS K 6741) φ40mm	VP の場合
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-3 ボーリング仮設機材

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.9 ボーリング仮設機材 積算条件区分一覧
(積算単位：回)

施 工 場 所
地 表
集水井内

- (注) 1. 上表は、ボーリングマシンの据付け・解体、集水井内の足場設置・撤去の他、足場材等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費 (損料等を含む)を含む。
2. 同一足場上の移動は3-1 ボーリングに含む。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.10 ボーリング仮設機材 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	特殊作業員	
	R2	普通作業員	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

3-4 足場(地表)

(1) 条件区分

条件区分は、次表を標準とする。

表3.11 足場(地表) 積算条件区分一覧

(積算単位：空 m3)

施 工 場 所
平 地
傾 斜 地

(注) 1. 上表は、地表における足場の設置・撤去の他、足場材等の費用等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。

2. 作業足場の幅は4.5mとする。

(2) 代表機労材規格

下表機労材は、当該施工パッケージで使用されている機労材の代表的な規格である。

表3.12 足場(地表) 代表機労材規格一覧

項目		代表機労材規格	備考
機械	K1	クローラクレーン[油圧伸縮ジブ型・排出ガス対策型(第2次基準値)] 4.9t 吊	賃料
	K2	—	
	K3	—	
労務	R1	普通作業員	
	R2	とび工	
	R3	土木一般世話役	
	R4	運転手(特殊)	
材料	Z1	軽油 1.2 号 パトロール給油	
	Z2	—	
	Z3	—	
	Z4	—	
市場単価	S	—	

4. 施工単価入力基準表

(1) ボーリング

パッケージコード		CB340110	施 工 単 位	m
施工区分		入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4
	施 工 場 所	土質区分	呼 び 径	削 孔 長 区 分
	①地表	(表4.1)	①φ90 mm	①50 m／本以下
	②集水井内		②φ115 mm	②50 m／本を超え
			③φ135 mm	80 m／本以下

- (注) 1. 呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。
 2. 削孔長区分は、土質毎ではなく、削孔する1本の全長で判断する。
 3. 給水用ポンプ、排水用ポンプを複数台用いる場合も適用出来る。
 4. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）、及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

表4.1 土質区分

土 質 区 分	入力番号
粘性土・砂質土	①
レキ質土	②
岩塊・玉石	③
軟 岩	④

(2) 保孔管

パッケージコード		CB340120	施 工 単 位		m	
施工区分		入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6
	施 工 場 所	保 孔 管 種 別	ストレーナ 現場加工 の有無	保孔管種類 (VP)	保 孔 管 種 類 (SGP)	製品区分
	①地表	①VP	①有り			①工場加工品
	②集水井内	②SGP	②無し	(表 4.2)	(表 4.3)	②既製保孔管

- (注) 1. J 2 条件で①を選択した場合、J 5 条件は入力する必要はない。
 2. J 2 条件で②を選択した場合、J 4、J 6 条件は入力する必要はない。
 3. J 3 条件で①を選択した場合、J 6 条件は入力する必要はない。
 4. J 4 条件で⑤を選択した場合は、硬質塩化ビニル管単価(Y-4004001) [円／m] を単価登録すること。
 5. J 5 条件で⑥を選択した場合は、ガス管単価 (Y-4011000) [円／m] を単価登録すること。
 6. 本コードは、保孔管の材料ロス含んでいるため、施工量は、ロス率を含まない数量を入力すること。
 7. 本コードは、発動発電機の普通型機種（排出ガス未対策型）、及び排出ガス対策型（第1次基準値）についても適用出来る。

表4.2 保孔管種類 (VP)

規 格	入力番号
VP40	①
VP50	②
VP65	③
VP75	④
Y-4004001 (各種)	⑤

表4.3 保孔管種類(SGP)

規 格	入力番号
SGP40A	①
SGP50A	②
SGP65A	③
SGP80A	④
SGP90A	⑤
Y-4011000 (各種)	⑥

(3) ボーリング仮設機材

パッケージコード	CB340130	施工単位	回
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	施工場所	クローラクレーン	
	(表 4.4)	賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

2. 本コードは, クローラクレーンの低騒音型機種, 及び普通型機種(排出ガス未対策型), 排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

表4.4 施工場所

施工場所	入力番号
地 表	①
集 水 井 内	②

(4) 足場(地表)

パッケージコード	CB340140	施工単位	空 m3
施 工 区 分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	
	施工場所	クローラクレーン	
	(表 4.5)	賃料補正係数 ①標準 ②標準以外 (実数入力)	

(注) 1. クローラクレーンの賃料補正(夜間補正)を行った場合は, 労務費調整係数も入力すること。

2. 本コードは, クローラクレーンの低騒音型機種, 及び普通型機種(排出ガス未対策型), 排出ガス対策型(第1次基準値)についても適用出来る。

表4.5 施工場所

施工場所	入力番号
平 地	①
傾 斜 地	②

①－４ 地すべり防止工 (山腹水路工)

1. 適用範囲

本資料は地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設の水路工に適用する。各工種における適用範囲は以下のとおりとする。

1－1 山腹集水路・排水路工，山腹明暗渠工，山腹暗渠工

(1) 機械据付

プレキャストU形側溝の製品質量 100 kg／個を超え 450 kg／個以下。

(2) 人力据付

プレキャストU形側溝，コルゲートフリューム，暗渠管の製品質量 100 kg／個以下。

1－2 集水枳工

(1) 集水枳設置

内空体積 1.0 m³／基以下の現場打ち集水枳の設置。

(2) プレキャスト集水枳据付

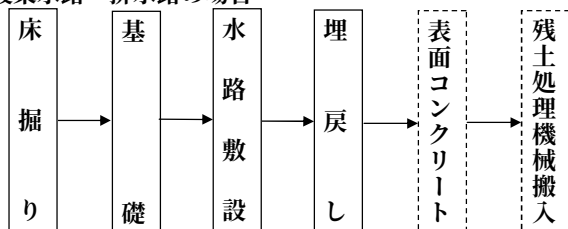
プレキャスト集水枳の製品質量 150 kg／個を超え 1,700 kg／個以下の機械据付。

2. 施工概要

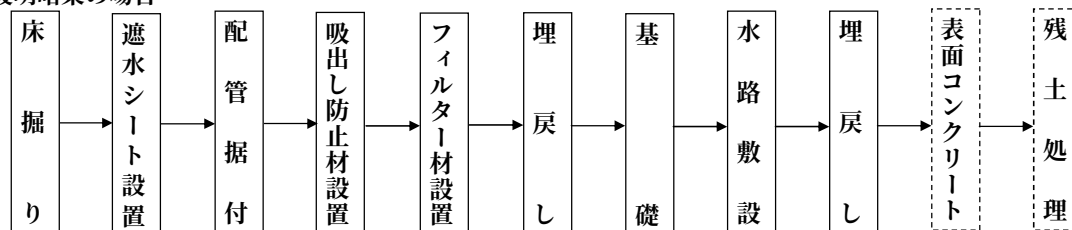
施工フローは下記を標準とする。

図2－1 施工フロー

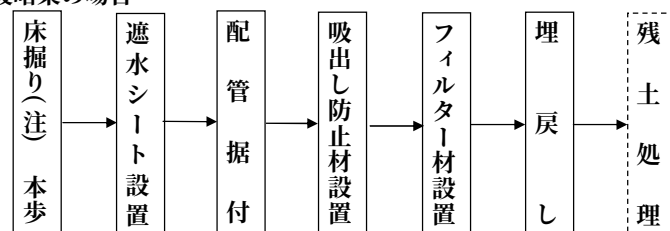
① 山腹集水路・排水路の場合



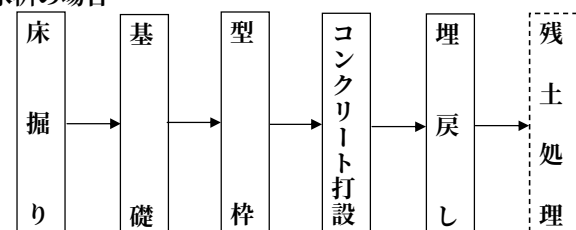
② 山腹明暗渠の場合



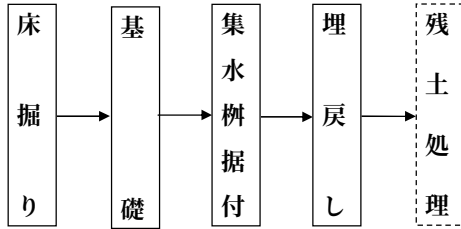
③ 山腹暗渠の場合



④ 集水枳の場合



⑤ プレキャスト集水桝の場合



(注) 本歩掛に対応しているのは、実線部分である。

3. 機 種 の 選 定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種を選定

作業種別	機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
掘削及び据付け	バックホウ (クローラ型)	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	台	1	
資 材 運 搬	不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型 (第1次基準値) 2.5 t 積	//	1	必要に応じて計上

(注) 1. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

2. 不整地運搬車は、賃料とする。

4. 編 成 人 員

山腹水路工の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表4.1 日当り編成人員

(人/日)

工 種	土木一般世話役	特殊作業員	普通作業員
山腹集水路・排水路工	1	1	2
山 腹 明 暗 渠 工			
山 腹 暗 渠 工			

5. 施 工 歩 掛

5-1 山腹集水路・排水路工

5-1-1 山腹U形側溝(機械据付)歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.1 日当り施工量

(m/日)

掘削断面積 (m ²)	0.5 m ² 以下	0.5 m ² を超え 1.0 m ² 以下
日当り施工量	14.7	10.4

(注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウ（クローラ型）の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.2 諸雑費率 (%)

諸雑費率	0.4

5-1-2 山腹U形側溝（人力据付）歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.3 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (㎡)	0.5 ㎡以下	0.5 ㎡を超え 1.0 ㎡以下
日当り施工量	15.1	13.3

(注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」により別途計上する。

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウ（クローラ型）の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.4 諸雑費率 (%)

諸雑費率	0.4

5-1-3 山腹コルゲートフリーム据付歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.5 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (㎡)	0.5 ㎡以下	0.5 を超え 1.0 ㎡以下	1.0 を超え 2.0 ㎡以下
日当り施工量	24.3	19.1	14.1

(注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

3. ポリエチレン製角型U字溝据付の場合も本歩掛を適用出来る。

4. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 諸雑費

諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウ（クローラ型）の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.6 諸雑費率 (%)

諸雑費率	0.3

5-2 山腹明暗渠工

5-2-1 山腹U形側溝明暗渠(機械据付)歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.7 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (m ²)	0.5 m ² 以下	0.5 を超え 1.0 m ² 以下	1.0 を超え 2.0 m ² 以下	2.0 を超え 3.0 m ² 以下	3.0 を超え 4.0 m ² 以下
日当り施工量	12.4	9.4	7.0	5.2	4.1

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、フィルター材設置、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
3. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 諸雑費

諸雑費は、遮水シート及び吸出し防止材の設置、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウ(クローラ型)の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.8 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4

(注) 遮水シート、吸出し防止材の材料費は、諸雑費に含まないので別途計上する。

5-2-2 山腹U形側溝明暗渠(人力据付)歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.9 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (m ²)	0.5 m ² 以下	0.5 を超え 1.0 m ² 以下	1.0 を超え 2.0 m ² 以下	2.0 を超え 3.0 m ² 以下	3.0 を超え 4.0 m ² 以下
日当り施工量	12.5	11.0	9.4	7.6	5.9

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、フィルター材設置、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
3. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 諸雑費

諸雑費は、遮水シート及び吸出し防止材の設置、締固め機械、目地モルタルの費用であり、労務費、バックホウ(クローラ型)の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.10 諸雑費率 (%)

諸雑費率	4

(注) 遮水シート、吸出し防止材の材料費は、諸雑費に含まないので別途計上する。

5-2-3 山腹コルゲートフリーウム明暗渠歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.11 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (m ²)	0.5 m ² 以下	0.5 を超え 1.0 m ² 以下	1.0 を超え 2.0 m ² 以下	2.0 を超え 3.0 m ² 以下	3.0 を超え 4.0 m ² 以下
日当り施工量	20.0	17.3	12.4	8.8	6.8

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、フィルター材設置、基礎、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
3. ポリエチレン製角型U字溝据付の場合も本歩掛を適用出来る。
4. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」による。

(2) 諸雑費

諸雑費は、遮水シート及び吸出し防止材の設置、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウ（クローラ型）の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.12 諸雑費率 (%)

諸雑費率	6

(注) 遮水シート、吸出し防止材の材料費は、諸雑費に含まないので別途計上する。

5-3 山腹暗渠工

5-3-1 山腹暗渠据付歩掛

(1) 日当り施工量

日当り施工量は、次表を標準とする。

表5.13 日当り施工量 (m/日)

掘削断面積 (m ²)	0.5 m ² 以下	0.5 を超え 1.0 m ² 以下	1.0 を超え 2.0 m ² 以下	2.0 を超え 3.0 m ² 以下	3.0 を超え 4.0 m ² 以下
日当り施工量	23.9	19.6	15.5	12.1	9.9

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り（仕上げ含む）、フィルター材設置、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。

(2) 諸雑費

諸雑費は、遮水シート及び吸出し防止材の設置、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウ（クローラ型）の機械損料及び運転経費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表5.14 諸雑費率 (%)

諸雑費率	6

(注) 遮水シート、吸出し防止材の材料費は、諸雑費に含まないので別途計上する。

5-4 集水桝工

5-4-1 集水桝設置歩掛

集水桝設置の歩掛は、次表を標準とする。

表5.15 集水桝設置歩掛

(1基当り)

内 空 体 積			0.4 m ³ 以下	0.4を超え 0.8 m ³ 以下	0.8を超え 1.0 m ³ 以下	摘 要
名 称	規 格	単位				
土 木 一 般 世 話 役		人	0.7	0.8	1.0	
特 殊 作 業 員		〃	0.5	0.6	0.7	
普 通 作 業 員		〃	1.0	1.2	1.4	
型 わ く 工		〃	0.2	0.3	0.4	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28 m ³ (平積0.2 m ³) 吊能力1.7 t	h	3.4	4.2	4.8	
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5 t 積	日	0.1			必要に応じて計上(注)1
諸 雑 費 率		%	7			

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、基礎、型枠、コンクリート打設、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
3. 諸雑費は、型枠用合板、鋼製型枠、型枠用金物、組立支持材、はく離材及び電気ドリル、電気ノコギリ損料、電力に関する経費、仮設材の持上げ(下げ)機械、締固め機械に要する費用であり、労務費、バックホウ(クローラ型)の機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。
5. 養生工が必要な場合は別途計上する。
6. 不整地運搬車は賃料とする。

5-4-2 プレキャスト集水桝据付歩掛

プレキャスト集水桝据付の歩掛は、次表を標準とする。

表5.16 プレキャスト集水桝据付歩掛

(1基当り)

集水桝製品質量			150kgを超え 500kg以下	500kgを超え 1,000kg以下	1,000kgを超え 1,500kg以下	1,500kgを超え 1,700kg以下	摘 要
名 称	規 格	単位					
土 木 一 般 世 話 役		人	0.2	0.3	0.3	0.3	
特 殊 作 業 員		〃	0.3	0.3	0.3	0.4	
普 通 作 業 員		〃	0.5	0.5	0.6	0.6	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運 転	標準型・クレーン機能付き 排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	h	2.2	2.7	3.2	3.5	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5t積	日	0.1				必要に応じて計上(注)1
諸 雑 費 率		%	0.5				

- (注) 1. 歩掛は、平均運搬距離 50m以下の現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 50mを超え 200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。
2. 歩掛は、床掘り(仕上げ含む)、基礎、集水桝据付、埋戻しの労務を含む。ただし、材料は別途計上する。
3. 諸雑費は、締固め機械の費用であり、労務費、バックホウ(クローラ型)の機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
4. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。
5. 不整地運搬車は賃料とする。

6. 材料使用数量

6-1 遮水シート，吸出し防止材使用数量

遮水シート，吸出し防止材使用数量は，次式による。

$$\text{使用数量 (m}^2\text{)} = \text{設計数量 (m}^2\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 6.1}$$

K：ロス率

表6.1 ロス率(K)

材 料 名	遮水シート	吸出し防止材
ロ ス 率	+0.10	+0.10

6-2 砕石使用数量

埋戻し，基礎，フィルター材等に使用する砕石の使用数量は，次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 6.2}$$

K：ロス率

表6.2 ロス率(K)

材 料 名	砕 石
ロ ス 率	+0.20

6-3 コンクリート使用数量

集水桝等使用するコンクリート使用数量は，次式による。

$$\text{使用数量 (m}^3\text{)} = \text{設計数量 (m}^3\text{)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 6.3}$$

K：ロス率

表6.3 ロス率(K)

材 料 名	コンクリート
ロ ス 率	+0.04

なお，構造物の種類区別は無筋構造物とする。

6-4 暗渠管使用数量

暗渠管（塩化ビニル製又はポリエチレン製）の使用数量は，次式による。

$$\text{使用数量 (m)} = \text{設計数量 (m)} \times (1 + K) \cdots \cdots \text{式 6.4}$$

K：ロス率

表6.4 ロス率(K)

材 料 名	暗渠管
ロ ス 率	+0.01

7. 単 価 表

(1) 山腹U形側溝(機械据付・人力据付) 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340210
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表4.1, 表5.1又は表5.3
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃
U 形 側 溝		個	16.5 9.95 4.99	L = 600 L = 1,000 L = 2,000
コ ン ク リ ー ト		m ³		式6.2, 表6.2
砕 石		m ³		式6.2, 表6.2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5 t 積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表5.2又は表5.4
計				

(注) D:日当り施工量(m/日)

(2) 山腹コルゲートフリューム据付け 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340220
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表4.1, 表5.5
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム (ポリエチレン製角型U字溝)		m	10	
砕 石		m ³		式6.2, 表6.2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	日	1×10/D	機械損料
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5 t 積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表5.6
計				

(注) D:日当り施工量(m/日)

(3) 山腹U形側溝明暗渠(機械据付・人力据付) 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340230
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表4.1, 表5.7 又は表5.9
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃
U 形 側 溝		個	16.5 9.95 4.99	L = 600 L = 1,000 L = 2,000
暗 渠 管	塩化ビニル製又は ポリエチレン製	m	10.1	式6.4, 表6.4
砕 石		m ³		式6.2, 表6.2
遮 水 シ ー ト		m ²		式6.1, 表6.1
吸 出 し 防 止 材		〃		〃 必要に応じて計上
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策 型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	日	1×10/D	機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第 1次基準値) 2.5 t 積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表5.8 又は表5.10
計				

(注) D:日当り施工量(m/日)

(4) 山腹コルゲートフリューム明暗渠据付け 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340240
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/D	表4.1, 表5.11
特 殊 作 業 員		〃	1×10/D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×10/D	〃
コルゲートフリューム (ポリエチレン製角型U字溝)		m	10	
暗 渠 管	塩化ビニル製又は ポリエチレン製	〃	10.1	式6.4, 表6.4
砕 石		m ³		式6.2, 表6.2
遮 水 シ ー ト		m ²		式6.1, 表6.1
吸 出 し 防 止 材		〃		〃 必要に応じて計上
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策 型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	日	1×10/D	機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第 1次基準値) 2.5 t 積	〃	1×10/D	必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表5.12
計				

(注) D:日当り施工量(m/日)

(5) 山腹暗渠据付け 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340250
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	1×10/ D	表 4.1, 表 5.13
特 殊 作 業 員		〃	1×10/ D	〃
普 通 作 業 員		〃	2×10/ D	〃
暗 渠 管	塩化ビニル製又は ポリエチレン製	m	10.1	式 6.4, 表 6.4
砕 石		m ³		式 6.2, 表 6.2
遮 水 シ ー ト		m ²		式 6.1, 表 6.1
吸 出 し 防 止 材		〃		〃 必要に応じて計上
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策 型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	日	1×10/ D	機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第 1次基準値) 2.5 t 積	〃	1×10/ D	必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 5.14
計				

(注) D:日当り施工量(m/日)

(6) 集水桝設置 1基当り単価表

		施工歩掛コード		WB340270
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.15
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
型 わ く 工		〃		〃
コ ン ク リ ー ト		m ³		式 6.3, 表 6.
砕 石		〃		式 6.2, 表 6.2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策 型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	h		表 5.15 機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第 1次基準値) 2.5 t 積	日		〃 必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 5.15
計				

(7) プレキャスト集水桝据付1基当り単価表

施工歩掛コード				WB340280
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表 5.16
特 殊 作 業 員		〃		〃
普 通 作 業 員		〃		〃
集 水 桝		基	1	
砕 石		m ³		式 6.2, 表 6.2
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	h		表 5.16 機械損料
不 整 地 運 搬 車 運 転	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5 t 積	日		〃 必要に応じて計上 機械賃料
諸 雑 費		式	1	表 5.16
計				

(8) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ(クローラ型) (集 水 桝 工)	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	機-1	
バックホウ(クローラ型) (山腹集水路・排水路工) (山 腹 明 暗 渠 工) (山 腹 暗 渠 工)	標準型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28 m ³ (平積 0.2 m ³) 吊能力 1.7 t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →39 機械損料数量→1.56
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式・排出ガス対策型(第1次基準値) 2.5 t 積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →10 機械賃料数量→1.66

8. 参考図

8-1 山腹集排水路

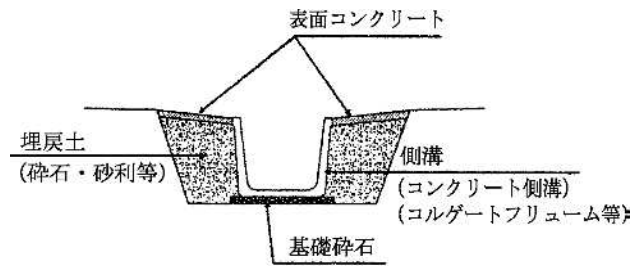


図 8-1 山腹集排水路 構造概念図

8-2 山腹明暗渠

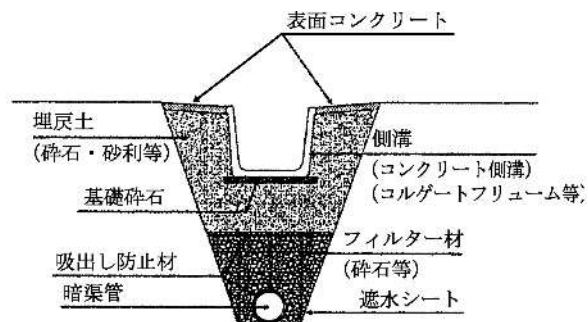


図 8-2 山腹明暗渠 構造概念図

8-3 山腹暗渠

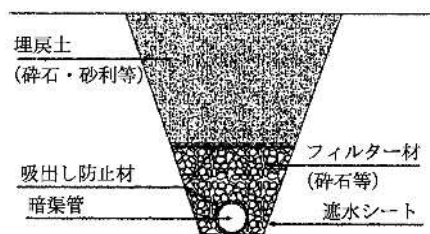


図 8-3 山腹暗渠 構造概念図

8-4 集水桝

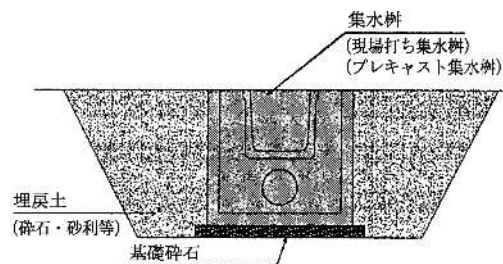


図 8-4 集水桝 構造概念図

9. 施工単価入力基準表

(1) 山腹U形側溝

施工歩掛コード		WB340210	施工単位	m	
施工区分		入 力 条 件			
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工区分	平均運搬距離	掘削断面積	U形側溝の規格	バックホウ(クローラ型) 供用日当り運転時間
	①機械据付 ②人力据付	①50m 以下 ②50m を超え 200m 以下	(表 9.1)	(表 9.2)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 2 条件で②を選択した場合、不整地運搬車が計上される。
 2. 床掘り(仕上げ含む)、フィルター材設置、基礎、埋戻し等の労務を含む。
 3. U形側溝単価(Y-0300000) [円/個] を単価登録すること。
 4. U形側溝以外の材料は、水路工各種材料費(WB340260)で別途計上する。
 5. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」にて別途計上する。
 6. 本コードは、バックホウ(クローラ型)の低騒音型機種についても適用出来る。
 7. バックホウ(クローラ型)の普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)を使用する場合は、別途考慮すること。

表9.1 掘削断面積

掘削断面積	入力番号
0.5 m ² 以下	①
0.5 を超え 1.0 m ² 以下	②

表9.2 U形側溝の規格

1個当りの長さ	入力番号
L = 600 mm	①
L = 1,000 mm	②
L = 2,000 mm	③

(2) 山腹コルゲートフリューム据付

施工歩掛コード	WB340220	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	平均運搬距離	掘削断面積	バックホウ(クローラ型) 供用日当り運転時間
	①50m 以下 ②50 を超え 200m 以下	(表 9.3)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合、不整地運搬車が計上される。
 2. 床掘り(仕上げ含む)、基礎、埋戻し等の労務を含む。
 3. コルゲートフリューム(ポリエチレン製角型U字溝を含む)単価(Y-1661000) [円/m] を単価登録すること。
 4. コルゲートフリューム及びポリエチレン製角型U字溝以外の材料は、水路工各種材料費(WB340260)で別途計上する。
 5. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」にて別途計上する。
 6. 本コードは、バックホウ(クローラ型)の低騒音型機種についても適用出来る。
 7. バックホウ(クローラ型)の普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)を使用する場合は、別途考慮すること。

表9.3 掘削断面積

掘削断面積	入力番号
0.5 m ² 以下	①
0.5 を超え 1.0 m ² 以下	②
1.0 を超え 2.0 m ² 以下	③

(3) 山腹U形側溝明暗渠

施工歩掛コード	WB340230	施工単位	m		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	施工区分	平均運搬距離	掘削断面積	U 形側溝の規格	バックホウ (クローラ型) 供用日当り運転時間
	①機械据付 ②人力据付	①50m 以下 ②50m を超え 200m 以下	(表 9.4)	(表 9.2)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 2 条件で②を選択した場合、不整地運搬車が計上される。

2. 床掘り(仕上げ含む)、フィルター材、基礎、埋戻し等の労務を含む。

3. U形側溝単価(Y-0300000) [円/個] 及び暗渠管(塩化ビニル製、ポリエチレン製)単価(Y-1664000) [円/m] を単価登録すること。

4. 暗渠管(塩化ビニル製、ポリエチレン製)の材料ロスを含む。

5. U形側溝及び暗渠管(塩化ビニル製、ポリエチレン製)以外の材料は、水路工各種材料費(WB340260)で別途計上する。

6. 表面コンクリートの打設は、「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」にて別途計上する。

7. 本コードは、バックホウ(クローラ型)の低騒音型機種についても適用出来る。

8. バックホウ(クローラ型)の普通型機種(排出ガス未対策型)及び排出ガス対策型(第1次基準値)を使用する場合は、別途考慮すること。

表9.4 掘削断面積

掘削断面積	入力番号
0.5 m ² 以下	①
0.5 を超え 1.0 m ² 以下	②
1.0 を超え 2.0 m ² 以下	③
2.0 を超え 3.0 m ² 以下	④
3.0 を超え 4.0 m ² 以下	⑤

(4) 山腹コルゲートフリューム明暗渠

施工歩掛コード	WB340240	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	平均運搬距離	掘削断面積	バックホウ(クローラ型) 供用日当り運転時間
	①50m 以下 ②50 を超え 200m 以下	(表 9.4)	①標準 ②標準以外 (実数入力)

(注) 1. J 1 条件で②を選択した場合、不整地運搬車が計上される。

2. 床掘り(仕上げ含む)、フィルター材、基礎、埋戻し等の労務を含む。

3. コルゲートフリューム（ポリエチレン製角型U字溝も含む）単価（Y-1661000）〔円／m〕及び暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）単価（Y-1664000）〔円／m〕を単価登録すること。
4. 暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）の材料ロスを含む。
5. コルゲートフリューム，ポリエチレン製角型U字溝及び暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）以外の材料は，水路工各種材料費（WB340260）で別途計上する。
6. 表面コンクリートの打設は，「第Ⅱ編第4章コンクリート工①コンクリート工」にて別途計上する。
7. 本コードは，バックホウ（クローラ型）の低騒音型機種についても適用出来る。
8. バックホウ（クローラ型）の普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）を使用する場合は，別途考慮すること。

(5) 山腹暗渠工

施工歩掛コード	WB340250	施工単位	m
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	平均運搬距離 ①50m 以下 ②50 を超え 200m 以下	掘削断面積 (表 9.4)	バックホウ(クローラ型) 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合，不整地運搬車が計上される。
2. 床掘り（仕上げ含む），埋戻し等の労務を含む。
 3. 暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）単価（Y-1664000）〔円／m〕を単価登録すること。
 4. 暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）の材料ロスを含む。
 5. 暗渠管（塩化ビニル製，ポリエチレン製）以外の材料は，水路工各種材料費（WB340260）で別途計上する。
 6. 本コードは，バックホウ（クローラ型）の低騒音型機種についても適用出来る。
 7. バックホウ（クローラ型）の普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）を使用する場合は，別途考慮すること。

(6) 集水桝設置

施工歩掛コード	WB340270	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
	J 1	J 2	J 3
各 種	平均運搬距離 ①50m 以下 ②50 を超え 200m 以下	内空体積 (表 9.5)	バックホウ(クローラ型) 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合，不整地運搬車が計上される。
2. 床掘り（仕上げ含む），基礎，型枠，コンクリート打設，埋戻し等の労務を含む。
 3. 材料は，水路工各種材料費（WB340260）で別途計上する。
 4. 本コードは，バックホウ（クローラ型）の低騒音型機種についても適用出来る。
 5. バックホウ（クローラ型）の普通型機種（排出ガス未対策型）及び排出ガス対策型（第1次基準値）を使用する場合は，別途考慮すること。

表9.5 内空体積

内空体積	入力番号
0.4 m ³ 以下	①
0.4 を超え 0.8 m ³ 以下	②
0.8 を超え 1.0 m ³ 以下	③

(7) プレキャスト集水樹据付

施工歩掛コード	WB340280	施工単位	基
施工区分	入 力 条 件		
各 種	J 1	J 2	J 3
	平均運搬距離 ①50m 以下 ②50 を超え 200m 以下	集水樹 製品質量 (表 9.6)	バックホウ (クローラ型) 供用日当り運転時間 ①標準 ②標準以外 (実数入力)

- (注) 1. J 1 条件で②を選択した場合、不整地運搬車が計上される。
 2. 床掘り (仕上げ含む)、基礎、埋戻し等の労務を含む。
 3. プレキャスト集水樹単価 (Y-0302000) [円/個] を単価登録すること。
 4. プレキャスト集水樹以外の材料は、水路工各種材料費 (WB340260) で別途計上する。
 5. 本コードは、バックホウ (クローラ型) の低騒音型機種についても適用出来る。
 6. バックホウ (クローラ型) の普通型機種 (排出ガス未対策型) 及び排出ガス対策型 (第 1 次基準値) を使用する場合は、別途考慮すること。

表 9. 6 集水樹製品質量

集水樹製品質量	入力番号
150 を超え 500 kg以下	①
500 を超え 1,000 kg以下	②
1,000 を超え 1,500 kg以下	③
1,500 を超え 1,700 kg以下	④

(注) 1. 各種材料の材料ロスを含む。

2. J 1 条件で②を選択した場合、J 2 条件・J 3 条件は入力する必要はない。

3. J 2 条件で⑥を選択した場合、生コンクリート各種単価 (Y-0210000) [円/㎡] を単価登録すること。

4. J 4 条件で②を選択した場合、J 5 条件・J 6 条件は入力する必要はない。

5. J 5 条件で⑨を選択した場合、砕石各種単価 (Y-0241000) [円/㎡] を単価登録すること。

6. J 7 条件で①を選択した場合、遮水シート各種単価 (Y-1675000) [円/㎡] を単価登録すること。

②を選択した場合、J 8 条件は入力する必要はない。

7. J 9 条件で①を選択した場合、吸出し防止材各種単価 (Y-1006000) [円/㎡] を単価登録すること。

②を選択した場合、J 10 条件は入力する必要はない。

8. 上記以外の材料を使用する場合は別途考慮する。

生コンクリートの規格	入力番号
18-5-40 (普通)	①
18-8-25 (20) (")	②
18-8-40 (")	③
18-5-40 (高炉)	④
18-8-40 (")	⑤
生コンクリート各種	⑥

砕 石 の 規 格	入力番号
RC-20	①
RC-30	②
RC-40	③
RC-80	④
C-20	⑤
C-30	⑥
C-40	⑦
C-80	⑧
砕石各種	⑨

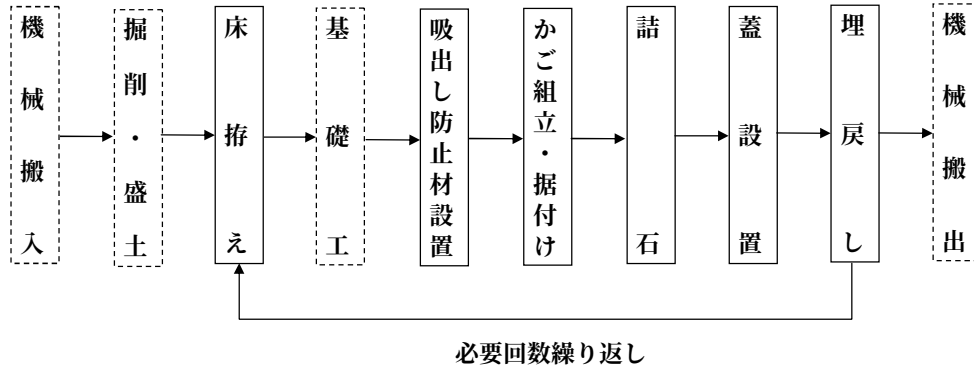
①ー5 地すべり防止工 (ふとんかご)

1. 適用範囲

本資料は、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、ふとんかご（階段式、パネル式、高さ 40～100 cm、幅 120cm、200 cm）の施工に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 1. 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

図2-1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	台	1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	〃	1	必要に応じて計上

4. 施工歩掛

ふとんかご施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 ふとんかご施工歩掛

(10m 当り)

ふ と ん か ご 規 格		高(cm)	40		50		60		100		摘 要
		幅(cm)	120		200		120		200		
名 称	規 格	単位									
詰 石		m ³	4.6	5.7	9.5	6.8	11	19			
土木一般世話役		人	0.6	0.7	1.1	0.8	1.3	2.3			
特 殊 作 業 員		〃	0.6	0.8	1.3	0.9	1.5	2.6			
普 通 作 業 員		〃	1.7	2.1	3.5	2.5	4.1	7.0			
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h	2.3	2.9	4.8	3.4	5.5	9.6			
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	日	0.3	0.4	0.6	0.5	0.7	1.3	必要に応じて 計上(注)1		

(注) 1. 本歩掛は、床拵え、吸出し防止材設置、かご組立・据付け・詰石、蓋設置、埋戻し及び平均運搬距離 30 m までの現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が 30m を超え 200m 以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 本歩掛は、階段式にのみ適用し、スロープ式には適用しない。

3. 詰石量は、ロスを含む(式 5.1)。

4. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

5. 吸出し防止材の設置の有無にかかわらず上表を適用することが出来る。ただし設置する場合は、材料を別途計上すること。なお、吸出し防止材は厚さ 10 mmを標準とする。
6. 不整地運搬車は、賃料とする。
7. ふとんかごの撤去歩掛は、上表の 50%とする。

5. 材料使用量

詰石材、吸出し防止材の使用数量は、次式による。

詰石材の使用数量 (m³) = かご容積 (m³) × (1 + K) ...式 5.1

K：ロス率

吸出し防止材の使用数量 (m²) = 設計数量 (m²) × (1 + K) ...式 5.2

K：ロス率

表5.1 ロス率 (K)

名 称	詰 石 材	吸出し防止材
ロス率	－0.05	＋0.07

6. 単 価 表

(1) ふとんかご 10m当り単価表

				施工歩掛コード	WB340420
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人		表 4.1	
特殊作業員		〃		〃	
普通作業員		〃		〃	
ふ と ん か ご		m	10	パネル式とする	
詰 石		m ³		表 4.1, 式 5.1	
吸 出 し 防 止 材	t = 10 mm	m ²		必要に応じて計上 表 4.1, 式 5.2	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h		表 4.1 機械損料	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	日		〃 必要に応じて計上 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	機－1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	機－28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →7.1 機械賃料数量 →1.71

7. 施工単価入力基準表

(1) ふとんかご工 (高さ 40～100 cm, 幅 120, 200 cm)

施工歩掛コード	WB340420	施工単位	m		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	平均運搬距離	ふとんかご の 規 格	バックホウ 供用日当り 運転時間	バックホウ規格
	① 設置 ② 撤去	(表 7.1)	(表 7.2)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①排出ガス対策型 (第1次基準値) ②排出ガス対策型 (第2次基準値)

- (注) 1. ふとんかご単価 (Y-1023000) [円/㎡] 及び詰石単価 (Y-0256000) [円/㎡] を単価登録すること。
 2. 吸出し防止材が必要な場合は, 材料費のみ別途計上する。
 3. 詰石の材料使用量のロスを含む。
 4. 本コードは, バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

表 7. 1 平均運搬距離

平均運搬距離	入力番号
30m以下	①
30mを超え 200m以下	②

表 7. 2 ふとんかごの規格

ふとんかごの規格	入力番号	ふとんかごの規格	入力番号
高さ (D) = 40 cm 幅 (B) = 120 cm	①	高さ (D) = 60 cm 幅 (B) = 120 cm	④
高さ (D) = 50 cm 幅 (B) = 120 cm	②	高さ (D) = 100 cm 幅 (B) = 120 cm	⑤
高さ (D) = 50 cm 幅 (B) = 200 cm	③	高さ (D) = 100 cm 幅 (B) = 200 cm	⑥

①－6 地すべり防止工 (じゃかご)

1. 適用範囲

本資料は、地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、じゃかご（径 45cm・60 cm）の施工に適用する。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

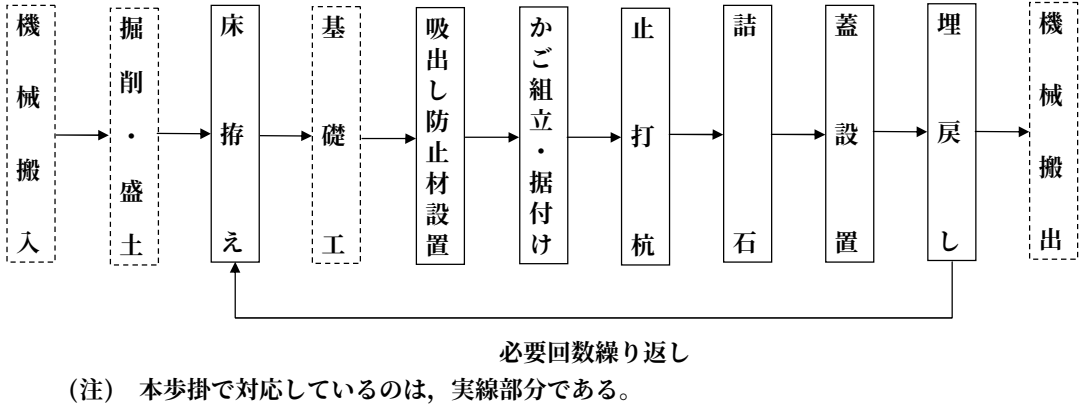


図2－1 施工フロー

3. 機種の選定

機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	台	1	
不整地運搬車	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	〃	1	必要に応じて計上

4. 施 工 歩 掛

じゃかご施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 じゃかご施工歩掛

(10m当り)

名 称	規 格	単位	径 (cm)		摘 要
			45	60	
詰 石		m ³	1.5	2.7	
土 木 一 般 世 話 役		人	0.2	0.3	
特 殊 作 業 員		〃	0.7	1.3	
普 通 作 業 員		〃	0.7	1.2	
パ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h	0.2	0.4	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式2t積	日	0.06	0.10	必要に応じて計上(注)1

(注) 1. 本歩掛は、かご組立・据付け・詰石及び平均運搬距離30mまでの現場内小運搬を含む。ただし、平均運搬距離が30mを超え200m以下の場合は、不整地運搬車を計上する。

2. 詰石量は、材料ロスを見込んだ数量である。

3. 本歩掛は、床拵え・埋戻しを含む。

4. 運搬機械が上表により難しい場合は、別途考慮する。

5. 止杭を必要とする場合、打込みに止杭1本当たり普通作業員0.06人を別途計上する。なお、止杭は松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。

6. 吸出し防止材が必要な場合は、別途計上する。なお、本歩掛に吸出し防止材の設置手間は含まれていない。

7. 不整地運搬車は、賃料とする。

8. じゃかごの撤去歩掛は、上表の50%とする。

5. 材料使用数量

詰石材、吸出し防止材の使用数量は、次式による。

詰石材の使用数量 (m³) = かご容積 (m³) × (1 + K) ...式 5.1

K: ロス率

吸出し防止材の使用数量 (m²) = 設計数量 (m²) × (1 + K) ...式 5.2

K: ロス率

表5.1 ロス率 (K)

名 称	詰 石 材	吸出し防止材
ロス率	-0.05	+0.07

6. 単 価 表

(1) ジャかご 10m当り単価表

				施工歩掛コード	WB340410
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
土木一般世話役		人		表 4.1	
特 殊 作 業 員		//		//	
普 通 作 業 員		//		//	
じ ゃ か ご		m	10		
詰 石		m ³		表 4.1, 式 5.1	
吸 出 し 防 止 材	t = 10 mm	m ²		必要に応じて計上 表 4.1, 式 5.2	
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h		表 4.1 機械損料	
不整地運搬車運転	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	日		表 4.1 必要に応じて計上 機械賃料	
諸 雑 費		式	1		
計					

(2) 止杭 10 本当り単価表

				施工歩掛コード	WB340430
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要	
普 通 作 業 員		人	0.6	表 4.1 (注) 5	
止 杭	松丸太 長 1.5m 末口 9 cm	本	10		
諸 雑 費		式	1		
計					

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第1次基準値) 山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	機-1	
不 整 地 運 搬 車	クローラ型・ダンプ式 2 t 積	機-28	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →7.1 機械賃料数量 →1.71

7. 施工単価入力基準表

(1) ジャカゴ工 (径 45～60 cm)

施工歩掛コード	WB340410	施工単位	m		
施工区分	入 力 条 件				
各 種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5
	作業区分	平均運搬距離	じゃかご の 規 格	バックホウ 供用日当り 運転時間	バックホウ規格
	① 設置 ② 撤去	(表 7.1)	(表 7.2)	①標準 ②標準以外 (実数入力)	①排出ガス対策型 (第 1 次基準値) ②排出ガス対策型 (第 2 次基準値)

(注) 1. ジャカゴ単価 (Y-1021000) [円/ m] 及び詰石単価 (Y-0256000) [円/ m³] を単価登録すること。

2. 止杭を必要とする場合は、止杭工 (WB340430) で別途計上する。

3. 吸出し防止材が必要な場合は、別途計上する。

4. 詰石の材料使用量のロスを含む。

5. 本コードは、バックホウの低騒音型機種についても適用出来る。

表 7. 1 平均運搬距離

平均運搬距離	入力番号
30m以下	①
30mを超え 200m以下	②

表 7. 2 ジャカゴの規格

ジャカゴの規格	入力番号
鉄線ジャカゴ (径 45 cm)	①
鉄線ジャカゴ (径 60 cm)	②

(2) 止杭工

施工歩掛コード	WB340430	施工単位	本

(注) 松丸太単価 (Y-0401001) [円/ 本] を単価登録すること。

①ー7 集排水ボーリング孔洗浄工

1. 適用範囲

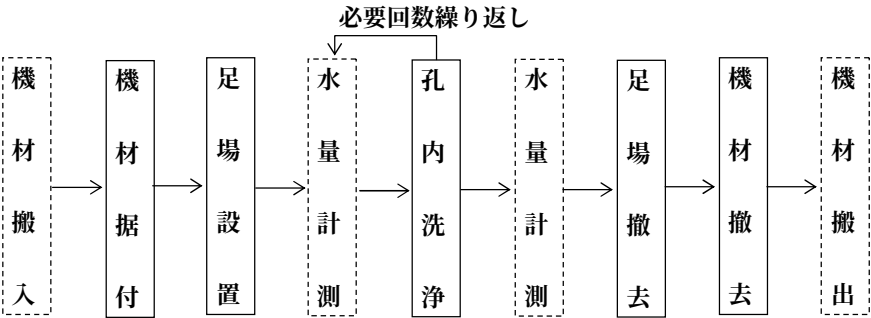
本資料は、地すべり防止施設における横ボーリング孔及び集水井内での集排水ボーリング孔(φ30mm～φ150mm, 延長130m以下／本)の高圧ポンプによる洗浄工に適用する。
なお、洗浄工程数については、集水孔は4工程まで、排水孔は3工程までに適用する。

2. 施工概要

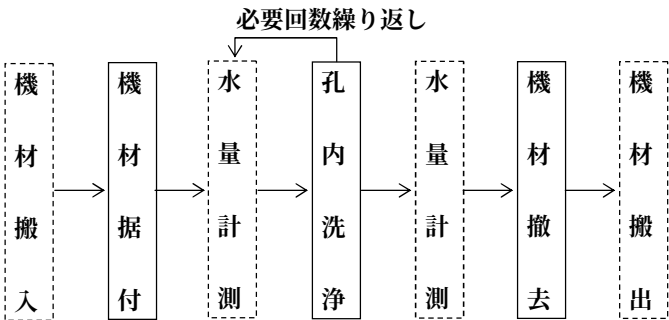
施工フローは、下記を標準とする。

図2-1 施工フロー

(1) 井内作業



(2) 井外作業



(注) 本歩掛で対応しているのは、実線部分である。

3. 機種の選定

洗浄作業における機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機種の選定

機 械 名	規 格	単位	数量	摘 要
高 圧 洗 浄 機	工事用・エンジン駆動 吐出量 35～70ℓ/min 圧力 14.7MPa	台	1	ノズル，高圧ホース含む

4. 施 工 歩 掛

洗浄工の施工歩掛は、次表を標準とする。

表4.1 洗浄工歩掛

日当り施工量 (m/日)	日当り編成人員 (人/日)		使 用 機 械	諸雑費率 (%)
D=220	土 木 一 般 世 話 役	1	高圧洗浄機 1台	2
	特 殊 作 業 員	2		
	普 通 作 業 員	1		

(注) 諸雑費は、工事用水中モータポンプ賃料、軸流ファン（軸流式）の損料、水槽の損料、電力に関する経費等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5. 集水井内足場工

5-1 適用範囲

井内作業における集水井内足場の設置・撤去に適用する。

また、本歩掛は足場設置高さに関係なく適用出来る。

5-2 施工歩掛

井内作業における集水井内足場の設置・撤去歩掛は、次表を標準とする。

なお、本歩掛で対応しているのは、5-3 [参考図] 集水井内足場概念図に示す足場工である。

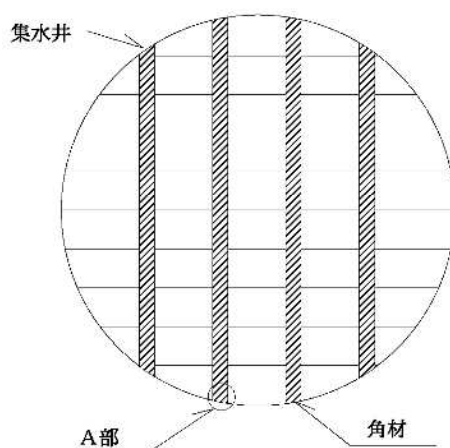
表5.1 集水井内足場設置・撤去歩掛 (1回当り)

名 称	単 位	数 量
土 木 一 般 世 話 役	人	0.4
と び 工	〃	0.7
普 通 作 業 員	〃	0.5
諸 雑 費 率	%	7

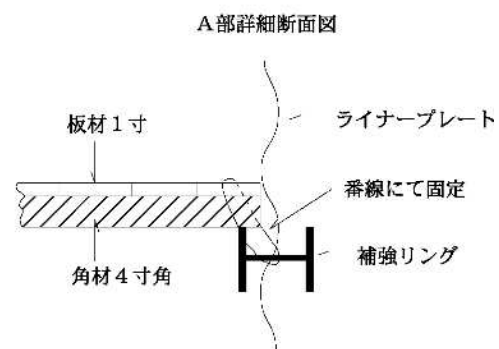
(注) 諸雑費は、軸流ファン（軸流式）の損料、足場板合板、角材、安全ネット及び電力に関する経費等であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

5-3 [参考図] 集水井内足場概念図

平 面 図



詳 細 図



6. 単 価 表

(1) 洗淨工 10m当り単価表

		施工歩掛コード		WB340510
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	$(10/D) \times 1$	表 4.1
特 殊 作 業 員		〃	$(10/D) \times 2$	〃
普 通 作 業 員		〃	$(10/D) \times 1$	〃
高 圧 洗 淨 機 運 転	工事用・エンジン駆動 吐出力 35～70ℓ/min 圧力 14.7MP a	日	$(10/D) \times 1$	表 4.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	表 4.1
計				

(注) D：日当り施工量 (m/日)

(2) 集水井内足場設置・撤去 1 回当り単価表

		施工歩掛コード		WB340530
名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人	0.4	表 5.1
と び 工		〃	0.7	〃
普 通 作 業 員		〃	0.5	〃
諸 雑 費		式	1	〃
計				

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
高 圧 洗 淨 機	工事用・エンジン駆動 吐出力 35～70ℓ/min 圧力 14.7MP a	機－24	燃料消費量 →28 機械損料数量→1.61

7. 施工単価入力基準表

(1) 洗淨工

施工歩掛コード	WB340510	施工単位	m

(2) 集水井内足場設置・撤去

施工歩掛コード	WB340530	施工単位	回